

い れい ばる い せき

伊礼原遺跡 (国指定外)

伊礼原A遺跡

— 桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業 (平成19・20・24年度) —



貝集積 (SS01)

2014 (平成26) 年7月

沖縄県 北谷町教育委員会

い れい ばる い せき

伊礼原遺跡 (国指定外)

伊礼原A遺跡

—桑江伊平土地地区画整理事業に伴う発掘調査事業 (平成19・20・24年度)—

2014 (平成26) 年7月

沖縄県 北谷町教育委員会

はじめに

本報告書は、桑江伊平土地区画整理事業に伴い、当教育委員会が平成19・20・24年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。今回の調査範囲は、平成22年2月に官報告示を受けた国指定史跡「伊礼原遺跡」の指定地外について、記録保存目的の調査として実施しております。

今回の発掘調査では、基地施設に接収される以前は伊礼集落背後の耕作地であった一帯から、貝塚時代後期頃の沖積低地の内陸側に広がりをもつ集落、グスク時代には隣接する伊礼原D遺跡と関連した14世紀後半から16世紀頃の集落の広がり、その後の近世から現代にかけては広範囲となる様子が判明しており、範囲確認調査の成果を追認し、さらに充実させる貴重な成果が得られております。

貝塚時代後期では、土器がまとまって出土したものが多く、石斧や石皿・敲石・磨石などの石器が出土し、装飾品の貝製腕輪、南海産貝交易の対象となる貝の集積遺構が検出され、当該時期の土器及び貝交易研究の発展に繋がる資料が得られております。

グスク時代は、首里城出土品に類似資料がある中国産青磁・白磁・染付・褐釉陶器やタイ産陶器などの貿易陶磁器や銭貨、鉄製刀子・鏃、ガラス玉など国内外での交易や交流を示す遺物、その後続く近世から近現代の本土産陶磁器、沖縄産陶器、先島系土器、煙管、碁石、瓦などが、何度も建替えが行われたことを示す掘立柱建物址や高床式建物址等の柱穴群、土坑墓、溝状遺構が集中する範囲から得られており、中世以降からのムラの様子を知ることができる成果が得られております。

本遺跡で得られた成果を基に、国指定史跡の範囲確認調査で得られた成果や周辺遺跡との比較検討、グスク時代の集落と北谷城の関連性などが研究され、町内の「ムラ」の変遷について今後の研究が深まることが期待されます。

本報告書が、伊礼原遺跡に残る歴史を伝え、本町の自然環境の移り変わりやその中で暮らした人々の文化の様相を窺い知ることのできる資料として、町民が広く郷土の歴史を学ぶことに活用されるとともに研究機関へ寄与すること、さらに、文化財の保存・活用に関心と御理解を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならび資料整理作業にあたり、ご指導・ご協力を賜った関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成26年7月

北谷町教育委員会
教育長 川上 啓一

例 言

1. 本報告書は、北谷町教育委員会が桑江伊平土地区画整理事業に伴い、平成19・20・24年度に実施した「伊礼原遺跡（国指定外）」「伊礼原A遺跡」発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/2,500地形図（昭和54年測量）を元に北谷町役場都市計画課が作成したものである。本書に掲載した緯度、経度の平面直角座標はすべて世界測地系にもとづくものである。
3. 遺物の同定等については、下記の方にご協力をいただいた（敬称略）。記して感謝申し上げます。

脊椎動物遺体	樋泉 岳二（早稲田大学）
貝類遺体	黒住 耐二（千葉県立中央博物館 上席研究員）
人骨	土肥 直美（琉球大学医学部）
石質	大城 逸朗（おきなわ石の会）
堆積学	松田順一郎（史跡鴻池新田会所管理事務所）
4. 樋泉岳二氏・黒住耐二氏・土肥直美氏には玉稿を賜った。記して謝意を表します。
5. 放射性炭素年代測定は、パリノ・サーヴェイ（株）に依頼した。
6. 本報告書の編集は、島袋春美が行い執筆分担は下記のとおりである。

第Ⅰ章 第Ⅱ章 第Ⅲ章 第1・2節 第6節1・2	松原 哲志
第Ⅲ章 第3節1・2（3・4） 第4節1（7）2（13・15・16・18） 第5節2（12）	島袋 春美
第Ⅲ章 第6節3（3～5） 補遺	島袋 春美
第Ⅲ章 第3節2（1） 第6節3（1）	呉屋 広江
第Ⅲ章 第3節2（2・5） 第4節2（14） 第5節2（10・11） 第6節3（2）	上地千賀子
第Ⅲ章 第3節2（6） 第4節2（17・19・20） 第5節2（7・13～15）	山城 安生
第Ⅲ章 第4節1（1～6）・2（1・2・7～12） 第5節1・2（1～6・8・9）	北條 真子
第Ⅲ章 第4節2（3～6） 第Ⅴ章	東門 研治・島袋 春美

7. 本遺跡の遺物の注記及び、遺構、取上の凡例は次のとおりである。

・注記（伊礼原遺跡H19・20年度調査）

調査年度	遺物番号	大グリッド	取上番号	小グリッド	層位	遺構	日時
H20	1652	省略	289	A13	3層		080819

→ H20 伊砂1652 17A17
3層289..08.08.19

・注記（伊礼原遺跡H24年度調査）

台帳番号	地区	グリッド	層位	遺構	採集日
1489	ニ	N-9	グスク上層		H240607

→ ㊸伊A台1489. ニ
N-9. グ上..H240607

・注記（伊礼原A遺跡H20年度調査 ロ地区）

調査年度	遺物番号	大グリッド	地区	小グリッド	層位	日時
H20	1272	省略	ロ地区	M7	一括	080929

→ H20伊砂 1272.18M7
ロ地区..一括.08.09.29

・遺構記号

性格	溝・河川	土壌	柱穴・穴	貝集積	その他・現代
遺構記号	SD	SK	SP (P)	SS	SX

8. 本報告の編年表記は沖縄編年を基本とするが、出土遺物には時代幅があり、その種類によって時代表記が異なる。（伊礼原D遺跡（2013）例言（沖縄・九州時代区分対象表）参考）
9. 本書に掲載した発掘調査に関する写真、実測図などの記録および出土遺物全ては北谷町教育委員会が保管している。

本文目次

はじめに

例 言

巻首図版

第 I 章 調査経緯・経過	1
第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査体制	2
第 3 節 調査経過	4
第 II 章 位置と環境	6
第 1 節 地理的環境	6
第 2 節 歴史的環境	8
第 III 章 調査の方法と経過	12
第 1 節 調査の方法	12
第 2 節 層序	14
第 3 節 貝塚時代後期	22
第 4 節 グスク時代	190
第 5 節 近世～近・現代	276
第 6 節 伊礼原 A 遺跡（口地区）	322
第 IV 章 理化学的分析	353
第 1 節 伊礼原遺跡（国指定外）2007・2008・2012年度調査で採集された脊椎動物遺体	353
第 2 節 伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原 A 遺跡の調査で得られた貝類遺体	397
第 3 節 伊礼原遺跡・伊礼原 A 遺跡の自然科学分析	429
第 4 節 土器内土壌の自然科学分析	438
第 5 節 出土人骨	444
第 V 章 総括	446
補遺 小堀原遺跡（2012年）報告の追加資料	453
報告書抄録	

図版目次

巻首図版1 全景	巻首図版13 柱穴2（オルソ画像）
巻首図版2 層序1	巻首図版14 人骨検出状況(A11-SX01:貝塚時代後期 N14-SX01 :グスク時代)
巻首図版3 層序2	巻首図版15 伊礼原A遺跡（口地区）
巻首図版4 層序3	巻首図版16 土器
巻首図版5 層序4	巻首図版17 土器（上：復元土器・下：弥生系土器）
巻首図版6 層序5	巻首図版18 石器
巻首図版7 層序6	巻首図版19 貝製品
巻首図版8 層序7	巻首図版20 陶磁器類・他
巻首図版9 層序8	巻首図版21 本土産陶器・本土産磁器・銭貨・骨製品・鉄製品・ 円盤状製品・煙管・ガラス玉
巻首図版10 層序9	巻首図版22 復元土器
巻首図版11 下層確認・貝集積遺構	
巻首図版12 柱穴1	

図版1	自衛隊による銃弾等回収状況	5	図版53	石器5	145
図版2	R17付近遺構検出状況(南西より)	25	図版54	石器6	147
図版3	プラン①R18(北より)	26	図版55	石器7	149
図版4	プラン②A19(北東より)	26	図版56	石器8	151
図版5	土坑	29	図版57	石器9	153
図版6	1号人骨出土状況SX01(A11)	30	図版58	石器10	155
図版7	貝集積SS01(A19・20)	31	図版59	石器11	157
図版8	貝集積SS02(T19)	32	図版60	石器12	159
図版9	貝集積SS03(東より)	33	図版61	貝製品1	175
図版10	貝集積(上:SS01、中:SS02、下:左・SS03、右:ダイヨウイモ)	35	図版62	貝製品2	177
図版11	二枚貝有孔製品集中SS05(東より)	37	図版63	貝製品3	179
図版12	土器集中①(東より)	38	図版64	貝製品4	181
図版13	土器集中①(北より)	38	図版65	貝製品5	183
図版14	土器集中②(北東より)	38	図版66	貝製品6	185
図版15	土器集中③(南より)	39	図版67	骨製品	187
図版16	土器集中④(北より)	39	図版68	土製品	188
図版17	土器集中⑤(北より)	39	図版69	1945年頃の伊礼原遺跡周辺図	189
図版18	土器集中⑥(南西より)	40	図版70	溝状遺構検出状況	190
図版19	土器集中⑦(東より)	40	図版71	柱穴・ピット検出状況	197
図版20	骨集中①(D20)	40	図版72	土坑検出状況	199
図版21	骨集中②(S13)	40	図版73	青磁皿出土状況	200
図版22	骨集中③(A1)	40	図版74	2号人骨検出状況(南より)	201
図版23	貝集中SS04	41	図版75	3号人骨出土状況(A9西側より)	201
図版24	礫集中①(北西より)	42	図版76	サンゴ礫集中部出土状況(南より)	202
図版25	礫集中②(南西より)	42	図版77	滑石製石鍋・須恵器	205
図版26	軽石だまりD16(西より)	43	図版78	青磁1	215
図版27	土器1	85	図版79	青磁2	217
図版28	土器2	87	図版80	青磁3	219
図版29	土器3	89	図版81	青磁4	221
図版30	土器4	91	図版82	青磁5	223
図版31	土器5	93	図版83	青磁6	225
図版32	土器6	95	図版84	白磁1	231
図版33	土器7	97	図版85	白磁2	233
図版34	土器8	99	図版86	染付1	239
図版35	土器9	101	図版87	染付2	241
図版36	土器10	103	図版88	染付3	243
図版37	土器11	105	図版89	染付4	245
図版38	土器12	107	図版90	褐釉陶器1	253
図版39	土器13	109	図版91	褐釉陶器2	255
図版40	土器14	111	図版92	褐釉陶器3	257
図版41	土器15	113	図版93	褐釉陶器4	259
図版42	土器16	115	図版94	瑠璃釉・黒釉陶器・三彩	261
図版43	土器17	117	図版95	翡翠釉・産地不明陶器・タイ産鉄絵	263
図版44	土器18	119	図版96	銭貨	265
図版45	土器19	121	図版97	砥石	269
図版46	土器20(底部)	123	図版98	貝製品・骨製品	271
図版47	土器21(底部)	125	図版99	鉄製品	272
図版48	土器22(底部)	127	図版100	ガラス玉・羽口	273
図版49	石器1	137	図版101	Q7-SP23焼土検出状況	275
図版50	石器2	139	図版102	S10-SP25焼土検出状況	275
図版51	石器3	141	図版103	焼土	275
図版52	石器4	143	図版104	S12焼成跡	276

図版105	SK56堆積状況	278	図版134	石器2	343
図版106	SD02・SD04・SK02堆積状況	278	図版135	石器3	345
図版107	イ地区土坑検出状況	281	図版136	石器4	346
図版108	S10-SK03	281	図版137	貝製品	351
図版109	P14・P15・Q14・Q15-SK16	281	図版138	骨製品・植物遺体	352
図版110	貝集中部①	282	図版139	脊椎動物遺体1(魚類)	391
図版111	貝集中部②(南東より)	282	図版140	脊椎動物遺体2(上:ウミガメ・下:ウミガメ、 アオウミガメ、リクガメ)	392
図版112	瓦質土器	285	図版141	脊椎動物遺体3(ジュゴン)	393
図版113	本土産陶器(近世)	289	図版142	脊椎動物遺体4(上:イルカ、クジラ、海獣?、 ヘビ、ニワトリ、鳥類、ネズミ・下:イヌ、ヤギ)	394
図版114	本土産磁器(近世)	291	図版143	脊椎動物遺体5(上:ウマ・下:ウシ)	395
図版115	沖縄産施釉陶器	295	図版144	脊椎動物遺体6(上:イノシシ・下:イノシシ、 イノシシorブタ、ブタ)	396
図版116	沖縄産無釉陶器1	301	図版145	貝類遺体1(巻貝)	424
図版117	沖縄産無釉陶器2	303	図版146	貝類遺体2(巻貝)	425
図版118	沖縄産無釉陶器3	305	図版147	貝類遺体3(上面:巻貝・下面:陸・淡水産貝)	426
図版119	陶質土器・鉄製品	307	図版148	貝類遺体4(二枚貝)	427
図版120	先島系土器	310	図版149	貝類遺体5(二枚貝)	428
図版121	本土産磁器(近代)	312	図版150	花粉化石	436
図版122	本土産磁器(近代)・本土産陶器(近代)	313	図版151	種実遺体	437
図版123	円盤状製品	315	図版152	試料外観および試料採取作業状況	443
図版124	煙管	317	図版153	花粉分析プレパラート内の状況写真・植物珪酸体 分析プレパラート内の状況写真	443
図版125	基石	318	図版154	1号人骨出土状態	445
図版126	瓦	319	図版155	2号人骨(体部骨)	445
図版127	石製品出土状況	320	図版156	3号人骨出土部位	445
図版128	検出状況(K12東壁)	320	図版157	土器・骨製品	455
図版129	石製品	320	図版158	石器・滑石製品・白磁	456
図版130	現代遺物	321			
図版131	土器1	335			
図版132	土器2	337			
図版133	石器1	341			

挿図目次

第1図	北谷町の位置	6	第19図	貝集積SS03(T20)	33
第2図	北谷町周辺の地形分類	7	第20図	大型イモガイの大きさ比較	36
第3図	北谷町周辺の地層地質分類	7	第21図	二枚貝有孔製品集中SS05平面・断面(S12)	37
第4図	北谷町の位置と遺跡分布	10	第22図	二枚貝有孔製品の大きさ比較	37
第5図	キャンプ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・ 伊礼原A遺跡の位置	13	第23図	土器集中①平面・断面(T19)	38
第6図	グリッド設定	13	第24図	土器集中②平面(A20)	38
第7図	層序1(北・東・南壁)	17	第25図	土器集中③平面・断面(B13)	39
第8図	層序2(南南西・南西・西壁面B・Cトレンチ)	18	第26図	土器集中④平面・断面(A12)	39
第9図	層序3(イ地区北壁・西壁・下層確認中央壁・ 下層確認東壁面)	19	第27図	土器集中⑤平面(S12)	39
第10図	層序4(ハ地区東壁・西壁ニ地区北壁・東壁・西壁)	20	第28図	土器集中⑥平面(S10)	40
第11図	伊礼原遺跡出土遺物層別比率	22	第29図	土器集中⑦平面(O8)	40
第12図	第IV層検出遺構及び遺物集中部	23	第30図	貝集中SS04(A19・20)	41
第13図	溝状遺構SD07(Q・R17)	25	第31図	礫集中①(S9-SX01)	42
第14図	貝塚時代後期柱穴(プラン①断面プラン②平面・断面)	26	第32図	礫集中②(A9-SK02)	42
第15図	貝塚時代後期柱穴(ハ・ニ地区)	27	第33図	軽石(黄色系・黒色系)比較	43
第16図	1号人骨出土状況SX01(A11)	30	第34図	軽石平面分布(伊礼原D遺跡・伊礼原遺跡)	43
第17図	貝集積SS01(A19・20)	31	第35図	土器(重量)平面分布	58
第18図	貝集積SS02(T19)	32	第36図	土器平面・垂直分布(土器接合、遺物取り上げ)	59
			第37図	口縁部・胴部分類別平面分布1	65
			第38図	口縁部・胴部分類別平面分布2	68

第39図	土器1	84	第91図	2号人骨出土状況 (N14)	201
第40図	土器2	86	第92図	A9-SK04断面	201
第41図	土器3	88	第93図	SS07礫計測	202
第42図	土器4	90	第94図	サンゴ礫集中部SS07 (D15・16)	202
第43図	土器5	92	第95図	グスク時代遺物分布状況	203
第44図	土器6	94	第96図	滑石製石鍋・須恵器	205
第45図	土器7	96	第97図	青磁平面分布	210
第46図	土器8	98	第98図	青磁1	214
第47図	土器9	100	第99図	青磁2	216
第48図	土器10	102	第100図	青磁3	218
第49図	土器11	104	第101図	青磁4	220
第50図	土器12	106	第102図	青磁5	222
第51図	土器13	108	第103図	青磁6	224
第52図	土器14	110	第104図	白磁平面分布	229
第53図	土器15	112	第105図	白磁1	230
第54図	土器16	114	第106図	白磁2	232
第55図	土器17	116	第107図	染付平面分布	236
第56図	土器18	118	第108図	染付1	238
第57図	土器19	120	第109図	染付2	240
第58図	土器20 (底部)	122	第110図	染付3	242
第59図	土器21 (底部)	124	第111図	染付4	244
第60図	土器22 (底部)	126	第112図	褐釉陶器 (中国産) 平面分布	248
第61図	石器平面分布	134	第113図	褐釉陶器 (タイ産) 平面分布	248
第62図	石質別比率	135	第114図	褐釉陶器1	252
第63図	石器1	136	第115図	褐釉陶器2	254
第64図	石器2	138	第116図	褐釉陶器3	256
第65図	石器3	140	第117図	褐釉陶器4	258
第66図	石器4	142	第118図	瑠璃釉・黒釉陶器・三彩	261
第67図	石器5	144	第119図	翡翠釉・産地不明陶器・タイ産鉄絵	263
第68図	石器6	146	第120図	銭貨平面分布	264
第69図	石器7	148	第121図	銭貨	265
第70図	石器8	150	第122図	砥石平面分布	267
第71図	石器9	152	第123図	砥石	268
第72図	石器10	154	第124図	貝製品・骨製品	271
第73図	石器11	156	第125図	鉄製品	272
第74図	石器12	158	第126図	ガラス玉・羽口	273
第75図	ヤコウガイの蓋附刃分布	167	第127図	焼土 (重量) 平面分布	274
第76図	二枚貝有孔製品平面分布	168	第128図	焼土	275
第77図	二枚貝有孔製品遺跡別比較	173	第129図	第II層検出遺構	277
第78図	貝製品1	174	第130図	SK56断面	278
第79図	貝製品2	176	第131図	SD02・SD04・SK02断面	278
第80図	貝製品3	178	第132図	近世柱穴断面 (掘立柱想定プラン①~⑤)	280
第81図	貝製品4	180	第133図	貝集中部②	282
第82図	貝製品5	182	第134図	近世~近代遺物分布状況	283
第83図	貝製品6	184	第135図	瓦質土器	285
第84図	骨製品	187	第136図	本土産陶器 (近世) 平面分布	287
第85図	土製品	188	第137図	本土産陶器 (近世)	288
第86図	第III層検出遺構	191	第138図	本土産磁器 (近世)	291
第87図	グスク時代柱穴断面1(想定プラン1・3・9・12)	194	第139図	沖縄産施釉陶器平面分布	292
第88図	グスク時代柱穴断面2(想定プラン14・15・17)	195	第140図	沖縄産施釉陶器	294
第89図	グスク時代柱穴断面3(想定プラン19・20・25)	196	第141図	窯印拓本	297
第90図	青磁皿出土状況	200	第142図	沖縄産無釉陶器平面分布	299

第143図	陶質土器平面分布	299	第167図	石器2	342
第144図	沖縄産無釉陶器1	300	第168図	石器3	344
第145図	沖縄産無釉陶器2	302	第169図	石器4	346
第146図	沖縄産無釉陶器3	304	第170図	ヤコウガイの蓋附刃分布	348
第147図	陶質土器・鉄製品	307	第171図	貝製品	350
第148図	先島系土器平面分布	308	第172図	骨製品・植物遺体	352
第149図	先島系土器	310	第173図	伊礼原遺跡（国指定外）から採集された 脊椎動物遺体の組成（NISP比）	356
第150図	本土産磁器（近代）平面分布	311	第174図	伊礼原遺跡（国指定外）から採集された 脊椎動物遺体の組成（MNI比）	357
第151図	本土産磁器（近代）	312	第175図	伊礼原遺跡（国指定外）から採集された 魚類遺体の組成（NISP比）	357
第152図	円盤状製品	315	第176図	伊礼原遺跡（国指定外）から採集された 魚類遺体の組成（MNI比）	357
第153図	円盤状製品・煙管平面分布	316	第177図	伊礼原遺跡（国指定外）と伊礼原A遺跡の 優先種の変化	407
第154図	煙管	317	第178図	優占種のサイズ組成変化	422
第155図	基石の大きさと厚さの関係	318	第179図	花粉化石群集	432
第156図	基石	318	第180図	奄美大島砂丘形成と長浜金久遺跡群・ケジ遺跡・ 泉川遺跡の立地横断模式	450
第157図	瓦	319	第181図	伊礼原遺跡周辺の砂丘形成と立地横断模式	450
第158図	石製品	320	第182図	時代別出土遺物変遷	451
第159図	キャンプ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・ 伊礼原A遺跡の位置	323	第183図	小堀原遺跡の位置と調査区	453
第160図	グリッド設定	323	第184図	土器・骨製品	455
第161図	層序1（東壁・南壁・西壁No. 2・3・4）	325	第185図	石器・滑石製品・白磁	456
第162図	層序2（西壁No. 5・6・7 イロトレンチ）	326			
第163図	遺物平面・垂直分布	328			
第164図	土器1	334			
第165図	土器2	336			
第166図	石器1	340			

表目次

第1表	北谷町遺跡一覧	11	第24表	巻貝観察一覧	163
第2表	層序観察一覧	16	第25表	タカラガイ製品観察一覧	164
第3表	伊礼原遺跡遺物出土量	21	第26表	ヤコウガイ容器観察一覧	164
第4表	貝塚時代後期柱穴大きさ比較	27	第27表	貝匙観察一覧	165
第5表	貝塚時代後期柱穴の形状	27	第28表	ホラガイ有孔製品観察一覧	166
第6表	ピット（柱穴）計測一覧	28	第29表	貝包丁観察一覧	167
第7表	土坑観察一覧	29	第30表	螺蓋製貝斧観察一覧	167
第8表	貝集積観察一覧	34	第31表	ヤコウガイ有孔製品観察一覧	167
第9表	大型イモガイの大きさ比較 （貝集積・自然貝・伊礼原D遺跡）	36	第32表	二枚貝有孔製品貝種・重さ別出土量	168
第10表	有孔貝製品一括出土遺跡貝種組成	37	第33表	二枚貝有孔製品観察一覧	170
第11表	取上遺物一覧	44	第34表	骨製品出土量	186
第12表	土器口縁部・胴部出土量	61	第35表	骨製品観察一覧	186
第13表	IV・V類土器文様別分類出土量	70	第36表	土製品観察一覧	188
第14表	土器底部出土量	73	第37表	溝状遺構観察一覧	190
第15表	土器観察一覧	77	第38表	柱穴観察一覧	192
第16表	石器出土量	128	第39表	建物想定プラン面積	193
第17表	石器観察一覧	129	第40表	径と深さの関係	193
第18表	磨石完形法量一覧	130	第41表	土坑観察一覧	198
第19表	器種別石質相関関係	135	第42表	用途不明遺構観察一覧	199
第20表	貝製品出土量	160	第43表	人骨出土土坑観察一覧	201
第21表	貝輪（一枚貝・二枚貝）観察一覧	161	第44表	グスク時代出土遺物概要	203
第22表	貝輪（巻き貝）観察一覧	162	第45表	グスク時代遺物出土量（グリッド別）	203
第23表	貝玉・イモガイ製品観察一覧	163	第46表	須恵器観察一覧	204
			第47表	青磁出土量	210

第48表	青磁観察一覧	211	第100表	イモガイ円盤状製品	348
第49表	白磁観察一覧	228	第101表	螺蓋製貝斧観察一覧	349
第50表	白磁出土量	229	第102表	二枚貝有孔製品観察一覧	349
第51表	染付出土量	236	第103表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から 採集された脊椎動物遺体の種名一覧	356
第52表	染付観察一覧	237	第104表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土した魚類遺体	358
第53表	褐釉陶器(中国産)出土量	248	第105表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から 出土したウミガメ類遺体	362
第54表	褐釉陶器(タイ産)出土量	249	第106表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土したリクガメ類遺体	365
第55表	褐釉陶器(中国産・タイ産)観察一覧	250	第107表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイヌ遺体	366
第56表	タイ産鉄絵観察一覧	262	第108表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土した 鳥類・ネズミ・ネコ・ヤギ遺体	367
第57表	銭貨観察一覧	264	第109表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した イノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)	368
第58表	砥石観察一覧	266	第110表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した イノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯	380
第59表	貝・骨製品出土量	270	第111表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した 陸獣類遺体	384
第60表	タカラガイ製貝錘観察一覧	270	第112表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土したウシ・ウマ遺体	385
第61表	近世～近代遺構一覧	276	第113表	伊礼原遺跡(国指定外)から出土した海獣類遺体	388
第62表	焼成跡観察一覧	276	第114表	伊礼原遺跡(国指定外)から採集された 脊椎動物遺体の組成	389
第63表	溝状遺構観察一覧	278	第115表	調査時地区名と本報告地区名および対象グリッドの対応	398
第64表	掘立柱建物想定プラン面積比較	279	第116表	伊礼原地域における各遺跡出土貝類遺体の 時期別変遷(暫定)	404
第65表	柱穴観察一覧	279	第117表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土の 貝類遺体の分類学的位置と生息場所類型	405
第66表	土坑観察一覧	281	第118表	優占種の出土割合	407
第67表	貝集中部出土量	282	第119表	伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡 出土貝類遺体の詳細(NISP)	408
第68表	近世～近代出土遺物概要	283	第120表	放射性炭素年代測定結果	430
第69表	近世～近代遺物出土量	283	第121表	暦年較正結果	431
第70表	瓦質土器出土量	284	第122表	花粉分析結果	431
第71表	瓦質土器観察一覧	284	第123表	微細物分析結果	432
第72表	本土産陶器(近世)出土量	286	第124表	花粉分析結果	440
第73表	産地別出土量	287	第125表	植物珪酸体分析結果	440
第74表	本土産陶器(近世)観察一覧	287	第126表	微細物洗い出し分析結果	440
第75表	本土産磁器(近世)観察一覧	290	第127表	土壌理化学分析結果	441
第76表	沖縄産施釉陶器出土量	292	第128表	脂質分析結果	441
第77表	沖縄産施釉陶器観察一覧	293	第129表	3号大腿骨計測値表	445
第78表	播鉢分類別出土量	296	第130表	土器重さ一覧	453
第79表	沖縄産無釉陶器出土量	297	第131表	小堀原遺跡遺物追加資料一覧	454
第80表	沖縄産無釉陶器観察一覧	298	第132表	小堀原遺跡2008～2009年調査で採集された 魚類遺体の同定結果	457
第81表	陶質土器出土量	306	第133表	小堀原遺跡2008～2009年調査で採集された イノシシの上顎骨・遊離歯の同定結果	457
第82表	陶質土器観察一覧	306	第134表	小堀原遺跡2008～2009年調査で採集された イノシシの下顎骨・遊離歯の同定結果	457
第83表	先島系土器観察一覧	309	第135表	小堀原遺跡2008～2009年調査で採集された その他の脊椎動物遺体の同定結果	457
第84表	先島系土器出土量・胎土分類	309	第136表	小堀原遺跡2008～2009年調査で採集された イノシシの遺体(顎骨・歯を除く)の同定結果	458
第85表	施文技法別出土量	311			
第86表	本土産磁器(近代)出土量	311			
第87表	本土産磁器(近代)観察一覧	312			
第88表	円盤状製品観察一覧	314			
第89表	煙管観察一覧	316			
第90表	瓦出土量	319			
第91表	現代遺物出土量	321			
第92表	層序観察一覧	327			
第93表	取上遺物一覧	329			
第94表	伊礼原A遺跡土器出土量	332			
第95表	土器観察一覧	333			
第96表	石器出土状況	338			
第97表	器種別岩石組成	339			
第98表	石器観察一覧	347			
第99表	貝製品出土量	348			



H19 地区 (北から)



H8地区・H2地区 (東から)



H19 地区北壁



H19 地区東壁



H19 地区東壁



H19 地区南南西壁



H19 地区北壁



H19 地区東壁



H19 地区東壁



H19 地区南南西壁



H19 地区南南西壁



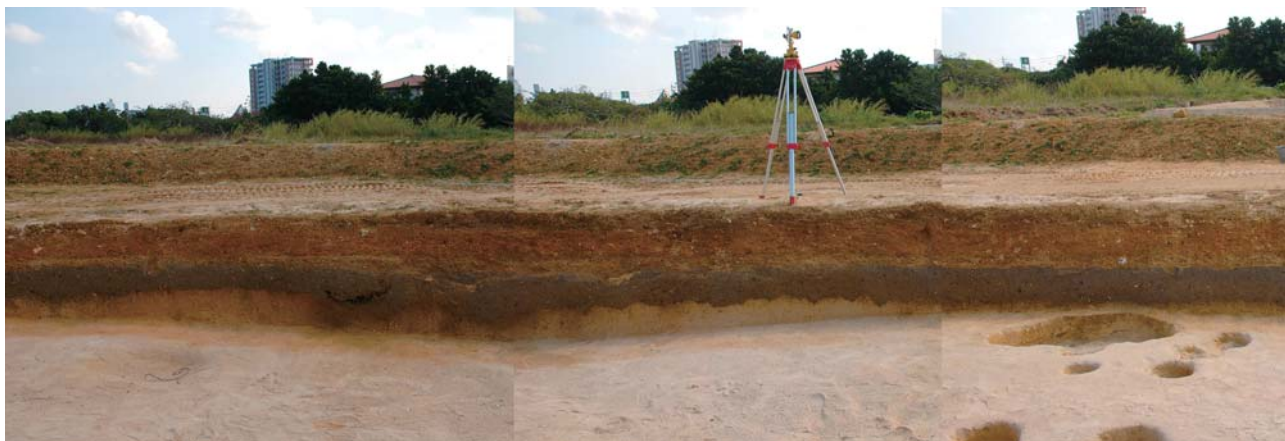
H19 地区南西壁



H19 地区西壁



イ地区北壁



H19 地区南西壁



H19 地区西壁



H19 地区西壁



イ地区北壁



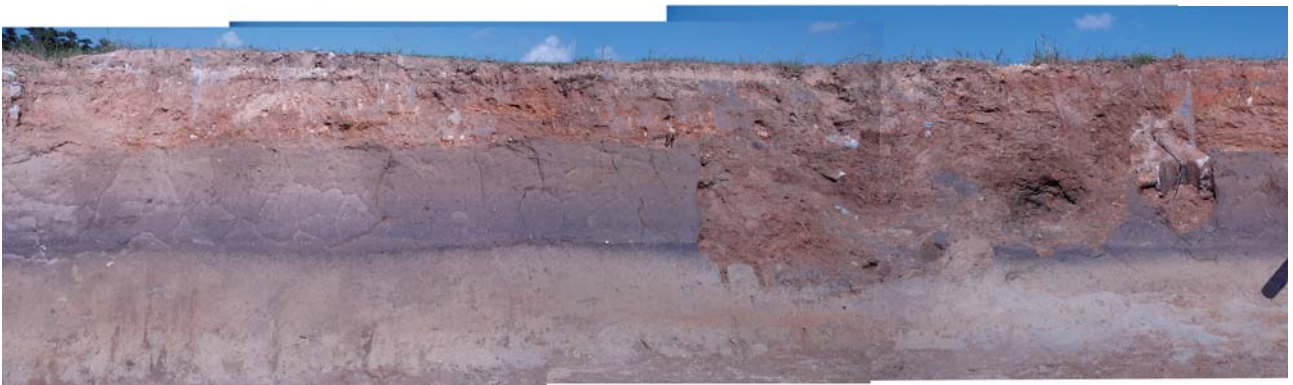
イ地区西壁



イ地区西壁



イ地区西壁



伊礼原A遺跡（口地区）東壁



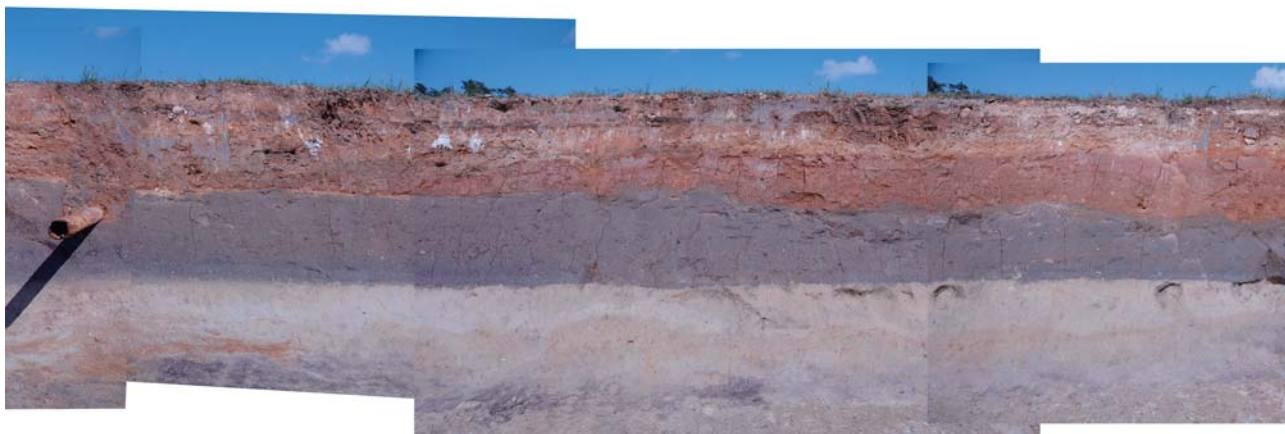
イ地区西壁



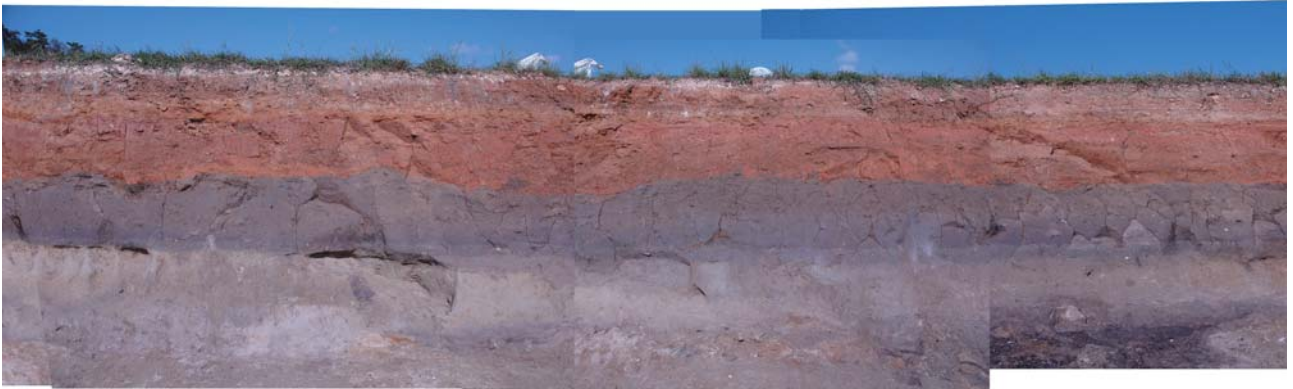
イ地区西壁



イ地区西壁



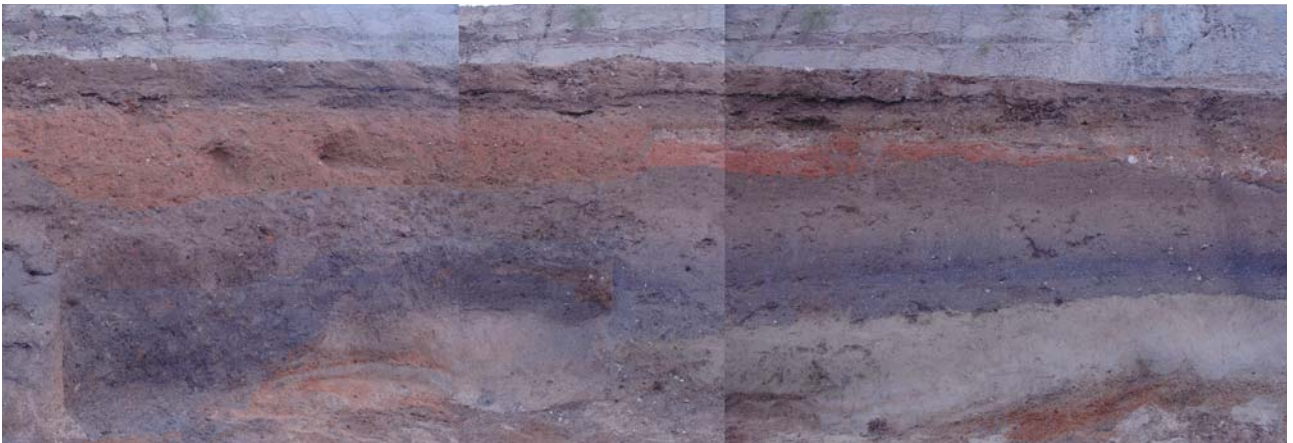
伊礼原A遺跡（口地区）東壁



伊礼原A遺跡（口地区）東壁



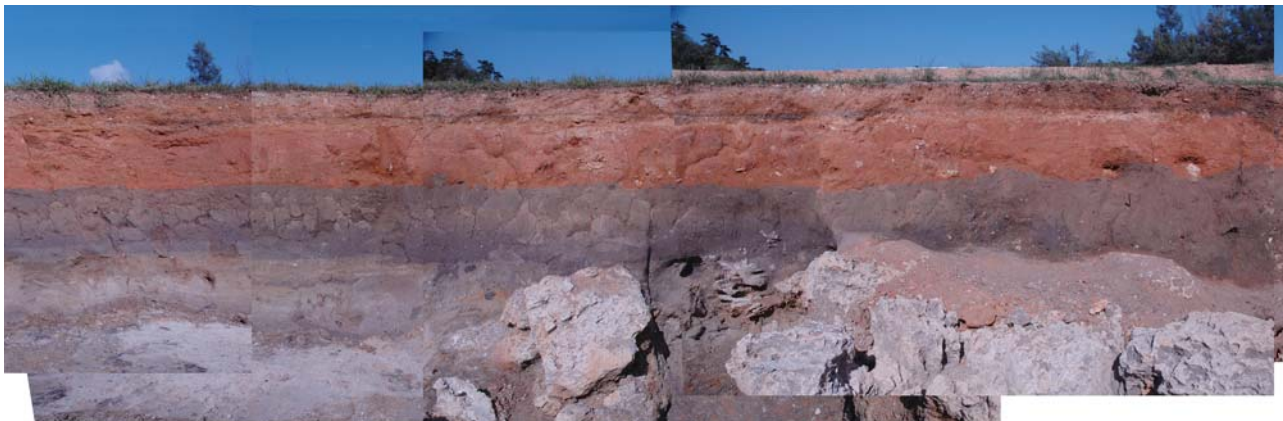
伊礼原A遺跡（口地区）西壁



伊礼原A遺跡（口地区）西壁



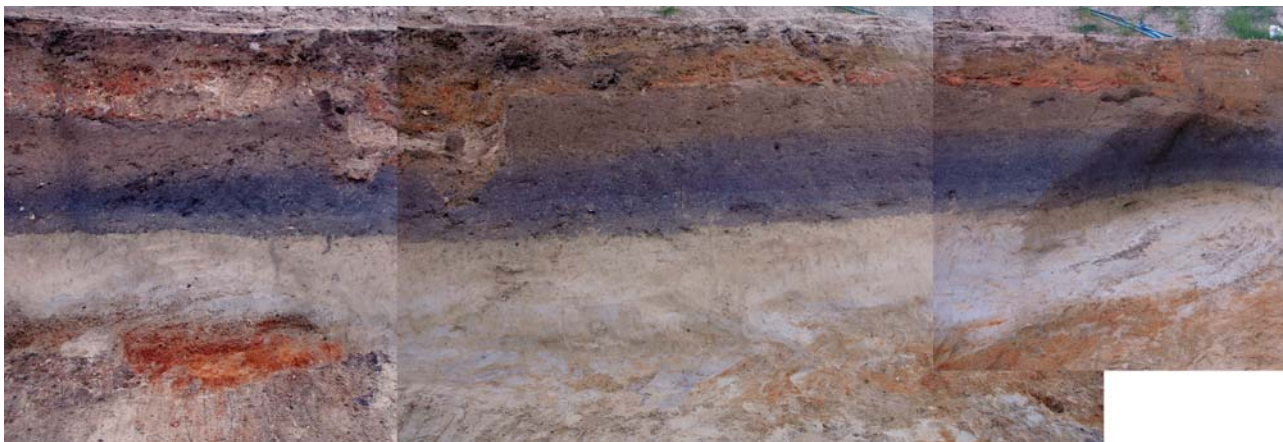
伊礼原A遺跡（口地区）西壁



伊礼原A遺跡（口地区）東壁



伊礼原A遺跡（口地区）西壁



伊礼原A遺跡（口地区）西壁



伊礼原A遺跡（口地区）西壁



八地区東壁



八地区西壁



二地区東壁



二地区西壁



Cトレンチ (東から)



下層確認トレンチ (南から)



下層確認遺物検出 (石皿)



下層確認遺物検出 (土器)



SS01・SS02・SS03



H19 地区 (西から)



イ地区 (南から)



二地区

八地区



卷首図版13 柱穴2 (オルソ画像)



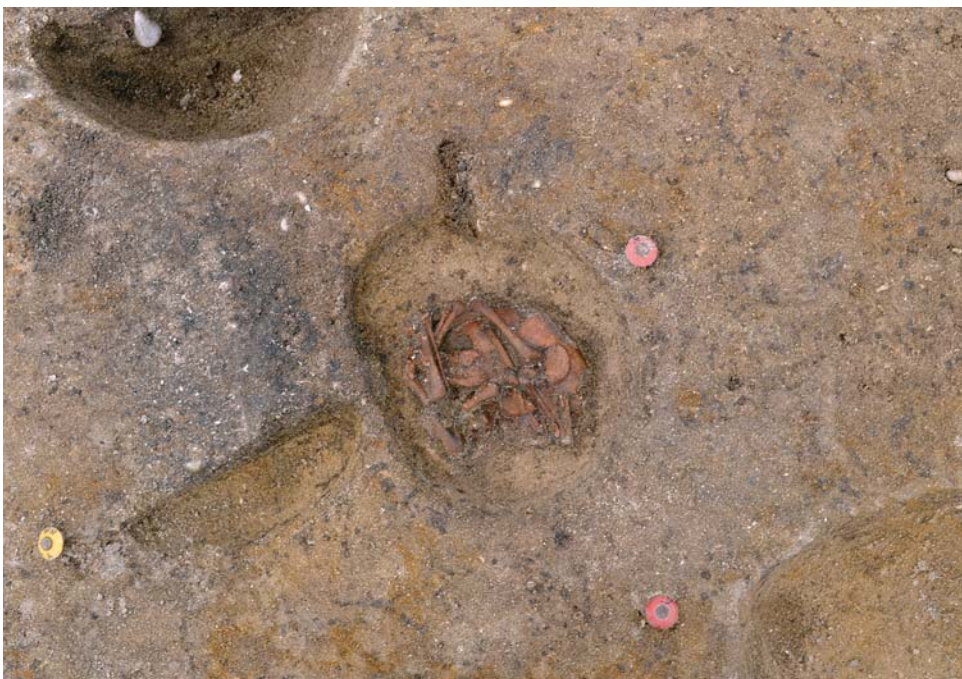
A11-SX01 (東から)



A11-SX01 (頭骨・西から)



A11-SX01 (肢骨)



N14-SX01 (北から)



全景 (北から)



IVb 層面 (北西から)



岩盤検出状況 (南西から)



下層確認トレンチ (南東から)



下層確認トレンチ (北壁)



図 58



図 52



図 59



図 79



図 73

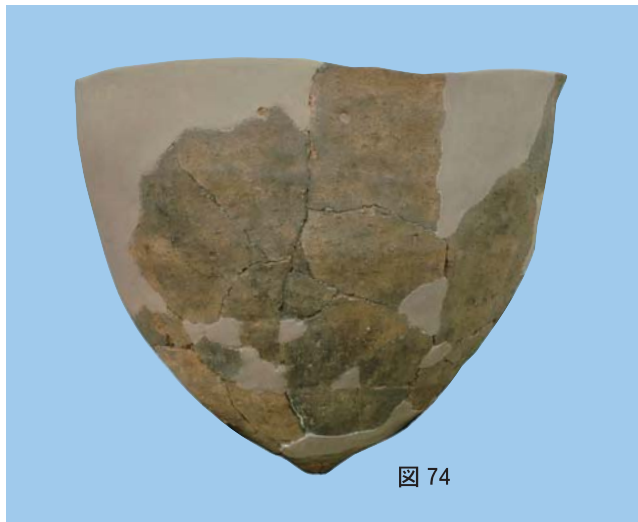
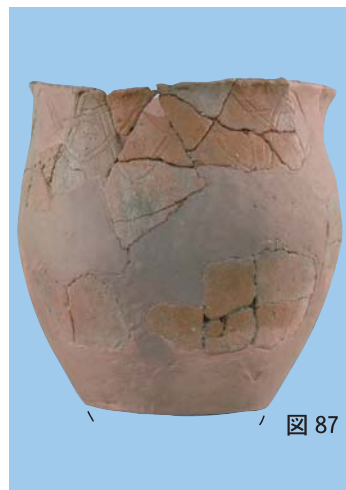


図 74



図 86

0 10cm



0 10cm



卷首図版17 土器 (上：復元土器・下：弥生系土器)

(遺物番号は図版番号と一致)



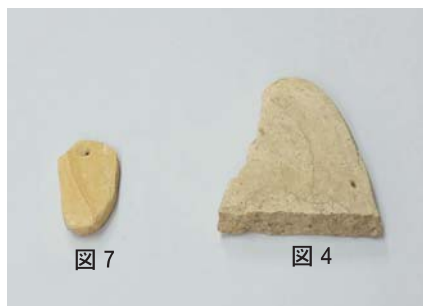
石器（貝塚時代後期）



石斧（伊礼原A遺跡・口地区）



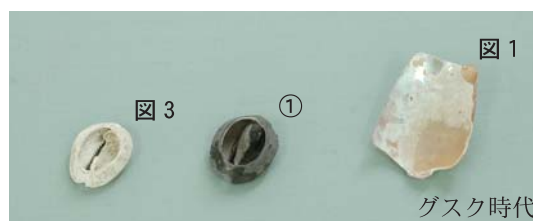
砥石（貝塚時代後期）



砥石（グスク時代）



石器（グスク時代）



グスク時代



ダイミョウイモ

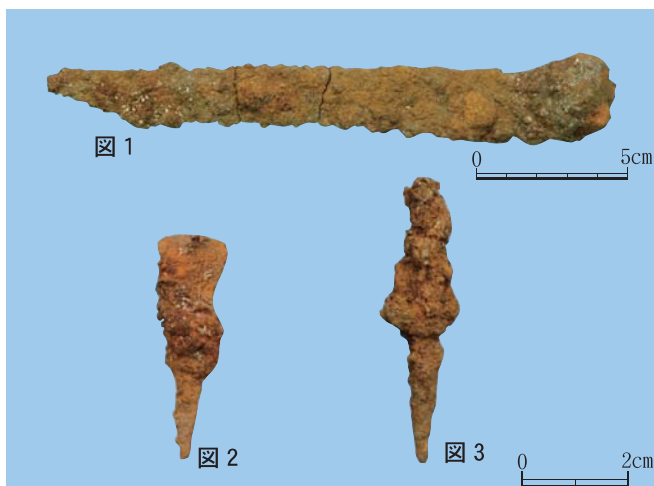
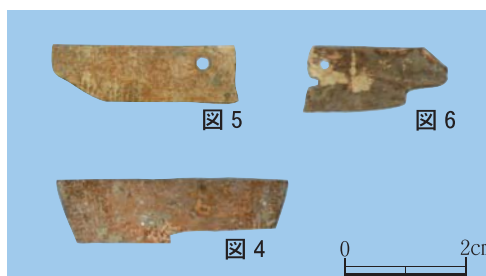
0 5cm



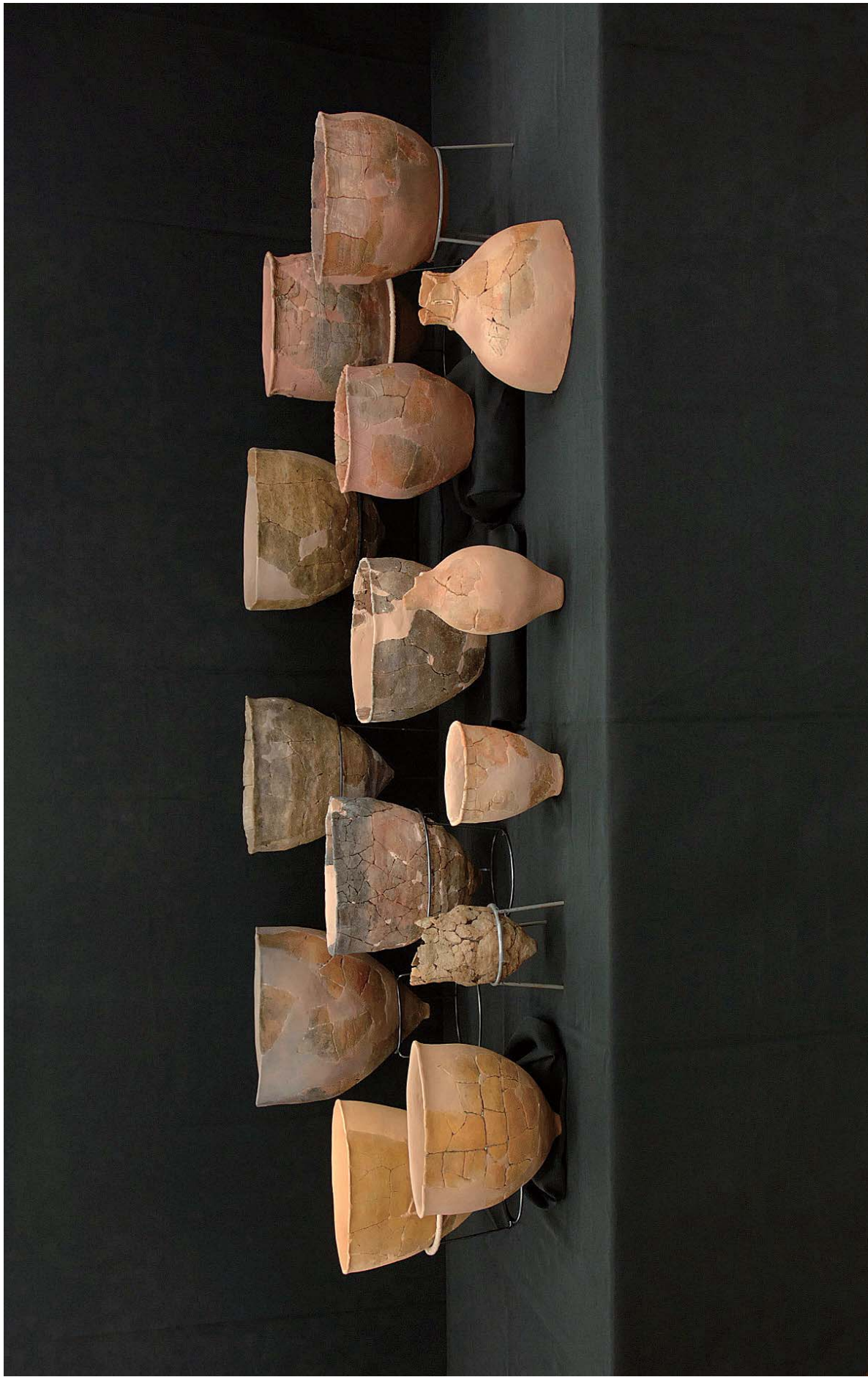


卷首図版20 陶磁器類・他

(遺物番号は図版番号と一致)



卷首図版21 本土産陶器・本土産磁器・銭貨・骨製品・鉄製品・円盤状製品・煙管・ガラス玉
 (遺物番号は図版番号と一致)



卷首图版22 復元土器

第 I 章 調査経緯・経過

第 1 節 調査に至る経緯

伊礼原遺跡（国指定外）は、平成15年3月に返還された在沖米海兵隊基地（キャンプ桑江北側地区）内に位置し、基地返還に先立つ予備調査で発見された「周知の埋蔵文化財包蔵地」である。本報告書は、桑江伊平土地地区画整理事業に係る記録保存目的の緊急発掘調査成果をまとめたものである。上記予備調査の結果、キャンプ桑江北側地区には、9遺跡6遺物散布地（延べ13ヘクタール）が確認され、伊礼原遺跡が位置する字伊平小字伊礼原176番地一帯には、沖縄貝塚時代後期（以下、本章で「貝塚時代後期」）とグスク時代の遺構が確認された（註1・2）。後述する国指定史跡伊礼原遺跡の指定地外に当たる部分である。

キャンプ桑江北側地区は返還後の跡地利用促進が重要な課題となっており、課題の整理と解決に向け、北谷町内の関係部署間で定期的に会議の場を設けた。埋蔵文化財については、事業調整の段階でほとんどの遺跡が開発行為の影響を受ける事が判明した。その理由として、事業地内のほぼ全域で盛土による造成工事が施工されるためであった。国道58号に東接するキャンプ桑江北側地区は、国道よりも地盤面が低く、大雨時に度々冠水を引き起こしていたことから、返還跡地一帯を盛土造成し上記現象を解消する必要があるがあった。同地域は、本町でも数少ない平坦地であり、かつ、地理的に本町の中心部であることから、返還後は町の中核ゾーンとして、職住近接型の都市環境の創出及び地域活性化を図る計画がなされていた（註3）。返還跡地を有効かつ効率的に利用するためには、国道との段差を解消する盛土造成工事は避けられないものであり、その土厚は、地下の埋蔵文化財に悪影響を及ぼす可能性が十分に考えられる規模も認められた。ただし、盛土の高さが一様ではない事から、盛土の高さや恒久的工作物の範囲を割り出すことにより、緊急発掘調査の対象地及び対象外範囲の抽出作業を進めたが、同作業は困難を極めた。

また、連絡会議と並行して、沖縄県内の政府関係機関、沖縄県並びに北谷町で「キャンプ桑江北側地区跡地利用支援関係機関連絡会議（以下「連絡会議」という。）」が、平成11年9月14日から平成12年10月27日にかけて延べ10回開かれた。連絡会議では、返還跡地で確認された遺跡の取扱等について、調査費用・調査期間・文化財保護・地権者への負担等の総合的観点から、今後の方針を導き出すための検討が行われた。連絡会議では、遺跡の取扱いについて以下の2案が持ち上がった。

- 1、区画整理事業期間中に対象遺跡の全てを全面調査する。
- 2、区画整理事業期間中には事業に係る範囲（遺跡の一部）のみを調査し（第1段階）、その他の一般宅地等範囲については、事業完了後に土地所有者が建築行為を計画した時点において、原因者負担や文化庁補助を受けて発掘調査を実施する。

1案のメリット（2案のデメリット）として、

- ①従前地から埋蔵文化財包蔵地へ換地されないため、この点において地権者へ不利益が生じない。
- ②第1段階で全ての発掘調査を行うため、2案に比べ調査期間の短縮が考えられる。

が想定され、デメリット（2案のメリット）としては、

- ①発掘調査を実施した箇所その後開発行為が行われない場合、不必要な調査となってしまう。
- ②遺跡の一部のみの調査に比べ調査費用が増大し（減歩率の上昇）、地権者への負担が大きくなる。
- ③事業完了後に宅地建設の殺到が予想されることから、第2段階の発掘調査の対応が困難となり、

地権者に不利益を与える。

が挙げられた。幾多の会議を重ねた結果、最終的には地権者への負担軽減を考慮し、1案を採用する事となった。同時に、現地保存すべき遺跡に伊礼原C遺跡（当時の名称）が挙げられ、今後は保存範囲を確定させるべく範囲確認調査を継続して取り組む事となった（註4）。

平成15年3月15日には「桑江伊平土地地区画整理事業（施行者 北谷町）」が事業認可され、伊礼原遺跡を除く他の遺跡は、現状保存が図れないことから次善の策として記録保存調査を行うこととなった。平成16年10月27日、北谷町教育委員会は、桑江伊平土地地区画整理事業施行区域における埋蔵文化財の取扱いについて北谷町と協定を締結した。町教育委員会においては、他事業との関係による専門員の事務負担量が著しく増大していたため、発掘調査に係る諸作業の軽減を図る目的で、現地調査の測量、発掘作業員の手配及び安全管理を民間業者に業務委託する事とした。

発掘調査は、遺跡内を西流する河川（以下、本章で「旧河川」）の切り回し工事等の兼ね合いから3期に分けて行った。調査初年度にあたる平成19年度は、12月10日着手し、平成20年2月29日に業務を完了した。調査面積は1,350㎡である。2期目の平成20年度は7月7日に着手し、同年11月25日に業務完了。調査面積は1,050㎡。3期目の平成24年度は5月23日に着手し、同年7月31日に業務完了。調査面積は930㎡で3期に亘る総調査面積は3,330㎡である。

<註文献>

註1 北谷町教育委員会2005『キャンプ桑江北側返還に伴う試掘調査—伊礼原B遺跡ほか発掘調査事業—』

註2 北谷町教育委員会2008『伊礼原D遺跡—キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業(平成10年～13年度)—』

註3 返還に先立つ平成10年3月には、共同使用という形態で北谷町役場新庁舎がキャンプ桑江北側地区内に建設されている。

註4 同遺跡はその後『伊礼原遺跡』と名称が改められ、平成22年2月22日に約17,000㎡が国史跡に指定されるに至った。

第2節 調査体制

調査体制は以下のとおりである。

事業主体	教育長	瑞慶覽 朝 宏（平成19年度）
	同	比 嘉 秀 夫（平成20年度）
	同	川 上 啓 一（平成24・25年度）
事業総括	教育次長	謝 花 良 継（平成19・20年度）
	同	大 城 操（平成24年度）
	同	比 嘉 良 典（平成25年度）
	社会教育課長	大 城 操（平成19・20年度）
	同	嘉陽田 朝 栄（平成24年度）
	同	比 嘉 敬 文（平成25年度）
調査総括	文化係長	中 村 愿（平成19年度）
	同	嘉陽田 朝 栄（平成19・20年度）
	同	米 須 健（平成24・25年度）
調査担当	主任主事	山 城 安 生（平成19・20・24・25年度）
	同	東 門 研 治（平成19・20・24・25年度）

同 松原哲志（平成24・25年度）
同 島袋春美（平成25年度）
主 事 松原哲志（平成19・20年度）

資料整理作業員

（平成24年度）

嘱託 上地千賀子・上間真寿美・大城 光・呉屋広江・佐久間クリエ・島袋春美・曾木菊枝
知念栄子・照屋元子・富平砂綾子・豊里初江・西原美草・東順子・山城小百合
臨時 島袋 和・城間志津香・祖堅弥生・照屋朝子・渡嘉敷ゆみ子・普久原香・宮里由夏
湧川米子

（平成25年度）

嘱託 上地千賀子・上間真寿美・大城 光・呉屋広江・佐久間クリエ・曾木菊枝・知念栄子
照屋元子・富平砂綾子・豊里初江・西原美草・東順子・北條真子・山城小百合
臨時 稲嶺律子・大城明香・金城綾乃・城間志津香・田中英子・徳本加代子・仲栄真麻美
宮里美也子

（平成24・25年度）

北谷町シルバー人材センター

発掘調査及び自然科学分析に係る業務委託

（平成19年度）

伊礼原遺跡(国指定外)埋蔵文化財発掘調査委託業務委託（その1） 株式会社パスコ沖縄支店

（平成20年度）

伊礼原遺跡(国指定外)埋蔵文化財発掘調査委託業務委託（その2） 株式会社パスコ沖縄支店

（平成23年度繰越事業）

伊礼原遺跡(国指定外)埋蔵文化財発掘調査委託業務委託（その3） 株式会社パスコ沖縄支店

（平成25年度）

伊礼原A遺跡の自然科学分析業務委託 パリノ・サーヴェイ株式会社

調査指導及び助言（敬称略、所属五十音順）

おきなわ石の会	大城逸朗
沖縄県立埋蔵文化財センター	名嘉政修・岸本義彦・金城亀信
沖縄市文化財調査審議会	比嘉賀盛
鹿児島大学埋蔵文化財センター	新里貴之
史跡鴻池新田会所管理事務所	松田順一郎
千葉県立中央博物館	黒住耐二
北谷町文化財調査審議委員	知念 勇
琉球大学医学部	土肥直美
早稲田大学教育学部	樋泉岳二

第3節 調査経過

・発掘作業

平成19年度（12月10日～2月29日）

平成19年度は12月11日から草刈り作業を開始し、調査区設定に取りかかった。14日からは磁気探査及び重機による表土（米軍基地造成土）掘削を行い、22日には表土掘削終了。予備調査の成果から表土厚は1m前後である事が判明していたため機械力で一気に掘り下げた。造成土の除去後、黒褐色シルトの遺物包含層が検出され5m間隔でグリッド鉋を設置し、26日から人力掘削を開始した。調査区を南北に分ける形で範囲確認調査時のトレンチが確認されたことから、その埋土を優先的に掘削し壁面観察に努めた。遺物包含層上部では貝塚時代後期の土器のほか中国産陶磁器や沖縄産施釉陶器が混在していたため、近世以降に攪乱されていると判断した。

包含層を掘り進めると白色砂層が現れ、グスク時代の遺構が明瞭に確認できるようになった。1月15日には高所作業車を用いて範囲確認トレンチより南側の遺構検出状況を撮影し、21日には北側の撮影を行った。その際、座標値を持った対標を調査区内に設置し、写真測量による遺構平面図作成に備えた。グスク時代の遺構は調査区の西側に集中しており、掘立柱建物址のプランも数棟分確認されたことから集落の中心部分と判断した。調査区東側ではグスク時代の遺構が希薄である一方、貝塚時代後期の遺物が集中していた。これは、東側丘陵地に近いほど古い時期の遺跡があるというこれまでの確認調査結果を裏付けるものであった。ただ、調査区北西隅にも貝塚時代後期の遺物が集中している状況が見られ、その理解に苦慮した。

翌22日からは遺構の半裁作業及び記録作業に着手、2月7日には遺構を完掘し、8日には高所作業車にて完掘状況の写真撮影を行った。12日には写真測量のためヘリコプターを用いて空中写真撮影を行い、その後、貝塚時代後期の遺構検出作業へ移行した。20日には貝塚時代後期の遺構検出状況を高所作業車により写真撮影し、順次遺構の半裁、記録作業を行った。26日から28日にかけて重機による下層確認調査を実施した結果、遺構が確認されなかったため19年度の調査は終了した。

平成20年度（7月7日～11月21日）

平成20年度は7月7日から草刈り作業を開始し、調査区設定に取りかかった。11日からは磁気探査を行い、26日にイ地区、8月1日にロ地区（伊礼原A遺跡部分）の表土掘削が終了した。イ地区では黒褐色シルトの遺物包含層が南側に向けて薄く堆積しており、部分的に遺構が確認された為、包含層掘削、遺構検出、遺構測量を同時並行で進めた。21・22日には遺構検出状況を撮影し、25日より遺構半裁作業を行った。

29日からはロ地区に着手。小規模な調査区だが複雑な堆積状況を示していたため、サブトレンチを設け層序の把握に努めた。イ地区ではグスク時代の集落跡が広がり、前年度理解に苦慮した貝塚時代後期の遺物集中箇所も認められた。遺物集中箇所からはローリングを受けた土器も見られたことから二次堆積の可能性が考えられた。ロ地区では遺物が定量出土するものの貝塚時代前期（縄文時代後期相当）や貝塚時代後期等、時期の異なる土器が含まれていたため二次堆積であると判断した。

9月9日からはイ地区の完掘作業と記録作業に移行し、12日には高所作業車を用いてロ地区の岩盤露出状況の全景撮影を、26日にはイ地区の完掘状況の写真撮影を行った。ロ地区南西側では貝塚時代後期の土器がまとまって出土し、ローリングを受けていないことからプライマリーな包含層が残っているものと想定した。10月8日からは両地区において重機による下層確認トレンチを設けた。イ地

区では貝塚時代後期時期の土器が数点出土し、その後トレンチ壁面の図化・写真撮影を行った。ロ地区で遺物は確認されず、湧水による壁面崩落があったため写真撮影のみによる記録となった。14日には現場作業を終了し、その後は遺物整理や台帳類作成、データ整理などを行い11月21日に20年度の調査を終了した。

平成24年度（5月23日～7月31日）

平成24年度は5月23日から現場作業を開始。切り回しが完了した旧河川の箇所に雨水が溜まっていたため、水中ポンプにより排水を行い調査区の設定に取り掛かった。28日からは磁気探査と重機掘削を並行して実施。ハ地区西側は、近世以降による耕作等の影響によりグスク時代の包含層がほとんど確認できず、ニ地区南側は旧河川設置工事により大きく攪乱されていた。

6月7日からはグスク時代の包含層掘削に着手、15日にはニ地区の遺構検出状況を高所作業車にて写真撮影し、翌16日にはハ地区の撮影を行った。18日からは遺構掘削と記録作業を開始。両調査区の東側20mは7月から実施される道路工事部分に掛かっていたため優先的に調査を行い、7月4日にグスク時代の調査を、7日に貝塚時代後期及び下層確認調査を終え、10日には当該箇所を工事部署へ引き渡した。その間、ハ地区の引き渡し箇所ではグスク時代の土坑墓が確認されたが、レーザー測量を導入することで記録作業の迅速化を図り、記録作業後には土肥直美氏の指導の下、人骨の取り上げを行った。12日からは残る調査区の遺構掘削及び記録作業を総動員で行い、19日にはグスク時代の完掘を終え俯瞰写真を撮影、23日からは貝塚時代後期の包含層掘削を行った。グスク時代の遺構のほとんどはピットであった。出土遺物は15～16世紀代のものが多く、過年度の調査内容を補完するものであった。貝塚時代後期の包含層掘削時には、両調査区中央部分の北西－南東ラインで大当原期の遺物がまとまって出土する傾向が見られ、これまでの調査時に遺物が集中する範囲と繋がる状況が確認された。数は少ないものの遺構も検出されたことから、海岸線に並行する北西－南東の遺物集中ラインは大当原期の生活面である可能性が示唆された。25日には攪乱部分より銃弾等が発見されたため、関係部署に連絡しその日のうちに自衛隊が回収した。30日には重機による下層確認調査を終え、翌31日には24年度の調査及び伊礼原遺跡（国指定外）の全ての現地調査が完了した。



図版1 自衛隊による銃弾等回収状況

・整理作業

平成24・25年度

本発掘調査から出土した総遺物量は、標準的な遺物コンテナ（60cm×40cm×10cm）で473箱であった。整理作業は現場作業の雨天時を利用して遺物の洗浄・乾燥及び脆弱遺物の強化を行い、本格的な作業は現地調査終了後の平成24年度から開始した。乾燥後の出土遺物はナンバリングや接合作業等を行い主な資料を実測した。現場作業時にトータルステーションや写真測量で作図した遺構図等はCADデータからイラストレーターデータに変換後デジタルトレースを行った。手描きの図面や遺物実測図等については全てスキャンし、同じくデジタルトレース作業を行った。報告書掲載写真はデジタルカメラ（1200万画素）で撮影したものをを用い、35mmフィルムカメラの資料はアルバムにて整理・保管した。現場作業中に採取した炭化物やサンプル試料及び土器や石器・人骨等の同定については、専門機関へ業務委託・調査依頼を行った。

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 地理的環境

(1) 北谷町の位置と概要

北谷町は沖縄本島中部の西海岸、県都那覇市から北東約16kmに位置している。北に嘉手納町、東に沖縄市と北中城村、南に宜野湾市と接し、西は全域が東シナ海に面し彼方に慶良間諸島が眺望される。町の総面積は13.78km²で、南北約6km、東西約4.3kmの長方形をなし、ほぼ中心（北緯26度18分58秒、東経127度45分55秒）に町役場は位置する。

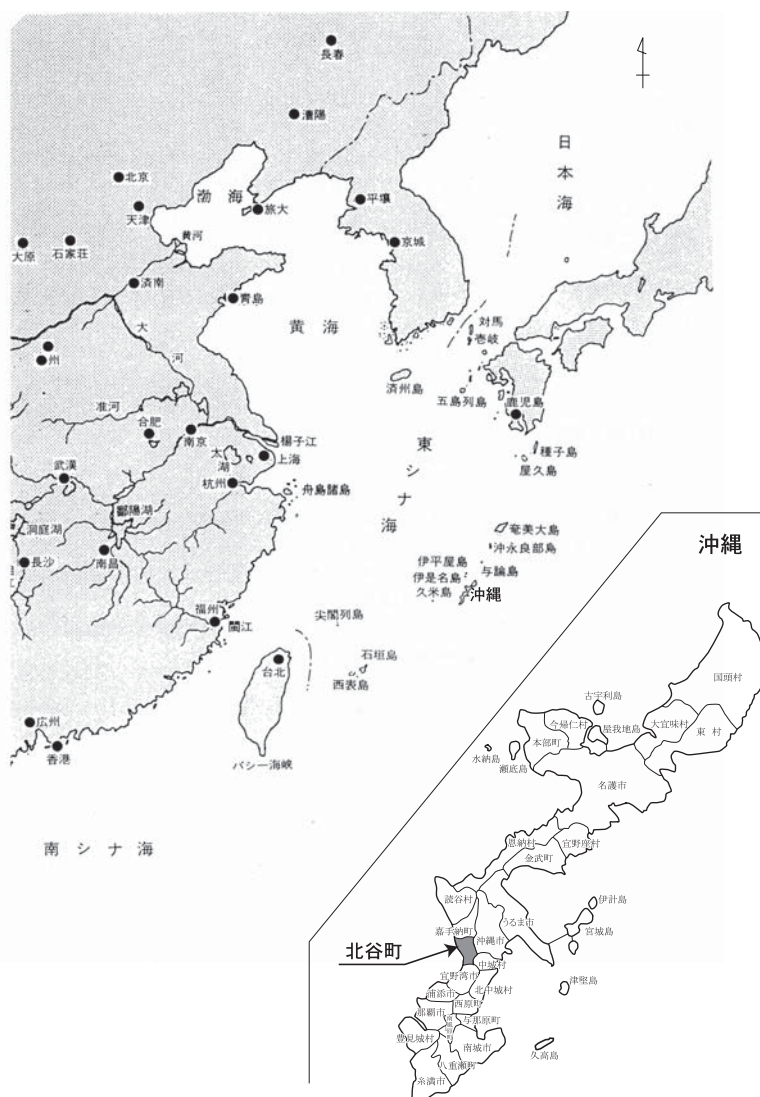
2014（平成26）年2月末現在の人口は約28,664人で、現在進められている桑江伊平土地区画整理事業開始前（平成15年12月末）の26,358人に比べ2,306人、率にして1.08%増となっている。今後も公有水面埋立地の利用や返還軍用地の跡地利用に伴って、一層の人口増加が見込まれている。

本町は、米軍基地の多い沖縄県内においても基地占有率が3番目に高い自治体で（町総面積における軍用地の比率は53.5%）、基地の殆どは利便性に富む国道58号沿いの平地に集中している。そのため土地利用上大きな制約があり、丘陵台地からなる東部地域と海岸低地や埋立地の広がる西海岸地域の狭小な町土で、まちづくりや生活環境整備が行われている。

産業は、西海岸地域を中心に第三次産業の割合が大きく今後の伸びも予測されている一方、第一次、第二次産業は減少傾向にある。

現在は、都市との共生・交流を目指したフィッシャリーナ整備事業や自然海製塩事業など、地域特性を生かした新しい地場産業の創出に取り組んでいる。

交通網は、那覇市から本島北部へ延びる主要幹線道路の国道58号が西海岸側を縦断し、町域北側より県道23号線、24号線、130号線がそれぞれ国道58号以東へ延び、概して交通の便に恵まれている。近年では、国道58号渋滞緩和のための道路拡幅や県道24号線のバイパス整備が進められている。



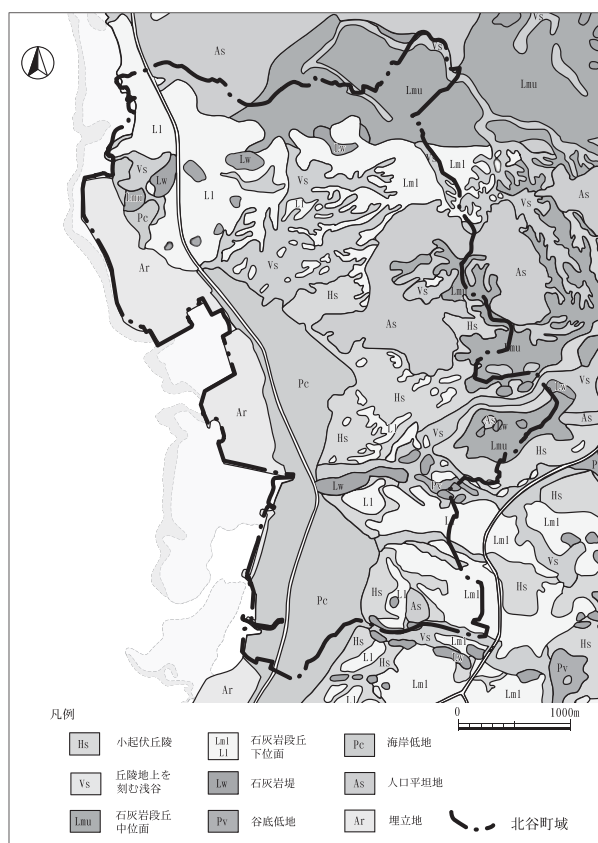
第1図 北谷町の位置

(2) 自然的環境

本町の気候は亜熱帯海洋性に属し四季を通して温暖である。年平均気温は22度程度、年平均湿度は77%前後で、冬の期間が極めて短い。年降水量は2,000から3,000ミリメートルと多雨で、特に5月中旬から6月下旬の梅雨期と8～10月の台風期に集中する。

本町の地形を概観すると、町の北西-南東方向に走る桑江断層を大きな境とし、東高西低の様相を呈している。東・南部では標高100m以上、100～50m、50～30mの段丘地形が見られ、侵食が進んだ台地は起伏に富んだ地形を成し、北部では、洞穴やドリーネ、石灰岩堤、石灰岩丘等のカルスト地形が発達している。西部には低地及び海浜が見られ、海岸低地のほとんどは埋立地や人工ビーチとなっており僅かに自然海浜が残る。主な河川には、白比川、普天間川の二級河川があり、東シナ海へ向け西流している。

表層地質は、基盤の第三期中新世末から鮮新世の島尻層群を第四期更新世の琉球層群が不整合に覆い、低地では琉球層群を沖積層が不整合に覆っている。琉球層群は、非石灰質の国頭礫層と石灰質の琉球石灰岩層からなり、前者は沖繩本島北部、後者は中・南部に分布する。本町は国頭礫層の分布する南限となり、酸性土壌が確認される。水理地質は、基盤のシルト質粘土層が不透水層となり、これを不整合で覆う琉球石灰岩層中の砂質石灰岩が本町の一帯に分布している。石灰岩層は多孔質なため透水性がよく、帯水層となり不整合部の各所で湧出している。



第2図 北谷町周辺の地形分類

上図は『土地分類基本調査 沖縄本島北部・中南部地域 5万分の1』を一部抜粋し、改変・トレース



第3図 北谷町周辺の地層地質分類

上図は『土地分類基本調査 沖縄本島北部・中南部地域 5万分の1』を一部抜粋し、改変・トレース

植生は、北部に生育するイタジイ・イジュ・ヤマモモ等と、中南部に生息するアカギ・オオバギ・ヤブニッケイ等が混生し、学術的にも貴重な地域となっている。森林は、嘉手納基地内やその周辺、庁舎北側の丘陵地、北谷城周辺、河川流域に比較的良好に残るも、その割合は町土の7%と決して高くない(2006年4月現在)。動物相は、良好な植生が残っている場所を中心に、鳥類4目9科14種、爬虫類1目4科6種、両生類1目3科3種、大型土壌動物14目1,411種の個体が確認されている。また、2000(平成12)年に行われた動物調査では、希少性の高い哺乳類のオリオオコウモリ、鳥類のミフウズラ、昆虫類のクロイワゼミ等を含む陸棲動物や、海域、汽水域、河川域で多様な水棲動物が確認されている(北谷町教育委員会, 2005)。

第2節 歴史的環境

本町では、平成26年3月現在で54遺跡が確認されている。以下に各時代の歴史的環境を概観する。

(1) 先史時代

先史時代に属する遺跡は主に西海岸に集中している。町内最古の遺跡(旧石器時代)である鹿化石出土地と桃原洞穴遺跡は町東側の台地上に位置している。桃原洞穴遺跡からは化石人骨(約16,000年前)が発見されたとされているが、近年の研究では中世または近世初めの可能性が指摘されている。

貝塚時代前I～V期(縄文時代相当期)の主な遺跡には伊礼原遺跡が挙げられる。同遺跡は本町のほぼ中心に位置し、ウーチヌカーと呼ばれる湧水を源とする低湿地区と砂丘地区に分けられる縄文時代前期から戦前に至るまでの複合遺跡である。低湿地区では古環境の復元が可能な程の植物遺体が出土したほか、県内初となる発見が相次いだ。砂丘地区では、大きな波力によって砂丘と共に住居址が侵食され、その後砂丘が回復し、居住区が拡大していく様子が確認された。また、沖縄諸島で最古の土器とされる爪形文土器や九州の曾畑式土器のほか、先史時代からグスク時代までの土器編年体系が網羅できるほどの遺物が出土しており、同遺跡は2010(平成22)年に国史跡に指定された。その他、町北側に所在する砂辺貝塚からは方形状住居址が、クマヤー洞穴遺跡からは改葬人骨が多数検出されている。

貝塚時代後期(弥生～平安並行期)の遺跡は米軍基地跡地利用に伴う発掘調査により多数発見され、中でも小堀原遺跡からは、グスク時代への過渡期である10～12世紀の年代値を示す大麦・稲・アワが得られており、農耕社会への移行を考える上で貴重な資料を提供している。

(2) グスク時代・古琉球

本町におけるグスク時代の代表的な遺跡には北谷城が挙げられる。石灰岩丘陵上に立地する北谷城は本町で唯一残存するグスクで、発掘調査成果から12世紀に始まり、14世紀後半から15世紀中頃に石垣が構築され、15世紀後半に終焉を迎えたと考えられている。北谷城に関しての明確な記録はなく、金満按司や大川按司、谷茶按司の3系統の興亡があったと伝えられているが伝承の域を出ない。その他の言い伝えとしては、1609年の薩摩侵攻時に^{ようちやうほう}雍肇^{さしきこうどう}豊又は佐敷興道が北谷城に守備隊として配されたが、首里陥落の報を聞き自刃したという話が残っている。

「北谷」とは、いつからそう呼ばれるようになったか定かではないが、嘉靖年間(1522～1566年)の兪姓大宗家家譜中に「北谷間切平安山地頭職」の文字が見られることから、古琉球には北谷という地名が存在していたようである。また、1577年に琉球国王が地方役人に給した辞令書に「きたたんまきり」と見られることから、当時は北谷を「きたたん」と読んでいたようである。その後「きたたん」は「きちゃたん」から「ちっちゃたん」へと少しずつ言語上変化し、現在の「ちゃたん」となっている。

（３）近世

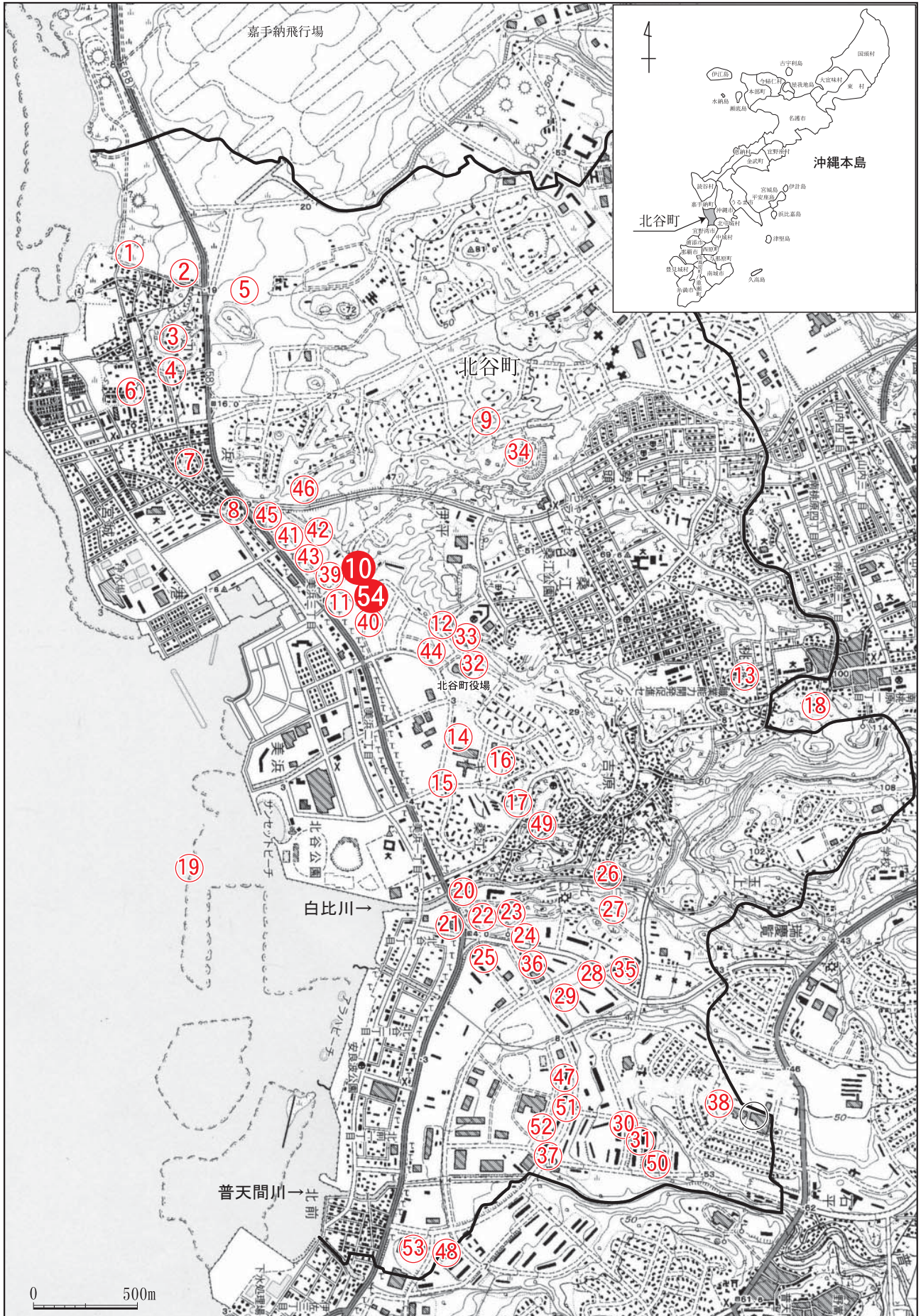
1649年に作成された『絵図郷村帳』をみると、近世の北谷間切には、北谷、くわい（現在の桑江）、平安山、すなへ（砂辺）、野国、屋郎（屋良）、賀手納（嘉手納）、山内、あきな（安仁屋）の9つの村があったことが分かる。1660～1670年代には、間切の分割・新設に伴って山内が越来間切に、あきなが宜野湾間切に割かれ、新たに玉代勢、伝道、伊礼、浜川、野里が誕生し、計12村となって近代まで引き継がれた。1700年代前半になると首里の士族層が地方へ下り、屋取として生活し始める。北谷は屋取が多い地域で、上勢頭古墓群や大作原古墓群は屋取集落の人々によって造られたものである。近世末期の1840年には、北谷沖にイギリス商船のインディアン・オーク号が座礁する事件が起こる。北谷間切の人々は同船の乗組員全員を救助・保護したほか、平底帆船『琉球丸』を建造・提供するなど、当時異国船打払令が発令されていた日本において異例の対応を取った。この事件後、英国では琉球人のことを「善きサマリア人」と称すようになった。余談ではあるが、インディアン・オーク号事件のやりとりは、ドラマ「テンペスト」にも取り上げられている。また、この事件をきっかけに2000年の沖縄サミットでは英国のブレア首相（当時）が北谷町を訪問し、その後、北谷・英国間での語学留学が開催されるに至った。インディアン・オーク号座礁地では、当時の積み荷の一部が今も海底に残され、海底遺跡として位置付けられている。

（４）近代・現代

1908（明治41）年に施行された島嶼町村制以後、北谷間切は北谷村^{ムラ}となった。戦前は水田の広がる農村として栄えていたが先の大戦で焦土と化し、沖縄戦や戦後の米軍基地建設により地形は大きく改変された。米軍上陸直前に守備隊が建設した特攻艇秘匿壕は、北谷城が立地する丘陵北側に現在も残されている。戦後は村全域が米軍の軍事占領下に置かれ、中でも嘉手納基地の存在は村を南北に二分し行政執行に支障をきたす要因となった。これらを受け、1948（昭和23）年には北谷村と^{ソン}嘉手納村に分村し、1980（昭和55）年には北谷村から北谷町へと町制移行している。

<引用・参考文献>

- 北谷村役場 1961 『北谷村史』
- 地域創造研究所 1973 『コザ市総合開発計画調査報告書』
- 北谷町教育委員会 1986 『北谷町史 第2巻 資料編1前近代・近代文献資料』
- 北谷町教育委員会 1994 『北谷町の遺跡—詳細分布調査報告書—』
- 沖縄県立博物館 2002 『沖縄県立博物館復帰30周年記念特別展 港川人展～元祖ウチナーンチュ～』
- 北谷町教育委員会 2005 『北谷町史 第1巻 通史編』
- 北谷町教育委員会 2005 『キャンプ桑江返還に伴う試掘調査』 北谷町文化財調査報告書 第23集
- 北谷町教育委員会 2006 『北谷町の地名—戦前の北谷の姿—』 北谷町文化財調査報告書 第24集
- 北谷町教育委員会 2007 『伊礼原遺跡—伊礼原B遺跡ほか発掘調査—』 北谷町文化財調査報告書 第26集
- 北谷町総務部企画財政課 2009 『沖縄県北谷町・町勢要覧』
- 北谷町 2010 『北谷町緑の基本計画基礎調査〈報告書〉』



第4図 北谷町の位置と遺跡分布

第1表 北谷町遺跡一覧

2014年現在

No.	遺跡名	時期	所在地
1	砂辺(すなべ)サーク原貝塚	貝塚後期	字砂辺差久原
2	砂辺サーク原遺跡	貝塚前Ⅳ期～近世	字砂辺加志原
3	砂辺貝塚	貝塚前Ⅳ期～グスク	字砂辺村内原
4	砂辺ウガン遺跡	貝塚後期	字砂辺加志原
5	カーシーノボントン遺物散布地	貝塚前Ⅴ期	字砂辺加志原
6	クマヤー洞穴遺跡	貝塚前Ⅱ期～戦前	字砂辺村内原
7	浜川千原岩山(はまがわせんばるいわやま)遺物散布地	貝塚前Ⅴ期	字浜川浜川千原
8	浜川ウガン遺跡	貝塚後期	字浜川浜川
9	上・下勢頭区古墓群(かみ・しもせどくこぼぐん)	近世	字上勢頭平安山伊森原・伊礼伊森原・下勢頭平安山下勢頭原
10	伊礼原(いれいばる)遺跡	貝塚前Ⅰ期～戦前	字伊平伊礼原
11	伊礼原B遺跡	貝塚前期～晩期・近世・戦前	字伊平伊礼原
12	桑江ノ殿(くわえのとうん)遺物散布地	グスク～近世	字桑江小堀原
13	鹿化石出土地	旧石器	字吉原栄口原・桃原
14	前原古島(めーばるふるじま)A遺跡	近世	字桑江桑江原・前原
15	前原古島B遺跡	近世	字桑江前原
16	伊地差久原(いじさくばる)古墓	近世	字桑江伊地差久原
17	前原古墓群	近世	字桑江前原
18	桃原(とうばる)洞穴遺跡	旧石器	字吉原東新川原
19	インディアン・オーク号の座礁地	近世	字北谷地先
20	池(いち)グスク	グスク	字吉原東宇地原・西宇地原
21	白比川(しらひがわ)河口遺物散布地	貝塚前Ⅱ期	字北谷西表原
22	北谷城(ちゃたんぐすく)遺跡群	貝塚後期末～グスク	字大村城原
23	北谷城	貝塚後期末～グスク	字大村城原
24	北谷城第7遺跡	貝塚後期～グスク	字大村城原
25	北谷番所址	グスク	字北谷北谷原
26	吉原東角双原(よしはらあがりちぬまたばる)遺物散布地	グスク	字吉原東角双原・西角双原
27	山川原(やまがーばる)古墓群	近世	字大村山川原
28	玉代勢原(たまよせばる)遺跡	貝塚後期末～グスク	字大村玉代勢原
29	長老山(ちょうろうやま)遺物散布地	グスク～近世	字大村玉代勢原
30	大道原(うふうばる)A遺跡	グスク	字北谷大道原
31	大道原B遺跡	貝塚前Ⅴ期	字北谷大道原
32	後兼久原(くしかにくばる)遺跡	グスク	字桑江後兼久原・字桑江小堀原
33	ジョーミーチャー古墓	グスク	字桑江小堀原
34	伊礼伊森原(いりーいーむいばる)遺跡	グスク	字上勢頭伊礼伊森原
35	後原(くしばる)遺跡	グスク～近世	字大村玉代勢原
36	塩川原(すーがーばる)遺跡	グスク	字北谷塩川原
37	稲干原(んにふしばる)遺跡	貝塚後期	字北前稲干原
38	横嵩原(よこたけばる)遺跡	グスク	字北前横嵩原
39	伊礼原D遺跡	貝塚後期～グスク	字伊平伊礼原
40	伊礼原E遺跡	貝塚前Ⅱ期～近世	字伊平伊礼原
41	平安山原(はんざんばる)A遺跡	グスク～近世	字伊平平安山原
42	平安山原B遺跡	貝塚後期～近世	字伊平平安山原
43	平安山原C遺跡	貝塚後期～近世	字伊平平安山原
44	小堀原(くむいばる)遺跡	貝塚後期～近世	字桑江小堀原
45	千原(せんばる)遺跡	グスク	字伊平千原
46	大作原(うふさくばる)古墓群	近世	字伊平大作原
47	東表原(あがりうむていばる)遺跡	貝塚前Ⅴ期	字北谷東表原
48	新城下原(あらぐすくしちやばる)第2遺跡	貝塚前Ⅰ期～近世	字北谷安仁屋原
49	東宇地原(あがりうじばる)古墓群	近世	字伝道原東宇地原
50	大道原C遺跡	近世	字北谷大道原
51	大道原D遺跡	グスク	字北谷大当原
52	高畔原(たかぶしばる)水田跡	近世～戦前	字北谷高畔原
53	安仁屋原(あにやばる)遺跡	グスク～近世	字北前安仁屋原
54	伊礼原A遺跡	貝塚前Ⅲ期～貝塚後期	字伊平伊礼原

註：時代表記は概ね「グスク」→「10～17世紀前半」、「近世」→「17世紀後半～明治以前」、「戦前」→「1945年以前」

<参考文献>

中村 願・田場 勝也・他 1994『北谷町の遺跡－詳細分布調査報告書－』北谷町文化財調査報告書 第14集

中村 願・東門 研治・島袋 春美 2005『キャンプ桑江北側返還に伴う試掘調査－伊礼原B遺跡ほか発掘調査事業』北谷町文化財調査報告書 第23集

中村 願・東門 研治・松原 哲志・島袋 春美・他 2008『伊礼原B遺跡・伊礼原E遺跡 キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業(平成10～14年度)』北谷町文化財調査報告書 第27集

*番号は位置図に付随

第Ⅲ章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

調査区及びグリッド設定

調査地は、確認調査の結果を踏まえ伊礼原176番地一帯の標高4.0～5.0mの平坦地に定めた。グリッドの設定については平面直角座標系XY（値は世界測地系）を用い、1辺100mの大グリッドと同5mの小グリッドを設定した。グリッド名称は、X軸負方向にアルファベットをA、B、C・・・、Y軸正方向にアラビア数字を1、2、3・・・と充て、両軸交点から南東側とした。

表土掘削

調査区の設定後、磁気探査を実施し機械力を用いて表土掘削を行った。磁気探査では、砲弾薬莖や鉄屑等、米軍に帰属する金属類が認められた。これら金属類を撤去しつつ、バケット容量0.8m³のバックホウと10tダンプにて米軍基地建設時の造成土及び確認調査時の埋土を掘削・運搬した。

包含層掘削及び遺構検出

遺物包含層は、遺物量や出土状況に応じて小形のスコップや手鋤、ねじり鎌を用いて掘削を行った。出土遺物は層位・グリッド毎に取り上げ、特徴的な遺物や一括遺物については実測図作成と写真撮影を行った。遺構検出作業は基本的にジョレンを用いたが、より精査が必要な箇所についてはねじり鎌を用いた。排土はベルトコンベアを使用して場外搬出し、バケット容量0.3m³級のバックホウと4tダンプを用いて残土置き場へ運搬した。攪乱土掘削中には磁気探査では探知できなかった小銃弾等も出土したが、これらについては関係部署と調整し自衛隊が回収した。

遺構掘削

土坑や柱穴は基本的に長軸で半裁し、溝は規模に応じて数箇所の土層観察用畔を残し掘削した。掘削には移植ごてやスプーン等を用い、土坑墓については、専門家指導の下、竹串や竹べら等を用いて遺構内遺物を傷つけないよう注意を払い掘削した。一部の遺構埋土については、今後の分析資料用サンプルとして採取した。

記録作業

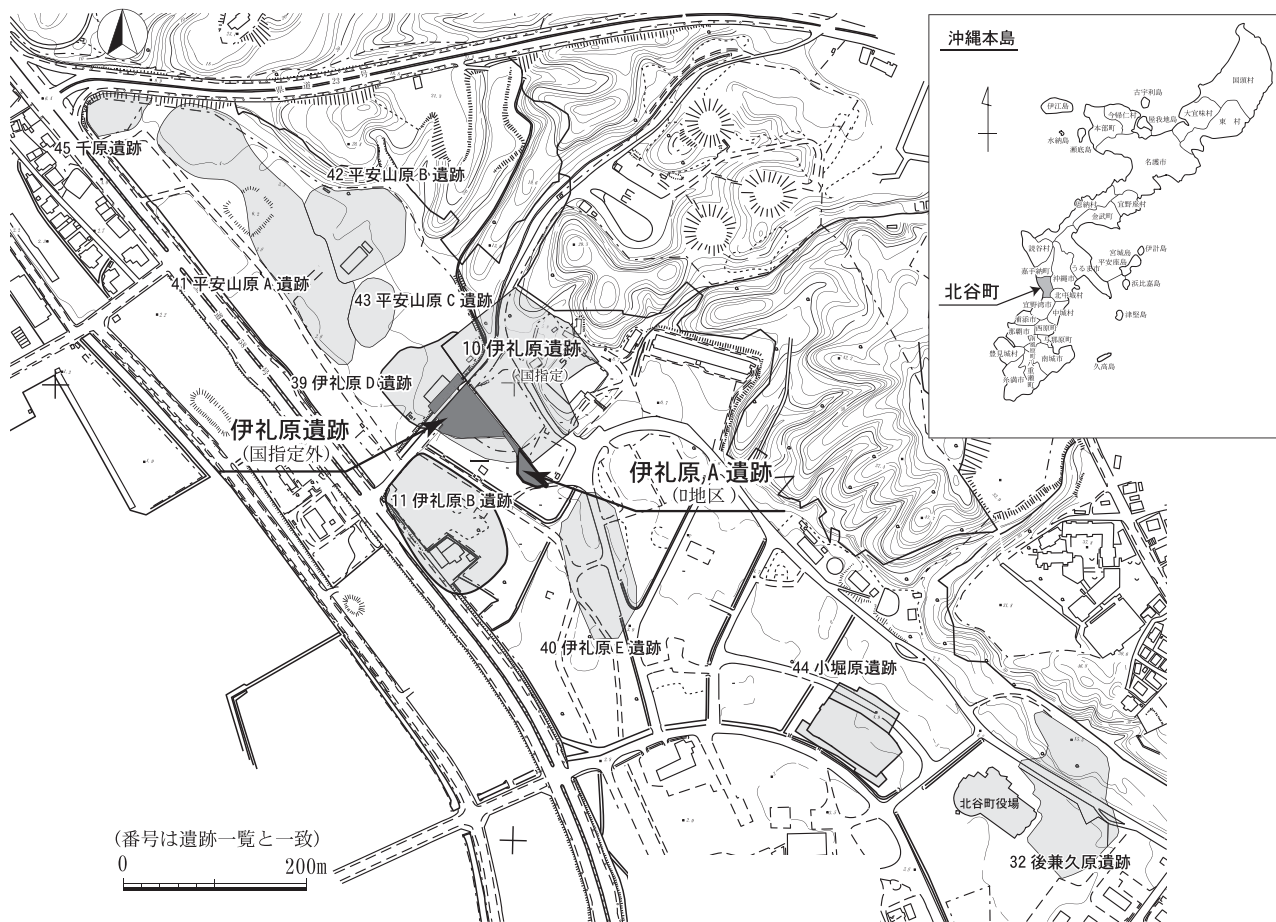
実測図作成は主に写真測量で行い、一部手実測も併用した。写真撮影では、35mm及び6×7のフィルムカメラと、1300万画素のデジタルカメラを用い、フィルムカメラでは、カラーリバーサルを使用した。全景写真は、ブーム式の高所作業車（27m）を使用して検出時と完掘時に撮影を行った。

自然科学分析

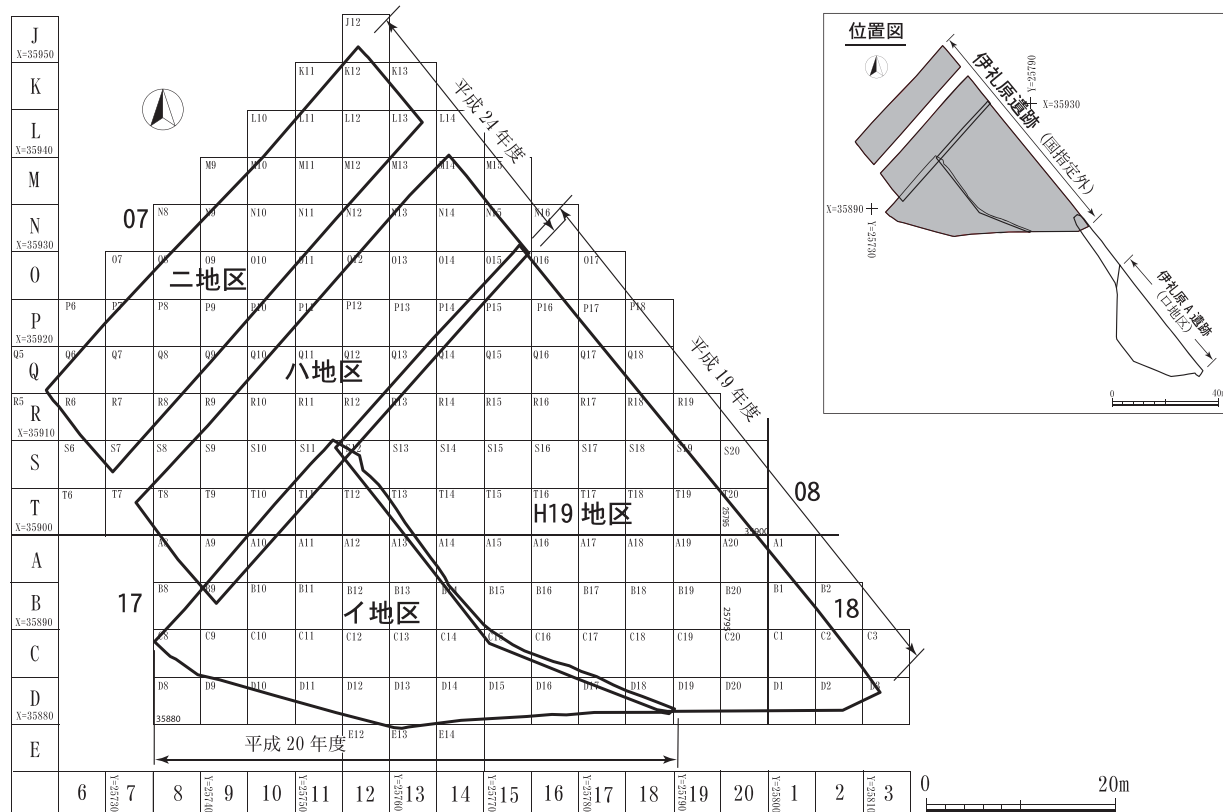
自然科学分析では、伊礼原A遺跡（ロ地区）から採取した土壌サンプル及び木片について、花粉分析、微細物分析、放射性炭素年代測定を専門機関に委託した。分析結果については第Ⅳ章第5節を参照。

整理作業

整理作業では特徴的な遺物を抽出し、手実測及び実測機による実測図面作成を行った。トレースはデジタルトレースを行い、写真撮影では1200万画素のデジタルカメラを用いた。現場作業にて作成した遺構平面図は、全体図のほか個別遺構図を掲載し、現地調査及び整理作業でも判然としなかった不明遺構等については詳細な記述を割愛した。



第5図 キャンプ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・伊礼原 A 遺跡の位置



第6図 グリッド設定

第2節 層序

平成19年度（以下H19地区）と20年度のイ地区、24年度のハ・ニ地区で調査をした伊礼原遺跡（国指定外）の基本層序は6枚に大別される。第Ⅰ層は戦後の造成土。第Ⅱ層は戦前の旧表土。第Ⅲ層はグスク時代から近世にかけての遺物包含層。第Ⅳ層は大当原式土器を主体的に含む貝塚時代後期の遺物包含層。第Ⅴ層は阿波連浦下層式土器及び浜屋原式土器を主体的に含む貝塚時代後期の遺物包含層。第Ⅵ層は貝塚時代後期以前に堆積した無遺物層である。以下、各層について記述し、詳細を第2表に示す。

第Ⅰ層 戦後の造成土

戦後米軍により持ち込まれた造成土。厚さは40～100cm程度で非常に硬く締まっている。平成19・20年度調査時の仮1層、平成24年度調査時の仮Ⅰ層に該当する。

第Ⅱ層 戦前の旧表土

戦前の旧表土で褐色～褐灰色を呈し固く締まる。層厚は20cm程度で調査区一帯に見られる。平成24年度調査区ではカワナや赤色土ブロックを含み粘性シルトを呈す。同層は部分的に下層である第Ⅲ～Ⅴ層を削平している。当該地は戦前、畑となっていたことから耕作土と考えられる。平成19・20年度調査時の仮2層、仮2a層、及び平成24年度調査時の仮Ⅱa層、仮Ⅱb層に該当する。

第Ⅲ層 グスク時代から近世にかけての遺物包含層

第Ⅱ層に比べ締りが弱く砂質状になる。層厚は15～20cmで色調は黒色を呈す。調査区の南から西側にかけては第Ⅱ層により削平され薄くなる、もしくは失われている。青磁・褐釉陶器・染付が多く出土するほか、炭化物や焼土粒が混じる。平成19・20年度調査時の仮3層、平成24年度調査時の仮Ⅲ層に該当する。

第Ⅳ層 貝塚時代後期の遺物包含層

大当原式土器を主体的に含む黒色砂質土の遺物包含層で、層厚は5～15cm。平成19・24年度の調査区に広く分布する。平成20年度調査区では第Ⅱ層による削平を受け僅かに残る。大当原式土器が一括で出土する他、浜屋原式土器や阿波連浦下層式土器が出土し、特にS18グリッド周辺から多く出土する傾向にある。上面は第Ⅲ層期の遺構検出面となっており、遺構深度は第Ⅳ・第Ⅴ層期の遺物包含層にまで達する。そのため第Ⅲ層期の遺構からは第Ⅳ・第Ⅴ層期の遺物も混在して出土する。平成19・20年度調査時の仮4層、平成24年度調査時の仮Ⅳ層に該当する。

第Ⅴ層 貝塚時代後期の遺物包含層

浜屋原式土器を主体的に含む灰色砂の遺物包含層。層厚は5～20cmで平成19・24年度の調査区に広く分布し、平成20年度調査区では第Ⅱ層による削平を受け部分的に残る。阿波連浦下層式土器よりも浜屋原式土器がやや多く出土する。当該期の土器は局所的に出土し、特に第Ⅳ層同様S18グリッド周辺が顕著である。平成19年度調査区の東側では第Ⅳ層との層理面が明瞭であるが、同調査区西側から平成20年度の調査区東側にかけては層理面が判然としない。資料整理時に第Ⅳ・第Ⅴ層出土の土器（大当原）が接合したことは、調査時において平面的な識別が困難であったことを物語っている。平成19・20年度調査時の仮5層、平成24年度調査時の仮Ⅳ層に該当する。

第Ⅵ層 無遺物層

層厚10～40cmの粗砂や細砂が東から西へ向かって幾層も堆積する。基本的に無遺物の海成砂層であるが、下層確認調査時に数点の人工遺物が確認されている。中でも完形の石皿が出土したことは特筆される。最下層は石灰質が凝固し、礫や貝片を含む。サンゴ片や礫を多く含む層も認められる。

小結

以上が伊礼原遺跡国指定外における基本層序の概要であるが、ここからは本遺跡の立地条件や各層の特徴から遺跡の変遷（第Ⅵ～Ⅱ層）を推察する。

本遺跡は砂丘上に立地し、周囲は北に伊礼原D遺跡、東に国指定史跡伊礼原遺跡、南に伊礼原A遺跡、西に伊礼原B遺跡に囲まれている。本遺跡の北から東側にかけては桑江断層が走り、断層面より東側には標高10～30mの丘陵が広がっている。丘陵麓にはウーチヌカーと呼ばれる湧き水が流れ出、ウーチヌカーの南、本遺跡の東側にはタカアブサーと呼ばれる標高10mの小高い丘陵がせり出している。この小高い丘陵によりウーチヌカーの流末は遺跡よりも北側に向かっているため、本遺跡は河川作用により土砂が運ばれる立地状況とは考えにくい。

今回の調査で確認された最下層にあたる第Ⅵ層は海成砂で構成され、東（丘陵）側から西（海）側にかけて順次堆積している様子が確認された。当該期は海岸付近にて砂丘が形成される環境下にあったものと思われる。なお、第Ⅵ層以下の下層確認のため設けたトレンチを重機で掘り下げた際、数点の人工遺物が見られたが時期を特定することはできなかった。

第Ⅴ層は灰色の砂層を呈し、阿波連浦下層式土器や浜屋原式土器が出土する。19年度調査区の東側には、植物が生えていたと思われる黒い土粒子（調査時所見）を含む第Ⅵ層（仮層序6層）が第Ⅴ層直下にて見られることから、第Ⅴ層期の頃にはやや内陸の環境に推移していた可能性がある。第Ⅴ層出土の遺物は19年度調査区の東側に集中し、面的な広がりは見られない。

第Ⅳ層は黒色砂層を呈し、全調査区のほぼ全面から大当原式土器が出土する。人口が著しく増加したのか、長期に及び当該地を利用したのか判然としないが、土器出土総数は第Ⅴ層期に比べ9倍にもなる。一方、遺構数は少なく、特に住居址と想定されるものは1基も認められなかった。当該期の遺物出土状況は平面的な粗密はあるものの、他時期に比べ多量かつ広範囲に及んでいることから特異な印象を受ける。後述する伊礼原A遺跡（口地区）第Ⅳa層にて大当原式土器や貝塚時代前Ⅲ期の土器等が混在して出土することと関連性があるのか検討の余地が残る（第3章第6節2参照）。

第Ⅲ層は黒色の粘質土で、グスク時代から近世にかけての遺物が出土する。当該期の遺構は調査区の東側を除くほぼ全面に広がり、後述する伊礼集落よりも東側に位置している。「伊礼」の名は1713年に編纂された『琉球国由来記』が初出であるが、間切の分割、新聞切の創設が相次いだ1660～1670年代（おおよそ1670年代）には伊礼村が成立したと考えられている。今回の調査で確認された遺構群は伊礼集落の前身と考えられ、集落発祥の時期が15世紀代にまで遡ることを確認できたことは考古学的な成果と考えられる。

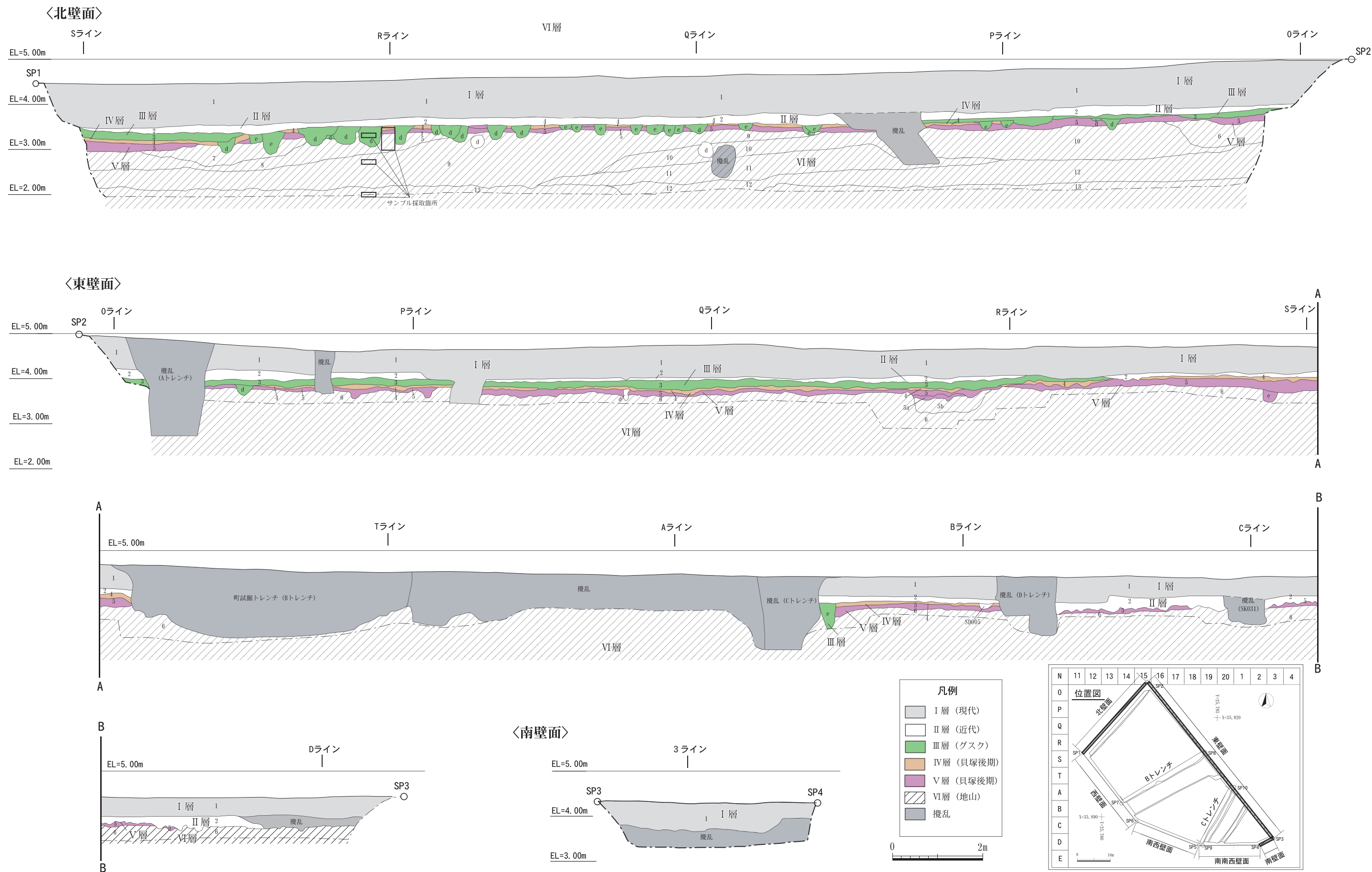
第Ⅱ層は褐色、黒色を呈する粘質土で近代の遺物が主に出土する。1919（大正8）年の地形図では、第Ⅲ層期の集落よりも更に西（海）側に集落が形成されており、戦前米軍が撮影した航空写真を見ると、第Ⅲ層期の集落があった箇所は畑となっている。当該期には第Ⅴ層に及ぶまでの削平跡が見られることから、近世または近代の頃、大規模な地形改変を行い土地利用が変化した可能性がある。また、時代を経るにつれて集落が西側に移動するという確認調査の結果を迫認できた。

末尾に、戦前は、本遺跡より北側100m付近にナガサと呼ばれる河川が西流していた。戦後、ナガサは米軍によってコンクリート張りに改修・流路変更され、平成23年度の河川改修・流路変更まで本遺跡を横断する場所を流れていた。平成24年度の調査区は同河川の兩岸を対象としたが、遺跡の一部は河川工事時に破壊され、工事による掘削は遺構面よりも深い深度に及んでいたことを追記しておきたい。

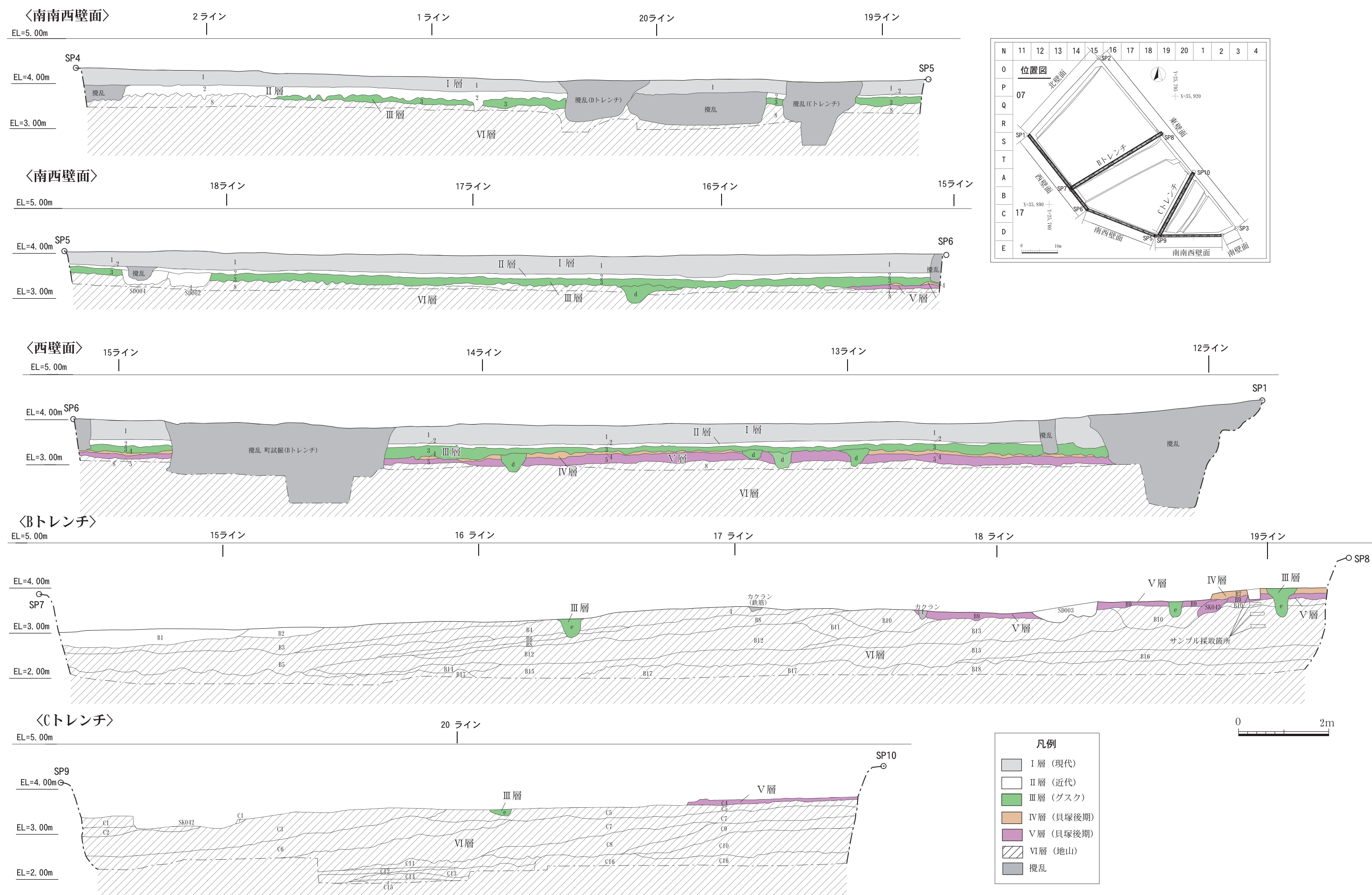
第2表 層序観察一覧

基本層序	調査時における仮層序名称			色調	質	特徴
	19年度 H19地区	20年度 I地区	24年度 ハ・二地区			
I	1	1	I	-	-	造成土 米軍による造成土。
II	2	2	-	7.5YR4/3	褐色	粘質土 旧表土。
	-	2a	-	2.5GY2/1	黒色	粘質土 縮りがあり全体に小礫が散る。鉄分が帯状に入り、転圧されたような感をうける。近世陶磁器を多く含むため、近世から近代の耕作土と思われる。
	-	-	II a	2.5Y5/3	黄褐色	土 粘性、縮りあり。陸産貝、カワニナを含み、赤色土ブロックが混じる。シルト質土壌。近世耕作土。
	-	-	II b	2.5Y4/2	オリーブ褐色	土 II a層中にIII層由来と思われる黒褐色土がブロック状に混じる。上層耕作活動期の攪拌による堆積層。部分的かつ薄い堆積である。
III	3	3	III	N2/ 1	黒色	粘質土 グスク時代の包含層。粘性、縮りあり。近世以降の削平によるものか海側へ堆積が薄くなる。
	d	da	P	7.5YR4/4	褐色	砂 ピットの埋土。
	e	e		N1.5/1	黒色	砂 ピットの埋土。
IV	4, B7	4	IVaIVb	N1.5/1	黒色	砂質土 大当原期の遺物包含層。貝を多く含む。東(丘陵)側に厚く、西(海)側につれ見られなくなる。上部はグスク時代に削平されたのか薄い堆積である。
V	5, B9, C4	5		5Y5/1	灰色	砂 浜屋原期の包含層。貝集積や完形土器が出土。
	5a	-	-	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂 シャコガイ等の貝を多く含む。黒色土ブロックが部分的に混じる。
	5b	-	-	2.5YR6/4	にぶい黄色	砂 5a層に色調は類似するが、遺物は混じらない。
VI	B1	-	-	2.5YR7/6	明褐色	粗砂 貝片、サンゴ片等を多く含む。
	6, B10	-	-	2.5YR8/3	淡黄色	砂 海浜の白砂層。上部に植生による黒い土粒子が散る。上部に土器や貝等が散見される。
	7, B2, C1	-	-	2.5YR7/6	明褐色	砂 貝片、サンゴ片が多く混じる。Φ5cm程の軽石を含む。
	8, C2	8	-	2.5YR8/6	黄色	細砂 砂の粒子が細かく均一である。
	9, B3 B4, C3	9	-	5YR8/3	淡橙色	砂 貝片、サンゴ片を多く含む赤みを帯びる。
	B5, C5	-	-	2.5YR8/2	灰白色	砂 貝、サンゴ、礫が全体に散る。
	B6			5YR8/3	淡橙色	砂 Bトレンチ4層と同質だがやや粒子が粗い。
	B8	-	-	5YR8/3	淡橙色	砂 粒子が粗く、遺物を含まない。
	B11	-	-	5Y8/2	灰白色	細砂 貝やサンゴの混じりが少なく、砂の粒子が細かい。Bトレンチ10層による影響かやや黄色がかかる。
	B12	-	-	5Y8/2	灰白色	細砂 貝やサンゴの混じりが少なく、粒子が細かい。
	B13	-	-	2.5YR8/2	灰白色	砂 Bトレンチ11層より更に粒子が細かい。
	10, C6	10	-	2.5YR8/4	淡黄色	砂 小型の二枚貝や枝サンゴ片が全体に見られる。
	C7	-	-	2.5YR8/1	灰白色	砂 貝、サンゴ、礫が全体に散る。
	C8	-	-	2.5YR8/2	灰白色	砂 Cトレンチ7層と同様だがやや粒子が細かい。
	11, C9	-	-	5YR8/2	灰白色	細砂 貝やサンゴ等の混じりが少ない。
	B14, C13	-	-	7.5YR5/8	明褐色	粗砂 鉄分の沈着が著しい層。同層付近より湧水が始まる。
B15	-	-	5Y8/1	灰白色	砂 調査区東側は粒子が細かな砂だが西側に行くにつれ粗くなり、小石が混じる。	
12, B16, C10	-	-	5Y8/1	灰白色	砂 貝、サンゴが全体に混じる。	
13, B17, C11	-	-	2.5YR7/3	淡赤橙色	岩 手でほぐすことができる程度の強度だが石灰質が凝固し、岩状になっている。	
C12	-	-	10GY7/1	明緑灰色	シルト 所々に黄色砂が縞状に入る。	
C14	-	-	10GY7/1	明緑灰色	シルト 所々に黄色砂が縞状に入る。	
C15	-	-	7.5YR5/8	明褐色	粗砂 拳大の礫が混じる。	
B18, C16	-	-	2.5YR7/3	浅黄色	粗砂 φ5cm程度の礫や貝片を多く含む、所々石灰質が凝固している。	

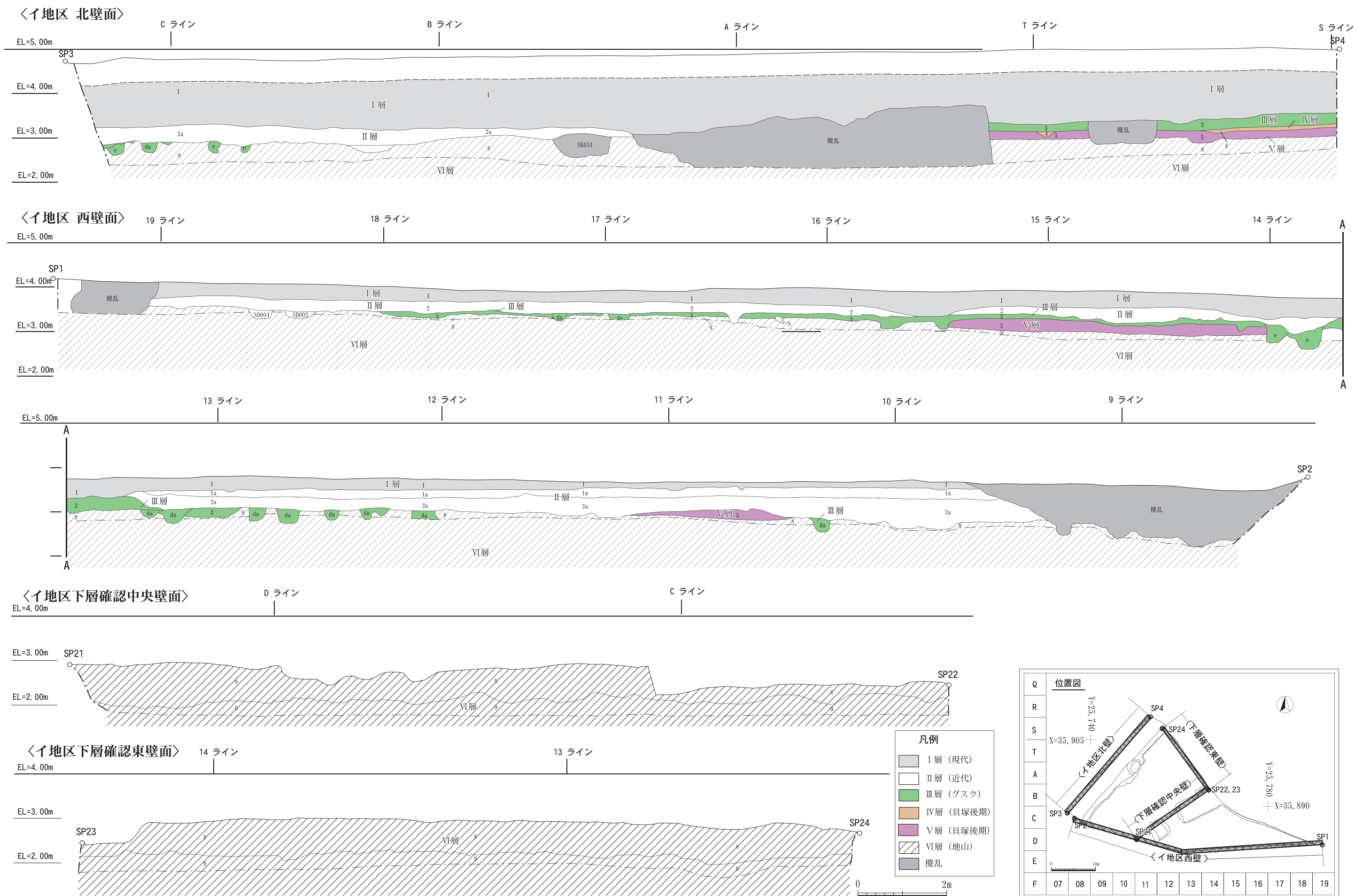
上記の表は、平成19、20、24年度の調査時の仮層序名を対比させ、基本層序としてまとめたものである。仮層序名は、層序図面との対比ができるよう図中にも残している。表中の「B」はBトレンチを、「C」はCトレンチ内の仮層序名を示す。



第7図 層序1 (北・東・南壁)

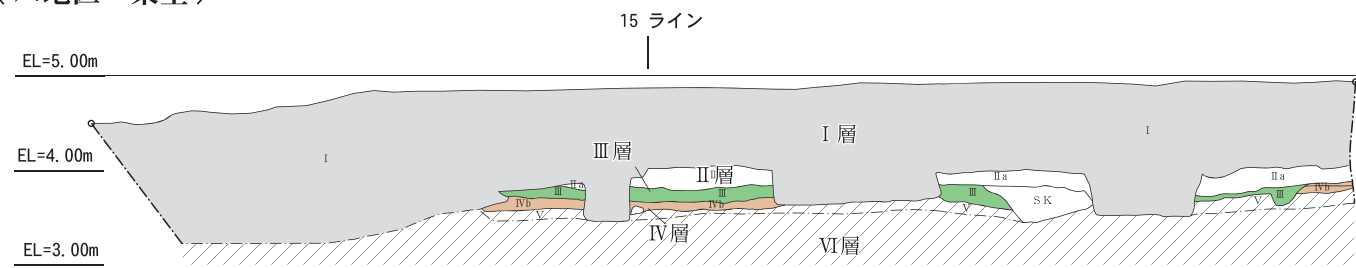


第8図 層序2 (南南西・南西・西壁面 B・Cトレンチ)

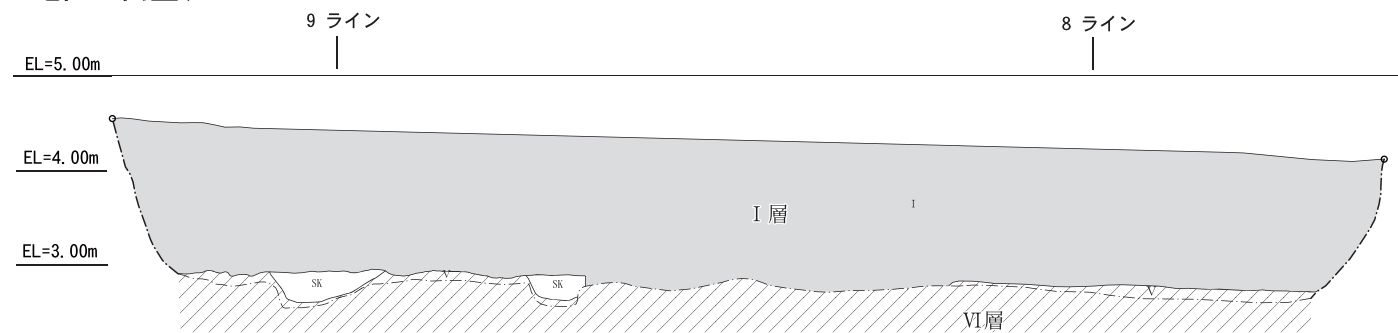


第9図 層序3 (イ地区北壁・西壁・下層確認中央壁・下層確認東壁面)

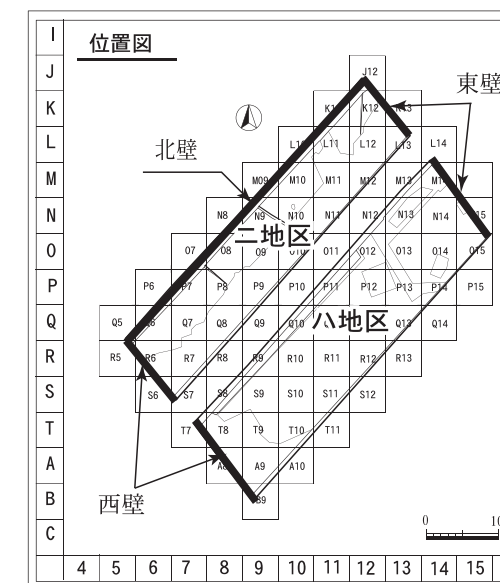
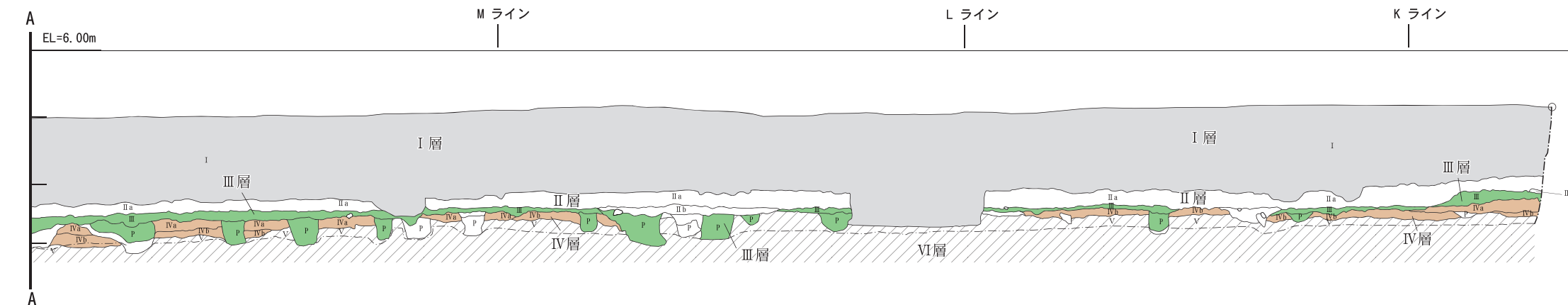
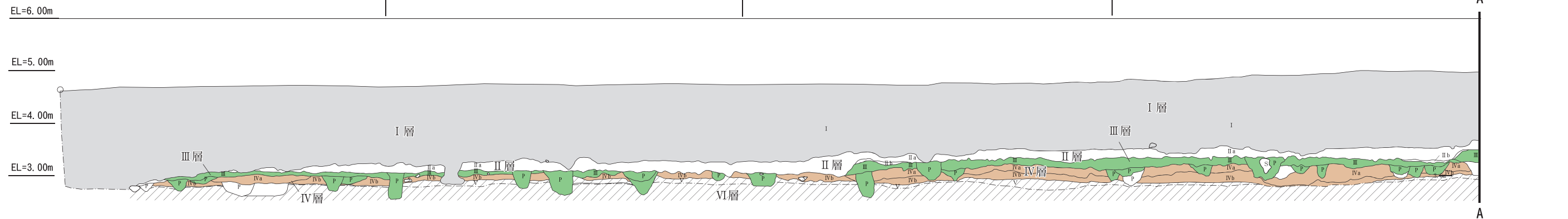
〈ハ地区 東壁〉



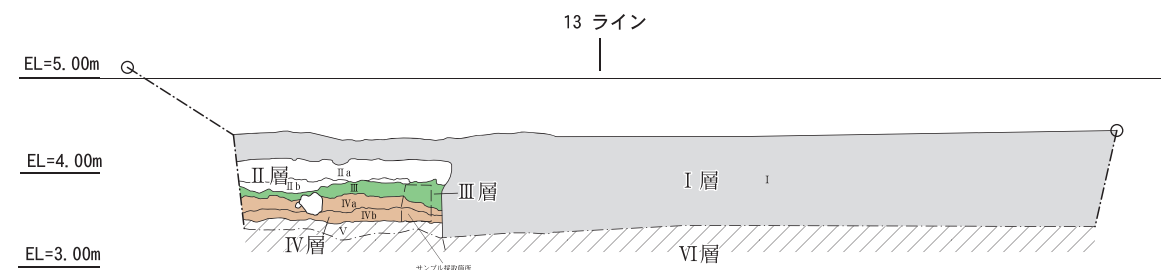
〈ハ地区 西壁〉



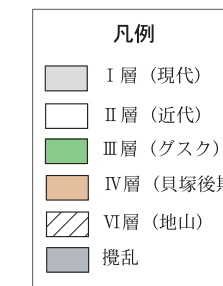
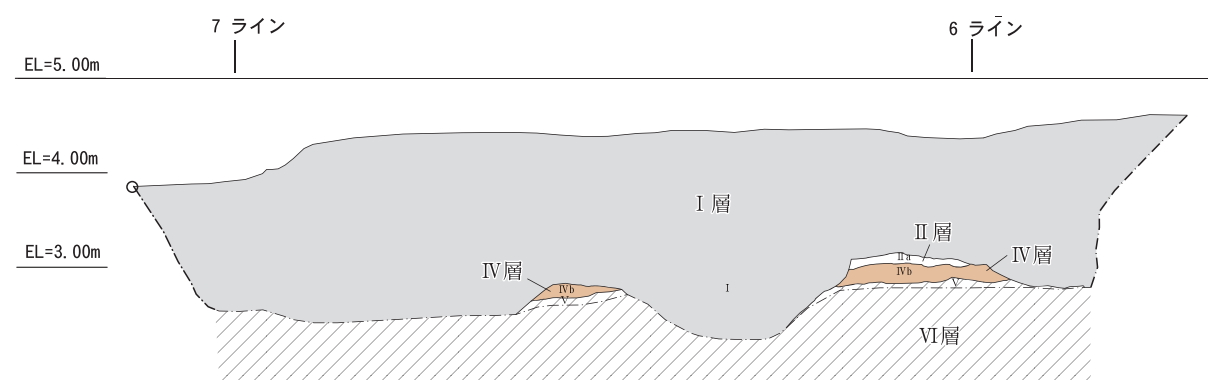
〈ニ地区 北壁〉



〈ニ地区 東壁〉



〈ニ地区 西壁〉



第10図 層序4 (ハ地区東壁・西壁 ニ地区北壁・東壁・西壁)



・出土遺物について

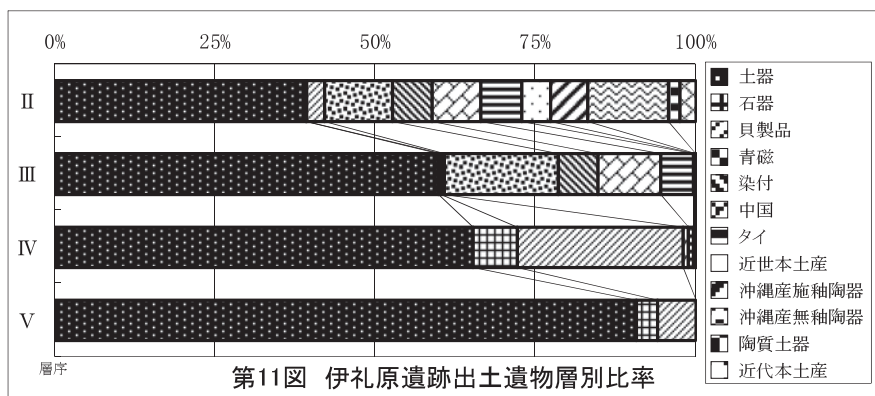
以上、第Ⅰ層（戦後の造成土）、第Ⅱ層（戦前の旧表土）、第Ⅲ層（グスク時代～近世）、第Ⅳ層（貝塚時代後期）、第Ⅴ層（貝塚時代後期）について略述した。

これらの出土遺物（人工遺物）の集計を第3表にまとめた。出土遺物は12357点と膨大であり、地区別にはH19地区4590点、イ地区1075点、ハ地区3924点、ニ地区2663点で、H19地区が全体の37.1%を占め、次にハ地区の31.8%、ニ地区21.2%、イ地区8.7%となる。

これらの遺物包含層をみると戦後の米軍基地建設、戦後の耕作による造成による攪乱で近世・グスク時代の遺物包含層及び遺構も壊され、さらに近世・グスク時代の建物（溝状遺構や土坑、ピット群など1000ヶ所余）によって貝塚時代後期の遺物包含層も壊されている。しかし、貝塚時代後期層（第Ⅳ層）では貝集積や土器集中、骨集中など復元可能な土器が数個体と大部分は遺物包含層の残りは良いようである。

前述の全体集計から各時代を代表する器類の層別に変遷（第11図）が確認された。

以上の結果から遺構・遺物については、第3節貝塚時代後期、第4節グスク時代（近世含む）第5節近世～近・現代の順に構成し記述した。さらに、既に報告した小堀原遺跡（2012）、伊礼原D遺跡（2013）の成果を踏まえ、沖積低地（砂丘）における面的変遷（陸側から海側）に着目し、各遺物の平面分布も各々の項で示した。



第11図 伊礼原遺跡出土遺物層別比率

第3節 貝塚時代後期

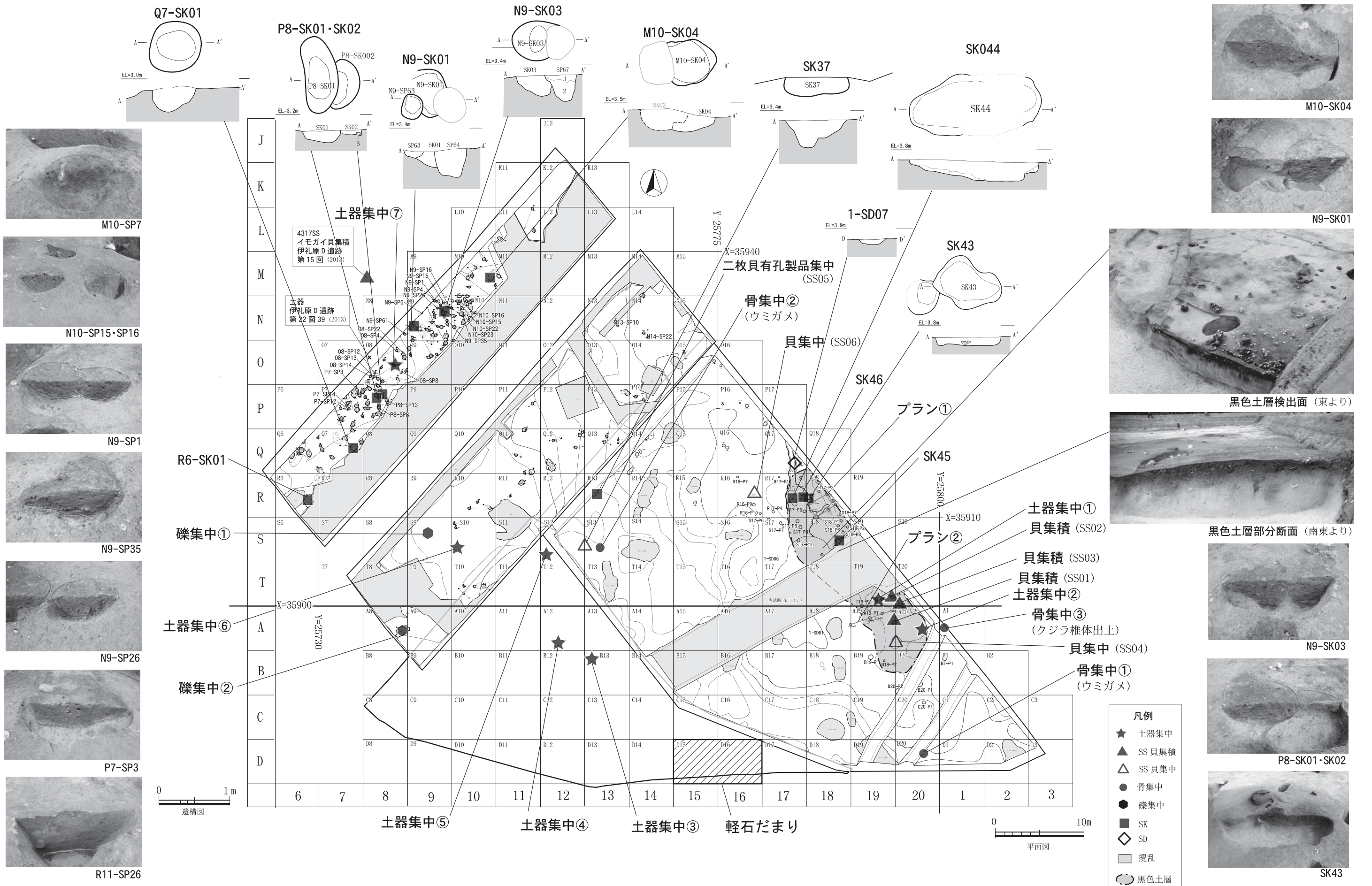
1. 遺構

貝塚時代後期の遺構はSD 1ヶ所、SK12ヶ所、ピット群、人骨出土遺構、貝集積（SS01, SS02, SS03）3基、二枚貝有孔製品集中（SS05）、遺物集中部としては土器集中（7ヶ所）、貝集中（SS04, SS06）2ヶ所、骨集中3ヶ所、礫集中2ヶ所、軽石だまりが確認された。以下、各々について略述する。また取上遺物については、第11表に示し、各々遺物でふれた。

（1）溝状遺構

貝塚時代後期の溝状遺構(SD)はQ・R17で1ヶ所確認されている(第13図)。SD07で、長さ6.0m、幅0.8m、深さ0.15mの南北方向に伸びるものであるが、R17で米軍の攪乱(SK22)を受ける。ここから南側は黒色土のマウンドを形成する。その南端にはSK44あり、SD07の溝状遺構は判然とせず、消える。図版2で見られるようにR18のマウンド状に形成された混砂層の縁にあたり、埋土はその黒砂を含んでいる。SD07は黒色土のマウンドの斜面に当たり、この砂が埋土として堆積したと判断される。

また、マウンドの土からは貝符(第79図16) その下面からはピットも検出されており、そのうちプランの想定が可能な柱穴も含まれていることから貝塚時代後期の遺構の可能性が示唆される。SD07の出土遺物はⅡ群Ⅳ類土器の胴部が5点、イノシシ腓骨が出土している。



第12図 第IV層検出遺構及び遺物集中部



M10-SK04



N9-SK01



黒色土層検出面 (東より)



黒色土層部分断面 (南東より)



N9-SK03

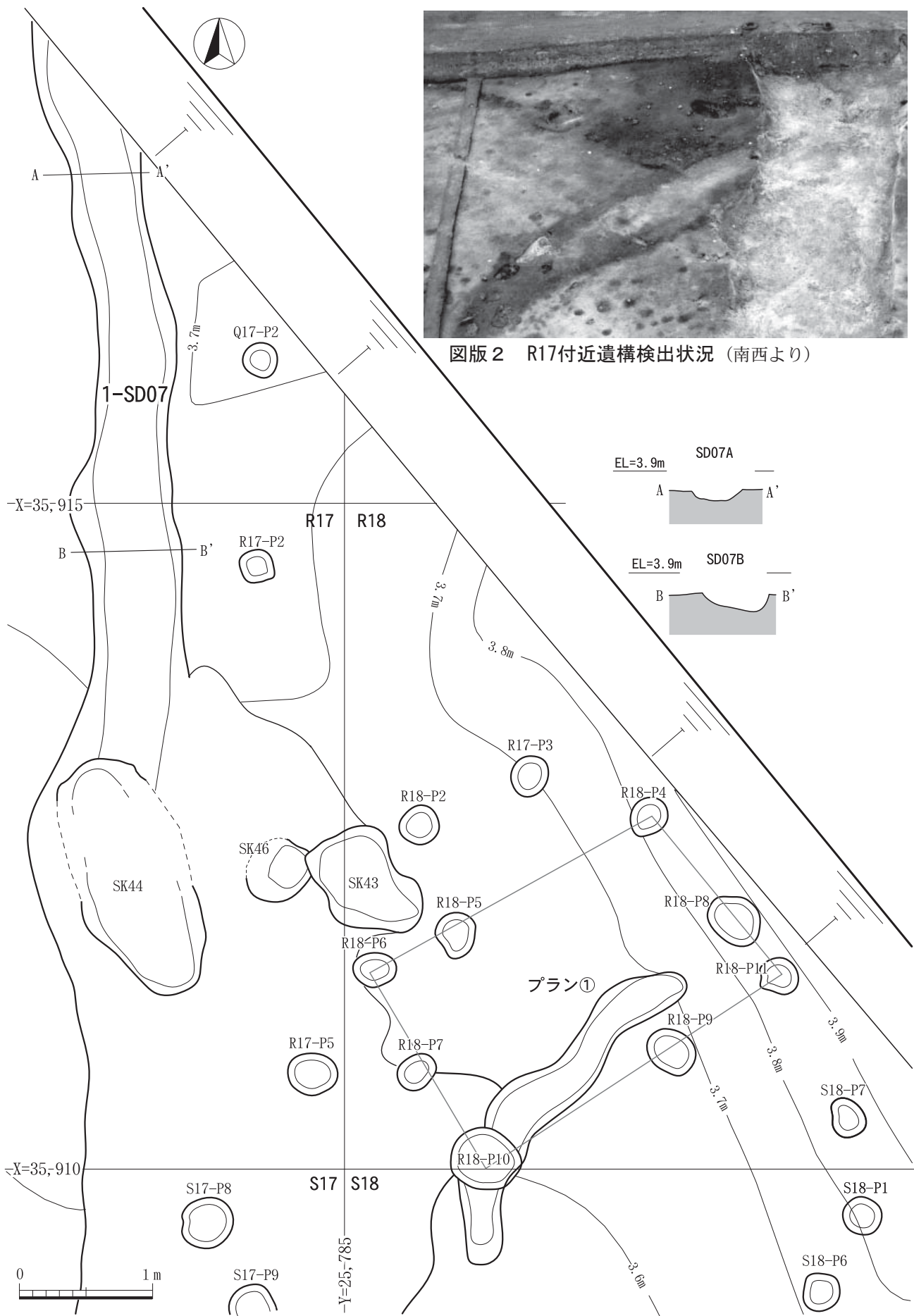


P8-SK01-SK02



SK43

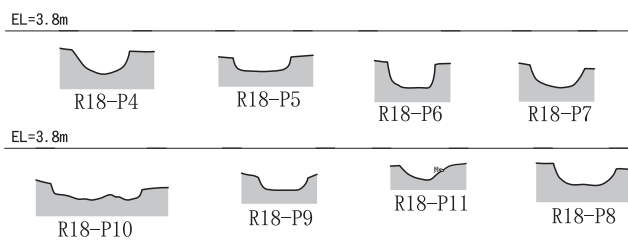
- 凡例
- ★ 土器集中
 - ▲ SS貝集積
 - △ SS貝集中
 - 骨集中
 - 磔集中
 - SK
 - ◇ SD
 - 攪乱
 - 黒色土層



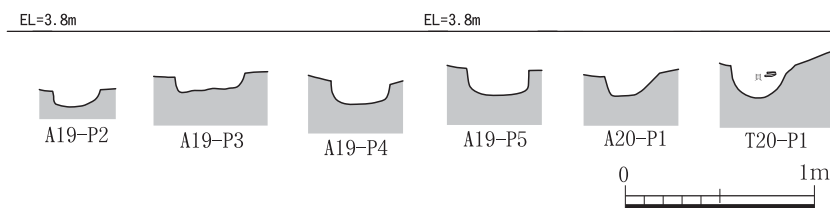
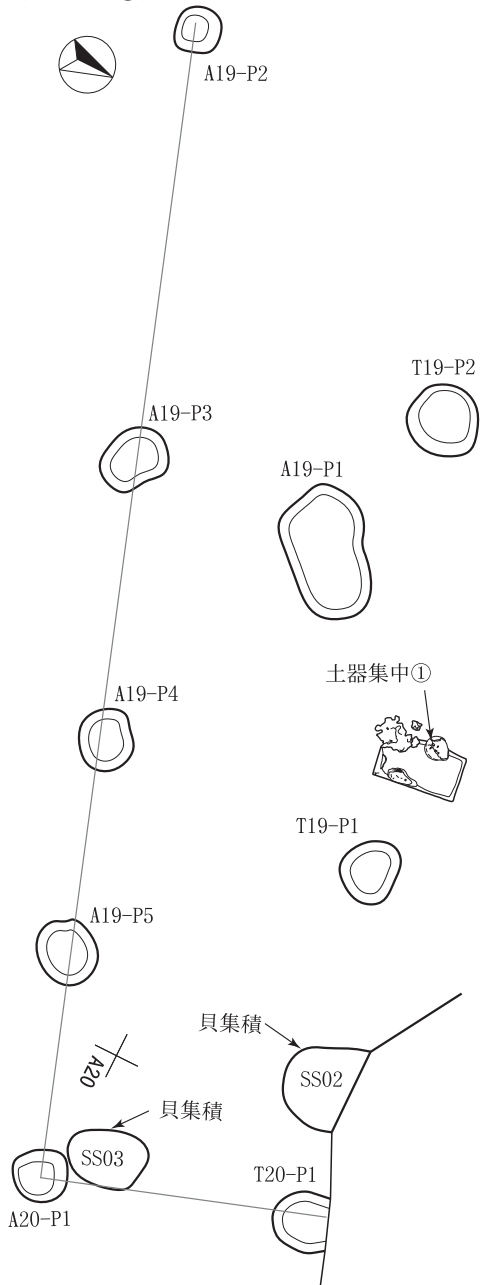
図版2 R17付近遺構検出状況 (南西より)

第13図 溝状遺構SD07 (Q・R17)

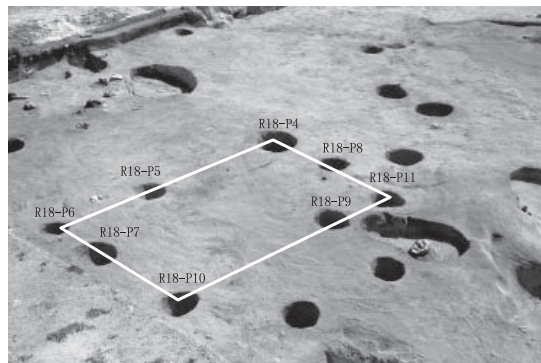
〈プラン①〉



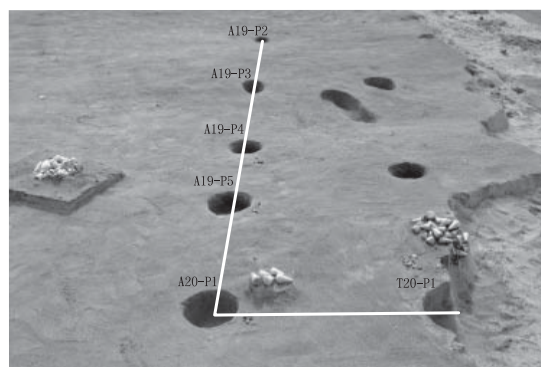
〈プラン②〉



第14図 貝塚時代後期柱穴 (プラン①断面 プラン②平面・断面)



図版3 プラン①R18 (北より)



図版4 プラン②A19 (北東より)

(2) ピット群

直径19cm～98cm、深さは4～45cmで、H19地区で57本、ハ地区で4本、ニ地区で75本の計136本検出された。ピットの大きさと深さの相関関係を第4表、柱穴の平面形と断面形の相関関係を第5表、ピット(柱穴)計測一覧を第6表に示した。

プランの想定できるものはH19地区で、①と②のプランで、第14図に①の柱穴断面、②の平面・断面を示した。プラン①(第13図)はR18の南側に長さ2.65×幅1.75mの方形状を呈するものである。柱穴の大きさは29～55cm、深さは7～13cmで若干浅めで、第IV層面の掘りすぎに起因すると思われる。

プラン②はA19・20で大きさが25～40cm、深さ8～14cmで、柱穴が東西方向に6.1mの直線に並んで確認された。その反対側の対となる部分はH14年試掘(2007)柱穴が検出されているが、プランとの関係は明瞭でない。このプラン

を想定するとほぼ中央に土器集中①が配置され、東側には貝集積(SS02, SS03)が配される。貝集積が住居遺構の関連で検出された例としては、具志堅貝塚(1985)がある。

遺構の性格から今後の検討を要する遺構である。

柱穴が多く、想定されるプランもH19地区に限られることからプランの想定が難しいハ・ニ地区の柱穴の断面図を第15図に示した。以下、本時期の柱穴の特徴を略述する。

これによると柱穴の大きさは20～30cm、深さ10～15cmが最も多く、それを中心に徐々に少なくなる。柱穴の形状は円形あるいは楕円形が主で、断面の形状は「U」「V」字状が多い。不定形が多いのはN9-SP34・SP35・SP36、N10-SP21・SP22・SP23のようにグスク時代あるいは貝塚時代後期の柱穴が重なって検出されたためである。

柱穴の平面分布をみるとH19地区ではプラン①のあるR17・18付近、プラン②のA19付近、その次にQ14付近があげられる。ハ地区ではN13・14・P14の陸側に多く、ニ地区では75本と最も多く、その中でも土器出土が多いN19-15本、08-14本、P8-11本と多いことから伊礼原D遺跡の柱穴群と含めて貝塚時代後期の遺構が想定されるが、上位にグスク時代のピットも含めて集中度が高く、プランの想定には至らなかった。この地域はIV類土器（大当原式土器）を主体とする地域で前述のプラン①・②がII類土器（浜屋原式土器）であることから本遺跡では浜屋原式期と大当原式期の生活空間の時期差が確認された。

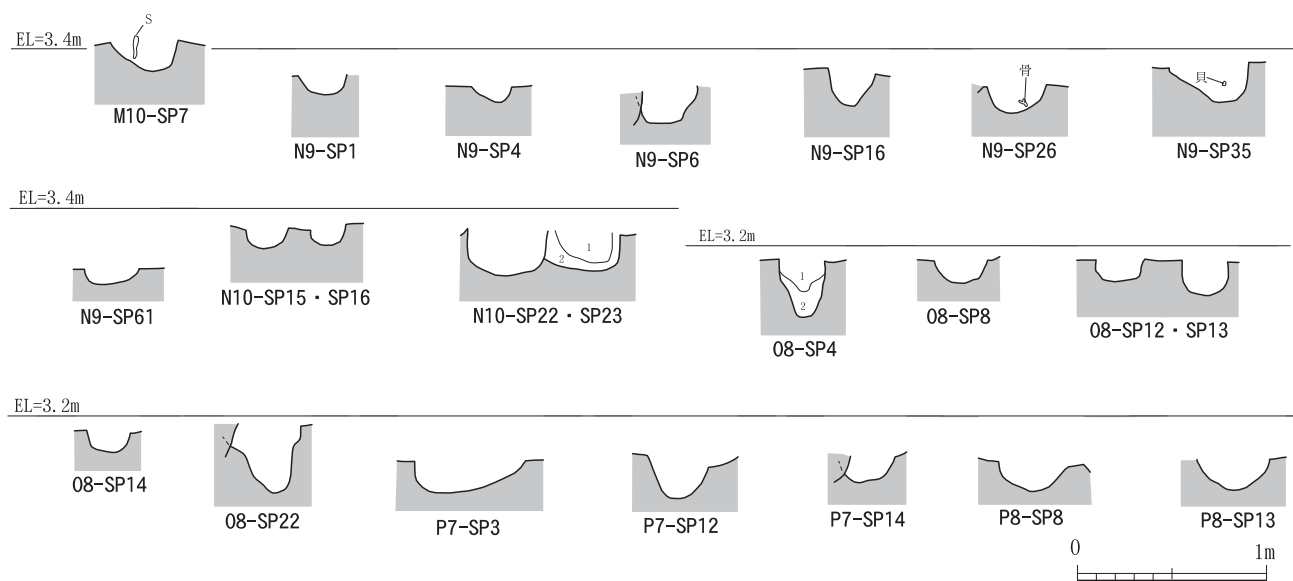
第4表 貝塚時代後期柱穴大きさ比較

深さ 平面径 (cm)	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	合計
16～20			2	1						3
21～25	1	6	3	3		1	1			15
26～30		7	15	8	6	1				37
31～35		3	9	6	3	1	2	1		25
36～40		2	3	5	1	3	4	2		20
41～45		1	3	1	2					7
46～50		1	2	4	3		1			11
51～55		1	1	1			1			4
56～60				3	1	1		1		6
61以上		2		1	1	1			2	7
合計	1	23	38	33	17	8	9	4	2	135

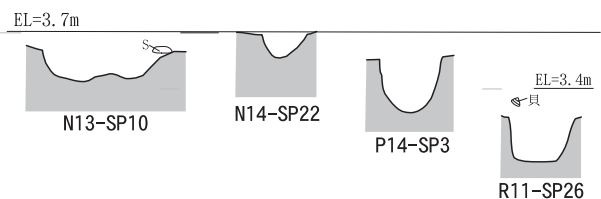
第5表 貝塚時代後期柱穴の形状

断面	U	V	逆台形	皿	すり鉢	二段	不定形	不明	合計
形状									
不定形	4		2	1			2	1	10
円形	45	12	3	1	11	6	4	2	84
隅丸方形	2								2
楕円形	20	5	2	1	1	3	3		35
方形	1				1		1		3
合計	72	17	7	3	13	9	10	3	134

〈ニ地区〉



〈ハ地区〉



第15図 貝塚時代後期柱穴 (ハ・ニ地区)

第6表 ピット(柱穴) 計測一覧

柱穴No.	地区	平面形状	断面形状	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	遺物
A19-P1	H19	方形	不定形	70	42	6	自然貝
A19-P2	H19	円形	U	25	25	8	ブラン②
A19-P3	H19	隅丸方形	U	40	33	8	ブラン②
A19-P4	H19	隅丸方形	U	31	29	11	ブラン②
A19-P5	H19	楕円形	U	35	30	14	ブラン② 土器(底尖)・自然貝
A20-P1	H19	円形	逆台形	30	28	11	ブラン②
B19-P1	H19	円形	U	56	56	23	軽石・自然貝
B19-P2	H19	方形	すり鉢	25	21	13	自然貝
B20-P1	H19	不定形	U	48	23	18	
B20-P2	H19	不定形	不定形	53	25	17	
B1-P1	H19	楕円形	U	80	53	41	土器(口V類)
C19-P7	H19	楕円形	U	30	23	15	
O15-P6	H19	楕円形	U	35	29	32	自然貝
O16-P1	H19	円形	V	26	25	17	自然貝
P16-P2	H19	円形	U	24	22	17	
P16-P8	H19	円形	U	20	20	11	
P16-P10	H19	円形	U	40	40	19	軽石
P17-P2	H19	楕円形	不定形	52	40	32	土器(胴IV類)・獣骨(イノシシorブタ)・炭・自然貝
Q14-P4	H19	不定形	皿	98	48	9	
Q14-P5	H19	楕円形	V	43	40	12	
Q14-P6	H19	楕円形	皿	50	30	7	
Q14-P7	H19	不定形	逆台形	60	(27)	18	自然貝
Q16-P1	H19	円形	U	37	35	31	自然貝
Q16-P2	H19	円形	二段状	40	34	31	自然貝
Q17-P2	H19	円形	U	28	25	23	自然貝
R15-P25	H19	不定形	逆台形	(40)	30	11	土器・軽石・自然貝
R16-P7	H19	円形	皿	25	25	4	自然貝
R17-P1	H19	楕円形	逆台形	25	20	7	
R17-P2	H19	方形	U	30	24	22	貝製品(第81図26)
R17-P4	H19	円形	V	33	30	10	
R17-P5	H19	楕円形	U	40	33	13	
R18-P2	H19	円形	U	29	27	11	
R18-P3	H19	円形	U	30	28	17	青磁(皿口・第103図57)・軽石・自然貝
R18-P4	H19	楕円形	U	29	25	13	ブラン①
R18-P5	H19	楕円形	U	33	30	7	ブラン①
R18-P6	H19	楕円形	U	35	27	13	ブラン①
R18-P7	H19	楕円形	U	30	28	11	ブラン①
R18-P8	H19	楕円形	U	45	32	10	ブラン①
R18-P9	H19	楕円形	U	38	35	7	ブラン①
R18-P10	H19	楕円形	不定形	55	48	7	ブラン①
R18-P11	H19	円形	V	29	27	8	ブラン①
S17-P6	H19	楕円形	すり鉢	35	24	8	
S17-P7	H19	円形	すり鉢	32	31	13	
S17-P8	H19	円形	逆台形	42	40	15	自然貝
S17-P9	H19	楕円形	U	42	35	19	
S17-P10	H19	楕円形	U	40	33	11	
S18-P1	H19	円形	V	33	30	36	土器(胴IV類)・貝製品・自然貝
S18-P2	H19	円形	U	28	25	25	自然貝
S18-P3	H19	円形	U	36	36	21	
S18-P4	H19	不定形	U	(50)	45	20	自然貝
S18-P5	H19	円形	U	30	29	12	自然貝
S18-P6	H19	円形	U	28	27	16	
S18-P7	H19	楕円形	U	31	25	12	
S18-P8	H19	不定形	U	30	(23)	19	
T19-P1	H19	円形	二段状	34	32	24	
T19-P2	H19	円形	二段状	39	38	20	土器(胴IV類)
T20-P1	H19	不定形	U	(33)	30	18	貝製品
L11-SP4	ニ	楕円形	二段状	40	38	32	土器(胴IV類)・自然貝
M10-SP7	ニ	円形	すり鉢	40	37	18	土器(胴IV類)・自然貝
M10-SP18	ニ	円形	すり鉢	31	23	13	
M10-SP26	ニ	円形	すり鉢	32	30	12	
N9-SP1	ニ	円形	U	27	24	10	土器(胴IV類)・自然貝
N9-SP2	ニ	円形	不定形	19	19	12	イノシシ(距骨)・自然貝
N9-SP4	ニ	円形	V	28	27	8	土器(胴IV類・VI類)・自然貝
N9-SP6	ニ	円形	U	30	9	17	土器(胴IV類)
N9-SP15	ニ	円形	U	23	22	9	土器(胴・口IV類)
N9-SP16	ニ	円形	V	26	25	18	土器(口・胴IV類)
N9-SP19	ニ	円形	V	31	29	17	土器(胴IV・V類)・二枚具有孔製品(t.シヤク)・フエツガイ(歯骨)・自然貝
N9-SP26	ニ	円形	U	27	26	14	イノシシ(距骨)・自然貝
N9-SP29	ニ	円形	U	24	23	12	
N9-SP35	ニ	円形	U	28	27	20	土器(胴IV類)・自然貝
N9-SP37	ニ	楕円形	V	37	29	16	土器(胴IV類)・リカメ(腹甲板)・自然貝
N9-SP46	ニ	不明	不定形	49	5	14	自然貝
N9-SP48	ニ	円形	不定形	38	28	37	自然貝
N9-SP61	ニ	円形	U	30	24	8	
N9-SP62	ニ	円形	V	31	27	19	土器(胴IV類)・自然貝
N10-SP6	ニ	円形	不定形	24	27	10	土器(胴IV類)
N10-SP14	ニ	円形	すり鉢	26	26	6	土器(胴IV類・VI類)・イノシシ(頭骨)・ウシガメ(甲板)・自然貝
N10-SP15	ニ	円形	U	29	26	11	自然貝
N10-SP16	ニ	円形	U	22	18	10	土器(胴IV類)・自然貝
N10-SP22	ニ	円形	U	27	33	24	哺乳類(肋骨)・自然貝
N10-SP23	ニ	円形	U	20	23	20	土器(胴IV類)・自然貝
N13-SP10	ハ	不定形	W	67	33	16	土器(胴IV類)・イノシシ(上顎骨・肩甲骨)・自然貝
N14-SP22	ハ	円形	V	24	18	13	土器口(第46図63)・自然貝
O8-SP4	ニ	円形	U	29	27	30	自然貝
O8-SP8	ニ	円形	U	29	26	13	土器(口V類)・自然貝
O8-SP9	ニ	円形	二段状	29	28	9	
O8-SP10	ニ	円形	すり鉢	26	25	13	
O8-SP11	ニ	円形	逆台形	24	21	8	
O8-SP12	ニ	円形	U	26	24	18	
O8-SP13	ニ	円形	U	28	26	13	ジヨウソ(頸椎)・自然貝
O8-SP14	ニ	円形	V	27	25	12	土器(胴V類)・自然貝
O8-SP15	ニ	円形	U	32	31	22	土器(口V類)
O8-SP17	ニ	円形	U	37	21	20	自然貝
O8-SP18	ニ	円形	U	32	31	30	自然貝
O8-SP19	ニ	円形	U	33	31	12	自然貝
O8-SP21	ニ	円形	不定形	49	46	24	土器(胴IV類)・ジヨウソ・フエツガイ(歯骨)・自然貝
O8-SP22	ニ	楕円形	U	39	28	35	二枚具有孔製品(メカギ)・自然貝
O8-SP27	ニ	円形	すり鉢	27	26	10	
O9-SP1	ニ	円形	—	34	32	—	土器(胴IV類)・自然貝
O9-SP5	ニ	円形	U	43	43	23	自然貝
O9-SP6	ニ	円形	V	32	29	21	自然貝
O9-SP14	ニ	円形	有段状	47	41	31	
O9-SP18	ニ	楕円形	W	36	37	30	
O9-SP25	ニ	(円形)	U	30	24	21	土器(口・胴IV類・胴VI類)・自然貝
O9-SP26	ニ	(円形)	U	21	22	16	
P7-SP3	ニ	楕円形	U	60	35	18	
P7-SP4	ニ	楕円形	有段状	56	40	28	土器(胴IV類)・自然貝
P7-SP7	ニ	円形	V	34	36	34	土器(胴IV類)・自然貝
P7-SP10	ニ	円形	U	47	38	25	土器(胴III類)・自然貝
P7-SP11	ニ	円形	U	22	24	26	自然貝
P7-SP12	ニ	円形	U	30	26	22	二枚具有孔製品(メカギ類)・巻き貝有孔製品(ハナヒラダカラ第79図20)
P7-SP14	ニ	楕円形	U	26	25	14	
P7-SP15	ニ	円形	U	24	27	19	
P7-SP21	ニ	楕円形	V	60	41	18	自然貝
P8-SP1	ニ	楕円形	V	50	34	19	石器(台石)
P8-SP3	ニ	円形	すり鉢	44	43	14	
P8-SP4	ニ	円形	U	34	30	19	自然貝
P8-SP5	ニ	円形	U	33	30	18	土器(胴IV類)・自然貝
P8-SP6	ニ	円形	すり鉢	50	46	14	自然貝
P8-SP7	ニ	円形	二段状	67	34	24	土器(口・胴IV類)・自然貝
P8-SP8	ニ	楕円形	二段状	48	41	16	土器(胴IV類・底尖)・自然貝
P8-SP9	ニ	楕円形	逆台形	51	30	14	自然貝
P8-SP10	ニ	円形	U	23	29	35	
P8-SP13	ニ	円形	すり鉢	32	36	16	土器(口II類)・自然貝
P8-SP14	ニ	円形	U	33	29	12	
P14-SP3	ハ	円形	U	37	31	28	
Q6-SP3	ニ	楕円形	U	28	26	12	
Q6-SP4	ニ	楕円形	U	45	51	21	自然貝
Q6-SP11	ニ	楕円形	不定形	57	33	36	自然貝
Q6-SP21	ニ	円形	すり鉢	26	26	13	自然貝
Q6-SP24	ニ	不定形	U	73	33	30	
Q7-SP8	ニ	円形	U	39	32	37	
Q7-SP15	ニ	円形	U	39	45	28	土器(胴VI類)・石器(磨石)・自然貝
Q7-SP18	ニ	円形	U	48	38	22	
R11-SP26	ハ	楕円形	U	73	58	45	

(3) 土坑 (SK)

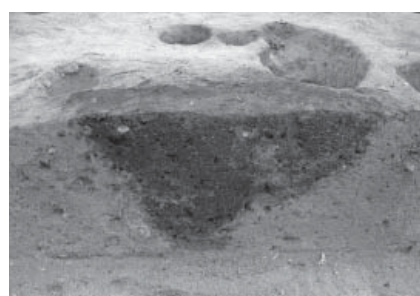
ピットよりは大きい落ち込みを便宜上、土坑 (SK) として扱った。H19地区で5ヶ所、ニ地区で7ヶ所確認された。平面形は円形、楕円形、長方形、断面形は「U」字状、二段状、鍋底状、不定形があり、大きさは31cm～120cm、深さは5cm～50cmと幅がある。

出土遺物をみるとN9-SK01・SK03、P8-SK01、Q7-SK01からは各々、青磁や白磁 (第105図10) 褐釉陶器、焼土、R17・18-SK43ではウシorウマの肋骨など、グスク時代の遺物が検出され、攪乱を受けか、あるいはグスクの遺構の可能性も否定できない。しかし、埋土が暗灰色砂～白色砂が主であるため貝塚時代後期の遺構として扱った。大きさや形状からみるとP8-SK02は深さが5cmと浅く、遺構の可能性は低い。

以上、出土遺物や他の遺構との関連からこれらの土坑をみると貝塚時代後期の可能性が高いのはR17-SK44、S18-SK45、R17-SK46、M10-SK04、R6-SK01と思われる。しかし、他の遺構との関連ははっきりしない。

第7表 土坑観察一覧

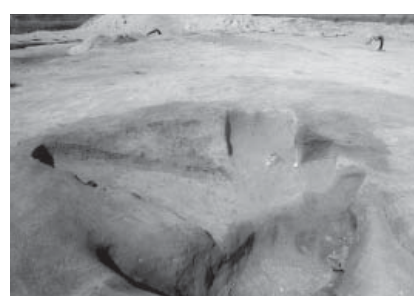
グリッド 遺構名	地区	サイズ (cm)			平面形状	断面形状	遺物	概要説明 (埋土・切り合い等)
		長軸	短軸	深さ				
R13-SK37	H19	(80)	(20)	38	不明	二段状	軽石 (2)	米軍の埋設トレンチに切られている。埋土 (灰色粘質土) の状況から貝塚後期としたが明瞭でない。
R17・18-SK43	H19	97	75	11	楕円形	U	ウシorウマの肋骨、ウマ基節骨など	暗灰色砂。検出面にて炭が出土、底は平坦である。
R17-SK44	H19	86	78	28	不明	方形	掘り方より鉄塊 (攪乱)、自然貝	米軍攪乱により切られ、形状は判然としなない。白砂に黒色砂が斑状に入る。
S18-SK45	H19	120	60	20	楕円形	—	貝、土器、軽石。	暗灰色砂。
R17-SK46	H19	52	35	35	円形	—	—	暗灰色砂。SK22に切られる。
M10-SK04	ニ	63	62	26	楕円形	鍋底	—	白砂主体だが、ブロック状に黒色砂が混じる。
N9-SK01	ニ	68	35	40	円形	—	タイ褐釉 (壺・胴)、焼土2点	黄褐色土粒子が混じる。掘方不明瞭。P63に切られる。
N9-SK03	ニ	56	54	29	円形	U	青磁 (碗・胴)、石材、ウシorウマ腹甲or背甲、土器	微細貝片、転石。P67に切られる。
P8-SK01	ニ	108	46	17	長方形	鍋底	自然貝。青磁 (碗・口)。	炭化物、貝片混じる。灰黄褐色砂層。部分的に粘性あり。SK2を切る。
P8-SK02	ニ	69	31	5	円形	方形	自然貝、石材。	黄色土ブロック少量混じる。灰黄褐色砂。掘方不明瞭。SK1に切られる。
Q7-SK01	ニ	72	71	33	円形	U	自然貝、獣骨青磁 (碗)、白磁 (碗口第105図10)	貝片混じる。黒褐色砂層。掘方不明瞭。グスク時代可能性有。
R6-SK01	ニ	99	91	50	楕円形 (半掘)	—	二枚貝有孔製品 (Rサトルオ) 自然貝、土器、骨片	1層：貝片、軽石が混じる。灰黄褐色砂層。 2層：北西側が一部攪乱を受ける。サンプル土を上下で採取。



R13-SK37



R17・18-SK43



R17-SK44



S18-SK45



Q7-SK01



R6-SK01

図版5 土坑

(4) 人骨出土遺構 (SX01)

イ地区A11で長軸78.8cm×47.5cm、深さ12cmSX01が検出され、その中から1号人骨が確認された。頭位を北向き、体部は後述するグスク時代の柱穴で壊され、南縁で左大腿骨が検出された。グスク時代の柱穴はSX01のほぼ中央に48.8cm×31.3cm、深さ約25cmを測り、その真ん中に長さ20cm×厚さ10cmの砂質石灰岩が北側を高くして斜めに出土した。検出位置は土坑及びグスク時代の柱穴のほぼ真ん中で、時期を決定するのは困難である。しかし、頭骨方向を高く、四肢骨方向に沿うように低くなることから、貝塚時代後期の人骨に伴うものと思われる。伸展葬で中央に石を伴うもので、埋葬遺構と判断される。

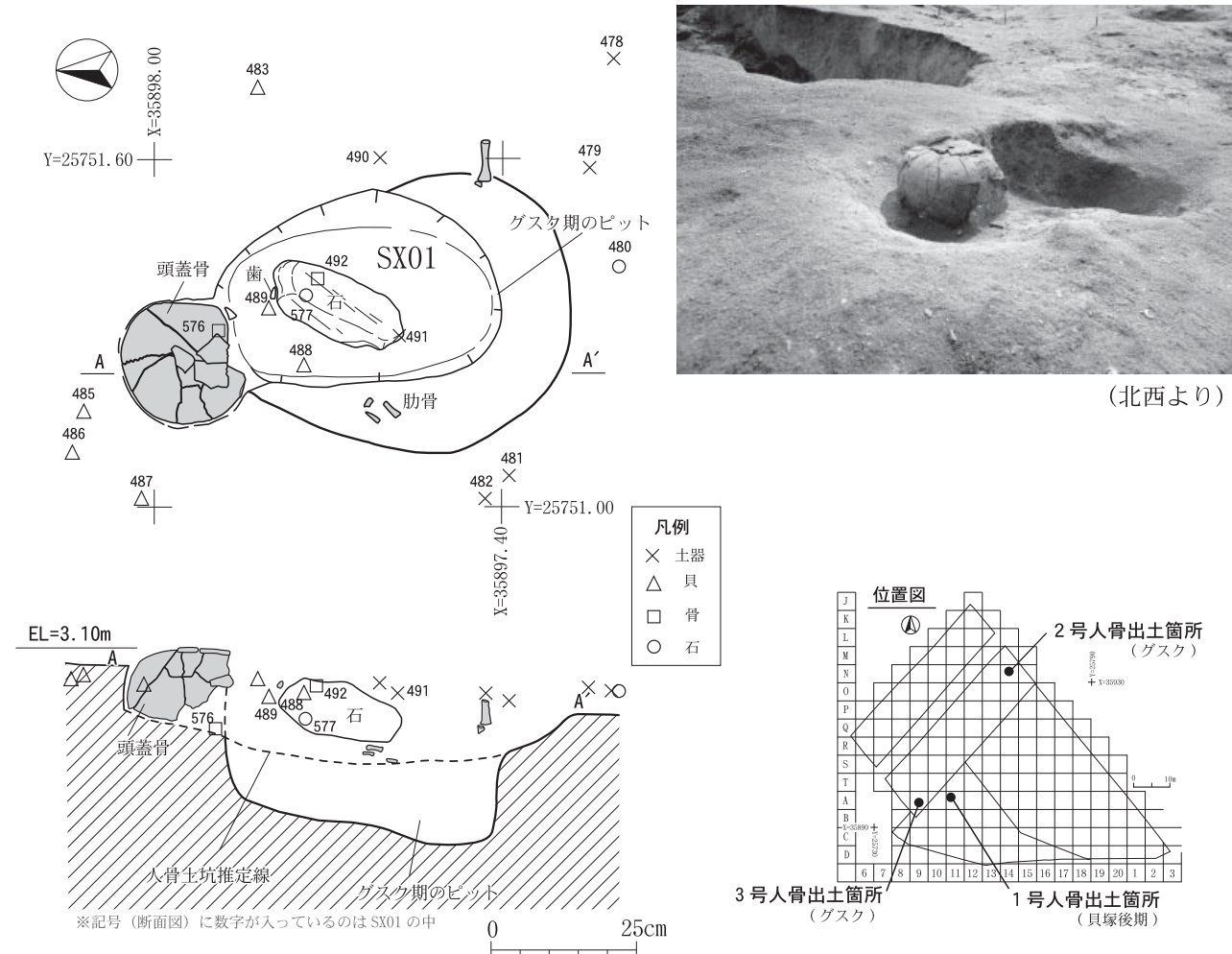
体部に石を伴う幼児骨はグスク時代の後兼久原遺跡(2003)、小堀原遺跡(2012)で検出されている。本遺構はこれらの遺跡より古時期からこのような事例があったことが確認された。

人骨は土肥氏の所見によると頭骨・左大腿骨・歯・肋骨等が確認され、年齢も大腿骨の大きさから幼児ということがわかった(第IV章参照)。

貝塚時代後期遺構としては土器集中④・⑤・⑥があるが、全体的に本遺構の周辺は貝塚時代後期の遺物は少ない(第35図)ようである。

本周辺からはIV類土器や尖底、自然遺物としてはヒメジャコ、シラナミ、マガキガイ、サンゴ礫、フエフキダイが出土し、その標高は人骨検出面のEL2.9.cm(第11表)である。

グスク時代柱穴は第4節に示したように特にプランの想定される柱穴ではない。また、ハ地区からはグスク時代の幼児の埋葬土坑(第91図)が検出され、掘立柱建物想定プランに近接しているようで、本人骨より年齢はさらに若い。



第16図・図版6 1号人骨出土状況SX01 (A11)

(5) 貝集積

ゴホウラ、大型イモガイなどのいわゆる貝集積遺構が3基確認された。

検出された場所は調査区の東側、A19～20 (SS01)、T19 (SS02)、T20 (SS03) で、3ヶ所の距離はSS01とSS02間で約2.8m、SS01とSS03間で2.1m、SS02とSS03間で1.1mと近く、土器平面分布 (第37図) でみるとⅡ類 (浜屋原式土器) が主体をなす地域で検出されている。

以下、各々の遺構について、図と集積された貝の計測及び観察を第8表、個別の貝の写真を図版10に示す。なお、第17～19図、図版10、第8表の番号は取上番号と一致する。第9表に貝集積の比較表を示す。

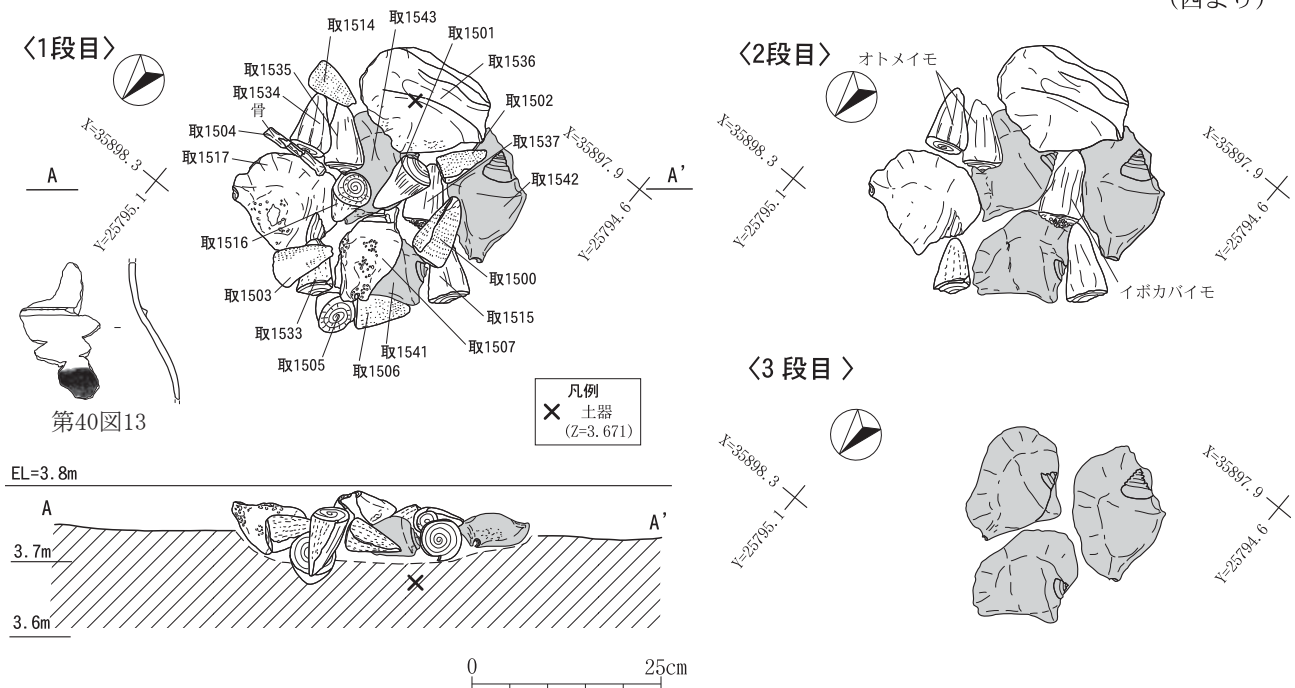
<SS01> 第17図

A19～A20にまたがって検出された。集積はほぼ円形で大きさは径35×37cmを測る。包含されている砂も暗灰色砂層で、遺物包含層 (弥生層) よりも若干、黒味を帯びる。第17図の側面図に示したように集積するための掘り込みは確認できなかった。集積された貝をみるとゴホウラ6点、アンボクロザメ7点、イボガバイモ2点、オトメイモ2点、クロフモドキ2点、マガキガイ1点の計20点である。その他に集積内からのイノシシ?の四肢骨、最下位から弥生の壺の頸部 (第40図13) も検出されている。

貝の積み方をみると最初に核となる3個のゴホウラを配置、その隙間を埋めるように大型イモガイを埋め、さらにその周縁にゴホウラを配置する3段の積み方が想定される。第8表によるとゴホウラは6点出土したが、すべて死貝でその内、取1507は背面にかなりのアバタ、取1517は背面の前溝側を破損する。それ以外のゴホウラは大き目で、その中で取1536・1542・1543は背面のヘビガイが削り取られているようで、移出用にクリーニング (貝製品の項参照) した可能性が高い。

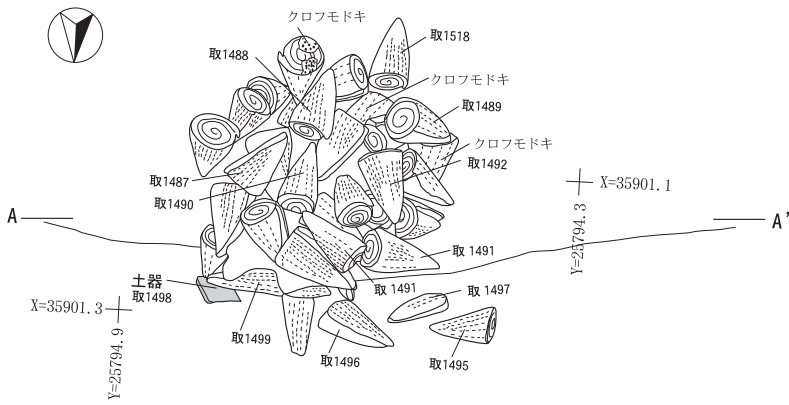


(西より)



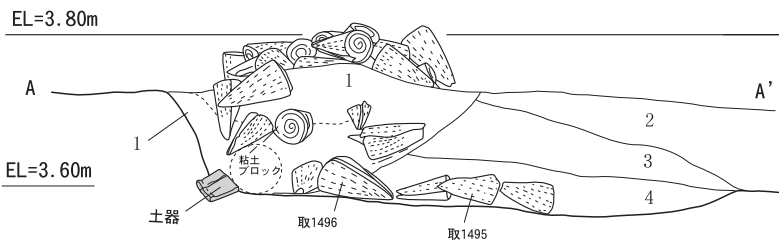
第17図・図版7 貝集積SS01 (A19・20)

〈1 段目平面図〉



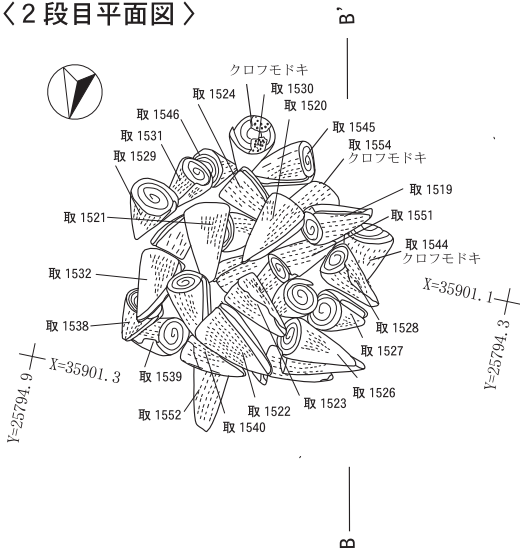
(東より)

〈1 段目見通し断面図〉

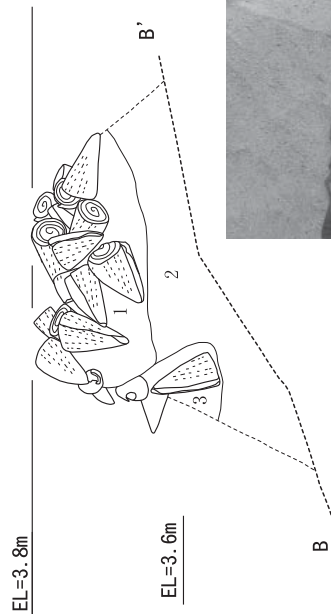


(北より)

〈2 段目平面図〉

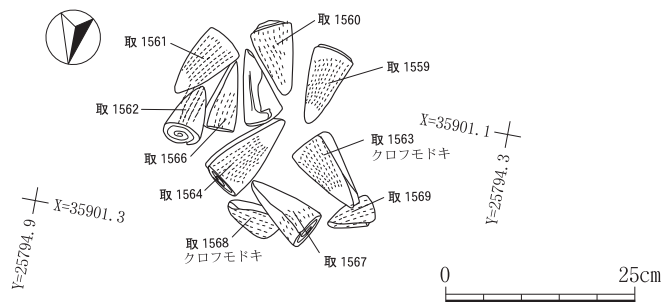


〈2 段目見通し断面図〉



(西より)

〈5 段目平面図〉



第18図・図版8 貝集積SS02 (T19)

他方、大型イモガイについてみるとアンボンクロザメ7点、クロフモドキ4点、オトメイモやイボカバイモがそれぞれ2点検出された。取1537のイボカバイモは螺塔部にはへビガイが付着する。

貝集積からオトメイモやイボカバイモが検出されるのは稀であるが、この2種の貝の大きさは他の貝とほぼ同じである。イモガイの大きさは4.1～6.5cmの範囲で第9図に示したように殻径4.0～4.4cm (28.6%) のものが多く、次に5.0～5.4cm (21.4%)、5.5～5.9cm (21.4%) で交易あるいは貝輪の材料としては小さい。貝集積の中にイボカバイモが検出されたものとしては平敷屋トウバル遺跡 (1996) がある。

<SS02> 第18図

T20で検出されたが、米軍により一部破壊された集積で、残存の大きさは40×45cmほぼ円形を呈する。集積の厚さは約20cmで、積方は5段に分けられる。最下面では集積がやや横に広がり、集積内では粘土のブロックが確認され、西側に3枚 (1・2・3層) の砂層が確認される。上部のイモガイはそれに被るように置かれている。上位のイモガイは縁の貝は殻頂を上、中央部分は横位に検出されている。貝の内訳はアンボンクロザメ50個 (うち完形32個)、クロフモドキ5個の計55個の大型イモガイのみである。

貝の大きさは殻径4.8～6.3cmの範囲で5.5～5.9cm (49.1%) と最も多く、次に5.0～5.4cm (29.1%)、6.0～6.4cm (18.2%) と順次少なくなるが総じてまとまっている。貝はすべて生貝で、殻口が一部破損するもの (取1539・1565) も含むが、その他に第42図43・第45図59の土器、イノシシ踵骨、自然礫などが出土している。

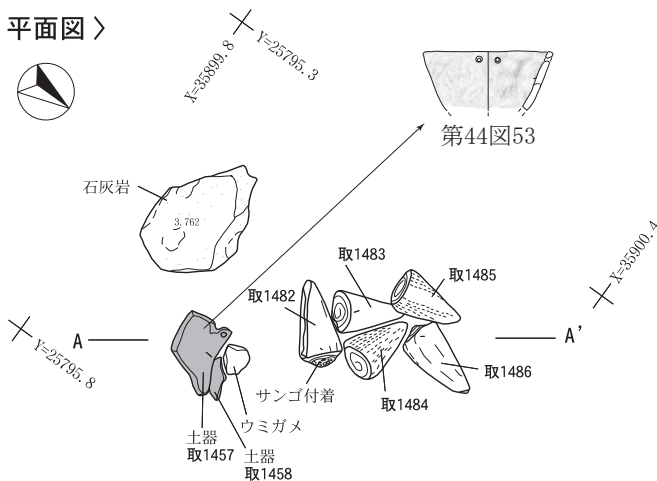
<SS03> 第19図

SS02から約1.1m離れたT20で21×10.5cmの大きさの貝集積が検出された。貝の内訳はアンボンクロザメ3個、クロフモドキ2個の計5個で、SS01, SS02に比べて少なく、規模も小さい。

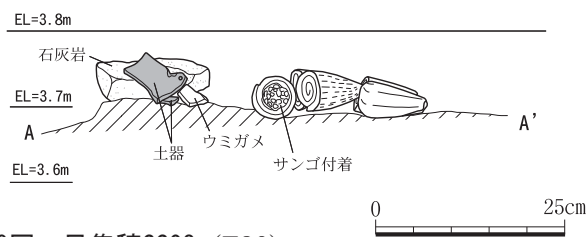
検出状況を見ると標高3.7m面で平地においた状態検出される。取上番号は1482～1468である。本遺構の近くからは土器が2点得られた。取上番号1457は第44図53Ⅱ類 (浜屋原式土器) に属し、取上番号1458は胴部片でSS01出土の弥生土器 (第40図13) と同一個体と思われる。また、18×12cmの平らな石灰岩礫も検出されているが、本遺構に関連は不明である。

イモガイの大きさは殻径5.7～6.0cmで大きめである。

<平面図>



<見通し断面図>



第19図 貝集積SS03 (T20)



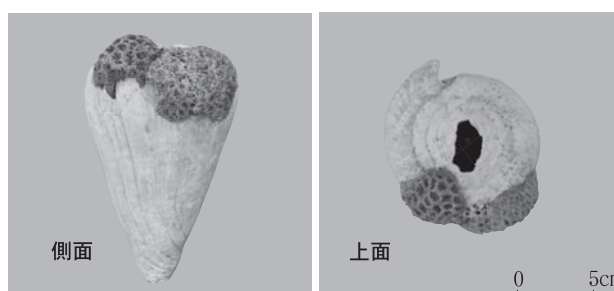
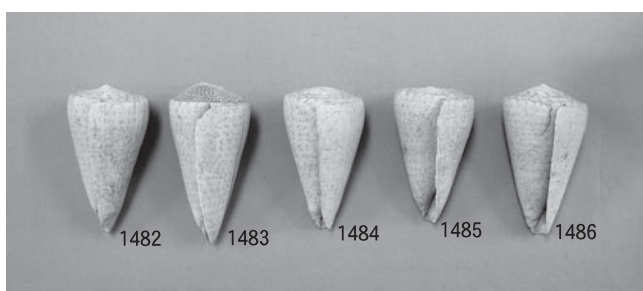
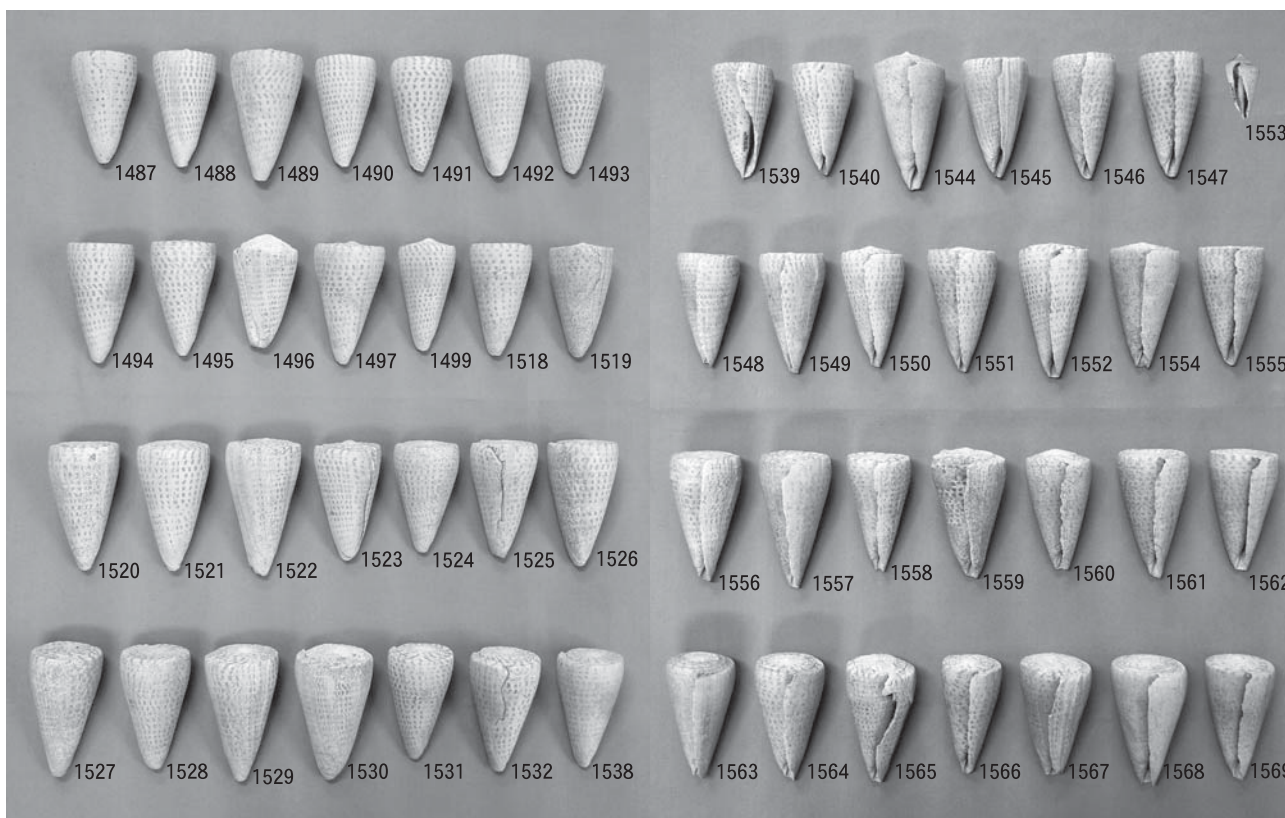
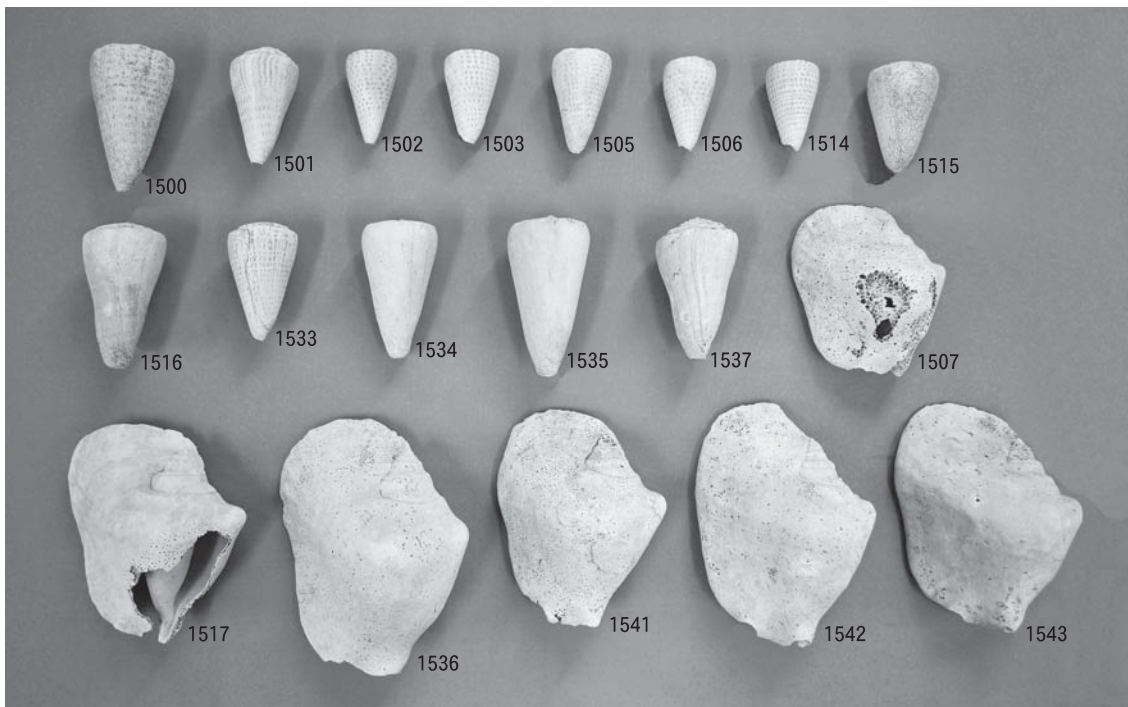
図版9 貝集積SS03 (東より)

第8表 貝集積観察一覽

(法量単位：cm、g)

遺構名	取上番号	殻高	殻径	重量	貝種	残存	観察事項 (生・死貝、色残、成幼、残存)
SS01	1500	10.6	6.3	228	アボシクロサメ	完	成長線有。殻頂一凹。生貝。老生か、色残。殻口一完。
	1501	8.9	5.1	130	クアモトキ	完	成長線有。凸。生貝。殻口一完。色残。
	1502	7	4.1	63	アボシクロサメ	完	剥離数回。殻頂一凹。生貝。小さい。色残。
	1503	7.2	4.4	74	アボシクロサメ	完	中欠。殻頂一凹。生貝。小さい。色残。
	1505	8.2	4.8	92	アボシクロサメ	完	成長線有。生貝。殻口一完。色残。
	1506	7.3	4.2	74	アボシクロサメ	完	若干破損。肩部若干の風化。生貝。小さい。色残。食残。殻口一若干一破質。
	1507	14	11.3	382	ゴシラ	破	殻口内にウズマキゴカイ付着、死殻(黒住)。背面-アバタひどい。腹面-アバタ。貝が小さい、腹面型可能?。成貝。
	1514	7	4.3	75	アボシクロサメ	完	若干アバタ。生貝。小さい。色残。
	1515	8.8	5.6	131	アボシクロサメ	完	2~3剥離。背面細かいアバタ。生貝。他の貝より殻高が大きい。
	1516	10.8	5.8	184	カガイ	完	背面、僅かに風化。アバタ。生貝。
	1517	14	13.8	367	ゴシラ	破	殻口内にウズマキゴカイ付着、重量が軽い(黒住)。背面-アバタが顕著、袖部-,未発達。腹面-アバタ顕著。亜死貝~成貝。前溝孔欠
	1533	8.9	5.3	129	クアモトキ	完	若干剥離。アバタ。生貝。
	1534	10.4	5.9	154	トメ	完	アバタ。殻口一完形。
	1535	12.1	6.5	196	トメ	完	内唇アバタ。生貝。やや、色残。
	1536	17.5	14	688	ゴシラ	完	アバタだけベカイ除去か。貝は大きい。殻口内にベカイ付着。死殻。成貝。
	1537	10.7	6.4	216	カガイ	完	内唇アバタ。内唇にベカイなし。生貝という。
	1541	15.5	12.7	524	ゴシラ	完	調整したのか。殻口内にベカイ・カミ付着。死殻。成貝。
	1542	18	13.5	743	ゴシラ	完	殻口内にベカイ付着。上唇だ打割。死殻。成貝。
	1543	16.7	14	610	ゴシラ	完	殻口内にカキ、ヘビガイ付着死殻(黒住)。成貝。
SS02	1539	9.1	5.4	131	アボシクロサメ	完	外唇欠。成長線。生貝。色残。
	1540	8.9	5.6	139	アボシクロサメ	完	2~3剥離。殻頂一凹。生貝。色残。
	1550	9.7	5.6	147	アボシクロサメ	完	生貝。色残。
	1551	10	6	168	アボシクロサメ	完	生貝。文様一残。
	1552	10.8	5.8	178	アボシクロサメ	完	生貝。キスなし。文様一残。
	1487	9.05	5.6	153	アボシクロサメ	完	若干剥離。アバタ、ベキ。生貝。色残。背面-アバタ有。
	1488	9.7	5.5	143	アボシクロサメ	完	生貝。色残。
	1489	10.9	6.3	198	アボシクロサメ	完	横成長線有。生貝。色残。
	1490	9.1	5.2	139	アボシクロサメ	完	細かい剥離。生貝。色残。
	1491	9.1	5.4	129	アボシクロサメ	完	若干剥離。殻頂一凹。生貝。
	1492	9.7	5.6	168	アボシクロサメ	完	細い剥離。生貝。色残。
	1493	9.5	5.1	125	アボシクロサメ	完	生貝。色残。
	1494	9.6	5.6	156	アボシクロサメ	完	細い剥離。アバタ。生貝。色残。
	1495	9.3	5.4	138	アボシクロサメ	完	細い剥離。生貝。色残。
	1496	9.1	5.4	141	アボシクロサメ	完	上、欠。成長線有。殻頂一凸。アバタ。生貝。色残。
	1497	9.9	5.8	166	アボシクロサメ	完	成長線有。生貝。色残。
	1499	9.1	4.8	114	アボシクロサメ	完	下、欠。生貝。色残。
	1518	9.2	5.2	125	アボシクロサメ	完	2~3の剥離。殻頂一凹。生貝。色残。
	1519	9.4	5.4	152	アボシクロサメ	完	若干破損。アバタ。生貝。色残。
	1520	10.1	5.6	179	アボシクロサメ	完	
	1521	10.3	5.8	175	アボシクロサメ	完	細い剥離。アバタ。生貝。色残。
	1522	10.9	6.1	196	アボシクロサメ	完	若干剥離、肩部にヒビ。生貝。色残。
	1523	9.6	5	155	アボシクロサメ	完	細い剥離、成長線。生貝。
	1524	9	5.3	131	アボシクロサメ	完	2~3剥離。色残。
	1525	9.4	5.4	139	アボシクロサメ	完	成長線有。アバタ。生貝。色残。
	1526	10	5.7	169	アボシクロサメ	完	生貝。色残。
	1527	10.3	5.7	166	アボシクロサメ	完	生貝。色残。
	1528	9.4	5.6	151	アボシクロサメ	完	剥離、摩耗。アバタ。生貝。
	1529	10.5	5.8	167	アボシクロサメ	完	成長線有。生貝。色残。
	1530	10.5	6.1	193	クアモトキ	完	1回剥離、体層アバタ、ヒビ。生貝。細かいアバタが貝につく。
	1531	8.9	5.2	126	アボシクロサメ	完	1回剥離。生貝。色残。
	1532	9.7	5.7	148	アボシクロサメ	完	若干剥離。成長線。殻頂一マンウンド。生貝。
	1538	9.2	5.3	143	アボシクロサメ	完	2回剥離。生貝。色残。
	1544	11.1	6.2	218	クアモトキ	完	2回剥離。殻頂一凸。生貝。色残。
	1545	9.4	5.8	158	アボシクロサメ	完	上下に剥離。アバタ。生貝。色残。
	1546	9.8	5.5	161	アボシクロサメ	完	殻頂一平ら。生貝。色残。
	1547	10	5.6	160	アボシクロサメ	完	2~3剥離、成長線有。平ら。生貝。色残。
	1548	9.2	5.4	139	アボシクロサメ	完	成長線有。生貝。色残。
	1549	9.7	5.6	159	アボシクロサメ	完	横にキス。成長線有。殻頂一凹。生貝。
	1554	10.1	6	179	クアモトキ	完	生貝。色残。
	1553	5.2	3	18.8	カガイ	完	生貝。外唇破損、色残。
	1555	9.6	5.5	159	アボシクロサメ	完	2~3剥離、成長線有。殻頂に平行、剥離。殻頂一凹。中央アバタ。生貝。色残。殻頂-平行にハリ。
	1556	10	5.9	180	アボシクロサメ	完	成長線有。殻頂一凹。生貝。色残。殻頂に対してハリ。
	1557	10.7	6.1	187	アボシクロサメ	完	成長線有。殻頂一凹。生貝。色残。
	1558	9.3	5.5	129	アボシクロサメ	完	若干剥離。殻頂一凹。生貝。色残。
	1559	10.5	6.1	198	アボシクロサメ	完	生貝。色残。
	1560	9.6	5.4	155	アボシクロサメ	完	
1561	10	6	164	アボシクロサメ	完	剥離。殻頂一凹。アバタ。生貝。色残。	
1562	9.6	5.6	161	アボシクロサメ	完	上欠。殻頂一平ら。生貝。色残。	
1563	9.6	5.6	161	クアモトキ	完	生貝。色残。	
1564	9.9	5.6	159	アボシクロサメ	完	生貝。色残。	
1565	10.3	5.1	161	アボシクロサメ	完	大きく破損。生貝。色残。	
1566	9.3	4.9	111	アボシクロサメ	完	成長線、強。生貝。色残。	
1567	9.6	5.8	174	アボシクロサメ	完	生貝。色残。	
1568	10.1	6.1	180	クアモトキ	完	殻頂一平ら。生貝。色残。	
1569	9.9	5.5	146	アボシクロサメ	完	2~3回剥離。生貝。色残。	
1482	10.4	5.8	175	アボシクロサメ	完	成長線有。アバタ若干。生貝。色残。	
1483	11.1	5.7	187	アボシクロサメ	完	成長線有。殻頂にキコ付着。生貝。色残。	
1484	10	5.8	167	クアモトキ	完	螺旋部に造礁サンゴ付着。色残。	
1485	5.7	5.7	174	アボシクロサメ	完	成長線有。アバタ若干。生貝。色残。	
1486	10.6	6	174	クアモトキ	完	成長線。殻頂一凸。生貝。色残。	

残存：完→ほぼ完形。観察事項：(黒住) 同定及び観察



図版10 貝集積 (上: SS01、中: SS02 (左・正面、右・側面)、下: 左・SS03、右: ダイミョウイモ)
 ※番号は第11表取り上げ番号と一致

貝集積の貝の個別観察は第8表、図版10に遺構ごとに写真を掲載に示した。なお、SS02のイモガイ（写真）は殻口の状況みるため、半分は側面を掲載した。

小結

第9表・第20図にSS01, SS02, SS03と本遺跡出土のイモガイ（自然貝）及び近接する伊礼原D遺跡（2013）4317SSのイモガイの大きさを比較した。これによると本遺跡出土の貝集積のイモガイは5.5～5.9cmが多く、自然貝は5.0～5.4cmと小さい方が多くなる傾向が見られる。また、伊礼原D遺跡の貝集積（4317SS）のイモガイは6.5～6.9cmが多くSS01, SS02, SS03の遺構より貝が大きい。伊礼原D遺跡は大当原式土器が主体である。貝集積のイモガイはアンボンクロザメ、クロフモドキがほとんどであるが、SS01からは大きめのオトメイモやイボガバイモの貝も出土している。集積以外にもH19地区T20とハ地区R12の第IV層で殻径7.0cm前後のオトメイモが得られ、素材貝として採集したと思われる。しかし、他の遺跡も含めて出土量が少ないことから、貝輪の素材としては適してなかったと思われる。

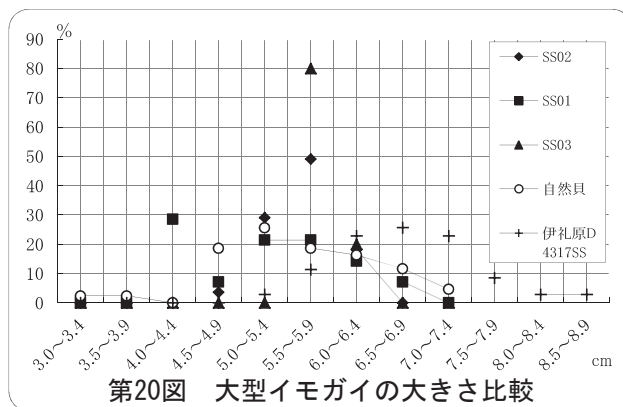
・ダイミョウイモ

図版10下右はダイミョウイモで殻高14.3cm、殻径9.8cmとイモガイの中では最も大きい。肩が丸く、螺塔は低い。螺塔部にヘビガイや厚さ2cmのサンゴ（キクメイシ）が付着するもので、さらに殻頂は風化により不定形な孔があり、加工は認められない。Q16第V層、EL3.599mの出土である。

本貝は、九州の弥生時代の遺跡で貝輪（木下1996）として出土するもので、生息地が沖縄以南及びインド洋であることから南海産貝輪交易と関わるものであるが、今のところ、貝集積からの出土例はなく、沖縄諸島で初めての出土である。

第9表 大型イモガイの大きさ比較（貝集積・自然貝・伊礼原D遺跡）

遺構 殻径(cm)	SS01		SS02		SS03		自然貝		伊礼原D 4317SS	
	個	%	個	%	個	%	個	%	個	%
3.0～3.4		0		0		0	1	2.326		0
3.5～3.9		0		0		0	1	2.326		0
4.0～4.4	4	28.57		0		0	0	0		0
4.5～4.9	1	7.143	2	3.636		0	8	18.6		0
5.0～5.4	3	21.43	16	29.09		0	11	25.58	1	2.857
5.5～5.9	3	21.43	27	49.09	4	80	8	18.6	4	11.43
6.0～6.4	2	14.29	10	18.18	1	20	7	16.28	8	22.86
6.5～6.9	1	7.143		0		0	5	11.63	9	25.71
7.0～7.4		0				0	2	4.651	8	22.86
7.5～7.9									3	8.571
8.0～8.4									1	2.857
8.5～8.9									1	2.857
合計	14	100	55	100	5	100	43	100	35	100

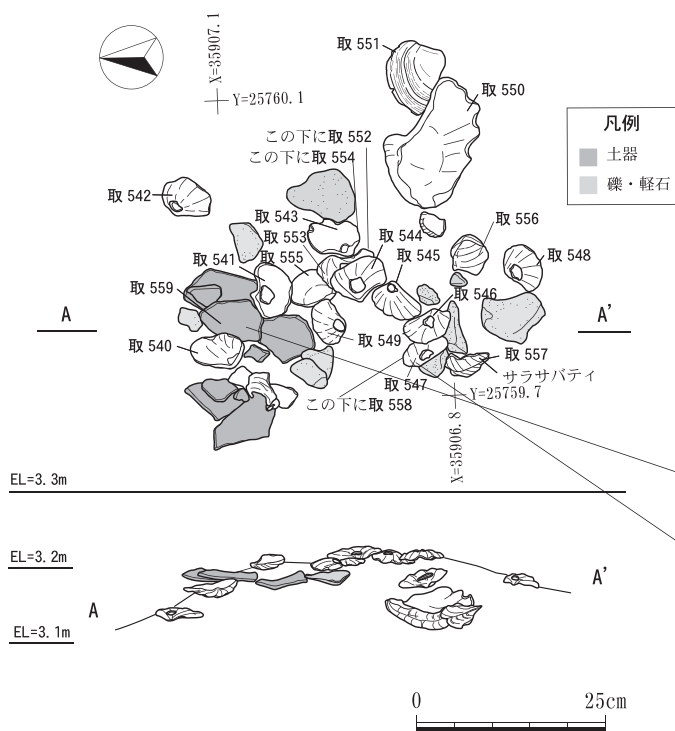


(6) 二枚貝有孔製品集中（SS05）

S12の第IV層面でシラナミ4個、ヒメジャコ9個の二枚貝有孔製品が図70の復元土器と共伴して出土した。平面の範囲が50cm×30cm、標高3.1cm～3.2cmに集中して出土するもので、掘り込みは確認できない。また、周辺からは第21図に示したようにシラナミ（取550）、クロチョウガイ（取551）、大小の軽石などが出土することから意図的な遺構とは考えにくい。

しかし、二枚貝有孔製品が連なるように検出されていることから、一本に繋がっていた可能性が窺える。共伴土器がIV類土器であることも貴重な例である。

二枚貝有孔製品が一括して出土する例は第10表に示したように奄美・沖縄諸島の貝塚時代後期～近世にまでみられる。土器との一括出土資料は本遺構が初例で、シャコガイ有孔製品の使用時期が特定される。第22図に民具事例（博物館収蔵）と本遺跡出土の二枚貝有孔製品の殻高と殻長の散布



第21図 二枚貝有孔製品集中SS05平面・断面 (S12)

図を示した。これによると本遺構出土の二枚貝有孔製品は殻高が4.2～5.5cm、殻長が5.9～7.9cmを測り、重量は12～24gの範囲に納まり、一定の範囲を持つもので、孔の大きさ、孔の位置もほぼ同じような傾向を示すことから漁網錘として条件を満たす(島袋2004)。なお、二枚貝有孔製品の個別の観察は第33表に示した。

第10表 有孔貝製品一括出土遺跡貝種組成

遺跡/貝種	シャコガイ	メンガイ	ヌメガイ	クロチョウガイ	ヤコウガイ	ハナムルユキ	文献
長浜金久第1遺跡		◎					1985
マツノト遺跡		◎			△		1992
具志原貝塚		◎					1985
備瀬貝塚				◎	△		1986
クマヤー洞穴遺跡	◎						1989
渡名喜西底原遺跡D地点	○	○	△		△		1979
熱田貝塚	◎	◎			△		1979
山顔毛遺跡						◎	1998
西表島大富第一洞	◎						1980
伊礼原遺跡 (SS05)	◎						本報告

凡例：◎多い ○普通 △少ない (島袋2004を改変)

(7) 土器集中

第IV層面で一括土器がH19地区で3ヶ所、I地区で2ヶ所、ハ地区1ヶ所、ニ地区1ヶ所の計7カ所で検出され、「土器集中」①～⑦の番号を付した。

土器集中①と土器集中②は陸側の第V・IV層、土器集中③～⑤は海側の第IV層で検出された。検出面は前者が標高3.7m前後、後者が標高3.1m前後(第36図参照)で、約50cmの高低差がある。いずれも貝塚時代後期面(浜屋原式期・大当原式期)と判断される。以下、各々について略述する。

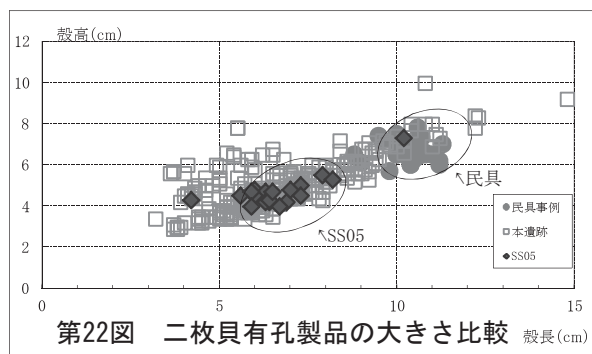
<土器集中①>IV類の壺(図125)でT19取337、標高3.7mで立位の状態で検出された。近くからは大きさ20×15cm、厚さ18cmの砂質石灰岩の礫が斜位の状態で検出されたが、土器の掘り込みラインは確認されなかった。また、近くからは殻長17cmのシャコガイも内面を上に向けた状態で検出されている。



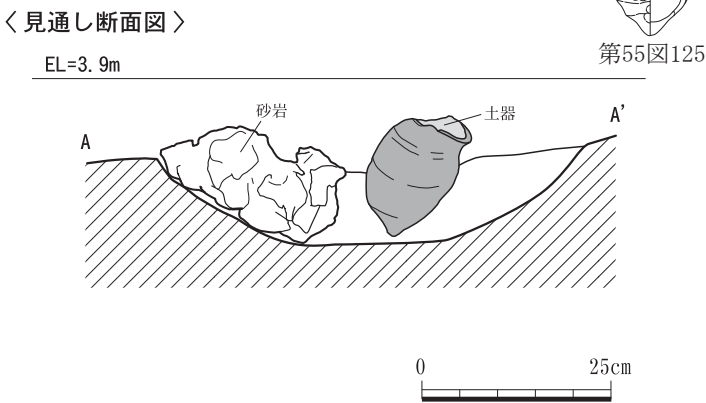
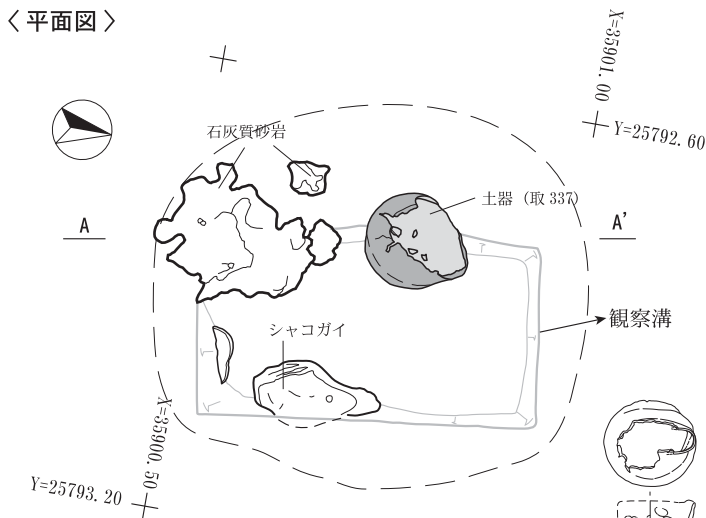
図版11 二枚貝有孔製品集中SS05 (東より)



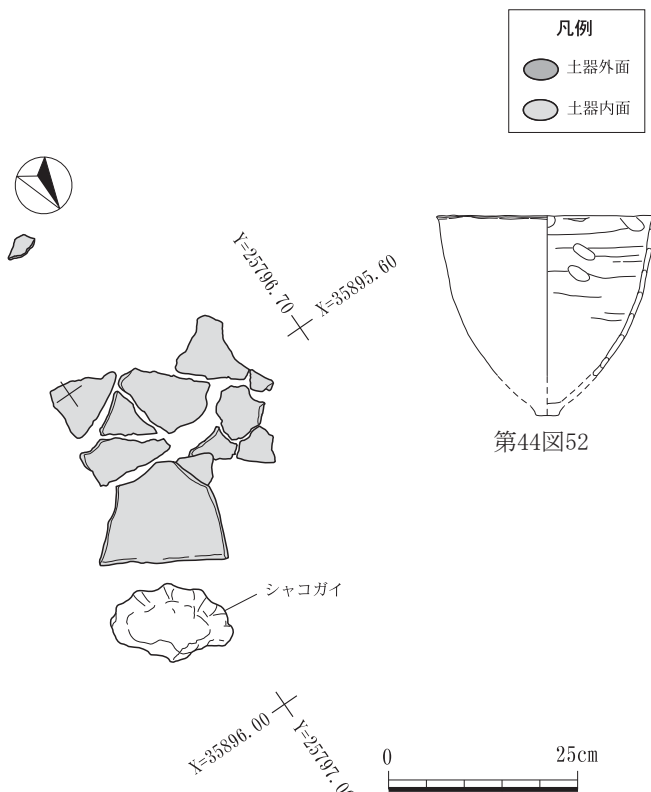
第47図70



第22図 二枚貝有孔製品の大きさ比較 殻長(cm)



第23図 土器集中①平面・断面 (T19)



第24図 土器集中②平面 (A20)



図版12 土器集中① (東より)



図版13 土器集中① (北より)

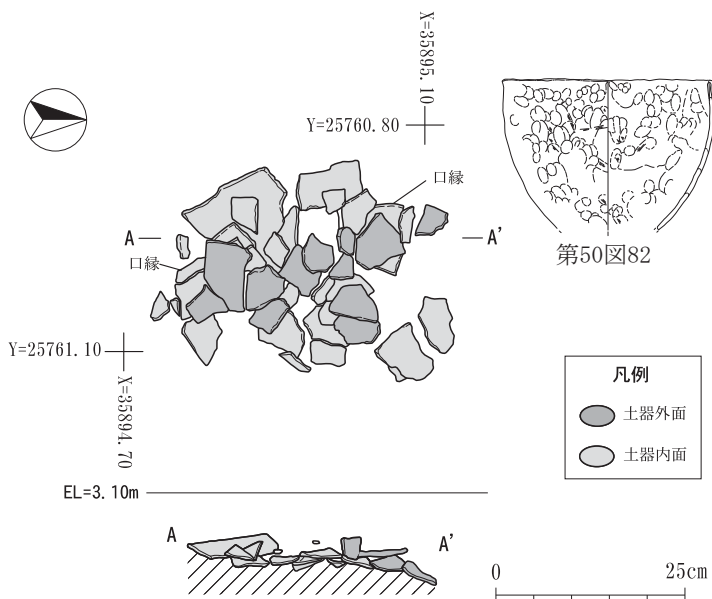
〈土器集中②〉Ⅱ類土器 (図52) で内面を上位の状態で検出された。底部は欠落する。A20取338、T19取1381 (EL3.777m、EL3.645m) 検出。また、近くからは土器集中①と同様シャコガイが内殻面を上にした状態で出土している。

〈土器集中③〉Ⅳ類土器 (図82) でB13取440、標高3.21m面で検出された。出土の状態をみると下位では土器の内面、上位では土器の外面で出土していることから土器がつぶれた状態であることがわかる。

〈土器集中④〉Ⅳ類土器 (図73) で、A12、取441～418、EL2.88～2.95mで出土。尖底で内面が上を向き、口～胴部は外面が上位



図版14 土器集中② (北東より)

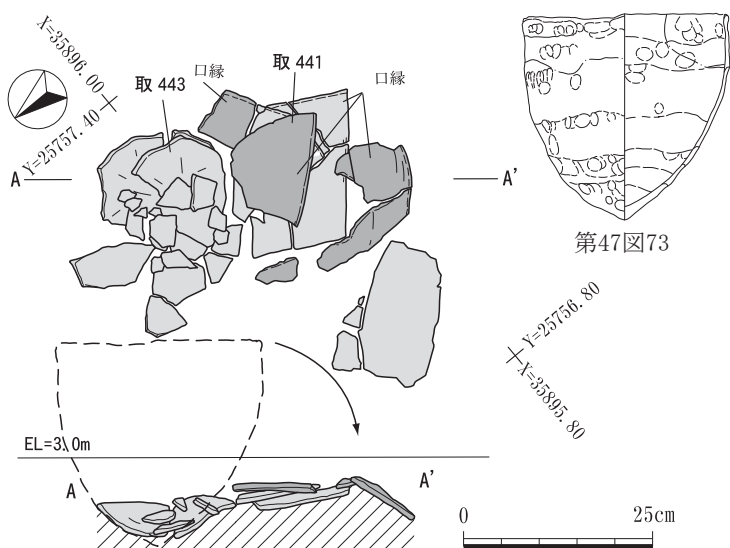


第25図 土器集中③平面・断面 (B13)

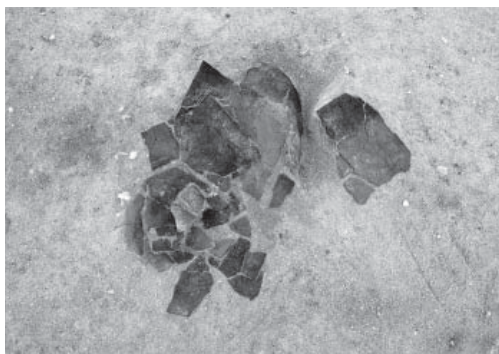


図版15 土器集中③(南より)

に検出されていることから破線で示す様な立位の状態が想定できる。口縁部外面は幅5cmのベルト状に黒褐色を呈し、他は茶褐色を呈することから土器の使用と関連すると思われる。

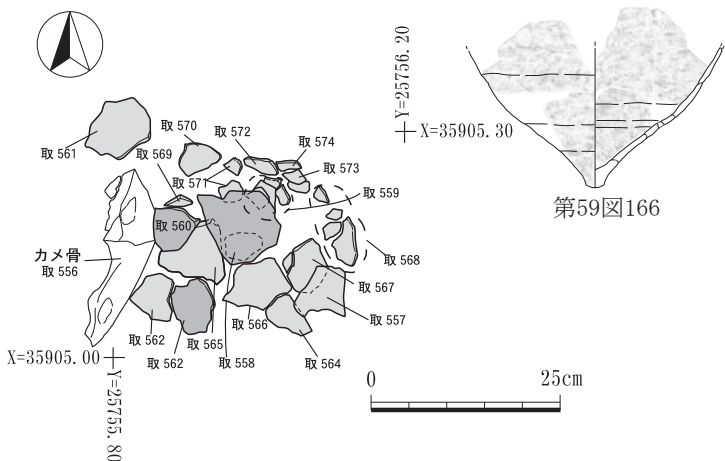


第26図 土器集中④平面・断面 (A12)



図版16 土器集中④(北より)

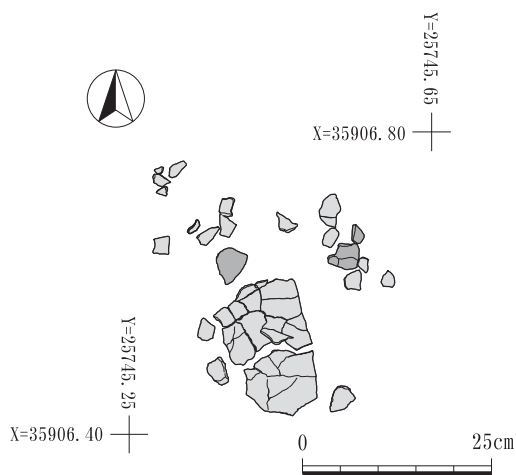
〈土器集中⑤〉乳房状尖底(図166)でS12、EL2.95mで出土。土器の検出状況を見ると外面が上位、内面が下位に出土した。土器の色を見ると外面が暗褐色、内面が黒褐色の胴部、底が赤褐色を呈する。土器集中④とは逆の色調を呈する。また、ウミガメの背甲板が共伴する。このグリッドの周辺からはウミガメの背腹甲板の大きい破片が多く出土している。



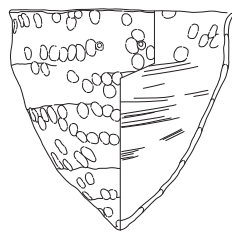
第27図 土器集中⑤平面 (S12)



図版17 土器集中⑤(北より)

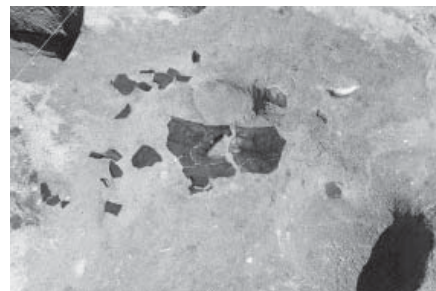


第28図 土器集中⑥平面 (S10)

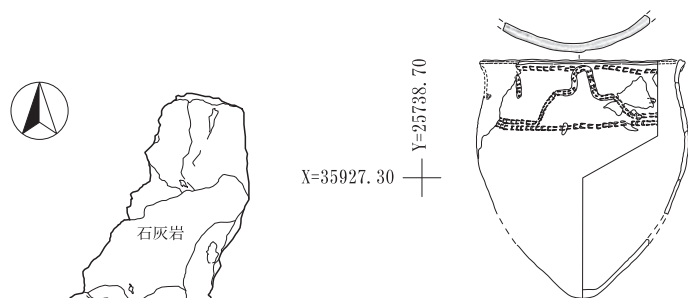


第49図79

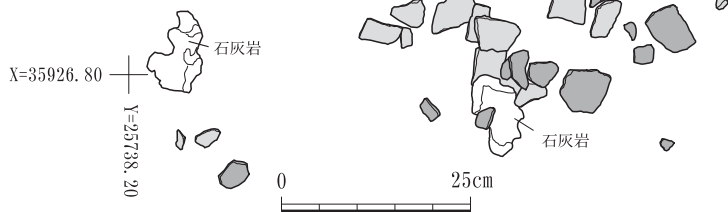
取183～197、201～204
271～280、282
284～288、290～302



図版18 土器集中⑥ (南西より)



第50図83



第29図 土器集中⑦平面 (O8)

＜土器集中⑥＞IV類土器 (図79) でS10、取184、186、EL2.9mで出土。土器の検出状況を見ると上下につぶれた状態である。本品はR10、R11、Q10出土のものと接合できた。また近く (取206、EL3.0m) からはくびれ平底 (図200) も出土している。

＜土器集中⑦＞V類土器 (図83) でO8、EL2.8～2.9mで出土。この周辺は柱穴 (第12図) が検出されている。本資料は有文で、伊礼原D遺跡 (2013) の第22図39 (II群II類) と同形の土器である。出土はI18とG17-Vb層で距離も3m、EL3.0mであり、同一個体の可能性もある。伊礼原D遺跡では同じ地点から浜屋原式土器 (II群V類、第26図80) が出土している。また、その北側からはイモガイ貝集積 (4317SS) も検出された。これらの状況からこの周辺は貝塚時代後期の生活域として安定していた可能性が高い。



図版19 土器集中⑦ (東より)



図版20 骨集中① (D20)



図版21 骨集中② (S13)



図版22 骨集中③ (A1)

(8) 骨集中部

図版20～22に示したようにウミガメやクジラ等の海獣骨が3カ所でまとまって検出された。

＜骨集中①＞D20の第V層の出土で、図版で見られるようにウミガメの椎骨板が20.5×9.5cmで横位の状態で検出、最下部での検出と思われる。

＜骨集中②＞S13でウミガメの腹甲板が27×16cmで出土した。ウミガメの骨の中ではまとまって検出された。

＜骨集中③＞A1白砂層で20×16cmのクジラの椎体が検出された。特に加工は見られず、食料残滓かあるいは土器製作に利用した可能性も考えられる。

類例は貝塚時代前V期の仲原遺跡（1981）では堅穴遺構内から出土している。草野貝塚（1985）では土器製作のために用いたと考えられている。伊礼原遺跡（2007、砂丘区）では、187点（1880.3g）のクジラの骨が出土した。他にクジラの骨を用いた彫刻かんざしや特に肋骨を用いた多種多様の骨製品や未製品が約80点出土している。その中心は貝塚時代前V期のE-20、第IV層（伊礼原遺跡、2007）である。本品は白砂層の出土であり、前出のE-20関連の可能性も考えられる。

(9) 貝集中 (SS04・SS06)

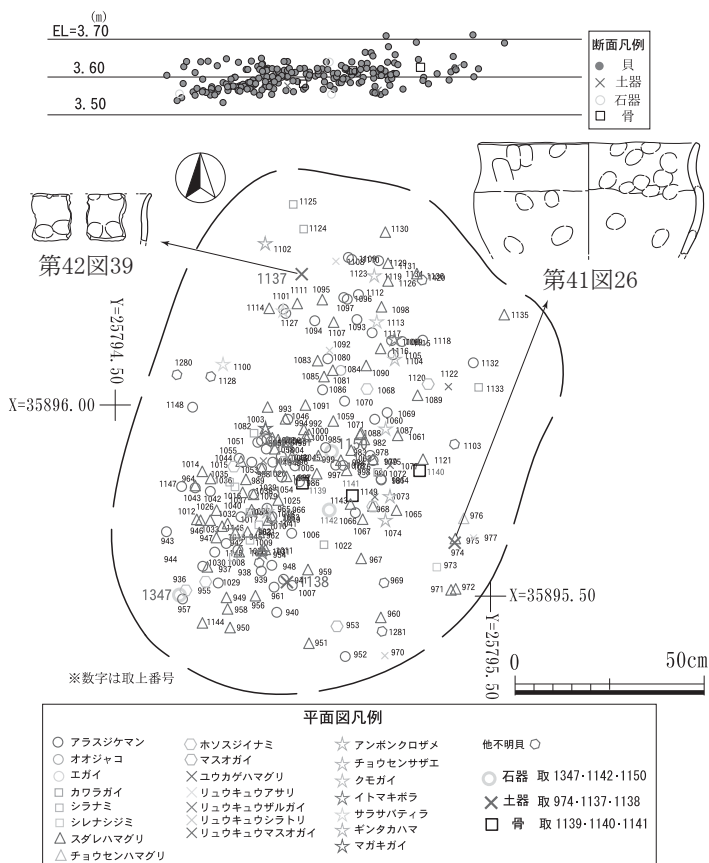
A19とA20にまたがるように140cm×105cm、厚さ15cmのレンズ状に堆積するもので、標高3.6cm前後で緩やかに西側に傾斜する。

第30図に示すように貝種別に記号で示した。貝の内訳は巻き貝8種、二枚貝15種であるが、巻き貝は完形がなく、二枚貝はアラスジケマンやスダレハマグリなどの小型貝のため、完形が多い。出土量を個体数別にみると最も多いのはアラスジケマン41個体、スダレハマグリ40個体とほぼ同じで、

生息地別にはアラスジケマンがマングローブ域、スダレハマグリが砂地（II 1c・第IV章第2節参照）で、他の自然貝と生息地別構成比は近い。貝以外についてみると石材磨石片、土器では第41図26、第42図39が検出されている。

SS06はR16・17で長径68cmの範囲にサラサバティラやシラナミなどの大形貝の完形や破片（取560～597）が集中するもので、他には見られない。

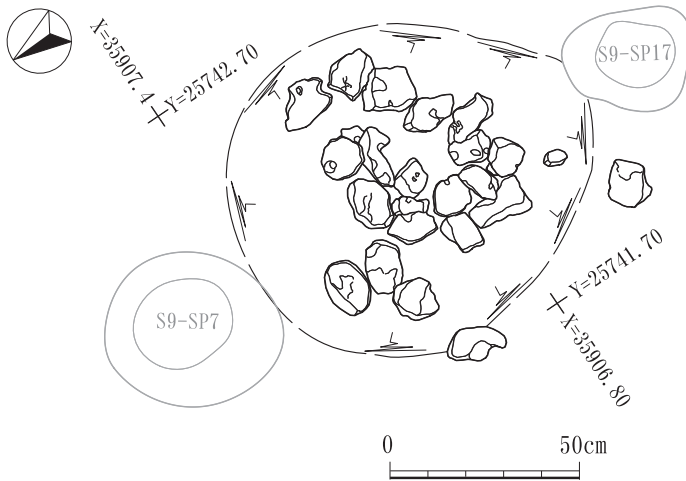
これらの状況からSS04・SS06は遺構



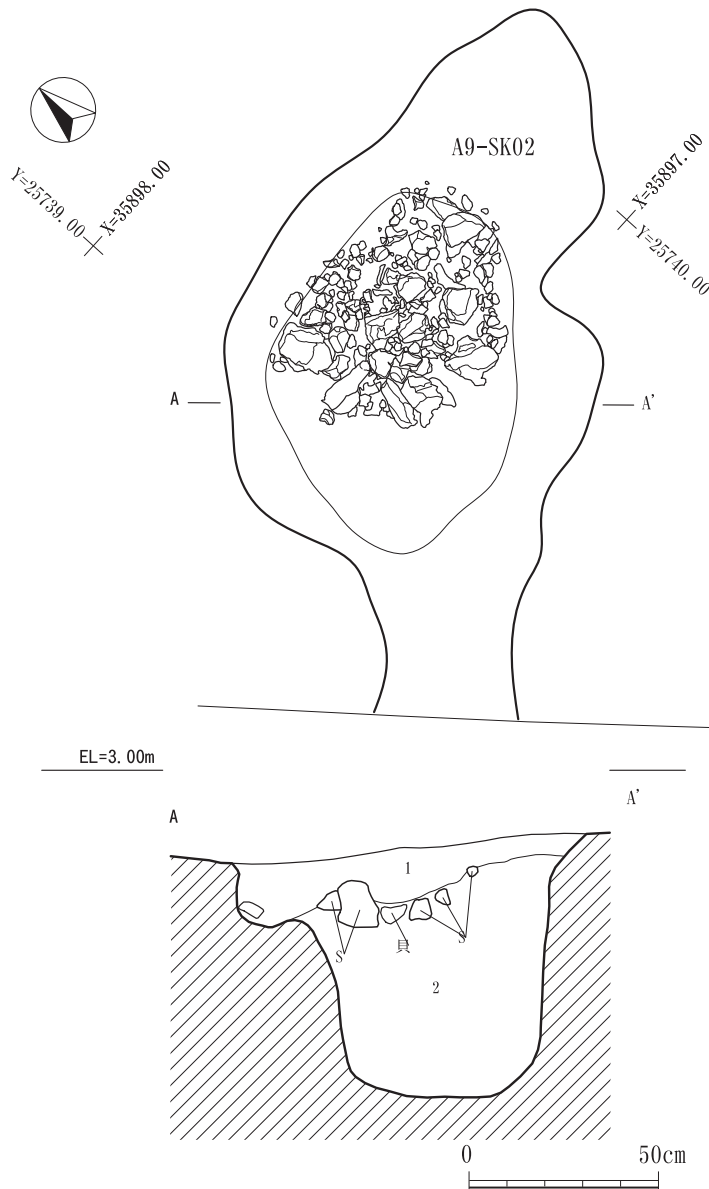
第30図 貝集中SS04 (A19・20)



図版23 貝集中SS04



第31図 礫集中① (S9-SX01)



第32図 礫集中② (A9-SK02)



図版24 礫集中① (北西より)

ではなく、貝塚後期下位の生活面と考えられる。

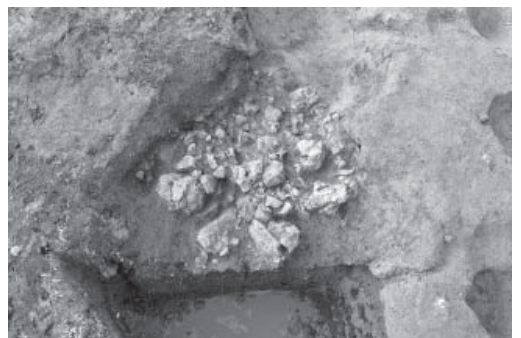
(10) 礫集中

〈礫集中①〉 (第31図・図版24)

S9-SX01で2×0.9mの範囲で浅い掘り込みの中に10～15cm大のサンゴ及び石灰岩礫が22個集中するものである。掘り込み面が白砂層で、標高3.0mであることから貝塚時代後期の遺構としたが、出土遺物もなく、近くからはグスク時代のピットS9-SP7・SP17も検出されており、遺構の性格、時期も決め手に欠ける。

〈礫集中②〉 (第32図・図版25)

A9-SK02で2.0×0.66mの細長い掘り込みのほぼ中央に0.66×0.5mの礫が集中する。検出面はほぼ水平で前者と異なり、2～16cmの角礫で、岩を砕いたような感じを受ける。礫面下位には径52cm、深さ66cmの掘り込みが検出される。出土遺物は染付皿とIV類土器の胴部が出土した。本遺構は遺跡の西端に位置し、前述同様詳細は不明。



図版25 礫集中② (南西より)

(11) 軽石だまり

第34図に示したようにD15とD16で北北西から南南東方向に軽石の集中箇所が確認された。長さ5m幅0.37～0.8mの帯び状をなす。

また、ほかに遺物として取り上げた軽石についても人工遺物ではないが、これまで継続的に観察計量を行っているのでここで報告する。

出土した軽石は6コンテナで、①色：黄色系、黒色系。②粒度：粗、細を観察し、さらに各々の重量を計測した。

その結果、黄・粗系(a) 1423個 (15323.31g) 黄・細系(b) 485個 (2548.9g)、黒・粗系(a) 57個 (725.13g) 黒・細系(b) 52個 (459.07g)、で圧倒的に黄・粗系(a) (78.9%)が多い。黄色系は加藤祐三(2009)の言う板状軽石に分類され、伊礼原D遺跡と同様丸味を帯びるものがほとんどである。

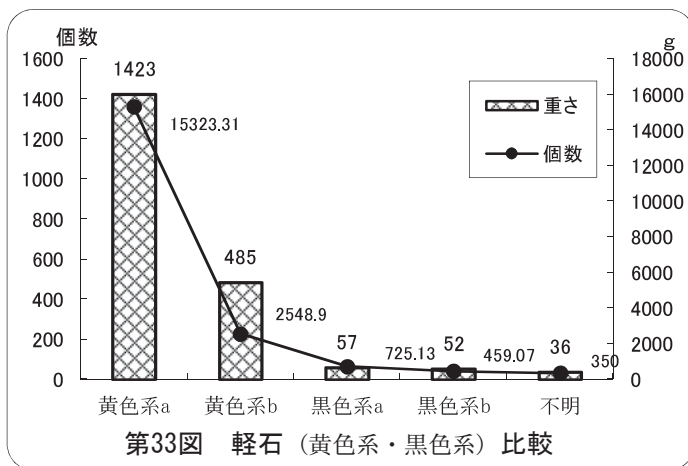
層別の出土状況をみると第IV層、第V層、第III層で得られ、第III層の軽石は柱穴(58カ所)で検出されている。土器も得られていることから本品も貝塚時代後期に属するものと判断される。

前述の帯び状に広がる軽石は海岸の汀線と考えられ、これまで伊礼原遺跡(2007)、小堀原遺跡(2012)、伊礼原D遺跡(2008・2013)でも報告されている。

軽石のベルトは後述する土器分類のI類(阿波連浦下層式土器及びII類(浜屋原式土器)。IV類の大当原式土器との間に形成された可能性が高い。



図版26 軽石だまりD16(西より)



第33図 軽石(黄色系・黒色系)比較



第34図 軽石平面分布(伊礼原D遺跡・伊礼原遺跡)

第11表-1 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小 グリッド	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小 グリッド	地区	遺構	遺物	図番号
1	35898.958	25770.441	3.311	A15	H19		イソゾルブタ (上腕骨)		90	35898.546	25798.288	3.754	A20	H19		イソゾルブタ (橈骨)	
2	35903.382	25773.611	3.522	T15	H19		ウオウケ (四肢骨)		91	35898.444	25798.242	3.736	A20	H19		イソゾルブタ (尺骨)	
3	35902.486	25774.937	3.473	T15	H19		石器 (酸石兼磨石)	第71図53	92	35898.598	25796.779	3.766	A20	H19		イソゾルブタ (下顎骨)	
4	35911.391	25778.694	3.809	R16	H19		イソゾルブタ (上腕骨)		93	35898.199	25796.303	3.749	A20	H19		自然礫 イソゾルブタ(上顎)	
5	35911.755	25777.588	3.807	R16	H19		イソゾルブタ (大腿骨)		94	35898.263	25796.362	3.772	A20	H19		イソゾルブタ (下顎骨)	
6	35912.259	25776.882	3.807	R16	H19		イソゾルブタ (大腿骨)		95	35895.921	25798.058	3.759	A20	H19		イソゾルブタ (上腕骨)	
7	35911.375	25775.609	3.806	R16	H19		土器 (IV類)		96	35896.339	25797.269	3.749	A20	H19		イソゾル (大腿骨)	
8	35910.987	25775.078	3.788	R16	H19		土器 (IV類)		97	35896.508	25796.823	3.789	A20	H19		ウオウケ (四肢骨)	
9	35911.101	25769.183	3.529	R14	H19		土器 (IV類)		98	35896.613	25796.726	3.783	A20	H19		イソゾルブタ (後頭骨)	
10	35910.420	25767.656	3.554	R14	H19		イソゾルブタ (上腕骨)		99	35896.319	25796.456	3.809	A20	H19		不明骨	
11	35911.379	25766.368	3.506	R14	H19		自然礫		100	35896.257	25796.460	3.798	A20	H19		イソゾル (四肢骨)	
12	35910.847	25774.688	3.744	R15	H19		土器 (IV類)		101	35896.181	25796.016	3.728	A20	H19		イソゾルブタ (橈骨) イソゾル (四肢骨)	
13	35920.891	25780.114	3.530	P17	H19		沖無 (壺or甕)		102	35897.356	25796.824	3.711	A20	H19		(骨)	
14	35919.868	25775.262	3.845	Q16	H19		土器 (IV類)		103	35897.534	25796.086	3.688	A20	H19		土器 (I類)	
15	35899.940	25770.711	3.319	A15	H19		イソゾルブタ (下顎骨)		104	35897.237	25796.810	3.705	A20	H19		土器 (弥生)	第40図12
16	35898.478	25766.124	3.204	A14	H19		石器 (石球)		105	35897.046	25796.872	3.719	A20	H19		土器 (平底)	第60図195
17	35899.306	25766.085	3.230	A14	H19		ウガタメ アオブタメ (歯骨)		106	35897.146	25796.705	3.714	A20	H19		土器 (II類)	
18	35895.864	25766.341	3.178	A14	H19		石器		107	35896.489	25797.104	3.734	A20	H19		土器 (平底)	第60図191
19	35897.656	25769.320	3.227	A14	H19		石器 (石斧)		108	35896.536	25797.220	3.744	A20	H19		土器 (IV類)	
20	35898.721	25768.170	3.267	A14	H19		土器 (尖底)	第58図165	109	35896.466	25797.231	3.755	A20	H19		土器 (IV類)	
21	35899.323	25768.042	3.291	A14	H19		(土器)		110	35896.193	25798.229	3.768	A20	H19		土器 (平底)	第60図190
22	35896.026	25768.144	3.230	A14	H19		貝製品ヒタヤコ		111	35895.966	25797.705	3.764	A20	H19		土器 (I類)	第42図40
23	35895.948	25768.204	3.188	A14	H19		貝製品ヤカガイ		112	35895.920	25797.689	3.752	A20	H19		土器 (II類)	
24	35899.275	25768.138	3.281	A14	H19		イソゾルブタ (上腕骨)		113	35895.944	25797.661	3.754	A20	H19		土器 (II類)	第45図59
25	35899.352	25763.946	3.267	A13	H19		(骨)		114	35895.627	25797.542	3.749	A20	H19		土器 (I類)	第42図40
26	35899.783	25764.947	3.247	A13	H19		イソゾルブタ (上腕骨・下顎) ウガタメ(背甲or腹甲) イソゾル (四肢骨) 土器 (IV類) ハゲケ		115	35895.041	25797.347	3.745	A20	H19		(土器)	
27	35902.627	25760.972	3.066	T13	H19		ウガタメ		116	35895.113	25797.759	3.758	A20	H19		土器 (II類)	第45図59
28	35902.678	25760.801	3.081	T13	H19		ジュコウ (後頭骨) イソゾル (上顎骨) 土器 (IV類)		117	35896.045	25797.839	3.782	A20	H19		土器 (II類)	
29	35902.736	25760.691	3.077	T13	H19		土器 (IV類)		118	35896.423	25796.882	3.776	A20	H19		土器 (II類)	
30	35903.092	25761.623	3.115	T13	H19		土器 (IV類)		119	35897.885	25795.739	3.692	A20	H19		土器 (I類)	第42図36
31	35903.350	25761.516	3.139	T13	H19		土器胴部		120	35898.208	25795.393	3.697	A20	H19		土器 (I類)	
32	35903.709	25761.508	3.084	T13	H19		土器 (V層)		121	35898.640	25794.207	3.710	A19	H19		イソゾルブタ (上腕骨)	
33	35904.273	25763.726	3.227	T13	H19		土器 (IV類)		122	35910.442	25771.035	3.606	R15	H19		青磁 (碗)	
34	35903.057	25760.891	3.129	T13	H19		自然礫		123	35914.235	25767.739	3.438	R14	H19		土器 (IV類) (脛骨)	
35	35904.809	25760.278	3.136	T13	H19		石材		124	35906.285	25768.593	3.329	S14	H19		青磁 (碗)	
36	35903.103	25766.639	3.353	T14	H19		ウガタメ (上腕or大腿)		125	35903.689	25765.853	3.329	T14	H19		イソゾルブタ(下顎骨) ウガタメ(腹甲or背甲)	
37	35905.219	25772.246	3.538	S15	H19		沖施 (碗)	第140図1	126	35903.570	25765.708	3.358	T14	H19		土器 (尖底)	
38	35890.341	25777.355	3.270	B16	H19		本磁 (碗)		127	35901.531	25761.595	3.110	T13	H19		土器 (IV類)	
39	35892.835	25777.408	3.510	B16	H19		イソゾルブタ (上腕骨)		128	35901.425	25761.750	3.083	T13	H19		褐釉陶器 (壺)	
40	35888.968	25776.231	3.192	C16	H19		ウシ (上腕or下顎)		129	35905.261	25762.403	3.160	S13	H19		イソゾルブタ (上腕骨)	
41	35889.342	25777.793	3.326	C16	H19		沖無 (壺or甕)		130	35906.516	25762.199	3.164	S13	H19		ウシ (寛骨) ウオウケ (大腿骨) イソゾル (四肢骨)	
42	35907.501	25765.299	3.366	S14	H19		沖無 (壺or甕)		131	35906.900	25763.808	3.235	S13	H19		イソゾルブタ (肩甲骨)	
43	35907.125	25766.313	3.322	S14	H19		本陶 (ナリ鉢)	第137図8	132	35912.037	25763.051	3.383	R13	H19		ウシホソ (歯骨)	
44	35907.110	25767.149	3.338	S14	H19		土器 (IV類)		133	35912.194	25762.431	3.350	R13	H19		骨不明 (肋骨)	
45	35909.696	25766.361	3.474	S14	H19		土器 (IV類)		134	35912.278	25762.119	3.407	R13	H19		土器 (IV類)	
46	35906.658	25768.695	3.352	S14	H19		瓦 (平)		135	35912.476	25762.159	3.397	R13	H19		(土器)	
47	35909.613	25760.167	3.349	S13	H19		褐釉陶器 (壺or甕)		136	35912.106	25764.037	3.424	R13	H19		青磁 (碗)	第98図10
48	35909.110	25760.168	3.266	S13	H19		沖無 (不明)		137	35912.368	25763.777	3.381	R13	H19		土器 (IV類)	
49	35907.720	25760.717	3.256	S13	H19		土器 (IV類)	第49図80	138	35912.394	25763.939	3.389	R13	H19		土器 (織入)	第39図3
50	35906.498	25763.498	3.280	S13	H19		土器 (IV類)		139	35912.354	25764.247	3.424	R13	H19		土器 (乳)	
51	35905.767	25764.906	3.288	S13	H19		土器 (IV類)		140	35912.293	25764.396	3.433	R13	H19		土器 (IV類)	
52	35905.183	25764.927	3.327	S13	H19		土器 (IV類)		141	35912.173	25764.355	3.425	R13	H19		骨不明 (肋骨)	
53	35905.136	25763.115	3.173	S13	H19		イソゾルブタ (大腿骨)		142	35912.222	25764.265	3.410	R13	H19		イソゾルブタ (上腕骨) ウシ (中節骨)	
54	35911.112	25766.261	3.464	R14	H19		中国産陶器 (不明)		143	35910.164	25759.595	3.351	R12	H19		イソゾルブタ (第二中足骨) ウシ (下顎)	
55	35910.795	25766.815	3.441	R14	H19		石材		144	35914.804	25763.226	3.476	R13	H19		土器 (V類)	第53図100
56	35893.503	25787.095	3.700	B18	H19	1-SD01	青磁 (碗)	第99図13	145	35914.791	25763.073	3.484	R13	H19		イソゾルブタ (上顎) イソゾル (上顎骨)	
57	35894.150	25786.867	3.680	B18	H19	1-SD01	(土器)		146	35914.871	25763.142	3.473	R13	H19		イソゾル (四肢骨)	
58	35895.481	25786.734	3.657	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		147	35914.695	25763.969	3.485	R13	H19		石器	
59	35895.973	25786.771	3.686	A18	H19	1-SD01	土器 (乳)		148	35915.407	25764.267	3.420	Q13	H19		石器 (酸石兼磨石)	第66図30
60	35895.974	25786.782	3.687	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		149	35912.729	25764.359	3.443	R13	H19		ウシ (踵骨)	
61	35895.570	25786.417	3.685	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		150	35917.201	25769.449	3.528	Q14	H19		褐釉陶器 (壺)	
62	35895.487	25786.515	3.673	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		151	35918.412	25770.401	3.544	Q15	H19		青磁 (碗)	
63	35895.350	25786.474	3.646	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		152	35918.416	25770.669	3.636	Q15	H19		青磁 (碗)	
64	35895.766	25786.617	3.655	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		153	35917.637	25770.983	3.656	Q15	H19		イソゾル (下顎骨)	
65	35895.529	25786.662	3.678	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		154	35918.002	25771.385	3.651	Q15	H19		土器 (IV類)	
66	35896.703	25786.748	3.663	A18	H19	1-SD01	土器 (II類)		155	35918.049	25771.421	3.652	Q15	H19		土器 (IV類) (肩甲骨)	
67	35898.083	25786.195	3.687	A18	H19	1-SD01	土器 (乳)		156	35918.962	25772.354	3.692	Q15	H19		土器 (III類)	
68	35898.022	25786.432	3.711	A18	H19	1-SD01	土器 (IV類)		157	35920.649	25772.839	3.776	Q15	H19		ウオウケ (四肢骨)	
69	35893.757	25788.209	3.628	B18	H19		染付 (碗)	第108図8	158	35920.289	25773.788	3.739	P15	H19		土器 (V類)	
70	35897.045	25790.428	3.684	A19	H19		土器 (IV類)		159	35913.514	25773.256	3.625	R15	H19		錢貨 (元豊通宝)	第121図1
71	35897.917	25790.386	3.682	A19	H19		土器 (II類)		160	35915.297	25772.991	3.636	Q15	H19		イソゾルブタ (上腕骨)	
72	35899.390	25790.678	3.776	A19	H19		土器 (IV類)		161	35912.192	25772.282	3.616	R15	H19		土器 (IV類)	
73	35899.263	25791.046	3.801	A19	H19		土器 (IV類)		162	35912.566	25771.193	3.597	R15	H19		土器 (IV類)	
7																	

第11表-2 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小 グ ラ ト	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小 グ ラ ト	地区	遺構	遺物	図番号
175	35905.515	25780.265	3.636	S17	H19		土器(乳)	第58図157	263	35905.089	25759.871	3.094	S12	H19		土器 (IV類・V類)	第49図80 第53図90
176	35905.230	25780.146	3.628	S17	H19		土器(乳)	第58図157	264	35911.197	25760.263	3.260	R13	H19		ウツメ(腹甲板) ハマエテ (前上顎骨) ヲモエタイ (口蓋骨)	
177	35905.172	25780.065	3.657	S17	H19		土器(尖底系)		265	35910.732	25761.202	3.260	R13	H19		白磁(皿)	第106図23
178	35905.049	25780.018	3.674	S17	H19		土器(くびれ)	第60図198	266	35914.548	25781.185	3.708	R17	H19		(土器)	
179	35905.834	25781.936	3.615	S17	H19		土器 (IV類)		267	35913.573	25781.633	3.694	R17	H19		(土器)	
180	35907.035	25783.851	3.710	S17	H19		土器 (II類・不明)		268	35912.583	25780.896	3.695	R17	H19		石器	
181	35906.890	25784.406	3.714	S17	H19		土器 (IV類)		269	35912.809	25781.698	3.680	R17	H19		インソープタ (下顎) インソ (下顎骨)	
182	35907.270	25784.686	3.734	S17	H19		土器(尖底)		270	35902.377	25767.688	3.286	T14	H19		インソープタ (肩甲骨) ヤク (下顎骨)	
183	35907.569	25784.263	3.702	S17	H19		土器(尖底)	第58図162	271	35899.605	25763.993	3.280	A13	H19		ウツ (肩甲骨)	
184	35908.278	25784.052	3.739	S17	H19		土器 (IV類)		272	35899.694	25764.958	3.185	A13	H19		土器 (IV類・尖底)	第58図153
185	35909.664	25784.816	3.844	S17	H19		土器 (IV類)		273	35907.181	25758.811	3.093	S12	H19		インソープタ (上腕骨)	
186	35910.210	25785.743	3.835	R18	H19		土器 (II類)		274	35907.498	25758.115	3.067	S12	H19		石器 (蔽石兼磨石)	第65図23
187	35914.325	25778.620	3.736	R16	H19		土器口縁部	第57図133	275	35907.464	25757.375	3.063	S12	H19		ウツメ(口蓋骨) アオタイ(下咽頭骨) 骨	
188	35914.358	25778.446	3.723	R16	H19		土器 (II類)		276	35907.783	25757.492	3.079	S12	H19		二枚貝有孔(ヒシヤ)	
189	35912.944	25777.638	3.721	R16	H19		インソ (上腕骨)		277	35908.242	25757.351	3.104	S12	H19		土器 (IV類)	第49図80
190	35915.454	25777.717	3.709	Q16	H19		土器(乳)	第59図175	278	35910.365	25759.932	3.061	R12	H19		ジュモン (肋骨)	
191	35921.268	25780.239	3.792	P17	H19		石器(磨石)	第70図49	279	35911.164	25762.925	3.287	R13	H19		石器 (蔽石兼磨石)	
192	35924.576	25775.894	3.773	P16	H19		土器 (III類・乳)		280	35910.621	25763.652	3.304	R13	H19		石器(台石)	第72図55
193	35924.299	25775.731	3.794	P16	H19		土器 (III類・乳)		281	35913.683	25762.639	3.374	R13	H19		ウツメ(腹甲板)	
194	35924.304	25773.741	3.805	P15	H19		土器 (IV類)		282	35913.867	25762.809	3.284	R13	H19		インソープタ (肩甲骨)	
195	35924.891	25773.561	3.773	P15	H19		ウツメ(腹甲or背甲)		283	35914.530	25763.009	3.326	R13	H19		ウツメ(腹甲or背甲)	
196	35923.607	25771.992	3.545	P15	H19		貝製品(お鉢イ)	第81図28	284	35914.202	25762.965	3.448	R13	H19		インソープタ (下顎骨)	
197	35924.742	25772.309	3.696	P15	H19		土器 (IV類)		285	35922.291	25773.109	3.587	P15	H19		石器 (蔽石兼磨石)	第69図42
198	35920.430	25773.498	3.737	P15	H19		石器(磨石)		286	35920.311	25774.083	3.655	P15	H19		(貝)	
199	35920.378	25773.702	3.749	P15	H19		石器(磨石)		287	35920.070	25775.227	3.645	P16	H19		土器 (VII類)	第54図118
200	35920.328	25773.600	3.717	P15	H19		土器 (IV類)		288	35919.010	25774.781	3.614	Q15	H19		自然礫	
201	35920.462	25773.857	3.693	P15	H19		土器		289	35914.696	25776.780	3.619	R16	H19		(石器)	
202	35920.210	25774.419	3.763	P15	H19		土器		290	35926.581	25776.048	3.740	O16	H19		本磁(急須)	
203	35920.138	25774.575	3.766	P15	H19		土器		291	35927.225	25774.416	3.731	O15	H19		土器(乳)	第59図176
204	35920.461	25774.762	3.703	P15	H19		土器 (III類)		292	35925.004	25772.133	3.574	O15	H19		自然礫	
205	35920.401	25774.914	3.713	P15	H19		土器 (III類)		293	35910.502	25787.488	3.733	R18	H19		石器(蔽石兼磨石)	第71図52
206	35913.305	25764.670	3.369	R13	H19		(土器)		294	35910.152	25787.752	3.698	R18	H19		インソープタ (脛骨)	
207	35913.542	25764.772	3.371	R13	H19		土器(弥生)	第40図20	295	35907.832	25786.333	3.770	S18	H19		土器 (IV類)	第59図180
208	35913.542	25764.772	3.371	R13	H19		土器		296	35907.770	25786.276	3.759	S18	H19		土器 (II類)	
209	35913.499	25763.409	3.407	R13	H19		土器 (IV類)		297	35907.776	25786.419	3.776	S18	H19		土器 (IV類)	
210	35913.731	25762.943	3.434	R13	H19		青磁(碗)		298	35908.681	25784.656	3.671	S17	H19		土器 (VII類)	第55図119
211	35912.785	25762.639	3.382	R13	H19		土器 (IV類)		299	35910.108	25784.562	3.743	R17	H19		土器 (VII類)	第55図119
212	35913.083	25762.428	3.399	R13	H19		土器(尖底)	第58図147	300	35910.449	25783.307	3.748	R17	H19		ウツメ	
213	35912.913	25762.187	3.366	R13	H19		土器		301	35910.268	25783.425	3.776	R17	H19		不明骨	
214	35914.939	25775.283	3.658	R16	H19		土器		302	35910.067	25782.996	3.687	R17	H19		リウキヤン(骨)	
215	35918.556	25780.707	3.754	Q17	H19		ウツメイ(蓋)		303	35911.058	25781.645	3.655	R17	H19		土器(口縁部・胴部)	第56図131
216	35919.108	25781.565	3.746	Q17	H19		土器 (III類)		304	35915.966	25775.000	3.641	Q15	H19		土器 (IV類・V類)	第53図99
217	35917.304	25782.823	3.773	Q17	H19		土器 (IV類)		305	35917.501	25775.977	3.629	Q16	H19		土器 (III類)	
218	35906.044	25781.223	3.610	S17	H19		土器		306	35906.996	25785.573	3.685	S18	H19		土器 (V類)	第54図110
219	35905.851	25781.729	3.611	S17	H19		土器 (IV類)		307	35901.032	25777.307	3.604	T16	H19		ウツメ(肩甲骨)	
220	35905.499	25782.989	3.549	S17	H19		土器 (IV類)		308	35900.913	25776.537	3.555	T16	H19		石器(磨石)	
221	35909.698	25774.420	3.635	S15	H19		石器		309	35882.876	25797.861	3.631	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
222	35909.076	25773.969	3.676	S15	H19		インソープタ (大腿骨)		310	35882.777	25797.910	3.625	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
223	35907.842	25775.195	3.634	S16	H19		土器 (II類)		311	35882.715	25797.887	3.626	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
224	35908.876	25758.345	3.177	S12	H19		土器 (IV類)	第46図68	312	35882.691	25797.938	3.626	D20	H19		ウツメ(椎骨板)	
225	35909.016	25758.146	3.167	S12	H19		土器 (IV類)	第46図68	313	35882.585	25798.287	3.665	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
226	35908.064	25758.167	3.144	S12	H19		ヒシヤ		314	35882.629	25798.203	3.645	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
227	35907.945	25757.228	3.139	S12	H19		ウツメ		315	35882.632	25798.576	3.664	D20	H19		ウツメ(腹甲or背甲)	
228	35907.844	25757.023	3.121	S12	H19		魚類(椎骨) ハマエテ(前上顎骨) アオタイ(前上顎骨)		316	35882.621	25798.544	3.640	D20	H19		ウツメ(腹甲or背甲)	
229	35908.690	25759.296	3.193	S12	H19		土器		317	35882.586	25798.513	3.665	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
230	35908.712	25759.015	3.205	S12	H19		土器(IV類) ウツメ(腹甲or背甲)	第47図75	318	35882.550	25798.475	3.670	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
231	35908.555	25758.892	3.202	S12	H19		土器 (IV類)	第47図75	319	35882.489	25798.372	3.657	D20	H19		ウツメ(肩甲板) 土器 (IV類)	
232	35908.522	25759.033	3.196	S12	H19		土器 (IV類)	第47図75	320	35882.344	25798.269	3.630	D20	H19		ウツメ(腹甲or背甲)	
233	35908.410	25759.125	3.179	S12	H19		土器(IV類) ウツメ(腹甲or背甲)	第47図75	321	35882.232	25798.174	3.650	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
234	35908.322	25758.878	3.172	S12	H19		土器 (IV類)		322	35882.263	25798.083	3.643	D20	H19		ウツメ(肋骨板)	
235	35907.837	25758.928	3.165	S12	H19		青磁(碗)	第98図6	323	35911.431	25788.149	3.840	R18	H19		土器 (II類)	第43図49
236	35907.682	25758.241	3.141	S12	H19		ハマエテ (前上顎骨)		324	35909.835	25781.566	3.665	S17	H19		土器 (IV類)	
237	35907.567	25757.953	3.109	S12	H19		ウツメ (緑甲板)		325	35909.487	25781.811	3.651	S17	H19		土器 (IV類)	
238	35907.387	25757.935	3.100	S12	H19		貝製品(お鉢イ)		326	35909.627	25781.218	3.652	S17	H19		土器胴部	
239	35906.810	25758.181	3.096	S12	H19		ジュモン (肋骨)		327	35914.856	25782.494	3.704	R17	H19		土	

第11表-3 取上遺物一覧 (H19地区)

取上 番号	X	Y	Z	小 グロット	地区	遺構	遺物	図番号	取上 番号	X	Y	Z	小 グロット	地区	遺構	遺物	図番号
350	35920.766	25774.503	3.586	P15	H19		石器		440	35907.742	25787.941	3.871	S18	H19		ウツメ	
351	35919.720	25771.976	3.452	Q15	H19		石器		441	35907.602	25788.072	3.842	S18	H19		ホノガキ シタミ	
352	35899.634	25764.156	3.293	A13	H19		石材		442	35907.492	25787.951	3.772	S18	H19		シタミ	
353	35899.732	25764.190	3.277	A13	H19		石器		443	35907.486	25788.279	3.701	S18	H19		スズガキ	
354	35899.582	25764.171	3.279	A13	H19		石器		444	35907.333	25788.262	3.622	S18	H19		シタミ	
355	35899.667	25763.985	3.261	A13	H19		石器		445	35910.867	25787.215	3.679	R18	H19		イマダラ	
356	35904.368	25767.908	3.205	T14	H19		石材		446	35908.927	25786.642	3.772	S18	H19		ホジヤコ	
357	35924.567	25774.310	3.747	P15	H19		石器		447	35914.375	25774.074	3.525	R15	H19		ヒメヤコ	
358	35914.996	25769.267	3.424	R14	H19		石器		448	35914.298	25774.435	3.519	R15	H19		カサドキ	
359	35908.577	25764.682	3.233	A13	H19		ウツメ (肋骨板)		449	35915.197	25774.753	3.506	Q15	H19		シタミ	
360	35898.699	25765.087	3.095	A14	H19		(貝)		450	35915.291	25774.799	3.501	Q15	H19		ササバテラ	
361	35902.393	25765.342	3.205	T14	H19		ウツメ オシヤコ		451	35915.694	25774.785	3.505	Q15	H19		ササバテラ	
362	35898.714	25768.787	3.104	A14	H19		石器 (燧石兼磨石)		452	35915.803	25774.660	3.516	Q15	H19		シタミ	
363	35898.132	25766.684	3.019	A14	H19		石器 (磨石)		453	35915.882	25775.083	3.670	Q16	H19		シヤコウ	
364	35899.701	25764.079	3.229	A13	H19		イソシ (上顎骨)		454	35916.193	25775.218	3.587	Q16	H19		シタミ	
365	35899.569	25764.150	3.240	A13	H19		土器 (VⅧ類) 不明骨	第54図118	455	35916.221	25775.096	3.602	Q16	H19		ウツメ	
366	35906.523	25760.526	3.028	S13	H19		(貝)		456	35916.318	25775.136	3.599	Q16	H19		ウツメ	
367	35906.500	25760.332	3.037	S13	H19		螺蓋製貝斧 (ウツメ)		457	35916.689	25775.056	3.540	Q16	H19		二枚具有孔 (シタミ) ササバテラ	
368	35905.331	25759.834	3.043	S12	H19		土器 (IV類)		458	35916.846	25774.709	3.522	Q15	H19		ササバテラ	
369	35905.340	25759.754	3.038	S12	H19		シタミ		459	35916.870	25774.825	3.514	Q15	H19		ササバテラ	
370	35906.061	25759.167	3.018	S12	H19		ササバテラ		460	35916.906	25775.006	3.502	Q16	H19		スズガキ	
371	35906.181	25759.137	3.020	S12	H19		ササバテラ		461	35916.951	25774.925	3.551	Q15	H19		シタミ	
372	35906.249	25759.294	3.007	S12	H19		ササバテラ		462	35917.132	25775.014	3.563	Q16	H19		シタミ	
373	35906.309	25758.335	2.998	S12	H19		シタミ		463	35916.460	25775.835	3.521	Q16	H19		ウツメ	
374	35906.282	25758.231	3.013	S12	H19		ササバテラ		464	35917.061	25775.056	3.533	Q16	H19		シタミ	
375	35906.375	25758.149	3.012	S12	H19		シタミ		465	35917.075	25775.216	3.500	Q16	H19		シタミ	
376	35906.639	25758.535	3.014	S12	H19		シヤコウ		466	35917.156	25775.099	3.525	Q16	H19		シタミ	
377	35906.759	25758.516	3.030	S12	H19		ウツメ		467	35917.101	25775.253	3.514	Q16	H19		シタミ	
378	35906.810	25758.732	3.026	S12	H19		ウツメ		468	35917.050	25775.143	3.518	Q16	H19		シタミ	
379	35907.019	25759.227	3.037	S12	H19		ヒメヤコ		469	35917.134	25775.296	3.497	Q16	H19		シタミ	
380	35907.255	25759.273	3.036	S12	H19		ウツメ		470	35917.214	25775.270	3.521	Q16	H19		シタミ	
381	35907.385	25759.298	3.033	S12	H19		ウツメ		471	35917.137	25775.376	3.521	Q16	H19		ヒメヤコ	
382	35907.910	25759.158	3.066	S12	H19		ウツメ		472	35917.197	25775.179	3.533	Q16	H19		シタミ	
383	35907.748	25759.057	3.061	S12	H19		ウツメ		473	35917.223	25775.067	3.536	Q16	H19		シタミ	
384	35907.765	25758.968	3.072	S12	H19		ウツメ		474	35917.285	25775.370	3.512	Q16	H19		ヒメヤコ	
385	35907.476	25758.620	3.073	S12	H19		ウツメ		475	35917.281	25775.123	3.534	Q16	H19		シタミ	
386	35907.179	25758.625	3.109	S12	H19		ササバテラ		476	35917.606	25775.218	3.533	Q16	H19		ウツメ	
387	35907.098	25758.569	3.054	S12	H19		土器 (IV類)		477	35917.624	25775.112	3.543	Q16	H19		シタミ	
388	35907.211	25758.500	3.064	S12	H19		ウツメ		478	35917.779	25775.146	3.524	Q16	H19		シタミ	
389	35907.202	25758.409	3.057	S12	H19		イマダラ		479	35917.860	25775.231	3.508	Q16	H19		イハダケ	
390	35907.270	25758.134	3.068	S12	H19		ヒメヤコ		480	35917.942	25775.292	3.503	Q16	H19		シヤコウ	
391	35906.740	25757.899	3.046	S12	H19		二枚具有孔 (ヒメヤコ) シタミ		481	35917.092	25775.329	3.504	Q16	H19		シタミ	
392	35906.875	25757.912	3.052	S12	H19		ウツメ		482	35917.404	25775.426	3.524	Q16	H19		ウツメ	
393	35907.012	25757.855	3.052	S12	H19		(貝)		483	35917.458	25775.376	3.525	Q16	H19		ウツメ	
394	35906.838	25757.758	3.037	S12	H19		(貝)		484	35917.726	25774.976	3.520	Q15	H19		ウツメ	
395	35907.049	25757.537	3.051	S12	H19		(貝)		485	35917.806	25774.989	3.515	Q15	H19		シタミ	
396	35907.263	25757.693	3.010	S12	H19		ウツメ		486	35917.780	25774.900	3.560	Q15	H19		シタミ	
397	35907.451	25757.661	3.058	S12	H19		ウツメ		487	35917.694	25774.874	3.554	Q15	H19		シタミ	
398	35907.562	25757.763	3.073	S12	H19		ムカシ		488	35917.813	25774.655	3.538	Q15	H19		ウツメ	
399	35907.629	25757.649	3.092	S12	H19		シタミ		489	35917.768	25774.664	3.525	Q15	H19		ウツメ	
400	35907.763	25757.838	3.068	S12	H19		ヒメヤコ		490	35917.760	25774.496	3.538	Q15	H19		ウツメ	
401	35907.756	25757.737	3.058	S12	H19		シタミ		491	35917.896	25774.380	3.684	Q15	H19		シタミ	
402	35907.440	25757.286	3.065	S12	H19		ササバテラ		492	35918.020	25774.391	3.559	Q15	H19		ウツメ	
403	35907.555	25757.238	3.074	S12	H19		磨石		493	35917.378	25774.190	3.520	Q15	H19		シタミ	
404	35907.698	25757.436	3.078	S12	H19		ウツメ		494	35917.281	25774.217	3.516	Q15	H19		ササバテラ	
405	35907.731	25757.140	3.038	S12	H19		ウツメ		495	35917.404	25774.059	3.469	Q15	H19		ササバテラ	
406	35908.002	25757.070	3.067	S12	H19		イマダラ		496	35918.104	25774.004	3.489	Q15	H19		ウツメ	
407	35907.799	25758.114	3.078	S12	H19		シタミ		497	35918.236	25774.020	3.537	Q15	H19		シタミ	
408	35908.029	25758.263	3.091	S12	H19		シタミ		498	35918.281	25773.886	3.506	Q15	H19		シタミ	
409	35908.021	25758.454	3.094	S12	H19		シタミ		499	35918.253	25773.722	3.466	Q15	H19		シタミ	
410	35908.794	25757.890	3.131	S12	H19		ウツメ		500	35918.339	25773.726	3.451	Q15	H19		シタミ	
411	35907.051	25758.776	3.044	S12	H19		リョウコウ		501	35918.596	25773.925	3.441	Q15	H19		シタミ	
412	35908.423	25784.724	3.694	S17	H19		石材		502	35918.472	25774.224	3.447	Q15	H19		ササバテラ	
413	35909.016	25785.541	3.766	S18	H19		シタミ		503	35918.498	25774.700	3.541	Q15	H19		シヤコウ	
414	35907.918	25785.923	3.768	S18	H19		ホジヤコ		504	35918.462	25774.813	3.633	Q15	H19		シヤコウ	
415	35907.908	25785.798	3.709	S18	H19		シヤコウ		505	35918.553	25774.767	3.572	Q15	H19		ムカシ	
416	35907.859	25785.994	3.714	S18	H19		シタミ		506	35918.541	25774.856	3.531	Q15	H19		シタミ	
417	35907.837	25785.844	3.738	S18	H19		ウツメ		507	35918.539	25775.058	3.496	Q16	H19		シタミ	
418	35907.808	25785.899	3.736	S18	H19		ウツメ		508	35918.677	25775.059	3.526	Q16	H19		シタミ	
419	35907.165	25784.921	3.669	S17	H19		シタミ		509	35918.342	25775.276	3.521	Q16	H19		(貝)	
420	35907.151	25784.886	3.669	S17	H19		貝交 (ゴシタ)		510	35918.993	25774.432	3.485	Q15	H19		シタミ	
421	35906.799	25785.492	3.627	S18	H19		シタミ		511	35919.181	25774.855	3.540	Q15	H19		ウツメ	
422	35911.776	25785.592	3.670	R18	H19		イマダラ		512	35919.279	25774.858	3.528	Q15	H19		シタミ	
422	35911.776	25785.592	3.670	R18	H19		土器 (Ⅲ類)		513	35919.677	25774.486	3.495	Q15	H19		シタミ	
423	35911.873	25785.567	3.688	R18	H19		ササバテラ		514	35920.044	25775.184	3.525	P16	H19		ササバテラ	
424	35911.502	25785.957	3.662	R18	H19		ウツメ		515	35920.112	25773.956	3.495	P15	H19		イマダラ	
425	35911.287	25786.547	3.6														

第11表-4 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小ケリ ット	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小ケリ ット	地区	遺構	遺物	図番号
532	35907.815	25757.927	3.048	S12	H19		シャコウ		623	35917.760	25781.494	3.498	Q17	H19		ジナミ	
533	35908.059	25757.109	3.050	S12	H19		土器 (IV類)		624	35923.990	25773.555	3.402	P15	H19		自然礫	
534	35908.211	25757.229	3.069	S12	H19		(土器) 石器 (石斧)		625	35911.939	25787.325	3.685	R18	H19		小ヤクボラ 灰カクイ	
535	35908.123	25757.426	3.069	S12	H19		カクイ (肋骨板・緑甲板)		626	35912.787	25786.334	3.686	R18	H19		ジナミ	
536	35908.749	25757.973	3.073	S12	H19		自然礫		627	35912.832	25786.562	3.696	R18	H19		ジナミ	
537	35908.909	25758.238	3.103	S12	H19		骨		628	35912.632	25786.545	3.680	R18	H19		チャウチササエ	
538	35909.060	25758.073	3.101	S12	H19		土器 (IV類)	第46図68	629	35912.432	25787.279	3.686	R18	H19		チャウチササエ	
539	35907.932	25757.898	3.078	S12	H19		(貝)		630	35910.943	25788.400	3.679	R18	H19		ホダケラサ	
540	35907.091	25759.780	3.177	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図50	631	35910.624	25788.811	3.717	R18	H19		ヒメノヤ	
541	35907.025	25759.843	3.199	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図59	632	35910.568	25788.629	3.717	R18	H19		ジナミ	
542	35907.134	25759.962	3.138	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図56	633	35910.442	25788.230	3.692	R18	H19		ジナミ	
543	35906.932	25759.916	3.195	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ジナミ)	第83図57	634	35910.259	25788.223	3.702	R18	H19		ヒメノヤ	
544	35906.911	25759.858	3.223	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図60	635	35910.306	25788.402	3.722	R18	H19		ヒメノヤ	
545	35906.879	25759.825	3.222	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図49	636	35910.406	25788.364	3.685	R18	H19		ササバテラ	
546	35906.829	25759.807	3.217	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ジナミ)	第83図51	637	35910.293	25788.551	3.706	R18	H19		ヒメノヤ	
547	35906.835	25759.767	3.204	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図54	638	35910.596	25788.998	3.721	R18	H19		アノソクササメ	
548	35906.698	25759.847	3.198	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図53	639	35910.363	25788.868	3.727	R18	H19		アノソクササメ	
549	35906.949	25759.820	3.208	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図52	640	35910.116	25788.926	3.718	R18	H19		ジナミ	
550	35906.855	25760.057	3.129	S13	H19	SS05	ジナミ		641	35910.127	25788.355	3.706	R18	H19		ジナミ	
551	35906.889	25760.129	3.149	S13	H19	SS05	カササキイ		642	35909.608	25788.562	3.714	S18	H19		ジナミ	
552	35906.924	25759.917	3.203	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ジナミ)	第83図48	643	35909.667	25788.147	3.701	S18	H19		ヒメノヤ	
553	35906.982	25759.931	3.203	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ジナミ)	第83図55	644	35909.461	25788.228	3.709	S18	H19		ジナミ	
554	35906.980	25759.956	3.154	S12	H19	SS05	二枚貝有孔 (ヒメノヤ)	第83図58	645	35909.366	25788.244	3.716	S18	H19		ジナミ	
555	35907.027	25759.891	3.166	S12	H19	SS05	カササキイ		646	35909.431	25788.088	3.689	S18	H19		ヒメノヤ	
556	35906.818	25759.932	3.122	S12	H19	SS05	シナジジミ		647	35909.363	25788.052	3.691	S18	H19		ヒメノヤ	
557	35906.881	25759.785	3.135	S12	H19	SS05	ササバテラ		648	35909.255	25788.002	3.641	S18	H19		ヒメノヤ	
558	35906.935	25759.711	3.131	S12	H19	SS05	土器 (尖底)	第60図188	649	35909.040	25787.442	3.657	S18	H19		チャウチササエ	
559	35907.119	25759.822	3.166	S12	H19	SS05	土器 (IV類・尖底)	第47図70 第60図188	650	35908.994	25787.330	3.664	S18	H19		ヒメノヤ	
560	35910.412	25778.056	3.560	R16	H19		ジナミ		651	35908.782	25787.890	3.647	S18	H19		ジナミ	
561	35911.266	25777.405	3.565	R16	H19		(貝)		652	35908.993	25788.128	3.642	S18	H19		ササバテラ	
562	35912.338	25778.122	3.555	R16	H19		カササキイ		653	35908.582	25788.144	3.622	S18	H19		シャコウ	
563	35912.822	25778.118	3.594	R16	H19		ササバテラ		654	35908.683	25788.405	3.625	S18	H19		(貝)	
564	35912.903	25778.203	3.608	R16	H19		ササバテラ		655	35908.456	25788.358	3.660	S18	H19		ジナミ	
565	35912.392	25778.538	3.617	R16	H19		ササバテラ		656	35908.415	25788.452	3.647	S18	H19		ホダケラサ	
566	35913.215	25777.485	3.555	R16	H19		ササバテラ		657	35908.235	25788.506	3.620	S18	H19		有孔製品 (カササキイ) ササバテラ	
567	35912.061	25778.535	3.576	R16	H19		ジナミ		658	35908.248	25788.669	3.684	S18	H19		ジナミ	
568	35911.990	25778.483	3.569	R16	H19		ササバテラ		659	35908.102	25788.836	3.682	S18	H19		シャコウ	
569	35911.985	25778.612	3.578	R16	H19		ジナミ		660	35908.039	25788.724	3.644	S18	H19		ジナミ	
570	35911.889	25778.426	3.565	R16	H19		ササバテラ		661	35907.848	25788.567	3.618	S18	H19		ジナミ	
571	35911.762	25778.783	3.572	R16	H19		ササバテラ		662	35907.809	25788.659	3.624	S18	H19		ジナミ 小ヤクボラ	
572	35912.308	25779.017	3.576	R16	H19		ササバテラ		663	35907.654	25788.688	3.654	S18	H19		チャウチササエ	
573	35914.220	25778.330	3.565	R16	H19		ササバテラ		664	35907.869	25788.205	3.606	S18	H19		ジナミ	
574	35914.329	25778.327	3.561	R16	H19		ササバテラ		665	35907.684	25788.617	3.627	S18	H19		ニホササキイ	
575	35913.684	25779.888	3.663	R16	H19		ジナミ		666	35907.352	25788.460	3.567	S18	H19		ジナミ	
576	35913.028	25779.977	3.604	R16	H19		ジナミ		667	35907.261	25788.616	3.668	S18	H19		リウキョウササエ	
577	35912.854	25780.114	3.610	R17	H19		ジナミ		668	35907.067	25788.598	3.521	S18	H19		シャコウ	
578	35912.812	25780.176	3.615	R17	H19		ジナミ		669	35906.839	25788.251	3.580	S18	H19		ササバテラ	
579	35912.839	25780.260	3.620	R17	H19		ジナミ		670	35907.098	25788.104	3.594	S18	H19		ササバテラ	
580	35912.901	25780.270	3.625	R17	H19		(貝)		671	35907.216	25788.063	3.650	S18	H19		ササバテラ	
581	35914.101	25780.310	3.682	R17	H19		チャウチササエ		672	35907.744	25787.844	3.804	S18	H19		アノソクササメ	
582	35913.910	25780.800	3.721	R17	H19		ヒメノヤ		673	35906.713	25787.653	3.472	S18	H19		シャコウ	
583	35913.651	25780.784	3.652	R17	H19		シャコウ		674	35907.530	25788.948	3.843	S18	H19		ジナミ	
584	35914.214	25781.998	3.657	R17	H19		シャコウ		675	35907.680	25788.993	3.817	S18	H19		シャコウ	
585	35914.667	25782.411	3.743	R17	H19		シャコウ		676	35907.643	25789.061	3.767	S18	H19		ジナミ	
586	35912.807	25778.904	3.632	R16	H19	SS06	ジナミ		677	35907.755	25789.075	3.778	S18	H19		ジナミ	
587	35912.877	25779.009	3.626	R16	H19	SS06	ジナミ		678	35907.657	25789.218	3.783	S18	H19		ヤクボラ	
588	35912.855	25779.127	3.672	R16	H19	SS06	ササバテラ		679	35907.827	25789.436	3.796	S18	H19		ササバテラ	
589	35912.930	25779.345	3.663	R16	H19	SS06	ササバテラ		680	35907.924	25789.376	3.828	S18	H19		ジナミ	
590	35912.579	25779.129	3.674	R16	H19	SS06	ササバテラ		681	35907.887	25789.230	3.800	S18	H19		シナジジミ	
591	35912.624	25779.243	3.652	R16	H19	SS06	ササバテラ		682	35908.071	25789.239	3.718	S18	H19		ジナミ	
592	35912.736	25779.373	3.656	R16	H19	SS06	ジナミ		683	35908.154	25789.093	3.686	S18	H19		ジナミ	
593	35912.802	25779.497	3.637	R16	H19	SS06	ササバテラ		684	35908.089	25789.363	3.842	S18	H19		ジナミ	
594	35912.664	25779.439	3.659	R16	H19	SS06	ササバテラ		685	35908.080	25789.443	3.801	S18	H19		ヒメノヤ	
595	35912.286	25778.219	3.578	R16	H19		パイカ		686	35908.327	25789.169	3.775	S18	H19		ジナミ	
596	35913.979	25781.016	3.687	R17	H19		土器口縁部	第56図132	687	35908.399	25789.264	3.845	S18	H19		ジナミ	
597	35912.810	25780.213	3.586	R17	H19		イシノボラ (上腕骨)		688	35908.493	25789.078	3.820	S18	H19		ヒメノヤ	
598	35916.871	25781.762	3.644	Q17	H19		ササバテラ		689	35908.592	25789.070	3.736	S18	H19		アノソクササメ	
599	35917.001	25781.824	3.623	Q17	H19		シャコウ		690	35908.714	25789.156	3.734	S18	H19		スイノギイ	
600	35917.053	25782.000	3.518	Q17	H19		ジナミ		691	35908.621	25789.277	3.740	S18	H19		ジナミ	
601	35918.136	25782.057	3.498	Q17	H19		ヤクボラ		692	35908.539	25789.414	3.751	S18	H19		ヒメノヤ	
602	35918.017	25781.150	3.507	Q17	H19		ササバテラ		693	35908.668	25788.793	3.734	S18	H19		ヒメノヤ	
603	35918.363	25781.040	3.498	Q17	H19		小ヤクボラ		694	35908.823	25788.765	3.690	S18	H19		ササバテラ	
604	35918.460	25781.403	3.485	Q17	H19		リウキョウササエ		695	35908.852	25788.663	3.719	S18	H19		チャウチササエ	
605	35918.934	25781.167	3.499	Q17	H19		カササキイ		696	35908.965	25788.700	3.707	S18	H19		ホダケラサ	

第11表-5 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号
715	35908.814	25790.407	3.847	S19	H19		朽葉ベテ		806	35907.923	25789.277	3.694	S18	H19		土器 (Ⅱ類)	
716	35908.843	25790.246	3.776	S19	H19		シコウ		807	35906.501	25787.462	3.455	S18	H19		土器 (Ⅱ類)	
717	35908.665	25790.294	3.692	S19	H19		朽葉ベテ		808	35906.025	25787.461	3.662	S18	H19		土器 (Ⅱ類)	
718	35908.809	25790.110	3.865	S19	H19		朽葉ベテ		809	35890.940	25791.965	3.583	B19	H19		シタミ	
719	35908.786	25790.066	3.833	S19	H19		シタミ		810	35890.822	25793.129	3.581	B19	H19		シコウ	
720	35908.761	25790.150	3.790	S19	H19		シタミ		811	35893.014	25795.317	3.636	B20	H19		ヒゾヤ	
721	35908.697	25790.120	3.833	S19	H19		シタミ		812	35893.244	25795.166	3.655	B20	H19		シタミ	
722	35908.727	25789.999	3.821	S18	H19		ヒゾヤ		813	35893.401	25795.284	3.678	B20	H19		シコウ	
723	35908.622	25790.081	3.896	S19	H19		シタミ		814	35894.045	25792.277	3.531	B19	H19		シタミ	
724	35908.499	25790.021	3.739	S19	H19		ヒゾヤ		815	35894.450	25792.394	3.569	B19	H19		ヒゾヤ	
725	35908.647	25789.769	3.742	S18	H19		ムカシ類		816	35895.707	25790.752	3.611	A19	H19		(貝)	
726	35908.459	25789.791	3.760	S18	H19		(貝)		817	35895.646	25792.588	3.637	A19	H19		ヒゾヤ	
727	35908.400	25789.888	3.831	S18	H19		シタミ		818	35895.006	25793.840	3.640	A19	H19		シタミ	
728	35908.279	25789.925	3.841	S18	H19		ゴキウズガイ		819	35896.818	25793.992	3.560	A19	H19		ヒゾヤ	
729	35908.223	25789.868	3.798	S18	H19		シタミ		820	35896.854	25794.103	3.561	A19	H19		ヒゾヤ	シタミ
730	35908.232	25789.741	3.852	S18	H19		シコウ		821	35896.971	25794.197	3.582	A19	H19		シタミ	
731	35908.330	25789.566	3.846	S18	H19		ムカシ類		822	35897.023	25793.844	3.573	A19	H19		シタミ	
732	35908.674	25790.517	3.992	S19	H19		シタミ		823	35897.150	25793.766	3.596	A19	H19		シタミ	
733	35908.757	25790.454	3.958	S19	H19		シタミ		824	35897.312	25793.727	3.595	A19	H19		ヒゾヤ	
734	35908.774	25790.518	3.995	S19	H19		シタミ		825	35897.324	25793.438	3.564	A19	H19		ヒゾヤ	
735	35908.810	25790.519	3.966	S19	H19		ヒゾヤ		826	35894.346	25796.263	3.612	B20	H19		シタミ	
736	35908.852	25790.546	3.955	S19	H19		朽葉ベテ		827	35894.272	25796.458	3.638	B20	H19		シタミ	
737	35908.800	25790.615	4.004	S19	H19		ヒゾヤ		828	35894.664	25796.408	3.654	B20	H19		シコウ	
738	35912.049	25787.905	3.711	R18	H19		シタミ		829	35894.573	25796.699	3.658	B20	H19		ヒゾヤ	
739	35910.728	25788.578	3.693	R18	H19		朽葉ベテ		830	35894.657	25796.434	3.654	B20	H19		(貝)	
740	35910.087	25787.715	3.666	R18	H19		シタミ		831	35894.473	25796.255	3.651	B20	H19		ヒゾヤ	
741	35909.902	25788.254	3.700	S18	H19		シタミ		832	35895.035	25797.746	3.741	A20	H19		ヒゾヤ	
742	35909.764	25788.394	3.710	S18	H19		シタミ		833	35894.649	25797.313	3.718	B20	H19		ヒゾヤ	
743	35909.761	25788.506	3.724	S18	H19		シタミ		834	35895.118	25796.777	3.706	A20	H19		ヒゾヤ	
744	35908.825	25787.774	3.624	S18	H19		シタミ		835	35895.447	25796.857	3.728	A20	H19		シタミ	
745	35908.740	25788.099	3.643	S18	H19		シタミ		836	35895.513	25796.761	3.743	A20	H19		シタミ	
746	35909.456	25790.215	3.840	S19	H19		ヒゾヤ		837	35895.814	25796.491	3.726	A20	H19		シタミ	
747	35909.261	25788.058	3.646	S18	H19		シタミ		838	35895.880	25796.391	3.726	A20	H19		シタミ	
748	35908.658	25790.119	3.820	S19	H19		シタミ		839	35895.916	25796.105	3.702	A20	H19		ヒゾヤ	
749	35908.757	25790.070	3.815	S19	H19		シタミ		840	35895.240	25795.764	3.654	A20	H19		シタミ	
750	35908.845	25790.160	3.884	S19	H19		朽葉ベテ		841	35895.297	25795.583	3.672	A20	H19		シタミ	
751	35908.932	25790.236	3.884	S19	H19		ヌノガイ		842	35895.483	25795.637	3.658	A20	H19		シタミ	
752	35908.932	25790.072	3.846	S19	H19		ヒョウキョウガイ		843	35897.561	25794.264	3.574	A19	H19		シタミ	
753	35909.088	25790.198	3.799	S19	H19		ヒゾヤ		844	35897.693	25794.108	3.655	A19	H19		シタミ	
754	35909.064	25789.974	3.777	S18	H19		ヒゾヤ		845	35897.548	25793.830	3.573	A19	H19		シタミ	
755	35909.280	25790.400	3.686	S19	H19		朽葉ベテ		846	35897.348	25793.631	3.579	A19	H19		シタミ	
756	35909.329	25790.171	3.799	S19	H19		シタミ		847	35897.526	25793.531	3.591	A19	H19		シタミ	
757	35909.332	25790.102	3.830	S19	H19		イソノブタ (下顎骨・上腕骨)		848	35897.484	25793.415	3.585	A19	H19		シタミ	
758	35909.349	25790.072	3.860	S19	H19		(骨)		849	35897.697	25793.451	3.582	A19	H19		シタミ	
759	35909.311	25790.025	3.843	S19	H19		イソノブタ (脛骨)		850	35897.981	25793.979	3.635	A19	H19		シタミ	
760	35909.407	25789.956	3.814	S18	H19		土器 (Ⅰ類)		851	35898.130	25794.082	3.666	A19	H19		シタミ	
761	35907.738	25787.969	3.786	S18	H19		シタミ		852	35898.286	25793.827	3.582	A19	H19		シタミ	
762	35907.695	25787.952	3.779	S18	H19		おダラ		853	35898.745	25792.839	3.697	A19	H19		ヒゾヤ	
763	35907.590	25787.905	3.802	S18	H19		シタミ		854	35898.735	25793.053	3.592	A19	H19		シタミ	
764	35907.629	25787.897	3.778	S18	H19		シタミ		855	35899.207	25793.287	3.795	A19	H19		シタミ	
765	35907.594	25787.818	3.547	S18	H19		シタミ		856	35899.204	25792.713	3.703	A19	H19		シコウ	
766	35907.511	25787.823	3.518	S18	H19		シタミ		857	35899.111	25792.584	3.618	A19	H19		シタミ	
767	35907.002	25787.910	3.499	S18	H19		シタミ		858	35898.937	25792.096	3.605	A19	H19		シタミ	
768	35907.205	25787.815	3.507	S18	H19		シタミ		859	35898.887	25791.908	3.615	A19	H19		シタミ	
769	35907.111	25787.816	3.497	S18	H19		シタミ		860	35899.327	25791.595	3.608	A19	H19		シタミ	
770	35907.180	25787.911	3.525	S18	H19		ヒマダラ		861	35899.380	25791.720	3.608	A19	H19		シタミ	
771	35907.164	25788.281	3.556	S18	H19		シタミ		862	35899.640	25791.936	3.594	A19	H19		シタミ	
772	35907.806	25788.381	3.592	S18	H19		ヒマダラ		863	35899.313	25792.861	3.615	A19	H19		シタミ	
773	35907.492	25788.959	3.687	S18	H19		シタミ		864	35899.358	25792.667	3.657	A19	H19		シタミ	
774	35908.372	25788.818	3.667	S18	H19		イソノブタ (横骨)		865	35899.637	25792.900	3.629	A19	H19		シタミ	
775	35909.766	25788.482	3.697	S18	H19		シタミ ヒゾヤ		866	35899.723	25792.746	3.620	A19	H19		シタミ	
776	35901.369	25791.957	2.544	T19	H19		シタミ		867	35899.984	25792.678	3.636	A19	H19		シタミ	
777	35909.710	25788.768	3.679	S18	H19		シタミ		868	35899.695	25792.425	3.609	A19	H19		シタミ	
778	35909.408	25789.063	3.656	S18	H19		朽葉ベテ		869	35899.778	25792.426	3.626	A19	H19		シタミ	
779	35909.315	25789.113	3.690	S18	H19		シタミ		870	35900.353	25792.483	3.770	T19	H19		シタミ	
780	35908.806	25788.341	3.628	S18	H19		シタミ		871	35900.217	25792.144	3.581	T19	H19		ヒゾヤ	
781	35909.390	25789.845	3.716	S18	H19		ヒマダラ		872	35900.300	25792.080	3.573	T19	H19		ヒゾヤ	
782	35909.122	25790.303	3.782	S19	H19		ヒゾヤ		873	35900.354	25791.940	3.560	T19	H19		シタミ	
783	35908.768	25790.438	3.827	S19	H19		シタミ		874	35900.867	25791.560	3.566	T19	H19		ヒゾヤ	
784	35908.744	25790.403	3.789	S19	H19		ヒゾヤ		875	35900.417	25793.044	3.769	T19	H19		ヒゾヤ	
785	35908.684	25790.107	3.780	S19	H19		イソノブタ (脛骨)		876	35900.765	25793.144	3.776	T19	H19		シタミ	
786	35908.591	25789.985	3.717	S18	H19		ヒゾヤ		877	35895.629	25797.192	3.755	A20	H19		シタミ	
787	35908.876	25789.885	3.737	S18	H19		自然産		878	35896.019	25797.450	3.743	A20	H19		シタミ	
788	35908.873	25790.075	3.854	S19	H19		石器 (石斧)	第64図15	879	35896.081	25797.546	3.747	A20	H19		(貝)	
789	35908.961	25789.290	3.726	S18	H19		石器 (石材)		880	35896.201	25797.517	3.749	A20	H19		シタミ	
790	35908.204	25789.843	3.756	S18	H19		シタミ		881	35896.212	25797.523	3.737	A20	H19		シタミ	
791	35910.351	25785.443	3.593	R18	H19		土器 (Ⅱ類)		882	35895.440	25796.850	3.733	A20	H19		シコ	

第11表-6 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号
898	35901.708	25793.129	3.848	T19	H19		シタミ		988	35895.833	25794.907	3.633	A19	H19	SS04	アラスノケモノ スダレマダリ	
899	35901.663	25793.237	3.820	T19	H19		ヒダノヤ		989	35895.802	25794.865	3.620	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
900	35901.702	25793.553	3.477	T19	H19		ヤコウ		990	35895.905	25794.908	3.634	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
901	35901.538	25793.727	3.520	T19	H19		ヒダノヤ		991	35895.904	25794.974	3.642	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
902	35901.621	25793.986	3.457	T19	H19		ヒダノヤ		992	35895.934	25795.019	3.623	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
903	35901.436	25793.886	3.593	T19	H19		ヒダノヤ		993	35895.994	25794.923	3.635	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
904	35901.272	25793.511	3.707	T19	H19		シタミ		994	35895.958	25794.973	3.599	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
905	35901.254	25793.462	3.700	T19	H19		シタミ		995	35895.903	25794.896	3.628	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
906	35901.166	25793.500	3.671	T19	H19		シタミ		996	35895.854	25794.966	3.617	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
907	35901.172	25793.528	3.680	T19	H19		シタミ		997	35895.819	25795.053	3.623	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
908	35901.167	25793.800	3.729	T19	H19		ヒダノヤ		998	35895.827	25795.131	3.622	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
909	35900.923	25794.270	3.781	T19	H19		ヒダノヤ		999	35895.866	25795.056	3.617	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
910	35900.822	25793.704	3.701	T19	H19		シタミ		1000	35895.923	25795.033	3.613	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
911	35900.680	25793.742	3.697	T19	H19		シタミ		1001	35895.917	25795.024	3.608	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
912	35900.579	25794.043	3.705	T19	H19		シタミ		1002	35895.911	25794.920	3.619	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
913	35900.458	25793.954	3.708	T19	H19		シタミ		1003	35895.936	25794.917	3.598	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
914	35900.448	25794.537	3.780	T19	H19		ヒダノヤ		1004	35895.885	25794.944	3.612	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
915	35900.440	25794.460	3.764	T19	H19		ヒダノヤ		1005	35895.841	25794.995	3.612	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
916	35900.217	25794.620	3.770	T19	H19		ヒダノヤ		1006	35895.661	25794.986	3.612	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
917	35900.258	25795.016	3.773	T20	H19		シタミ		1007	35895.526	25794.988	3.590	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
918	35900.032	25795.047	3.730	T20	H19		ヒダノヤ		1008	35895.599	25794.831	3.576	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
919	35899.801	25794.880	3.694	A19	H19		シタミ		1009	35895.643	25794.875	3.586	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
920	35899.843	25795.047	3.751	A20	H19		ヒダノヤ		1010	35895.684	25794.898	3.597	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
921	35899.652	25795.487	3.760	A20	H19		シタミ		1011	35895.619	25794.916	3.588	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
922	35899.537	25795.516	3.766	A20	H19		シタミ		1012	35895.696	25794.735	3.570	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
923	35899.157	25795.294	3.706	A20	H19		シタミ		1013	35895.662	25794.836	3.574	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
923	35899.157	25795.294	3.706	A20	H19		(貝)		1014	35895.824	25794.750	3.594	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
924	35898.327	25795.463	3.705	A20	H19		(貝)		1015	35895.841	25794.834	3.599	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
925	35898.412	25796.188	3.660	A20	H19		ヤコウ		1016	35895.785	25794.836	3.598	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
926	35897.818	25798.310	3.649	A20	H19		ヒダノヤ		1017	35895.707	25794.851	3.573	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
927	35897.441	25798.540	3.689	A20	H19		ヒダノヤ		1018	35895.716	25794.920	3.601	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
928	35897.149	25798.560	3.698	A20	H19		ヒダノヤ		1019	35895.701	25794.935	3.601	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
929	35897.152	25798.692	3.703	A20	H19		シタミ		1020	35895.834	25794.950	3.615	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
930	35894.353	25796.301	3.619	B20	H19		シタミ		1021	35895.669	25794.868	3.568	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
931	35900.898	25792.799	3.616	T19	H19		シタミ		1022	35895.632	25795.071	3.603	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
932	35898.259	25790.749	3.606	A19	H19		ヒダノヤ		1023	35895.612	25794.849	3.563	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
933	35895.811	25787.402	3.490	A18	H19		ヒダノヤ		1024	35895.856	25794.911	3.604	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
934	35899.255	25794.116	3.718	A19	H19		シタミ		1025	35895.748	25794.950	3.596	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
935	35896.060	25796.828	3.714	A20	H19		シタミ		1026	35895.719	25794.788	3.561	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
935	35896.060	25796.828	3.714	A20	H19		アラスノケモノ		1027	35895.721	25794.881	3.583	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
936	35895.513	25794.708	3.641	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1028	35895.618	25794.844	3.564	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
937	35895.570	25794.764	3.642	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1029	35895.531	25794.792	3.569	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
938	35895.579	25794.878	3.642	A19	H19	SS04	(貝)		1030	35895.574	25794.751	3.564	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
939	35895.563	25794.906	3.649	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1031	35895.616	25794.907	3.566	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
940	35895.453	25794.947	3.621	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1032	35895.685	25794.817	3.564	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
941	35895.540	25794.965	3.641	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1033	35895.692	25794.770	3.552	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
942	35895.637	25794.813	3.648	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1034	35895.719	25794.875	3.570	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
943	35895.678	25794.655	3.604	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1035	35895.804	25794.773	3.569	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
944	35895.589	25794.700	3.628	A19	H19	SS04	(貝)		1036	35895.797	25794.823	3.574	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
945	35895.656	25794.845	3.639	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1037	35895.629	25794.857	3.581	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
946	35895.694	25794.745	3.640	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1038	35895.763	25794.883	3.592	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
947	35895.651	25794.788	3.630	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1039	35895.766	25794.886	3.579	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
948	35895.577	25794.934	3.622	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1040	35895.725	25794.859	3.575	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
949	35895.491	25794.813	3.582	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1041	35895.690	25794.926	3.574	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
950	35895.410	25794.825	3.594	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1042	35895.773	25794.770	3.557	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
951	35895.369	25795.033	3.605	A20	H19	SS04	アラスノケモノ		1043	35895.782	25794.730	3.552	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
952	35895.340	25795.128	3.624	A20	H19	SS04	アラスノケモノ		1044	35895.850	25794.853	3.578	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
953	35895.414	25795.107	3.610	A20	H19	SS04	アラスノケモノ		1045	35895.865	25794.988	3.612	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
954	35895.608	25794.908	3.615	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1046	35895.963	25794.975	3.602	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
955	35895.537	25794.759	3.596	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1047	35895.908	25794.950	3.584	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
956	35895.493	25794.890	3.583	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1048	35895.865	25794.953	3.602	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
957	35895.491	25794.699	3.583	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1049	35895.851	25794.936	3.596	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
958	35895.462	25794.816	3.574	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1050	35895.811	25794.959	3.604	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
959	35895.563	25795.029	3.598	A20	H19	SS04	アラスノケモノ		1051	35895.898	25794.871	3.585	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
960	35895.437	25795.223	3.621	A20	H19	SS04	アラスノケモノ		1052	35895.864	25794.959	3.599	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
961	35895.520	25794.939	3.587	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1053	35895.850	25794.880	3.575	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
962	35895.661	25794.901	3.620	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1054	35895.767	25794.939	3.569	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
963	35895.668	25794.869	3.620	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1055	35895.861	25794.848	3.576	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
964	35895.789	25794.730	3.612	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1056	35895.910	25794.936	3.595	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
965	35895.729	25794.920	3.617	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1057	35895.905	25794.931	3.581	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
966	35895.708	25794.979	3.622	A19	H19	SS04	アラスノケモノ		1058	35895.886	25794.918	3.575	A19	H19	SS04	アラスノケモノ	
967	35895.594	25795.170	3.636	A20	H19	SS04	アラスノケモノ		1059	35895.958	25795.097	3.596	A20	H19	SS04	アラスノケモノ	
968	35895.732	25795.201	3.621	A20	H19	SS04	アラスノケモノ		1060	35895.963	25795.206	3.653	A20	H19</			

第11表-7 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号
1080	35896.124	25795.081	3.620	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1172	35893.912	25795.779	3.642	B20	H19		ササバテリ	
1081	35896.091	25795.096	3.609	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1173	35895.624	25797.272	3.751	A20	H19		ニシキズガキ	
1082	35895.927	25794.886	3.560	A19	H19	SS04	カリワケイ		1174	35898.938	25796.810	3.681	A20	H19		ササバテリ	
1083	35896.116	25795.066	3.607	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1175	35896.617	25797.897	3.738	A20	H19		クロステドキ	
1084	35896.094	25795.117	3.585	A20	H19	SS04	オビノヤコ		1176	35896.430	25797.049	3.717	A20	H19		クロステドキ	
1085	35896.074	25795.073	3.587	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1177	35896.675	25796.704	3.714	A20	H19		クロステドキ	
1086	35896.042	25795.069	3.567	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1178	35898.085	25796.214	3.670	A20	H19		イサノイ	
1087	35895.937	25795.233	3.616	A20	H19	SS04	クモガキ		1179	35899.079	25795.753	3.694	A20	H19		クロステドキ	
1088	35895.924	25795.171	3.588	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1180	35898.816	25794.440	3.682	A19	H19		アノボノクワシメ	
1089	35896.027	25795.321	3.646	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1181	35895.112	25797.429	3.696	A20	H19		アノボノクワシメ	
1090	35896.105	25795.184	3.623	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1182	35897.168	25793.631	3.559	A19	H19		アノボノクワシメ	
1091	35896.001	25795.023	3.573	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1183	35899.149	25796.059	4.259	A20	H19		ササバテリ	
1092	35896.142	25795.087	3.577	A20	H19	SS04	リュウキユウケツトリ		1184	35899.115	25795.323	3.686	A20	H19		アノボノクワシメ	
1093	35896.227	25795.159	3.610	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1185	35898.055	25796.199	3.664	A20	H19		(貝)	
1094	35896.224	25795.048	3.602	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1186	35899.085	25796.900	3.609	A20	H19		(貝)	
1095	35896.276	25795.067	3.621	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1187	35896.517	25797.886	3.742	A20	H19		(貝)	
1096	35896.285	25795.124	3.598	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1188	35897.150	25798.169	3.687	A20	H19		スズガキ	
1097	35896.281	25795.132	3.594	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1189	35896.437	25797.998	3.726	A20	H19		スズガキ	
1098	35896.256	25795.223	3.620	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1190	35896.981	25796.033	3.660	A20	H19		スズガキ	
1099	35896.171	25795.258	3.637	A20	H19	SS04	イサキダラ		1191	35896.315	25795.791	3.726	A20	H19		スズガキ	
1100	35896.105	25794.804	3.585	A19	H19	SS04	ササバテリ		1192	35899.962	25794.147	3.736	A19	H19		クモガキ	
1101	35896.254	25794.962	3.612	A19	H19	SS04	ササバテリ アラスノケマン		1193	35895.280	25797.923	3.710	A20	H19		クモガキ	
1102	35896.426	25794.915	3.574	A19	H19	SS04	イサキダラ		1194	35895.494	25797.817	3.694	A20	H19		アツクガキ	
1103	35895.896	25795.413	3.653	A20	H19	SS04	有孔製品(おたけイ) オビノヤコ	第81図27	1195	35896.207	25796.425	3.738	A20	H19		クモガキ	
1104	35896.120	25795.259	3.609	A20	H19	SS04	クモガキ		1196	35897.468	25796.296	3.665	A20	H19		クモガキ	
1105	35896.135	25795.255	3.609	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1197	35898.624	25794.610	3.678	A19	H19		クモガキ	
1106	35896.171	25795.250	3.596	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1198	35896.044	25797.725	3.709	A20	H19		土器(Ⅰ類・Ⅱ類)	第45図59
1107	35896.217	25795.097	3.567	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1199	35895.877	25797.712	3.749	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第42図40
1108	35896.383	25795.104	3.606	A20	H19	SS04	リュウキユウケツトリ		1200	35895.748	25797.784	3.730	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第42図40
1109	35896.391	25795.136	3.616	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1201	35895.712	25797.627	3.745	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第42図40
1110	35896.388	25795.144	3.605	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1202	35895.745	25797.551	3.710	A20	H19		土器(乳)	第60図192
1111	35896.268	25795.002	3.588	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1203	35895.806	25797.470	3.678	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1112	35896.292	25795.164	3.584	A20	H19	SS04	スズガキ		1204	35895.877	25797.391	3.686	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第42図40
1113	35896.222	25795.210	3.557	A20	H19	SS04	チョウセンキキエ		1205	35896.001	25797.463	3.758	A20	H19		土器(Ⅰ類・Ⅱ類)	第42図40 第45図59
1114	35896.253	25794.927	3.574	A19	H19	SS04	スバノマダケリ		1206	35895.222	25797.882	3.714	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1115	35896.168	25795.279	3.568	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1207	35895.179	25797.778	3.711	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1116	35896.147	25795.221	3.554	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1208	35895.045	25797.733	3.701	A20	H19		土器(Ⅰ類・Ⅱ類)	第42図40 第45図59
1117	35896.193	25795.201	3.559	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1209	35895.054	25797.648	3.737	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第42図40
1118	35896.174	25795.333	3.591	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1210	35895.164	25797.618	3.723	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1119	35896.344	25795.203	3.597	A20	H19	SS04	クモガキ		1211	35895.005	25797.565	3.716	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1120	35896.056	25795.347	3.582	A20	H19	SS04	ヤスガキ		1212	35895.126	25797.434	3.705	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1121	35895.858	25795.335	3.599	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1213	35895.189	25797.264	3.719	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1122	35896.051	25795.403	3.592	A20	H19	SS04	コウバノマダケリ		1214	35895.021	25797.322	3.713	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第42図40
1123	35896.353	25795.111	3.585	A20	H19	SS04	(貝)		1215	35894.903	25797.363	3.718	B20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1124	35896.467	25795.018	3.568	A20	H19	SS04	カリワケイ		1216	35894.805	25797.548	3.714	B20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1125	35896.531	25794.990	3.561	A19	H19	SS04	カリワケイ		1217	35893.606	25796.617	3.621	B20	H19		土器(Ⅰ類)	
1126	35896.326	25795.241	3.592	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1218	35893.366	25796.571	3.590	B20	H19		土器(Ⅰ類・Ⅱ類)	
1127	35896.244	25794.970	3.564	A19	H19	SS04	アラスノケマン		1219	35893.073	25796.612	3.600	B20	H19		土器(Ⅱ類)	
1128	35896.082	25794.774	3.574	A19	H19	SS04	コシヤノガキ		1220	35895.390	25796.094	3.724	A20	H19		土器(Ⅰ類)	
1129	35896.380	25795.216	3.604	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1221	35896.672	25796.431	3.690	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第42図37
1130	35896.456	25795.235	3.709	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1222	35897.044	25796.229	3.673	A20	H19		土器(Ⅰ類)	
1131	35896.372	25795.241	3.680	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1223	35897.010	25796.173	3.670	A20	H19		土器(Ⅰ類)	
1132	35896.113	25795.469	3.711	A20	H19	SS04	アラスノケマン		1224	35897.530	25796.450	3.671	A20	H19		土器(Ⅰ類)	
1133	35896.049	25795.480	3.621	A20	H19	SS04	カリワケイ		1225	35897.592	25796.415	3.654	A20	H19		土器(Ⅰ類・Ⅱ類)	
1134	35896.351	25795.259	3.656	A20	H19	SS04	リュウキユウケツトリ		1226	35897.398	25796.259	3.664	A20	H19		土器(Ⅰ類・乳)	
1135	35896.236	25795.549	3.690	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1227	35897.459	25795.986	3.672	A20	H19		土器底部	
1136	35896.345	25795.315	3.692	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1228	35897.702	25796.026	3.647	A20	H19		(土器)	
1137	35896.347	25795.012	3.570	A20	H19	SS04	土器(Ⅰ類)	第42図39	1229	35897.518	25795.729	3.709	A20	H19		土器(Ⅱ類)	
1138	35895.530	25794.974	3.577	A19	H19	SS04	土器		1230	35898.679	25796.105	3.616	A20	H19		土器胴部	第57図140
1139	35895.794	25795.015	3.583	A20	H19	SS04	ウツ(中節骨)		1231	35898.429	25796.504	3.682	A20	H19		土器(先鳥系・乳)	
1140	35895.827	25795.325	3.626	A20	H19	SS04	イノシロアタ(椎骨)		1232	35901.802	25793.022	3.818	T19	H19		土器(Ⅳ類)	
1141	35895.762	25795.148	3.617	A20	H19	SS04	イノシロアタ(尺骨)		1233	35901.683	25794.034	3.669	T19	H19		(土器)	
1142	35895.722	25795.085	3.640	A20	H19	SS04	石器(磨石)		1234	35901.535	25794.049	3.495	T19	H19		土器(Ⅱ類)	
1143	35895.735	25795.141	3.585	A20	H19	SS04	スバノマダケリ		1235	35901.380	25793.869	3.638	T19	H19		土器(Ⅱ類)	
1144	35895.425	25794.749	3.561	A19	H19	SS04	スバノマダケリ		1236	35898.537	25793.574	3.586	A19	H19		土器口縁部	第41図30
1145	35895.612	25794.782	3.553	A19	H19	SS04	アラスノケマン		1237	35896.263	25796.676	3.722	A20	H19		イノシロアタ(尺骨) カガキ(歯骨)	
1146	35895.678	25794.803	3.532	A19	H19	SS04	スバノマダケリ		1238	35896.370	25796.254	3.680	A20	H19		イノシロ(四肢骨)	
1147	35895.786	25794.694	3.545	A19	H19	SS04	アラスノケマン		1239	35896.869	25795.761	3.686	A20	H19		不明骨	
1148	35895.996	25794.724	3.561	A19	H19	SS04	アラスノケマン		1240	35897.201	25795.856	3.694	A20	H19		イノシロアタ(尺骨)	
1149	35895.758	25795.206	3.575	A20	H19	SS04	リュウキユウケツトリ		1241	35897.550	25796.590	3.585	A20	H19		イノシロアタ(下顎骨)	
1150	35895.877	25795.091	3.554	A20	H19	SS04	(石器)		1242	35897.744	25796.567	3.588	A20	H19	</		

第11表-8 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号
1258	35898.727	25794.357	3.697	A19	H19		(骨)		1338	35899.467	25794.190	3.677	A19	H19		イソノ(環柱)	
1259	35899.732	25793.153	3.794	A19	H19		イソノアタ(上顎)		1339	35900.869	25793.856	3.659	T19	H19		(人骨)	
1260	35899.864	25793.518	3.788	A19	H19		不明骨		1340	35900.666	25794.186	3.656	T19	H19		イソノアタ(踵骨)	
1261	35899.620	25791.775	3.592	A19	H19		骨不明(椎体)		1341	35901.672	25792.863	3.633	T19	H19		イソノアタ(下顎骨)	
1262	35898.350	25793.572	3.581	A19	H19		土器(Ⅰ類)	第41図30	1342	35900.504	25792.845	3.572	T19	H19		石材	
1263	35898.597	25793.610	3.592	A19	H19		土器(Ⅰ類)	第41図30	1343	35898.393	25793.247	3.519	A19	H19		石材	
1264	35896.147	25797.108	3.671	A20	H19		イソノアタ(上顎)		1344	35898.433	25793.355	3.567	A19	H19		自然礫	
1265	35895.123	25795.640	3.633	A20	H19		イソノアタ(機骨・尺骨)		1345	35898.441	25793.502	3.563	A19	H19		石器	
1266	35894.651	25796.036	3.635	B20	H19		イソノアタ(下顎骨)		1346	35897.655	25794.215	3.547	A19	H19		自然礫	
1267	35894.884	25794.210	3.638	B19	H19		イ(下顎骨)		1347	35895.499	25794.688	3.556	A19	H19		石材	
1268	35895.533	25794.181	3.611	A19	H19		イソノアタ(上腕骨) イ(大腿骨)		1348	35896.110	25796.767	3.702	A20	H19		自然礫	
1269	35896.565	25791.379	3.586	A19	H19		イ(上顎骨)		1349	35901.779	25793.006	3.819	T19	H19		石材	
1270	35898.306	25793.163	3.584	A19	H19		イソノアタ(肩甲骨)		1350	35902.067	25792.887	3.285	T19	H19		石器(砥石)	第72図54
1271	35900.924	25791.936	3.567	T19	H19		ヤカ		1351	35901.031	25792.879	3.586	T19	H19		土器胴部	第47図181
1272	35900.085	25792.443	3.601	T19	H19		ヤカ		1352	35899.758	25793.317	3.685	A19	H19		土器(乳)	
1273	35899.526	25792.589	3.601	A19	H19		ヤカ		1353	35897.832	25793.371	3.529	A19	H19		土器(Ⅰ類)	第41図26
1274	35898.804	25792.422	3.550	A19	H19		ヤカ		1354	35896.866	25795.461	3.613	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第41図31
1275	35898.896	25792.831	3.601	A19	H19		ヒジヤ		1355	35895.863	25795.984	3.615	A20	H19		土器胴部	
1276	35898.470	25793.121	3.585	A19	H19		ヤカ		1356	35895.215	25796.273	3.629	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1277	35898.172	25793.171	3.579	A19	H19		ヤカ		1357	35895.414	25797.114	3.687	A20	H19		土器(Ⅰ類)	
1278	35896.176	25798.289	3.686	A20	H19		ヒジヤ		1358	35895.122	25797.374	3.702	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1279	35899.491	25792.555	3.582	A19	H19		ヤカ		1359	35895.092	25797.326	3.688	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1280	35896.083	25794.682	3.538	A19	H19		ヤカ		1360	35895.012	25797.327	3.695	A20	H19		(土器)	
1281	35895.401	25795.223	3.604	A20	H19		(貝)		1361	35895.190	25797.208	3.655	A20	H19		土器(Ⅱ類)	第45図59
1281	35895.401	25795.223	3.604	A20	H19		ヤカ		1362	35893.497	25796.646	3.589	B20	H19		土器(Ⅱ類)	
1282	35897.698	25793.844	3.529	A19	H19		ヤカ		1363	35893.980	25796.425	3.588	B20	H19		土器(弥生)	
1283	35897.707	25794.066	3.557	A19	H19		ヤカ		1364	35894.255	25796.453	3.587	B20	H19		土器(Ⅱ類)	
1283	35897.707	25794.066	3.557	A19	H19		ヤカ(背甲or腹甲) イソノ(四肢骨)		1365	35893.889	25796.671	3.599	B20	H19		土器(Ⅰ類)	第41図26
1284	35894.770	25792.756	3.551	B19	H19		ヤカ		1366	35896.683	25795.253	3.605	A20	H19		土器(Ⅰ類)	第41図26
1285	35892.051	25793.702	3.553	B19	H19		ヤカ		1367	35896.453	25794.266	3.560	A19	H19		(ヤカ)	
1286	35899.347	25792.357	3.549	A19	H19		ヤカ		1368	35897.406	25793.505	3.516	A19	H19		土器(弥生)	第40図13
1287	35900.647	25792.055	3.564	T19	H19		ヤカ		1369	35897.827	25793.179	3.509	A19	H19		土器(弥生)	第40図13
1288	35895.488	25795.865	3.791	A20	H19		石材		1370	35897.839	25793.308	3.534	A19	H19		土器(平底)	
1289	35895.598	25795.658	3.633	A20	H19		自然礫		1371	35897.911	25793.230	3.497	A19	H19		土器(Ⅰ類)	第41図26
1290	35901.240	25796.289	4.258	T20	H19		貝交(ゴカク)	第78図10	1372	35897.874	25793.165	3.477	A19	H19		土器(Ⅲ類)	
1291	35900.993	25794.973	3.816	T19	H19		石器(磨石)	第66図25	1373	35897.976	25793.279	3.523	A19	H19		土器(Ⅱ類)	
1292	35896.007	25797.620	3.753	A20	H19		石器		1374	35898.595	25794.463	3.616	A19	H19		土器(弥生)	第40図13
1293	35894.582	25795.910	3.630	B20	H19		石器(石斧)	第64図12	1375	35898.848	25794.852	3.635	A19	H19		土器(Ⅱ類)	
1294	35894.619	25796.618	3.607	B20	H19		自然礫		1376	35899.622	25794.483	3.684	A19	H19		土器(Ⅰ類)	
1295	35896.619	25796.644	3.663	A20	H19		ヤカ		1377	35899.963	25794.945	3.711	A19	H19		土器(Ⅲ類・Ⅳ類)	
1296	35899.961	25795.441	3.763	A20	H19		スズガ		1378	35900.970	25794.002	3.624	T19	H19		土器胴部	
1297	35899.843	25795.213	3.766	A20	H19		ヒジヤ		1379	35901.112	25793.694	3.649	T19	H19		土器(Ⅱ類・在池)	第39図10
1298	35897.078	25795.852	3.667	A20	H19		ヤカ		1380	35900.968	25793.238	3.619	T19	H19		土器(Ⅰ類)	
1299	35896.686	25795.872	3.656	A20	H19		ヤカ		1381	35901.360	25793.534	3.645	T19	H19		土器(Ⅱ類)	第44図52
1300	35896.008	25795.862	3.688	A20	H19		ヤカ		1382	35900.856	25793.590	3.647	T19	H19		土器(Ⅰ類)	第41図26
1301	35896.574	25795.934	3.656	A20	H19		ヤカ		1383	35901.490	25792.838	3.641	T19	H19		ヤカ	
1302	35895.064	25797.237	3.684	A20	H19		(貝)		1384	35901.356	25792.931	3.665	T19	H19		ヤカ	
1303	35895.025	25797.494	3.702	A20	H19		(土器)		1385	35901.356	25793.125	3.647	T19	H19		ヤカ	
1304	35897.955	25796.224	3.646	A20	H19		土器(Ⅱ類)		1386	35901.215	25793.070	3.702	T19	H19		ヤカ	
1305	35897.852	25796.267	3.644	A20	H19		イソノアタ(寛骨)		1387	35901.064	25793.412	3.688	T19	H19		ヤカ	
1306	35898.033	25796.350	3.650	A20	H19		イソノアタ(脛骨)		1388	35901.017	25793.313	3.681	T19	H19		ヤカ	
1307	35898.026	25796.403	3.622	A20	H19		イソノ(四肢骨) フェネガ(前上顎骨)		1389	35900.806	25793.307	3.719	T19	H19		ヤカ	
1308	35899.016	25795.297	3.654	A20	H19		イソノアタ(肩甲骨) イソノ(四肢骨・肋骨) フェネガ(歯骨)		1390	35900.571	25793.448	3.710	T19	H19		ヒジヤ	
1309	35899.070	25795.075	3.679	A20	H19		イソノアタ(上顎・下顎骨) ヲシヤ(四肢骨)		1391	35900.464	25793.750	3.716	T19	H19		ヒジヤ	
1310	35899.348	25794.943	3.674	A19	H19		イソノアタ(機骨・下顎骨) イソノ(下顎骨)		1392	35900.690	25792.400	3.604	T19	H19		軽石 ヤカ	
1311	35899.524	25794.643	3.678	A19	H19		イソノアタ(寛骨・機骨・脛骨) イソノ(四肢骨)		1393	35900.383	25792.819	3.664	T19	H19		ヤカ	
1312	35899.730	25794.869	3.703	A19	H19		イソノアタ(腰椎) リカ(腹甲板)		1394	35900.296	25792.666	3.664	T19	H19		ヤカ	
1313	35899.971	25794.851	3.744	A19	H19		イソノ(下顎骨・軸椎) フェネガ(歯骨)		1395	35899.844	25793.027	3.620	A19	H19		ヒジヤ	
1314	35899.055	25795.467	3.632	A20	H19		土器(Ⅰ類・弥生)	第40図13	1396	35899.582	25793.276	3.663	A19	H19		ヤカ	
1315	35899.254	25795.197	3.667	A20	H19		土器(弥生)	第40図13	1397	35899.439	25793.171	3.682	A19	H19		ヒジヤ	
1316	35899.217	25795.164	3.669	A20	H19		土器(弥生)	第40図13	1398	35899.411	25793.166	3.625	A19	H19		ヤカ	
1317	35899.227	25794.943	3.672	A19	H19		土器(Ⅰ類・Ⅲ類)		1399	35899.543	25793.513	3.647	A19	H19		ヤカ	
1318	35899.246	25794.798	3.662	A19	H19		土器(弥生)	第40図13	1400	35899.426	25793.491	3.643	A19	H19		ヤカ	
1319	35899.177	25795.160	3.672	A20	H19		自然礫		1401	35899.502	25793.847	3.702	A19	H19		ヤカ	
1320	35899.314	25794.771	3.654	A19	H19		石器(磨石)		1402	35899.096	25793.956	3.660	A19	H19		ヒジヤ	
1321	35900.257	25794.863	3.698	T19	H19		(骨)		1403	35898.794	25793.831	3.676	A19	H19		ヤカ	
1322	35901.891	25792.862	3.663	T19	H19		土器(Ⅱ類・Ⅳ類)		1404	35897.935	25793.780	3.524	A19	H19		ヤカ	
1323	35900.998	25792.576	3.581	T19	H19		イソノアタ(上顎骨)		1405	35897.421	25794.850	3.623	A19	H19		ヒジヤ	
1324	35899.279	25793.481	3.646	A19	H19		イソノアタ(下顎骨)		1406	35896.999	25794.852	3.590	A19	H19		ヤカ	
1325	35898.306	25793.979	3.686	A19	H19		イソノアタ(上顎骨)		1407	35896.566	25795.427	3.664	A20	H19		ヤカ ヤカ	
1326	35898.363	25793.969	3.610	A19	H19		イソノアタ(上顎骨)		1408	35895.372	25796.218	3.624	A20	H19		ヤカ	
1327	35898.944	25794.071	3.641	A19	H19		イソノアタ(上腕骨)		1409	35895.194	25796.319	3.643	A20	H19		ヒジヤ	
1328	35895.384	25796.207	3.623	A20	H19		イソノアタ(下顎骨)		1410	35895.070	25796.402	3.645	A20	H19		ヤカ	
1329	35895.631	25796.802	3.709	A20	H19												

第11表-9 取上遺物一覧 (H19地区)

取上番号	X	Y	Z	小 グリッド	地区	遺構	遺物	図番号
1430	35900.040	25793.686	3.720	T19	H19		クマガイ	
1431	35897.821	25792.935	3.456	A19	H19		クマガイ	
1432	35897.033	25794.702	3.538	A19	H19		クマガイ	
1433	35897.080	25795.092	3.592	A20	H19		有孔製品(ネコガイ)	
1434	35897.231	25795.255	3.544	A20	H19		クマガイ	
1435	35897.353	25794.974	3.588	A19	H19		クマガイ	
1436	35898.055	25794.257	3.640	A19	H19		クマガイ	
1437	35897.270	25794.617	3.542	A19	H19		クマガイ	
1438	35894.914	25795.601	3.628	B20	H19		クマガイ	
1439	35895.646	25796.435	3.656	A20	H19		イソノアブラ(脛骨) イソシ(肩甲骨)	
1440	35895.293	25797.105	3.610	A20	H19		イソノアブラ(脛骨)	
1441	35895.081	25797.111	3.710	A20	H19		イソノアブラ(脛骨)	
1442	35895.482	25795.946	3.582	A20	H19		イソシ(脛骨・四肢骨)	
1443	35898.771	25794.020	3.692	A19	H19		イソシ(上腕骨)	
1444	35899.409	25793.852	3.655	A19	H19		イソシ(上腕骨)	
1445	35897.244	25795.651	3.566	A20	H19		イソシ(上腕骨)	
1446	35897.695	25794.947	3.621	A19	H19		土器 (IV類)	
1447	35897.600	25794.878	3.618	A19	H19		土器 (V類)	第53図107
1448	35897.586	25794.806	3.612	A19	H19		土器 (I類)	
1449	35897.587	25795.281	3.636	A20	H19		石材	
1450	35897.424	25795.440	3.615	A20	H19		土器 (I類)	第42図41
1451	35897.564	25795.489	3.519	A20	H19		土器胴部	
1452	35899.142	25795.624	3.627	A20	H19		土器 (I類)	
1453	35893.541	25796.823	3.580	B20	H19		土器 (II類)	
1454	35893.415	25796.365	3.573	B20	H19		シタミ	
1455	35897.888	25796.580	3.535	A20	H19		ヒジノコ	
1456	35898.981	25795.238	3.612	A20	H19		アホノカサメ	
1457	35900.010	25795.682	3.723	T20	H19	SS03	土器 (II類・V類)	第44図53
1458	35900.066	25795.677	3.694	T20	H19	SS03	土器 (弥生)	第40図13
1459	35900.031	25795.695	3.688	T20	H19		クマガイ(腹甲or背甲)	
1460	35925.344	25776.913	3.421	O16	H19		クマガイ	
1461	35910.563	25777.269	3.499	R16	H19		貝製品(ヤウガイ)	
1462	35925.345	25776.681	3.439	O16	H19		イソノアブラ(尺骨) イソシ(寛骨)	
1463	35908.932	25781.363	3.541	S17	H19		土器 (III類)	
1464	35893.617	25796.563	3.558	B20	H19		土器胴部	
1465	35893.813	25796.251	3.562	B20	H19		土器 (III類)	
1466	35893.925	25796.167	3.569	B20	H19		土器 (I類)	
1467	35893.891	25796.653	3.579	B20	H19		土器 (I類)	
1468	35895.054	25796.003	3.588	A20	H19		シタミ	
1469	35896.701	25794.366	3.477	A19	H19		クマガイ	
1470	35896.693	25793.289	3.498	A19	H19		ヒジノコ	
1471	35895.922	25794.489	3.508	A19	H19		クマガイ	
1472	35896.469	25794.480	3.507	A19	H19		石器(磨石)	
1473	35897.863	25796.139	3.500	A20	H19		イソシ(四肢骨)	
1474	35896.768	25796.635	3.537	A20	H19		イソシ(下顎骨)	
1475	35893.989	25796.352	3.580	B20	H19		イソシ	
1476	35906.662	25787.867	3.408	S18	H19		土器 (I類)	第41図25
1477	35911.790	25783.956	3.515	R17	H19	SK44	(石器・鉄)	
1478	35911.903	25783.904	3.452	R17	H19	SK44	(石器・鉄)	
1479	35899.992	25795.307	3.628	A20	H19		イソノアブラ(下顎骨)	
1480	35908.335	25790.380	3.812	S19	H19		土器 (II類)	第43図50
1481	35906.028	25787.638	3.348	S18	H19		石器(磨石兼磨石)	第69図43
1482	35900.129	25795.580	3.706	T20	H19	SS03	アホノカサメ	
1483	35900.191	25795.553	3.700	T20	H19	SS03	アホノカサメ	
1484	35900.153	25795.527	3.691	T20	H19	SS03	クマガイ	
1485	35900.214	25795.462	3.686	T20	H19	SS03	アホノカサメ	
1486	35900.245	25795.504	3.678	T20	H19	SS03	クマガイ	
1487	35901.092	25794.716	3.746	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1488	35901.025	25794.652	3.734	T19	H19	SS02	貝製品: 螺蓋製貝斧(ヤウガイ) アホノカサメ	
1489	35901.035	25794.518	3.725	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1490	35901.127	25794.648	3.742	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1491	35901.188	25794.606	3.763	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1492	35901.094	25794.550	3.732	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1493	35901.117	25794.594	3.739	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1494	35901.215	25794.383	3.557	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1495	35901.285	25794.430	3.561	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1496	35901.280	25794.628	3.570	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1497	35901.264	25794.497	3.545	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1498	35901.218	25794.770	3.604	T19	H19	SS02	土器 (I類)	第42図43
1499	35901.275	25794.718	3.716	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1500	35898.112	25794.770	3.723	A19	H19	SS01	アホノカサメ	
1501	35898.096	25794.850	3.732	A19	H19	SS01	クマガイ	
1502	35898.028	25794.804	3.722	A19	H19	SS01	アホノカサメ	
1503	35898.254	25794.871	3.733	A19	H19	SS01	アホノカサメ	
1504	35898.148	25794.963	3.756	A19	H19	SS01	骨不明(四肢骨)	
1505	35898.293	25794.803	3.700	A19	H19	SS01	アホノカサメ	
1506	35898.245	25794.759	3.713	A19	H19	SS01	アホノカサメ	
1507	35898.194	25794.846	3.702	A19	H19	SS01	クマガイ	
1508	35912.271	25785.165	3.511	R18	H19	SK43	クマガイ	
1509	35886.913	25805.902	3.472	C2	H19		石器	
1510	35882.262	25797.677	3.363	D20	H19		土器口縁部	第56図130
1511	35882.128	25797.630	3.369	D20	H19		クマガイ	
1512	35898.461	25794.854	3.590	A19	H19		土器(弥生)	第40図12
1513	35898.461	25794.768	3.585	A19	H19		(石器)	
1514	35898.461	25794.768	3.585	A19	H19		石材	
1514	35898.058	25794.990	3.693	A19	H19	SS01	アホノカサメ	
1515	35898.270	25794.858	3.690	A19	H19	SS01	アホノカサメ	
1516	35898.119	25794.720	3.691	A19	H19	SS01	イソノカサメ	
1517	35898.219	25794.956	3.708	A19	H19	SS01	クマガイ	
1518	35900.954	25794.565	3.713	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1519	35901.054	25794.563	3.719	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1520	35901.083	25794.711	3.717	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1521	35901.087	25794.713	3.717	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1522	35901.214	25794.647	3.722	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1523	35901.172	25794.624	3.716	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1524	35901.027	25794.676	3.691	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1525	35901.176	25794.703	3.722	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1526	35901.203	25794.553	3.729	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1527	35901.157	25794.535	3.716	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1528	35901.106	25794.530	3.700	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1529	35901.081	25794.789	3.687	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1530	35900.963	25794.675	3.752	T19	H19	SS02	クマガイ	
1531	35901.028	25794.752	3.701	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1532	35901.145	25794.762	3.707	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1533	35898.156	25794.890	3.700	A19	H19	SS01	クマガイ	
1534	35898.123	25794.978	3.693	A19	H19	SS01	クマガイ	
1535	35898.102	25794.961	3.681	A19	H19	SS01	クマガイ	
1536	35898.000	25794.889	3.671	A19	H19	SS01	土器(弥生) クマガイ	第40図13
1537	35898.088	25794.813	3.680	A19	H19	SS01	イソノカサメ	
1538	35901.210	25794.769	3.673	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1539	35901.222	25794.733	3.634	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1540	35901.240	25794.646	3.626	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1541	35898.176	25794.792	3.668	A19	H19	SS01	クマガイ	
1542	35898.054	25794.767	3.676	A19	H19	SS01	クマガイ	
1543	35898.101	25794.891	3.638	A19	H19	SS01	クマガイ	
1544	35901.102	25794.529	3.662	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1545	35900.985	25794.619	3.686	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1546	35901.006	25794.700	3.634	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1547	35901.102	25794.735	3.672	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1548	35901.210	25794.592	3.685	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1549	35901.210	25794.546	3.678	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1550	35901.166	25794.573	3.686	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1551	35901.102	25794.590	3.683	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1552	35901.240	25794.663	3.564	T19	H19	SS02	アホノカサメ	
1553	3590							

第11表-10 取上遺物一覧 (イ地区)

取上番号	X	Y	Z	小 リット	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小 リット	地区	遺構	遺物	図番号
32	35888.890	25746.030	2.770	C10	イ		染付(碗)	第●図16	122	35887.610	25758.830	3.000	C12	イ		(磁器)	
33	35889.060	25746.380	2.790	C10	イ		褐釉陶器(壺)		123	35888.490	25757.860	2.900	C12	イ		白磁(碗)	第106図28
34	35887.180	25747.010	2.740	C10	イ		青磁(瓶)		124	35888.830	25757.010	2.950	C12	イ		(磁器)	
35	35887.030	25747.130	2.770	C10	イ		沖無(不明)		125	35888.440	25756.660	2.960	C12	イ		青磁(碗)	
36	35888.070	25746.920	2.760	C10	イ		沖施(碗)		126	35888.970	25756.240	2.930	C12	イ		青磁(皿)	第103図56
37	35888.060	25746.960	2.760	C10	イ		染付(碗)		127	35889.140	25756.010	2.950	C12	イ		沖無(壺)	
38	35887.970	25747.320	2.690	C10	イ		沖無(壺or甕)		128	35888.760	25756.110	2.920	C12	イ		天目茶碗	第118図3
39	35888.460	25747.500	2.780	C10	イ		沖無(不明)		129	35887.900	25756.500	2.980	C12	イ		青磁(碗)	第100図34
40	35888.680	25747.140	2.710	C10	イ		土器(IV類)		130	35887.270	25758.660	3.010	C12	イ		ケ(中足骨) ヲorケ(四股骨・大腿骨)	
41	35889.040	25746.400	2.820	C10	イ		沖無(壺or甕)	第118図27	131	35889.560	25758.100	3.000	C12	イ		ケorケ(肋骨)	
42	35888.990	25746.420	2.800	C10	イ		染付(碗)		132	35889.070	25756.920	2.940	C12	イ		ケ(寛骨)	
43	35889.540	25749.430	2.870	C10	イ		褐釉陶器(不明)		133	35887.490	25756.190	2.940	C12	イ		ケorケ(頭骨)	
44	35887.790	25748.900	2.840	C10	イ		土器(先島系)		134	35889.820	25756.880	3.010	C12	イ		ケ(頰骨)	
45	35885.820	25747.280	2.720	C10	イ		沖無(壺or甕)		135	35887.680	25755.070	2.900	C12	イ		ケ(上顎)	
46	35887.100	25747.110	2.760	C10	イ		沖施(不明)		136	35887.700	25754.650	2.890	C11	イ		ケorケ(四股骨)	
47	35888.280	25747.540	2.770	C10	イ		ケorケ(寛骨)		137	35888.490	25755.200	2.930	C12	イ		ケ(上顎)	
48	35893.390	25745.490	2.880	B10	イ		本磁(碗)	図版114-7	138	35888.300	25753.950	2.920	C11	イ		ケ(機骨)	
49	35893.460	25745.460	2.860	B10	イ		沖無(壺or甕)		139	35887.770	25754.450	2.900	C11	イ		ケorケ(椎体)	
50	35893.680	25746.040	2.920	B10	イ		沖無(不明)		140	35888.960	25756.190	2.920	C12	イ		ケorケ(四股骨)	
51	35890.300	25745.290	2.830	B10	イ		青磁(碗)		141	35889.260	25758.170	2.900	C12	イ		ケorケ(四股骨)	
52	35891.860	25746.960	3.000	B10	イ		白磁(碗)		142	35888.840	25753.130	2.980	C11	イ		ケ(中節骨)	
53	35891.150	25748.010	2.990	B10	イ		染付(瓶)	第111図38	143	35888.350	25752.590	2.920	C11	イ		ケorケ(四股骨)	
54	35891.350	25747.760	2.940	B10	イ		沖無(火炉)		144	35889.460	25752.370	2.940	C11	イ		ケ(下顎)	
55	35894.620	25749.640	2.990	B10	イ		沖施(碗)		145	35889.300	25752.310	2.920	C11	イ		不明骨(不明)	
56	35894.240	25748.540	2.930	B10	イ		土器(IV類)		146	35888.790	25752.680	2.930	C11	イ		ケ(膝蓋骨)	
57	35894.110	25747.240	2.990	B10	イ		染付(碗)		147	35887.650	25751.230	2.880	C11	イ		染付(碗)	
58	35892.540	25748.410	3.000	B10	イ		ケ(四股骨) ヲorケ(四股骨)		148	35888.510	25753.360	2.980	C11	イ		青磁(碗)	
59	35891.880	25751.180	2.970	B11	イ		青磁(不明)		149	35888.860	25752.970	2.950	C11	イ		褐釉陶器(壺)	
60	35892.690	25751.720	3.010	B11	イ		本陶(碗)	第137図1	150	35886.790	25752.360	2.900	C11	イ		青磁(碗)	
61	35893.980	25754.180	3.070	B11	イ		白磁(不明)		151	35887.030	25752.490	2.970	C11	イ		煙管	第154図6
62	35894.000	25753.130	3.070	B11	イ		(土器)		152	35887.330	25752.840	2.950	C11	イ		自然礫	
63	35894.680	25752.740	3.010	B11	イ		褐釉陶器(不明)		153	35887.450	25752.920	2.950	C11	イ		自然礫	
64	35894.280	25751.440	3.010	B11	イ		ケ(腹甲or背甲)		154	35887.890	25752.870	3.020	C11	イ		ケorケ(四股骨)	
65	35894.110	25750.950	3.020	B11	イ		土器胴部		155	35887.530	25756.760	2.980	C12	イ		土器(石球型石鐘)	第72図58
66	35894.160	25750.660	3.020	B11	イ		土器(IV類)		156	35888.970	25756.950	3.040	C12	イ		ホコヤ	
67	35894.040	25750.040	3.000	B11	イ		青磁(碗)		157	35888.990	25757.290	3.010	C12	イ		ケorケ(骨)	
68	35894.640	25754.110	3.040	B11	イ		染付(碗)		158	35891.070	25759.480	3.040	B12	イ		ケ(上顎)	
69	35892.690	25752.100	3.030	B11	イ		ケorケ(踵骨)		159	35888.570	25750.610	2.970	C11	イ		骨不明	
70	35894.750	25754.950	3.090	B11	イ		ケorケ(肋骨)		160	35888.670	25750.720	2.960	C11	イ		沖施(瓶)	
71	35893.150	25750.980	3.010	B11	イ		土器胴部		161	35888.710	25750.700	2.940	C11	イ		(土器)	
72	35884.930	25742.430	2.720	D9	イ		染付(碗)		162	35888.810	25750.820	2.960	C11	イ		(骨)	
73	35890.640	25743.670	2.770	B9	イ		染付(碗)		163	35888.830	25750.810	2.950	C11	イ		(骨)	
74	35887.260	25748.230	2.770	C10	イ		ケorケ(肋骨)		164	35888.980	25750.790	2.940	C11	イ		(骨)	
75	35890.540	25745.660	2.800	B10	イ		ケorケ(不明)		165	35889.250	25750.900	2.960	C11	イ		褐釉陶器(壺)	
76	35883.980	25752.780	2.880	D11	イ		白磁(碗)	第106図29	166	35889.580	25750.830	2.990	C11	イ		骨不明(四股骨)	
77	35884.960	25760.320	2.910	D13	イ		染付(碗)		167	35888.970	25750.260	2.950	C11	イ		(骨)	
78	35884.400	25763.000	2.870	D13	イ		染付(碗)		168	35889.140	25750.540	2.980	C11	イ		白磁(碗)	
79	35880.430	25760.310	2.940	D13	イ		褐釉陶器(壺)		169	35889.290	25750.680	2.980	C11	イ		磁石	第123図6
80	35887.230	25764.220	2.930	C13	イ		土器(IV類)		170	35889.770	25753.000	3.050	C11	イ		ケ(骨)	
81	35885.440	25761.140	2.860	C13	イ		沖無(壺or甕)		171	35889.980	25753.560	3.060	C11	イ		ケ(四股骨)	
82	35885.350	25761.940	2.880	C13	イ		土器(VII類)		172	35899.070	25753.470	3.070	A11	イ		土器(IV類)	
83	35885.440	25761.110	2.870	C13	イ		ケorケ(肋骨)		173	35897.540	25755.910	3.150	A12	イ		ケ(椎骨)	
84	35886.230	25760.070	2.890	C13	イ		土器(IV類)		174	35893.580	25753.410	3.030	B11	イ		石材	
85	35888.370	25767.600	3.050	C14	イ		ホコヤ		175	35899.500	25754.260	3.020	A11	イ		青磁(碗)	
86	35887.520	25768.550	2.910	C14	イ		ホコヤ		176	35897.400	25755.040	3.030	A12	イ		ケ(踵骨)	
87	35885.700	25771.640	3.010	C15	イ		ホコヤ		177	35895.280	25757.200	3.080	A12	イ		青磁(碗)	
88	35885.930	25772.600	3.080	C15	イ		ホコヤ		178	35887.140	25767.780	3.160	C14	イ	P3	自然礫	
89	35885.880	25772.720	3.110	C15	イ		ホコヤ		179	35887.480	25766.090	3.090	C14	イ		石材	
90	35885.930	25772.780	3.130	C15	イ		ホコヤ		180	35887.760	25766.780	3.070	C14	イ		ホコヤ	
91	35886.000	25772.860	3.120	C15	イ		シラナミ		181	35888.130	25766.750	3.010	C14	イ		ホコヤ	
92	35885.870	25773.050	3.090	C15	イ		ケ(骨)		182	35888.200	25766.400	3.020	C14	イ		ホコヤ	
93	35886.170	25772.760	3.130	C15	イ		ケ(骨)		183	35888.390	25766.860	3.000	C14	イ		ケ(骨)	
94	35886.270	25772.760	3.130	C15	イ		ケ(骨)		184	35881.810	25765.340	2.960	D14	イ	P3	石器(磨石)	
95	35891.780	25750.400	3.000	B11	イ		(骨)		185	35883.680	25769.680	3.060	D14	イ		ケorケ(肋骨)	
96	35891.700	25750.520	2.980	B11	イ		ベ(椎体)		186	35882.730	25770.430	3.060	D15	イ		ケ(骨)	
97	35891.530	25750.860	2.960	B11	イ		ケorケ(肋骨)		187	35887.580	25770.780	3.240	C15	イ	P2	ケorケ(四股骨)	
98	35891.440	25750.990	2.970	B11	イ		ケ(四股骨) ヲorケ(背甲or腹甲)		188	35886.750	25771.590	3.120	C15	イ		ケ(骨)	
99	35891.310	25751.090	2.960	B11	イ		(骨)		189	35885.010	25762.780	2.970	C13	イ		土器(IV類)	
100	35891.530	25753.850	3.040	B11	イ		ケorケ(四股骨)		190	35887.030	25748.550	2.760	C10	イ		ケ(骨)	
101	35891.410	25752.510	3.000	B11	イ		ケ(四股骨)		191	35889.170	25750.050	2.860	C11	イ		染付(皿)	第110図30
102	35892.240	25752.160	3.020	B11	イ		不明骨(不明)		192	35891.810	25750.660	2.980	B11	イ		褐釉陶器(不明)	
103	35891.970	25751.590	3.000	B11	イ		ケ(肋骨)		193	35894.250	25758.290	3.030	B12	イ		褐釉陶器(壺)	第116図27
104	35892.600	25751.730	2.980	B11	イ		ケ(中足骨)		194	35896.880	25756.760	3.050	A12	イ		ケorケ(四股骨)	
105	35893.470	25751.750	3.020	B11	イ		(骨)		195	35899.130	25757.300	3.060	A12	イ		石材	
106	35891.540	25753.790	3.000	B11	イ		ケorケ(大腿骨)		196	35885.810	25741.390	2.760	C9	イ		ケorケ(胸椎)	
107	35890.250	25752.810	2.980	B11	イ		ケ(四股骨)		197	35885.780	25741.380	2.750	C9	イ		ケ(骨)	
108	35890.050	25750.010	2.930	B11	イ		ケ(上顎)		19								

第11表-11 取上遺物一覧 (イ地区)

取上番号	X	Y	Z	小 グ ラ ト	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小 グ ラ ト	地区	遺構	遺物	図番号
213	35885.090	25772.990	3.190	C15	イ		土器 (IV類)		300	35892.580	25751.630	3.060	B11	イ		土器 (IV類)	
214	35887.120	25750.030	2.880	C11	イ		(磁器)		301	35892.300	25752.800	3.050	B11	イ		青磁 (碗)	第100図33
215	35890.870	25753.880	3.050	B11	イ		褐釉陶器 (壺)	第114図15	302	35892.310	25752.850	3.020	B11	イ		(青磁)	
216	35883.140	25761.370	3.000	D13	イ		石器 (石斧)	第63図2	303	35892.300	25752.960	3.010	B11	イ		本磁 (碗)	第138図1
217	35894.560	25754.810	3.120	B11	イ		(磁器)		304	35891.280	25752.850	3.000	B11	イ		ウロウラ (四肢骨)	
218	35897.230	25757.220	3.090	A12	イ		石器 (嵌石兼磨石)	第66図27	305	35893.070	25753.360	3.050	B11	イ		(骨)	
219	35897.200	25759.230	3.090	A12	イ		刀子	第125図1	306	35892.570	25754.080	3.100	B11	イ		ウロウラ (四肢骨)	
220	35896.400	25756.140	3.110	A12	イ		ウ (踵骨) イソツ (四肢骨)		307	35891.530	25753.820	3.000	B11	イ		ウ (大腿骨) 小型獣 (獣骨) 杖 (大腿骨) 埴土	
221	35893.970	25753.790	3.090	B11	イ		土器 (IV類)		308	35891.630	25754.360	2.990	B11	イ		ウ (踵骨)	
223	35901.310	25755.220	3.150	T12	イ	SD09	褐釉陶器 (甕)		309	35891.520	25754.960	3.010	B11	イ		ウ (脛骨)	
224	35901.310	25755.460	3.080	T12	イ	SD09	ウ (基節骨)		310	35894.350	25752.680	3.040	B11	イ		イソツ (下顎)	
225	35897.980	25758.530	3.150	A12	イ		イソツ (四肢骨)		311	35892.250	25754.780	3.090	B11	イ		青磁 (碗)	
226	35898.190	25761.100	3.210	A13	イ		青磁 (碗)		312	35900.470	25759.590	3.110	T12	イ		ウ (下顎骨)	
227	35898.560	25761.490	3.200	A13	イ		沖施 (碗)		313	35900.630	25762.040	3.010	T13	イ		土器口縁部	
228	35898.900	25761.210	3.200	A13	イ		染付 (碗)		314	35902.670	25760.730	2.830	T13	イ		土器 (尖底)	
229	35898.890	25760.570	3.210	A13	イ		(磁器)		315	35899.150	25763.140	2.980	A13	イ		土器 (IV類)	
230	35898.830	25760.860	3.230	A13	イ		(土器)		316	35894.220	25753.010	3.050	B11	イ		イソツ(ウラ) (下顎)	
231	35899.420	25760.840	3.230	A13	イ		ウ (基節骨)		317	35887.750	25754.870	3.000	C11	イ		煙管	第154図5
232	35899.280	25760.270	3.200	A13	イ		褐釉陶器 (不明)		318	35887.610	25754.590	2.850	C11	イ		土器 (碗)	
233	35899.380	25755.320	3.070	A12	イ		土器 (尖底)	第58図151	319	35887.710	25754.680	2.930	C11	イ		ウロウラ (頸椎) イソツ (肩甲骨)	
234	35898.700	25759.200	3.170	A12	イ		ウロウラ (四肢骨)		320	35889.940	25757.890	3.060	C12	イ		ウロウラ (不明)	
235	35898.710	25759.030	3.160	A12	イ		ウロウラ (肋骨)		321	35888.190	25759.700	2.940	C12	イ		石器 (石斧)	
236	35898.580	25758.920	3.150	A12	イ		イソツ (四肢骨)		322	35887.120	25753.090	2.900	C11	イ		イソツ (脛骨) ウラ (下顎骨)	
237	35898.400	25758.990	3.140	A12	イ		ウロウラ (尺骨・四肢骨) イソツ (四肢骨)		323	35887.310	25753.150	2.880	C11	イ		ウロウラ (肋骨)	
238	35898.570	25758.930	3.150	A12	イ		ウ (頰骨)		324	35887.390	25752.970	2.880	C11	イ		(骨)	
239	35898.530	25759.600	3.110	A12	イ		ウロウラ (四肢骨) イソツ(ウラ) (頭骨)		325	35888.040	25752.260	2.940	C11	イ		ウロウラ (下顎骨)	
240	35898.760	25759.350	3.140	A12	イ		ウロウラ (四肢骨)		326	35888.000	25752.160	2.930	C11	イ		本陶 (鉢)	第137図7
241	35898.180	25759.770	3.120	A12	イ		不明骨 (不明)		327	35887.980	25752.150	2.910	C11	イ		イソツ (頭骨)	
242	35898.220	25759.760	3.100	A12	イ		ウロウラ (椎体)		328	35887.950	25752.250	2.910	C11	イ		ヌハクイ	
243	35898.220	25759.760	3.100	A12	イ		ウロウラ (椎体)		329	35888.880	25751.320	2.810	C11	イ		イソツ(ウラ) (橈骨・尺骨)	
244	35898.780	25759.760	3.160	A12	イ		ウロウラ (椎体)		330	35889.110	25751.000	2.860	C11	イ		土器 (IV類)	
245	35900.150	25759.010	3.180	T12	イ		ウロウラ (岩擦骨)	第117図41	331	35888.960	25750.400	2.880	C11	イ		沖無 (瓶)	第146図20
246	35900.290	25758.460	3.200	A12	イ		ウロウラ (岩擦骨)		332	35890.120	25750.650	2.900	B11	イ		ウラ (下顎骨)	
247	35900.810	25758.660	3.190	T12	イ		沖無 (不明)		333	35890.130	25750.570	2.900	B11	イ		褐釉陶器 (壺)	
248	35900.980	25758.730	3.230	T12	イ		ウロウラ (四肢骨)		334	35890.310	25751.010	2.930	B11	イ		土器 (IV類)	
249	35901.070	25758.680	3.200	T12	イ		ウロウラ (四肢骨)		335	35890.390	25751.340	2.850	B11	イ		ギンカマ	
250	35900.550	25759.230	3.220	T12	イ		染付 (碗)		336	35890.330	25751.570	2.840	B11	イ		ウラ(ウラ) ティラ	
251	35898.410	25761.000	3.060	A13	イ		土器 (IV類)		337	35890.130	25751.640	2.870	B11	イ		ウロウラ(ウラ) エ	
252	35902.280	25757.370	3.130	T12	イ		土器 (乳)	第60図182	338	35890.240	25751.870	2.830	B11	イ		ヒダク	
253	35899.000	25750.570	2.910	C11	イ		煙管	第154図2	339	35890.050	25751.690	2.880	B11	イ		青磁 (碗)	第100図34
254	35889.870	25751.720	2.930	C11	イ		ウ (中節骨)		340	35892.210	25751.980	2.980	B11	イ		ウラ(ウラ) ティラ	
255	35891.650	25753.970	3.140	B11	イ		(青磁)		341	35892.180	25752.050	2.970	B11	イ		ウロウラ(ウラ) エ	
256	35891.030	25758.730	3.020	B12	イ		白磁 (碗)	第105図1	342	35893.900	25751.880	3.010	B11	イ		ヤコウ	
257	35894.130	25760.590	3.100	B13	イ		土器 (IV類)		343	35894.720	25751.360	2.950	B11	イ		ヒダク	
258	35893.830	25760.340	3.090	B13	イ		土器 (IV類)		344	35892.690	25753.600	2.980	B11	イ		(土器)	
259	35893.250	25760.800	3.090	B13	イ		土器 (IV類)		345	35892.690	25754.340	3.070	B11	イ		褐釉陶器 (壺)	
260	35896.260	25762.870	3.170	A13	イ		土器 (II類)		346	35892.530	25754.240	3.020	B11	イ		イソツ(ウラ) (頭頂骨)	
261	35896.480	25762.890	3.190	A13	イ		土器 (IV類)		347	35890.620	25755.000	2.970	B11	イ		ウ?	
262	35886.660	25754.110	2.930	C11	イ		石器		348	35890.740	25754.970	2.940	B11	イ		沖無 (壺或)	第146図26
263	35887.270	25753.130	2.940	C11	イ		円盤状製品 (本陶)	第152図5	349	35891.410	25755.240	3.010	B12	イ		ウロウラ (肋骨)	
264	35887.440	25752.870	2.920	C11	イ		沖無 (壺)		350	35891.390	25755.290	3.000	B12	イ		ウ (手根骨)	
265	35893.140	25754.430	3.110	B11	イ		(骨)		351	35891.490	25755.300	3.030	B12	イ		ウ(ウラ) ギ	
266	35897.800	25754.930	3.030	A11	イ		染付 (碗)		352	35891.520	25755.360	3.070	B12	イ		ウ (中節骨)	
267	35897.650	25755.070	3.040	A12	イ		染付 (碗)		353	35890.780	25755.470	2.980	B12	イ		ウ (踵骨)	
268	35897.210	25754.790	3.070	A11	イ		染付 (碗)		354	35894.500	25753.430	3.000	B11	イ		土器胴部	
269	35895.640	25756.170	3.060	A12	イ		土器 (IV類)		355	35896.450	25754.280	3.030	A11	イ		染付 (碗)	第109図15
270	35895.150	25756.160	3.120	A12	イ		褐釉陶器 (壺)		356	35896.050	25753.280	2.980	A11	イ		ヒダク	
271	35895.360	25755.870	3.120	A12	イ		(骨)		357	35896.050	25753.280	2.980	A11	イ		シラナミ	
272	35900.600	25760.160	3.170	T13	イ		ウロウラ (四肢骨)		358	35896.750	25752.810	2.960	A11	イ		シラナミ	
273	35900.540	25760.250	3.200	T13	イ		ウロウラ (肋骨)		359	35896.180	25752.060	2.970	A11	イ		染付 (碗)	
274	35900.400	25760.450	3.190	T13	イ		イソツ (四肢骨)		360	35897.500	25753.410	3.020	A11	イ		ウロウラ (肋骨)	
275	35900.330	25760.210	3.220	T13	イ		青磁 (碗)		361	35897.300	25754.370	3.040	A11	イ		ウロウラ (四肢骨)	
276	35900.250	25760.700	3.260	T13	イ		褐釉陶器 (壺)	第115図19	362	35897.650	25754.980	3.020	A11	イ		(土器)	
277	35901.440	25759.540	3.250	T12	イ		ウロウラ (四肢骨)		363	35897.470	25754.740	3.020	A11	イ		ウ (土器)	
278	35897.780	25759.030	3.080	A12	イ		刀子	第125図1	364	35897.990	25754.830	3.010	A11	イ		ウ(ウラ) ギ	
279	35898.670	25759.210	3.130	A12	イ		ウ (末節骨)		365	35898.480	25754.310	3.030	A11	イ		ウ(ウラ) ティラ	
280	35898.920	25753.610	3.020	A11	イ		青磁 (皿)		366	35898.770	25754.390	3.020	A11	イ		シラナミ	
281	35896.080	25750.240	3.010	A11	イ		二枚貝有孔 (ヒダク)		367	35900.190	25753.530	3.020	T11	イ		ウ(ウラ) ティラ	
282	35888.640	25753.340	2.930	C11	イ		石器 (石斧)	第64図16	368	35895.780	25755.290	3.070	A12	イ		シラナミ	
283	35887.760	25753.840	2.860	C11	イ		染付 (碗) 土器 (先島系)	第111図34	369	35895.410	25755.280	3.110	A12	イ		ウ (基節骨)	
284	35889.070	25753.410	2.970	C11	イ		褐釉陶器 (壺)		370	35895.040	25755.110	3.100	A12	イ		褐釉陶器 (壺)	
285	35889.130	25753.500	2.940	C11	イ		土器 (先島系)		371	35895.470	25753.830	3.030	A11	イ		土器 (IV類)	
286	35889.040	25753.360	2.980	C11	イ		ヤコウイ (蓋)		372	35888.850	25752.900	2.860	C11	イ		イソツ (四肢骨)	
287	35900.720	25759.310	3.240	T12	イ		本磁 (碗)	第138図3	373	35895.940	25755.440	3.060	A12	イ		石材	
288	35900.500	25759.100	3.140	T12	イ		(磁器)		374	35895.820	2575						

第11表-12 取上遺物一覧 (イ地区)

取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小ナリット	地区	遺構	遺物	図番号	
390	35888.240	25768.430	2.970	C14	イ		朽葉ハナイ		482	35897.430	25751.010	2.940	A11	イ		(土器)		
391	35893.450	25760.460	3.040	B13	イ		土器 (IV類)		483	35897.820	25751.720	2.990	A11	イ		シロコウ		
392	35894.670	25760.240	3.080	B13	イ		土器 (IV類)		484	35898.110	25751.640	2.980	A11	イ		シラナミ		
393	35902.670	25753.030	3.060	T11	イ		イソノアタ (上腕骨)		485	35898.120	25751.160	3.000	A11	イ		シロコウ		
394	35902.570	25753.140	3.060	T11	イ		(骨)		486	35898.140	25751.090	2.990	A11	イ		ヒジヤコ		
395	35902.600	25753.200	3.050	T11	イ		アサシメ (歯骨)		487	35898.020	25751.010	2.960	A11	イ		シラナミ		
396	35902.540	25753.220	3.050	T11	イ		軒 (不明)		488	35897.740	25751.240	2.950	A11	イ		シラナミ		
397	35887.440	25773.870	3.150	C15	イ		朽葉イ		489	35897.800	25751.340	2.930	A11	イ		朽葉イ		
398	35887.450	25774.080	3.160	C15	イ		土器 (II類)		490	35897.610	25751.600	2.980	A11	イ		土器 (IV類)		
399	35885.320	25778.170	3.330	C16	イ		袖軸陶器 (壺)		491	35897.580	25751.290	2.940	A11	イ	SK01		土器 (先島系)	
400	35883.030	25776.760	3.260	D16	イ		土器 (IV類)		492	35897.720	25751.390	2.970	A11	イ		フェキギイ (椎骨)		
401	35883.100	25775.520	3.230	D16	イ		土器 (IV類)		493	35897.860	25751.970	2.910	A11	イ		土器 (IV類)		
402	35882.570	25775.260	3.210	D16	イ		土器 (尖底)		494	35901.320	25755.620	2.850	T12	イ		土器 (在地)	第39図11	
403	35882.710	25774.920	3.160	D15	イ		土器胴部		495	35904.640	25757.550	3.010	T12	イ		イソノ (脛骨・四肢骨) アサシメイ (上咽頭骨・前上顎骨)		
404	35882.280	25764.310	2.960	D13	イ		土器 (IV類)		496	35905.390	25756.950	3.070	S12	イ		土器 (IV類)		
405	35906.320	25757.560	3.140	S12	イ		土器 (IV類)	第48図77	497	35904.930	25757.140	3.010	T12	イ		スツガイ		
406	35905.960	25757.750	3.120	S12	イ		朽葉ハナイ		498	35895.080	25749.870	2.980	A10	イ		青磁 (皿)		
407	35903.170	25757.120	3.080	T12	イ		シラナミ		499	35880.690	25767.360	2.990	D14	イ		イソノ (脛骨)		
408	35903.190	25757.230	3.120	T12	イ		シラナミ		500	35881.550	25767.550	2.870	D14	イ		土器 (殿石兼磨石)	第71図50	
409	35903.190	25757.240	3.110	T12	イ		リュウキツキ		501	35898.010	25757.120	3.000	A12	イ		イソノアタ (下顎骨)		
410	35904.020	25759.070	3.120	T12	イ		カフドキ		502	35898.860	25760.900	2.960	A13	イ		二枚貝有孔 (ワナシ)		
411	35903.520	25759.520	3.100	T12	イ		石器 (磨石)		503	35902.390	25759.450	2.990	T12	イ		土器 (IV類)		
412	35903.190	25759.780	3.100	T12	イ		土器 (IV類)		504	35903.930	25758.270	2.950	T12	イ		ウカシ (髯骨板・線甲板)		
413	35902.960	25759.100	3.130	T12	イ		土器 (IV類)		505	35903.900	25758.280	2.960	T12	イ		土器 (IV類)		
414	35902.930	25759.120	3.120	T12	イ		土器胴部		506	35905.140	25756.980	3.160	S12	イ		自然礫		
415	35904.250	25758.960	3.080	T12	イ		石器 (磨石)		507	35904.670	25757.630	2.980	T12	イ		土器 (IV類)		
416	35902.770	25758.480	3.120	T12	イ		シラナミ		508	35905.160	25757.290	2.960	S12	イ		土器 (IV類)		
417	35902.500	25758.400	3.030	T12	イ		チョウセンキ		509	35905.300	25757.680	2.990	S12	イ		フェキギイ (前上顎骨)		
418	35902.160	25758.540	3.040	T12	イ		朽葉ハナイ		510	35905.170	25757.300	2.970	S12	イ		アサシメ (りょう鱗骨)		
419	35902.180	25758.680	3.050	T12	イ		イマダラ		511	35905.930	25757.480	2.980	S12	イ		土器胴部		
420	35902.440	25758.980	3.050	T12	イ		アサシメ		512	35906.120	25757.370	3.010	S12	イ		土器 (IV類)		
421	35901.380	25760.710	3.190	T13	イ		ウシ (基節骨)		513	35894.060	25756.850	2.840	B12	イ		土器 (IV類)		
422	35904.210	25759.080	3.060	T12	イ		イマダラ		514	35902.250	25760.750	3.010	T13	イ		イソノアタ (上腕骨)		
423	35904.380	25757.910	3.010	T12	イ		朽葉イ		515	35902.620	25760.520	3.020	T13	イ		イソノアタ (基節骨)		
424	35900.690	25760.870	3.060	T13	イ		アサシメ		516	35906.240	25757.020	3.040	S12	イ		軒 (不明)		
425	35899.190	25760.010	3.140	A13	イ		須恵器 (壺)	第96図5	517	35906.040	25757.010	3.030	S12	イ		魚類 (前上顎骨)		
426	35893.230	25760.130	2.980	B13	イ		(貝)		518	35905.740	25757.000	3.020	S12	イ		軒 (不明) フェキギイ (歯骨)		
427	35898.950	25754.100	2.970	A11	イ		石器 (磨石)		519	35905.670	25756.710	3.050	S12	イ		ウカシ (腹甲or背甲骨) 軒 (不明)		
428	35899.520	25754.410	2.950	A11	イ		土器胴部		520	35905.690	25756.610	3.050	S12	イ		土器 (IV類)		
429	35897.530	25753.230	2.970	A11	イ		ウシ (距骨)		521	35905.660	25756.800	3.000	S12	イ		土器 (IV類)		
430	35898.390	25762.570	3.050	A13	イ		有孔 アサシメ		522	35905.610	25756.800	2.970	S12	イ		土器 (IV類・VI類)		
431	35901.400	25760.190	3.130	T13	イ		貝製品 (ヤカガイ) ヤカガイ		523	35905.510	25757.040	2.980	S12	イ		土器 (IV類)		
432	35901.150	25760.060	3.110	T12	イ		円盤状製品 (青磁)	第152図1	524	35904.750	25756.380	2.970	T12	イ		土器 (IV類)		
433	35894.930	25761.380	3.080	B13	イ		イソノ (上腕骨)		525	35905.240	25756.590	3.000	T11	イ		土器 (IV類)		
434	35894.320	25764.340	3.110	B13	イ		イソノ (脛骨)		526	35904.740	25756.580	2.880	T12	イ		ウカシ (肋骨板) フェキギイ (前上顎骨) ハマエキ (前上顎骨)		
435	35893.780	25760.960	3.080	B13	イ		土器 (IV類)		527	35905.080	25756.650	2.930	S12	イ		ウカシ (肋骨板) アサシメ (椎骨) フェキギイ (歯骨)		
436	35895.260	25761.950	3.030	A13	イ		シラナミ		528	35905.450	25756.560	2.970	S12	イ		ウカシ (肋骨板)		
437	35894.250	25762.590	3.180	B13	イ		土器 (IV類)		529	35905.870	25756.330	3.020	S12	イ		石器 (磨石)		
438	35895.980	25757.350	2.990	A12	イ		土器 (IV類)		530	35904.300	25758.240	2.940	T12	イ		ウカシ (不明)		
439	35895.880	25757.070	2.950	A12	イ		土器 (IV類)		531	35900.680	25760.870	3.000	T13	イ		ウカシ (腹甲or背甲骨) ショウヘラ (上咽頭骨)		
440	35894.950	25760.990	3.210	B13	イ		土器 (IV類)	第50図82	532	35900.970	25760.070	2.970	T13	イ		ウカシ (不明) ムサシメ (前上顎骨)		
441	35895.880	25757.180	2.950	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	533	35900.920	25758.870	2.990	T12	イ		土器 (II類)		
442	35895.900	25757.190	2.930	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	534	35897.170	25756.590	2.880	A12	イ		イソノアタ (上腕骨)		
443	35896.020	25757.230	2.900	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	535	35900.310	25760.060	2.950	T13	イ		ウカシ (線甲板) フェキギイ (主上顎骨・歯骨) ハマエキ (前上顎骨)		
444	35895.880	25756.920	2.920	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	536	35903.410	25756.180	2.980	T12	イ		土器 (IV類)	第49図80	
445	35896.010	25757.230	2.890	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	537	35903.600	25756.000	2.990	T12	イ		土器 (在地・II類)	第39図6	
446	35895.780	25757.060	2.900	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	538	35881.770	25755.160	3.110	D16	イ		土器 (IV類)		
447	35896.030	25757.230	2.880	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	539	35883.630	25773.060	3.000	D15	イ		土器 (II類・IV類)		
448	35895.860	25757.160	2.930	A12	イ		土器 (IV類)	第47図73	540	35882.370	25771.450	2.960	D15	イ		土器 (IV類)		
449	35893.760	25760.400	2.920	B13	イ		(青磁)		541	35882.580	25767.860	2.920	D14	イ		土器 (IV類)		
450	35894.670	25760.510	2.920	B13	イ		ムサシメ		542	35881.100	25765.440	2.920	D14	イ		土器 (IV類)		
451	35894.750	25760.410	2.920	B13	イ		朽葉ハナイ		543	35880.810	25764.380	2.910	D13	イ		土器 (IV類)		
452	35894.160	25757.880	2.860	B12	イ		カフドキ		544	35881.500	25764.130	2.910	D13	イ		土器 (IV類)		
453	35894.680	25759.220	2.920	B12	イ		石器 (殿石兼磨石)	第66図28	545	35884.140	25765.940	2.890	D14	イ		土器 (IV類)		
454	35894.660	25759.280	2.960	B12	イ		(土器)		546	35888.300	25767.700	2.940	C14	イ		イソノアタ (桡骨・尺骨)		
455	35896.330	25760.230	2.980	A13	イ		イソノアタ (大腿骨)		547	35881.680	25764.680	2.910	D13	イ		ウカシ (線甲板)		
456	35895.470	25762.450	2.950	A13	イ		朽葉イ		548	35893.010	25759.000	2.880	B12	イ		貝		
457	35896.410	25762.470	2.940	A13	イ		(貝)		549	35893.020	25759.000	2.880	B12	イ		イソノアタ (肩甲骨)		
458	35895.420	25763.720	2.970	A13	イ		朽葉ハナイ		550	35896.610	25762.280	2.930	A13	イ		土器 (IV類)		
459	35895.590	25763.820	2.990	A13	イ		朽葉ハナイ		551	35897.640	25760.720	2.930	A13	イ		(土器)		
460	35895.610	25763.940	3.010	A13	イ		イマダラ		552	35897.880	25759.170	2.910	A12	イ		土器 (IV類)		
461	35895.550	25763.900	3.020	A13	イ		(青磁)		553	35898.810	25756.100	2.870	A12	イ		土器 (IV類)		
462	35896.040	25764.100	3.010	A13	イ		朽葉イ		554	35899.240	25757.900	2.910	A12	イ		(土器)		
463	35896.160	25764.180	3.030	A13	イ		朽葉イ		555	35905.170	25755.970	2.960	S12	イ		土器 (乳)	第59図166	
464	35895.220	25765.340	3.020	A14	イ		朽葉ハナイ		556	35905.140	25755.820	2.9						

第11表-13 取上遺物一覧（イ地区）

取上番号	X	Y	Z	小 リット	地区	遺構	遺物	図番号
568	35905.200	25755.880	2.940	S12	イ		土器（乳）	第59図166
569	35905.210	25755.880	2.930	S12	イ		土器（乳）	第59図166
570	35905.240	25755.950	2.910	S12	イ		土器（乳）	第59図166
571	35905.240	25755.940	2.910	S12	イ		土器（乳）	第59図166
572	35905.250	25755.990	2.920	S12	イ		（土器）	第59図166
573	35905.220	25756.030	2.930	S12	イ		土器（乳）	第59図166
574	35905.250	25756.020	2.930	S12	イ		土器（乳）	第59図166
575	35905.230	25755.970	2.890	S12	イ		土器（乳）	第59図166

取上遺物一覧（ハ・二地区）

取上番号	X	Y	Z	小 リット	地区	遺構	出土遺物	図番号
1	35914.073	25758.052	3.401	R12	ハ		土器（脚台）	第40図22
2	35948.704	25756.383	3.606	K12	ニ		骨	
3	35947.084	25758.015	3.550	K12	ニ		石器（磨石）	第70図47
4	35948.668	25756.712	3.581	K12	ニ		骨	
5	35948.431	25756.728	3.594	K12	ニ		クワカ（四肢骨）	
6	35948.542	25756.641	3.565	K12	ニ		骨	
7	35948.406	25758.473	3.672	K12	ニ		土器（IV類）	
8	35948.770	25758.615	3.579	K12	ニ		土器胴部	
9	35948.775	25758.246	3.595	K12	ニ		土器（II類）	
10	35949.056	25758.091	3.614	K12	ニ		土器（IV類）	
11	35948.721	25757.971	3.588	K12	ニ		土器（III類）	第45図60
12	35936.033	25767.896	3.678	M14	ハ		土器（II類）	
13	35935.820	25768.008	3.678	M14	ハ		土器（IV類）	
14	35935.764	25768.186	3.688	M14	ハ		土器（II類）	
15	35935.744	25768.237	3.672	M14	ハ		土器（II類）	
16	35935.459	25768.183	3.701	M14	ハ		土器（II類）	
17	35935.616	25768.042	3.689	M14	ハ		土器（II類）	
18	35935.647	25767.781	3.714	M14	ハ		土器（尖底）	
19	35935.090	25768.148	3.691	M14	ハ		土器（IV類）	
20	35935.427	25767.763	3.670	M14	ハ		土器（乳）	第59図172
21	35937.288	25768.079	3.431	M14	ハ		（ゴ）	
22	35932.132	25765.573	3.689	N14	ハ		アホソクカ	
23	35931.892	25765.788	3.671	N14	ハ		（ゴ）	
24	35931.474	25761.009	3.500	N13	ハ		石器（磨石）	第66図29
25	35931.450	25760.910	3.493	N13	ハ		石器（磨石）	第58図39
26	35931.457	25760.837	3.528	N13	ハ		土器（II類）	第45図58
27	35948.381	25758.324	3.637	K12	ハ		クワカ	
28	35948.432	25758.478	3.651	K12	ハ		アホソクカ	
29	35915.268	25751.857	3.098	Q11	ハ		土器（尖底）	第58図149
30	35912.320	25754.721	3.075	R11	ハ		（土器）	
31	35912.502	25754.500	3.088	R11	ハ		土器（V類）	第54図112
32	35912.667	25754.997	3.113	R11	ハ		土器（IV類）	第48図77
33	35912.859	25754.862	3.112	R11	ハ		土器（IV類）	第48図77
34	35919.158	25754.466	3.278	Q11	ハ		貝輪（ハハ）	第78図3
35	35935.150	25766.928	3.644	M14	ハ		土器（II類）	
36	35934.952	25766.871	3.627	N14	ハ		ビリンヤ	
37	35933.740	25766.421	3.667	N14	ハ		ヤウガイ	
38	35932.449	25765.517	3.651	N14	ハ		土器（V類）	第54図111
39	35930.275	25766.731	3.487	N14	ハ		ジャコウ	
40	35927.264	25768.004	3.592	O14	ハ		容（ヤウガイ）	イハマナリ
41	35928.330	25765.423	3.586	O14	ハ		石材	
42	35914.680	25753.260	3.096	R11	ハ		ヤウガイ	
43	35914.582	25753.465	3.109	R11	ハ		土器（V類）	
44	35914.398	25754.351	3.162	R11	ハ		二枚貝有孔（シナシ）	
45	35912.845	25753.183	3.074	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
46	35912.885	25753.433	3.066	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
47	35912.971	25753.458	3.065	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
48	35913.092	25753.485	3.084	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
49	35913.070	25753.574	3.081	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
50	35912.923	25753.658	3.072	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
51	35912.884	25753.787	3.060	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
52	35913.168	25753.793	3.071	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
53	35913.079	25753.812	3.077	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
54	35912.989	25753.859	3.066	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
55	35912.993	25753.757	3.077	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
56	35913.118	25753.430	3.075	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
57	35912.933	25753.627	3.062	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
58	35912.928	25753.761	3.055	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
59	35913.051	25753.416	3.087	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
60	35913.087	25753.586	3.072	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
61	35913.208	25753.473	3.011	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
62	35913.211	25753.534	3.039	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
63	35913.255	25753.635	3.076	R11	ハ		（土器）	
64	35913.092	25753.749	3.074	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
65	35913.106	25753.430	3.062	R11	ハ		土器（IV類）	第48図74
66	35913.318	25753.563	3.036	R11	ハ		土器（IV類）	
67	35913.277	25753.517	3.027	R11	ハ		（土器）	
68	35913.038	25753.397	2.900	R11	ハ		土器（IV類）	
69	35912.900	25753.429	2.899	R11	ハ		ビリンヤ	
70	35914.935	25750.318	2.986	R11	ハ		巻き貝有孔（ホカ）	
71	35915.823	25752.819	3.028	Q11	ハ		石器（磨石）	第68図40
72	35915.602	25752.165	2.988	Q11	ハ		石器（磨石）	第65図18
73	35931.134	25742.802	3.070	N9	ニ		骨	
74	35931.191	25742.859	3.066	N9	ニ		骨	
75	35931.233	25742.814	3.640	N9	ニ		骨	
76	35931.220	25742.883	3.066	N9	ニ		骨	
77	35931.370	25742.906	3.079	N9	ニ		骨	
78	35931.499	25742.981	3.120	N9	ニ		骨	
79	35931.619	25742.997	3.134	N9	ニ		骨	
80	35931.144	25743.240	3.139	N9	ニ		イソシ（四肢骨）	

第三章 第3節

第11表-14 取上遺物一覧 (ハ・二地区)

取上番号	X	Y	Z	小 グリッド	地区	遺構	出土遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	小 グリッド	地区	遺構	出土遺物	図番号
161	35914.566	25754.452	3.011	R11	ハ		カブトノキ		252	35904.609	25749.897	2.985	T10	ハ		(土器)	
162	35914.599	25754.457	3.014	R11	ハ		アボソクサギ		253	35904.552	25750.105	2.991	T11	ハ		土器 (V類)	
163	35914.132	25754.060	2.984	R11	ハ		ヤコウイ	第80図23	254	35904.674	25750.100	3.006	T11	ハ		土器 (VI類)	第54図114
164	35916.115	25754.303	3.110	Q11	ハ		骨		255	35904.263	25749.436	3.006	T10	ハ		土器 (V類)	
165	35916.276	25754.408	3.120	Q11	ハ		骨		256	35904.664	25749.783	2.956	T10	ハ		シブシ	
166	35916.141	25754.224	3.038	Q11	ハ		土器 (IV類) カシメ (腹・背) 甲板		257	35906.111	25750.054	2.976	S11	ハ		土器 (くびれ)	第60図199
167	35916.071	25754.373	3.072	Q11	ハ		カシメ		258	35906.200	25751.338	2.910	S11	ハ		シブシ	
168	35916.142	25754.882	3.037	Q11	ハ		土器胴部		259	35905.316	25747.428	3.019	S10	ハ		シブシ	
169	35913.995	25753.976	2.977	Q11	ハ		土器 (IV類)	第48図77	260	35905.449	25747.478	3.011	S10	ハ		シブシ	
170	35916.040	25755.054	3.640	Q12	ハ		ジュゴン (肋骨)		261	35909.510	25755.360	2.964	S12	ハ		シブシ	
171	35916.782	25754.508	3.084	Q11	ハ		ジュゴン (肋骨)		262	35908.214	25754.766	3.068	S11	ハ		土器 (V類)	第53図90
172	35916.444	25755.369	3.140	Q12	ハ		カシメ (腹・背) 甲板		263	35908.441	25754.714	3.019	S11	ハ		土器 (V類)	第53図90
173	35915.716	25755.841	3.107	Q12	ハ		ジュゴン (肋骨)		264	35925.241	25736.654	2.917	08	ニ		土器 (IV類・VI類)	
174	35916.143	25754.156	3.013	Q11	ハ		カシメ		265	35926.231	25735.661	2.885	08	ニ		土器 (V類)	第51図86
175	35914.912	25752.813	2.924	R11	ハ		土器 (IV類)		266	35925.989	25735.348	2.896	08	ニ		土器 (V類)	第51図86
176	35916.559	25754.142	3.059	Q11	ハ		(土器)		267	35925.964	25735.206	2.878	08	ニ		骨	
177	35916.689	25754.499	3.034	Q11	ハ		貝輪 (オホツツカガシ)	第78図4	268	35924.993	25736.055	2.880	P8	ニ		土器 (乳)	第60図185
178	35920.160	25752.297	3.095	P11	ハ		ジュゴン (肋骨)		269	35913.984	25745.850	2.892	R6	ニ		骨	
179	35895.543	25741.751	2.640	A9	ハ		土器 (VI類)	第54図115	270	35913.472	25726.626	2.792	R6	ニ		イソシ (四肢骨)	
180	35895.455	25741.676	2.548	A9	ハ		土器 (VI類)		271	35907.069	25745.673	2.964	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
181	35906.388	25738.941	2.790	S8	ハ		石器 (磨石)	第68図41	272	35907.087	25745.367	2.939	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
182	35906.561	25745.522	3.002	S10	ハ		(土器)		273	35907.007	25745.391	2.962	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
183	35906.445	25745.507	2.990	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	274	35907.810	25745.345	2.949	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
184	35906.420	25745.419	2.961	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	275	35906.973	25745.344	2.965	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
185	35906.466	25745.456	2.971	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	276	35906.981	25745.283	2.955	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
186	35906.623	25745.464	2.990	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	277	35906.920	25745.311	2.960	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
187	35906.651	25745.399	2.994	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	278	35906.900	25745.246	2.959	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
188	35906.713	25745.319	2.976	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	279	35906.810	25745.307	2.962	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
189	35906.661	25745.254	2.977	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	280	35906.713	25745.433	2.959	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
190	35906.652	25745.316	2.984	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	281	35906.683	25745.364	2.964	S10	ハ		(土器)	
191	35906.589	25745.353	2.986	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	282	35906.638	25745.391	2.962	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
192	35906.570	25745.433	2.993	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	283	35906.669	25745.313	2.950	S10	ハ		(土器)	
193	35906.523	25745.419	2.982	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	284	35906.546	25745.446	2.960	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
194	35906.547	25745.479	3.001	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	285	35906.734	25745.634	2.939	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
195	35906.501	25745.456	2.984	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	286	35906.872	25745.581	2.943	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
196	35906.531	25745.374	2.983	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	287	35906.872	25745.633	2.899	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
197	35906.571	25745.280	2.975	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	288	35906.290	25746.065	2.971	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
198	35906.538	25745.303	2.971	S10	ハ		(土器)		289	35911.023	25728.559	2.714	R6	ニ		土器 (VII類)	第56図129
199	35906.493	25745.323	2.978	S10	ハ		(土器)		290	35907.351	25747.101	2.842	S10	ハ		土器 (IV類) おろし	第49図79
200	35906.452	25745.300	2.973	S10	ハ		(土器)		291	35911.480	25748.180	2.966	R10	ハ		土器 (IV類) シブシ	第49図79
201	35906.470	25745.337	2.969	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	292	35912.618	25749.851	2.853	R10	ハ		土器 (IV類) シブシ	第49図79
202	35906.497	25745.383	2.975	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	293	35913.855	25750.360	2.940	R11	ハ		土器 (IV類) 石器 (磨石)	第49図79 第70図46
203	35906.548	25745.362	2.972	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	294	35915.370	25747.913	2.921	Q10	ハ		土器 (IV類) 二枚貝有孔 (トビノヤ)	第49図79
204	35906.617	25745.370	2.971	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79	295	35914.990	25748.359	2.913	R10	ハ		土器 (IV類) 巻貝有孔 (ヤコウイ)	第49図79 第82図36
205	35916.197	25729.523	2.823	Q6	ニ	Q6-SPS	カシ (肋骨)		296	35914.943	25748.395	2.913	R10	ハ		土器 (IV類) シブシ	第49図79
206	35909.696	25746.327	3.016	S10	ハ		土器 (くびれ)	第60図200	297	35910.626	25748.670	2.938	R10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
207	35905.056	25750.020	2.963	S11	ハ		土器 (VI類)	第54図116	298	35906.812	25745.319	2.928	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
208	35904.899	25750.113	3.026	T11	ハ		(土器)		299	35906.772	25745.466	2.912	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
209	35904.887	25750.246	3.041	T11	ハ		土器 (VI類)		300	35907.104	25745.627	2.937	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
210	35904.923	25750.625	3.018	T11	ハ		土器 (V類)	第51図87	301	35907.266	25745.521	2.917	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
211	35904.810	25750.275	3.005	T11	ハ		土器 (V類)	第51図87	302	35907.186	25746.057	2.886	S10	ハ		土器 (IV類)	第49図79
212	35904.895	25749.815	2.963	T10	ハ		ヒシヤコ		303	35907.191	25745.804	2.936	S10	ハ		シブシ	
213	35904.296	25749.421	3.025	T10	ハ		土器 (V類)		304	35911.279	25747.804	3.030	R10	ハ		シブシ	
214	35904.125	25749.424	3.017	T10	ハ		土器 (V類)	第51図87	305	35911.372	25747.935	2.969	R10	ハ		シブシ	
215	35904.126	25749.516	2.989	T10	ハ		土器 (V類)	第51図87	306	35910.513	25727.762	2.741	R6	ニ		土器 (VII類)	第56図129
216	35904.195	25749.706	3.006	T10	ハ		土器 (V類)	第51図87	307	35911.275	25728.473	2.710	R6	ニ		土器 (VII類) 骨	第56図129
217	35904.247	25749.720	2.997	T10	ハ		土器 (V類)	第51図87	308	35926.280	25739.566	2.710	08	ニ		石材	
218	35926.386	25735.512	2.982	08	ニ		土器 (V類)	第51図86	309	35926.137	25740.453	2.784	09	ニ		石器 (石斧)	第64図11
219	35926.033	25735.699	2.987	08	ニ		土器 (V類)	第51図86	310	35917.342	25727.794	2.774	Q6	ニ		骨	
220	35926.059	25735.499	2.928	08	ニ		土器 (V類)		311	35913.690	25751.446	2.872	R11	ハ		土器 (III類)	
221	35926.007	25735.514	2.930	08	ニ		(土器)		312	35913.427	25751.767	2.866	R11	ハ		土器 (III類)	
222	35925.955	25735.471	2.934	08	ニ		(土器)		313	35913.319	25751.364	2.871	R11	ハ		土器 (III類)	
223	35925.970	25735.963	3.001	08	ニ		土器 (V類)	第51図86	314	35912.541	25752.167	2.890	R11	ハ		石器 (磨石)	第65図24
224	35925.702	25735.961	2.985	08	ニ		土器 (IV類)		315	35912.573	25752.653	2.855	R11	ハ		アボソクサギ	
225	35925.660	25736.059	2.989	08	ニ		青磁 (碗) 土器 (IV類)		316	35912.589	25752.698	2.871	R11	ハ		アボソクサギ	
226	35925.591	25736.105	2.972	08	ニ		(土器)		317	35912.052	25752.466	2.882	R11	ハ		土器 (尖底)	第58図148
227	35925.577	25736.312	2.990	08	ニ		土器 (V類)	第51図86	318	35912.033	25752.418	2.875	R11	ハ		土器 (尖底)	第58図148
228	35925.532	25736.429	2.981	08	ニ		土器 (IV類)		319	35911.022	25754.667	2.854	R11	ハ		石器 (磨石)	第67図35
229	35925.084	25736.519	2.952	08	ニ		土器 (IV類・VI類)		320	35911.109	25753.667	2.995	R11	ハ		土器 (IV類)	第48図77
230	35925.324	25736.687	2.937	08	ニ		土器 (IV類・VI類)		321	35911.177	25753.707	2.910	R11	ハ		土器 (V類)	第52図88
231	35925.096	25736.353	2.929	08	ニ		土器 (VI類)		322	35911.427	25753.267	2.893	R11	ハ		土器 (V類)	第52図88
232	35924.945	25736.457	2.919	P8	ニ		土器胴部		323	35911.832	25753.663	2.900	R11	ハ		ヤコウイ	
233	35925.271	25736.012	2.920	08	ニ		骨		3								

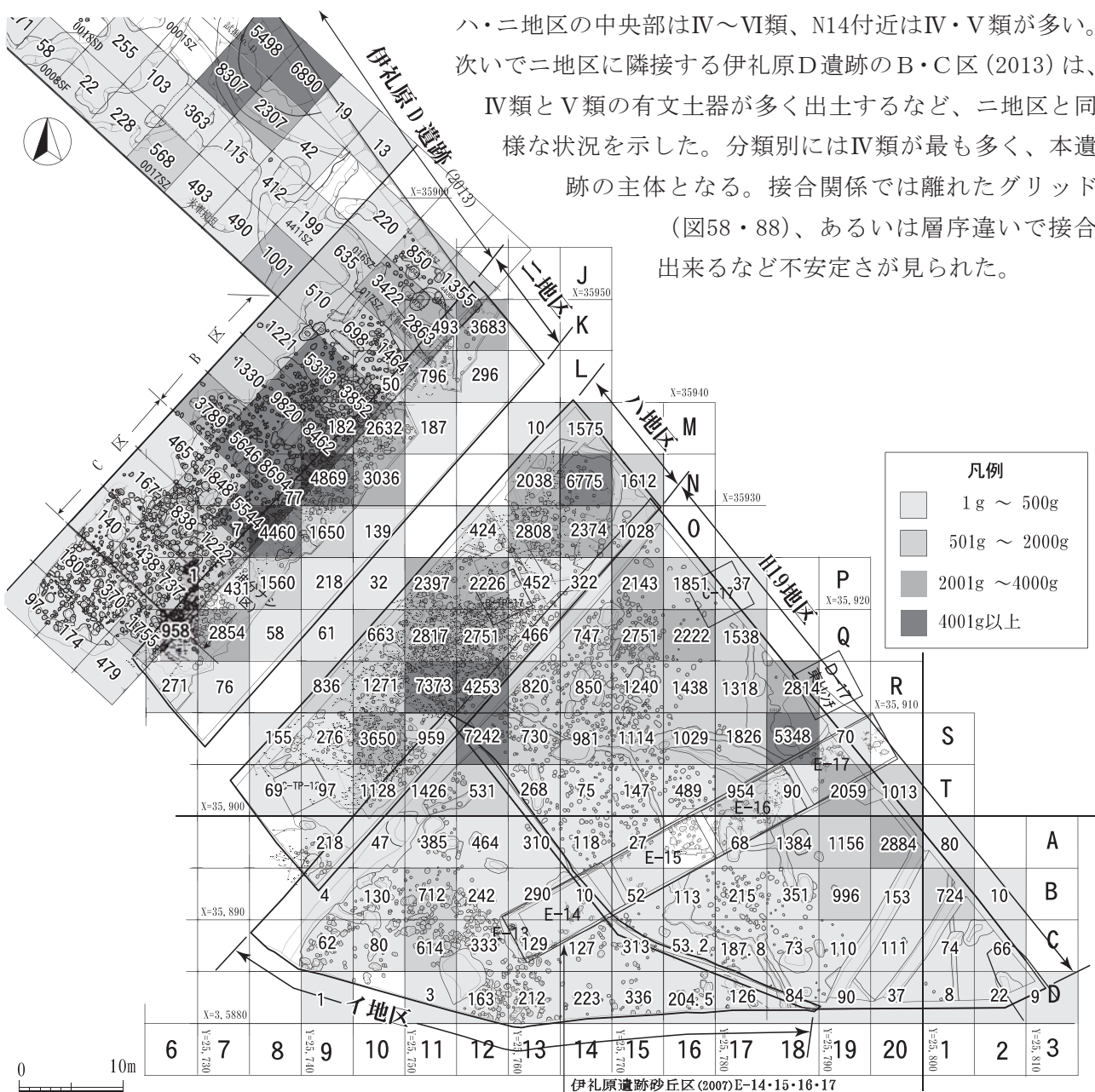
2. 出土遺物

貝塚時代後期の出土遺物は土器、石器、貝製品、骨製品、土製品が出土した。大まかな出土量は、土器15コンテナ、石器20コンテナ、貝製品23コンテナ、骨製品5コンテナで、人工遺物では、土器が最も多い。自然遺物では貝類が189コンテナ、骨類10コンテナ出土している。

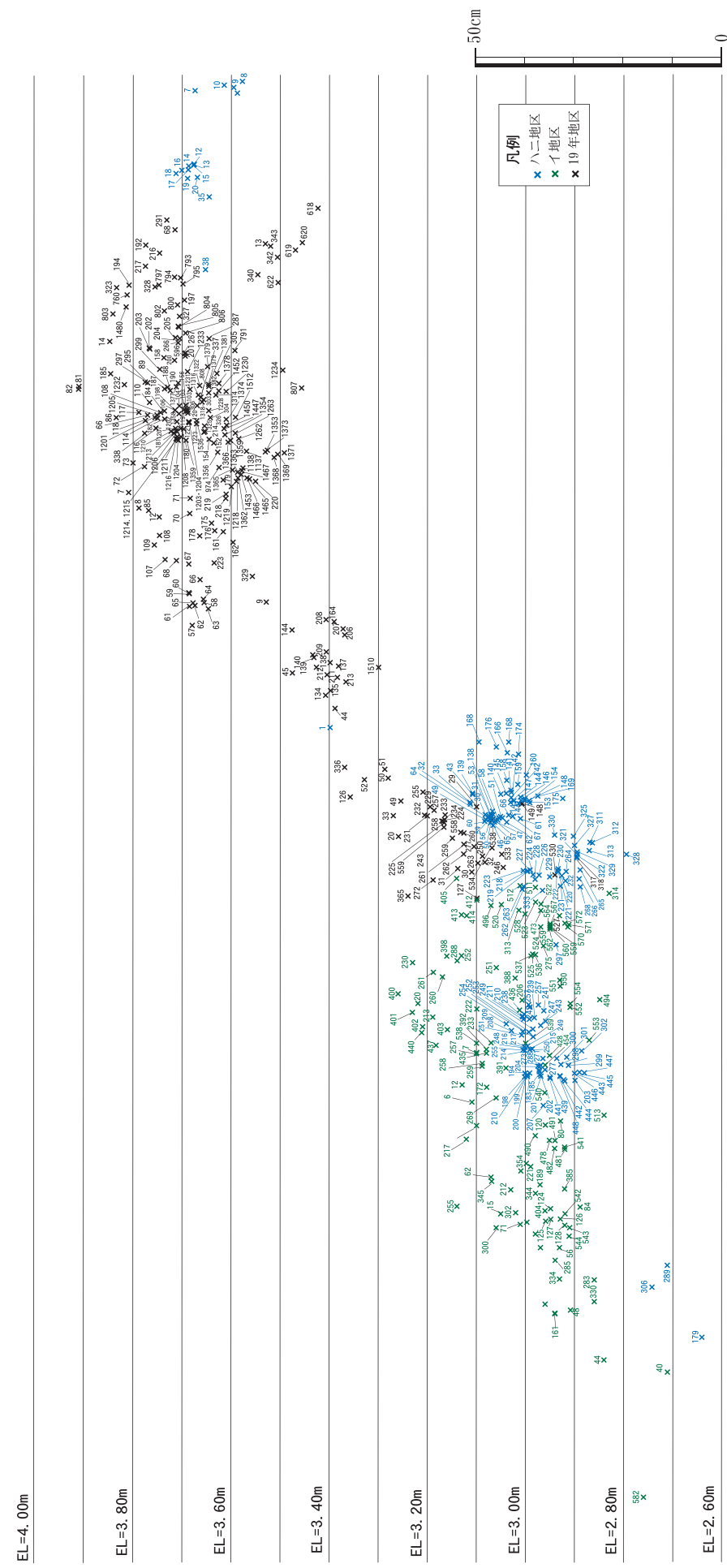
(1) 土器

土器は15コンテナ、注記記入時の重量は約128kgとかなりの量が検出された。貝塚時代後期の土器が多く、他に貝塚時代前期の土器や搬入土器などが少量得られた。注記記入時に量った重量をグリッド別に平面分布に示し（第35図）、隣接する伊礼原D遺跡も加えて遺物整理の指標とした。接合を試みたところ、復元土器が14個体、他にも形状の分かるものが多数見られた。第12表に口縁・胴部の出土量、第36図に調査時に点上げた土器の平面分布と垂直分布を図示し、本遺跡で出土した貝塚時代後期の土器をⅠ～Ⅶ類に分類した。H19地区 A20辺りは搬入土器とⅠ・Ⅱ類、S18はⅡ・Ⅳ類、Q15辺りはⅢ・Ⅳ類が多く、イ地区は出土量が全般的に少ない。

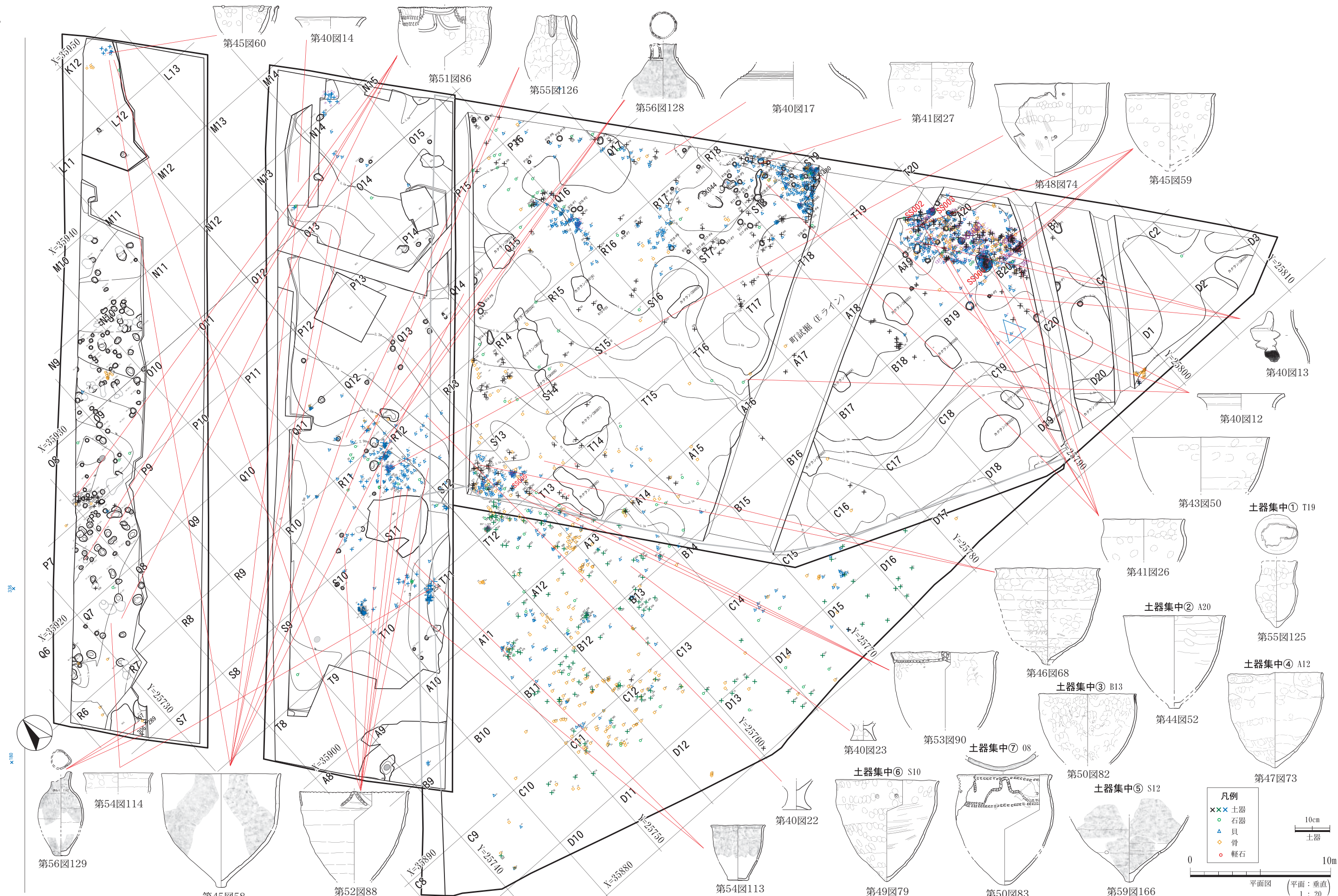
ハ・ニ地区の中央部はⅣ～Ⅵ類、N14付近はⅣ・Ⅴ類が多い。次いでニ地区に隣接する伊礼原D遺跡のB・C区(2013)は、Ⅳ類とⅤ類の有文土器が多く出土するなど、ニ地区と同様な状況を示した。分類別にはⅣ類が最も多く、本遺跡の主体となる。接合関係では離れたグリッド（図58・88）、あるいは層序違いで接合出来るなど不安定さが見られた。



第35図 土器（重量）平面分布



第36図 土器平面・垂直分布（土器接合、遺物取り上げ）



（土器以外平面分布のみ表記、詳細は第11表を参照）

しかし、一括土器（土器集中①～⑦）や復元可能な土器も多数見られ、原位置の可能性が高いものもあることから、貝塚時代後期の安定した層と考えられる。層別には第IV層出土が最も多く、ハ・ニ地区では第III層の遺構からも多数出土した。第V層も貝塚時代後期の層で、量的に少ないが第IV層と同じ土器群が出土する。ただ、I類と弥生土器は第V層出土が多く（図12・13・17・25～27等）、出土地もA20周辺に限られてくることから、場所によっては時期差が見られる（第37図）。

貝塚時代前期の土器をI群、後期の土器をII群に大別し、始めにI群土器、次いで本遺跡の主体となるII群土器について記述する。主なものを第39図～60図に図示し、図版27～48、第15表に観察一覧、第12表に口縁・胴部の出土量をまとめた。なお、2.5cm以下は分類が困難で集計から外した。底部はI・II群とも分類と集計を別に行い、出土量を第14表にまとめた。

第12表 土器口縁部・胴部出土量

地区	層序	遺構	I群				II群																口縁部計	胴部計	合計								
			搬入		在地		I類	II類	III類	IV類						V類	VI類	VII類	不明														
			口	胴	口	胴				A	B	C	不明	口	胴					口	胴	口				胴							
H19	I						1	2	5	1	4	4	5						1		2	1	24	25									
	II					3	1	15	2	1	1	7	5	5	30	1	1	6				4	19	63	82								
	II	遺構					1	3	5	3	7	3								1		4	2	25	27								
	III									1	1	1	1	1	12	1	1						3	16	19								
	III	遺構				1	2	2	12	10		10	1	8	1	35	6	59			11	2	1	0	1	3	17	28	154	182			
	IV		9	5	4	14	1	29	31	40	347	6	189	11	212	17	311	98	921	5	168	30	17	1	1	10	2	17	140	292	2344	2636	
	IV	遺構						1	1	5			2	1	1	4					1	1				1	3	15	18				
	V			3		26	2	53	55	24	116	2	17		36	3	41	7	81	1	26	4	4		1	4	7	37	134	416	550		
	V	遺構				2	2	2	4	17		1		2					1		2		1					8	26	34			
	VI			2			1	1	1	1		1							2				1				2	3	9	12			
枝ノゴ層			3					2																		2	0	7	7				
表採		1						4		1				1	1	3					1					1	1	4	10	14			
不明												1															0	1	1				
小計			10	0	8	9	43	3	90	93	84	522	10	231	14	273	22	406	118	1120	8	215	45	23	1	2	16	3	28	210	497	3110	3607
I	I																										1	0	1	1			
	II										1					2	8										4	2	16	18			
	II	遺構									1				1	3	5										1	4	7	11			
	III							1						2	1	2	1	4								1	3	3	19	22			
	III	遺構							1	1	1	4	1	11	5	21	1	8	1	1	1	2	1				10	11	59	70			
	IV			1				1	6		1	12	4	30	10	89	1	34	3	2	2	11					1	2	24	23	211	234	
	IV	遺構															1											0	1	1			
	V			2			1	1	3			1		7	5	22			4		1		7				2	9	47	56			
VI								1			1		1	1	6	1	1									3	2	13	15				
表採													3							1							1	0	5	5			
小計		0	0	2	1	0	0	1	1	2	12	2	2	0	21	6	55	27	156	3	55	4	4	3	22	1	1	3	49	54	379	433	
ハ	I	遺構														1												2	0	2			
	II								2	3		1		1	25	4	9		8			1					1	5	8	52	60		
	II	遺構					1			7	1		5	27	53	5	58		8	8	3	9	10		1	1	1	13	31	180	211		
	III							0	3	1	1	1	17		182	4	57		5	3	2		2			2	11	11	280	291			
	III	遺構						7	4		5	3	18		1	113	14	95	1	33	15	4	3	8	0		1	20	45	300	345		
	IV			1	4	1		1	16	34	2	23	17	72	13	539	95	547	7	80	91	39	12	72	12	4	4	149	273	1562	1835		
	IV	遺構							1				1	1		9	2	26		2	6		1	4			4	11	46	57			
	VI	下層確認			1			2																				1	2	3			
下層-上	下層確認(上)						1																				0	1	1				
下層-中	下層確認(中)						2	1	2		1			1	1	1										1	1	8	9				
下層-下	下層確認(下)											1															0	1	1				
不明								1							3		2		1								0	1	1	7	8		
小計		0	0	0	1	5	1	1	6	28	53	4	31	27	137	15	925	124	795	9	137	123	48	26	96	13	5	9	204	384	2439	2823	
ニ	II								1	2	1	1		11	13	1	19	1	6	3	2		2				1	2	8	58	66		
	II	遺構												3	6	8		3										0	20	20			
	III								3		5	7	13		3	135	9	55	1	16		1		1	1	1	12	21	242	263			
	III	遺構		2				1			3		4	22	2	50	7	107	1	31	3	7	1	12			8	18	243	261			
	IV							4	1	40	6	10	12	66	9	237	43	343	1	106	22	47	4	63	3		1	97	102	1013	1115		
	IV	遺構					1		1	2		1	5	15	1	20	4	43		17	1	4		9	1		5	14	116	130			
VI				1				1	1					1			2									1	2	5	7				
小計		0	2	0	1	0	1	1	4	4	51	7	18	29	137	17	471	66	591	5	182	29	62	7	88	5	1	3	125	173	1734	1907	
不明	III	遺構													1													1	0	1			
	V							1	0							15	8	9		14	3	1	1				4	17	46	63			
	不明			1				3	1	3																	4	19	46	63			
小計		0	0	1	0	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	15	8	9	0	14	3	1	1	0	0	0	4	17	46	65			
合計		10	2	11	12	48	5	97	104	119	641	23	282	70	568	61	1872	343	2671	25	603	204	138	38	208	35	10	43	592	1127	7708	8835	

<Ⅰ群土器>

本遺跡からⅠ群土器が35点と僅かに出土した。貝塚時代前期の土器で、搬入土器や在地の土器等である。第Ⅳ層から出土しているが、同層はⅡ群土器を主体とする層で、Ⅰ群土器の出土は量的にも少なく、伊礼原遺跡砂丘区との関連が考えられる。搬入土器、在地土器の順で記述する。

1) 搬入土器

搬入土器は12点の出土で、第39図1～5に5点を図示した。文様や胎土が伊礼原D遺跡(2013)で出土した搬入土器と類似する。小破片がほとんどで接合は出来ないが、R13・14の第Ⅳ層からまとめて出土し、図示した5点とも同一個体の可能性がある。図1～3は口縁部で、口唇を平らに整え、外面に細凸帯文を直線的又は曲線的に貼り付ける。図4・5は胴部で同様な文様を施す。全体的に器色は暗褐色を呈し、器厚も6mmとほぼ同じである。

2) 在地土器

在地土器はT17やT12などから23点が得られ、図6～11に6点を図示した。図6は外面に条痕が見られ、室川下層式土器あるいは条痕文土器と思われる。図7・8は面縄前庭式土器で、前者は凸帯文上に刺突文、その直下に沈線文を縦位に施すものである。後者は摩耗が著しいが、横位に凸帯文を貼り付けており、形状から壺の可能性も考えられる。図9は胴部で、外面に綾杉状の沈線文を施したもので、仲泊式土器である。図10・11は型式不明の土器である。前者は外面に横位の沈線文と刻み文、後者は外面に斜・曲沈線と微弱な凸帯文(上に刺突文)の組み合わせである。

<Ⅱ群土器>

Ⅱ群土器は貝塚時代後期の時期に属するもので、口縁部・胴部の総数は搬入土器も含めて8800点の出土である。Ⅰ群と同じく搬入土器と在地土器に分類し、前者は僅か53点、他は全て後者の在地土器である。出土層位を見ると第Ⅳ層出土が6006点と最も多く、次いで第Ⅲ層出土が1452点と多い。ハ・ニ地区はグスク時代の柱穴群によって攪乱を受け、第Ⅲ層から出土するものが多い。第Ⅴ層は636点と少量の出土で、地区別ではH19地区出土が最も多く、他の地区は少ない。中でも弥生土器とⅠ類土器は、H19地区において第Ⅴ層出土が多く見られた。若干時期差があるものと思われる。第37・38図の分類別の平面分布から弥生土器・Ⅰ類はH19地区のA20を中心とするその周辺、Ⅱ類はA20周辺とS18付近、Ⅲ類はH19地区のQ16を中心とするその周辺での出土が多い。Ⅳ類はハ・ニ地区の中央部とN14付近、そしてR・S18からの出土が主で、S12・13の土器集中部では第Ⅳ・Ⅴ層出土の土器が接合出来るなど、層序が不安定である。Ⅴ類はⅣ類とほぼ同じ、Ⅵ類はH19地区ではほとんど出土せず、ニ地区の08、ハ地区のS10、イ地区T11で多い。始めに、搬入品である弥生土器から記述する。

1) 搬入土器

搬入である弥生土器は口縁部、胴部、底部をまとめて記述するが、底部の集計は別にした。口縁部は48点、胴部は5点、底部は5点の出土で、図12～24に図示した。H19地区のA20を中心に第Ⅳ・Ⅴ層から出土する。多くは第Ⅴ層出土で、図12・13の一部は異なる層の破片が接合出来た。弥生土器の周辺からはⅠ・Ⅱ類の土器が多数出土し、第Ⅴ層の遺構である貝集積からもⅠ類、Ⅱ類の土器が出土していることなどから、どちらかの土器と同時期であることは確かである。第37図の分類別の平面分布、第36図の点上げ平面分布と垂直分布からⅠ類土器の出土範囲やレベルの深度(3.50～3.65m)が重なり、Ⅱ類は僅かながらその上部(3.65～3.7m)で出土している。層位的には弥生土器とⅠ類は同じ第Ⅴ層からの出土が多数であるが、接合関係において層序の不安定さが見られることから、今の段階では保留としたい。器種は壺、甕、平底・脚台の底部が見られ、時期的には弥

生中期頃と思われる。その順に記述する。

図12・13は壺で胎土や出土地、接合関係などから、同一個体と思われるものである。内面のハグレにより器厚は若干異なる。第36図の平面分布を見ると、ほとんどはA20とその近くで出土するが、中には20～30m程も離れたT16からも出土している。図12は口唇に調整痕が残り、僅かに凹みが見られる。外面はナデが丁寧で、一部ミガキが残り、内面は器面が剥がれている。図13は三角状の凸帯文が1条貼り付けられ、胴部が貝集積のSS01・03から出土している。

図14・15は口唇部がやや丸みを呈する壺で、胎土や器面調整が同じであることから、図16の胴部も同一個体と思われる。外面には刷毛目が見られ、内面は剥がれている。図12とは口唇部形状や胎土が若干異なる。図17・18の胴部2点も壺で、前者は5条の三角状凸帯文を圍繞、後者は破損が大きく、現存で2条の三角状凸帯文を圍繞する。

図19・20の2点は甕の口縁部である。前者は口唇部に粘土を貼り付けて平らに強調し、その下に1条の三角状凸帯文が圍繞する。後者も粘土を貼り付けて幅広の口唇部を呈し、平らな面を作る。前者に比べて口唇部はより幅広で、胎土も異なる。破片が小さく、口縁部外端も破損していることからはっきりはしないが、新里氏によれば、須玖式土器の可能性があるとのご教示が得られた。

底部は平底と脚台が得られた。前者は図21の1点で、後述する底部分類のD eである。底厚が3cmと厚く、朝顔状に外反する。若干上げ底状を呈し、胎土に粗めの角閃石や石英を多量に含む。外底面の一部には煤が見られ、内面は器面が剥がれている。弥生中期前半頃の甕の底部と思われる。脚台は5点が得られ、そのうち3点を図示した。図22は中実脚台で、底厚が4.7cmで、外底面は上げ底を呈する。底部分類のF aである。外面はナデが丁寧に施され、角は丸みを呈する。弥生中期頃の甕の底部と思われる。

図23・24は中空脚台で、底部分類のF bである。胎土から前者はスセン當式土器、後者は脚台を模倣した在地土器と思われる。2点とも脚台の底面は平らに調整されている。図24は在地の胎土であるが、形状から搬入の脚台に集計している。

2) 在地土器

在地土器は本遺跡の主体となる土器群で、口縁部・胴部と底部に分けて分類、集計を行った。

①口縁部・胴部

復元土器も合わせて口縁部1058点、胴部7689点を得られ、総計8747点の出土である。主な口縁・胴部を図25～143に図示し、第12表に口縁部・胴部の出土量、第15表に観察一覧をまとめた。口縁部は前述したようにⅠ～Ⅶ類に分類し、図示した頸部や胴部も口縁部の分類に従った。分類出来ない破片は不明として扱った。第36図に示した平面分布と垂直分布を見ると、山手側は標高3.7m、海岸側は標高3.0mと緩やかに傾斜した地形を成す。土器の出土状況を見ると、H19地区の山手側ではⅠ～Ⅲ類と弥生土器、イ・ハ・ニ地区ではⅣ～Ⅵ類が多く、その詳細を第37・38図の分類別平面分布に示した。前述したように不安定な層序ではあるが、復元可能な土器も多数見られた。層位的にはⅠ類が第Ⅴ層、Ⅱ類は第Ⅳ層出土が多いが、第Ⅴ層からの出土も見られる。Ⅲ類は第Ⅳ層出土が多数である。Ⅳ類は第Ⅳ層出土がほとんどで、第Ⅲ層や同層の遺構からの出土も多い。Ⅴ・Ⅵ類はⅣ層出土が多い。第36図の平面分布から接合関係を見ると、図58や図88などは離れた破片同士が接合したが、柱穴など遺構以外のものは一括して出土しているものが多いことから、原位置に近い状態と思われる。Ⅰ類～Ⅴ類までは底部が尖底系で、Ⅵ類のみがくびれ平底の口縁部であることが復元土器(図113)から明らかである。在地土器は第Ⅳ・Ⅴ層から一括で出土した土器が多く、土器集中の遺構の項でも記述している。つぶれた状態で出土したものや多数の土器が復元出来るなど当時

の生活面とも考えられる。ただ、柱穴は見られるもののプランは想定出来ない。以下、分類した I～VII類を詳細に記述する。

I類：頸部がくびれて「く」字状に屈曲するもの（阿波連浦下層式相当）

A→屈曲が明瞭なもの

B→屈曲が不明瞭なもの

II類：口縁部が直状または上端がやや外反するもの（浜屋原式土器相当）

A→胎土に角閃石を含み、砂質が強いもの

B→胎土に角閃石を含まず、厚手のもの

III類：形状はII類に類似し、胎土はII類BあるいはIV類に近い特徴を持つもの

IV類：口縁部は外反または直状を呈し、粘土積み痕が明瞭なもの（大当原式土器相当）

A→粘土積み痕が明瞭で厚手・不均一なもの

B→粘土積み痕が明瞭で薄手・不均一なもの

C→粘土積み痕が不明瞭で薄手・均一なもの

V類：I～IV類以外の有文土器をまとめたもの

A→頸部はくびれ、口縁部は外反、文様は凸帯文と沈線文、底部は丸底的尖底

B→形状はAに類似するが、沈線文主体、底部は不明

C→直状または口縁上端が僅かに外反するもの

D→形状が不明なその他の有文（文様でア～オに細分類）

VI類：口縁部は外反し、胎土は泥質・底部はくびれ平底と思われるもの

A：鉢形

B：甕形

VII類：I類～VI類の壺をまとめたもの

I類は口縁部97点、胴部104点の計201点の出土で、II群在地土器の2.3%の割合である。図25～46に主な22点を図示した。第12表の口縁部・胴部出土量を見ると、第IV層が61点、第V層が112点と多く出土し、第37・38図の分類別の平面分布では出土範囲と層が弥生土器とほぼ同じである。容量は中・小型が大半で、屈曲が明瞭なものをA、不明瞭なものをBとした。集計では一つにまとめている。

Aは図25～33に図示した。口縁部の内側が膨らむものがほとんどであるが、図31・32の2点はスムーズに胴部へ移行する。

図25は胴下部で粘土の貼り付けが雑で、若干器面がいびつになる。図26は両面ともナデが丁寧で、胎土に僅かな火山ガラスを含むことから、搬入土器の可能性もあるが、形状からここに含めた。本資料の胴部が貝集中（SS04）から出土している。図27は口縁部の内面が膨らみ、粘土貼り付け痕が明瞭に残る。図28は砂質の強い土器で、小振りである。図29は屈曲部にヘラナデ痕と思われる条痕が見られる。図30の口縁部は玉縁状を呈し、胎土に火山ガラスを含むことから、搬入土器の可能性もある。図31・32は口唇が舌状を呈し、胎土も他に比べてやや泥質である。後者はより屈曲が強く、稜も明瞭である。図33は口縁部より胴部の径が大きく、口縁部の内面側が膨らみを持つ。

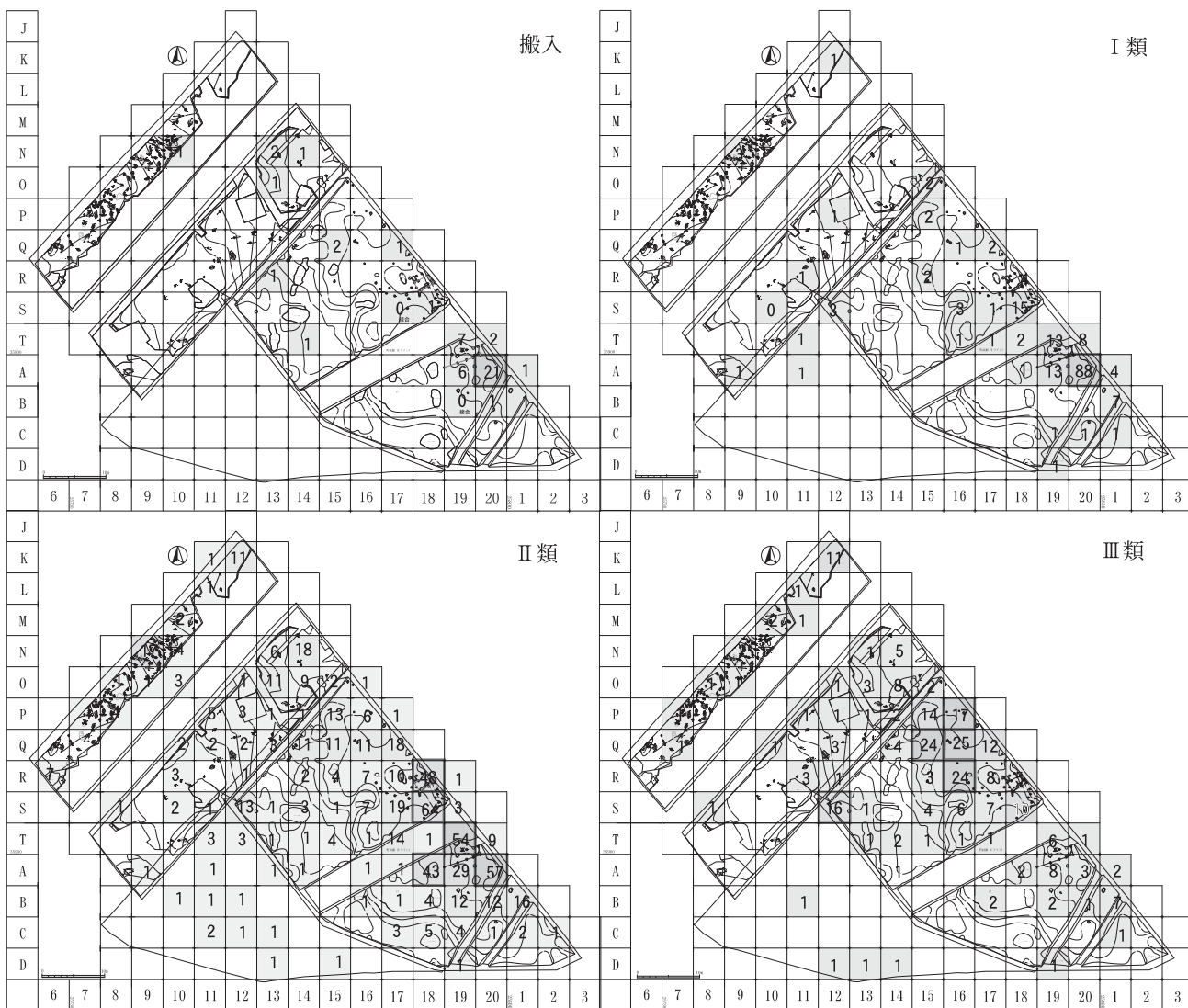
Bは屈曲が弱くて稜がやや不明瞭なもので、図34～39の6点を図示した。図34・35は内面側が膨らむが、他は膨らみを持たない。図36は胴部が膨らみ、ナデが両面とも丁寧である。図37は胴部が張らず、胎土も精製されて堅い。図38は頸部の指ナデにより僅かの屈曲と胎土からI類とした。図39は、A20にある貝集中（SS04）出土の破片とおおよそ30m以上離れたS10のSK02出土の破片が接合出来たものである。

図40は三角凸帯文を貼付する有文の土器で、胎土が粗く、器厚も10mmと厚手である。頸部が僅かに屈曲することからI類とした。A20でまとまった出土を見せる。

形状は不明だが、胎土などの特徴からI類としたものは図41～45の口縁部5点と図46の頸部を合わせて6点である。図41はナデにより屈曲部を強調している。図42は口唇が玉縁状でその直下に細沈線文が見られ、僅かに屈曲することからI類に分類した。図43は貝集積(SS02)出土で、胎土はきめ細かく、口唇部の粘土を一部折り曲げている箇所がある。図44・45も形状からI類に分類した。図46の頸部は、外面を丁寧にナデ調整している。

II類は口縁部119点、胴部641点の計760点の出土で、II群在地土器の8.7%の割合である。図47～59に13点を図示した。II類はほぼ遺跡全体から得られ、出土量の多いグリッドはI類と同じくA20、さらにS・R18からの出土も増加する。また、I類に比べてサイズは大きくなる傾向を示す。A、Bとも形状はほぼ同じで、角閃石を含み、砂質が強いものをA、角閃石は含まず、厚手のものをBとした。形状的にはいずれも直状を呈し、中には口縁上部が外反するものもある。

Aは図47～55に図示した。図47・48は僅かに屈曲を持つものである。前者は屈曲部が長く、口唇部は粘土折り曲げによって玉縁状を呈し、後者はナデによる幅の狭い屈曲部が見られる。両者とも



第37図 口縁部・胴部分類別平面分布 1

胎土に角閃石を含み、手触りはザラザラする。図49～52の4点はほぼ直状を呈し、口縁上端が僅かに外反する。図49は有孔を持ち、外→内へ穿たれている。図52は土器集中②で記述した土器で、底部近くまで復元可能なものである。ほぼ一括して出土した破片が多く、器面調整は外面のナデ調整が丁寧で、内面は指頭痕が残る雑仕上げである。貝集積（SS02）の周辺からも本資料の胴部が得られている。本資料は角閃石を含まないが、全体的な特徴からAに分類した。図53～55の3点は直状を呈する。図53は小型の鉢で、貝集積（SS03）の出土である。孔が両面から穿たれており、破片より推測すると有孔は2箇所の可能性が考えられる。Ⅱ類で唯一容量が小さい。図54は粘土接合面が明瞭で、粘土幅も約4cmとほぼ一定である。内面は外面に比べて指頭痕などの雑さが残り、細かい白色粒が多量に含まれる。図55は口縁部のみで判断したが、伊礼原D遺跡（2013・第26図80）で出土した資料に類似しており、Ⅱ類に含めた。図54・55の2点は角閃石を含まないが、形状や器面調整などの特徴からA種に分類した。

Bは胎土に角閃石を含まず、重量感があってAとは質感が異なる。図56～59に図示した。図56は図58に類似する胎土で、器厚もほぼ同じである。図57は口唇部を肥厚させて強調し、頸部は「く」字状に僅かに屈曲する。口唇部に点刻文が見られる。胎土や混和材、器厚などの特徴からここに含めた。底部の図34と類似の胎土を示し、厚さもほぼ同じである。

図58は口縁部から底部まで復元が出来た厚手の土器である。口縁部は直状を呈し、胴部中央辺りから底部にかけて窄まり、底部は乳房状尖底である。N14を中心に広範囲で接合し、第Ⅲ層の遺構出土も多く、底部はN13の柱穴から得られた。Ⅲ類と出土範囲が重なり、形状等が類似する。図59も厚手の土器で、胴下部まで復元が出来た。貝集中（SS04）の周辺から一括して出土している。口縁直下に細沈線の様なものが見られ、文様か器面調整かはっきりしない。本資料は口縁部内面の膨らみや胎土、形状などからⅠ類の可能性もある。

Ⅲ類は口縁部23点、胴部282点の計305点が出土した。Ⅱ群在地土器の3.5%の割合である。形状はⅡ類Bに近く、胎土はⅡ類B、Ⅳ類に類似するものである。本来はどちらかに分類すべきであるが、今回は別にして出土傾向などを見てみた。器面調整を見ると、外面はナデが丁寧、内面は雑仕上げである。第37図の分類別平面分布からすると、Ⅲ類はH19地区に多いが、ニ・ハ地区寄りのQ16周辺とS12での出土が目立つ。図60・図61の2点を図示した。前者は小振りでも口唇部に鞍状凸帯文を貼り付けているが、内面側が長い。外面のナデは丁寧で滑らか、内面は雑でデコボコな器面を呈する。底部に行くにつれて厚みを増し、形状から浅鉢と思われる。後者は厚手で、口唇部を若干強調させる。器面調整は両面とも雑である。

Ⅳ類は口縁部499点、胴部5714点の計6213点が出土した。最も多く得られ、Ⅱ群在地土器の約71.0%の割合を占める。サイズもミニチュアから大型まであり、器種の種類も多様化する傾向が見られる。また、Ⅳ類における口縁部有文の比率を見ると、499点のうち104点の有文土器で、20.8%の割合である。中でも口唇部は刻み目文、外面には有孔を呈するものが多い。口縁部が舌状を呈するものには、波状口縁が多く見られるのもⅣ類の特徴の一つである。層序的には第Ⅳ層出土が68.7%と最も多く、ハ・ニ地区では第Ⅱ・Ⅲ層の遺構出土も他に比べると多く見られた。第38図の平面分布を見ると、Ⅳ類が多数検出された出土地はH19地区ではS18付近、ハ地区はR11とN14を中心とする二箇所、ニ地区はN9を中心にその周辺の分布状況が見られた。ハ・ニ地区においてⅣ類の出土量が増加する傾向がある。Ⅳ類には多様なタイプが見られ、それぞれの特徴からA～Cに分類した。A・Bは粘土積み痕が明瞭な大当原式土器の下層タイプで、器厚が厚いものはA、薄いものをBとした。Cは粘土接合面が不明瞭でほぼ均一な器厚を呈する。Cはナガラ原西貝塚（1979）の土器に類似し

ており、本遺跡のIV類で最も多く得られた。図80の年代測定の結果と合わせて本遺跡の主体となる時期がほぼ想定出来る。図82は粘土接合面が不明瞭で胴部がやや膨らみを持つ形状を呈するが、胎土や同層出土であることなどを考慮して今回はIV類Cとした。以下、それぞれA～Cの順に記述する。

Aは口縁部70点、胴部568点が得られ、計638点である。IV類の中で占める割合は10.3%で、口縁部のみでは14.0%の割合となる。第62図～67図に図示した。

図62・63は2点とも厚手の胴部で、粘土接合面が水平方向に隆起する。どちらも器面両方に指頭痕が顕著に見られる。

図64も同様で、口唇部には粘土を貼り付け、玉縁状に強調する。図65～67は有文で、胎土や器面調整などからIV類に分類した。図65は外面に2条の凸帯文を縦位に貼付、図66は外面に沈線文（曲線+直線）と刺突文を組み合わせ、図67は外面に刺突文を「L」字形に施す。

Bは口縁部61点、胴部1872点の計1933点である。IV類の中で占める割合は31.1%で、口縁部のみを見ると12.2%となる。Aの口縁部と合わせても131点で、IV類における割合は26.3%と少なく、IV類の中では少量の出土である。図68～72に5点を図示した。粘土接合面が明瞭で、Aに比べると薄手である。図68はS12・13でまとまって検出され、共伴して出土した底部と同一個体と考えられることから、図上復元を試みた。本資料は粘土接合面が隆起するが、堅致な土器で混和材も少なくキメ細かい。

図69・70は口縁部が内彎するものである。後者は二枚貝有孔製品集中（SS05）出土で、同一個体と思われる尖底の底部（図188）も得られ、図上復元を行った。図71は外面に押捺刻文を施すものであるが、胎土などからIV類とした。図72は口縁部と思われ、ミニチュア土器とした資料である。

Cは口縁部343点、胴部2671点と計3014点で、IV類の中では48.5%の割合を示し、最も多く出土した。IV類の口縁部では約68.7%と高い割合を示す。復元土器や形状の分かるものが多いことから、本遺跡のIV類の主体となる。主なものを図73～82に図示した。図73・74は直状を呈し、口～底部まで復元された資料で、底部はいずれも尖底である。図73は一括で出土したもので、土器集中④の土器である。遺構の項で述べたように出土状況から原位置の可能性が考えられる。口縁部に幅1.8～2.3cmの薄い粘土が半周ほど貼り付けられ、口唇部には1cm間隔で刻み目文が施されている。外面は粘土接合面がやや明瞭である。本資料に類似した土器が具志川島遺跡群（1978）の報告に見られる。図74はR11の第IV層から一括で出土し、口縁部と胴下部には有孔も見られ、口～底部まで復元が出来た。器壁は薄手で胎土は粗く、両面ともナデ調整痕が顕著である。図75は薄手で小型の土器である。本資料も二枚貝有孔製品集中（SS05）近くで出土した。口唇部には刻み目文、外面には沈線文が不規則に施されている。図76は口唇部に鞍状凸帯文を施すもので、器面はやや滑らかである。図77・78は口縁部が外反するもので、前者は堅致でやや厚手である。口縁上部が幅3.5cmの薄い肥厚帯を呈し、その直下に有孔が見られる。底部まで直線的な形状を呈するものと思われる。後者は小型で、薄手のしまりの良い胎土を呈する。口縁部上端が外反し、胴部はやや膨らむ。

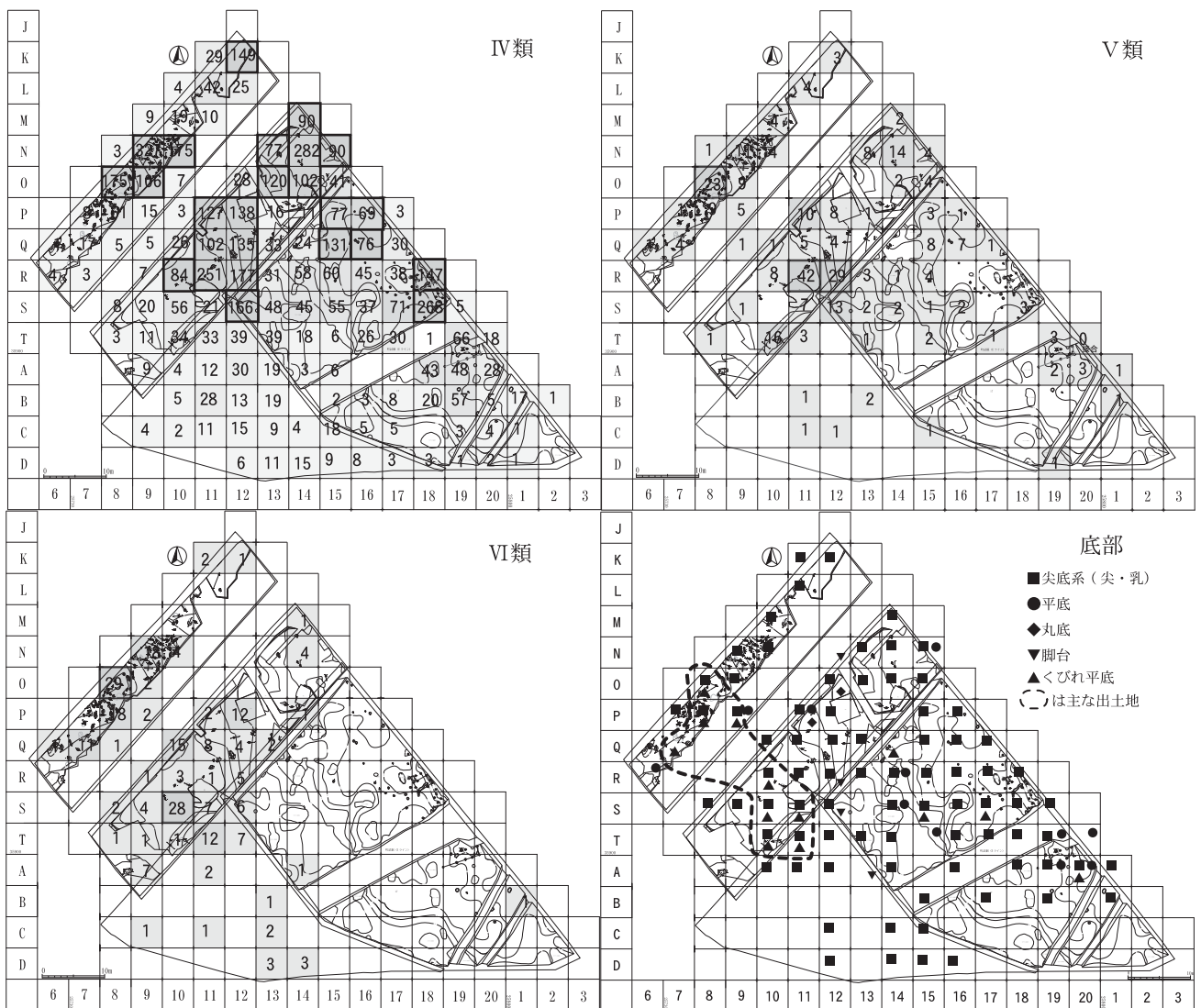
図79～81の3点は口縁部が外反し、薄手で頸部が屈曲するものである。図79はS10から一括して出土した土器集中⑥のもので、口～底部まで復元出来た資料である。口唇部は舌状を呈し、第2粘土帯で屈曲する。口縁部には有孔が見られ、底部は尖底である。粘土積み痕は不明瞭で、外面はナデにより滑らかである。図80はS12・13の土器集中部の出土である。口縁部に複数の有孔を持ち、口唇部には刻み目文が施される。内面には煤の付着が目立ち、年代測定を行ったところ、1770±20BP（第IV章5節）の値が得られた。図81もほぼ同様な形状、文様を呈する。出土地が近いことから、同一個体の可能性もある。

図82の器形は全体的に丸みを持ち、粘土接合部も平滑であるが、胎土等から今回はIV類とした。口唇部にのみ1cm間隔で刺突文が施され、器面調整を見ると指頭痕は残る。本資料はB13から一括して出土した。

他に、胎土などの特徴からIV類としたが、破片が小さく、細分類が出来なかったものが口縁部、胴部を合わせて628点あった。

V類はI～IV類以外の有文土器で、分類が出来ない有文の小破片は全てV類に含めた。また、器形や文様などが具志原式土器やアカジャンガー式土器と類似しているものも見られたが、第38図の平面分布を見るとIV類と出土範囲が重なり、同層面から一括でV類とIV類が出土、くびれ平底には有文土器と同胎土は見られないなど、今回はそれらの資料もV類とした。今後の課題の一つである。

また、無文の口縁部でも、胎土やその他の特徴からV類と思われるものはV類に分類した。口縁部は204点、胴部138点の計342点が得られ、II群在地土器の3.9%の割合である。中でもV類全体では第IV層出土が76.9%を占め、IV類と同層出土である。地区別にはハ・ニ地区が61.4%と高く、R11・12、08で多く出土している。形状の分かるものをA～Cに分類し、形状不明はDとして文様別にア～オに分類した。形状の分かるA～Cから記述する。



第38図 口縁部・胴部分類別平面分布2

Aは図83～85の3点を図示し、図83は唯一形状が分かるものである。口縁部は外反し、頸部はくびれて胴部が張り出す。口唇部は強調されて幅広く、その上には幅太の沈線文が圍繞している。伊礼原D遺跡(2013)でも同様なものが出土し、それからすると、底部は丸底的尖底になると思われる。伊礼原D遺跡の図39と同じ文様構図で、出土地も近いことから同一個体の可能性が高く、同図の底部を参考に図上復元を試みた。伊礼原D遺跡では施文の仕方や胎土などから縄文時代晩期系としたが、本遺跡においては同層からIV類など貝塚時代後期に属する土器が出土していることから、その時期の有文土器と捉えたい。他の有文土器と層序や出土範囲が重なることから、本資料も同時期と思われる。ただ、本資料の底部は尖底と思われ、胎土や施文具、文様等にも他の有文土器とは若干の違いが見られる。図84・85は胴部で、図83と同様な施文具による文様が施されていることから、Aに分類した。これらも伊礼原D遺跡において類似のもの(第22図43・44)が出土する。

Bは図86・87の2点で、沈線文主体の文様を施している。図86は口唇部に深めの刻み目文、外面に曲線の沈線文と叉状工具による刺突文を連続させた文様構図である。図87は口唇部に密な刺突文、外面に幅広の鋸歯状沈線文を交差させ、内面には刷毛目痕が明瞭に残る。両方とも図83とほぼ同じ形状であるが、口唇部は強調しない。文様などはアカジャンガー式土器に類似する。

Cは図88・89のように、器形がIV類に類似し、直状でスムーズに底部へ移行するものと、図90のように口縁部が外反するものがある。図88は器高が他に比べて高く、粘土帯積み痕の隆起も明瞭である。口唇部には刺突文、外面には刺突文の施された逆「U」字状凸帯文とラフな細沈線文が見られる。第36図の平面分布図から接合関係を見ると、ほとんどはR・S11出土だが、約35m離れたK12出土の破片もある。底部近くまで図上復元が出来、それからすると尖底系の可能性が高い。内面の刷毛目痕も明瞭である。図89は口唇部に刺突文、外面に楕円状の薄い凸帯文を貼り付け、曲線状の沈線文を施している。図90は口唇部に1cm間隔で刺突文を施し、外面には刺突文の施された凸帯文が一部ひねりを加えて「O」字状を呈し、頸部を圍繞している。器形・文様ともアカジャンガー式土器に似ているが、S12・13の土器集中部からIV類の土器と共に出土した。

Dは形状の掴めない有文口縁部で、文様によって以下のように細分類した。有文胴部も外面の文様別に口縁部の文類に準じて分けた。

- ア：口唇・外面ともに有文
- イ：口唇有文、外面無文
- ウ：口唇無文、外面有文(沈線文・刺突文など)
- エ：口唇無文、外面に凸帯文or肥厚帯
- オ：口唇無文、外面有孔

第13表にIV・V類の口縁を文様別に示した。S12・13の土器集中部ではIV・V類とも層序、深度とも同じであることから両方の無文口縁も合わせて関連性を見た。それからすると、有文の割合はIV・V類合わせて42.9%、無文は57.1%と、若干後者の方が多い。IV類のみでは有文は21.0%、無文は79.0%と後者の割合が高い。口唇部の文様からすると鞍状凸帯文はIV類が多く、沈線文・指圧文はV類、他の文様はIV・V類のどちらにも見られる。

アは口唇部、外面ともに有文の口縁部で、IV・V類の有文口縁の33.4%を占める。口唇部に刻み目文・外面に有孔の組み合わせが最も多く、次いで口唇に刻み目文、外面は無文のものが多い。アは図91・92の2点を図示した。前者は口唇に刻み目文、外面には沈線文が斜位に施されている。後者は外反する口縁部で、口唇部に鞍状凸帯文を貼り付け、外面に刺突文を施している。

イは口唇部有文、外面無文のもので、IV・V類の有文口縁に占める割合は15.9%である。口唇部に

刻み目文を施すものが最も多く、次いで刺突文と続く。4点を図示した。図93～95は刺突文、図96は指圧文を施す。

ウ～オは口唇部が無文、外面は有文のもので、IV・V類の有文口縁全体では50.7%の割合である。

ウは外面に刺突文や沈線文を施すもので、3点を図示した。刺突文は僅かで、沈線文がほとんどを占める。図97は横・斜位の沈線文と曲線になった凸帯文、図98は内彎し、径2mmの筒状の施文具で列点文が等間隔で施されている。図99は直状で、外面に鋸歯状の沈線文が施されている。

エは外面に凸帯文や肥厚帯を貼り付けるもので、前者が比較的多い。凸帯文は無文と刻み目文を施すものが多く見られる。後者の肥厚帯は無文がほとんどで、1点のみ肥厚帯下に沈線文が見られる。外面に凸帯文を有するもので、「U」字・逆「U」字状など曲文になっているものは図101～104で、横位の凸帯文を有するものは図105～107で、図106の胴部には有孔も見られる。図107も胴部で三角状凸帯文を施す。厚さや胎土からII類Bとも思われるが、形状が不明で今回はV類とした。

図108は肥厚帯を呈するが、かなり薄手で幅は3cm程である。図109の胴部も破損しているが、肥厚部が残る。

オは外面に有孔が見られるものである。図110・111は胎土に白色粒を多量に含む厚手の土器である。前者は頸部で若干「く」字状に屈曲し、後者は直状を呈する。図112は上記2点と胎土や厚さが異なるもので、直状を呈する。口唇を平らに整え、口縁部には有孔が見られる。

VI類は復元した図113を参考に分類したもので、246点が出土した。II群在地土器での割合は僅か2.8%で、図113～116に4点を図示した。泥質で内面に刷毛目痕を持ち、器色もほぼ灰橙色を呈するのが特徴的で、胎土や器色などが独特である。層序を見るとIV類と同じく第IV層出土がほとんどで、出土範囲も一部同じであることから、IV類の容量の小振りな器種の可能性もあり得る。しかし、第38図に示した底部の平面分布図ではH19地区からはほとんど出土せず、ニ地区、ハ地区出土が217点とVI類中88.2%と高い割合を示す。さらに、VI類とくびれ平底が多数出土した範囲が重なり、胎土・器色・器面調整も同じ傾向を示すことから、VI類の底部はくびれ平底が想定される。以上のことから、VI類はIV類に後続するくびれ平底系土器の可能性も考えられる。また、伊礼原D遺跡(2013)の4409SXで出土したフェンサ下層式土器の泥質を主体としたものと器形や胎土、器面調整や大きさ等が類似し、その範疇で捉えるのか今後の課題の一つである。形状から鉢形をA、甕形をBとして分類した。

第13表 IV・V類土器文様別分類出土量

外面文様		外面																			IV類合計	V類合計	合計						
		凸帯文上の文様													肥厚帯		有孔	沈線+刺突文	無文										
		刺突文		沈線文		押引文		刺突文		無文		無文+沈線文		+有孔		+刻み				刺突+刺突文				無文		+沈線文			
IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V	IV	V								
口唇文様	刺突文		1		4				7				7		1					1		1	17	1	39	40			
	刻み目文			4	4				16	1	1									50			21	55	42	97			
	沈線文														1									0	1	1			
	鞍状凸帯		1					1														7		8	1	9			
	指圧文																						2	0	2	2			
	無文	1	2	2	27	1	2	1	2	1	16	3	1			36		35	23		394	7	435	119	554				
小計	1	4	6	35	1	2	2	25	2	17	10	1	1	1	36	1	85	23	1	402	47	499	204	703					
合計	5		41		3		59													36		1	108		1	449		703	

Aは図113で、口～底部まで復元が出来た。口縁は外反し、胴部はあまり張らずにそのまま底部に移行する小型土器である。底部は本遺跡で唯一くびれ平底を持つもので、外面はナデ調整を行い、内面には刷毛目が残る。S10のSK02とS11第Ⅳ層出土のものが接合出来た。

Bは口縁部が外反し、胴部は張るタイプの土器である。図114～116の3点を図示した。いずれも胎土や器面調整の仕方などはAと同じである。Ⅵ類は海岸側で出土し、図113の復元土器や口径の推算出来るものからすると、小型が多い。Ⅶ類に分類した図129も同胎土、同色、内面に刷毛目痕が見られるなど、Ⅵ類の壺の可能性はある。

Ⅶ類は壺の器種をまとめた。本来なら胎土や混和材等の特徴から分類すべきであったが、一応ここに分けた。口縁部35点、胴部10点の計45点の出土で、Ⅱ群在地土器に占める割合は僅か0.5%である。口縁部のみを見ると、3.2%の割合となる。深鉢のⅠ～Ⅳ類に即して分けると、H19地区の山手側で出土した厚手の壺はⅡ・Ⅲ類、ハ地区の中央で出土した有文の壺はⅣ・Ⅴ類、ニ地区の海岸側で出土した壺はⅥ類に相当するものが多く、平面分布ともほぼ一致する。

形状や器厚、文様などの特徴によりA～Fに分類した。

Aは厚手で無文の有頸壺で、図117～119の3点を図示した。図117は両面ともナデが丁寧で、内面に僅かに指頭痕が残る。胎土などからⅡ類またはⅢ類の壺と思われる。残り2点も外面のナデは丁寧だが、内面は雑であることからⅢ類の壺と思われる。

Bは無頸壺で図120・121の2点を図示した。前者は胎土や調整がAと類似性を持つ。器厚は10mmと厚いが、パウダー状で軽く、Ⅱ類またはⅢ類の壺の可能性はある。

Cは薄手の有頸壺で、胴部以下は形状不明なものである。口縁部の2点と頸部の1点を図示した。図122は凸帯文を逆「U」字状に貼り付け、凸帯上に指頭文らしきものが見られる。図123は口唇に刺突文、外面に細沈線文が施される。図124は頸部で、形状からCに分類したもので、刺突文の施された凸帯文を横位や斜位に貼り付けている。

Dは胴部の張らない壺で、図125～127の3点を図示した。図125は完形の状態で出土した片口の小型壺で、土器集中①の遺物である。出土状況は遺構の項にて記述する。粘土積み痕・指頭痕が明瞭で、底部は尖底を呈し、Ⅳ類Bと思われる。図126は外面に縦の凸帯文、図127は横耳状の凸帯文を貼り付ける。後者の2点は図125に比べると、外器面はナデがやや丁寧で、粘土の積み痕は明瞭ではないことからⅣ類Cの壺と思われる。

Eは胎土がかなり精製され、両器面ともナデが丁寧に施されている有頸壺で、胴部は張るタイプである。図128の1点を図示した。口唇部には刺突文、口縁部には凸帯文が横位と逆「U」字状に貼り付けられ、その上にも刺突文を施している。

Fは片口の壺で、図129の1点を図示した。底部（第60図197）と出土地がほぼ同じで胎土や器面調整などの特徴も類似し、同一個体と思われることから図上復元したものである。外面は丁寧なナデが施され、内面には刷毛目が見られる。底部は立ち上がりが丸みを帯びた径の小さな平底である。ただ、Ⅵ類の底部は復元した図113のようなくびれ平底が想定されるが、本資料は尖底系底部（尖底・乳房状尖底）の製作技法によって作られた平底で、胎土や器面調整は前述したⅥ類と同様であることから、Ⅵ類の壺と思われる。

これまでの分類に含まれない不明なものは口縁部43点、胴部592点の計635点あり、特徴のあるものや形状の分かる口縁部など7点を図示した。図130は口縁部の外反が強く、ナデが丁寧に施されている。図131～135は胎土に石灰質の白粒や石英を多量に含むものである。

図131は波状を呈する外反口縁部で、厚手の土器である。底部は尖底系が予想され、粘土積み痕が

明瞭である。外面には、器面自体の粘土が剥がれ落ちた、あるいは粘土を薄く貼り付けた可能性のある箇所が見られる。下部は雑仕上げで器壁の厚さが増す。図132も厚手の口縁部で、本資料も粘土を貼り付けて器壁を厚くする。外面には貼り付けた粘土を整えず、部分的に粘土が垂れている様な箇所が見られた。図133は口縁上端の外反度が強く、粗粒の石英を多量に含む。両面ともユビナデで調整されており、指頭痕も残る。図134は石英の含量が特に多い口縁部で、チャートらしき混和材も含まれている。図135も外反する口縁で、僅かに微小貝を含む。本品も粘土積み痕が分かるものであるが、外面はナデが丁寧である。図136は受け口にも見えるが、形状不明である。

図137～139は胴部で、いずれも横耳状の凸帯を持つものである。図137は厚手で、断面から見ると三角状の凸帯文を貼り付けている。破片で詳細が不明なことから、今回は耳とした。図138の耳は幅広で、図139は幅が狭い。図140はパウダー状の粉が手に付く軽い胴部で、図121に示した壺と類似するが、器面調整などが若干異なる。本資料も縦に粘土を貼り付けており、外面は丁寧なナデが行われている。図141・142は胴部で、内面の刷毛目や条痕に特徴が見られることから図示した。

図143は残存部からおそらく円形を呈していたと思われるものである。器厚は7mmと一定で、側面を平らに整えて底面を平らにしている。径は9.0cmと小さく、壺等の蓋の可能性も考えられる。上面は底面に比べると調整が雑で、側面に沿って文様らしき沈線が施されている。胎土からはIV類の時期に製作されたと思われるが、類例がなくはっきりしない。

②底部

底部は復元土器を除いて総数358点が出土し、全てII群土器である。底部の分類は伊礼原D遺跡(2013)に準じ、A類:丸底、B類:尖底、C類:乳房状尖底、D類:平底、E類:くびれ平底、F類:脚台とした。

第14表に底部の出土量、第38図に底部の平面分布を載せた。貝塚時代後期の層である第IV・V層からは、B類やC類が多数出土し、両者を合わせた割合は全体の83.8%とかなり高い。その他は少なく、次に多いE類でも僅か5.9%の出土である。口縁部・胴部の分類との関連性を見ると、I～V類の底部はB・C類主体の底部、VI類のみE類が想定され、口縁部の割合ともほぼ一致することから、本遺跡はB・C類主体の土器群と思われる。層位的に見ると、第IV層までは各種の底部が出土し、それ以下の第V・VI層ではD類1点、B・C類の底部23点、分類が出来なかったものが2点検出された。

第38図の底部平面分布において、B・C類はほとんどのグリッドで出土するが、その他は分布が片寄る。特に、E類はハ・ニ地区の南西区の海岸側でまとまりが見られ、くびれ平底系の口縁部(VI類)の出土状況とも一致する。同遺跡においてB・C類とE類の平面的な出土状況の違いは、本町の小堀原遺跡(2012)や伊礼原D遺跡(2013)でも見られた。F類脚台は搬入土器との関係から別項にて示し、集計は底部に含めた。以下、分類別に全体的な特徴とそれぞれの遺物について略述する。

A類:丸底

A類は僅か3点の出土で、2点を図示した。底部全体の0.8%と1割にも満たない。図144は僅かに底面が残り、丸底と推定できる。均一で、ナデ調整が丁寧な底部である。伊礼原D遺跡(2013)で報告した第31図137に類似している。図145は図144に比べると外面がやや雑な仕上げで、若干厚手である。内面は黒褐色を呈し、若干の煤が見られる。底部の製作技法をみると、粘土を重ねて貼り付け、器壁を厚くする。いずれも胎土は砂質で、混和材は石英を主体とする。

B類:尖底

B類は154点の出土と最も多く得られ、全体の43.0%の割合である。復元土器ではIV類の図73、

74、79の3点とⅦ類（Ⅳ類の壺）図125が見られた。第38図をみても分かるように、遺跡全体から出土しているが、ニ地区のO・P8、H19地区のN・O14、T17を中心とした周辺での出土量が多い。層位的には第Ⅳ層出土が最も多く、H19地区では第Ⅴ層出土の底部も僅かに得られた。胎土は約80%が砂質で、石英を混和材の主体とするものが多い。他には赤色粒中心をとするものも見られ、数量的には少ないが、角閃石を含むものも見られる。形状から以下のように細分類した。分類出来ないものを除くと、a・b種がほとんどを占める。以下、分類の順に記述する。

- a：底面が尖るもの（底厚が10mm以下は薄手、15mm以上は厚手）
- b：底面がaに比べるとやや丸みを呈するもの（底厚が10mm以下は薄手、15mm以上は厚手）
- c：底面がやや砲弾状を呈するもの
- d：外底面に凹みを有するもの

aは42点の出土で、9点を図示した。bとともにB類の主流となる形状である。底厚が薄手のものには図149・150、厚手は図151～154で、図146・147は中間の厚さである。図146の外面には木の葉痕らしき文様が見られる。沈線が深く施され、外面と同色を呈することから今回は文様とみなした。図148は外底がつぶれ、外面の細かい混和材が抜け落ちてアバタ状を呈する。図149は胴部への立ち上がりが急で胴部も張らないことから、壺の可能性が考えられる。

図150の底面は調整痕が雑で、指頭痕が明瞭に残る。混和材もかなり粗粒で、内面は煤が付着している。図151～153は底厚が厚く、胴部への立ち上がりがスムーズである。図154は底面が破損しているが、B類と思われることからここに含めた。

bは48点の出土で、最も多く出土した。底面がやや丸みを呈するもので、図155～159の5点を図示した。図155は底厚・器厚ともほぼ同じで、内底の中央には黒斑が見られる。図156～159は、器厚に比べ底厚が15mm以上と厚くなる。

cは僅か8点の出土で、a・b種に比べると出土量は少なく、図160～163に4点を図示した。

第14表 土器底部出土量

地区	層序	分類		A(丸底)				B(尖底)					C(乳房状尖底)					BoC(尖or乳)		D(平底)					E(くびれ平底)				F(脚台)		分類不可	合計	地区別計	
		a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	a	b												
H19	II														1		2																	4
	II(遺構)			2																														2
	III						1																										1	
	III(遺構)										0	1																			1		4	
	IV		19	14	3	2	13	6	18		12	4	8	1	14	2	1	2				3	1	1			1				5	131		
	IV(遺構)				1						1	1																					3	
	V				4		1	2		2		3	1	3		3		1				1									2	23		
VI												1																				1		
表採		1																														1		
イ	III						2																										2	
	III(遺構)								1		1		1														1						4	
	IV			4				2		1		1	2																		2	12		
	V								1																								1	
	VI																																1	
ハ	II			1	2																						1						4	
	II(遺構)				2				1													1											5	
	III				2			2		1																			1				6	
	III(遺構)			5	2			1		1		1																	1		2	14		
	IV		1	9	7	2		14	2	7	1	5	2									3					1		1	1	1	62		
IV(遺構)		1									1																					5		
ニ	II			1				2	1	1											2											1	8	
	III					1	1	2														3	1										9	
	III(遺構)						1			1																							3	
	IV			3	8	1		6	3	6	2	3	1									3					1					43		
	IV(遺構)				1			4																									5	
	不明				2																												2	
不明				1	1																											2		
合計		3	42	48	8	4	52	14	40	4	31	13	14	1	29	2	2	3	1	1	6	1	10	1	3	6	2	1	2	14	358			
器種別計		3				154							30								15					21					5	14	358	

H19地区：II(遺構) SK10.16.36 III(遺構) P1.2.6.8.16.42 IV(遺構) P5・SD01
 イ地区：III(遺構) P4.13.46・SD09
 ハ地区：II(遺構) SP8～10.11.12.21・SX01 III(遺構) SP2.4.7.11.15.17.21.24.25.34.38.44・SK04 IV(遺構) SP7.35.38・SK01.02
 ニ地区：III(遺構) SP7.23・SD05 IV(遺構) SP8.11.24

図160はどっしりとした尖底で、器厚の厚い底部である。図161～163は底厚が厚いもので、図163は外底面が破損している。

dは更に少なく4点のみの出土で、図164・165の2点を図示した。2点とも外底に凹みを呈し、重量感のある尖底である。どちらも凹みはほぼ球状に近い。同様な底部が具志堅貝塚（1986）でも出土している。

C類：乳房状尖底

C類は116点と尖底に次いで多く、全体の32.4%の割合である。胎土、混和材ともB類とほぼ同じ要素を見せる。C類も多様な形状が見られることから、下記のように分類した。復元土器ではⅡ類の図58・Ⅳ類の図68に見られた。乳房状尖底も尖底と同じくほぼ遺跡全体から出土する。以下、分類の順に記述する。

- a：乳頭部が小・中振りで高いもの（底厚が厚いものも含む）
- b：乳頭部が小・中振りで低いもの
- c：乳頭部が大振りで高いもの、（底厚が厚いものも含む）
- d：乳頭部が大振りで低いもの
- e：乳頭部の外底面に凹みを持つもの

aは14点の出土で、図166～169の4点を図示した。図166はS12の第Ⅴ層より一括して出土した土器集中⑤の底部である。本資料はその位置でつぶれた状態のまま出土した。内面には刷毛目の調整痕が明瞭に残る。粘土積み痕が明瞭なことや胎土、混和材などからⅣ類Bの底部と考えられる。胴下部には孔が施され、孔径は約5mmで外→内へ穿たれる。図167・168は乳頭部が高く、後者は乳頭部のみが残るものである。図169の乳頭部は小振りで、外底に粘土を貼り付けて乳頭部を作ったものと思われる。

bは40点の出土で、C類の中で最も多く見られる。図170～174の5点を図示した。図170・171は乳頭部が小振りなもので、図172～174は乳頭部が若干大きく、中振りである。

図170は復元したⅣ類B・Cに類似しており、本品もⅣ類の底部と思われる。図171の内面にはヘラ痕が明瞭に残る。図172は器厚が9mmとやや厚く、重量感のある底部である。図173は外底に粘土を貼り付けて乳頭部を作る。図174は外底に沈線文を施すもので、文様は調整痕か判断に迷うが、明瞭であることから、今回は文様とした。混和材に石英を多量に含み、他に比べて外反度がかなり強い。

cは僅か4点のみで、図175～177の3点を図示した。図175は外底に粘土を貼り付けて乳頭部を作る。図176は内外底とも粘土を薄く貼り付けて製作されている。外底はややつぶれた様な感であるが、内底は丁寧にナデ調整が行われている。他と比べて胎土の砂質が強く、厚手で乳頭部は大振りである。第Ⅳ層と第Ⅵ層出土の破片が接合出来た底部である。胎土や器厚などが類似した口縁部（図57）が隣接するQ15の第Ⅵ層より検出されており、同一個体の可能性もある。図177は乳頭部が丸みを呈し、かなり厚手である。外面はヘラナデにより乳頭部が突出する。

dは31点の出土で、図178～181の4点を図示した。図178・179は底面が平らで、前者は平底の可能性もあるが、底径が3cm弱と小さいことからC類のdに分類した。図180は胎土の砂質が強く、パウダー状で、混和材に角閃石を含むことから口縁・胴部分類のⅡ類Aに分類できる。図181は胴下部まで残り、乳頭部は大振りで低い。

eは13点が出土し、図182～187の6点を図示した。図182・183は外底の凹みが深く、底厚も薄い。凹みはいずれも楕円形状を呈する。

図184～186は外底に僅かな凹みを呈するもので、底厚は厚い。図187は外底に幅2mm、長さ8mm

程の刻文が底面の端部に施されており、中央部の凹み部には見られない。文様か、意図的な機能を持つのか不明である。図188は底部が破損しているもので、S12にある二枚貝有孔製品集中（SS05）から出土した。図70に示した同遺構の口縁部と同一個体の可能性があることから、図上復元を試みた。口縁はやや内彎し、粘土積み痕が明瞭であることなどから底部はB類の可能性が考えられる。図189も底部が破損しているが、乳頭部らしき膨らみが僅かに残っていることからC類と思われる。

D類：平底

D類は15点が出土したが、B類やC類に比べるとかなり少なく、底部全体の4.2%の割合となる。弥生土器の1点（図21）も集計上含む。胎土は砂質が主で、混和材は石英を主体とするものが多い。図示した8点は形状などがそれぞれ異なり、型式の違いによるものと考えられる。

第38図の底部平面分布を見ると、A・T20辺りから出土したD類は、口縁部分類のI類に胎土や混和材などが類似する。層位的には、B・C類の出土した第IV層を中心に第V層からも得られた。

- a：立ち上がりは角を持ち、胴部へ直線的に外反するもの
- b：立ち上がりは角を持つが、aより外反度が強いもの
- c：立ち上がりの角は丸みを呈し、底厚と底径が大きいもの
- d：立ち上がりの角は丸みを呈し、胴部へ直線的に外反するもの
- e：立ち上がりの角はやや丸みを呈し、底厚がより厚いもの（弥生土器）

aは図190・191の2点で、両面ともナデ調整を行っている。前者は泥質で、やや直状に立ち上がって外反する。後者は底厚が若干厚く、直状に外反し、胎土などから口縁・胴部分類のI類の底部が考えられる。

bは図192・193の2点で、両方とも外反度が強く朝顔状に開く。図192はC類にも見えるが、器面調整や胎土が図193と類似しており、口縁部・胴部分類のI類の底部の可能性があるのでD類とした。

cは図194・195の2点で、立ち上がり部が丸みを呈するもので、底厚は厚く、胎土などが他と若干異なる。図196は立ち上がり部が破損しているが、胎土や底厚の厚さなどがcと思われ、D類に含めた。

dは図197の1点の出土で、底径は小さく立ち上がり部も丸みを呈することからB類に近いものである。図129に図示した復元土器の底部であるが、接合が出来なかったことからここで記述した。胎土はやや泥質に近く、内面には刷毛目が明瞭に残るもので、B類の製作技法によって作られている。胎土や器面調整などの特徴は口縁分類のVI類に相当する。

eは1点の出土で、弥生土器の底部であることから、口縁・胴部の項にて記述した。

E類：くびれ平底

E類は僅か21点が出土し、底部全体の5.9%の割合である。図198～208の11点を図示した。本遺跡のE類は復元をした図113のような泥質と、砂質でやや薄手の均一なものに分けられ、ほぼ半々の割合である。混和材は石英を主体とするものと、赤色粒を主体とするものに分かれる。第38図の底部平面分布を見ると、ハ地区のS10・ニ地区のP8周辺での出土が多く、H19・イ地区ではまばらな出土傾向を見せる。伊礼原D遺跡（2013）の報告においても、ニ地区のN9・08に近いC区で最も多く検出されている。出土状況を見ると平面的にまとまりが見られ、B・C類より出土数は遙かに少ない。層位的には第IV層以下ではB・C類が出土し、E類は得られないことから両者の間には僅かな時期差があるかもしれない。E類の胎土や大きさ、底厚と器厚の関係など諸々の要素を関連づけて見たが、出土数が少ないこともあって詳細は掴めなかった。E類も伊礼原D遺跡の分類基準に従い、下記の4種に細分類した。以下、分類ごとに記述する。

a : くびれの張りが強いもの (底面からの角度が40° 以下)

b : くびれの張りが弱いもの (底面からの角度が40° 以上)

c : 底径が小さいもの (4 cm以下)

d : くびれの張りがより強く、鏢状を呈するもの

a は図198の1点のみの出土で、僅かに残る立ち上がり部で判断した。外底にナデ痕が明瞭に残る。

b は10点の出土で、最も多い形状である。図199～207の9点を図示した。図199は内面に刷毛目が見られ、外底は僅かに上げ底状を呈する。外底が上げ底状を呈するものが多く、図200・205は外底が平らである。

c は1点の出土で、図示は省略した。

d も3点のみの出土で、図208の1点を図示した。立ち上がりは鏢状を呈し、外底が上げ底となるが、内底は盛り上がらずに平らである。

F類：脚台

F類は5点が出土したが、在地と在地外の両方があり、まとめてⅡ群土器の搬入土器の項にて記述した。

<引用・参考文献>

高宮廣衛 1960 「具志川村アカジャンガー遺跡調査概報」『文化財要覧』pp1~29 琉球政府文化財保護委員会

伊是名村教育委員会 1978 『具志川島遺跡群』伊是名村文化財調査報告書第2集

具志川市教育委員会 1980 『宇堅貝塚・アカジャンガー貝塚発掘調査報告』

伊江村教育委員会 1979 『伊江島ナガラ原西貝塚』伊江村文化財調査報告書第8集

本部長教育委員会 1986 『具志堅貝塚』本部町文化財調査報告書第3集

沖縄国際大学文学部考古学研究室 1989 「宜野湾市宇地泊兼久原遺跡発掘調査報告」『冲国大考古』第10号

浦添市教育委員会 1993 『嘉門貝塚B』浦添市文化財調査報告書第21集

高宮廣衛・他 1993 「読谷村大当原貝塚発掘調査概報」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第17号 読谷村教育委員会
歴史民俗資料館

宜野座村教育委員会 2005 『前原貝塚』宜野座村乃文化財17集

北谷町教育委員会 2013 『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書第35集

中園聡 1997 「九州南部地域弥生土器編年」『人類史研究』第9号 人類史研究会

岸本義彦・他 2000 「沖縄編年後期の土器様相について」『琉球・東アジアの人と文化—高宮廣衛先生古稀記念論集—』
上巻 高宮廣衛先生古稀記念論文集刊行会

新里貴之 2004 「沖縄諸島の土器」『考古資料大観12 貝塚後期文化』小学館

木下尚子 2005 「貝交易からみた異文化接触」『考古学研究』206号 考古学研究会

宮城弘樹 2005 「沖縄貝塚時代後期土器の研究(Ⅲ) —浜屋原式土器とその概念整理—」『廣友会誌』創刊号

宮城弘樹 2009 「貝塚時代後期土器の研究Ⅳ～大当原式土器の概念整理～」『廣友会誌』第5号

木下尚子・他 2013 『ナガラ原東貝塚の研究』熊本大学文学部

第15表-1 土器観察一覧

第9図・図版	図番号	分類			口唇形態	部位	口縁・底部形態と文様有無	法量		混和材						胎土焼成	器色		器面調整		地区 小グリッド 層 遺構 取上番号 台帳番号
		大	中	小				口縁 頸部 胴部	口縁(頸部・胴部含む)形状 底部形状 文様有無	口径 底径 (cm)	器厚 底厚 (mm)	粒度 含量	石英	赤色粒	白色粒		角閃石	砂粒	その他	外面 内面	
第39図・図版27	1	I群	搬入	—	平ら	口縁	やや外反 外—三角状凸帯文(交差・曲)	— —	6 30.0	やや粗粒 やや多量	◎				△	△	砂質良好	外—黒褐色 内—茶褐色	外—行' 内—指頭痕	H19 R13 IV 台1747	
	2	I群	搬入	—	平ら	口縁	やや外反 外—三角状凸帯文(横位・曲)	— —	6 16.0	やや粗粒 やや多量	◎					△火山ガラス	砂質良好	外—黒褐色 内—茶褐色	外—行' 内—指頭痕	H19 R14 IV 台1754	
	3	I群	搬入	—	平ら	口縁	やや外反	— —	6 10.0	やや粗粒 中量	◎						砂質良好	外—黒褐色 内—茶褐色	外—行' 内—指頭痕	H19 R13 IV 取138 台2102	
	4	I群	搬入	—	—	胴部	外—三角状凸帯文(横位・曲)	— —	6 21.0	やや粗粒 やや多量	◎						砂質良好	外—黒褐色 内—茶褐色	外—行' 丁寧内—行'	H19 R14 IV 台1754	
	5	I群	搬入	—	—	胴部	外—三角状凸帯文(横+曲)	— —	6 17.0	やや粗粒 やや多量	◎					○雲母	砂質良好	外—黒褐色 内—茶褐色	外—行' 内—行'	H19 不 表探 台1947	
	6	I群	在地	室川下層	—	胴部	無文	— —	8 22.0	中粒多量	◎					◎チャート	砂質良好	外—茶褐色 内—茶褐色	縦に糸痕有り	イ T12 V 取537 台1179	
	7	I群	在地	面縄前庭	—	胴部	外—凸帯文(上に刺突文)+縦沈線	— —	5 5.0	細粒少量	△					△	砂質良好	外—茶褐色 内—橙褐色	外—行' 内—行'	H19 T17 IV 台1860	
	8	I群	在地	面縄前庭	—	胴部	外—凸帯文(丸み・約8mm)	— —	6 35.7	やや粗粒 やや多量	△					◎雲母	砂質悪	外—黄褐色 内—黄褐色	不明	H19 T17 IV 台1860	
	9	I群	在地	仲泊	—	胴部	外—斜沈線(綾杉状)	— —	7 12.0	やや粗粒 中量	◎					○チャート	砂質良好	外—淡黄褐色 内—淡橙褐色	外—行' 内—行'	H19 R15 IV 台1760	
	10	I群	在地	不明	—	口縁	外—沈線(横2条)+刻み目文	— —	9 4.0	細粒中量	○	△			△	△火山ガラス	砂質良好	外—赤褐色 内—赤褐色	外—行' 丁寧内—行'	H19 T19 V 取1379 台1966+1942 H19 S17 V 台1675 H19 A20 IV 台1712	
	11	I群	在地	不明	—	胴部	外—沈線(斜+縦)+横凸帯文(上に刺突文)	— —	6~8 58.0	粗粒多量	◎					△	砂質良好	外—茶褐色 内—茶褐色	摩擦で不明	H19 T12 V 取494 台1047	
第40図・図版28	12	II群	搬入	壺	角	口縁	口縁外反強 頸部くび・口唇僅かに凹み線	24.2 —	8 275	中・粗粒多量	○	△			○	△チャート	砂質良好	外—淡褐色 内—淡褐色	外—刷毛目 内—ハダシで不明	H19 B19 IV 台2251 A19 V 取1512 台2084 A20 IV 取104 台2138 A20 V 取1315 台2208 A1 IV 台4080 T19 IV 台1944 他	
	13	II群	搬入	壺	—	頸・胴部	頸部やや外反 胴部張り文様有り(三角状凸帯文1条)	— —	6 73.0	中・粗粒多量	○	△			○	△チャート	砂質良好	外—淡褐色 内—淡褐色	外—刷毛目 内—ハダシで不明	H19 A19 V SS01 取1318+1368+1369+1374+1536 A20 IV 台1707 A20 V 取1314+1316 B1 IV 台4186 Q15 III P47 P51 Q15 V 台1731 S17 V 台1675 T14 IV 台2581 T19 IV 台1944 T19 V 台1942 T20 IV 台1936 T20 V SS03 取1458 他	
	14	II群	搬入	壺	丸	口縁	口縁外反強・頸部くびれ 無文	18.6 —	9 24.58	中・粗粒多量	○		△	○	△		砂質良好	外—黄茶褐色 内—黄褐色	外—刷毛目 内—ハダシで不明	ハ N13 III 台2129	
	15	II群	搬入	壺	丸	口縁	口縁外反強・頸部くびれ 無文	— —	8~10 32.13	中・粗粒多量	○		△	○	△		砂質良好	外—黄茶褐色 内—黄褐色	外—刷毛目 内—ハダシで不明	ハ — IV 台1545+1547	
	16	II群	搬入	壺	—	頸部	外反強 無文	— —	9~10 35.95	中・粗粒多量	○		△	○	△		砂質良好	外—黄茶褐色 内—黄褐色	外—刷毛目 内—ハダシで不明	ハ N13 III 台1633	
	17	II群	搬入	壺	—	頸・胴部	胴部張り 文様有り(三角状凸帯文5条)	— —	8 145.0	中・粗粒多量	◎				△	○火山ガラス	砂質良好	外—茶褐色 内—茶褐色	外—刷毛目 内—不明	H19 Q17 V 取342 台4012	
	18	II群	搬入	壺	—	頸部	胴部張り 文様有り(三角状凸帯文2条)	— —	8 30.0	中・粗粒多量	◎				◎	△火山ガラス	砂質強良好	外—赤茶褐色 内—赤茶褐色	外—刷毛目 内—ハダシで不明	H19 S18 IV 台1776	
	19	II群	搬入	甕	平ら	口縁	直状・口唇に粘土を貼り付けて強調 文様有り(三角状凸帯文1条)	— —	9 45.85	粗粒 やや多量	◎				○	△チャート	砂質良好	外—茶褐色 内—茶褐色	外—行' 内—行' 丁寧	ハ — VI 台2524	
	20	II群	搬入	甕	—	口縁	無文	— —	7 15.23	細粒少量	○						砂質良好	外—黄灰褐色 内—黄灰褐色	外—行' 内—雑	H19 R13 IV 取207 台2295	
	21	II群	搬入	D	—	底部	くびれて外反(強) 外底—僅かに上げ底 内—ハダシ底厚—厚い	— —	7(現存) 31(現存) 206	やや粗粒 多量	◎				△	○火山ガラス	砂質良好	外—行' 丁寧 内—ハダシで不明 外底若干上げ底	H19 — III P8 台4054		
	22	II群	搬入	F	—	底部	くびれて外反 外底—僅かに上げ底 底厚—より厚い	— —	8 48 322.0	中粒 中量	◎				△	△チャート 雲母	砂質良好	外—茶褐色 内—黒褐色	外—行' 内—行'	ハ R12 IV 取1 台1	
23	II群	搬入	F	—	底部	くびれて外反・脚底—平ら 内底—平坦面持つ	— —	8 10 117.0	細粒 中量	○	○			△		砂質良好	外—赤褐色 内—赤褐色	外—行' 丁寧・指頭痕 内—行'	H19 A13 III P1 台4155		
24	II群	在地	F	—	底部	くびれて外反・脚底—平ら 内底—平坦面持つ	— —	6 7 47.0	粗粒 中量	△	○			○		砂質やや悪	外—赤褐色 内—灰褐色	外—行' 丁寧 内—行'・指頭痕	H19 S12 IV 取250 台2292		
第41図・図版29	25	II群	I	A	丸	口縁	僅かに波状口縁・外反・くびれ強 (稜が明瞭)・胴下部膨らみ 口径≒胴径・無文	23.4 —	8~10 165.0	中粒 中量	◎	△		○	△	△火山ガラス	砂質良好	外—赤褐色 内—赤褐色	外—行' 内—行'	H19 S18 V 取1476 台2085	
	26	II群	I	A	丸	口縁	僅かに波状口縁・外反・くびれ強 (稜が明瞭)・胴部膨らみ 口径≒胴径・無文	22.7 —	8 183.0	中粒 中量	◎	△			◎	△火山ガラス チャート	砂質良好	外—赤褐色 内—赤褐色	外—行'・指頭痕 内—行' 丁寧	H19 A19 V 取1353+1371 A20 IV 台1707+1712 A20 V SS04 取974+1366 B20 V 取1365 台1979 R18 IV 台1838 T19 V 取1382 台1963	
	27	II群	I	A	平ら	口縁	くびれ強(稜が不明瞭)・ 外反・口径≒胴径 口唇—沈線(浅)	24.0 —	7~10 120.0	細粒 中量	△				○	△	砂質良好	外—茶褐色 内—橙褐色	外—行' 丁寧・指頭痕 内—行'・指頭痕	H19 R18 V 取797 台4074	
	28	II群	I	A	玉縁状	口縁	くびれ強(稜が明瞭) 外反・口径≒胴径 無文	16.4 —	7 25.1	中粒 多量	◎	△			◎	△	砂質強良好	外—暗茶褐色 内—暗茶褐色	外—行' 内—行'	H19 B1 II 台4200	
	29	II群	I	A	平ら	口縁	くびれ強(稜が明瞭)・外反 口径≒胴径 無文	— —	8 26.0	細粒 少量	○	△			△		砂質良好	外—暗灰褐色 内—暗灰褐色	外—行' 刷毛目 内—行'	H19 T20 IV 台1936 H19 B1 II 台4200	

凡例 (◎)=非常に多い ○=多い △=少ない △=僅少

第15表-3 土器観察一覽

第15表-3	図版	図番号	分類			口唇形態	部位	口縁・底部形態と文様有無	法量		混和材						胎土焼成	器色		器面調整		地区 小グリッド 層遺構 取上番号 台帳番号
			大	中	小				口径底径器高(cm)	器厚底厚(mm)重量(g)	粒度含量	石英	赤色粒	白色粒	角閃石	砂粒		その他	外面	内面	外面	
第45図・図版33	60	II 群	III	-	舌状	口縁	口縁上端外反・胴部やや膨らみ・有文(口唇-鞍状凸帯文・内側が長い)・厚手	16.3 -	10 - 136	細粒少量	△				△	砂泥質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ'丁寧 内-ナデ'(雑)・指頭痕	ニ K12 IV 取11 台11+1365+1313			
		II 群	III	-	平ら	口縁	口唇折り曲げて疑似肥厚(玉縁状)・厚手無文	- -	12 - 54.1	中粒多量	○	△	○	△	○	砂質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'	ニ K12 IV 台1313+1400			
第46図・図版34	62	II 群	IV	A	-	胴部	厚手・粘土積み痕隆起明瞭無文	- -	5~10 - 261	中粒中量	○	○		△	砂質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ヘナデ'痕・指頭痕 内-ナデ'	ハ Q11 II SK03+SP46 台1757+194+2003 ハ Q11 IV 台1454 ハ T17 IV 台1860				
		II 群	IV	A	-	胴部	厚手・粘土積み痕隆起無文	- -	7~10 - 110.82	中粒中量	○	○		△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-指頭痕明瞭 内-ナデ'・指頭痕	ハ N14 III SP11+20+22 台1748+1741 ハ N14 IV 台1641				
	II 群	IV	A	丸	口縁	厚手・粘土積み痕隆起 口唇に粘土貼り付け(凸帯状)	- -	7~1.2 - 33.72	中粒多量	○	◎		△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	ニ N9 IV 台1427					
	II 群	IV	A	丸	口縁	厚手・直状有文(外-縦の凸帯文2条)	- -	8~12 - 24.0	中粒多量	△	◎		△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ' 内-刷毛目	ニ N10 III 台1521					
	II 群	IV	A	-	胴部	厚手・粘土積み痕明瞭有文(外-刺突文+沈線文:両方弧状・刺突文は深い)	- -	8~13 - 32.26	中・粗粒中量	○	△		△	砂質	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ' 内-ナデ'(横)	ハ N14 III SP6 台1855					
	II 群	IV	A	丸	口縁	口縁やや外反有段肥厚(肥厚帯幅-4cm・肥厚帯に刺突文(縦+横))	- -	5~10 - 19.4	中粒やや多量	○	◎		△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ' 内-ナデ'	ニ 08 IV 台1488					
	II 群	IV	B	舌状	口縁	口縁は外反・頸部はくびれ・積み痕隆起無文	30.0 -	5~7 - 15 183	細粒少量	△	△		△	砂泥質良好(堅致)	外-橙灰褐色 内-橙灰褐色	外-ナデ'丁寧 指頭痕 内-ナデ'丁寧 指頭痕	H19 S12 IV 取224+225 台2297 +2298 S13 IV 台1850 S12 V 取538 台1933					
第47図・図版35	69	II 群	IV	B	舌状	口縁	やや内彎・胴部張る・積み痕隆起無文	16.2 -	5~7 - 42.69	細粒少量	△	○		△	砂質良好	外-橙茶褐色 内-橙茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	ハ R12 IV 台1564				
		II 群	IV	B	丸	口縁	口縁上端は内彎・積み痕は隆起無文	21.8 -	5~8 - 26.2 (推定) 55.3	細粒中量	△	○		△	砂質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ヘナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	H19 S12 V SS05 取559 台559				
	II 群	IV	B	-	頸部	外-横捺刻文(幅-2.5mm)・薄手	- -	3~5 - 10.2	中粒多量	△	◎		△	泥質良好	外-橙褐色 内-灰橙褐色	外-ナデ' 内-ナデ'	ハ R11 IV 台1523					
	II 群	IV	B	丸	口縁	逆「フ」字状に開く無文	- -	5 - 8.0	中粒中量	△	△	△	△	砂質良好	外-橙茶褐色 内-橙茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'	H19 S18 IV 台1795					
	II 群	IV	C	丸	口~底	胴下半部から張り出し・直状に立ち上がる波状口縁・尖底・有文(口唇-刻み目文・外面-幅1.7~2.2mmの薄い粘土貼り付け)	27.2 -	5~7 - 18 27.0	中粒中量	○	○		△	砂質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	イ A12 V 取441~448 台441~448					
第48図・図版36	74	II 群	IV	C	丸	口~底	胴下半部は張り出し直状に立ち上がる波状口縁・尖底・有孔・口縁と胴下部に複数・薄手	32.8 -	6 - 12 1314	中粒中量	○	△		○	砂質やや悪	外-灰茶褐色 内-灰茶褐色	外-指頭痕+ナデ'雑 内-指頭痕+ナデ'雑	ハ R11 III SP34 台1758 IV 取45~60+64+65 他				
第49図・図版35	75	II 群	IV	C	舌状	口縁	直状・胴下部で窄まる・小型有文(口唇-刻み目文・外面-細沈線文(横・縦歯状))	14.6 -	3 - 20.82	細粒中量	○	○		△	砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ヘナデ'・指頭痕	H19 S12 IV 取230~233 台2290+2291+2618+2632 H19 S13 IV 取255 台2629				
第48図・図版36	76	II 群	IV	C	丸	口縁	口縁は内彎有文(鞍状凸帯文)	25.0 -	6 - 29.0	細粒中量	○	○		△	砂質良好	外-橙茶褐色 内-暗茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	イ D13 II 取15 台1233				
		II 群	IV	C	丸	口~胴	口縁は外反・逆「フ」字状に立ち上がる有文(幅3.5mmの薄い肥厚帯)・薄手	41.6 -	5~7 - 11 710.5	細粒少量	△			○	△	砂泥質良好(堅致)	外-橙茶褐色 内-橙茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	イ T17 IV 取405 台1158 ハ Q11 IV 取169 ハ R10 IV 台1435 ハ R11 IV SP22+SP30 取32+33+61+62+138~ 141+143+145~148+320 ハ R12 IV ハ T10 IV 台1539 ニ Q7 IV 台1224 他			
第49図・図版37	78	II 群	IV	C	丸	口縁	口縁上端外反無文	20.0 -	4 - 25.1	細粒微細	△			△	砂質良好	外-灰褐色 内-灰褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'	ハ P11 IV 台1608				
		II 群	IV	C	舌状	口~底	口縁は外反・頸部で僅かにくびれて屈曲する・尖底・薄手・有孔	29.6 -	5~7 - 12 1760	中粒中量	○	△		△	砂質良好	外-暗茶褐色 内-暗茶褐色	外-ナデ'丁寧 指頭痕 内-ナデ'丁寧 指頭痕	ハ Q10 IV 取294 台294 R10 IV 取292+296+297 R11 IV 取293 台293 S10 IV SP39 取183~ 197+201~204+271~280 +282+284~288+290~302				
	II 群	IV	C	丸	口縁	口縁は外反・頸部でくびれて屈曲する有孔(多)口唇-刻み目文・薄手	37.2 -	5~7 - 213	細粒中量	△	○		△	砂質やや悪	外-暗褐色 内-暗褐色(煤付者)	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	イ A12 IV 台776 T12 V 取536 台1164他 H19 A19 V 台2243 B15 IV 台2266 S12 IV 取259+260+263+277 S13 IV 取49 台2033					
	II 群	IV	C	丸	口縁	口縁は外反・頸部はくびれ・有孔・有文(口唇-刻み目文・外-刻文(横)・内-煤付者)	- -	3 - 22.8	細粒少量	○			△	砂質良好	外-暗褐色 内-暗褐色	外-ナデ' 内-ナデ'	H19 T13 IV 台1656					
第50図・図版38	82	II 群	IV	C	丸	口~胴	胴部は張り出しながら直状に立ち上がる波状口縁・有文(口唇-刺突文)	27.5 -	5~7 - -	中・粗粒中量	○	○		△	砂質良好	外-暗茶褐色 内-暗茶褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	イ B13 IV 取440 台440				
		II 群	V	A	平ら	口~胴	口縁外反・頸部くびれて胴部は張る有文(口唇-沈線文一周外-状凸帯文+刺突文(凸帯上にも刺突文))	27.2 -	4~6 - 11 626	中粒多量	◎	○		△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	ニ 08 IV 台2818 台1525+1483+1485+1480				
第51図・図版39	84	II 群	V	A	-	胴部	有文一横位の沈線文(1.5mm幅)2条間に文状工具による押し引き文	- -	5~8 - 24.9	細粒多量	◎	◎		△	砂質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ' 内-ナデ'	ニ P8 IV 台1687				
		II 群	V	A	-	胴部	有文(外-押し引き文(横位)+77な沈線文(曲)・施文具同じ)	- -	5~7 - 43.5	細粒多量	◎	◎		△	砂質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ' 内-ナデ'	ニ 08 III SP23 台1251				
第51図・図版39	86	II 群	V	B	丸	口~胴	口縁は外反・頸部はくびれて胴部は張る有文(口唇-幅広刻み目文・外-沈線+刺突文)横+縦+曲	26.8 -	5~7 - 586.5	中粒中量	○	○		△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ'・指頭痕 内-ナデ'・指頭痕	ニ 08 IV P15 台1262 取218+219+223+227+265 +266 P7 IV 台1648 P8 IV 台1660+1682 Q7 IV 台1677				

凡例 (◎=非常に多い ○=多い △=少ない △=僅少)

第15表-4 土器観察一覽

第 図 ・ 図 版	図 番 号	分類			口唇 形態	部位	口縁・底部形態と 文様有無	法量		混和材							胎土 焼成	器色		器面調整		地区 遺構	小グリッド 取上番号	層 台帳番号
		大	中	小				角 丸 舌 玉縁	口縁 頭部 胴部	口縁 (頭部・胴部含む) 形状 底部形状 文様有無	口径 底径 器高 (cm)	器厚 底厚 (mm)	粒度 含量	石英	赤色 粒	白色 粒		角閃 石	砂 粒	その他	外面 内面			
図 第 51 版 39 図	87	II 群	V	B	丸	口 ~ 胴	口縁は外反・頭部はくびれて胴部は張る 有文(口唇-幅広刻み目 外-沈線文(曲))	26.6 —	7 — 655	中粒 中量	○	○			△	砂質 良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕 刷毛目	ハ S11 IV 台1541 ハ T10 IV SP1 取214~217+248~250 ハ T11 II SP6 台2032 ハ T11 IV 取210+211 他					
第 52 図 ・ 図 版 40	88	II 群	V	C	丸	口 底 近 く	口縁直状・胴部張る 口唇-刺突文(幅細)・外-逆「U」 字状凸帯(上に刺突文+沈線文(7))	28.0 —	5~8 — 630.4	細粒 少量	△				△	砂質 良好	外-橙茶褐色 内-橙茶褐色 (口~胴部煤付 着)	外-ナデ・刷毛目 内-ナデ・刷毛目	ニ K12 IV 台1362 ハ R10 IV 台1507 ハ R11 IV SK03 台1969 ハ R11 IV 取144+149 +321+322+327+329 ハ R11 IV SK03 台1969 ハ R12 IV 台1527 ハ S11 IV 台1549 他					
	89	II 群	V	C	平ら	口 縁	口縁は外反 有文(口唇-刺突文・外-沈線文 (横楕円状))	27.4 —	5 — 75.1	細~粗粒 中量		◎			△	砂質 良好	外-暗茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	ハ R10 IV 台1434 ハ R11 II 台1966 ハ R11 III SP38+SP40+SP46 +SK04 ハ R11 IV 台1500					
図 第 53 版 41 図	90	II 群	V	C	平ら・ 丸	口 ~ 胴	口縁外反 口唇-刺突 外-凸帯状(一部にひねり・上に 刺突文)	30.6 —	7 — 792.0	細粒 中粒	△	○			△	砂質 悪	外-黄褐色 内-黄褐色	外-黄茶褐色 内-黄茶褐色	ハ S11 IV 取262+263 H19 S12 IV 取246+263 H19 S13 IV 取262					
第 52 図 ・ 図 版 40	91	II 群	V	Dア	丸	口 縁	口縁は外反 文様(口唇-刻み目文 外-沈線文(横+斜位・浅い))	— —	5 — 4.1	細粒 少量	△			△	砂質 良好	外-淡橙褐色 内-灰褐色	外-ナデ 内-ナデ	ニ N9 III SP24 台1190						
	92	II 群	V	Dア	舌状	口 縁	口縁は外反 有文(口唇-鞍状凸帯 外-刺突文)	— —	6 — 11.0	細粒 少量	△		○	△	砂泥質 良好	外-暗褐色 内-茶褐色	外-ナデ 内-ヘラナデ	ニ K12 IV 台1313						
	93	II 群	V	Dイ	丸	口 縁	口縁外反・均一 口唇-刺突文	— —	7 — 19.7	細粒 少量	△			△	砂質 良好	外-暗褐色 内-暗褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	イ T11 V 台880						
	94	II 群	V	Dイ	丸	口 縁	外反・口唇-刺突文 外-疑似凸帯文 (横+縦)	— —	4~6 — 13.1	細粒 少量	△			△	砂泥質 良好	外-暗褐色 内-淡橙褐色	外-ナデ 内-ナデ丁掌	ハ P12 IV 台1417						
	95	II 群	V	Dイ	丸	口 縁	内彎? 口唇-刺突文 外-粘土貼り付け(幅-11mm) 疑似肥厚	21.6 —	6 — 38.7	細粒 少量	△			△	砂質 良好	外-茶褐色 内-橙褐色	外-ナデ丁掌・ 指頭痕 内-ナデ・指頭痕	H19 S13 V 台1849						
	96	II 群	V	Dイ	丸	口 縁	直状 口唇-指圧文	— —	5 — 31.0	細粒 少量	○		○	△	砂質 良好 (堅致)	外-暗茶褐色 内-暗茶褐色 (煤付着)	外-ナデ 内-ナデ	ハ R11 IV 台1455						
	97	II 群	V	Dウ	やや I字状 (粘土 貼り 付け)	口 縁	直 外-横沈線間にX状沈線+凸帯文 (三角状・細)	— —	6 — 7.9	細粒 やや多量	○	△		◎	砂質 良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ 内-ナデ	ハ Q11 IV 台1452 ハ R12 IV 台1432						
	98	II 群	V	Dウ	丸(先 細り)	口 縁	内彎・胴部張る 外-竹管状文(横位・3mm弱)	— —	9 — 15.2	細粒 少量	○			△	砂質 良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	H19 S16 II 台1958						
	99	II 群	V	Dウ	丸	口 縁	直状 外-沈線文(斜位) 鋸歯状?	— —	7 — 31.0	中粒 中量	○	△			△	砂質 悪	外-不明 内-不明	外-暗茶褐色 内-茶褐色	H19 Q15 IV 取304 台4013 Q16 II 台1925 Q16 IV 台1928 R15 IV 台1752+1765 S12 IV 台1913					
	100	II 群	V	Dエ	丸	口 縁	口縁は外反・胴部膨らむ 文様(外-三角状凸帯文・内- 沈線文(縦+斜))	— —	6~11 — 56.6	細粒 少量	△			△	砂泥質 堅致	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ丁掌 指頭痕 内-ナデ・指頭痕	H19 R13 IV 取144 台2133						
101	II 群	V	Dエ	丸	口 縁	外反 外-逆「V」字状凸帯(薄・上に 刺突文)	— —	5 — 18.9	細粒 中量	○	○		△	△	砂質 良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ 内-ナデ	ハ R10 IV 台1508						
102	II 群	V	Dエ	やや丸	口 縁	直状 外-縦長凸帯文2条・(口唇でナ)により一つとなる	— —	6 — 6.4	細粒 少量	△				△	砂質 良好	外-茶褐色 内-暗茶褐色	外-ナデ 内-ナデ	H19 S18 IV 台1795						
103	II 群	V	Dエ	舌状	口 縁	やや外反 外-凸帯文(曲)+細沈線文(曲) ・器面滑らか	— —	4 — 9.4	細粒 少量	△	△	○		△	砂質 良好	外-橙褐色 内-橙褐色	外-ナデ丁掌 内-ナデ・指頭痕	H19 T19 IV 取76 台2060						
104	II 群	V	Dエ	—	胴 部	外-逆「U」字状凸帯文(凸帯 文上は無文) 均一	— —	5 — 11.2	細粒 少量	△	△			△	砂泥質	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ愛一ナデ	ハ P11 III SK01 台1843						
105	II 群	V	Dエ	平ら	口 縁	外反 外-三角状凸帯文	— —	4~6 — 25.3	細粒	○				△	砂泥質 良好	外-暗褐色 内-暗褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	ハ R11 IV 台1502+1523						
106	II 群	V	Dエ	—	胴 部	外-細凸帯文 (横位)+有孔	— —	5 — 25.3	中粒 中量	○			△	△	砂質 良好	外-暗褐色 内-橙茶褐色	外-ナデ 内-ナデ	ハ R11 IV 台1523						
107	II 群	V	Dエ	—	胴 部	外-三角状凸帯文	— —	7 — 16.1	細粒 少量	△			△	△	砂泥質 良好	外-黄茶褐色 内-橙茶褐色	外-ナデ 内-ナデ	H19 A19 V 取1447 台1996						
108	II 群	V	Dエ	丸	口 縁	外反 外-微弱肥厚帯 幅-2.7~3.5cm	30.6 —	5 — 56.6	細粒 少量	△	△			△	砂質 良好	外-茶褐色 内-橙褐色	外-ナデ(丁掌) 指頭痕 内-ナデ(丁掌) 指頭痕	ハ N14 IV SP3 台2041 R11 IV 台1455 R12 II SK02 台2089 R12 III SP39 台2084 R12 IV SP41 台2086 S11 IV 台1516+1549 S12 IV 台1532						
109	II 群	V	Dエ	—	胴 部	外-貼り付け肥厚帯(幅-不明)	— —	7 — 14.4	中粒 多量	△				◎	砂質 良好	外-橙褐色 内-灰橙褐色	外-ナデ(雑) 内-ナデ(丁掌)	H19 B1 III P1 台4109						
110	II 群	V	Dオ	丸	口 縁	口縁は直 「く」字状に屈曲・白色粒目立つ・ 有孔	24.5 —	7 — 78.0	粗粒 多量	△		◎		△	砂質 やや悪	外-黄茶褐色 内-黄茶褐色	外-雑 内-ナデ・指頭痕	H19 S18 V 取306 台4014						
第 54 図 ・ 図 版 42	111	II 群	V	Dオ	丸	口 縁	直状 外-有孔・白色粒目立つ	26.2 —	9 — 97.9	粗粒 多量	○		◎	△	砂質 良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	H19 P15 IV 台1683+1686 Q15 IV 台1732 ハ N13 III SP6 台1822 N13 IV 台1599 N14 III SK02 台1772 N14 IV 取38 台38+1641 O14 IV 台1566+1585 O15 IV 台1588 R10 III SP29 台1924 ニ 攪乱 II 台1721						
	112	II 群	V	Dオ	平ら	口 縁	直状(口唇強調) 有文(外-有孔)	— —	5 — 141.0	中粒 中量	○			△	△	砂質 良好	外-暗褐色 内-橙茶褐色	外-ナデ 内-ナデ・指頭痕	ハ R11 IV 取31 台31					

凡例 (◎)=非常に多い ○=多い △=少ない △/ =僅少

第15表-5 土器観察一覧

第15表-5	図・図版	分類	口唇形態	部位	口縁・底部形態と文様有無	法量		混和材						胎土焼成	器色		器面調整		地区				
						口径	器厚	粒度	石英	赤色粒	白色粒	角閃石	砂粒		その他	外面	内面	外面	内面	遺構	小グリッド	層	
大	中	小	角丸舌玉縁	口縁頸部	口縁(頸部・胴部含む)形状	口径	器厚	含量															
第54図・図版42	113	II群	VI	A	玉縁	口縁外反・胴部わずかに張るくびれ平底無文	15.4 6.0 16.0	5 5.8 134.0	細粒中量	△	○			△	泥質良好	外-橙褐色 内-淡橙褐色	外-ナデ・刷毛目 内-刷毛目	ハ	S10 II SK02 台2029 S10 IV SP27+SK02 S11 IV 台1541 他				
	114	II群	VI	B	丸	口縁外反・胴部張る無文	19.6 —	5 40.9	細粒少量	△				△	泥質良好	外-灰茶褐色 内-灰茶褐色	外-ヘナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	ハ	T11 取254 台254 Q7 IV 台1716				
	115	II群	VI	B	平ら	口縁外反強・胴部余り張らない無文	16.4 —	5 27.6	細粒少量		○			△	泥質良好	外-淡橙褐色 内-淡橙褐色	外-ナデ 内-刷毛目	ハ	A9 IV 取179 台179				
	116	II群	VI	B	丸	口縁外反・胴部張る無文	14.0 —	4 33.8	細粒少量	△				△	砂質良好	外-灰橙褐色 内-灰橙褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	ハ	S11 IV 取207 台207				
	117	II群	VII	A	舌状	口縁外反・「ハ」字状に開く	8.6 —	10.0 86.0	細粒少量	△				△	砂質良好	外-淡赤褐色 内-淡赤褐色	外-ナデ丁摩 内-ナデ・指頭痕	ハ	Q11 IV 台1573 T10 IV 台1537				
第55図・図版43	118	II群	VII	A	破損の為不明	頸部でくびれる・胴部「ハ」字状・厚手(重量感あり)無文	8.6 —	12 256.0	細粒少量	△				△	砂泥質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ丁摩 内-ナデ・指頭痕	H19	A13 V 取365 台4008 O16 IV 台2013 P16 III P9 台4129 P16 IV 取287 台2301 S18 IV 台1802				
	119	II群	VII	A	—	頸部でくびれ・張り内-ハシレ無文	— —	10 6.4	中粒中量	△	○	△			砂質やや悪	外-茶黄褐色 内-茶黄褐色	外-ナデ丁摩 内-ハシレで不明	H19	R17 V 取299 台4176 S17 V 取298 台4177				
	120	II群	VII	B	丸	無頭・「ハ」字状厚手無文	7.2 —	10 69.9	—	△				○	砂質良好	外-茶黄褐色 内-茶黄褐色	外-ナデ丁摩 内-ナデ・指頭痕	H19	A20 IV 台1715 Q17 II SK24 台878 R13 IV 台1762 R17 IV 取327 台327 S18 IV 台1795				
	121	II群	VII	B	丸(先細り)	無頭・「ハ」字状・厚手無文・粉が手に付く	6.6 —	10 —	中粒やや多量	△	◎			△	砂質強良好	外-橙褐色 内-橙褐色	外-ナデ丁摩 内-雑仕上げ	ハ	O14 III SP10 台1737+1810 IV 台1566				
	122	II群	VII	C	丸	外反口唇・刺突文外-逆「U」状に凸帯文	— —	5 23.5	中粒中量	○	○			△	砂質良好	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	ハ	R12 IV 台1524				
	123	II群	VII	C	丸	外反口唇・刺突文外-沈線(縦・斜・曲線)	— —	4 16.2	細粒少量	△	○			△	砂質良好	外-茶褐色 内-灰茶褐色	外-ナデ丁摩 内-ナデ・指頭痕	ハ	P12 III 台1571				
	124	II群	VII	C	—	外反外-凸帯文(横・斜)・凸帯上に刺突文	— —	5 33.0	細粒少量	○				△	砂質良好	外-明褐色 内-明褐色	外-ナデ 内-ナデ・指頭痕	ニ	M10 III 台1393 M10 IV SP22 台1144 ニ 08 IV 台1476				
	125	II群	VII	D	舌状	片口・小型・口縁は直状・胴部張る・粘土積み痕隆起無文・底部一尖底	— (片口で楕円) 19.3	5~7 18.0 460.0	中粒中量	△	○			○	砂質悪	外-暗茶褐色 内-暗茶褐色	外-雑・指頭痕 内-雑・指頭痕	H19	T19 V 取337 台337				
	126	II群	VII	D	舌状	口縁近く外-縦長凸帯文(上に刺突文)	8.2 —	6 230	中粒多量	○	○			△	砂質良好	外-赤褐色 内-淡赤褐色	外-ナデや雑・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	ハ	Q11 II SP505 台1760 Q11 IV 台1556+1575 Q12 III SP71+72 台1910 Q12 IV 台1558				
	127	II群	VII	D	—	胴部は余り張らない外-横凸帯文(6×25mm)	— —	6 37.0	細粒少量	○				△	砂泥質良好	外-ナデ丁摩 内-雑	外-茶褐色 内-茶褐色	ニ	P8 IV 台1681				
	128	II群	VII	E	丸	直状・ナデ肩有文(口唇・刺突文・外-横と逆「U」字状に凸帯(上に刺突))	7.4 —	5~7 251	細粒少量	△				△	砂泥質良好	外-橙褐色 内-橙褐色	外-ナデ丁摩 内-ナデ丁摩	ハ	Q11 IV 台1573 Q12 III SP75+76+77 R11 IV 取158+160 他				
	129	II群	VII	F	丸	口縁直・胴部張る・片口・底部は平底(立ち上がりは丸い)無文	6.0 3.5 24.2	5 12 154.5	細粒少量	△	△			△	泥質良好	外-ナデ丁摩 内-刷毛目	外-灰橙褐色 内-灰橙褐色	ニ	R6 IV 取289+306+307 台289+306+307+1715				
	130	II群	他	—	舌状	口縁外反・胴部はやや張る・均一	22.6 —	7 128.0	細粒少量	△	○			△	砂泥質(堅致)	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ丁摩 内-ナデ丁摩 指頭痕	H19	D20 IV 取1510 台2086+2770				
131	II群	他	—	丸	口縁上端外反・胴部やや膨らみや波状口縁・有文(口唇-鞍状凸帯文・内側が長い)・厚手張る・厚手(粘土を外面に貼り付け)・無文	23.8 —	8~12 349.0	粗粒多量	◎	◎			△	砂質悪	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	H19	R16 IV 台1895 R17 V 取303 台4150 S13 III P19 台405					
132	II群	他	—	平ら	直状・両面粘土貼り付けで厚手無文	— —	10 151	中・粗粒中量	○	○			△	砂質悪	外-茶褐色 内-茶褐色	外-ナデ・刷毛目 内-指頭痕・雑	H19	P15 IV 台1686 Q16 IV 台1929 R17 V 取596 台1957 S16 IV 台1827					
133	II群	他	—	平ら	口縁外反強	20.4 —	9 36.4	粗粒多量	◎		△		△	砂泥質良好	外-赤茶褐色 内-淡茶褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ	H19	R16 IV 取187 台2123					
134	II群	他	—	丸	口縁外反弱	— —	8 26.0	粗粒多量	◎				△	砂泥質良好	外-暗茶褐色 内-暗茶褐色	外-ナデ・指頭痕 内-ナデ・指頭痕	ハ	N14 III 台1635					
135	II群	他	—	丸	口縁外反・胴部は直状	28.0 —	9 59.3	粗粒多量			◎		○	砂質良好	外-暗茶褐色 内-橙茶褐色	外-ナデ 内-ナデ・指頭痕	ハ	N13 III SP7 台1824 ハ O13 III SP44 台1766 ハ O13 III SP4 台1736 ハ O13 IV 台1581					
136	II群	他	—	受け口	内彎・無文	— —	4 5.8	細粒少量	△				○	砂質良好	外-暗茶褐色 内-黄茶褐色	外-ナデ 内-ナデ	ニ	Q6 II 台1708					
137	II群	耳	—	—	形状不明の耳?厚手・雑仕上げ	— —	9 57.1	中・粗粒中量	△	○			△	砂泥質	外-赤褐色 内-茶褐色	外-指頭痕・ヘナデ 内-指頭痕・ナデ	H19	S14 IV 台1805					
138	II群	耳	—	—	三日月状の耳・幅-2cm弱幅広・厚手・雑仕上げ	— —	9 38.2	粗粒中量	△	○			△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-指頭痕・ナデ・雑 内-指頭痕・ナデ・雑	ニ	M10 IV 台1404					
139	II群	耳	—	—	三日月状の耳・幅-1cm弱・幅狭・器面丁寧な仕上げ	— —	— 12.8	中粒中量	○	○			△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	不明	ハ	M14 III 台1673 P11 IV 台1589					
140	II群	無文	—	—	器面がベタベタ状で粉が手に付く	— —	10 63.0	細粒少量	△				△	砂質良好	外-黄褐色 内-黄褐色	外-ナデ丁摩 内-ナデ	H19	A20 IV 台1712+2572 A20 V 取1230 台2189 — 表採 台1946					
141	II群	無文	—	—	無文内-調整痕明瞭	— —	4 7.3	中粒多量	◎				○	砂泥質良好	外-灰褐色 内-黄灰褐色	外-ナデ 内-刷毛目	ハ	P12 III 台1571					
142	II群	無文	—	—	無文内-調整痕明瞭	— —	4 17.0	細粒少量	△	△			△	砂質良好	外-赤褐色 内-黄茶褐色	外-ナデ 内-刷毛目	ハ	O14 III 台1577					
143	II群	無文	—	—	一次加工の蓋?円状で厚さ7mmで平ら	9.0 —	7 9.4	細粒少量	△				△	砂質良好	外-赤褐色 内-赤褐色	外-ナデ 内-ナデ	ニ	N9 III 台1408					

凡例 (◎=非常に多い) ○=多い △=少ない ∟=僅少

第15表-6 土器観察一覽

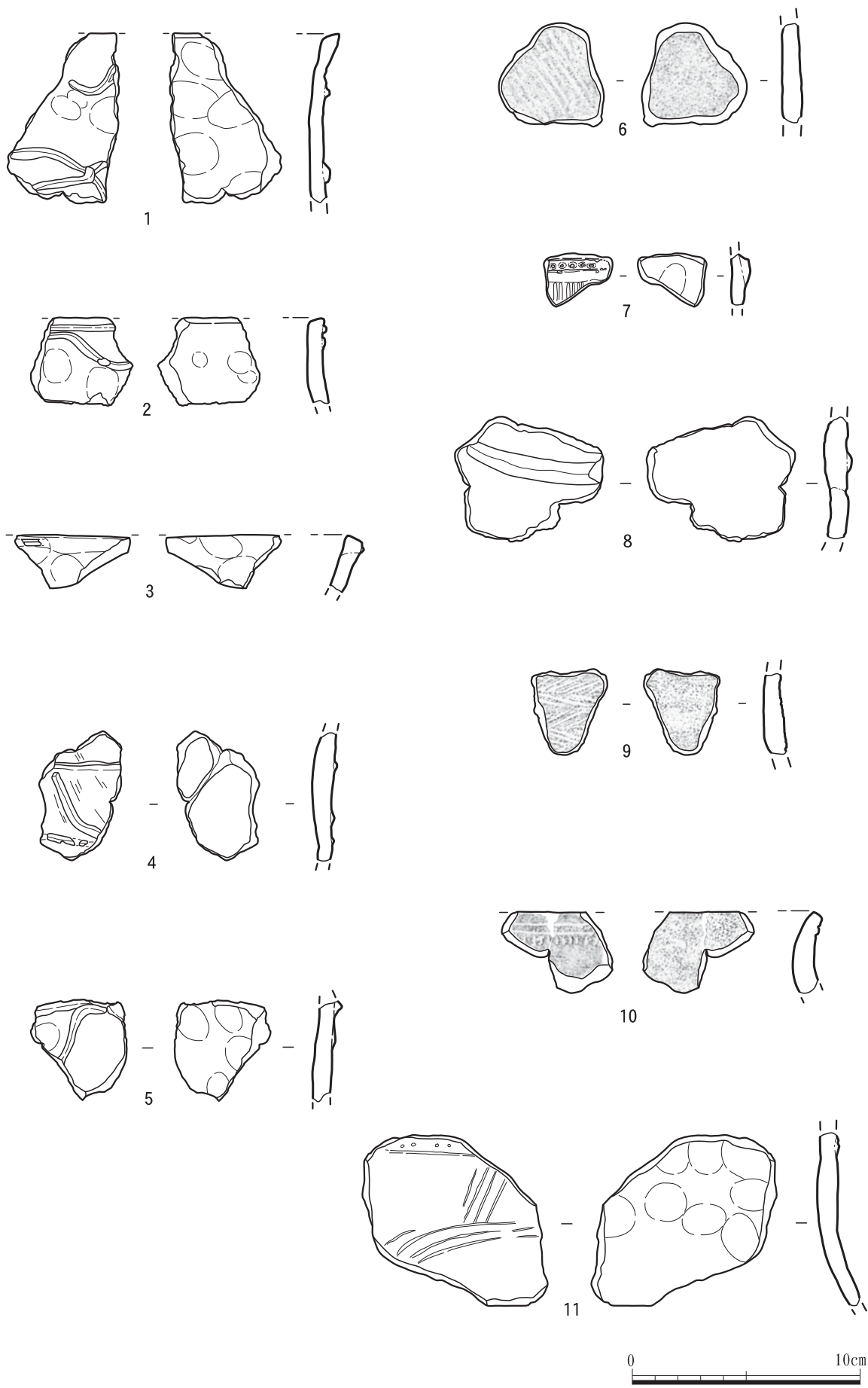
第15表-6	図版	分類		特徴	法量		混和材						胎土	器色		器面調整		地区 小グリッド 層 遺構 取上番号 台帳番号	
		大	中		底径 (cm) 重量 (g)	器厚 底厚 (mm)	粒度 含量	石英	角閃石・ 閃石	白色粒	赤色粒	砂粒		その他	外面 内面	外面 内面			
第58図・図版46	A	144	丸底	-	器厚-均一 行'丁寧	17.3	4 7	細粒 中量	○				○		砂質	外-茶褐色 内-淡橙褐色	外-行'丁寧 内-行'丁寧	H19 不 表探 台1946	
		145	丸底	-	粘土積み痕明瞭 雑仕上げ	25.0	6 9	中粒 多量	◎		○		○		砂質	外-茶褐色 内-黒褐色	外-行' (雑) 内-指頭痕	ハ 012 IV SP7 台1725	
		146	尖底	a		外-木の葉痕様の 文様 (沈線文)	9.2	8 14	細粒 やや多	○	◎			○		砂質	外-赤茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行'	H19 R15 IV 台1752
		147	尖底	a		外底-やや尖る 底厚-やや薄い	102.0	6 12	中粒 中量	○			○	△		砂泥	外-赤褐色 内-灰茶褐色	外-行' 内-行'	H19 R13 IV 取212 台2306
		148	尖底	a		外-澁和材扱いで7A ⁺ 形状 外底破損	33.1	4 -	中粒 多量	◎	○	○		○		砂質	外-灰茶褐色 内-暗茶褐色	外-行' 内-行'	ハ R11 IV 取317+318 台1526
		149	尖底	a		立ち上がり急 外底-やや尖る 底厚-やや薄い	150.0	5 10	粗粒 中量	○	△	○	○	△		砂質	外-茶褐色 内-暗褐色	外-行' (せ'へ?) 内-行' (せ'へ?)	ハ Q11 IV 取29 台1559
		150	尖底	a		外底-やや尖る 底厚-やや薄い 雑に調整	61.1	4 10	粗粒 中量	○	△	△		△	△	砂質	外-赤褐色 内-黒褐色	外-行' 内-行'	ハ R11 IV 台1580
		151	尖底	a		外底-尖る 底厚-やや薄い	22.7	8 15	中粒 中量	○		○		△		砂質	外-赤褐色 内-灰褐色	外-行'雑 内-行'	イ A12 IV 取233 台1037
		152	尖底	a		外底-尖る 底厚-厚い	79.0	5 20	粗粒 多量	△				○	○	砂質	外-暗茶褐色 内-赤褐色	外-行'丁寧 内-行'雑	イ C15 IV 取20 台1243
		153	尖底	a		外底-尖る 底厚-厚い	125	6 24	細粒 少量	△		◎		△		砂泥	外-黄褐色 内-黄褐色	外-行' 内-行'	H19 A13 IV 取272 台2324
		154	尖底	a		底面破損	15.0	9 (20以上)	細粒 少量	△		○		△		泥質	外-橙褐色 内-灰褐色	外-不明 内-不明	イ D14 IV 台871
		155	尖底	b		外底-丸みをなす 底厚-薄い・摩耗 内底-黒斑有り	55.0	5 7	中粒 中量	△	△	△		△		砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行'	H19 S13 IV 取254 台2312
		156	尖底	b		外底-やや丸み 底厚-やや厚い	46.3	7 15	中粒 多量	○		◎				砂質	外-赤褐色 内-灰茶褐色	外-行'雑 内-行'	ニ 不 不 台2796
		157	尖底	b		乳頭部-小振り・低い 底厚-厚い	97.3	7 23	細粒 少量	△		△	△	△		砂 泥質	外-茶褐色 内-黒褐色	外-行'丁寧 内-行'やや雑	H19 S17 IV 取175+176 台1677+2129+2130
		158	尖底	b		外底-やや丸み 底厚-やや厚い	35.0	5 16	細粒 少量	△		△		△		砂質	外-茶褐色 内-灰褐色	外-行'雑 内-行'	H19 S14 IV 台1816
159	尖底	b		外底-やや丸み 底厚-やや厚い	27.0	6 17	細粒 少量	△				△		砂質	外-赤褐色 内-灰茶褐色	外-行'雑 内-行'雑	H19 Q16 IV 台1921		
160	尖底	c		外底-丸みをなす 底厚-厚い	40.0	10 23	粗粒 中量	△		◎		△		砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行'丁寧 内-雑仕上げ	H19 T16 IV 台1864		
161	尖底	c		外底-丸い 底厚-厚い	97.3	7 25	粗粒 多量	○		◎		△		砂質	外-黒灰褐色 内-淡橙褐色	外-行' 内-雑仕上げ	ニ N10 IV 台1468		
162	尖底	c		外底-丸い 底厚-厚い	84.0	8 24	細粒 少量	△		△				砂質	外-茶褐色 内-暗茶褐色	外-雑仕上げ 内-行'	H19 S17 IV 取183 台2122 H19 S18 IV 台1796		
163	尖底	c		外底破損 形状より c に分類	70.0	7 -	中粒 中量	○	◎					砂質	外-橙褐色 内-灰橙褐色	外-行'丁寧 内-雑仕上げ	H19 B17 IV 取85 台2064		
164	尖底	d		外底-凹み (円形状)	42.0	14 (凹み) 23	中粒 中量	○		◎				砂質	外-茶褐色 内-不明	外-行' 内-不明	H19 A19 IV 取75 台2056		
165	尖底	d		外底-凹み (ほぼ円形状)	42.0	12 (凹み) 20	細粒 中量	○		◎				砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行'	H19 A14 IV 取20 台2068		
第59図・図版47	C	166	乳尖	a	胴下部に補修孔 (1個) 孔径は5mm 外→内へ穿たれる	2.4 672.0	6 ~ 8 23	細・粗粒 少量	△		○		△		砂質	外-赤褐色 内-赤褐色	外-行'丁寧 内-行'丁寧 (丁寧)	イ S12 V 取55・557 ~ 575 台1165 ~ 1171・1173・1175・1182・ 1184 ~ 1190・1196・1208・1214	
		167	乳尖	a	乳頭部-小振り・高い 外底-平ら	2.3 54.3	5 17	細粒 少量	△		△		△		砂質	外-赤褐色 内-赤褐色	外-行' 内-行'	ニ P7 IV 台1661	
		168	乳尖	a	乳頭部-小振り・高い 外底-平ら	2.0 12.0	4 13	細粒 少量	△		○		△		砂質	外-赤褐色 内-暗褐色	外-行' 内-不明	H19 B19 IV 台2285	
		169	乳尖	a	乳頭部-小振り (底厚は厚い) 外底-丸み	2.6 61.0	6 22	細粒 中量	△		○		△		砂質	外-明茶褐色 内-赤褐色	外-行' 内-行'	イ C15 IV 取388 台1218	
		170	乳尖	b	乳頭部-やや小振り・低い 外底-丸い	2.4 239.5	6 15	細粒 中量	△	○	△					砂質	外-灰茶褐色 内-灰茶褐色	外-行'丁寧 内-行'丁寧	H19 S12 V 取530 台1932
		171	乳尖	b	乳頭部-小振り・低い 外底-平ら	2.2 220.0	5 11	細・粗粒 中量	○	△	○		△			砂質	外-赤褐色 内-暗茶褐色	外-行' (縦) 内-行' (縦) 指頭痕	ハ R12 IV 台1553+1565 ハ S11 IV 台1549
		172	乳尖	b	重量感有り 乳頭部-小振り・低い 外底-平ら	2.8 104.5	9 15	中粒 中量	△	△	○		△			砂 泥質	外-茶褐色 内-明茶褐色	外-行'丁寧 内-雑仕上げ	ハ M14 IV 取20 台20
		173	乳尖	b	乳頭部中振り・低い 外底-丸み	3.0 26.0	5 13	中粒 中量	○	◎						砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行'	イ A18 IV 台2235
		174	乳尖	b	乳頭部-中振り・低い 外底-有文? (沈線)	3.0 41.9	10 -	中粒 多量	◎				△	△		砂質	外-茶褐色 内-黒褐色	外-行' 内-行'	ハ 013 III SP15 台1739
		175	乳尖	c	乳頭部-粘土貼り付けで強調	3.3 34.0	7 21	中粒 多量	◎		△		○			砂質	外-赤褐色 内-茶褐色	外-行'雑 内-不明	H19 R16 IV 取190 台2150 H19 P15+Q16 IV 台1689+1921
		176	乳尖	c	器厚-厚手 乳頭部はより大	3.7 357.0	10 29	中粒 中量	○				△	△		砂質 強	外-黄茶褐色 内-茶褐色	外-行'丁寧 内-行'丁寧	H19 015 IV 取291 台2289 VI 取618 台618 H19不 III P6 台4324
		177	乳尖	c	乳頭部-より大 外底に粘土貼り付け 外底-葉痕? 有り 内底-煤付着	5.6 55.8	6 26	中粒 中量	△		○		○			砂質	外-赤褐色 内-黒褐色 (煤付着で)	外-行' 内-行'	ニ N9 IV 台1427
		178	乳尖	d	乳頭部-大振り・低い 外底-平ら	3.2 15.3	- 11	中粒 中量	○		○		△			砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行'	H19 S19 V 台1780
		179	乳尖	d	乳頭部-大振り・低い 外底-平ら	3.8 30.0	6 11	細粒 少量	△	◎						砂質 強	外-茶褐色 内-橙褐色	外-行' 内-雑仕上げ	H19 A18 IV 台2229 H19 B19 IV 台2271

凡例 ◎=非常に多い ○=多い △=少ない ∟=僅少

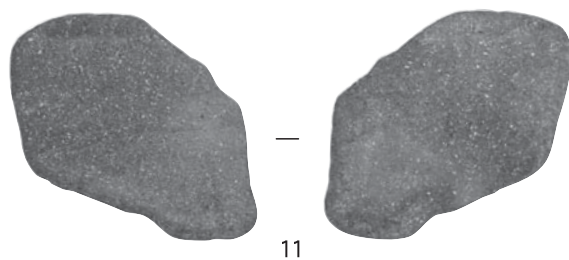
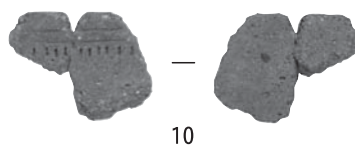
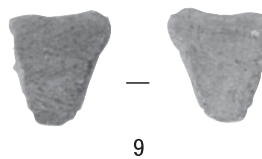
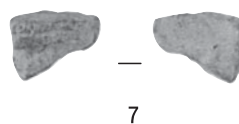
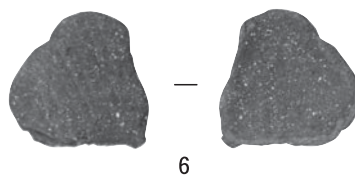
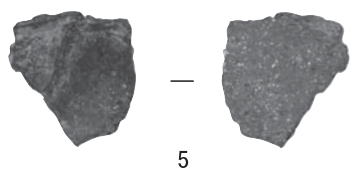
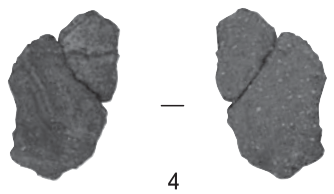
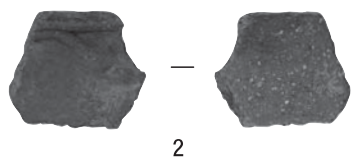
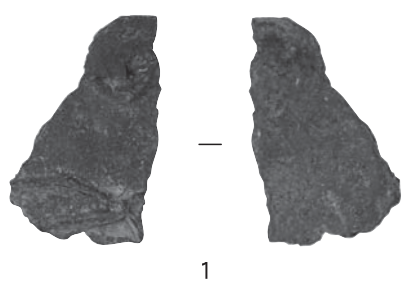
第15表-7 土器観察一覧

第59図 図版47	図番号	分類		特徴	法量		混和材							胎土	器色		器面調整		地区 小グリッド 層 遺構 取上番号 台帳番号
		大	中		底径 (cm) 重量 (g)	器厚 底厚 (mm)	粒度 含量	石英	角礫石	黒石	赤色粒	白色粒	砂粒		その他	外面	内面	外面	
第60図 図版48	180	乳尖	d	乳頭部-大振り・低い 外底-丸み	3.3 27.0	— 18	細粒 少量	△	○				△	砂質 強	外-黄褐色 内-黄褐色	外-指頭痕 内-不明	H19 S18 IV 取295 台4254		
	181	乳尖	d	乳頭部-小振り・低い 外底-平ら	4.2 280.0	9 16	細・ 粗粒 中量	○					○	砂質	外-赤褐色 内-黒褐色	外-行'丁寧 内-行'	H19 A20 IV 台1707 T20 IV 台1936 T19 IV 台1944 T19 V 取1351 B19 IV 台2271 台1991		
	182	C	乳尖	e	外底凹み-楕円状	2.1 19.0	4 5 (5)	細粒 少量	△				△	砂質	外-赤褐色 内-茶褐色	外-行'雑 内-行'	イ T12 IV 取252 台1042		
	183		乳尖	e	外底凹み-楕円状	3.0 14.0	— 凹み (5)	細粒 中量	△			○	△	砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-不明 内-不明	H19 不 V 台2224		
	184		乳尖	e	外底凹み-浅・ 不定形	2.3 36.0	6 凹み (15)	中粒 中量	△			○	△	砂質	外-茶褐色 内-灰茶褐色	外-行' 内-行'	H19 S12 IV 台4016		
	185		乳尖	e	外底凹み-円形状 底面破損	2.4 57.4	5 凹み (19)	細粒 中量	△	△		○	△	砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行' (指頭痕 明瞭)	ニ P8 IV 取268 台268		
	186		乳尖	e	外底凹み-浅・ 円形状	2.6 62.7	6 凹み (18)	細粒 中量	○	○		△	△	砂質	外-赤褐色 内-黒褐色	外-行'雑 内-行' (煤付着)	ニ M10 III 台1474		
	187		乳尖	e	外底凹み-浅・楕円状 2mm程の沈線有り	2.9 20.0	5 凹み (19)	細粒 中量	△				○	△	砂質	外-茶褐色 内-明茶褐色	外-行' 内-行'	H19 S16 IV 台1815	
	188		Bor C	尖or 乳尖	不明	底面破損	— 218.0	5 8	細粒 中量	○			○	△	砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' (雑) 内-行'	H19 S12 V 取558+559 台558+559	
	189		C	乳尖	不明	底面破損 器厚-厚い 混和材 (白色粒) がより多量	— 55.4	10 —	中粒 多量	○				◎	△	砂質	外-赤褐色 内-黒褐色	外-行' 内-行' (指頭痕)	ハ 不 IV 台1545
	190	D	平底	a	立ち上がり部は角 底径はやや小 外底は平ら	4.7 14.0	5 10	細粒 少量	△	△			△	泥質	外-黄褐色 内-桃褐色	外-行'指頭痕 内-行'	H19 A20 IV 取110 台2132		
	191		平底	a	立ち上がり部は角	6 39.0	8 13	中粒 多量	◎	△			△	雲母 △	砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行'	H19 A20 IV 取107 台2137	
	192		平底	b	立ち上がりの角は行'によりやや 丸い 底径は小 外反度やや強い	4.2 34.2	8 13	中粒 やや 多量	◎	△			△	火山 ガラス △	砂質	外-橙茶褐色 内-灰茶褐色	外-行' 内-行'	H19 A20 V 取1202 台2163	
	193		平底	b	立ち上がり部は角 外反度が強い	5 35.0	7 10	中粒 多量	◎	○			△	火山 ガラス △	砂質	外-茶褐色 内-茶黄褐色	外-行' 内-行'	H19 T19 IV 台1944	
	194		平底	c	立ち上がり部は丸い	8.3 23.4	— 14	細粒 中量	○	△			△		砂質	外-茶褐色 内-暗茶褐色	外-雑仕上げ 内-不明	ハ N15 II SX001 台1690	
	195		平底	c	立ち上がり部は丸い	10.0 81.0	— 10	粗粒 少量	△	△		△	△	△	砂質	外-橙褐色 内-橙褐色	外-行' 内-行'	H19 A20 IV 取105 台2139 H19 T20 IV 台1936	
	196		平底	不明	立ち上がり部破損 底厚が厚い 底面に文様?調整痕?	— 21.0	— 15	細粒 少量	○				△		砂質	外-茶褐色 内-茶褐色	外-行' 内-行'	H19 T20 IV 台1936	
	197		平底	d	立ち上がり部が丸い・若干上げ 底	3.5 53.6	5 11	細粒 中量	○	△		○	△		砂質	外-茶褐色 内-刷毛目明瞭	外-行' 内-行'	ニ R6 IV 台1715	
198	E	くびれ	a	立ち上がり部がやや丸み 外底-若干上げ底	6.6 24.0	— 8	細粒 少量	△				△	砂質	外-茶褐色 内-灰茶褐色	外-行' 内-行'	H19 S17 IV 取178 台2125			
199		くびれ	b	外底-僅かに上げ底 内底-やや雑仕上げ若干ワット状 (行'痕明瞭)	5.0 36.6	5 8	細粒 少量	○				△	砂質	外-茶褐色 内-暗褐色	外-行'雑 内-刷毛目	ハ S11 IV 取257 台257			
200		くびれ	b	外底-平ら 内底-ワット状 (行'痕明瞭)	6.0 60.0	4 9	細粒 中量	○			○	△	泥質	外-赤褐色 内-灰褐色	外-行'丁寧 内-行' 雑	ハ S10 IV 取206 台206			
201		くびれ	b	外底-若干上げ底 内底-ワット状	7.2 26.9	5 7	細粒 少量	△			△	△	泥質	外-赤褐色 内-橙黄褐色	外-行'丁寧 内-行'	ハ T10 II P12 台2025			
202		くびれ	b	外底-中央部が若干上げ底 内底-ワット状	8.0 31.7	5 8	中粒 少量	△			○	△	泥質	外-橙灰褐色 内-橙灰褐色	外-行'丁寧 内-行' 雑	ハ R10 IV P35 台1929			
203		くびれ	b	外底-中央部が若干上げ底 内底-平ら	7.5 37.5	6 6	中粒 中量	△			○	△	泥質	外-橙灰褐色 内-灰褐色	外-行' 内-行'	ニ 08 IV 台1485			
204		くびれ	b	外底-若干上げ底 内底-調整痕明瞭	6.5 180.0	5 6	細粒 少量	△			△	△	泥質	外-橙灰褐色 内-灰褐色	外-行' 内-行' 雑	ニ P8 IV 台1681			
205		くびれ	b	外底-平ら 内底-平ら	6.7 33.4	6 7	細粒 少量	△				△	砂質	外-赤褐色 内-赤褐色	外-行' 内-行'	ハ S10 IV SP38 台2063			
206		くびれ	b	外底-不明 内底-平ら	6.0 33.4	4 7	細粒 少量	△				△	砂質	外-茶黄褐色 内-茶黄褐色	外-行'痕明瞭 内-行'	ニ P9 IV 台1686			
207		くびれ	b	立ち上がり部がやや直 外底-中央部が若干上げ底 内底-中央部が若干ワット状	7.6 44.5	5 8	中粒 中量	△			○	△	砂質	外-茶黄褐色 内-茶黄褐色	外-行' 内-行'	ニ P8 IV 台1685			
208	くびれ	d	立ち上がり部がやや丸み 外底-上げ底	7.0 22.0	8 10	細粒 少量	△			△	△	△	砂質	外-赤褐色 内-赤褐色	外-行'丁寧 内-行' 雑	H19 A20 IV 台1704			

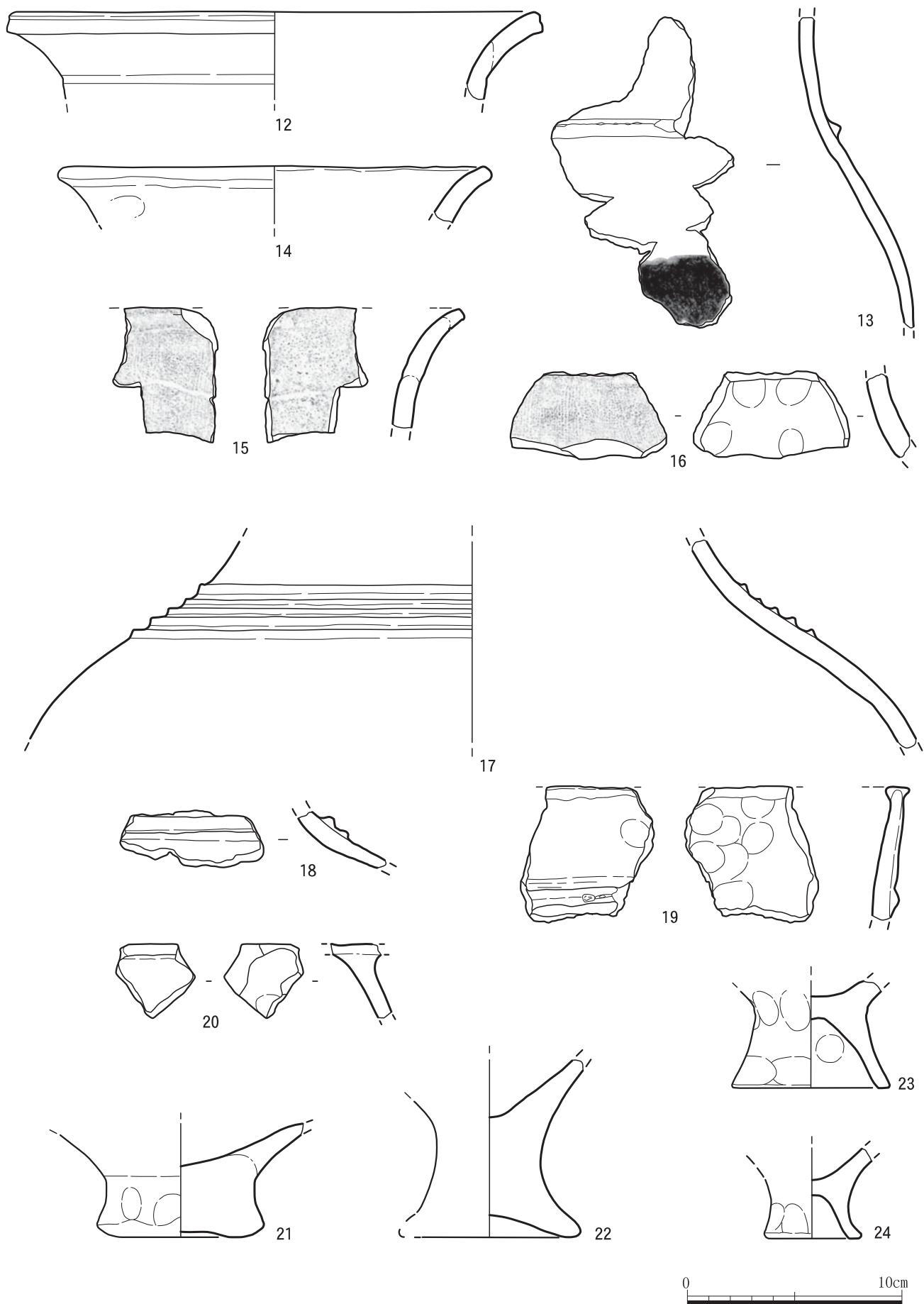
凡例 (◎=非常に多い ○=多い △=少ない △=僅少)



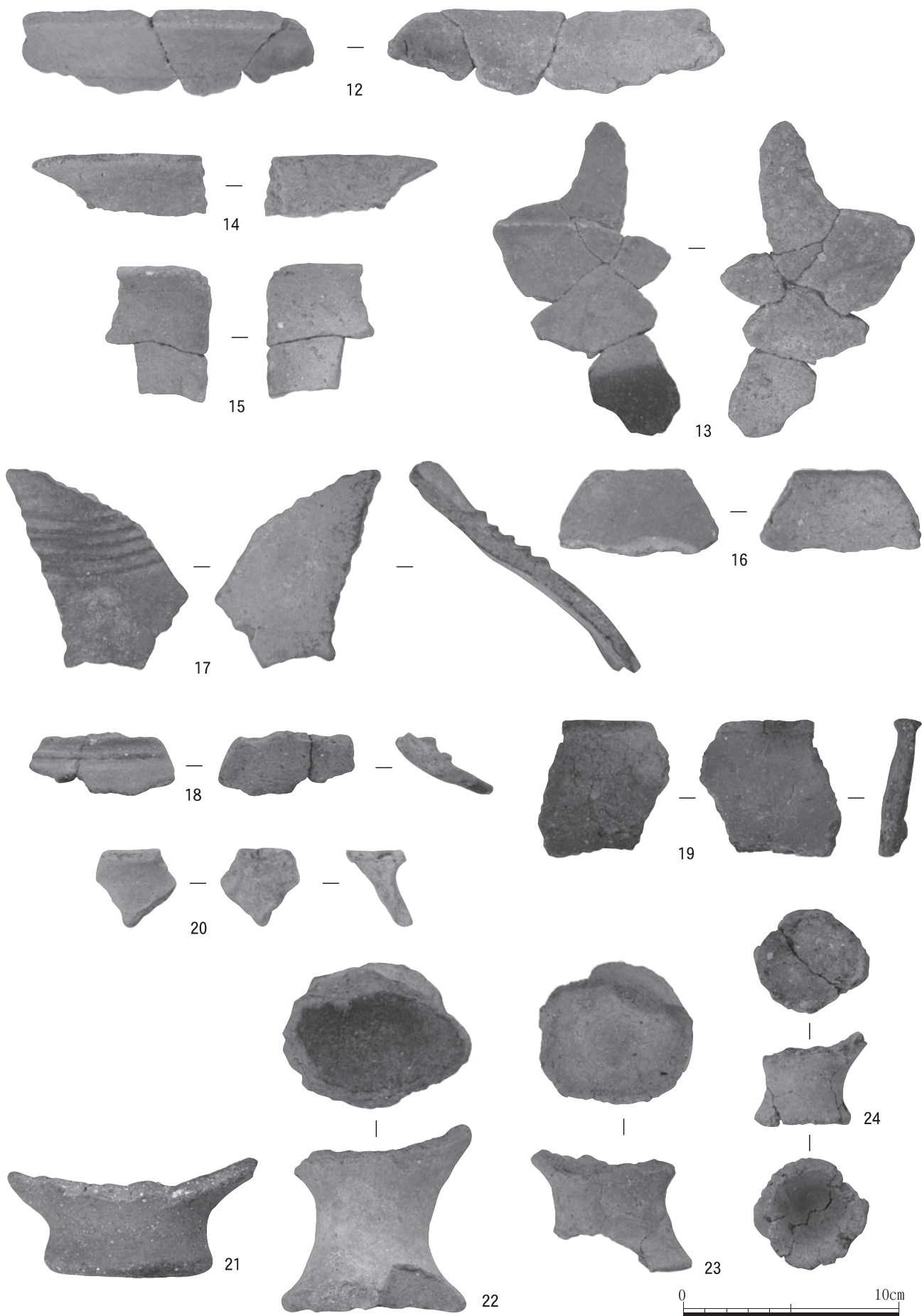
第39図 土器 1



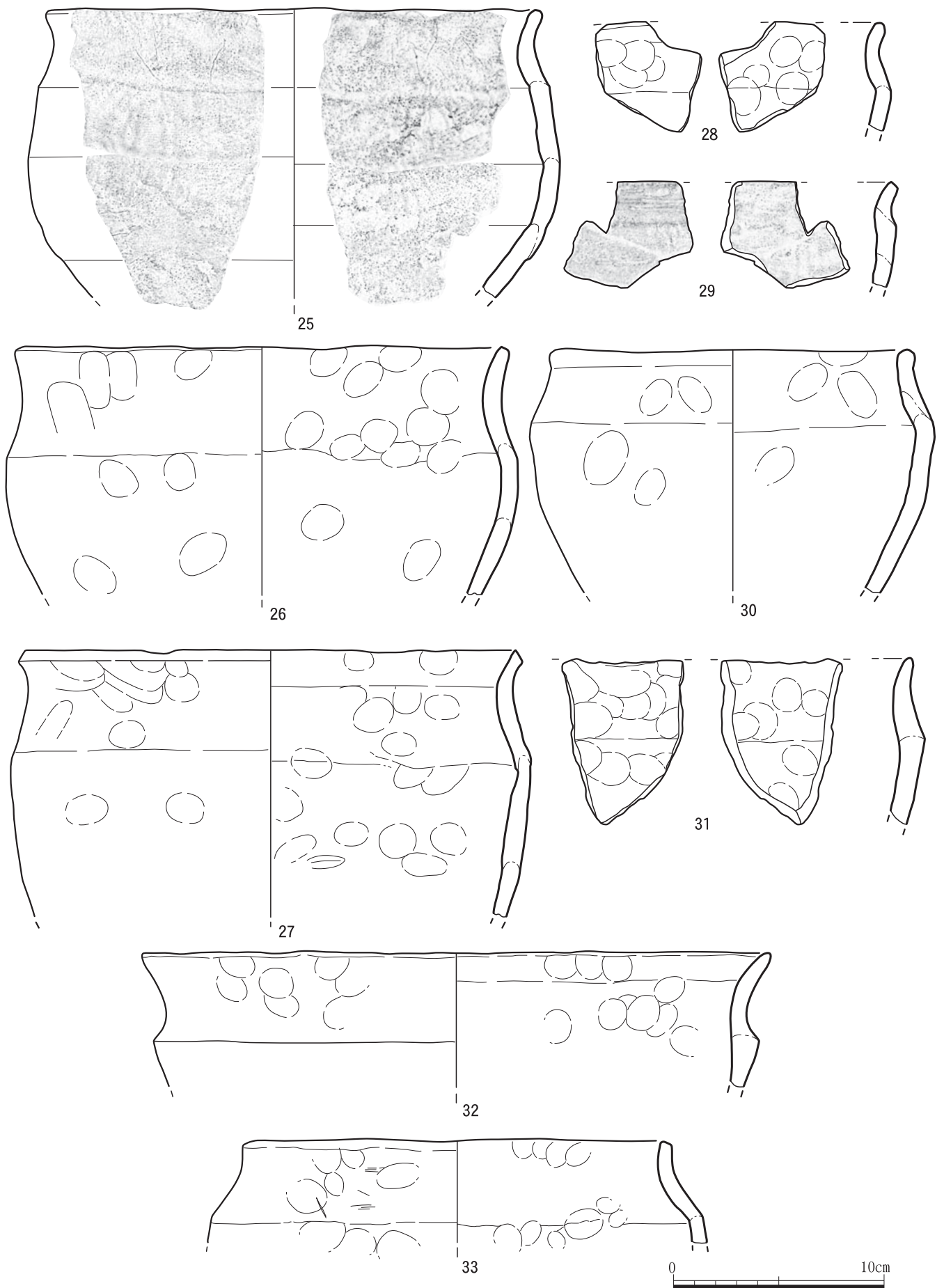
图版27 土器 1



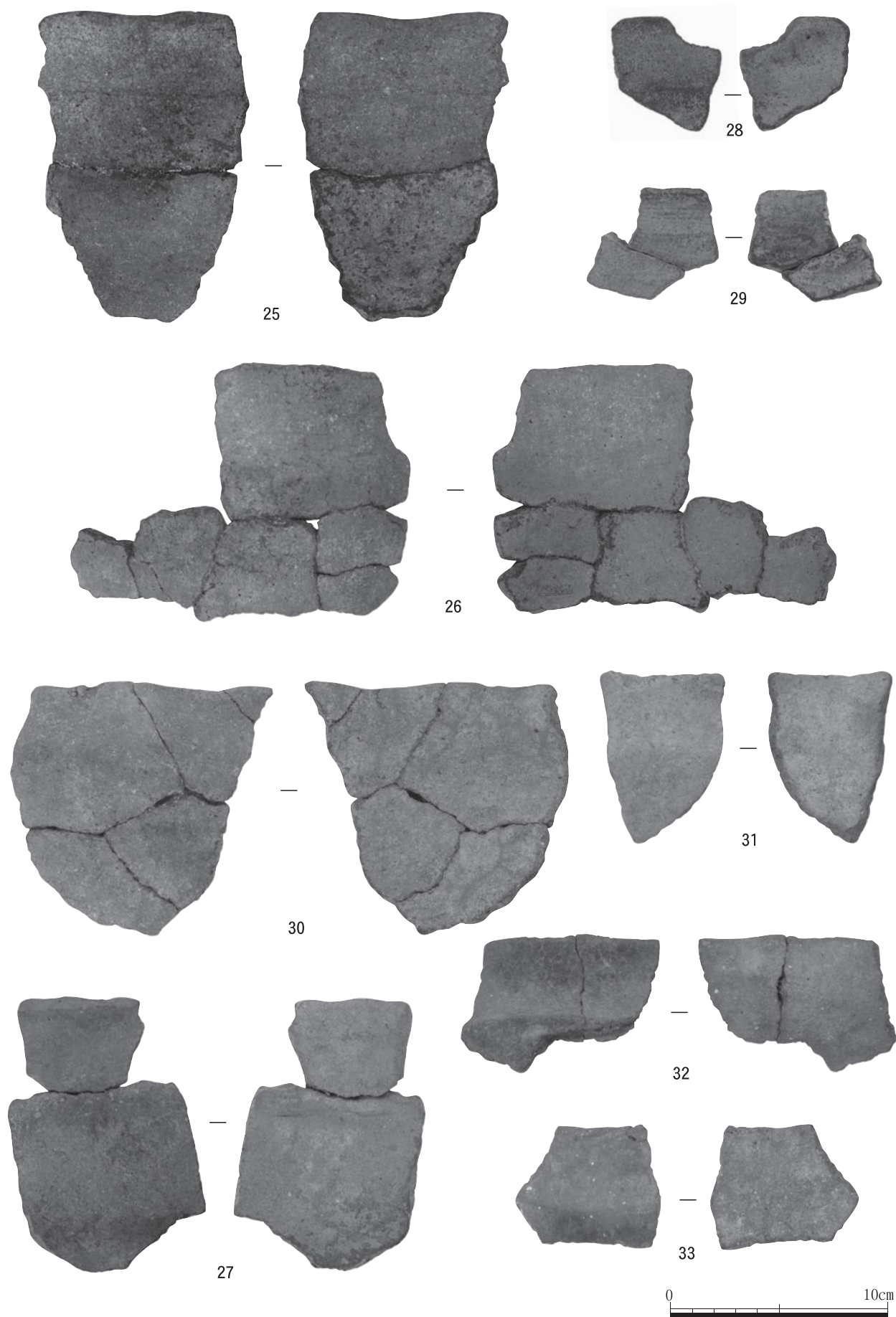
第40图 土器2



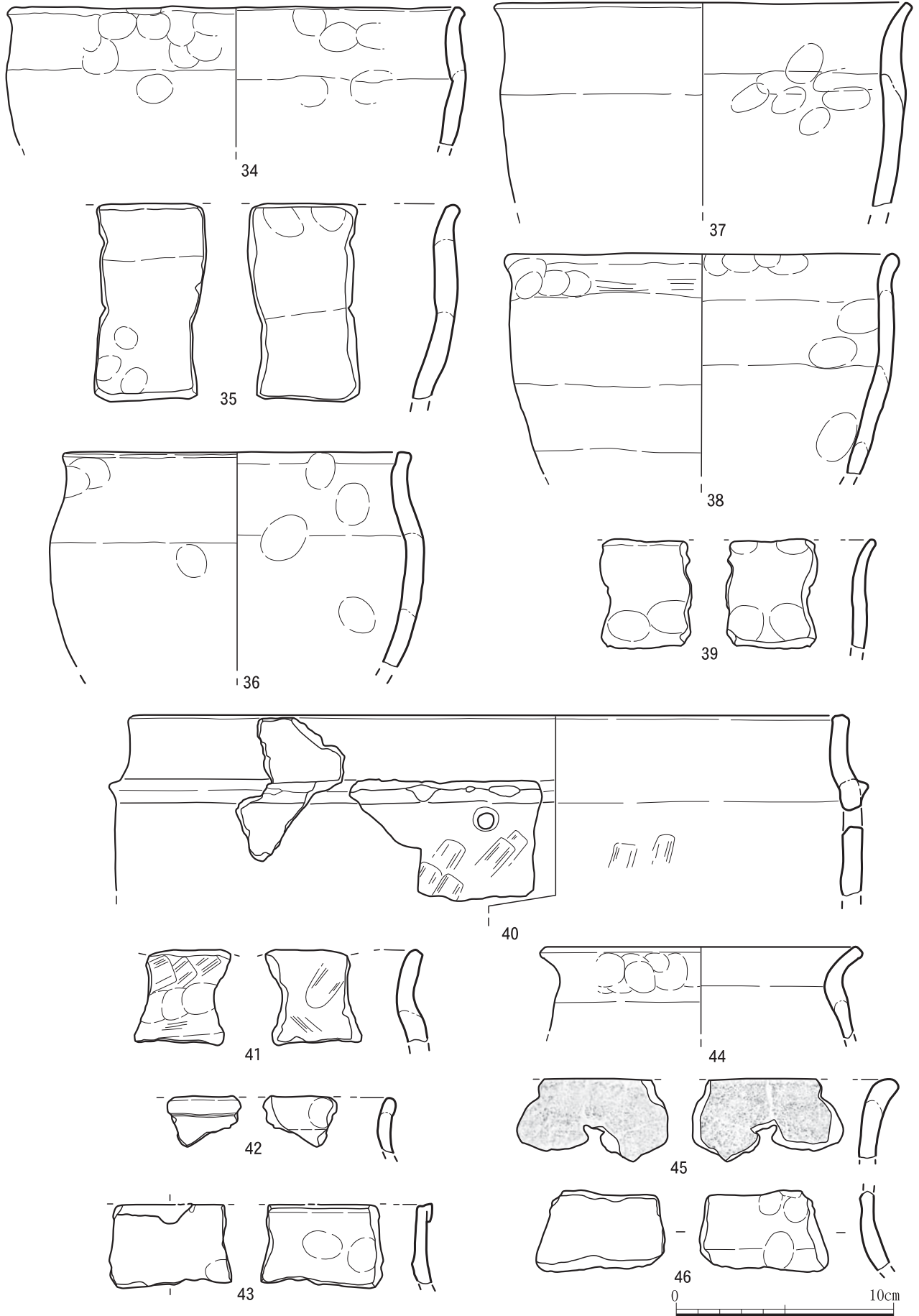
图版28 土器2



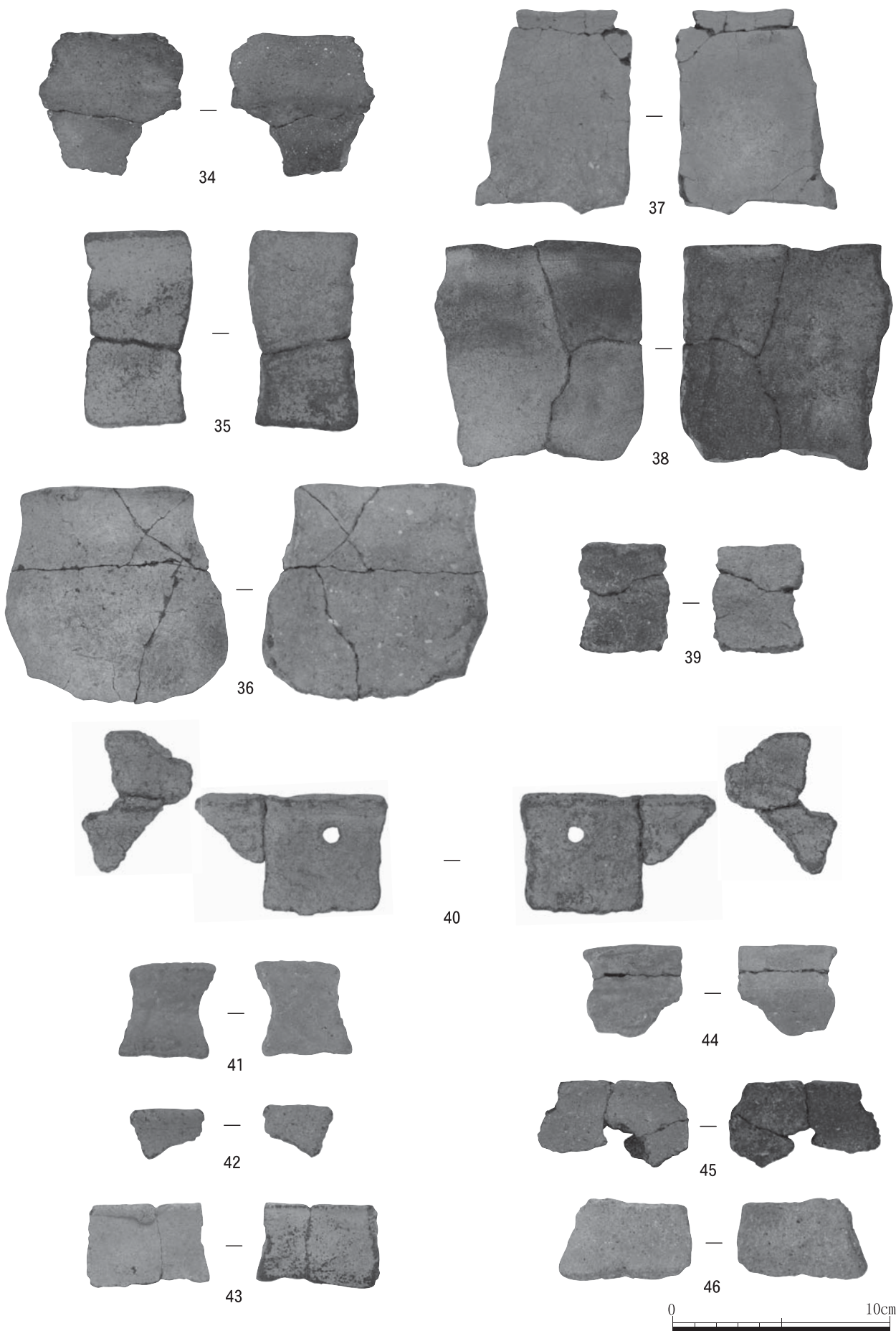
第41図 土器3



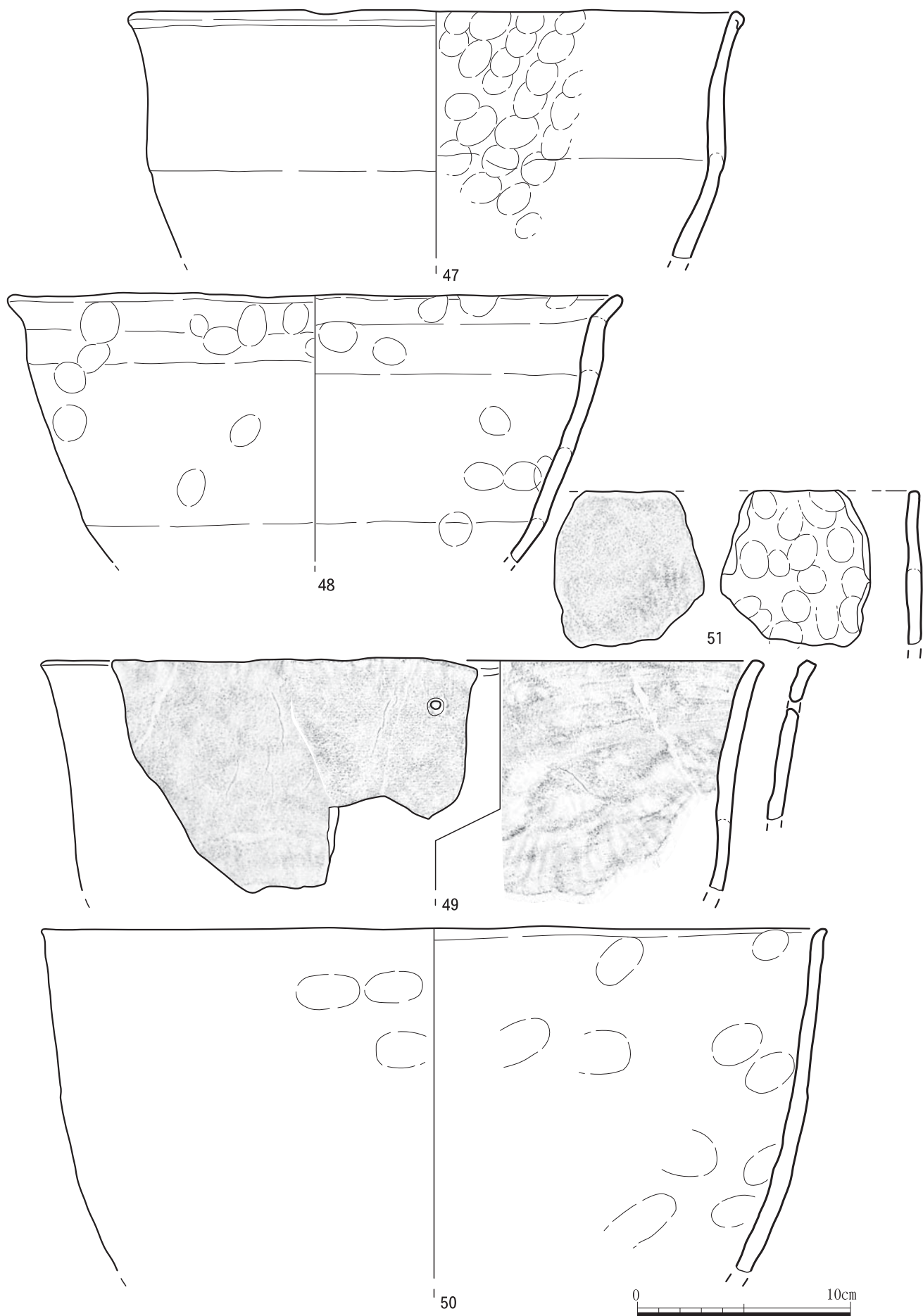
图版29 土器3



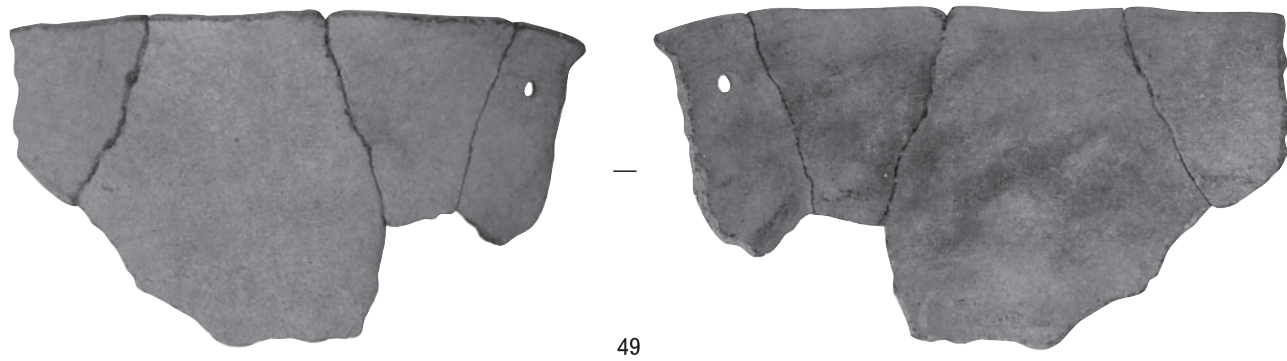
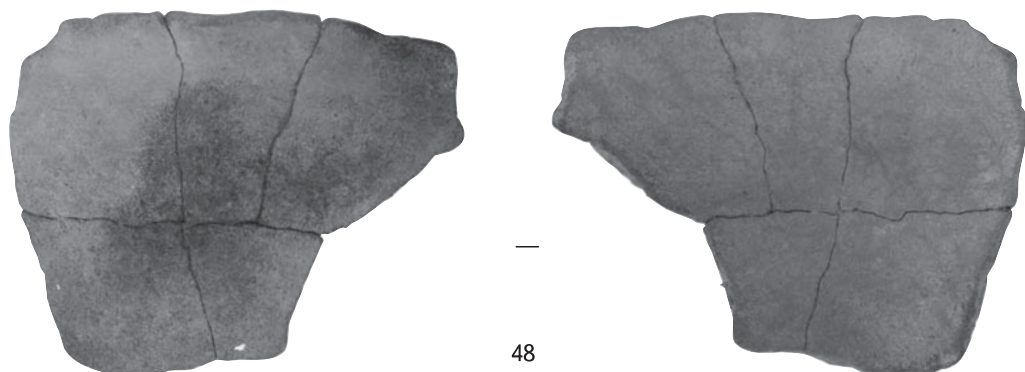
第42図 土器4



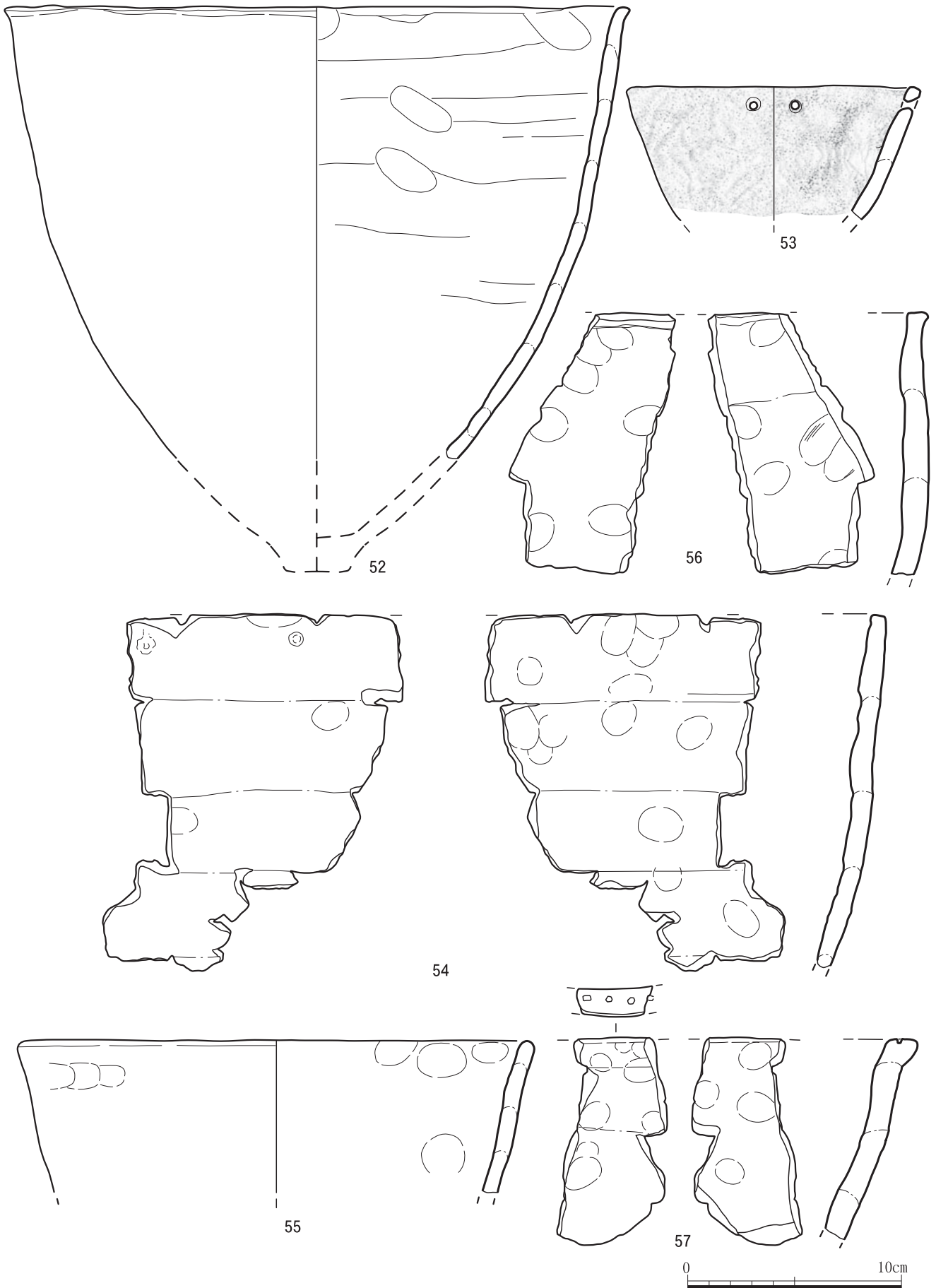
图版30 土器4



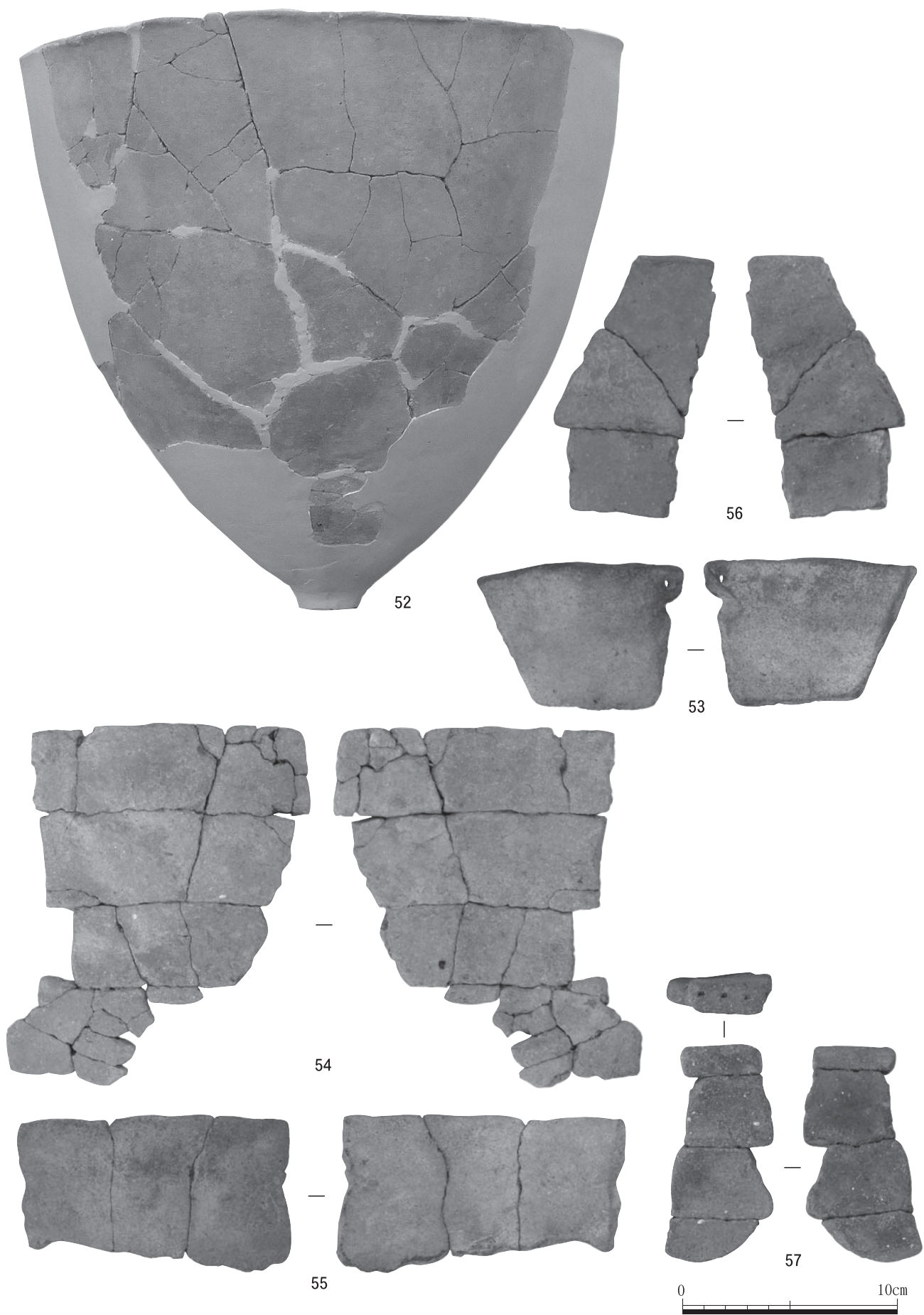
第43図 土器5



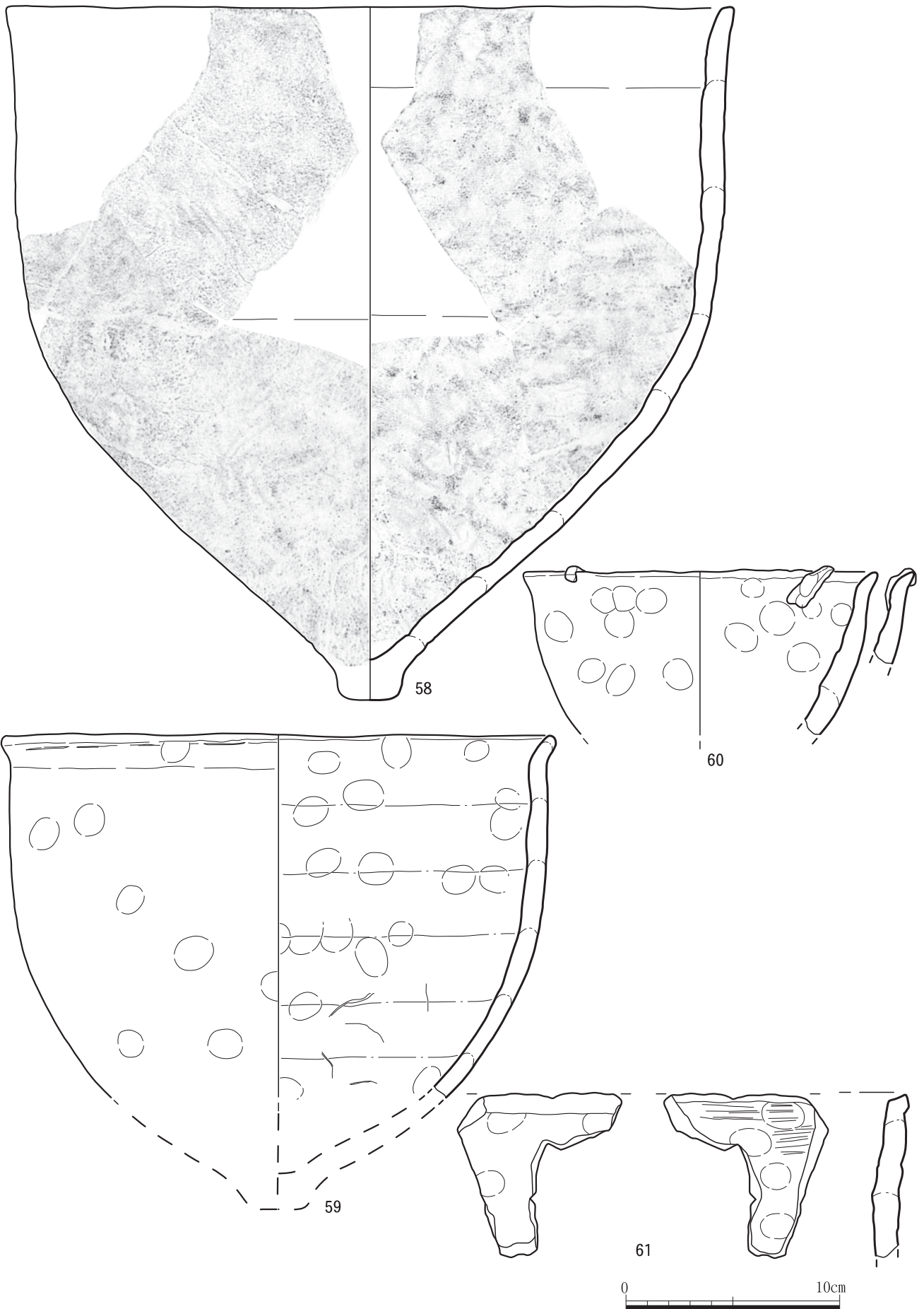
图版31 土器5



第44図 土器6



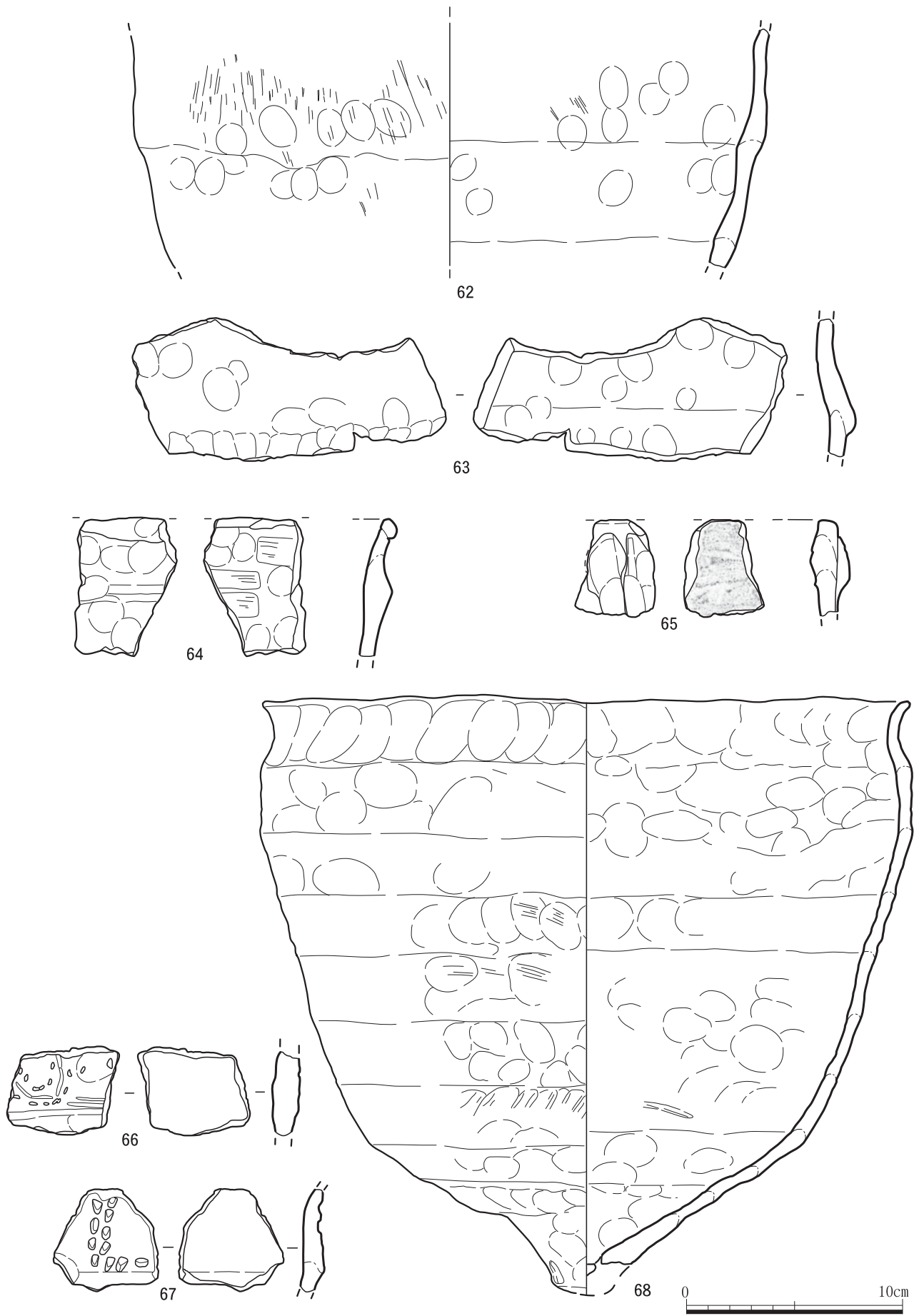
图版32 土器6



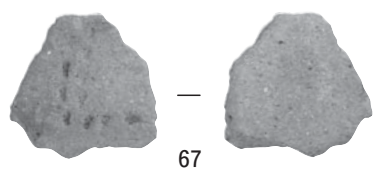
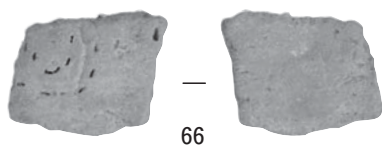
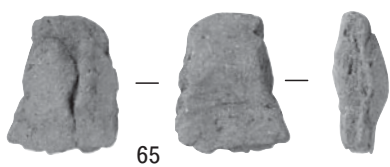
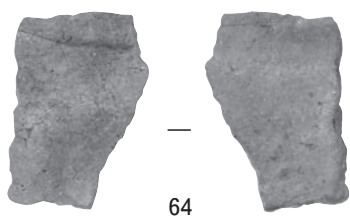
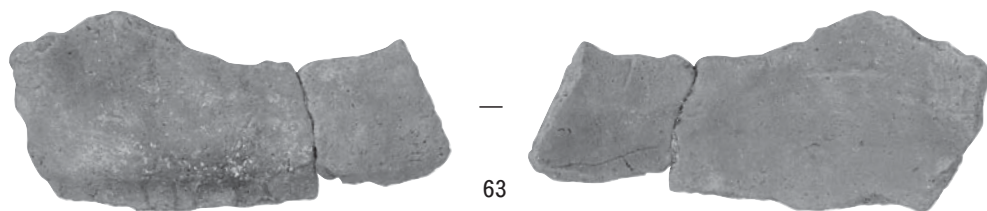
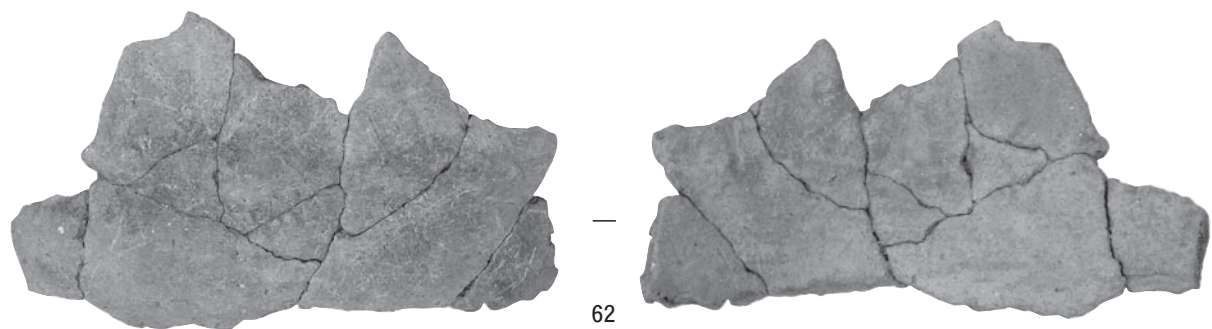
第45図 土器7



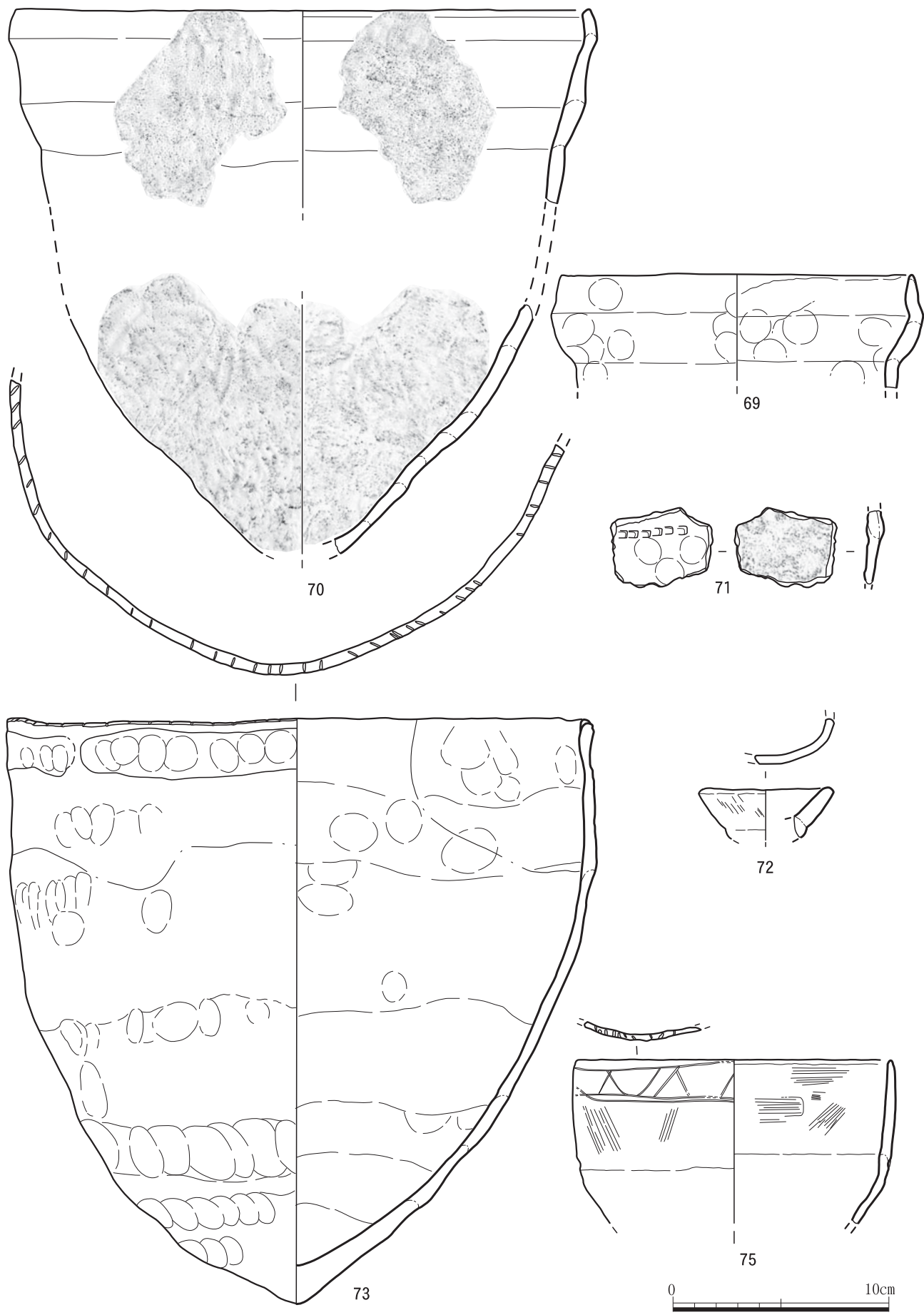
图版33 土器7



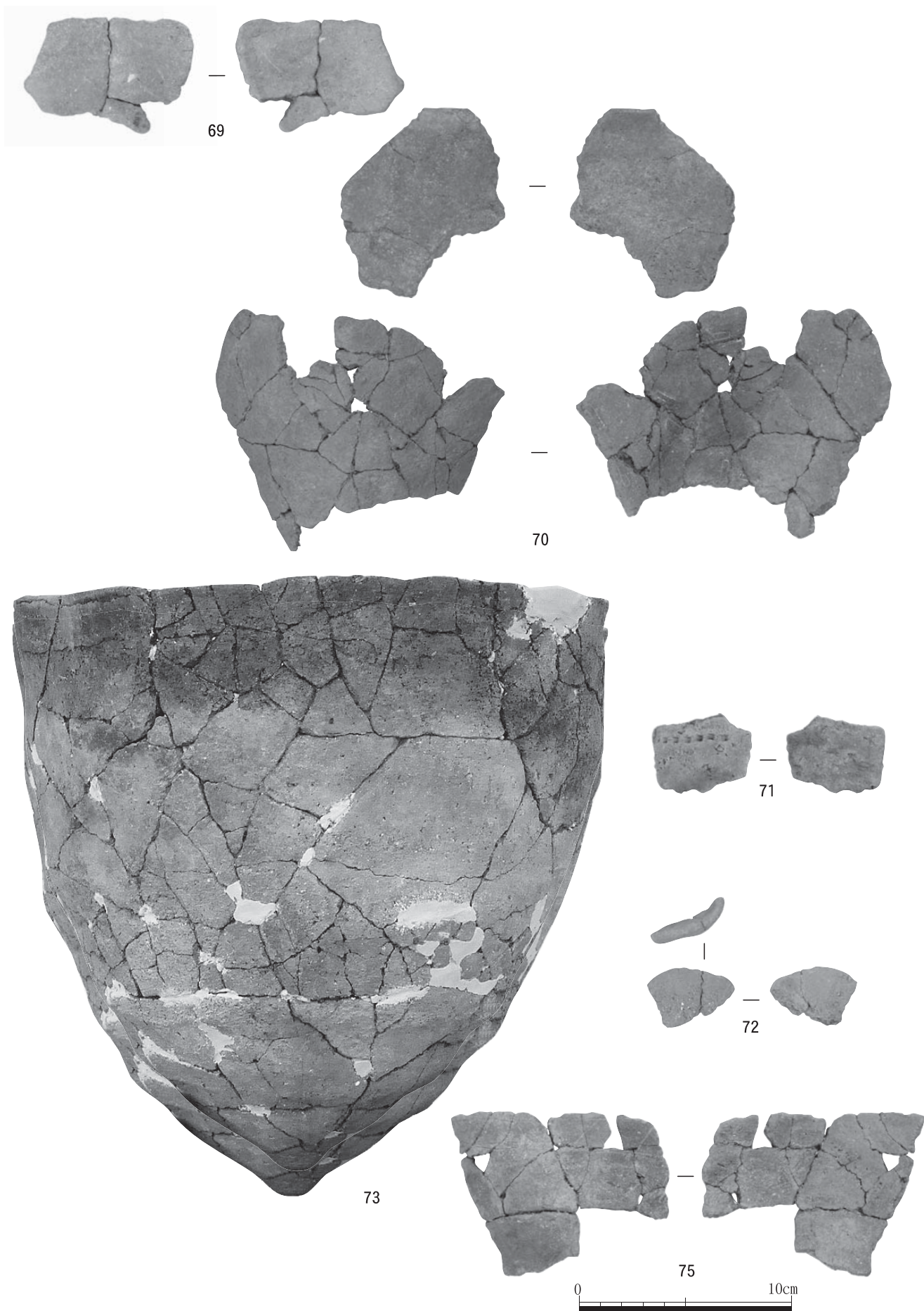
第46図 土器 8



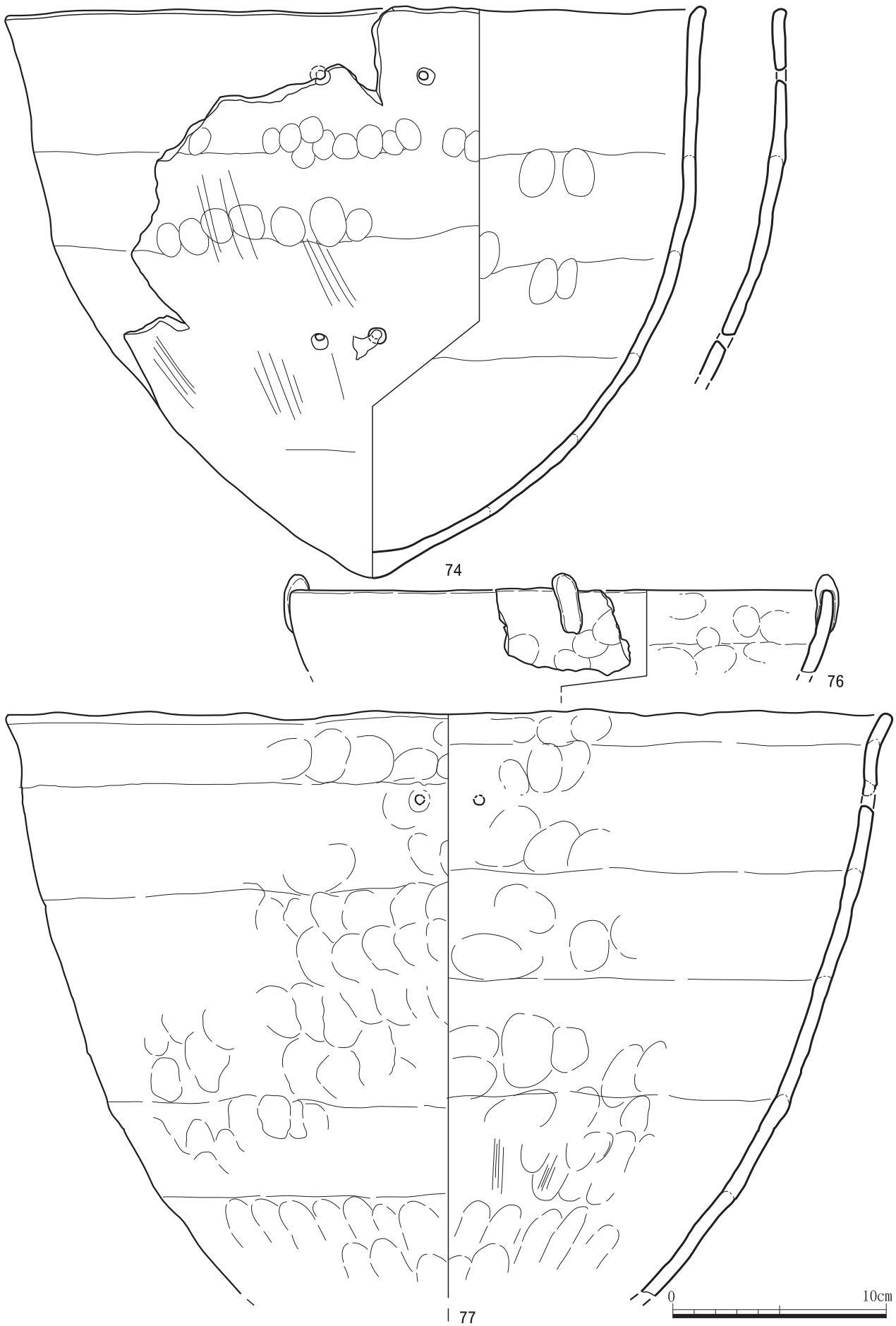
图版34 土器 8



第47図 土器9



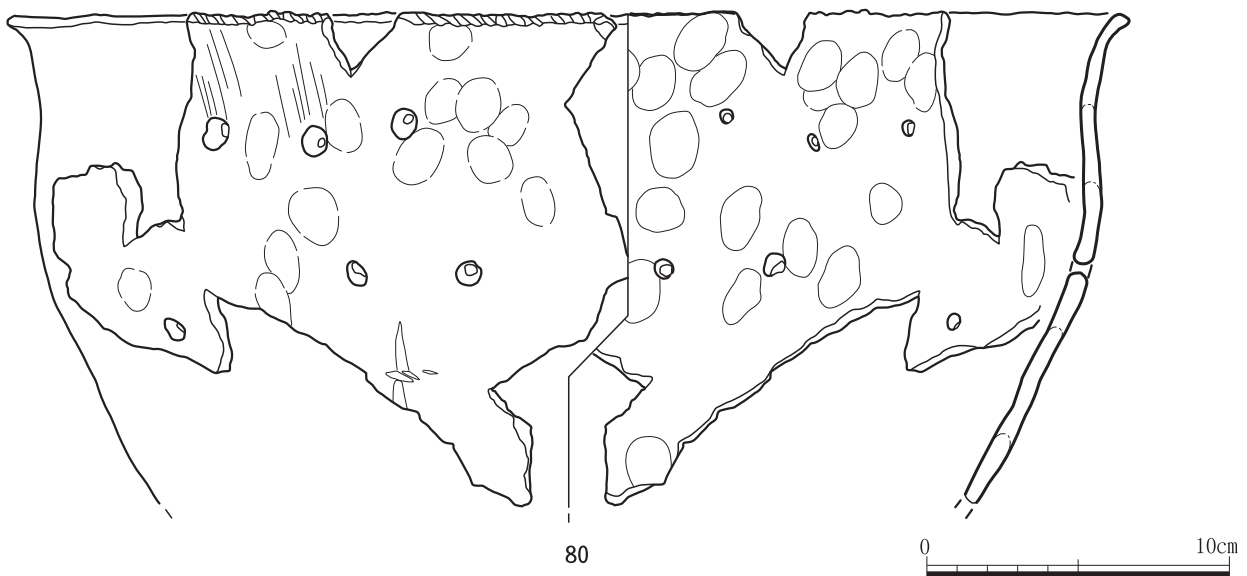
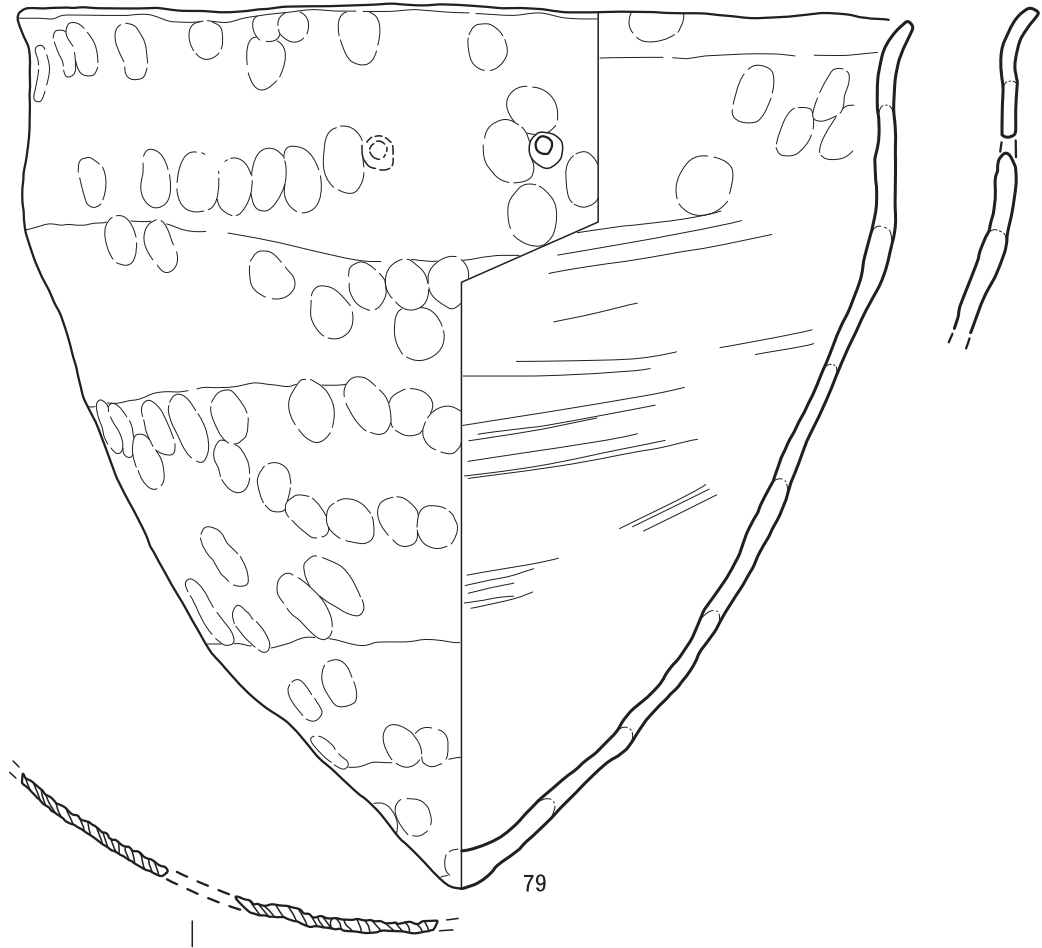
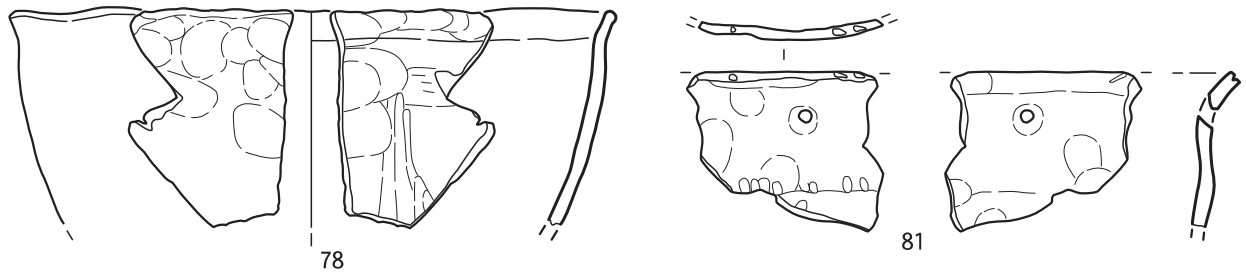
图版35 土器9



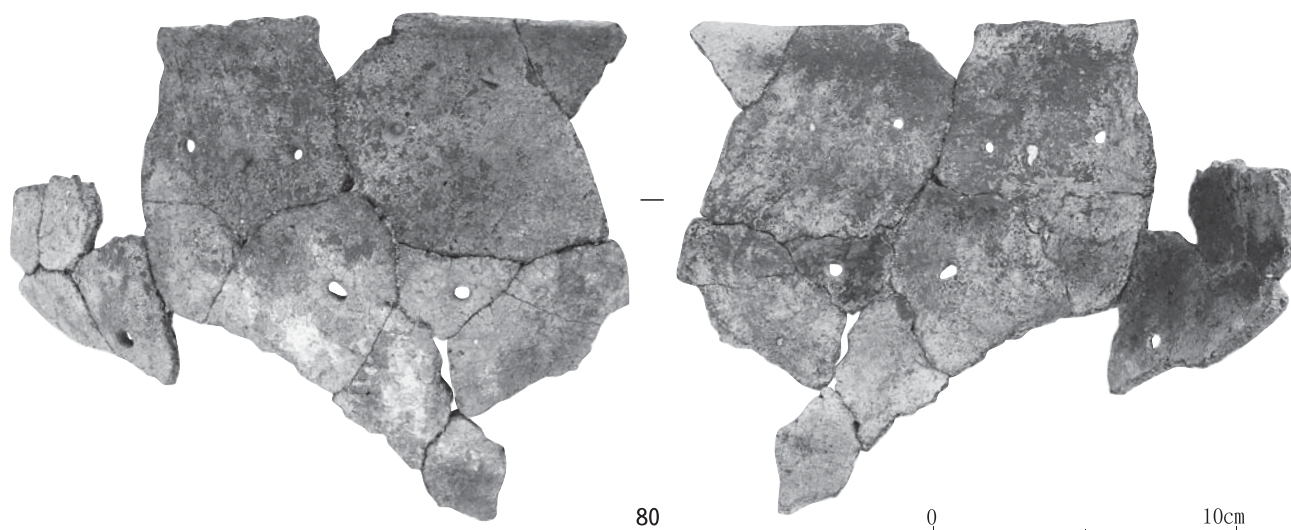
第48図 土器10



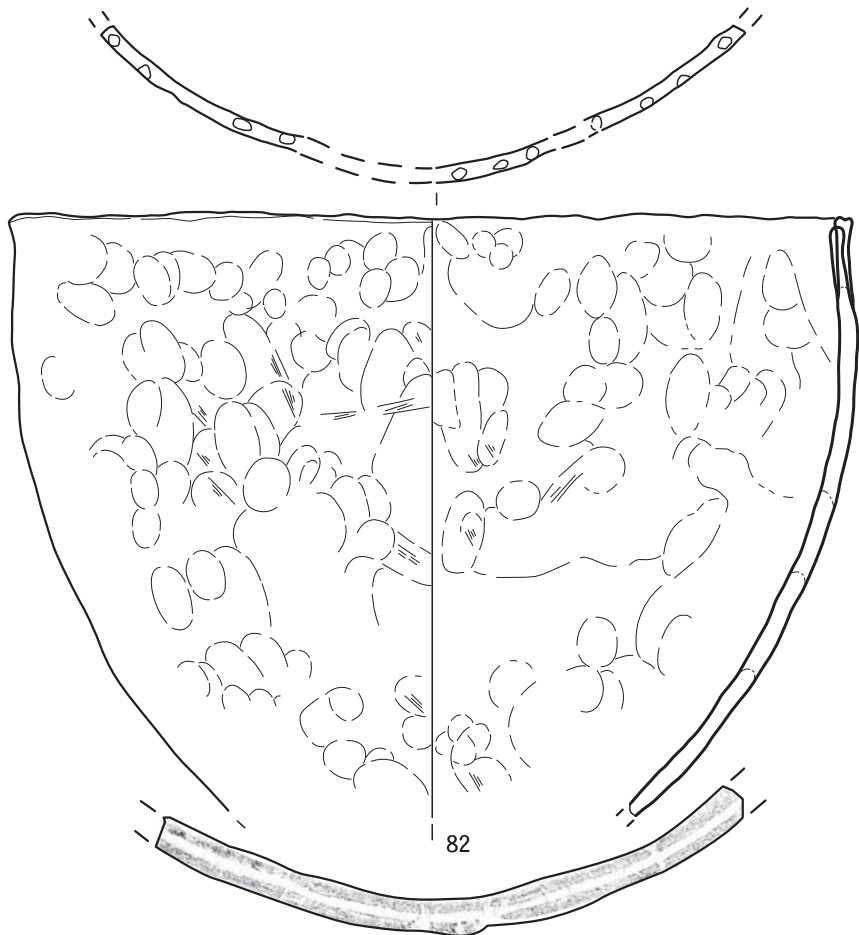
图版36 土器10



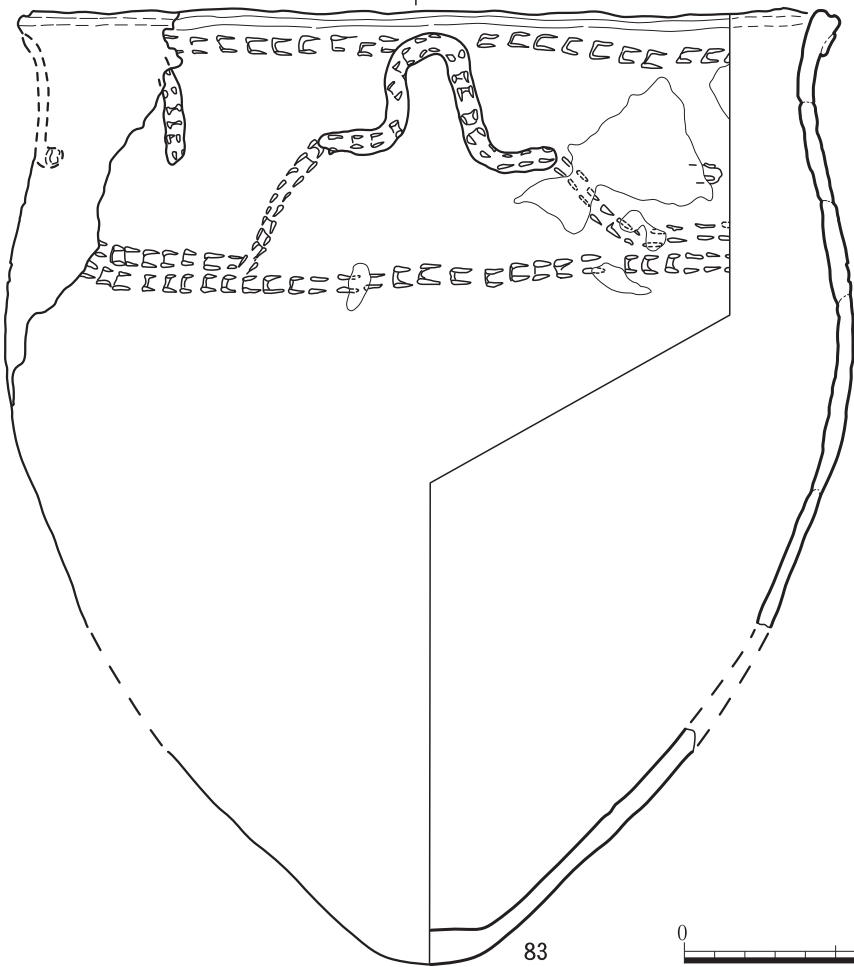
第49図 土器11



图版37 土器11



82



83



第50図 土器12



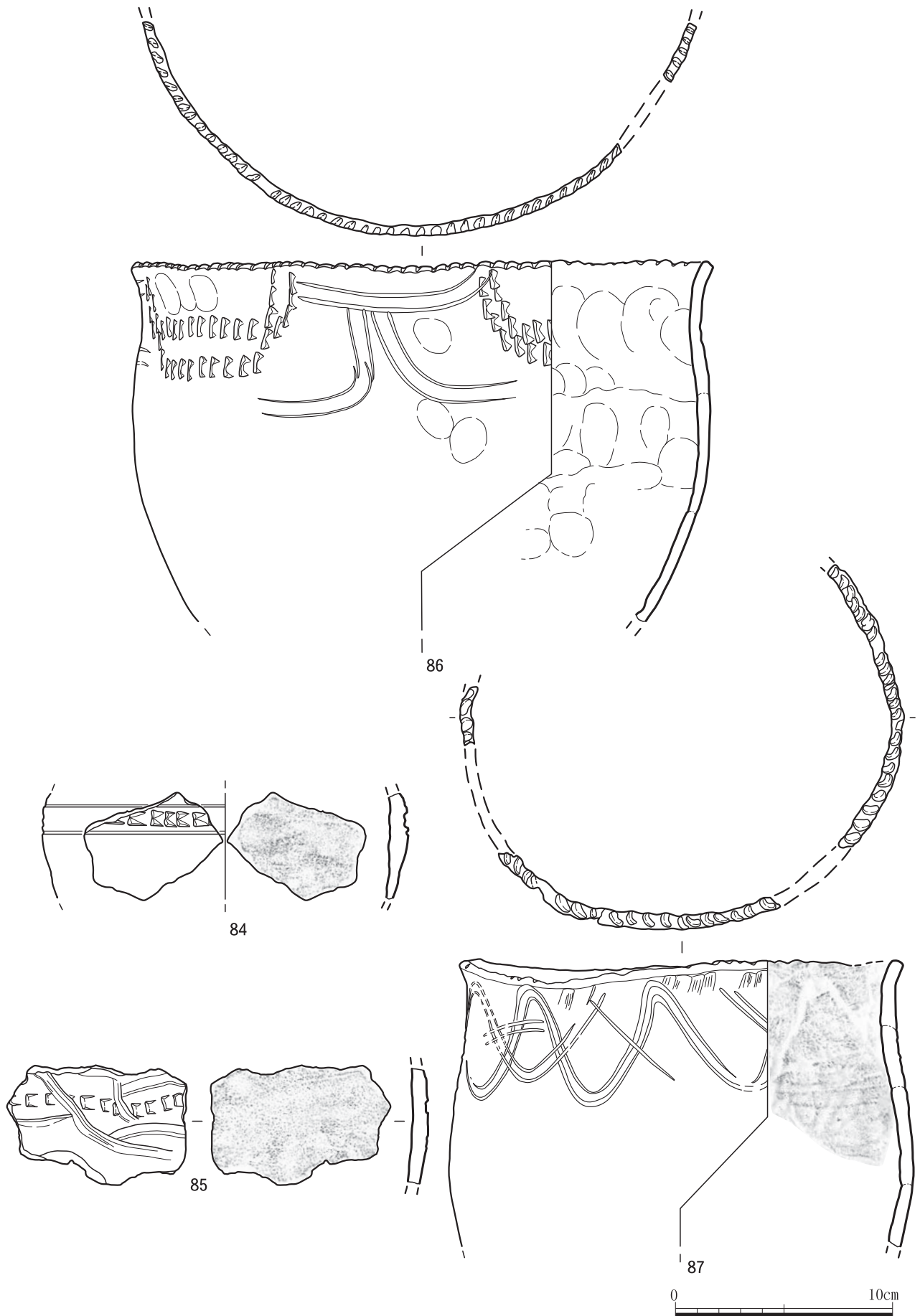
82



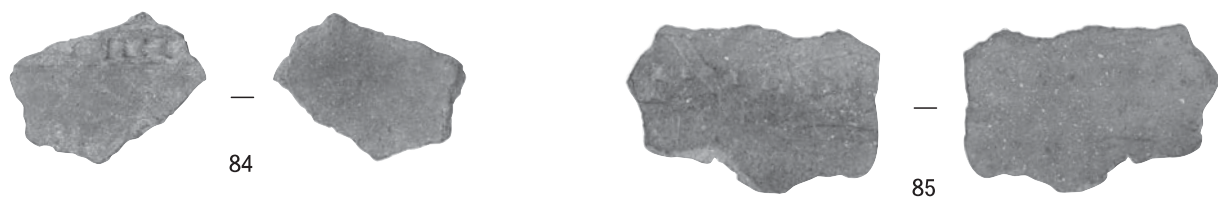
83

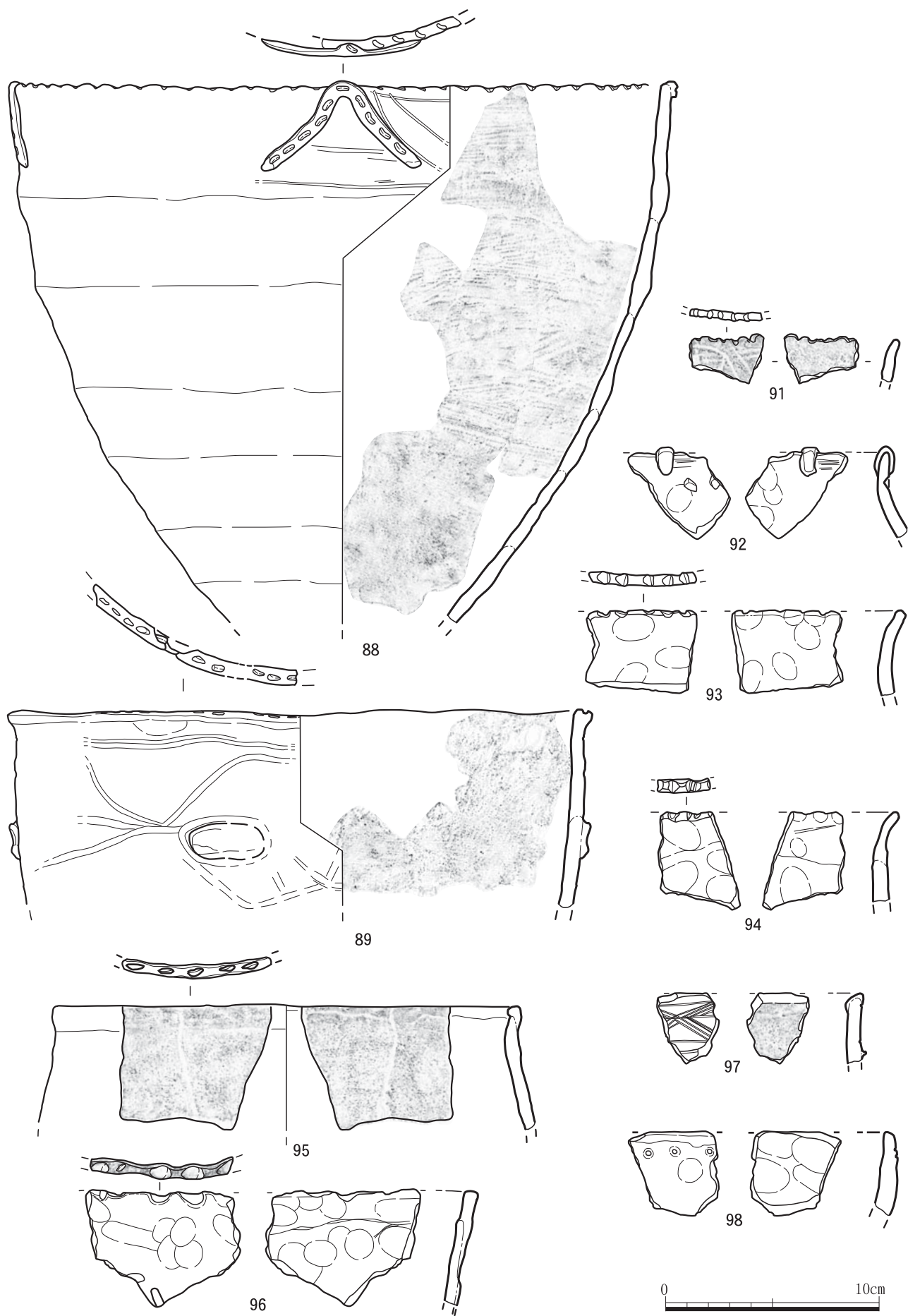


图版38 土器12

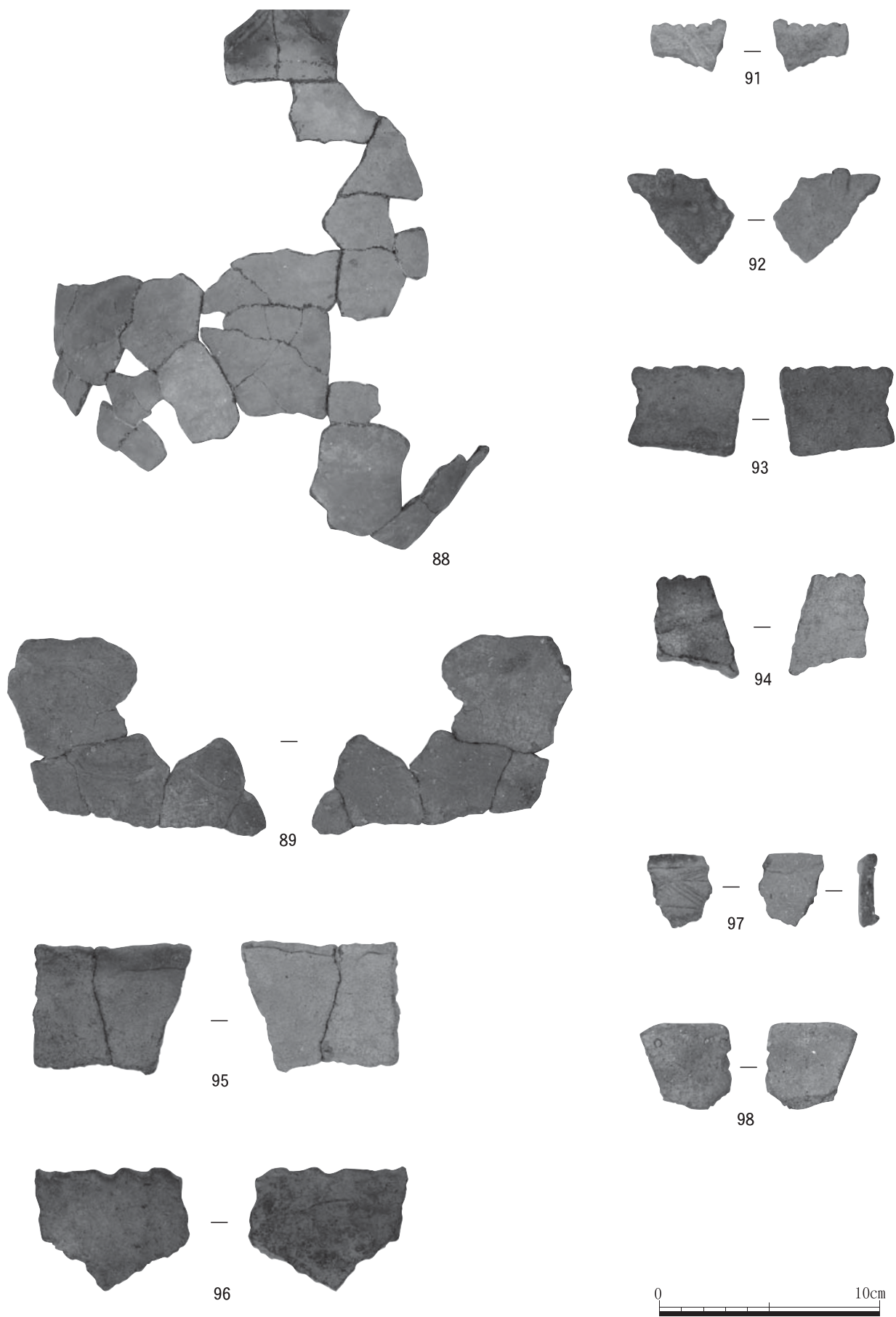


第51図 土器13

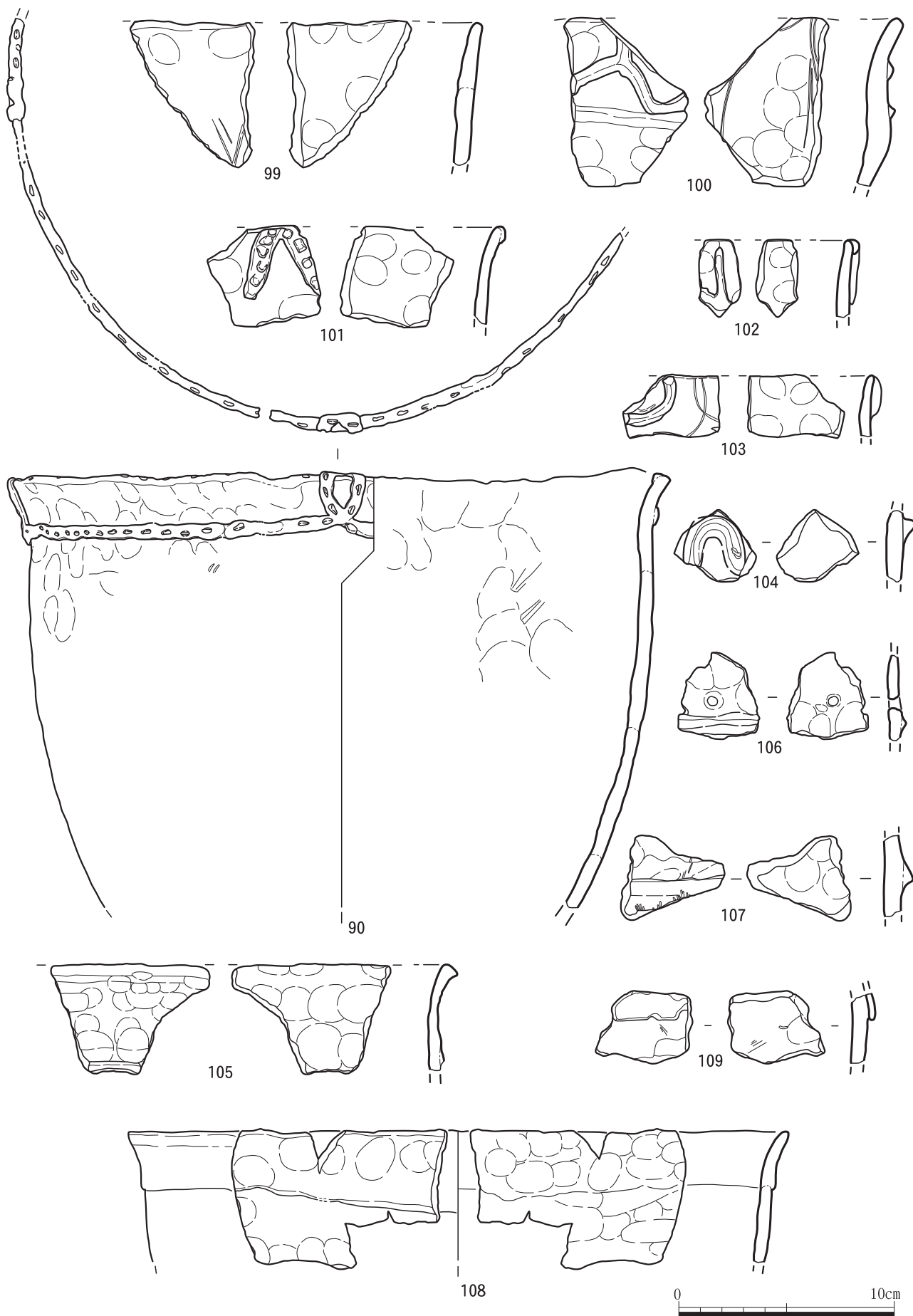




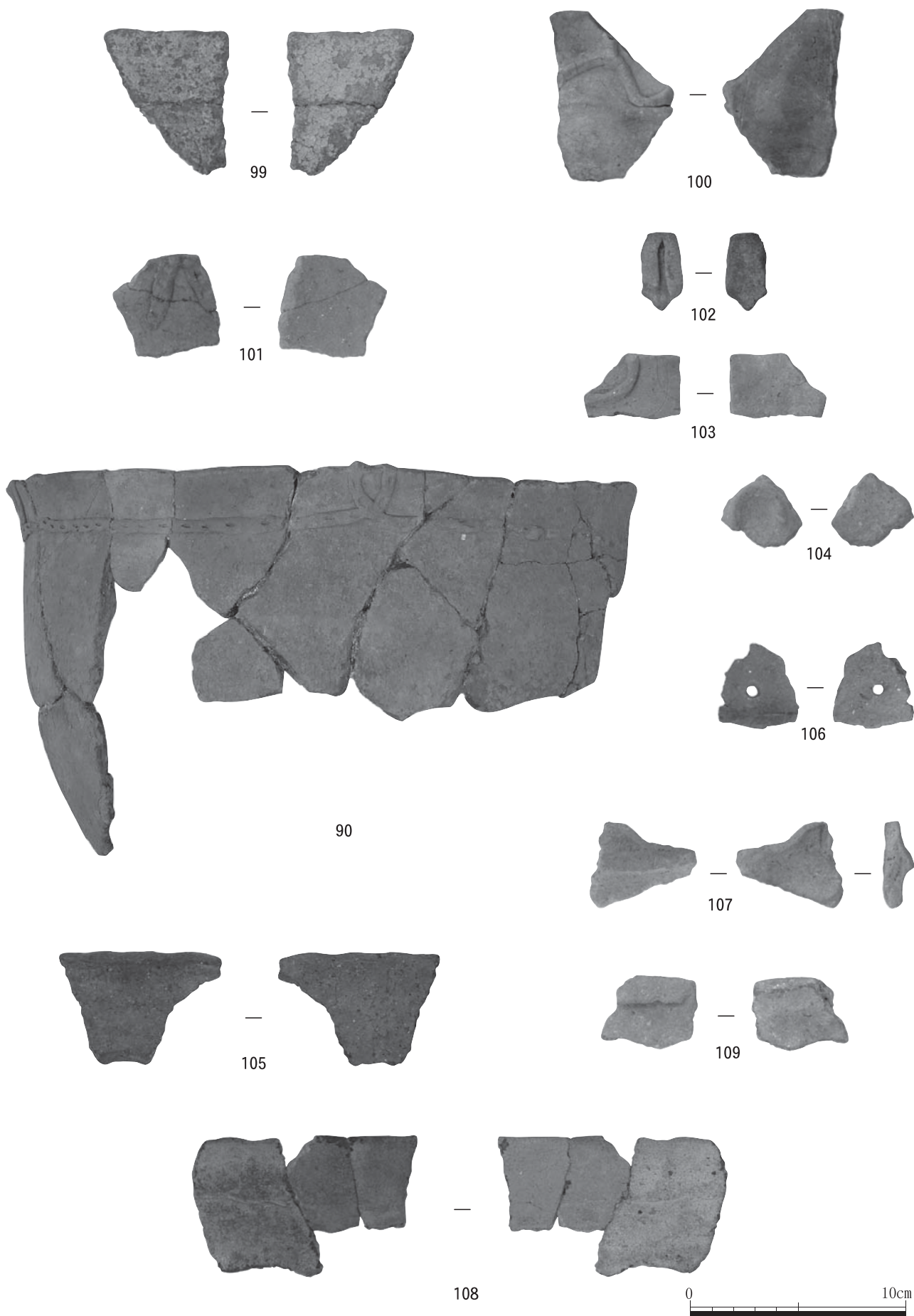
第52図 土器14



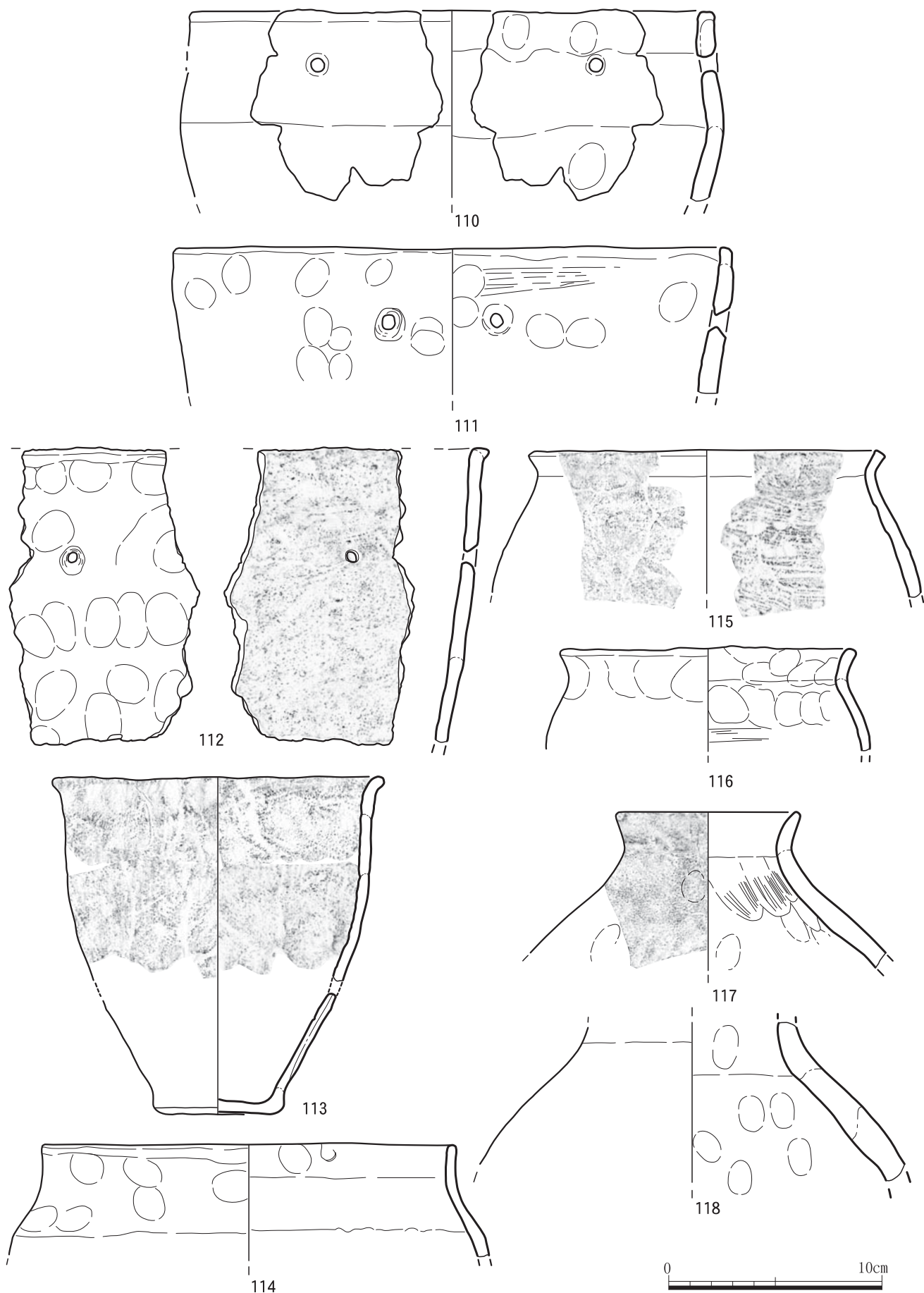
图版40 土器14



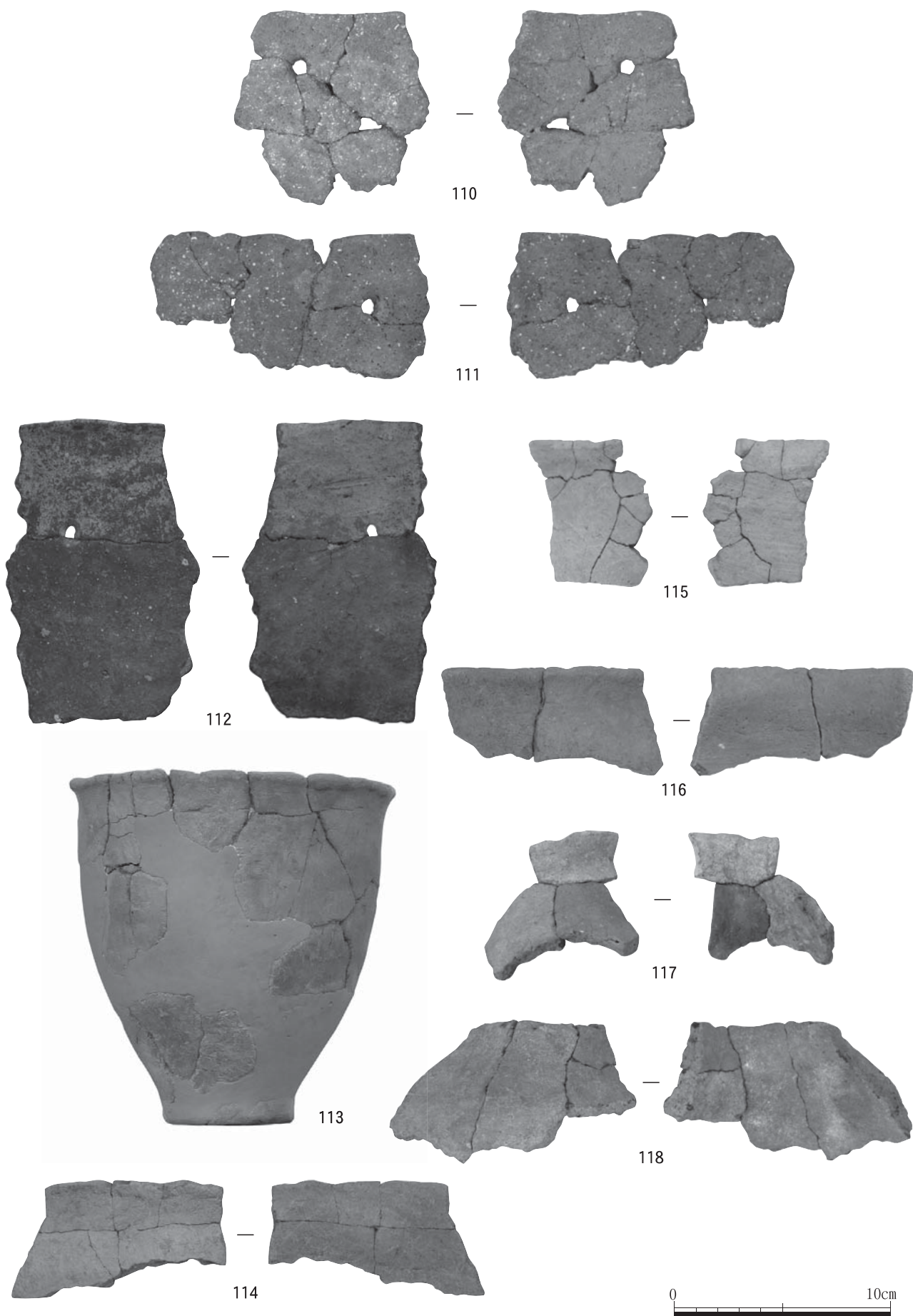
第53图 土器15



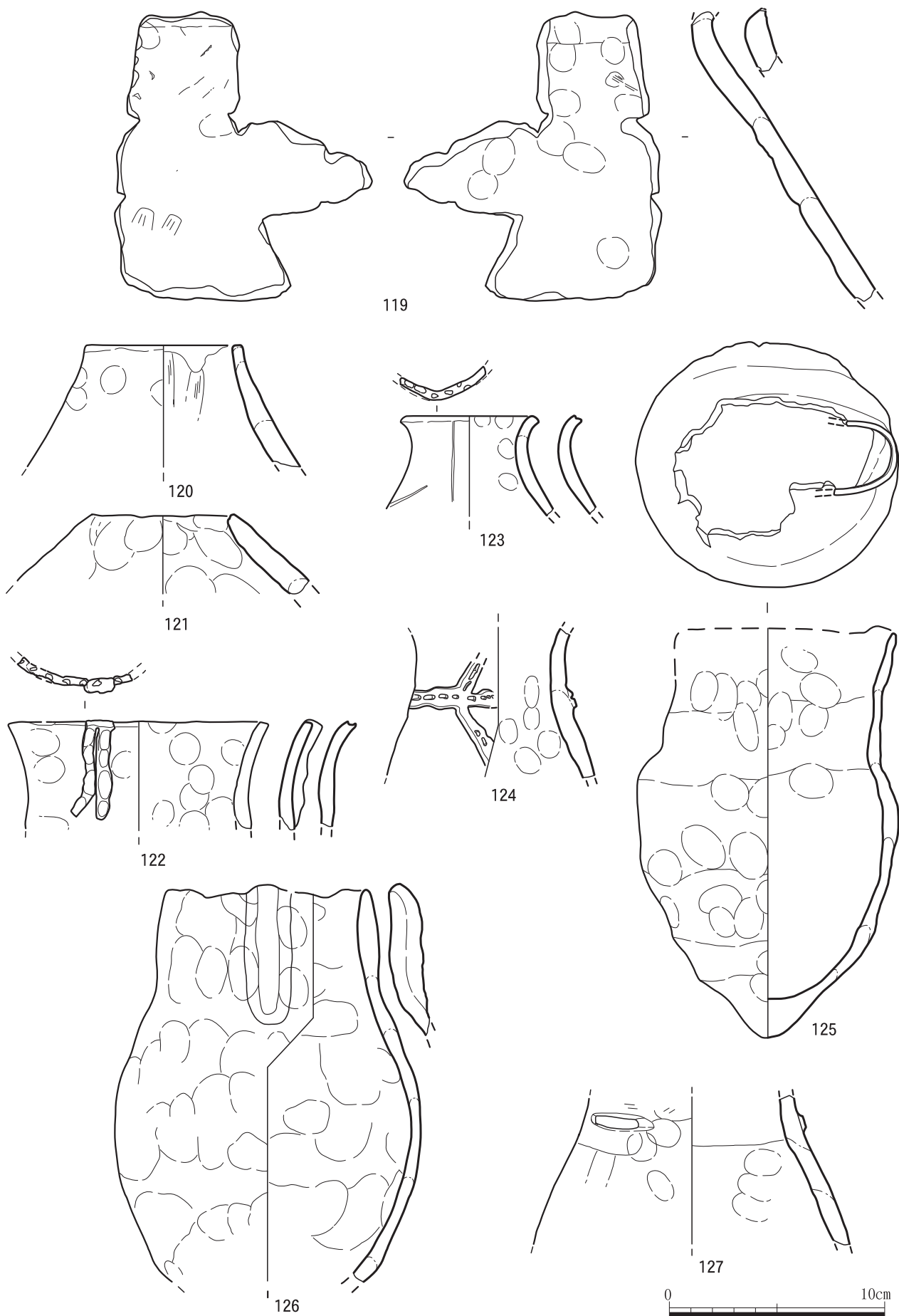
图版41 土器15



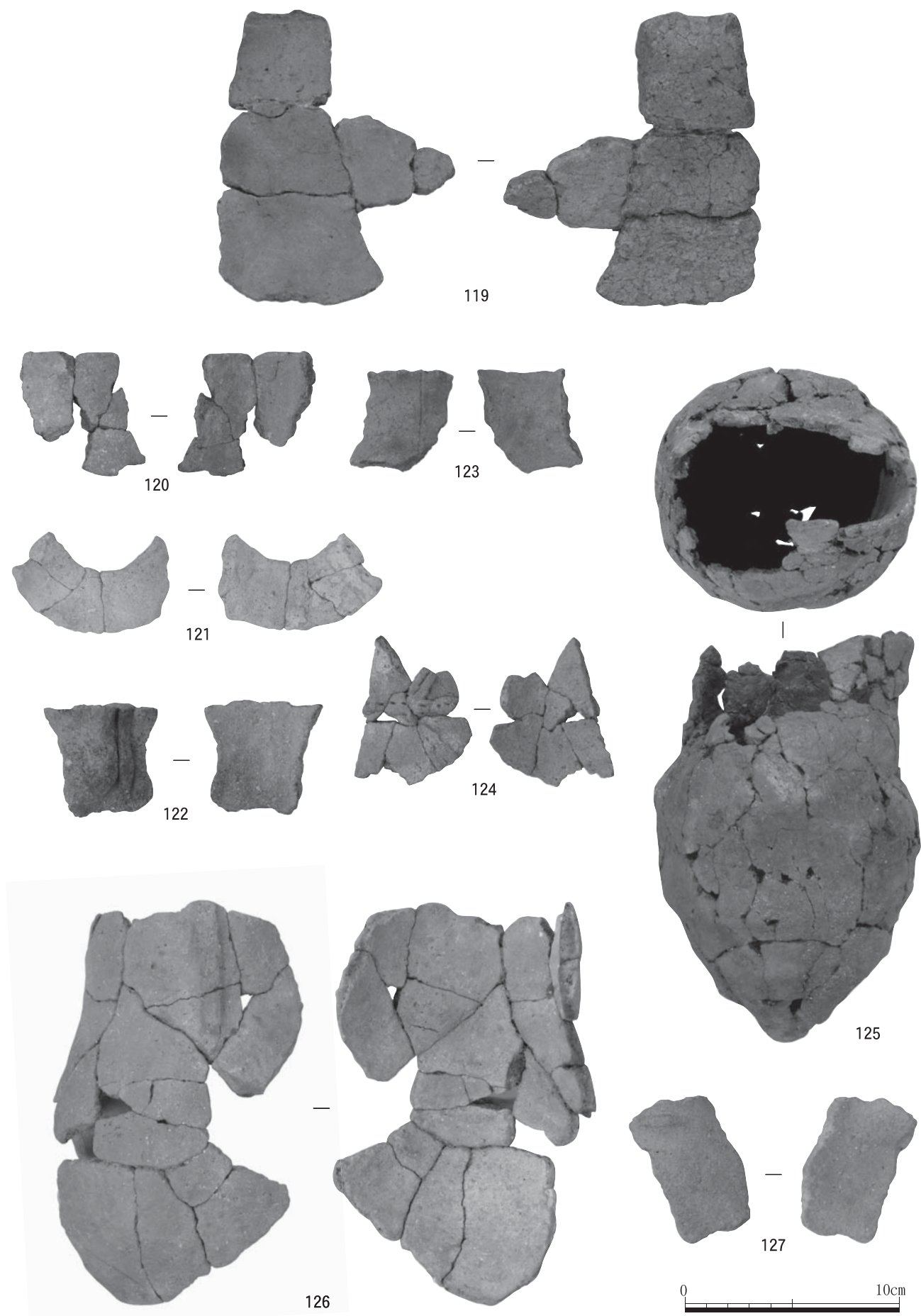
第54図 土器16



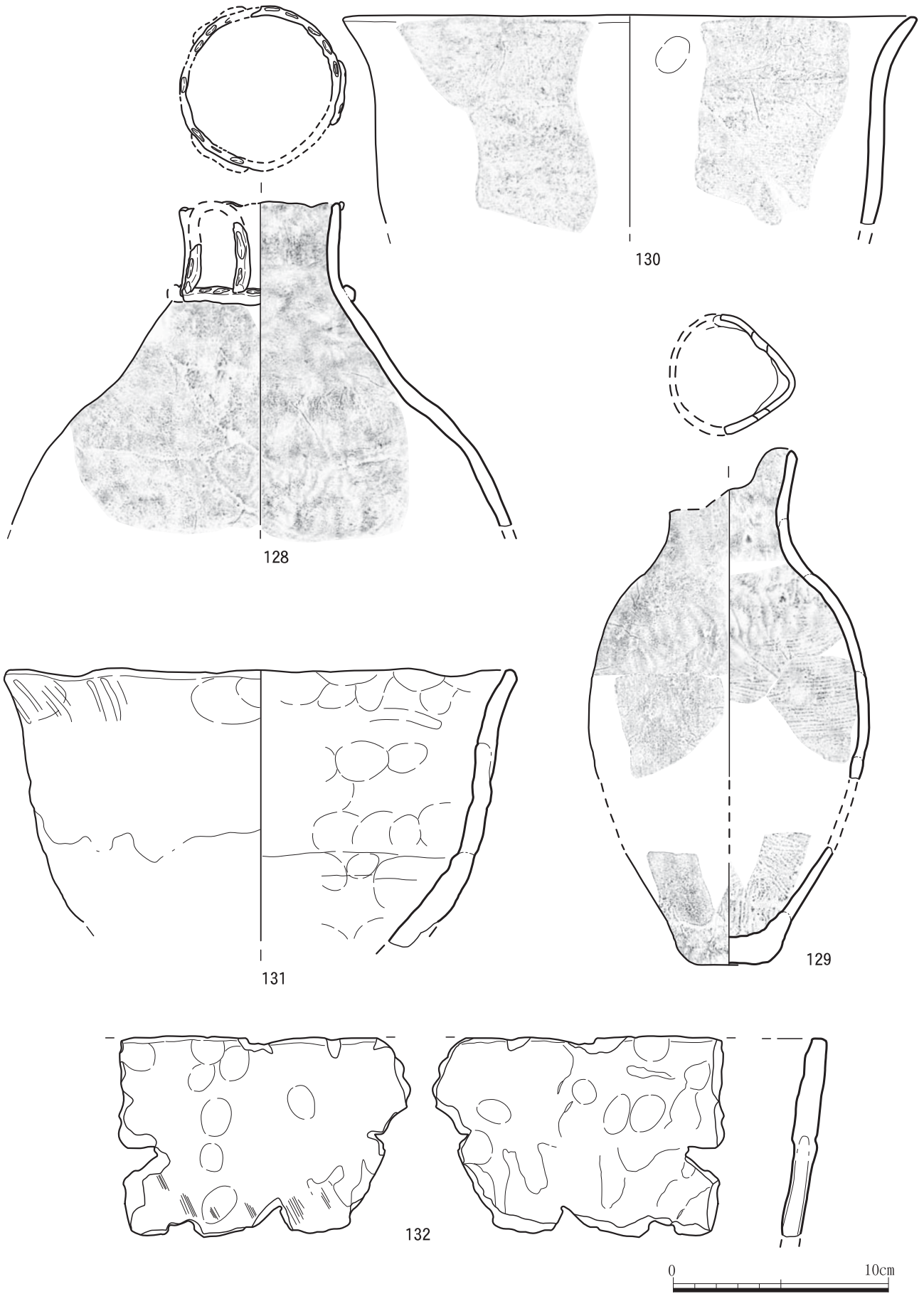
图版42 土器16



第55圖 土器17



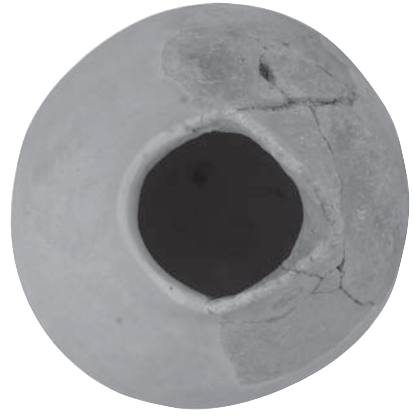
图版43 土器17



第56図 土器18



128



1



131



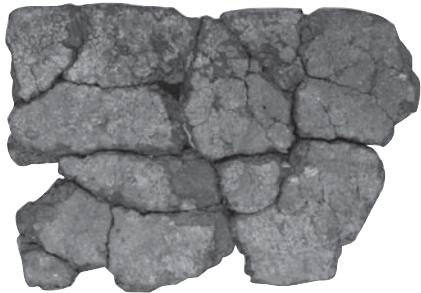
129



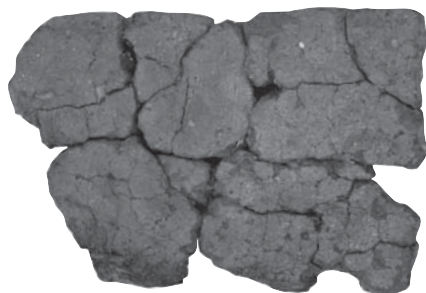
—



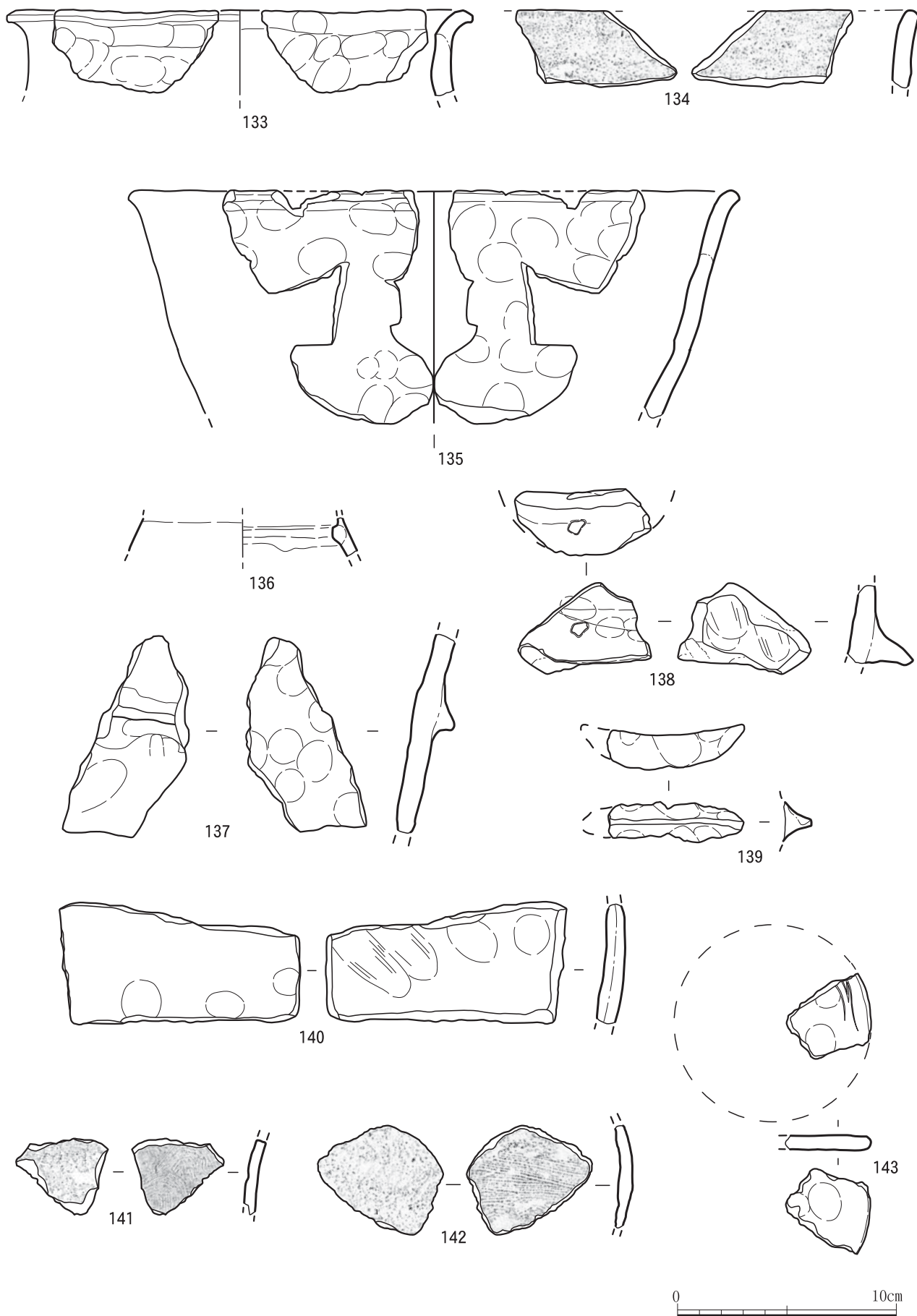
130



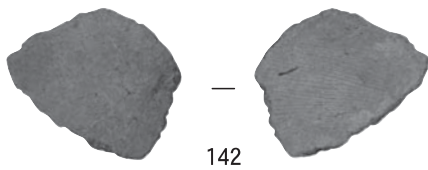
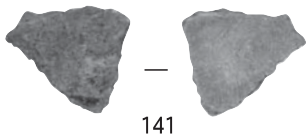
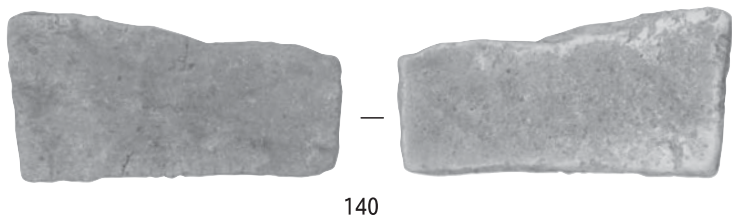
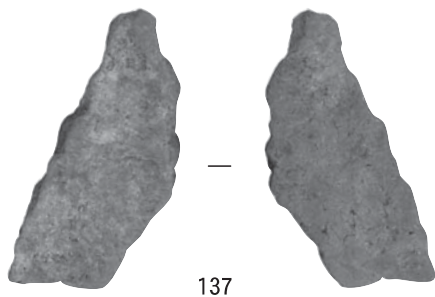
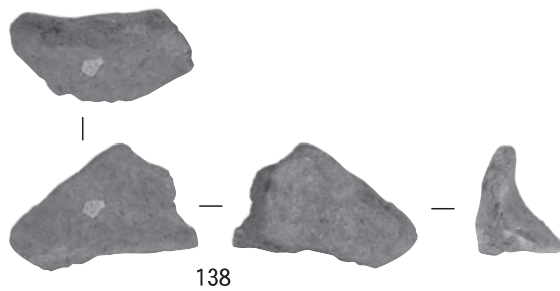
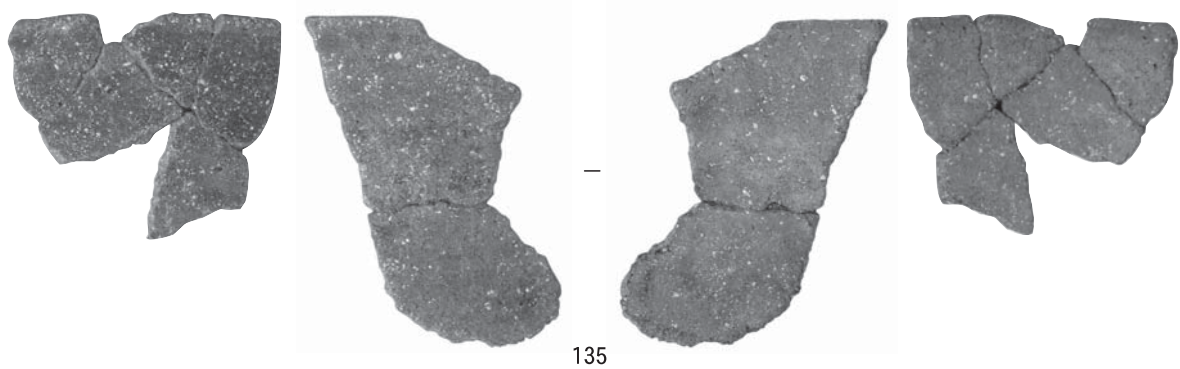
132



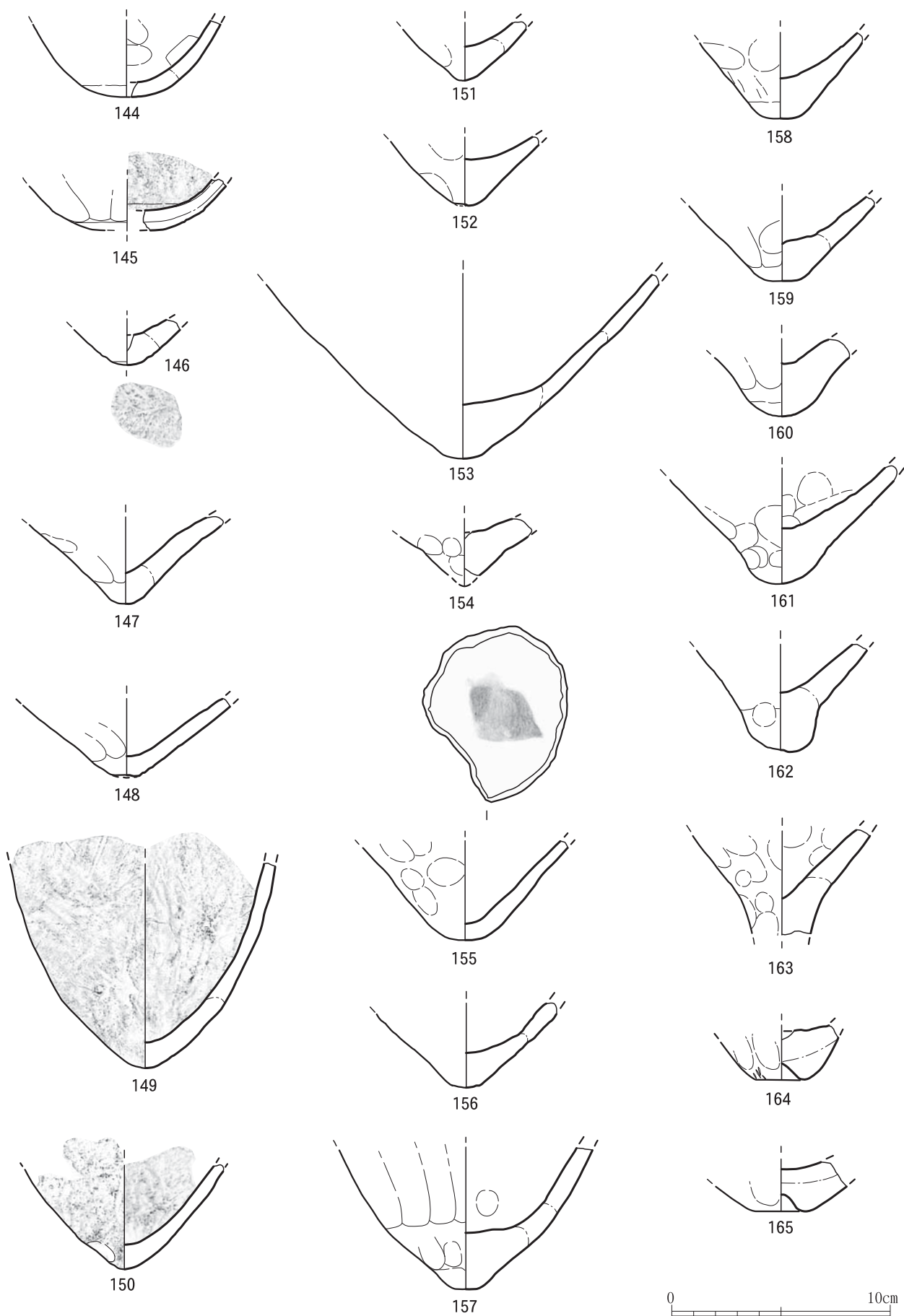
图版44 土器18



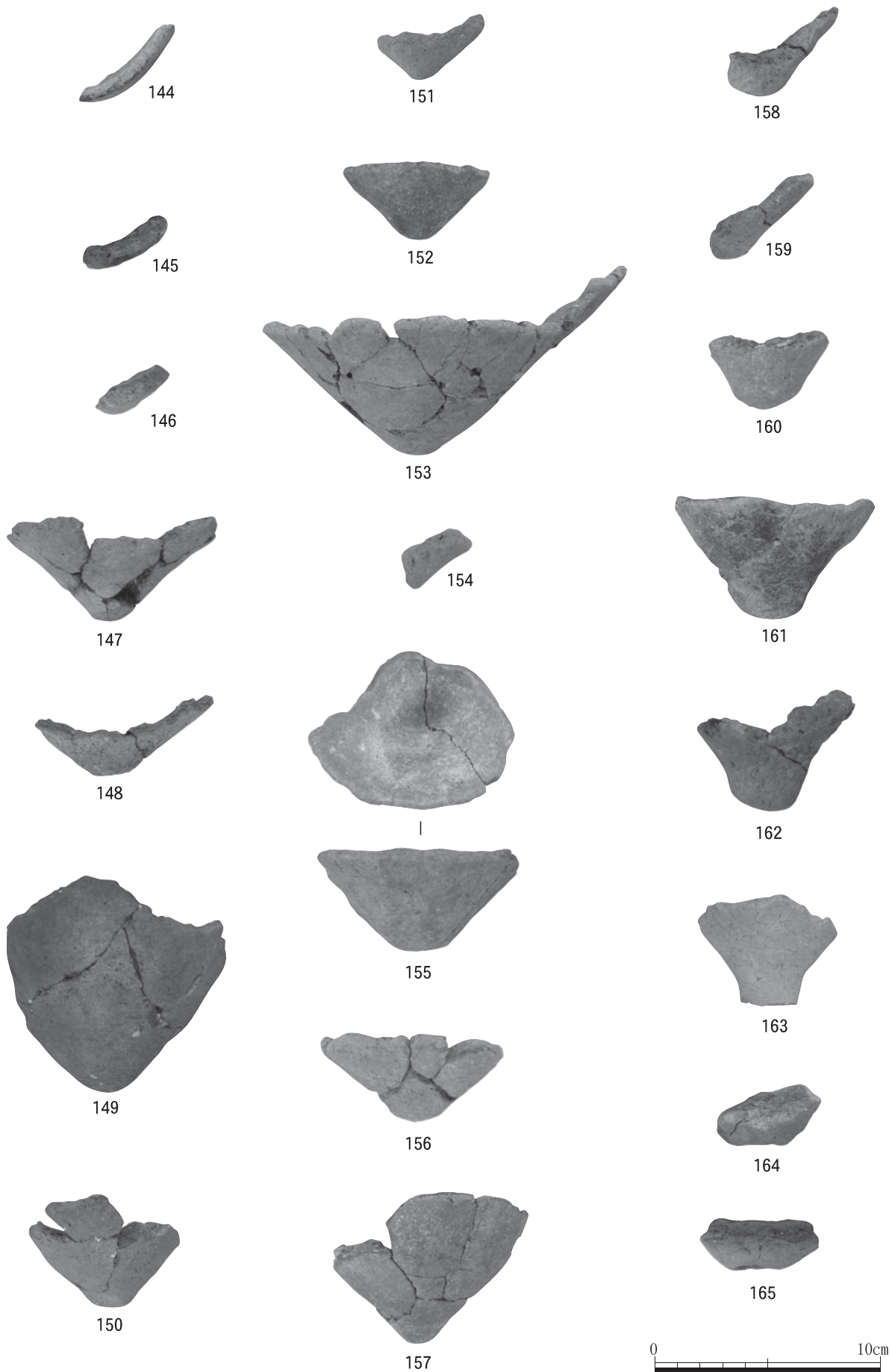
第57図 土器19



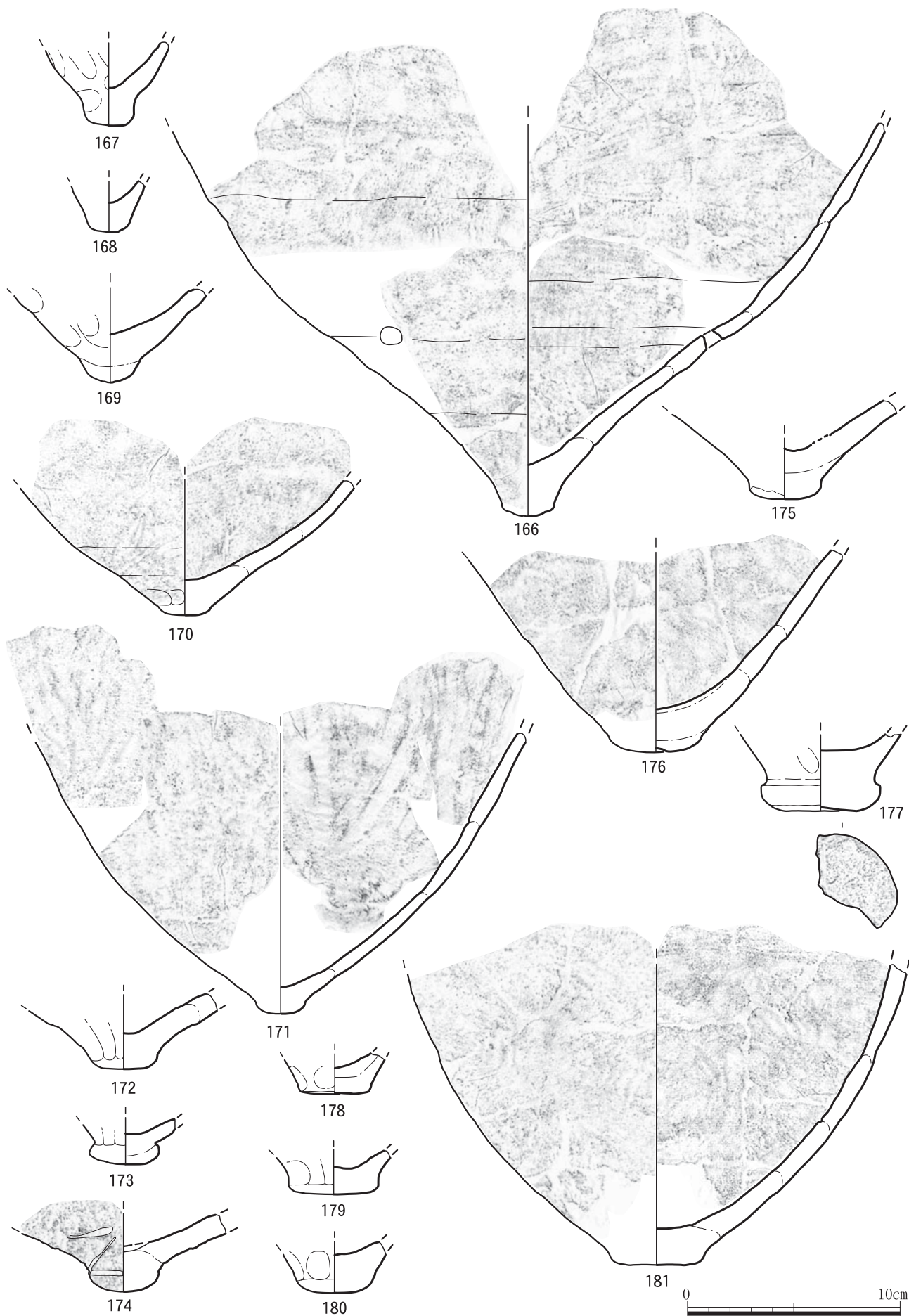
图版45 土器19



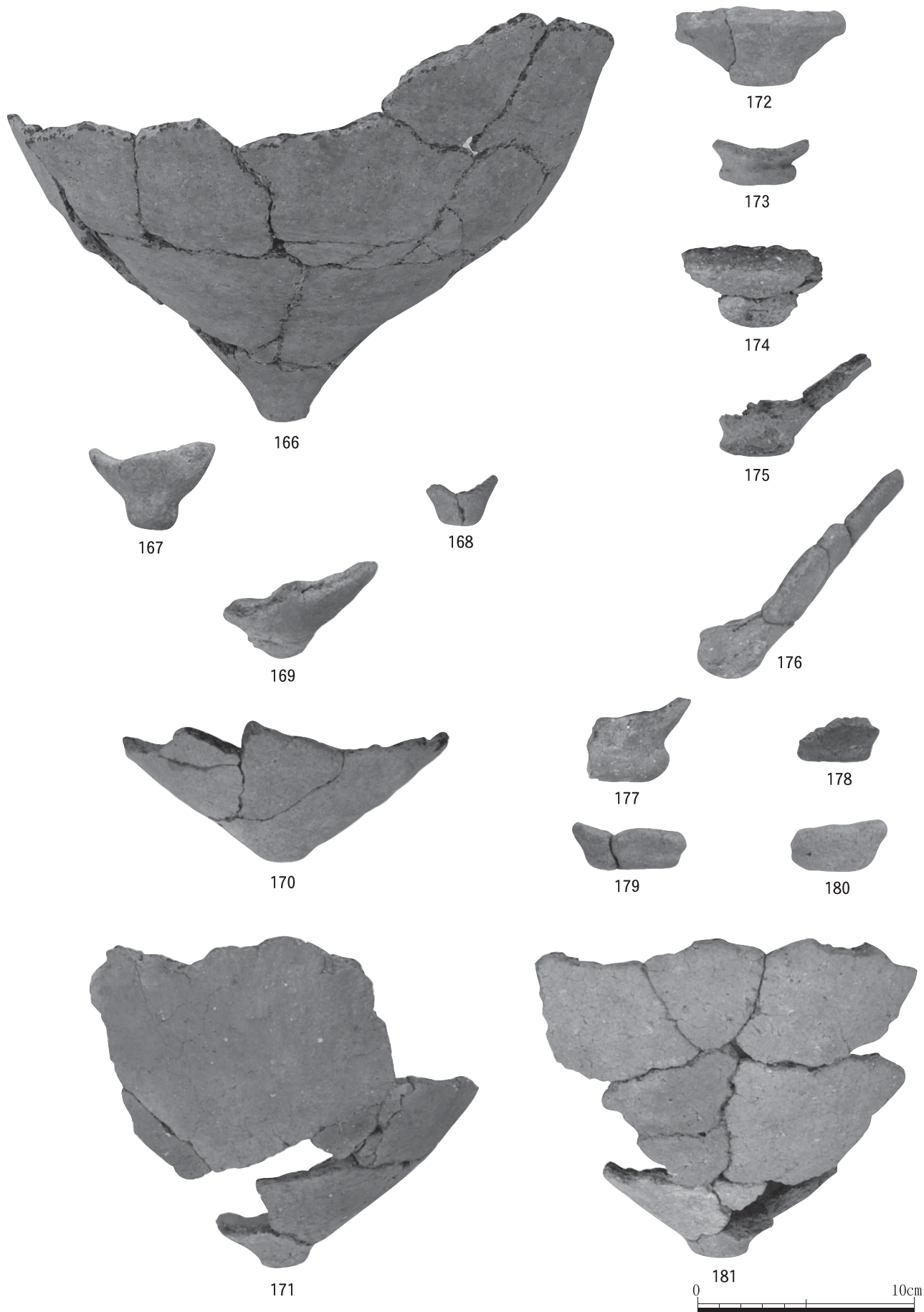
第58図 土器20 (底部)



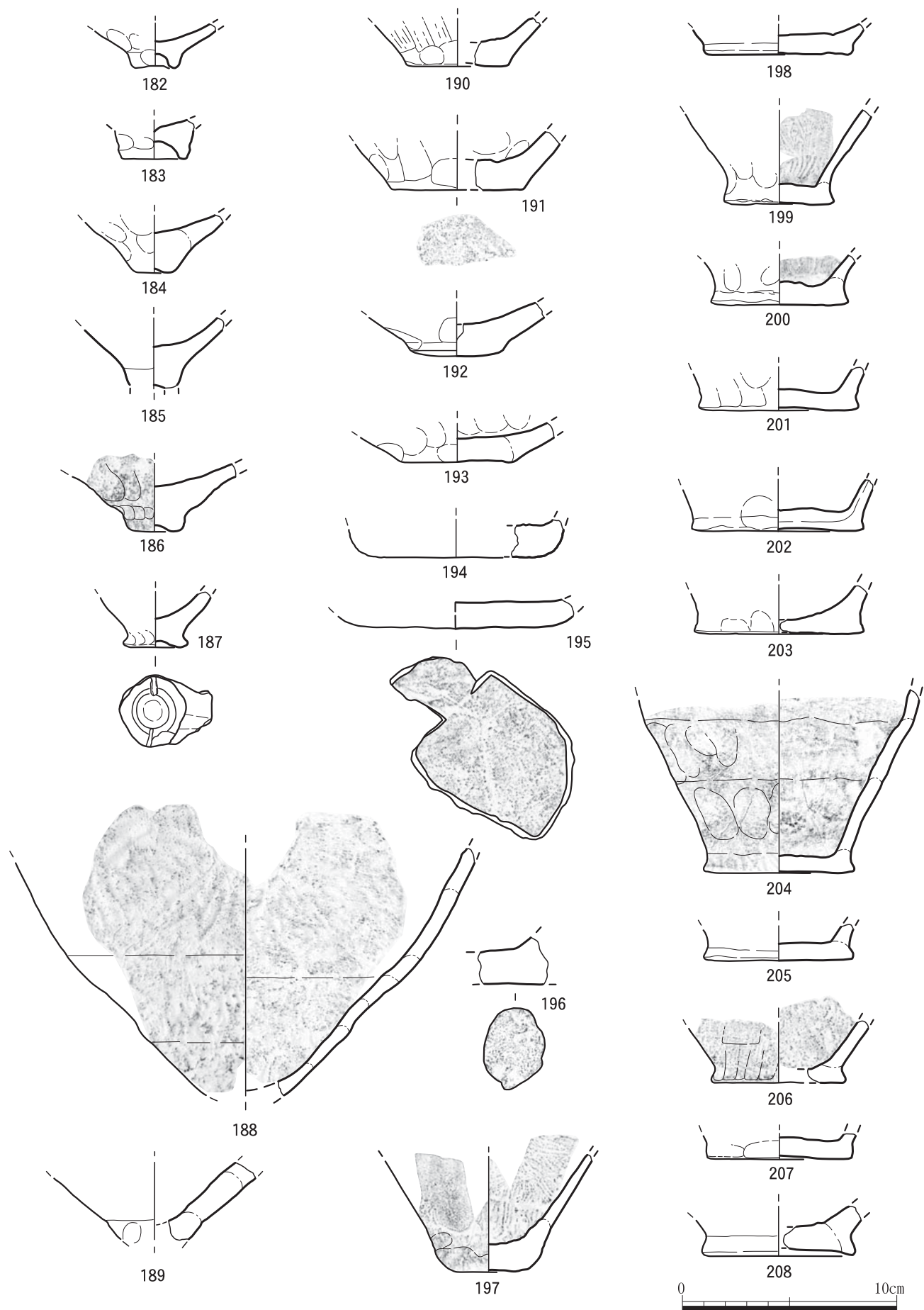
图版46 土器20 (底部)



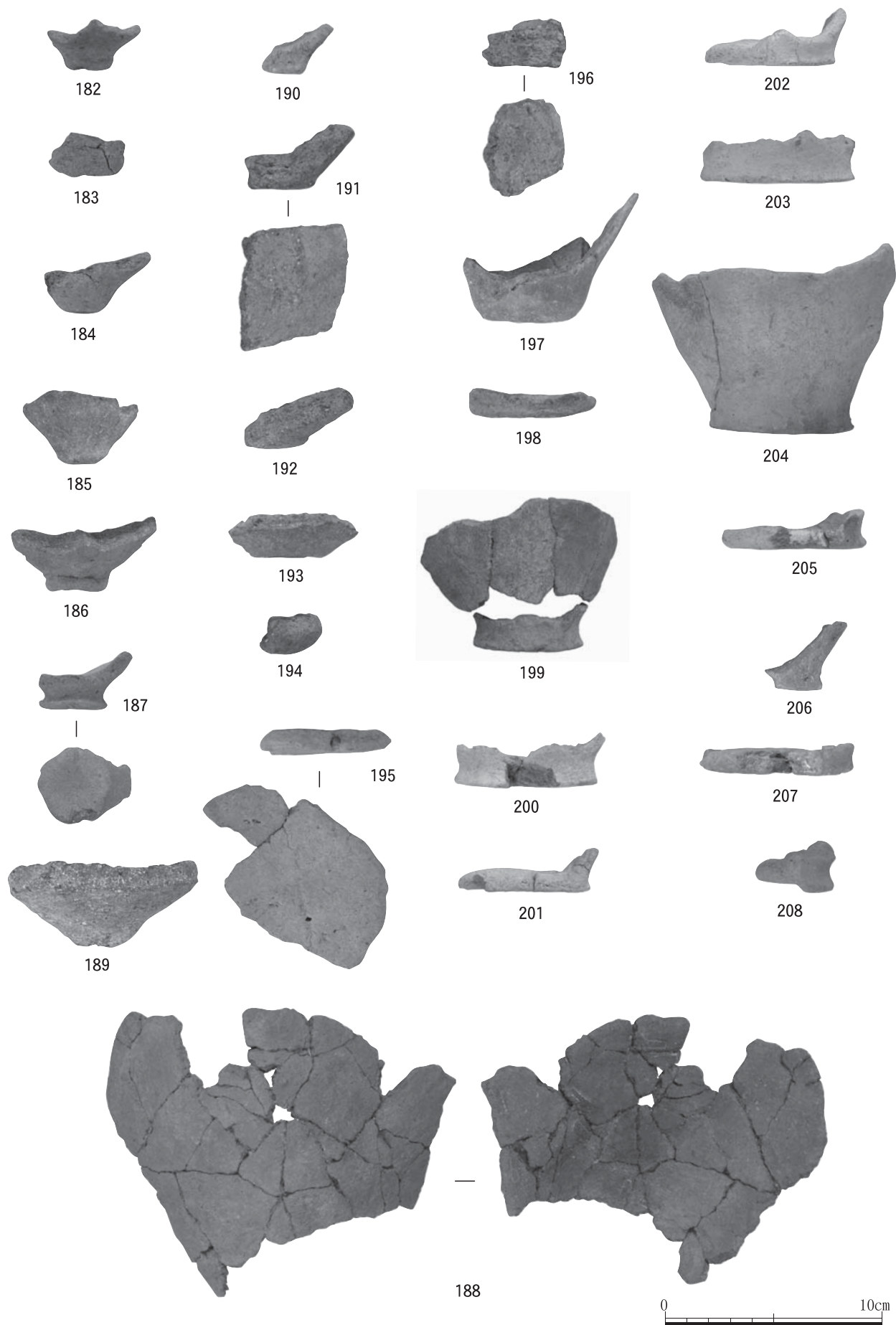
第59図 土器21 (底部)



图版47 土器21 (底部)



第60図 土器22 (底部)



图版48 土器22 (底部)

(2) 石器

石器は173点出土し、器種は石斧、敲石、敲石兼磨石、磨石、台石、石皿、砥石、有孔石製品、石球型未製品、チャート剥片である。地区別で遺物の出土状況をみるとH19地区48点、イ地区24点、ハ地区65点、二地区36点である。層序は第Ⅲ層（Ⅲ層遺構含む）、第Ⅳ層が主体となるが、僅かに第Ⅴ層、第Ⅵ層からも出土する。下層出土の石器はAトレンチ枝サンゴ層から石斧、白砂層で石皿、Cトレンチ白砂層で磨石、015第Ⅵ層は石斧（転用品）が各1点ずつ出土している。H19地区調査範囲の一部に白砂層、枝サンゴ層が確認された。遺構出土は26点で、溝状遺構2点、土坑3点、柱穴から4点と、柱穴の出土が僅かに多いが攪乱遺構からの出土がほとんどである。

A. 石斧

石斧は24点で、H19地区が7点、イ地区3点、ハ地区8点、二地区6点の出土である。完形は9点で中型の撥形石斧もみられるが、平面観の長さが11cmを超える資料は図1、2、7の3点のみで、10cm以下の中型一小、小型の石斧が僅かに多く確認された。刃部の残る資料も刃の消耗が激しく、刃こぼれが生じる資料がほとんどである。

破損品は、基部が4点、刃部5点である。未製品は粗加工のみ施し研磨がないもの、基部に若干、擦痕はあるが刃部が作り出されていないものが3点確認された。転用品は、刃部の破損したものを敲石に転用、刃の潰れが激しく石斧の用途を成さない資料が3点認められる。敲石に再利用した資料も含め形態上、石斧類として同じ扱いで分類した。図3の石斧は小型で形が整えられ研磨されるものの石質の違い、風化作用等により研磨の光沢が欠失したか研磨面に滑沢は見られない。

特徴的な資料として図4～6の基部の表面中央から側面に浅い指痕大の窪みや、幅広帯状の窪みが半周する類似石斧が3点確認された。3点ともハ・二地区の下層出土である。有段状石斧の形態を意識したか、或いは同種の用途を持つ石斧の可能性もある。

第16表 石器出土量

地区	層序	遺構	石斧						敲石兼磨石	磨石						台石	石皿	砥石	有孔石製品	石球型未製品	チャート剥片	小計	地区合計		
			a. 完形	b. 基部	c. 刃部	未製品	転用品	敲石		大		中		小										d. 分類不可	二次製品
										a. 大型	a.a 大型-小	b. 中型	c. 小型												
														完形	破損										
H19	I							1														2	48		
	II											1										2			
	IV				1			7			1					1						18			
	V	1	1	1				3			3	1			1						2	14			
	V 遺構										1													1	
	VI			1																	1			4	
	枝サンゴ層			1																	1			1	
	一括								1		1	1												3	
不明								1															3		
小計				7				12										1	1	3			48		
イ	III			1	1			1														1	4	24	
	III 遺構	1						1																	8
	IV								1																4
	IV 遺構									1															1
	V								1		1											1			3
	VI								1	1									1	1					4
小計				3				3	3									1	1	1		1	24		
ハ	II		1										3									1	6	65	
	III		1	1				1	2			1	7		1	4			1	1		1	22		
	III 遺構												1									1	5		
	IV		1			1	1		3	2	2	3	2	7	1						1		27		
	IV 遺構																					1	1		
	下層-中		2							1				1											4
小計				8				1	5				44					1	4	1	1		65		
二	II												2										5	36	
	III										1												5		
	III 遺構	1		1				1															8		
	IV	1			1			1			3												13		
	IV 遺構												1										2		
	調査区西側																					1			1
	二地区一括																					1			1
下層確認	1																						1		
小計				6				1	2				24					1	1			1	36		
合計				24				5	22				103					4	7	5	1	1	1	173	

第17表-1 石器観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	器種	形態 (残存)	完/破	残存 部位	加工痕 使用痕の有無	刃部形態	分類	最大長 最大幅 最大厚 重 量	観察事項	石質	地区 小グリッド層 遺構 取上番号 台帳番号
第 63 図 ・ 図 版 49	1	石斧	撥形	完形	—	研磨痕 基部・刃部	両刃	中型一大	11.5 6.0 2.9 289	撥形、基端はやや薄く刃部に向け若干厚みを増す。刃部形態は両刃を呈し、刃部角を両面から研ぎ直した痕跡あり。明瞭な刃こぼれは確認できず、刃先に鋭さはなく鈍る。	流紋岩	ハ Q13 III 台2540
	2	石斧	撥形 (バチ形)	完形	—	研磨痕	片刃	中型一大	11.7 5.6 3.6 369	撥形を呈し、刃部から基端まで成形は良い。裏面刃部の歪つな部分を整えるため刃部から基部にかけて研磨角度が激しい。刃部は片刃を成し、刃こぼれが数箇所みられる。	輝緑岩	イ D13 P13 III 取216 台2346
	3	石斧	撥形	完形	—	研磨痕 基部・刃部	両刃	小型	8.5 4.7 2.4 153	基部の数ヶ所に小さい欠けが確認されるが、大きな破損なし。基端も成形され面をもつ。刃先は消耗し、刃が鈍る。全面成形され研磨痕跡は窺えるが研磨による光沢が認められない。風化によるものか。	角閃岩	ニ Q 7 III SP21 台2482
	4	石斧	撥形	完形	—	研磨痕 基部・刃部	両刃	小型	9.8 5.7 2.9 254	基部表面中央から側面中央に幅広の浅いくびれが裏面对極に同様にみられる。使用により潰れが生じる。	輝緑岩	ニ — 下層確認 台2667
	5	石斧	短冊形	破損	基部・ 刃部	研磨痕 基部・刃部	片刃	中型一小	9.7 5.2 3.0 228	基端一部が破損、基部から刃部の研磨は顕著。両側面に指痕程度の窪み、破損後さらに同箇所を研磨し、刃先は潰れている。	角閃岩	ハ — 下層確認 (中層) -50cm 台2668
	6	石斧	撥形	欠損	基部	研磨痕 基部・刃部	—	中型一小	9.3 6.5 2.8 230	表面はほとんど基端まで大きく破損し、裏面基部中央に浅い帯状の窪みあり。刃は破損により刃部形態を成さず破損後に再度研磨を施すが、表裏面とも刃部残存面は研磨が僅かである。	角閃岩	ハ — 下層確認 (中層) 台2669
	7	石斧	撥形	欠損	基部	研磨痕 基部	—	中型一大	11.3 6.4 3.5 403	撥形を呈し、基端は丁寧に成形される。裏面基部中央に研磨、基部の一部と刃部は大きく破損し、刃部形態不明。	輝緑岩	ハ Q11 IV 台2529
	8	石斧 (転用品)	丸棒状	転用品	基部	基部 研磨痕あり	—	中型	9.0 6.0 3.9 320	基部に厚みあり、基部両側は面を成さず表裏面と側面に稜線の境なし。基部、表裏面中央に研磨顕著、刃部激しく破損する。敲石に転用し、一部に刃の潰れ痕跡あり。	輝緑岩	ハ R11 IV 取89 台89
第 64 図 ・ 図 版 50	9	石斧 (転用品)	厚手撥形	転用品	—	擦痕 研磨痕	—	中型一小	10.8 7.0 3.1 371	ほぼ完形に近く、形態は基部から刃部まで直線的、表面は基部中央が高く左右にゆるく薄くなる。両側面にも研磨が確認され、刃先はかなり欠失、基端にも擦痕がみられる。刃部と両端敲きに使用か。	輝緑岩	H19 015 VI 調査区北角 台3229
	10	石斧	不定形	完形	—	研磨痕 表裏面	—	中型一小	8.1 6.1 2.9 250	基端破損、形状全体に角がなく研磨は明瞭。基部の破損部にも研磨を加え、刃部潰れ、一部に面ができる。刃部の一部に再度、研ぎ直しの面が認められる。	輝緑岩	ニ 01 IV 取136 台136
	11	石斧 (未製品)	楕円状扁平	未製品	—	調整痕 表裏面	—	中型一小	10.5 8.1 3.4 450	石斧製作途中の未製品、表裏面以外の周縁は粗加工の痕跡あり。表裏面の突出した小さい範囲に部分的研磨、刃部は未成形。	斑レイ岩	ニ 08 IV 取309 台309
	12	石斧	細身・棒状	完形	—	研磨痕	—	小型	10.3 3.8 2.8 176	全体は撥形、身の幅は細身、基部の一部を破損後も成形し直した痕跡あり。研磨は基部の表裏面、両側面に顕著で、刃部は破損、刃の潰れにより刃先は皆無に近く刃部形態不明。	砂岩	H19 B20 V 取1293 台3245
	13	石斧	扁平	完形	—	研磨痕 基部・刃部	片刃	小型	9.2 4.3 1.4 110	扁平石斧刃部、基部とも研磨、側面も面を成し研磨の痕跡あり。刃部側面上部より下部が僅かに細く、刃部は刃こぼれが数ヶ所確認され、片刃の要素が強い。	輝緑岩	ハ 012 III SP9 台2631
	14	石斧	細身	破損	刃部	研磨痕	片刃	小型	3.5 4.0 1.4 27	石斧刃部資料、基部破損、全形状長さ不明。刃部形態は片刃石斧、表裏面、両側面とも研磨は顕著。裏面刃部研ぎ出しが二度研磨され刃部の幅が4.0cmと小さく加工用小型石斧か。刃は鋭く刃こぼれは二カ所のみ。	輝緑岩	H19 枝ノコ ^ノ 層 A1ノチ 台3223
	15	石斧	不明	破片	刃部	研磨痕	両刃	小型	7.9 3.9 1.4 58	裏面が破損し表面のみ基部から刃部の一部が残存、全形状は不明。基部、刃部とも研磨状態はよく顕著。刃部上の膨らみ具合から基部厚手の石斧と推測、両刃的。	角閃岩	H19 S19 V 取788 台3240
	16	石斧	不定形	破損	刃部	研磨痕	片刃	小型	5.1 3.8 0.8 26	上端、片側、側面が破損し、全形状不明。基部は自然面を呈し、刃部のみ加工、刃の研ぎ出しが確認され、刃先が使用により面を作る。貝製品擦り切り具的の小型石斧か。	砂質片岩	イ C11 III 取282 台1891

「完/破」の項=欠損：完形に対し一部欠ける 半欠：完形の二分の一残存 破損：完形の大きさが不明 破片：破損より細かく全体形の一部

B. 敲石

敲石は5点出土し、1点を図に示した。敲きの要素が強く、形状は縦長や厚手不定形など定形化しないが縦長の形状は上下、又は下端部、不定形のものには表裏面に敲打が確認できる石器である。

C. 敲石兼磨石

敲石兼磨石は22点で、図に13点を示した。敲きと磨りの痕跡を合わせ持ち、磨石との区別に大きな差はないが、敲きの痕跡が若干多くみられた資料をこの項目に分類した。大型資料はなく手に握れる程度の大きさが敲きと磨りの用途を兼ねた標準の大きさだと思われる。

D. 磨石

磨石は数が最も多く103点で、完形16点、破損資料56点、残存部は少ないが磨石と判別できる破片が29点出土した。形態に一律同形の資料は少なく形態での分類は不可能なためサイズと重量による分類を行った。まず先に全ての磨石を残存サイズ別に大、中、小に分類を試みた。大型資料は21点、中型44点、小型7点である。資料の中には破損品や破片が相当数みられるため、重量の違いでも4つに分類を行った。1. 重い（1 kg以上の資料） 2. やや重い（500g以上～1 kg未満） 3. 軽い（100g以上～500g未満） 4. 分類不可（100g以下の資料） その結果、破損資料や破片は重量が「軽い」か、分類不可のグループに属す。次に完形資料16点のみに限定しサイズ分けすると大型4点、大型一少6点、中型4点、小型2点である。重量分類では「重い」が7点、「やや重い」が7点、「軽い」が2点である。これを分析すると、大型と大型一少の一部が重量で「重い」、大型一少の一部と中型が「やや重い」、小型資料は重量が「軽い」グループに集中した。この結果、800g～2 kg前後の磨石が多く使用されたと推測される。二次製品は2点出土した。磨石の破損試料を再加工し破損箇所を縁を打ち割りしたもので形状がマウス状を呈し平坦面にも研磨痕確認される。

E. 台石

台石は4点出土し、図55に1点示した。敲石の台座と考えられる資料で敲打のある資料である。

F. 石皿

石皿は7点出土した。図62は大型石皿で状態が良く表面中央に石斧の形状を呈す使用痕が顕著で、ある。左右に細長い「V」字状の2本の溝も研磨が確認され裏面片側にも研磨痕が窺えられ、砥石との併用と考えられる。

G. 砥石

砥石は5点出土し図に3点を示した。H19地区で3点、イ地区1点、ハ地区から1点得られた。出土状況としては散見される程度で、集中した箇所はみられず不定形資料である。

H. 有孔石製品

有孔石製品はハ地区、Q11、第Ⅲ層から1点の出土で図59に示した。細粒砂岩製で研磨を加え、幾つかの面を成す。原形時は環状を呈していたと想定されるが半欠状態で破損しているため全形は窺えない。

I. 石球型未製品

図58は、形状が石球状で突起の部分を含め鈴型を呈す。孔を穿った加工痕が突出箇所の両側に確認され製品扱いにしたが、孔は貫通しておらず未製品のため使用目的や用途が不明である。

第18表 磨石完形法量一覧

磨石分類	計測値 (cm)			重量区分 重い 1,000g以上 やや重い 999g～500g 軽い 499g～100g	重量 (g)	図番号
	最大長	最大幅	最大厚			
大型	14.2	13.9	8.8	重い	2,400	図なし
大型	17.5	11.0	7.4	重い	1,890	図なし
大型	11.5	11.4	5.1	重い	1,250	第68図41
大型	13.8	9.9	6.5	重い	1,050	第70図48
大型-小	13.2	10.6	5.4	重い	1,190	第70図49
大型-小	13.2	10.8	5.1	重い	1,090	第68図40
大型-小	13.4	9.8	4.0	重い	1,060	第68図38
大型-小	13.5	10.2	4.9	やや重い	996	図なし
大型-小	14.1	6.4	6.4	やや重い	990	第65図19
大型-小	12.4	9.7	5.2	やや重い	940	第67図36
中型	10.9	7.7	5.5	やや重い	850	第67図32
中型	10.3	10.1	4.4	やや重い	830	第67図35
中型	10.9	8.1	5.7	やや重い	827	第67図33
中型	10.9	8.5	5.6	やや重い	800	第68図39
小型	6.5	4.5	4.0	軽い	160	第65図21
小型	5.7	4.9	3.3	軽い	124	図なし

第17表-2 石器観察一覧

(質量単位：cm、g)

第図版	図番号	器種	形態(残存)	完/破	加工痕 使用痕の有無	敲打研磨の 部位	分類	最大長 最大幅 最大厚 重量	観察事項	石質	地区 遺構 取上番号 台帳番号
第65図・図版51	17	敲石	分銅形	完形	敲打痕	表面・側面 上下	中型	13.0 7.9 6.0 850	分銅形を呈す。表面中央に4cm前後の敲打痕がみられ、両側面にも同様の敲打痕が確認できる。上下端部にも敲きの痕跡が窺える。	細粒砂岩	イ C12 P12 台2375
	18	敲石兼磨石	俵形	完形	研磨痕	表裏側面 下端部	中型	14.4 7.4 5.8 930	質の悪い自然礫を利用、部分的に浅い研磨あり。下端部に面を成す明瞭な敲打痕あり、縦持ちで使用した痕跡。	砂岩	ハ Q11IV 取72 台72
	19	磨石	五角柱	完形	研磨痕	二面	中型	14.1 6.4 6.4 990	縦長不定形、両側面は自然面が露呈する。時間経過により打割面の状態古く、研磨は表裏面のみに、歪つた凹凸面のため研磨は部分的。	輝緑岩	ハ R11IV 取125 台125
	20	磨石	縦長不定形	破損	研磨痕	三面研磨 上端 側面	中型	10.5 5.9 5.5 450	縦長不定形、横側面変四角形を成す。研磨痕は三面あり、どの面も研磨は部分的だが顕著な部分に研磨は至らない。	砂岩	ハ R11 IV 取90 台90
	21	磨石	楕球形	完形	研磨痕	表裏側面 一面	小型	6.5 4.5 4.0 160	小型の転石利用、石英脈がみられ質は悪い。表面中央に小さい敲きの痕跡あり、研磨は表裏面の一部分に限られる。	砂岩	ハ R11 IV 取326 台326
	22	敲石兼磨石	多面球形	完形	擦り痕	全面	小型-小	4.9 4.9 4.9 154	変形した球体で、多面体を呈す。それぞれ角度、向きの違いが大小、五面確認できる。球形に面を成すほど擦りの痕跡がみられるが、顕著な研磨痕はない。	砂岩	イ C15 一括 台1865
	23	敲石兼磨石	変形球状	完形	敲打痕 研磨痕	表面	小型-小	6.6 5.8 4.2 232	小型の球状を呈す資料で、敲きと研磨による磨り痕が確認できる。表面の中央一面は磨りの痕跡で裏面は打欠により一部欠損しているが研磨痕は見られる。側面、周縁は敲打痕が幾つもの面をつくる。	砂岩	H19 S12 IV 取274 台3383
	24	磨石	隅丸方形	欠損	敲打痕 研磨痕	一面	小型-中	8.4 6.9 5.1 400	拳大よりやや小型、転石を利用か。面と面の境に稜線がみられ、研磨不明瞭で浅い。破損部は自然面を露呈する。	砂岩	ハ R11 IV 取314 台314
第66図・図版52	25	磨石	二次製品 (マウス状)	完形	研磨痕 擦痕	全面	小型-中	8.1 5.1 4.2 265	平面観はマウス状を呈し、楕円形の磨石を二分し伏せたような形状を呈す。ほぼ全面に研磨痕が認められ打割された面も、微かに擦りの痕跡が見られる。縁の周辺を細かく打ち割り調整を施す。	角閃石安山岩	H19 T19 V 取1291 台3247
	26	磨石	二次製品 (扁平マウス状)	破片	研磨痕	表面	小型-中	8.8 6.3 2.9 182	平面観は扁平マウス状を呈す。磨石の破損した一部を二次加工を施す。表面は研磨痕が顕著に確認でき、裏面は自然面を呈すが、割れ口のへりは細かく打割り、調整の痕跡か。	砂岩	H19 表土掘削時 一括 台3249
	27	敲石兼磨石	石蝕状	完形	研磨痕 敲打痕	表裏面・側面 上下	小型	8.7 7.0 4.9 460	石蝕状を呈す。敲打の痕跡は表裏面、両側面、上下面に認められる。研磨痕は敲打の窪みの周辺に僅かに確認される。	砂岩	イ A12 III 取218 台1944
	28	敲石兼磨石	隅丸台形	完形	敲打痕	表面・裏面 上下	小型	8.3 6.9 5.8 613	縦長で横側面形態は隅丸台形を呈す。表面中央に3cm台の敲打による窪みがみられ、両側面は浅い研磨の痕跡が窺える。裏面と上下面に敲打が明瞭である。	砂岩	イ B12 VI 取453 台1919
	29	敲石兼磨石	変形石蝕状	完形	研磨痕 敲打痕	表面中央 側面敲き 表裏-研磨	中型	11.0 9.4 7.0 1,160	変形の石蝕状を呈す。厚み、重量感ともに対象物を敲く、磨る、潰すの用途に最も適す。表面に敲きと磨りの痕跡あり、両側面は強い敲打による窪み、裏面は研磨明瞭。	砂岩	ハ N13 IV 取24 台24
	30	敲石兼磨石	長楕円形	完形	敲打痕 研磨痕	上下	中型-小	10.1 7.1 4.5 499	全面研磨がみられるが裏面の一部分が打割、欠失している。上下端部に敲きによる面が形成され、研磨痕は顕著。	輝緑岩	H19 Q13 IV 取148 台3272
第67図・図版53	31	磨石	円形・丸判型	破損	研磨痕	表裏面・側面 周縁	中型-小	4.3 8.3 5.7 3 27	厚手円形を呈し、残存資料は完形の約二分の一程度、表面研磨は滑沢で顕著、研磨痕は表裏面にみられ顕著。側面周縁も半周一部に研磨、しかし僅かである。	礫質砂岩	H19 B19 III 一括 台3265 ハ Q12 SP67 台2662
	32	磨石	変形石蝕状	完形	研磨痕	表裏両側面 側面敲打	中型-小	10.9 7.7 5.5 850	やや長形、横側面観の厚み不均等。上下端部に擦りの痕跡、幾つかの面を成す。表裏面、両側面研磨明瞭。	角閃石安山岩	ニ N9 SP58 台2453
	33	磨石	変形石蝕状	完形	研磨痕	表裏側面	中型	10.9 8.1 5.7 827	変形の厚手石蝕状、中央厚く両側薄い表裏面中央に敲打痕あり。両面とも研磨は明瞭、両側面、下面に浅い敲打。	砂岩	ハ O13 III 台2608
	34	磨石	石蝕状	半欠	研磨痕	表裏面	中型	8.0 8.9 4.7 502	既出土例から形態、サイズ復元可能。典型的石蝕状磨石の半欠品。研磨は表裏面顕著で滑沢、両側面と下部に浅い敲きの痕跡。	砂岩	ニ Q7 一括 台2566
	35	磨石	略三角形	完形	研磨痕	表裏面 片面中央	中型	10.3 10.1 4.4 830	略三角形やや厚手、表面中央に敲打痕、上下端に敲打面を成す。表裏面は研磨明瞭、使用面の研磨の向きが違ふ。表面は中央から左右方向、裏面は中央から上下方向へ向かい研磨。	輝緑岩	ハ R11 IV 取319 台319
	36	磨石	楕円状	完形	研磨痕	表裏面 上下端	中型	12.4 9.7 5.2 940	平面観楕円状、横側面観はレンズ状を呈す。表裏面中央厚く両側薄い。表裏面の研磨は中央が厚く、左右に薄いわの字状を呈す。	角閃石安山岩	ハ S11 IV 取334 台334

「完/破」の項=欠損：完形に対し一部欠ける 半欠：完形の二分の一残存 破損：完形の大きさが不明 破片：破損より細かく全体形の一部

第17表-3 石器観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	器 種	形態 (残存)	完/破	加工痕 使用痕の有無	敲打研磨の 部位	分類	最大長 最大幅 最大厚 重量	観察事項	石質	地区 小グリッド層 遺構 取上番号 台帳番号	
第67図・ 図版53	37	磨石	石鹼状磨石	半欠	研磨痕	表裏面 側面 下端部	中型-小	11.5 6.9 5.0 454	中型、石鹼状磨石、半欠品だが研磨滑沢で顕著。敲打痕が側面と下端部にあり。	花崗閃緑岩	ハ Q11 IV 清掃時 台2527	
	第68図・ 図版54	38	磨石	薄手・楕円形	完形	研磨痕	表裏面	中型-中	13.4 9.8 4.0 1,060	薄手の楕円形磨石で通常、定形化した形態である。表裏面とも研磨痕は明瞭で、側面、周縁に敲打痕はなく、磨りの用途専用で使用。	礫質砂岩	H19 D01 一括 台4387
		39	磨石	楕円状	完形	研磨痕	表裏面 両側面	中型	10.9 8.5 5.6 800	ほぼ楕円形、側面観上下に厚みの違いあり。下部厚く、表裏面研磨が顕著、線状痕も確認される。敲打痕弱く、両側面に指痕大の敲打面あり。	砂岩	ハ N13 IV 取25 台25
40		磨石	変形三角	完形	研磨痕	両面研磨 片面中央	中型	13.2 10.8 5.1 1,090	変楕円形、側面観やや厚手。表裏面に研磨あり。研磨によるテカリは滑沢、両側面中央、下部に敲打痕あり。	砂岩	ハ Q11 IV 取71 台71	
第69図・ 図版55	41	磨石	楕円状	完形	研磨痕	表裏面研磨 両面中央	大型	11.5 11.4 5.1 1,250	やや円形、厚手、下部は節理面から剥落する。両面中央に小さく浅い敲き痕、研磨痕、表裏面にあり。研磨は滑沢でない。	砂岩	ハ S8 IV 取181 台181	
	42	敲石兼磨石	厚手変円形	完形	敲打痕 研磨痕	裏面 周縁部	中型-大	12.6 11.8 5.9 1,570	厚手円形形状を呈し主に敲きの痕跡、磨りの痕跡は不明瞭。磨りの痕跡は表面中央に浅く、敲きの痕跡は裏面と側面周縁に多く確認できる。	砂岩	H19 P15 IV 取285 台3388	
	43	敲石兼磨石	厚手楕円形	完形	敲打痕 研磨痕	表面中央 裏面中央 側面	中型-大	15.2 12.8 5.8 1,910	厚手楕円形で全体に丸みを帯びる。磨りによる研磨は浅く、敲きの痕跡は表面中央、裏面中央、側面周縁に4カ所明瞭に確認できる。	砂岩	H19 S18 V べつ壁 取1481 台3252	
	44	磨石	円筒形/円柱	破損	研磨痕	一面	中型	12.3 5.9 4.7 570	平面観大型半円筒形、厚手、表裏面の平坦面は節理面を利用して研磨を加える。研磨は表裏面、側縁部に部分的にあり。	砂岩	ハ R11 IV 取88 台88	
第70図・ 図版56	45	磨石	楕円状	破損	研磨痕	表裏側面	大型	13.2 10.4 6.6 1,280	厚手楕円形、質の悪い自然礫を利用。一部打割により欠けが生じ、表面に顕著な研磨なし。研磨は裏面のみ顕著。	砂岩	ニ R7 IV 取235 台235	
	46	磨石	不定形	破損	研磨痕	二面	大型	15.1 7.9 4.0 620	大型磨石の破片、残存形態は扁平不定形。大きく破損し、原形の四分の一程度が残存と推測。研磨面は二面で滑沢明瞭。	砂岩	ハ R10 IV 取293 台293	
	47	磨石	不定形	破損	研磨痕	二面	大型	9.6 11.0 4.7 780	残存資料の二倍の大きさと推定される。研磨は一部顕著、裏面は大きく打欠するが、下部に浅い敲き痕あり。	斑レイ岩	ニ K12 IV 取3 台3	
	48	磨石	三角柱状	完形	研磨痕	三面研磨	大型	13.8 9.9 6.5 1,050	自然礫を利用、平面観変三角形、横側面三角形、研磨痕三面にあり。面の境に稜線、下部に浅い敲きの痕跡あり。	片状砂岩	ハ 一 下層確認② 台2671	
第71図・ 図版57	49	磨石	変形隅丸三角	完形	敲打痕 研磨痕	上下	中型-小	13.2 10.6 5.4 1,190	平面観は楕円形を呈し、左右の厚みがわずかに違う。歪つな形状だが全面研磨され研磨は明瞭。敲打痕は上端と下端の一部に部分的に見られる。	輝緑岩	H19 P17 IV 取191 台3270	
	50	敲石兼磨石	変形楔形	完形	敲打痕 擦痕 研磨痕	表面中央 上下	中型-大	13.3 9.5 7.6 1,540	変形四角柱～楔形、表裏面は研磨痕が明瞭。表面中央部に僅かに敲打の痕跡がみられ、上下端部に面の向きが違う敲打痕、擦痕による面が二面ずつ確認できる。	砂岩	イ D14 V 取500 台1971	
	51	敲石兼磨石	長楕円 横側面三角	完形	敲打痕 研磨痕	上下	大型-中	16.1 9.2 6.1 1,560	長楕円形、横断面は三角形を呈す。研磨痕は表裏面とも顕著。右側面は面の境目の稜線が特に顕著で、上下端部には敲打痕がみられ、幾つかの面を成す。	輝緑岩	H19 Q15 一括 台3212	
	52	敲石兼磨石	三角柱	完形	敲打痕 研磨痕	上下	大型-中	16.0 9.6 9.3 1,950	平面観は下部に向かい縦長の末広がり、横断面が三角形を呈し、片手では重い程の資料。三面の境に稜がみられ、磨り面は明瞭に研磨されている。上下端部は敲きによる敲打痕が確認できる。	砂岩	H19 R18 V 取293 台3387	
第72図・ 図版58	53	敲石兼磨石	厚手変形楕円	半欠	敲打痕 研磨痕	側面	大型-小	13.6 10.9 6.5 1,640	半欠品だが、大型の資料と推定される。楕円形で厚手、表面中央はかなりの研磨痕が明瞭である。裏面は平坦で形成した痕跡が窺え、側面に敲打の痕跡が確認できる。	角閃石安山岩	H19 T15 IV 取3 台3276	
	54	砥石	厚手板状 不定形	破損	研磨痕	表裏	大型	37.8 19.9 4.8 6,000	表面中央と、縦方向に浅い窪みを呈す箇所、平坦な箇所、両者とも研磨が確認される。裏面はさらに平坦な研磨を呈す。側面周縁は破損、形態不明で、自然面が露呈する。	砂岩	H19 T19 V 取1350 台3293	
	55	台石	厚手不定形	破損	敲打痕	表面・裏面	大型	19.8 17.2 7.3 4,000	厚みのある資料で細粒砂岩製。表面中央に敲打痕が多くみられ、台石として上に対象物を乗せ、敲いた痕跡が窺える。裏面に若干の敲きが確認されるが石の性質上、風化にさらされたか、使用痕が不明瞭。	細粒砂岩	H19 R13 IV 取280 台3389	

「完/破」の項=欠損：完形に対し一部欠ける 半欠：完形の二分の一残存 破損：完形の大きさが不明 破片：破損より細かく全体形の一部

第17表-4 石器観察一覧

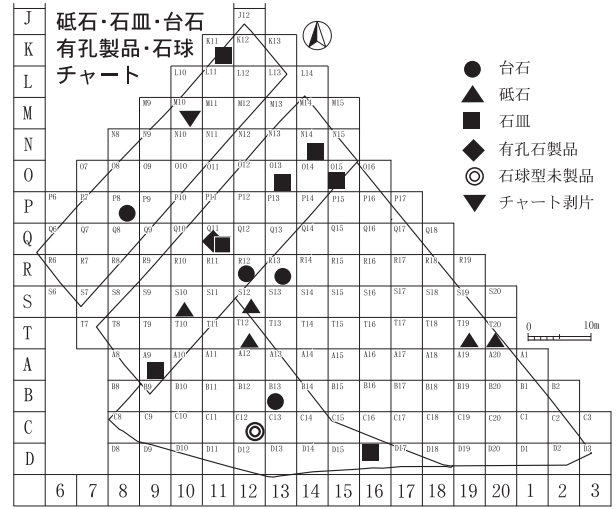
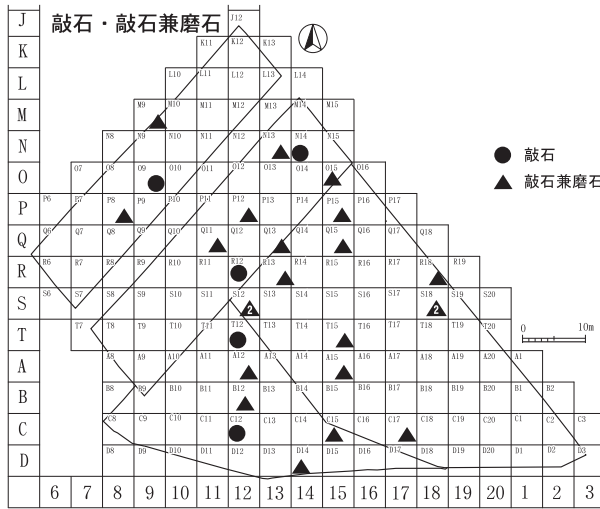
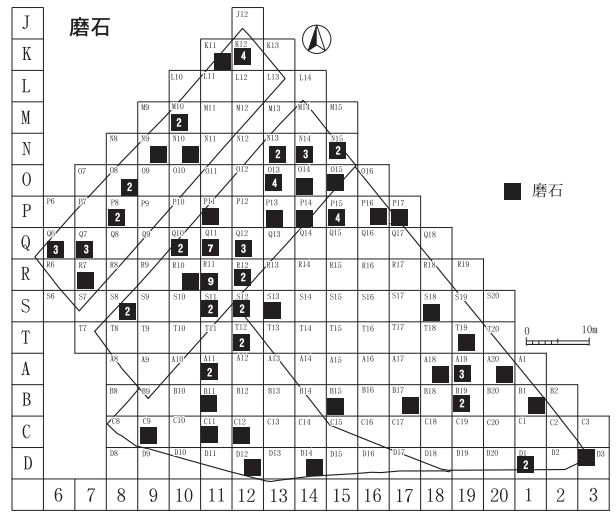
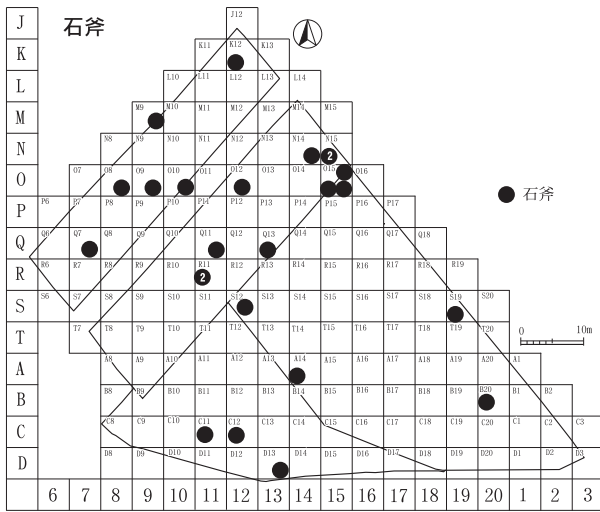
(法量単位：cm、g)

第図図版	図番号	器種	形態(残存)	完/破	加工痕 使用痕の有無	敲打研磨の 部位	分類	最大長 最大幅 最大厚 重量	観察事項	石質	地区 小グリッド層 遺構 取上番号 台帳番号
第72図・図版58	56	砥石	厚手不定形	破片	成形痕 研磨痕	表面・側面	中型	10.6 9.2 5.3 476	形態は幅広、やや縦長の形状を呈したと考えられ、全体に形成された痕跡がみられる。表面中央に縦長の溝状窪みを有す。裏面は節理面から大きく剥離、両側面の一部にも研磨痕が確認できる。	砂岩	H19 S12 IV 取252 台3382
	57	砥石	不定形	破損	研磨痕	表・下側面	小型	3.6 9.0 3.7 91	残存部は僅かで、類似形態から中型砥石に成りうる。図56と同様、研磨面中央に縦長の浅い溝状の研磨痕を呈す。下側面にも研磨面あり。破損面は自然面が露呈。	流紋岩	ハ S10 SK2 台2644
	58	石球型未製品	球状・鈴形	完形	穿孔痕 研磨		小型	5.8 5.5 4.7 198	球状を呈し、上部に突起の部分が作られる。突起両側面に穿孔の痕跡、貫通せず突起下には溝状の痕跡、一周する。周縁は僅かに面取りを施した痕跡。	細粒砂岩	イ C12 III 取155 台1901
	59	有孔石製品	環状	半欠	穿孔痕 研磨痕	表裏	小型	4.3 2.4 2.2 22	環状、半欠品、両面から穿孔。穿孔面に線条痕、細かい面取りの痕跡あり。	細粒砂岩	ハ Q11 III 台2511
第73図・図版59	60	石皿	板状	破損	使用痕	表面中央	大型	26.4 16.8 4.7 2,900	表面中央擦りによる痕跡、メンガイが付着し、長期間海水に浸る状態にあったと想定される。	細粒砂岩	ハ N14 IV 台2573
	61	石皿	板状・不定形	半欠	研磨痕	表面	大型一中	21.5 30.0 5.6 4,500	破損の為、全形は窺えない。使用面は表面の一面のみで破損部の先端が中央部と考えられ、研磨が確認できる。破損部の端部に研磨の痕跡も認められる。	砂岩	イ D16 一括 台1888
第74図・図版60	62	石皿	厚手菱形	完形	研磨痕 擦痕	表面・裏面	大型一大	61.9 39.2 13.1 29,300 (29.3kg)	大型石皿、平面形態は略菱形、表面中央に石斧が納まる形状の使用痕あり。その左右にも細長い溝状使用痕あり、断面が半円、又はV字状を呈す。棒状のものを研磨したか、溝が2本ずつ左右に確認される。中央の窪み、溝とも研磨が明瞭。裏面は中央が山なりに高く、左右に厚みを減じるが、裏面片側にも全体に研磨と半円状の溝が認められる。	細粒砂岩	H19 A1レナ 中央 下層確認時 白砂 台一

「完/破」の項=欠損：完形に対し一部欠ける 半欠：完形の二分の一残存 破損：完形の大きさが不明 破片：破損より細かく全体形の一部

第61図に石器の出土状況を平面分布で示した。層序ごとの出土量を前記したが、分布図をみると石斧はどのグリッドからも1点、又は2点の出土と少ない。H19地区は7点の出土だが、どの資料も第IV層～第VI層、下層出土である。イ地区からは3点のみで全て第III層出土である。ハ地区は第III層、IV層出土で、個々の資料は近いグリッドに集中し、下層出土の資料も2点みられた。ニ地区では、第IV層の資料が3点で、08、09、010にみられた。一見すると点数が少ないため石斧は散見される程度のようなが、分布状況は調査区全体の北側、ハ・ニ地区に集中する。石斧の出土はばらつきがみられ分布状況も集中箇所は限定的である。最も出土の多い磨石はハ地区に集中する。グリッドR11を中心にQ～Tに出土が多く、N、0、P12から15にもやや集中する傾向がみられる。敲石は点数が少ないため集中傾向はない。敲石兼磨石はH19地区に多く出土する。

砥石は第III層の資料を後述するグスク時代の項でまとめ、貝塚時代後期から下層にかけての点数は少なく散見される程度で集中箇所はみられない。H19地区、イ地区、ハ地区の各グリッドに1点の出土である。石皿は7点で地区別ではハ地区に4点とやや多く、H19地区、イ地区、ニ地区に各1点程出土している。台石は点数が少ないため各地区で1点ずつ散見される程度である。有孔石製品、石球型未製品、チャート剥片は、各1点ずつ第III層からの出土だが、平面分布では、それぞれハ地区、イ地区、ニ地区と出土地区にばらつきがあり有孔石製品と石球型未製品はグスク時代の遺物と考えられるが直接的な関連はみられない。磨石以外の器種は各グリッドから1、2点の出土で集中出土するグリッドはみられなかった。他の遺物において土層の堆積状況では山側に古い層が残り、海側には残らない傾向が確認されるが石器においてはその傾向も薄く、H19地区に僅かに白砂、枝サンゴ層が確認される程度である。



第61図 石器平面分布

※点数記載なしは1点

＜石質＞

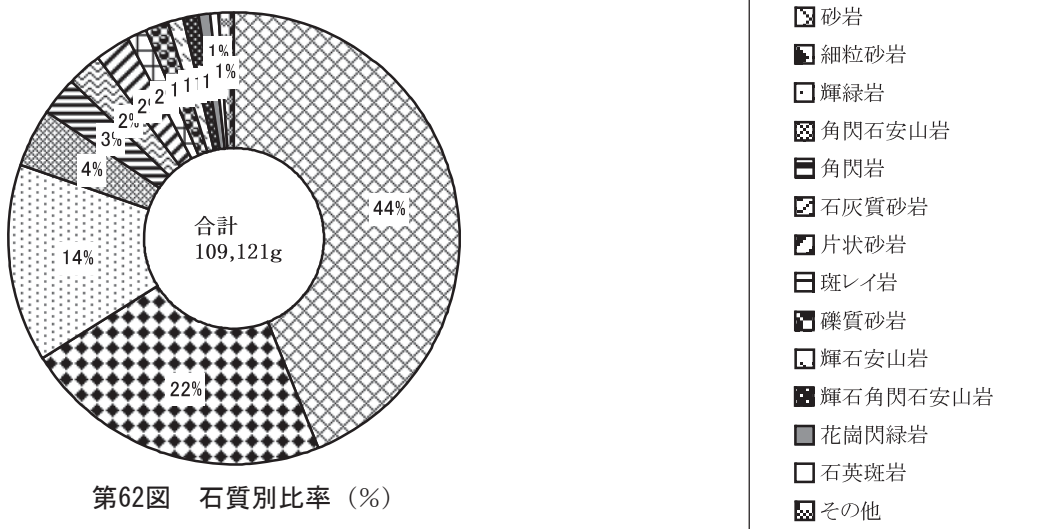
石質は同定の結果、19種の岩石が確認された。岩石形成段階での火成岩、変成岩、堆積岩の区別で岩石名を列挙すると、火成岩は花崗閃緑岩、安山岩、流紋岩、輝石安山岩、角閃石安山岩、輝石角閃石安山岩、角閃石輝石安山岩、角閃岩、輝緑岩、斑岩、斑レイ岩、石英斑岩の12種、変成岩は砂質片岩、片状砂岩の2種、堆積岩は砂岩、礫質砂岩、細粒砂岩、石灰質砂岩、チャートの5種である。第19表と第62図に示すように石器に使用された岩石で最も多いのは砂岩で比率にして石器全体の44%を占める。これは砂岩が磨石に利用される場合が多いことによる。次に多く使用される岩石は細粒砂岩で22%にあたる。石皿、砥石に使用される場合が多く石皿は今回大型資料が出土したこともあり、点数が少ない割に重量があるためである。その次に多いのが輝緑岩で14%である。上記の3種の岩石で石器に使用される岩石全体の8割を占め、その他の種類は少量の出土であった。

素材として確認された岩石には雲母片岩、頁岩、結晶質石灰岩、玄武岩、シルト岩、珪質岩、石英の7種が確認された。石器の石質を含めると26種の岩石が確認できた。

今回の調査で確認された岩石のうち火成岩性の岩石は北谷町内では産出されない。よってその種の岩石、流紋岩、安山岩、花崗閃緑岩などは奄美、徳之島からの持ち込みが推測される。石器の素材以外の岩石で最も多いのは石灰岩、石英などで北谷町の地形、地盤を形成するもので、北谷町周辺で採集されるものがほとんどである。石器の素材に適する岩石は母岩の大きさがある程度、岩塊状でなければ荒割り、粗加工が不可能で石質もある程度限定される。

第19表 器種別石質相関関係

石質	分類 個数 重量		石斧		敲石		敲石兼用磨石		磨石		台石		石皿		砥石		有孔 石製品		石球型 石錘		チャート 剥片		合計	合計
	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重	個	重
安山岩									1	369													1	369
角閃石安山岩					2	2,300	5	2,323															7	4,623
角閃石輝石安山岩			1	437																			1	437
角閃岩	4	669			1	1,001	8	1,499															13	3,169
輝石角閃石安山岩					1	1,035																	1	1,035
輝石安山岩							2	1,321															2	1,321
輝緑岩	12	2,375			3	4,189	8	8,691															23	15,255
細粒砂岩			3	2,650	1	389			2	5,200	5	14,207	1	1,630	1	22	1	198					14	24,296
砂岩	3	853	1	608	13	12,910	66	20,546	2	2,030	1	4,500	2	6,476									88	47,923
砂質片岩	1	26																					1	26
石英斑岩							1	591															1	591
石灰質砂岩							1	290			1	2,400											2	2,690
チャート																					1	10	1	10
礫質砂岩							3	1,543					1	59									4	1,602
花崗閃緑岩							3	1,022															3	1,022
斑岩							1	29															1	29
斑レイ岩	3	935					1	780															4	1,715
片状砂岩					1	493	3	2,135															4	2,628
流紋岩	1	289											1	91									2	380
合計	24	5,147	5	3,695	22	22,317	103	41,139	4	7,230	7	21,107	5	8,256	1	22	1	198	1	10	173	109,121		



当遺跡の石器は磨石が最も多く103点で石器全体の59%を占める。石斧は24点出土のうち刃部の刃こぼれや、刃の潰れが激しい資料が多く確認された。刃潰れが激しい資料のほとんどは敲石に転用されている。今回の調査で特筆する資料として大型の石皿が挙げられる。(巻首図版11) 平面観は不定形だが、一抱え程度の大きさで最大長が60cmを超え、最大幅も40cm近く、重量が30kg近くある据え置き型石皿で、既に調査確認された遺跡の石皿は破片として出土したものが殆どで4cm～6cm程度の厚みの資料が多く使用頻度が高い場合、破損理由の一要因でもあるが、本資料は表面中央に中型程度の石斧が納まる形状の窪みが顕著で本土の遺跡で出土する石皿を思わせる。左右に細長い「V」字状の溝が確認され、溝の断面も半円状になる。これも有溝砥石と同様な用途に使用した可能性がある。この溝は石皿表面の空白箇所を使い切る形で利用され、裏面にも片面に同様の有溝が2本みられた。下層確認調査で出土したため共伴する土器等の遺物がみられず時期的なものは不明だが、使用痕跡や状態から貝塚時代前IV～V期あたりの石皿と推測される。

＜参考文献＞

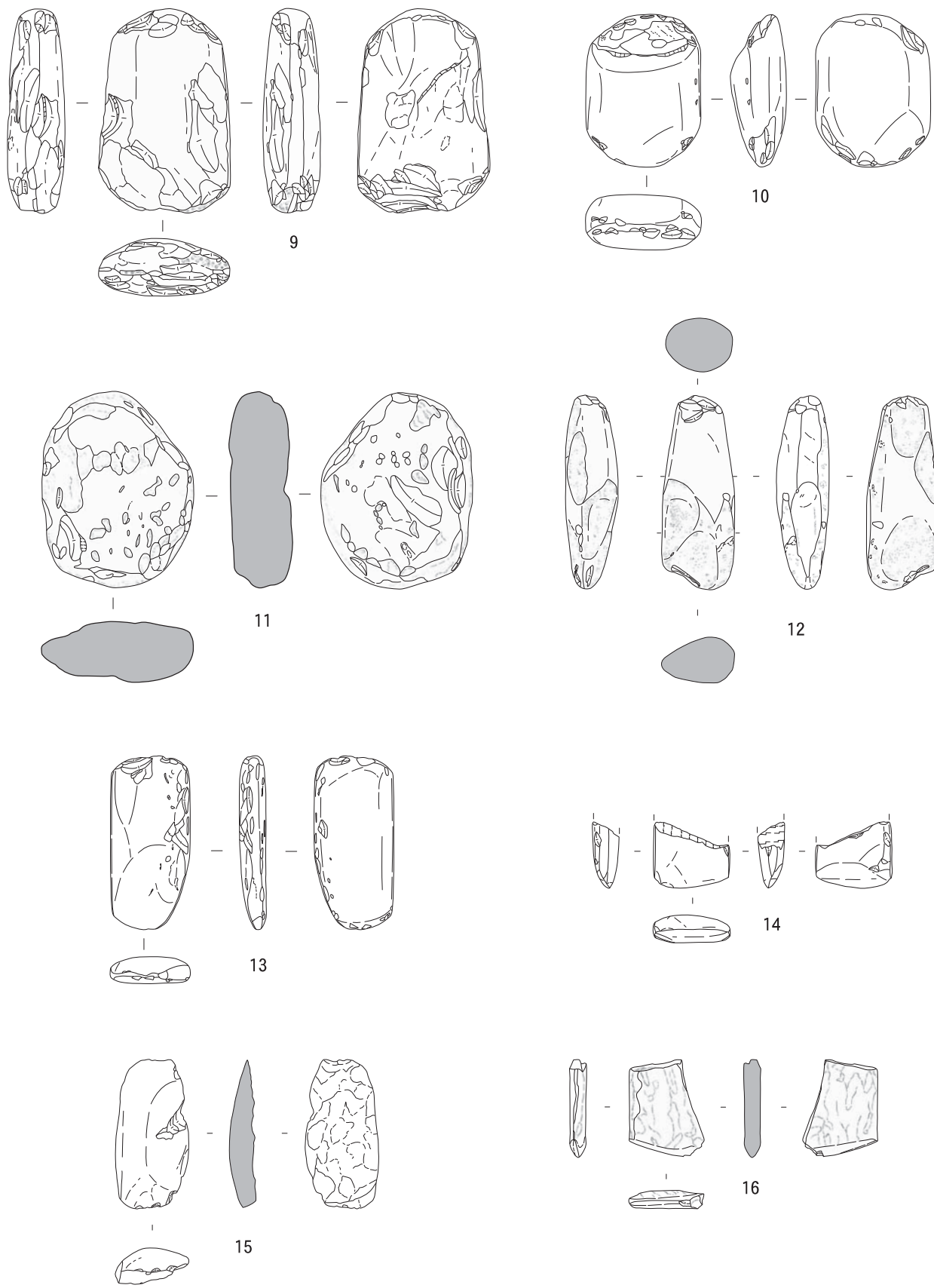
北谷町教育委員会 2007 『伊礼原遺跡』 北谷町文化財調査報告書第26集
 北谷町教育委員会 2008 『伊礼原D遺跡』 北谷町文化財調査報告書第28集
 北谷町教育委員会 2013 『伊礼原D遺跡』 北谷町文化財調査報告書第35集



第63圖 石器 1



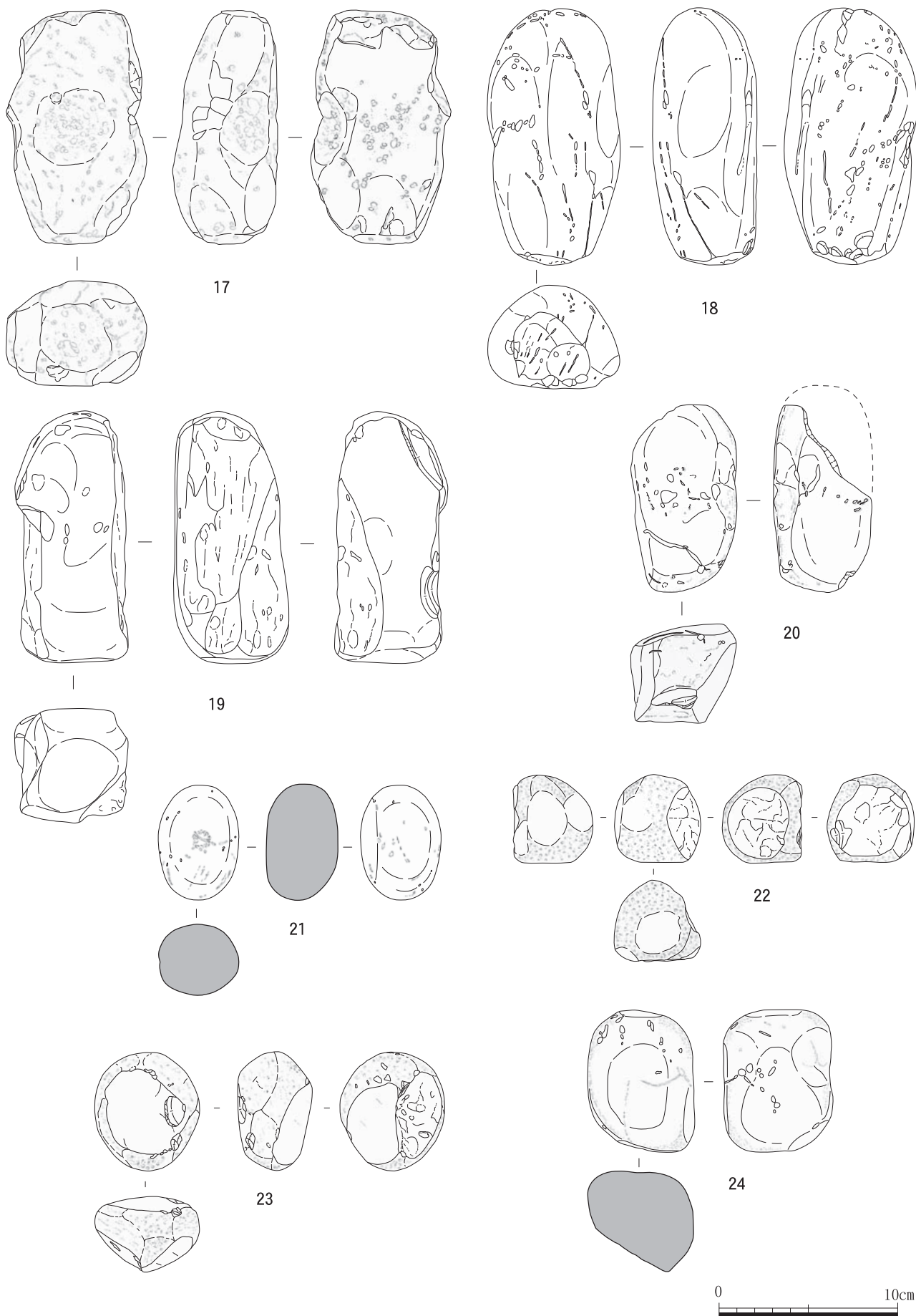
图版49 石器 1



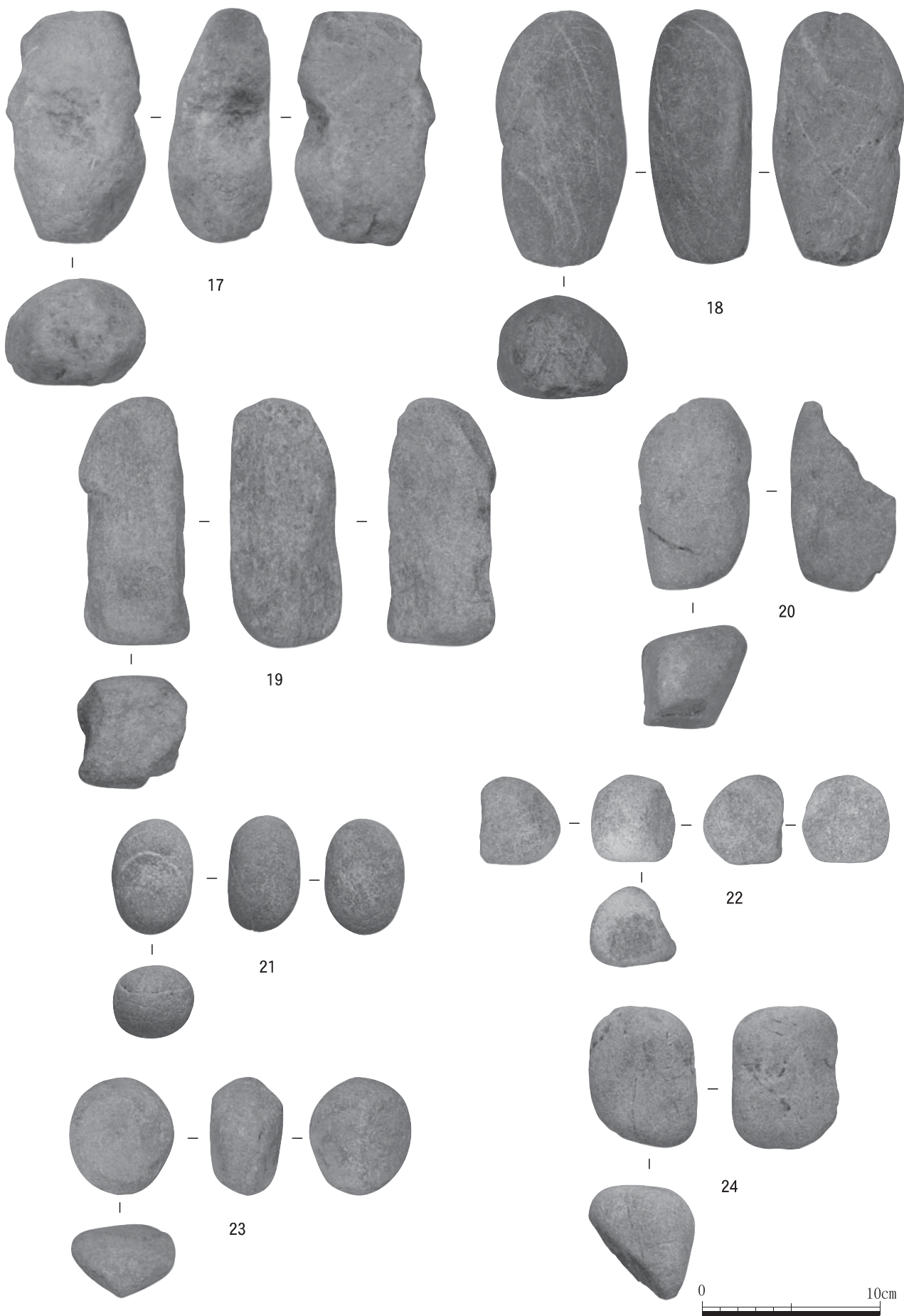
第64図 石器2



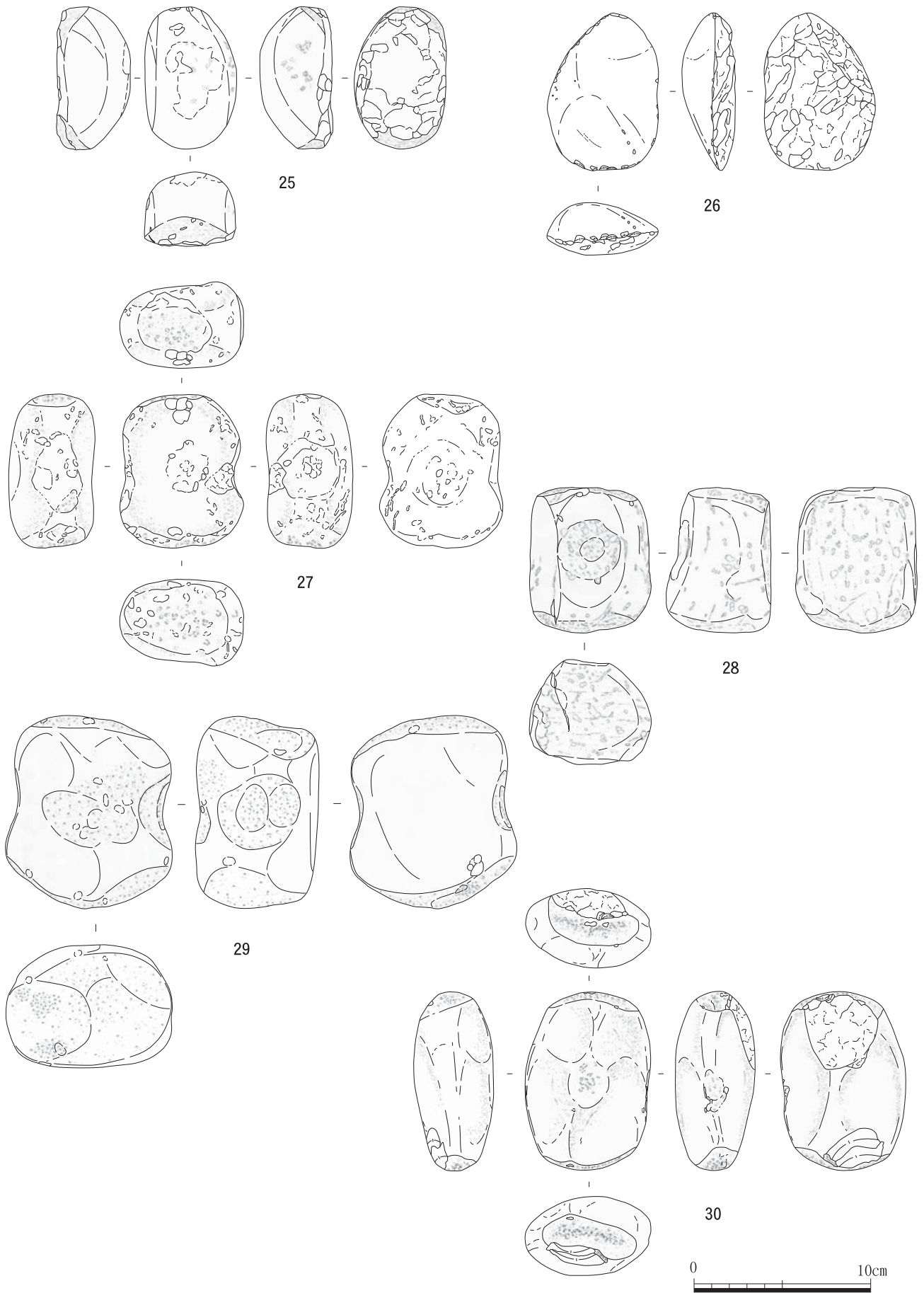
图版50 石器2



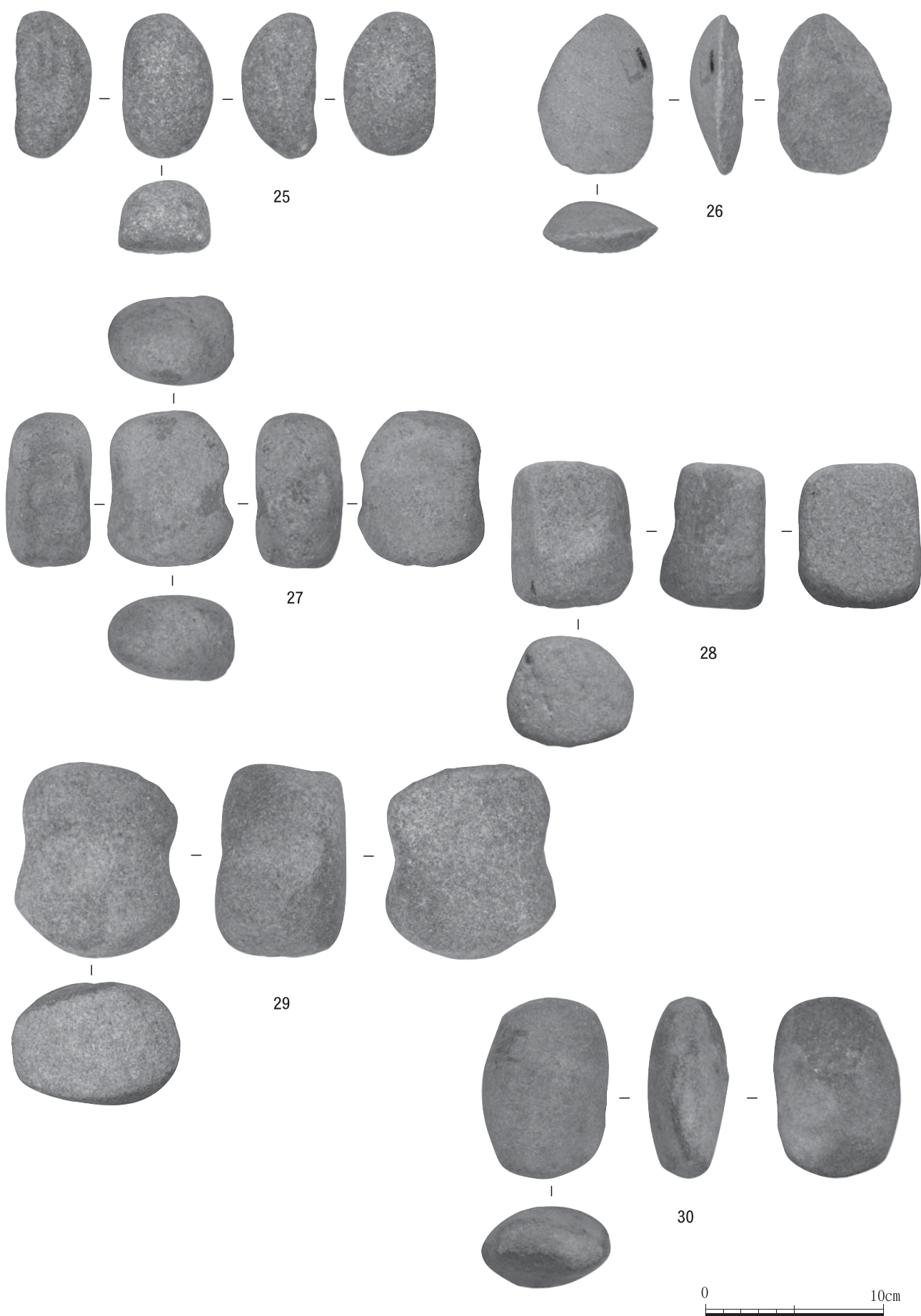
第65圖 石器3



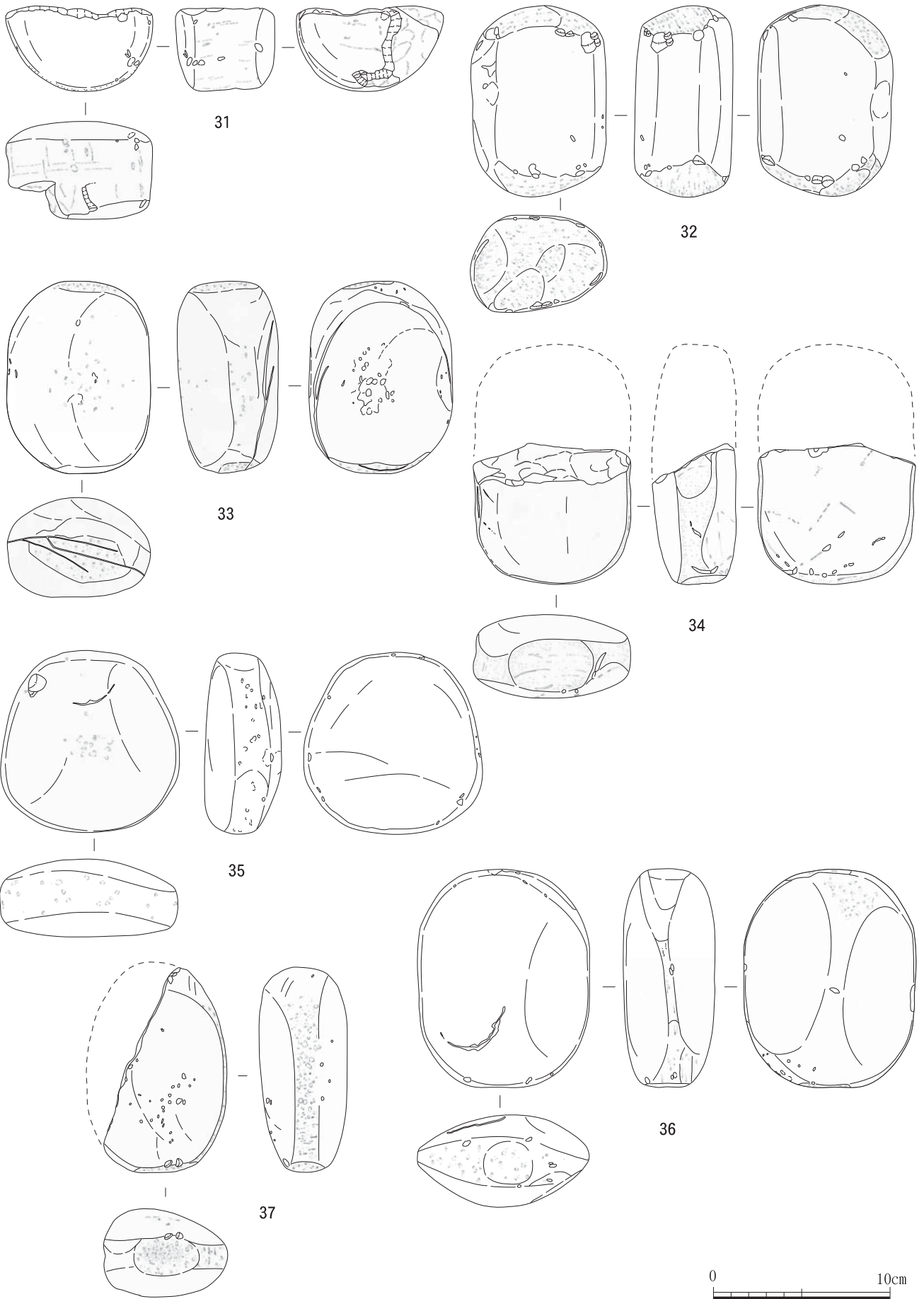
图版51 石器3



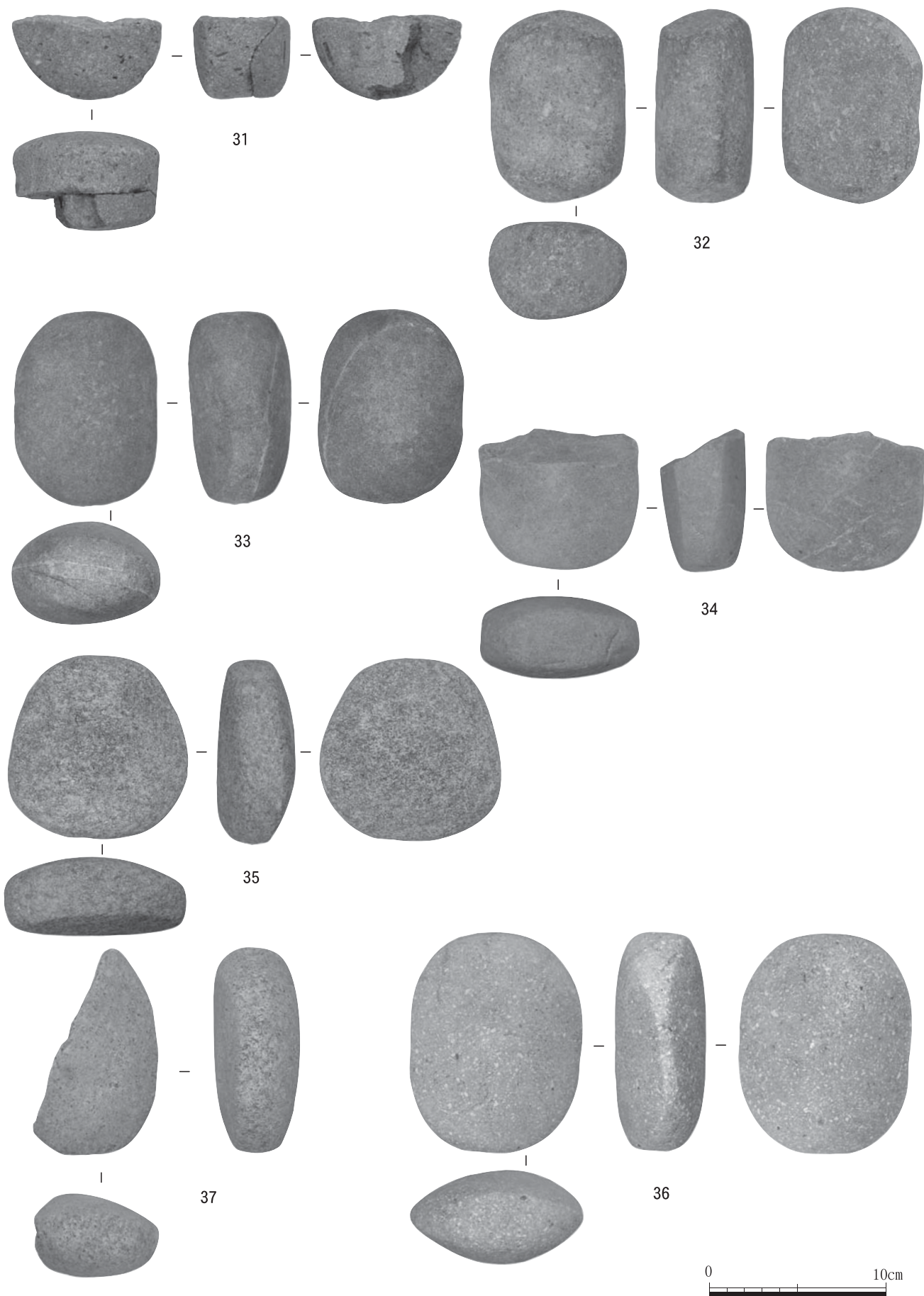
第66図 石器4



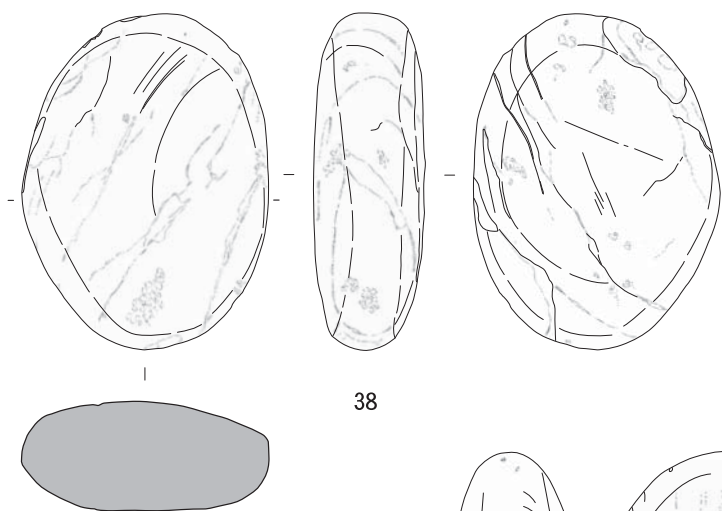
图版52 石器4



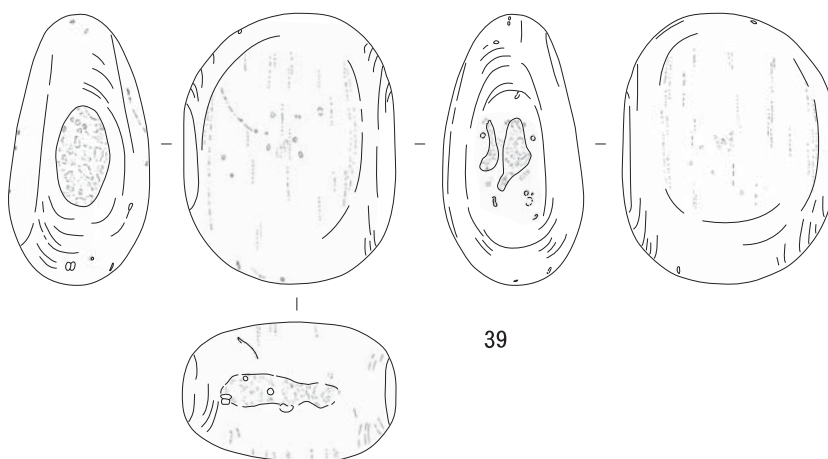
第67圖 石器5



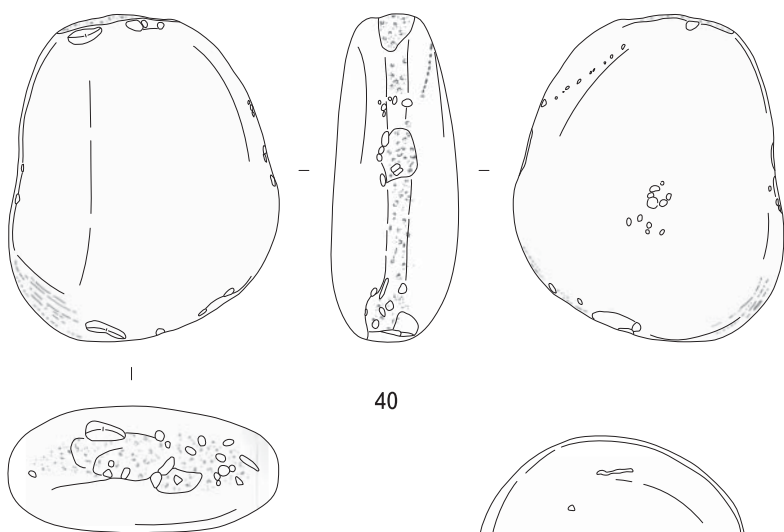
图版53 石器5



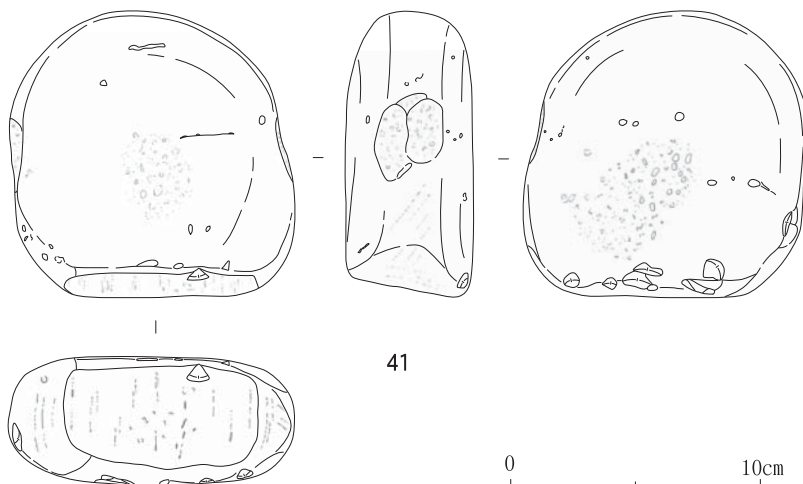
38



39



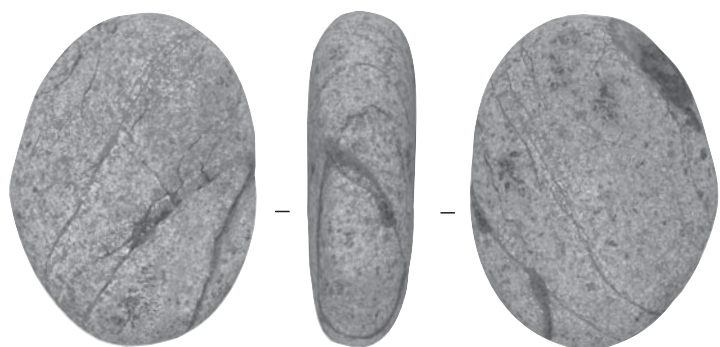
40



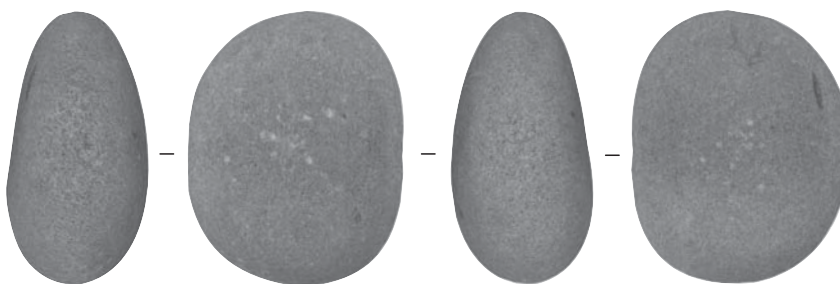
41



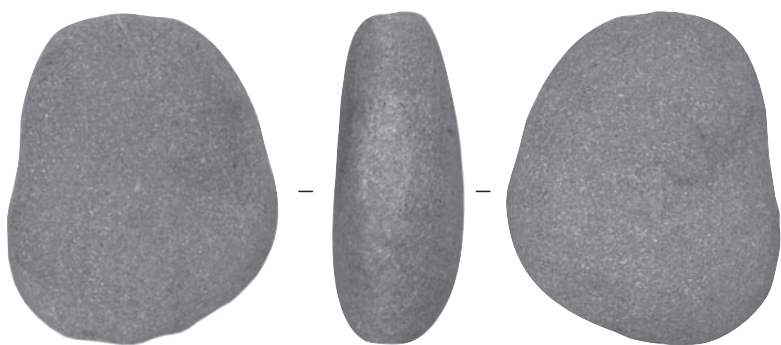
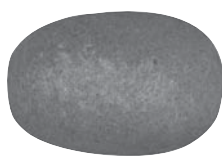
第68図 石器6



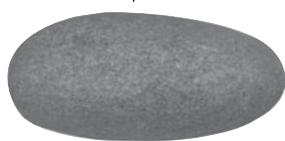
38



39



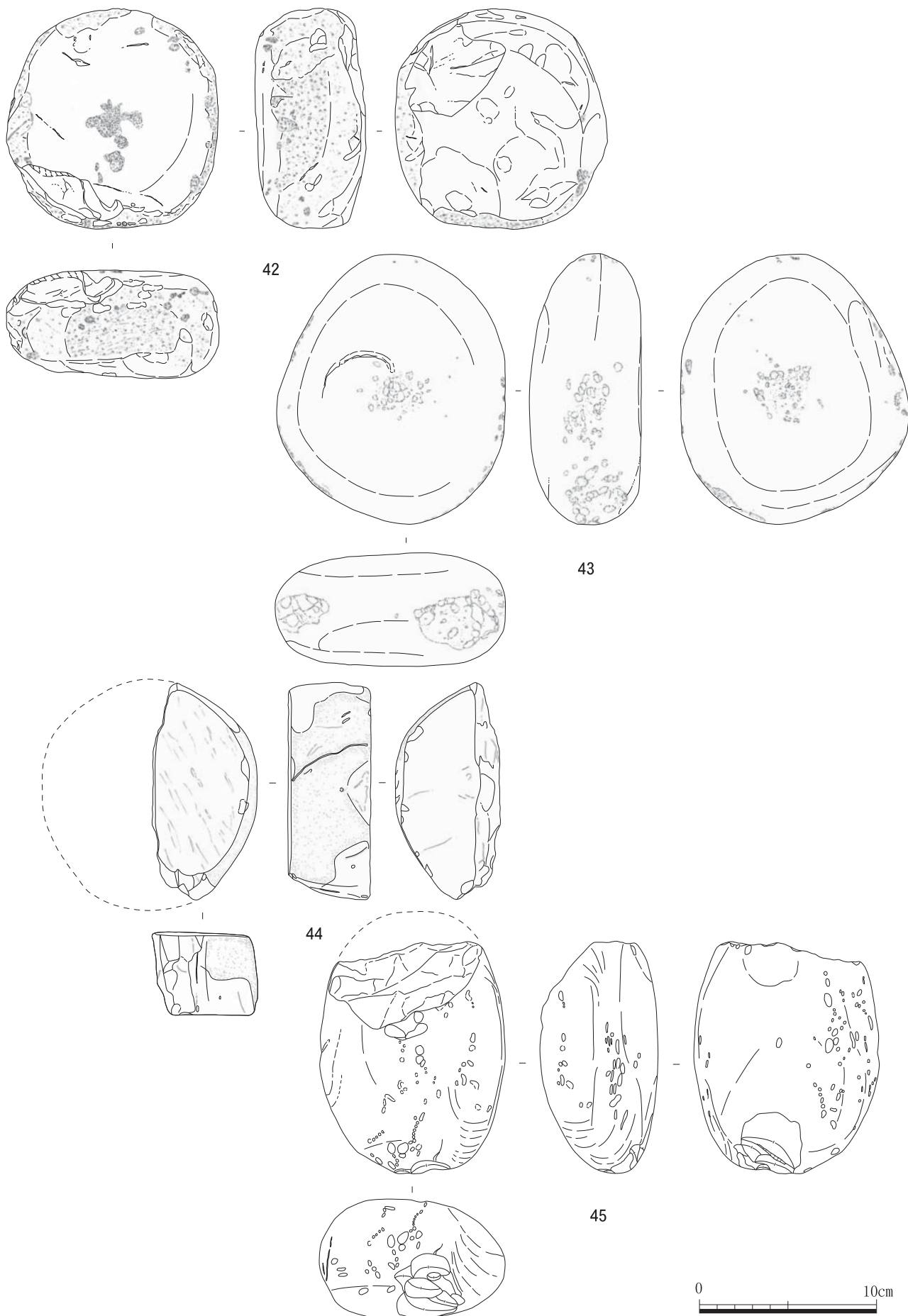
40



41



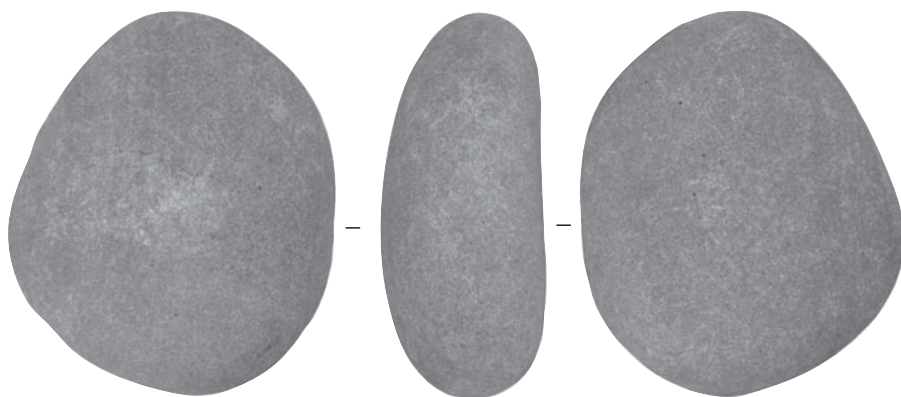
图版54 石器6



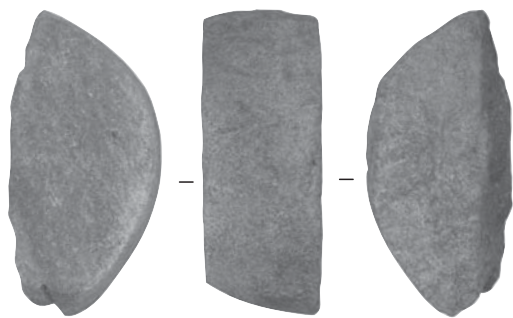
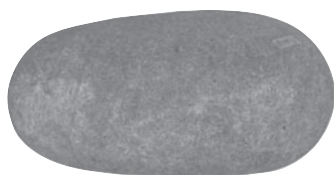
第69圖 石器7



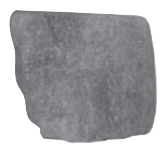
42



43



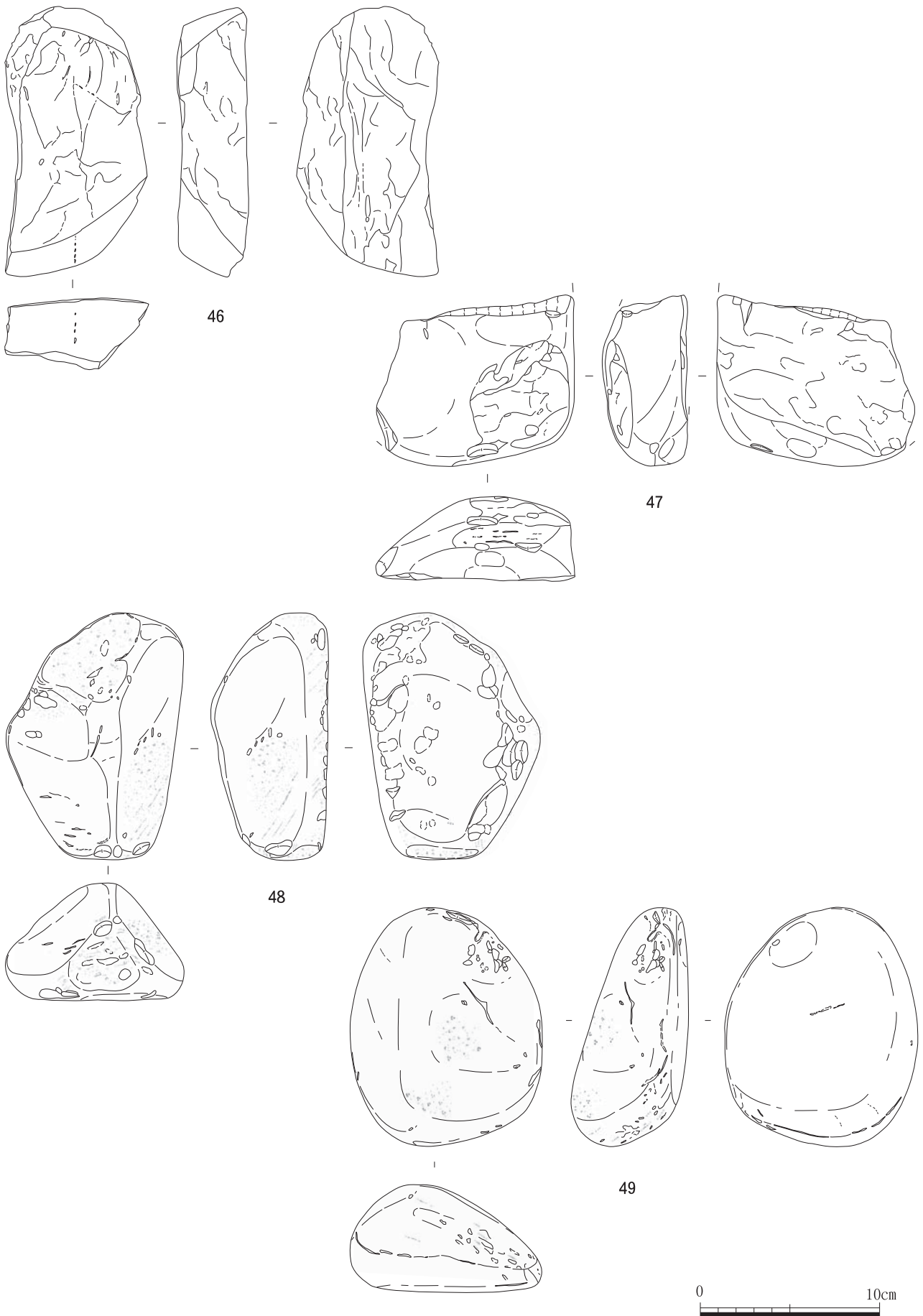
44



45



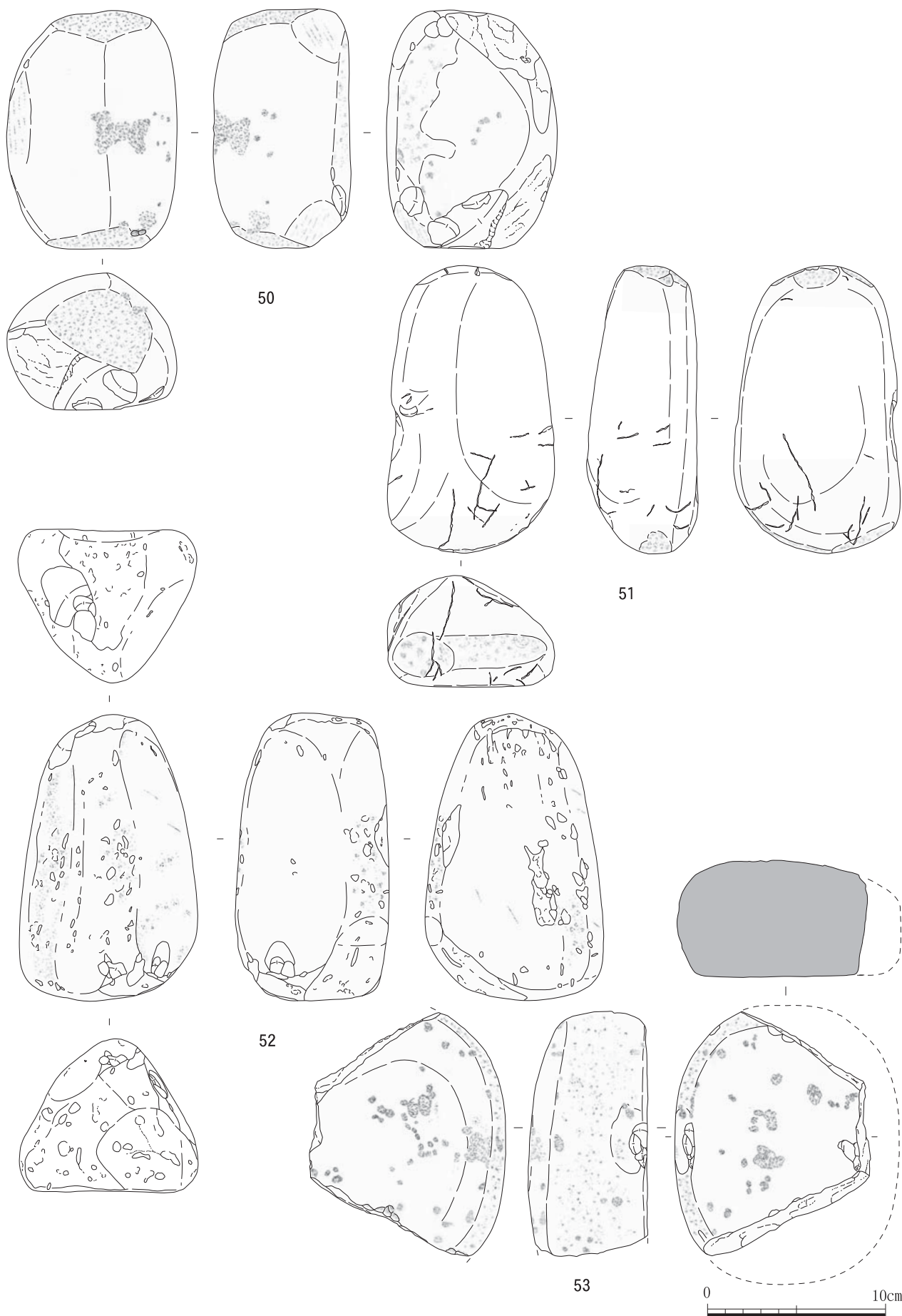
图版55 石器7



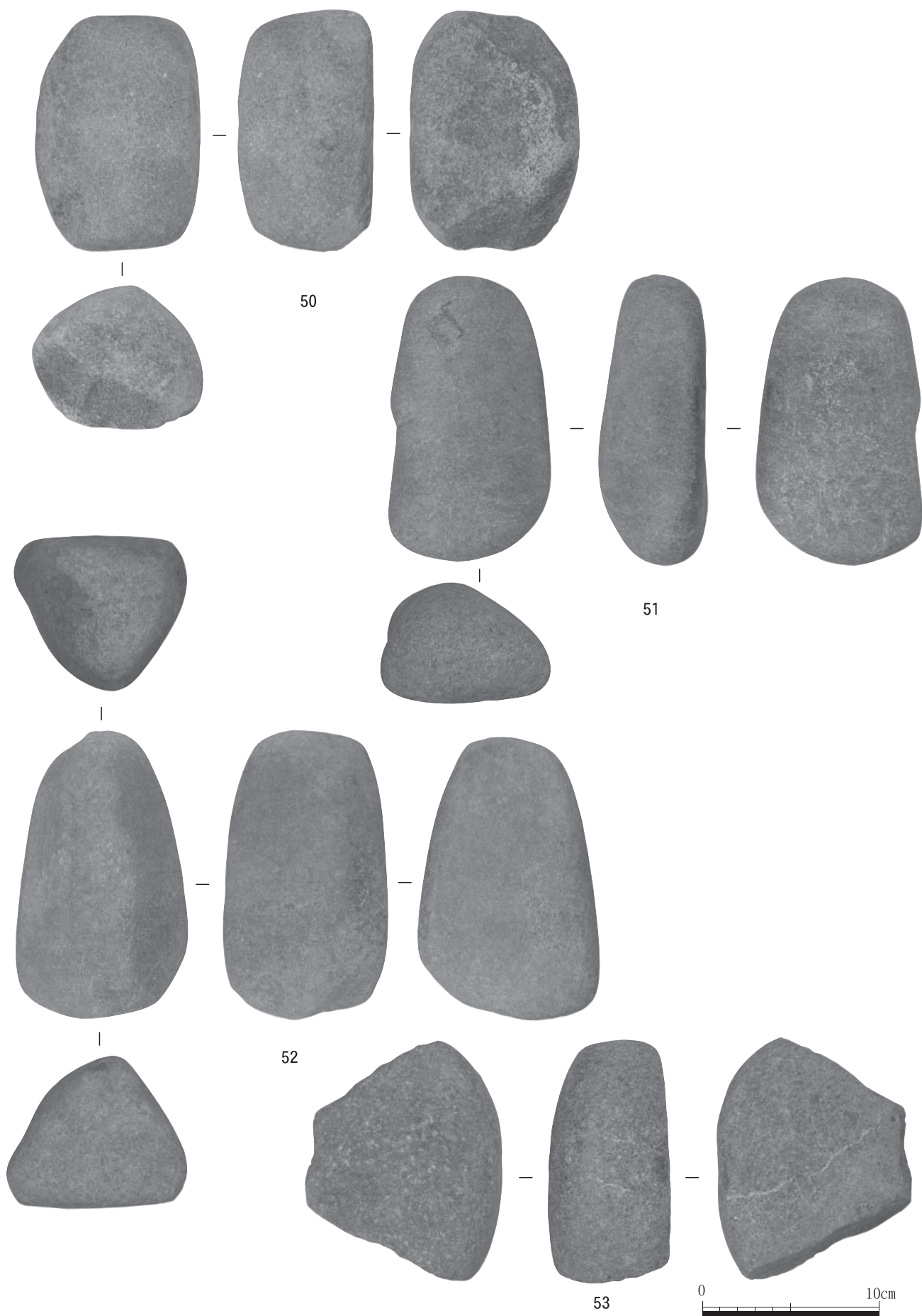
第70図 石器8



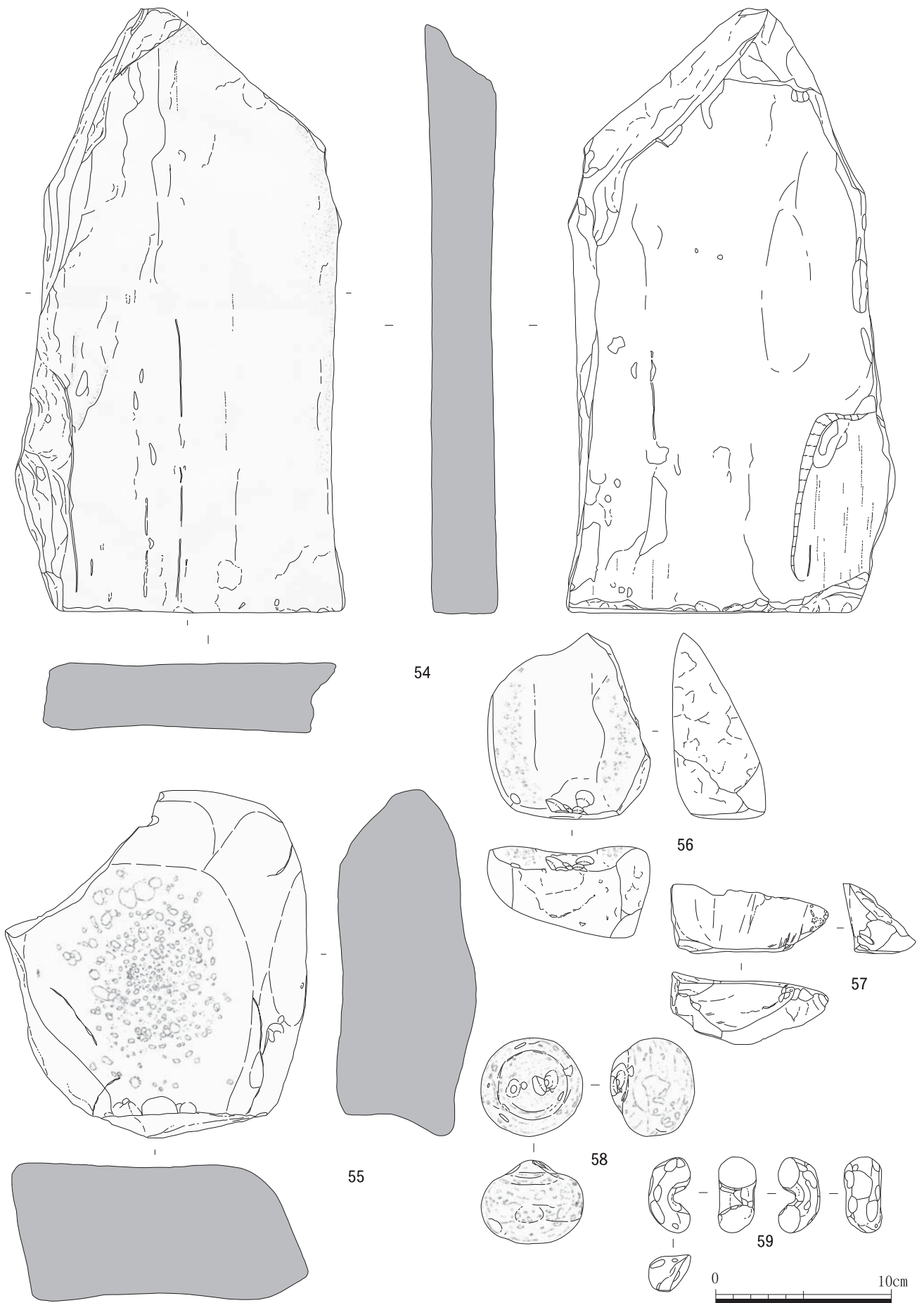
图版56 石器8



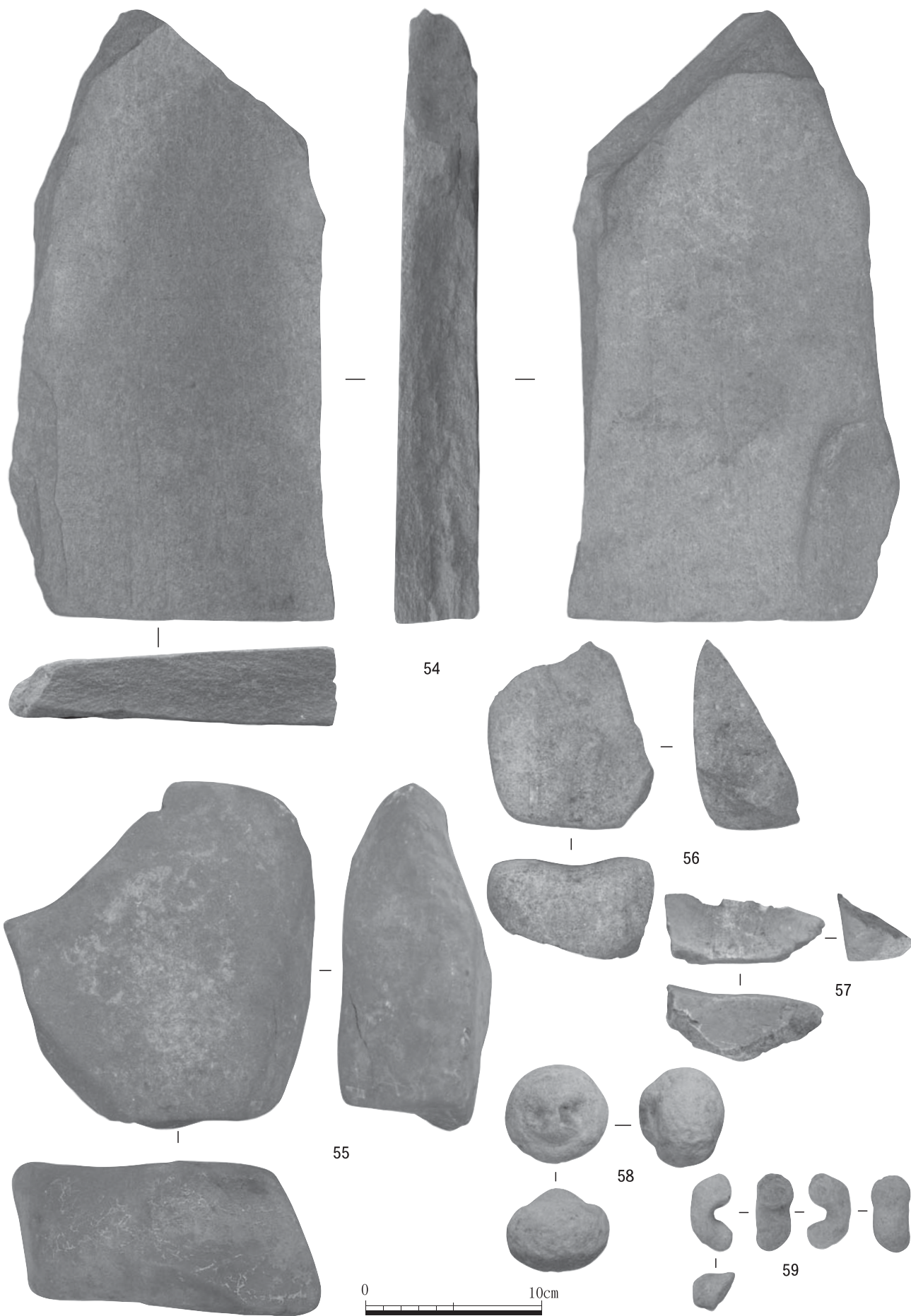
第71図 石器9



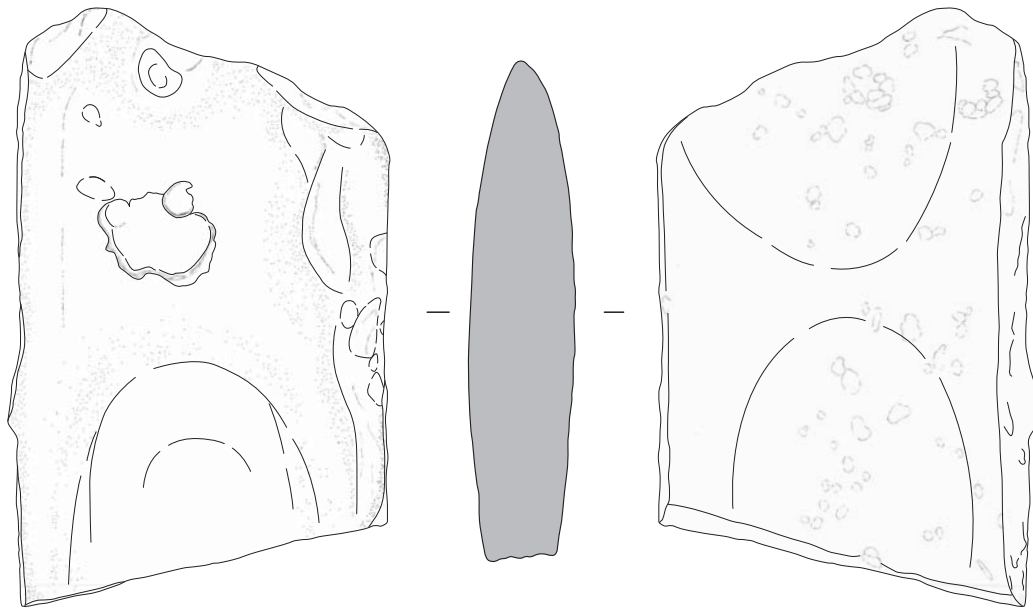
图版57 石器9



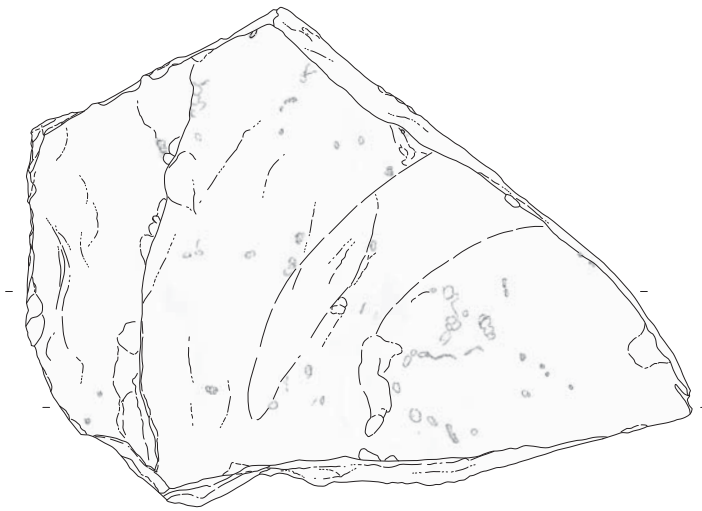
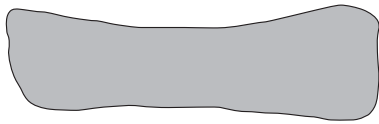
第72図 石器10



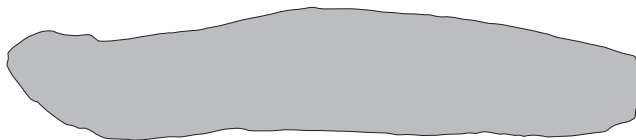
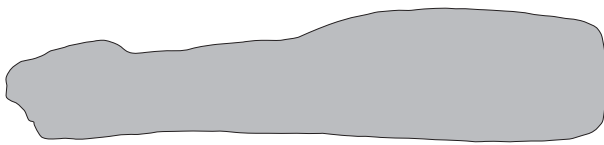
图版58 石器10



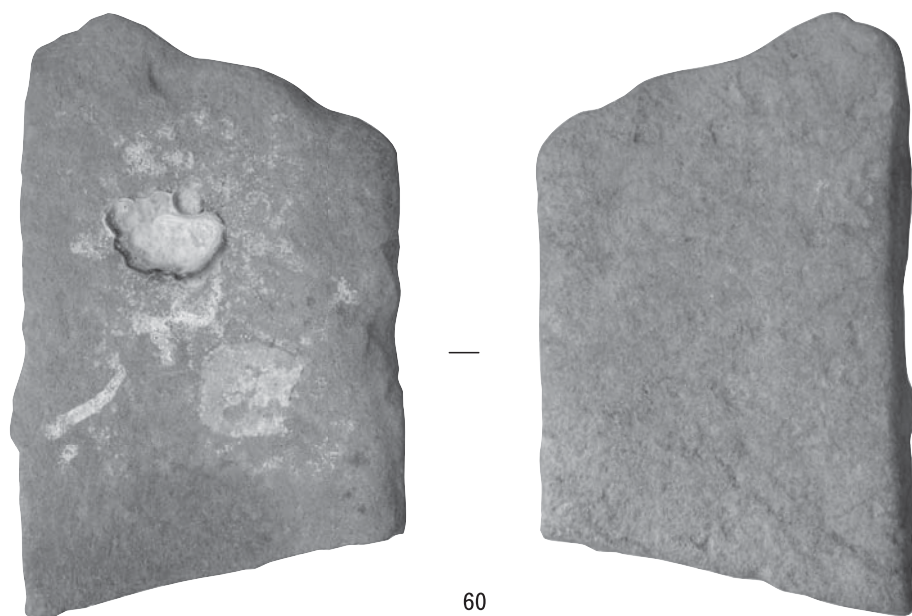
60



61



第73図 石器11



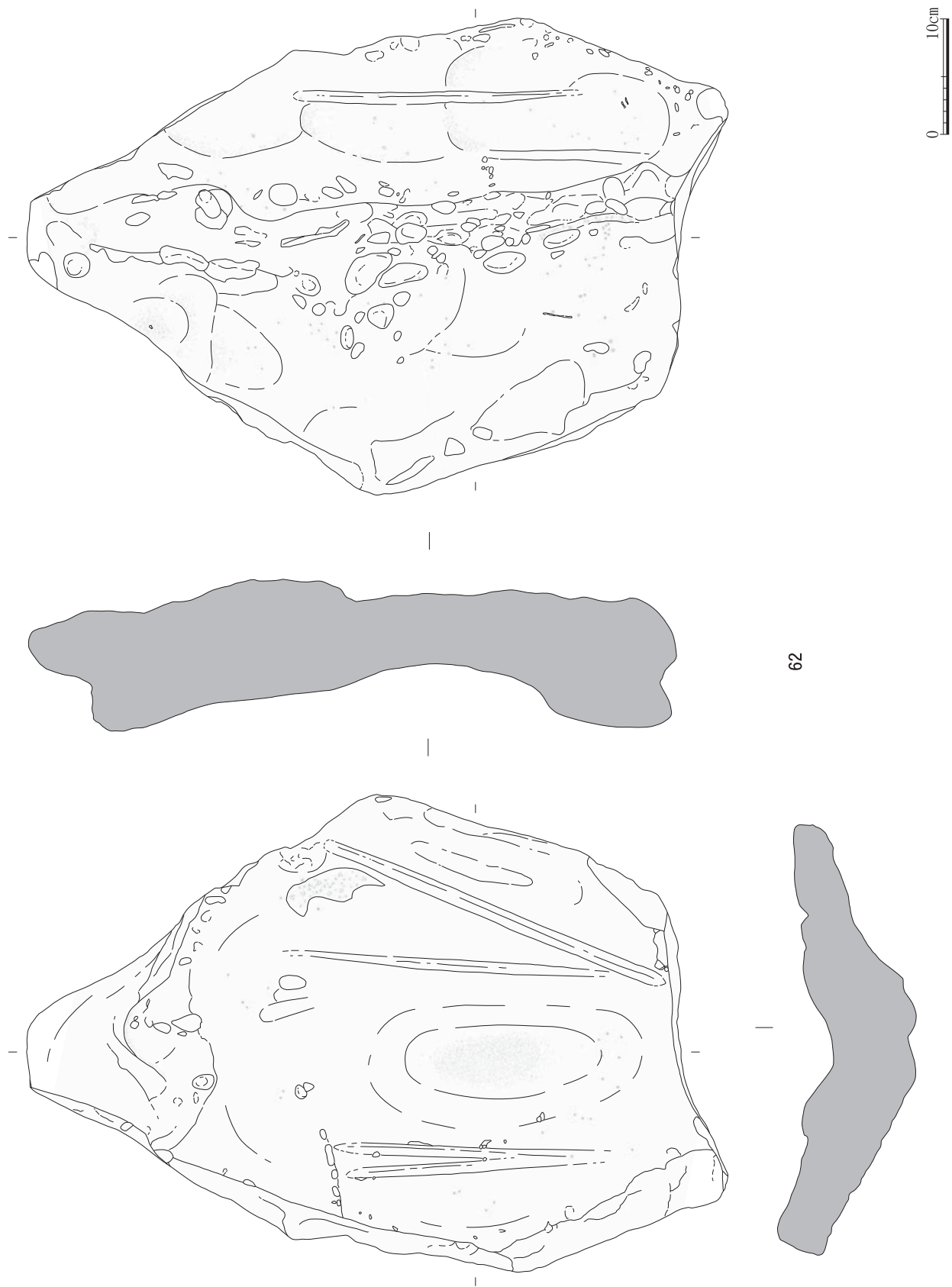
60



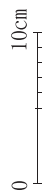
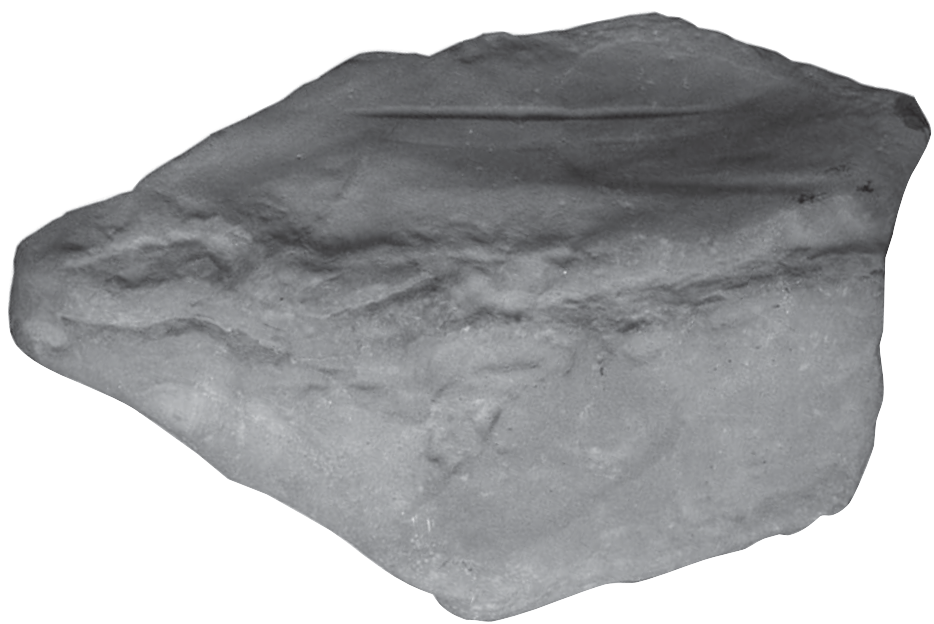
61



0 10cm



第74図 石器12



62

图版60 石器12

図3はこれまで報告したキャンプ桑江北側地区の遺跡出土の中では最も大きく、図4・5は前者より小さい。いずれもオオツタノハのような丁寧な研磨はなく、内外縁に打割を施すのみである。

しかし、図2は内縁に顕著な研磨が認められるもので、大きさは図3に近い。これらの出土地をみるとハ地区Q11・12で3個(図1・3・4)得られている。

B.二枚貝(シャコガイ)

図6はシラナミの左殻で輪状に加工するもので、蝶番部から幅2.5cmの厚手の貝輪と考えられる。本品から母貝を復元すると殻長13.0cm、殻高8.6cmが想定される。外殻と破損面に大きなアバタが見られることから死貝を用いたと考えられる。H19地区R18第IV層からの出土である。シャコガイを削り込んだ製品は伊礼原E遺跡(2013 第152図99)でも出土している。

第21表 貝輪(一枚貝・二枚貝) 観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	孔縦	孔横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小グリッド [*] 層 遺構 台帳番号
第78 図 ・ 図版 61	1	154	オオツタノハ	破	(12.0)	(8.0)	-	-	8.58	色残△	下縁の幅が1.7cmと貝輪では太い方。外殻は研磨顕著で成長線を露出。内殻は自然で、部分的に研磨有り。	ハ Q12 III SP30 台3338
	2	141	オオベッコウガサ	破	(8.7)	(7.5)	(7.0)	(6.2)	40.2	色残○	縁幅0.8cm、内外縁とも研磨。	ハ R12 IV 台3173
	3	150	オオベッコウガサ	完	8.7	7.3	6.5	5.3	16.55	色残○	縁幅1.0～1.1cmとやや不定。内縁は貝の成長線に沿うように粗い打割。外縁は上と下に若干の破損。外殻に僅かな研磨認められる。	ハ Q11 IV 取34 台34
	4	148	オオベッコウガサ	完	6.5	5.3	4.9	3.8	8.48	色残◎	縁幅0.6～0.9cm。上縁が細く、下縁が太い。内縁は粗い打割。外縁は下縁近くに細かい打割。	ハ Q11 IV 取177 台177
	5	510	オオベッコウガサ	破	(6.9)	(5.45)	(5.1)	(4.0)	6	色残○	縁幅1.5cm。内縁-打割が細かい。	H19 B20 IV 台219
	6	518	シラナミ	破	-	-	-	-	20	風化○ アバタ○	左殻、蝶番部。縁幅2.5cm。外殻及び腹(外)縁、内縁の研磨顕著、貝の成長線が若干残す。内殻自然面、蝶番部は研磨顕著。死貝。	H19 R18 IV 台1428

凡例: ()=推定サイズ、◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

C.巻き貝(ゴウホウラ・アツソデガイ)

ゴホウラとアツソデガイの背面を用いるもの(背面型)と腹面を用いるもの(腹面型)があり、各々2点出土した。これらは、南海産貝輪交易(木下1996)の対象とされる遺物で、完成品と未製品がある。以下、型式ごとに略述する。

a. 背面型: 図7はゴホウラの背面を用いたもので、研磨は丁寧で完成度は高い、貝輪の幅はやや太めで、内殻は自然で、数個のアバタが確認される。

図8はアツソデガイの背面を用いたものでほぼ完成品である。貝輪の幅は1.8～2.6cmと太めで、螺塔部の内外面、内外縁は顕著に研磨され、研磨面は丸みを帯びる。

b. 腹面型: 図9はほぼ完成品で、破損するが腹面を割りと、内外縁とも研磨が顕著で断面は舌状を呈する。諸岡型に酷似。同じような製品は伊礼原遺跡(2007)で報告されているが、本品はやや太く、一大結節の名残が明瞭であることを考慮すると、まだ未完成の可能性が高い。H19地区S18第IV層の出土である。

図10は未製品で内縁についてみると、腹面は敲打が顕著で背面は粗割調整のみである。加工についてみると大結節周辺ではヘビガイのクリーニング途中であるが、研磨面も三方に確認できる。

H19地区T20第V層の出土である。

上記2点は貝集積SS01近くで出土している。

c. 有孔製品：ゴホウラとアツソデガイの背面と腹面に粗孔を施すもので、貝集積（SS01、SS02、SS03）など南海産貝輪交易に関連する遺物である。（木下1996・島袋2004）

図11はゴホウラの背面頂部に2.0cm弱の粗孔を施すものである。背面はへビガイの付着状況をみると、背面頂部から前溝孔にかけては削りとられ、殻頂側にはへビガイの残る率が高い。この種の加工品は上唇部も打割調整されることが多いが、本品は腹面に貝色が残り、加工痕は見られない。内唇にゴカイが付着し、外唇周辺はアバタが多い。背面型貝輪の粗加工品と考えられる。近接する伊礼原D遺跡からは粗孔はないもののゴホウラのクリーニングの段階を示す資料が得られており、貝交易のため、あるいは貝輪加工の前段階として、ゴホウラに付着したへビガイをクリーニングしたことがわかることから、在地の貝交易への関わり方の一端が窺える。

図12はアツソデガイの腹面に3.3×2.7cmの粗孔を施したものである。貝殻は風化が著しく、背面にへビガイやアバタが顕著に見られる。他に加工痕は認められない。腹面型貝輪の粗加工品と考えられ、いずれも貝交易のための加工品と思われる。

第22表 貝輪（巻き貝）観察一覧

（法量単位：cm、g）

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完 破	縦	横	孔 縦	孔 横	重 さ	貝状態	観察事項	地区小グリッド 層 台帳番号
第78 図・ 図版 61	7	487	ゴホウラ 背面型	破	-	-	-	-	9	内面にアバ タ数個	貝輪の縁幅1.6～2.1cmとやや太め、厚0.2～0.3cmと不定であるが、貝の属性に起因。全面研磨。	H19 B1 IV 台129
	8	153	アツソデガイ 背面型	完	11.8	8.5	4.9	4.3	92	風化△	縁幅1.8～2.6cmで太めの輪状で、さらに研磨するかは不明。外縁が研磨、内縁が打割と研磨が認められる。内外殻とも自然面の方が多いが、螺塔部の内外面は研磨が顕著である。	ハ Q11 IV 取83 台83
	9	486	ゴホウラ 腹面型	破	-	-	-	-	48	へビガイ△ アバタ△	縁幅1.35～2.85cm、太めの貝輪である。腹面型の諸岡型に近い。一大結節部研磨顕著、研磨面の稜を残す。螺塔・螺旋部の研磨も顕著。内外縁は顕著な研磨で両面から細くなるが、特に内殻からの研磨が顕著、丸味のある道具を用いる。	H19 S18 IV 台720
	10	488	ゴホウラ 腹面型 未製品	完	12.4	67.5	4.2	3.1	193	へビガイ△ 色残△	未完成のため、縁幅2.3～5.3cmを測る。側面-大結節を中心研磨明瞭。背面側にへビガイクリーニング痕あり。螺旋部は粗割調整。孔-腹面：楕円、敲打。背面：楕円、粗割。	H19 T20 V 取1290 台1290
第79 図・ 図版 62	11	485	ゴホウラ	完	16.9	12.8	1.9	1.8	600	へビガイ○ アバタ○ 腹縁-色残	成貝。背面頂部に2.0cm前後の隅丸形状の粗孔。背面はへビガイが付着するが、背面頂部付近は削られクリーニングされる。	H19 S17 V 台170
	12	481	アツソデガイ	完	12	8.6	3.3	2.7	240	へビガイ◎ アバタ◎ 風化○	腹面に打割による粗孔。	H19 B1 IV 台130

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、△=僅少、×=なし

(2) 貝玉

図13は小型のイモガイの螺塔部を用いたもので、外殻面は風化が著しく加工面は明瞭でない。内殻を凹面状に研磨する。厚さ0.25cmと薄手でこのような形状の例は少ない。中央の孔は0.3cmを測るが、風化のため人工か自然かは判断できない。H19地区A19第IV層の出土である。

図14はマガキガイの螺塔部を打割調整したもので、貝玉の未製品と思われる。H19地区R15第III層P40の出土であるが、遺物の所属は貝塚時代後期と考える。

(3) イモガイ未製品

図15はアンボンクロザメなどの大型イモガイを加工したもので、未製品である。螺塔部を研磨するが、肩部はまだ自然面を残し、殻頂を打割で穿孔するものである。体層は一部を残し、外唇から三分の一を打割、内唇溝が露出する。おそらく円盤状製品の製作途中と思われる。

第23表 貝玉・イモガイ製品観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	孔縦	孔横	重さ	貝 状態	観察事項	地区 小グリッド層 遺構 台帳番号
第79 図・ 図版 62	13	335	イモガイ	完	2	2.2	0.3	0.3	1.5	風化 ○	小型のイモガイ螺塔部。外殻は風化、内殻を凹面状に研磨。厚さ0.25と薄手。中央の孔も風化のため、人工か自然か不明。	H19 A19 IV 台1445
	14	509	マガキガイ	完	2.7	2.6	—	—	12	色残	螺塔部を用い、体層側を打割調整し平坦にする。殻頂は突起は欠損することから、穿孔途中かと推察される。	H19 R15 III P40 台54
	15	334	アンボンクロザメ? 未製品	完	6.5	6.1	0.8	1	90	風化 ○	螺塔部は研磨、殻頂は打割による穿孔。肩部は自然面を残す。体層は外唇から3分1程打割、内唇溝が露出する。	H19 B1 IV 台187

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

(4) 貝符

図16は大型イモガイを用いたもので、いわゆる南島型（木下1996）貝符である。平面はほぼ正方形で四隅に4個の孔を配すもので、各辺の中央に「M」字状の抉りを施す。孔は両面から回転で穿孔され、外殻面は研磨が顕著で、内殻面は凹部に自然面を残す。紐ずれをみると上位の孔は外殻面が中央方向、内殻面が外縁方向に確認され、下位の孔には紐ずれがみられないことから、図のような紐の装着が想定される。貝殻の成長線は外殻面で縦位、横側面では同心円状に確認でき、湾曲からイモガイの殻径は4.3cm前後と推定される。縁厚は下端0.5cm、上端が0.4cmを測る。土サンプル（黒色土層）の水洗いからの採集で、H19地区S18第IV層の出土である。類例は野国貝塚（1984）で報告されている。

(5) 巻き貝製品

A. ウミウサギ

後端と前端に穿孔するもので、第IV層と表面採集で各々1点の計2点得られた。

孔は横位に研磨して穿孔（図17）するものと、打割により穿孔するもの（図18）がある。本品は伊礼原E遺跡（2010）、安座間原第一遺跡（1989）34号人骨壮年・男性・左手着装例、宮城島高嶺遺跡（1989）、住吉貝塚（2006）など貝塚時代前IV～V期の遺跡で報告されている。

第24表 巻貝観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝 状態	観察事項	地区 小グリッド層 遺構 台帳番号
第79 図・ 図版 62	17	514	ウミウサギ	完	7.6	4.6	56	風化 アバタ△	前端と後端近くを研磨して穿孔。孔の周縁に研磨面明瞭。孔径：前端0.4×0.4、円形。後端0.4×0.4、円形。	H19 T20 IV 台827
	18	515	ウミウサギ	完	9.2	5.3	76	色残○	前端、後端近くを打割で穿孔。孔は外殻→内殻、複数の打割有。前端B-0.4×1.55、楕円形。後端A-0.65×0.7、やや方形。	H19 I 台50
	19	145	マクラガイ	完	2.4	1.9	4.7	風化○	管玉状。腹面は殻口に合わせて水平に研磨し、背面と外唇側には文様が施される。文様は幅0.2cmの浅い凹文を2条、烈点文6個を施す。烈点文の大きさは、径0.15cmが5個、径0.3cmが1個配される。	^ T10 III SP14 台3805

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

B.マクラガイ

マクラガイの螺塔部及び体層の端部を切り取り、管玉状に加工したものである。背面と外唇側には文様が施される。文様は凹文を横位に2条、その下位に烈点文を6個施すものである。

類例は久米島清水貝塚（1989）、本部町兼久原貝塚（1977）の貝塚時代後期中頃に出土し、種子島広田遺跡（2003）では古墳時代の埋葬人骨に伴って検出されている。

(6)タカラガイ製品

ハナビラダカラの背面を除去したもので、研磨が施されており、貝種から装飾品に含めた（島袋1997）。図20は除去した背面を水平に研磨するが、図21は背面の除去のみで自然欠損の可能性も否定できない。

第25表 タカラガイ製品観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小グレット 遺構 台帳番号
第 79 版 図 62	20	190	ハナビラダカラ	完	2.4	1.7	2.27	色残○	背面切り取り、水平に研磨。殻軸が残る。	ニ P7 IV SP12 台2763
	21	322	ハナビラダカラ	完	2.7	2	4	色残○	背面-欠落、殻軸あり。背面は複数の打割、	イ C11 III 台2454

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∟=僅少、×=なし

2. 実用品と考えられるもの

ヤコウガイの容器2点、貝匙12点、未製品3点、製品の切り取り残存部7点、ホラガイ有孔製品9点、貝皿1点、貝包丁2点、螺蓋製貝斧8点、ヤコウガイ有孔製品2点、二枚貝有孔製品351点、スジガイ製品1点の計398点得られた。他にパイプウニ製品1点得られたが、便宜上ここで報告する。

(1) 容器

ヤコウガイの貝殻をそのまま利用したもので、伊礼原D遺跡（2013第61図33）が初例である。2点得られ、図22はヤコウガイの殻口を打割調整し、ほぼ水平にしたものである。外唇の瘤はわずかに研磨される。ほかに小ぶりのもの（製624）が出土している。

第26表 ヤコウガイ容器観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小グレット 層 台帳番号
第 80 版 図 63	22	619	ヤコウガイ	完	15	18.5	832	アバタ○	外唇の瘤はやや研磨、他は打割。殻頂は破損、真珠層露出、稜は大きく打割し、平滑に調整。老貝、容量460cc	イ A14 IV 台3164
版 なし 図	—	624	ヤコウガイ	完	14	14	495	ヘビガイ○	外唇から臍の一部、打割。殻頂研磨か摩耗。やや若い貝殻。容量260cc	H19 P16 VI 台873

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∟=僅少、×=なし

(2) 貝匙

ヤコウガイの殻口近くの体層を匙状に加工したもので、第II層で2点、第III層で4点、第IV層で6点の計12点の出土である。いずれも背面型で完形1点、身8点、柄3点の出土である。本品以外に腹面型の貝匙が出土しているが、形状からグスク期のものとした。（第4節(15)貝製品 第124図1）

図23は完形で、殻口側が柄に相当する。伊礼原D遺跡（2013 第60図28）と同じように無柄タイプであるが、比較すると本品は外殻面の稜は研磨され、中でも螺塔側は真珠層が露出する。匙の縁は研磨調整が主であるが、わずかに打割痕がのこる。素材貝は前出の伊礼原D遺跡より大きい。

図24は外殻の稜及び臍部を顕著に研磨したものである。貝匙の柄か身かは明瞭でないが使用部位を考慮すると柄の可能性が高い。近世遺構（SK62）の出土であるが、所属時期は貝塚時代後期と判断される。

図25は貝匙の身の先端で、匙の縁は丸みを帯び、外殻の稜を大きく割りとしたのみで他に加工は見られない。前2者に比べて加工はやや粗く、粗加工段階と思われる。

・未製品

未製品は3点出土した。製38は背面部で稜の部分に粗い打割、製56は殻口近くに穿孔されるが、周縁は自然の割れ、製72は体層で打割が複数確認されるもので集計のみに示した。いずれも第Ⅳ層の出土で製38がニ地区09、製56がハ地区Q12、製72がハ地区P12で得られた。

・切り取り残存部

貝匙をつくるために残った貝殻で、打割など加工の痕跡の残るもの7点得られ、集計に示した。

第27表 貝匙観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 遺構	小グリッド層 台帳番号
第80 図版63	23	149	ヤコウガイ	完	16	8.3	164	アバタ△	背面型c。深さ3.6cm、200cc。	ハ R11 取163	Ⅳ 台163
	24	255	ヤコウガイ	柄	—	6.1	32	アバタ○	背面型。外殻は稜及び臍部を研磨。	イ A11 SK62	Ⅱ 台2497
	25	252	ヤコウガイ	身	—	—	34	アバタ○	背面型b。部の研磨顕著。外殻の稜に研磨痕。	イ D16 台2401	Ⅲ
図・ 図版なし	—	42	ヤコウガイ	身	—	—	130	アバタ△	背面型。稜に打割。	ニ	Ⅳ 台2768
	—	45	ヤコウガイ	身	—	—	23	アバタ○	背面型。体層部分の稜の研磨、真珠層露出。	ハ R11 台2702	Ⅳ
	—	46	ヤコウガイ	身	—	—	78	アバタ◎	背面型。体層部分、打割4回。	ハ R11 台42	Ⅳ
	—	47	ヤコウガイ	身	—	—	101	アバタ△	背面型。体層、打割はなし。真珠層。	ニ N9 台135	Ⅳ
	—	73	ヤコウガイ	柄	—	—	85	アバタ◎	背面型一柄。体層～殻口、外唇、打割・接合。	ハ Q12 台3166	Ⅳ
	—	76	ヤコウガイ	身	—	—	20	アバタ△ ヘビガイ△	背面型一身。体層が厚く、貝は大きい。	ニ N10 台3946	Ⅲ
	—	77	ヤコウガイ	身	—	—	17	アバタ△	背面型-身。体層。研磨有。	ニ — 台3964	Ⅲ
	—	91	ヤコウガイ	柄	—	—	5	アバタ×	背面型一柄。殻口。	ハ T8 SD08	Ⅲ 台3816
	—	92	ヤコウガイ	身	—	—	58	アバタ○	背面型-身。体層・粗割。	ハ R12 SP21	Ⅱ 台3436

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∟=僅少、×=なし 分類：伊礼原D遺跡（2013）に準ずる

(3) ホラガイ有孔製品

ホラガイの内唇に2.0cm前後の粗孔を1～2個施し、さらに殻頂を丸くするもので、9点出土した。殻頂近く研磨するものが2点得られている。これらはいずれも貝塚時代後期の出土で、図26は柱穴から出土した。大きさについてみると大（図27・29・製425・623）、中（図26・製188・189）、小（図28）があり、容量は大が460～700cc、中が120～190cc、小が50ccを測るが、小に関しては実用品の使用としては疑問が残る。以下、殻頂の加工状況で略述する。本品は民具事例から薬缶（上江洲1973）の用途が想定されるが、小についてはそれには当たらず、機能について明瞭でなく、今後の資料を待つて検討したい。

A. 殻頂研磨

図26・27は殻頂近くを研磨するもので、図26は体層部を大きく破損するため、内唇の粗孔は1個か2個か不明。殻頂の加工をみると上下面とも弧状の工具で横位に擦るもので、その結果、穿孔する。下面方が抉りは深い。

図27は体層部を破損し殻頂が丸みを帯びるもので、内唇に1孔を有する。孔は滑層に施され、他より深い。殻頂近くの螺旋部の凸面を3カ所研磨する。上下面の研磨の範囲は約5cm、さらにその

側面に丸みのある研磨が認められる。

両者は研磨の位置はほぼ同じであるが、その施し方が異なり、研磨の意味は不明瞭である。類例は嘉門貝塚B（1993）、アンチの上貝塚（2009）に報告がある。後者は「ホラガイ不明研磨製品」と報告されているが、本品の形状から有孔製品と判断される。

B. 殻頂丸味（摩耗）

殻頂が丸味を帯びるもので小さいもの（図28）と大きいもの（図29）の2点を図化した。図28は殻径が6.5cm、図29は殻径11.3cmを測るもので、いずれも孔は1個である。孔の大きさはほぼ同じである。孔の位置はいずれも滑層より外側に施される。

第28表 ホラガイ有孔製品観察一覧

（法量単位：cm、g）

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完 破	縦	横	孔 縦	孔 横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小ケリッド [※] 層 遺構 取上番号 台帳番号
第81 図・ 図版 64	26	423	ホラガイ	破	—	—	—	—	106	色残○	体層部破損のため、孔は1個か2個か不明。殻頂近くを上下面研磨、その結果、孔。研磨は「U」字状の工具を用いる。	H19 R17 IV P2 台1107
	27	422	ホラガイ	3/4	25	—	2.1	2.4	234	色残△	外唇～体層破損、殻頂丸み。1孔タイプ、滑層に穿孔。打割による楕円、外殻→内殻。殻頂近くの螺旋部の凸面を3カ所、研磨。研磨の範囲は約5cm。側面は研磨面が丸みを帯びる。	H19 A20 V SS004 取1103 台1103
	28	618	ホラガイ	完	15.6	6.5	2	2	106	色残△	殻口未調整、殻頂丸み。1孔タイプ。孔は滑層より外側。容量50cc	H19 P15 IV 取196 台3167
	29	424	ホラガイ	完	29.5	11.3	2.1	2.6	355	色残△	殻口未調整、殻頂丸み。1孔タイプ。孔の位置は滑層より外側。460cc	I A13 IV 台430
図・ 図版 なし	—	421	ホラガイ	完	24	9.7	2.1	2.7	227	風化○	体層破損、殻頂摩耗。1孔タイプ。	H19 A20 V 取1433 台1433
	—	425	ホラガイ	破	27.5	—	3.5	3.4	327	アバタ [◎] 風化○	外唇～背面破損。1孔タイプ。	H19 S18 V 取657 台857
	—	623	ホラガイ	完	27.7	12.2	4	4.5	398	風化○	背面わずかに破損。1孔タイプ、孔は大きく、楕円。殻頂丸み。容量700cc	H19 R18 V 台872
	—	188	ホラガイ	完	23.5	9.4	3.1	2.5	183	色残△	殻頂わずかに欠、背面にヒビ。1孔タイプ、やや楕円、滑層より外側に穿孔。容量190cc	ハ Q12 IV 台2801
	—	189	ホラガイ	完	21.5	8.8	2.8	2.7	209	色残△	殻頂わずかに欠損。1孔タイプ、滑層から体層にかけて穿孔。隅丸方形。・孔は複孔。容量120cc	ハ R11 IV 台70

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

(4) 貝皿

図版63-①（製102）はヒメジャコで、腹縁を摩耗するもので、他に加工痕は認められない。殻長11.5cm、殻高8.1cm、重さ169.5gを測る。貝の大きさに比べ重い。これらの状況から貝皿の可能性が考えられるため、写真のみを掲載した。ハ地区R11第IV層の出土で取上331（第11表）、標高2.8mと低い。

(5) 貝包丁

クロチョウガイを方形状に加工したもので、腹縁部分を直線状に整えたものと腹縁部分を内外殻から研磨したものの2種がある。

腹縁を直線状に加工し方形にし、刃部は丸味を帯びるもの（図30）、また腹縁部を外側から研磨して刃状にしたもの（図31）がある。刃の形状は異なるが図30は住屋遺跡（1983）に類似する。

第29表 貝包丁観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小ヶリット ^ト 層 台帳番号
第 81 図 ・ 図 版 64	30	146	クロチョウガイ	完	8.3	7.0	23	色残○	全形は方形に整え、腹縁は直線呈するが断面はやや丸味を帯びる。殻頂近くは剥離し、真珠層露出。	ニ IV 台2768
	31	147	クロチョウガイ	完	9.0	8.2	41	色残○	全形は自然貝の形状を残すが、殻頂は破損。腹縁部分を内外殻面から研磨、刃状を呈する。	ハ R11 IV 取331 台331

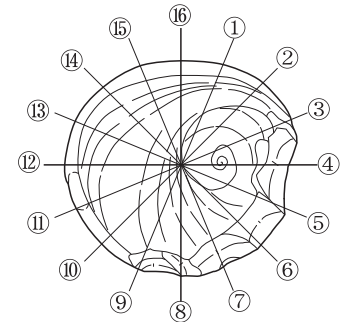
凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

(6) 螺蓋製貝斧

ヤコウガイの蓋の薄い部分を連続して剥離するもので、第Ⅱ層で1点第Ⅲ層の柱穴で1点、第Ⅳ層で4点（うち柱穴1点）、第Ⅴ層で2点の計8点の出土である。

大きさは縦が6.2～7.95cm、横が6.9～8.9cmがあり、そのうち最も小さいもの(図32)、最も大きいもの(図34)、附刃が深いもの(図33)の3点を図示した。

図34は軸頂部にも打痕が認められる。附刃は一方向(A)、二方向(B)に分類(伊礼原E遺跡2010)でき、観察一覧に示した。



『シヌグ堂遺跡』(1985)

第75図 ヤコウガイの蓋附刃分布

第30表 螺蓋製貝斧観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	完破	縦	横	重さ	貝状態	観察事項	地区 小ヶリット ^ト 層 遺構 台帳番号
第 80 図 ・ 図 版 63	32	433	完	6.2	6.9	102	色残△	附刃A：④-⑩	H19 B1 V 台125
	33	431	完	7.7	8.0	190	色残△	蓋自体が自然に湾曲。附刃A：④-⑩	H19 C17 III P14 台963
	34	432	完	7.95	8.9	209	アバタ・風化△	刃も摩耗、製品後風化。附刃B：③-⑩⑫⑮	H19 T13 IV 台702
図 ・ 図 版 なし	—	442	完	—	8.2	176	色残○	附刃A：⑤-⑩	H19 S13 V 台367
	—	444	3/4	—	—	137		附刃A：⑥-⑩	H19 Q16 IV 台1304
	—	113	完	7.5	7.4	142		附刃B：③-⑩、⑬-⑮	ニ L11 II 台4183
	—	114	完	7.8	7.3	164		附刃B：⑥-⑨⑪-⑬	ニ N9 IV 台3894
	—	115	完	7.9	7.4	182		附刃A：③-⑩	ニ N10 IV SP12 台4079

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

(7) ヤコウガイ有孔製品

ヤコウガイの殻を板状に切り取り、1.0～2.0cm前後の粗孔を施すもので、孔は外→内に穿かれています。背面(図36)と腹面(図35)の用いたものがあり、前者が49.8g、後者は14.9gを量る。

奄美大島マツノト遺跡(2006)では後述する二枚貝有孔製品と一括して出土している。前者がメンガイ類、後者がソメワケグリと出土した。本遺跡でも二枚貝有孔製品が多数出土しているため、同じような用途が想定される。このような製品は貝塚時代後期で数例出土しているが、奄美大島に比べて出土数は少ない。

第31表 ヤコウガイ有孔製品観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	縦	横	重さ	孔 縦	孔 横	貝状態	観察事項	地区 小ヶリット ^ト 層 取上番号 台帳番号
第 82 図 ・ 図 版 65	35	152	ヤコウガイ	完	48.2	42.6	14.9	1.4	1.17	色残△	腹面利用、周縁及び孔を打割調整。外殻突起は自然のまま。	ハ S10 IV 台2707
	36	151	ヤコウガイ	完	7.2	6.8	49.8	2.1	1.85	色残△ ヘビガイ○	背面利用。周縁は粗く打割後研磨。孔縁は打割調整、外殻自然のまま。	ハ R10 IV 取295 台295

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

(8) 二枚貝有孔製品

二枚貝の殻頂近くに1.0～2.0cm前後の粗孔を施すものである。伊礼原D遺跡で示したように下記の条件を2つ以上満たすものを「二枚貝有孔製品」として扱った。本品は漁網錘としての用途の可能性が高いが、貝種によっては別の用途の可能性（島袋2004）も考えられる。報告段階では前述の名称で報告する。

- a : 孔の穿孔時に複数の打割が見られるもの
- b : 孔に複数の切り合いがあること
- c : 腹縁に複数の剥離（使用痕）があること

層別の出土をみると第Ⅱ層34点、第Ⅲ層51点、第Ⅳ層232点、第Ⅴ層33点、下層1点計351点の出土で貝製品の中で最も出土が多い。

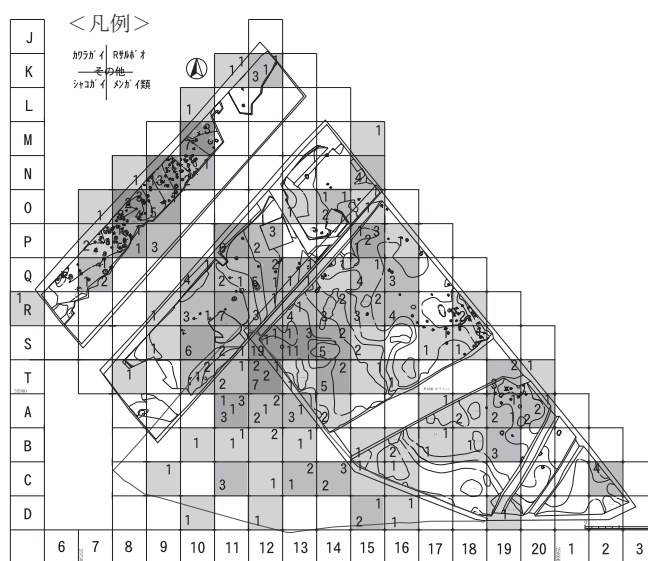
第Ⅱ層および第Ⅲ層出土のものはそのほとんどが遺構の出土で遺構構築による混ざり込みの可能性が高いことから、他の貝塚時代後期の遺物と同様、第Ⅳ層に属すると思われるので平面分布では出土層位に関係なく示した（第76図）。

貝種別にみるとシャコガイ（シラナミとヒメジャコ、ヒレジャコを含む、以下「シャコガイ」と記述）219点（62.39%）、リュウキュウサルボオ74点（21.08%）、カワラガイ16点（4.56%）、メンガイ類17点（4.84%）、リュウキュウマスオ11点（3.13%）、リュウキュウシラトリ8点（2.28%）、シレナシジミ2点（0.57%）リュウキュウザルガイ2点（0.57%）、リュウキュウバカガイ1点（0.28%）、ソメワケグリ1点（0.28%）の計351点の出土である。シャコガイ科が62.39%と最も多い。

第32表 二枚貝有孔製品貝種・重さ別出土量

貝種 重さ (g)	R・ザルガイ	R・サルボオ	R・シラトリ	R・バカガイ	R・マスオ	カワラガイ	シレナシジミ	ソメワケグリ	シラナミ	ヒメジャコ	ヒレジャコ	メンガイ類	合計
0～9	2	2	8	1	6	2		1	2	8			32
10～19		34			5	12	1		17	74		7	150
20～29		21				2			14	31		8	76
30～39		11							7	14	1	2	35
40～49		4							8	12			24
50～59		1					1		2	6			10
60～69		1								5			6
70～79										3			3
80～89									1	2			3
90～99									3	3			6
100～									2	2			4
200～									1	1			2
合計	2	74	8	1	11	16	2	1	57	161	1	17	351

R：リュウキュウの意



第76図 二枚貝有孔製品平面分布

平面分布（第76図）をみると10点以上の出土はS12周辺とN9周辺の2カ所に分かれ、S12では本品が一括して出土（SS05）、N9と08には貝塚時代後期の柱穴や一括土器（土器集中⑧）が得られている。両地域はIV類土器が主体となる場所で、SS05からは第47図70のIV類土器も搬出しており、本品の使用時期を示す貴重な資料である。

重量別にみると10～19gが最も多く、次に20～29g、30～39gと続く。これは隣接する伊礼原D遺跡（2013）と同様な傾向を示すものである。

近接する遺跡出土量と比較すると小堀原遺跡（2012）が30点、伊礼原D遺跡（2013）が237点、と本遺跡が最も多い。貝種の構成をみると（第77図）いずれの遺跡もシャコガイが最も多いという同

じような傾向を示す。これは若干の時期の相違はあるものの、前面の海岸の環境が同じであることから、一定の重さと数を必要とする網の錘に適した貝種を用いるためであろう（島袋2004）

シャコガイ有孔製品はグスク時代に属する北谷町クマヤー洞穴遺跡でも一括で35個得られ（中村1989）、民具事例（上江洲1973）と大きさを比較する（第22図）と、本遺跡出土のものは個数および大きさが小さいことから網の規模も小さくなると推定される。

(9) スイジガイ製品

図61はスイジガイの腹面の内唇側に1.5cm前後の粗孔を施し、突起の①⑤⑥をほぼ半欠、突起②③④を全欠したもので、他に加工痕はみられない。貝は背面が若干アバタを残し、腹面は貝色が残る。H19地区S18第V層の出土である。貝製品として扱うには疑問が残るが、今後の研究の深化により、明らかになると思われるので資料として掲げる。

(10) パイプウニ製利器

図62はパイプウニの棘の先端を鉛筆の先のように円錐状、さらに基部を丸く研磨したもので、完形である。長さ2.9cm、径0.9cm、重さ1.5gを測る。現生種の棘の長さが5cm程度あることから、本品はかなり削り込んでいると思われる。H19地区R17第V層の出土である。

パイプウニ棘の製品は貝塚時代後期の渡喜仁浜原貝塚（1977）から出土。本遺跡とは異なり、両側面から削り。平刃状を呈する。いずれも用途は不明。形状から利器の用途が想定される。

<引用・参考文献>

島袋春美 1997「県内出土の「タカラガイ製品」について」『南島考古』No.16 沖縄考古学会

島袋春美 2004「奄美・沖縄諸島の漁網錘の形態的研究（その3）」『南島考古』No.23 沖縄考古学会

中村 愿 1989「砂辺貝塚・クマヤー洞穴遺跡」『北谷町史』北谷町教育委員会

大島郡伊仙町教育委員会 1985『面縄貝塚群 第1貝塚 第2貝塚 第3貝塚 第4貝塚』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）

沖縄県教育委員会 1984『野国貝塚群B地点発掘調査報告』沖縄県文化財調査報告書第57集

呉屋義勝 1989「沖縄県真志喜安座間原第一・第二遺跡」『日本考古学年報』（1987年度版）日本考古学協会

沖縄県教育委員会 1989『宮城島遺跡分布調査報告-1.宮城島の遺跡分布 2.高嶺遺跡』沖縄県文化財調査報告書第92集

鹿児島県知名町教育委員会 2006『住吉貝塚』知名町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）

具志川村教育委員会 1989『清水貝塚』具志川村文化財調査報告書第1集

本部町教育委員会 1977『兼久原貝塚発掘調査報告』

広田遺跡学術調査研究会編 2003『種子島広田遺跡』鹿児島歴史資料センター黎明館

浦添市教育委員会 1993『嘉門貝塚B』浦添市文化財調査報告書第21集

本部町教育委員会 2009『瀬底島・アンチの上貝塚』本部町文化財調査報告書第9集

今帰仁村教育委員会 1977『渡喜仁浜原貝塚 調査報告書〔I〕』今帰仁村文化財調査報告書第1集

笠利町教育委員会 2006『マツノト遺跡』笠利町文化財調査報告書第28集

平良市教育委員会 1983『住屋遺跡（俗称・尻間）発掘調査報告書』

上江洲 均 1973『沖縄の民具』慶友社

第33表-1 二枚具有孔製品観察一覧

図番	No.	具種	R-L	完破	最高 cm	最長 cm	孔縦 cm	孔横 cm	重さ g	孔一殻頂 上中下 右中左	孔一円 方形・楕円 楕円・長	孔打	穿孔 方向	風化	腹縁	地区 小グリッド 取上番号	層 台帳番号	遺構
59	1	ヒタジヤコ	R	完	4.2	6.9	1.3	2.1	16	上前	30楕円	複	内→外	アバタ・風化○	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取541 台541
56	2	ヒタジヤコ	R	完	4.8	6	0.8	1.2	20	上前	30楕円	複	内→外	風化○	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取542 台542
57	3	シタジヤコ	L	完	4.5	6.3	1.2	1.4	14	上前	円形	単	内→外	アバタ・風化○	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取543 台543
60	4	ヒタジヤコ	L	完	5.5	7.9	1.7	2.3	24	上前	30楕円	複	内→外	アバタ・風化○	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取544 台544
49	5	ヒタジヤコ	R	完	4.2	6.4	1	1.3	12	上前	方形	複	内→外	風化△	前中後	H19 S12 V	SS05	取545 台545
51	6	シタジヤコ	L	完	4	6.7	1.3	1.7	15	上前	不定形	複	外→内	風化△	—	H19 S12 V	SS05	取546 台546
54	7	ヒタジヤコ	L	完	4.5	6.2	1.3	1.6	18	上前	方形	複	内→外	アバタ・風化○	前中後カッターマモ	H19 S12 V	SS05	取547 台547
53	8	ヒタジヤコ	L	完	4.7	6.3	1.3	1.6	13	上前	方形	複	内→外	風化△	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取548 台548
52	9	ヒタジヤコ	L	完	4.2	6.3	1.2	2	16	上中	30楕円	複	内→外	アバタ・風化○	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取549 台549
48	10	シタジヤコ	R	完	4.3	6.4	1.2	1.2	13	上前	円形	複	内→外	風化△	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取552 台552
55	11	シタジヤコ	R	完	5	7.3	1.2	1.2	30	上前	不定形	複	内→外	アバタ・風化○	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取553 台553
58	12	ヒタジヤコ	L	完	4.5	6	0.8	1.3	20	上前	30楕円	複	内→外	風化△	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取554 台554
50	13	ヒタジヤコ	L	完	4.5	5.6	1.1	2.2	16	上中	30楕円	複	内→外	アバタ・風化○	前中後・マモ	H19 S12 V	SS05	取540 台540
14	14	シタジヤコ	L	完	9.2	14.8	1.1	1.4	249	上前	円形	複	内→外	アバタ△	—	イ C11 III	P20 台2239	
15	15	シタジヤコ	L	完	7.2	10.2	1.5	1.6	83	上前	方形	複	内→外	—	前中後・マモ	H19 Q16 V	台457	
16	16	ヒタジヤコ	L	完	4.1	6.1	0.8	1.8	11	中前	30楕円	複	内→外	風化△	前中後・マモ	H19 S13 V	台698	
17	17	ヒタジヤコ	R	完	3.9	5.7	0.7	0.8	12	上前	円形	複	内→外	—	前中後・マモ	H19 B19 IV	台16	
18	18	ヒタジヤコ	R	完	3.5	5.3	0.7	1.3	9	上前	不定形	複	内→外	—	—	イ D12 IV	台2450	
19	19	シタジヤコ	L	完	4.1	6.7	0.7	1.1	14	上前	円形	複	内→外	—	—	イ B11 II	SK56 台2505	
20	20	ヒタジヤコ	R	完	4.3	6.4	0.9	1.6	18	上前	不定形	複	内→外	アバタ△	前中後・マモ	H19 S13 IV	台698	
21	21	ヒタジヤコ	R	完	4.7	—	—	1.4	18	上中	不定形	複	内→外	—	—	H19 S13 V	台699	
22	22	ヒタジヤコ	L	完	4.4	6.1	0.8	1.4	17	上中	30楕円	複	内→外	—	前中後・マモ	H19 B16 IV	台45	
23	23	ヒタジヤコ	L	完	3.8	5.8	0.6	0.7	13	上中	円形	単	内→外	—	前中後・マモ	H19 A19 IV	台1450	
24	24	ヒタジヤコ	R	完	4.1	5.6	0.8	0.9	12	上中	円形	複	内→外	—	前中後・マモ	H19 A19 IV	台1447	
25	25	ヒタジヤコ	R	完	5.1	7.3	0.8	1.2	13	上中	楕円	複	内→外	—	中後・マモ	H19 Q16 IV	台1294	
26	26	ヒタジヤコ	R	完	4.3	6.1	0.6	1.2	13	上中	不定形	単	内→外	—	前中後・マモ	H19 R13 IV	台1421	
27	27	ヒタジヤコ	R	完	3.9	6.5	1.2	2	16	上中	不定形	複	内→外	—	—	H19 A20 IV	台665	
28	28	シタジヤコ	L	完	3.5	5.3	0.5	0.6	9	中中	円形	複	内→外	—	—	H19 B19 IV	台19	
29	29	シタジヤコ	L	完	5.7	8.2	1.5	2.3	35	中中	不定形	複	内→外	風化△	—	H19 T14 IV	台1471	
30	30	シタジヤコ	L	完	5.6	9	0.7	1.4	42	中中	30楕円	複	内→外	—	—	H19 R14 II	台1195	
31	31	ヒタジヤコ	R	完	5.2	7.3	1.7	—	21	上中	—	複	内→外	—	—	イ C11 III	P16 台2244	
32	32	ヒタジヤコ	R	完	4.7	6.5	1.4	1.9	15	上中	30楕円	複	内→外	風化△	前中後・マモ	H19 S12 IV	台1319	
33	33	ヒタジヤコ	R	完	4.6	6.1	0.9	0.9	16	上中	円形	複	内→外	—	前中後・マモ	イ T12 V	台2443	
34	34	シタジヤコ	L	完	3.6	6.3	1.1	1.7	10	中前	30楕円	複	内→外	—	—	イ S11 IV	台2445	
35	35	ヒタジヤコ	R	完	4.4	6.6	1.6	2.5	15	上中	30楕円	複	内→外	—	—	イ A13 V	台2444	
36	36	シタジヤコ	R	完	7.8	12.2	1.9	2.4	104	上中	30楕円	複	内→外	—	—	イ A13 IV	台2453	
37	37	シタジヤコ	L	完	3.5	6.5	1	1.8	10	上中	不定形	複	内→外	—	—	イ A12 IV	台2440	
38	38	ヒタジヤコ	L	完	3.9	5.7	0.9	1.1	12	上中	円形	複	内→外	風化△	—	H19 P15 IV	台1268	
39	39	シタジヤコ	R	完	4.3	7.9	1.2	0.8	23	上中	30楕円	複	内→外	風化△	—	イ T11 IV	台1835	
40	40	ヒタジヤコ	R	完	4.5	7.2	2.1	2.4	22	上中	不定形	複	内→外	色残△	—	イ A13 V	台2533	
41	41	シタジヤコ	R	完	4.8	7	0.8	1.1	19	中中	30楕円	複	内→外	風化△	—	H19 S12 IV	土器集中 台1312	
42	42	ヒタジヤコ	R	完	5.8	8.6	0.8	1	37	上中	円形	複	内→外	摩耗△	—	H19 S15 II	SD02 台182	
43	43	ヒタジヤコ	R	完	4.8	6.2	0.8	1.4	23	中前	30楕円	複	内→外	—	—	H19 — V	P14 台1264	
44	44	ヒタジヤコ	L	完	6.9	9.6	2.1	2.4	64	上中	円形	複	内→外	摩耗○	前中後・マモ	H19 T14 IV	台1410	
45	45	ヒタジヤコ	L	完	8.3	12.3	1.8	1.9	100	上中	方形	複	内→外	色残△	—	イ A11 IV	台281	
46	46	ヒタジヤコ	R	完	4.6	6.7	0.8	1.1	19	中中	円形	複	内→外	風化△	—	イ T12 IV	台2029	
47	47	ヒタジヤコ	L	完	4.5	6.4	0.8	1	19	中中	30楕円	複	内→外	色残○	—	イ T12 V	台2456	
48	48	ヒタジヤコ	R	完	6.9	10	0.9	1.7	70	上中	30楕円	複	内→外	—	—	イ T12 V	台1830	
49	49	ヒタジヤコ	R	完	5.3	7.4	1.4	2.1	27	中中	不定形	複	内→外	—	—	H19 S13 IV	台1322	
50	50	ヒタジヤコ	R	完	7.1	9.2	1.1	2.3	63	中中	30楕円	複	内→外	アバタ・風化○	—	イ A12 IV	台2457	
51	51	ヒタジヤコ	R	完	5.9	7.8	0.9	1.3	43	上中	30楕円	複	内→外	風化△	—	H19 S18 IV	台714	
52	52	ヒタジヤコ	L	完	5.4	8	1	1.5	33	中中	30楕円	複	内→外	風化△	中後・マモ	イ D15 IV	台1661	
54	54	ヒタジヤコ	L	完	6.8	9.1	1.1	1.3	60	上中	円形	複	内→外	—	—	H19 T14 IV	台1458	
56	56	ヒタジヤコ	R	完	7.2	9.6	1.7	2.1	88	中中	不定形	複	内→外	—	—	イ T11 V	台2455	
57	57	ヒタジヤコ	L	完	4.5	7.3	1.5	1.7	25	中中	不定形	複	内→外	—	—	H19 S12 IV	台276	
58	58	ヒタジヤコ	L	完	6	7.6	1.8	2.2	31	中中	不定形	複	内→外	風化△	—	H19 R15 IV	台1289	
59	59	ヒタジヤコ	R	完	4.1	5.7	0.7	0.8	12	上中	円形	複	内→外	—	—	H19 S14 IV	台1353	
60	60	ヒタジヤコ	R	完	4.9	—	0.8	1.1	27	中中	30楕円	複	内→外	—	—	H19 Q15 III	P28 台1077	
61	61	ヒタジヤコ	L	完	4.7	7.6	0.6	1.5	28	中中	不定形	複	内→外	—	—	イ C13 IV	台1743	
62	62	ヒタジヤコ	L	完	4	5.7	0.8	0.6	12	中中	円形	複	内→外	色残△	—	イ T12 V	台2030	
63	63	ヒタジヤコ	R	完	4.6	6.1	1.1	1.3	18	上前	方形	複	内→外	色残△	—	H19 T14 IV	台1413	
64	64	シタジヤコ	R	半	5.3	—	1.2	1.6	16	中中	30楕円	複	内→外	風化○	—	H19 R15 III	P8 台388	
65	65	ヒタジヤコ	L	完	6.1	8.7	1.8	2.4	44	上中	不定形	複	内→外	風化△	—	H19 A14 IV	台746	
66	66	ヒタジヤコ	L	完	5.3	7.2	0.8	1.5	22	上中	30楕円	複	内→外	風化△	—	H19 Q15 IV	台1249	
67	67	ヒタジヤコ	R	完	4	5.5	1.3	1.6	10	上中	楕円	複	内→外	—	—	H19 A18 IV	台754	
68	68	ヒタジヤコ	L	完	4	—	1	1	12	中前	円形	複	内→外	—	—	H19 T19 IV	台1331	
69	69	ヒタジヤコ	R	完	4.4	7.8	1.8	1.1	22	中中	好楕円	複	内→外	—	—	イ D16 IV	集石 台1478	
70	70	シタジヤコ	R	完	5.4	7.3	0.8	1	24	上前	円形	複	内→外	—	—	H19 Q16 IV	台1298	
71	71	ヒタジヤコ	R	完	4.4	6.4	1.1	1.1	19	中中	円形	複	内→外	色残△	—	イ C14 IV	台1630	
72	72	シタジヤコ	L	完	3.9	6.5	1	1.1	18	上前	方形	複	内→外	—	中後	H19 A20 IV	台738	
73	73	シタジヤコ	R	完	5.4	7.8	2	1.1	26	中中	好楕円	複	内→外	アバタ△	—	H19 S13 V	台699	
74	74	ヒタジヤコ	R	完	4.5	6.5	1.1	1.9	16	上中	30楕円	複	内→外	—	—	H19 S13 IV	台1322	
76	76	ヒタジヤコ	R	完	4.8	6.6	0.7	0.7	18	上中	円形	複	内→外	風化○	—	H19 R13 IV	台1421	
77	77	シタジヤコ	R	半	5.5	—	0.9	1	19	上中	楕円	複	内→外	—	前中	H19 B16 IV	台45	
78	78	ヒタジヤコ	L	完	4.3	5.8	1.1	1.4	11	上中	楕円	複	内→外	風化○	—	H19 S14 IV	台1351	
79	79	シタジヤコ	R	完	5.6	8.9	1.3	0.8	42	上中	好楕円	複	内→外	風化△	中後・マモ	H19 R14 IV	台506	
79	79	ヒタジヤコ	L	完	4.1	6.2	1.1	2	16	上中	30楕円	複	内→外	色残○	前中後○	ハ S10 III	SP39 台2804	
80	80	シタジヤコ	L	完	4.3	6.8	1.1	1.4	17	上中	円形	複	内→外	—	—	イ B11 II	SK56 台2218	
80	80	ヒタジヤコ	R	完	6.6	9.3	1.7	1.8	51	上中	円形	複	内→外	風化△	前中後○	ハ S10 IV	台2802	
81	81	ヒタジヤコ	L	完	3.7	5.9	0.7	0.9	11	上中	円形	複	内→外	—	—	H19 A18 IV	台755	
81	81	ヒタジヤコ	R	完	3.9	5.6	0.9	0.8	15	上前	円形	複	内→外	—	前○	ハ P12 IV	台2777	
82	82	シタジヤコ	L	完	5.4	8.6	1.4	1.7	33	上前	30楕円	単	内→外	色残△	—	イ T12 IV	台2451	
82	82	シタジヤコ	R	完	5.3	9.2	1.3	1.6	44	上前	方形	複	内→外	—	—	ハ R12 II	SP17 台2789	
83	83	ヒタジヤコ	R	完	4.3	6.2	1.1	1.3										

第33表-2 二枚具有孔製品観察一覧

図番	No.	具種	R-L	完破	最高 cm	最長 cm	孔縦 cm	孔横 cm	重さ g	孔一殻頂 上中下 右中左	孔一円 方形・楕 円形・長	孔打	穿孔 方向	風化	腹縁	地区 小グリッド 取上番号	層 台帳番号	遺構
	90	ヒシジヤコ	R	完	4.4	6.6	1.2	1.9	14	上前	凹楕円	複	内→外	風化△	—	△ R10 II	SK03 台2800	
	91	シナミ	L	完	5.3	7.7	1.2	1.6	27	中中	凹楕円	複	内→外	△	—	△ H19 S13 IV	台1322	
	92	シナミ	L	完	3.5	4.5	0.9	0.6	8	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 S14 IV	台1353	
	93	ヒシジヤコ	L	完	4.3		0.6	0.7	11	中中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 R14 IV	台506	
	94	ヒシジヤコ	R	完	5.2	8	1.1	1.4	42	中中	凹楕円	複	内→外	△	前中後	△ H19 S15 II	SD02 台182	
	95	ヒシジヤコ	R	完	4	6.2	0.4	1	12	上前	凹楕円	複	内→外	—	中後・マシ	△ I T12 V	台2028	
	96	ヒシジヤコ	L	完	4	6.2	0.5	0.9	15	上前	凹楕円	複	内→外	—	前	△ H19 S13 II	SD02 台181	
	97	ヒシジヤコ	L	完	5.8	8.3	1	1.3	42	中中	凹楕円	複	内→外	風化△	—	△ H19 R15 IV	台1232	
	98	ヒシジヤコ	R	半			0.5	0.9	21	上中	凹楕円	複	内→外	△	中後	△ H19 S17 IV	台792	
	99	ヒシジヤコ	R	完	4.9	7.1	1.4	2.3	18	上前	凹楕円	単	内→外	△	—	△ H19 T16 IV	台683	
	100	ヒシジヤコ	L	完	3.8	6.2	0.7	0.6	10	上前中	楕円	複	内→外	△	中後・マシ	△ H19 B19 IV	台16	
	101	ヒシジヤコ	R	完	4.6	7	0.8	0.7	23	中中	凹楕円	複	内→外	—	中	△ H19 Q15 IV	台1249	
	101	シナミ	L	完	4.7	7.9	1.4	1.7	28	上前	凹楕円	複	内→外	摩耗△	前中後○	△ M10 III	SP17 台2783	
	102	ヒシジヤコ	L	完	7.3	10.2	1.1	1.8	78	上前	凹楕円	複	内→外	—	中	△ H19 S12 V	SS05 取391 台391	
	103	ヒシジヤコ	L	完	5.3	7.4	0.8	1.3	23	上前	凹楕円	複	内→外	△	前中・マシ	△ I D10 IV	台1776	
	103	ヒシジヤコ	L	完	6.8	9.4	2	2.3	56	上中	凹楕円	複	内→外	—	△×	△ H19 S17 IV	台2811	
	104	シナミ	R	半		7.6			26	上中後	—	複	内→外	△	前中後・マシ	△ H19 S13 IV	台1326	
	105	ヒシジヤコ	L	完	5.4	8	1.9	3	30	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 O14 III	SK02 台2807	
	106	ヒシジヤコ	R	完	6	8.5	2	1.3	34	上前	凹楕円	複	自然	—	前中後・マシ	△ I D15 III	P13 台2153	
	106	ヒシジヤコ	R	完	6.1	8.6	1.2	1.5	45	上前	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 IV	台2788	
	107	シナミ	L	完	6.3	9.5	1.9	2.9	46	上前	凹楕円	複	内→外	風化○	—	△ H19 P9 IV	台2760	
	108	ヒシジヤコ	L	完	7	9.8	2	3	50	上中	不定形	複	内→外	—	後・マシ	△ H19 S15 IV	台1356	
	108	R・サボオ	R	完	4.2	6	0.9	0.9	18	上中	凹楕円	単	内→外	—	—	△ H19 N15 II	SX01 台2805	
	109	ヒシジヤコ	L	完	5.7	7.1	1.2	2.1	38	上中	凹楕円	複	内→外	△	前中後	△ H19 R13 IV	台1417	
	109	ヒシジヤコ	R	完	6	8.6	1.1	1.5	43	上前	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 S10 III	SP23 台2795	
	110	ヒシジヤコ	L	完	5.7	9.2	0.9	1.2	40	上前	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 S10 III	SP23 台2795	
	111	シナミ	L	完	4.4	6.4	1.1	1.9	13	上中	不定形	複	内→外	風化△	—	△ H19 T19 IV	台1331	
	111	ヒシジヤコ	L	完	5.8	8.5	1.2	1.9	24	上前	凹楕円	複	内→外	風化○	後△	△ H19 S10 III	SP23 台2795	
	112	シナミ	R	完	5.8	8.5	0.5	1	40	上中	凹楕円	単	内→外	—	—	△ H19 R16 IV	台1211	
	114	シナミ	—	半		6.1			12	上中	凹楕円	単	内→外	—	前中後	△ I C11 III	P35 台2172	
	115	ヒシジヤコ	R	完		7.2			20	上中	—	複	内→外	—	—	△ H19 R13 IV	台1420	
	117	シナミ	L	完	5.1	7.3	0.4	0.5	23	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 S13 V	台699	
	118	ヒシジヤコ	R	完	5.5	8	1.4	2.2	38	上前	凹楕円	複	内→外	摩耗△	前中後△	△ H19 R10 IV	台2821	
	119	シナミ	R	完	6.2	8.8			41	中中	楕円	複	内→外	風化△	前中後・マシ	△ H19 R16 IV	台1211	
	119	ヒシジヤコ	L	完	5.5	7.9	1	1	33	上前	凹楕円	単	内→外	—	前	△ H19 R11 IV	台2703	
	120	R・サボオ	R	完	4.4	6.6	1.7	1.3	34	上中	凹楕円	複	内→外	摩耗△	△	△ H19 Q13 IV	台2806	
	121	シナミ	R	完	5	7.2	0.8	1.8	22	上中	凹楕円	複	内→外	摩耗△	—	△ H19 R16 IV	台1387	
	122	カワカ	R	完	5.4	5	0.7	0.6	13	上後	凹楕円	複	内→外	—	後△	△ H19 O14 III	SP7 台3485	
	124	シナミ	L	完	5.8	8.9	1.3	1.7	35	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 T19 IV	台1343	
	124	カガイ類	L	完	6.5	6.5	1.6	1	29	上中	凹楕円	単	内→外	—	中○	△ H19 Q13 II	SP43 台2814	
	125	R・サボオ	R	完	3.6	5.2	0.9	1	14	上中	凹楕円	単	内→外	—	後○	△ H19 K12 IV	台2782	
	126	シナミ	L	完	4.7	6.3	0.7	1.3	17	上前	凹楕円	複	内→外	—	前	△ H19 S14 IV	台1353	
	126	カガイ類	L	完	6.8	6.5	1.9	1.4	36	上中	凹楕円	複	内→外	摩耗△	△マシ	△ H19 P17 IV	SP12 台2764	
	127	カガイ類	L	完	6.3	5.9	3.6	3.2	13	中中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 Q12 II	P40,41,42 台3318	
	128	カガイ類	L	完	5.4	4.6	0.7	1.1	21	上中	凹楕円	複	内→外	摩耗△	△	△ H19 Q7 IV	台4246	
	129	カガイ類	L	完	5.3	5	0.7	0.8	13	上前	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 O8 IV	SP22 台4040	
	129	シナミ	L	完	3.9	5.9	0.9	1.1	11	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 S18 IV	台1358	
	130	シナミ	L	完	4.2	6.5	0.8	0.9	16	上中	楕円	複	内→外	—	—	△ H19 R14 IV	台1424	
	130	カガイ類	L	完	6.3	5.8	1.1	1.3	38	上中	凹楕円	複	内→外	摩耗○	前中後マシ○	△ H19 IV	台4008	
	132	R・マシ	L	完	4.5	7.1	1.1	1.3	10	上前	凹楕円	単	内→外	—	後△	△ H19 T8 III	SK01 台2794	
	133	R・マシ	L	完	3.5	5.2	1.4	2	5	中中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 K12 IV	台4264	
	135	R・サボオ	R	完	3.9	5.7	0.9	1.4	12	殻頂	凹楕円	複	外→内	△	—	△ H19 O8 IV	台3948	
	135	R・サボオ	R	完	4.1	6	0.7	0.8	17	上中	凹楕円	単	内→外	—	前	△ I A12 IV	台1845	
	136	R・サボオ	R	完	4.4	6.6	0.5	1	24	殻頂	凹楕円	複	外→内	—	—	△ H19 IV	台3964	
44	136	R・サボオ	R	完	4.3	6.3	0.9	1	26	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 IV	台2023	
	137	R・サボオ	R	完	4.4	6.9	0.8	0.7	19	上前	楕円	複	内→外	—	—	△ H19 S13 IV	台1326	
	137	カガイ類	L	完	6.5	6.2	1.5	1.3	21	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 P8 IV	台4018	
	138	R・サボオ	R	完	4.6	6.3	1.1	1.2	23	上前	凹楕円	複	内→外	—	中後	△ I B12 IV	台2452	
	138	カガイ類	L	完	4.2	3.9	1.3	1.3	10	上前	凹楕円	単	内→外	摩耗△	—	△ H19 Q11 IV	台3002	
	139	R・サボオ	L	完	4.3	6.7	1	0.9	23	上中	凹楕円	複	外→内	—	—	△ H19 Q12 IV	台3151	
47	139	R・サボオ	L	完	4.8	6.5	1.1	0.7	27	上前	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 R15 IV	台1224	
	140	R・サボオ	L	完	4.4	7	2.3	3	26	中中	凹楕円	複	内→外	摩耗△	—	△ H19 K11 III	SP2,3,4 台3835	
	140	R・サボオ	L	完	5.2	8.8	1.5	1.2	61	殻頂	不定形	複	内→外	—	—	△ H19 IV	台152	
	141	R・サボオ	R	完	3.3	4.5	0.9	1.4	9	上中	凹楕円	単	内→外	—	—	△ H19 P15 IV	台1265	
	142	R・サボオ	R	完	4	6	0.7	0.6	22	殻頂	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 T14 IV	台1413	
	142	R・サボオ	L	完	4.1	5.7	1.3	1.5	16	上中	凹楕円	単	内→外	—	後△	△ H19 O8 IV	台4025	
	143	R・サボオ	L	完	5.3	7.3	1.5	1.7	34	上中	凹楕円	複	内→外	△	—	△ H19 S17 IV	台1322	
	143	R・サボオ	L	完	4	5.2	1	0.9	13	上中	凹楕円	複	外→内	—	—	△ H19 O14 III	台3769	
	144	R・サボオ	R	完	4.5	6.3	0.5	0.9	27	殻頂	凹楕円	単	外→内	—	後△	△ H19 P8 II	台3971	
	144	R・サボオ	R	完	4.5	7.2	0.5	0.4	29	上中	凹楕円	単	外→内	—	—	△ I C14 IV	台1621	
46	145	R・サボオ	R	完	5.6	7	1.7	1.7	51	上中	楕円	複	内→外	摩耗△	前中	△ H19 T19 IV	台1331	
	146	R・サボオ	R	完	4.2	5.4	1	0.8	24	殻頂	不定形	単	外→内	△	—	△ I A12 IV	台2457	
	147	R・サボオ	R	完	4	6.1	0.7	0.7	17	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 A19 IV	台1447	
45	149	R・サボオ	R	完	4.2	5.9	1.8	1.6	13	上中	楕円	複	内→外	—	前	△ I C14 IV	台1676	
	150	R・サボオ	R	完	4.6	6.2	1.2	0.8	17	中中	凹楕円	複	内→外	摩耗△	—	△ H19 A17 II	SK04 台822	
	151	R・サボオ	L	完	4.4	7.2	1.3	1.9	31	殻頂	凹楕円	単	内→外	—	—	△ H19 B17 IV	台10	
	152	R・サボオ	R	完	4.9	7	1	2	36	殻頂	凹楕円	複	外→内	△	—	△ I T12 IV	台1828	
	153	R・サボオ	L	完	4.8	5.9	1.5	1.2	16	殻頂	凹楕円	単	内→外	風化○	—	△ I B11 III	台2448	
	154	R・サボオ	R	完	4.3	5.2	0.4	0.5	15	上中	凹楕円	単	外→内	摩耗△	—	△ I B12 IV	台1693	
	155	R・サボオ	L	完	3.2	4.5	0.7	0.5	11	上前	凹楕円	複	内→外	摩耗△	—	△ I C9 III	P23 台2270	
	155	R・サボオ	L	完	5.1	5.7	1.8	1.4	19	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 P12 IV	台3154	
	156	R・サボオ	L	完	4.4	4.2	1.7	1	6	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 O8 IV	台3956	
	156	R・サボオ	L	完	3.8	5	0.8	1	13	上中	凹楕円	複	内→外	—	—	△ H19 S14 IV	台1350	
	157	R・サボオ	L	完	4.6	6.2	0.6	0.8	23	上中	凹楕円	複	内→外					

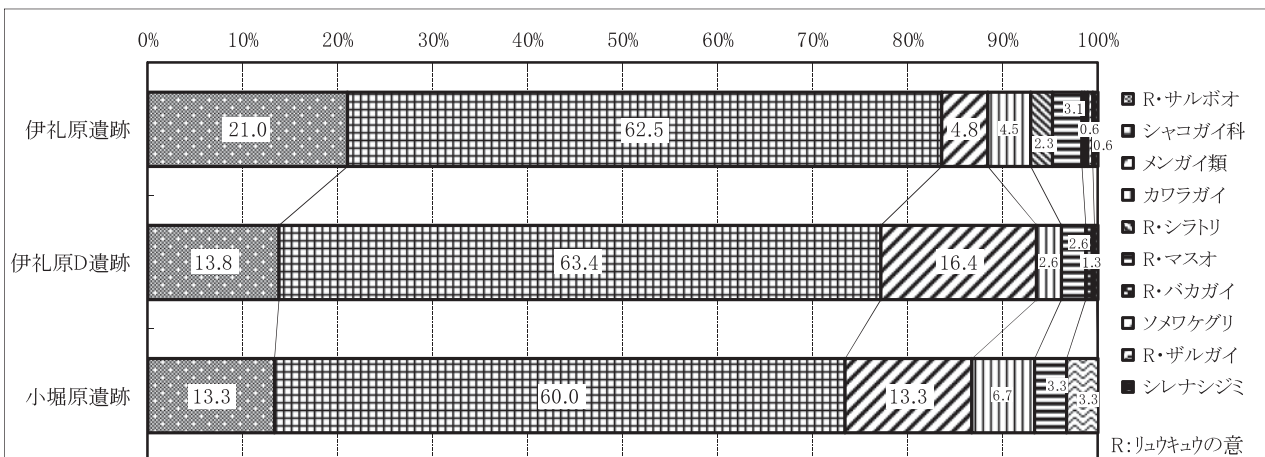
第33表-3 二枚貝有孔製品観察一覧

図番	No.	貝種	R-L	完破	殻高 cm	殻長 cm	孔縦 cm	孔横 cm	重さ g	孔一殻頂 上中下 右中左	孔一円 方形・卵 楕円・長	孔打	穿孔 方向	風化	腹縁	地区 小グリッド 取上番号	層 台帳番号	遺構
	166	シナミ	R	完	6.8	9	1.7	2.2	58	上前	方形	複	内→外	フタ○	—	ニ	K12 III	台4273
	167	ヒタノヤコ	L	完	4.3	6.2	1.1	1.2	13	上前	方形	複	内→外	—	後△	ニ	P8 IV	台4016
	168	R・ササノオ	R	完	3.7	5.6	1.1	0.9	17	上中	円形	複	外→内	風化△	—	イ	T11 IV	台2419
	168	シナミ	L	完	5.8	8.2	2.4	3.5	34	上中	楕円	複	内→外	—	—	ハ	P11 III	SK01 台3683
	169	R・ササノオ	R	完	4.2	5.3	0.5	0.8	14	上中	楕円	複	内→内	風化△	前中後	ニ	H19 S13 IV	台1325
	169	シナミ	R	完	6	9.3	1.2	1.8	47	上前	卵楕円	複	内→外	風化△	—	ハ	P11 III	SK01 台3683
	171	シナミ	L	完	6.6	10.2	1.2	2.5	59	上前	楕円	複	内→外	風化△	前中後△	ニ	08 IV	台4024
	172	R・ササノオ	R	完	6	4.1	1	0.7	18	上中	楕円	複	内→外	—	前中	ニ	H19 R15 IV	台1246
	173	R・ササノオ	R	完	4.8	7	0.9	0.9	32	殻頂	円形	単	外→内	風化○	前中後・マシ	ニ	H19 T14 IV	台845
	173	シナミ	L	完	4.3	6.8	1.1	1.3	17	上	方形	複	内→外	色残○	—	ニ	M10 III	SP25 台3902
	175	R・ササノオ	L	完	4.8	5.9	0.9	1	26	上中	方形	複	内→外	風化△	—	ニ	H19 T19 IV	台1333
	175	シナミ	L	完	4.5	6.8	1.1	1.4	18	上前	方形	複	内→外	—	中○	ハ	Q12 IV	台3151
	176	シナミ	L	完	6.1	8.9	1.4	2.2	45	上前	方形	複	内→外	—	前○	ニ	N9 IV	台3898
	177	シナミ	R	完	10	10.8	1.8	2.3	111	上中	方形	複	内→外	—	—	ニ	K11,12 L11,12 III	台4146
	178	シナミ	L	完	7.4	10	1	1.9	92	上中	方形	複	内→外	—	前中後○	ハ	R11 IV	台91
	179	R・ササノオ	R	完	4.6	6.9	0.9	1.1	34	殻頂	楕円	単	内→内	風化△	前中後・マシ	ニ	H19 S13 II	SD02 台181
	179	シナミ	L	完	8	11	2	4.2	97	上中	楕円	複	内→外	フタ△	—	ニ	08 IV	台4024
	180	R・ササノオ	L	完	4.4	5.7	1	1.1	23	上中	方形	単	内→外	風化○	—	ニ	H19 A20 IV	台738
	180	ヒタノヤコ	L	完	4.6	7.4	1.2	1.7	22	上中	楕円	複	内→外	風化△	—	ニ	08 IV	台3950
	181	R・ササノオ	L	完	4	6.2	1.5	1.3	14	上中	方形	複	内→外	風化△	—	ニ	H19 D15 IV	台563
	181	シナミ	L	完	8	10.8	2.9	2.7	97	上中	方形	複	内→外	摩耗△	前中後○	ニ	K12 IV	台3951
	182	R・ササノオ	R	完	3.7	5	0.4	0.7	15	殻頂	円形	単	外→内	色残△	—	イ	B13 IV	台1739
	182	R・ササノオ	L	完	4.6	6.2	1.2	1.5	32	上中	楕円	単	外→内	色残△	—	ニ	N10 III	台2772
	183	R・ササノオ	R	完	4.2	6	0.8	0.7	21	上前中	円形	複	外→内	摩耗△	前中後・マシ	イ	B11 II	SK56 台2219
	183	ヒタノヤコ	R	完	3.4	5.3	0.5	0.7	8	上前	円形	複	内→外	—	前中後△	ニ	N9 III	SP13 台4331
	184	R・ササノオ	R	完	4.5	6.6	0.5	0.9	25	殻頂	楕円	複	外→内	—	—	ニ	H19 Q15 II	SK14 台1011
	184	ヒタノヤコ	R	完	6.1	8.7	0.9	1.4	40	上前	楕円	複	内→内	—	後△	ニ	M10 IV	台4033
	185	R・ササノオ	L	完	5.3	6.5	1.4	1	31	上前中	方形	複	外→内	摩耗△	前後	ニ	H19 P15 IV	台1265
	185	ヒタノヤコ	R	完	5.3	8.2	0.9	0.8	33	上前	卵楕円	複	内→外	風化△	—	ハ	S12 IV	台3278
	186	R・ササノオ	R	完	5.2	8	0.9	0.9	41	上中	円形	複	外→内	色残○	—	ニ	H19 Q14 III	P11 台1065
	186	ヒタノヤコ	R	完	3.3	4.7	0.7	0.8	7	上前	円形	複	内→外	—	—	ハ	Q10 IV	台3132
	187	R・ササノオ	L	完	4.4	6.9	0.9	1.1	46	殻頂	楕円	単	外→内	—	—	ハ	R12 IV	台2704
	189	R・ササノオ	L	完	4.3	5.7	0.5	0.8	17	上前	楕円	単	外→内	摩耗△	中後・マシ	イ	B11 II	SK56 台2220
	190	R・ササノオ	L	完	4.6	6.3	0.6	0.7	31	殻頂	方形	単	外→内	フタ△	前中後・マシ	ニ	H19 R14 IV	台506
	191	R・ササノオ	R	完	4.9	5.6	0.8	1.3	33	上中	方形	単	外→内	—	—	ニ	H19 T15 IV	台846
	191	R・ササノオ	R	完	4.5	6.4	0.5	0.7	28	殻頂	円形	単	外→内	色残○	—	ニ	08 IV	台2776
	192	R・ササノオ	L	完	3.8	5.1	0.6	1	19	殻頂	楕円	単	外→内	摩耗△	前中・マシ	イ	B11 II	SK56 台2220
	192	R・ササノオ	R	完	5	7.5	1.4	1.7	45	殻頂	楕円	単	内→外	—	—	ニ	Q7 IV	台2759
	193	R・ササノオ	R	完	4.5	6.3	1	1.1	21	殻頂	方形	単	内→外	風化△	前中後・マシ	ニ	H19 S18 IV	台441
	193	ムカゲ類	L	完	5.8	6	2.7	3.2	26	中中	方形	複	内→外	摩耗○	前中後○	ニ	Q7 III	SP4 台2762
	194	R・ササノオ	R	完	4.5	6.5	0.9	0.7	29	上中	楕円	複	外→内	フタ△	後	ニ	H19 R14 IV	台506
	194	R・ササノオ	R	完	4.1	6.2	0.9	1.2	17	殻頂	円形	単	外→内	—	—	ハ	P12 IV	台2777
	195	R・ササノオ	L	完	5.1	7.1	0.8	0.8	42	殻頂	円形	単	外→内	—	後△	ハ	P12 IV	台2777
	195	R・ササノオ	R	完	4.6	5.8	0.5	0.8	23	殻頂	楕円	単	外→内	色残○	前中	ニ	H19 — IV	台917
	196	ムカゲ類	L	完	6.3	6.8	2.4	2.5	16	上中	方形	単	外→内	—	—	ハ	R10 — IV	台2821
	197	ヒタノヤコ	R	完	7.1	9.7	2	3.3	61	上中	楕円	複	内→外	風化△	前中後△	ニ	08 IV	台3948
	198	ヒタノヤコ	R	完	3.8	5.9	1.1	1.2	12	上前	方形	複	内→外	—	—	ハ	R12 IV	台3197
	199	ヒタノヤコ	R	完	5.3	6.9	0.8	0.9	28	上前	円形	複	内→外	風化△	前中後○	ニ	N9 II	SP24 台4282
	200	ヒタノヤコ	R	完	3.6	5.3	1.2	1.3	9	上中	卵楕円	複	内→外	—	—	ハ	P11 III	SP22 台3640
	201	カワカガイ	R	完	4.6	4.3	1.6	1	13	上中	方形	複	内→外	色残○	—	ニ	H19 T20 III	P1 台1124
	201	シナミ	R	完	3.8	6.1	1	1.4	12	上前	方形	複	内→外	風化△	中△	ハ	R10 IV	台3113
42	202	カワカガイ	R	完	4.8	4.6	2.2	1.7	12	上中	方形	複	内→外	フタ△	—	ニ	H19 R15 III	P2 台392
	202	ヒタノヤコ	R	完	6.7	9.4	1.9	1.9	56	上前	円形	複	内→外	摩耗△	前中後・マシ△	ニ	P7 IV	台3976
	203	カワカガイ	R	完	5.1	5	1.9	0.9	13	上中	卵楕円	複	内→外	色残○	—	ニ	H19 IV	台152
	203	ヒタノヤコ	L	完	4.5	7	0.8	1	22	上前	方形	単	内→外	摩耗△	後△	ニ	N9 II	SP24 台4284
	204	カワカガイ	R	完	4.5	4.1	1.2	0.8	10	上中	卵楕円	複	内→外	色残○	—	ニ	H19 P15 IV	台1269
	204	ヒタノヤコ	R	完	5	6.9	0.7	1	18	上前	楕円	複	内→外	—	—	ニ	N9 IV	SP19 台4339
	205	カワカガイ	L	完	5	4.8	1.3	1.1	21	中中	円	複	内→外	色残○	—	ニ	H19 C2 IV	台46
	205	ヒタノヤコ	R	完	5.4	5.5	1	1.2	16	上前	楕円	複	内→外	—	—	ハ	R11 IV	台3569
	206	ヒタノヤコ	R	完	5.4	7	1.3	2	29	上中	楕円	複	内→外	色残○	—	ニ	P8 IV	台4018
	206	カワカガイ	R	完	4.6	4.1	1.1	1	10	中中	方形	複	内→外	—	—	ニ	H19 C2 IV	台49
	207	カワカガイ	L	完	4.5	4	1.4	1.3	9	中中	楕円	複	内→外	色残○	—	ニ	H19 C2 IV	台46
	207	ヒタノヤコ	R	半	4.4	4.6	1.3	1.5	12	上前	卵楕円	複	内→外	—	—	ニ	N10 IV	SP27,28 台4117
	208	カワカガイ	R	完	3.4	3.2	1.2	0.5	3	上中	長方形	複	内→外	風化△	—	イ	C15 IV	台2463
	208	ヒタノヤコ	R	完	3.8	5.7	0.9	1.5	13	上前	楕円	複	内→外	—	—	ニ	L10 IV	台4185
	209	カワカガイ	R	完	4.7	4.3	1	0.9	11	中中	円	単	内→外	色残○	—	イ	T12 IV	台2029
	209	ヒタノヤコ	L	完	3.7	5.2	1	1.4	8	上前	方形	複	内→外	—	—	ニ	09 III	SP4 台4226
	210	カワカガイ	L	完	4.7	4.3	1.8	0.8	12	上中	方形	複	内→外	色残○	—	ニ	H19 C2 IV	台46
	210	ヒタノヤコ	R	完	5.9	8	0.8	1.4	36	上前	楕円	複	内→外	—	—	ハ	Q11 IV	台3138
	211	カワカガイ	L	完	4.5	4.2	1.2	1	11	上中	楕円	複	内→外	色残○	—	ニ	H19 S13 IV	台1325
	211	ヒタノヤコ	L	半	—	—	—	—	29	上前	楕円	単	内→外	—	—	ハ	Q12 IV	台3153
43	212	カワカガイ	L	完	4.9	4.3	1.1	1	12	上中	円	複	内→外	フタ△風化○	—	ニ	H19 C16 III	SK01 台829
	212	ヒタノヤコ	R	完	4.1	6.2	0.6	1	12	上中	楕円	複	内→外	—	—	ハ	R11 IV	台3238
	213	カワカガイ	L	完	5	4.4	1.3	1.3	13	中中	方形	単	内→外	風化△	—	イ	T12 IV	台2031
	213	ヒタノヤコ	L	完	5.5	8.4	0.9	1.2	36	上前	楕円	複	内→外	—	—	ニ	09 IV	台4010
	214	ヒタノヤコ	L	完	4.5	6.3	0.9	1.2	15	上前	方形	複	内→外	—	前中後△	ニ	N9 III	台4030
	215	ヒタノヤコ	L	完	4.7	6.3	1.2	1.5	14	上前	不定形	複	内→外	色残○	—	ニ	Q7 IV	台4259
	216	ヒタノヤコ	L	完	4.2	5.5	0.8	1.2	18	上前	楕円	複	内→外	—	後△	ニ	P8 IV	台4052
	217	ヒタノヤコ	R	完	4.6	5.9	1	1.6	20	上中	方形	複	内→外	色残△	前中後○	ニ	P8 IV	台4052
	218	カワカガイ	L	半	—	—	0.6	0.7	5	上中	円	複	内→外	風化△	前中後△	ニ	H19 S17 IV	台692
	218	ヒタノヤコ	R	完	5.6	3.6	0.9	1	11	上中	円形	複	内→外	色残△	前○	ニ	M10 IV	台4031
	219	ヒタノヤコ	R	完	3.9	5.7	0.8	1.1	9	上前	方形	複	内→外	—	—	ハ	S9 III	台3245
	220	ヒタノヤコ	L	完	3.8	5.6	1.1	0.9	11	上前	卵楕円	複	内→外	摩耗△	前△	ハ	N15 III	SK01 台3521
	221	ヒタノヤコ	L	完	4.6	6.2	1.4	1.5	18	上前	卵楕円	複	内→外	摩耗△	前中後○	ニ	08 IV	台4054
	222	ヒタノヤコ	R	完	4.7	7	1.3	1.4	18									

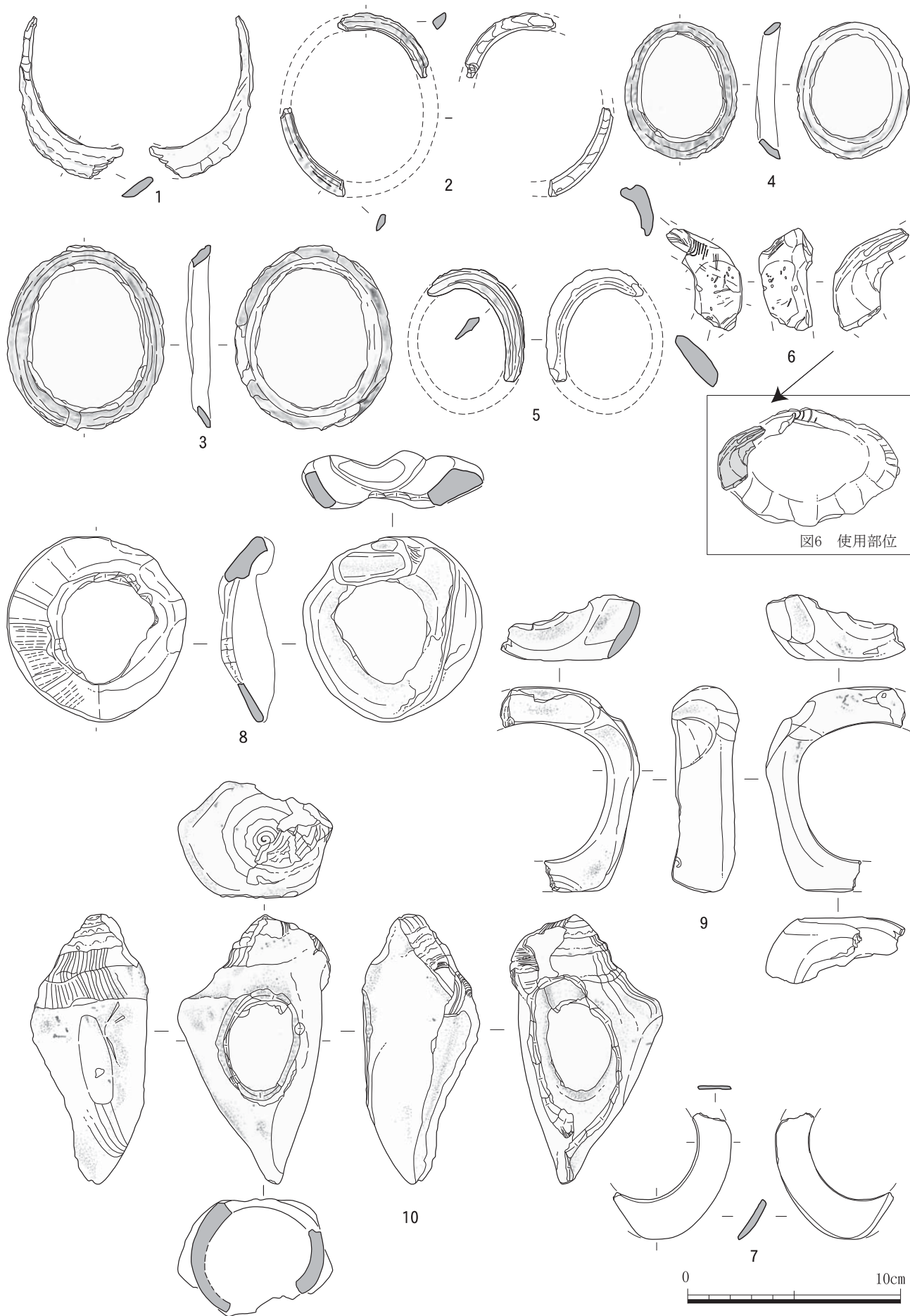
第33表-4 二枚具有孔製品観察一覧

図番	No.	具種	R・L	完破	殻高 cm	殻長 cm	孔縦 cm	孔横 cm	重さ g	孔一殻頂 上中下 右中左	孔一円 方形・ヲ楕 ヲ楕・長	孔打	穿孔 方向	風化	腹縁	地区 小グリッド 取上番号	層 台帳番号	遺構
38	230	ヒタジヤコ	L	完	8.4	12.2	2	3	97	上前	方形	複	内→外	摩耗△	後△	△ R11 IV	台3207	
	231	ムカゲイ類	L	完	5.9	5.9	0.7	0.9	25	中中	方形	複	内→外	風化△	—	H19 A19 IV	台1444	
	232	ヒタジヤコ	L	完	5.5	6.6	0.9	1	14	上前	方形	複	内→外	—	—	△ N15 III	SK01 台3568	
	233	ヒタジヤコ	L	完	4	5.9	0.5	0.6	10	上前	方形	単	内→外	—	—	△ N15 III	SK01 台3568	
	234	ヒタジヤコ	L	完	5.2	6.7	0.7	1.2	22	上中	ヲ楕円	複	内→外	—	—	△ R11 IV	台3235	
	235	ムカゲイ類	L	完	4.4	6.3	0.7	1	18	上前	ヲ楕円	複	内→外	—	中後△	△ 09 IV	台4009	
	236	R・マスオ	L	完	5.9	5	1.4	1.5	14	上中	方形	単	外→内	—	—	△ C12 III	P10 台2010	
	237	R・マスオ	L	完	4.2	6.1	1.1	2.2	14	中前	ヲ楕円	複	内→外	摩耗○	前中後○	△ R9 IV	台3295	
	238	R・マスオ	L	完	4.1	6	0.8	0.6	9	上前	方形	複	内→外	—	前後	△ A12 IV	台1872	
39	236	ヒタジヤコ	R	完	7.2	10.2	1.8	3.1	84	上前	ヲ楕円	複	内→外	摩耗△	—	△ 08 IV	台3955	
	237	R・マスオ	L	完	4.7	7.7	1.1	1.7	18	中中	ヲ楕円	複	内→外	色残○	—	H19 P16 IV	台1271	
	238	ヒタジヤコ	R	完	6.1	9.4	1.9	3.3	48	上前	ヲ楕円	複	内→外	—	—	△ P9 IV	台4020	
	238	R・マスオ	R	完	3.7	5.8	0.5	0.7	6	上後	ヲ楕円	複	内→外	—	—	H19 P15 IV	台1265	
	238	R・マスオ	L	完	4.6	6.1	1.8	2.2	12	上中	ヲ楕円	複	内→外	風化△	前中後△	△ 015 IV	台3011	
	239	R・バカガイ	L	完	4.6	5.2	1.8	2.1	8	中後	ヲ楕円	複	内→外	石灰付着	前中後・マシ	△ B11 II	SK56 台2218	
	239	R・マスオ	L	完	3.9	5.7	0.9	1.2	9	上後	方形	複	内→外	—	—	△ 08 IV	台3977	
	240	R・マスオ	L	完	4.5	6.4	1.3	2	17	上後	不定形	複	内→外	風化△	—	H19 P15 IV	台1265	
	240	R・サルトオ	L	完	4.4	7	0.9	1	33	上中	方形	複	内→外	—	—	△ Q10 IV	台3126	
	241	R・マスオ	R	完	3.8	5.9	0.9	0.7	7	上前	方形	複	内→外	—	前後	H19 R13 III	P27 台2054	
	241	R・サルトオ	R	完	4.3	6.3	0.8	0.8	23	上中	円形	単	内→外	—	—	△ Q12 III	SP55 台3317	
	242	R・マスオ	R	完	4.3	6.3	1.2	1.2	11	中中	円形	複	内→外	—	—	H19 D19 IV	台556	
	242	R・サルトオ	R	完	4.2	6.2	0.8	1	17	上中	方形	複	内→外	—	中△	△ T10 IV	台3285	
41	243	R・サルトオ	R	完	4.3	4.2	1.7	1.6	7	中中	方形	複	内→外	—	—	H19 S12 IV	土器集中 台1312	
	243	ヒタジヤコ	R	完	7.7	10.4	1.1	1.6	93	上前	方形	複	内→外	—	—	△ R12 IV	台3200	
	244	R・マスオ	L	完	3.6	5.1	1.2	1.4	7	上前	円形	複	内→外	—	—	△ P8 IV	台4052	
	245	ソナタ	L	完	3.1	3.7	2	1.2	5	上中	ヲ楕円	複	内→外	風化○	前中後	△ B10 II	台1823	
	245	R・サルトオ	L	完	3.9	5.6	1.2	1.4	19	上中	方形	複	内→外	—	—	△ N9 III	SP03 台4330	
	246	R・サルトオ	R	完	3.5	4.7	0.7	0.8	12	殻頂	ヲ楕円	複	内→外	摩耗△	—	△ M10 III	台4139	
37	246	ソナタ	R	完	7.2	8.4	1.4	1.5	56	上中	方形	複	内→外	アハタ△	—	△ B13 IV	台2571	
	247	ソナタ	L	完	5.6	6.5	2.1	2.1	19	中中	方形	単	内→外	—	—	△ B11 II	SK56 台2477	
	248	ヒタジヤコ	R	完	5.5	7	1.8	1.2	26	下前	ヲ楕円	単	付着ハレ	—	—	△ 013 IV	台3734	
	249	ヒタジヤコ	L	完	7.5	11.1	2.2	3.4	73	上中	ヲ楕円	複	内→外	風化○	—	△ N9 IV	台4057	
	250	ヒタジヤコ	L	完	5	7.3	1	1	26	中中	円形	単	内→外	—	—	△ N9 IV	台4057	
	250	R・サルトオ	R	完	3.9	4.7	0.9	0.9	13	上中	円形	複	内→外	摩耗△	前中後・マシ△	△ 09 III	SP7.8 台4223	
	251	ヒタジヤコ	L	完	3.4	5.7	0.5	0.6	11	上前	円形	単	内→外	色残△	—	△ M10 IV	台4033	
	252	ソナタ	R	完	5.6	8.6	1.5	1.6	30	上前	ヲ楕円	単	内→外	風化△	後△	△ Q10 IV	台3126	
	253	ヒタジヤコ	L	完	4.4	7.2	1	0.5	19	下前	ヲ楕円	単	自然	—	—	△ P9 IV	台4019	
	254	ヒタジヤコ	R	完	3.4	5.2	1	1.2	8	中中	ヲ楕円	複	内→外	—	—	△ N15 II	SK01 台3516	
	255	ヒタジヤコ	R	完	5.5	7.5	1	1.1	29	上後	円形	単	外→内	—	—	△ Q12 IV	台3167	
	256	ヒタジヤコ	L	完	—	—	—	1.3	18	上前	方形	単	内→外	—	中△	△ P11 IV	台3573	
	257	ヒタジヤコ	R	完	6.2	8.6	1.4	1.3	52	上前	方形	複	内→外	—	—	△ P11 IV	台3754	
	258	ヒタジヤコ	R	完	5.5	8	—	2.9	32	上前	ヲ楕円	単	内→外	—	—	△ P11 III	SP18 台3646	
	259	ヒタジヤコ	R	完	4	5.9	0.6	0.7	14	上中	方形	複	内→外	—	—	△ S12 IV	台3270	
	260	ヒタジヤコ	R	完	4.3	6.7	0.7	1.4	14	上前	ヲ楕円	複	内→外	—	—	△ 08 IV	台3948	
	261	ヒタジヤコ	L	完	4.7	6.9	0.6	0.6	24	上中	円形	複	内→外	摩耗△	—	△ M10 III	台4174	
	262	ソナタ	R	完	4.8	7.2	0.6	0.7	19	上前	方形	単	内→外	摩耗△	—	△ 09 IV	台3957	
	263	ソナタ	R	完	5.4	7.5	1.9	2.2	26	上前	方形	複	内→外	風化△	—	△ 014 III	台3018	
	264	ソナタ	L	完	4.7	7.4	0.8	2.4	23	中前	ヲ楕円	単	内→外	—	—	△ P7 III	SP27 台4212	
	265	ソナタ	R	完	5.5	8	1	1.7	29	上前	ヲ楕円	複	内→外	—	—	△ P8 IV	台4051	
	266	ソナタ	R	完	5	8.1	2.1	1.9	21	上前	ヲ楕円	単	内→外	摩耗△	—	△ N9 II	SP24 台4284	
	267	ヒタジヤコ	R	完	4.3	6.4	0.8	1.6	17	上前	不	単	内→外	—	前中後○	△ N9 III	台4030	
	268	ヒタジヤコ	R	完	6.2	8.7	1	1.2	53	中前	ヲ楕円	単	付着ハレ	摩耗△	○	△ N9 III	台4030	
	269	ソナタ	L	完	4.4	6.3	0.9	1.1	20	上前	不定形	複	内→外	—	前○	△ Q10 IV	台3126	
	602	ヒタジヤコ	R	完	7.8	5.5	0.9	1.1	37	上前	不	複	内→外	アハタ×	前・中△	△ T14 IV	台3168	
	609	ヒタジヤコ	L	完	5.7	3.7	0.6	1	12	上前	不	複	内→外	アハタ×	—	△ A14 IV	台3165	
	602	ヒタジヤコ	R	完	7.8	5.5	0.9	1.1	37	上前	不	複	内→外	アハタ×	前・中△	△ T14 IV	台3168	
	609	ヒタジヤコ	L	完	5.7	3.7	0.6	1	12	上前	不	複	内→外	アハタ×	—	△ A14 IV	台3165	

R: リュウキュウの意 凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし



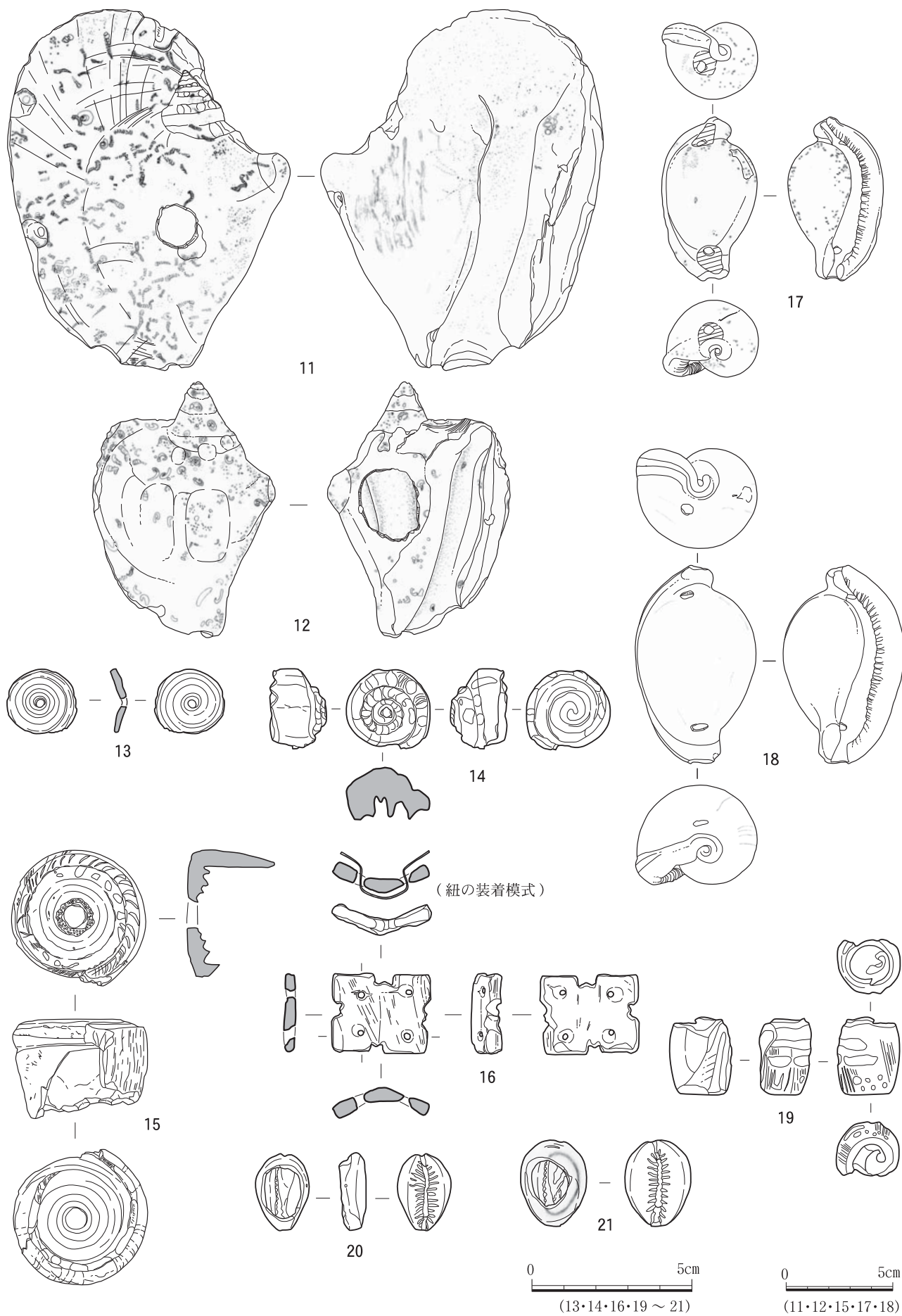
第77図 二枚具有孔製品遺跡別比較



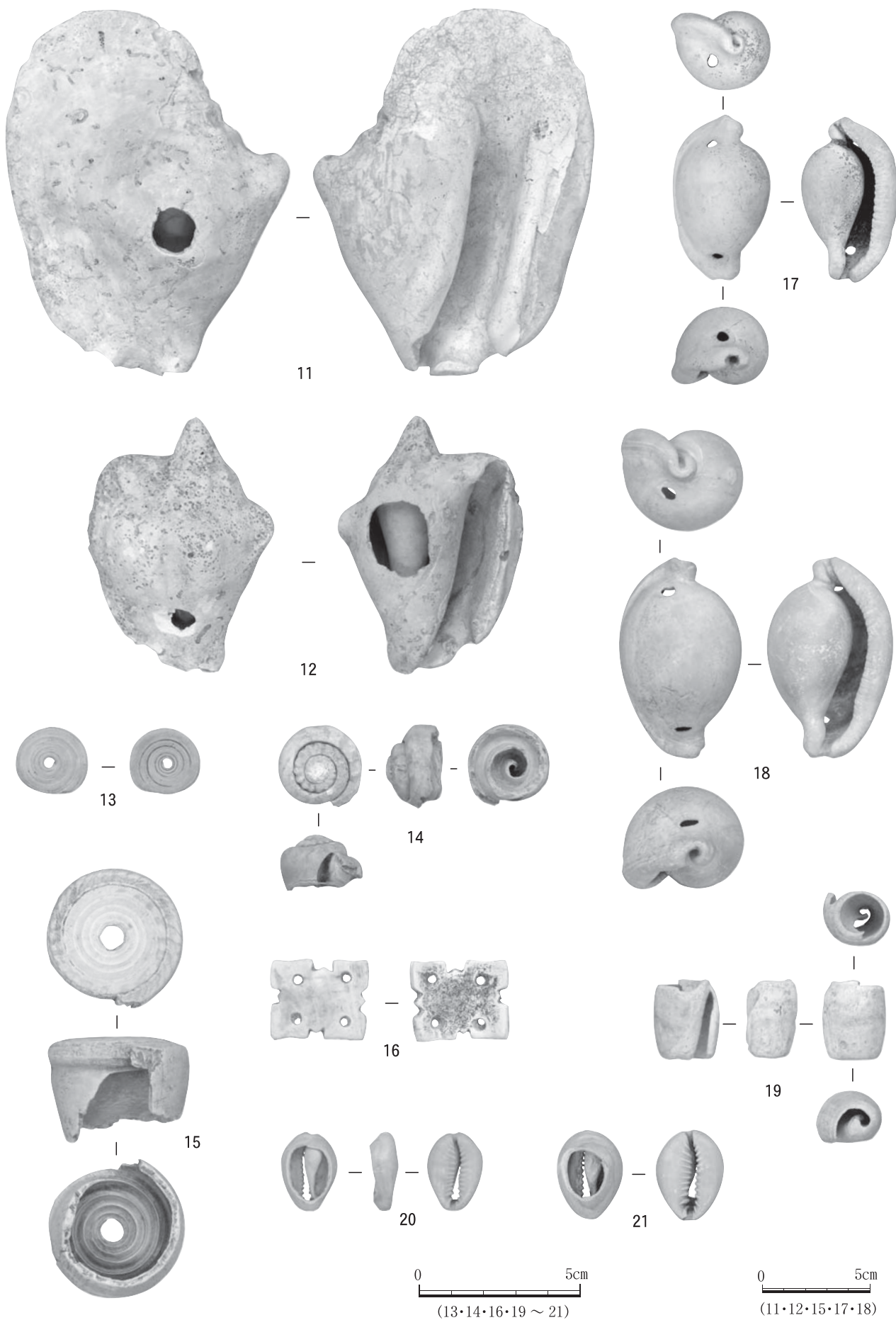
第78図 貝製品 1



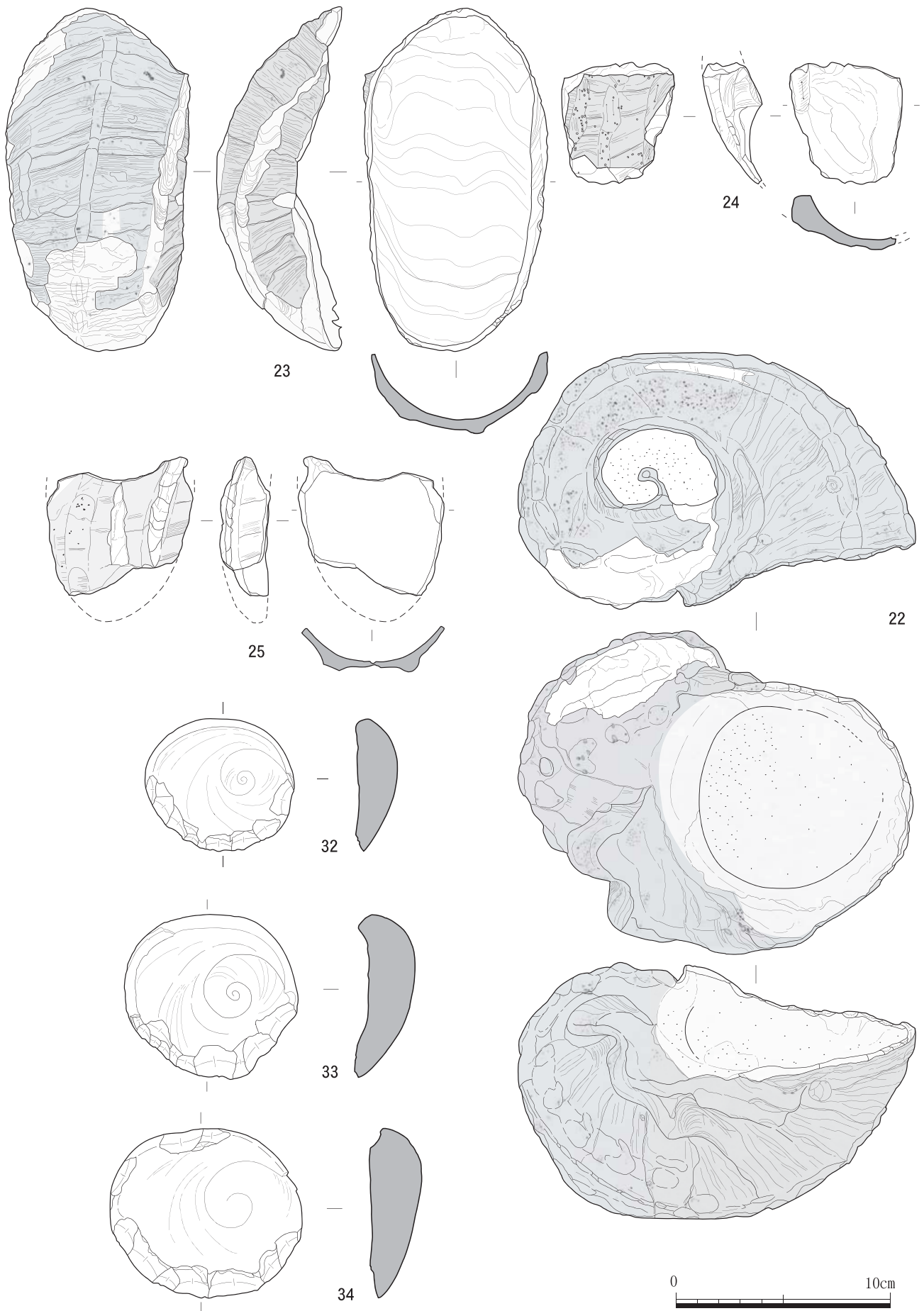
図版61 貝製品 1



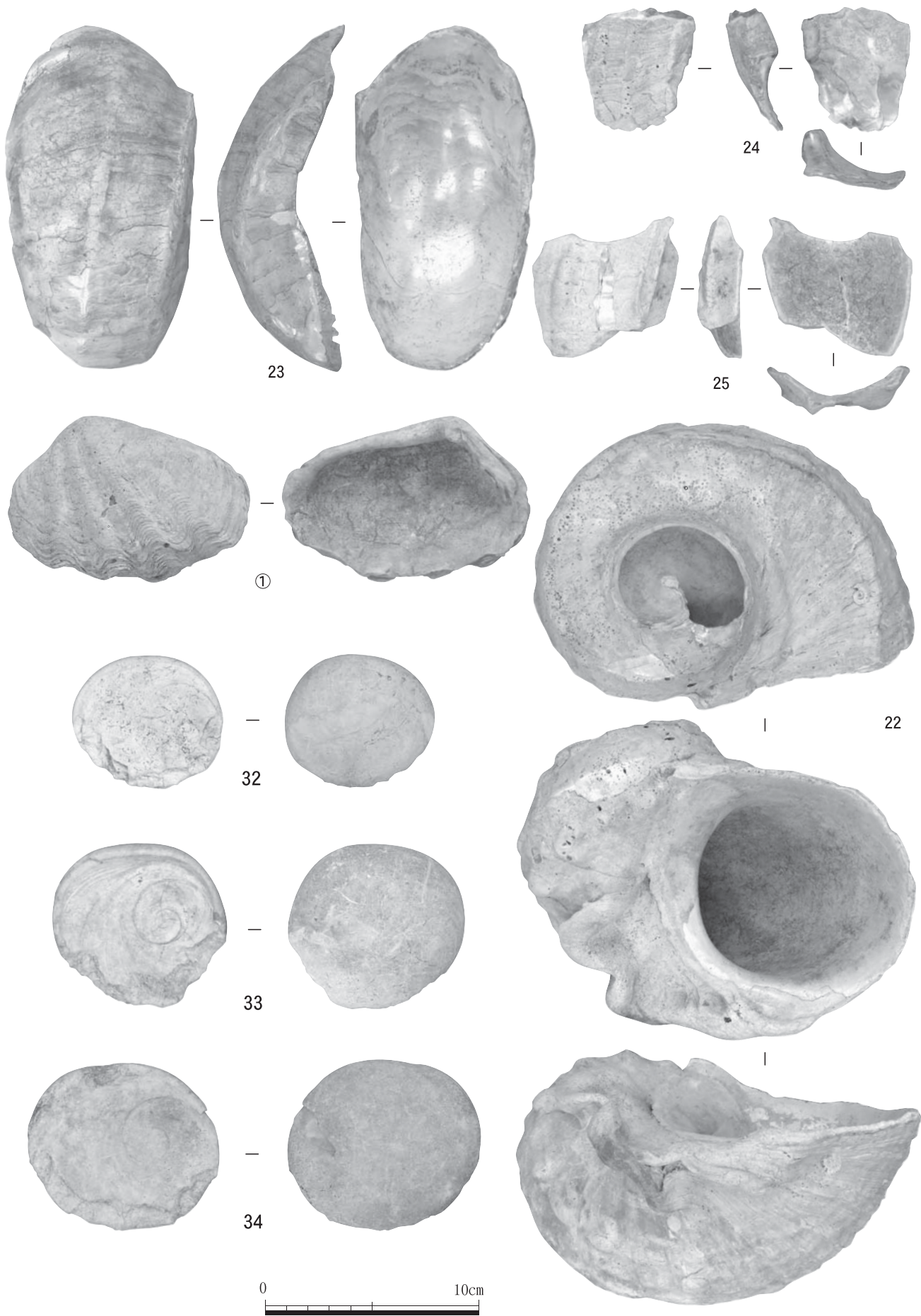
第79図 貝製品2



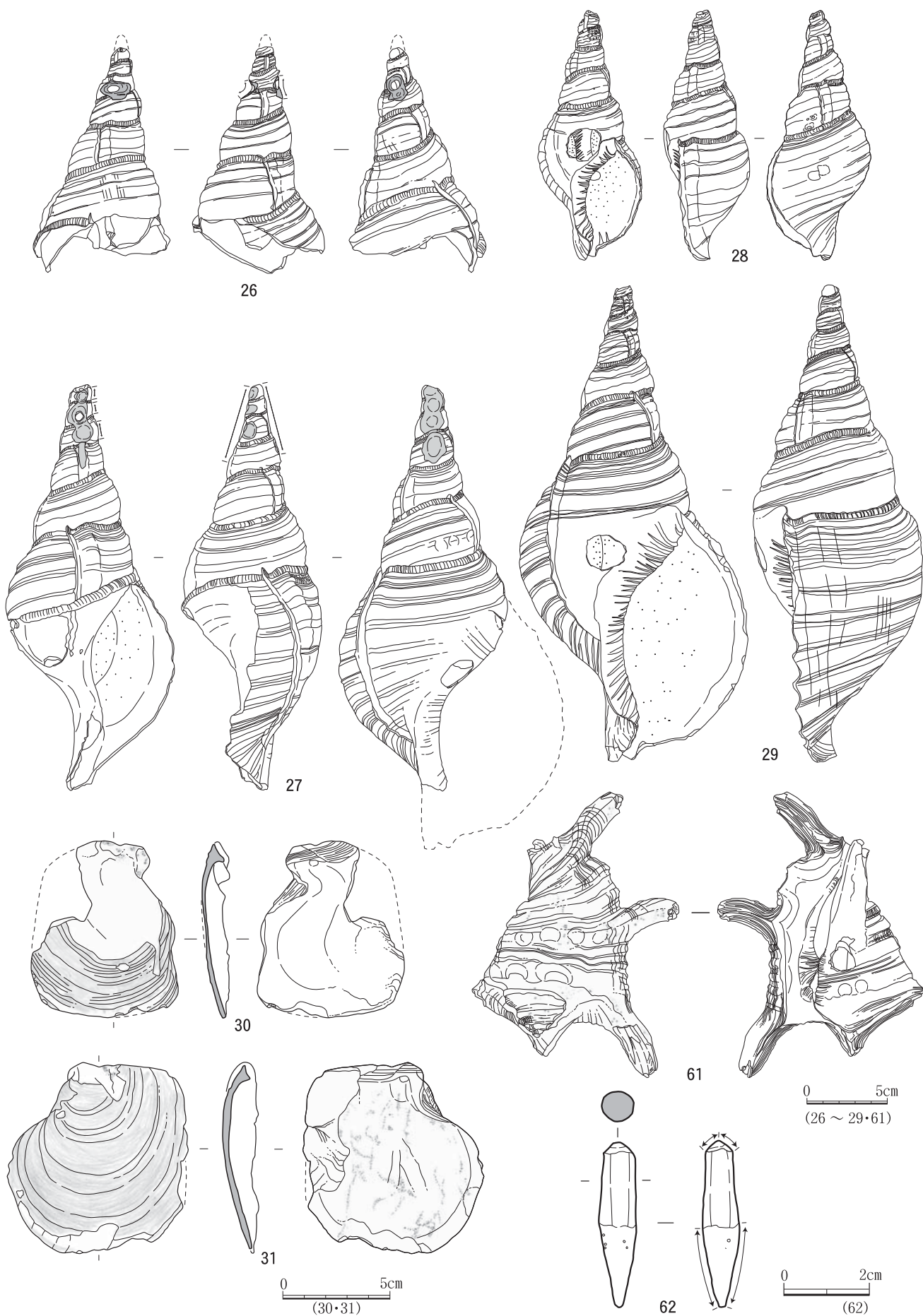
図版62 貝製品2



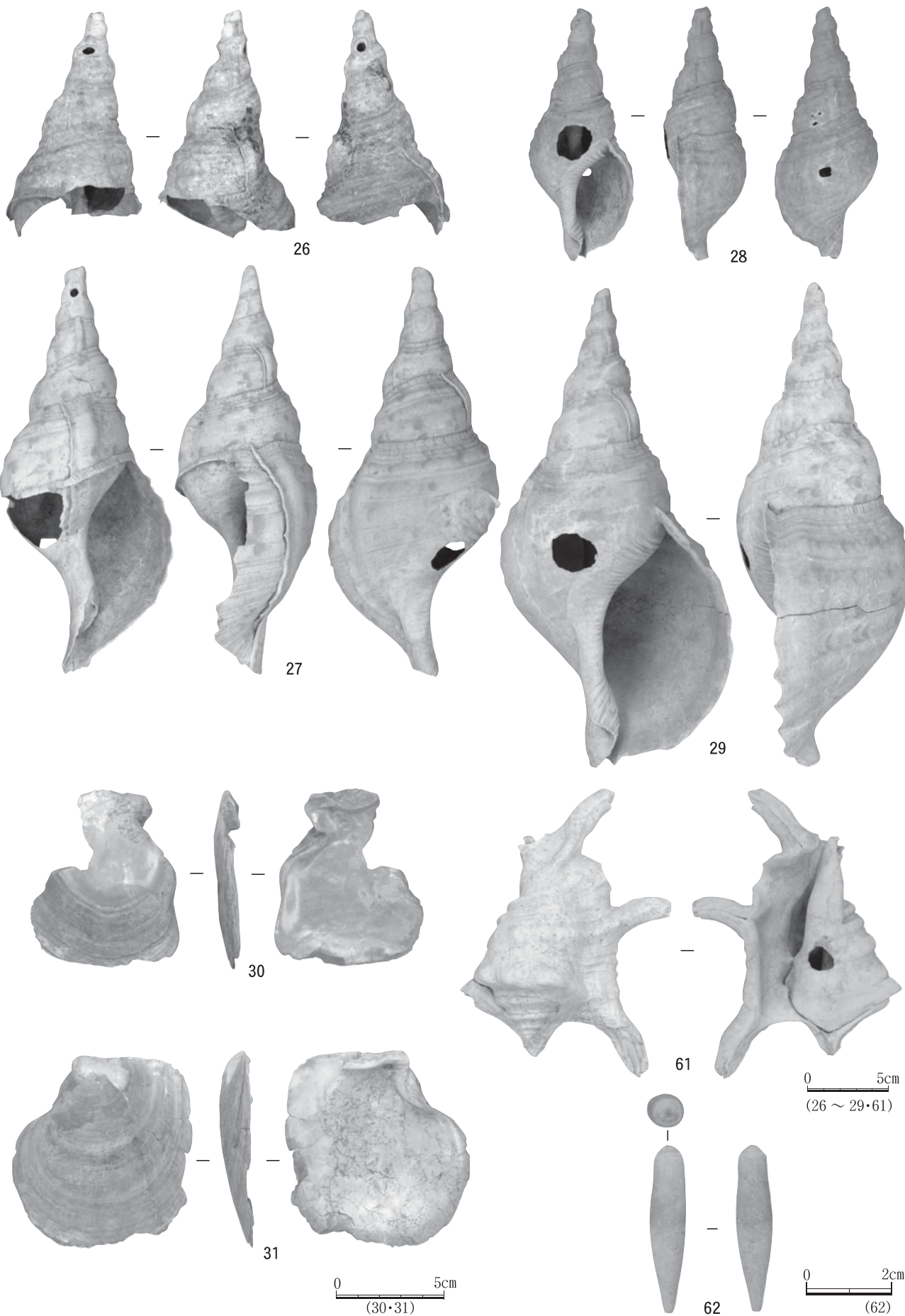
第80図 貝製品3



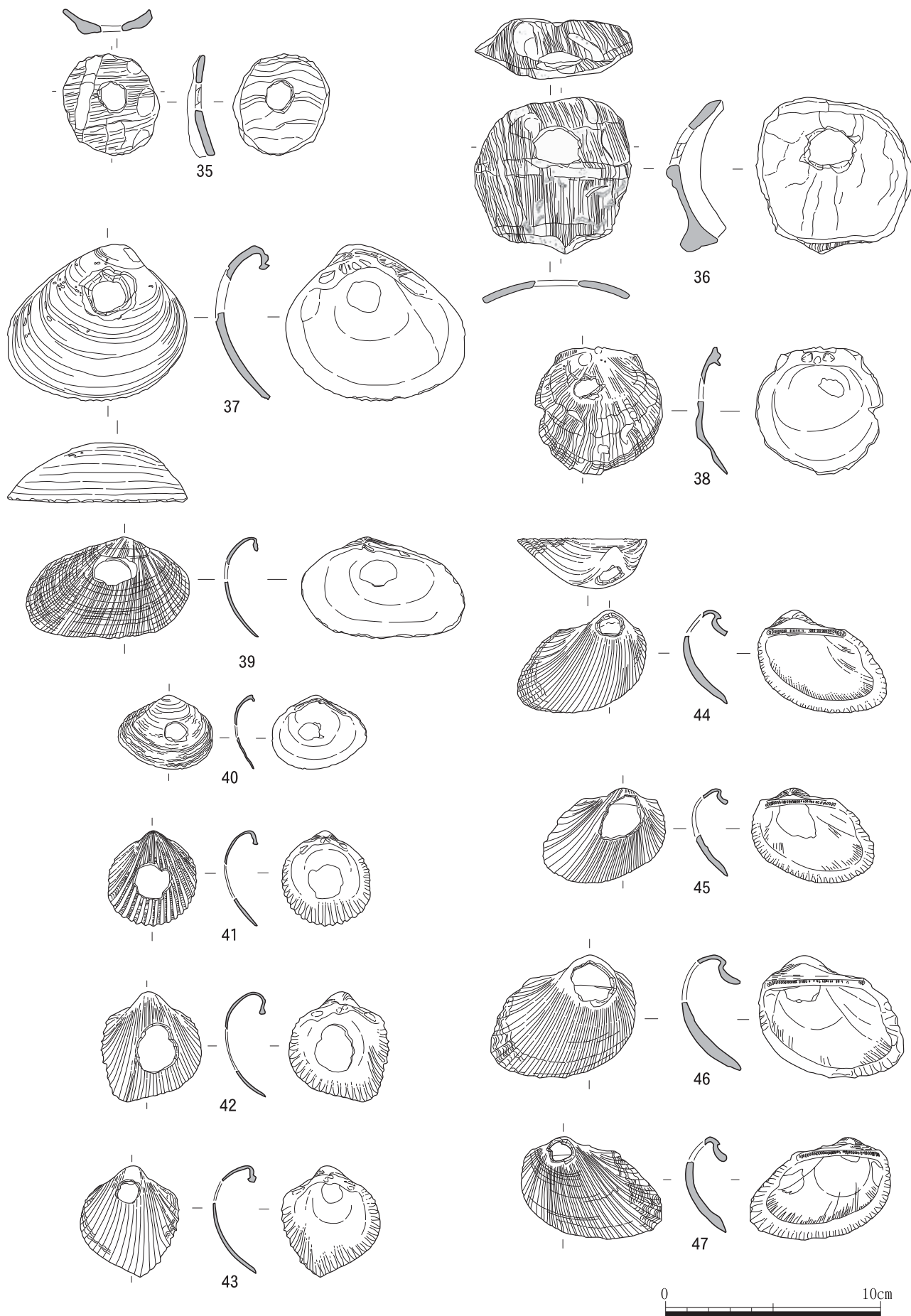
図版63 貝製品 3



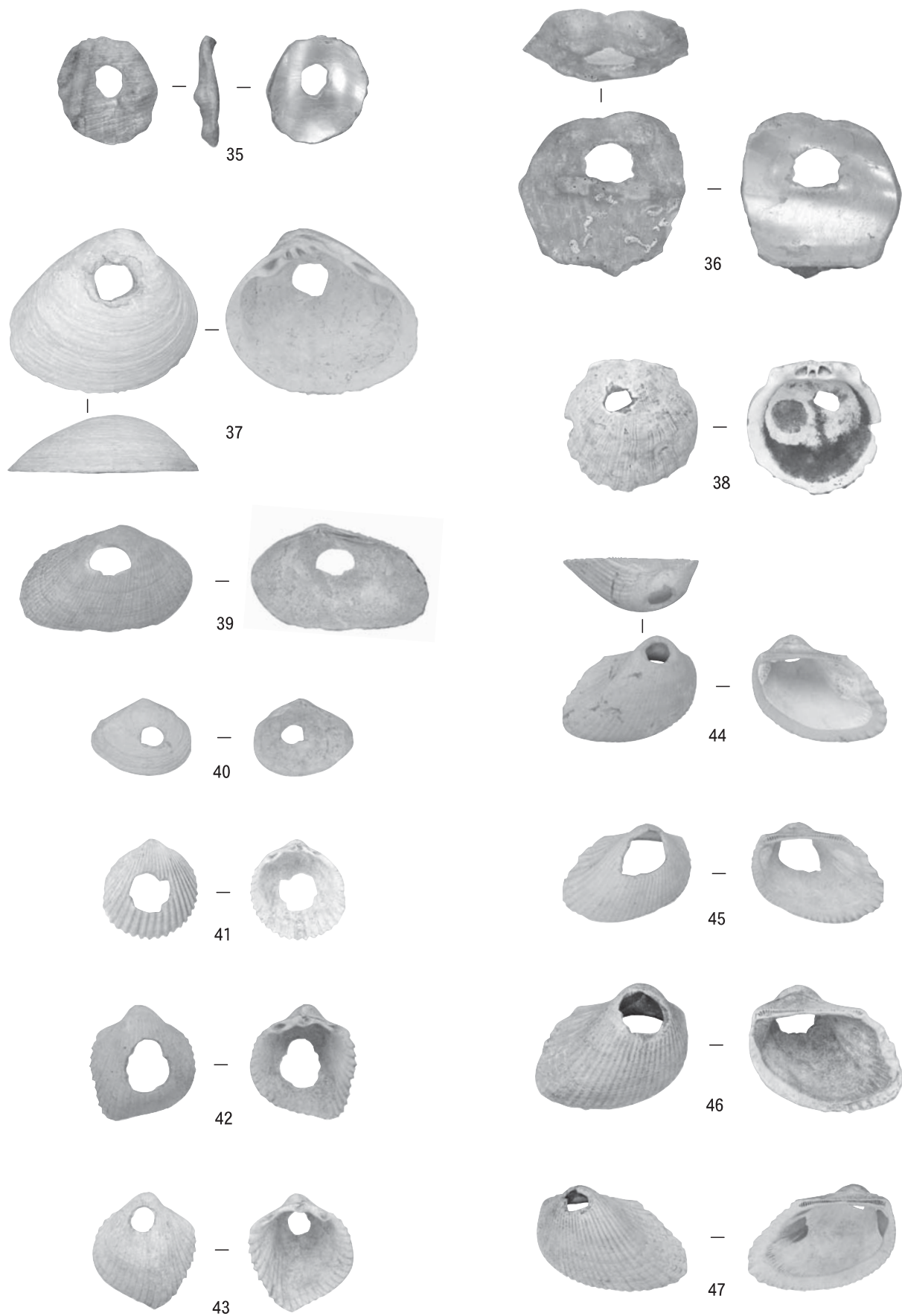
第81図 貝製品4



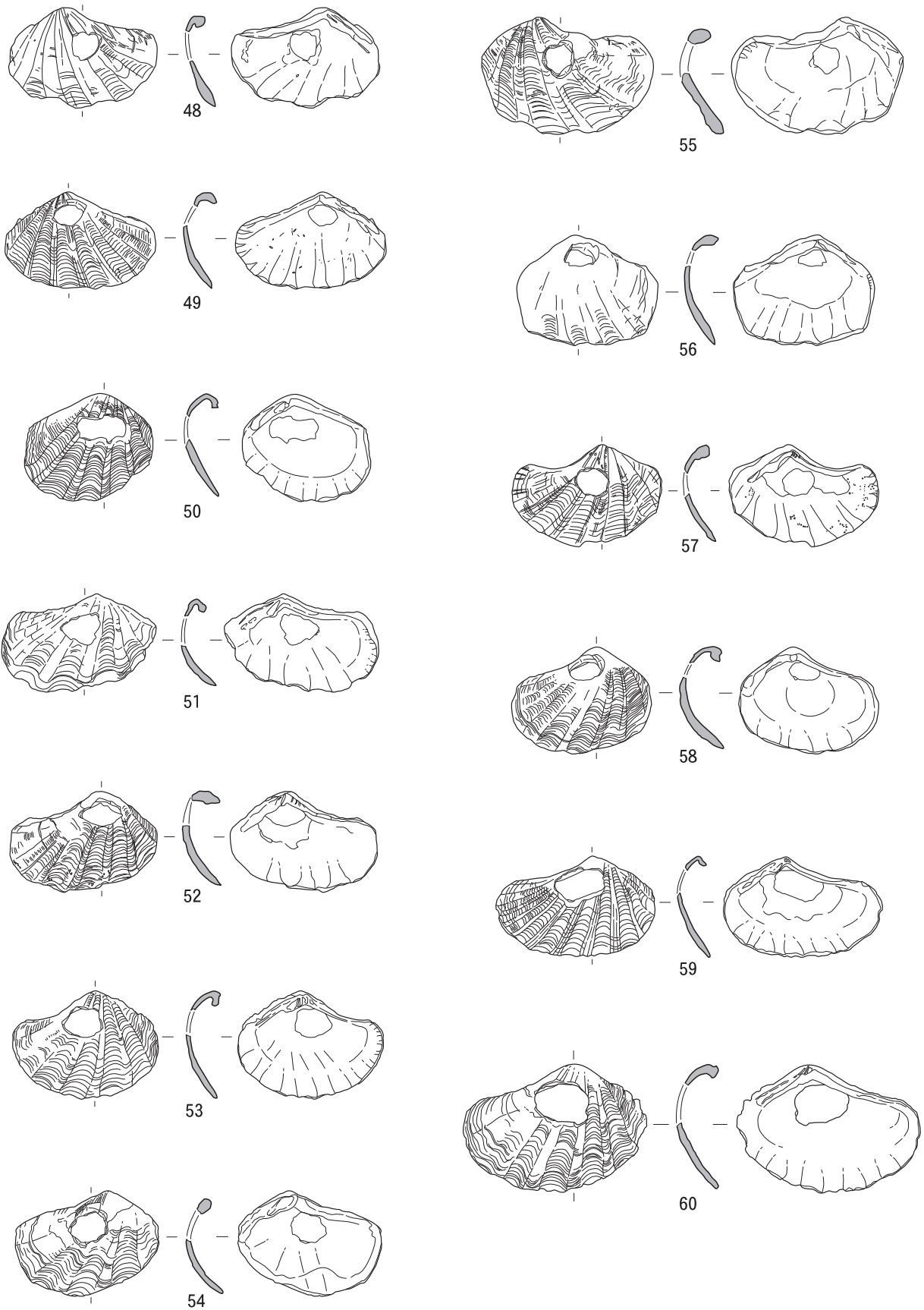
図版64 貝製品 4



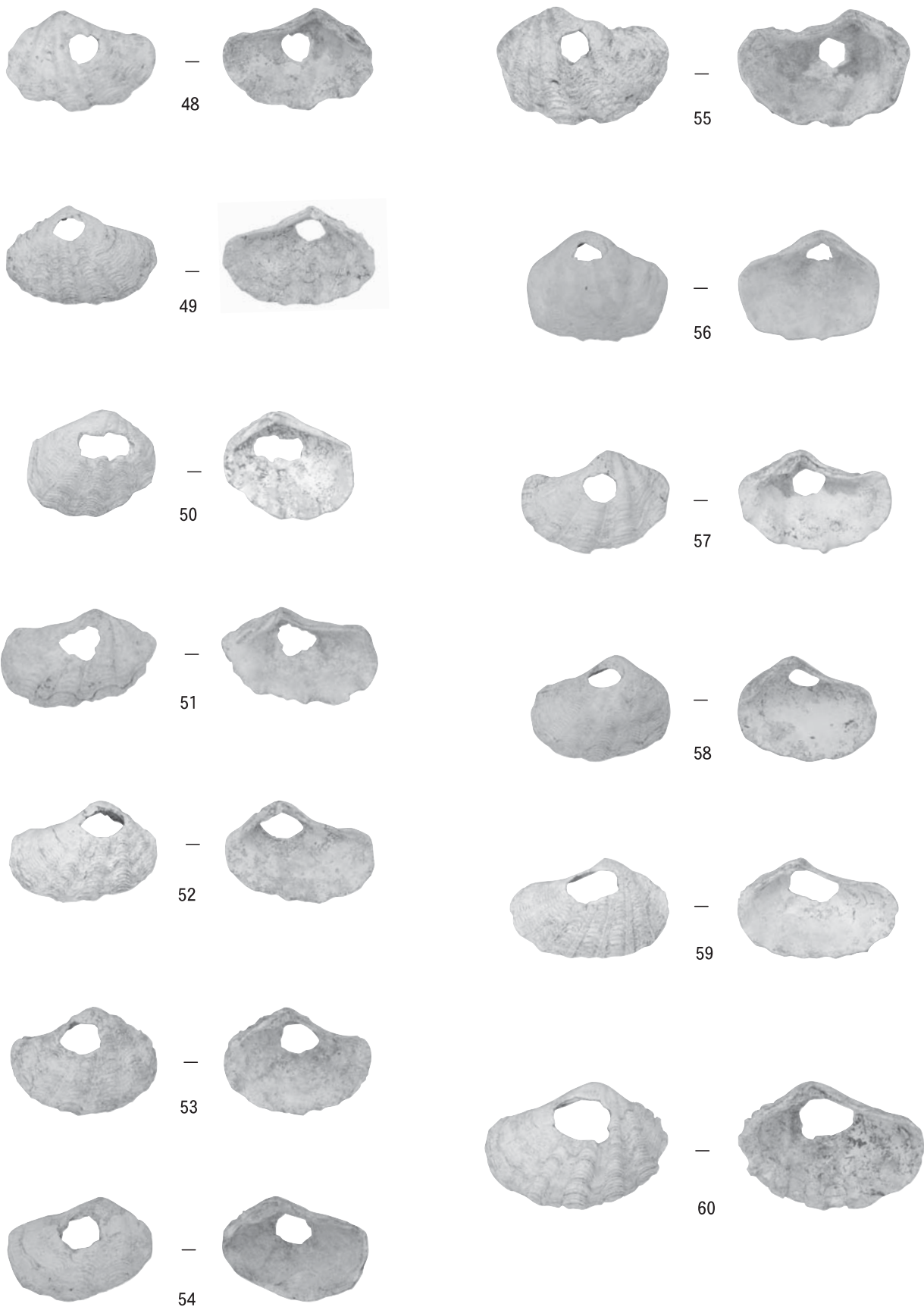
第82図 貝製品5



图版65 貝製品5



第83図 貝製品6



図版66 貝製品 6

(4) 骨製品

8点出土したが、用途が明瞭なものはヘラ状製品のみで、他は加工途中の可能性が高いため骨の種類でまとめた。ヘラ状製品4点、ジュゴン加工品1点、クジラ加工品1点、ウミガメ加工品2点の出土である。出土地をみるとH19地区で6点、イ・ハ地区でそれぞれ1点の出土である。

層別にみると第Ⅲ層で1点、第Ⅲ層遺構（ピット）で3点、第Ⅳ層2点、第Ⅴ層で1点、不明1点の出土である。第Ⅲ層及びその遺構出土ものは土器などと同様、混ざり込みの可能性が高い。

ヘラ状製品はイノシシ四肢骨を縦位に裂き、ヘラ状にしたもので先端部1点、軸部3点得られた、主に半裁面の研磨が顕著である。図1は先端部でやや丸みを帯びるものであるが、側面も破損し、大きさは不明である。H19地区第Ⅳ層の出土である。

軸部は図2～4の3点で、図3は横断面が丸く、加工も下端に徐々に細くなることからポイント状を呈する。骨質もイノシシ骨よりはやや軟質を呈するが、明瞭でないため一応ここに分けた。

図5～図8は海獣骨で、図5はジュゴン、図6はクジラ、図7・8はウミガメ類と考えられるものである。加工途中あるいは加工が明瞭でなく、種類ごとにまとめた。図5はジュゴン肋骨の近位部～遠位部あるもので、湾曲する外面を部分研磨し、遠位側を大きく剥離するものである。肋骨の横断面の最大径は2.2×1.7cmを測り、ジュゴンとしては細身である。研磨のみで用途は不明。

図6はクジラの肋骨を縦位に切り取り、方形状に加工したもので、曲面から復元すると直径6.8cmと想定される。下端には「U」字状の抉りが確認される。図7と8はウミガメの骨と思われるが、後者はやや化石化して重い。図7は棒状に加工され、片側はやや細くなり尖るものと思われる。断面は横楕円を呈することからポイント状の製品が想定される。図8もやはり棒状を呈するが、骨の加工はあまり明瞭でない。横断面は三角形を呈することから、ウミガメの烏甲骨と思われる。

第34表 骨製品出土量

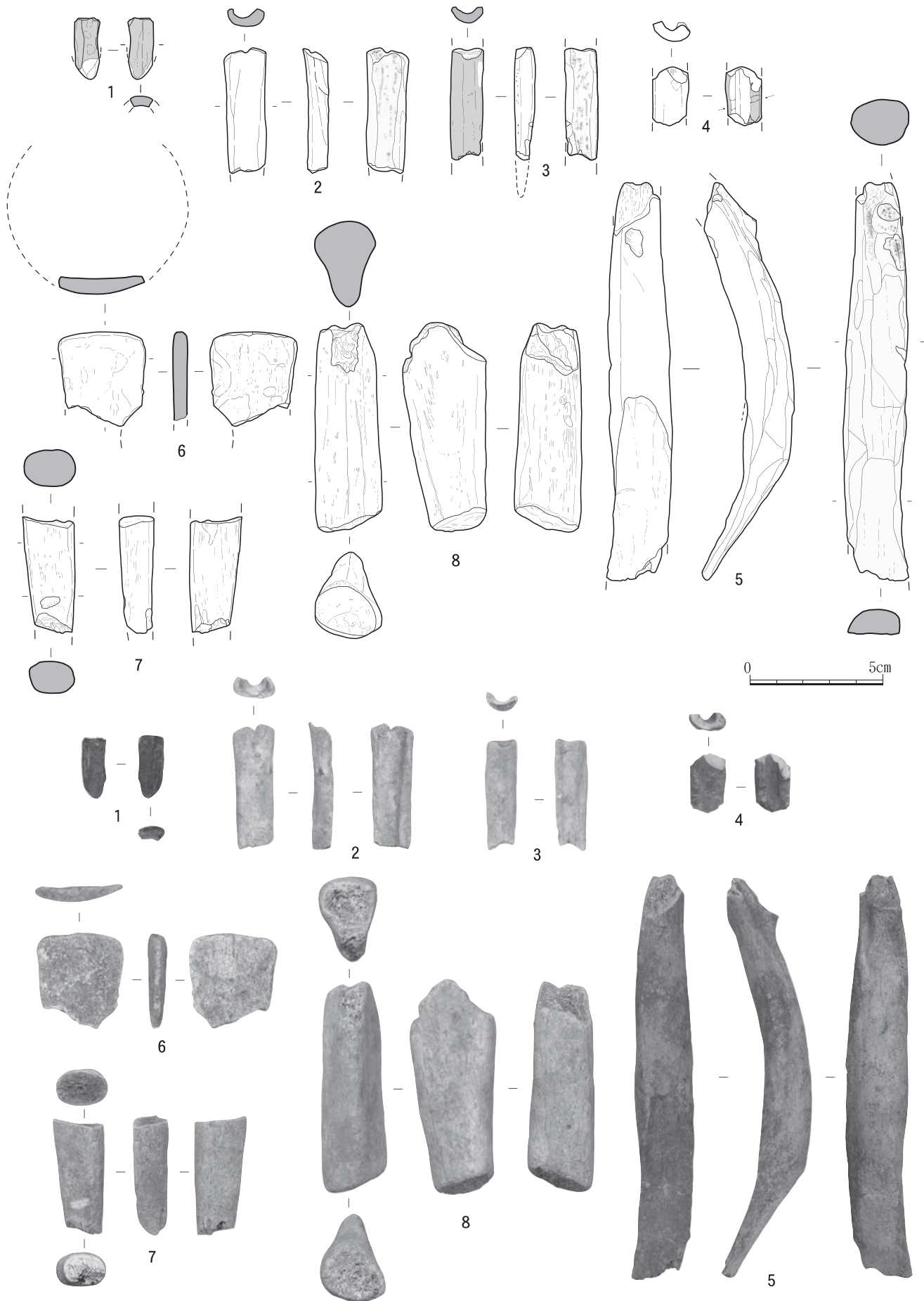
地区	層位	分類		ジュゴン	クジラ	ウミガメ	合計
		先端部	軸部				
H19	Ⅲ		1				1
	Ⅲ 遺構			1		1	2
	Ⅳ	1	1				2
	Ⅴ		1				1
イ	不					1	1
ハ	Ⅲ 遺構				1		1
合計		1	3	1	1	2	8

第35表 骨製品観察一覧

(法量単位：cm、g)

図版番号	図番号	製品	部位	残存	長さ	幅	厚さ	重さ	観察事項	地区 小ウリット層遺構 台帳番号
第84図・図版67	1	ヘラ状製品先端部	四肢骨	破	△2.35	0.95	0.40	1.40	光沢有、先端丸み、半裁面は研磨	H19 IV
	2	ヘラ状製品軸部	四肢骨	破	△4.75	1.45	0.35	3.70	半裁し、板状、研磨は雑。	H19 S15 III 台2942
	3	ヘラ状製品軸部	四肢骨	破	△4.25	1.20	0.40	2.20	研磨顕著、断面丸く、下端に斜めに研磨、ポイントか？イノシシではないかも。	H19 S12 V 取537 台2920
	4	ヘラ状製品軸部	四肢骨	破	△2.20	1.35	0.45	1.20	半裁部分は、研磨加工無。幅0.2の「U」字状の溝、斜めに入れる骨体、橈骨半裁面研磨	H19 T14 IV 台2581
	5	ジュゴン未製品	肋骨	破	14.90	2.20	1.70	44.72	近位～遠位部で自然面が多い。遠位部の外縁研磨、内縁剥離。	H19 S14 III P10 台4221
	6	クジラ未製品	肋骨	破	△3.60	3.30	0.60	4.44	板状、隅丸方形、断面丸味、内外面やや研磨。下端に曲状加工	ハ Q12 III P75 台1005
	7	ウミガメ棒状	烏甲骨？	破	△4.50	1.95	1.35	8.70	棒状、両端欠、裏面は海綿露出。下端細くなる。ポイント状	イ A17c 台975
	8	ウミガメ未製品	烏甲骨？	破	7.70	2.20	3.15	56.54	棒状か、両端摩耗、石灰化、製品？	H19 T14 III P26 台4229

(凡例：△=残存長)



第84图·图版67 骨製品

(5) 土製品

土製品は2点出土した。土器の破片を利用し円形に二次加工した資料である。図1は、ほぼ正円を呈し断面の厚さは9mmである。表面に文様はなく裏面にも器面調整の痕跡は確認できない。表裏面には焼成された痕跡が窺えるが側面にはみられず正円にする為、周縁を擦ったと考えられる。胎土は泥質で数種類の混入物が観察され後期土器の様相を呈す。

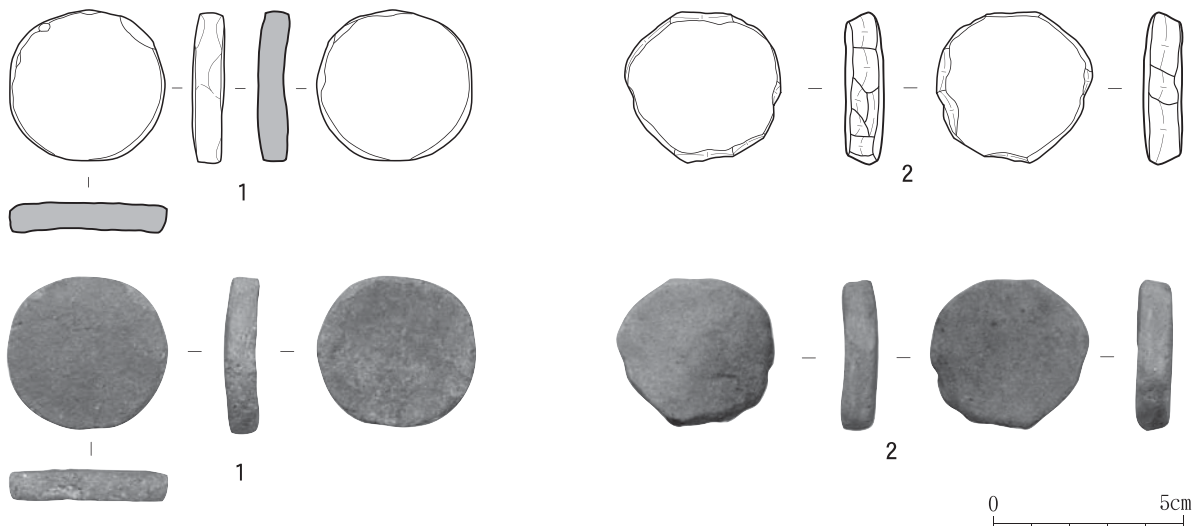
図2は、土器破片の周縁を細かく打ち割るがいびつな形状を呈し角が残る。表面に文様はなく裏面にも器面調整痕は認められない。器面の色調は全体に表面が黄褐色で部分的に黒色、赤褐色に焼け、裏面は茶褐色を呈す。胎土は砂質で細かい混入物と雲母、長石が含まれる。浜屋原式土器の破片と推測される。土製品は本町周辺の遺跡でも出土し、伊礼原D遺跡(2013)出土の土製品と比較すると今回の資料は若干小さい。又、伊礼原E遺跡(2010)出土の土製品とは大きさ、資料の状態から目的の違うものと推測される。図1、2の資料とも計測値は同程度のサイズを示す。

第36表 土製品観察一覧

第図 図版	図番 号	形状	器種	部位	文 様		計 測 値 (cm / g)				地区	小グリッド	層	台帳番号	
					外面	内面	縦	横	厚	重さ					
図第 版85 68図	1	正円	土器	胴部	—	—	4.0	4.1	0.9	17.2	H19	Cトレンチ	一括	白砂層	台3224
	2	角あり	土器	胴部	—	—	4.0	4.1	1.0	19.3	二	—	IV層	清掃時一括	台1695

<参考文献>

- 伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)1984 犬田布貝塚 鹿児島県大島郡伊仙町教育委員会
 沖縄県北谷町教育委員会 2010『伊礼原E遺跡』北谷町文化財調査報告書第31集
 沖縄県北谷町教育委員会 2013『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書第35集



第85図・図版68 土製品



図版69 1945年頃の伊礼原遺跡周辺図（『北谷町の地名』を一部抜粋・加筆）

第4節 グスク時代

1. 遺構

グスク時代の遺構は第Ⅲ層において検出された溝状遺構 (SD) : 8・ピット (P・SP) : 1010・土坑 (SK) : 56・用途不明遺構 (SX) : 4・土坑墓 : 1・サンゴ礫集中部 : 1ヶ所である。特徴的な遺構として青磁皿出土土坑、人骨出土土坑、土坑墓、サンゴ礫集中部が挙げられる。以下、遺構の種類ごとに概略し、個々の特徴は観察表に譲る。なお、遺構内より貝塚時代後期の遺物が出土するのは当時の掘削による混ざり込みと考えられ、近世以降の遺物が出土するのは調査時の混ざり込みと考えられる。

(1) 溝状遺構

溝状遺構は6ヶ所確認できた。A18～A16に伸びる1-SD01とN14・15に伸びる2-SD06は近くに掘立柱建物想定プランの組める柱穴が広がることから、屋敷囲い溝の可能性も考えられる。

第37表 溝状遺構観察一覧

遺構名	グリット	サイズ (m)			方位	遺物	備考
		長径	短径	深さ			
1-SD01	A17 A18 B18	7.5	1.2	0.2	南—北	土器 (胴IV類B・胴II類・口II類・底乳)・青磁碗 (口)・貝	ほぼ南北に直線的に伸びる。A18で西側 (海側) に60cm幅の溝が枝状に接続する。B18あたりで、埋土も薄い灰色になり、浅くなって消える。
1-SD06	S16 S17 T16 T17	13.5	1.2	0.3	南—北	土器 (胴IV類A)・獣骨・貝	1-SD01に近い土質。北谷町の行なった試掘トレンチ (2007) に切れ詳細は不明だが、南側で1-SD01に接続するようである。北側は1-SD03 (近世以降) に切られている。
1-SD09	T11 T12	5.11	0.85	0.2	東—西	土器 (胴IV類A・胴IV類B・胴IV類C・胴IV類・底乳)・白磁皿 (口)・褐釉陶器 (甕底・壺胴 (第115図20))・貝・獣骨	イ地区北側で東西方向に伸びる形で検出された。
2-SD05	K11 L11	5.04	0.38	0.12	南—北	土器 (胴IV類C・胴IV類・口IV類C・口VI類・底乳)・獣骨	南北に伸びる溝状遺構。L11途中で切れる。
2-SD06	N14 N15	13	1.2	0.12	南—北	土器 (胴IV類A・胴IV類B・胴IV類C・口II類)・獣骨	ハ地区東端で検出。東壁で「く」字状に折れる。
2-SD07	O12 P13	2.31	0.62	0.2	西北西 東南東	土器 (胴IV類B・胴IV類C・胴IV類)・青磁 (碗口・皿口)・褐釉陶器 (壺・底)・獣骨	O12とP13の間が攪乱により途切れる。
2-SD08	S8 T8	2.27	0.91	0.21	南西 北東	土器 (胴IV類B)・染付 (碗or鉢口・碗底)・褐釉陶器 (壺胴)・焼土・貝製品 (ヤコカイ貝匙)・獣骨	S8方向 (東側) に延びる。西側は攪乱により消失。
2-SD10	S8 S9	2.49	0.9	0.17	南西 北東	土器 (胴IV類B・胴IV類C)・青磁碗 (口・底)・白磁壺 (第106図30)・褐釉陶器 (壺・口胴)・獣骨	SD08に繋がる溝か。



1-SD01検出状況 (南から)



1-SD01 Bライン断面 (北から)



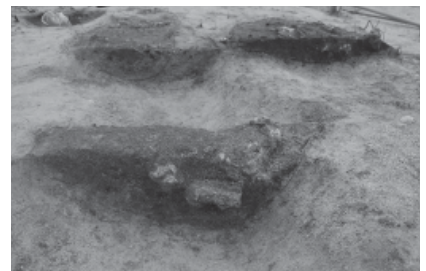
1-SD01Cライン断面 (北から)



1-SD06断面

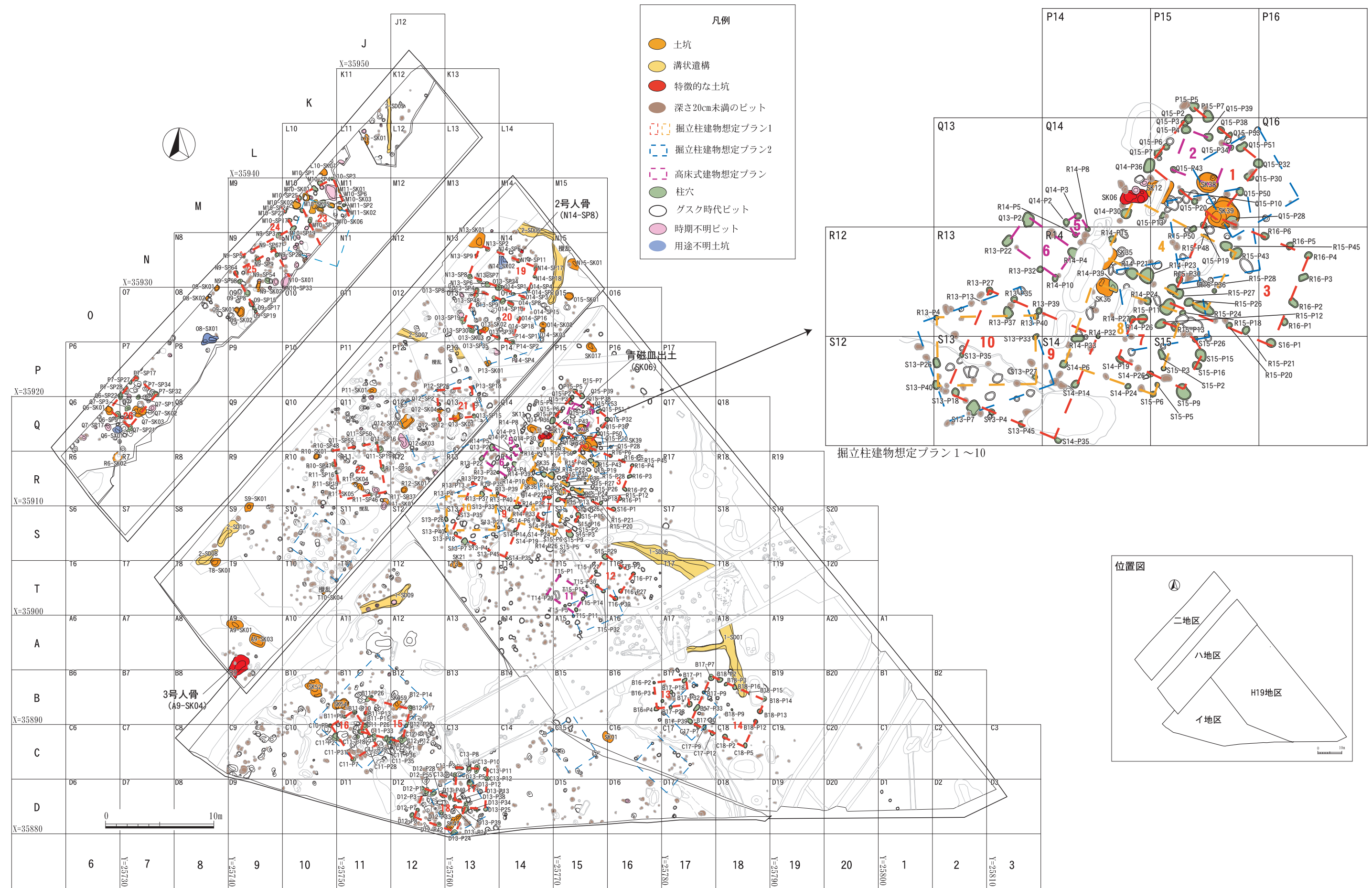


2-SD06土層断面 (南から)



2-SD08・T8-SK01土層断面 (北東から)

図版70 溝状遺構検出状況



第86図 第三層検出遺構

第38表 柱穴観察一覧

■：断面図掲載想定プラン（第87図～第89図）

プラン	柱穴No.	平面形状	断面形状	長辺 (cm)	短辺 (cm)	深さ (cm)	遺物
1	P15-P5	隅丸三角	二段状	49	45	25	自然貝
	Q15-P2	楕円	U	50	40	37	自然貝
	Q15-P3	不定	U	35	(25)	33	無
	Q15-P6	楕円	二段状	30	30	20	獣骨
	Q15-P7	楕円	U	40	34	36	無
	Q14-P36	楕円	不定	68	48	35	無
	Q15-P10	楕円	U	29	28	26	自然貝
	Q15-P20	円	U	29	28	38	土器(胴IV類B)・自然貝
	Q15-SK39	円	不定	140	140	27	貝製品(コノコ)・土器(胴IV類A・B)・青磁碗(口)・獣骨・軽石・自然貝
	Q15-P50	円	二段状	(36)	35	33	無
Q15-P30	不定	U	50	(25)	32	自然貝・軽石	
Q15-P32	円	二段状	45	40	51	自然貝	
Q15-P51	楕円	二段状	54	36	20	土器(胴IV類C・口弥生)・自然貝	
Q15-P53	不定	不定	(46)	(24)	38	自然貝・獣骨	
Q15-P38	楕円	U	36	29	22	自然貝	
P15-P7	隅丸三角	U	53	48	34	自然貝・土器(胴III類)	
Q15-P4	楕円	U	45	40	35	自然貝	
Q15-P43	円	U	35	27	23	自然貝	
2	Q15-SK38	円	U	100	100	43	土器(胴IV類C)・軽石・自然貝
	Q15-P34	円	U	24	22	20	自然貝
9	Q15-P39	楕円	V	43	33	34	自然貝・土器(胴III類)・獣骨・軽石
	Q15-SK39	円	不定形	140	140	27	貝製品(コノコ)・土器(胴IV類A・B)・青磁碗(口)・獣骨・軽石・自然貝
3	Q15-P19	円	U	29	27	44	自然貝・軽石
	R15-P30	楕円	U	35	30	21	自然貝・土器(胴IV類A)
	R15-P11	楕円	U	78	70	62	自然貝・獣骨・軽石
	R15-P20	楕円	U	30	26	32	自然貝
	R15-P21	円	U	37	35	40	自然貝
	S16-P1	楕円	U	43	39	29	自然貝
	R16-P1	楕円	U	35	35	20	無
	R16-P2	楕円	U	50	30	42	自然貝
	R16-P3	隅丸方	U	50	30	36	自然貝
	R16-P4	楕円	U	40	33	33	自然貝・獣骨
R16-P5	楕円	U	40	32	34	自然貝	
R16-P6	楕円	U	38	36	36	自然貝・獣骨	
Q15-P28	不定	U	52	20	44	自然貝・軽石	
4	Q14-SK06	楕円	U	130	50	21	青磁皿(第102図52)
	Q14-P30	楕円	二段状	54	47	25	自然貝
	R14-P15	楕円	U	37	32	29	無
	R14-SK35	不整	不定形	(100)	(20)	48	自然貝・獣骨
	R14-P21	楕円	二段状	56	50	20	自然貝
	R14-P23	円	U	74	70	37	無
	R15-P28	円	二段状	50	50	29	自然貝
	R15-P27	不定	二段状	55	50	32	青磁碗(第99図20)・軽石・自然貝
	R15-P26	楕円	U	50	40	23	自然貝
	R15-P24	楕円	U	105	55	46	自然貝・軽石
R15-P36	円	V	25	25	31	無	
R15-P43	楕円	二段状	62	48	43	土器(胴IV類C)・褐釉陶器(壺・口)・獣骨・自然貝	
R15-P45	楕円	二段状	60	42	21	自然貝	
R15-P48	不定	U	33	(15)	35	自然貝	
R15-P50	楕円	不定	38	25	48	土器(胴IV類B)	
Q15-P13	楕円	不定	31	(17)	27	無	
5	Q14-P2	楕円	U	32	31	45	自然貝
	R14-P5	楕円	U	27	23	24	自然貝
	R14-P8	楕円	U	30	24	31	無
	Q14-P3	楕円	U	35	30	32	自然貝・獣骨
	Q13-P2	楕円	逆台	70	55	27	土器(胴IV類B)・青磁(皿(第103図58)・碗口)・褐釉陶器(壺・胴)・染付瓶(第111図40)・獣骨・不明銭貨・焼土・自然貝
	R13-P22	楕円	U	55	45	24	自然貝・獣骨
	R13-P32	円	U	30	30	25	無
	R14-P10	楕円	U	38	25	21	無
	R14-P4	不定	V	(46)	50	39	自然貝
	R14-P26	方	U	50	45	21	土器(胴IV類C)・青磁碗(口)・獣骨・焼土・自然貝
R14-P27	楕円	V	35	26	27	無	
S14-P19	楕円	U	43	35	20	自然貝	
S14-P26	楕円	V	(34)	28	21	自然貝	
S15-P9	楕円	不定形	83	58	28	自然貝	
S15-P16	楕円	V	45	40	51	自然貝	

() は推定 ※遺物：土器はII群(貝塚時代後期)を省略して示す

■：断面図掲載想定プラン（第87図～第89図）

プラン	柱穴No.	形状	断面形状	長辺 (cm)	短辺 (cm)	深さ (cm)	遺物
15	B11-P26	楕円	不定	85	35	40	土器(口V類E・胴IV類B)・骨・染付(瓶・胴)・本磁瓶(第138図5)・自然貝・焼土
	B11-P13	不定	V	40	35	20	自然貝
	C11-P28	円	U	55	55	26	自然貝
	C11-P33	楕円	不定	80	(45)	27	無
	C11-P35	楕円	U	60	35	23	白磁(碗・胴)・二枚貝有孔製品(シタシ)・自然貝
	C11-P36	不定	U	80	75	59	獣骨・沖無(胴)・自然貝
	C12-P1	楕円	—	40	30	25	自然貝
	C12-P12	楕円	不定	75	60	24	獣骨・焼土・土器(胴IV類C・胴V類E)・破石(第65図17)・自然貝
	C12-P11	円	U	45	35	21	褐釉陶器(皿・口)・焼土・自然貝
	B12-P23	楕円	すり鉢	65	(36)	24	砥石(第123図4)・焼土・獣骨・自然貝
B12-P17	楕円	V	50	45	33	自然貝・獣骨	
B12-P14	楕円	二段状	25	20	22.5	自然貝	
C10-P9	楕円	有段状	40	35	29	自然貝	
C11-P2	不定	U	102	80	45	無	
C11-P7	楕円	U	50	40	27	自然貝	
C11-P39	不定	V	45	(35)	18	自然貝・獣骨・土器(胴)	
C11-P31	楕円	U	35	30	22	無	
C11-P26	楕円	U	60	60	28	無	
B11-P10	円	U	42	42	36	自然貝・獣骨	
B11-P9	楕円	逆台	35	30	24	土器(胴IV類)・獣骨・自然貝	
C11-P18	不定	V	44	37	40	土器(口VII類)・獣骨・自然貝	
C13-P3	不定	不定	80	(30)	34	自然貝	
C13-P4	円	不定	45	(44)	55	無	
D13-P12	円	二段状	45	43	42	自然貝	
D13-P14	円	U	35	33	27	自然貝・染付(碗・口)	
D13-P39	楕円	U	80	58	49	自然貝	
D13-P34	楕円	U	45	25	28	自然貝	
D13-P25	楕円	U	41	40	36	自然貝	
C13-P12	円	U	50	45	28	自然貝・土器(口IV類)	
C13-P11	楕円	不定	60	36	29	青磁碗(胴)・軽石・自然貝	
C13-P10	楕円	V	85	45	20	自然貝	
C13-P8	円	二段状	50	48	26	自然貝	
D13-P5	円	すり鉢	74	65	25	自然貝	
D12-P1	不定	U	(52)	(35)	27	自然貝	
D12-P7	円	逆台	35	35	24	自然貝	
D12-P8	楕円	V	65	50	41	自然貝・軽石・木片	
D12-P42	円	U	43	43	26	自然貝	
D13-P24	不定	不定	48	(75)	24	自然貝・獣骨	
D13-P38	円	V	36	32	47	自然貝	
18	D13-P13	楕円	U	40	33	40	青磁(碗・口)・石斧(第63図2)・自然貝・獣骨
	D13-P40	楕円	V	50	33	23	自然貝・獣骨
	D12-P28	楕円	U	50	(25)	41	土器(胴IV類C)・自然貝
	D12-P55	楕円	すり鉢	70	50	33	自然貝・軽石
	D12-P3	楕円	U	80	(45)	27	自然貝
	D12-P33	円	V	43	40	35	土器(胴IV類C)・獣骨・自然貝
	N13-SK01	楕円	すり鉢	158	107	40	青磁碗(第99図18)・褐釉陶器(胴~底)・自然貝
	N13-SP9	円	U	30	30	25	自然貝
	N13-SP8	円	U	45	44	30	自然貝
	N13-SP7	円	U	45	43	34	自然貝
N13-SP6	円	二段状	49	46	30	自然貝	
013-SP34	円	U	66	60	39	青磁碗(口)・鉄板片・自然貝	
19	014-SP1	楕円	二段状	52	49	30	自然貝
	014-SP2	楕円	U	41	37	30	自然貝
	014-SP3	円	U	40	36	25	自然貝
	014-SP4	楕円	U	32	27	23	自然貝
	N14-SP18	円	U	29	22	25	自然貝
	N14-SP17	円	U	43	42	32	自然貝
	N14-SP11	円	U	36	35	26	土器(口IV類A・胴IV類B・C)・自然貝
	N14-SP6	楕円	U	30	28	24	自然貝
	N13-SP2	円	U	42	42	25	土器(底脚台)・獣骨・自然貝
	013-SP4	楕円	すり鉢	52	49	34	土器(口II類(第45図58)・胴IV類B・C)・青磁(碗・胴)・自然貝
013-SP48	不定	不定	44	41	43	無	
013-SP19	不定	U	55	33	39	褐釉陶器(壺・胴)・自然貝	
013-SP30	不定	U	79	42	32	染付(皿第110図23・碗底)・石材・磨石・自然貝	
013-SK03	楕円	V	65	50	27	無	
013-SP36	円	二段状	25	25	22	無	
013-SP35	楕円	二段状	55	43	30	自然貝	

() は推定 ※遺物：土器はII群(貝塚時代後期)を省略して示す

(2) ピット

グスク時代のピットとしてはH19地区で75ヶ所、イ地区で432ヶ所（H19及びイ地区では調査経緯において近世ピットも混ざっている可能性あり）、ハ地区で346ヶ所、ニ地区で157ヶ所が確認された。サイズを見てみると直径は11.5cm～105cm、深さは2cm～96cm、平面形は楕円・円形が多く方形や隅丸方形など、断面形は「U」字状、「V」字状、「W」字状、すり鉢状、皿状、二段状、有段状、逆台形などサイズ・形ともに様々であった。なお、ピット内の遺物に第IV層や第V層の遺物が見られるのは掘削時の混ざり込みである。

今回は深さが20cm以上のピットのうち、その径や平面及び断面形状から掘立柱建物想定プランが組めたピットについて柱穴として報告する。プランからは平地式住居と柱穴数や柱穴サイズが平地式住居の形態とは異なる高床式建物（高倉）の2タイプの掘立柱建物址が想定できるが、プラン内の柱穴サイズが一定せず、両者を明確に分けることはできなかった。H19地区で14ヶ所、イ地区で4ヶ所、ハ地区で4ヶ所、ニ地区で4ヶ所の合計26ヶ所の掘立柱建物想定プランを組むことができた（第86図赤・橙破線）。また、プランとしては一部が欠け成立しないが、平面及び断面形状は柱穴に該当し、柱穴間に一定の距離が見られるピットについても柱穴として扱い、掘立柱建物想定プランとし（第86図青破線）併せて報告する。これらの立地には磁北より西へ26度の傾きと55度の傾き、ほぼ真北の3パターンが見られた。後兼久原遺跡（2003）小堀原遺跡（2009・12）の発掘成果によると南西側や南側に入り口を持つ例が多く、今回想定できた掘立柱建物プランでも真南から東南東側に柱穴が見られない例もあり、出入口の可能性が考えられる。これは当遺跡が海岸に向けて非常に緩やか（南北70m間で標高3.5m～2.7m）に傾斜している事によるものと思われる。

柱穴が集中及び重複しているのは建て替えや柱の入れ替え等が行われたと考えられ、後兼久原遺跡（2003）に報告されていたように建物周辺には雨垂れ跡も含まれると思われる。本来であれば切り合い関係等から新旧の掘立柱建物プランを検討するべきであるが、今回は新旧併せて報告する。建物プランの重なりは後兼久原遺跡や小堀原遺跡でも見られた。あくまで想定掘立柱建物プランではあるが面積について（第39表）比較してみると、プラン3・14等の約22㎡～25㎡とプラン12・13等の約6.5～8㎡の2タイプが多いようであるが、両者の立地に関連性は見られなかった。また、特に掘立柱建物の可能性の高い想定プランの断面図（第87図～第89図）からは建物の角になる柱穴は深く、梁・桁同士の深さは違っても同一の並びにはほぼ同じ深さの柱穴が掘られていることがわかった。中には想定プランのほぼ中央に中柱をもつプラン7・13・14・16・17・18・25・26もあった。なお、今回の調査では掘立柱建物想定プラン7に見られるようなプランの一部に弧を描くような柱穴の並びが数カ所で見られた。確定はできないが、今後の類似事例の増加を期待して報告する。

深さが20cm以下のピットについて、その広がりや掘立柱建物想定プランとの関係に着目した（第86図）が、特に集中部も規則性も無く遺跡全体に広がっていた。中には平面及び断面形状は柱穴に該当し、一定の間隔で並ぶピットも見られ、グスク時代以降の建物址の可能性もあると思われる。

第39表 建物想定プラン面積

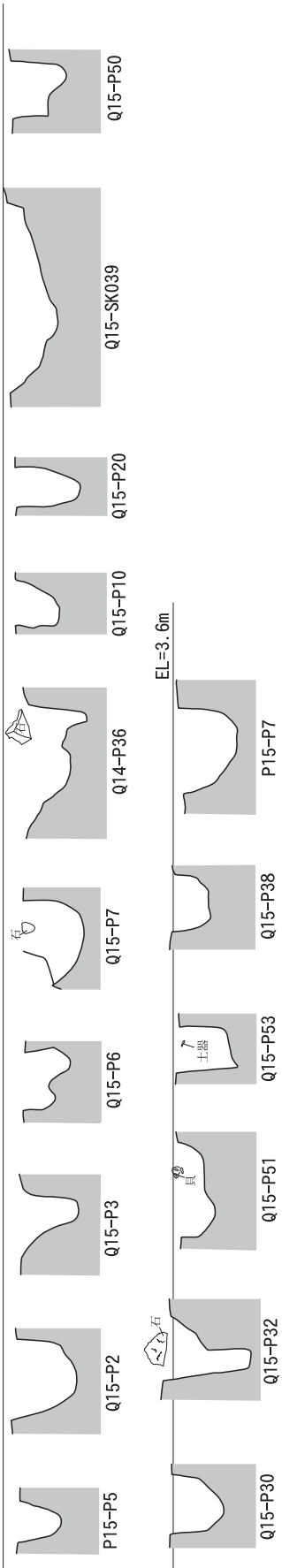
建物想定プラン	長辺(m)	短辺(m)	面積(㎡)	建物想定プラン	長辺(m)	短辺(m)	面積(㎡)
1	3.92	3.35	13.16	13	3.04	2.34	7.11
2	2.15	1.96	4.22	14	5.44	4.62	25.15
3	5.06	4.49	22.75	15	3.92	3.10	12.17
4	5.32	2.91	15.48	16	3.73	2.53	9.45
5	0.76	0.70	0.53	17	3.61	2.85	10.27
6	2.72	1.46	3.96	18	4.05	2.78	11.28
7	3.29	1.90	6.25	19	5.57	2.91	16.21
8	4.37	3.86	16.86	20	4.68	3.35	15.71
9	5.44	5.06	27.56	21	3.23	2.72	8.78
10	4.49	3.10	13.94	22	4.56	4.11	18.75
11	3.04	2.09	6.34	26	3.86	2.41	9.29
12	3.04	2.72	8.27				

第40表 径と深さの関係

径	深さ	第III層検出掘立柱建物想定プラン柱穴							伊礼原A遺跡出土全ピット								
		10cm未満	10.0	20.0	30.0	40.0	50.0	60.0	65cm以上	10cm未満	10.0	20.0	30.0	40.0	50.0	60.0	65cm以上
11.0～15.9									11	8							
16.0～20.9			2						37	51	10	4					
21.0～25.9			1	11	3	1	1		64	146	49	16	2	2			
26.0～30.9	2	2	24	8	1				51	180	88	31	9	2			1
31.0～35.9			24	9	4				40	93	90	49	17	1			
36.0～40.9		1	18	17	7				25	66	76	39	17	2			
41.0～45.9			9	13	5	5			3	29	47	46	11	5			
46.0～50.9			15	14	4	1			5	16	46	30	12	4			
51.0～55.9			7	3	8	1			1	12	22	10	12	1			
56.0～60.9			2	6	3	1			2	3	11	13	5	1			
61.0～65.9			5	2	1				1	1	9	8	2		3	1	
66.0～70.9			4		1				2	3		4					1
71.0～			4	1	5	4	1	2	2	5	5	5	2	1			

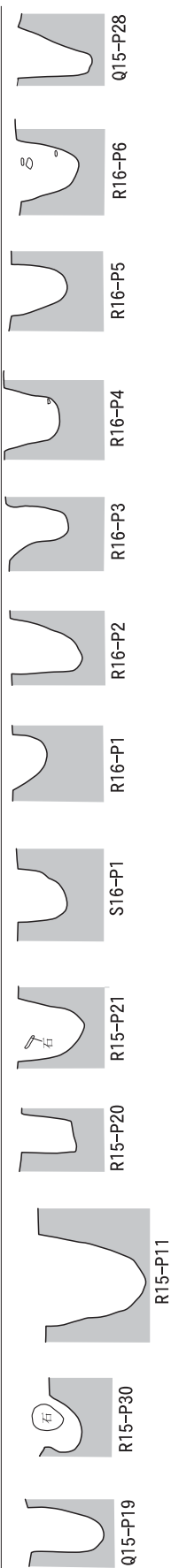
〈想定プラン1〉

EL=3.6m



〈想定プラン3〉

EL=3.7m



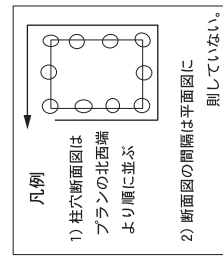
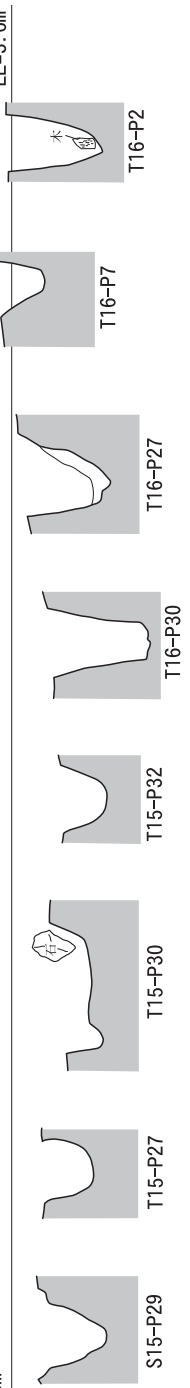
〈想定プラン9〉

EL=3.4m



〈想定プラン12〉

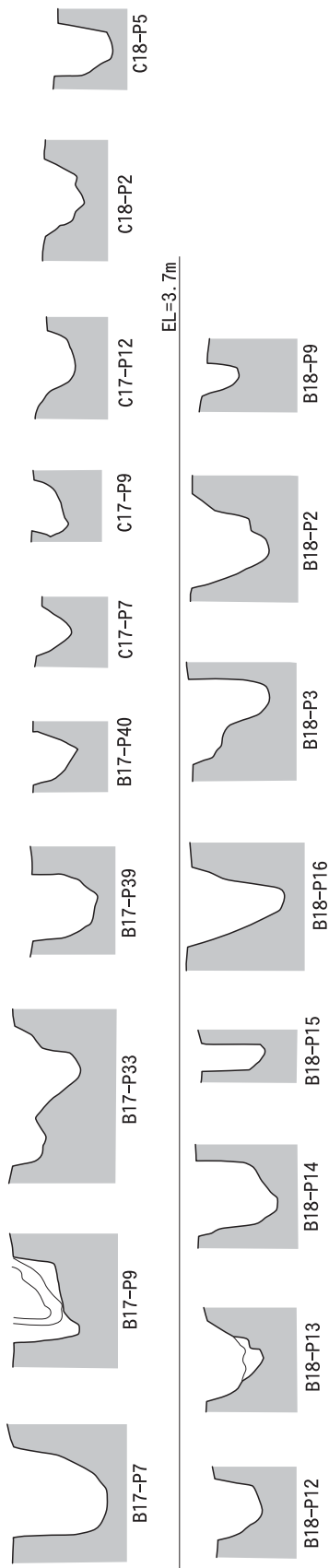
EL=3.6m



第87図 ガスク時代柱穴断面1 (想定プラン1・3・9・12)

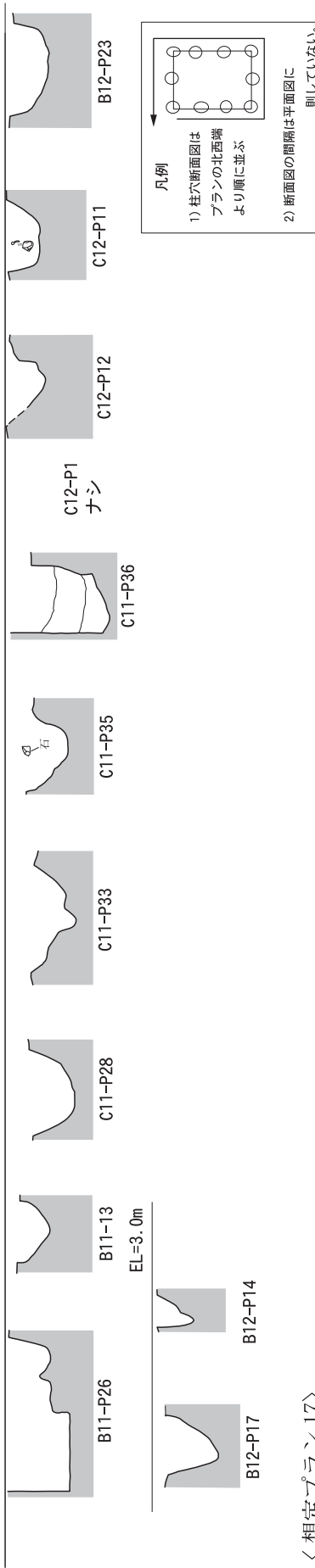
〈想定プラン 14〉

EL=3.7m



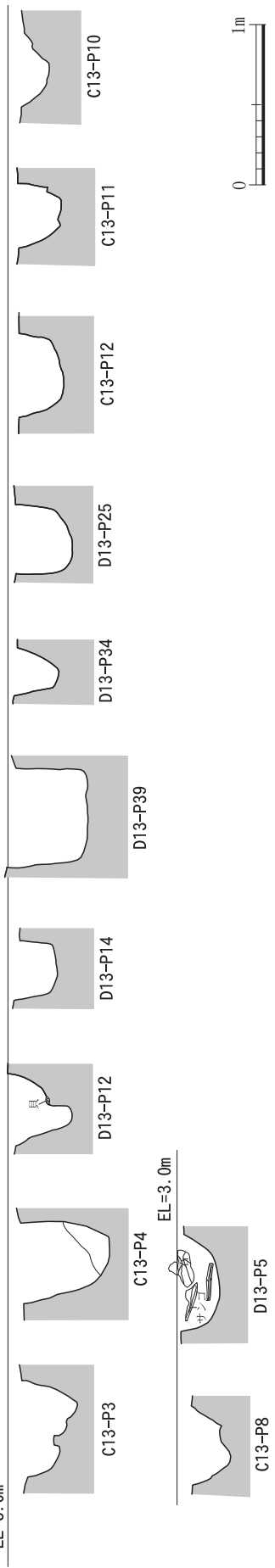
〈想定プラン 15〉

EL=3.0m



〈想定プラン 17〉

EL=3.0m



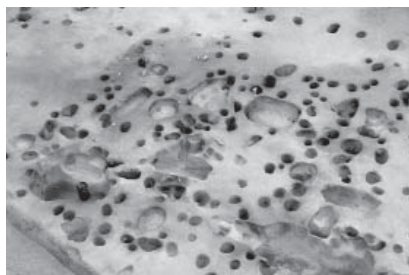
第88図 ガスク時代柱穴断面 2 (想定プラン14・15・17)



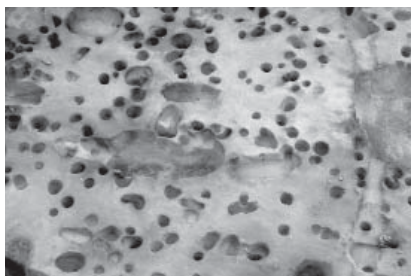
H19 調査区北側 (東から)



B18 周辺 (西から)



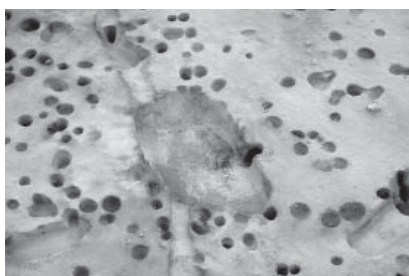
Q15 周辺 (北から)



R14 周辺 (北から)



R15 周辺 (西から)



S14 周辺 (北から)



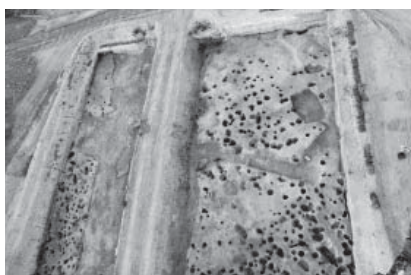
T13 周辺 (北から)



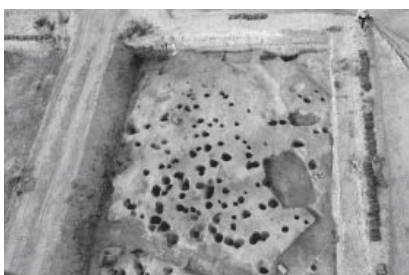
イ地区完掘状況 (南西から)



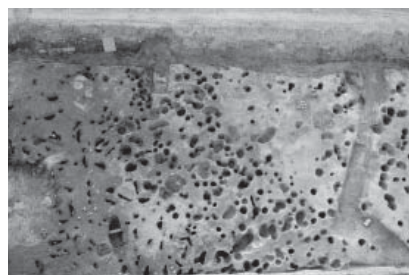
イ地区南端完掘状況 (西から)



二・ハ地区 (南から)



ハ地区北側 (南から)



ハ地区中央 (東から)



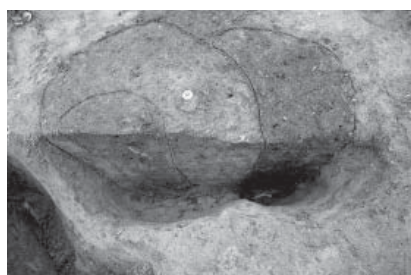
二地区完掘状況 (北から)



二地区中央 (西から)



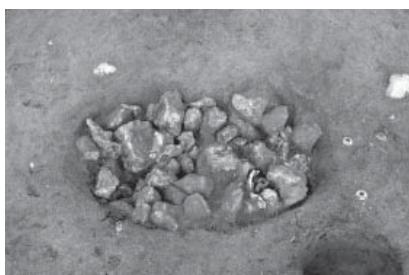
S15-P2



Q7-SP12・13 (北から)



Q7-SP23 が Q6-SP11 (弥生) を切る



P16-P12

図版71 柱穴・ピット検出状況

(3) 土坑

土坑は56ヶ所検出された。平面形は楕円が多く、断面形は不定形が多いが二段状、楕円などもあった。深さは6cm～103cmまで幅があり、中でも50～60cmがやや多めである。埋土は黒色砂で微細貝や炭が混ざるものが多い。A9-SK01・03・04以外は掘立柱建物想定プランの周辺やピット群に混在して検出されていることから、柱穴の可能性は高いと思われ、特にM10-SK01は底面に敷石があり(図版72)、東西にSK05・03・02と底面に敷石を持つSP6が並び1本の軸を呈するので、大型の掘立柱建物の存在が推測されるが、米軍基地建設に伴う攪乱範囲に広がっているため詳細は不明である。なお、青磁皿出土土坑と人骨出土土坑については項目を改めて報告する。

第41表 土坑観察一覧

遺構名 (グリッド含む)	サイズ (cm)			平面 形状	断面 形状	遺物	概要説明
	長軸	短軸	深さ				
A9-SK01	154	66	56	*楕円	有段状	土器(胴IV類・胴VI類)	単
A9-SK03	158	107	56	*円	U	自然貝	
A9-SK04	208	156	64	楕円	U	白磁皿(第106図19)・土器(胴IV類B・C・胴VI類・口IV類C・口VI類)・人骨・青磁碗(胴口)・陶質土器(胴)・自然貝	A9-SP18(近世)とA9-SP19(グスク)に一部切られる
B10-SK52	173	108	108	楕円	有段状	白磁碗(口)・染付碗(口胴)・褐釉陶器・沖無挿鉢(胴)・土器(胴IV類C)・獣骨・自然貝	大型で非常に深い。南北に二箇所の中端的な平坦部あり。混じりのない純粋な堆積のため一度に堆積したと思われる。
B10-11-SK54	158	74	85	楕円	不定	獣骨・土器(胴II類・IV類)・自然貝	断面では六つの層に分層できた。白砂を基本として黒色砂が混じり合う。
B12-SK59	85	57	11	楕円	皿	青磁碗(第100図32)・本陶(胴)・軽石・自然貝・獣骨	B12-P3(グスク)に切られる
C16-SK01	110	109	60	方	U	二枚貝有孔製品(カワガイ・第82図43)・土器細片	
L10-SK01	60	60	46	不明	二段状	土器(口IV類A)・自然貝	二地区北壁にかかる
L11-SK01	104	54	16	不明	有段状	無	後世の建物に切られる
M10-SK01	82	69	35	楕円	有段状	自然貝(シラミ)・土器細片	大型の平石が出土。シラミは風化がすすむ
M10-SK02	77	76	41	楕円	有段状	自然貝	二地区北壁の一部にかかる
M10-SK03	60	47	30	楕円	有段状	土器細片・青磁碗(底)・獣骨	黒褐色砂質土層/サンゴ礫・少量の炭化物
M10-SK05	111	63	41	長方	逆台形	I: 自然貝・土器細片 II: 自然貝	やや締めりのある黒褐色砂質層/赤色粒子・炭化物
M10-SK06	67	33	22	楕円	有段状	土器(胴IV類C)・自然貝	白砂と黒色砂が均等に混じりあう
M11-SK01	70	17	14	不明	皿	自然貝	掘方明瞭。M10-SP6(グスク)に切られる
N13-SK01	158	107	40	不明	すり鉢	土器(口)・褐釉陶器(胴～底)・焼土・青磁碗(第99図18)	八地区北壁にかかる。サンプル土採取
N15-SK01	128	82	25	不明	W	土器(口IV類C・胴V類)・二枚貝有孔製品(ヒメジヤコ)・自然貝	八地区東壁にかかる
N9-SK02	100	37	28	楕円	U	土器(口IV類C)・焼土	09-SP9(近世以降)に切られる
O13-SK02	112	41	20	楕円	有段状	土器(口II類)	O13-SK03に切られる
O13-SK03	65	50	27	楕円	V	無	O13-SK02を切る
O14-SK02	63	54	44	楕円	U	土器(胴IV類B・C・口IV類C)・二枚貝有孔製品(ヒメジヤコ)・骨製品(第124図4)・自然貝	
O14-SK03	50	44	6	楕円	不定	無	
O15-SK01	80	75	18	楕円	有段状	土器(胴IV類A・B)・自然貝	
O8-SK01	57	40	32	不明	U	土器(胴IV類B・C・口IV類C)・染付皿(第110図24)	二地区北壁にかかる
O8-SK02	42	21	32	(円)	不定	自然貝	O8-SP26(グスク)に切られる
O9-SK01	51	48	35	楕円	不定	土器(口IV類A)	O9-SK02に切られる
O9-SK02	97	62	28	不明	有段状	無	鉄分が沈着し、明褐色を呈す箇所あり。白砂がブロック状に入る。
P11-SK01	72	44	40	楕円	有段状	土器(胴IV類B・口V類)・二枚貝有孔製品(シラミ)・自然貝	P11-P5(近世)に切られる
P13-SK01	68	57	20	不明	すり鉢	自然貝	後世の建物により大半が消滅。2-SD07の一部か
P15-SK17	110	70	49	楕円	二段状	土器(口II類)・獣骨・軽石・自然貝	II: 柱痕 III: 掘り方の層
Q12-SK02	142	96	37	楕円	不定	土器(胴IV類B)	Q12-SP54(近世)に切られる
Q12-SK03	145	55	43	楕円	W	土器(胴IV類B)	
Q12-SK04	111	48	37	楕円	有段状	土器(胴IV類BC・口IV類B・底IV類C)・青磁碗(口胴)・染付瓶(第111図40)・白磁皿(第106図22)	Q12-SK05(近世)・SP84(時期不明)に切られる
Q13-SK01	0.1	84	55	楕円	U	褐釉陶器(瓶胴)	Q13-SP27(近世)・SP49(グスク)に切られる
Q14-SK11	140	70	13	楕円	皿	二枚貝有孔製品(R・サホオ)・獣骨・軽石	底は平坦。Q14-P31(グスク)・P32(グスク)・P39(グスク)に切られる
Q14-15-SK12	180	40	53	不明	U	無	米軍攪乱に切られる
Q15-SK38	100	100	18	円	U	土器(胴IV類C・底尖)・軽石・石材・自然貝	検出面は黒色砂で下位は砂と粘質土の互層 底部: 平坦・掘り方: ほぼ垂直
Q15-SK39	140	140	27	円	有段状	土器(胴IV類A・B)・青磁碗(口)・貝製品(コホリ)・獣骨・軽石	Q15-P27(グスク)・P28(グスク)に切られている。西角に深い部分あり
Q6-SK01	82	69	57	不明	U	褐釉陶器壺(胴)・土器(胴IV類)・焼土・青磁碗(口底)・本磁(口)・自然貝	二地区北壁にかかる
Q7-SK02	77	68	47	楕円	U	青磁皿(口)・自然貝	Q7-SK03を切る

*: おおよそ ※遺物: 土器はII群(貝塚時代後期)を省略して示す

遺構名 (グリッド含む)	サイズ (cm)			平面 形状	断面 形状	遺物	概要説明
	長軸	短軸	深さ				
Q7- SK03	108	49	36	円	不定	無	検出面にてサンゴ礫。Q7-SP10 (グスク)・SK02に切られる
R10- SK01	56	50	27	楕円	すり鉢	自然貝	R10-SP4 (グスク) を切る
R11- SK01	—	—	10	楕円	W	土器 (胴口IV類C)	R11-SP39 (グスク) に切られる
R11- SK04	40	27	7	*不明	不定	土器 (胴V類C)	R11-SP43 (グスク)・R11-SK05 (グスク) 及び攪乱に切られる
R11- SK05	78	52	20	*楕円	W	土器 (胴III類・IV類ABC)	R11-SP43 (グスク)・R11-SK04 (グスク) を切る。攪乱に切られる
R12- SK01	102	72	19	楕円	すり鉢	自然貝	単
R14- SK35	(100)	(20)	48	不明	不定	自然貝・獣骨	米軍攪乱に切られる
R14- SK36	90	80	70	楕円	V	土器 (胴)・獣骨・自然貝	R14-SP39 (グスク) に切られる
R6- SK02	78	54	36	楕円	有段状	無	R6-SP1 (近世)・R7-SP1 (近世) に切られる
S9- SK01	103	71	49	円	U	土器 (胴IV類B・底乳)	
T10- SK04	78	40	8	不定	不定	無	後世の建物と攪乱に切られる
T13- SK21	120	90	46	楕円	有段状	土器細片・獣骨・自然貝	柱の抜き取り痕と思われる部分あり
T8- SK01	94	78	13	楕円	皿	陶磁器・土器 (胴IV類B・胴VI類・口V類)・二枚具有孔製品 (R・マスカガイ)・自然貝	単

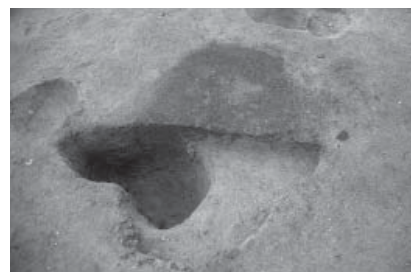
* : おおよそ ※遺物：土器はII群 (貝塚時代後期) を省略して示す



M10-SK01 (西から)



P15-SK17 (東から)



T13-SK21 (北から)



Q7-SK02・03 (南から)



Q15-SK39 (南から)



M10-SK06 (北から)

図版72 土坑検出状況

(4) 用途不明遺構

用途不明遺構はハ・ニ地区で4ヶ所確認された。長径は100cmを超える物が多く短径は70cm前後、深さは24cm～80cmと幅のある、いずれも大型の土坑であるが用途が不明であるため、土坑とは別に報告する。なお、第III層では黒色砂に微細貝や炭が混ざっている様子が多く見られたが、N10-SX01は埋土の様子が違うことと、時期不明ピットに切られる事から近世以降の土坑の可能性もある。

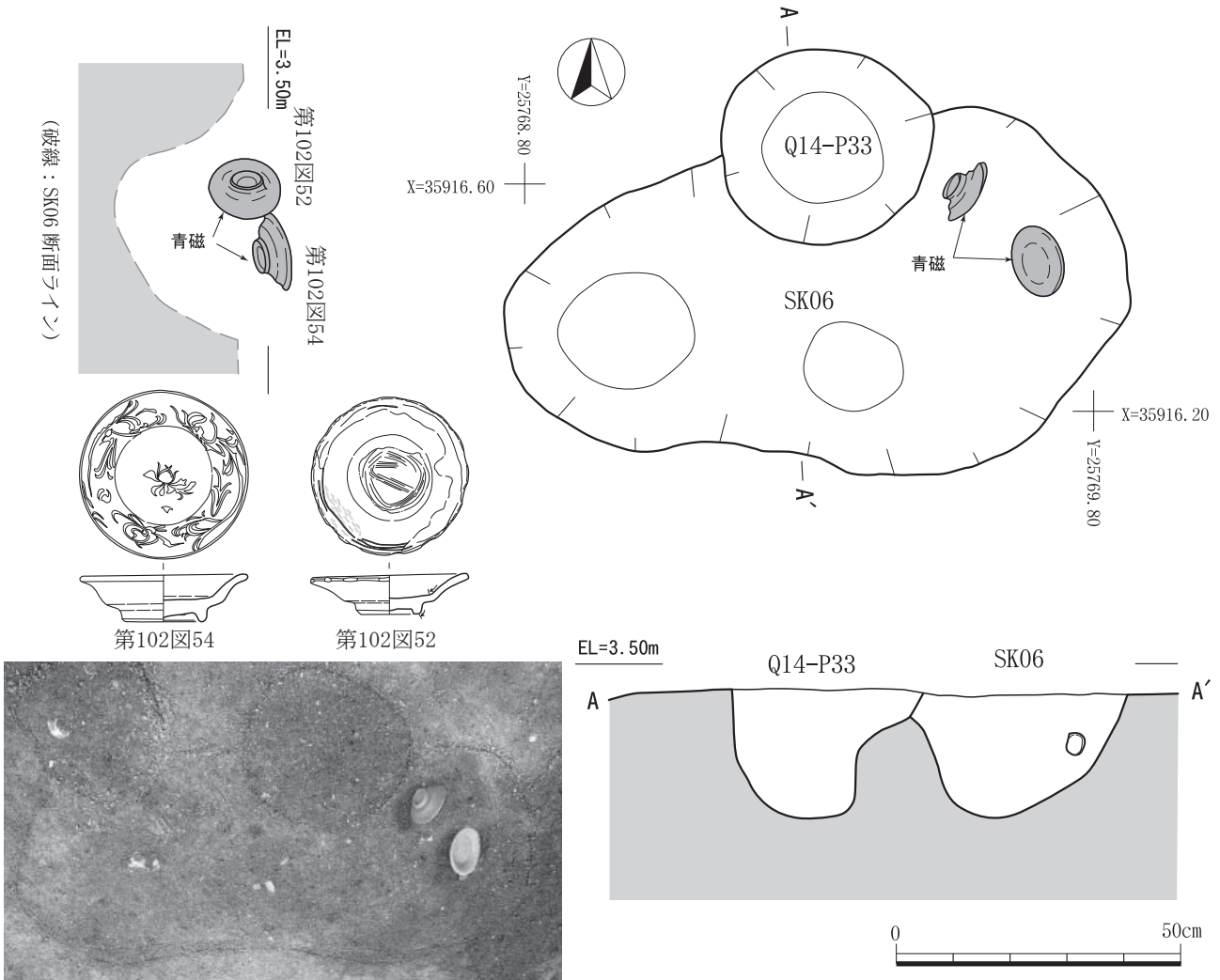
第42表 用途不明遺構観察一覧

遺構名	サイズ (cm)			平面 形状	混入物など	遺物	備考
	長径	短径	深さ				
N14-SX02	134	75	80	楕円形	微細貝片・炭・焼土粒など	土器 (胴IV類BC・口V類ウ)、貝	単：サンプル採取
08-SX01	143	85	28	不整形	黄褐色ブロック、貝片混、締まる。黒褐色砂質土。にぶい黄褐色粘土混じる。灰黄褐色砂層。	自然貝・土器 (胴IV類A・B・C)・青磁碗 (胴)・鉄	08-SP20 (グスク) を切る
Q6-SX01	76	74	39	円形	検出面にスポット的な黒褐色砂が見られたが、包含層の残りと思われる。混じりは少ない。	自然貝、青磁、土器 (胴)	Q7-SP20 (グスク) を切る
N10-SX01	148	60	24	不整形	微細貝片、オリーブ色土ブロックが混じる。やや締まりあり。 炭化物 (スミ) 混じる。褐灰色砂層。	土器 (胴IV類A・B・C・V類ウ)、 獣骨 (ウミガメ・イノシシ)	N10-SP33 (不明) に切られる

※遺物：土器はII群 (貝塚時代後期) を省略して示す

(5) 青磁皿出土土坑

長軸1.30m短軸0.5m深さ0.21mの楕円形を呈する土坑(Q14-SK06)の第Ⅲ層(黒色砂層)より青磁皿が2枚出土した(第102図・図版82)。皿は15世紀頃に製作された稜花皿と外反皿の完形品で内面には草花文が施される。稜花皿は見込みが上向けで外反皿は横倒しで半分埋まった状態で検出された。下図では青磁皿の見通し断面図とSK06の断面図を重ね、皿の配置を理解する一助としたい。



図版73 青磁皿出土状況

第90図 青磁皿出土状況

(6) 人骨出土土坑

土坑墓(N14-SP8) 長軸49cm短軸43cm深さ6cmのほぼ円形を呈する土坑から未成人骨が出土した。体全体を東側に向け(推定頭位は北)膝を曲げた状態で、腹部周辺には手の指骨、足先には趾骨が確認できるほど保存状態は良好であった。人骨についての詳細は第Ⅳ章第3節に土肥直美先生より報告されており、1歳未満の乳児との事であった。解剖学的位置を保った横臥屈葬であるため埋葬されたと考えられる。土坑墓周辺には柱穴や深さ20cm未満のピット(第91図(灰線で表示))が並ぶ。沖縄県内において死産児・乳児は袍衣と同様に裏庭(家の後方)に埋められたと市町村史(誌)等で報告されており、また、平敷令治先生によると『死産児を家の後ろの雨垂れの所に埋める習俗は大正年間まで続いた』(註)そうである。ピット群と乳児埋葬土坑墓の時期が整理できれば民俗事例の実例になると思われる。なお、当遺跡南西側に位置する小堀原遺跡(2009)ではピットに切られた1号土坑墓から乳児骨(頭位南・仰臥屈肢葬:生後6ヶ月以内)が出土している。

A9-SK04では長軸208cm短軸156cm深さ67cmの平面形状は楕円を呈する土坑より成人女性の大腿骨(右)が、白磁(第106図19)・青磁・獣骨(ウシ・ウシorウマ・イノシシ)を含む第Ⅲ層下層より出

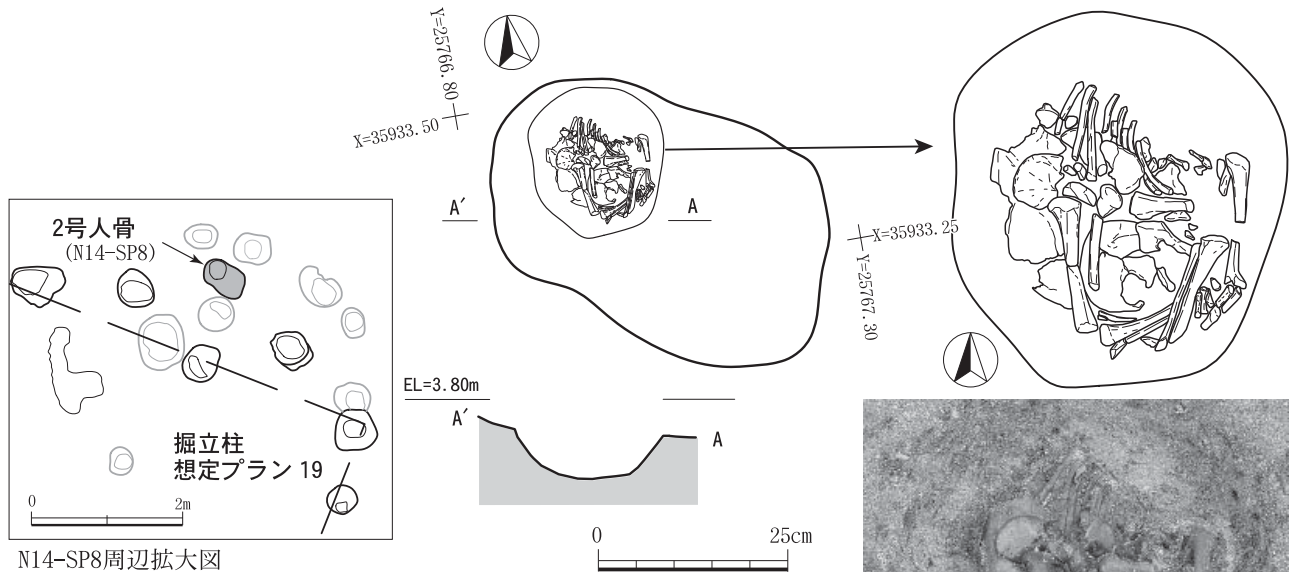
土した。大腿骨片のみの出土で詳細は不明。埋葬の可能性は低いと思われる。

註：平敷令治 1990「沖縄の祭祀と信仰」 第一書房・『中城村史』第3巻資料編2 1993 他

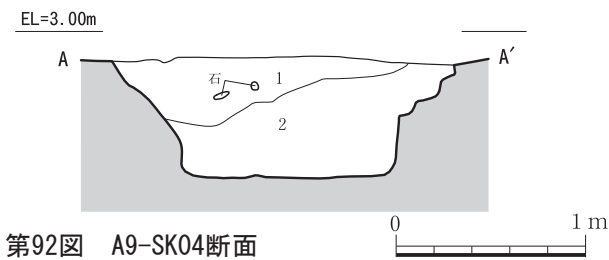
第43表 人骨出土土坑観察一覧

人骨	遺構名	グリット	サイズ (cm)			形状	混入物など	遺物	概要説明
			長	短	深				
2号	SP8 土坑墓	N14	49	43	6	円形	黒褐色砂質土 微細な貝片・炭	乳児骨	乳児骨が1体分確認された。東向きの横臥で膝を立てていたようである。保存状態は良く下半身の様子がよくわかる。H24年度調査時には第1号人骨として扱われた。
3号	SK04	A9	208	156	67	楕円形	微細貝片・炭	白磁皿 (第106図19)・土器 (胴IV類BC・胴VI類・口IV類C・口VI類)・青磁 (碗・胴口)・陶質土器 (胴)・自然貝	大腿骨骨体部と小破片が検出された。骨体部は女性 (右) で、小破片も同一個体のようなである。全体的にやどかりによる削りあり。SP18とSP19に一部切られる。
							白砂混、粘質砂層		

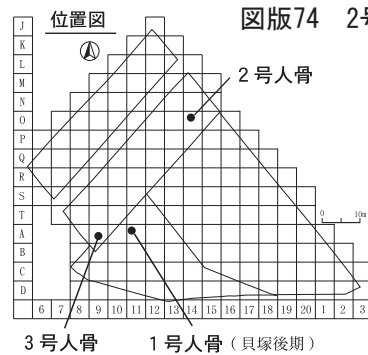
※遺物：土器はII群 (貝塚時代後期) を省略して示す



第91図 2号人骨出土状況 (N14)

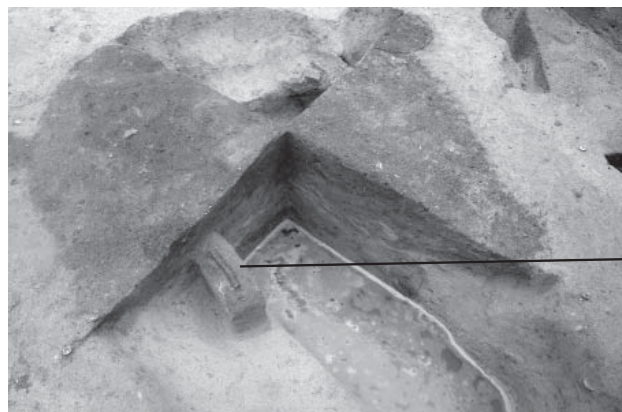


第92図 A9-SK04断面

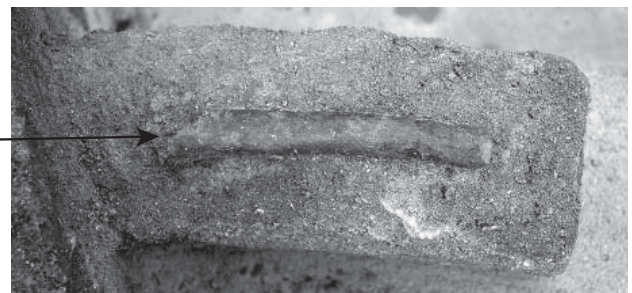


図版74 2号人骨検出状況

(南より)



図版75 3号人骨出土状況 (A9西側より)

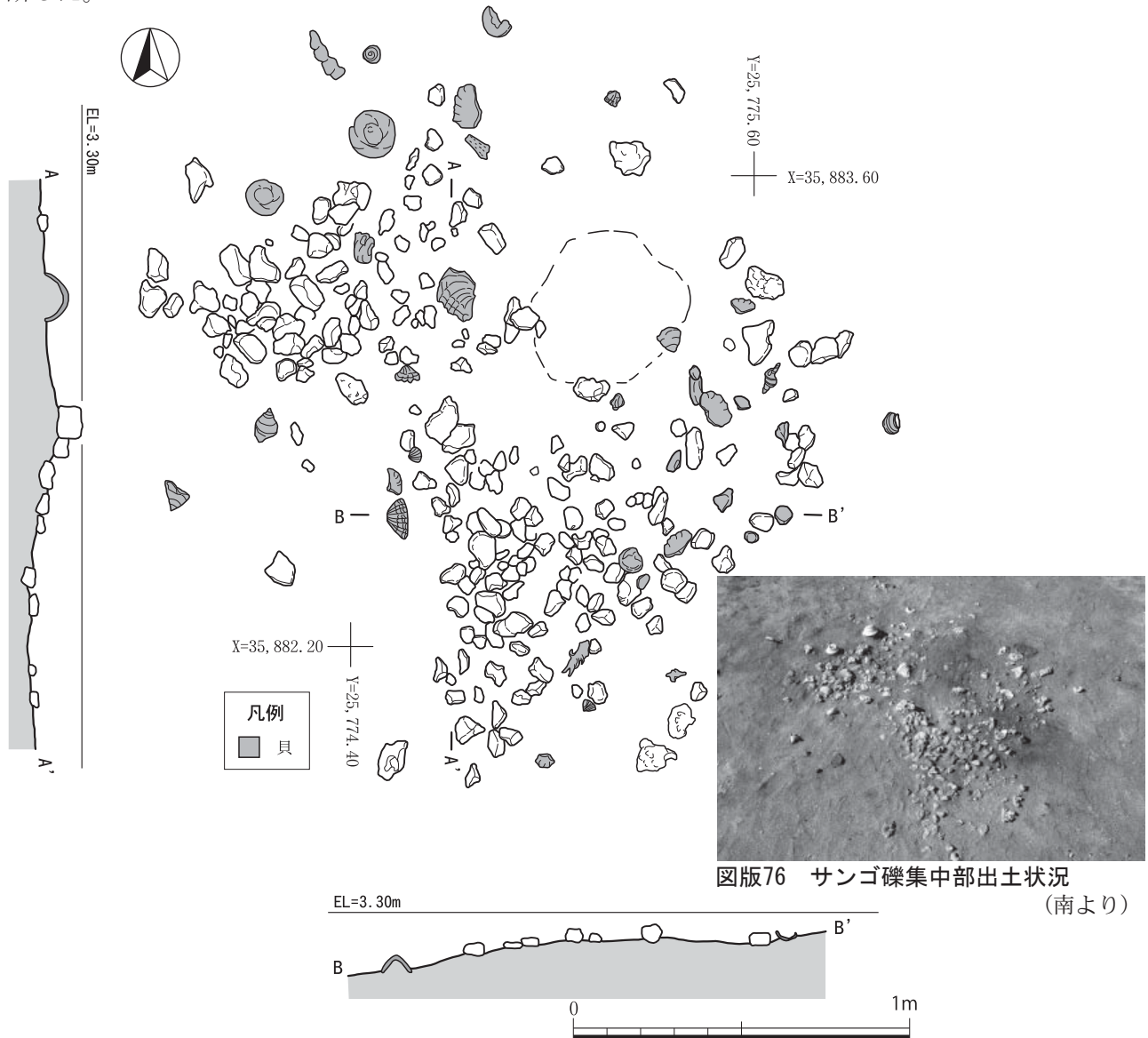
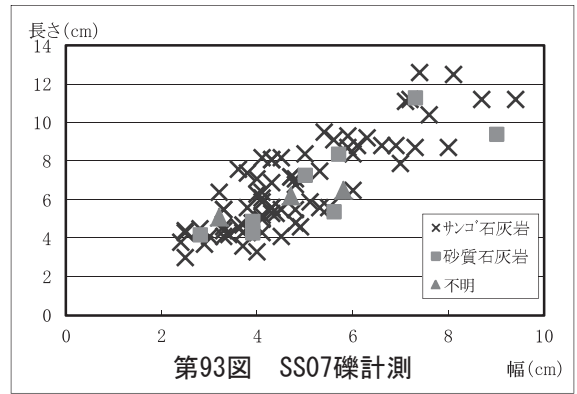


拡大図版

(7) サンゴ礫集中部 (SS07)

イ地区D15～D16の標高3.20m～3.10mに1.3×1.6mの範囲にサンゴ及び石灰岩礫が集中するものである。ほぼ平坦だが、西側で僅かに低くなる。平面は略方形で同じ面で東側部分に黒褐色砂が見られるが、柱穴は検出されなかった。沖縄産無釉陶器（標高3.2m）や土器（取403、標高3.1m）が検出されている。

礫はサンゴ石灰岩75個と砂質石灰岩8個、他3個からなり、大きさは第93図に示したように礫の大きさは3.0～12.6cm、重さは5.0～439gで平均6.6×4.8cmで、礫の形状をみると丸味（61.7%）、角（24.7%）で、これらの状況から礫の意図的な配置の可能性は低い。出土遺物は前述の沖縄産無釉陶器のほか、土器の乳房状尖底や薄手の胴部片、二枚貝有孔製品（製52）などの人工遺物、ヒレジャコやサラサバティラなどの大型の自然貝も含まれる。検出面の標高や他の遺物との関連からグスク期のものと判断した。



図版76 サンゴ礫集中部出土状況 (南より)

第94図 サンゴ礫集中部SS07 (D15・16)

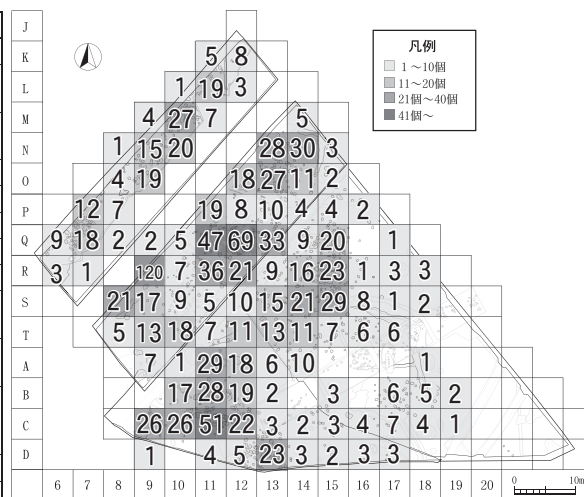
2. 出土遺物

第Ⅲ層から出土した遺物は滑石製石鍋、須恵器、白磁、青磁、染付、褐釉陶器（タイ産・中国産）瑠璃釉、黒釉陶器、三彩、翡翠釉、タイ産鉄絵、瓦質土器、本土産陶器（備前産播鉢・瀬戸天目）、銭貨、鉄製品、砥石、骨製品、貝製品、ガラス玉、羽口、焼土で第44表からグスク時代後期の遺物が多いようである。なお、瓦質土器は近世の生産遺跡で生産された物であること、本土産陶器は8点のみの出土であることから、次節（第5節-2-（1）（2））で報告する。出土量が多いのは青磁で、以下、褐釉陶器、染付、白磁と続き、タイ産鉄絵、三彩など他は数点ずつである。産地別では合計1,249点と圧倒的に中国産が多く、タイ産（褐釉陶器・鉄絵）218点、本土産（滑石製石鍋・須恵器・本土産陶器）は14点のみで、グスク土器の出土は無かった。当遺跡から700mほど南東に位置する後兼久原遺跡（2003）では2万点近いグスク土器が出土しているが、後兼久原遺跡より北側の遺跡では現在のところグスク土器の出土は極端に少ない傾向にあり、今後の調査報告がまたれる。遺物の分布状況としてはハ地区R9が多く、ハ地区Q12イ地区C11ハ地区Q11と続く。いずれも柱穴や土坑またそれらの切り合いが多く確認されているグリッドであるが、分布状況は貝塚時代後期の遺物分布とは重ならない。以下、各々の遺物について概略する。

第44表 グスク時代出土遺物概要

出土遺物	備考	14C	15C	16C	17C
滑石製石鍋	石鍋破片	6C～11C			
須恵器	カムイヤキと産地不明須恵器が混ざる	須恵器：日用雑器への完全変貌 9～11C カムイヤキ：11～13C			
白磁	古手は少ない。袂入高台皿に伴う直口口縁皿等				
青磁	雷文、鏡蓮弁文				
染付	徳化窯（明・清）				
褐釉陶器	15Cを主体とする中国及びタイ産				
瑠璃釉	景德鎮産				
黒釉陶器	天目茶碗に似るが異なる形状				
三彩	福建産（長胴丸形水注・鳥型水注・盤）				
翡翠釉	梅瓶（胴）。中国では弘治・正徳年間（1488～1521）から多用				
中国産軟質陶器（蓋）	15C～16C（中国産褐釉陶器（最大径を肩部に持つ大型の無耳壺とセットか））				
タイ産鉄釉陶器	シーサッチャナライ窯産				
銭貨	中国銭（元豊通寶・聖宋元寶・洪武通宝）				

※ 〇 出土遺物推定製作期間



第95図 グスク時代遺物分布状況

第45表 グスク時代遺物出土量（グリッド別）

地区	グリッド	H 19						I						ハ						ニ						合計											
		青磁	褐釉陶器	白磁	染付	その他	合計	青磁	褐釉陶器	白磁	染付	その他	合計	青磁	褐釉陶器	白磁	染付	その他	合計	青磁	褐釉陶器	白磁	染付	その他	合計												
H 19	A14	4	5	1			10	I	A12	4	5	2	5				1	17	ハ	Q11	29	12	2	2		45	ニ	Q11	29	12	2	2		45			
	A18	1					1		A13	2	1		1	須1			1	6		Q12	39	16	7	6		68		Q12	39	16	7	6		68			
	B15	1	1		1		3		B10	4	5	3	5					2		17	Q13	16	12		2			夕鉄1	31	Q13	16	12		2		夕鉄1	31
	B16				2		2		B11	6	8	3	8							27	R09	14	96	8	1			119	R09	14	96	8	1		119		
	B17	3	1		1		5		B12	7	6	2	3							18	R10	4	2		1			7	R10	4	2		1		7		
	B18	1	2		2		5		B13	1		1								2	R11	14	10	1	10			ガラス玉1	36	R11	14	10	1	10		ガラス玉1	36
	B19		1	1			2		C9	4	8	1	12							25	R12	9	8	1	2			瑠璃1	21	R12	9	8	1	2		瑠璃1	21
	C15		3				3		C10	6	6	3	11				1	27		S8	4	12	3			滑石1		20	S8	4	12	3		滑石1	20		
	C16	1	2	1			4		C11	11	16	9	11	須1		1	49	S9		5	10		1		夕鉄1	17		S9	5	10		1		夕鉄1	17		
	C17	3	1		3		7		C12	8	4	2	6	黒1		1	22	S10		3	3	1			翡1	5		S10	3	3	1		翡1	5			
	C18	1	1		1		3		C13	1			1	三1			3	S11		4				1		8		S11	4			1		8			
	P15	2	2				4		C14	1		1					2	T8			3			2		5		T8		3		2		5			
	P16	2					2		D9				1				1	T9		2	10		1			13		T9	2	10		1		13			
	Q13	2					2		D11	2		1		黒1			4	T10		6	5		6		夕鉄1	18		T10	6	5		6	夕鉄1	18			
	Q14	4	3			貝製品1	8		D12	1	2	1	1				5	T11		1						1		T11	1					1			
	Q15	12	4		2	貝製品1	19		D13	10	3	1	9				23	K11		1	3		1			5		K11	1	3		1		5			
	Q17	1					1		D14		2	1	1				4	K12		2	5	1				8		K12	2	5	1			8			
R13	4	3	1	1		9	D15	1			1				2	L10		1					1	L10		1				1							
R14	9	6				15	D16		2				1		3	L11	6	7	1	3		三2	19	L11	6	7	1	3	三2	19							
R15	15	4			須1・銭1	21	D17	1	1		1				3	L12		1		2			3	L12		1		2		3							
R16		1				1	T11	2	1	1	2				6	M9	2	1		1			4	M9	2	1		1		4							
R17	1	1		1		3	T12	2	3	2	2	須1			11	M10	15	7		3		三1	26	M10	15	7		3	三1	26							
R18	1	2				3	T13	3							3	M11	3	3		1			7	M11	3	3		1		7							
S12	2	3		4	夕鉄1	10	A9	3	2	1	1				7	N8	1						1	N8	1					1							
S13	4	4	2	5		15	M14	2	3						5	N9	9	3	1	2			15	N9	9	3	1	2		15							
S14	13	6	1		銭1・貝製品1	21	N13	16	11		1				28	N10	13	4		2		夕鉄1	20	N10	13	4		2	夕鉄1	20							
S15	16	6		5		29	N14	12	11	2	3	瑠1・三1			30	O8	3			1			4	O8	3			1		4							
S16	4	4				8	N15	3							3	O9	7	5		5			17	O9	7	5		5		17							
S18	1	1				2	O12	6	12						18	P7	7	3	2				12	P7	7	3	2			12							
T13	2	3		3	瑠1	9	O13	16	7	1	3				27	P8	3	3		1			7	P8	3	3		1		7							
T14	6	3	2	2		13	O14	3	3		3	夕鉄1		1	11	Q6	3	5		3			11	Q6	3	5		3		11							
T15	2	5				7	O15		1						1	Q7	8	8	1	1			18	Q7	8	8	1	1		18							
T16	6					6	P11	6	10	1	2				19	Q8	1	1					2	Q8	1	1				2							
T17	5			1		6	P12	4	3	1					8	Q9	2						2	Q9	2					2							
A10	1					1	P13	6	3		1				10	R6	2	1					3	R6	2	1				3							
A11	6	7	2	14		29	P14		3	1					4	R7	1						1	R7	1					1							
							Q10	2	1	1	1				5	合計	531	488	81	206	39			1345	合計	531	488	81	206	39	1345						

(1) 滑石製石鍋

石鍋の口縁部と思われる資料が1点確認できた。第96図1・図版77に示す。口縁部は若干内彎し口唇部は摩耗している。外面には縦位に右側から左方向にノミによる調整痕がうっすらと残り、内面は研磨されている。器壁12～15mm・重量38.8gを測る。ハ地区S8第Ⅲ層にて出土。伴出遺物としては流紋岩製砥石（第123図2）が確認できた。

(2) 須恵器

壺や甕の胴部破片と思われる資料が5点出土した。うち3点（第96図2～4）は徳之島伊仙町のカムイヤキ窯で焼かれた資料と酷似しており、残りの2点（第96図5・6）は器面調整や器色などカムイヤキの特徴が見られないが、焼成は軟質であるため産地不明須恵器として扱う。器厚の違いも顕著で前者は薄手で4～7mmを測り、後者は厚く8～10mmであった。出土状況を見てみると、産地不明須恵器はイ地区A13・T12第Ⅱ層と近い場所で出土していたが、カムイヤキは地区層位ともにまともは無かった。以下、第46表にて詳細を記載し、図版77に示す。

なお、これまでの北谷町内における発掘調査にて出土した須恵器については、カムイヤキ以外の須恵器の存在の可能性を提示されて（註1～3）いる。また、三辻利一氏による「カムイヤキ（須恵器）の蛍光X線分析」においても、カムイヤキ領域に近づく成分（Rb・Sr）と遠く離れる成分（K・Ca）が含有されているため、カムイヤキとは判断し難い須恵器が北谷町及び南西諸島の遺跡から頻度高く出土することが指摘されている（註4）。

註1：北谷町教育委員会 2003『後兼久原遺跡』北谷町文化財報告書 第21集

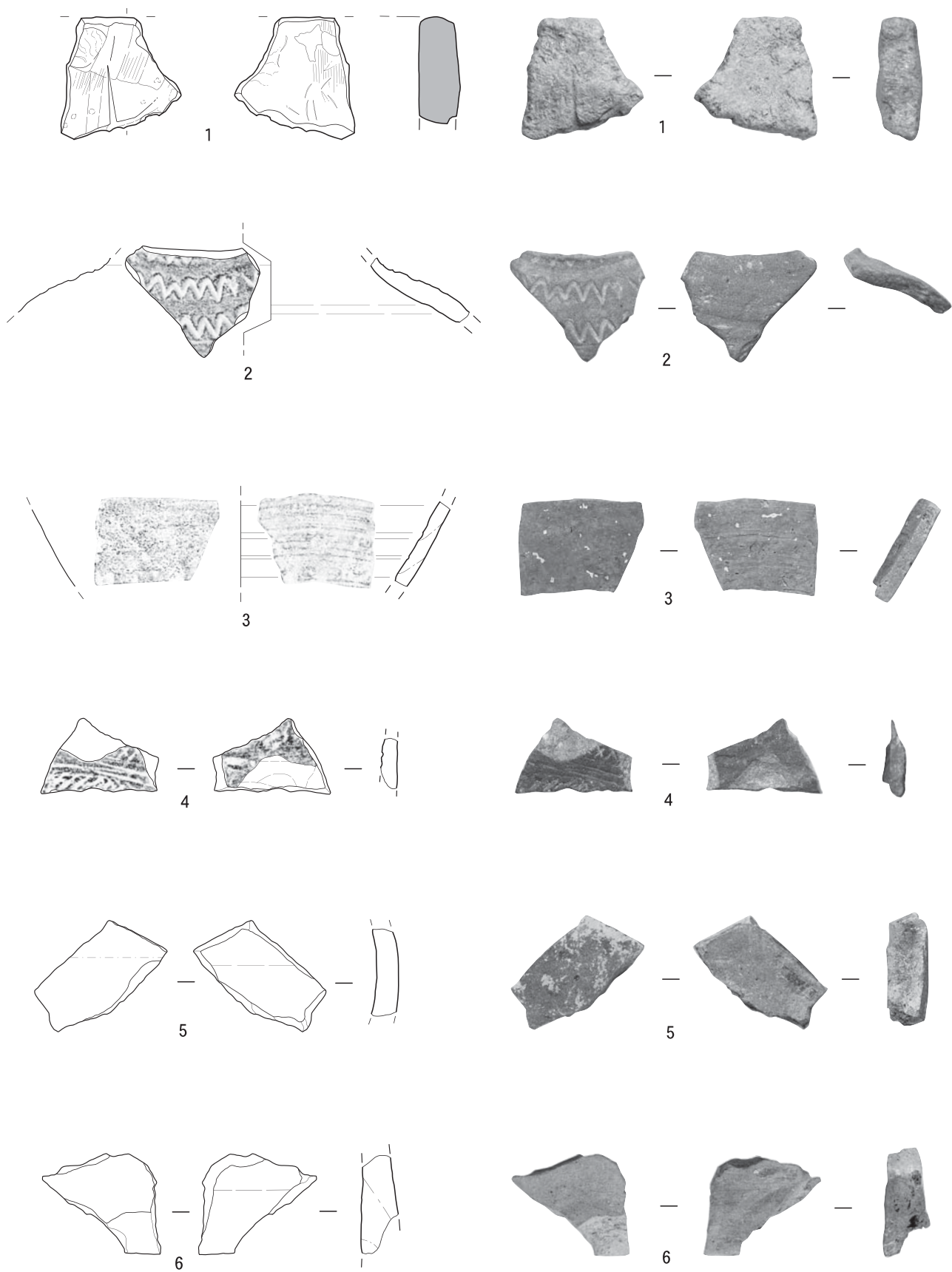
註2：沖縄県立埋蔵文化財センター 2004『後兼久原遺跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第22集

註3：北谷町教育委員会 2012『小堀原遺跡』北谷町文化財報告書 第34集

註4：北谷町教育委員会 2009『小堀原遺跡』北谷町文化財報告書 第30集

第46表 須恵器観察一覧

第図 図版	番号	器種	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	器色 (芯部)	素地 (混和材)	器面調整		備考	産地	地区 小グリッド 層(遺構) 取上番号 台帳番号
									内面	外面			
第96 図・ 図版 77	2	壺	肩	- - -	11.66	7	暗黄褐 (暗灰)	粘質 (微細な白色粒)	指ナデ + 篋削り	指ナデ	外面：波状沈線文	徳之島 伊仙町	H19 R15 Ⅱ (SK18) 台2079
	3	壺 or 甕	胴	- - -	12.6	4	暗茶褐	粘質 (微細な砂粒)	回転擦痕	指ナデ うっすらと叩 き痕	粘土の積み上げ痕 明瞭		ニ - Ⅱ 台2336
	4	壺	胴	- - -	6.89	5	暗青灰 (赤茶褐)	堅緻 (微細な白色粒 赤色粒 黒色粒 石灰岩粒)	指ナデ + 叩き(格子状)	回転擦痕 + 叩き(綾杉状)	素地に3×1mmの石 灰岩粒を含む		イ C11 Ⅲ 台1719
	5	壺	胴	- - -	15.84	8	暗灰 (暗紫)	粗粒子 (微細な砂粒)	回転擦痕 + 指ナデ + 叩き(青海波状)	指ナデ	外面：焼成による 若干のポーラス	不明 (本土産?)	イ A13 Ⅱ 取425 台1785
	6	壺 or 甕	底 付近	- - -	12.26	10	灰褐	粗粒子 (微細な砂粒 黒色粒 石英粒)	回転擦痕 + うっすらと叩き痕	指ナデ	外面：焼成による 若干のポーラスと 焼き膨れ		イ T12 Ⅱ 台1699



第96図・図版77 滑石製石鍋・須恵器

(3) 青磁

青磁は574点出土した。器種は碗・皿・盤・瓶・壺・鉢・馬上杯の7種類確認された。その中で碗が最も多く463点、次いで皿76点、盤5点、瓶4点、壺3点、鉢1点、馬上杯1点となっている。出土状況を見てみると、第Ⅲ層で448点と多く出土している。調査区の北側から中央部にかけて集中している。以下、器種ごとに分類概念を述べ、個々の詳細は第48表に記した。

A.碗

碗は蓮弁文碗、雷文帯碗、有文碗、無文碗がある。その中で蓮弁文碗が多く出土し、次いで雷文帯碗、無文碗、有文碗となっている。各種碗の分類概念を述べ、個々の紹介は第48表の観察表にて記すこととする。

I類：蓮弁文碗

蓮弁文碗は無鎬蓮弁文碗、線刻細蓮弁文碗の2種類に分けられる。前者をA類、後者をB類として分けた。

I類A：無鎬蓮弁文碗

無鎬蓮弁文碗の器形は直口口縁である。文様の施文方法によりaからcの3種類に細分した。

I類Aa種（第98図1）

片切彫りによる蓮弁文を描き、弁先は開く。内面も片切彫りによる花文を描く。

I類Ab種（図2）

片切彫りによる蓮弁文碗を描き、蓮弁は交わる。内面は片切彫りによる花文を描く。

I類Ac種（図3）

小振りの碗である。片切彫りによる蓮弁文碗を描き、弁先は開く。弁尻は蓮弁が重なる。

I類B：線刻細蓮弁文碗

線刻細蓮弁文碗の口縁部の器形は、口縁部片を見る限り直口口縁が主体である。文様の施文方法よりa・bの2種類に細分した。

I類Ba種（図4）

直口口縁で片切彫りによる蓮弁文を施す。蓮弁文は左右より大きく弁先が弧を描くように施すため弁先は重なるように描く。文様は腰部まで施す。

I類Bb種（図5～12）

全て直口口縁で、篋描き又は丸彫りによる蓮弁文を施す。図5・6は発色が悪い。蓮弁文は弁先より弁尻まで一描きで単位を成し、それを連続して巡らす。弁先はやや丸味を帯びる。図7の蓮弁文は弁先と蓮弁は別々に施す。先に弁先を片切彫りにより施文し、後に蓮弁を弁先の凸部または凹部から描き下ろすようである。図8は弁先を細い篋状工具による丸みを帯びた弁先を描き、蓮弁は丸彫りにより腰部下までを施す。内面胴下部に波状の文様を施す。図9の蓮文は先に弁先を鋸歯状に連続して施し、弁先の凹部より蓮弁を描き下ろす。発色は悪い。図10は蓮弁文の施文が細い。文様は先に弁先を鋸歯状に施した後、蓮弁は丸彫りにより凹部直下または弁先から離して描き下ろす。図11・12は底部である。図11は、外面は蓮弁文が丸彫りにより腰部下部まで施す。見込みは圏線と印花文が施される。図12は、外面は篋彫りにより蓮弁文が腰部まで施される。内面は印花文が施される。

II類：雷文帯碗

雷文帯碗はすべて直口口縁である。雷文帯の文様の施文方法で分類を行った。A・B種は片切彫りによる雷文、C種はスタンプによる雷文を施すものである。

Ⅱ類A：雷文帯の雷文は片切彫りにより施文される。文様構成よりaとbの2種類に細分した。

Ⅱ類Aa種（図13・14）

雷文帯の雷文は崩れ、胴部に片切彫りによる花文を施す。内面は有文（図13）と無文（図14）がある。図15は片切彫りによる雷文帯で雷文はかなり崩れ省略している。外面胴部及び内面に片切彫りによる花文を施す。図16も片切彫りによる雷文帯で雷文はかなり崩れ省略している。胴部に横位沈線が見られるが構図は不明である。

Ⅱ類Ab種（図15～20）

片切彫りによる雷文帯での雷文はやや崩れ省略している。胴部には片切彫りによる蓮弁状の文様を施すものと無文がある。内面は無文と有文がある。

図15は口縁部片で、片切彫りによる雷文を描くが構図は不明である。図16は胴部片である。片切彫りによる蓮弁文状の文様を施す。図17は片切彫りによる雷文帯で雷文は横長に伸びやや崩れている。胴部は無文である。図18は片切彫りによる雷文帯で雷文はやや崩れている。及び胴部に片切彫りによる蓮弁文状の文様を呈する。内面は無文である。図19は片切彫りによる雷文帯で雷文は反時計と時計回りから成り帯を成すと思われる。胴部は片切彫りによる蓮弁文状の文様を、内面は片切彫りによる花文を施す。図20は底部片である。外面高台脇に片切彫りによるラマ式蓮弁と思われる弁尻が見られる。見込みは圏線を巡らしその中に印花文が施される。外底面は蛇の目釉剥ぎである。

Ⅱ類B種：大振りの碗である。片切彫りによる雷文帯を巡らし、胴部及び内面も片切彫りによる花文を施す（図21）。

Ⅱ類C種：雷文帯の雷文と内面胴部の花文はスタンプである。（図22～24）

図22・23は、外面は雷文帯のみで、内面胴部も花文のスタンプが施文されている。図21の外面の釉の発色は悪いため雷文帯がやや見づらい。図24は外面に雷文帯を、胴部に線刻細蓮弁状を施文する。釉が厚く文様が不明瞭、内面も文様があるが構図は不明である。

Ⅲ類：有文碗

有文碗は内外面に片切彫りによる花文を施す。口縁部の形状により、直口口縁をA種、外反口縁をB種に細分し、口縁部がないものをC種とした。

Ⅲ類A種

直口口縁である（図25）。

図25は大振りの直口口縁碗である。内外面ともに片切彫りによる刻花文を施す。

Ⅲ類B種

外反口縁碗である。口唇部に刻みを施すものと施さないものがある。前者をa、後者をbとした（図26～28）。

Ⅲ類Ba種

図26口縁部は外反し、口唇部は輪花状を呈する。内外面に片切彫りによる花文を施すが構図は不明である。

Ⅲ類Bb種（図27・28）

図27・28の口縁部は外反する。図27は大振りの碗である。両資料とも片切彫りによる花文を内外面に施す。

Ⅲ類C種（図29・30）

図29は底部である。内面にスタンプによる草花文を施す。見込みは圏線とその中に印花文を施す。図30は胴部で内面に人形手と思われる文様が施される。

Ⅳ類：無文碗

無文碗は口縁部の形状により直口口縁をA種、外反口縁をB種の2種類に細分した。

Ⅳ類A種

口縁部が直口口縁である（図31～39）。

図31は胴部が丸みを帯びて立ち上がり口縁部は直口する。口縁下部の器壁は窄まり薄くなる。見込みは目跡で印花文が露胎する。高台は畳み付け外端部を斜位に削り畳み付けは狭まる。高台内は削り痕が残る。図32は胴部から口縁部まで直口を呈する。内外面ともに腰部まで釉を施す。高台は畳み付け外端部高を削る。高台内は無釉である。図33は胴部から口縁部まで直口する。口唇部は外端が舌状を呈する。図34は胴部がやや丸味を帯びて立ち上がり口縁部は直口する。口縁下部は窄まり口縁部は肥厚する。見込みは蛇の目釉剥ぎで高台外面まで施釉する。高台内は若干釉が掛けられている。高台は畳み付け外端部を削る。図35は胴部がやや丸味を帯びて立ち上がり口縁部は直口する。外面は鉋削り調整痕が明瞭である。内面腰部最下部まで施釉されていることから見込みは目跡又は蛇の目釉剥ぎが施されていたと思われる。図36は胴部が丸みを帯びながら立ち上がり口縁部は直口する。器厚のある碗である。

図37は大振りの碗である。胴部が丸みを帯びながら立ち上がり口縁部は直口する。図38は、胴部から口縁部は逆「ハ」の字状を呈する。口縁部は肥厚し、口唇部外端は舌状を呈するため口縁部は外反気味を呈する口縁部下の器壁は薄い。図39は、器高が低い小振りの碗である。胴部は丸みを帯びながら立ち上がり口縁部は直口する。見込みは目跡で「卍」をまるで囲うスタンプ文が施される。外面は腰部まで施釉する。高台は内端が畳につく。高台内は篋により粘土を削り取り、高台まで及ぶ。

Ⅳ類B種

口縁部が外反口縁である（図40）。

第40図は、胴部は丸みを帯びながら立ち上がり口縁部で外反する。

碗底部

図41・42は、胴部は丸みを帯びながら立ち上がる。口縁部形態は不明。内外面に文様がないためⅣ類の底部と思われる。図43は、見込みは蛇の目釉剥ぎである。露胎部は淡褐色を呈する。高台は「ハ」の字状を呈する。高台外端部を斜位に削り畳付は狭まる。高台内より高台外面まで無釉で淡褐色を呈する。図44は、高台の削りが深いため高台は高い。高台内は目跡である。畳付は内外端を削るためやや舌状を呈する。図45は、高台径が小さく、高台内から畳付まで無釉である。腰部に文様が見られないことからⅣ類の底部と思われる。

図①は見込みに雷文帯を円形にし、中心部に文字をスタンプする。

B.皿

皿は口折皿、外反皿、直口口縁皿がある。そのうち外反皿が最も多く、次いで口折皿、直口皿となっている。外反皿が2点完品で出土している。各種皿の分類概念を述べ、個々の紹介は第48表の観察表にて記すこととする。

I類：口折皿

器形は、口縁部は折れ鑿状を呈し、胴部は丸みを帯び底部が広く畳付は方形状を呈する。文様外面に蓮弁文、内底面にスタンプの双魚文又は印花文が施される（図46・47）。

図46は底部である。外面胴部は片切彫りによる蓮弁文が施され、内底面にはスタンプの双魚文が施される。高台径が広く畳付は方形状を呈する。外底面は蛇の目釉剥ぎである。図47は口縁部である。外面は片切彫りによる幅広の蓮弁文を施す。胴部は丸みを帯びる。

II類：外反皿

口縁部が大きく外反するもので、腰部で折れ大きく開く。口唇部の形状より2種類に分けた（図48～55）。

II A類

口唇部の刻みを施す稜花皿である。文様の有無によりさらに2種類に細分した。

II Aa類

内外面文様を施文するものと内面のみ施文するものがある。（図48～51）。

図48は、外面は櫛描文状で内面は草花文を施す。図49～51は内面に草花文を施す。

II Ab類

無文である（図52・53）。

図52は完品である。腰部で屈曲して大きく開く浅い皿で、見込みは目跡である。底部は高台外端を斜位に削り断面は台形状を呈する。高台画面まで施釉し畳付より外底まで露胎となる。図53は図52に比べやや深めである。

II B類

口縁部に刻みを施さないものである。文様の有無によりさらに2種類に細分した。

II Ba類

内面に文様を施すものである（図54）。

図54は完品である。器壁がやや厚めである。腰部で屈曲し大きく開く。底部は高台の断面はやや丸味を帯びる。文様は内外面に片切彫りによる草花文、見込みに花文を施す。全施釉である。

II Bb類

無文である（図55）。

III類：直口口縁皿

胴部は曲線を帯び口縁部は立ち上がる。口唇部の形状により2種類に分けた。

III A類

口唇部に刻みを施すものである（図56）。

図56は口唇部に刻みを施し、外面は口唇部の凹部より縦位に沈線を施し、蓮弁文を表現する。内面は丸彫りによる花卉を施す。

III B類

文様の有無により2種類に細分する。

III Ba類

外面に片切彫りによる蓮弁文を2段施す（図57）。

III Bb類

無文である（図58）。

皿底部

図59は内外面とも腰部まで施釉する。見込みに菊花文?のスタンプが施される。

図60は見込みに花文を施す。外底は蛇の目釉剥ぎである。

C.盤

図61は底部である。見込みに花文を施す。外底は蛇の目釉剥ぎである。

D.馬上杯

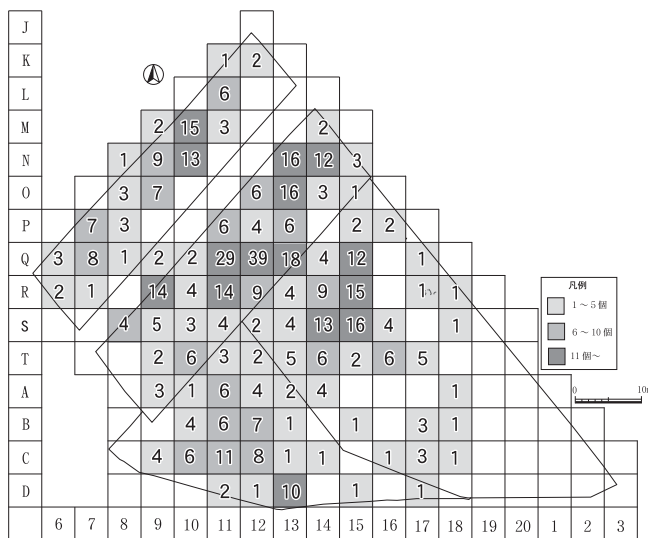
図62は口縁部と底部を欠き、胴部外面には片切彫りの弁尻が見られる。脚の上部に陽圏線を巡らす。見込みは渦巻が施される。

E.壺

図63は撫で肩を呈する胴部である。文様は見られない。図64は底部で、碁笥底を呈する。

F.瓶

図65は口縁部分で口唇部と把手を欠く。外面に丸彫りによる蓮弁文が施される。図66は胴下部で、外面に3本の圏線を巡らしその下に片切彫りによる蓮弁文を施文する。内面は露胎である。



第97図 青磁平面分布

第47表 青磁出土量

地区	層	器種	碗				皿				盤		馬上杯	壺			瓶		鉢	不明		小計	地区別計
			口~底	口	胴	底	口~底	口	胴	底	口	底	脚~胴	胴	底	口	胴	胴	胴	底			
H19	II			2	8	1								1	1							13	141
	II	遺構		1	3							1							1			6	
	III			40	36	7			7		2											92	
	III	遺構		12	8	2		2	5			1										30	
イ	II			2	1	1		1													1	6	85
	II	遺構		1			2		1													4	
	III			1	22	24	5	2	2							1						57	
	III	遺構			8	5	1		1			1	1							1		18	
ハ	I			1																		1	237
	II			1	19	17	10		3	6	4		1				1			2	2	66	
	II	遺構			1																	1	
	III			3	44	27	13		10	3	6	1			1					3	1	112	
	III	遺構			1	22	17	5		7		1	1							3		57	
二	II				13	8	3		2		1										2	29	107
	III				12	16	4	1	2			1				1				2	1	40	
	III	遺構				12	14	3		6										3		38	
不明	III				2	2																4	4
小計			7	213	186	57	6	46	10	14	3	2	1	2	1	1	3	1	17	4		574	
器種別計			463				76				5		1	3			4		1	21			

第48表-1 青磁観察一覧

(法量単位: cm)

第図版	図番号	器種	分類	部位	口径 器高 底径	器形・文様などの諸特徴	素地	釉色	地区 小ケリット 層 遺構 取上番号 台帳番号
第98図・図版78	1	蓮 弁 文 碗	I Aa	口縁部	- - -	直口口縁碗。外面の蓮弁文は弁先が開く。内面は、片切彫りによる刻花文を施す。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 S15 III 台3344
	2		I Ab	口縁部	- - -	直口口縁碗。外面の蓮弁文は弁先が開く。内面は、片切彫りによる刻花文を施す。	灰色微粒子	オリーブ釉 貫入はなし	H19 R13 III 台1745
	3		I Ac	口縁部	7.8 - -	直口口縁碗で小振りである。蓮弁の弁先は尖る。	灰色微粒子	オリーブ釉 貫入はなし	ニ 重機掘削 II 台2333
	4		I Ba	口縁部	- - -	直口口縁碗。弁先は重なるよう丸みを帯びて腰まで施文する。	淡灰白色微粒子	暗緑色色 貫入は粗い	ハ N13 II 台2121
	5		I Bb	口～底	15.8 8.9 6.0	直口口縁碗。弁先より弁尻まで一描きを施し、それを器面の右側方向に連続して施す。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ハ 013 III 台2309
	6		I Bb	口縁部	15.6 - -	直口口縁碗。蓮弁は弁先が丸みを帯びて施される。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	H19 S17 III 取235 台2423
	7		I Bb	口縁部	11.6 - -	直口口縁碗。蓮弁は弁先を先に片切彫りにより施文し、凹凸部どちらからも描き下ろす。内面は片切彫りにより弧状を横位に連続して施される。構図は不明。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	ハ S10 III SP39 台2228
	8		I Bb	口縁部	13.0 - -	直口口縁碗。蓮弁文は先に弁先を描き、弁先の凹凸部の両部より筥描きにより描き下ろす。内面腰下部に波状文?が施される。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 Q15 III 台1616 H19 S16 III 取174 台1624
	9		I Bb	口縁部	14.6 - -	直口口縁碗。蓮弁文は弁先を先に描き、凹部より描き下ろす。内面にも文様を施すが不明。	淡茶白色微粒子	淡茶緑色 貫入は細かい	ハ P11 III 台2149
	10		I Bb	口縁部	13.0 - -	直口口縁碗。蓮弁文碗は弁先を先に描き、凸凹部のどの部分からも描き下ろす。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	H19 R13 III 取136 台1622
	11		I Bb	底部	- - 4.8	底部である。胴部に線刻細蓮弁文が腰下部まで施される。見込みには印花文が施される。高台内及び曇み付けは露胎である。	淡灰白色微粒子	透明釉 貫入はなし	ハ R12 III SX01 台2192 ハ S8 II 台2100
第99図・図版79	12	雷 文 帯 碗	I Bb	底部	- - 5.4	底部である。胴部に線刻細蓮弁文が腰下部まで施される。見込みには印花文が施される。高台内は露胎である。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入は細かい	H19 R15 III 台1626
	13		II Aa	口縁部	11.8 - -	口縁部で雷文帯の雷文は崩れる。文様は、外面は片切彫りによる雷文と花文、内面は、片切彫りによる花文を施文する。	白色微粒子	淡緑色 貫入はなし	H19 B18 IIIS D01 取56 台2355
	14		II Aa	口縁部	14.9 - -	口縁部で、雷文帯の雷文は片切彫りにより施文されている。	淡灰白色微粒子	暗灰緑色	H19 不明 III P05 台4314
	15		II Ab	口縁部	- - -	口縁部で外面口縁部下には雷文帯の雷文が片切彫りで施文されている。	白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	H19 S14 III P25 台4311
	16		II Ab	胴部	- - -	胴部片で外面の文様は、雷文帯下に施される蓮弁文と思われる。片切彫りで施文されている。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色	H19 S14 III P18 台4313
	17		II Ab	口縁部	13.0 - -	口縁部で、雷文帯の雷文は片切彫りによる施文が施される。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 S15 III 台3344
	18		II Ab	口縁部	15.4 - -	口縁部で片切彫りによる雷文を巡らす。その下も同様な施文で花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	ハ N13 III SK01 台2218
	19		II Ab	口縁部	17.4 - -	口縁部で片切彫りによる雷文を巡らす。その下も同様な施文で蓮弁状の文様を施文する。内面は片切彫りによる花文を施文する。	白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	ハ N14 III 台2203
	20		II Ab	底部	- - 6.2	底部である。見込みは圏線と印花文。外面は片切彫りによる蓮弁状の文様を施す。外底面は蛇の目釉剥ぎである。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 R15 III P27 台4068
	21		II B	口縁部	18.4 - -	大振りの碗で口縁部は、片切彫りによる雷文を巡らす。胴部も同様な施文方法で花文を腰部まで施す。内面も同様に花文を施文する。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 R15 III 台1629
	22		II C	口縁部	15.0 - -	口縁部で雷文帯の雷文はスタンプと思われる。内面胴部はスタンプによる花文が施される。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入はなし	ハ N13 III 台2129
	23		II C	口縁部	15.6 - -	口縁部で、雷文帯の雷文はスタンプと思われる。内面胴部はスタンプによる花文が施される。釉の発色は悪い。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 不明 III P02 台4071+4067
	第100図版80		24	II C	口縁部	18.0 - -	口縁部で、雷文帯の雷文はスタンプと思われる。胴部はスタンプによる線刻細蓮弁を施す。内面も文様が施されているが不明瞭である。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし

第48表-2 青磁観察一覧

(質量単位: cm)

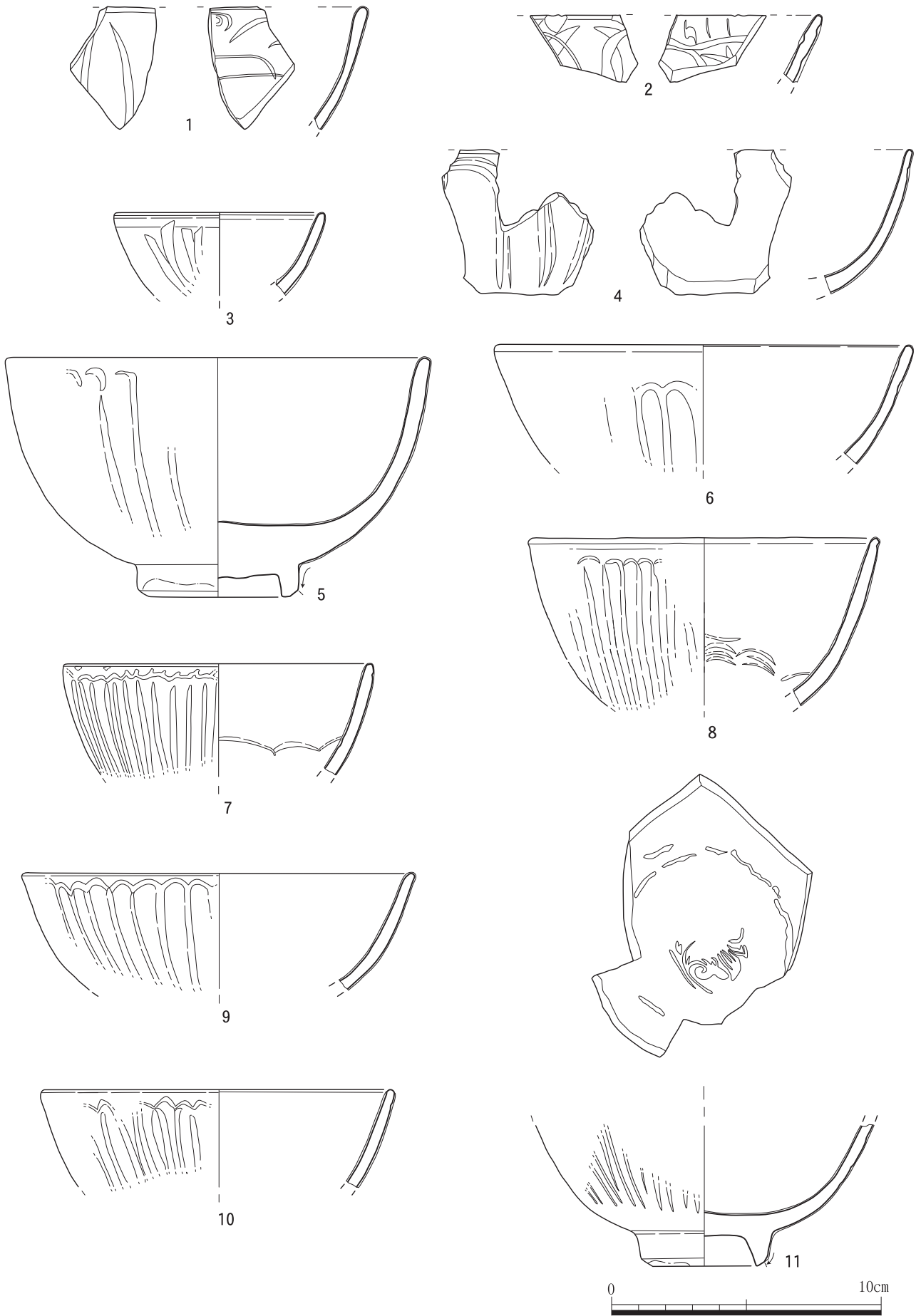
第図版	図番号	器種	分類	部位	口径 器高 底径	器形・文様などの諸特徴	素地	釉色	地区 小ケリット ^ト 層 遺構 取上番号 台帳番号
第100 図・ 図版 80	25	有 文 碗	ⅢA	口縁部	16.6 — —	口縁部で内外面ともに片切彫りによる花文を施文する。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	ハ T10 Ⅲ SP10 台2235
	26		ⅢBa	口縁部	15.0 — —	外反口縁で口唇部に刻みを施す。外面に片切彫りによる花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	ハ Q12 Ⅲ SP57 台2298
	27		ⅢBb	口縁部	16.6 — —	外反口縁で内外面ともに片切彫りによる花文を施文する。	白色微粒子	オリーブ釉 貫入はなし	ハ P13 Ⅲ 台2188
	28		ⅢBb	口縁部	— — —	外反口縁で内外面ともに片切彫りによる花文を施文する。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 R15 Ⅲ 台1631
	29		ⅢC	底部	— — 6.8	残存部の外面に文様は見られない。内面は草花文、見込みに圏線と印花文?が施される。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	ハ N13 N14 Ⅲ 台2129+2209
	30	ⅢC	胴部	— — —	残存部の外面に文様は見られない。内面は人形手と思われる。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はない	H19 R14 Ⅲ P38 台4317	
	31	無 文 碗	ⅣA	口～底	13.4 4.4 5.4	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯び立ち上がる。見込みは目跡で動物とおもわれるスタンプが施される。	白色微粒子	灰色 貫入は粗い	ハ Q13 R9 Ⅲ 台2211+2131
	32		ⅣA	口～底	13.6 4.5 6.4	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯び立ち上がる。底部より斜位に立ち上げる。内外面ともに腰部まで施釉される。	灰色微粒子	灰白色 貫入なし	イ B12 Ⅱ SK59 台613
	33		ⅣA	口縁部	16.8 — —	逆「ハ」の字状に立ち上がる。口唇部は舌状を呈する。	淡灰白色微粒子	釉色は発光が 悪い 貫入はなし	イ B11 Ⅲ 取301 台1280
	34		ⅣA	口～底	15.4 5.5 6.0	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯びながら立ち上がる。見込みは蛇の目釉剥ぎである。	灰色微粒子	淡灰色 貫入はなし	イ B11 C12 Ⅲ 取129+339 台1783+1293
35	ⅣA		口縁部	17.0 — —	器形は図34に類似する。施釉方法も同様である。大振りの碗である。外面に轆轤痕が明瞭に残る。	淡灰色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	ニ Q7 Ⅲ SP5 台2367+台2416 ニ R11 Ⅲ P28 台2158	
36	ⅣA	口縁部	12.0 — —	やや小振りの碗である。	淡灰色微粒子	くすんだ淡灰 緑色 貫入はなし	ハ N14 Ⅲ 台2124+2127+2209		
第101 図・ 図版 81	37	碗 底 部	ⅣA	口縁部	17.2 — —	大振りの碗である。器形は図36に類似する。	灰色微粒子と 茶褐色微粒子	淡茶緑色 貫入はなし	ハ N14 Ⅱ 台2128+2168
	38		ⅣA	口縁部	18.6 — —	口縁部が肥厚し、断面が方形状を呈する。	白色微粒子	淡灰色 貫入はなし	イ C12 Ⅲ P34 台2066
	39		ⅣA	口～底	13.4 5.4 5.4	器形が分かる資料である。底部より丸みを帯びながら立ち上がる。見込みは目跡でスタンプによる「卍」文が施される。外面腰部まで施釉する。底部の器壁は厚い。	白色微粒子	透明釉 貫入は細かい	ハ S9 Ⅱ 台2103 ハ R9 Ⅲ 台2152
	40		ⅣB	口縁部	13.6 — —	外反口縁碗である。胴部は丸みを帯びる。	灰色微粒子 茶褐色微粒子	淡オリーブ釉 貫入はなし	H19 B17 Ⅲ P10 台4247
	41			底部	— — 5.2	高台内削りが深く高台は高い。胴部は丸味を帯びる。見込みは圏線と印花文が施される。	白色微粒子	淡緑色 貫入は細かい	H19 T16 Ⅲ P7 台4180
	42		底部	— — 5.2	高台内削りは深く高台は高い。胴部は丸味を帯びる。見込みは印花文が施される。	灰白色微粒子	灰緑色 貫入は細かい	ハ N13 Ⅱ 台2150	
	43		底部	— — 7.9	高台は「ハ」の字状に開き、畳付内端が畳に付く。見込みは蛇の目釉剥ぎである。外面高台脇まで施釉し、高台外面より外底は露胎である。	淡茶色微粒子	灰白色 貫入はなし	イ C11 Ⅲ P40 台2030	
	44		底部	— — 5.4	高台内削りは深く高台は高い。外底は目跡である。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は細かい	H19 T17 Ⅲ 台3332	
	45		底部	— — 4.2	高台内削りはやや深い。畳付は露胎する。	灰色素粒子	茶緑色 貫入はなし	H19 S15 Ⅲ 台2441	
第101 図	①		底部	— — —	底部片で、見込みに雷文帯を円形に巡らし、中心部に文字がスタンプされる	淡灰白色微粒子	無釉	ハ Q12 Ⅲ 台2206	

第三章 第4節

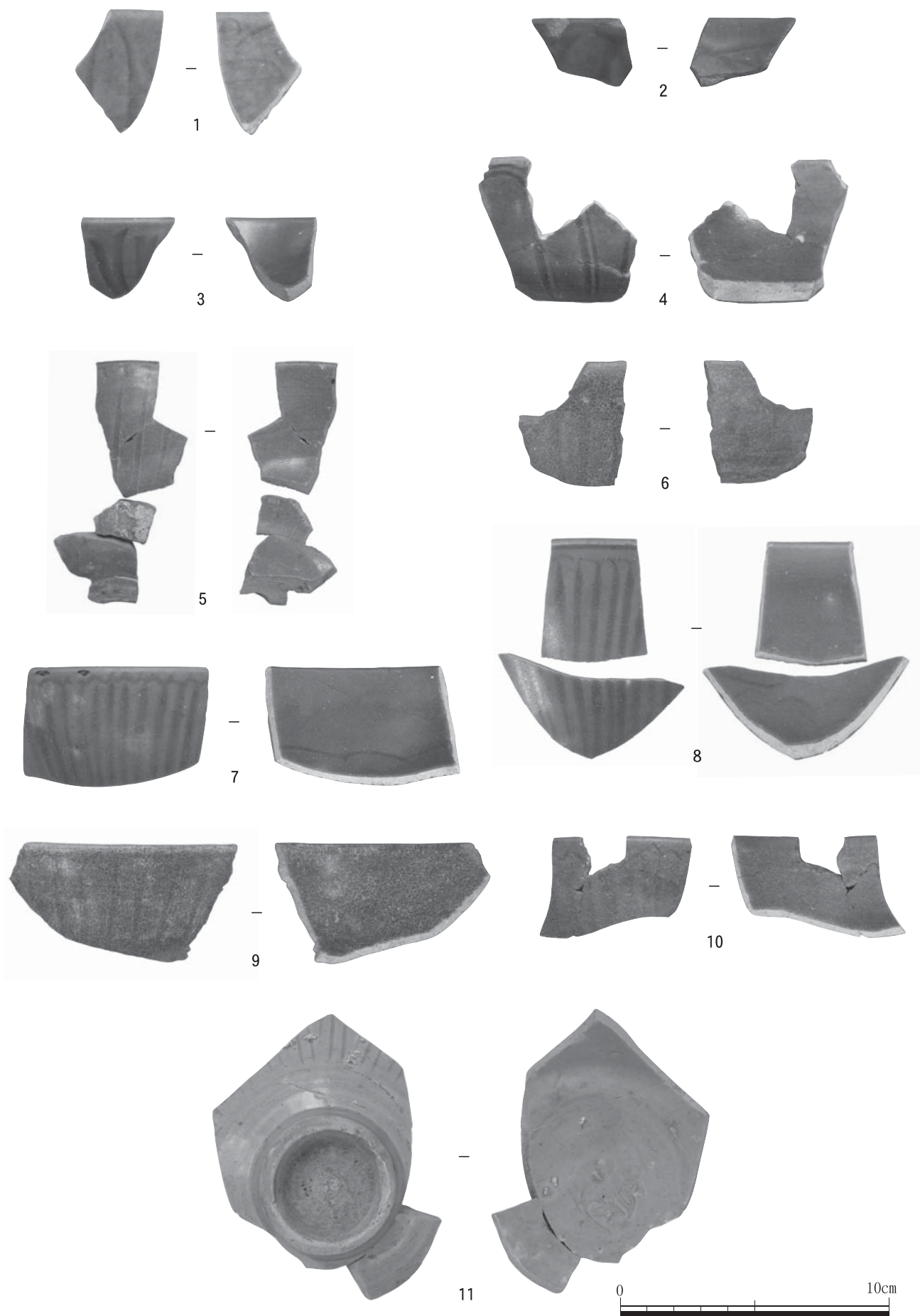
第48表-3 青磁観察一覧

(法量単位：cm)

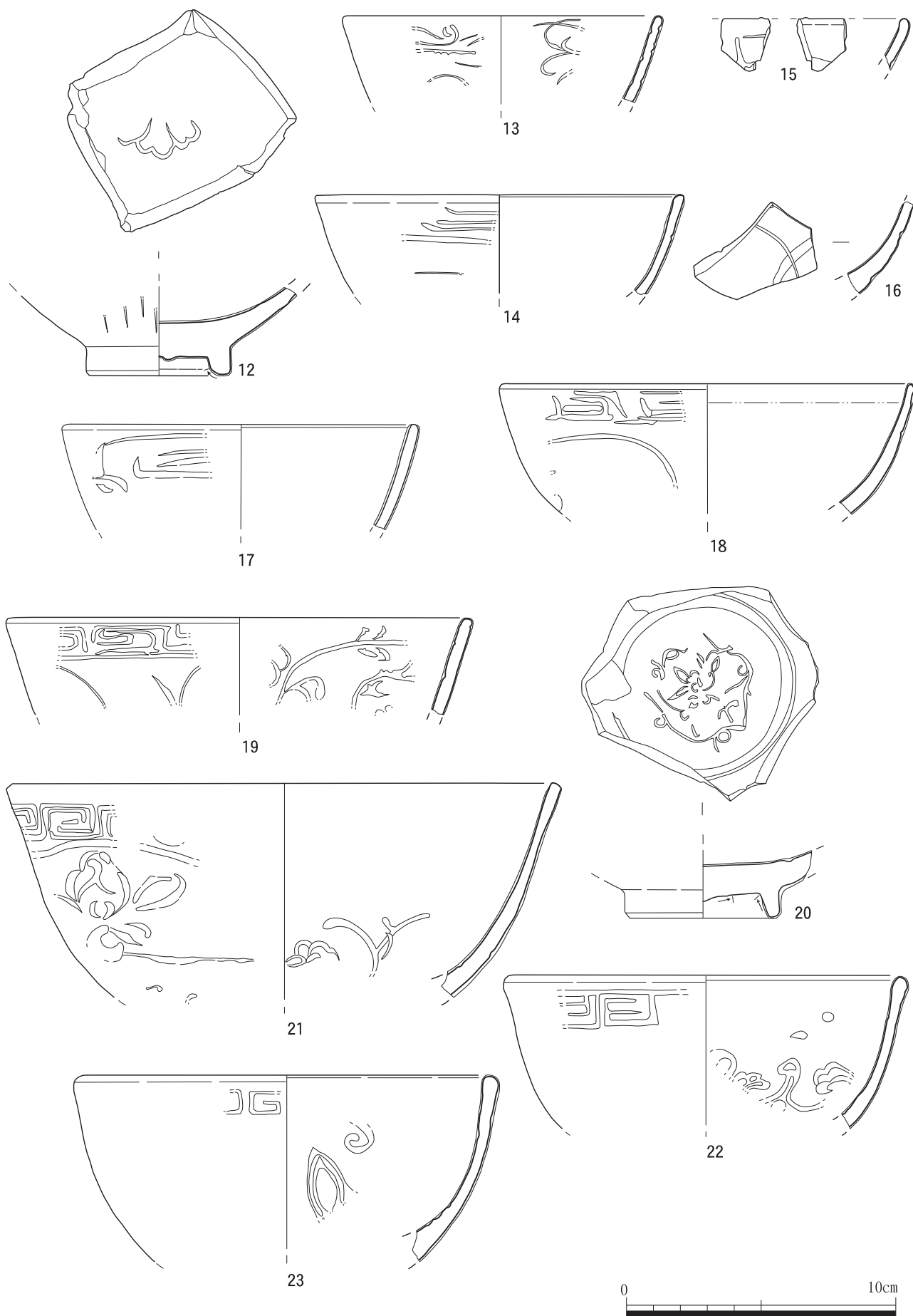
第図 図版	図 番号	器 種	分類	部位	口径 器高 底径	器形・文様などの諸特徴	素地	釉色	地区 小ケリット ^ト 層 遺構 取上番号 台帳番号
第101 図・図版 81	46	口 折	I	底部	— — 6.6	口折皿底部。見込みに双魚文のスタンプが施される。外面は片切彫りによる蓮弁文。外底は蛇の目釉剥ぎである。	淡灰白色微粒子	緑色 貫入はなし	ハ R10 III SP07 台2153
	47	皿	I	口縁部	11.6 — —	口縁部である。外面に片切彫りによる幅広の蓮弁文を施す。	白色微粒子	緑色 貫入はなし	H19 S15 III 台3344
	48		II Aa	口縁部	— — —	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。外面は楯描文状、内面は片切彫りと楯描きで草花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ハ Q12 III 台2166
第102 図・図版 82	49		II Aa	口～底	10.8 2.7 5.6	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。内面に片切彫りによる草花文を施す。外底は蛇の目釉剥ぎ。	灰色微粒子	灰緑色 貫入は細かい	ハ 014 III 台2143+2146+2147
	50		II Aa	口縁部	12.3 — —	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。内面に片切彫りによる草花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 R14 III P39 台4318
	51	外 反	II Aa	口縁部	12.4 — —	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。内面に片切彫りによる草花文を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	H19 R15 III P44 台4316
	52	皿	II Ab	口～底	11.4 2.9 4.7	完成の外反皿で稜花皿である。見込みは目跡。畳付より外底は露胎する。一部口縁部から胴部にかけて窯変がみられる。		茶緑色 貫入はなし	H19 Q14 III SK06 取334 台3406
	53		II Ab	口縁部	12.6 — —	口唇部に刻みを入れる稜花皿である。口唇部及び外面胴部は風化し、釉が剥がれている。	白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ハ R9 III 台2130
	54		II Ba	口～底	12.1 3.4 6.1	完成の外反皿で稜花皿である。内外面に片切彫りによる草花文、見込みに印花を施す。外底にハマ？跡。		緑色 貫入は粗い	H19 Q14 III SK006 取335 台3407
	55		II Bb	口縁部	12.1 — —	外反皿である。口唇部は風化し、釉が剥がれている。	白色微粒子	くすんだ灰色 緑 貫入はなし	H19 T13 III 取166 台2909
第103 図・図版 83	56		III A	口～底	10.1 2.7 4.8	口唇部に刻みを入れる。外面は刻みの凹部より細い沈線を入れ蓮弁文を表現する。内面は丸彫りによる花卉を施す。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	イ C12 III 取126 台1292
	57	直 口 縁 皿	III Ba	口縁部	12.4 — —	直口口縁皿である。外面に胴部中位に区画線を施し、その上下に片切彫りによる蓮弁文を施す。	淡灰白色微粒子	淡緑色 貫入はなし	H19 R18 III P3 台4312
	58		III Bb	口縁部	10.6 — —	直口口縁皿である。	灰色微粒子	灰緑色 貫入は粗い	H19 Q13 III P2 台4238
	59			底部	— — 5.4	内面腰部まで施釉する。見込みは露胎で印花文が施される。外面も腰部まで施釉し、そこから外底迄露胎である。高台は畳付外端を面取りする。	淡灰白色微粒子		ハ S11 II 台2094
	60	皿 底 部		底部	— — 6.8	見込みに印花文が施される。高台は畳付内外端を面取りする。	淡灰白色微粒子	灰緑色 貫入はなし	H19 R15 III 台1629
	61	盤		底部	— — 12.8	高台径は広い。高台は畳付外端を面取りする。外底は蛇の目釉剥ぎである。釉の発色が悪く見込みの構図が不明。	茶白色微粒子	不明 貫入はなし	ニ M10 III 台2381 II 台2383
	62	馬 上 杯		脚～胴	— — —	外面胴部に線彫りの蓮弁が施される。見込みには渦巻文。中脚は陽圏線が巡る。	白色微粒子	淡緑色 貫入は粗い	イ C12 III P06 台2159
	63			胴部	— — —	撫で肩の壺である。	灰色微粒子	淡灰緑色 貫入はなし	H19 B17 II 台2267
	64	壺		底部	— — 5.0	ベタ底を呈する。釉は外面底部辺りまで施す。内面は無釉。	淡灰白色微粒子	淡灰色 貫入はなし	H19 C17 II 台2398
	65			口縁部	— — —	口縁部から頸部の資料である。口唇部は舌状を呈する。外面口縁部直下に丸彫りによる蓮弁を施す。頸部には把手が付いているが破損。内外面施釉する。	白色微粒子	淡灰茶色 貫入は細かい	ハ R12 III 台2109
66	瓶		胴部	— — —	胴下部である。外面は3条の沈線が巡りその下部に片切彫りによる蓮弁文を施す。内面は露胎する。	淡灰白色微粒子	淡灰緑色 貫入は粗い	ニ N9 III 台2409	



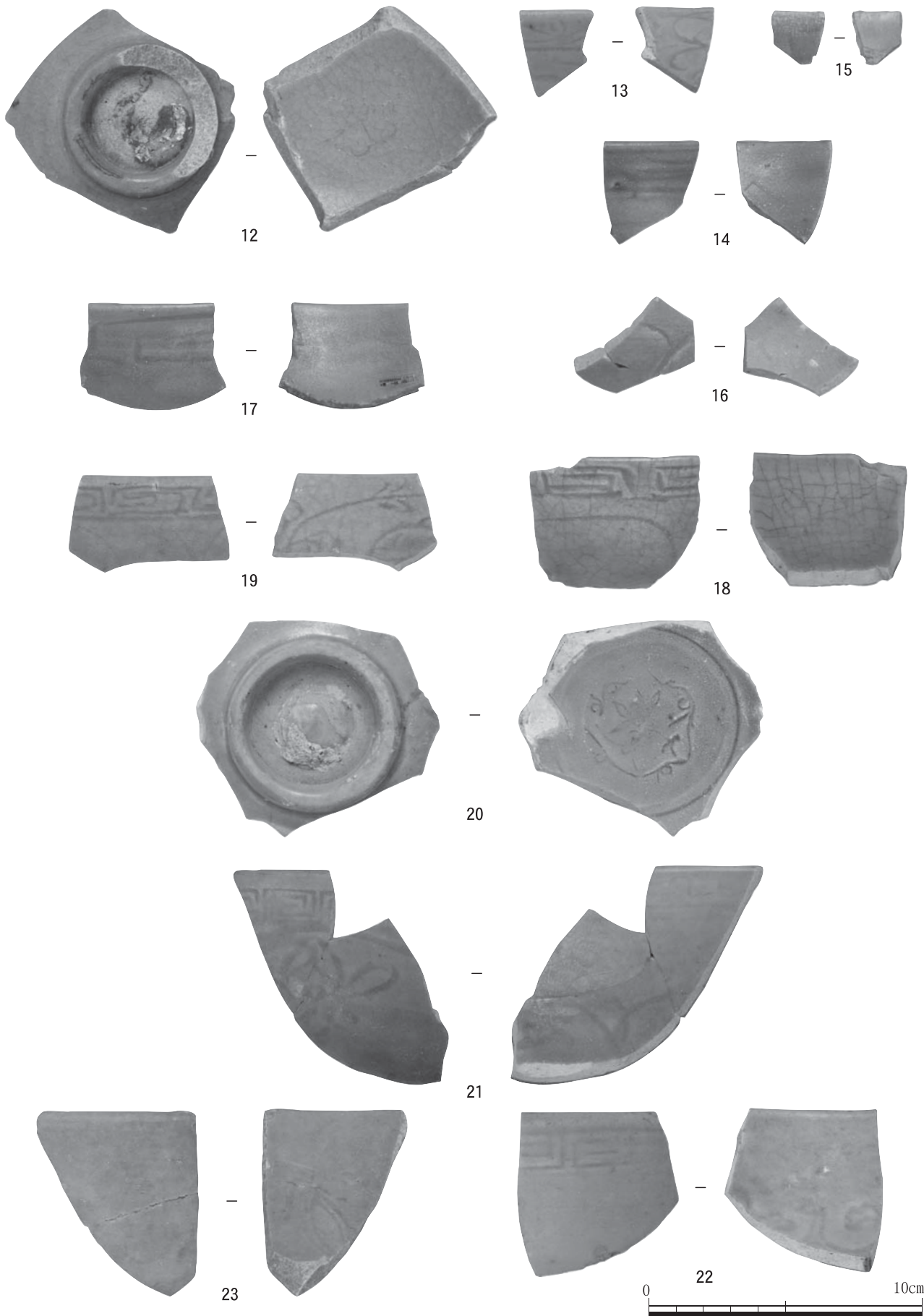
第98図 青磁 1



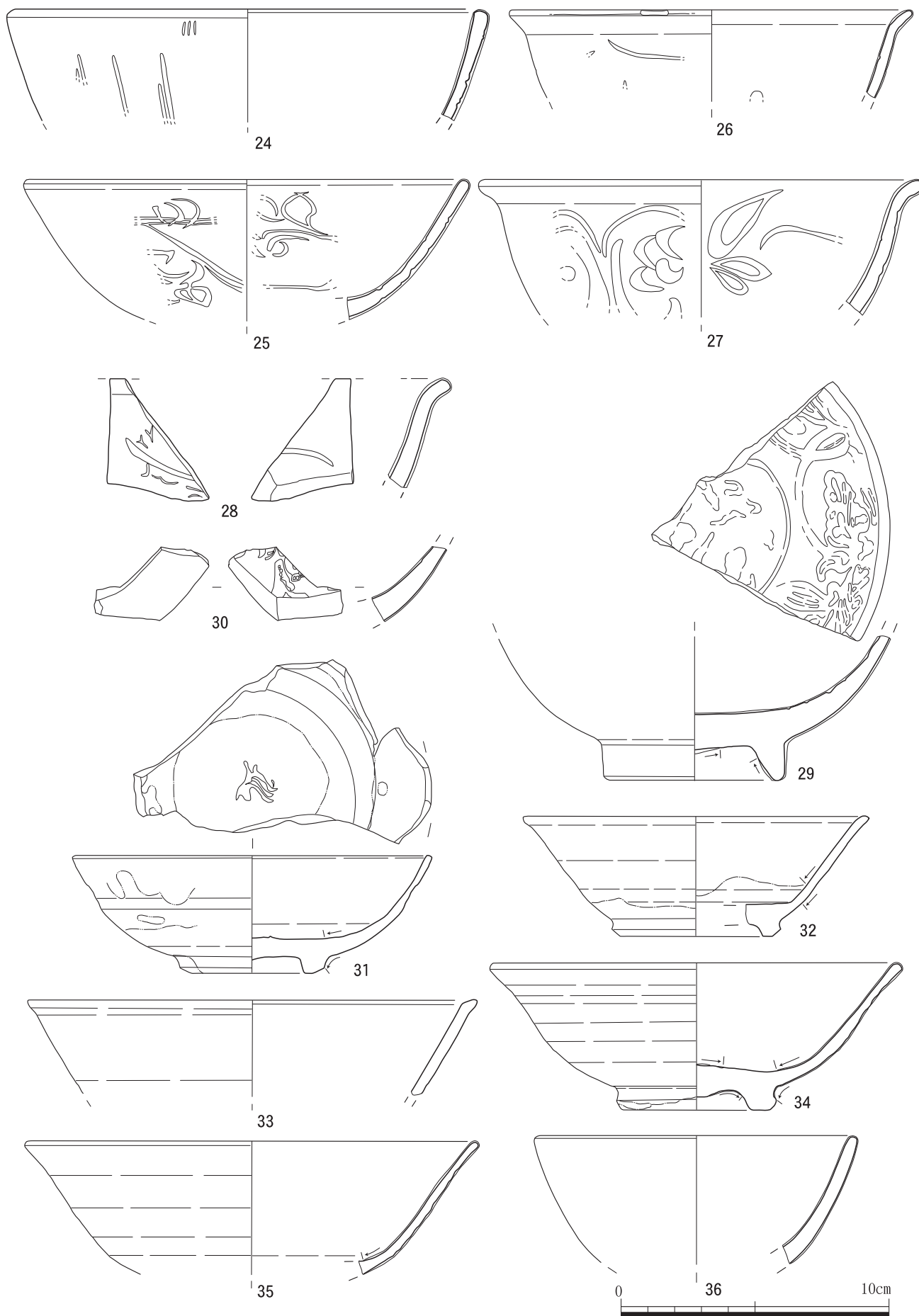
图版78 青磁 1



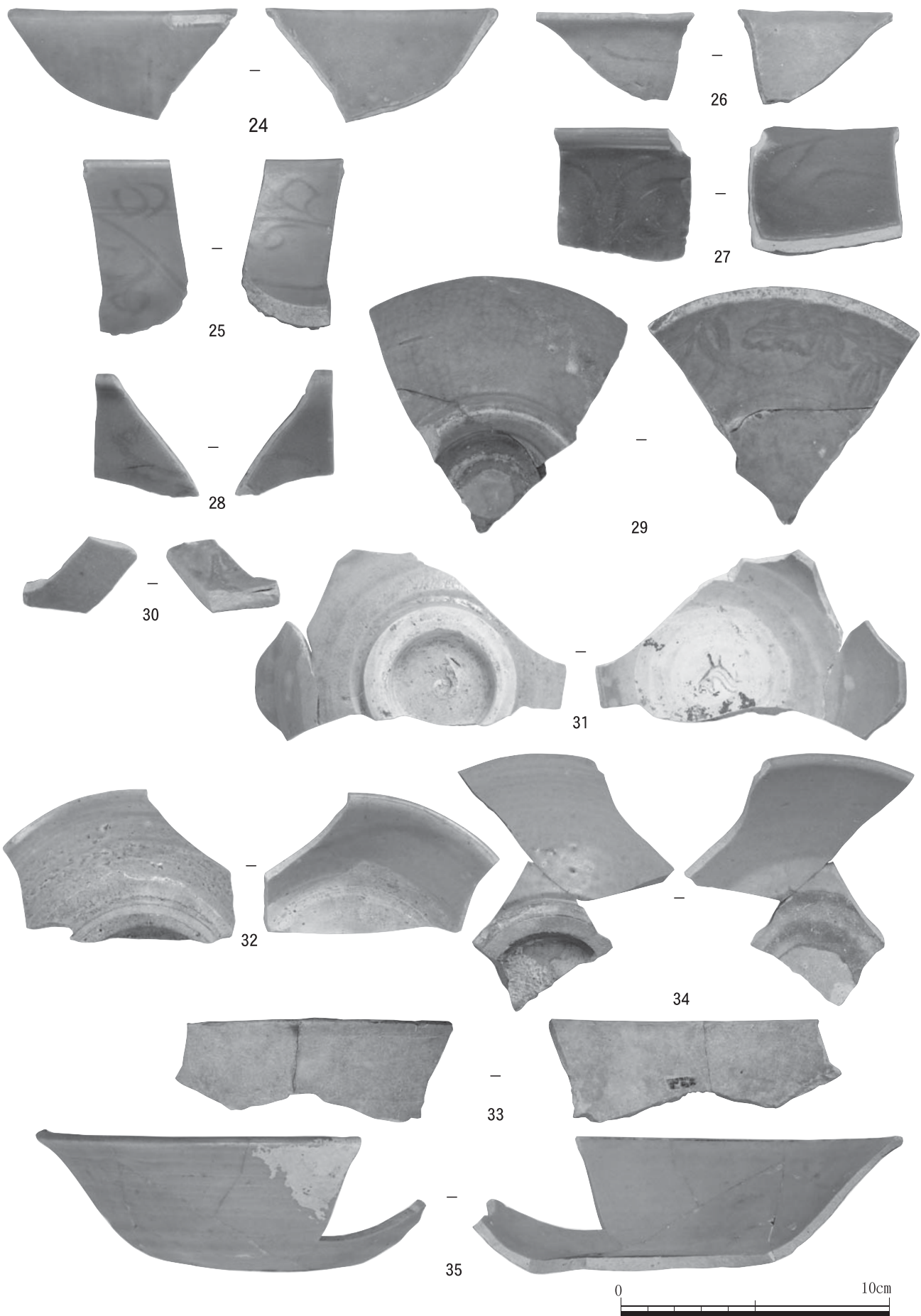
第99図 青磁2



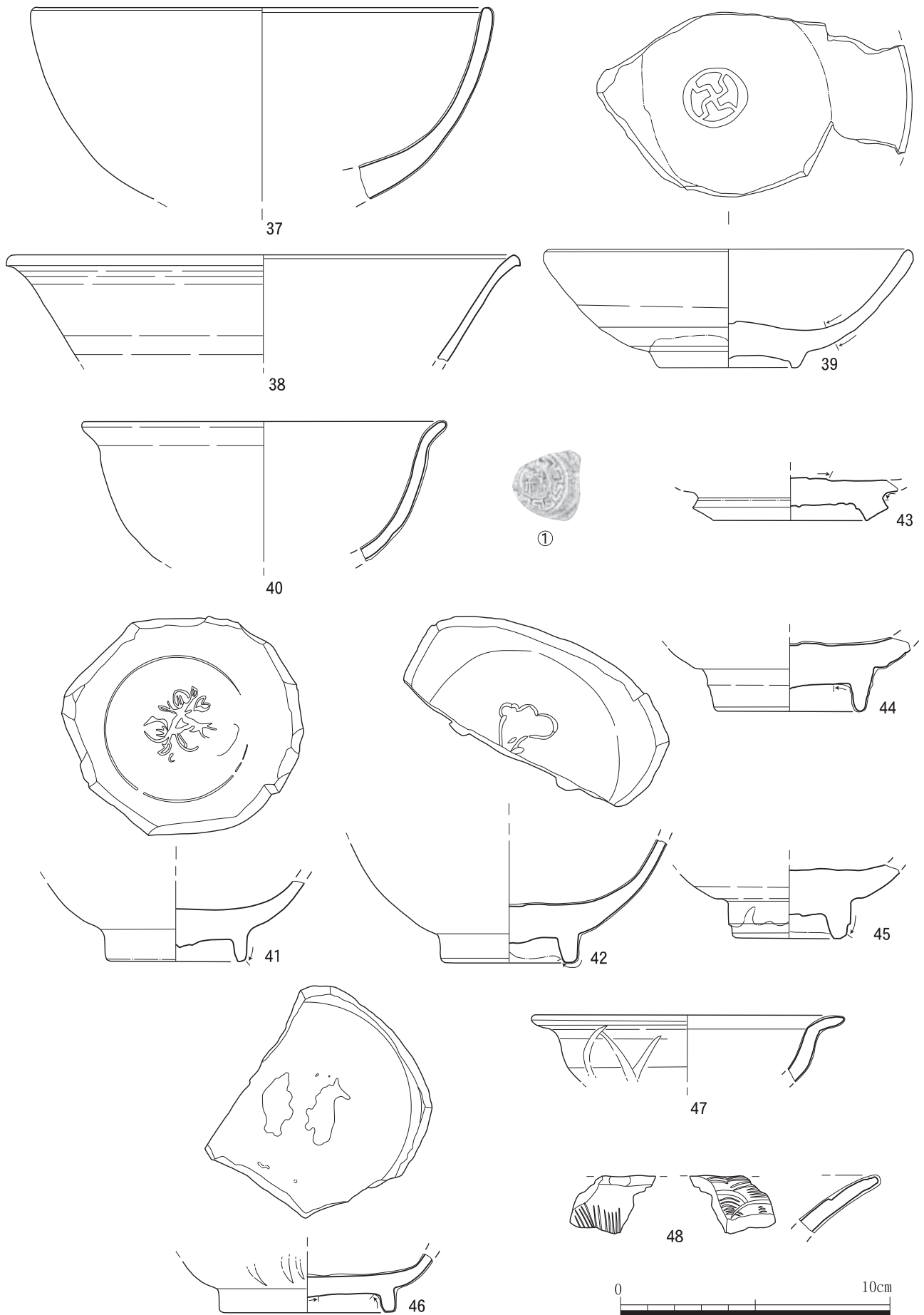
图版79 青磁2



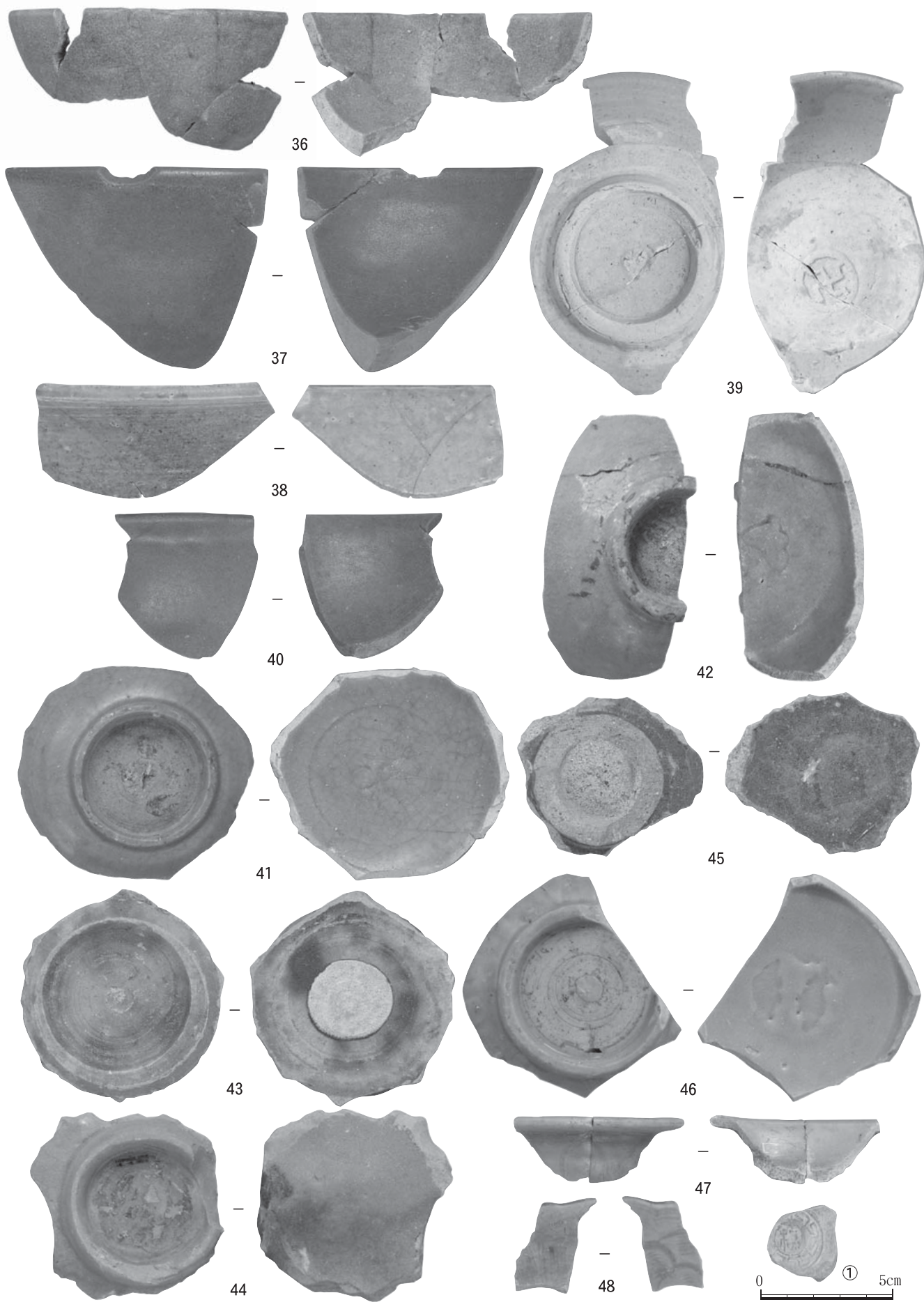
第100図 青磁3



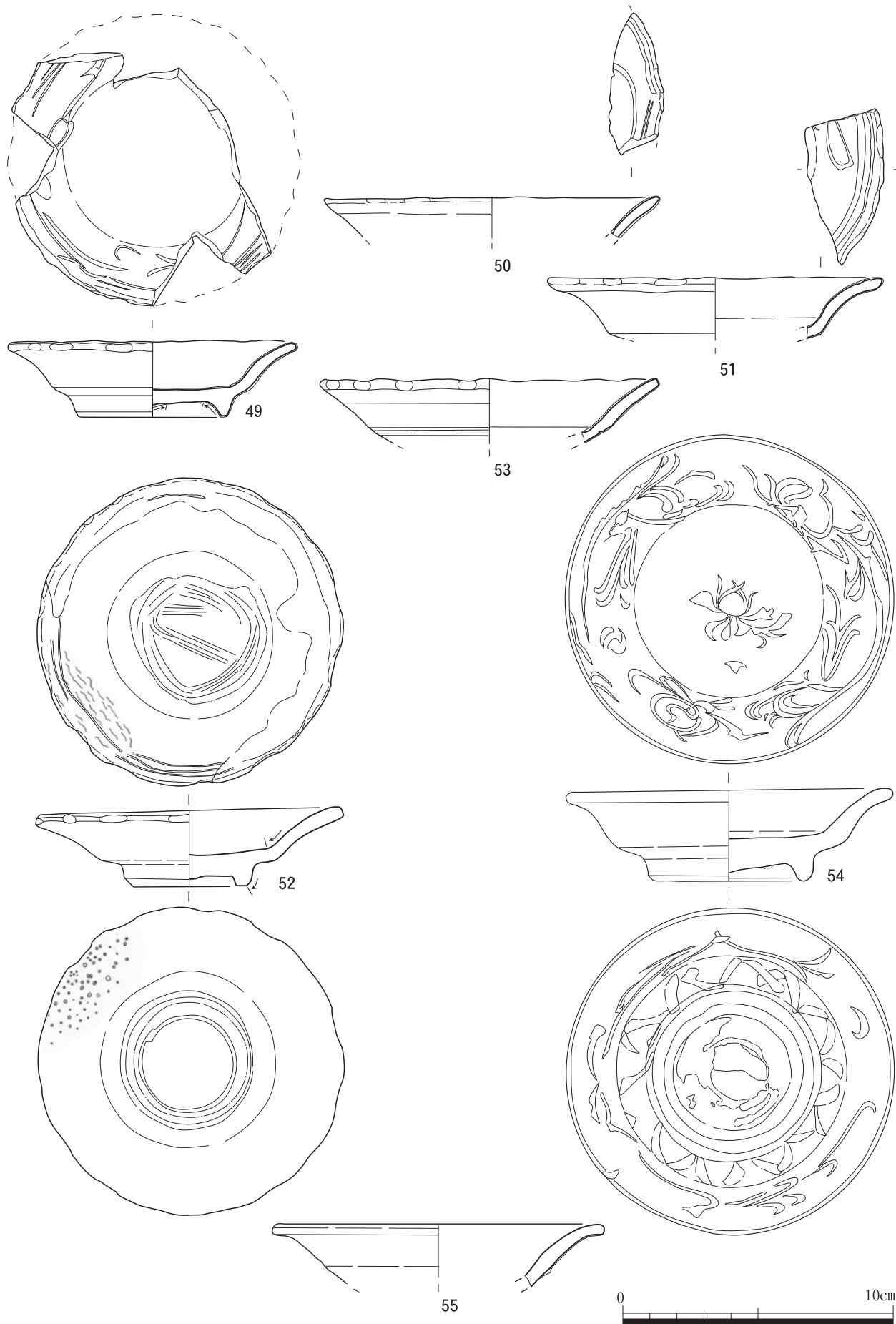
图版80 青磁 3



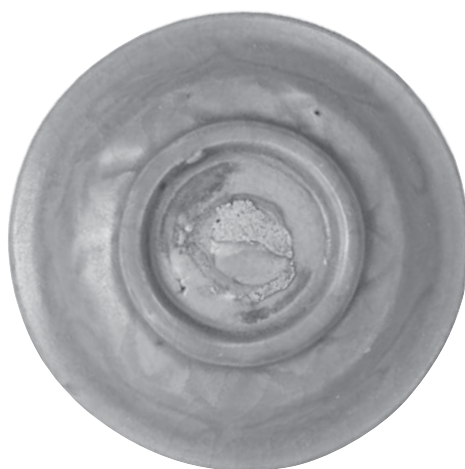
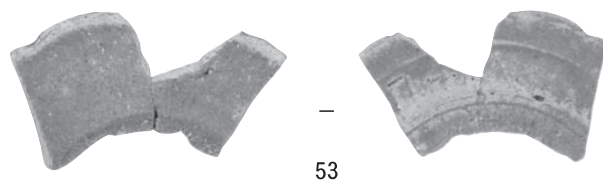
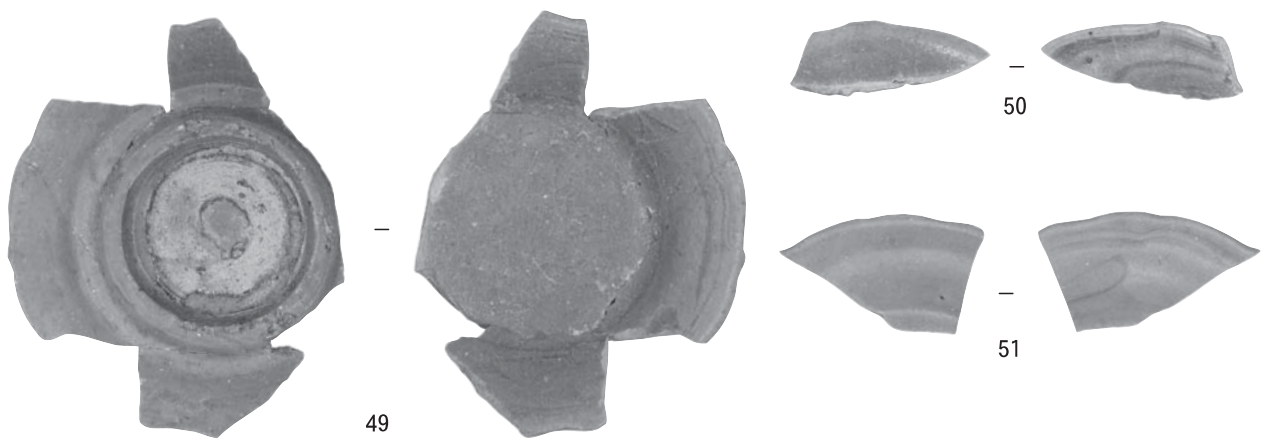
第101図 青磁4

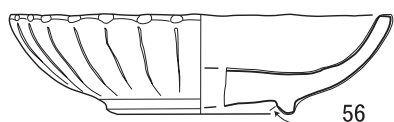
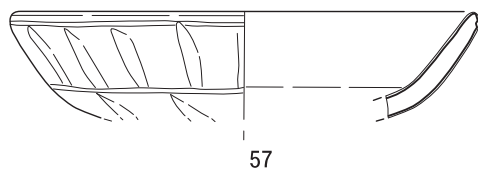
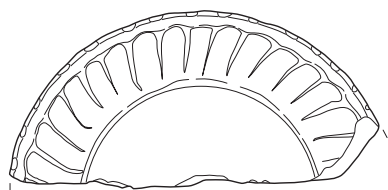


图版81 青磁 4

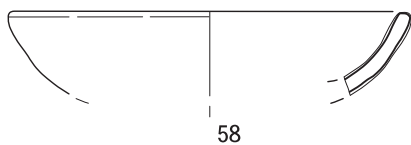


第102図 青磁5

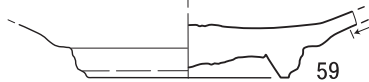




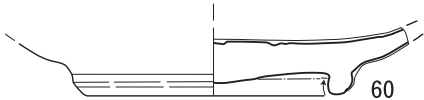
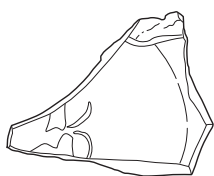
57



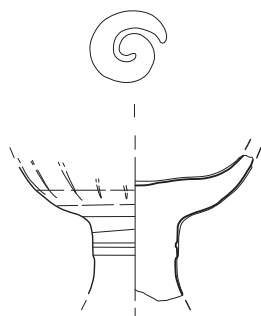
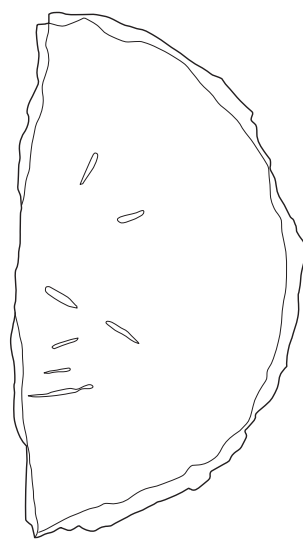
58



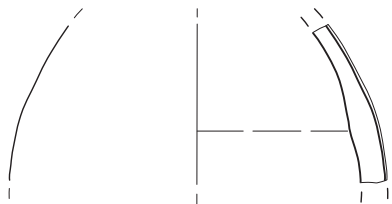
59



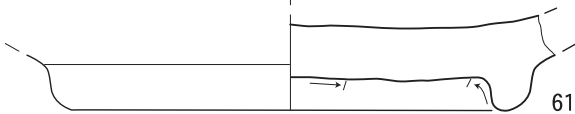
60



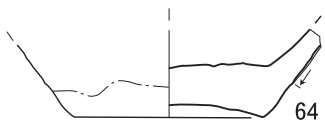
62



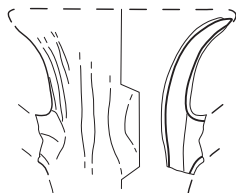
63



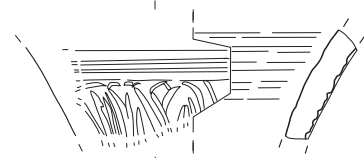
61



64



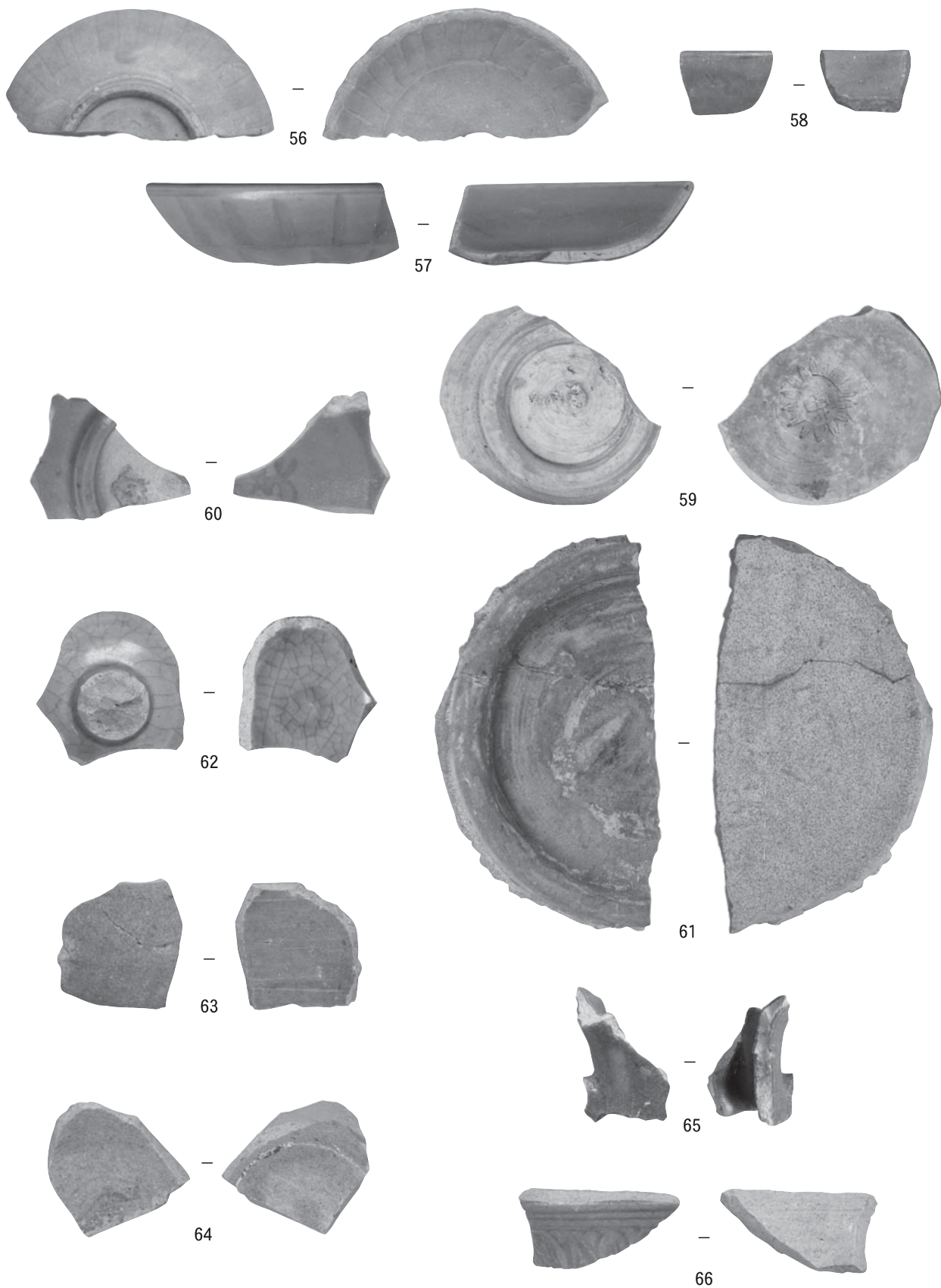
65



66



第103図 青磁6



图版83 青磁6

(4) 白磁

白磁は総数86点出土している。器種別では碗が42点と最も多く、次いで皿28点、壺5点、杯3点となっている。出土状況を見てみると、層別では第Ⅲ層で65点と多く出土している。調査区の南側に集中している。白磁は古手では玉縁口縁碗が2点、楯目文碗が1点出土しているが少なく、概ね15世紀から16世紀頃が主体を成している。分類は器種別に行い、それぞれで細分可能なものは行った。個々の詳細は第49表に記した。

A.碗

碗は器形より玉縁口縁碗、直口口縁碗、外反口縁碗、内彎口縁碗の4種類をⅠ～Ⅳ類に分けた。また、細分可能なものは行った。個々の詳細は第49表の観察表に記した。

Ⅰ類：玉縁口縁碗

口縁部は蒲鉾状に肥厚する。高台内削りは浅く高台断面は台形状で、内面側が斜位に削られる。玉縁口縁碗は口縁部と底部の2点出土している。口縁部は小破片のため割愛した。第105図1は底部片である。外面胴下部から外底は露胎である。内面は施釉する。

Ⅱ類：直口口縁碗

直口口縁碗には有文と無文がある。前者をA類、後者をB類に分けた。

A類：有文である。

図2は口縁部外面をやや窄ませる。口唇部内端は稜を有する。外面に楯描きの波状文を施す。この手に類似する資料が浦添市の当山東原遺跡で出土している(註1)。

B類：無文である。

口縁部は直口する(図3～5)。図3の外面口縁部下は窪みを呈し、口縁部は肥厚する。口唇部に沈線を巡らす。図4は外面口縁部下に稜を有する。図5は口唇部が平坦に成形する。

Ⅲ類：外反口縁碗

外反口縁碗は有文と無文がある。前者をA類、後者をB類とした。

A類：有文で外面に楯目文が施される(図6)

図6の器形は、胴部は直口し、口縁部で反る。文様は口縁下部より極細の工具による楯目文が施される。内面胴部に一条の横線が巡らされている。この手の資料は北谷町の後兼久原遺跡(註2)、小堀原遺跡(註3)で玉縁口縁碗と共伴していることから12世紀頃と思われる。

B類：無文である。口縁部と口唇部の形状より更に3種類に分けた。

B a：口縁部は屈曲し鏢状を呈し、口唇部は舌状となる(図7)。

B b：口縁部内面を斜位に成形し、稜を有する。口唇部は舌状となる(図8～10)。

B c：口縁部は外反し、口唇部は舌状を呈する(図11)。

Ⅳ類：内彎口縁碗

A類：有文である。

図12は器壁が厚く重量感がある。口縁部はやや肥厚する。外面にへら彫りによる花文を施す。

B類：無文である。

図13は口縁部が口唇部はやや舌状をなす。

碗底部

図14は外面胴部に丸彫りによる蓮弁文状を施す。高台は舌状を呈し、畳付は露胎である。図15は

高台外面を斜位に削り畳付は狭まる。高台脇は鉋削り痕が残る。内外面の胴下部まで施釉し内外底は露胎する。

B.皿

皿は外反口縁皿、直口口縁皿がある。前者をⅠ類、後者をⅡ類とした。個々の詳細は第49表に記した。

Ⅰ類：外反口縁皿

口縁部は外反し、無文の皿でサイズは大小の2種類ある。大きいサイズをア、小さいサイズをイに細分した。

ア類：口径が大きいサイズである（図16）。

イ類：口径が小さいサイズである（図17～20）。

図17は口縁部が強く屈曲し、鏝状を呈する。底部は高台外面を面取りし、畳付は尖る。図18は口縁部が微弱に外反する。底部は高台断面が台形状を呈する。図19は胴上部より緩やかに屈曲し外反する。外面は胴下部まで施釉する。図20は口縁部で外反する。底部は高台断面が三角形状を呈し、畳付は尖る。

Ⅱ類：直口口縁皿

図21は口縁部外面を削り口唇部は舌状を呈する。

皿底部

皿底部は有文をA種、無文をB種に分けた。

A：有文である。（図22・23）。

図22・23は内外面共に丸彫りによる蓮弁文を施す。図22は底径が広く高台は外端を面取りし、畳付は舌状を呈する。図23は底径が広く高台は内端を面取りし畳付は狭まる。

B：無文である。

図24はベタ底で口禿皿の底部と思われる。図25は底部より胴部の立ち上がりは弱く開き気味になる。高台は外端を面取りし、畳付は狭まる。図26は底部より胴部は立ち上がる。高台は外端を面取りし、畳付は尖る。

C.杯

杯の口縁部は外反する。図27は薄手で口縁部は開く。図28は筒状を呈するため深めの杯である。図29は底部である。胴部は底部より立ち上がり口縁部で外反するタイプである。

D.壺

図30は小型の壺で胴部外面まで施釉する。胴下部及び内面は露胎する。

<註文献>

註1 浦添市教育委員会 2003『当山東原遺跡』浦添市文化財調査報告書 第33集

註2 北谷町教育委員会 2003『後兼久原遺跡』北谷町文化財報告書 第21集

註3 北谷町教育委員会 2012『小堀原遺跡』北谷町文化財報告書 第34集

第49表-1 白磁観察一覧

(法量単位: cm)

第図 図版	図番 号	器 種	分類	口径 器高 底径	器形・文様・その他特徴	地区 小ナリト層 遺構 取上番号 台帳番号
第105 図・図版 84	1	碗	I	— — 6.4	玉縁口縁碗底部である。高台内削りは浅く、高台内面は斜位に成形し、高台は台形状を呈する。素地は白色微粒子で釉は淡灰白色。	イ B12 III 取256 台1289
	2		IIA	— — —	直口口縁碗である。口縁部外面に楡描きの波状文が施される。口唇部内端は稜を成す。素地は白色微粒子で釉は白色。貫入はなし。	ハ S8 II 台2100
	3		IIB	— — —	直口口縁碗である。外面口縁部下に窪みを有し、口縁部は肥厚する。口唇部に沈線を巡らす。素地は白色微粒子で、釉は淡灰白色。貫入はなし。	イ C11 III 台1583
	4			— — —	直口口縁碗である。外面口縁部下に稜を有する。素地は白色微粒子で、釉は淡黄白色。貫入は細かい。	H19 S13 III 台2348
	5			— — —	直口口縁碗である。口唇部は平坦である。素地は白色微粒子で釉は白色。貫入はなし。	イ A11 III SK062 台2003
	6		IIIA	— — —	外反口縁で外面に楡目文、内面に一条の横線が施される。器壁は薄い。素地は白色微粒子で釉色は白色である。貫入はなし。	H19 T14 III 台2378
	7		IIIBa	16.2 — —	外反口縁碗である。口縁部は屈曲し鏝状を呈する。素地は白色微粒子で釉は乳白色。貫入はなし。	ハ Q11 III SP14 台2316
	8		IIIBb	13.6 — —	外反口縁碗である。内面口縁部を斜位に成形し、稜を有する。外面は轆轤痕が残る。素地は白色微粒子で釉は白色である。貫入は細かい。	イ C11 III 台1583
	9			12.8 — —	外反口縁碗である。内面口縁部を斜位に成形し、稜を有する。外面は轆轤痕が残る。素地は白色微粒子で釉は白色である。内面胴下部まで施釉する。貫入は細かい。	ハ R9 III 台2151
	10			12.0 — —	外反口縁碗である。内面口縁部を斜位に成形し、稜を有する。素地は淡灰白色微粒子で釉は淡灰白色である。内面胴下部まで施釉する。貫入は細かい。	ニ Q7 III SK01 台2374
	11		IIIBc	10.6 — —	外反口縁碗である。素地は白色微粒子で釉は淡灰白色。貫入はなし。	H19 S13 III 台2345
	12		IVA	22.0 — —	直口口縁皿である。口径が大きく深めで器壁が厚い。重量感のある皿である。外面に片切彫りによる花文を施す。口縁部はやや肥厚する。素地は白色微粒子で釉は白色である。貫入は粗い。	ハ N14 III 台2203
	13		IVB	12.6 — —	内彎口縁碗である。口縁部外面は釉が厚く、細かい貫入が見られる。内外面胴下部まで施釉する。	イ D13 III P23 台2072
	14		底部	— — 6.0	外面に丸彫りによる蓮弁文様の文様を施す。高台は舌状を呈する。畳付は露胎。素地は白色微粒子で釉は白色。貫入は細かい。	イ A11 III SK062 台2003
	15			— — 5.2	高台外面を斜位に削り畳付は狭まる。内外面胴下部まで施釉し、内外底は露胎である。素地は白色微粒子で釉は白色。貫入は細かい。	ハ R9 III 台2131
第106 図・図版 85	16	皿	Iア	17.2 — —	外反口縁皿で口径が大きいサイズである。やや深めである。素地は淡灰白色で釉は淡灰白色。貫入はなし。	イ C14 III 取17 台17
	17		Iイ	10.9 2.3 6.4	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。口縁部の屈曲は大きく鏝状を呈する。高台は外面を面取りし畳付は尖る。素地は淡灰白色で釉は淡灰白色である。高台内外面まで施釉し、畳付は露胎する。	ニ P7 III SP24 台2327
	18			10.2 2.4 5.6	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。口縁部は微弱に外反する。底部は高台断面が台形状を呈する。素地は淡灰白色で釉は淡灰白色である。高台内外面まで施釉し畳付は露胎する。	ハ P11 III 台2161
	19			11.8 — —	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。胴上部より緩やかに屈曲し口縁部は外反する。外反胴下部まで施釉する。素地は白色微粒子で釉は淡灰青色である。貫入はなし。	ハ A9 III SK04 台2244
	20			10.8 2.5 5.6	外反口縁皿である。口径は小さく浅めの皿である。底部は高台が三角形を呈し、畳付が尖る。底部の器壁は薄い。素地は白色微粒子で釉は乳白色である。	ハ R12 III SP18 台2190
	21		II	8.4 — —	直口口縁皿である。口縁部外面を削り口唇部は舌状を呈する。素地は白色微粒子で釉は白色。外面胴部まで施釉する。貫入はなし。	ニ 不 II 台2337
	22		A	— — 10.0	底径が広いことから大きいサイズの皿である。内外面に丸彫りによる蓮弁文を施す。高台は外端を面取りし畳付は舌状を呈する。素地は白色微粒子で釉は白色である。畳付は露胎する。貫入はなし。	ハ Q12 III SK04 台2251
	23			— — 9.6	底径が広いことから大きいサイズの皿である。内外面に丸彫りによる蓮弁文を施す。高台は内端を面取りし畳付は狭まる。素地は白色微粒子で釉は白色である。畳付は露胎である。貫入はなし。	H19 R13 III 取265 台3120
	24		B	— — 6.0	ベタ底の皿である。内面の見込みから胴部の境で窪みを成して立ち上がる。口禿皿の底部と思われる。素地は淡灰白色で釉は淡灰白色。貫入はなし。	イ C10 III P17 台2075

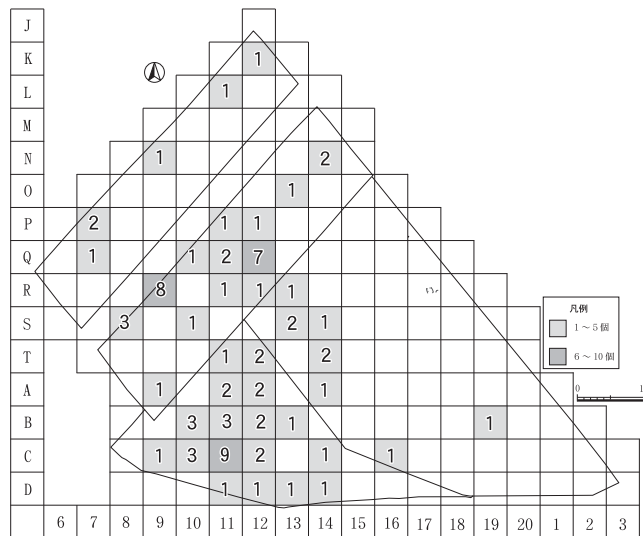
第49表-2 白磁観察一覧

(法量単位: cm)

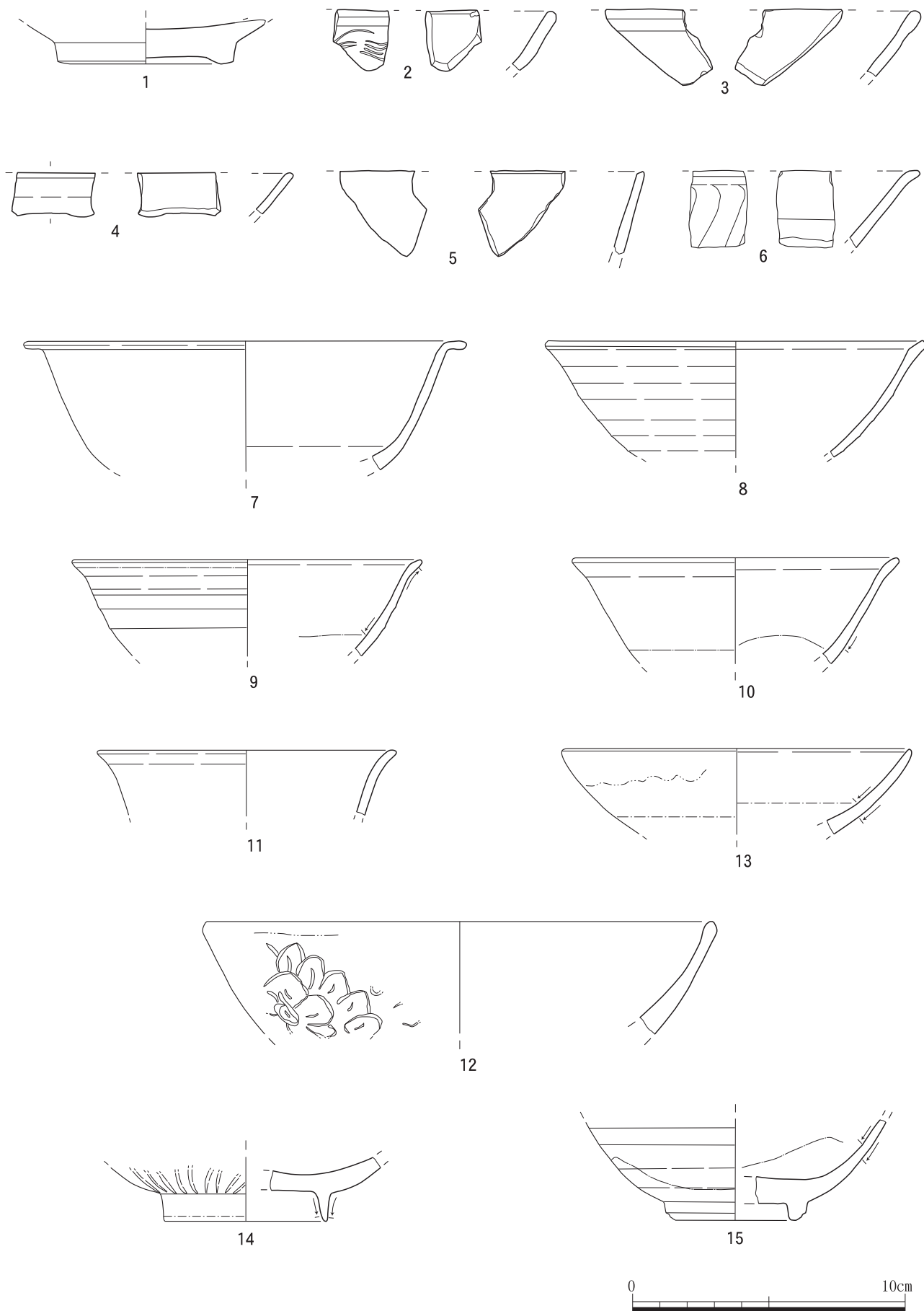
第図 図版	図番 号	器種	分類	口径 器高 底径	器形・文様・その他特徴	地区 小ケリット層 遺構 取上番号 台帳番号
第106 図・ 図版 85	25	皿	B	— — 6.4	小さいサイズの皿である。高台外端を面取りし、高台は狭まる。素地は淡灰白色で釉は淡灰白色。貫入はなし。	イ C11 III P24 台2065
	26			— — 6.0	小さいサイズの皿である。高台外端を面取りし、高台は尖る。素地は淡灰白色で釉は淡灰白色。貫入はなし。	ハ P12 III 台2180
	27	杯	—	7.0 — —	外反口縁の杯で口縁部は開く。薄手である。素地は白色微粒子で釉は白色。貫入はなし。	H19 S14 II 台1619
	28			4.8 — —	筒状を呈する深めの杯で薄手である。素地は白色微粒子で釉は白色。貫入はなし。	イ C12 III 取123 台1567
	29			— — 3.2	底部である。高台は外端を面取りし畳付は狭い。素地は白色微粒子で釉は白色。高台外面まで施釉し外底は露胎する。貫入はなし。	イ D11 III 取76 台1621
	30	壺	—	— — —	小型の壺である。外面胴部まで施釉し、胴下部と内面は露胎する。素地は淡灰白色で釉は淡灰白色。貫入はなし。	ハ S8III SD10 台2195

第50表 白磁出土量

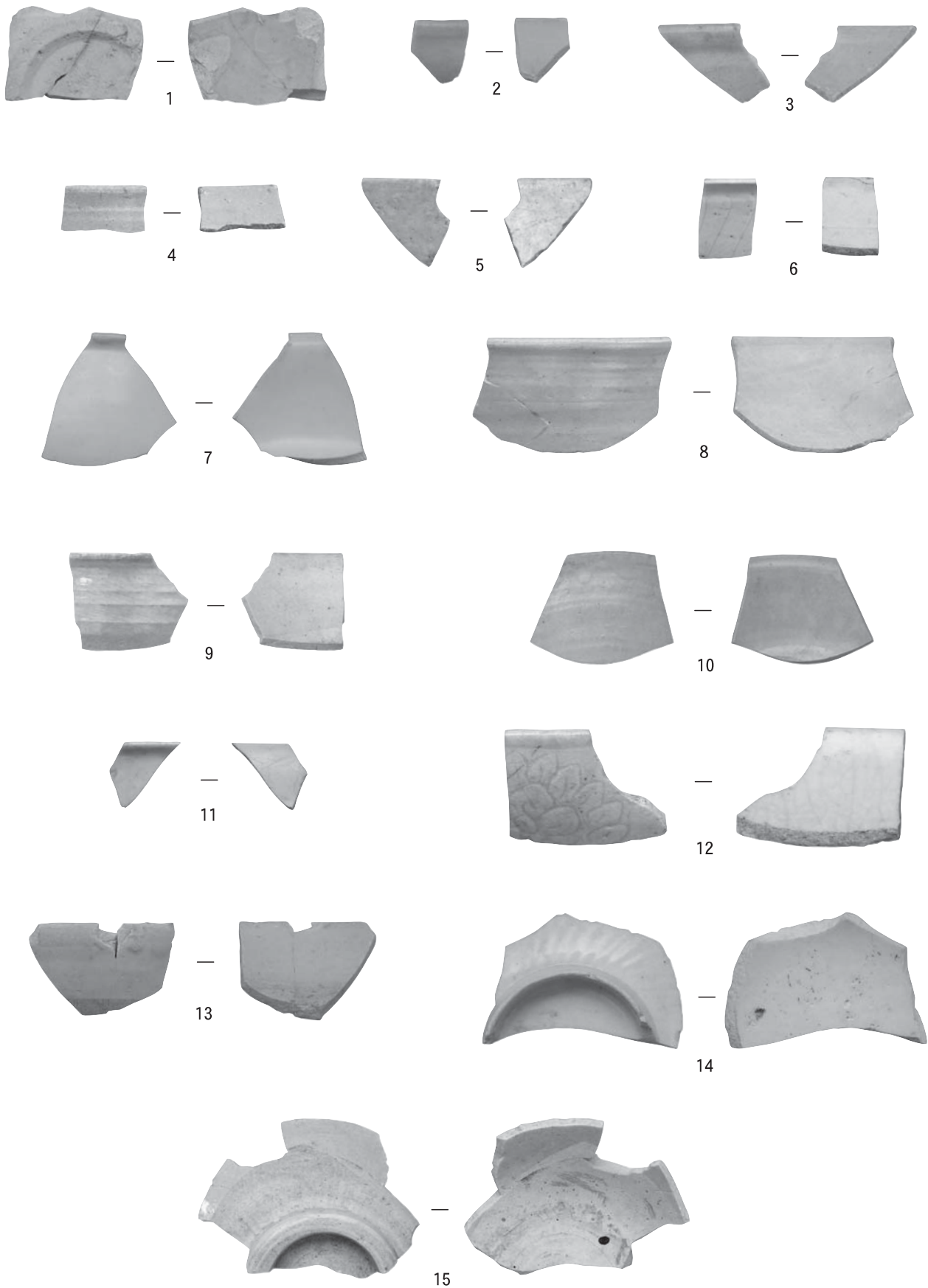
地区	層序	器種			碗			皿			杯		壺		不明		小計	地区 別計
		口	胴	底	口~底	口	胴	底	口	底	胴	底	胴	底				
H19	II			1						1							2	9
	III	3					2	1							1		7	
イ	II	1													1		2	37
	II 遺構	1	2														3	
	III	7	7	3			2		1	1				3	1	25		
	III 遺構	2	1	1								2				1	7	
ハ	II	2	1		1	2	1					2					9	29
	III	1	2	1	1	2	1	1				1			1		11	
	III 遺構	1		1	1	3		2					1				9	
ニ	II						1					1					2	6
	III			1													1	
	III 遺構	1			1												3	
不明	I			1													1	5
	II						2										2	
	III	1					1										2	
小計		20	13	9	4	15	1	8	2	1	4	1	4	4			86	
器種別計		42			28			3		5		8						



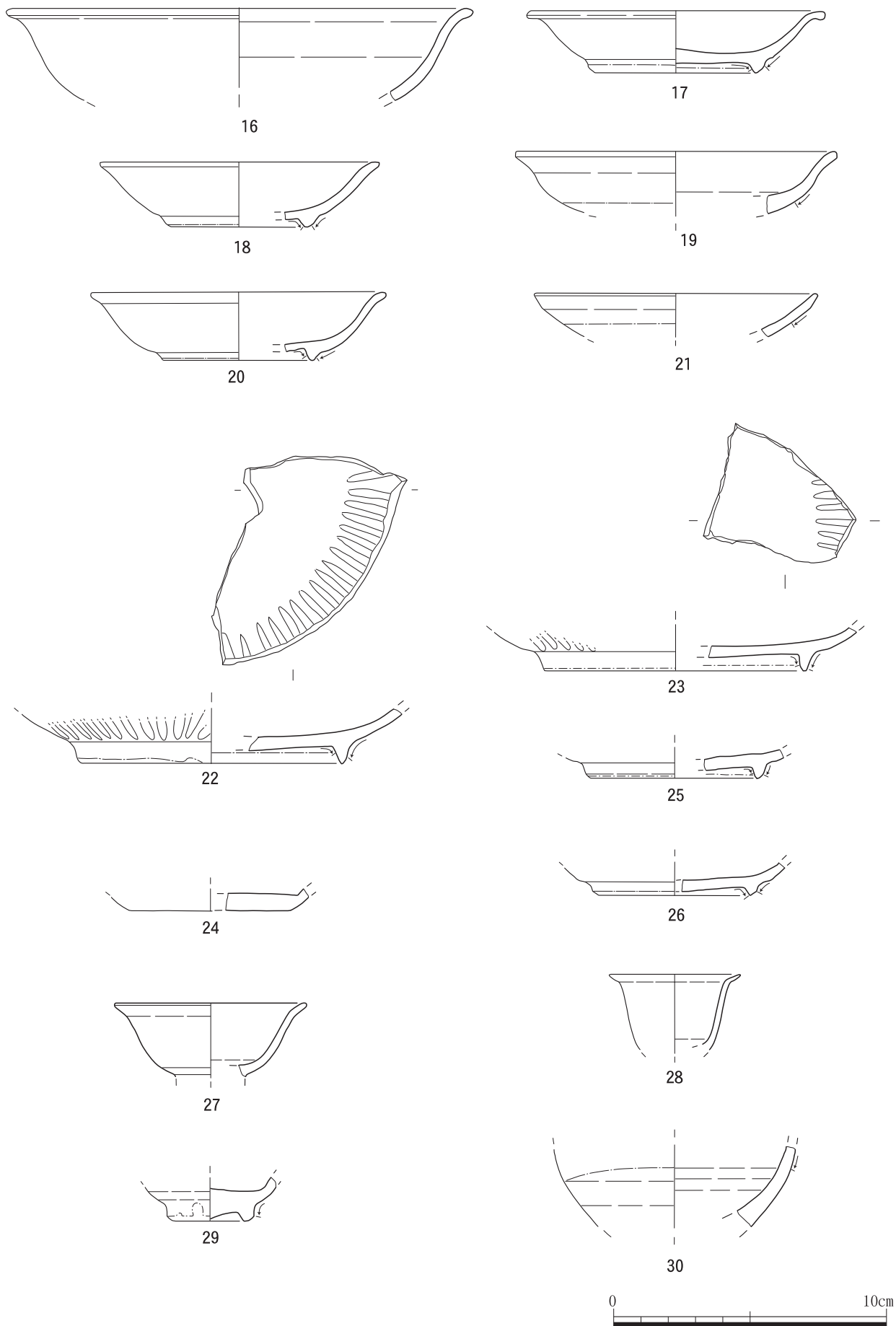
第104図 白磁平面分布



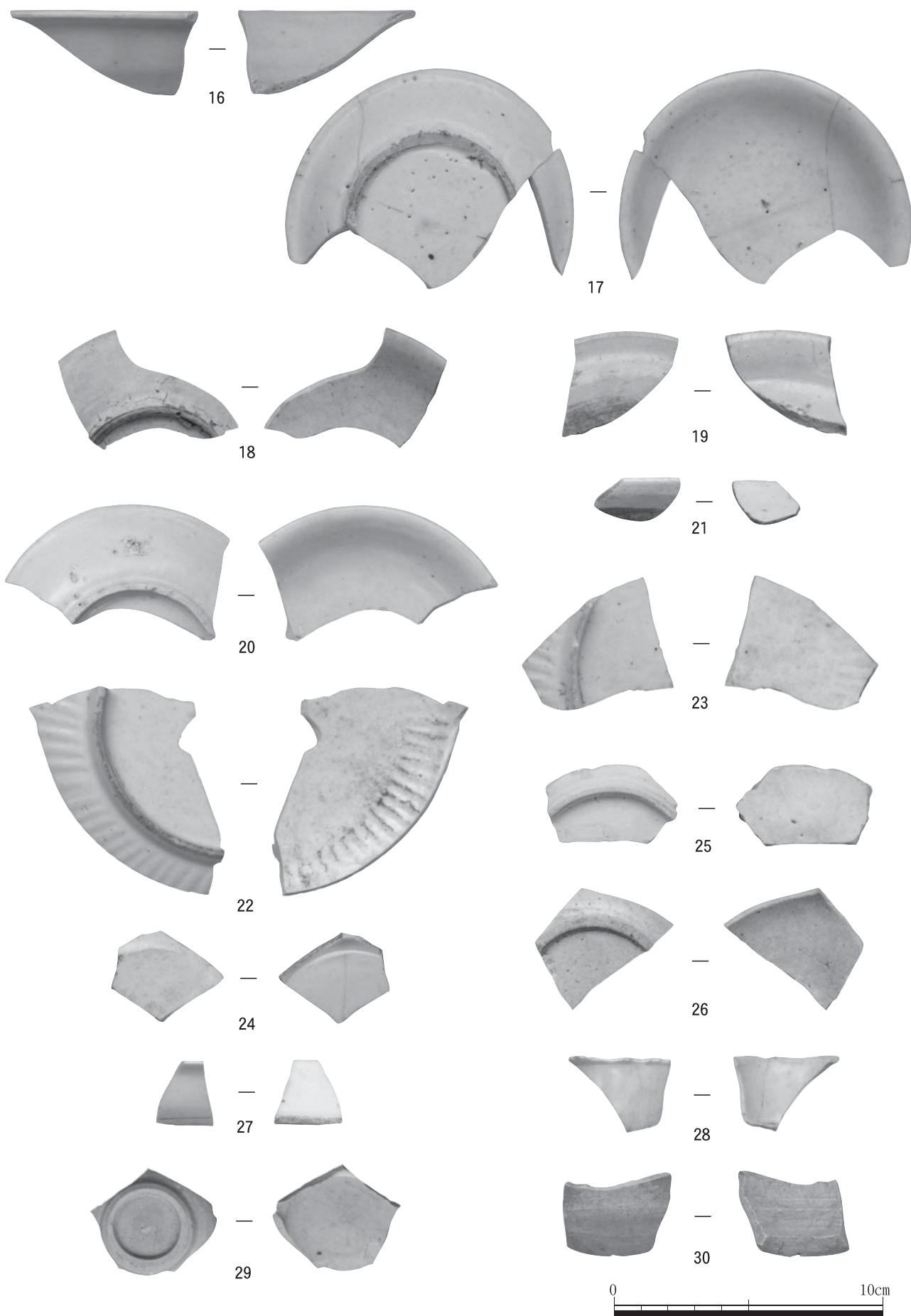
第105図 白磁 1



图版84 白磁 1



第106図 白磁2



图版85 白磁 2

(5) 染付

染付は総数230点出土している。得られた器種は碗、小碗、皿、瓶、杯、小杯、小瓶、鉢の8種類である。器種別では碗が177点と最も多く、次いで瓶18点、皿20点、小杯5点、鉢2点、小碗、杯、小瓶がそれぞれ1点となっている。出土状況を見てみると、層別ではⅢ層で154点と多く、調査区の中央部と南側に集中している。染付の分類は器種別に行い、それぞれで細分可能なものは行った。個々の詳細は第52表に記した。

A.碗

碗は器形より直口口縁碗、外反口縁碗の2種類をⅠ・Ⅱ類に分けた。また、細分可能なものは行った。個々の詳細は第52表の観察表に記した。

Ⅰ類：直口口縁碗

第108図1は口縁部内外面に界線、腰部内外面にも圏線が施される。見込みは目跡である。外面は腰下部まで施釉し外底は露胎する。高台は「ハ」の字状に開き、畳付内端が畳に付く。図2は外面口縁部下に2条の界線、胴部に草花文を施す。内面は口縁部下と見込みの縁側に界線を施す。図3は外面口縁部下に2本の界線を巡らす。胴部に人物文及び山水文、内面口縁部下と見込みの縁側に界線を巡らす。図4は外面口縁部下に界線を胴部には花文を施す。内面口縁部は界線を施す。図5は外面口縁部と下部に界線を巡らし、その間に唐草文を施す。内面口縁部に界線を巡らす。図6は外面口縁部下に2本の界線を巡らし、その下部に波濤文帯をさらに下部に2本の界線で囲う。胴部は芭蕉葉文、腰部と高台脇に界線を巡らす。内面は口縁部に界線、見込みに蓮花文を界線で囲う。図7は外面口縁部に界線、その下部に波濤文帯、腰部に芭蕉葉文を施す。図8の口縁部は口鑄を呈する。その下部に唐草文を施す。内面口縁部に界線を施す。図9外面は豹皮状文、内面口縁部下に界線を巡らす。図10は外面に花文を施す。図11は外面口縁部に雷文帯、胴部に唐草文を施す。内面口縁部とその下部に界線を巡らす。

Ⅱ類：外反口縁碗

図12は外面口縁下部に界線、胴部に宝相華唐草文、腰部に2本の界線を巡らす。内面は口縁部下に四方禪文を施す。

碗底部

碗底部は口縁部の器形が不明なため、施釉方法により分けることとした。

A種：全施釉（図13）。

図13は腰部で唐草文を施す。内面腰部に界線を巡らす。外面に把手貼付け痕と思われ、他の器種の可能性もある。

B種：高台の畳付又は外底が露胎となる（図14～18）。

図14は見込みに草花文と2本の界線と腰部に1本の界線を巡らす。外面は腰部に2本の界線を巡らし、胴部は唐草文。図15は見込みに1本の界線を巡らし、外面は腰部に1本、高台外面位2本の界線を巡らす。図16は見込みが窪む蓮子碗である。外面は芭蕉葉文、見込みは蓮華文と圏線を巡らす。図17は見込みに蓮華文を施す。図18は外面に唐草文、腰部と高台脇に界線を巡らす。見込みは2本の界線を巡らす。

C種：内外面腰部まで施釉する（図19～21）。

図19の外面は胴部に唐草文を施し、その下部に界線を巡らす。内面は腰部に界線と直下に溝が巡る。図20・21は外面腰部下に界線を巡らす。内面腰部下に界線と溝が巡る。

B.小碗

図22は直口口縁碗で底部は上げ底状を呈し、疊付は舌状を呈する。外面胴部に花文を施す。

C.皿

皿は器形より直口口縁皿と外反口縁皿の2種類をⅠ・Ⅱ類に分けた。また、細分可能なものについては細分を行った。

Ⅰ類：直口口縁皿

図23の底部は碁笥底を呈する。文様は、外面口縁部下と胴上部に界線を巡らしその間に豹皮状文を施す。胴下部は芭蕉葉文、その下部に2本の界線を巡らす。内面は口縁下部の1本、腰部に2本の界線を巡らす。見込みは草花文？を施す。図24の底部は碁笥底を呈する。外面は無文。内面は口縁部下に1本、腰部に2本の界線が巡る。見込みは草花文？が施される。図25の底部は碁笥底を呈しやや大きめの皿である。口縁部を欠損するが直口口縁の可能性があるのでここで扱った。外面胴部は草花文？その下部に2本の界線が巡る。内面は腰部に2本の界線が巡り、見込みに寿文を施す。

Ⅱ類：外反口縁皿

図26は底部の高台内削りは浅く、高台は方形状を呈する。疊付から外底は露胎である。高台外面には砂の付着が残る。文様は外面の口縁部と高台脇に界線が巡る。胴部にも文様が施されるが構図が不明である。内面は口縁部に1本、胴部に2本、腰部に1本の界線が巡る。胴部の界線上に文様を施すが構図は不明である。見込みは草花文を施す。図27の文様は口縁部に界線を巡らし、胴部は唐草文を施す。内面は口縁部と腰部に界線を巡らす。図28は底部である。高台内削りは浅い。疊付けは舌状を呈する。疊付は露胎である。文様は外面に草花文？腰下に2本、高台際に1本の界線が巡る。見込みは腰部に2本の界線が巡り、見込みは十字文を施す。図29の高台は舌状を呈する。疊付は露胎である。文様は外面胴部に唐草文と高台脇に2本の界線が巡る。内面は腰部に2本界線が巡り、見込みには十字文を施す。図30は大型の皿である。高台は三角形状を呈し、疊付は露胎する。文様は胴部に唐草文を施し、高台脇と高台外面に界線を巡らす。内面は胴部に唐草文？胴下部に1本、腰部に2本の界線を巡らす。見込みは唐草文と思われる。

D.杯

図31は外面胴部に如意頭文、高台脇に界線、高台外面に2本の界線を巡らす。見込みは如意頭文と2本の界線を巡らす。

E.小杯

小杯は器形より直口口縁をⅠ類、外反口縁をⅡ類、角杯をⅢ類の3種類に分けた。

Ⅰ類：直口口縁

図32は外面口縁部に界線、胴部に唐草文？を施す。内面は口縁部に界線を巡らす。図33口唇部を欠く。外面は胴部に唐草文？を施す。内面は口縁部と腰下部に界線を巡らす。

Ⅱ類：外反口縁

図34は口縁部に界線を巡らし、胴部に草花文？を施す。図35は本破片資料には文様が見られない。

Ⅲ類：角杯

図36は角杯を呈するが全体像は不明である。内面は口縁部に界線、見込みに文様を施すが構図は不明。

F.瓶

瓶は器形より2種類に分類した。

I類：仙蓋瓶と思われ、長い注口と把手、蓋が付くものと思われる。

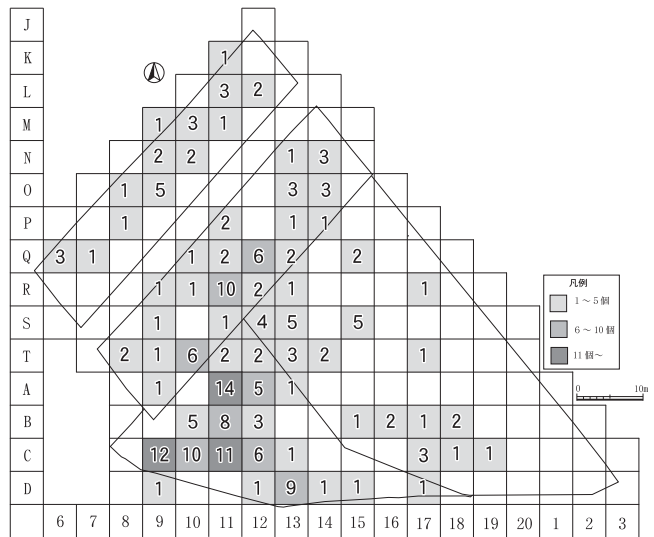
図37は胴部に面を持ち、そこに草花文の窓絵の構図が施される。他に草花文を施す。高台脇と高台外面に圈線を巡らす。内面にも釉が掛る。

II類：口縁部は外反し頸部は窄まり、胴部は丸味を帯びる。

図38は口唇部と口縁部下の内外面に界線を巡らす。頸部は草花文？が施される。図39は胴上部で頸部は窄まるようである。草花文を施す。内面に若干釉垂れが見られる。図40は胴上部に宝相華唐草文を施し、その下部に2本、間隔を開けて更に1本の界線を施す。胴部は牡丹唐草文？を施す。内面にも釉が掛る。図41は牡丹唐草文？が施される。内面にも釉が掛る。図42は高台外面に2本の界線が巡る。内面は露胎である。

G.小瓶

図43はベタ底で外底は露胎する。胴部に牡丹唐草文？が施される。



第107図 染付平面分布

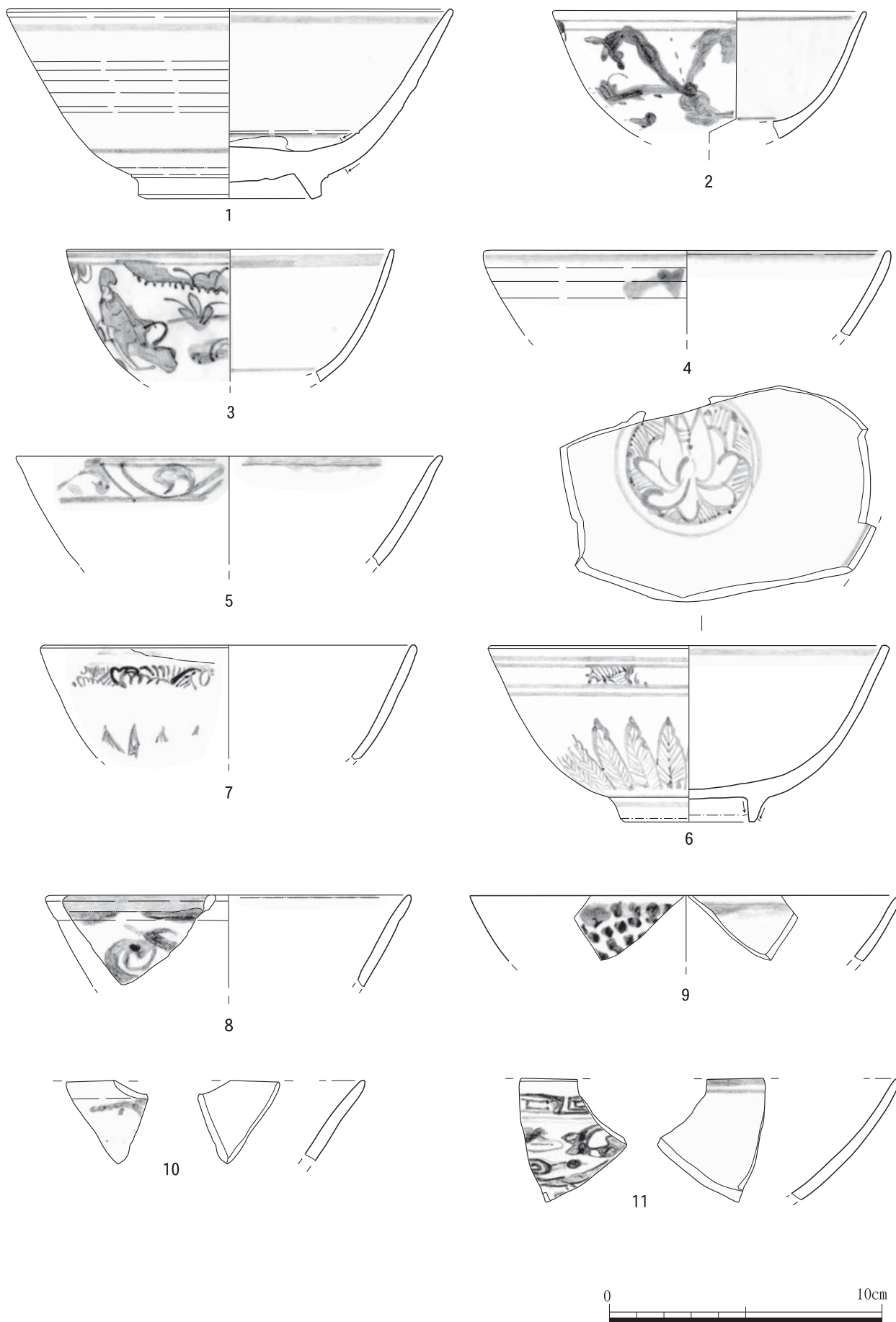
第51表 染付出土量

地区	層	器種	碗				小碗		皿			杯	小杯		瓶			小瓶		鉢		不明		小計	地区別計
			口~底	口	胴	底	口~底	口~底	口	胴	底	底	口~底	口	口	胴	底	底	口	胴	胴	底			
H19	II			1	2	2								1										6	34
		遺構			1	2																	1	3	
	III		9	6	5										1									22	
		遺構	2	1																				3	
イ	II		5	4	2									1										12	95
		遺構	1	1				1													1			4	
	III		24	13	6			1		1			1	1	5						1			53	
遺構		10	6	3		1	1					2	3										26		
ハ	II		6	7	4					1			1		1		1				1		22	54	
	III	1	7	3	2				1						1								15		
ニ	II		4	4	5				3			1	1				1						19	36	
	III	1	4	3	2			1	1														12		
不明	I		1		1																		2	11	
	II		2	3									1										6		
	III	遺構	1																				1		
	不明									1											1		2		
小計			2	83	55	37	1	3	8	1	8	1	2	3	1	15	2	1	1	1	3	2	230		
器種別計			177			1	20			1	5		18			1	2		5						

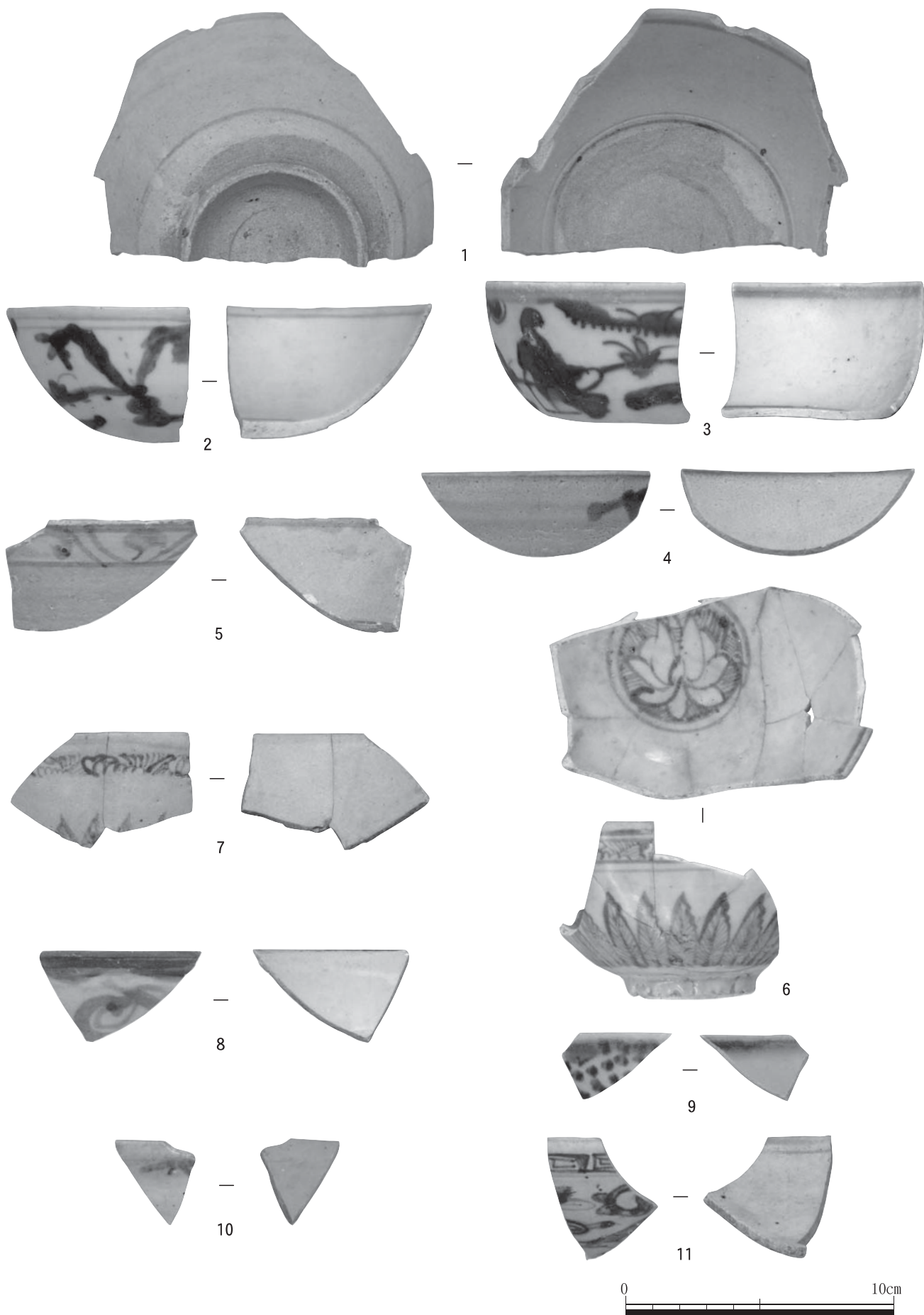
第52表-1 染付観察一覧

(法量単位：cm)

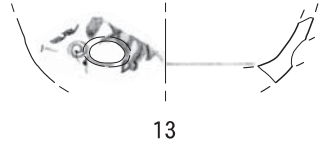
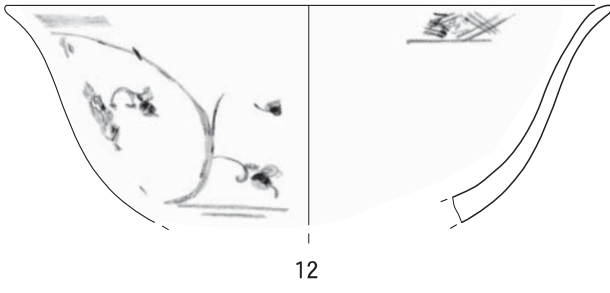
第図 図版	図 番号	器 種	分 類	口径器 高底径	素地	施釉・貫入	文様構成・呉須の発色等	地区 小グリッド 層 遺構 取上番号 台帳番号	
第108 図・ 図版 86	1	碗	I	16.4 8.0 6.8	灰茶色細粒子	淡灰色で内外面腰部まで施釉する。貫入は細かい。	内外面の口縁部と腰部に界線を巡らす。呉須は薄い。	ニ M9 III SP1 台2265	
	2			11.5 -	白色微粒子	淡青白色。貫入はなし。	外面口縁部に2本の界線を巡らし胴部に草花文、内面口縁部と腰部に界線を巡らす。呉須の発色は良い。	ハ R9 III 台2130	
	3			12.0 -	白色微粒子	淡青白色。貫入はなし。	外面は口縁部下に2本の界線、胴部に人物文及び山水文。内面は口縁部下と腰部に界線を巡らす。呉須は部分的に黒ずむ。	ハ R11 III SP28 台2158	
	4			14.9 -	灰茶色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	外面は口縁部下に界線、胴部に花文。内面口縁部下に界線を巡らす。呉須はやや黒ずむ。	イ B11 III 取298 台1610	
	5			15.4 -	淡灰色微粒子	淡灰色。貫入は細かい。	口縁部直下と胴上部に界線を巡らしその間に唐草文。内面口縁部に界線を巡らす。呉須は淡黒色である。	イ C11 III P22 台2040	
	6			14.8 6.5 5.0	白色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	外面は口縁部下に2本の界線を巡らし、その下部に波濤文帯を、更に2本の界線で囲う。胴部に芭蕉葉文。腰部下と高台脇に界線を巡らす。内面は口縁部に界線、見込みは蓮花文と界線を施す。	ハ P11 III 台2149	
	7			13.6 -	白色微粒子	淡青白色。貫入はなし。	口縁部は波濤文、胴部に芭蕉文を施す。呉須は淡黒色である。	H19 T14 III 台2354	
	8			13.2 -	白色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	口縁部は口鏑、胴部は唐草文を施す。呉須の発色は薄い。	H19 B18 III 取69 台2357	
	9			15.8 -	白色微粒子	淡灰緑色。貫入は粗い。	口縁部外面は豹皮状文を施す。呉須の発色は良い。	ハ R11 III 台2097	
	10			- -	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	口縁部下に花文？を施す。呉須は薄い。	H19 B17 II 台2267	
	11			- -	白色微粒子	淡青白色。貫入はなし。	口縁部に雷文帯、胴部に唐草文を施す。内面は口縁部下に2本の界線を巡らす。呉須は黒色である。	H19 T13 III 台1750	
第109 図・ 図版 87	12	碗	II	16.0 -	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入は粗い。	外面口縁部の界線、胴部に宝相華唐草文、腰部に2本の界線を巡らす。内面口縁部に四方樽文。呉須の発色は良い。	H19 B18 III P8 台4276	
	13			A	- -	白色微粒子	白色。貫入は粗い。	外面に唐草文？。内面腰部に界線を巡らす。呉須の発色は良い。外面に把手貼付け痕か？	ハ Q12 II 台2204
	14			B	- 7.0	白色細粒子	淡灰白色。貫入は粗い。	外面は唐草文？、腰部に2本の界線を巡らす。見込みは草花文？、腰部に3本の界線を巡らす。呉須の発色は薄く部分的に黒ずむ。	H19 C18 II SK02 台2343
	15				- 6.4	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	外面は腰部に1本、高台外面に2本の界線を巡らす。内面腰部に1本の界線を巡らす。呉須は薄い。	イ A11 III 取355 台1608
	16				- 5.6	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	蓮子碗と思われる。外面は芭蕉葉文。見込みは蓮華文と界線が施される。呉須は黒色味が強い。	H19 C10 III 取32 台1634
	17				- 4.8	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	見込みは蓮華文？。呉須は薄い。	H19 S12 III 取242 台2343
	18				- 5.0	淡灰白色微粒子	白色。貫入は粗い。	外面胴部に唐草文？腰部と高台脇に界線を巡らす。見込みは2本の界線を巡らす。	ハ R9 III 台2130+2152 R10 III 台2141 R11 II 台2106
	19				- -	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	外面は唐草文？。内面腰部は界線が巡る。呉須はやや黒ずむ。	イ A11 III P8 台2071
	20				- 6.4	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	外面腰部に鉋削り痕と界線が巡る。内面腰部に界線と溝が巡る。呉須は薄い。	イ C11 III P20 台2048
21	- -	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	内外面腰部に界線が巡る。呉須は薄い。	H19 D18 III 台2416				
第110 図・ 図版 88	22	小碗	I	7.0 3.7 3.0	淡灰茶色微粒子	淡灰青色。貫入はなし。	外面に花文を施す。呉須の発色は良い。	ハ T10 III SP10 台2235	
	23	皿		10.4 2.4 2.6	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	外面口縁下と胴部上位に界線を巡らし、その間に豹皮状文？、胴部に芭蕉葉文その下部に2本の界線を巡らす。内面は口縁部下に1本、腰部に2本の界線を巡らし、見込みは草花文と思われる。呉須の発色は良い。	ハ O13 III SP30 台2295	
	24			10.0 2.7 3.2	淡灰色微粒子	淡灰白色。貫入はなし。	内面口縁部に1本、腰部に2本の界線を巡らす。呉須はやや黒ずむ。	ハ O8 III SP1 台2272 SK01 台2273	



第108図 染付1

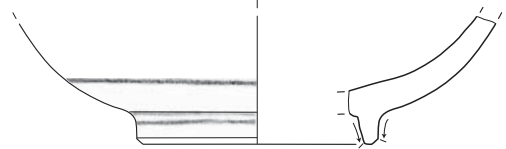
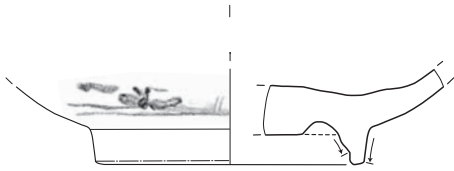
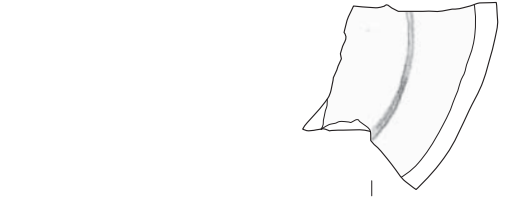


图版86 染付1



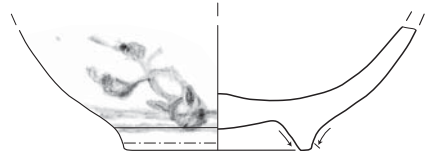
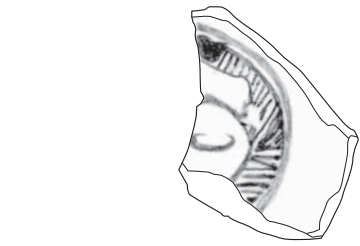
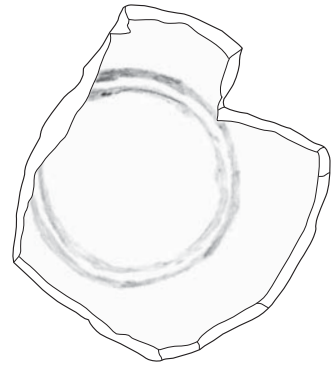
12

13



14

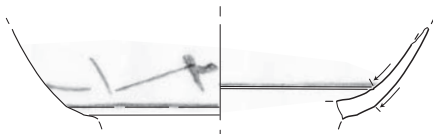
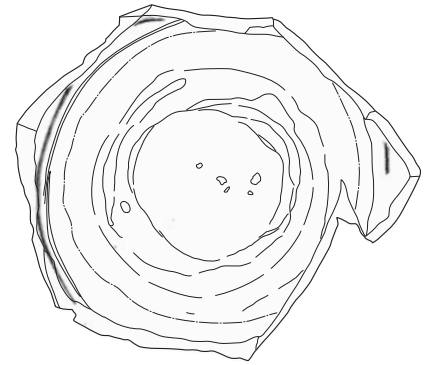
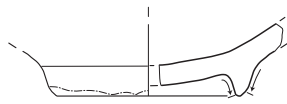
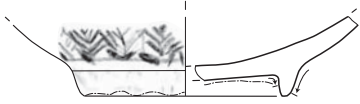
15



16

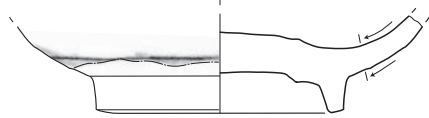
17

18

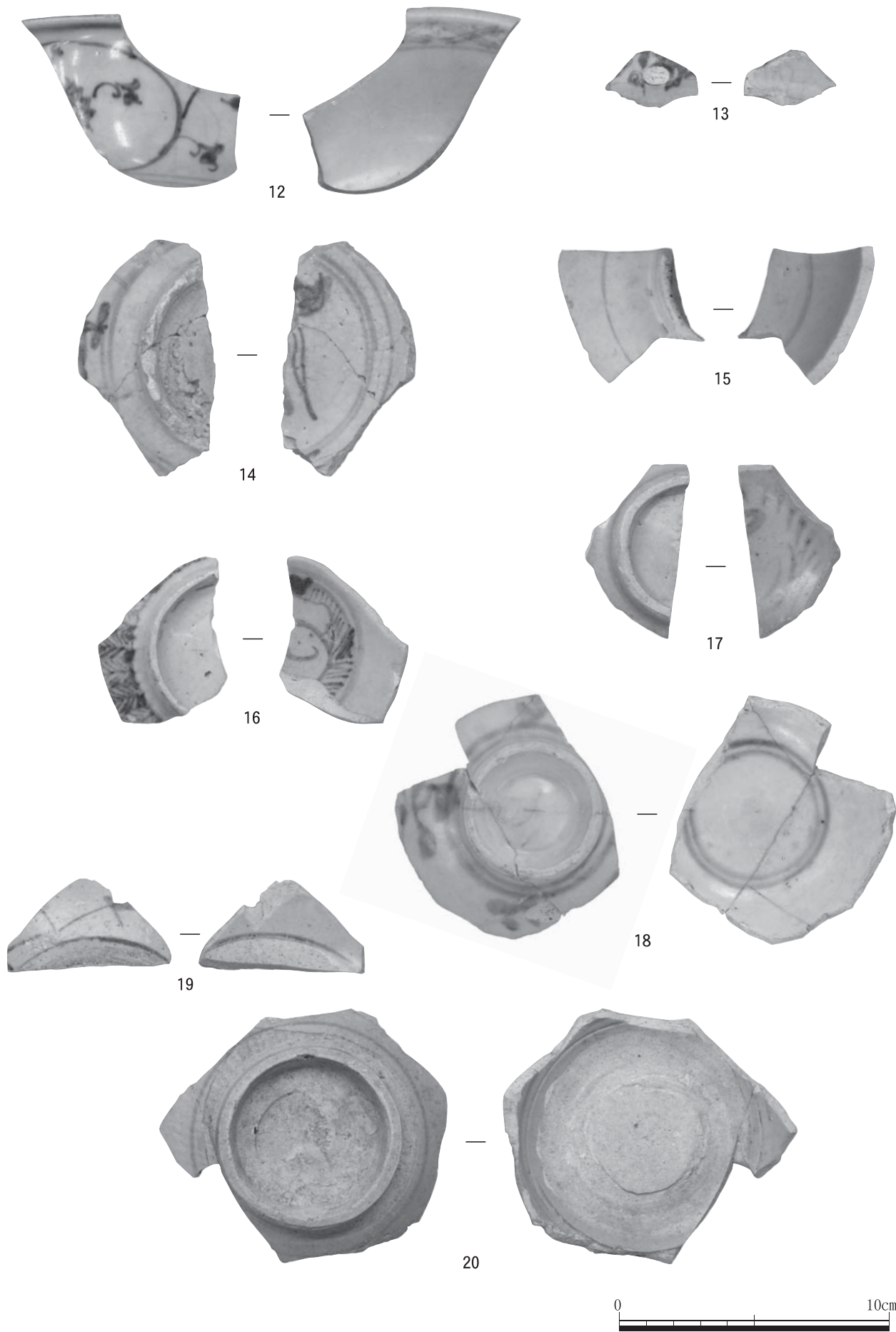


19

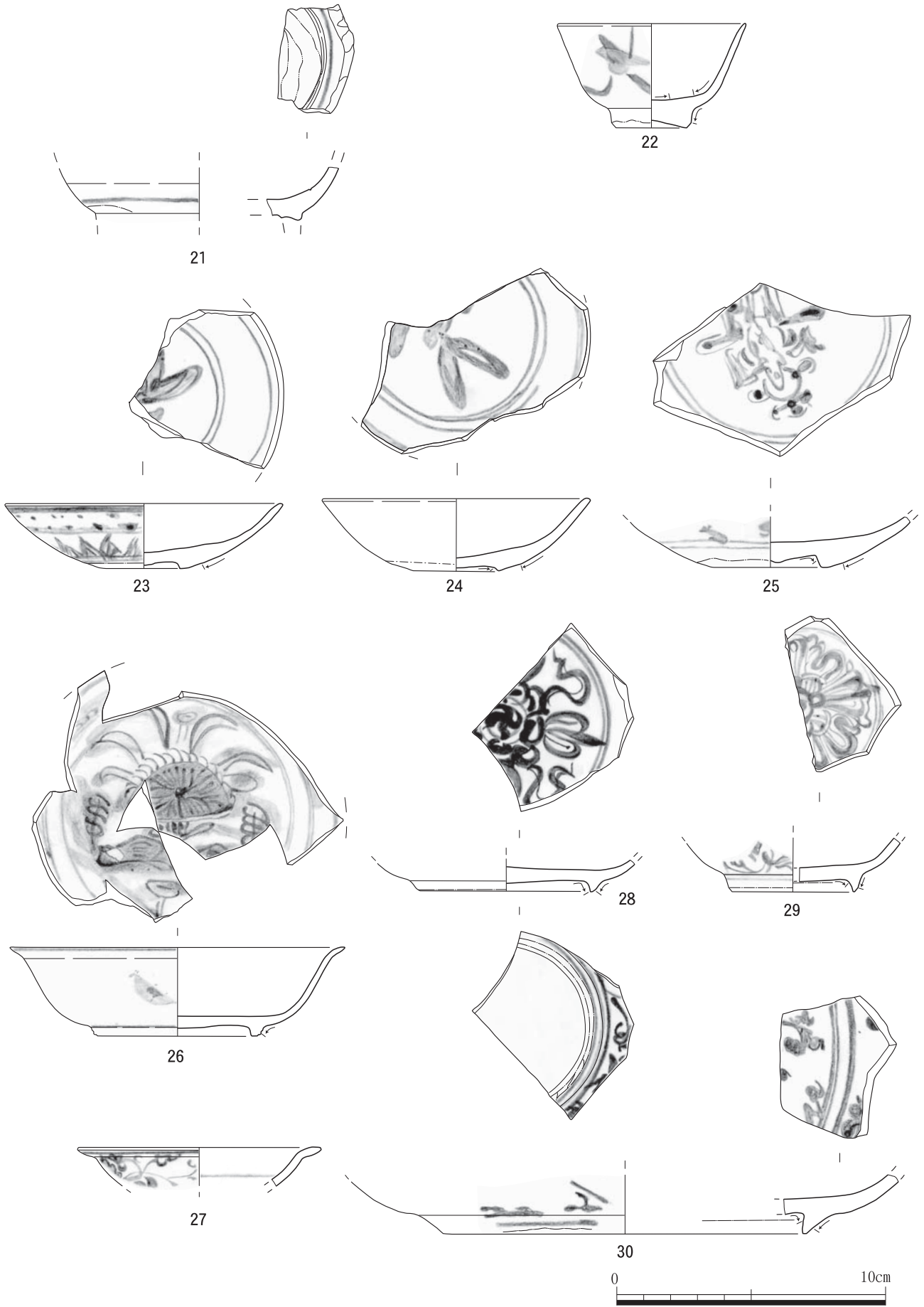
20



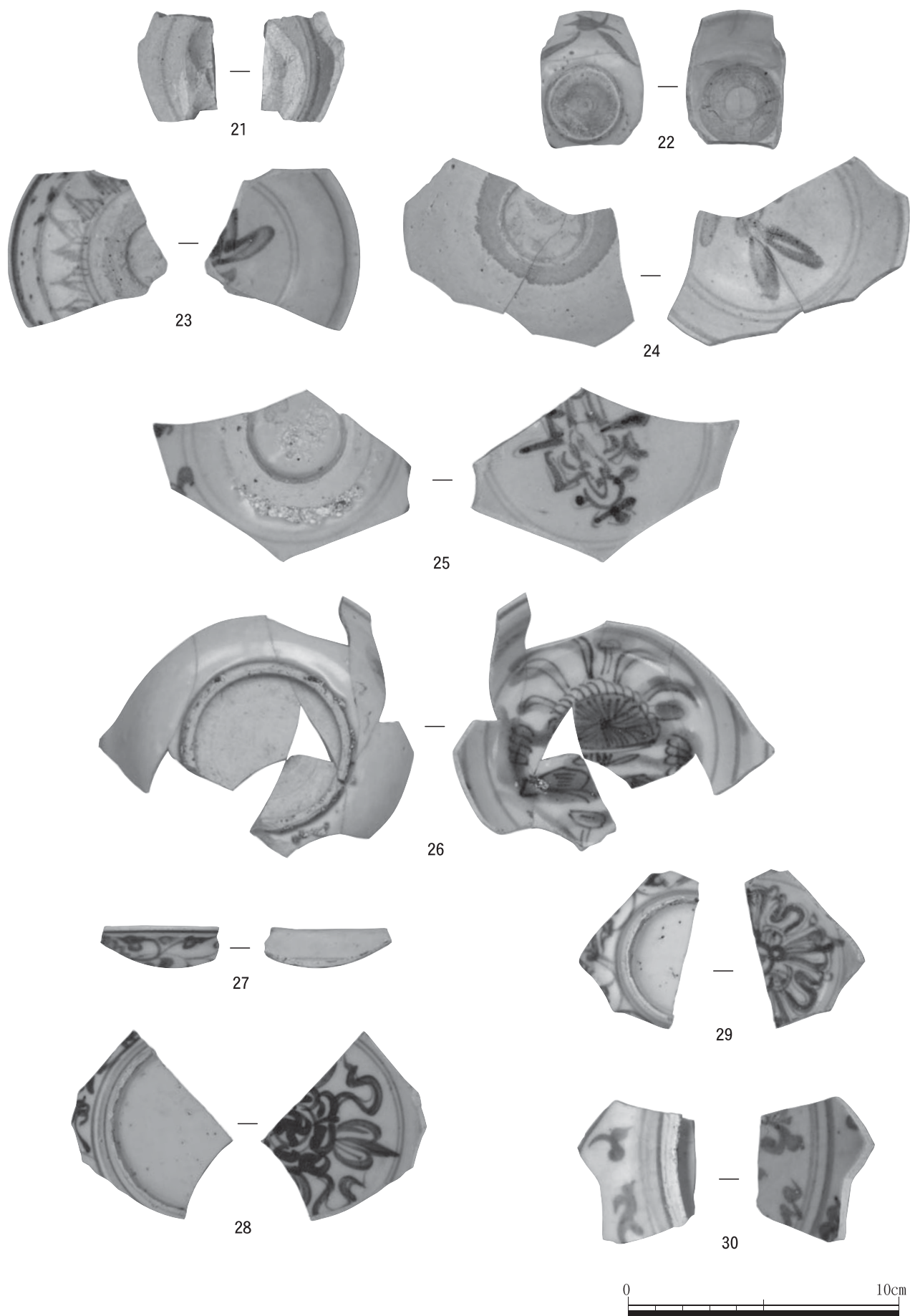
第109図 染付2



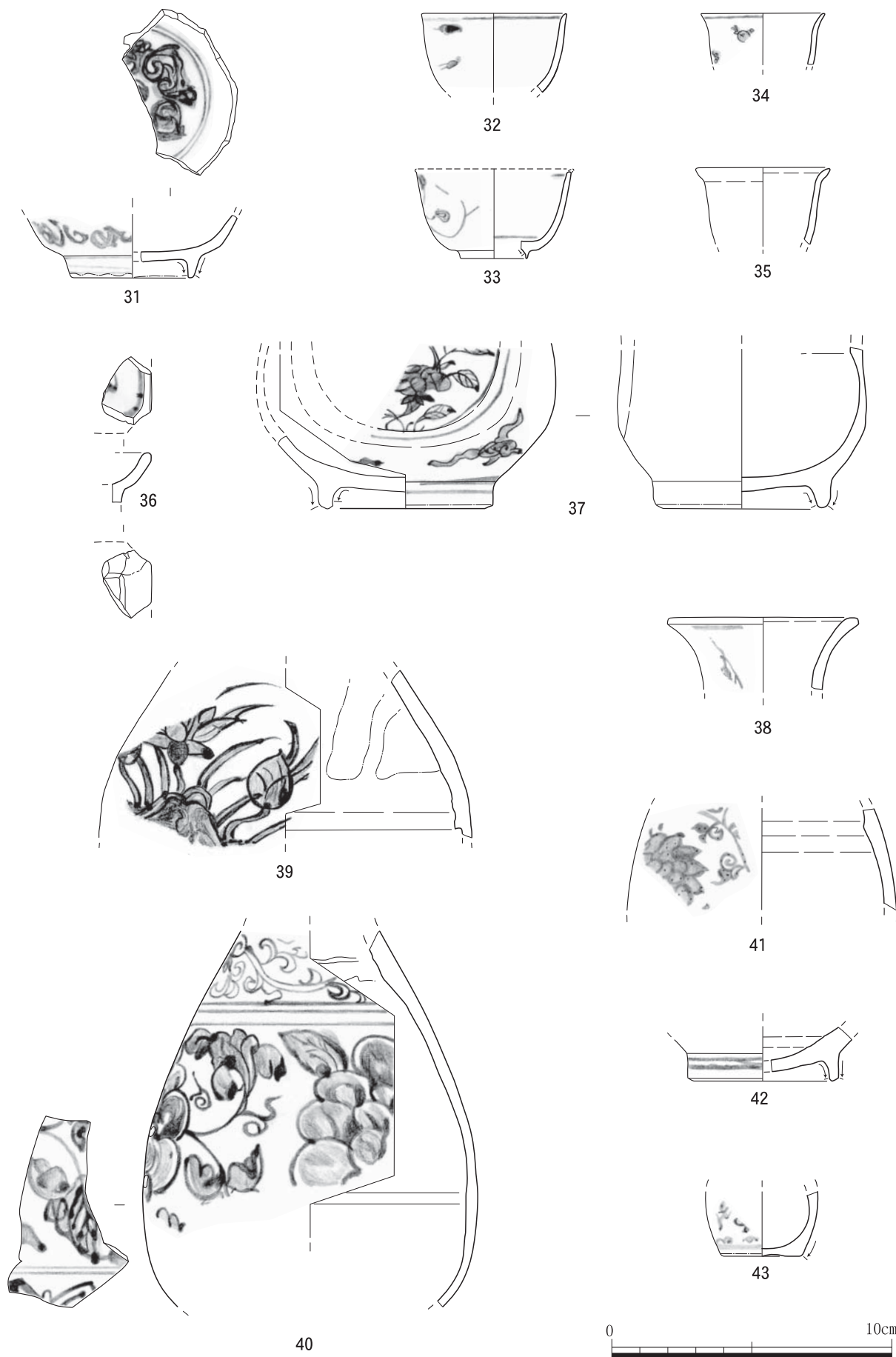
图版87 染付2



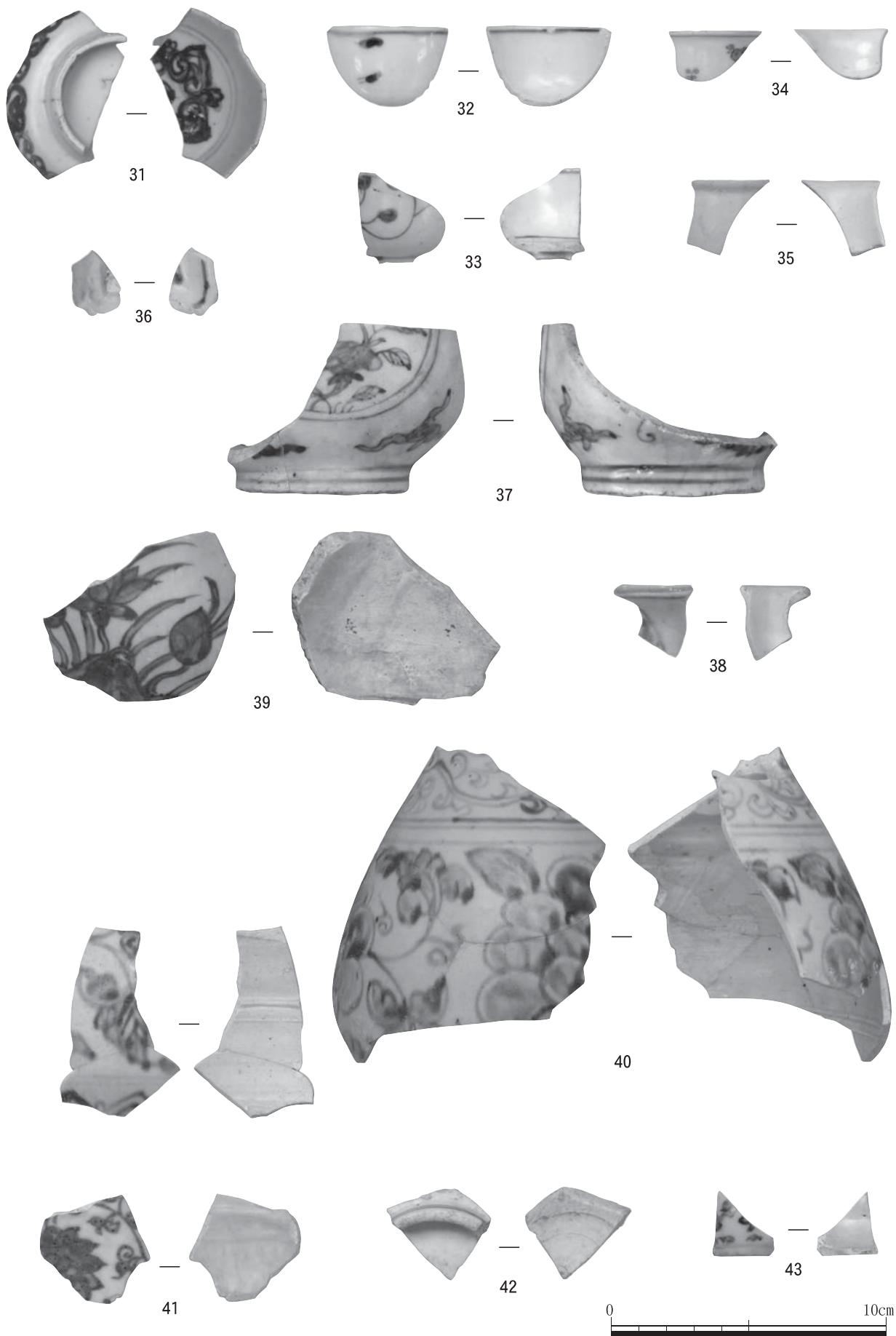
第110図 染付3



图版88 染付3



第111図 染付4



图版89 染付4

第52表-2 染付観察一覧

(法量単位：cm)

第図 図版	図 番号	器 種	分 類	口径器 高底径	素地	施釉・貫入	文様構成・呉須の発色等	地区 小グリッド 層 遺構 取上番号 台帳番号	
第110 図・ 図版 88	25	皿	I	- - 3.6	淡灰色微粒子	淡灰白色。 貫入はなし。	外面胴部は草花文？腰部に2本の界線を巡らす。内面腰部に2本の界線を巡らし見込みは寿文を施す。呉須は部分的に黒ずむ。	ニ N9 III 台2408	
	26			12.4 3.3 6.0	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面は口縁部と高台脇に界線が巡る。内面は口縁部に界線、その下部に花文？腰部に界線、見込みは草花文が施される。呉須は発色が良い。部分的に黒ずむ。	イ C12 III P34 台2032+2033 P6 台2041	
	27		9.0 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面口縁部下に界線を巡らし、胴部は唐草文を施す。呉須の発色は良い。	ニ O9 III SX01 台2278		
	28		- - 6.6	淡灰白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面胴部は唐草文、高台脇に2本、高台外面に1本の界線を施す。見込み2本の界線が巡り、十字花文を施す。呉須はやや黒ずむ。	ニ N10 III SP28 台2340		
	29		- - 4.8	淡灰色微粒子	淡青白色。 貫入はなし。	外面は唐草文、高台脇と高台外面に界線を巡らす。見込みは2本の界線が巡り、十字花文を施す。呉須の発色は良い	ニ 09 III 台2400		
	30		- - 13.4	白色微粒子	白色。 貫入は粗い。	外面胴部は唐草文、高台脇と高台外面に界線を巡らす。内面は唐草文？。見込みは3本の界線が巡り、唐草文？を施す。呉須の発色は良い。	イ C11 III 取191 台1604		
第111 図・ 図版 89	31	杯	I	- - 4.4	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面胴部は如意頭文を施し、高台脇に1本、高台外面位2本の界線が巡る。見込みは2本の界線が巡り、如意頭文を施す。呉須はやや黒ずむ。	ニ Q7 III 台2417	
	32	小杯		5.2 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面口縁部下に界線が巡り、胴部に花文？を施す。内面は口縁部下に界線が巡る。呉須の発色は良い。	イ C9 III P21 台2063	
	33			5.6 3.2 2.4	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面に唐草文？を施し、高台脇に界線を巡らす。内面は口縁部下と腰下部に界線を巡らす。呉須の発色は良い。	イ T13 III 台1750	
	34	II		4.4 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面は口縁部下に界線を巡らし、胴部に草花文？を施す。呉須は発色が良い。	イ C9 III P7 台2068 イ C11 III 取283 台1040	
	35			4.4 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	内面腰部下に界線が施される。呉須は発色が良い。	H19 C17 II 台2363	
	36	III		- -	淡灰色微粒子	白色。 貫入はなし。	内面口縁部下と見込みに界線が施される。呉須の発色は良い。	ニ L11 II 台2392	
	37	瓶		I	- - 6.2	淡灰色微粒子	白色。 貫入は粗い。	外面は草花文の窓絵の構図で、周囲にも草花文が施される。高台脇と高台外面に界線が巡る。呉須の発色は良い。	ハ 重機掘削 II 台2101 ハ P11 III 台2160
	38				6.6 -	白色微粒子	白色。 貫入はなし。	口唇部と口縁部内外下に界線を巡らす。頸部には草花文？が施される。呉須はやや薄い。	イ B10 III 取53 台1620
	39			- -	淡灰色微粒子	白色。 貫入はなし。	外面は草花文を施す。呉須はやや黒ずむ。	不 不 III 台1765	
	40			II	- -	淡灰色微粒子	白色。 貫入はなし。	胴上部は宝相華唐草文、その下部に2本の界線を巡らし、更に下部に1本の界線を巡らし、胴部に牡丹唐草文を施す。呉須はやや薄く部分的に黒ずむ。	ハ Q12 III SK04 台2251 ハ Q13 III P02 台2247
41	- -		白色微粒子		白色。 貫入はなし。	胴部は牡丹唐草文？を施す。呉須はやや黒ずむ。	ハ 重機掘削 II 台2101		
42	- - 5.4		白色微粒子		白色。 貫入はなし。	高台外面に2本の界線を巡らす。呉須の発色は良い。	H19 S13 III 台2348		
43	小瓶		- - 2.9	淡灰色微粒子	白色。 貫入はなし。	胴部は牡丹唐草文？が施される。その下部に界線が巡る。	ハ N13 II 台2150		

第三章 第4節

(6) 褐釉陶器

褐釉陶器は中国産348点、タイ産212点の総数560点得られた。器種は壺・壺又は甕・瓶・播鉢などで、中国産、タイ産共に壺が最も多く出土している。産地別に紹介する。

A. 中国産

中国産褐釉陶器は348点出土した。得られた器種は壺181点、瓶3点、急須・鉢・播鉢各1点、壺又は甕5点、器種不明が156点となっている。出土状況を見てみると、第Ⅲ層241点、第Ⅱ層84点、第Ⅰ層13点となっている。調査区では中央部から南西側に集中している。以下、器種ごとに分類概念を述べ、個々の詳細は第55表に記すこととする。

1. 壺

壺は口縁部の形状や器形からⅠ類からⅥ類の6種類に分けた。胴部は丸味を帯びるもの(図15・17・18)と胴上部がいかり肩又は最大径を成し底部へ移行するものがある(図14・19・20)。

底部は反りながら立ち上がるもの(図22・24・25・27)と直線的に立ち上がるもの(図23)、ややくびれて直線的に立ち上がるもの(図26・28)、高台を成すもの(図21)がある。

Ⅰ類：口縁部は不定型な隅丸形状を呈し、口唇部は水平に仕上げる(図1～3)。

図1～3の口縁部外端は突出し、図1・3は内面もわずかに張り出す。頸部は内傾し肩部はいかり肩となる。大型の壺である。

Ⅱ類：口縁部は方形状を呈し、口唇部は水平である。口唇部内外端を摘み出す(図4)。

口縁部断面は方形状を呈し、頸部は内傾すると思われる。

Ⅲ類：口縁部断面が三角形を呈し、口唇部は平坦となる。肩部は丸味を帯びるものと撫で肩がある(図5～7)。

図5は口縁部から胴部へと丸味を帯びる。図6の口縁部下はくびれ、胴上部で胴部の最大径となると思われる。図7の頸部は内傾し、胴上部で肩が張るとされる。

Ⅳ類：口縁部は内彎し、口唇部は丸味を帯びる(図8)。

無頸で器壁が薄いことから小型の壺と思われる。

Ⅴ類：口縁部は外反する(図9)

口縁部は外反し、頸部は内傾する。胴部は上部で僅かに張り丸みを帯びる。

Ⅵ類：口縁部は肥厚する(図10～13・図16)。

図10は玉縁状に肥厚し、内端部は微弱に張り出す。頸部は内傾し、胴部は丸味を帯びる。

図11は口縁部外端部を張り出し肥厚する。図12の口縁部外端部は微弱に張り出す。頸部は内傾し、胴上部はいかり肩を成す。図13・16の口縁部外端は摘み出し突出する。図16は図上復元を行った。頸部は内傾し、胴上部で最大径を呈する。底部は上げ底状を呈し高台を成す。

2. 急須

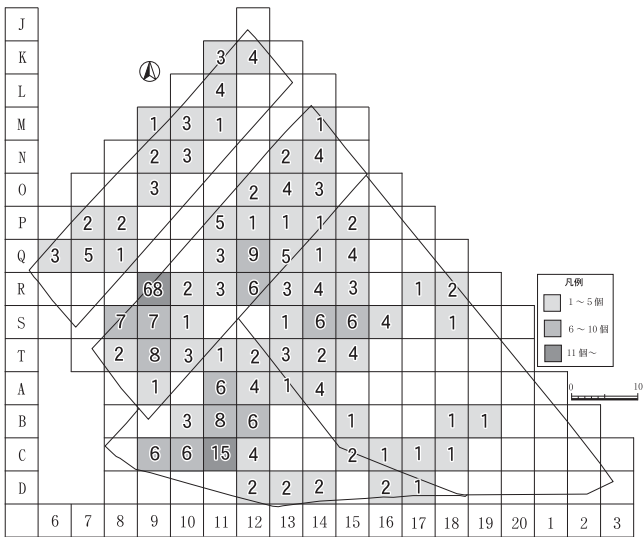
図29は急須の底部で撮み状に貼付けたものである。

3. 不明

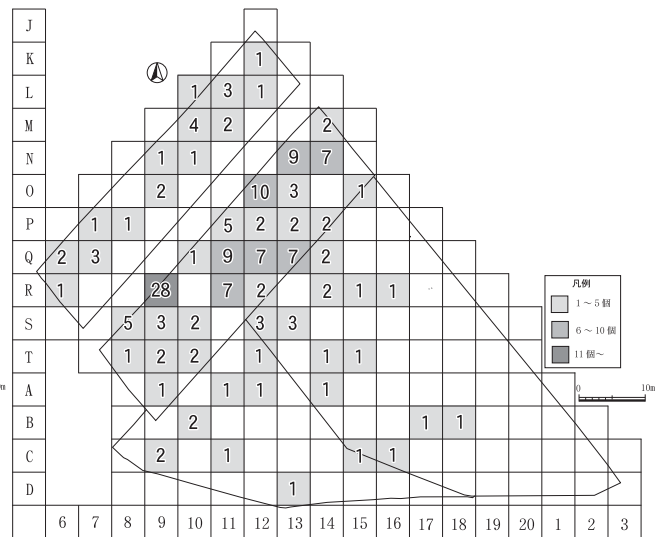
図30は口縁部で逆「L」字状を呈し、口縁部内面には蓋受と思われる突起を有する。

第53表 褐釉陶器（中国産）出土量

地区	層	分類	壺				壺or甕	播鉢	鉢	瓶	急須	不明			合計	地区別計	
			口~底	口	頸	胴	底	胴	胴	胴	底	口	頸	胴			底
H19	II			1		4								2	7	58	
		遺構												1	1		
	III		1	1	27	2	1						7	1	40		
		遺構	1		6										7		
IV													1	1			
	表採		1		1									2			
イ	II			2		5								3	10		
		遺構				1		1						3	5		
	III		1	1	27	5	2			1			3	1	41		
		遺構				13	1	1		2			4		21		
ハ	I		1		1								11	13			
	II				1	9	2		1			1	19	4	37		
	III		1	5	1	19	3				1	1	60	3	94		
		遺構		2		5							8	1	16		
IV				1								2		3			
ニ	II				1	11				1			8	2	23		
		遺構				1									1		
	III					6	1						4		11		
		遺構		2		6						1	2		11		
IV					1							2	1	4			
合計			1	17	7	142	14	5	1	1	3	1	3	2	138	13	348
器種別計			181				5	1	1	3	1	156					



第112図 褐釉陶器（中国産）平面分布



第113図 褐釉陶器（タイ産）平面分布

B. タイ産

タイ産褐釉陶器は212点出土している。得られた器種は壺159点、瓶6点、播鉢1点、壺又は甕5点、器種不明が41点となっている。出土状況を見てみると第Ⅲ層で128点、次いで第Ⅱ層67点、第Ⅰ層9点となっている。調査区では中央部から南西側に集中している。以下、器種別に述べ、個々の詳細は第55表の観察表に記した。

1. 壺

壺は、口縁部は玉縁状又は隅丸方形状で肥厚し外反する。図31は口縁部が長楕円状で肥厚する。釉の風化が顕著で素地が露胎する。図32は、口縁部は直下で若干窄まり肥厚する。釉の風化が見られる。図33は、口縁部が隅丸方形状に肥厚するもので、口縁部外下は横位に削り調整が行われ浅い抉りが残る。口縁部から外面にかけて釉は施される。図34は、撫で肩を成す胴部片で、器壁は薄い。外面に釉が施される。内外面ともに轆轤痕が残る。図36は胴部片で下部と思われる。外面に釉垂れが見られる。図37は、肩部片で肩が張る。横耳を有していたようで貼付け痕が残る。頸部下に小さな山形に突出が巡る。図38は、大型壺の胴下部で、釉垂れが見られる。図39～42は底部片である。図39は、内面の器面調整は丁寧である。外面は下部に2本の沈線が巡る。図40は、底部は薄く胴部へはやや直線的に立ち上がる。外面底部近くまで施釉する。図41は、高台状の底部で逆「ハ」の字状に開く。図42は、器壁が厚い。輪積みの痕跡が残るが、器面調整は丁寧に仕上げる。底部から胴部への立ち上がりは緩やかに開く。

2. 瓶

図35は瓶の胴部で頸部にかけて窄まる。

3. 播鉢

図43は内面に15条の櫛目が見られる。外面は轆轤調整痕が明瞭に残る。

第54表 褐釉陶器（タイ産）出土量

地区	層	分類		壺				壺or甕	播鉢	瓶	不明			合計	地区別計
		口	頸	胴	底	胴	胴	胴	頸	胴	底				
H19	I			1										1	22
	II		1	2										3	
	III			9	1	2				2				14	
		遺構	1		2								1	4	
イ	II			1										1	10
	III			2	1	3								6	
	遺構			1	1				1					3	
ハ	I		1		5	1							1	8	133
	II		2	1	23	3				1	5	3	38		
	III		1	1	38	3			3	1	15	2	64		
	遺構				10	4			1		3		18		
	IV				4						1		5		
ニ	II				20	1						2	1	24	47
	遺構				1									1	
	III				8	1					2	1	12		
	遺構				4	2		1						7	
	IV				2				1				3		
合計			5	3	133	18	5	1	6	2	30	9		212	
器種別計			159				5	1	6	41					

第55表-1 褐釉陶器(中国産・タイ産)観察一覧

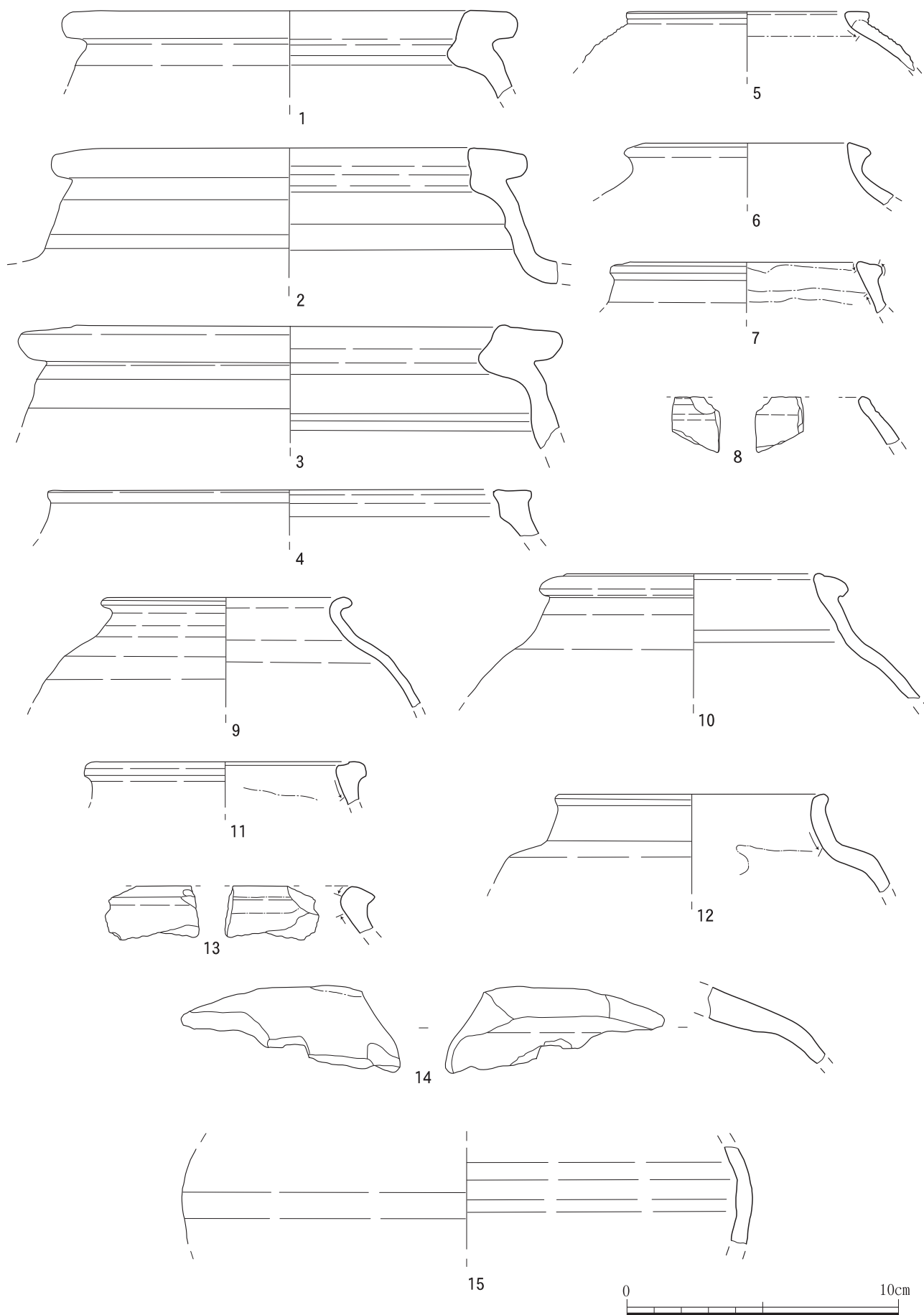
(法量単位: cm)

第図 図版	図 番号	産 地	器 種	分 類	口 径 器 高 底 径	素 地	釉 色	其 他 特 徴	地 区 小 グ リ ッ ド 層 遺 構 取 上 番 号 台 帳 番 号
第 114 図 ・ 図 版 90	1	中 国 産	壺	I	16.0 -	灰色細粒子	褐色釉が施されているが釉の風化が見られる。	口縁部の断面は不定型な隅丸方形を呈する。口縁部内面下は僅かに突出する。	H19 S14 II 台2438
	2				17.6 -	濃灰色細粒子 細かい赤色粒を含む	黒褐色施される。	口縁部の断面は不定型な隅丸方形を呈する。頸部から肩部への屈曲からいかり肩を呈する。内面に轆轤痕が残る。	ハ R9 III 台2130
	3				20.0 -	灰紫色細粒子 細かい白色粒を含む	淡茶緑色釉であるが色があせている。	口縁部の断面は不定型な隅丸方形を呈する。口縁部内面下は僅かに突出する。	ハ R9 III 台2130
	4			II	17.8 -	灰色細粒子 細かい白色粒を含む	茶褐色釉を施す。口唇部は露胎する。	口縁部断面は方形を呈し、口唇部内外端を摘み出す。	ハ 不明 I 台2102
	5			III	9.0 -	灰色細粒子 白色粒子を含む	外面に緑褐色釉が施されるが釉が剥がれごつごつする。	口縁部は断面が三角形を呈し、口唇部が平坦となる。器壁が薄い。	ハ R11 III SP28 台2158
	6				8.8 -	灰色細粒子	黒色釉が施される。	口縁部は断面が三角形を呈し、口唇部が平坦となる。器壁が薄い。	イ B11 III 台1725
	7			10.0 -	茶紫色細粒子 白・黒色粒子を含む	淡茶緑色釉であるが色があせている。	口縁部は断面が三角形を呈し、口唇部が平坦となる。器壁が薄い。頸部から肩部で屈曲しいかり肩が想定される。	ハ N14 II 台2128	
	8			IV	- -	灰色細粒子	外面に茶褐色釉が薄く施される。	口縁部が内彎する。口縁部下に2本沈線が施される。	イ C11 II 台1717
	9			V	9.2 -	淡橙色細粒子	茶褐色釉が薄く施される。	口縁部が外反し、肩部はなで肩を呈する。胴部は丸味を帯びると思われる。	H19 R13 III P13 台4242 P27 台4243
	10			VI	11.2 -	淡灰黒色細粒子 黒色・白色粒を含む	外面に淡灰黒色釉が薄く施される。	口縁部は玉縁状に肥厚する。口唇部内端は微弱に突出する。なで肩で胴部へ移行する	ニ Q7 III SP6 台2369
	11				9.9 -	淡灰黒色細粒子 白色粒を含む	淡褐色釉が薄く施される。	口縁部外端は突出する。口唇部に凹みが巡る。	イ C9 II 台1708
	12				10.0 -	淡橙色細粒子	淡茶色釉を薄く施す。	口縁部外端が微弱に突出する。いかり肩を呈する。	ニ K11 III SP2. 3. 4 台2263
	13				- -	灰色細粒子 白色粒を含む	淡褐色釉が薄く施される。	口縁部外端は摘み出す。	H19 S18 III 台1795
	14			胴部	- -	淡灰色細粒子 白色粒を含む	淡褐色釉を薄く施す。内面は露胎する。	肩部片で口縁部に向かって器壁が厚くなる。	ニ 不明 II 台2333
	15				- -	淡灰色細粒子 白・黒色粒を含む	外面に褐色釉を薄く施す。内面は露胎する。	胴部片で丸みを帯びる。	イ B11 III 取215 台1643
第 115 図 ・ 図 版 91	16			VI	19.9 45.8 18.6	内外面は淡橙色 中心部は灰黒色で 白・赤色粒を含む	灰褐色釉を底部近くまで施釉する。	口縁部の外端部は摘み出す。頸部は短く肩部は張り胴上部で最大径を成す。肩部に耳の貼付け部が残る。底部は上げ底で高台状を呈する。器表面はアバタ状が見られる。	ハ R9 S8 R11 I II III 台2152 2130. 2131. 2102. 2100. 1509
	17			胴部	- -	灰色細粒子	外面に薄い茶褐色釉を施す。	内外面に轆轤痕が残る。	イ C11 III 台1705
	18				- -	灰色細粒子	内外面に淡緑褐色釉を施す。	丸味を帯びる胴部である。	イ B11 III P15 台2008
	19				- -	淡灰茶色細粒子 白色粒を含む	外面に一部に褐色釉がみられる。	内外面共に明瞭に轆轤痕が残る。胴下部とおもわれ、外面は灰色、内面は茶色である。胴長の壺である。	イ T13 III 取276 台1639
	20				- -	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に一部に褐色釉がみられる。	内外面共に轆轤痕が残る。胴長のの壺で器壁もやや厚い。	イ T11 III SD09 台2085
	21			底部	- -	淡灰色細粒子 白色粒を含む	内外面共に露胎である。	高台内削りは浅く、底部及び腰部の器壁は薄い。	H19 B15 III 台3132
	22				5.6 11.8	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に淡褐色釉を施す。	底面よりわずかに反りながら立ち上がる胴長の壺である。内面に轆轤痕が残る。	H19 Q14 III 台2406

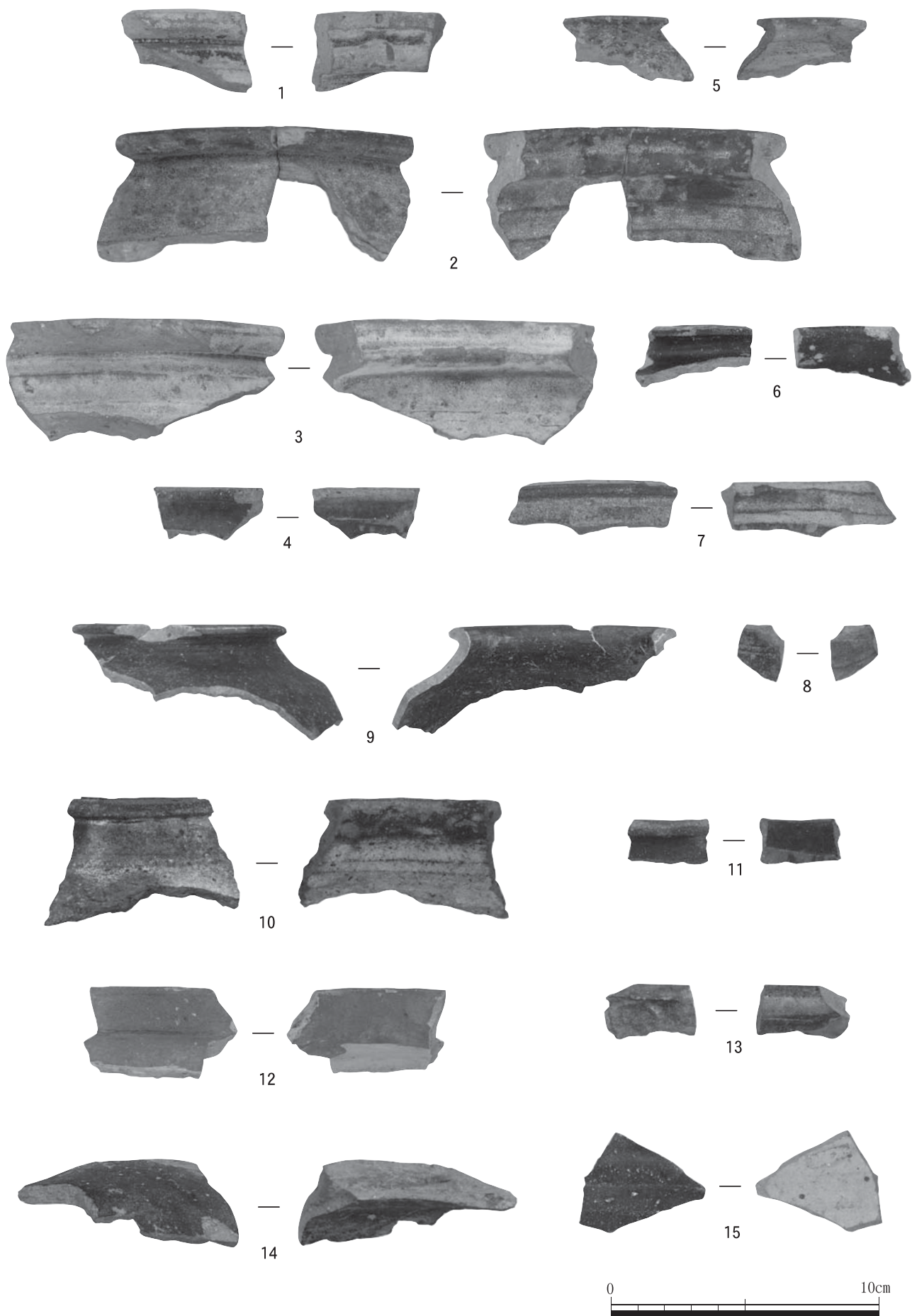
第55表-2 褐釉陶器(中国産・タイ産)観察一覧

(法量単位: cm)

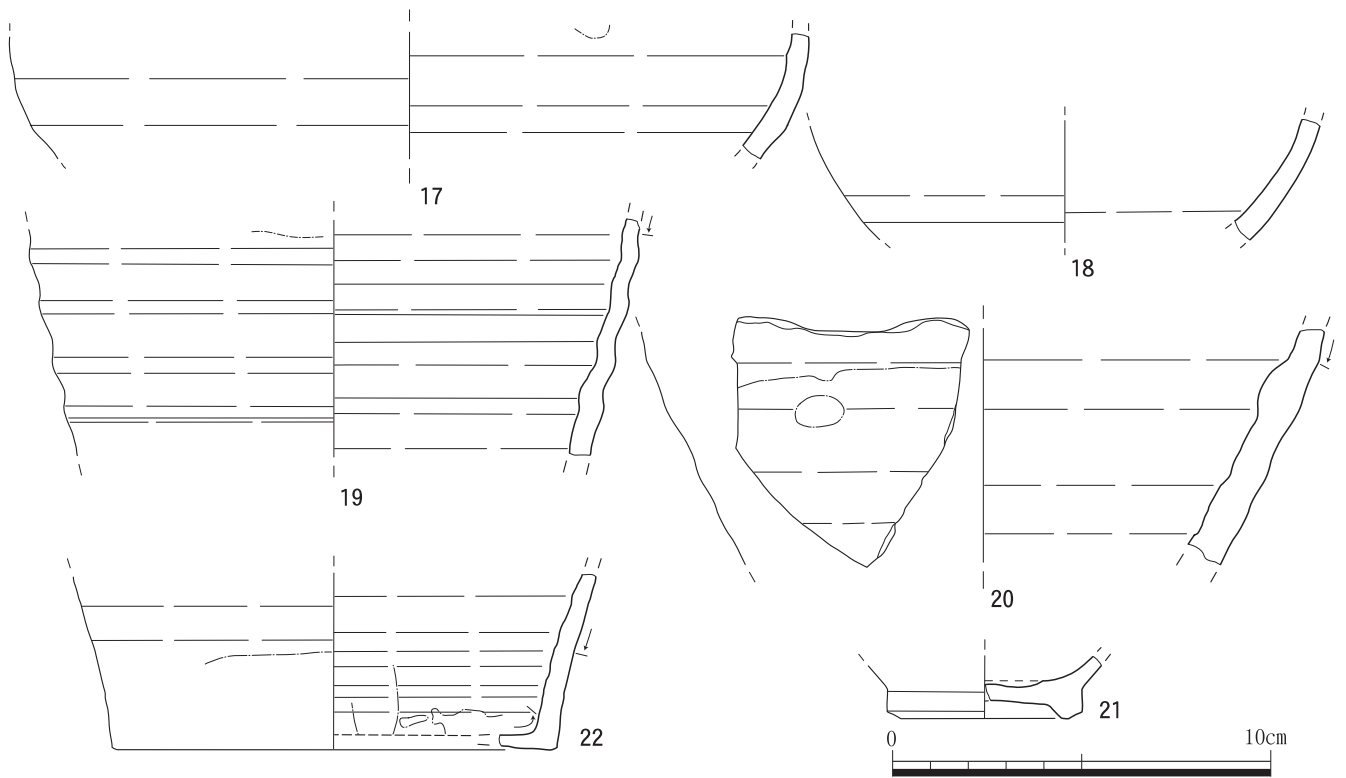
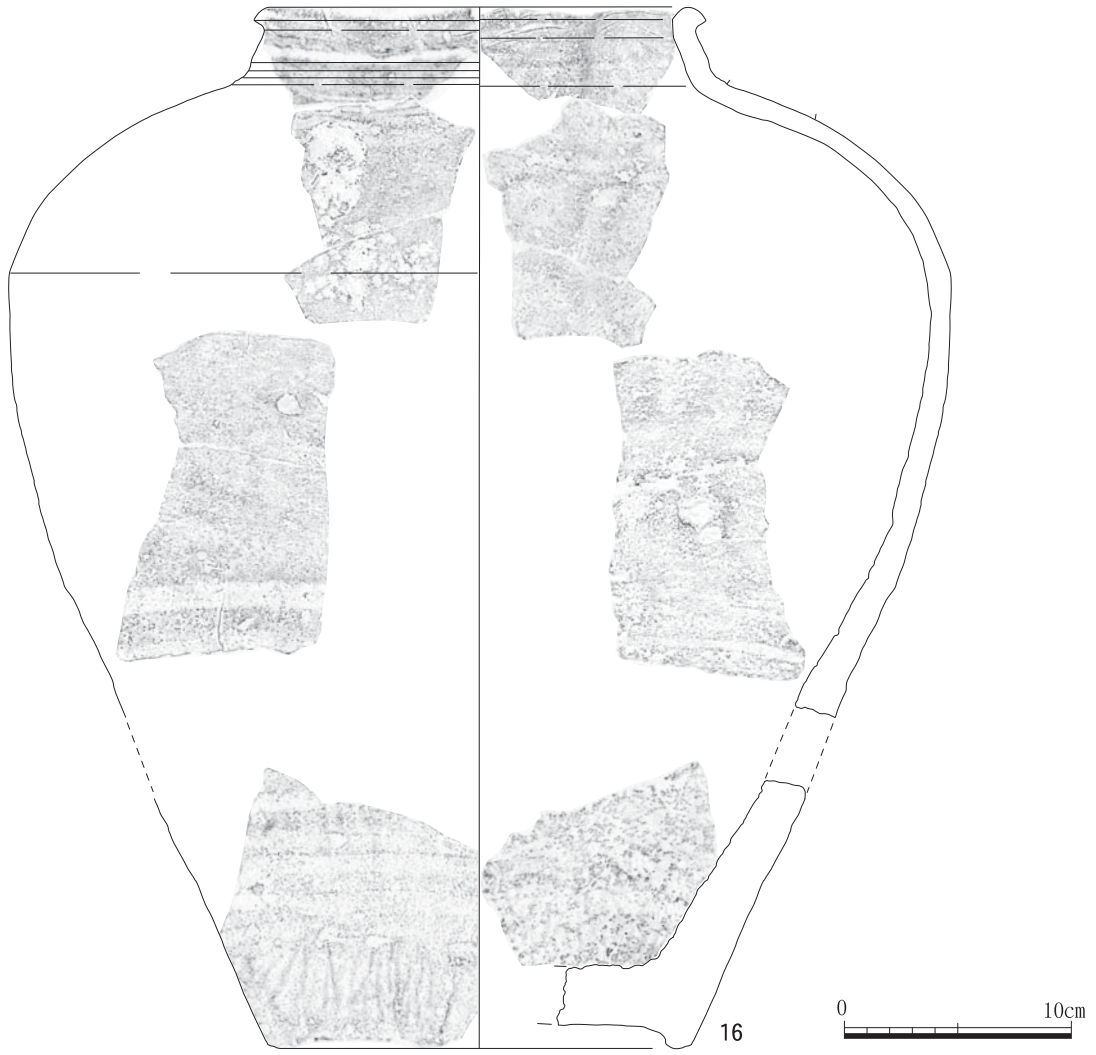
第図 図版	図 番号	産地	器種	分類	口径 器高 底径	素地	釉色	その他特徴	地区 小グリッド ^o 層 遺構 取上番号 台帳番号		
第 116 図 ・ 図 版	23	中 国 産	壺	底 部	- 8.4	淡灰色細粒子 白色粒を含む	内外面共に露胎する。	底面よりの立ち上がりは逆「ハ」の字状に開く。	イ 不明 III 台2031		
	24				- 15.0	淡灰色細粒子 白色粒を含む	内外面共に褐色釉を施す。	底面からの立ち上がりは微弱にくびれて立ち上がる。外底面中央部は盛り上がるようである。	ハ S9 II 台2103		
	25				- 10.6	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に黒褐色釉が施される。	底面からの立ち上がりは反りながら立ち上がる。	ハ R9 III 台2130		
	26				- 15.0	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に褐色釉を施す。	底部からの立ち上がりは微弱にくびれて立ち上がる。	ハ R9 III 台2131		
	27				- 10.0	淡灰色細粒子 白・黒・赤色粒を含む	内面及び外面腰部に淡緑褐色釉を施す。	底面の器壁は厚い。底面より大きく開きながら立ちあがる。	イ B12 III 取193 台1595		
	28				- 12.6	淡灰色細粒子 白色粒を含む	外面に淡褐色釉を施す。	底部より一端直に立ち、そこから反りながら立ち上がる。外底面は盛り上がる。	ハ R9 III 台2131		
	29			急須	底部	- -	灰色細粒子	外面は露胎、内面は淡茶色釉?	器壁が薄い。円錐状の粘土を外底面に貼付け先端を平面に仕上げる。	ハ N14 III 台2126	
	30			不明	口縁部	11.6 -	淡灰紫色細粒子 白・赤色粒を含む	肩部より褐色釉が施される。	口縁部は逆「L」字状を呈し、口縁部内面に蓋受けと思われる突出部が見られる。	ニ P7 III SP24 台2327	
	31			タ イ 産	壺	口縁部	12.6 -	灰紫色細粒子	淡茶褐色の釉が全面に施されているが釉の風化が見られる。	頸部より口縁部が外反する際肥厚する。	H19 R15 III P43 台4245
	32						13.6 -	濃紫色細粒子 細かい白色粒を含む	茶黒色が前面に施されるが釉の風化が見られる。	口縁部内面に小幅な窪みが見られる。	ハ P12 III 台2175
33	16.5 -	灰紫色細粒子 黒色、赤色細粒子を含む	茶褐色で頸部下は白色釉は見られる文様の一部か?				器壁が厚く大型の壺と思われる。	ハ 不明 I 台2102			
34	胴部	- -	灰紫色細粒子		外面に茶黒色釉が施される。	器壁が薄く中型から小型の壺と思われる。	H19 P15 III P6 台4239				
35	瓶	胴部	- -		灰色細粒子 黒色粒を含む	外面に黒褐色釉が施される。	釉がやや厚く施釉する。	イ C9 III P25 台2025			
36	イ 産	壺	胴部		- -	灰紫色細粒子 黒色、赤色細粒子を含む	外面に赤褐色の釉が薄く施される。	器壁が厚く大型の壺と思われる。	イ C9 III P25 台2022		
37					- -	淡茶色細粒子 黒色、赤色、白色の細粒子を含む	外面に緑黒色釉が施される。	器壁が厚く重量感のある壺と思われる。	ハ R9 III 台2151		
38				- -	茶紫色細粒子 赤色粒を含む	外面に淡緑色釉が施される。	器壁はやや厚い。	ハ R9 III 台2217			
39		底 部	11	茶紫色細粒子 赤色粒を含む	外面に褐色釉が薄く施される。	底部からの立ち上がりは直線的である	イ A11 III SK62 台2078				
40			12.8	灰紫色細粒子 白色、黒色粒を含む	外面に黒褐色釉が施される。	底部からの立ち上がりは直線的である	ハ 不明 I 台2102				
41			15	淡灰白色細粒子 白色、橙色粒を含む	外面に黒褐色釉が施される。	底部は高台状を呈する。胴部へは大きく開きながら立ち上がる。	イ A12 III 取244 台1650				
42			34.4	淡茶色細粒子 赤色、白色粒を含む	内面底部近くに褐色釉が見られる。	器壁が厚く重量感のある壺と思われる。胴部への立ち上がりは緩やかに開く。	イ B10 III P10 台2062				
43	挿鉢	胴部	- -	淡灰茶色細粒子 黒色粒、細白色粒を含む	内面は淡灰褐色釉が施される。	内面に15条単位の櫛目が施される。	ニ Q7 III SP6 台2368				



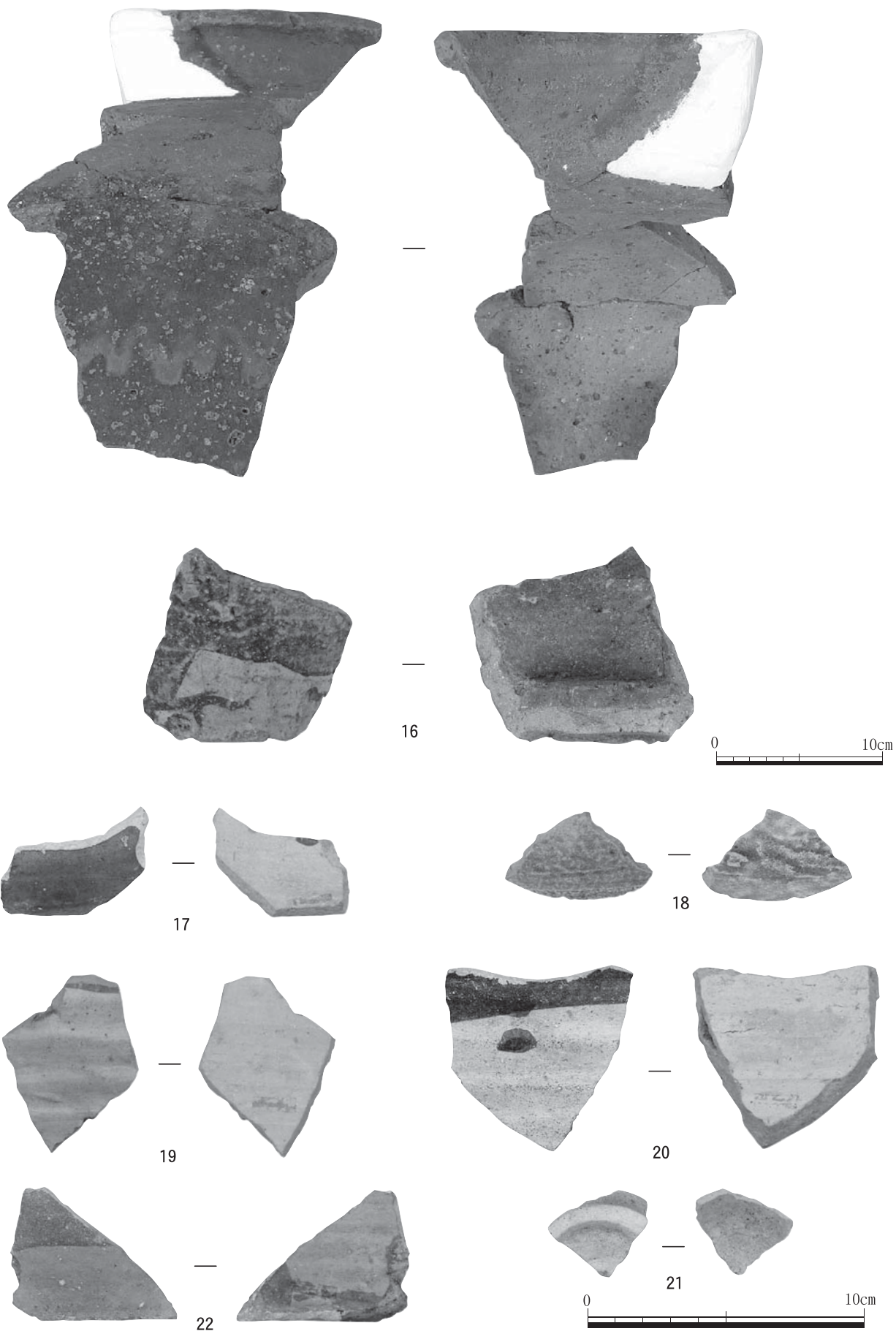
第114図 褐釉陶器 1



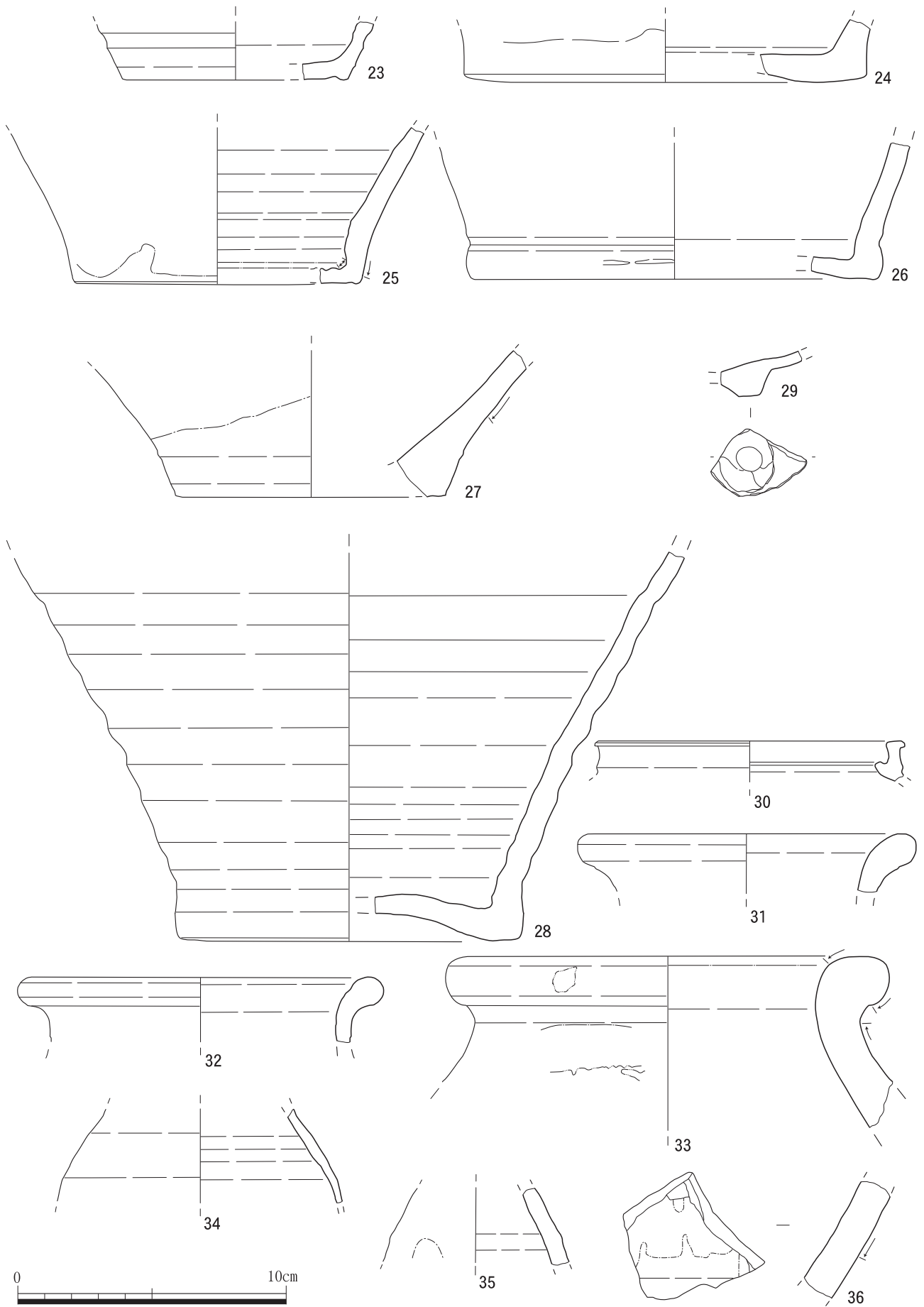
图版90 褐釉陶器 1



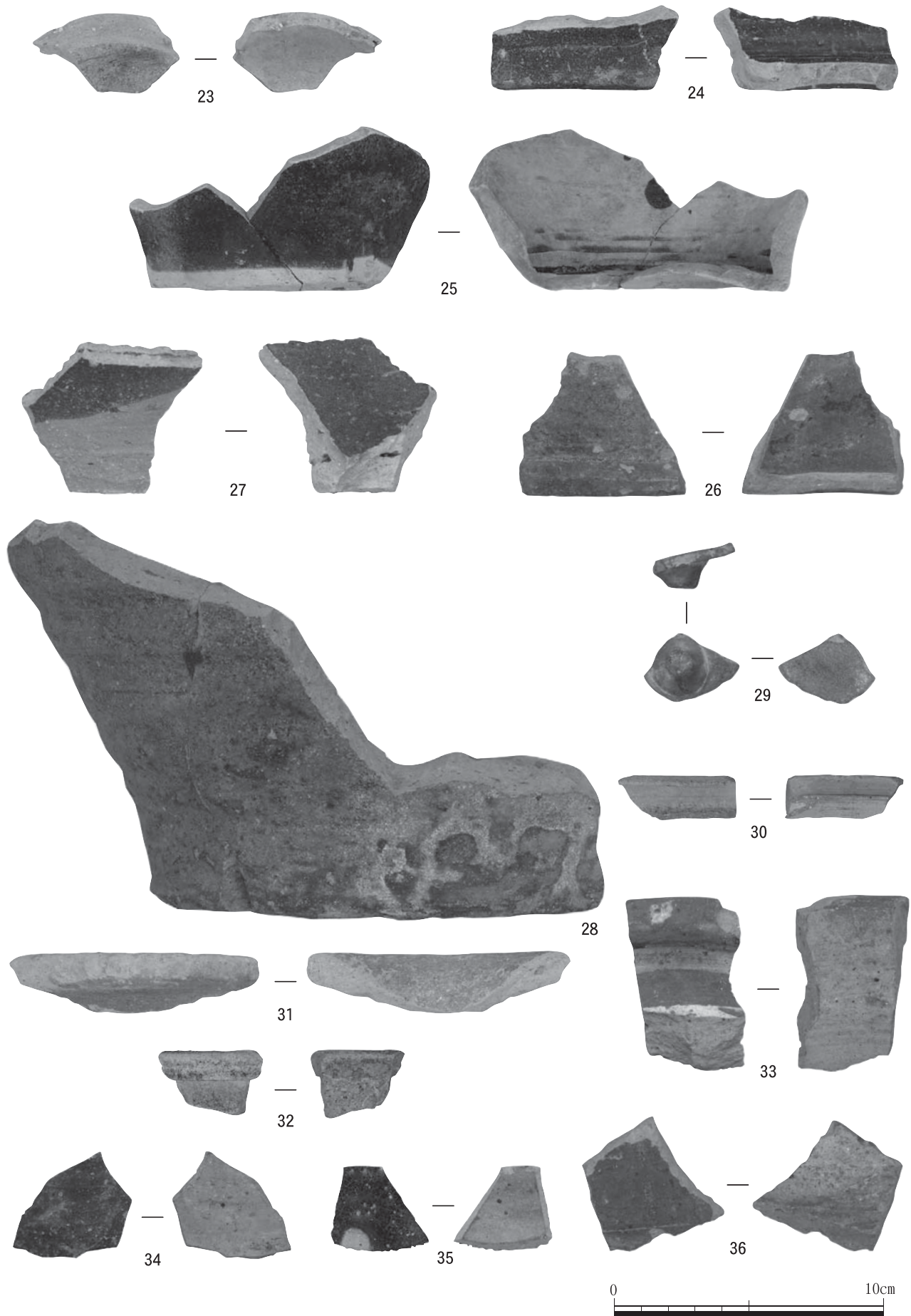
第115図 褐釉陶器 2



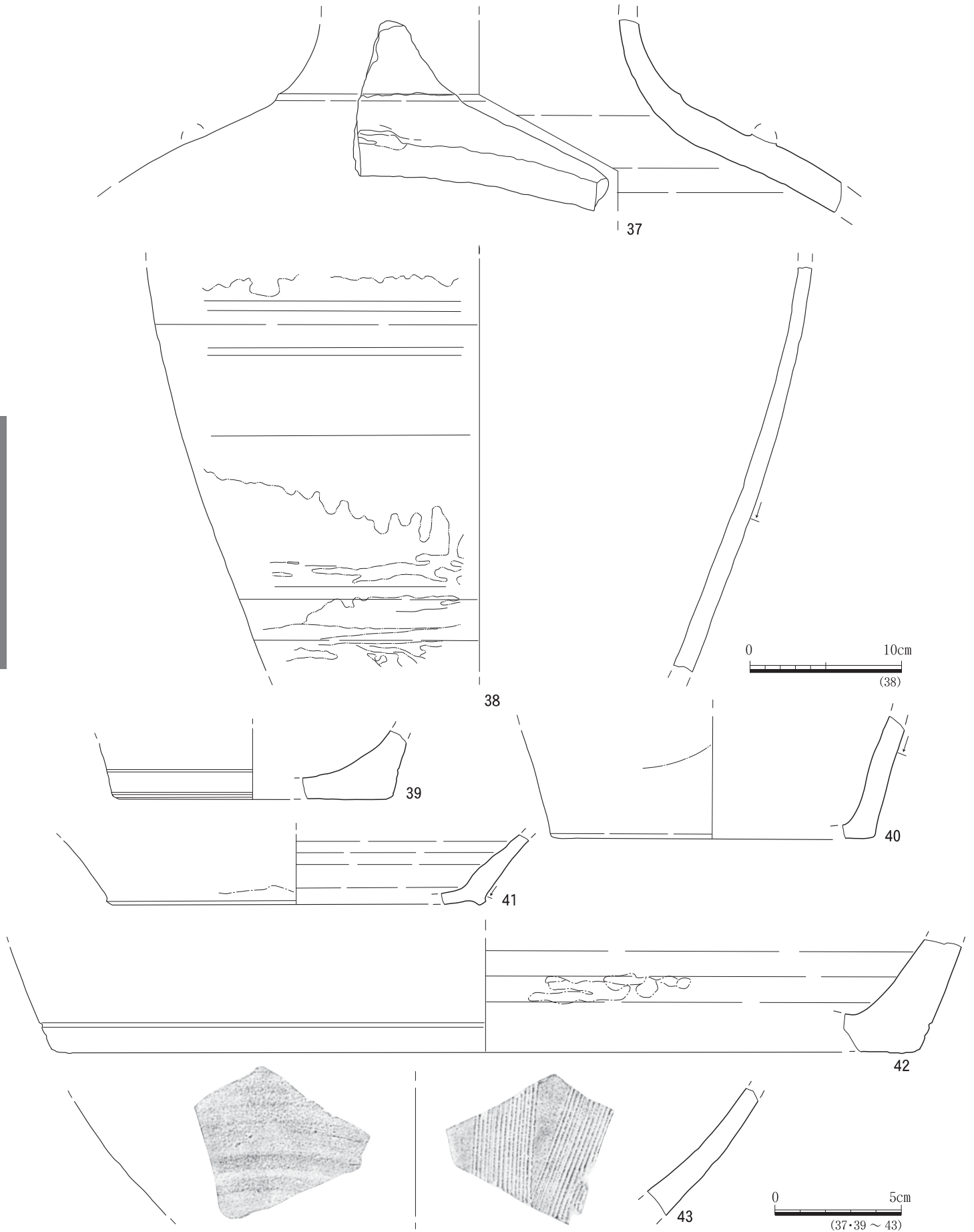
图版91 褐釉陶器 2



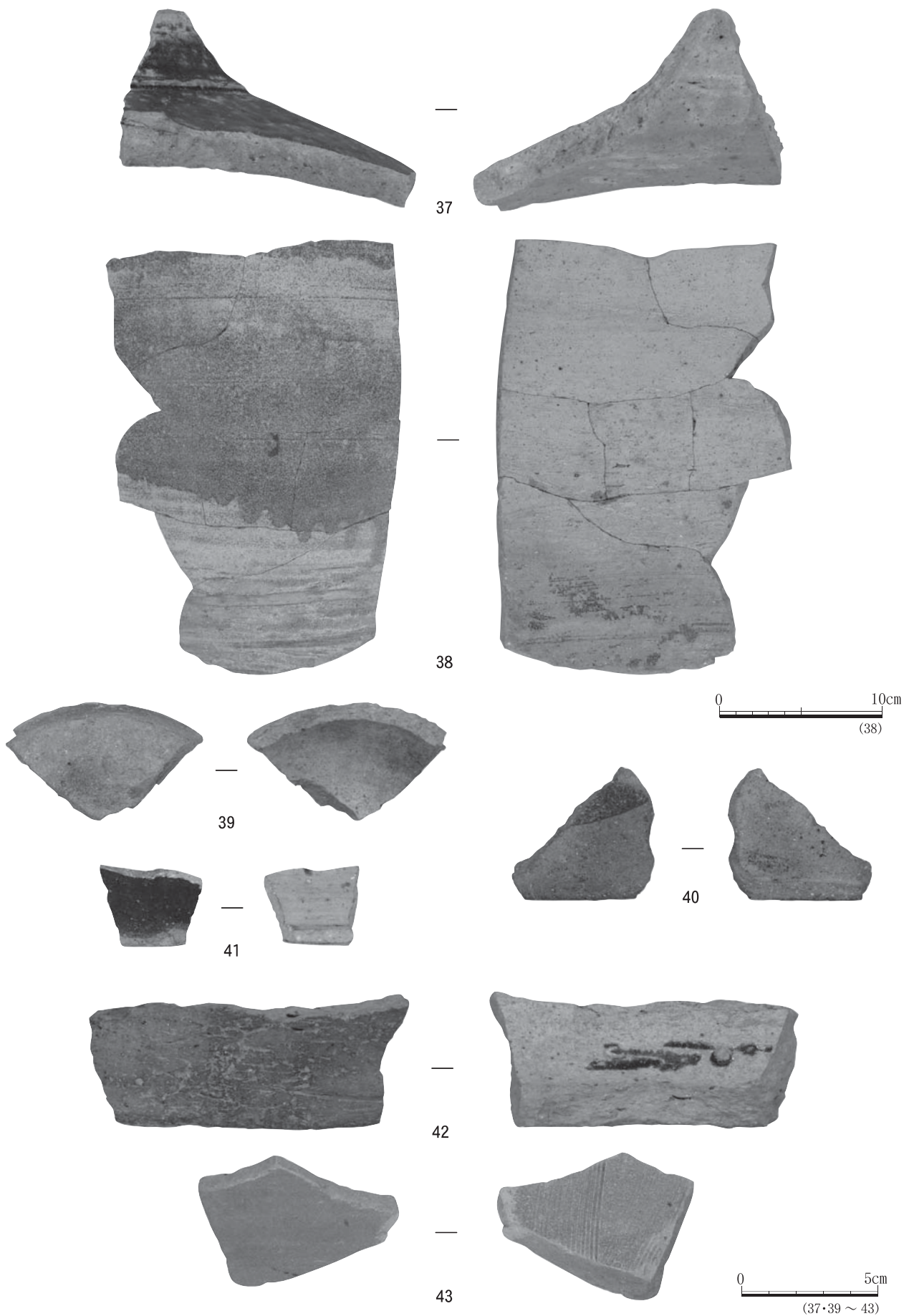
第116図 褐釉陶器 3



图版92 褐釉陶器 3



第117図 褐釉陶器 4



图版93 褐釉陶器 4

(7) 瑠璃釉

3点のみの出土で大碗口縁部1点と胴部細片の2点が確認できた。第118図(図版94)1・2に示す。外面に瑠璃釉、内面に青灰白色に発色した透明釉の掛け分けで釉の発色は良好である。素地はいずれも白色堅緻でピンホールが散見できた。図1は口径14.5cmの大碗の外反口縁で、外面口唇部下で透明釉と瑠璃釉の重なりが見られる。外面には轆轤痕が残る。ハ地区R12第Ⅲ層出土、青磁との伴出。図2は器厚と丸みから碗か小碗の胴部と思われる破片でH19地区T13第Ⅱ層出土。他にハ地区N14第Ⅱ層からも器種不明胴部片が出土した。いずれも青磁、染付、中国産褐釉陶器、三彩との伴出であった。

(8) 黒釉陶器

黒色の釉薬が掛けられるが天目茶碗とは形状が異なる全形の窺える碗と碗底部が確認できた。第118図(図版94)3・4に示す。内面総釉で外面は腰部までの施釉であるが、いずれも溶解がすすみ多数の気泡が生じ釉は変色し、わずかに黒色の部分が残るのみである。図3は小さめの高台を持ち、高台脇から一旦角度を変えてほぼ直線状に開き、口縁下で若干すぼみ口唇部は外反する碗である。口径12.2cm、器高5.6cm、底径4.3cmを測る。高台は非常に浅く外底までの高さは0.3cm足らずである。底厚は0.7cmを測る。イ地区C12第Ⅲ層出土(取128)、青磁、白磁との伴出。図4は碗底部で図1同様高台は非常に浅く、やや兜巾高台で器肌がささくれて縮緬状を呈する。畳付けは研磨されている。イ地区D11第Ⅱ層出土、沖縄産無釉陶器との伴出であった。

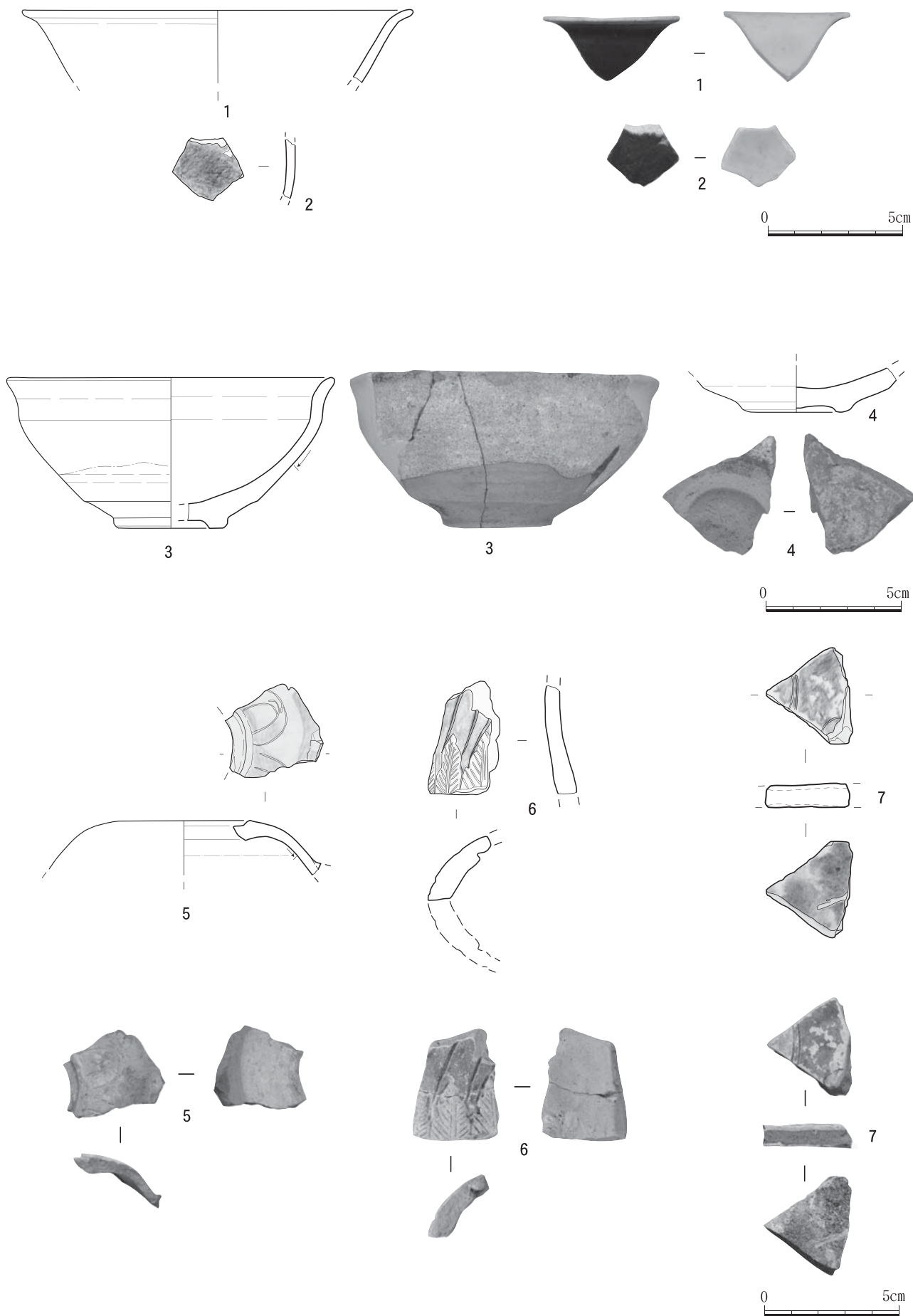
(9) 三彩

5点のみの出土で水注の口縁部1点・胴部2点、皿の胴部1点、盤の底部1点が確認できた。第118図(図版94)5～7に示す。いずれも施釉方法から福建産で15C～16Cのようである。図5は長胴丸型と思われる水注の口縁部で周辺には線刻による葉文が刻まれる。口径は5cm。肩部に把手貼り付けの一部が残る。内面上部と外面に白化粧を施した後、外面には緑釉を掛ける。素地は灰色粗粒子で若干の黒色粒と石英粒が混ざる。ハ地区N14第Ⅱ層出土。図6は鳥型の水注胴部で、型成形による羽状が施文された後、片切彫りによる斜位の沈線が確認できる。外面には白化粧後緑釉と黄釉が掛かり、内面は露胎で型成形や指ナデの痕が残る。素地は淡黄白色粗粒子で器壁は1.5～0.8cmを測る。ニ地区L11第Ⅱ層出土で、内外面に白化粧後緑釉が掛かる三彩皿の胴部と伴出した。水注の胴部と思われる小片はニ地区M10第Ⅱ層より出土。外面は白化粧後緑釉を掛け、型成形の痕が残る。素地は淡黄白色粗粒子で石英粒が混ざる。図7は盤の底部と思われる資料で、見込みには線彫りが施されるが、図柄は判然としない。素地は灰色粗粒子、底厚は0.8cmを測る。内面には薄く外面には非常に厚く白化粧を施した後、内面には緑釉と黄釉、外面には褐釉を掛ける。イ地区C13第Ⅱ層出土。いずれも中国産陶磁器、沖縄産施釉陶器や沖縄産無釉陶器との伴出であった。なお、長胴丸形水注と盤は『首里城跡』(註1)に類似資料が見られた。

註1：沖縄県立埋蔵文化財センター2001『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター報告書 第3集

(10) 翡翠釉

梅瓶の胴部が1点出土した。第119図(図版95)1に示す。外面には線刻による牡丹唐草文が施され白化粧後翡翠釉を掛け、内面は無釉で轆轤痕と中央部に積み痕が顕著である。素地は淡灰色で粗粒子、若干の黒色粒と多数の気泡が確認できる。首里城跡(註1)出土の梅瓶と類似している。ハ地



第118図・図版94 瑠璃釉・黒釉陶器・三彩

区S10第Ⅲ層SP31出土、青磁との伴出であった。

註1：沖縄県立埋蔵文化財センター 2001『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター報告書第3集

(11) 産地不明陶器

円盤状で撮みや袴を持たない蓋と思われる資料が1点確認できた。第119図（図版95）2に示す。軟質で素地は締胎状に浅黄橙色と淡橙色の土がマーブル状に混在する。片面は擦痕と指ナデが残り丁寧に器面調整され、片面はアバタ状で未調整のままである。径は8.0cm以上、器厚は0.7cmと考えられる。H19地区R14第Ⅱ層出土、沖縄産陶器との伴出。首里城跡からは最大径を肩部に持つ大型の無耳壺とのセット関係が報告されている（註1）。当資料の出土同日に同グリッド第Ⅲ層よりタイ産褐釉陶器の大型壺底部が出土した。類似資料としては『首里城跡』（註1～3）、『渡地村跡』（註4）があり、それらの特徴と比較して中国産の可能性が考えられる。

註1：沖縄県立埋蔵文化財センター 2013『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第69集

註2：沖縄県教育委員会 1998『首里城跡』沖縄県文化財調査報告書 第132集

註3：沖縄県立埋蔵文化財センター 2010『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第54集

註4：沖縄県立埋蔵文化財センター 2007『渡地村跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第46集

(12) タイ産鉄絵

合子の蓋3点、身2点、脚1点の合計6点が出土した。いずれも鉄釉にて格子・圏線・草花等を描文後、透明釉を掛ける。第119図（図版95）3～7に示し、第56表に詳細を記す。産地はいずれもシーサッチャナライ窯だと思われる。図3・4は合子蓋の底部で図5・6は合子身の胴部である。図7は合子身の脚である。高脚合子の参考資料として『タイ・カンボジアの陶磁』（註1）掲載の「鉄絵高脚草花文合子」（14C～15C）を示す。図録の解説には比較的珍しい形状である事と使用痕が無いことからインドネシアでは副葬品用の器として輸入されたかもしれないとある。

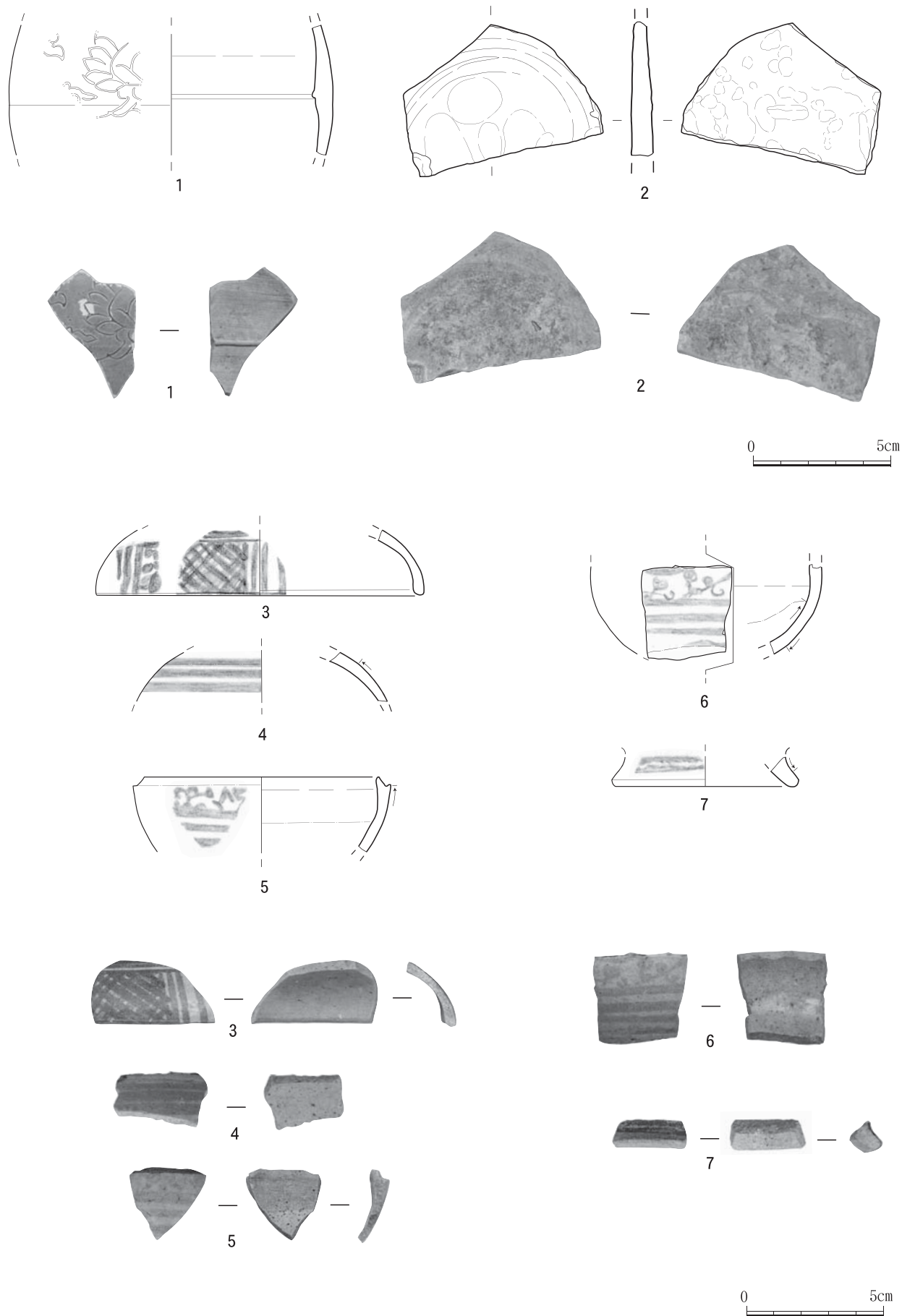


参考資料（註1）

註1：福岡市美術館1996『タイ・カンボジアの陶磁』

第56表 タイ産鉄絵観察一覧

第図図版	番号	器種	部位	口径器高底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	素地	器面		備考	地区小グリッド層 (遺構) 台帳番号
								内面	外面		
第●図・図版●	3	合子蓋	庇	12.0 -	5.81	3	淡灰色で緻密 黒色粒と気泡多数	無釉	鉄釉で格子と縦位の線を描いた後、透明釉を掛ける	庇端部：内側に玉縁に膨らむ	ハQ13 Ⅲ (SK02) 台2314
	4	合子蓋	庇	- -	4.68	2.5 4.5	淡灰色で緻密 黒色粒と白色粒が多数 若干の気泡	透明釉	鉄釉で横位の太線を複数描いた後、透明釉を掛ける	撮み近くは無釉	ニN10 Ⅱ 台1521
	5	合子身	胴	9.6 -	3.73	3 4	淡灰色で緻密 黒色粒が多数 若干の白色粒と気泡	下部に透明釉	鉄釉で口縁部直下に草花、その下に横位の太線を複数描いた後、透明釉を掛ける	透明釉は白濁	ハ T10 Ⅲ 台2049
	6	合子身	胴	8.2 -	7.56	3 4	淡灰色で緻密 黒色粒が多数 若干の白色粒と気泡	不規則な透明釉	鉄釉で口縁部直下に草花、その下に四条の横位の太線を描いた後、透明釉を掛ける	透明釉は白濁	H19 S12 Ⅲ 台2415
	7	合子脚	脚	- 6.8	3.71	3 6	淡灰色で粗粒子 黒色粒と白色粒が多数 若干の気泡	無釉	鉄釉	袴状の脚部	ハ 014 Ⅲ 台2143



第119図・図版95 翡翠釉・産地不明陶器・タイ産鉄絵

(13) 銭貨

本遺跡より出土した銭貨は7点で、中国の北宋銭、明銭と日本銭及び不明に分類される。

中国銭のうち北宋銭は元豊通寶（図1）、聖宋元寶（図2）、明銭は洪武通寶（図3）3点、日本銭は寛永通寶（図4）1点、不明1点である。

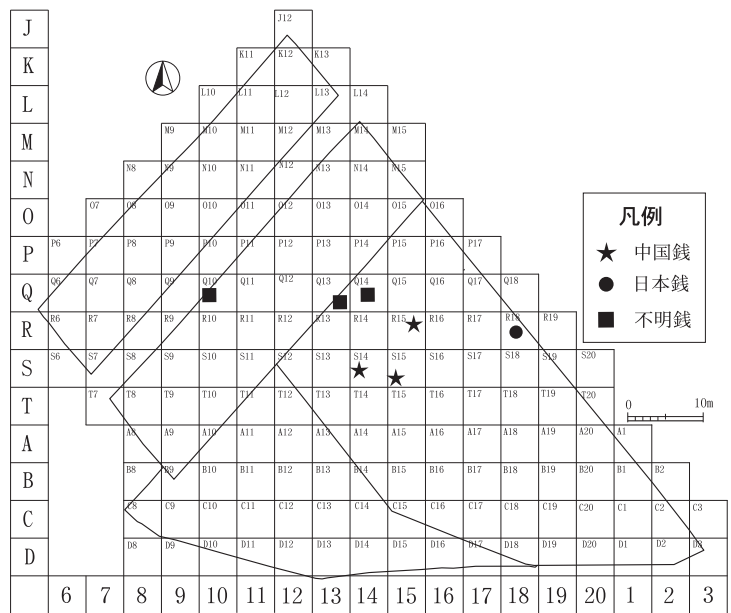
図5・6は錆がひどく判読不可能であるが、大きさや錆の具合及び出土地に近いことから同類の銭貨と判断される。詳細は観察一覧に示した。

元豊通寶と聖宋元寶は他より大きく径3.0cm、明代の洪武通寶は径2.3cmと一回り小さくなる。これらの書体は、

いずれも篆書である。日本銭の寛永通寶は形状から新寛永に分類される。破片で図に示されていないものがあるが、出土地は本品と近接しており、形状から図5・6と同類のものと思われる。これらの出土から銭貨のVI期（宮城2008）に相当すると思われる。

また、元豊通寶はR15、取上159で標高3.6mから出土、裏面に重ね痕があることから模鑄銭の可能性が高い。聖宋元寶はS14、取上339で標高3.024mから出土。洪武通寶はS15、SD02。不明はQ13、Q14の柱穴から出土しており、グスク時代の遺構との関連が高い。寛永通寶はR18でほかの銭貨とは離れて出土しており、後述する近世の時期に属するものと思われる。

註：宮城弘樹 2008「琉球出土銭貨の研究」『出土銭貨』 第28号 出土銭貨研究会

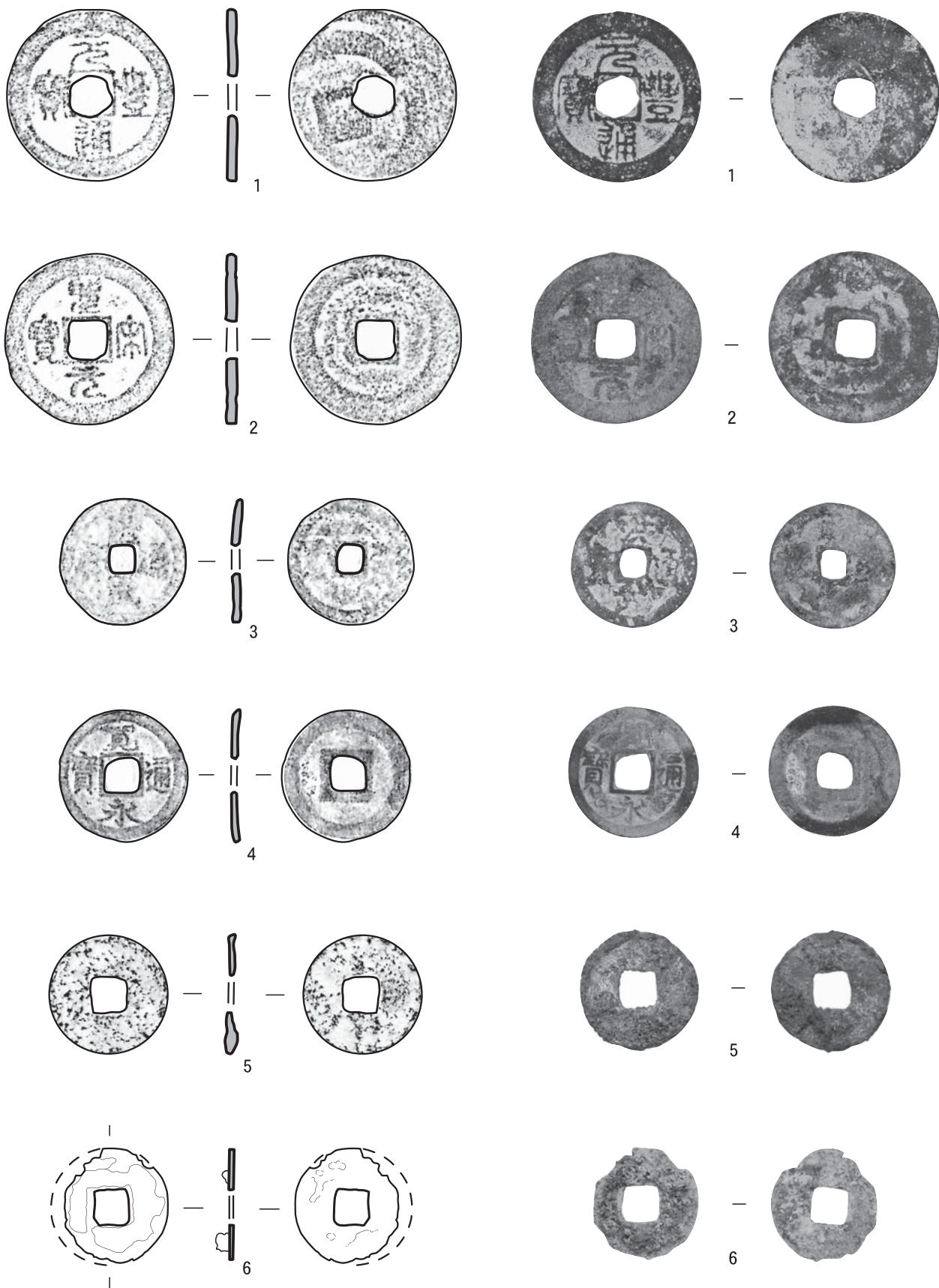


第120図 銭貨平面分布

第57表 銭貨観察一覧

第図版	図番号	種類 銭貨名 銭文	背文字	初鑄造年	状態	外径 (cm)	内径 (cm)	縁幅 (cm)	縁厚 (cm)	重さ (g)	字体	内縁	観察	地区 小グリッド [°] 層 遺構 取上番号 台帳番号
第121 図・ 図版 96	1	「元豊通寶」	なし	元豊元年 (1078)	完形	3.0	0.76	0.26	0.14	5.7	篆書	縁は方形、バ リで楕円	字体明瞭	H19 R15 III 取159 台3411
	2	「聖宋元寶」	なし	建中靖国元年 (1101)	完形	3.0	0.66	0.33	0.15	6.9	篆書	縁、孔とも方 形	字体ややつぶれる	H19 S14 III 取339 台3409
	3	「洪武通寶」	なし	— 1368	完形	2.2	0.51	0.13	0.13	2.5	篆書	方形	字体錆ふくれで明 瞭でない	H19 S15 III SD02 台3412
	4	「寛永通寶」	なし	元禄10年 (1667~)	完形	2.3	0.62	0.13	0.1	2.1	行書	方形 バリ有	字明瞭 新寛永	H19 R18 III 台3410
	5	「〇〇〇〇」	—	—	完形	1.9	0.60	—	—	0.8	—	方形	錆が大きく不明 字の可能性あり	H19 Q14 III P20 台4003
	6	「〇〇〇〇」	—	—	完形	2.1	0.63	—	0.13	1.3	—	—	—	ニ 09 IV 台2677
	—	—	—	—	破損	—	—	—	—	2.0	—	方形	—	H19 Q13 III P2 台4001

<凡例> ○：文字不明



第121圖・圖版96 錢貨

(14) 砥石

砥石が14点得られた。形態にグスク時期の砥石と考えられる資料も数点みられたため第Ⅱ層、Ⅲ層の時期の資料をこの項に示した。層序別では第Ⅱ層3点、第Ⅲ層3点、第Ⅲ層遺構（グスク遺構）から8点の出土である。

図に示したものは7点で、個別にみると図1は長方形板状の砥石で、自然礫をほぼ原形の状態で利用したと思われる。表面の三分の二に研磨が確認され砥面は一律に平坦、一部にテカリがみられる。裏面も突出した箇所部分的に研磨を確認できる。石質は砂岩である。図2は残存状態が台形、拳大の大きさで石質は流紋岩、三面研磨され表裏面中央に浅い反りが確認され、上下が破損する。置き砥石と考えられる。図3は残存が小型、不定形の砥石である。この資料も石質は流紋岩、三面に研磨があり特に側面の反りが顕著で上下、裏面が破損している。図4の形状は平面観が三角舌状を呈し、やや厚みのある中型砥石で石質は流紋岩、表裏に加え右側面にも研磨の痕跡が窺われ、表面は使用面が滑らかに反り上がり湾曲する。図5は小型、四角柱の砥石だが破損し全体の大きさが特定できない。石質は黒色片岩、堆積岩のため脆い。表面の研磨は浅く、両側面は研磨がみられない。裏面、上下端の割れの箇所は新しく自然面が露呈する。図6は扁平短冊形の形状を呈し、石質は輝緑岩、小型の資料である。全体に研磨が行きとどき、下端面も研磨により面を成す。札状手持ち砥石の一種と思われる。図7は変形短冊形の小型資料で研磨痕は表裏、側面にみられ細かい線状痕も窺える。上端の孔の左右に欠損がみられるが、一部に小さな研磨面が確認されることから破損後再度、研磨を加えたようである。石質は流紋岩、重量49gと軽く上部に両面から孔を穿つ。孔は両面とも左方向から斜めに広く穿たれるが、貫通する孔の径は3mmである。上部の厚さが9mmに比べ下部が1.7cmと厚みの違いが顕著で均一でなく使用頻度は高い。

上記の7点以外に、出土した資料も一覧表に計測値と観察事項の所見を示した。サイズの分類は残存する最大長、幅、厚、重量のそれぞれを比較し3分類したが破損品が半数以上を占める。

第58表 砥石観察一覧

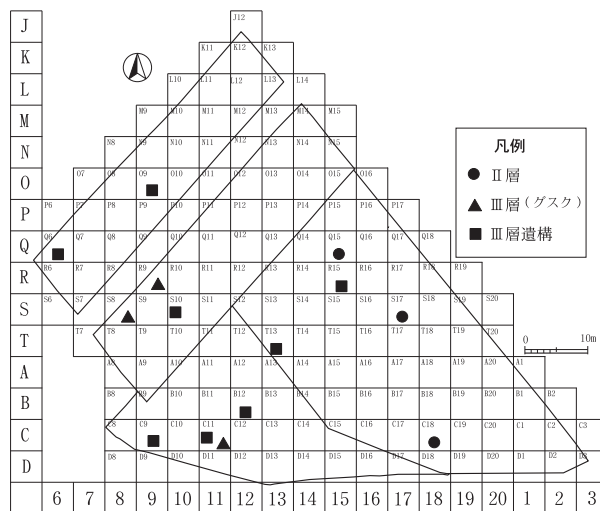
(法量単位: cm, g)

第図 図版	図番号 (石器no)	残存 形態	完/破	石質	残存 サイズ	計測値				観察事項	地区小グリッド層 遺構取上番号 台帳番号
						最大縦	最大横	最大厚	重量		
第123 図・ 図版 97	1	板状 変形長方形	完形	砂岩	大型	23.2	10.2	2.2	664	自然礫を利用表面三分の二研磨 一部にテカリあり裏面突出箇所研磨	H19T13Ⅲ P7台4351
	2	台形	破損	流紋岩	中型	8.9	8.0	5.8	538	三面研磨表面中央に反り上下破損	ハS8Ⅲ 台2501
	3	変形台形	破損	流紋岩	小型	5.3	4.6	3.2	85	三面研磨側面に反り上下破損	二〇9Ⅲ SX01台2474
	4	舌状三角形	破損	流紋岩	中型	10.6	10.3	3.6	410	板状表裏、側面に研磨痕 表面滑らか使用箇所反り上がる置砥石	イB12Ⅲ P23台2354
	5	四角柱	破損	黒色片岩	小型	6.1	3.1	1.9	67	表面研磨良好裏面、上下端破損 残存部打割面新しく自然面露呈	ハS10Ⅲ SK01台2643
	6	短冊形	完形	輝緑岩	小型	6.2	4.2	1.3	65	短冊形扁平全体的に研磨 札状手持ち砥石の一種下端面研磨	イC11Ⅲ 取169台1899
	7	短冊形	完形	流紋岩	小型	6.9	3.8	1.7	49	扁平変形上部に両面から穿孔表裏面使用 使用頻度高い下部に比べ上部薄い	イC9Ⅲ P16台3149
図版 掲載 なし	no. 11	厚手方形	完形	砂岩	中型	6.2	4.6	3.7	211	六面体短冊形四角柱意図的に面を作る 風化作用平面、平滑な部分は裏面一面のみ研磨	H19S17Ⅱ 台3251
	no. 50	扁平長楕円	破損	砂岩	中型	9.6	6.7	2.3	168	研磨痕は表面の一部研磨は部分的に顕著 周縁に角をおとした痕跡裏面は自然面	H19C18Ⅱ 台3232
	no. 81	扁平不定形	破片	砂岩	小型	5.8	5.2	1.0	43	扁平破片一面に浅い研磨痕あり	H19Q15Ⅱ SK38台3267
	no. 284	変形長方形	完形	細粒砂岩	中型	11.9	4.7	2.8	242	形状隅丸短冊形片面一面研磨その他の面は 自然面が露呈石質は軟質仕上げ用砥石か	H19R15Ⅲ P18台4379
	no. 313	板状不定形	破損	砂岩	大型	19.2	16.7	4.3	1,640	破損、形態不明厚手残存推定大型 表面中央研磨痕浅くあり 裏面、側面、周縁部自然面露呈	イC11Ⅲ P8台2353
	no. 367	扁平不定形	破片	砂岩	小型	7.9	4.2	1.5	51	表面、側面に研磨痕研磨顕著で凹凸有 凹凸部分の窪み箇所にも研磨が残る 細かい部分の研磨用か	二Q6Ⅲ SK01台2488
	no. 399	台形不定形	破損	石英閃緑岩	中型	8.8	8.3	4.9	530	厚み一定研磨は表裏、側面片側にあり上下破損	ハR9Ⅲ 台2515

石質は砂岩、細粒砂岩、黒色片岩、石英閃緑岩、輝緑岩、流紋岩で、砂岩の資料が6点、流紋岩が4点、その他、各1点の出土である。流紋岩は北谷町周辺、中南部では産出されない火成岩類の岩石で、採集可能な地域としては恩納村、沖縄本島北部のごく一部の地域と限られるが沖縄本島以外の島からの持ち込みも考えられる。

第122図に砥石の出土状況を示した。第Ⅱ層(近世)出土砥石は山手側Q15、S17、C18に出土し、第Ⅲ層(グスク時代)出土砥石はイ、ハ地区の海側寄りに分布するが、H19地区から5点、イ地区4点、ハ地区3点、二地区2点の出土で、グスク時代、近世琉球の砥石の出土に地区ごとの極端な差はみられない。

C11では砥石が2点出土しており、白磁、青磁、褐釉陶器、染付、円盤状製品、煙管の出土も多い。



第122図 砥石平面分布

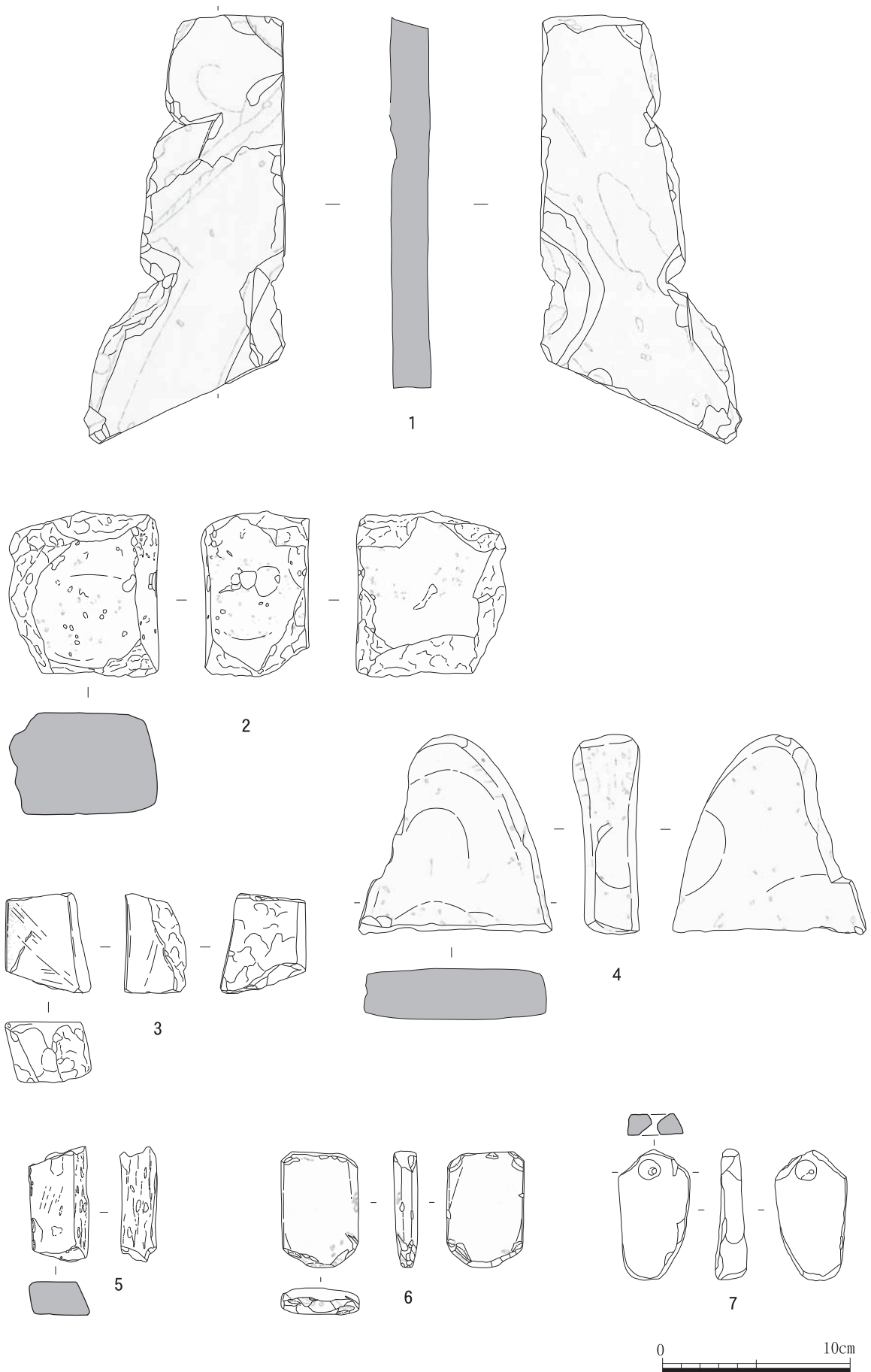
形態的特徴が貝塚時代後期に出土する砥石と相違する資料も数点確認されておりグスク時代、古琉球～中世、近世琉球の時期と思われる資料をこの項にまとめたが、この時期の砥石は稲福遺跡、今帰仁城跡、糸数城跡、浦添ようどれからも出土している。この種の砥石として二種類の砥石が確認される。

一つめの種類に砥面が滑らかで使用面が三面以上と多い、小型の砥石である。砥石の摩滅具合や反りの状態が激しい資料など消耗の顕著なものが特徴で、どの遺跡から出土する砥石にも形状的類似点が多くグスク時代以前の砥石と研磨用途に違いがあると推測される。図3、4の砥石は今帰仁城跡からも類似資料が出土しており、九州での類似資料として鍛冶工房からの出土がみられる。二つ目の種類に小型の短冊形、又は角柱状、それに類似する形態の持ち砥石が挙げられる。持ち砥石には穿孔のある資料と穿孔のないものに分けられ、穿孔のある資料は、腰に下げる紐通しの孔が開けられた携帯用砥石と考えられている。穿孔する資料にも二タイプあり、1.表裏面に穿孔するもの、2.両側面、上端の三方向から穿孔するものがあり、今帰仁城跡では二タイプとも出土している。

携帯用砥石は類例の報告が少ない当初は、穿孔がみられることから垂飾品や護符的なものとされたが、安里氏の報告で中国、東南アジアとの交易が盛んな時代、貿易品の項目に「磨刀石」として品目がみられるとの見解から携帯用砥石と捉えられるようになった。砥石に関する資料や論文は多くないが、上原氏や安里氏の記述は、札状の手持ち砥石や腰に下げるため携帯用に孔を穿った砥石は近世琉球時期の磨刀石やそれに類似する砥石と考えられるとの見解を示している。

<参考・引用文献>

沖縄県教育委員会 1983『稲福遺跡』沖縄県文化財調査報告書 第50集
 沖縄県今帰仁村教育委員会 1983『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅰ』今帰仁村文化財調査報告書 第9集
 安里嗣淳 1985「磨刀石」『南島考古だより』沖縄考古学会 第33号
 沖縄県教育委員会 1986『竹下遺跡』沖縄県文化財調査報告書 第78集
 沖縄県・玉城村教育委員会 1991『糸数城跡』玉城村文化財調査報告書 第1集
 今帰仁村教育委員会 2007『今帰仁城跡周辺遺跡Ⅲ』今帰仁村文化財調査報告書 第24集
 浦添市教育委員会 2007『浦添ようどれⅢ』—金属工房跡編— 浦添市文化財調査研究報告書
 上原静 2010「琉球砥石考」『南島考古』沖縄考古学会 第29号



第123図 砥石



图版97 砥石

(15) 貝製品

ヤコウガイ製貝匙1点、タカラガイ製貝錘11点の計12点の実用品が出土した。以下、それぞれについて略述する。

A. 貝匙

図1はヤコウガイの腹面を用いた貝匙である。貝匙の柄の部分で方形を呈する。外面は表層を削り真珠層を露出させる。内面は表層が残る。D12第Ⅲ層の出土である。

伊礼原D遺跡(2013)でも2点検出され、柄の部分が魚の尾鱗状のものが得られている。

B. 貝錘

ハナマルユキの背面を除去するもので、民俗事例から漁網錘とされる。下記の条件を持つものを貝錘として扱った。

- ①背面除去され、側面からみると除去面が整う。
- ②殻軸部分の巻きが欠損。
- ③殻底部分に打割調整を有す。

さらにA: 殻軸巻きを残す、B: 殻軸をとる、C: 殻軸を半欠、に細分できる。

11点得られ、Aタイプ1点(①)、Bタイプ9点(図2)、Cタイプ1点(図3)が確認された。

出土地をみるとすべて第Ⅲ層とその遺構から得られている。特にイ地区のB11第Ⅲ層から3点と、その近くのC10・11、A12・13などから出土している。B11はグスク時代の遺構(第86節)の可能性もある。伊礼原D遺跡(2013)でハナマルユキが第Ⅱ層から2点、第Ⅴb層攪乱から4点、第Ⅴb層から1点出土しているが、本遺跡の状況から伊礼原D遺跡のものはグスク時代に帰属するものと思われる。

<参考文献>

上原静 1989『考古学ジャーナル』311ニュー・サイエンス社

島袋春美 1997「タカラガイ製品」『南島考古』No.16 沖縄考古学会

北谷町教育委員会 2013『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書 第35集

第60表 タカラガイ製貝錘観察一覧

(法量単位: g, cm)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	重量	縦	横	分類	観察事項	貝状態	地区 小ケリッド [*] 層 遺構 台帳番号
・第 124 図 98	2	332	ハナマルユキ	完	8	3.4	2.5	無B	縁整う、表裏に剥離、紐 ずれか	色残○	H19 S15 Ⅲ P1 台1175
	3	328	ハナマルユキ	完	4	3.1	2.2	半欠C	縁整う	風化or水魔	イ C10 Ⅲ 台1720
	①	321	ハナマルユキ	完	6	3.2	2.4	有A	縁整う、焼け、前面炭で 覆う	焼け○	H19 Q15 Ⅲ P9 台1070
	—	323	ハナマルユキ	完	6	3.2	2.3	無B	風化、縁整う	色残○	H19 Q14 Ⅳ 台1254
図・ 図版 なし	—	324	ハナマルユキ	完	6	3.4	2.3	無B	縁整う	風化○	イ A12 Ⅲ 台1844
	—	325	ハナマルユキ	完	8	3.6	2.6	無B	縁整	色残△	イ B11 Ⅲ 台1580
	—	326	ハナマルユキ	完	6	3.1	2.3	無B	縁整う	色残△	イ C11 Ⅲ 台2454
	—	327	ハナマルユキ	完	6	3.4	2.5	無B	縁やや整う	風化△	イ A13 Ⅲ 台1803
	—	329	ハナマルユキ	完	6	3.2	1.4	無B	縁整う	風化○	イ D16 Ⅲ 台2410
	—	330	ハナマルユキ	完	6	3.2	2.3	無B	縁整う	色残△	イ B11 Ⅲ P30 台2361
	—	331	ハナマルユキ	完	7	3.2	2.4	無B	縁整う	風化○	イ B11 Ⅲ 台1586

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∟=僅少、×=なし

(16) 骨製品

ウシの板状製品が3点出土した。図を第124図に示す。

図4～6はウシかウマなどの肋骨を厚さ0.3cmの板状に加工したもので、半月状(図4)と方形状(図5・6)に分類される。半月状のものは弧状の部分を薄く削り刃状をなすもので、勝連城跡では裁縫ヘラと報告されている。方形状のものはいずれも径0.1cmの孔を有し、角を切り落とすもの(図5)や、切り込みを入れ段を作るもの(図6)がある。孔には金属が付着した例が住屋遺跡で出土しているが、用途は明瞭でない。出土地をみると半月状が014 SK02 第三層、方形状がT12・C12第三層の出土で図6は取上番号381で確認されている(第11表)。他に後兼久原遺跡(2003)伊礼原D遺跡(2013)、渡地村跡(2007)などに報告例がある。

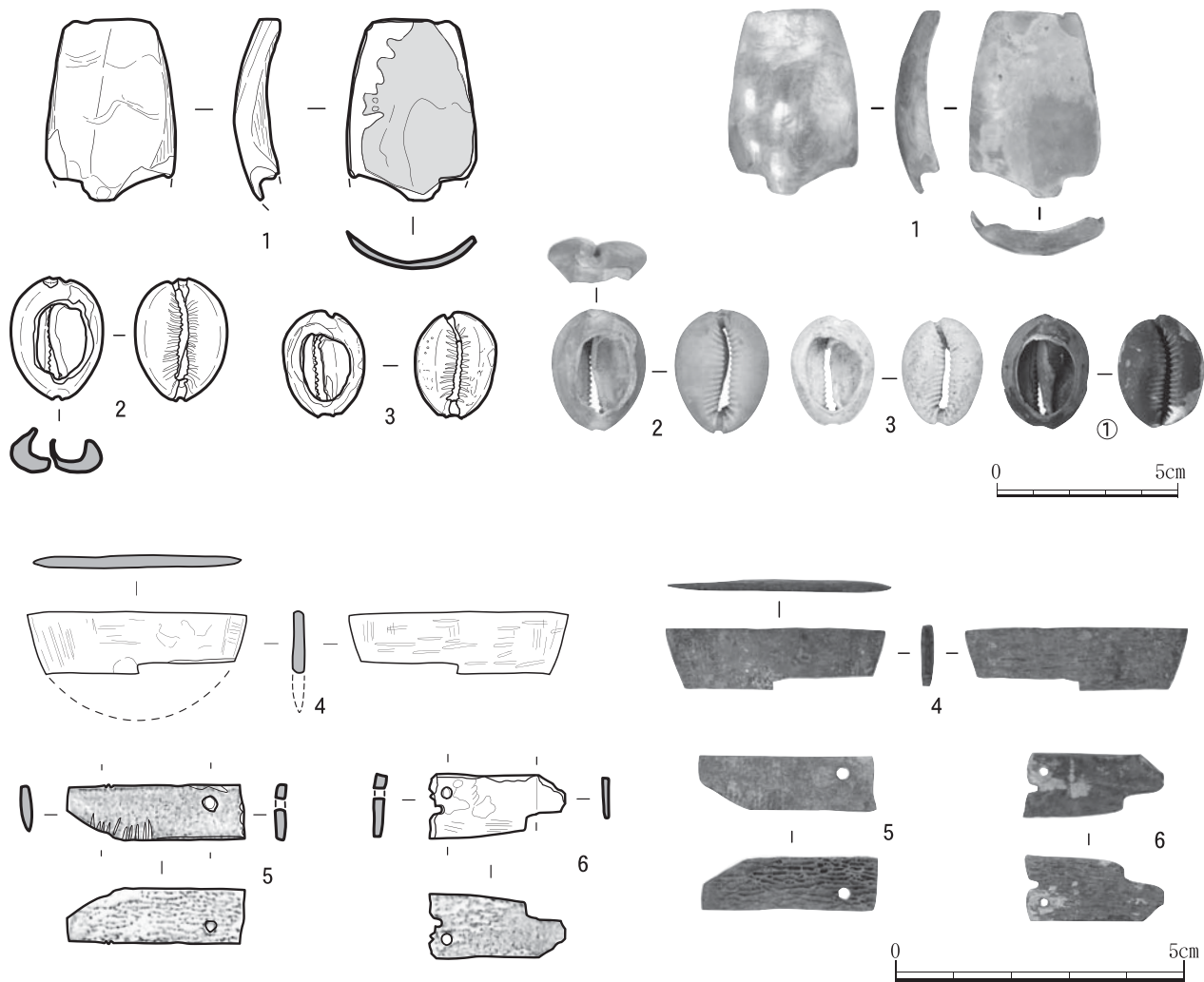
<参考文献>

平良市教育委員会 1983『住屋遺跡(俗称・尻間)発掘調査報告書』

勝連村教育委員会 1990『勝連城跡』「勝連村の文化財」第11集

砂辺和正 1997「金属製鋳を伴う骨製品」『南島考古だより』58号 沖縄考古学会

豊見城市教育委員会 2003『宜保アガリヌ御嶽』豊見城市文化財調査報告書 第6集



第124図・図版98 貝製品・骨製品

(17) 鉄製品

鉄製品は刀子1点、鉄鏃2点、角釘1点が出土した。以下、略述する。

A. 刀子

図1は、刃先に向かって細くなる。茎は欠損し身との境目に錆脹が見られる。長さ18.4cm、厚さ0.7cm、重さ64g。イ地区、A12、第Ⅲ層取上番号219、278出土。

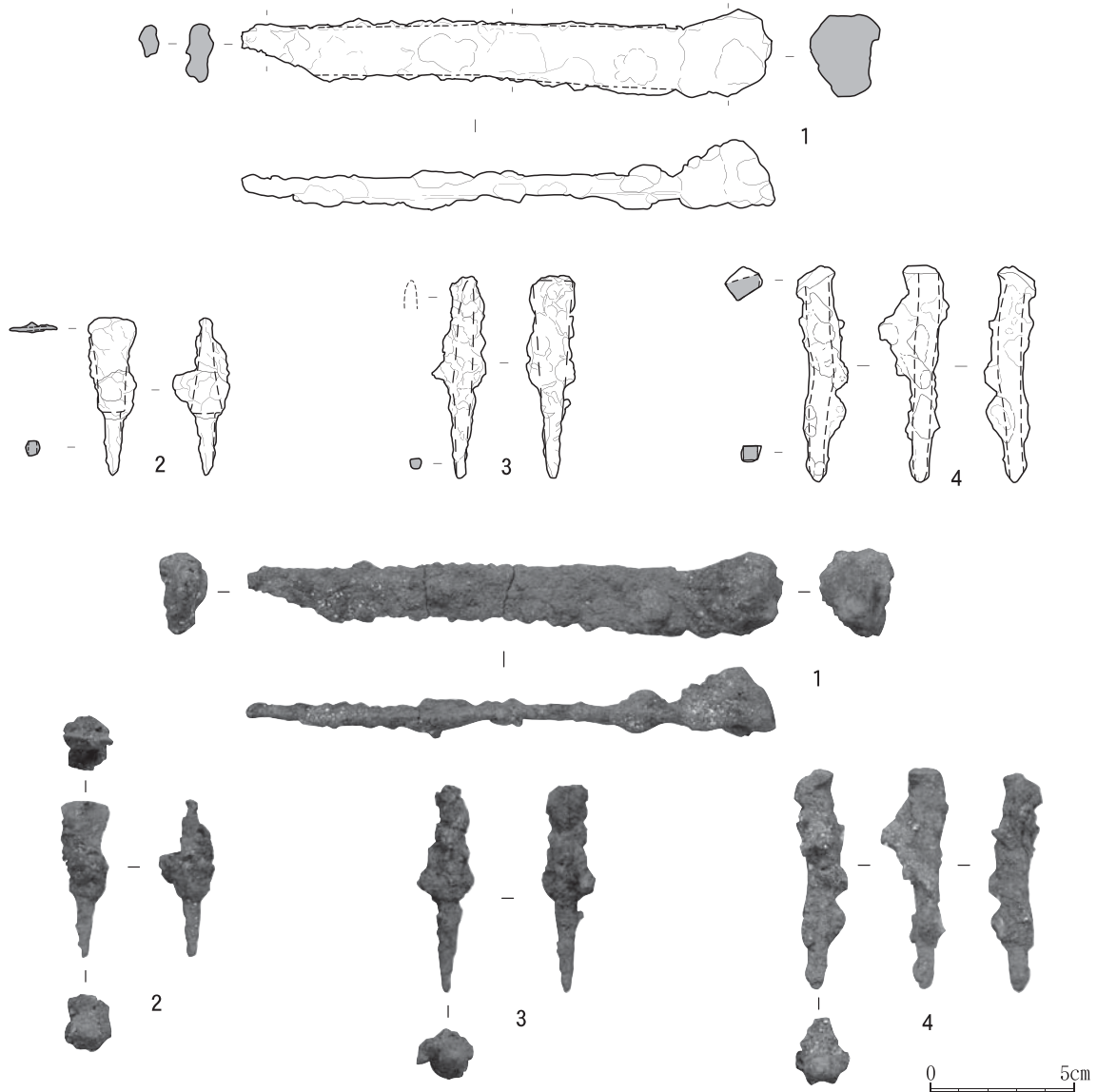
B. 鉄鏃

図2は、茎先や刃部よりも身部に錆脹が見られる。刃部がやや幅広となる。刃部幅1.7cm、全長5.5cm。身と茎の境は明確になるもので、茎は身の基部より先端が細くなり欠損する。断面は長方形、長径は0.5cm、短径が0.3cm。重さ11.2g。ハ地区、Q11、第Ⅲ層、SP1出土。

図3は身部に錆脹が多く見られ、刃部幅1.3cm、全長7cm、茎先の断面は方形で径0.4cm、重さ16.3g。ニ地区、M10、第Ⅲ層 SP5出土。

C. 角釘

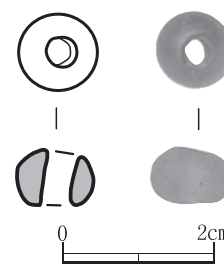
図4は頭部が逆「L」字状になるもので、逆「L」字の先端は尖る。全長7.5cm、頭部の径1.1cm、先端部の径0.5cm、重さ18.7g。ハ地区、Q12、第Ⅲ層出土。



第125図・図版99 鉄製品

(18) ガラス玉

右図は透明のガラス玉で、内部に気泡が見られる。大きさは直径1.0cm、厚さ0.75cm、重さ0.87gを測る。中央の孔は0.4cmで筒状を呈し、孔縁は両側とも細かい剥離が確認されることから使用時のものと思われる。玉の内部には若干の気泡と製作時の巻きラインが確認される。ハ地区R11第Ⅲ層の出土である。



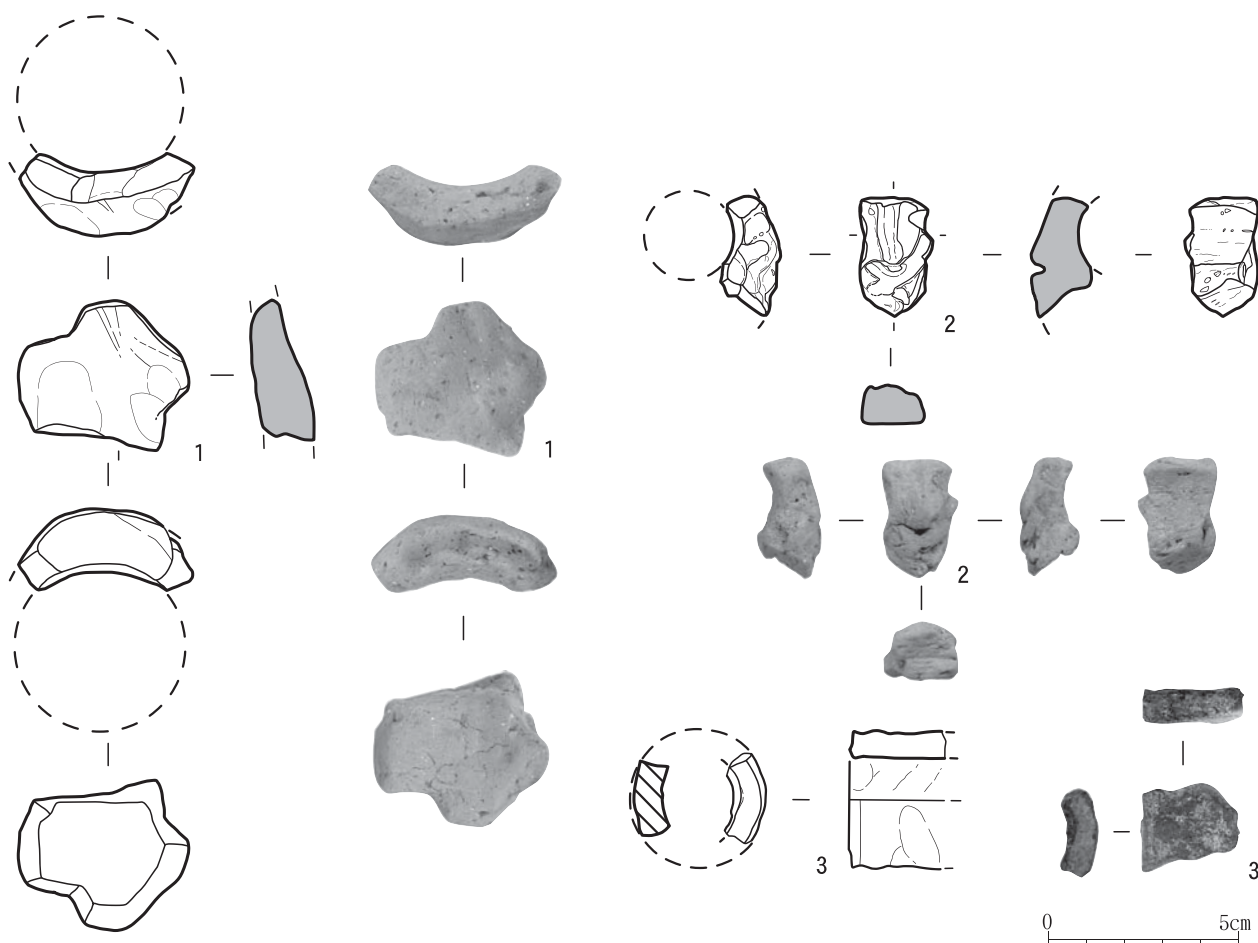
(19) 羽口

羽口と考えられるものは3点出土した。

第126図1は、円筒状を呈すると見られるもので、先端部に向かって僅かに窄まる。推定内径4.1cm、内外面に砂粒が目立ち、粘土接合のスジも見られる。重さ20.5g、ハ地区Q11、SP37出土。

図2は、円筒状を呈し、表面中央の凸部に沿ってナデが見られ、内面に曲面を有する。推定内径2.3cm、胎土に白色粒を含み、焼け土に見られるものと同様な幅3mmの草痕(ワラ?)が見られる。重さ6.65g、イ地区B17、P32出土。

図3は、円筒状を呈する口縁部破片。口唇部は平坦に整形され、内面縁に僅かに土の盛り上がりがあり、混入物の石英、不定形の黒色鉱物、長方形の黒色鉱物などが見られる。内外面にはナデが見られ、外面は胴部に、内面のナデはスベスベした手触りである。焼成は土器に比して硬質で、外面は黒褐色、内面はほぼ暗褐色を呈し下部に橙色となる部分もある。推定外径約3.6cm、内径2.2cm、重さ4.98g、H19地区。グリッド不明のP5出土。類例資料が、熱田貝塚(1979)で報告されており、同資料では鉄滓が付着している。



第126図・図版100 ガラス玉・羽口

(20) 焼土

焼土は総重量3,902 g 出土。層は主に第Ⅲ層だが、僅かに攪乱出土もある。遺構で検出されるものも多く、P・SPが48ヶ所、SKは2ヶ所、SDは1ヶ所、SXは2ヶ所で、その中でもニ地区Q 7が13ヶ所（SP11ヶ所、SX2ヶ所）と最も多い。第127図の重量出土分布で見ると、16ラインより西側のグリッドで多い傾向が見られ、隣接する伊礼原D遺跡（2013）からの広がりと考えられる。

焼土には成形面のあるものとないものがあり、前者が22%、後者が78%である。成形面のあるものの割合は平坦面を有するものが91%、曲面を有するもの8.6%、両方を有するもの0.4%である。平坦面には1面のもの、角を呈する2面のもの（図1）、両方を有するもの（図2）がある。

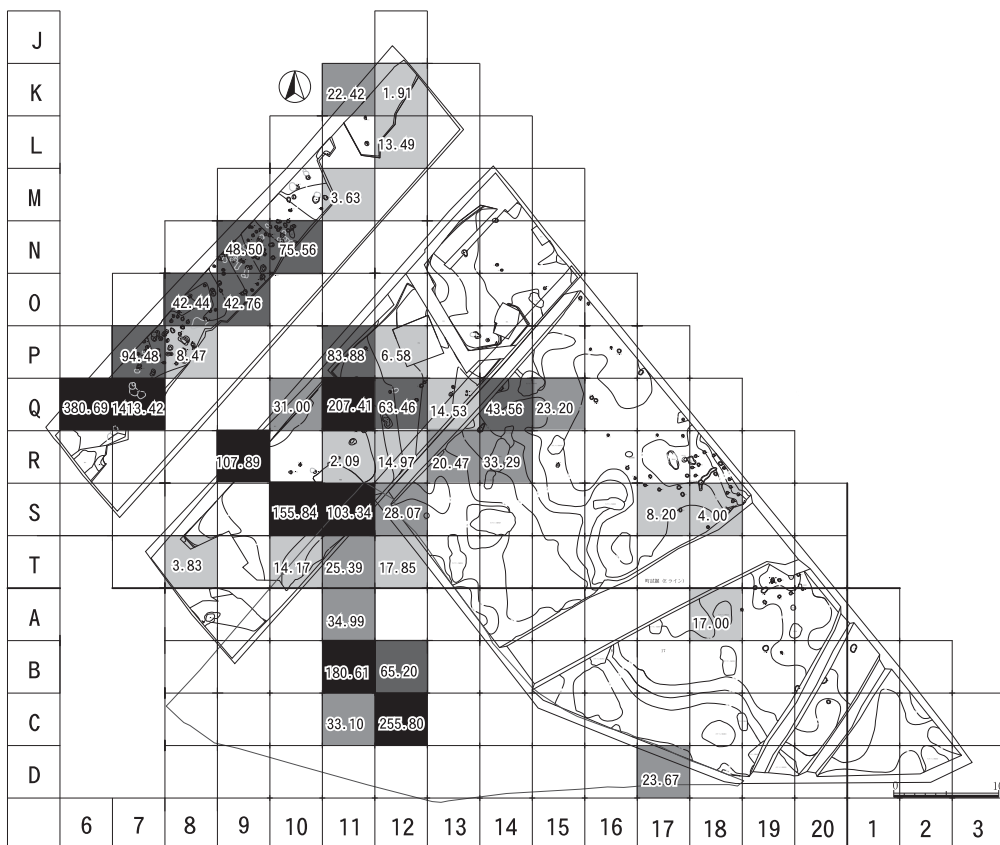
胎土は砂質が主体で、泥質も僅かに見られる。混入物には砂粒、石英、白色粒、赤褐色粒、草痕、まれに貝殻、魚骨の棘（図版103-①）や雲母と見られるものがある。貝殻にはヌノメカワニナ（図版103-②）（註1）も見られる。また、幅2～3mmの草痕（ワラ?）が見られ、内面には複数の線状痕を伴っている。「へ」字状に曲がるもの（図版103-③）もある。土色は橙色が主体的で、にぶい橙色や赤褐色・暗赤褐色・褐色を呈するものが見られ、暗赤褐色のものに硬く焼き締まったものが見られる。

隣接する伊礼原D遺跡（2008）では炉が検出されたグリッドからの出土が多く、同遺跡（2013）の出土分布からも炉に関連するものと考えられる。また、焼土の成形面が内面の孔と見られるものがあり、羽口の可能性も考えられる。以下、特徴的なものを略述する。

図1は表・右側の2面に平坦面を有しその断面形が角を呈するもので、方形の可能性が考えられる。重さ10.8g。イ地区C11、P20出土。

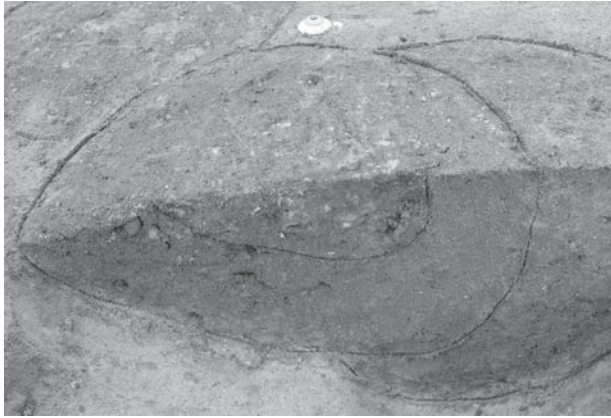
図2は断面が舌状を呈し先端部と見られるもので、外面の成形面はややうねりを持ち、内面は曲面を有する。胎土には白色粒、草痕が見られる。重さ98.76g、イ地区B11、SK56出土。

註1：黒住耐二氏の所見による。



第127図 焼土（重量）平面分布

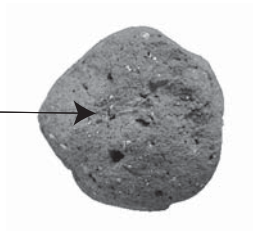
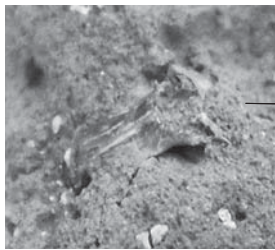
単位：g



図版101 Q7-SP23 焼土検出状況



図版102 S10-SP25 焼土検出状況



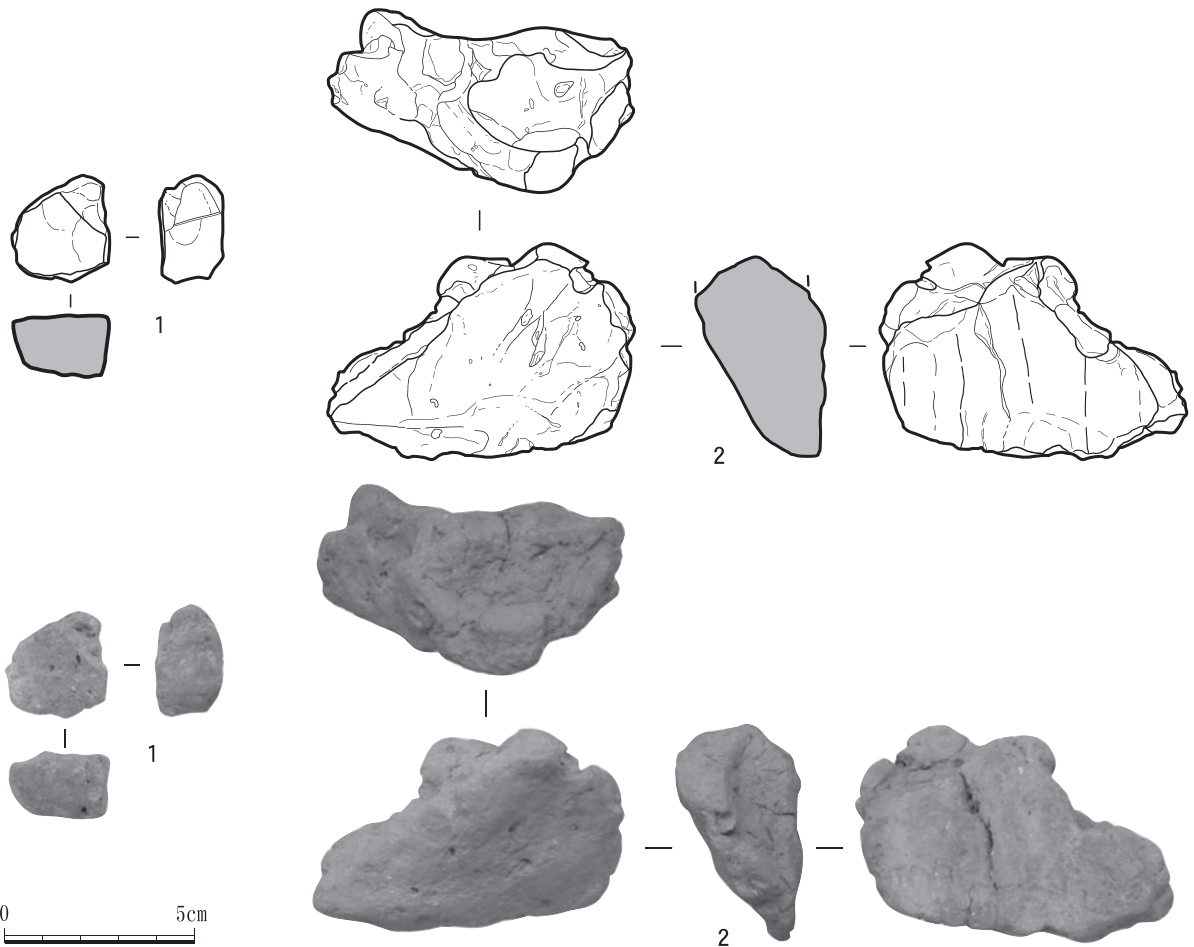
①魚骨の棘



②ヌメカマ



③草痕



第128図・図版103 焼土

第5節 近世～近・現代

1. 遺構

第Ⅱ層から検出された遺構は、第129図に示したとおり、焼成跡：2、貝集中部（SS）：3、溝状遺構（SD）：10、ピット（P・SP）：289以上、土坑（SK）：26、用途不明遺構（SX）：1、米軍による攪乱（廃棄場所）：31ヶ所であった。なお、用途不明遺構と米軍による攪乱は紙面の都合上、報告は割愛する。『北谷町の地名』（註）によると、戦前の伊礼集落の主業は農業で芋、サトウキビ、米などを作っていたとあり、当遺跡を「米軍撮影空中写真」（1945.2.28撮影）（図版69）に重ねてみると田畑に該当するが、検出した遺構との関連性を見出す事はできなかった。調査時には第Ⅱ層上面まで最大で2mの厚さをもって造成されており、米軍接収時に埋め立てが行われた後の土地利用による影響もあるものと思われる。以下、遺構毎にサイズ・出土遺物・概要を表にて記す。なお、遺構内よりグスク時代や貝塚時代後期の遺物が出土するのは当時の掘削による混ざり込みと考える。

註：北谷町教育委員会 2006 『北谷町の地名』北谷町文化財調査報告書第24集

第61表 近世～近代遺構一覧

地区	H19		イ		ハ		ニ		総数
遺構種別	1	(S12)	1	SK56 (B11)	0		0		2
焼成跡	3	1-SD02 (R12・S13・S14・S15・T15・A15・B16・C16・C17・D18) 1-SD03 (S15・S16・S17・S18) 1-SD04 (C17・C18・D18)	3	1-SD08 (B09) 1-SD10 (D17) 1-SD11 (C10)	1	2-SD04 (P12・P13) (畑の区画もしくは畝)	3	2-SD01 (K12・L12) 2-SD02 (N09・N10) 2-SD03 (P8) (畑の区画もしくは畝)	10
溝状遺構	※H19・イ地区のピット検出については調査上の都合で割愛した。				280		9		289
ピット	6	SK02 (C18)、SK03 (B16) SK16 (P14・P15・Q14・Q15) SK20 (R14)、SK29 (D19) SK30 (D2)	6	SK49 (D10)、SK50 (C10) SK55 (B11)、SK57 (B12) SK58 (B11・12)、SK53 (C12)	14	O12-SK01、O13-SK01 Q10-SK01、Q11-SK01 Q11-SK03、Q12-SK05 Q13-SK02、R10-SK03 R12-SK02、S10-SK02 S10-SK03、T10-SK01 T10-SK02、T10-SK03	0		26
土坑	0		2	(C11) P5・6・7・8周辺 (T11)	1	SX01 (N15・015)			3
貝集中部	0		0		0		1	SX01 (09)	1
用途不明遺構	10		12		296		13		331
合計									

(1) 焼成跡

S12（図版104）とSK56（B11）（図版105）の2ヶ所で焼成跡が確認された。様相は違うがどちらも褐色粘質土中に炭が混ざり、焼土が板状に堆積していたため近世遺構と判断した。S12焼成跡は上位に米軍による造成土が堆積し棒状の鉄製品（現代）が出土した。SK56は周辺にグスク時代以降のピット（掘立柱建物想定プラン含む）が多数検出されており、屋外もしくは屋内炉として使用された可能性もあると思われる。なお、S12焼成跡は調査時には攪乱として扱われ詳細不明。

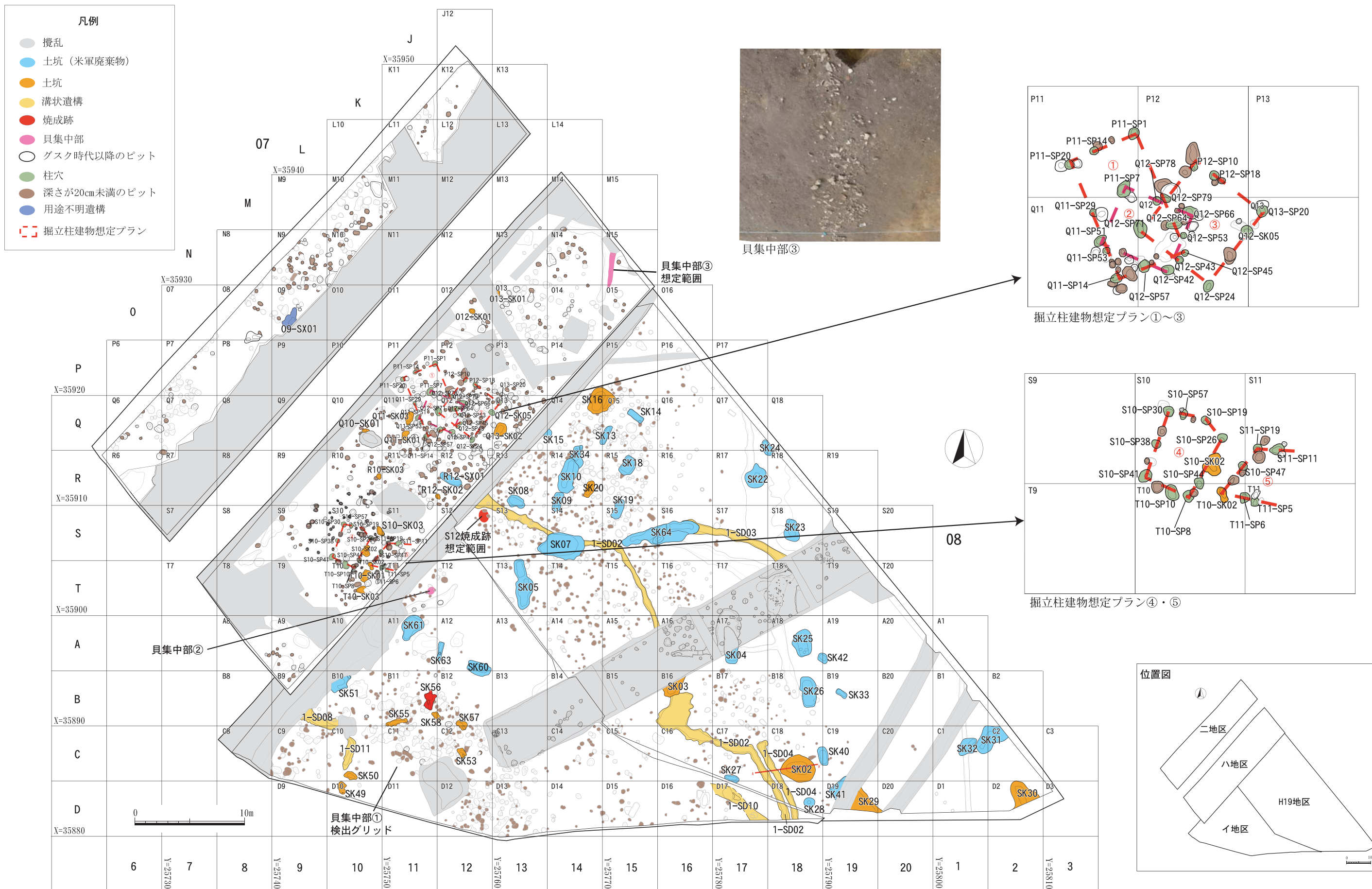


図版104 S12焼成跡

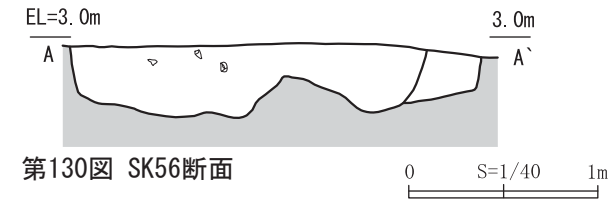
第62表 焼成跡観察一覧

No.	グリッド	サイズ (cm)			形状	遺物	概要説明	時期
		長軸	短軸	深さ				
S12 焼成跡	S12	80	40	15	楕円	上位から鉄製品（現代）が出土	鍋底状に緩やかに凹み、底面に沿って厚さ2～5cmの板状の焼土や炭が見られる。それに平行して褐色粘質土が堆積している。	近世～近代
SK56	B11	184	64	29	不定形	土器（Ⅲ類・Ⅳ類C）・染付皿・沖無壺胴部・ウマ上類・二枚貝有孔製品（シラシ2・リュウキョウナルボ3・シラジミ・リュウキョウバカガイ（貝塚時代後期））・自然貝	拳大の礫が全体に散る。南北に不整形で検出された。中央部に平坦面があり端と端に深まりがある。検出面にて焼成を受けたと思われる粘土塊が出土した。機能は不明。	

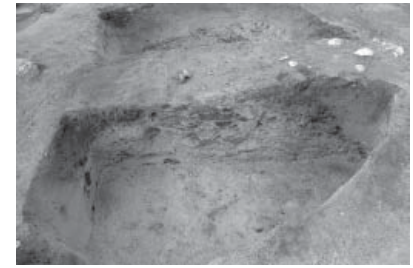
※遺物：土器はⅡ群（貝塚時代後期）を省略して示す



第129図 第Ⅱ層検出遺構



第130図 SK56断面



図版105 SK56堆積状況

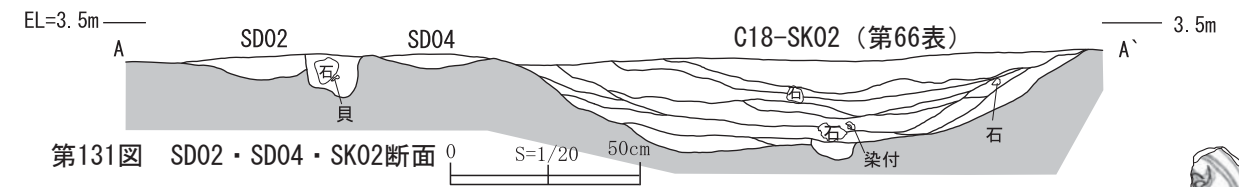
(2) 溝状遺構

溝状遺構は全部で10ヶ所確認できた。うちニ地区とハ地区では畑の区画または畝間溝等と考えられる溝状および段状を呈するところもあったが、近代以降の可能性も否めず報告を割愛し、埋土が褐色粘質土であった近世以降と判断できる6ヶ所を報告する(第63表)。特に1-SD02はH19地区をほぼ横断するように検出されたが、北側のハ地区では確認できなかった(第129図)。

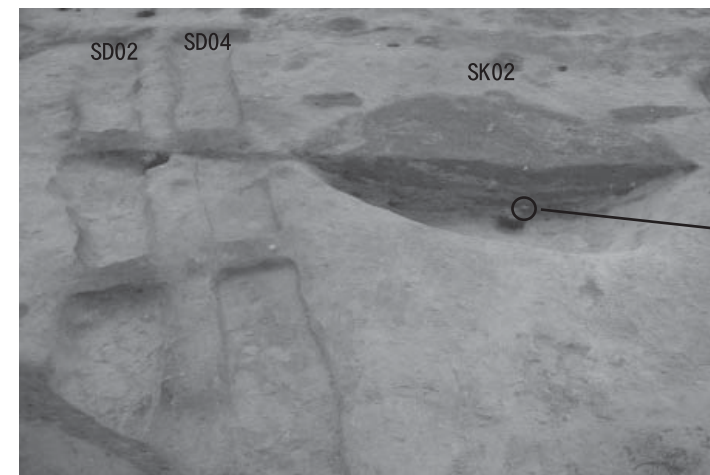
第63表 溝状遺構観察一覧

遺構番号	グリッド	サイズ (m)			方位	遺物	概要	時期
		長さ	幅	深さ				
1-SD02	R12・S13 S14・S15 T15・A15 B16・C16 C17・D18	48	0.8	0.2	北西 南東	沖無壺胴(第146図23)・二枚貝有孔製品(シナミ3・Rサルボ)・土器(口II類・胴IV類B・胴IV類C)・イシノ上腕骨・イシノアタ尺骨・ウシカノ腹or背甲・ジコノ肋骨・軽石・サコ・洪武通寶(第121図3)	北西から南東へ調査区を横切る砂堤の海側に検出された。埋土は旧表土と同質のもので、この遺構に沿って米軍の攪乱が検出されることから近代まで使用されていた遺構と考えられる。ただ、底面が不整で水による堆積が見当たらないことから、「道」として使用された可能性あり。	近世 ～ 近代
1-SD03	S15 S16 S17 S18	17	0.8	0.3	西 東	本磁湯のみ口～底・土器(口I類・胴II類・胴IV類)・イシノアタ上腕骨・イシノアタ機骨・イシノアタ上顎・軽石・自然貝・飲料用ガラス瓶(ガラス製瓶⑤)・鉄製金具	SD02に接続するような形で東西に延びる。埋土はSD02と同じく旧表土と同質のもので、米軍の攪乱がこの溝を切って検出されたことから、近代まで使用されていた遺構と考えられる。底面が不整で水による堆積が見当たらないことから、「道」として使用された可能性あり。	近世 ～ 近代
1-SD04	C17 C18 D18	8	0.8	0.2	北西 南東	—	SD02と並行する形で検出された。埋土も、断面形も同質のもので、同時期の遺構と判断される。東側へ延びているようにも見られたが、明確なプランは確認できなかった。	近世 ～ 近代
1-SD08	B09	3.1	0.63	0.1	西 東	軽石・ウシ中手骨・アホソカサメ	東西方向に伸び、攪乱によって切られる。SD02と近似した埋土で、しまりのある褐色粘質土の単一層である。	近世 ～ 近代
1-SD10	D17	6.1	0.67	0.2	北西 南東	土器(胴IV類B・胴IV類C)・自然貝・ウマ下顎・軽石	検出した遺構の中央部に凹みがあり、埋土中から焼けた礫が出土した。	近世 ～ 近代
1-SD11	C10	2.87	0.74	0.1	北 南	青磁碗底・中国産褐釉壺or甕胴・自然貝・サコ石灰岩	攪乱をばさんで、SD08と接続すると想定されるため同一の遺構であったと思われる。	近代

※遺物：土器はII群(貝塚時代後期)を省略して示す



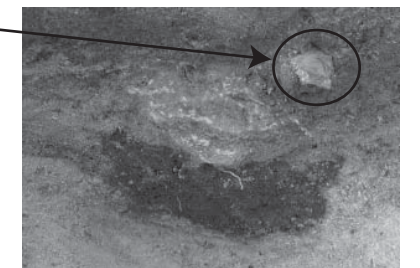
第131図 SD02・SD04・SK02断面



図版106 SD02・SD04・SK02堆積状況

※粘土質層と砂層の互層。
水性堆積。3～4回
掘り返した跡が見られる。

第109図14



拡大：染付出土状況

(3) ピット

第Ⅱ層で検出されたピットはハ地区で280ヶ所、ニ地区で9ヶ所であった。大きさを見ると直径16.0cm～75.5cm、深さ5.0cm～68.0cmとバラつきがあり、平面形は楕円や円形が多く方形や不定形などが見られ、断面形は「U」字状、「V」字状、「W」字状、すり鉢状、皿状、二段状、有段状、逆台形など大きさや形ともに様々であった。ほとんどのピットの埋土や混入物は同一で、土質は粘質で粒子は細かく（シルト）微細貝・炭・赤色粘質粒を含むものであった。ピット同士の切り合いや重なりも多く見られ、第Ⅲ層より検出されたピットを切るだけでなく、第Ⅱ層より検出のピットや土坑とも切り合いが見られたので、掘立柱建物の建て替えや柱の入れ替えが行われた事が窺え、一部ではグスク時代から生活の場として住み続けられた事も考えられる。

今回は深さが20cm以上あり、その径や平面及び断面形状に併せて、ピット同士が等間隔に並ぶ等の理由から掘立柱建物プランが想定できたピットについて柱穴として報告する。ハ地区にて5棟の掘立柱建物プランを想定することができた（第129図）。あくまで想定掘立柱建物プランではあるが、第64表より面積を比較してみると、2タイプあり、プラン①・③はプラン②・④の2倍強にあたる。また、各プランとも長軸上で柱穴の間隔が他に比べて1～2個分開く部分があり、出入り口の可能性が考えられた。

第129図では深さが20cm以下のピットを着色し、その広がりにも着目した。当初は耕作痕、植栽痕などを想定していたが、特に集中部も規則性も無く遺跡全体に広がっていた。また、数個のピットが直線上に等間隔で並ぶことはあるが、その単位で並列する事は無く明確な用途は不明である。

第64表 掘立柱建物想定プラン面積比較

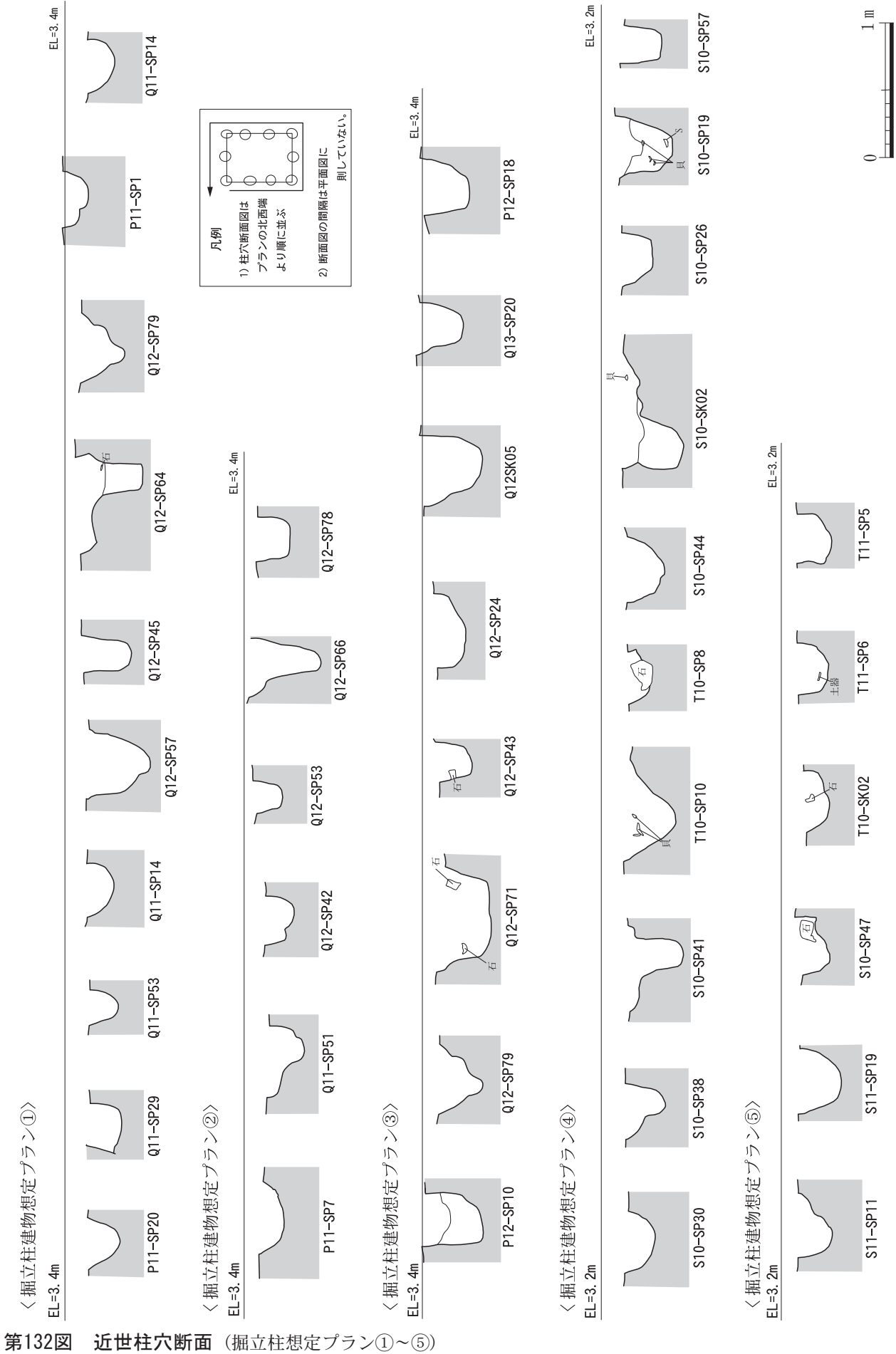
建物想定プラン	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (㎡)	間	方位
①	5.71	3.18	18.16	2×4	北西-南東
②	3.24	2.69	8.72	2×2	西北西-東南東
③	4.06	3.90	15.83	2×2	北東-南西
④	3.13	2.09	6.54	2×2or2×3	北東-南西

※数値は全て小数点以下第3位を四捨五入

第65表 柱穴観察一覧

プラン	柱穴No.	長辺幅 (cm)	短辺幅 (cm)	深さ (cm)	形状	断面形状	遺物	プラン	柱穴No.	長辺幅 (cm)	短辺幅 (cm)	深さ (cm)	形状	断面形状	遺物
①	P11-SP20	41	41	26	円形	U		③	Q12-SP24	62	49	23	楕円形	U	自然貝
	Q11-SP29	42	35	25	不定形	不定形	イノシシorブタ・ウミガメ・土器(胴IV類C・口IV類A・口IV類C)		Q12-SK05	60	43	45	楕円形	U	
	Q11-SP53	32	28	20	円形	U	青磁碗口・ウミガメ甲板・土器胴IV類B		Q13-SP20	52	49	35	方形	U	
	Q11-SP14	56	42	21	楕円形	U	土器胴IV類C・胴VI類・白磁碗(第105図7)・ほ乳類四肢骨片		P12-SP18	44	44	39	円形	皿	
	Q12-SP57	56	43	28	不定形	U	青磁碗口(第100図26)・土器細片・自然貝		S10-SP30	52	46	24	円形	U	
	Q12-SP45	32	30	36	円形	U			S10-SP38	48	35	31	楕円形	二段状	白磁碗・土器底部(第60図205)
	Q12-SP64	71	46	50	楕円形	二段状			S10-SP41	65	50	42	楕円形	二段状	
	Q12-SP79	53	32	34	楕円形	楕円形	獣骨細片・土器細片		T10-SP10	73	57	39	楕円形	V	青磁碗口(第100図25)・染付碗2(第110図22)・二枚貝有孔製品(リュウキュウシラトリ)・獣骨・土器胴IV類C
	P11-SP1	51	46	20	楕円形	二段状			T10-SP8	53	36	20	不定形	不定形	土器胴IV類C
	P11-SP14	40	35	26	円形	U			S10-SP44	52	42	30	楕円形	U	
P11-SP7	83	59	21	楕円形	U		④	S10-SK02	55	37	50	不定形	二段状	沖無細片、イノシシ上腕骨・ウミガメ腹or青甲板、土器口VI類(第54図113)口I類(第42図39)胴VI類・砥石・二枚貝有孔製品(ヒメジャコ)	
Q11-SP51	66	41	26	楕円形	二段状			S10-SP26	42	41	22	円形	逆台形		
Q12-SP42	57	48	22	楕円形	二段状			S10-SP19	56	37	42	楕円形	U	イノシシ四肢骨	
Q12-SP53	29	28	37	円形	U	二枚貝有孔製品(ヒメジャコ)		S10-SP57	48	37	32	楕円形	U		
Q12-SP66	71	52	55	楕円形	U	染付碗・中国産褐釉壺・ハリセンボン前上顎骨or歯骨・ウシorウマ四肢骨、土器(胴V類エ・胴IV類A)		S11-SP11	69	51	26	楕円形	V		
Q12-SP78	38	32	25	円形	U			S11-SP19	50	40	31	円形	U		
P12-SP10	60	27	48	不定形	U			S10-SP47	29	15	23	楕円形	二段状		
Q12-SP79	53	32	34	楕円形	V	獣骨細片		T10-SK02	40	38	18	不定形	皿	青磁碗口	
Q12-SP71	83	60	42	楕円形	U	土器(胴IV類B・口VII類(第55図126))・青磁碗(口・胴)		T11-SP6	45	38	23	楕円形	U	土器口V類B(第51図87)胴V類ア・イノシシ四肢骨	
Q12-SP43	37	34	24	円形	U			T11-SP5	44	33	25	不定形	U		

※遺物：土器はⅡ群(貝塚時代後期)を省略して示す



第132図 近世柱穴断面（掘立柱想定プラン①～⑤）

(4) 土坑

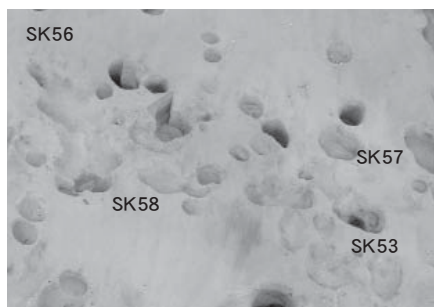
第Ⅱ層より近世～近代に使用されたと考えられる土坑が26ヶ所検出できた。平面形は円や楕円など丸みをもつものが多く、断面形では二段状や深鍋状が多く見られ、「U」字、「V」字、皿状も見られた。深さは14cm～110cmまで様々であるが20cm～30cmがやや多めである。埋土は粘質で細かく(シルト)微細貝と炭、赤色粘土粒を含むものがほとんどであった。用途は不明だがほとんどの土坑がピット群に混在している(図版107)ことから柱穴の可能性もあり、特にQ12-SK05はそのサイズや形状、掘立柱建物想定プラン③での位置からも柱穴と考えられた。中にはB16-SK03・R14-SK20・C18-SK02(第131図)のように粘質土と砂層の互層による水性堆積が見られる土坑や、直径28cmの木製柱と埋土に切られ近代の遺構を米軍が再利用した可能性のある土坑(P14・P15・Q14・Q15-SK16(図版109))も検出された。切り合い関係ではピットと同様に第Ⅲ層のピットや土坑を切るだけでなく、第Ⅱ層のピットや土坑を切る事もあった。

第66表 土坑観察一覧

遺構名 (グリッド含む)	サイズ (cm)			平面 形状	断面 形状	遺物 (備考)	時代
	長径	短径	深さ				
O12-SK01	59	46	35	円	V	自然貝	近世
O13-SK01	57	39	55	楕円	二段	遺物無し。O13-P49を切る	近世
Q10-SK01	78	33	14	楕円	深鍋	遺物無し。大部分が攪乱によって消滅している。	近世
Q11-SK01	92	43	53	楕円	二段	イノシシ四肢骨・自然貝	近世
Q11-SK03	343	50	45	方	深鍋	土器(口IV類A・胴IV類B)・磨石・青磁碗2・タイ産褐釉壺・焼土・獣骨細片・自然貝	近世
Q12-SK05	60	43	45	楕円	U	遺物無し。掘立柱建物想定プラン③	近世
Q13-SK02	138	115	56	楕円	二段	青磁碗口胴細片・中国産褐釉不胴・タイ産褐釉壺・タイ産鉄絵合子蓋(第119図3)・ウミガメ腹or背甲板・獣骨細片・石材・土器(細片・胴IV類C・IV類)・二枚具有孔製品(ヒメジャコ)・自然貝	近世
R10-SK03	67	62	22	楕円	V	土器口胴IV類C・二枚具有孔製品(ヒメジャコ)・自然貝	近世
R12-SK02	69	54	14	楕円	皿	獣骨細片・土器(口V類エ・胴IV類C・胴IV類・胴II群)	近世
S10-SK02	55	37	50	不定	二段	沖無細片・焼土・ウミガメ腹or背甲板・土器(口底IV類(第54図113)・口I類(第42図39)・砥石・自然貝・二枚具有孔製品(ヒメジャコ)	近世
S10-SK03	93	62	26	楕円	深鍋	土器胴IV類C・自然貝	近世
T10-SK01	109	55	32	方	二段	青磁碗口・沖施碗口・イノシシorブタ肋骨・獣骨細片・土器胴IV類C・二枚具有孔製品(リュウキュウサルボオ)・自然貝	近世
T10-SK02	40	38	18	不定	二段	青磁碗口444(台2229)・貝3804	近世
T10-SK03	94	87	15	不定	皿	遺物無し。P13の隣。一部攪乱を受ける。	近世
D10-SK49	119	50	22	楕円	V	沖施細片・沖無播胴・自然貝	近世～近代
C10-SK050	120	74	20	楕円	深鍋	白磁碗胴・自然貝・土器細片	近世～近代
B11-SK055	199	53	28	楕円	二段	獣骨細片・自然貝	近世～近代
B12-SK57	106	71	34	楕円	深鍋	青磁碗・自然貝・焼土	近世～近代
B11・12-SK58	94	49	27	楕円	V	軽石・自然貝・ジュゴン?岩様骨	近世～近代
C12-SK53	82	55	36	長方	二段	自然貝	近代
C18-SK02	420	250	80	楕円	深鍋	染付碗底(第109図14)	近代
B16-SK03	(240)	(110)	90	方	深鍋	染付碗胴・沖施火取口(第140図15)・沖施瓶胴・沖無播胴3(第144図7)・自然貝・土器細片・軽石	近代
P14・P15・Q14・Q15-SK16	240	210	110	楕円	深鍋	青磁碗胴2・本磁湯のみ・沖無壺or甕胴細片・陶質火炉口(第147図3)・土器胴III類・獣骨細片・自然貝・木柱	近代
R14-SK20	150	80	40	楕円	V	青磁皿胴・本磁碗口・自然貝・土器細片・ウシ中節骨	近代
D19-SK29	(280)	(180)	70	不定	—	遺物無し。旧表土からの掘り込み。	近代
D2-SK30	(230)	190	60	方	—	遺物無し。底部より木枠が出土。木枠は幅70cm、長さは壁に切られ不明だが1.8m以上ある。間に間仕切りあり。	近代

() はおよその数値

※遺物：土器はⅡ群(貝塚時代後期)を省略して示す



図版107 イ地区土坑検出状況



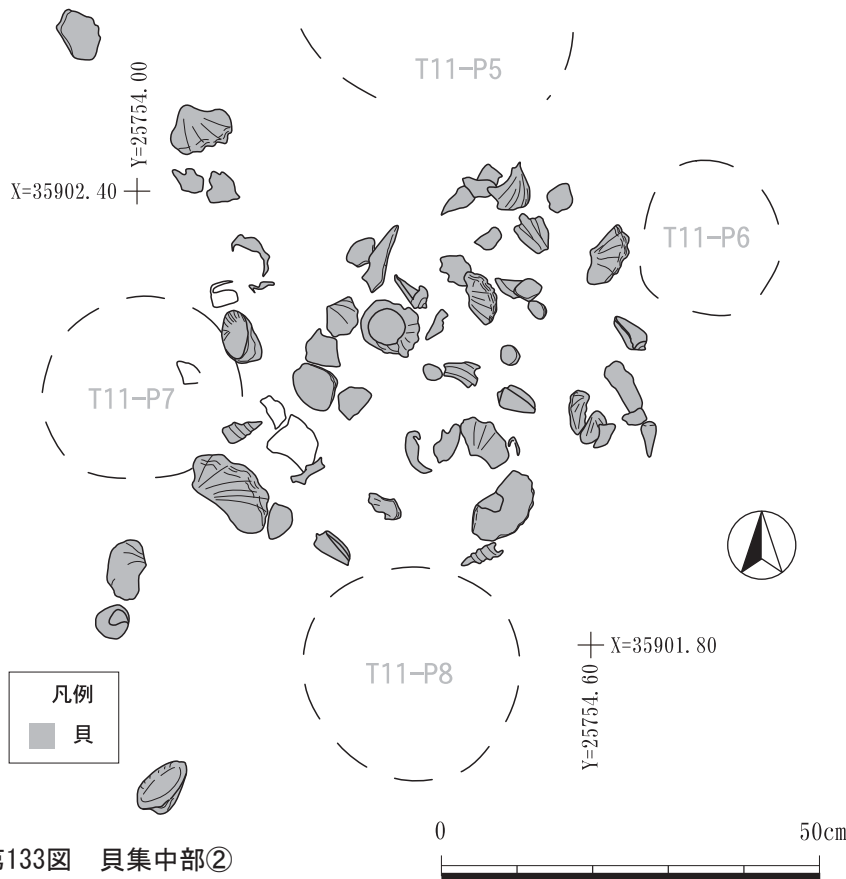
図版108 S10-SK03



図版109 P14・P15・Q14・Q15-SK16

(5) 貝集中部

第Ⅱ層からは貝集中部が3ヶ所で確認できた。遺構名が付いていないため便宜的に①～③の番号を付け報告する。①:C11検出貝集中部(図版110)、②:T11検出貝集中部(第133図、図版111)、③:ハ地区北側のN15・015検出貝集中部(第129図)とする。貝の出土数は第67表のとおりで、①では主に中型の二枚貝がおよそ25cm×20cmの方形状に集中して検出された。合弁したマスオガイが4組見られることから、一括廃棄されたものと思われる。②ではグスク時代のピットであるP5・6・7・8の上層におよそ40×60cmの方形状を呈する形で検出された。大型の二枚貝とその破片が多く出土しているので、ピットが使われなくなり第Ⅱ層が堆積した後、①と同様に人為的に廃棄されたと考えられる。③では二枚貝と巻貝の破片がおよそ3.3m×0.3mの範囲で帯状に広がっていた。グスク時代の溝状遺構である2-SD06上部に該当するので、窪みが残り滞留し易かったと考えられる。貝と共に赤色粒や焼土・礫も混ざっていたことから自然堆積の可能性が高いと思われるが、検出時は用途不明遺構(SX01)として扱われていたため詳細は不明。なお、貝集中部①については位置が特定できなかったため第129図では出土グリッドを明示している。



第133図 貝集中部②



図版110 貝集中部①



図版111 貝集中部②(南東より)

第67表 貝集中部出土量

貝集中部		①	②	③
貝種	最少個体数 (破片数)	最少個体数 (破片数)	最少個体数 (破片数)	最少個体数 (破片数)
アラスノケマン			1	17
アラスノガイ	(1)			
イノハマグリ	1	7	11	
エガイ	1	1	1	
オイノカガミ	1			
オハグノカガキ		2		
オハグノカガキモトキ		(1)		
カワガイ	1	4 (1)	16	
シヤコウ	1	(3)	(3)	
シヤコウイ科	1		(6)	
シナシ	2	10 (28)	8 (8)	
シナシシ		1 (1)	2	
スタノハマグリ	1	1	1	
ヌノガイ	2		3	
ヒメシヤコ	1	2	4 (2)	
ヒメシヤコ	(1)		(1)	
ホリスノイナミ	6	1	1	
マスオガイ	139	1	2	
メンガイ類		2	1	
ユウカガハマグリ	(1)			
リュウキュウサルホオ	1	2	2 (2)	
リュウキュウシラトリ	3	2		
リュウキュウマスオ	2		(1)	
アマオガネ		1		
アンボノクロホメ			3 (2)	
ウズラガイ		1		
オノツノガイ		2 (1)	5	
カンゼキボラ		2	3 (2)	
クモガイ	1 (3)	1	4 (2)	
サササバテラ	1	2 (4)	8	
ハマノエキ	1			
チョウセンササエ		2	2	
ツルレイシ		2 (1)	(1)	
ニシキウスガイ	1			
ホフガイ		1 (2)		
マカキガイ		14 (6)	106	
イトマキボラ			1 (1)	
イボシテガイ			1 (1)	
カンギクガイ			1	
コオコアシ			5	
スシガイ			1 (1)	
マダライモ			2	
ヤナキシホリ			1	
中型イモガイ			2 (2)	
大型イモガイ			1 (1)	
陸産貝				
オキナウキマクシ		10		
シムリマイ		1		
パンダマイ		10 (5)		

※主要貝種

2. 出土遺物

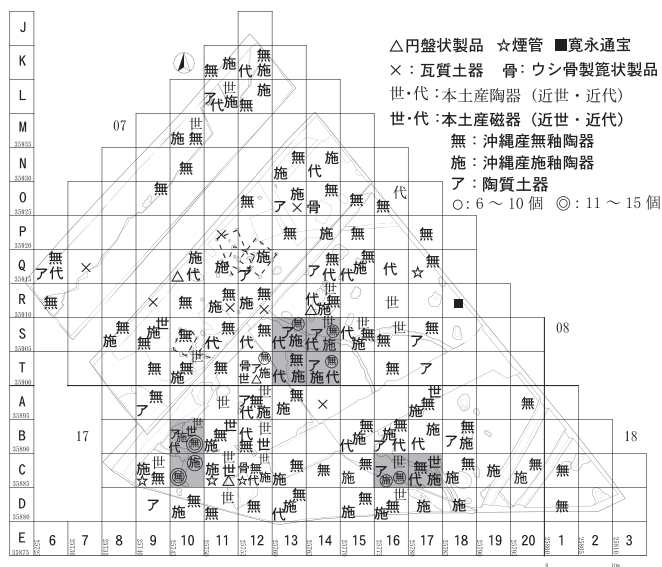
第Ⅱ層から出土した遺物は17C半ばからの使用が考えられる本土産陶磁器（唐津・有田）、沖縄産陶器（湧田・壺屋）、陶質土器、瓦、煙管、銭貨（寛永通宝）、先島系土器、円盤状製品と19C半ば（明治維新以降）の本土産近代陶磁器（瀬戸美濃・砥部・萬古）、米軍廃棄に伴うガラス瓶や金属製品などである。なお、瓦質土器は第Ⅲ層からの出土であるが、近世の生産遺跡である湧田窯で作られた製品と考えられるので近世の遺物として扱う。出土量が多いのは沖縄産無釉陶器（227点）で鉢類と壺もしくは甕と考えられる容器類が多く、以下、沖縄産施釉陶器（99点）、瓦（63点）、本土産近代磁器（57点）、陶質土器（30点）等が続く。出土量の多い箇所はS13・14、T13・14やC16・17（H19地区）、B10・C10（イ地区）である。グスク時代の遺物分布と比較してみるとハ・ニ地区で見られた遺物の集中は無くなり、H19地区やイ地区で見られた集中箇所に併せてC16・17周辺で1ヶ所増えている。いずれもグスク時代の掘立柱建物想定プランの直近であり南西方向にずれる。以下、各々の遺物について概略する。

第68表 近世～近代出土遺物概要

出土遺物	備考
瓦質土器	湧田産瓦質土器：16C後半～17世紀前半
本土産陶器（近世）	唐津（砂目）・内野山（銅緑釉）・薩摩（貝目）
本土産磁器（近世）	有田・波佐見（山水文・見込み荒磯文）
沖縄産無釉陶器	湧田古窯跡：17C中葉、喜名・知花古窯：17C後半
沖縄産施釉陶器	灰釉碗（1667～）酸化コバルト（1885以降）
陶質土器	壺屋焼開始（1682）
本土産磁器（近代）	明治以降昭和初期。日用雑器が大量に移入された
本土産陶器（近代）	四日市萬古焼（半磁器製品「大正焼」）
銭貨	日本銭（寛永通宝）

出土遺物	17C	18C	19C	20C
瓦質土器	■			
本土産陶器（近世）	■	■		
本土産磁器（近世）	■	■		
沖縄産無釉陶器	■	■		
沖縄産施釉陶器		■		
陶質土器		■		
本土産磁器（近代）			■	
本土産陶器（近代）			■	
銭貨	■			

※ ■ 出土遺物推定製作期間



第134図 近世～近代遺物分布状況

第69表 近世～近代遺物出土量

地区	グリッド	沖無	沖施	陶質土器	本磁	瓦	合計
H19	A14					1	1
H19	A17	1	2			2	5
H19	A20	1	3				4
H19	B15	2	4		1	1	8
H19	B16	4		1	2		7
H19	B17		1		1	1	3
H19	B18	1	2	1		1	5
H19	C01	1					1
H19	C15	2					2
H19	C16	6	7	1		2	16
H19	C17	5	3		4		12
H19	C18	3					3
H19	C19		1				1
H19	C20	2	1				3
H19	D01	1					1
H19	O16	1					1
H19	P16					3	3
H19	P17	1					1
H19	Q14	5		1	1	2	9
H19	Q15	2	1		1		4
H19	Q16				1		1
H19	Q17	1					1
H19	R14	5	4		1		10
H19	R16					1	1
H19	S12	4					4
H19	S13	9	1	3	1	5	19
H19	S14	6	2	1	2	5	16
H19	S15	1	1		2		4
H19	S16	5			1		6
H19	S17	3		1		1	5
H19	T13	3	2		1	4	10
H19	T14	7	4	1	1	4	17

地区	グリッド	沖無	沖施	陶質土器	本磁	瓦	合計
H19	T15					1	1
H19	T16	1				1	2
H20	T17			1			1
H19	試験トレンチ			1			1
H19	ー			3	12	15	15
イ	A11	5				1	6
イ	A12	2	1	1	1	1	5
イ	A13	2	2				4
イ	B10	14	1	1	3		19
イ	B11	3	2		2		7
イ	B12	2			2		4
イ	C09	4	2				6
イ	C10	14	5		1		20
イ	C11	7	3		1		11
イ	C12	4	3		1		8
イ	C13	1	1				2
イ	C14	1					1
イ	C15		2				2
イ	D9			1			1
イ	D10	1	1				2
イ	D11	1			1		2
イ	D12	1					1
イ	D13	4	1		1		6
イ	D15	1	1		1		3
イ	D16	2	1				3
イ	D17	1					1
イ	D18	1	1				2
イ	P15	1					1
イ	T11	1					1
イ	T12	6	1	1	1		9
イ	ー					1	1
ハ	A09	2		1			3
ハ	N13	1	1				2

地区	グリッド	沖無	沖施	陶質土器	本磁	瓦	合計
ハ	N14		2		2		4
ハ	O12	1					1
ハ	O13		2	3			5
ハ	O14	2					2
ハ	O15	1					1
ハ	P13	1					1
ハ	P14		1				1
ハ	Q10		1		1		2
ハ	Q11		1				1
ハ	Q12	2	1			1	4
ハ	R10	1					1
ハ	R11	1	4				5
ハ	R12	2	3			2	7
ハ	S08	1	2				3
ハ	S09	4	1			1	6
ハ	S10	1					1
ハ	S11				2		3
ハ	S12				1	1	2
ハ	T09	2					2
ハ	T10	1	1				2
ハ	ー	9	3	3	3	4	22
ニ	K11	2	1				3
ニ	K12	3	3		2	1	9
ニ	L11		1	1	1		3
ニ	L12	2	1				3
ニ	M10	5	1				6
ニ	N10	1					1
ニ	O09	1					1
ニ	Q06	1		1	3		5
ニ	R06	1					1
ニ	ー	7		4	6	1	18
不明	合計	13	1				14
合計		227	99	30	57	63	476

(1) 瓦質土器

湧田産と思われる瓦質土器で壺の肩部3点・底部1点、香炉1点、不明胴部2点の合計7点が出土した。器色は灰褐色で芯部にうっすらと灰黒色を呈するものが多いが、陰刻された資料について素地と器面の色調が違うのはあるいは何らかの着色が行われた可能性も考えられ、他の破片と併せてタイ産の可能性も否めない事から、今後、類似資料の増加を待ちたい。瓦質土器は主に第Ⅲ層より出土しており、遺構から確認されたのはP11-SK01では二枚貝有孔製品（シラナミ）・獣骨細片、R11-SP5・6では自然貝、Q7-P21では青磁碗口縁部・小型石斧（第63図3）・獣骨細片と伴出していた。いずれの遺構もピット集中部からはやや離れているが、周辺からはグスク時代の遺物が多数出土している。なお、H19地区A14第Ⅳ層より壺の底部が出土しているのは第Ⅲ層からの混ざり込みと考えられる。

以下、器種ごとに略述し、主な遺物については第71表に詳細を記載し、第135図、図版112に示す。

A. 壺

壺は全部で4点確認できた。うち3点が肩部で2点は沈線で圏線と唐草と思われる文様が陰刻される（図1・2）。底部は1点の確認できたが、腰部の叩き目と胎土の状況からタイ産半練土器の可能性も考えられる（図4）。

B. 香炉

香炉は底部が1点出土した。底面からほぼ直線的にやや外傾しながら口縁まで移行するタイプで、3カ所に三角錐状の脚を貼り付けるようである（図5）。

C. 器種不明

胴部が2点確認できた。うち1点は内傾気味の器形で素地や器色は図3の壺肩部と酷似する。小破片のため図示はしていない。図6は直線的な器形で、素地に微細な角閃岩を多数含み、器色は淡灰色と濃灰黒色のサンドイッチ状を呈するためタイ産半練土器の可能性も考えられる。

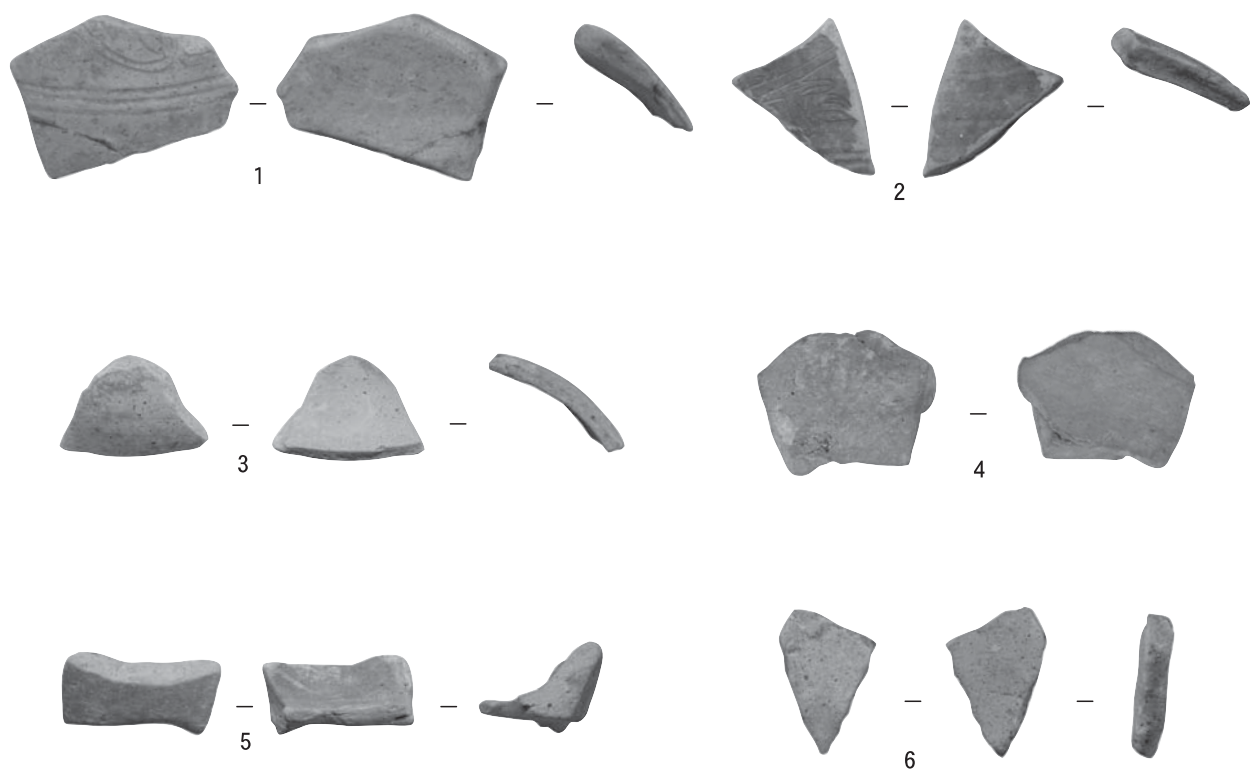
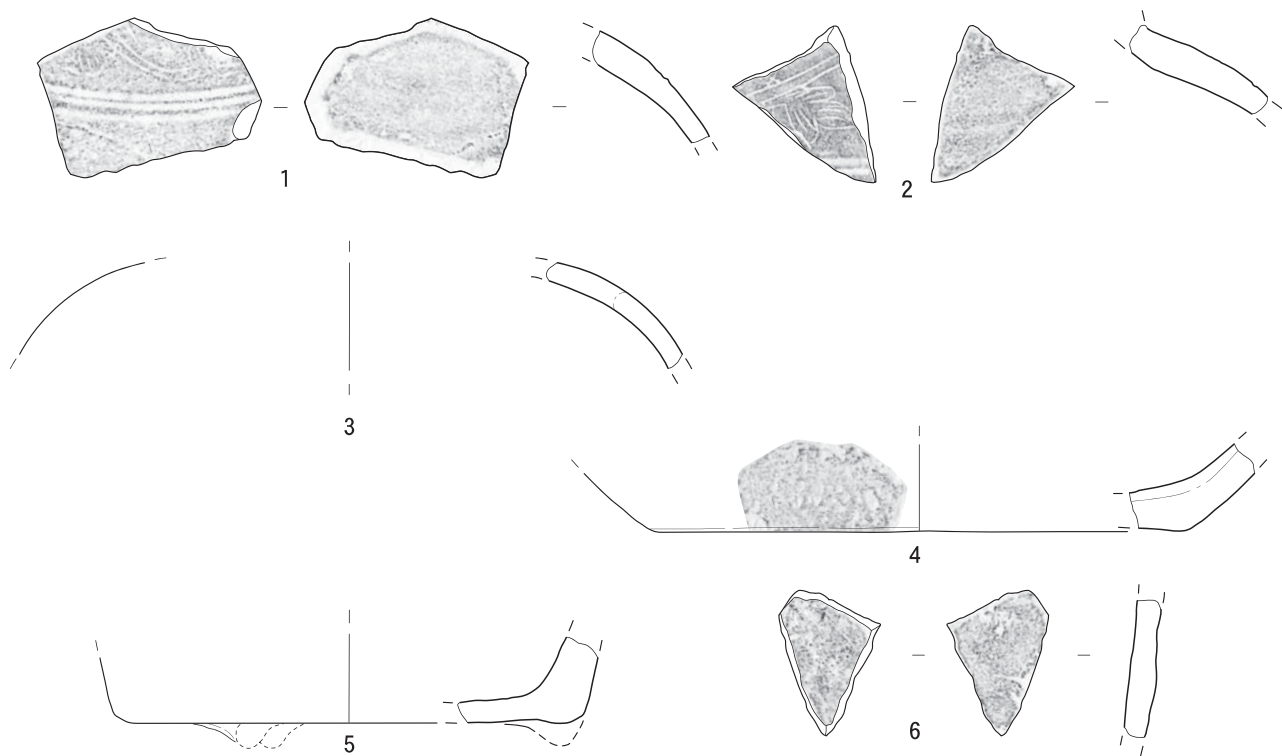
第70表 瓦質土器出土量

地区	器種・部位	壺			不明 胴	合計
		肩部	底部	香炉 底部		
H19	Ⅳ		1			1
ハ	Ⅱ				1	1
	Ⅲ	2				2
	Ⅲ（遺構）	1		1		2
ニ	Ⅲ（遺構）				1	1
合計		3	1	1	2	7

ハ地区Ⅲ（遺構）：P11-SK01 R11-SP5・6
ニ地区Ⅲ（遺構）：Q7-SP21

第71表 瓦質土器観察一覧

第図 図版	番号	器種	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	色調 (芯部)	混和材	器面		文様等	地区 小グリッド 層（遺構） 台帳番号
									内面	外面		
第135時 図版112	1	壺	肩	- - -	16.63	4~8 上部は 厚い	灰褐色 (灰黒色)	黒色粒 茶色粒 石灰質砂粒	指ナデ	指ナデ	沈線で3条の圏線 と直上に唐草？を 描く	ハ 013 Ⅲ 台2309
	2	壺	肩	- - -	9.72	8~6 上部は 厚い	灰茶褐色 (灰黒色)	黒色粒 茶色粒 石灰質砂粒	指ナデ	指ナデ 篋削り	沈線で圏線と直上 に唐草？を描く	ハ R9 Ⅲ 台2131
	3	壺	肩	- - -	15.74	6	灰褐色 (灰黒色)	雲母 黒色粒 石灰質砂粒	ナデ消し 指圧	指ナデ (左から右 への斜位)	積み上げ痕が残る	ハ R11 Ⅲ (SP5・6) 台1960
	4	壺	底	- - 14.3	25.47	器 厚:12 底厚:8	橙褐色	赤色粒 若干の黒色粒と 石灰質砂粒	指ナデ	未調整	腰部外面に叩き目	H19 A14 Ⅳ 台2025
	5	香炉	底	- - 12.4	29.72	器厚:9 底厚:5	灰褐色	雲母 黒色粒 石灰質砂粒	指ナデ	指ナデ 指圧	脚部は貼り付け	ハ P11 Ⅲ (SK01) 台1843
	6	器種 不明	胴	- - -	5.61	6	淡灰色 (灰黒色)	微細な角閃岩多数 茶色粒 石灰質砂粒	指ナデ	未調整	底部もしくは蓋の 可能性あり	ニ Q7 Ⅲ (SP21) 台2371



第135図・図版112 瓦質土器

(2) 本土産陶器（近世）

17世紀から明治時代までに製作されたとされる本土産の陶器が合計20点得られた。碗4点、皿3点、壺1点、播鉢7点、甕1点、器種不明4点で、生産地としては薩摩、内野山、唐津が確認できた。ほとんどが第Ⅱ層からの出土であるが、第Ⅲ層から備前産播鉢と瀬戸産天目茶碗と内野山産碗が出土している。なお、備前産播鉢と瀬戸産天目茶碗は近世よりも古い可能性が高いが、いずれも長期に亘って製作されてきた製品であるため、当項で報告する。

伴出関係を見てみると、第Ⅱ層期の遺構B12-SK59では青磁碗（第100図32）と器種不明胴部（薩摩産）、C11-P20では肥前系碗と碗底部（内野山産）が伴出し、第Ⅲ層期の遺構A11-SK62では白磁碗底部（第105図14）・青磁・染付・中国産褐釉陶器壺底部（第117図39）・沖縄産無釉陶器・磨石・軽石・獣骨（ウシ）と碗腰部（内野山産）が伴出していた。また、遺構外でも沖縄産陶器及び本土産陶器・近代磁器などと伴出することが多かった。（第134図）。

以下、器種ごとに略述し、主な遺物については第74表に詳細を記載し、第137図、図版113に示す。

A. 碗

内野山産と瀬戸天目と思われる碗が確認できた。前者は碗の直口口縁部・胴（腰）部・底部で後者は底部である。内野山産の資料は高台から斜め上方に向けて胴部が伸び口縁部に至ると思われる器形で、いずれも轆轤水挽きで成形され、内面は灰釉や鉄釉を外面は腰部に露胎部を残し、銅緑釉を掛ける掛け分け碗であった。図1は腰部から底部にかけての資料で高台内側には兜巾と呼ばれる円錐状の突き出した削り残しが見られる。1650年代～1690年代に内野山で生産されたようである。露胎部分の複数箇所に銅緑釉の釉垂れが見られる。図2は瀬戸天目と思われる碗の腰部で、高台脇に挟が入り、胴部にかけて逆「ハ」字状に開く。口縁下で角度を変えて立ち上がるタイプだと思われる。

B. 皿

皿は唐津産と薩摩産が確認できた。唐津産は内面に白化粧土を施し、刷毛目文様を描いた上に透明釉を掛けている。薩摩産は鉄釉を直掛けする。図3は口縁部で口唇は玉縁状である。1780年～1860年代に唐津で生産されたようである。図4は薩摩産の皿の底部で高台は低く、見込みに胎土目が一部残る。外面腰部には不規則に釉が垂れる。図5は唐津産の皿の底部で見込みに砂目が確認できる。高台内の削りが高台脇より深く削りこまれている。17世紀に生産されたようである。

C. 壺

薩摩産と思われる壺の胴部が1点確認できた。器壁は薄いため小型の壺胴部と思われる。素地は赤褐色で粗く黒色粒や白色粒が混ざる。轆轤痕が明瞭である。小破片のため報告は割愛した。

D. 播鉢

播鉢は全部で7点出土し、産地不明の底部1点以外は全て備前産であった。櫛目は6～9本を一組とし、櫛目間も1.5～3mmと様々であったが、胴部に櫛描きの重複は見られなかった。図6は原形の推定可能な片口部の資料である。縁帯の外面は無文で下部の鰐状肥厚部の突出はあまり強くない。図7は胴部で轆轤痕が明瞭である。図8・9は底部で腰部に比べ底部の器壁は薄くなる。

第72表 本土産陶器（近世）出土量

地区	器種・部位	碗		皿	壺	播鉢		甕		不明	合計	
		口	腰	底	底	胴	口	胴	底	口		胴
H19	Ⅱ				1	1				1		4
	Ⅲ			1								1
イ	Ⅱ	1			2					1	1	5
	Ⅱ（遺構）			1						1		2
	Ⅲ						1					1
	Ⅲ（遺構）	1										1
ハ	Ⅰ										1	1
	Ⅱ						1					1
ニ	Ⅱ						2	2				4
合計		1	1	2	3	1	1	3	3	1	1	3
器種合計		4		3	1	7		1	4		20	

イ地区 Ⅱ（遺構）：B12-SK59 C11-P20
Ⅲ（遺構）：A11-SK62

E. 甕

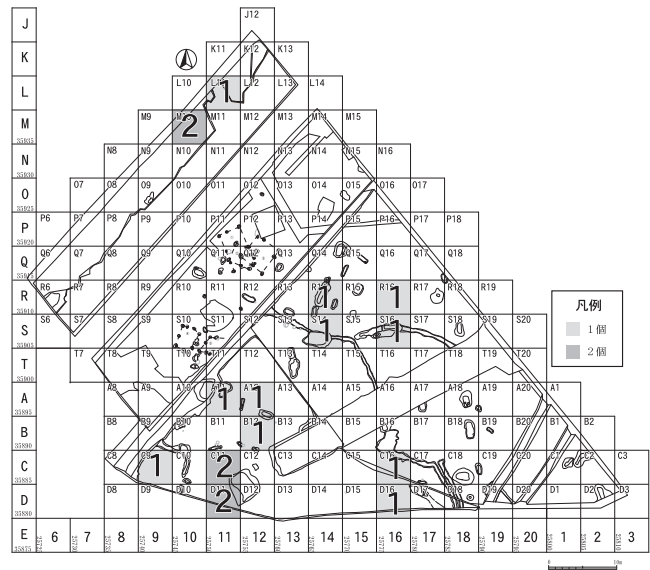
図10は薩摩産の甕の口縁部である。口縁部内側下及び外面から粘土を貼り付け、断面三角形状にする。口唇部は中央がやや盛り上がり、その箇所は釉は拭き取られ、貝目が残る。

<参考文献>

九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』

第73表 産地別出土量

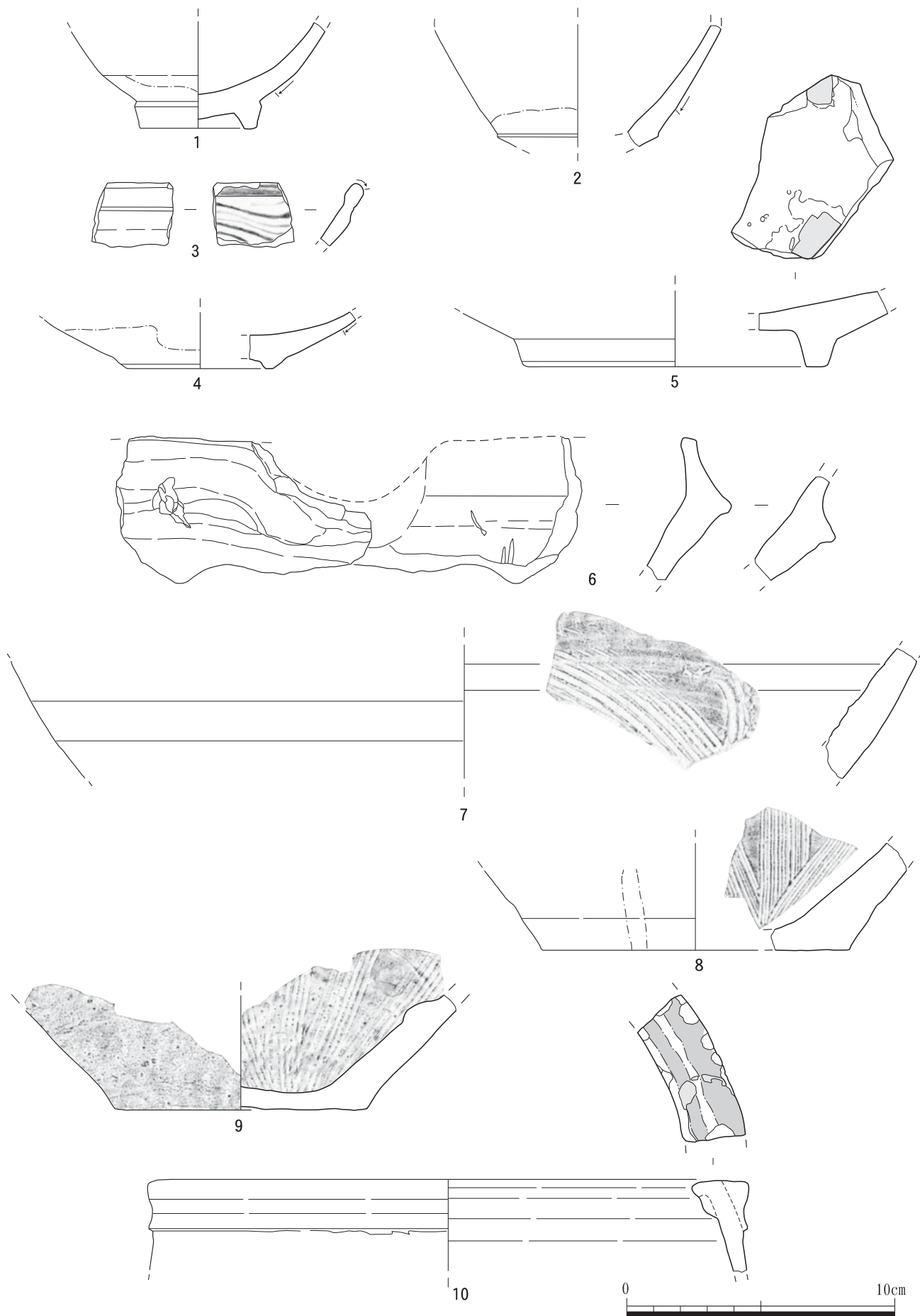
産地	部位	碗		皿	壺	播鉢		甕	不明		合計
		口	腰	底	胴	口	胴	底	口	胴	
瀬戸美濃				1							1
備前						1	3	2		1	7
唐津					2						2
内野山	1	1	1						1	1	3
薩摩			1		1			1	1		4
不明							1			2	3
合計		1	1	3	2	1	3	3	1	1	20



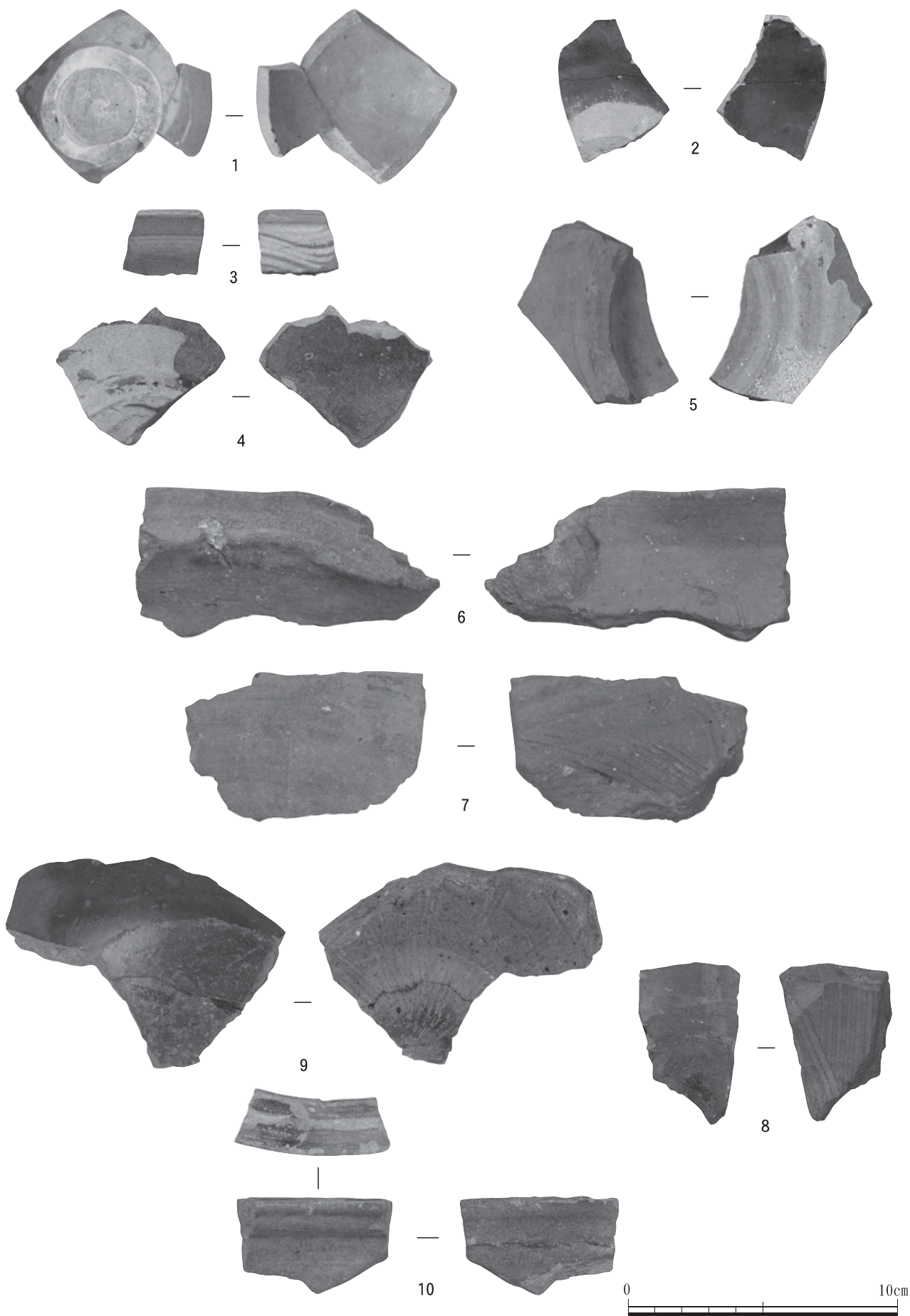
第136図 本土産陶器（近世）平面分布

第74表 本土産陶器（近世）観察一覧

第図版	番号	器種	部位	口径器高底径 (cm)	重量 (g)	素地	観察事項	産地	地区小グリッド層 (遺構) 取上番号 台帳番号
第137図・図版113	1	碗	底	4.4	63.21	淡灰白色で粒子はきめ細かく精良	外面：腰部に露胎部を残し銅緑釉を掛ける 内面：灰釉 内外面ともに細かい貫入が入る。高台はほとんどが破損しているが、一部畳付けに胎土目が見られる。高台内側に兜巾。	内野山 (17C 後半)	イ C11 (P20) 取60 台2160
	2	碗	底	4.0	16.77	灰白色で微粒子。若干黒色粒が混ざる。	外面：腰部に露胎部を残し鉄釉を掛ける 内面：鉄釉 天目碗の可能性	瀬戸美濃 (16C)	H19 S16 III 台2442
	3	皿	口縁	-	6.5	灰白色で微粒子	口唇部は玉縁状にする 内面：白化粧土を掛け刷毛目文様を描いた上に透明釉を掛ける。外面：土見せ	唐津 (18C 後半)	イ A12 II 台1660
	4	皿	底	5.4	26.57	橙褐色で微粒子	外面：腰部まで鉄釉を掛けるが、一部高台脇まで垂れる 内面：全面に鉄釉を施す	薩摩	H19 R16 II 台2379
	5	皿	底	11.4	68.47	暗赤褐色で微粒子	見込み：白化粧土を掛け刷毛目文様を描いた上に透明釉を掛ける。2箇所砂目が残る 外面：残存部は無釉	唐津 (17C 前半)	イ D11 II 台1690
	6	播鉢	口縁	-	108.14	暗褐色で橙褐色を挟む粗粒子 白色粒を多く含む	縁帯の外側は無文で下部の鰐状肥厚部の突出は弱い。縁帯内面立ち上がり部分に横位のへら調整痕が巡る。破損のため櫛目は2本のみ確認でき、櫛目間は2mm。	備前	ハ II 台1548
	7	播鉢	胴	-	88.6	赤褐色で粗粒子 黒・赤色粒と砂粒を含む	櫛目は9本以上を1組とし重複せず、櫛目間は1.5～2.5mmと一定ではない。粘土の輪積みの様子が明瞭に残る。	備前 (16C)	イ C11 III 取326 台1635
	8	播鉢	底	11.4	47.09	橙褐色と暗褐色で暗青灰色を挟む	櫛目は7本を1組とし重複せず、櫛目間は1.5～2mmと一定ではない。櫛描きの間隔は4mm以上。器壁厚13mm、底厚8mm。	不明	H19 S14 II 取43 台2385
	9	播鉢	底部	9.4	83.5	淡灰色で大粒の黒色粒多、白色細粒若干含む	櫛目は6本を1組とし重複せず、櫛目間は1.5～3mmと一定ではない。櫛描きの間隔は1.3cm以上。焼き膨れが多い。器壁厚8mm、底厚6mm	備前	ニ M10 II 台2383
	10	甕	口縁	-	34.8	赤褐色で粗粒子 若干の赤色粒と黒色粒を含む	口縁部は内側下及び外面から粘土を貼り付け断面三角形状にする。口唇部には重ね焼きのための貝目が残る。器厚：7mm	薩摩	イ D16 II 台1780



第137図 本土産陶器（近世）



図版113 本土産陶器（近世）

(3) 本土産磁器 (近世)

明治時代以前に製作されたとされる肥前系染付の碗2、小碗1、大碗4、皿1、瓶1の合計9点を確認した。素地や文様から生産地は有田や波佐見が考えられた。9点のうち3点がピット出土でB12-P22では中国産褐釉陶器と中国産染付、B11-P26では中国産染付・石器・獣骨、C11-P20では中国産褐釉陶器・中国産染付(第109図20)・内野山産碗(第137図1)・二枚貝有孔製品(シラナミ)と伴出した。周辺はグスク時代以降と考えられるピットが多数検出されており、特にB11-P26は掘立柱建物想定プラン(15)に含まれる。なお、A17-SK04では沖縄産施釉陶器・瓦・青磁と伴出するがSK04は米軍攪乱である。また、第Ⅲ層より出土している遺物は第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。

今回は出土数が少ないため個々の資料の特徴について観察一覧にて示し、その中から残存状態の良好な大碗4点と瓶1点を第138図に掲げ、2点を写真図版のみで紹介する。

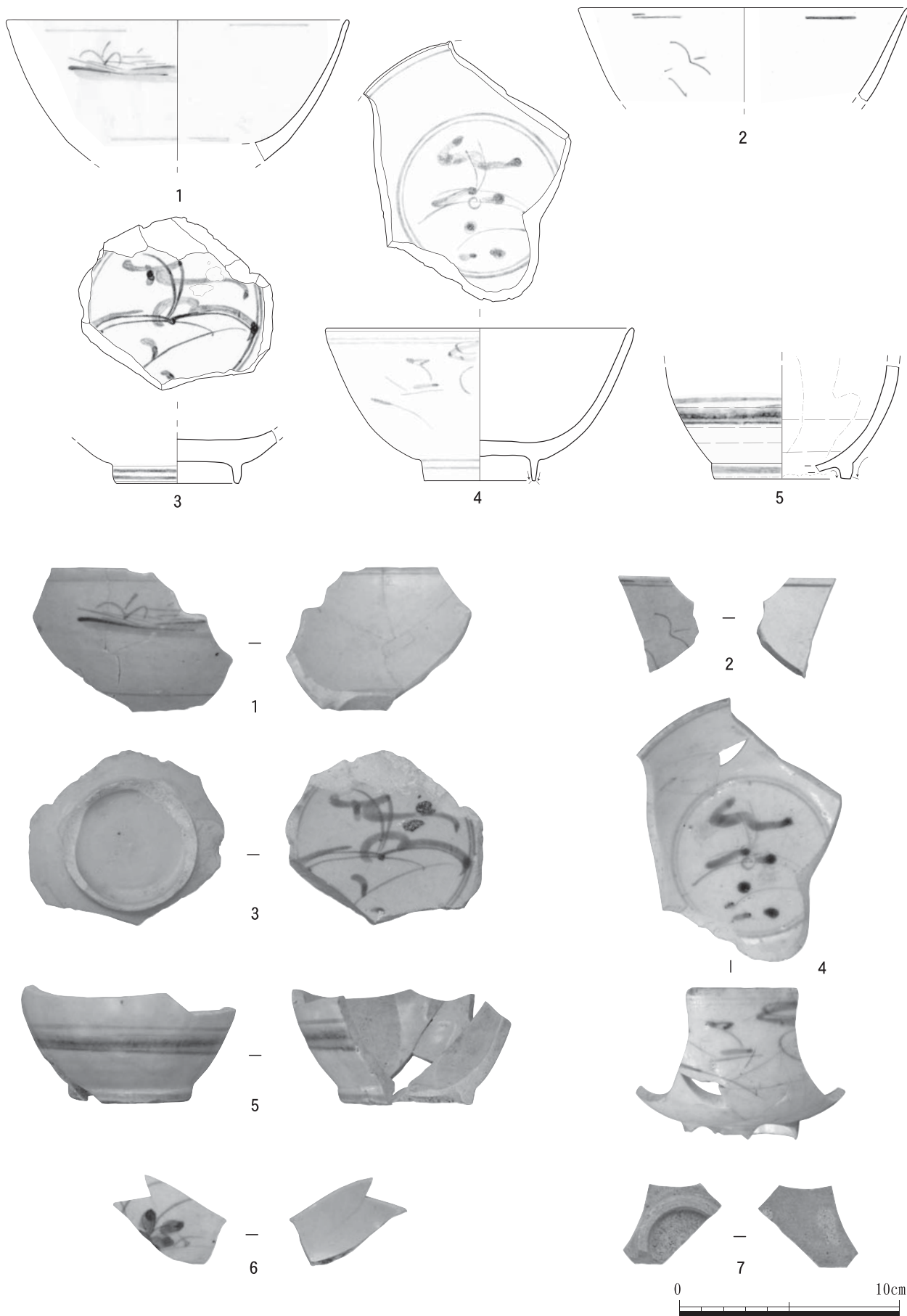
図1は山水文碗で図3・4は高台の形に違いが見られる見込み荒磯文碗である。文様はかなり簡略化されており肥前と波佐見に類似文様が見られた。「17世紀後半の見込み荒磯文碗は山水文碗と共伴する事が多い」(註1)が、今回は共伴しておらず図1・4は隣接したグリッドからの出土であった。図2の文様は不明で今後の資料増加を待ちたい。図版114-7は見込みと畳付けに砂目が残る資料である。素地が堅緻である事や器色から中国産磁器の可能性もあるが、中城御殿跡(註2)に類似資料が掲載されていることと素地の様子から肥前産として報告する。

註1 野上建紀 2000「磁器の編年(色絵以外) 1. 碗・小杯・皿・紅皿・紅猪口」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁会 89頁

註2 沖縄県埋蔵文化財センター 2012『中城御殿跡(3)』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第63集

第75表 本土産磁器(近世)観察一覧

第図 図版	番号	器種	部位	口径 器高 底径 (cm)	素地	施釉/発色	産地	備考	地区小グリッド 層位(遺構) 取上番号 台帳番号
第138 図・ 図版 114	1	大碗	口縁	15.6 - -	青白色で滑らか	呉須にて外面には山水文と圏線、内面口縁下に圏線を描いた後、透明釉を掛ける。呉須の発色はにぶい。	肥前	山水文は17世紀前半より用いられる	イ B11 Ⅲ 取303 台1617
	2	大碗	口縁	15.0 - -	青白色で滑らか	呉須にて絵付け後、透明釉を掛ける。呉須の発色はにぶい。	肥前	細片のため詳細不明	ニ Ⅱ 台2411
	3	大碗	底	- - 5.6	灰白色で堅緻	呉須にて見込みに荒磯文、高台外面に二本圏線を描いた後、総釉。呉須の発色は鮮明。	肥前	文様はかなり簡略化される。肥前と波佐見で類似文様が見られ、その年代は17世紀後半である。	イ T12 Ⅲ 取287 台1615
	4	大碗	口底	14.2 6.9 5.1	青白色で滑らか	呉須にて見込みには荒磯文、外面に雲龍を描いた後、総釉。畳付けのみ釉を掻き取る。呉須の発色はにぶい。	肥前	文様はかなり簡略化される。肥前と波佐見で類似文様が見られ、その年代は17世紀後半である。	イ B12 Ⅲ(P22) 台2047
	5	瓶	底	- - 6.2	白色で微粒子。黒色粒が混ざる。	胴部に呉須にて二重の圏線。畳付けは釉剥ぎ。高台内面に砂目の痕が残る。呉須、透明釉ともに発色はにぶい。	肥前	内面は無釉だが、一部に透明釉の釉垂れが見られる。	イ B11 Ⅲ(P26) 取25 台2036
	6	碗	胴	- - -	白色で微粒子。黒色粒が混ざる。	呉須にて外面に草花文を描いた後、総釉。呉須の発色は良好。	肥前	内外面ともに貫入あり	イ C11 Ⅱ(P20) 台2049
	7	皿	底	- - 4.0	褐色で微粒子。黒色粒が混ざる。	外面：極々薄い透明釉が掛かる	肥前(中国産の可能性あり)	見込みには砂目が2箇所残るが、その角度から3箇所にあったと推定できる。また畳付けにも砂目が残る。外底は成形時の引き擦り痕が明瞭である。	イ B10 Ⅱ 取48 台1801
	-	碗	胴	- - -	白色で微粒子。黒色粒が混ざる。	見込みに圏線後、透明釉。発色は良好。	肥前系	細片のため詳細不明	ハ Ⅰ(重機掘削) 台2102
	-	小碗	口底	- 4.7 -	灰白色で微粒子	内外面ともに透明釉を掛け、畳付けのみ釉の掻き取る。	肥前系	無文	H19 A17 Ⅱ(SK04) 台4270



第138図・図版114 本土産磁器（近世）

(4) 沖縄産施釉陶器

「上焼(ジョウヤチ)」と称される沖縄産の施釉陶器が99点出土した。得られた資料は碗54点、杯1点、皿2点、瓶10点、鉢5点、急須3点、火取2点、蓋3点で完形は無かった。全体の98%が第Ⅱ層からの出土であり、第Ⅲ層より出土の碗胴部は第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。第76表に器種ごとの出土量、第139図に平面分布を示す。釉薬は灰釉、鉄釉、透明釉(白化粧に伴う)が、絵付けには呉須(酸化コバルト)や飴釉が使用された。施釉方法は「内外面ともに腰部まで釉を掛け下半部は露胎のまま残すもの」「全面施釉」「掛け分け」が確認できた。碗について器形と釉薬の関連性を見てみると、高台から口縁部まで直口するものは灰釉が多く、腰部に丸みをもち口縁部がやや外反するものには白化粧+透明釉が多く見られた。また、施釉後畳付けの釉を掻き取るものは白化粧+透明釉に限られ、中には焼成後の研磨により白化粧ごと剥ぎ取るものもあった。以下、器種ごとに略述し主な遺物については第77表に詳細を記載し、あわせて第140図、図版115に示す。

碗は口縁部15点、胴部24点、底部15点が確認できた。小破片が多く形状での分類は難しかったため、便宜上、施釉方法の違いで分類した。内外面ともに灰釉が掛かるもの(図1・5)14点、内外面ともに鉄釉を掛けるものは2点であった。白化粧後透明釉を施すもの(図2・3・7)は32点で碗の中で一番多く、うち白化粧後花型文押(イングーチャチャー)を施すもの(図4)5点、呉須で絵付けするもの3点であった。灰釉と鉄釉の掛け分け(図6)は3点、白化粧後透明釉と鉄釉の掛け分けは2点出土した。杯(方言名:チブ)(図8)は胴部1点のみで、灰釉が掛かる。皿(図9)は

第76表 沖縄産施釉陶器出土量

地区	器種・部位 層位	碗		杯	皿		瓶		鉢		急須			火取		蓋	不明				合計		
		口	胴	底	底	口	底	口	頸	胴	口	胴	蓋	身	注口	口	胴	縁	口	胴		腰	底
H19	Ⅱ	5	12	5	1		1			1	2	1			1		1	2		2			34
	Ⅱ(遺構)		2	1								1				1							5
	Ⅲ(遺構)		1																				1
イ	Ⅱ	4	3	5				2	1	2										5	1	2	26
	Ⅱ(遺構)		1							1										1			3
ハ	Ⅰ									1													1
	Ⅱ	4	3	4		1				1	1		1				1	1	1	4			21
	Ⅱ(遺構)	1																					1
ニ	Ⅱ	1	1										1								3		6
	Ⅱ(遺構)		1																				1
合計		10	12	10	0	1	0	2	1	6	1	1	1	1	0	1	0	1	2	12	1	2	99
器種合計		54		1	2		10		5		3			2		3	19						

H19地区 Ⅱ(遺構): B16-SK03 A17-SK04 R14-SK10

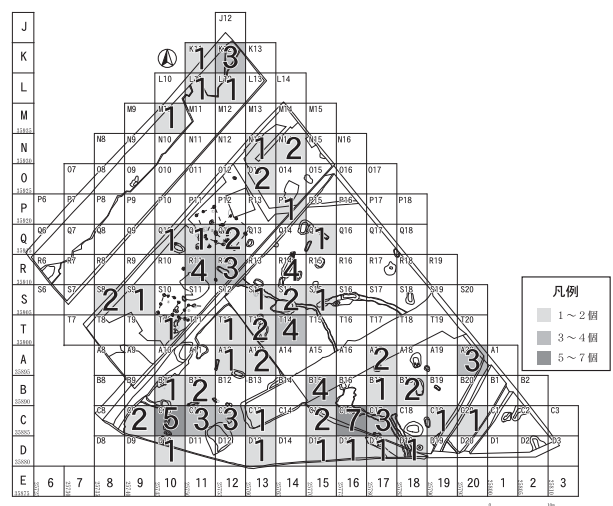
イ地区 Ⅱ(遺構): D18-P9 C11-P21 D10-SK49

H19地区 Ⅲ(遺構): R14-P16

ニ地区 Ⅱ(遺構): M10-SP13

ハ地区 Ⅱ(遺構): T10-SK01

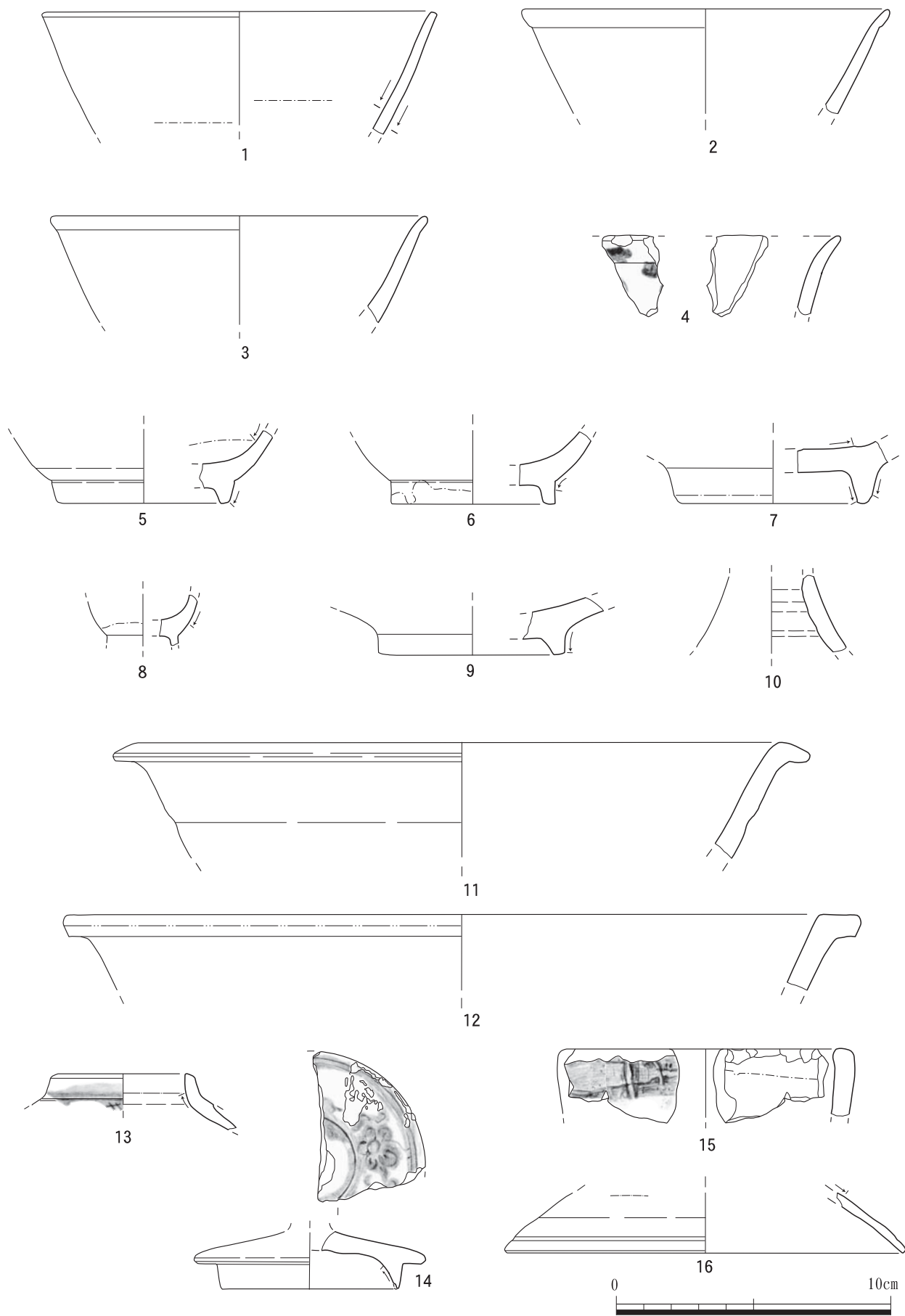
口縁・胴・底部とも1点ずつ出土。鉄釉が掛かる。瓶(図10)は口縁部2点、頸部1点、胴部7点が出土し、鉄釉が掛けられたものと白化粧後透明釉が掛かるものが見られた。鉢(図11・12)は口縁部3点、胴部2点が出土し、鉄釉と白化粧の掛け分けが見られた。急須(図13・14)は蓋1点、身1点、注口1点が出土。蓋身ともに文様が入る。火取(方言名:ヒートウイ)(図15)は口縁・胴部ともに1点ずつ出土。蓋(図16)は3点出土した。撮み周辺に鉄釉を掛けるのは共通するが、縁に直口と玉縁状の違いがあった。



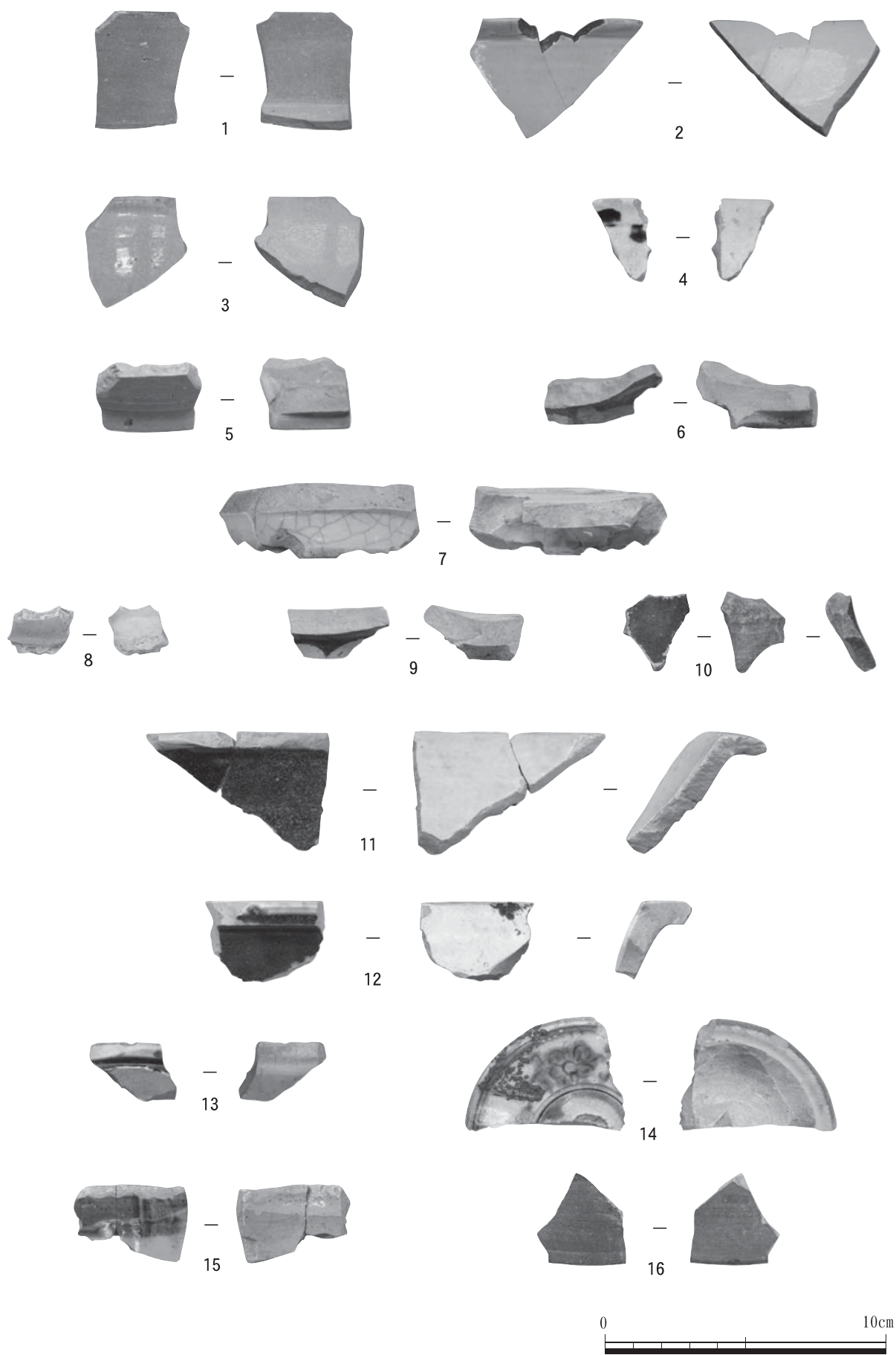
第139図 沖縄産施釉陶器平面分布

第77表 沖繩産施釉陶器観察一覧

第図 図版	番号	器種	部位	分類	口径 底径 器高 (cm)	重量 (g)	器壁 (mm)	形状	素地	施釉範囲	備考	地区 小グリッド 層位(遺構) 取上番号 台帳番号
第140 図・ 図版 115	1	碗	口縁	灰釉	14.4 - -	11.54	2 ~ 4	口縁部は舌状で直口	淡灰色 微粒子	内外面：腰部	-	H19 S15 II 取37 台2382
	2	碗	口縁	白化粧 + 透明釉	13.4 - -	5.87	2.5 ~ 5	口縁部は舌状でやや 外反	淡橙色 粗粒子	内外面	轆轤痕が顕著	ニ L11 II 台2392
	3	碗	口縁	白化粧 + 透明釉	13.8 - -	11.11	3 ~ 6	口縁部は舌状で外反	淡黄白色 粗粒子	内外面	貫入あり	イ D15 II 台1709
	4	碗	口縁	白化粧 + 透明釉	13.4 - -	3.31	3 ~ 5	口縁部は舌状でやや 外反	淡橙色 粗粒子	内外面	貫入あり 外面：白化粧後 呉 須と 飴釉 で花型文 押（イングウォーチ チャー）	H19 B15 II 台3131
	5	碗	底	灰釉	- - 6.2	12.6	3 ~ 9	高台脇で段を有し、丸 みを持って立ち上がる	淡灰色 微粒子	胴部より上方	畳付けは平坦	イ D17 II 台1714
	6	碗	底	掛け分け 内：灰釉 外：鉄釉	- - 6.0	12.9	8 ~ 7	丸みを持って立ち上 がる	淡橙色 粗粒子	内面：総釉 外面：腰部より上方	高台内面にアルミナ 付着	H19 C16 II 台3129
	7	碗	底	白化粧 + 透明釉	- - 7.0	32.36	8 ~ 9	-	淡黄白色 粗粒子	内面：蛇の目釉剥ぎ 外面：畳付けのみ釉 を剥ぐ	貫入あり	ハ R12 II 台2118
	8	杯	胴 底	灰釉	- - -	4.46	3.5 ~ 6	高台脇から丸みを持 って立ち上がる	淡黄白色 微粒子	内面：総釉 外面：腰部より上方	腰部外面の土見せに 引き擦り痕あり	H19 B15 II 台4284
	9	皿	底	掛け分け 内：不明 外：鉄釉	- - 6.8	10.73	7 ~ 9	直線的に立ち上がる	淡灰色 微粒子	内面：無釉 外面：畳付けより上方	畳付けは平坦	H19 C17 II 台2363
	10	瓶	頸	鉄釉	- - -	5.09	4 ~ 6	「ハ」字状に開く	淡灰色 粗粒子	外面のみ	貫入あり	イ T12 II 台1679
	11	鉢	口縁	掛け分け 内：白化粧 +透明釉 外：鉄釉	23.0 - -	21.86	3 ~ 8	胴部から直線的に開く 口縁部は逆「L」字状 口唇部は丸	淡橙色 粗粒子	内外面	器面調整痕が顕著	H19 T13 II 台2393
	12	鉢	口縁	掛け分け 内：白化粧 +透明釉 外：鉄釉	29.0 - -	19.53	8 ~ 9	胴部から直線的に開く 口縁部は逆「L」字状 口唇部は平坦	淡黄白色 粗粒子	内外面	口唇部のほぼ中央で 掛け分ける	ハ R11 II 台2105
	13	急須	口縁	白化粧 + 透明釉	5.2 - -	4.20	3 ~ 6	口縁部で屈曲。口縁上 端が立ち上がる。口唇 部は平坦	灰色 粗粒子	内外面白化粧後、 外面のみ透明釉	肩部は線彫り後、呉 須で彩色	ハ Q12 II 台2204
	14	急須	蓋	白化粧 + 透明釉	6.4 - -	20.02	4 ~ 7	外面：平坦 縁：丸い かかり：尖る	淡黄白色 粗粒子	内外面白化粧後、 上部のみ透明釉	外面に線彫りで圏線 を廻らせた後、呉須・ 飴釉で草花の絵付け	ニ K12 II 台2387
	15	火取	口縁	白化粧 + 透明釉	10.6 - -	5.98	7	胴部から口縁部にか けて円筒形になる。口唇 部は丸みをもつ	淡黄白色 粗粒子	内外面白化粧後、外 面と内面の上部のみ 透明釉を掛ける。 口唇部は無釉	口縁上部に呉須にて 彩色	H19 B16 II (SK03) 台4268
	16	蓋	底	鉄釉	14.6 - -	3.90	3	口唇部手前に一重の圏 線を廻らせ、底部をや や膨らませる。口唇部 は舌状	淡橙色 粗粒子	外面：中心から縁に 向けて中ほどまで鉄 釉を掛ける。	内外面ともに轆轤痕 が明瞭	ハ N14 II 台2128



第140図 沖縄産施釉陶器



図版115 沖縄産施釉陶器

(5) 沖縄産無釉陶器

「荒焼（アラヤチ）」と称される沖縄産の無釉陶器が227点出土した。基本的に無釉であるが、マンガン釉・泥釉を施すものも含めている。器形のわかる資料は鉢（播鉢・水鉢）41点、鍋1点、火取1点・火炉9点、瓶7点・壺26点・甕6点であった。第79表に器種ごとの出土量、第142図に平面分布を示す。B10・C10から一番多く出土しており次いでS13周辺が多く、どちらからもグスク時代以降のピットが多く検出されている。沖縄産無釉陶器全体の割合としては日常的に使用される鉢・鍋・火取・火炉・瓶が26%、貯蔵容器である壺や甕が31%、器種不明破片が43%を占めた。ほぼ全ての沖縄産無釉陶器が第Ⅱ層から出土しており、T11第Ⅴ層から壺の胴部が出土しているのは、第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。なお、素地に含まれる混入物で大別したところ、筋状の白土・赤土が含まれる壺・火炉・鍋・播鉢は32点を数え、全体の14%であった。

以下、器種ごとに略述し、主な遺物については第80表に詳細を記載し、第144～146図、図版116～118に示す。

A. 鉢

鉢は播鉢、水鉢（ミジクブサー）等が確認できた。播鉢は32点で全体の2/3を胴部破片が占める。地区別に出土量を見るとH19地区13点、イ地区11点、ハ地区4点、ニ地区3点であった。今回は安里氏らの共同研究による播鉢編年（註1）に則して分類を行った。第78表にその内訳を示す。口縁部はⅠ式：

第78表 播鉢分類別出土量

形式 部位	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	不明	合計
口縁部	3	4	-	-	-	7
胴部	10		10		3	23
底部	1		1		-	2

口縁部直下が「く」字状に屈曲し、屈曲部に稜を二つ持つもの（図1・2）、Ⅱ式：口縁部直下が「く」字状に屈曲し、屈曲部に稜を1つ持つもの（図3・4）が確認でき、Ⅲ・Ⅳ式は未確認である。また、胴・底部では楡描きの間隔が開くⅠもしくはⅡ式（図5・6・8）と楡描きの間隔がつまるⅢもしくはⅣ式（図7・9）に分類できた。なお、Ⅰ・Ⅱ式では器色の違いや素地に含まれる筋状の白土の有無の違いが見られ、筋状の白土が含まれるものは喜名・知花産の可能性が高いと思われる。なお、上記の共同研究で初期壺屋でもⅠ・Ⅱ式の播鉢が作られていた事が示唆されており、また近年においては沖縄県立埋蔵文化財センターより壺屋産無釉陶器とは別に初期沖縄産無釉陶器（湧田産）（註2）の存在が報告されている。今後の検討材料としたい。

播鉢の他に水鉢3点、鉢6点が出土した。図10は水鉢の口縁部で口唇面は肥厚し、最大径は胴上部となる。図11は小型の鉢の口縁部で口縁部直下に最大径を持ち、底部に向けて緩やかに内傾しながら逆「ハ」字状を呈する。図12は大型の鉢の口縁部で逆「L」字状に外へ折り曲げて水平にし、口唇に一条の圏線を廻らせる。安里氏らの共同研究による播鉢編年のⅣ式にあたる。胴部は底部に向けて直線的に逆「ハ」字状を呈する。

B. 鍋

図13は鍋の底部で底面からの立ち上がりは丸みを呈する。素地には筋状の白土が多く含まれる。

C. 火取（ヒートゥイ）

図14は底部で上位に屈曲面を削り出す。器色は橙色で用途からも陶質土器の可能性を考えたが、焼成が良好で堅緻であるため本項に含めた。

D. 火炉（ヒールー）

火炉のうち5点はイ地区西側からの出土である。火炉は口縁部に火窓を持つもの（図15）、口唇部に三つ葉状の火窓を持ち、肩部で折れ曲がるもの（図16・17）との2タイプが確認できた。図18は内部突起である。外面には菊の印が押され突起部の成形と貼付けは非常に丁寧である。菊花は浦添

城跡出土の瓦質土器（註3）の印花に酷似する。印花と泥釉が施され内部突起を持つ火炉は首里城御内原北地区（註4）に報告されているが、当資料は瓦質ではあるが赤褐色を呈し、湧田古窯出土の瓦質土器とは異なると考えられたため、沖縄産無釉陶器に分類した。今後の類似資料の増加を待ちたい。

E. 瓶

瓶は7点出土した。うち4点がイ地区西側からの出土である。図19は口縁部で緩やかな曲線を描きながら外反する。図20は頸部近くで胴部に向け「ハ」字状に開く。器面調整の際に手の届く範囲は内面も丁寧にヘラで削り、頸部内は器面調整を行っていない。

F. 壺・甕

壺は26点が出土し、甕は6点が出土した。壺か甕か判然としなかった胴・底部と合わせると最大数が70点となり出土総数の31%を占めることとなる。出土地はイ地区の南西からH19地区の北東にかけて広がる。壺には大型と小型また長頸と短頸のものが確認できた。図21はC12-P27出土の小型短頸の壺で唯一全形の窺えるものである。ほぼ同形で焼成も同じくする火炉の口縁部がC11-P21より出土している。図22は蒲鉾状の口縁部で外側に折り曲げて製作している。図23・24は頸部資料でいずれも長頸で肩部を持つ。図25・26・27は壺もしくは甕の底部であるが胴部への立ち上がり部分では底部を轆轤成形した後、粘土積み上げの様子が窺えた。



G. 器種不明

器種不明であるが、窯印が押印された胴部片（器壁1.2cm・横位に緩やかな膨らみを持つ）がC9第Ⅱ層より出土した。陰刻で『亦』字にも似るが詳細は不明である。情報収集のため第141図に窯印の拓本と、図版118-28のみ掲載する。

第141図 窯印拓本

- 註1：安里進・上原 政昌・家田 淳一 1987「播鉢編年からみた近世琉球窯業の展開」名護博物館紀要『あじま』・3
- 註2：沖縄県立埋蔵文化財センター 2012『中城御殿跡（3）』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第63集
- 註3：浦添市教育委員会 1985『浦添城跡発掘調査報告書』浦添市文化財調査報告書 第9集
- 註4：沖縄県立埋蔵文化財センター 2010『首里城跡』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第54集

第79表 沖縄産無釉陶器出土量

器種・部位	鉢			鍋	火取	火炉	瓶	瓶or壺	壺			甕			壺or甕			不明			合計													
	播鉢		水鉢						鉢	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口	口		口	口	口	口	口								
	口	胴	底																								口	胴	底	口	胴	底	口	胴
H19	II	3	6	1																			71											
	II (遺構)	3																					12											
イ	II	1	4			1				2	1												55											
	II (遺構)	1	3	1																			18											
	III (遺構)	1																					2											
	IV																						1											
	V																						1											
ハ	I																						1											
	II		4																				28											
	II (遺構)																						2											
ニ	II	1	2		1	1																	21											
	II (遺構)																						2											
不明			1																				13											
合計		4	17	1	1	1	1	3	1	1	0	5	2	1	1	3	1	0	3	1	3	10	3	1	3	0	13	9	0	63	1	1	2	156
器種合計		32			3			6	1	1	9			7			1	26			6			38	97			227						

H19地区 II (遺構) : B18-P15 S13-SD02 B16-SK03 A17-SK04 R14-SK10 Q14-SK16

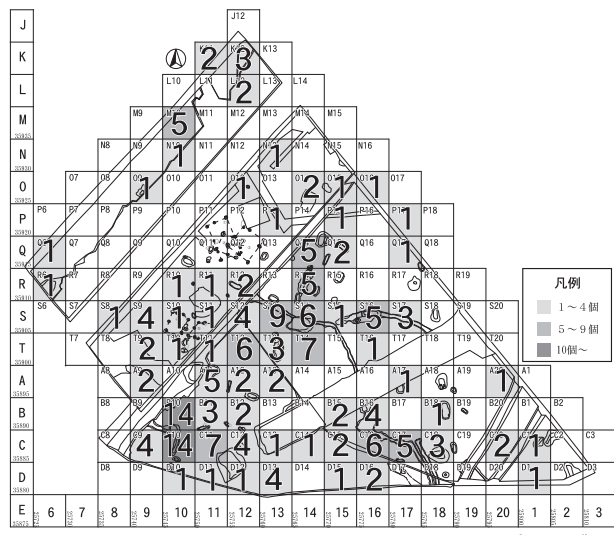
イ地区 II (遺構) : B10-P4・P10 C11-P21・P23・P36 C12-P27・P29 C10-SK46 D10-SK49 B10-SK51・SK52 B11-SK56 A11-SK62

イ地区 III (遺構) : B10-P10 A11-SK62 ハ地区 II (遺構) : R12-SP21 S10-SK02 ニ地区 II (遺構) : M10-SP14・SP25

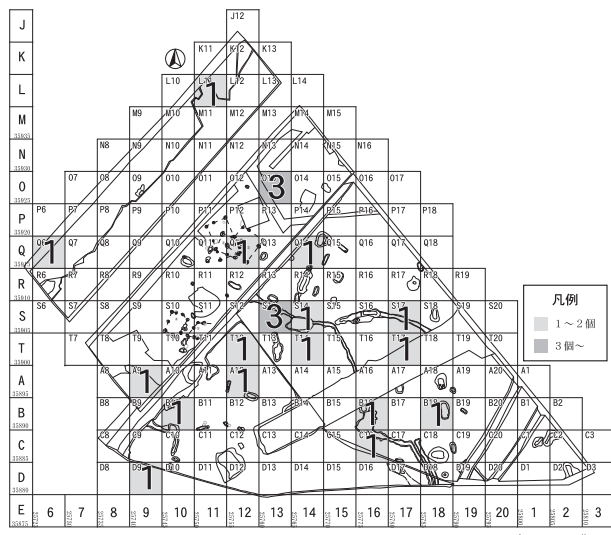
第80表 沖繩産無釉陶器観察一覧

第図 図版	番号	器種 (播鉢 編年)	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	素地	色調	器面調整	文様等	地区 小グリッド 層位 (遺構) 取上番号 台帳番号
第144 図・ 図版 116	1	播鉢 (I)	口 縁	18.0 - -	27.62	8	暗紫色	内面：淡紫色 外面：暗褐色	回転擦痕 外面：ナゲ消す	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は2つ。口唇幅8mm。櫛目は1mm間隔の9本1組で櫛描きの間隔は13mm。	H19 S14 II 台2437
	2	播鉢 (I)	口 縁	33.4 - -	28.2	7	赤褐色 若干の気泡 と白色粒多 く含む	内面：赤茶 外面：赤紫褐色	回転擦痕	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は2つ(2つ目の稜は弱い)。口唇幅15mm。櫛描きの間隔は8mm。	イ B10 III (P10) 台2060
	3	播鉢 (II)	口 縁	20.6 - -	11.26	4	暗紫色 白土を筋状 に含む	内面：茶褐色 外面：暗褐色	回転擦痕 外面：ナゲ消す	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は1つ。口唇幅12mm。喜名・知花焼?	イ A11 III (SK62) 台2081
	4	播鉢 (II)	口 縁	25.8 - -	33.28	10	赤褐色 若干の砂粒 を含む	内面：茶褐色 外面：茶褐色	回転擦痕	口縁部直下で「く」の字状に湾曲し、屈曲部の稜は1つ。口唇幅17mm。	イ C20 II 台3130
	5	播鉢 (I or II)	胴	- - -	77.54	9	暗紫色 黒色・白色 粒・気泡を 含む	内外面：暗褐色	積上げ痕 + ナゲ消し	櫛目は9本1組で櫛描きの間隔は12mm以上。喜名・知花焼?	イ A13 II 取289 台1652
	6	播鉢 (I or II)	胴	- - -	40.40	7~8	暗紫色 若干の砂粒 を含む	内外面：黒色	積上げ痕 + ナゲ消し	櫛目は磨耗がすすみ、本数は不明。櫛描きの間隔は11mm以上。喜名・知花焼?	H19 C15 II 台2419
	7	播鉢 (III or IV)	胴	- - -	29.87	7	橙色 若干の赤色 粒(極小~ 3mm)を含む	内外面：橙色	積上げ痕 外面：丁寧に ナゲ消し	隙間の無い櫛目	H19 B16 II (SK03) 台4251
	8	播鉢 (I or II)	底	- - 8.4	42.12	11 底厚 7	淡紫色で青 灰色を挟む 白土を筋状 に含む	内面：淡紫色 外面：暗褐色	積上げ痕 外面：ナゲ消し	櫛目は1mm間隔の13本1組で櫛描きの間隔は5mm以上。喜名・知花焼?	イ C11 II (P23) 台2021
	9	播鉢 (III or IV)	底	- - 10.2	100.17	8	赤褐色 赤色粒を含 む	内面：赤褐色 外面：暗褐色	外面：回転台 を使用しない ヘラ削り?	櫛目は2~3mm間隔で重複	イ C17 II 台3127
第145 図・ 図版 117	10	水鉢	口 縁	26.0 - -	24.83	8	赤褐色	内外面：暗赤褐色。大粒の赤色粒と若干の石英を含む	回転擦痕 外面：ナゲ消し	内外面マンガン釉掛かる口唇幅12mm。肩部に四条の波状文	ニ K12 II 台2387
	11	鉢	口 縁	15.2 - -	23.37	8	赤褐色	内外面：朱色	回転擦痕 外面：ナゲ消し	口唇幅12mm	イ C15 II 台788
	12	鉢 (IV)	口 縁	28.0 - -	25.05	7	赤褐色 黒色粒・白 色粒を含む	内面：暗赤褐色 外面：赤褐色	積上げ痕 + 回転擦痕	逆「L」字状口縁部。口唇に一条の圏線を廻らす。	ハ S9 II 台2103
	13	鍋	底	- - 12.8	56.87	7	暗紫色 白土を筋状 に含む	内面：茶褐色 外面：暗褐色	積上げ痕+回転 擦痕 外面：ナゲ消し	底面には若干煤が付着する。喜名・知花焼?	イ C14 II 台1688
	14	火取	底	- - 6.4	33.77	7	橙色 微細な黒色 粒	内外面：橙色	積上げ痕 + 回転擦痕	底面縁上位に稜を有する	H19 S17 II 台3123
	15	火炉	口 縁	12.4 - -	16.92	8	赤褐色	内外面：暗褐色	積上げ痕 + 回転擦痕	口縁部に火窓を持つ口縁外面に一条の圏線	ハ 014 II 台2142
	16	火炉	肩	最大 胴径 18.4	21.86	7~8	暗茶色	内外面：暗灰褐色	回転擦痕 外面：ナゲ消し	口唇部：平坦にし、三つ葉状の火窓を作る	不明

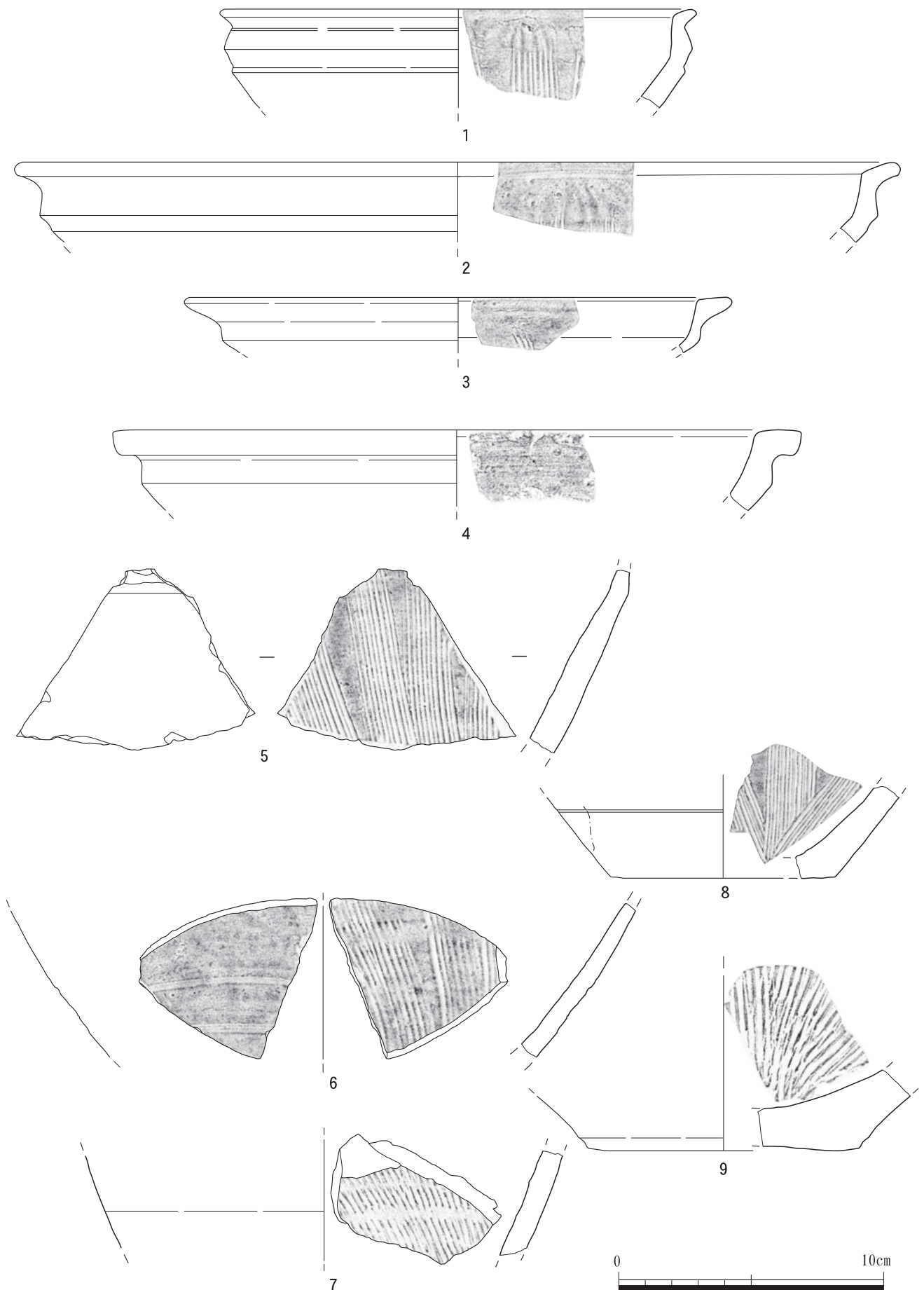
第図 図版	番号	器種 (播鉢 編年)	部位	口径 器高 底径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	素地	色調	器面調整	備考	地区 小グリッド 層位 (遺構) 取上番号 台帳番号
第145 図・ 図版 117	17	火炉	肩	最大 胴径 19.6	13.64	7	赤褐色	内面：黒褐色 外面：茶褐色	積上げ痕 + 回転擦痕	口唇部：平坦にし、三つ葉 状の火窓を作る	ニ M10 II 台2347
	18	風炉	内部 突起	- - -	24.61	10	赤褐色 若干の赤色粒 (極小～3mm) を含む	内外面：茶褐色	外面：ナデ消し 突起部：指ナデ 突起は貼り付け	外面：一条の圏線と菊の印花 (菊花は16弁以上) 内外面泥 釉	不明表採
第146 図・ 図版 118	19	瓶	口 縁	8.2 - -	16.16	4	青灰色 微細なピン ホール多数	内外面：黒褐色	全体をナデ消し	内外面：泥釉	ニ M10 II 台2347
	20	瓶	胴	- - -	23.46	7	暗紫色	内面：暗紫色 外面：暗褐色	回転擦痕 内面：ナデ消し	頸部内面：手の届く範囲で 器面調整を行う	イ C11 III 取331 台1638
	21	壺	口 ～ 底	13.2 7.8 11.0	60.79	5	青灰色 微細なピン ホール多数	内外面：茶褐色	積上げ痕 外面：ナデ消し	外面：青灰色、紫褐色、橙 色など焼きムラが見られる	イ C12 II (P27) 台2011
	22	壺	口 縁	21.9 - -	105.32	10	暗赤褐色 赤土を筋状 に含む	内面：暗褐色 外面：暗紫色	積上げ痕 + ナデ消し	蒲鉾状の口縁部を外側に折 り曲げて形成する。 喜名・知花焼?	ハ S8 II 台2100
	23	壺	頸	- - -	40.66	8	暗赤褐色	内面：黒褐色 外面：茶褐色	積上げ痕 + ナデ消し	肩部に二条の圏線	H19 S13 II (SD02) 台2213
	24	壺	頸	- - -	19.31	5	暗赤褐色 微細な白色 粒含む	内面：黒褐色 外面：暗赤褐色	回転擦痕 外面：ナデ消し	肩部に一条の圏線	ハ S8 II 台2048
	25	壺or甕	底	- - 14.0	72.05	11 底厚 9	暗紫で青灰 色を挟む。 白土を筋状 に含む	内外面：暗褐色	内面：積上げ痕 外面：ナデ消し	底部は淡橙色 喜名・知花焼?	ハ II 台2101
	26	壺or甕	底	- - 12.6	87.64	7 底厚 7	暗紫色 微細な白・ 黒・赤色粒 を含む	内面：赤褐色 外面：黒褐色	積上げ痕 外面：ナデ消し +ヘラ削り	底部と胴部の粘土の接合面 が明瞭。内面：ところど ろに変色部あり (釉垂れ?)	イ B11 II 取348 台1786
27	壺or甕	底	- - 13.6	42.24	9 底厚 9	暗赤褐色 大粒の白・赤 色粒を含む	内面：暗青灰色 外面：暗赤褐色	内面：轆轤痕 外面：ナデ消し	素地：一部暗青灰色のサン ドイッチ状になっている	イ C10 II 取41 台1775	



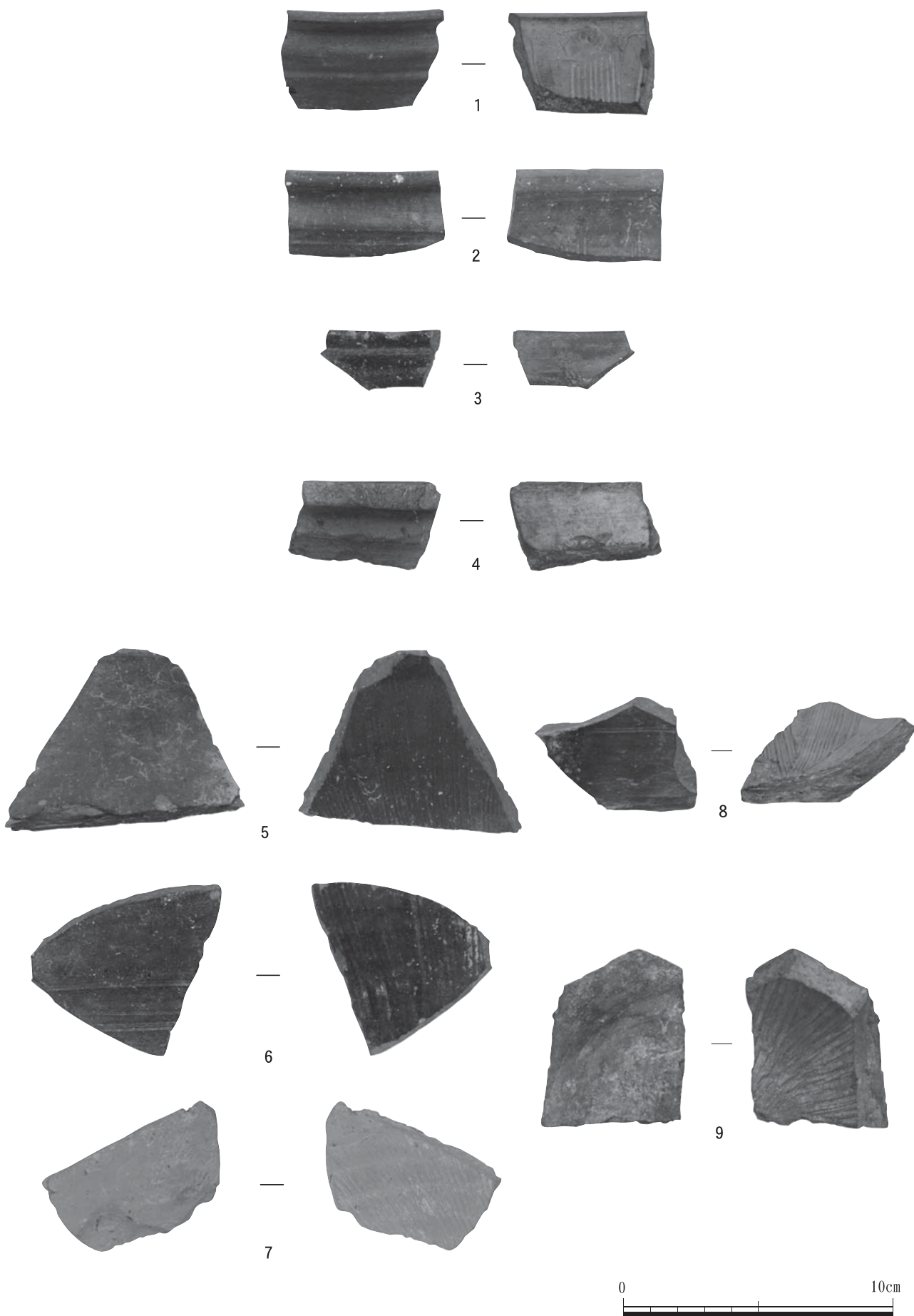
第142図 沖縄産無釉陶器平面分布



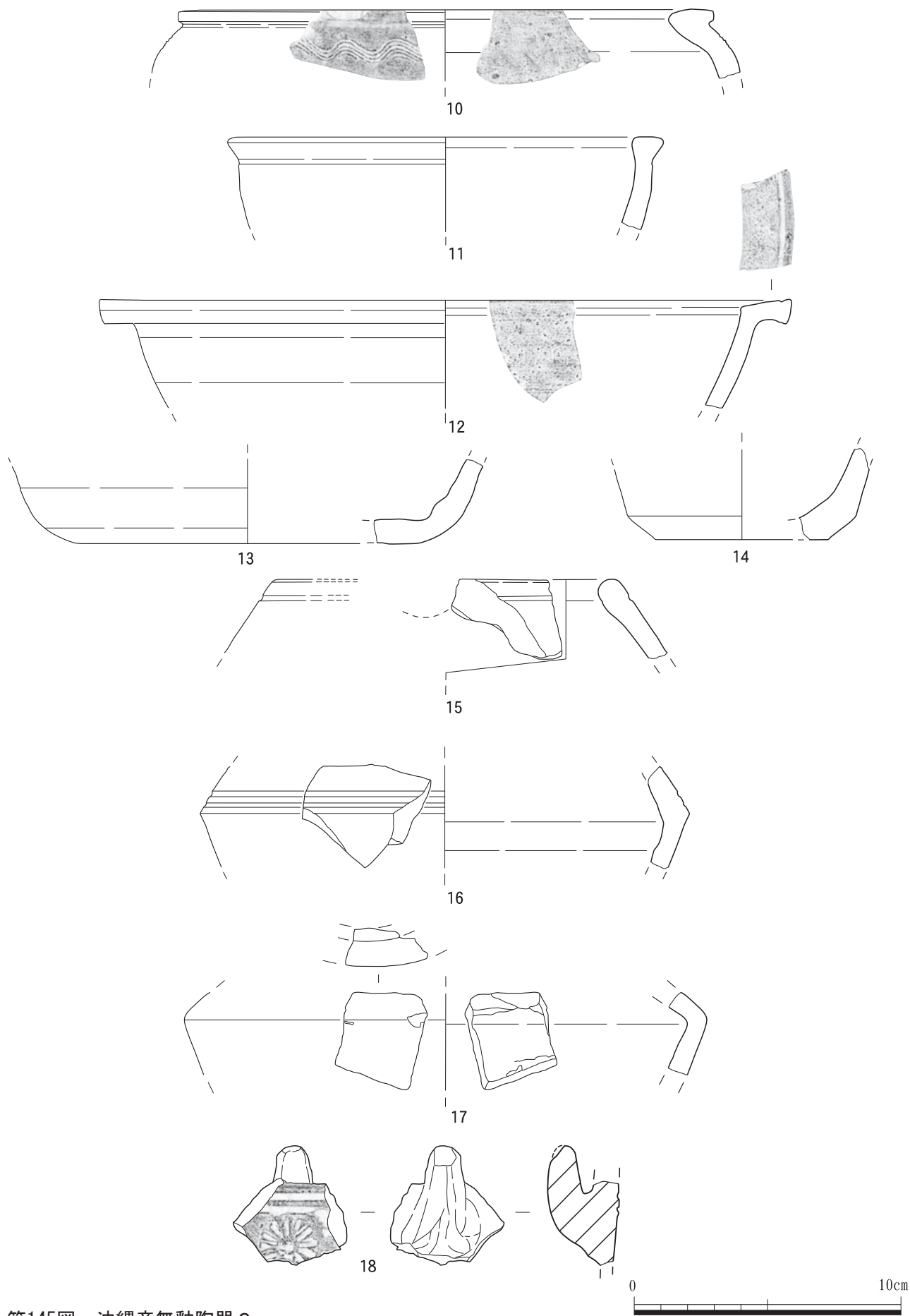
第143図 陶質土器平面分布



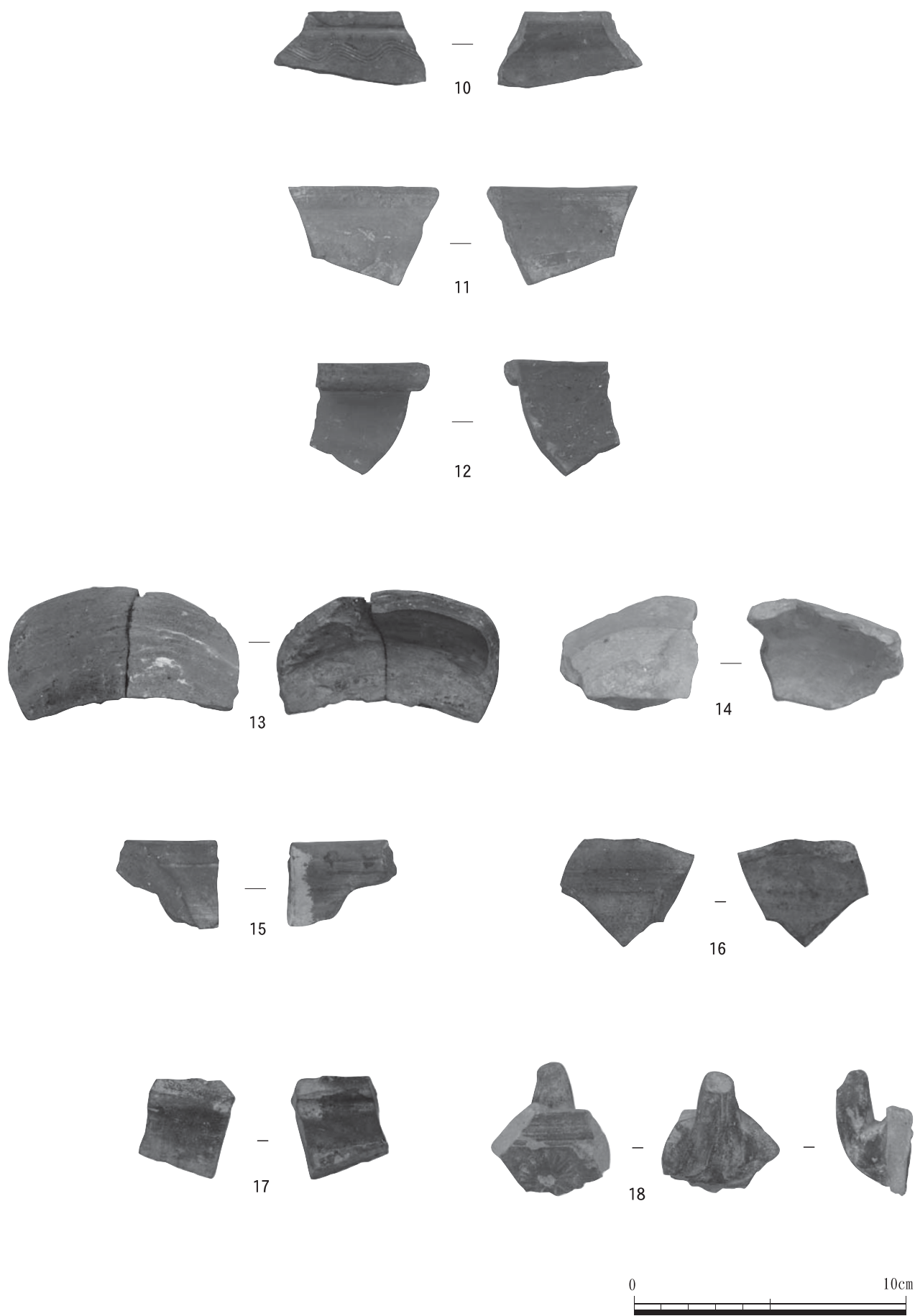
第144図 沖縄産無釉陶器 1



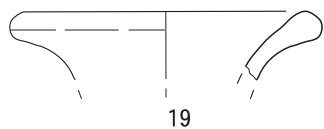
図版116 沖縄産無釉陶器 1



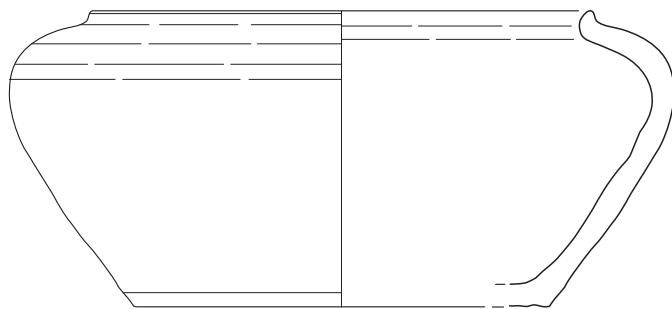
第145図 沖縄産無釉陶器2



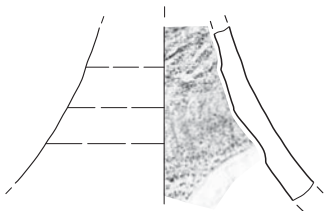
図版117 沖縄産無釉陶器 2



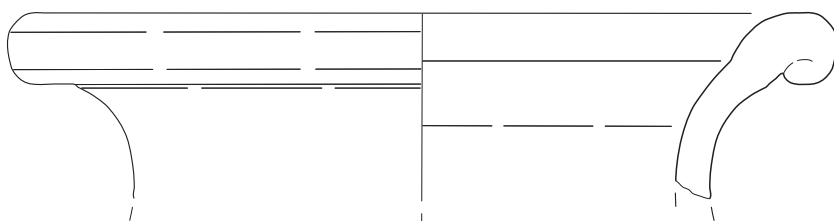
19



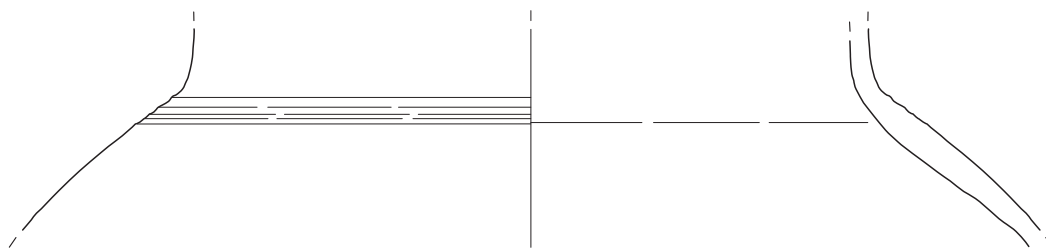
21



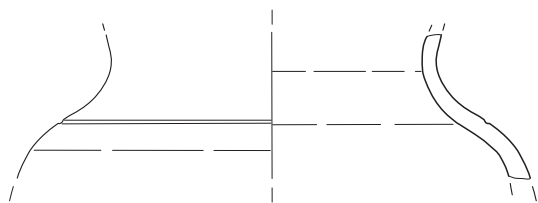
20



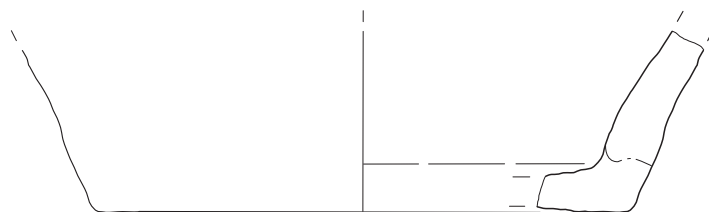
22



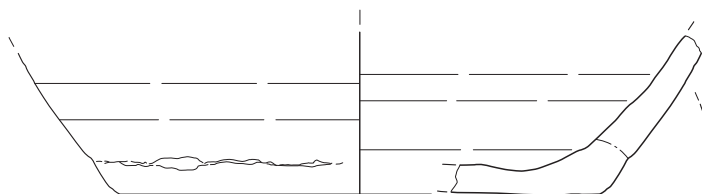
23



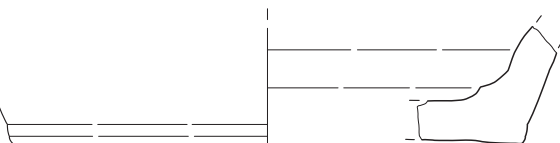
24



25



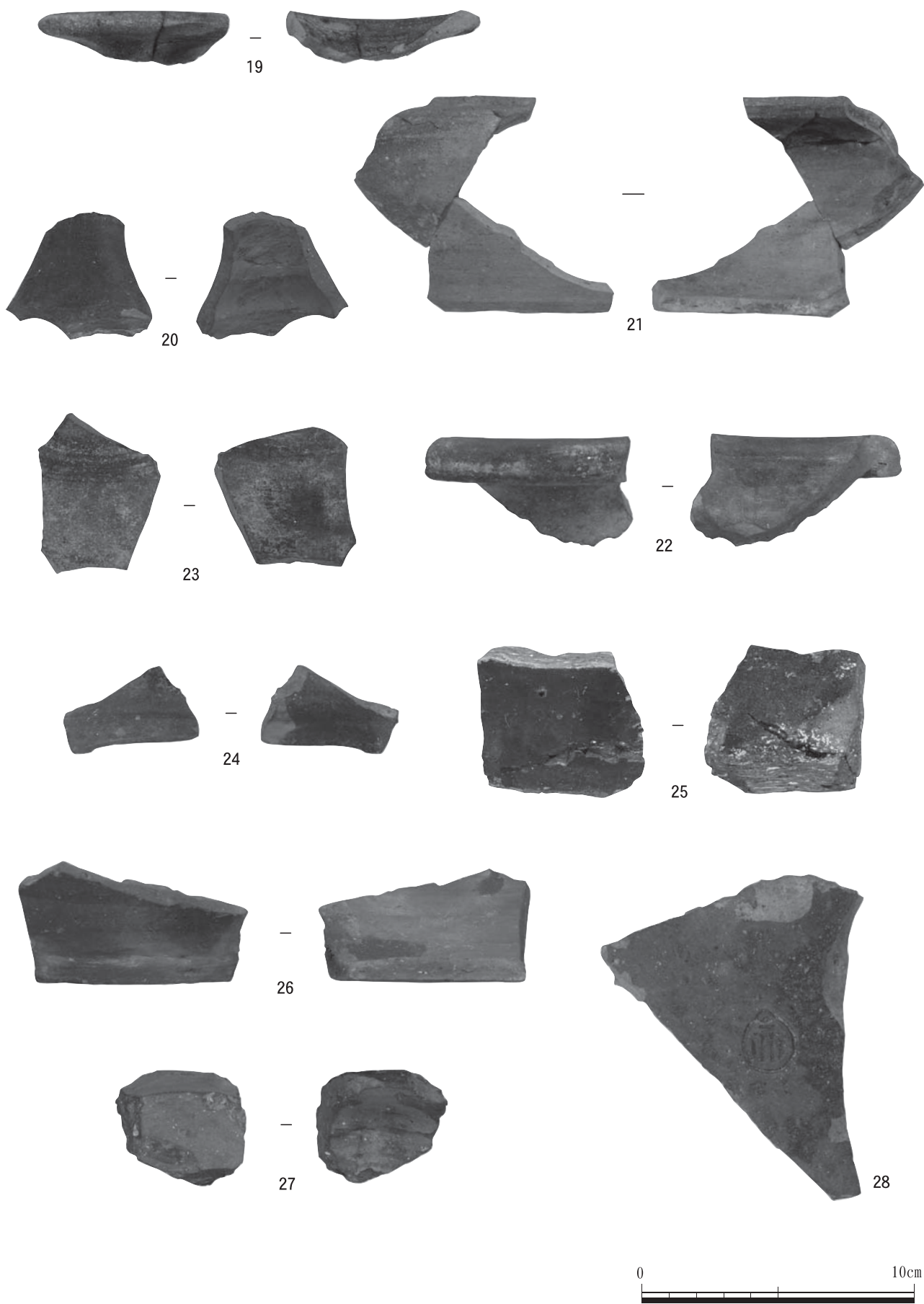
26



27



第146図 沖縄産無釉陶器 3



図版118 沖縄産無釉陶器 3

(6) 陶質土器・鉄製焜炉

「アカムヌー」と称される沖縄産の陶質土器が30点出土した。今回得られた資料は鍋3点、鉢1点、火炉3点、急須（壺屋で「ヤックワン」と呼ばれる土瓶を含む）1点、蓋2点、器種不明20点である。第81表に器種ごとの出土量、第143図に平面分布を示す。薄手（2～3.5mm）タイプと厚手（5～9mm）タイプがあり、いずれも素地は細かい微粒子で雲母や赤色粒・黒色粒を含み、轆轤成形後ナデ消しを行うものが多数を占めた。鍋・急須・蓋は薄手、鉢・火炉は厚手で、割合的には全体の1/3を薄手、2/3を厚手の資料が占めた。厚みに関わらず触ると微粒子が付着し、また、水をつけて擦ると色が落ちる。第Ⅱ層からのみの出土で沖縄産施・無釉陶器との伴出が89%にのぼった。主な遺物については第82表に詳細を記載し、第147図、図版119に示した。また、今回の調査では鉄製焜炉が1点出土した。火窓を持つ器形は陶質土器製の火炉と類似しているため参考資料として併せて報告する。

図1は壺屋で「サークー」と呼ばれる把手付きの鍋の口縁部で受け皿状に成形される。図2は鉢の口縁部で外側に折り返して口唇を作る。図3・4は火炉でいずれも口唇部に三つ葉状の火窓を作り、前者は円筒形、後者は肩部で「く」字状に屈曲する器形である。全体が煤けているように見えるが、施釉によるものである。図5は急須の蓋で上面に煤が付着する。図6は土鍋の蓋の撮みであるが小破片のため詳細は不明。

図7は三つ葉状あるいは四つ葉状の火窓を持つ鉄製の焜炉である。鑄造による製作で火窓内部に空洞が見られる。A12第Ⅱ層出土ではあるが、第Ⅲ層との境に近く、唐津産の皿や染付と伴出する。鉄製だが衝撃には強くなく、手に持つと赤錆色の微粒子が付着し落ちにくいことから、成分は鉄だけではないようである。

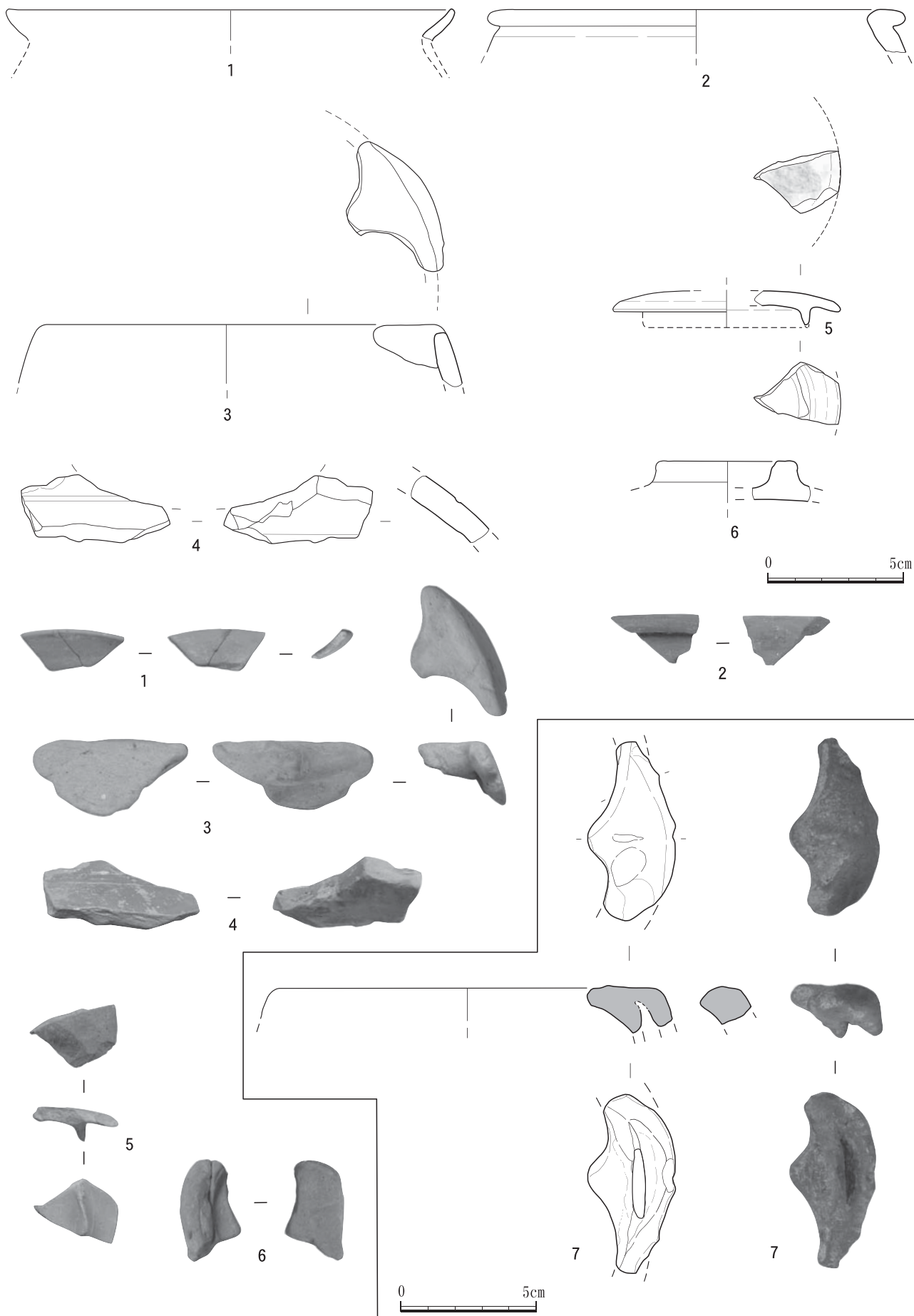
第81表 陶質土器出土量

地区	器種・部位	鍋		鉢		火炉		蓋		急須		不		合計
		口	胴	底	口	縁	撮	底	胴	胴	底			
H19	Ⅱ		1					1	1	1	5			9
	Ⅱ (遺構)					1						1		2
イ	Ⅱ											4		4
ハ	Ⅰ						1							1
	Ⅱ			1	1	1							3	6
	Ⅱ (遺構)											1		1
ニ	Ⅱ											5	1	6
不明	Ⅱ	1												1
合計		1	1	1	1	3	1	1	1	1	19	1		30
器種合計				3	1	3		2	1			20		

H19地区 Ⅱ (遺構) : B16-SK03 Q14-SK06
ハ地区 Ⅱ (遺構) : A9-SK04

第82表 陶質土器観察一覧

第図 図版	番号	器種	部位	口(撮・縁)径 器高 底(袴)径 (cm)	重量 (g)	器厚 (mm)	混入物	器色	器形	備考	地区 小グリッド 層位 (遺構) 台帳番号
第 147 図・ 図版 119	1	鍋	口縁	16.8 - -	3.57	3	極小の雲母・黒色粒が少量	内外面：暗橙色	やや内彎 縁部は丸	上面に若干の煤が付着	不明 Ⅱ 不明
	2	鉢	口縁	16.4 - -	6.4	8	極小の雲母・赤色粒・黒色粒が少量	内外面：赤橙色	口唇部は外側に折り返して肥厚する	口唇部及び外面に釉のようなものが掛かる	ハ Ⅱ 台1569
	3	火炉	口	14.0 - -	18.67	5	極小の黒色粒と貝殻の破片	内外面：橙褐色	円筒形で貼り付けにより口縁内面に火窓を作る	火窓の貼り付けは丁寧に特になで消し	H19 Q14 Ⅱ (SK16) 台2223
	4	火炉	口縁付近	- - -	18.29	7	赤色粒・筋上の白土	淡橙色	肩部で「く」字状に屈曲し、口唇部で火窓を作る	外面と火窓の口唇部に泥釉を掛ける	ハ Ⅰ 台2102
	5	蓋	底袴	8.6 - 5.7	3.7	3	極小の黒色粒・赤色粒	外面：橙褐色 (煤付着) 内面：橙色	直口 口唇部はやや舌状	袴はやや「ハ」字状に広がる	H19 S17 Ⅱ 台1960
	6	蓋	撮み	5.0 - -	9.18	5	極小の雲母・赤色粒・黒色粒が少量	内外面：橙色	-	底成形後、撮みを貼り付ける	H19 C16 Ⅱ 台1635
	7	焜炉	口	14.0 - -	26	7 〜 13	無	内外面：赤褐色	口唇部で火窓を作る	焼土のように赤く手に付着する	イ A17 Ⅱ 台1559



第147図・図版119 陶質土器・鉄製品

(7) 先島系土器

宮古式土器、パナリ焼（八重山）と称するもので、胎土が泥質で、混和材に石灰または貝殻片の白色粒を含むものを先島系土器としてここにまとめた。総数91点出土、器種は鍋と壺、不明で全形の窺うえる資料は得られなかった。第149図、図版120に特徴的なものを図示し第83表に観察一覧、第84表に出土量・胎土分類、図148に平面分布を示した。

先島系土器は、胎土分類でⅠ～Ⅳ類に大別される。

Ⅰ類：混和材の白色粒が中・細粒のものを多量に含み、内外面の器色が赤褐色を呈するもの。

Ⅱ類：混和材の白色粒がⅠ類に比して少ないもの。

a) 外面の器色が暗褐色、内面は赤褐色を呈するもの。

b) 内外面ともに暗褐色を呈し、外面に研磨が施されるもの。

c) 外面の器色が褐色、内面はにぶい橙色または褐色を呈し、アバタ状を呈するもの。

Ⅲ類：混和材の白色粒が細粒で赤褐色粒が中粒のものを含むもの。

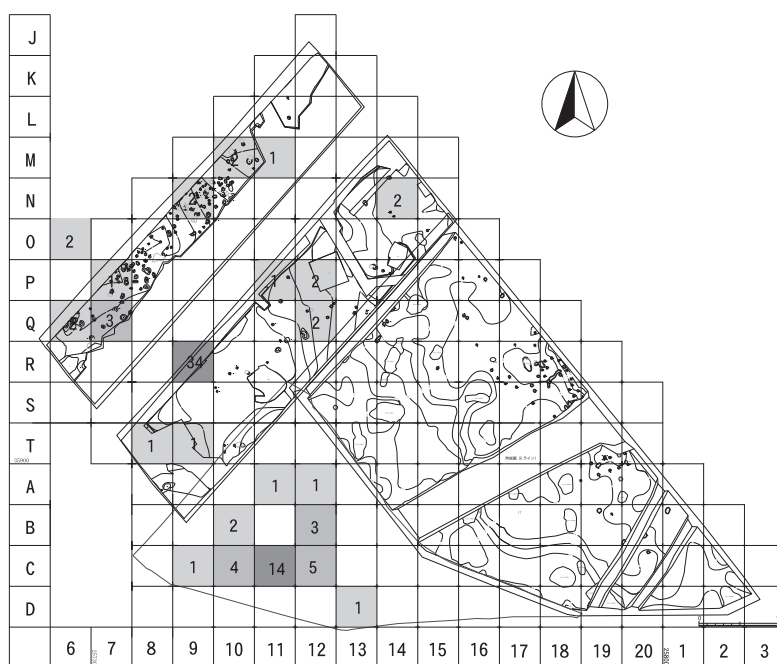
a) 外面の器色が暗褐色または褐色を呈し、内面はにぶい橙褐色または褐色を呈し、外面に研磨が施され、内面にアバタが見られるもの。

b) 外面の器色が赤褐色または褐色を呈し、内面は暗褐色を呈するがにぶい橙褐色の部分も見られ、内面のアバタが細かいもの。

Ⅳ類：混和材に白色粒を含み、Ⅱ類に比してさらに少量で、内外面がにぶい橙色を呈するもの。

第84表の出土量・胎土分類で示すように鍋（図1）はⅠ類、壺（図2）はⅡc類、器種不明の頸部はⅠ・Ⅲa類、丸底の底部はⅠ・Ⅱa・Ⅲa・Ⅲb類に見られる。Ⅰ～Ⅳ類の器厚はⅡc類が0.8～1.2cmと厚手、Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb・Ⅲb類は0.7～1cmでⅡc類に比してやや薄く、Ⅲa・Ⅳ類は0.6～0.7cmと薄手である。

出土量を見るとⅠ類は20点（22%）、Ⅱa類は12点（13%）、Ⅱb・Ⅲb類は各2点（2%）、Ⅱc類は4点（4%）、Ⅲa類は50点（55%）、Ⅳ類は1点（1%）となっており、第148図の平面分布で示すようにR9からⅢa類が29点と最も多く得られている。分布範囲は14ラインから西側にある。



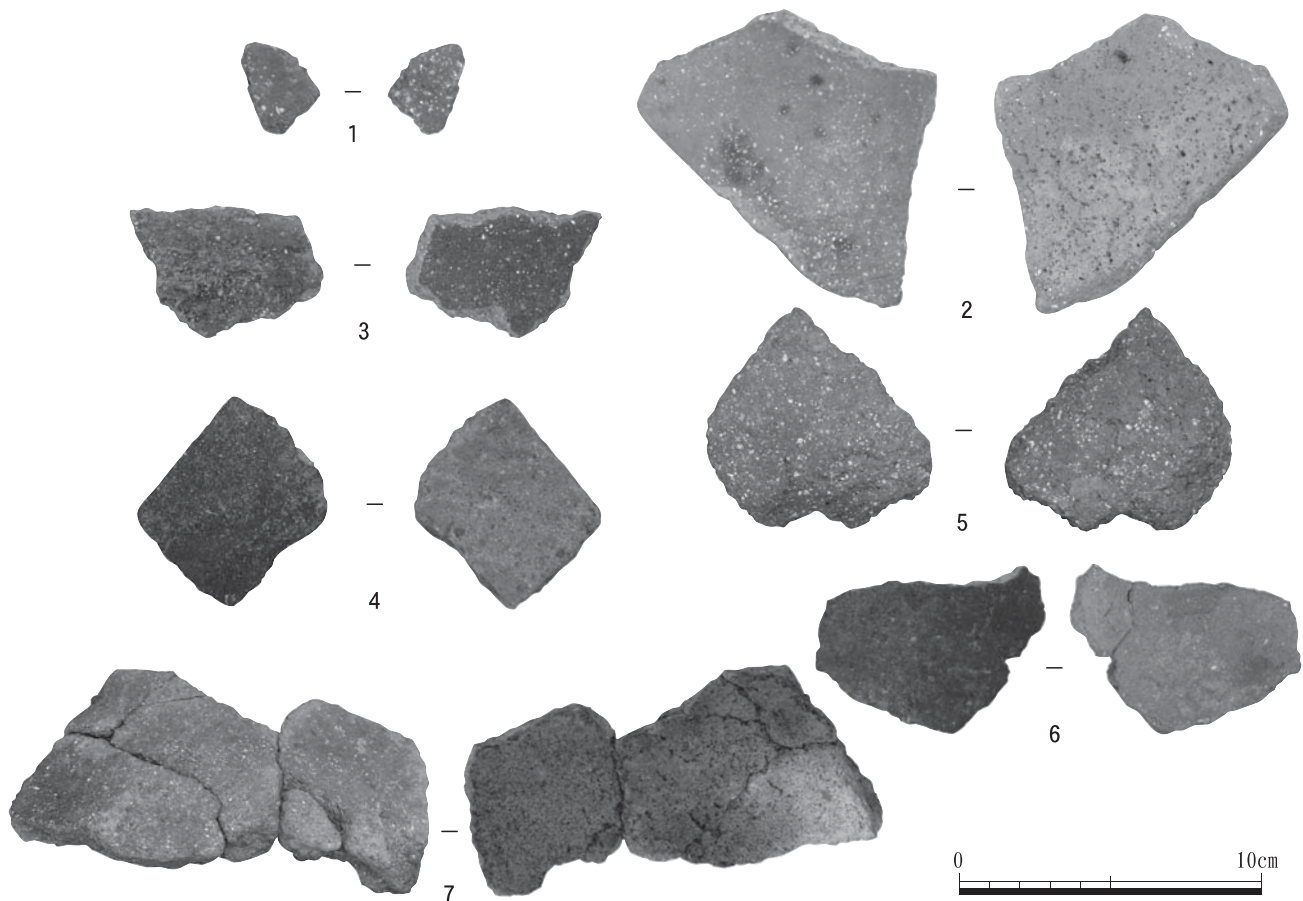
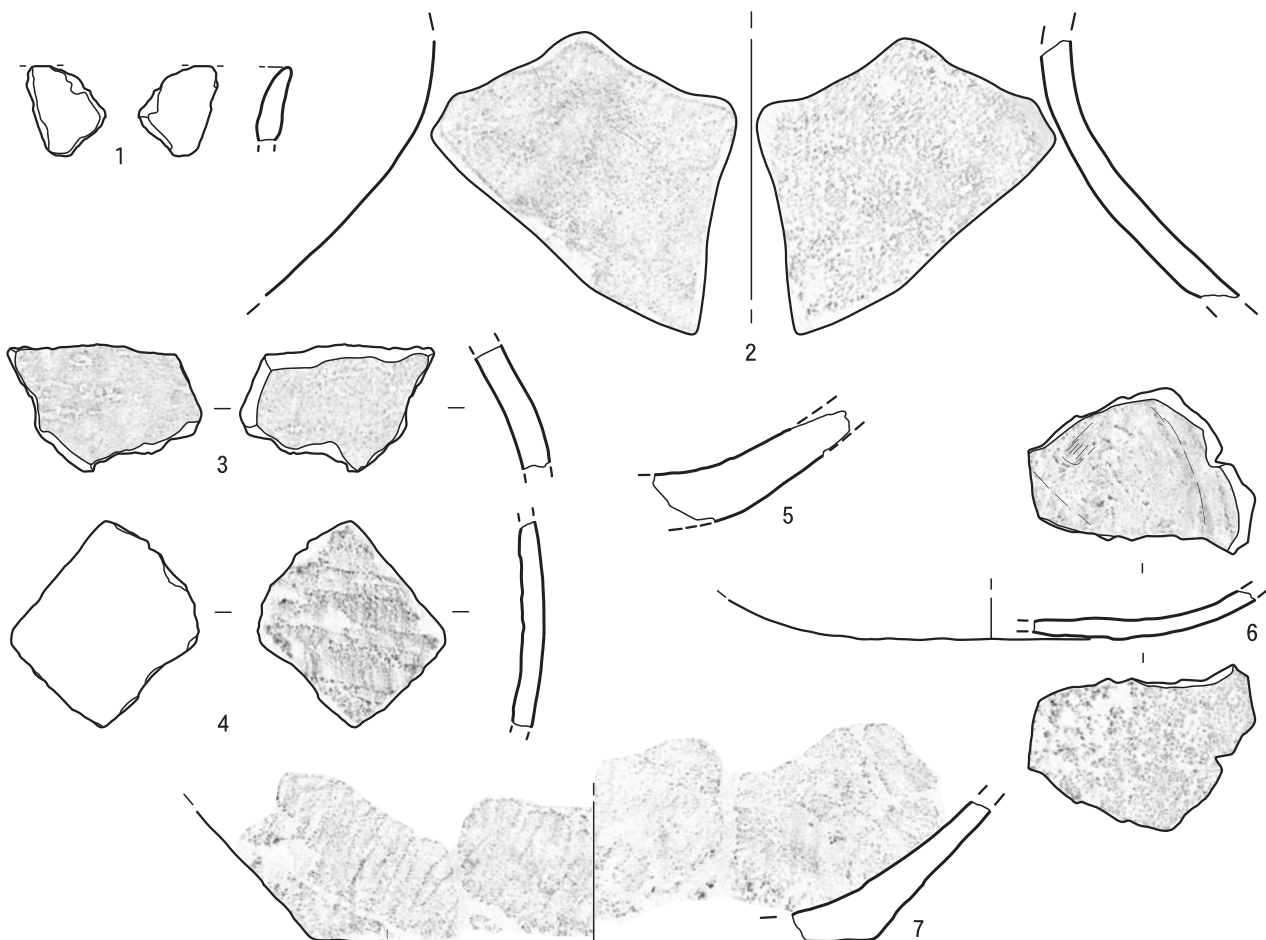
第148図 先島系土器平面分布

第83表 先島系土器観察一覧

第図 図版	図 番号	器種 部位	胎土 分類	器厚 (cm)	観 察 事 項	地区 小グレット 遺構 台帳番号
第 149 図 ・ 図 版 120	1	鍋	I類	0.8	鍋の口縁部破片。やや外反し口唇は舌状。重量5.6g。	ハ T9 台1534
	2	壺	II c類	0.6～0.7	壺の頸部から肩部にかけての破片。焼成は硬質。内面はアバタ。表裏面にハケ目が見られる。重さ99g。	イ C11 P32 台2176
	3	胴部	II b類	0.9～1.0	器種不明。器面調整は外面に顕著な研磨が施され光沢を有する。重さ32.2g。	ニ 一括 台1675
	4	胴部	III a類	0.6	器種不明。外面に研磨が見られ、内面に回転盤使用によると見られる横方向のナデが連続する。重さ34.1g	イ C11 P22 台2288
	5	底部	I類	1.0	丸底の底部破片。器表面に混和材が露出する。立ち上がり部の器厚は1.6cm。重さ81g。	イ C11 P21 台2183
	6	底部	III a類	0.5～0.6	丸底の底部破片。外底面に剥離による凹凸が見られ、内底面にはナデ、内面の立ち上がりに回転盤使用によると見られるナデが連続する。	イ C12 P16 台2173
	7	底部	III b類	0.8	ベタ底。外面にヘラによるナデが見られる。内面のアバタは細かい。底径18.4cm。重さ119.5g	ハ R9 台1528

第84表 先島系土器出土量・胎土分類

地区	グレット 遺構	器種 部位 胎土	器種不明														合計			
			鍋		壺		胴部				底部									
			口縁部	頸部	頸部															
			I	II c	I	III a	I	II a	II b	II c	III a	III b	IV	I	II a	III a	III b			
イ 地 区	A11	SX01						1											1	
	A12							1											1	
	B10											1					1		2	
	B12							2											2	
	B12	P25						1											1	
	C9	P27						1											1	
	C10					1		1				1							3	
	C10	SK46															1		1	
	C11					1		2							1				4	
	C11	P7. 19. 21. 22. 32. 35. 40				1	1		1			1	5		1				10	
	C12																1		1	
	C12	P12. 16. 20. 34									1						1	1	4	
	D13										1								1	
	小計				0	1	3	0	10	2	0	1	8	0	0	2	3	2	0	32
ハ 地 区	N14																			2
	P11																			1
	P12						2													2
	Q12												2							2
	R9						1		1				29	1			1		1	34
	T8	SK01											1							1
	T9																			1
		小計				1	0	2	1	0	4	0	0	32	1	0	0	1	0	1
ニ 地 区	M10												1							1
	M10	SK01											1							1
	M11	SP1						1												1
	N9											1								1
	N9	SP9							1											1
	O6												1							1
	O6	SX01												1						1
	P7	SP25															1			1
	Q6	SX01									1			1						2
	Q7											1								1
	Q7	SP21															2			2
	不明																			
	小計				0	0	0	0	2	2	2	2	5	0	1	0	0	0	0	14
不 明													2							2
	合計				1	1	5	1	12	8	2	3	47	1	1	2	4	2	1	91



第149図・図版120 先島系土器

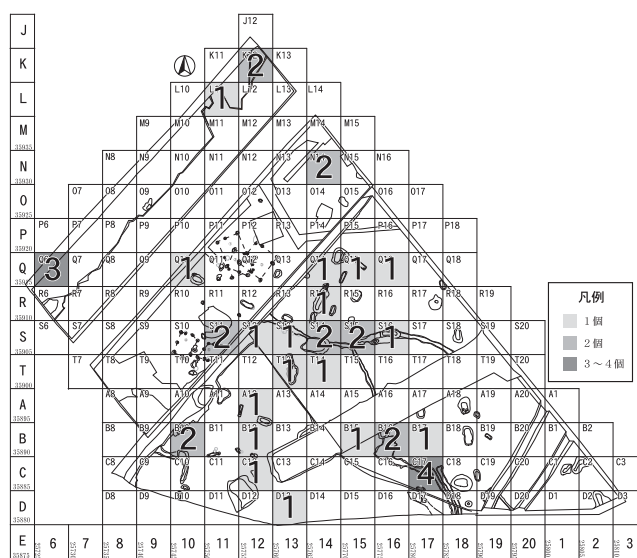
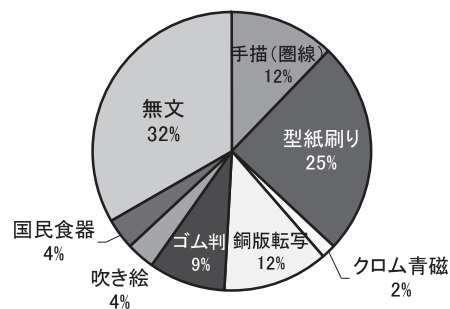
(8) 本土産磁器 (近代)

明治時代～昭和10年代に大量生産を目的とした技法により製作された資料である。器種としては碗が多く26点、その他には小碗・杯・皿・猪口・鉢・湯のみ等が数点ずつ合計57点が得られた。それらの施文技法としては手描き(圏線)・型紙刷り・銅版転写・ゴム判・吹き絵が確認でき、型紙刷りの資料が最も多く14点と全体の25%を占めた(第85表)。1点のみだが型紙刷りとゴム判の併用(図版122-6)も見られた。産地は瀬戸・美濃、砥部が多く、70%が瀬戸・美濃産であった。第86表に器種ごとの出土量を示す。出土状況を見ると全体の95%が第Ⅱ層から出土しており、うち79%の割合で沖縄産陶器と伴出していた。なお、H19地区S13第Ⅲ層より出土の型紙刷り碗口縁部は第Ⅱ層からの混ざり込みと考えられる。第Ⅱ層の遺構からは8点が出土し、S15-SD03を除いて青磁・白磁・染付・沖縄産無釉陶器・陶質土器と伴出していた。沖縄産陶器が326点出土しているのに比べ、本土産近代磁器は57点で1/6程の数量である。

今回出土した型紙刷り碗では点描で菱形文窓を描いた中に模式化された梅花文を描く碗(図1)が一番多く、他には点描の中に松竹梅を描く碗(図3)や腰部に瓔珞文を描く小碗もあった。また、明らかに線描や点描の様子の違う小皿(図版122-7)も出土しており、この違いは時期差によるものではないかと考えられ、今後の類似資料の増加が待たれる。銅版転写資料は細片ばかりで図柄の内容は掴めなかったが、繊細な線描の資料が多く、図柄も世風を反映したものではないため、初期に作られた資料ではないかと考えられる。以下、特徴的な碗4点と小碗1点を第151図に掲げ、5点を写真図版のみで紹介する。個々の資料の詳細は第87表に譲る。

第85表 施文技法別出土量

施文技法	個数
手描(圏線)	7
型紙刷り	14
クロム青磁	1
銅版転写	7
ゴム判	5
吹き絵	2
国民食器	2
無文	19



第150図 本土産磁器(近代) 平面分布

第86表 本土産磁器(近代) 出土量

地区・層	器種	碗					小碗			皿		猪口		杯		鉢		湯のみ			不明			合計	
		手描(圏線)	型紙刷り	クロム青磁	銅版転写	ゴム判	国民食器	手描(圏線)	吹き絵	ゴム判	型紙刷り	無文	無文	手描(圏線)	無文	ゴム判	手描(圏線)	銅版転写	無文	型紙刷り	吹き絵	ゴム判	無文		
H19	表採		1																					1	
	I															1	1							2	
	II	2	6		4		1								1				3	1				18	
イ	II	1	1		1		1																6	10	
	II(遺構)			1	1																			2	
ハ	II	1	1							2	1	1											1	2	9
	II		1				2		1	1	1												1	2	9
ニ	II														2									1	3
	II(遺構)																								1
合計		4	11	1	6	2	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	4	1	1	1	1	11	57	
器種合計		26					3			3		1	3		1	6						14			

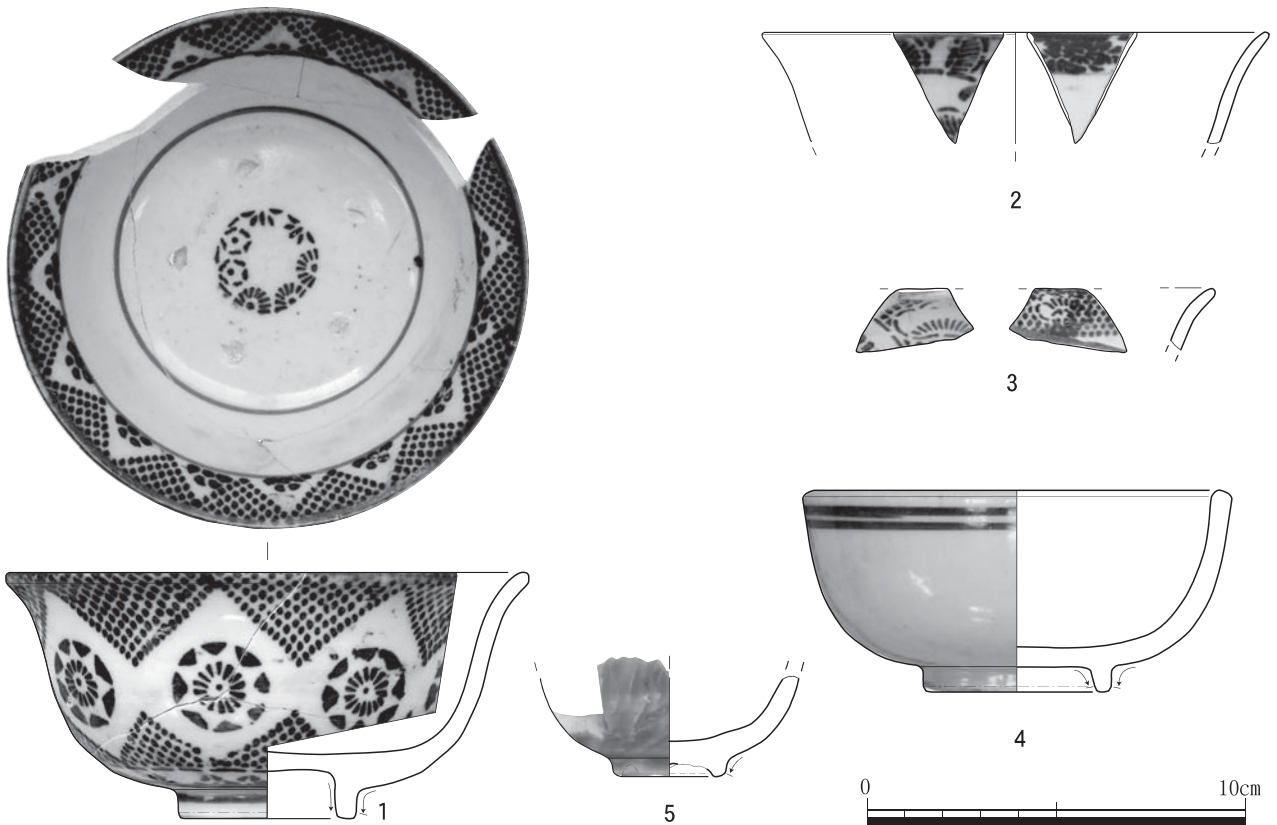
H19地区 II(遺構): Q14-SK16 R14-SK20 S15-SD03

イ地区 II(遺構): B10-SK51 B12-SK60

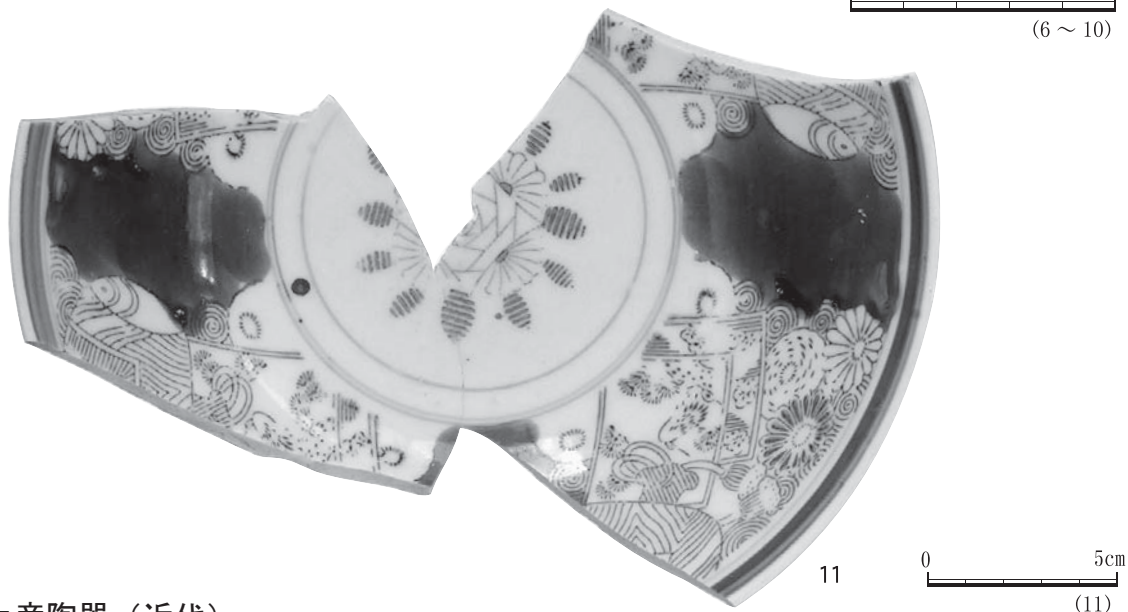
ニ地区 II(遺構): Q6-SK01・P9

第87表 本土産磁器（近代）観察一覧

第図 図版	番号	器種	部位	口径 底径 器高 (cm)	重量 (g)	口縁部 形状	素地	釉の 発色	技法	観察事項	生産 地	地区 小グリッド 層（遺構） 台帳番号
第151 図・ 図版 121	1	碗	ほぼ 完形	13.8 4.8 6.5	227	外反	白色で 微粒子	良好	型紙刷り	外面：菱形窓に模式化された梅花文 施釉後畳付けのみ釉を掻き取る 内面：見込みに一条の圏線と松竹梅 五足の針ハマの痕	砥部	地区不明 表採 台2418
	2	碗	口縁	13.4 - -	2.95	外反	灰白色で 微粒子	やや 鈍い	型紙刷り	外面：五弁花 内面：口縁部下約1cmの幅で五弁花を圏 線で挟む。	砥部	H19 S14 II 台2359
	3	碗	口縁	- - -	2.57	外反	黄白色で 微粒子	良好	型紙刷り	外面：松と点描 内面：口縁部下約1cmの幅で点描と梅花	砥部	H19 S13 III 台2348
	4	碗	完形	11.4 5.0 5.4	262	直口	白色で 堅緻	良好	国民食器	外面：口縁部下に緑色二重圏線 畳付け無釉	瀬戸 美濃	H19 T13 II 台3141
	5	小碗	胴～底	- 3.0 -	17.03	-	白色で 微粒子	良好	クロム 青磁	飛び匏後施釉 高台内面と畳付けは釉を掻き取る	瀬戸 美濃	イ B10 II (SK51) 台614
図版 122	6	小碗	胴～底	- - -	10.00	-	淡灰色で 堅緻	良好	型紙刷り +ゴム判	型紙で花卉を酸化コバルト（藍色）で絵 付け後、ゴム印で酸化ウラニウム（黄色） の花蕊を押す。蛇の目凹高台	瀬戸 美濃	ニ 台2338
	7	皿	胴～底	- - -	3.00	-	淡灰色で 堅緻	良好	型紙刷り	内面のみ施文 施釉後畳付けの釉を掻き取る	瀬戸 美濃	ハ S12 II 台2051
	8	小碗	口～胴	- - -	9.54	直口	白色で 堅緻	良好	銅版転写	正円子（暗紅色）と酸化コバルト（藍色） で草花を描く	瀬戸 美濃	H19 C17 II 台2363
	9	小碗	胴～底	- - -	18.05	直口	白色で 堅緻	良好	銅版転写	酸化クロム（暗緑色）で山水を描く	瀬戸 美濃	H19 S16 II 台1958
	10	小碗	口～胴	- - -	7.00	直口	白色で 堅緻	良好	吹き絵	1894年以降に製作された多色の吹き付け 製品	瀬戸 美濃	ニ III 台2338
	11	鉢	胴～底	20.5 8.9 6.5	273	直口	白色で 堅緻	良好	型紙刷り	内面：型紙にて菊花、菱形、打ち出の小 槌等を酸化コバルトで描く	瀬戸 美濃	H19 I 台2417



第151図・図版121 本土産磁器（近代）



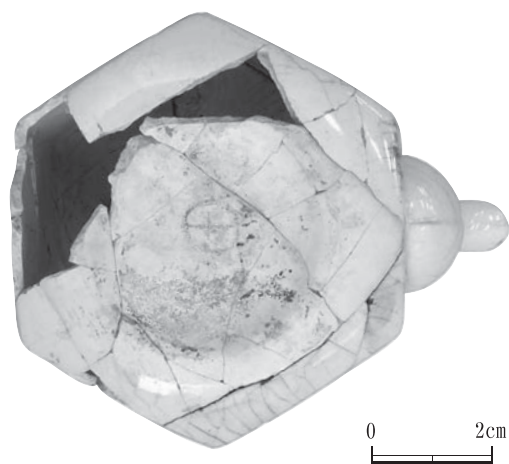
(9) 本土産陶器 (近代)

三重県四日市の『萬古焼』と思われる急須と器種不明の口縁部が確認できた。磁器の硬質さと陶器の柔らかさを兼ね備えた半磁器製品で大正時代初頭に製作されたことより「大正焼」とも呼ばれる。素地は黄濁色で硬質陶器の釉薬を施す。磁器に比べ低下度で焼成でき、また、型作りのため製造工程が平易でコストが低いことから、急速に普及したそうである。明治時代は四日市港の港湾整備が行われ、萬古焼の海外輸出も行われていたそうである。それが大正時代にも続いていれば、沖縄にはそのルートで入って来た可能性が高いと思われる。

図版122はH19地区016第Ⅱ層より出土の六角形急須で側面には樹木を模したと思われる絵付けがあり、底部には「十」の○囲みが見られる。型成形の後、注ぎ口と弦部を付けている。器種不明口縁部は表採資料で口唇部が「く」字状に内傾し胴部は直線状に外反する。内面には白色の釉、外面には濁った黒色の釉を掛け分けるものであった。器壁は3mmと薄い。小破片のため今回は報告を割愛する。

<参考文献> 萬古陶磁器振興協同組合連合会 2010

『よくわかる四日市萬古焼読本』



図版122 本土産磁器 (近代) ・本土産陶器 (近代)

(10) 円盤状製品

円盤状製品の出土は6点で、素材は白磁、青磁、染付、沖縄産無釉陶器、本土産陶器、本土産磁器各1点である。使用部位の内訳は胴部1点、底部高台3点、腰部～底部高台2点である。底部の器種は白磁が皿、青磁は碗又は大皿、染付は皿（碁笥底）、沖縄産無釉陶器は甕を使用している。

層序は6点のうち第Ⅱ層から3点、第Ⅲ層から2点、表採1点である。

図1は、青磁で器種は碗又は大皿、部位は腰部～高台部分の資料で、外面の文様はラマ式蓮弁文類の一種と思われる。内面は見込みから立ち上がり部分に文様が施され、釉は厚く色調は緑青色である。底径約8.0cmとすると大皿の底部とも考えられる。図2は白磁で器種は皿、挟り入り高台の底部である。釉薬は内外面とも薄く内底、見込みに重ね焼きの痕跡がみられ、高台接地面の部分の釉薬が剥がれている。外面の釉薬は一部釉垂れがみられるが高台には掛けられていない。高台部分は削り取った後に釉薬を掛けた痕跡がある。

図3は染付の底部で碁笥底を呈す。この資料も見込みに文様が施され、くずれた菊花文を中心部に描いている。図4は沖縄産無釉陶器胴部で、表面にヘラ削りを施す。裏面に轆轤回転時の調整痕がみられ、厚みはほぼ一定で下部に若干厚みをもつ。磁器類に比べ厚みがある為、打ち割りは一部正円にならず略方形を呈す。図5は本土産陶器の碗、底部で打ち割りは粗く高台以外の部分も雑に残る。高台の外底は風化が激しく摩耗している。図6は本土産磁器、小碗の腰～底部の資料で高台の破損が確認できる。図柄は花卉の一部と唐草文がみられ、蔓（つる）草模様が描かれている。残存する高台から推定し、底径1.5cm～2.5cmの資料と思われる。

第88表 円盤状製品観察一覧

(単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	素 材	器 種	部 位	文 様 図 柄	計 測 値					地区 小ゲリット [*] 層 取上番号 台帳番号	
						長径	短径	最大厚	底径	重さ		
第 152 図 ・ 図 版 123	1	青磁	碗/大皿?	腰部～底部・高台	ラマ式蓮弁文	6.7	6.4	2.1	8.0	85.0	イ	T12 II 取432 台1284
	2	白磁	皿	底部・高台	挟入高台 (削り高台)	5.0	4.2	1.2	4.0	18.0	H19	A トレンチ II 台4286
	3	染付	皿	底部・高台	菊花文	4.4	4.3	0.7	2.4	12.7	ハ	Q10 III 台2187
	4	沖縄産無釉陶器	不明	胴部	-	4.8	4.4	1.2	-	33.0	H19	R14 III 台1749
	5	本土産陶器	碗	底部・高台	なし	5.8	5.4	2.1	4.8	40.8	イ	C11 II 取263 台1642
	6	本土産磁器	小碗	腰部～底部・高台	唐草文	3.7	3.4	1.2	2.0	12.3	-	表採 -

今回の調査で円盤状製品は数量的に少なく詳細な分類にいたらなかった。円盤状以外の白磁、青磁、染付、本土産陶器、本土産磁器、沖縄産陶器なども少ない為、米軍基地接取時に大きく掘削、投棄された可能性もある。しかし、素材として古いものは白磁、青磁から新しいもので本土産磁器までバラエティーに富んでいる。円盤状製品に使用された白磁は挟入高台、又、青磁は内面、外面ともラマ式蓮弁文の片切り彫りで文様を施すため時期的に150代の資料と思われる。染付は小型の器物で碁笥底を呈す。

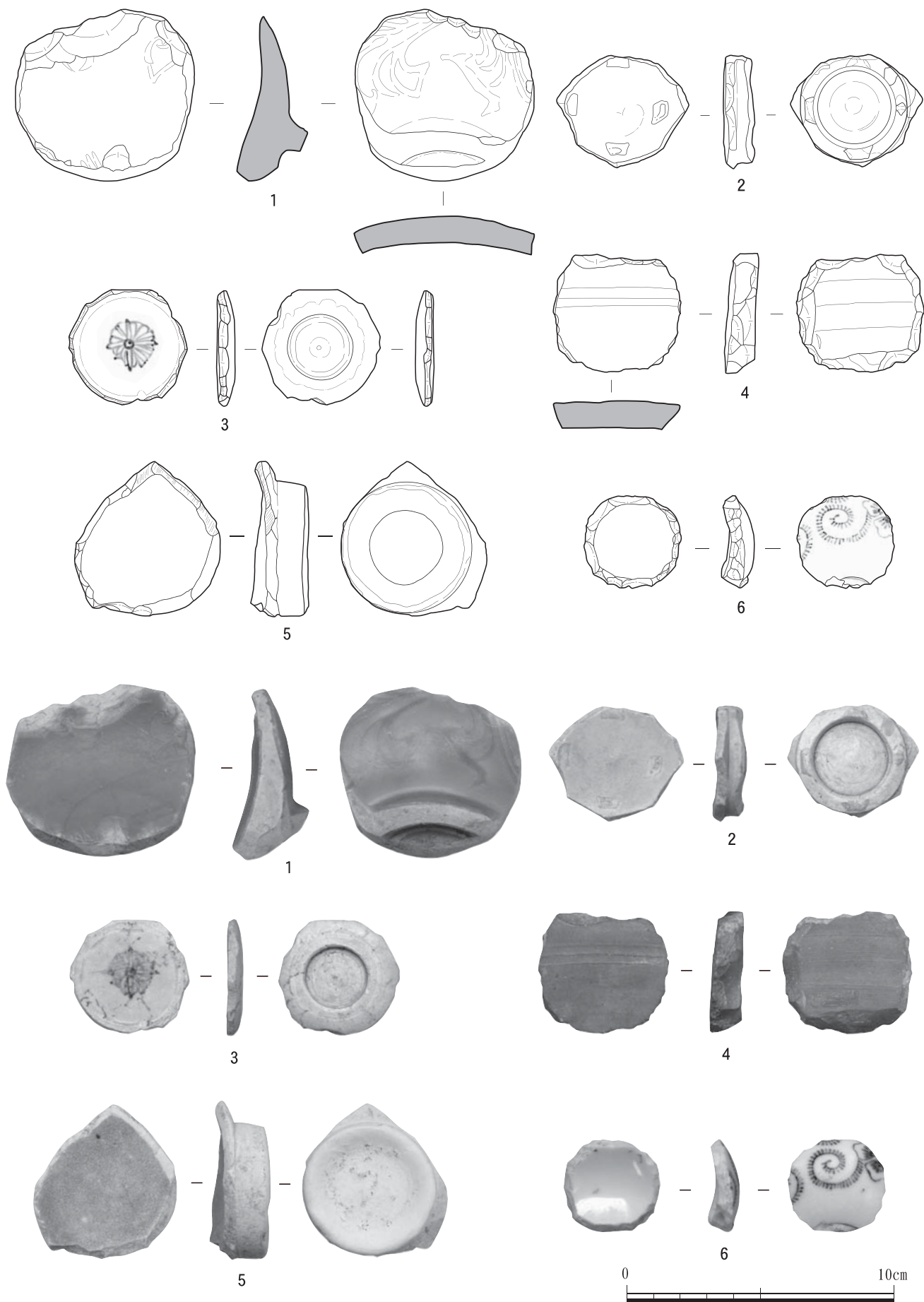
本土産磁器の資料は古手の時期に属すと推測され小碗の器物で唐草文の絵付けを施し、図柄は花卉に唐草文の蔓草模様が描かれ花唐草とも蛸唐草（図柄を略した描き方）とも捉えられる。唐草文は中国産の青磁や染付の図柄に見られ本土産磁器も影響を受けたと思われる。唐草以外の文様と共に描かれることが多く、年代により描き方の種類が多い文様である。素材を詳細に確認した結果、本遺跡のグスク～近世、近代集落で流通した陶磁器、焼き物の変化を知ることができた。

<参考文献>

平凡社 1984 『やきもの辞典』

九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』－九州近世陶磁学会10周年記念－

佐賀県立九州陶磁文化館 1984 『国内出土の肥前陶磁』－古唐津・伊万里の流通をさぐる－



第152図・図版123 円盤状製品

(11) 煙管

煙管は7点得られ、層序はすべて第Ⅲ層からの出土である。素材は陶器製、石製の2種類で、陶器製には無釉陶器の資料がある。煙管には火皿から吸い口までが一体の延べ煙管と雁首、吸管、吸口部分が分割される羅宇煙管に分類され、今回は羅宇煙管のみ出土した。部位は雁首のみで、煙管の吸口は出土していない。

A. 石製

図1は石製でシルト質の石を使用している。形状は円筒形と想定されるが残存する部分は破損している。図2も石製で硬質の細粒砂岩を使用している。形状は前者と同様の円筒形を呈す。長径、短径ともに他の資料より大きく側面は円筒形にするための削り痕が細かくみられる。

図3は石製の資料でシルト質の石を使用している。形状は円筒形に角をつけ末広がり呈す。火皿部分の径が小さく火皿内側と吸管との接続部分は煙草の脂（ヤニ）で黒く変色している。

図4は石製でこれも粒子の細かい硬質の細粒砂岩を使用している。形状は円筒形を成し図2と図3の中間程度の大きさを呈す。特徴は雁首の先端に携帯用の突起が作られ、紐通しの孔が開いている。この資料は火皿部分の径が大きく開いている。

第89表 煙管観察一覧

(法量単位：cm/g)

第図 図版	図 番号	素 材	部 位	色 調	完/破	雁 首 計 測 値				観 察 事 項	地区 小グリッド 層 遺構 取上番号 台帳番号
						火皿 外径 内径	小口 外径 内径	長さ 高さ	重量		
第 154 図 ・ 図 版 124	1	石 製	雁首	薄灰色	破損	0.7 0.5	2.1 1.3	—	9.6	残存状態悪く脂（ヤニ）付着 シルト岩製	イ C9 Ⅲ P21 台2286
	2	石 製	雁首	灰褐色	完形	1.4 0.7	2.4 1.4	3.6 2.4	27.0	資料のうち最も重い、火皿内部、 小口内部に脂（ヤニ）付着 シルト岩製	イ C11 Ⅲ 取253 台1984
	3	石 製	雁首	灰褐色	完形	0.7 0.5	1.7 1.2	2.5 1.3	6.0	火皿内部、小口内部に脂（ヤニ）付 着 シルト岩製	イ C12 Ⅲ 台1982
	4	石 製	雁首	薄黄褐色	完形	1.3 0.7	2.2 1.2	3.3 2.1	19.0	携帯用紐通しのつまみ有り シルト岩製	イ C11 Ⅲ P23 台—
	5	無釉陶器	雁首	灰青色	破損	1.9 1.4	1.5 —	3.8 1.7	9.0	小口部分が根元から破損	イ C11 Ⅲ 取317 台1985
	6	無釉陶器	雁首	灰青色	完形	2.1 1.4	1.6 1.0	4.4 1.9	11.0	火皿内部に脂（ヤニ）付着	イ C11 Ⅲ 取151 台1983
	7	無釉陶器	雁首	暗赤褐色	完形	1.7 1.3	1.4 0.9	3.9 1.4	7.0	釉薬は一部のみ掛けられる	H19 Q17 Ⅲ 台3405

B. 無釉陶器製

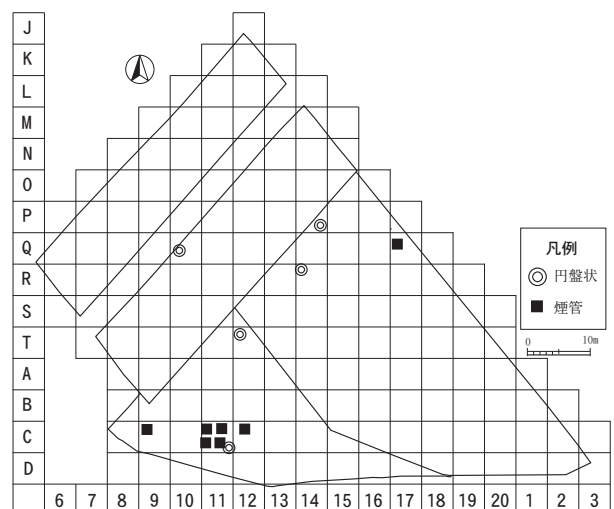
図5は無釉陶器製で雁首の端部が破損する。形状は金属製の羅宇煙管の雁首部分を模倣したように思われる。火皿部分は内径が大きく脂（ヤニ）反しの部分が裏面は僅かに細い。

図6は無釉陶器製で、羅宇煙管の形状を呈す。

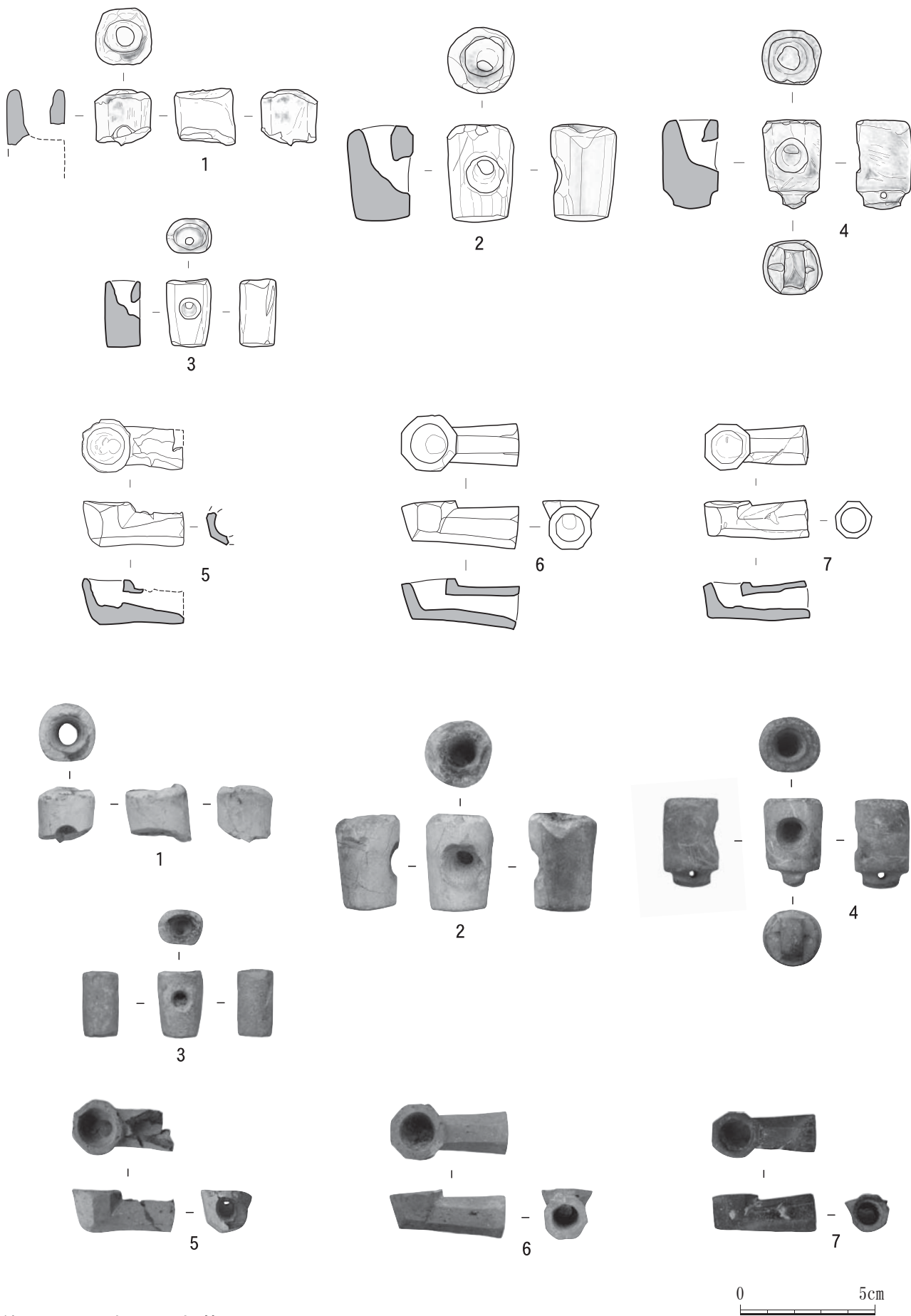
製作工程の際に粘土に混入物を混ぜたと想定され粒の大きな石が側面にみられ小石の抜けた穴も多く確認できる。

図7は釉薬が一部残るが無釉陶器製とした。

羅宇煙管の形状を呈し、雁首の首部から吸管との接続部、小口部分に釉薬がみられ施釉の痕跡か、何によるか不明。同形態の図5、6と比較して火皿外径、脂反しの立ち上がりの高さ、雁首の首部の長さが小振りな作りである。



第153図 円盤状製品・煙管平面分布



第154図・図版124 煙管

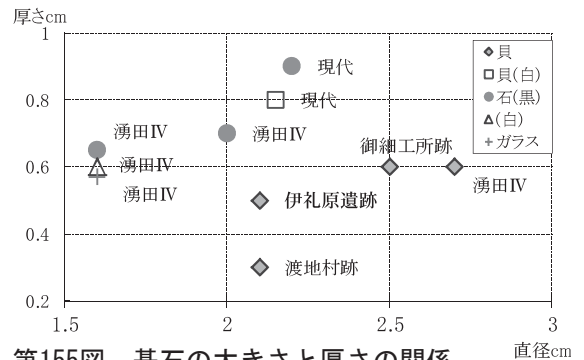
煙管が作られた時期、煙草が嗜好品として一般に流通し、雁首と吸口の部位も時代とともに素材や形態に変化がみられる。煙管の出土が量的に少なく詳細な分類にいたらず判断しうる範囲内での報告とした。明治5年に国産の紙巻煙草が製造され、煙管はしだいに使用されなくなる。沖縄では琉球王統下で煙草栽培がされていたが、琉球処分後は詳細が不明である。戦後1951年に沖縄産紙巻煙草が製造されるまで煙管を使用していた可能性が高い。

<参考文献>

日本民具学会（編）1997 日本民具事典（株）ぎょうせい
 沖縄県教育委員会 1999 『湧田古窯跡（IV）』 沖縄県文化財調査報告書第136集
 江戸遺跡研究会（編）2001 図説 江戸考古学研究事典 柏書房
 沖縄県教育委員会 2003 沖縄県史各論編 第二巻 考古
 沖縄県立埋蔵文化財センター 2003 『尻並遺跡』 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第15集
 石井竜太 2009 「琉球の喫煙文化」『南島研究』 東京大学文学部考古学研究室
 シンポジウム『VOCと日蘭交流—VOC遺跡の調査と嗜好品—』発表要旨 2010 たばこと塩の博物館・東京都江戸東京博物館・江戸遺跡研究会
 石井龍太 2011 「琉球諸島出土キセルの基礎的研究」『東京大学考古学研究室 研究紀要』

(12) 碁石

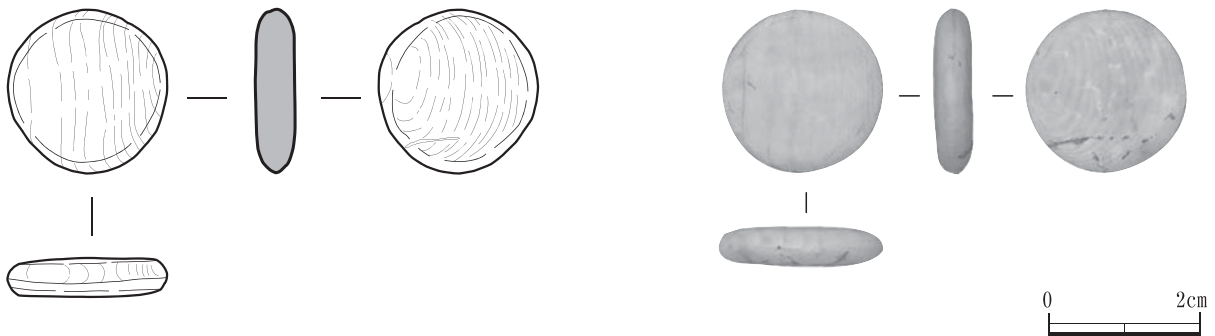
貝製の碁石が1点得られた。表面に平行、裏面に弧状の縞模様が明瞭に確認できる。縞模様の碁石はハマグリ製で、碁石の中では高級品とされている。ハマグリ製碁石の加工は県内では例がないことから搬入品と考えられる。直径2.15cm、厚さ0.5cm、重さ4.13gを測り、ハ地区D12第Ⅲ層SP22の出土である。第155図に御細工所跡、湧田古窯跡(IV)、渡地村跡及び現代の碁石の、大きさと厚さの相関関係を示した。これによると本品の大きさ及び厚さはほぼ中間サイズで、現代の碁石断面がレンズ状を呈するのに対し、本品は板状を呈することから古手であろう。



第155図 碁石の大きさと厚さの関係

<参考文献>

那覇市教育委員会 1991 『御細工所跡』 那覇市文化財調査報告書第18集
 沖縄県教育委員会 1999 『湧田古窯跡(IV)』 沖縄県文化財調査報告書第136集
 沖縄県立埋蔵文化財センター 2007 『渡地村跡』 沖縄県立埋蔵文化財センター第46集



第156図・図版125 碁石

(13) 瓦

瓦は丸瓦4点、平瓦32点、不明27点の合計63点出土、いずれも10cm以下の小破片で、いわゆる赤瓦である。出土量が少ないながらも分布状況は出土遺物の項で述べたようにS・T13・14に多い傾向が瓦にも見られ、S13・14で各5点、T13・14で各4点、P16は3点で、ほぼ第Ⅱ層出土（第90表）である。出土した瓦と2次製品について略述する。

図1は丸瓦の破片、色調は橙色で硬質、胎土は粗く、白色・茶褐色粒、小さな巻貝が見られる。重さ61.28g、P12出土。

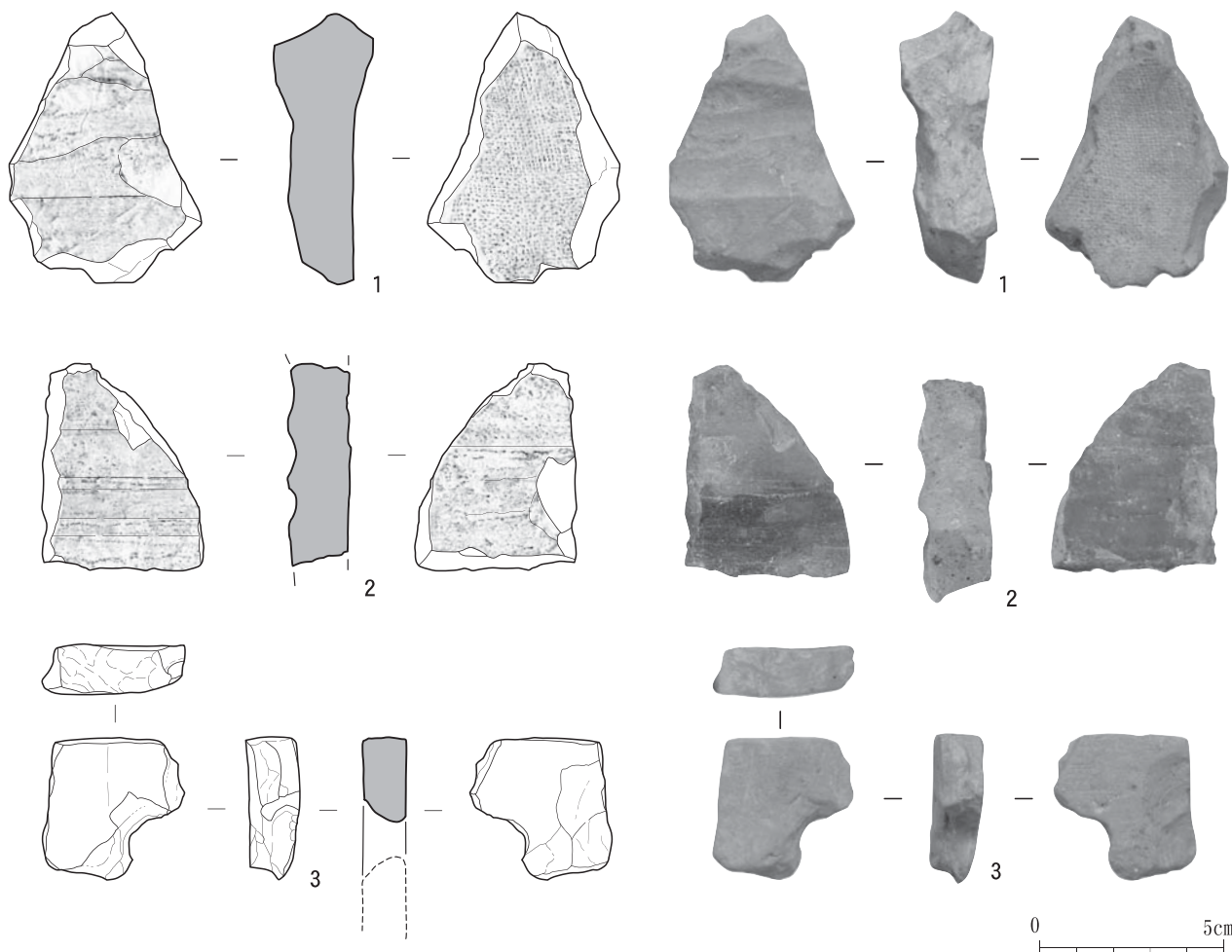
図2は平瓦の破片、横位に施される2条の凹は幅2mmの間隔を有し他に比して稜が明瞭である。重さ64.9g、P16、第Ⅱ層出土。

図3は、2次加工品と見られる。全体的に摩滅し上面に整形と見られる研磨痕があり、右下部には表面側への剥離痕を伴う摩滅した抉りが見られる。胎土は粒子が細かく暗褐色や白色粒を含み陶質土器に類似する。重さ16.49g、第Ⅱ層出土。

丸・平瓦ともに胎土の混入物に黒・赤褐色粒、暗灰色粒、石灰粒を含み巻貝も僅かに見られ、硬質であるが、表面が滑らかなものとザラザラするものが見られる。

第90表 瓦出土量

分類 層序	丸瓦	平瓦	不明	合計
I		2	1	3
II	4	29	26	59
表採		1		1
合計	4	32	27	63



第157図・図版126 瓦

(14) 石製品

円筒形礫の破損品と見られる。破損面には、上下に貫通する直径約4.5cmの孔があり、その左側破損面には抉れがあり、右側破損面の小さな窪みの中に貝化石が見られる。

破損面には、石灰分の結晶が僅かに付着し縁は摩滅する。長さ23cm、最大幅21.7cm、重量8.8kg、石質はシルト岩。図版129、第158図で示したようにニ地区K12東壁で立位の状態で検出されているが掘り込みは見られない。出土状況から所属時期は第Ⅱ層と判断される。

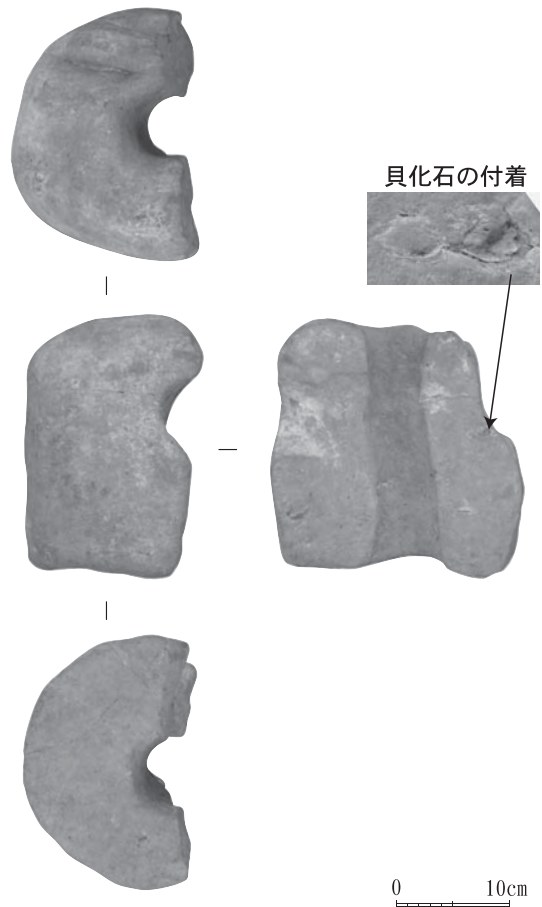
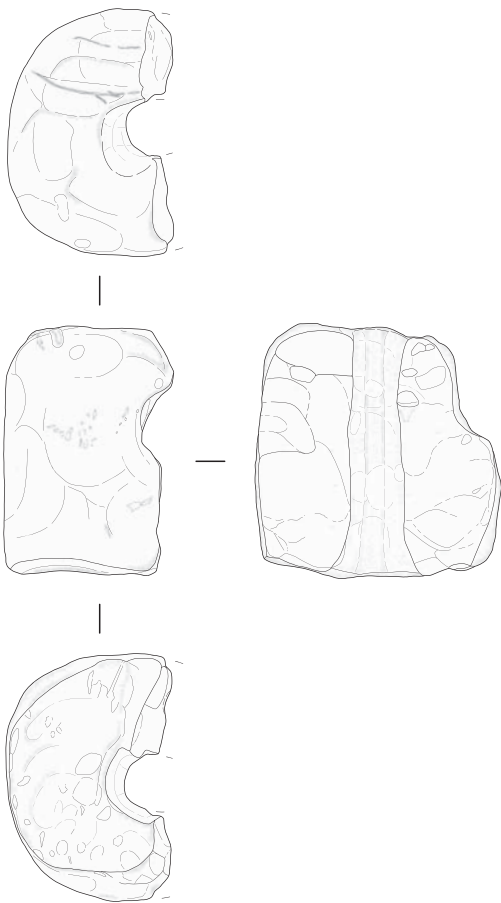
本資料は人為的に持ち込まれたものと考えられるが、石製品としての使用・加工痕は見られず用途は判然としない。類例を待ちたい。



図版127 石製品出土状況



図版128 検出状況 (K12東壁)



第158図・図版129 石製品

(15) 現代遺物

ガラス製品（瓶、不明品）、プラスチック製品（シェービングブラシ、ケース、歯ブラシ）、磁器（碇子、不明）、金属製品（財布口金、丸釘、棒状、缶、金具、鎖、銃弾、鉄片）、真空管、サングラスがⅡ層や米軍攪乱遺構から出土した。第91表に出土状況、図版130に特徴的なものを示した。ほとんどが米軍基地の廃棄物で、キャンプ桑江北側地区の基地使用を示すものである。同地区内の小堀原遺跡（2012）にガラス瓶類の類例がある。

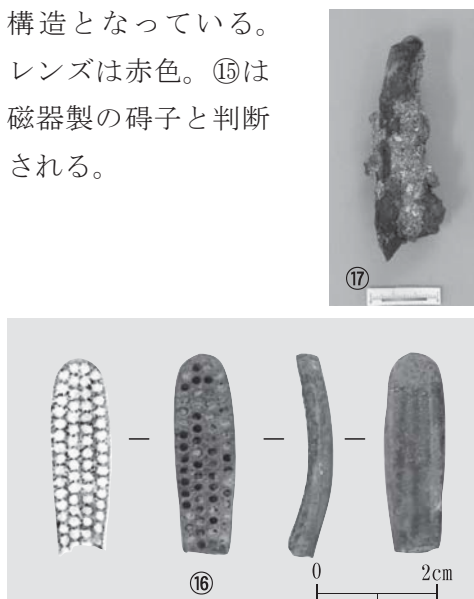
ガラス瓶は6種類あり、①～③は鉄製蓋が付く無色の瓶で、高さ約9.5cm、瓶底に製造に関すると思われる記号と数字が陽刻される。②は瓶底の数字が型押しの際にずれて2重になる。⑥・⑦はプラスチック製の蓋が付く茶色の瓶で、高さ3cm。⑧はプラスチック製の蓋が付く無色の瓶で、高さ7.4cm。⑤の飲料瓶は胴上部に「NO DEPOSIT NO RETURN」「NOT TO BE REFILLED」、底に「Dwaalas」とマークの左右と下に数字が陽刻される。④の内部に「く」字状に曲がる芯と固化した内容物が残存する。⑩は無色の瓶だが口縁部に螺旋状の溝が見られない。⑨はガラス製品の破損品で用途は不明である。縦断面が三角形を呈しており、台座の可能性があるとと思われる。

プラスチック製品は3種類、⑬はシェービングブラシで、表側に「Kesso」、裏側に「STERILIZED BRISTLES SET IN RUBBER」が印字される。⑭はケースの身、陽刻で正面中央下部に紋章、下位に「USN」（U. S. NAVYと考えられる）、その両側の縦線の文様は表裏面・側面・底面にあり底面で交差する。⑯は歯ブラシ、毛を埋め込む孔15個4列が配される。

金属製品の棒状は、角柱状と先端が尖るものがあり、前者は性格不明、後者の⑰はテント固定用ペグと思われる。⑫は真空管、プラスチック部分に「Radiotron」「MADE IN USA」が印字され、底面には金属部品が残る。⑪のサングラスは耳かけ部分が螺旋状のバネ構造となっている。レンズは赤色。⑮は磁器製の碇子と判断される。

第91表 現代遺物出土量

種類	ガラス製品		プラスチック製品			磁器		金属製品						真空管	サングラス	合計		
	瓶	不明	シェービング ブラシ	ケース	歯 ブラシ	碇 子	不 明	財布 口金	丸 釘	棒 状	缶	金 具	鎖				銃 弾	不 明 鉄 片
出土地区																		
H19地区	9	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1		2	15	1	1	38
ハ地区								1			5				1			7
ニ地区									6	3	7		1		3			20
合計	9	1	1	1	1	1	1	1	7	4	13	1	1	2	19	1	1	65



図版130 現代遺物

第6節 伊礼原A遺跡（口地区）

1. 調査の方法と成果

（1）調査区の設定

伊礼原A遺跡は、伊礼原遺跡と伊礼原E遺跡間の標高4mに位置する周知の埋蔵文化財包蔵地である。調査区設定は予備調査の調査結果を踏まえつつ、のちに史跡指定を受けることとなる伊礼原遺跡の範囲を避けて行った。調査面積は約500㎡である。グリッド名称はキャンプ桑江北側地区で用いているグリッド設定手法に従い呼称した。なお、グリッドの設定方法、調査手法、記録作業、整理作業については、第Ⅲ章第1節で既述のためここでは割愛した。

（2）自然科学分析

伊礼原A遺跡からは、①K8北壁の腐食質砂層（基本層序の第Ⅴ層）、②L7北壁の泥炭層（同第Ⅴ層）の土壌サンプルをそれぞれ採取し、花粉分析及び微細物分析を実施した。また、前述①から木片1点を採取し放射性炭素年代測定を実施した。分析結果については第Ⅳ章第5節を参照。

2. 層序

伊礼原A遺跡の基本層序は5枚に大別される。第Ⅰ層は戦後の造成土。第Ⅱ層は戦前の旧表土。第Ⅲ層はグスク時代の無遺物層。第Ⅳ層は貝塚時代後期の遺物包含層。第Ⅴ層は貝塚時代前Ⅴ期以前の泥炭層である。以下、各層について記述し、詳細を第92表に示す。

第Ⅰ層 戦後の造成土

戦後米軍により持ち込まれた造成土で赤土が大部分を占めている。厚さは70～100cm程度で非常に硬く締まっている。

第Ⅱ層 戦前の旧表土。

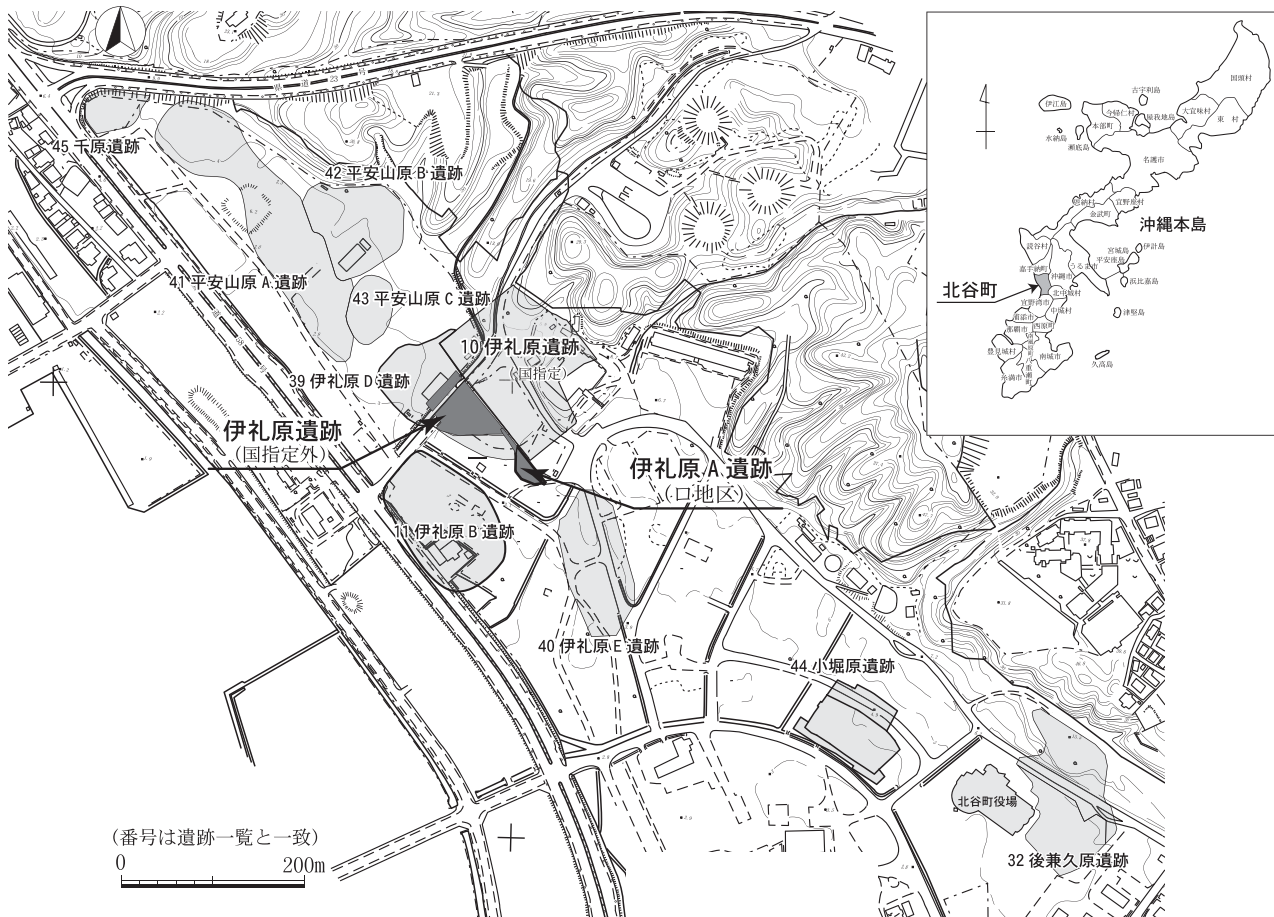
戦前の旧表土で茶褐色を呈し固く締まる。層厚は30～50cm程度で調査区の全面に見られる。当該地は戦前、畑となっていたことから耕作土と考えられる。

第Ⅲ層 グスク時代の無遺物層

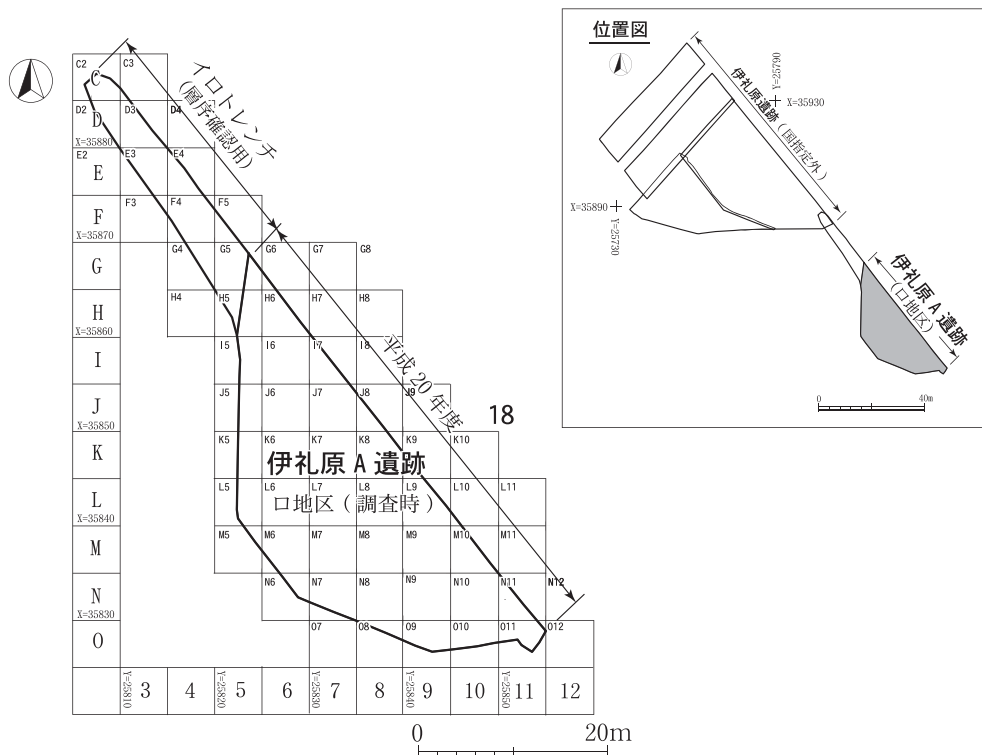
第Ⅲ層はキャンプ桑江北側地区にて部分的に見られる層で概ね2枚に分けられる。第Ⅲa層は淡水に生息するカワニナを含む黒～灰色粘質土で層厚は20～60cm程度。第Ⅲb層はほとんどカワニナを含まない緑灰色シルトで層厚は10～40cm程度。第Ⅲa層は無遺物層であるが小堀原遺跡に類似層が見られ、同層からは13世紀後半～16世紀代の遺物が出土していることから、第Ⅲa層も同時期中に堆積したものと想定される。第Ⅲb層も無遺物層であるが、小堀原遺跡における類似層上面が11世紀～12世紀の遺構面となっているため、11世紀以前には堆積したものと考えられる。

第Ⅳ層 貝塚時代後期の遺物包含層

概ね2枚に分けられる。第Ⅳa層は海砂で構成される無遺物層で緑灰～白色のシルト。第Ⅳb層はラミネーションが見られる遺物包含層で黄～褐色のシルトまたは砂である。第Ⅳb層（特にR8層）からは仲泊式土器、船元系土器、大当原式土器のほか石斧や磨石がほぼ同一レベルから混在して出土する。大当原式土器をもって第Ⅳb層の下限と捉えた場合、後述の第Ⅴ層に含まれる炭化物の年代測定値が2540±40BP（補正年代）であるため、第Ⅳb層の形成時期は貝塚時代前Ⅴ期から貝塚時代後期中葉が想定される。第Ⅳb層からは人工遺物の他、チャート、アラスジケマン、シラナミ、イノシシ



第159図 キャンプ桑江北側地区の遺跡と伊礼原遺跡・伊礼原 A 遺跡の位置



第160図 グリッド設定

の骨等も出土する。

第V層 貝塚時代中期以前の泥炭層

調査地の最下層で確認された無遺物層。泥炭、サンゴ砂利、シルトが互層状に成りながら、数回繰り返す堆積状況を示す。それぞれの層厚は2～5cm、15～20cm、5～10cmとなっている。堆積断面では、葉理や斜交葉理が観察できることから、海域や陸域に由来する流水環境にあったものと推測される。また、サンゴ砂利層が最も厚く堆積し、層中には大型の海産貝類が包含されていることから、当該期は海からの作用が強い波打ち際であったと考えられる。一方、泥炭質粘土は陸域からの供給が考えられる。泥炭層中に含まれる炭化物の年代測定結果は $2540 \pm 40BP$ （補正年代）の値が得られている。第V層は汀線付近の堆積物と考えられる。

小結

以上が伊礼原A遺跡における基本層序の概要であるが、ここからは本遺跡の立地条件や各層の特徴から堆積の推移（第V～Ⅲ層）を推測する。

本遺跡は伊礼原遺跡と伊礼原E遺跡の間に位置し、戦前はクシヌカーラと呼ばれる河川が遺跡の南側を西流していた。またクシヌカーラの右岸、本遺跡の東側にはタカアブサーと呼ばれる標高10mの小高い丘陵があり、河川及び丘陵から土砂が流れ込みやすい場所となっている。

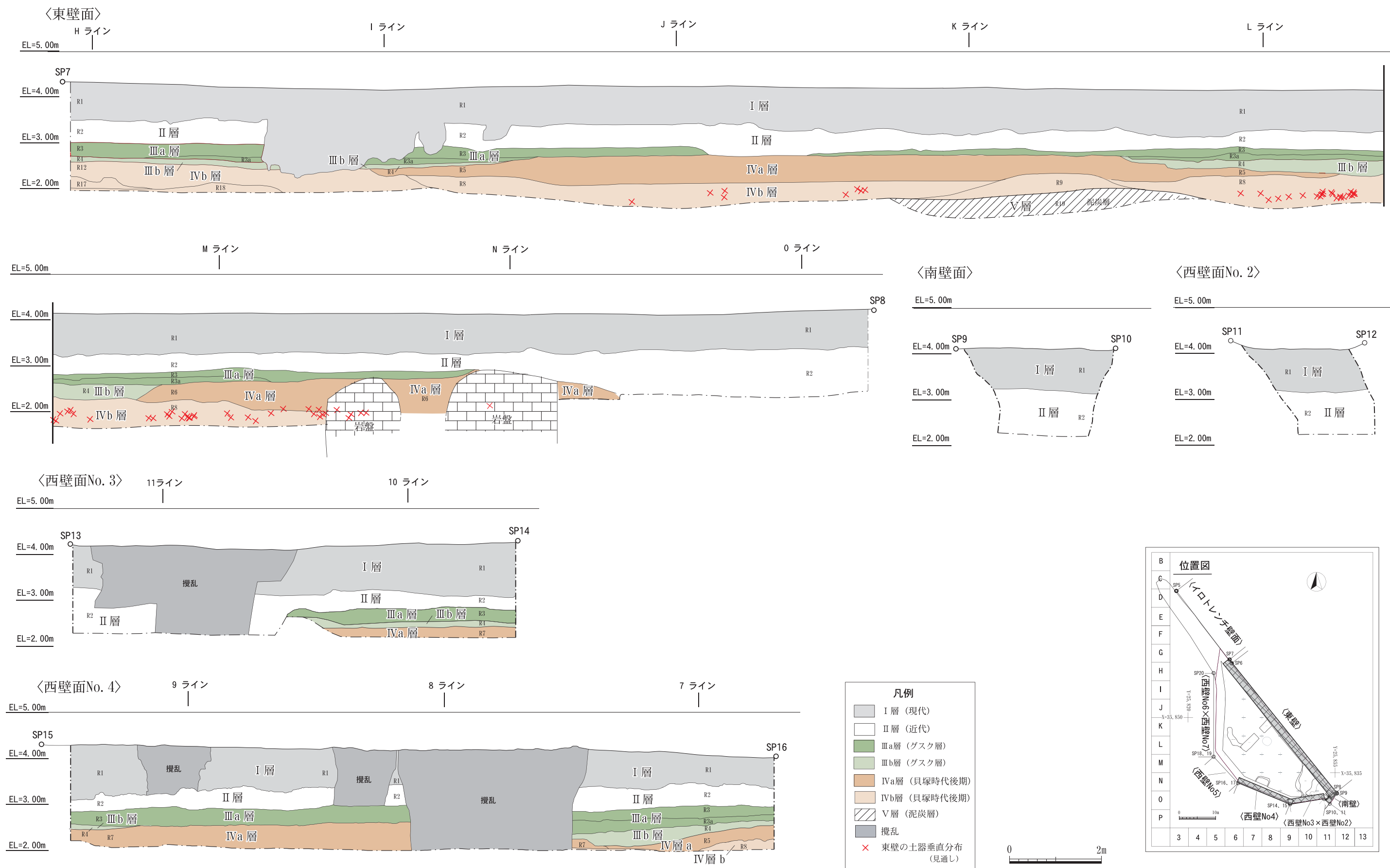
今回の調査で確認された最下層にあたる第V層は、泥炭、海成砂、シルトが互層を成していることから、陸と海から堆積物が供給される環境下にあったものと考えられる。汀線は現在よりも内陸に位置し、遺跡は河口（クシヌカーラ）付近に位置していたであろう。

第IVb層期になると泥炭は見られなくなるが、依然として海成砂とシルトが互層を成している。層中からは仲泊式土器、船元系土器、大当原式土器等（IV類）時代の異なる土器が出土し、第V層同様土砂が流入しやすい環境であったと想定される。

第IVa層期には海成砂が厚く堆積する。第IVb層から大当原式土器が出土することから、第IVa層は貝塚時代後期中葉以後に堆積したと考えられるが、時期を特定できる遺物が無いため明確ではない。

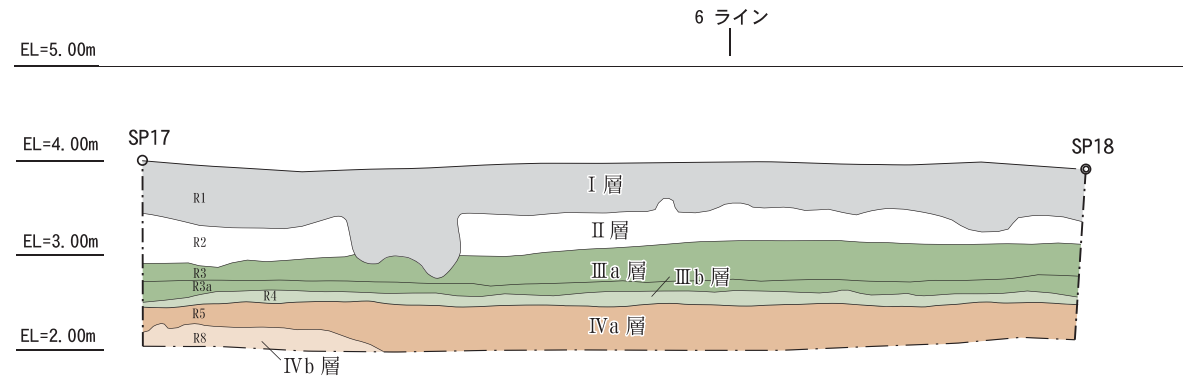
第Ⅲb層期になると淘汰の良いシルトが堆積し、その上部には淡水に生息するカワニナを含む粘質土（第Ⅲa層）が堆積する。第Ⅲb層に類似する堆積状況は本遺跡より南東へ700m離れた小堀原遺跡でも認められる。本遺跡のシルト層が小堀原遺跡と同一、同時期のものと仮定すると、第Ⅲb層は11世紀以前に堆積した可能性が高い。なお、小堀原遺跡ではシルト層が15～20cmと厚く堆積し、層中には石英粒が認められている。その供給源を付近の丘陵に求めた場合、丘陵から土砂が流れ出す何らかの自然的、もしくは人為的要因があった可能性も視野に入れる必要がある。

淡水生のカワニナを含む第Ⅲa層は、遺跡の南側を流れていたクシヌカーラの流末が何らかの原因で、例えば浜堤の発達等により閉塞され、一帯は一時的に沼もしくは湿地のような状態になった結果形成されたものと考えられる。後兼久原遺跡では11世紀後半から13世紀の間の一時期にヌノメカワニナを含むシルト質土が堆積していることから、第Ⅲa層の年代値はその頃に該当する可能性がある。

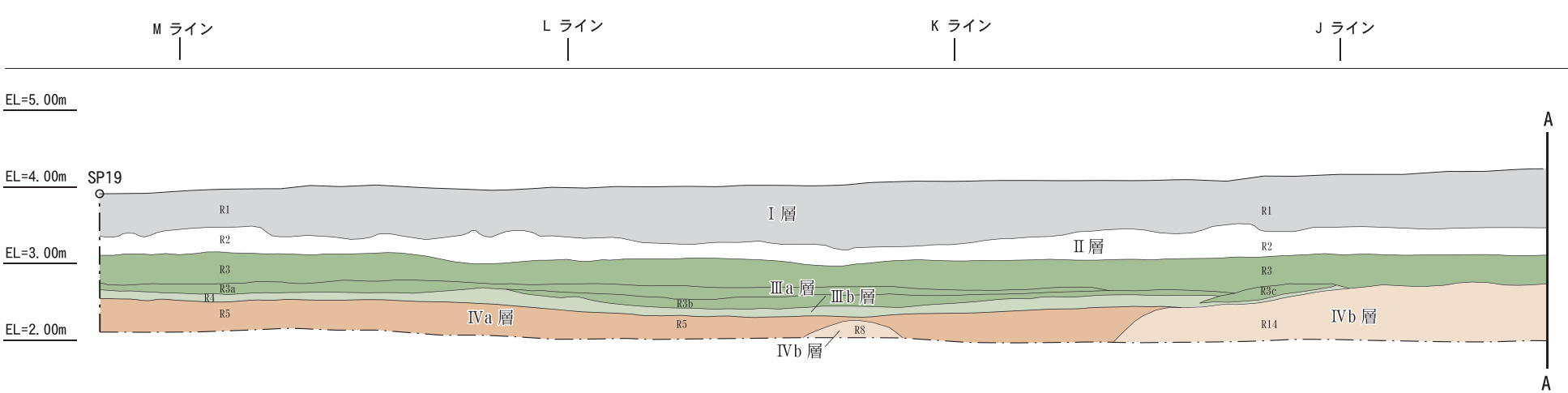


第161図 層序1 (東壁・南壁・西壁No.2・3・4)

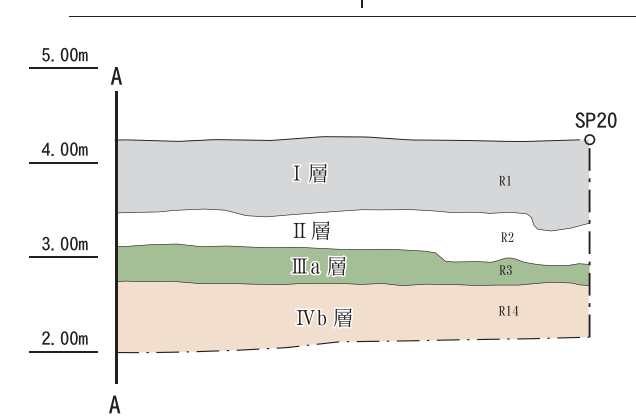
〈西壁面No. 5〉



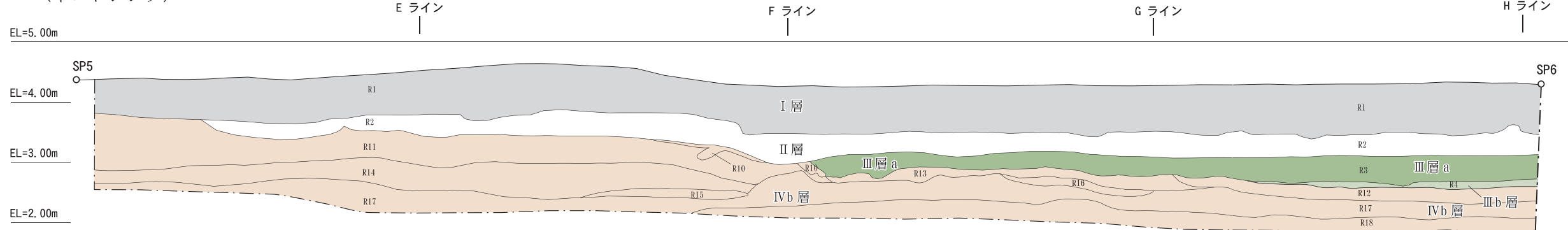
〈西壁面No. 6〉



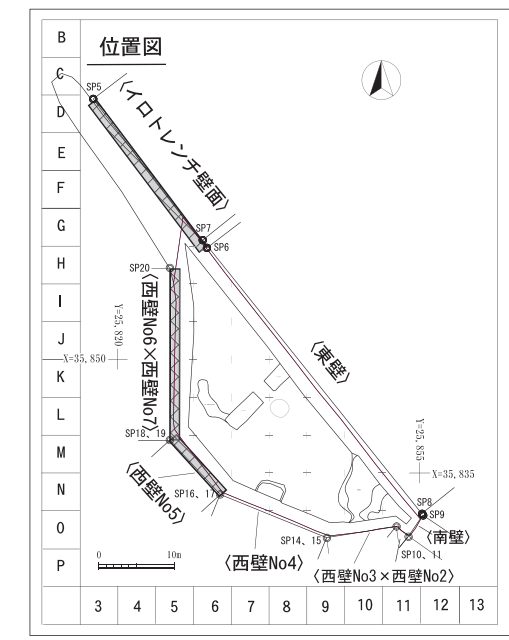
〈西壁面No. 7〉



〈イロトレンチ〉



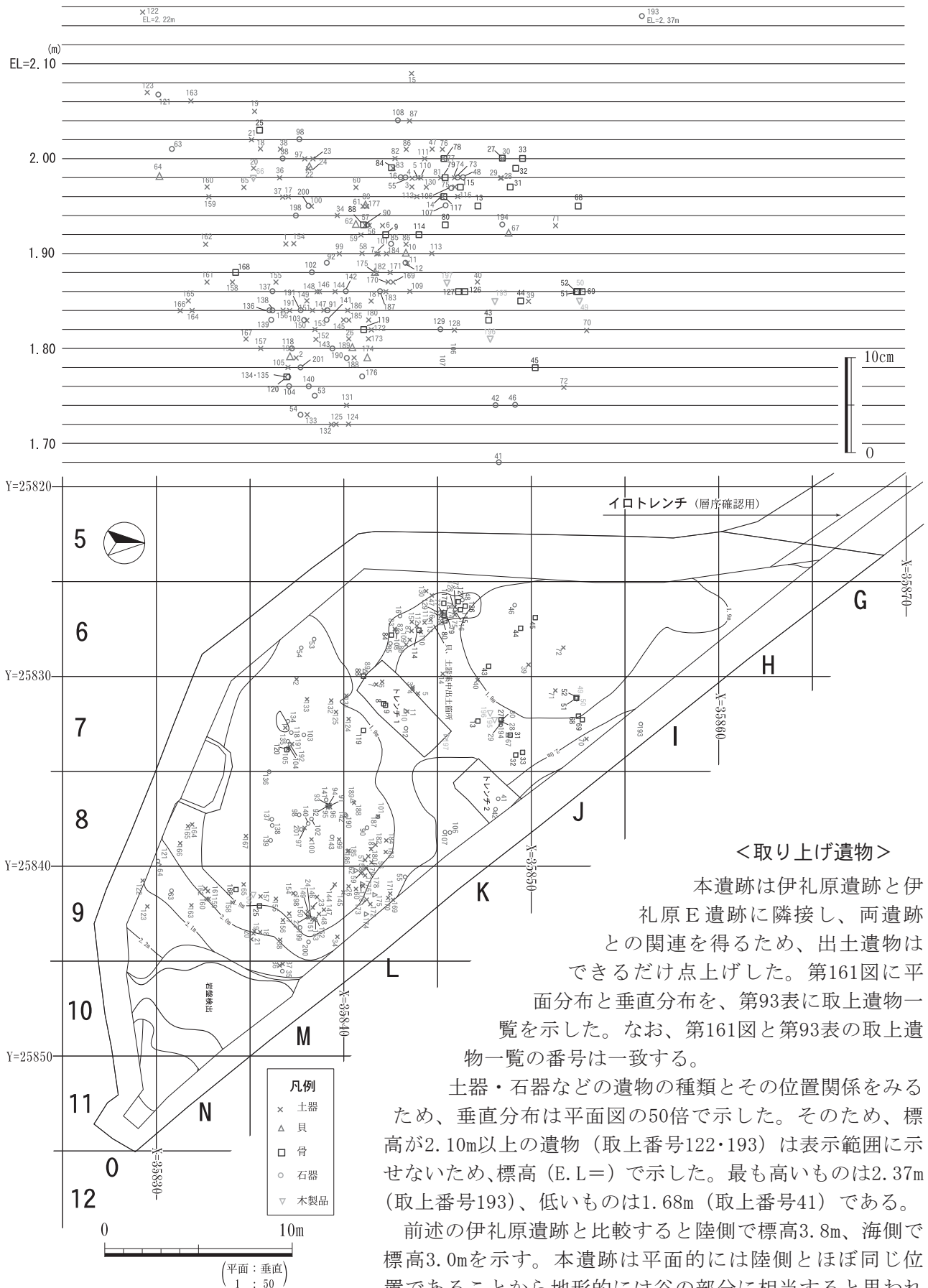
- 凡例
- I層 (現代)
 - II層 (近代)
 - IIIa層 (グスク層)
 - IIIb層 (グスク層)
 - IVa層 (貝塚後期)
 - IVb層 (貝塚後期)



第162図 層序2 (西壁No.5・6・7 イロトレンチ)

第92表 層序観察一覧

基本層序	仮層序	色調		質	特徴	
I	R1	-	-	造成土	米軍による造成土	
II	R2	7.5YR4/3	褐色	粘質土	旧表土	
III	a	R3	N/2/1	黒色	粘質土	グスク時代の貝含層。粘性、締りあり。
		R3a	N/3/	暗灰色	土	R 3層より粘性が弱く、色調がやや灰色がかかる。
		R3b	N/2/1	黒色	砂質土	締り、粘性なし。部分的に貝小片が散る。
		R3c	2.5GY2/1	黒色	土	締り、粘性がなく、シャコガイや土器片を多く含む。堆積は層状に広がらず部分的にしか見られない。
	b	R4	7.5GY5/4	緑灰色	シルト	やや締りあり。安定した堆積層。干潟を成していたと思われる。
IV	a	R5	10GY5/1	淡緑灰色	シルト	風化した軽石が全体に散る。無遺物層。
		R6	2.5Y8/2	白色	シルト	拳大の褐色粘質土ブロックや黒色土ブロックが混じる。
		R7	N/2/1	黒灰色	土	部分的に緑灰色シルトと褐色の砂利が混じり、大型の貝や貝塚時代後期の土器を含む。
	b	R8	7.5YR5/4	にぶい褐色	シルト	部分的に炭化物が混じり、粗い砂利と互層をなす部分がある。大当原式土器、仲泊式土器が出土。
		R9	10YK5/8	黄褐色	砂利	水性により上層のシルト層と互層をなす。海側へ弧状に堆積していると思われる。
		R10	5Y R3/1	黒褐色	土	締り、粘性なし。黒褐色土に鉄分がにじむ。
		R11	2.5 Y R 7/6	明褐色	細砂	貝片、サンゴ片が多く混じる。
		R12	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト	所々に黒色粘質土がブロック状に混じる。また貝片も散見される。
		R13	7.5 Y R5/8	明褐色	砂	粒子の粗い砂質で黒色粘質土がブロック状に混じる。
		R14	2.5 Y R8/6	黄色	細砂	砂の粒子が細かく均一である。遺物は見られない。
		R15	5Y R8/3	淡橙色	砂	貝片、サンゴ片を多く含み、やや赤みを帯びる。
		R16	10Y R4/2	灰黄褐色	砂	薄く堆積した層中に貝を密に含む。リュウキュウサルボオ、アラスジケマン等の二枚貝が主体。
		R17	7.5 YR6/8	橙色	砂	白砂に鉄分が混じる。所々にサンゴ礫が散る。
R18	7.5 Y4/1	暗緑灰色	シルト	層中に拳大の礫が混じる。		
V	R19	-	灰白～灰 淡黄～黄白 灰黒	シルト サンゴ砂利 泥炭	泥炭、サンゴ砂利、シルトが互層を成す。サンゴ砂利層は大型の貝を含む。	



<取り上げ遺物>

本遺跡は伊礼原遺跡と伊礼原E遺跡に隣接し、両遺跡との関連を得るため、出土遺物はできるだけ点上げた。第161図に平面分布と垂直分布を、第93表に取上遺物一覧を示した。なお、第161図と第93表の取上遺物一覧の番号は一致する。

土器・石器などの遺物の種類とその位置関係を見るため、垂直分布は平面図の50倍で示した。そのため、標高が2.10m以上の遺物(取上番号122・193)は表示範囲に示せないため、標高(E.L=)で示した。最も高いものは2.37m(取上番号193)、低いものは1.68m(取上番号41)である。

前述の伊礼原遺跡と比較すると陸側で標高3.8m、海側で標高3.0mを示す。本遺跡は平面的には陸側とほぼ同じ位置であることから地形的には谷の部分に相当すると思われる。

第163図 遺物平面・垂直分布

第93表 取上遺物一覧

取上番号	X	Y	Z	台帳番号	小グリッド	出土遺物	図番号	取上番号	X	Y	Z	台帳番号	小グリッド	出土遺物	図番号
1	35836.870	25832.700	1.910	642	M7	土器 (IV類)		98	35837.610	25837.290	2.020	1917	M8	石材	
2	35837.470	25830.150	1.790	640	M7	土器 (IV類)	第165図33	99	35839.740	25838.590	1.900	682	M8	土器	
3	35843.660	25830.570	1.970	641	L7	土器 (弥生?)	第164図19	100	35838.270	25838.590	1.950	1511	M8	土器	
4	35843.670	25830.650	1.980	643	L7	土器 (IV類)		101	35841.820	25837.370	1.900	1500	L8	土器	
5	35843.950	25830.900	1.980	644	L7	土器 (底部)		102	35838.270	25837.510	1.880	1946	M8	石器 (敲石兼磨石)	第167図19
6	35842.040	25830.280	1.930	653	L7	土器 (胴部)		103	35837.860	25833.080	1.830	1962	M7	石器 (石斧)	第167図9
7	35841.720	25830.420	1.900	646	L7	土器 (IV類)		104	35837.030	25833.760	1.760	1960	M7	石器 (磨石)	
8	35842.120	25831.440	1.920	1403	L7	骨		105	35837.020	25833.810	1.780	1495	M7	土器 (IV類)	
9	35842.220	25831.520	1.920	1391	L7	爪(下顎骨)		106	35845.520	25838.340	1.970	1954	K8	自然礫	
10	35843.330	25831.820	1.900	2042	L7	貝(マガガイ)		107	35845.450	25838.290	1.950	1945	K8	自然礫	
11	35843.380	25831.850	1.890	669	L7	土器		108	35842.840	25827.650	2.040	1831	L6	石器(石器)	
12	35843.310	25832.730	1.890	1909	L7	石器 (磨石)	第167図13	109	35843.510	25828.070	1.860	1501	L6	土器 (IV類)	
13	35847.150	25832.350	1.950	1400	K7	インシロブタ(上腕骨)		110	35844.110	25827.660	1.980	1498	L6	土器 (口縁部)	
14	35845.270	25829.860	1.960	1305	K6	軽石		111	35844.300	25827.160	2.000	1494	L6	土器 (胴部)	
15	35843.620	25827.120	2.090	654	L6	土器 (IV類)		112	35843.890	25827.340	1.960	1491	L6	土器 (IV類)	
16	35842.990	25826.810	1.980	1914	L6	石器 (磨石)	第168図20	113	35844.630	25827.020	1.900	1497	L6	土器 (口縁部)	
17	35837.080	25842.500	1.960	639	M9	土器 (IV類)		114	35844.000	25827.560	1.920	1367	L6	インシ(環椎)	
18	35835.530	25843.470	2.010	650	M9	土器 (IV類)		115	35846.210	25826.480	1.970	1368	K6	インシロブタ(歯)	
19	35835.220	25843.420	2.050	684	M9	土器 (底部)	第165図32	115	35846.210	25826.480	1.970	1487	K6	土器	
20	35835.170	25843.540	1.990	659	M9	土器 (IV類)		116	35846.060	25826.560	1.960	1493	K6	土器 (IV類)	
21	35835.060	25843.850	2.020	685	M9	土器 (胴部)		117	35845.330	25826.140	1.960	1366	K6	インシロブタ(歯)	
22	35838.100	25842.690	1.990	660	M9	土器 (胴部)		118	35837.190	25832.960	1.800	1950	M7	石器 (砥石)	第169図25
23	35838.340	25842.180	2.000	666	M9	土器 (底部)		119	35841.040	25832.840	1.820	1499	L7	骨	
24	35838.190	25842.660	1.990	2047	M9	貝		120	35836.950	25833.860	1.770	1506	M7	インシ(上腕骨)	
25	35835.490	25842.090	2.030	1359	M9	インシロブタ(寛骨-臼)		121	35830.080	25839.730	2.070	1952	N8	石器 (砥石)	
26	35840.250	25841.060	2.010	667	L9	土器 (IV類)		122	35829.260	25840.760	2.220	1496	O9	石器 (胴部 搬入?)	
27	35848.380	25832.280	2.000	1392	K7	インシロブタ(上腕骨)		123	35829.510	25842.120	2.100	1490	O9	土器 (IV類)	
28	35848.380	25832.410	1.980	676	K7	土器 (胴部)		124	35840.250	25832.240	1.720	1489	L7	土器 (口縁部)	第164図18
29	35848.370	25832.480	1.980	673	K7	土器 (IV類)		125	35839.580	25831.870	1.720	1504	M7	土器	
30	35848.450	25832.250	2.000	1229	K7	土器		126	35846.470	25826.290	1.860	1369	K6	インシロブタ(脛骨)	
31	35848.870	25833.090	1.970	1393	K7	爪(脛骨)		127	35846.100	25826.060	1.860	1370	K6	ウシ(肋骨板)	
32	35849.170	25834.140	1.990	1390	K7	インシロブタ(歯)		128	35845.910	25826.340	1.820	1371	K6	骨・土器	
33	35849.530	25834.000	2.000	1394	K7	インシロブタ(大腿骨)		129	35845.090	25826.650	1.820	1964	K6	石材	
34	35839.650	25843.720	1.940	670	M9	土器 (仲泊式)		130	35844.390	25825.500	1.970	1503	L6	土器 (口縁部)	第164図15
35	35836.710	25845.530	2.000	1908	M10	石器 (砥石)		131	35840.130	25831.010	1.740	1492	L7	土器 (IV類)	
36	35836.570	25845.230	1.980	671	M10	土器 (IV類)		132	35839.320	25831.270	1.720	1488	M7	土器 (IV類)	第165図20
37	35836.730	25845.150	1.960	680	M10	土器 (IV類)		133	35838.030	25831.200	1.730	1546	M7	土器 (IV類)	
38	35836.600	25843.880	2.010	672	M9	土器 (IV類)		134	35837.010	25832.360	1.770	1951	M7	石器 (磨石)	第167図17
39	35849.850	25829.380	1.850	674	K6	土器 (底部)	第165図36	135	35837.010	25833.420	1.770	1956	M7	石材	
40	35847.130	25830.190	1.870	1915	K7	土器 (船元系)	第164図1	136	35836.010	25835.020	1.840	1958	M8	石器 (円盤状)	
41	35848.230	25836.450	1.680	1836	K8	チャート・石材		137	35836.150	25837.530	1.860	1957	M8	石器 (磨石)	第167図16
42	35848.090	25837.000	1.790	1835	K8	チャート・石材		138	35836.170	25837.850	1.840	1953	M8	石器 (磨石)	第168図21
43	35847.720	25829.460	1.830	1398	K6	インシロブタ(歯)		139	35836.090	25838.640	1.830	1955	M8	石器 (石斧)	第166図3
44	35849.430	25827.460	1.850	1399	K6	インシロブタ(上腕骨・脛骨)		140	35838.090	25837.750	1.760	1959	M8	石材	
45	35850.210	25826.900	1.780	1401	J6	インシロブタ(脛骨)		141	35839.050	25836.500	1.830	1830	M8	チャート・石材	
46	35849.110	25826.240	1.740	1834	K6	チャート・石材		142	35840.110	25837.340	1.860	1961	L8	石器 (石斧)	第167図10
47	35844.690	25825.730	2.010	656	L6	土器 (室川下層式)		143	35839.370	25838.450	1.800	1966	M8	石器 (磨石)	第168図24
48	35846.320	25825.970	1.980	1905	K6	石材		144	35839.510	25840.960	1.860	1536	M9	土器 (IV類)	
49	35852.420	25831.110	1.850	1818	J7	木		145	35839.970	25841.380	1.830	1513	M9	土器 (IV類)	第165図23
50	35852.420	25831.170	1.860	1819	J7	木		146	35838.560	25841.620	1.860	1521	M9	土器 (IV類)	
51	35852.380	25831.140	1.860	1812	J7	インシ(下顎骨)		147	35838.930	25842.290	1.840	1520	M9	土器 (IV類)	
52	35852.420	25831.150	1.860	1813	J7	インシ(下顎骨)		148	35838.670	25842.520	1.860	1533	M9	土器 (口縁部)	
53	35838.410	25828.030	1.750	1913	M6	石器 (磨石)		149	35838.070	25842.410	1.850	1532	M9	土器 (IV類)	
54	35837.720	25828.490	1.730	1916	M6	石器 (石斧)	第166図5	150	35838.070	25842.640	1.830	1535	M9	土器 (IV類)	第165図21
55	35843.260	25840.560	1.980	1906	L9	石器 (石斧)	第166図4	151	35838.320	25842.790	1.840	1524	M9	土器 (IV類)	
56	35841.470	25839.800	1.930	657	L8	土器		152	35838.490	25842.760	1.810	1530	M9	土器 (IV類)	
57	35841.130	25839.670	1.930	649	L8	土器 (IV類)		153	35838.440	25842.820	1.820	1529	M9	土器 (IV類)	
58	35840.970	25840.300	1.900	648	L9	土器 (IV類)		154	35837.300	25841.430	1.910	1526	M9	土器 (IV類)	
59	35840.910	25840.370	1.920	647	L9	土器 (IV類) 取58と接合		155	35836.370	25841.720	1.870	1534	M9	土器 (IV類)	
60	35840.640	25841.200	1.970	686	L9	土器 (船元系)		156	35836.740	25842.840	1.840	1512	M9	土器 (船元系・IV類)	
61	35841.020	25841.040	1.950	645	L9	土器 (IV類)		157	35835.550	25841.590	1.800	1505	M9	土器 (IV類)	第165図35
62	35840.670	25840.230	1.930	2046	L9	貝(シャゴウ(自然貝))		158	35834.050	25841.910	1.870	1515	N9	土器 (底部・IV類)	
63	35830.800	25841.290	2.010	1912	N9	石器 (磨石)	第168図23	159	35832.780	25841.730	1.960	1516	N9	土器 (IV類)	
64	35830.140	25839.910	1.980	2040	N8	貝・貝製品 (二枚貝有孔R・姉妹)		160	35832.680	25841.730	1.970	1545	N9	土器 (搬入)	第165図29
65	35834.650	25840.960	1.970	678	N9	土器 (船元系)		161	35832.740	25841.310	1.870	1507	N9	土器 (IV類)	
66	35835.160	25841.520	1.980	1817	M9	木		162	35832.610	25841.180	1.910	1518	N9	土器 (口縁部)	第165図30
67	35848.780	25833.080	1.920	2048	K7	貝(ウサハテイ)		164	35831.900	25837.800	1.840	1509	N8	土器 (底部)	
68	35852.510	25832.090	1.950	1395	J7	骨		165	35831.680	25837.890	1.850	1514	N8	土器 (IV類)	
69	35852.720	25832.280	1.860	1402	J7	インシロブタ(尺骨)		166	35831.260	25838.790	1.840	1510	N8	土器 (IV類)	
70	35852.940	25833.290	1.820	651	J7	土器		167	35834.770	25838.410	1.810	1502	N8	土器 (IV類)	
71	35851.280	25830.740	1.930	652	J7	土器 (IV類)		168	35834.240	25841.230	1.880	1365	N9	インシロブタ(歯)	
72	35851.710	25828.480	1.760	658	J6	土器 (IV類)		169	35842.620	25841.770	1.870	1517	L9	土器 (IV類)	
73	35846.020	25826.430	1.980	1903	K6	石器 (石斧)	第167図12	170	35842.360	25841.670	1.870	1547	L9	土器 (胴部)	
74	35845.900	25826.620	1.980	662	K6	土器		171	35842.470	25841.440	1.880	1541	L9	土器 (IV類)	
75	35845.920	25826.750	1.970	663	K6	土器 (胴部)		172	35841.410	25842.000	1.820	1523	L9	土器 (IV類)	
76	35845.250	25826.600	2.010	655	K6	土器 (IV類)		173	35841.220	25841.760	1.810	1544	L9	土器	
77	35845.240	25826.590	2.000	687	K6	土器 (IV類)		175	35841.670	25841.510	1.880	923	L9	貝	
78	35845.350	25826.650	2.000	1356	K6	ウシ(腹甲or背甲)		176	35841.000	25840.930	1.770	1829	L9	チャート・石材	

3. 出土遺物

(1) 土器

伊礼原A遺跡の土器は総数262点出土したが、全体的な形状を掴める遺物がほとんどない。土器の出土状況を見ると、第IV層から貝塚時代前・後期の土器が在地・搬入も合わせて226点出土し、遺跡中央部のトレンチ深掘りで確認された第V層からは、貝塚時代前期の室川下層式土器や面縄東洞式土器などが20点得られた。柱穴などの遺構はほとんど検出されず、遺物のみが出土する。平面分布の第161図からK6・L6の窪地部とL8・9・M9の窪地部の縁辺りで多数の土器が検出する状況が見られたことは、遺跡の地形と関係しているのであろう。主体となる貝塚時代後期の土器は、大半がIV類である。第161図に遺物全体の平面分布と垂直分布、表94に出土量、表95に観察一覧を記した。分類は、前述した伊礼原遺跡国指定外の分類に基づいて行い、貝塚時代前期はI群、後期をII群に大別し、その順で記述する。

A. I群土器

I群土器は総数33点の出土で、底部の1点はII群土器の底部の項にて記述する。集計はI群土器の中で分類した。表採から1点、中央部のトレンチ深掘りの第V層から20点、第IV層から12点が検出されている。第V層からは在地の室川下層式土器や面縄東洞式土器が得られた。いずれも小破片で、形状は不明である。第IV層出土のI群土器には、II群土器と混在して在地の仲泊式土器、面縄前庭式土器や搬入土器が見られた。数量的には第V層より少なく、何らかの理由で紛れ込んだものと思われる。搬入土器から記述する。

搬入土器は僅か6点の出土で、2点を図示した。いずれも第IV層出土で、形状などは不明である。図1は僅かに波状を呈する口縁部で、やや厚手である。胎土や混和材などの特徴から、搬入土器とした。K7出土で、隣のK6からも搬入と思われる土器が1点得られている。図2は器厚が11mmと厚手の胴部で、伊礼原E遺跡で出土した搬入土器の胎土に類似している。L9出土で、隣のM9からも同様な土器が2点得られた。

次に、在地土器であるが、図3～11は中央部の第V層、図12～14は第IV層で検出された。図3～10は室川下層式土器で、いずれも条痕が見られる。外面には短沈線などの文様が施されている。同一個体と思われる破片もあるが、土器の脆さなどの都合上、接合は出来なかった。器厚、器色などからa、bに分類した。

aは厚手で図3～6に図示した。器色はいずれも赤味が強い。図3は口縁部で、外面に斜位の深い短沈線が施されている。図4は「ハ」の字状に深めの短沈線が施されている。

bはaにくらべて若干器厚が薄く、図7～10に図示した。器色も前者と異なりやや茶・灰褐色である。小破片のため、ほとんどが形状不明である。図10の胴部は、湾曲していることから胴径が計測可能で、下部の径が13.8cm、上部の径が15.8cmと、底部に近い箇所と思われる。

図11は面縄東洞式土器の口縁部で、本品も第V層出土である。口縁上部の文様帯に押し引き手法による流水文が施され、文様帯の幅は4.8cmである。

図12～14は第IV層から出土したものである。図12はL10出土で、面縄前庭式土器の胴部片である。縦位に細沈線文を施している。図13・14は仲泊式土器で、前者はM9、後者はK6出土である。両者とも約1.5cmの凸帯文に貝殻文が施され、前者は明瞭、後者は不明瞭である。後者の貝殻文は一見沈線文にも見えるが、施文内に貝殻の肋の痕跡が僅かに見受けられる。

B. II群土器

II群土器は貝塚時代後期の土器で、口縁部、胴部、底部も合わせて229点が得られ、全体の87%を

占める。本遺跡の主体となる土器群で、中でもIV類に相当する土器が多い。口縁部、主な胴部から先に、次に底部を記述する。

図15～18は、胎土や文様などから縄文時代晩期系の影響を受けたものと思われるが、はっきりしないことから、集計では不明aとした。僅か5点の出土で、そのうち4点を図示した。図15は手触りがザラザラする砂質の強い口縁部である。3cm幅の薄い肥厚帯を持ち、指頭痕により強調されている。L6出土である。図16は内彎する口縁部で、1.9cm幅の薄い肥厚帯を持つ。図17も肥厚帯を持つ口縁部で、口唇は欠如しているが、3cm以上の肥厚帯を持つものと思われる。図16に比べると、若干厚手で、肥厚帯も長めである。両者ともM8出土である。図18は「く」字状に屈曲する口縁部で、口径が推算12.8cmである。胎土は若干違うが、形状などの特徴からI類に分類可能である。

図19は器厚が1cmと厚手の胴部で、角閃石や石英を多量に含む。火山ガラスは含まないが、器厚などの特徴から弥生時代の搬入土器とした。L7出土である。

IV類の土器は163点が得られ、詳細に見ると、薄手で積み痕が隆起するBが74点と最も多く、次いでA・Cが同程度の出土量を示した。伊礼原遺跡国指定外ではIV類Cが最も多く、若干の違いが見られる。IV類以外を見てみると、II類は3点、有文のV類は4点の出土で、IV類に比べるとかなり少ない。小破片で分類が出来なかったものは集計の不明bとし、50点余りであった。

IV類Aは、厚手で粘土積み痕が明瞭なもので、40点が出土した。図20・21に2点を図示した。両者とも直状を呈する。

IV類Bは、薄手で粘土積み痕が明瞭なもので、74点の出土である。図22～25の4点を図示した。前3者は口唇部が舌状を呈し、内彎するものである。図22は若干厚みがあり、図23はかなり薄手である。図24は第1粘土積み痕での屈曲が明瞭で、他の2点に比べて内彎度が高い。図25も胎土や器面調整などの特徴からBとしたもので、口唇部を平らに整え、上部が「く」字状に屈曲する。

IV類Cは、全体的に器厚は均一で、粘土積み痕は隆起しない。破片が小さく、図示は省略した。混和材や胎土はIV類A・Bと同じである。

図26～29は有文で、伊礼原遺跡国指定外ではV類に分類した。中にはIV類に分類可能なものもあるが、有文でまとめた。僅か4点の出土で、全て図示した。図26は口縁部の上端が僅かに外反する形状を呈するが、小破片のためにそれ以下の形状は掴めない。外面に弧状の細沈線文を施している。粘土積み痕が隆起し、胎土なども考慮すると、IV類に分類出来そうである。図27は有文胴部で、外面の粘土積み痕は隆起し、やや明瞭である。内面にはヘラナデ痕が横位に見られる。文様のラフさと胎土、混和材などの特徴から、IV類の範疇で捉えられる。図28は小型の有文土器の頸胴部で、横位に刺突文を巡らす。胴径は上部が8.9cm、下部が12.8cmと壺の可能性が高い。図29は外面に凸帯文を貼り付け、その上に二叉状工具による刺突文が密に施される。さらに、その周囲には浅いラフな沈線文も見られる。

図30は無文の口縁部で、胎土はきめ細かく、均一で器面調整が丁寧である。口縁は外反し、胴部がやや張る。胎土はかなり精製され、調整も丁寧である。

底部は僅か12点の出土で、図31～36に6点を図示した。図31の1点はI群の底部と思われるが、1点のみの出土であることからII群の底部と一緒に記述する。II群の底部と口縁部の出土量を比較して見ると、1対3の割合を示し、口縁部の個体数に対して底部が少ないことが窺える。器種は尖底、乳房状尖底である。伊礼原遺跡国指定外の底部分類に従い、出土数が少ないことから胎土や混和材などの特徴による型式分類を組み合わせしてみた。

図31はI群の底部で、石英を多量に含む平底である。立ち上がりの角は丸みを呈する。型式は不

明であるが、混和材や胎土などから、I群土器の範疇とした。

II群の底部は5点を図示した。図32は尖底土器で、胎土や器面調整などの特徴からIV類の底部と思われる。図33～36は乳房状尖底土器である。図33は小振りで底厚が厚いことから、乳房状尖底のaに分類した。外面はかなり雑仕上げである。図34・35も小振りであるが、図33に比べると底厚が薄いことからbに細分した。前者に比べて外面のナデ調整は丁寧である。3点とも胎土に赤色粒や石英などを含み、外面の器面調整に雑な部分が見られることから、IV類の底部と思われる。

図36はdに分類出来るもので、底厚の薄い乳房状尖底である。乳頭部は大振りで、砂質のやや強い胎土である。角閃石、石英を多量に混和することから、II類の底部と思われる。

<参考文献>

北谷町教育委員会 2010『伊礼原E遺跡』（第二分冊）北谷町文化財調査報告書 第31集

北谷町教育委員会 2013『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書 第35集

高宮廣衛・他 1993「読谷村大当原貝塚発掘調査概報」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第17号

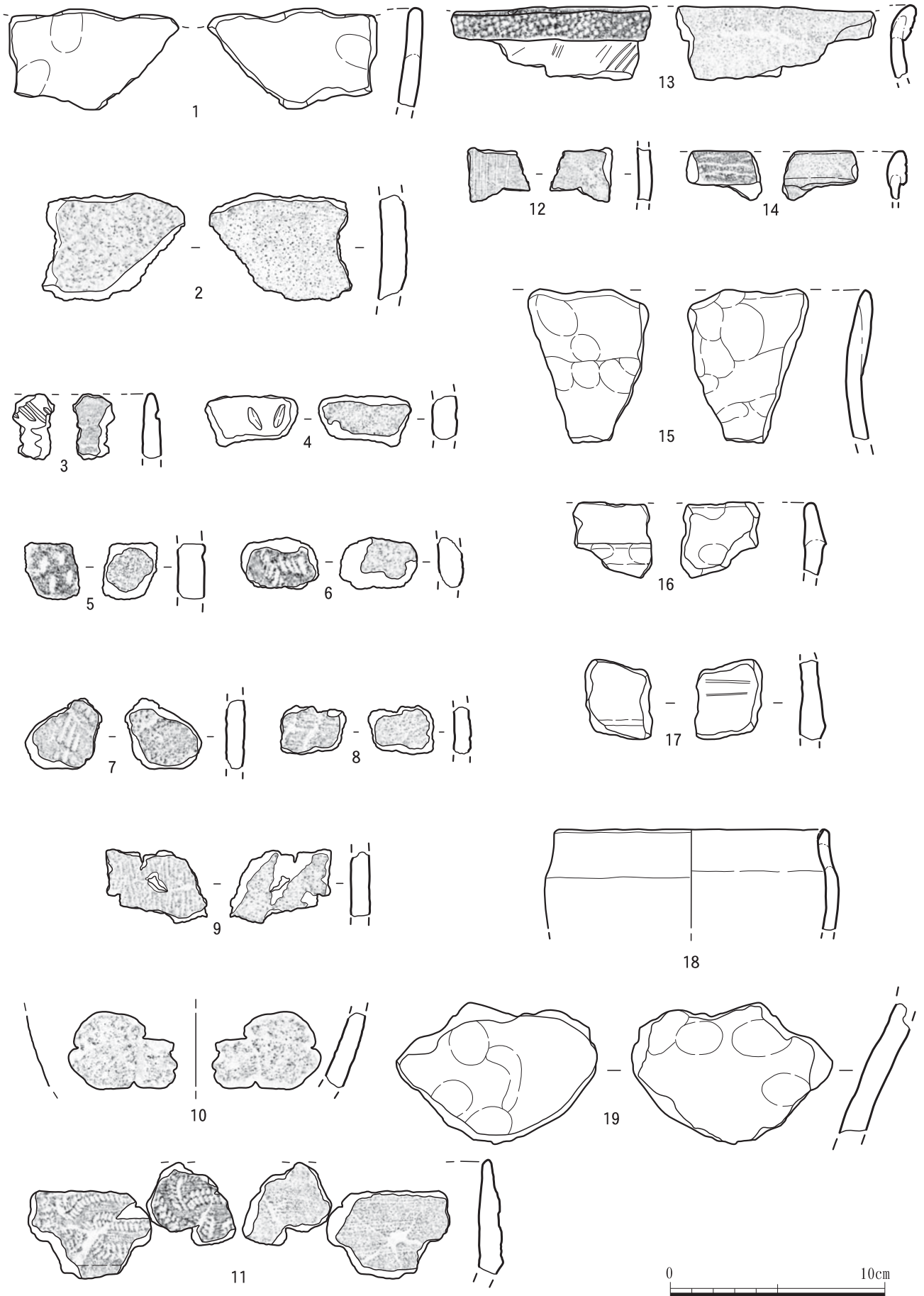
第94表 伊礼原A遺跡土器出土量

分類 層	グリット	I群（貝塚時代前期）						II群（貝塚時代後期）												小計	合計						
		在地			搬入			II			IV						V		不明a			不明b					
		口	胴	底	口	胴	底	口	胴	底	A		B		C		口	胴	口			胴	口	胴	口	胴	
IV層	I7												1			2									3	226	
	J6														1		2								3		
	J7																2							1	3		
	K6	1	2						1		1		2											3	10		
	K7				2	1					2		3				1						1	2	12		
	L6										3		4		3	1			1			2	2		16		
	L7						1				2		6		2	1			1			2	2		17		
	L8										8	2	7		3									3	23		
	L9					1		1			2		5	2	2		1	1					4	6	25		
	L10		1																						1		
	M10										1		1												2		
	M6															1	1								2		
	M7										1	1	1	4			1		1					2	11		
	M8											1		7		1	1			2				3	15		
	M9	1		1		2					3	7	3	12	1	5	2				1			1	39		
	N8													6		3	1						3	1	14		
N9											1		2		2	1		1				1	1	9			
O9										1	6		6		4							1	1	19			
O10																1								1			
V層	不明	2	18																					20	20		
表採			1												1		3							6	11	11	
不明								1																4	5	5	
小計		4	22	1	2	4	1	2	1	5	35	7	67	3	36	10	1	3	4	1	14	39	262	262			
合計		27			6			1			3			163						4		5		53		262	

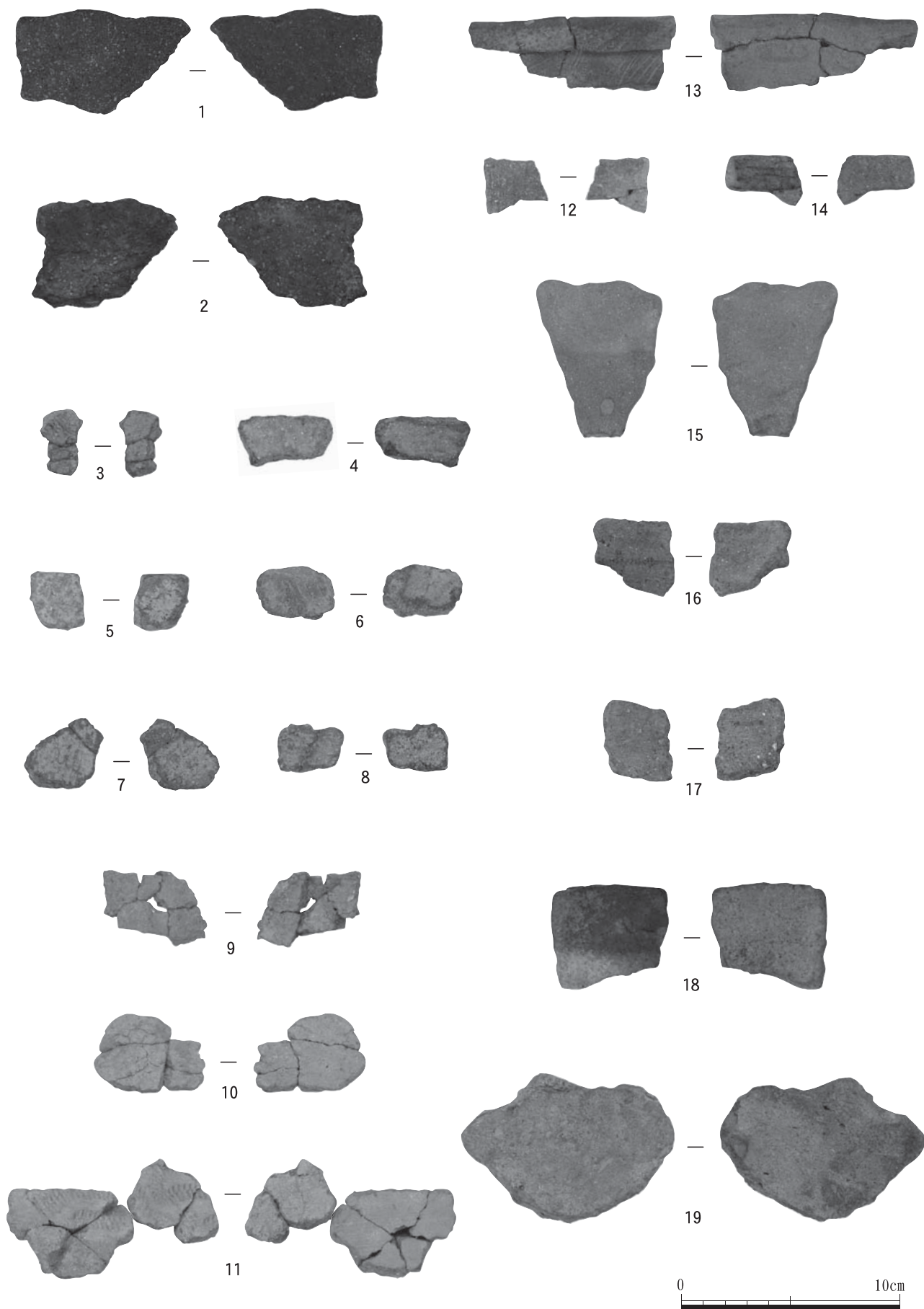
第95表 土器観察一覽

第164図・図版131	図版番号	分類			部位	法量	特徴	胎土	混和材							器面調整	色調	出土地				
		大	中	小					粒度	量	鉱物類								その他			
											粗	中	少	石英	火山ガラス					角閃石	赤色粒	白色粒
第164図・図版131	1	I群	搬入	—	口縁	—	8 34.5	無文・波状口縁・口唇丸・均一・焼成良	砂質	粗	多	◎	○	○					両面一ナデ・指頭痕	両面一黒褐色	K7 IV層 取40 台1915	
	2	I群	搬入	—	胴部	—	11 39.3	無文・厚手・焼成悪	砂質	粗	多	◎					○	チャート△	外一ハガレで不明 内一条痕	両面一黒灰褐色	L9 IV層 台1257	
	3	I群	在地	室川下層	口縁	—	10 4.3	有文・舌状・外一刺突文(斜位・深め)焼成悪・均一・厚手	砂質	細	少	△					△		両面一条痕	両面一茶褐色	不明 V層 台-不明	
	4	I群	在地	室川下層	胴部	—	10 12.1	有文・外面に八字状刺突文(羽状)・均一・厚手	砂質	中	多	◎		△			△		両面一条痕	両面一橙褐色	不明 V層 台-不明	
	5	I群	在地	室川下層	胴部	—	11 9.5	有文・外面に刺突文・均一・厚手	砂質	中	中	○					△		両面一条痕	外一赤褐色 内一茶褐色	不明 V層 台-不明	
	6	I群	在地	室川下層	胴部	—	10 10.1	有文・八字状刺突文(羽状)・均一・厚手	砂質	中	中	○					△		両面一条痕	外一赤褐色 内一茶褐色	不明 V層 台-不明	
	7	I群	在地	室川下層	胴部	—	8 8.8	有文・刺突文・均一・やや厚手	砂質	中	中	○					△		両面一条痕	両面一茶黄褐色	不明 V層 台-不明	
	8	I群	在地	室川下層	胴部	—	8 6.2	有文・刺突文・均一・やや厚手	砂質	中	中	○					△		両面一条痕	両面一暗茶褐色	不明 V層 台-不明	
	9	I群	在地	室川下層	胴部	—	9 12.3	無文・均一・焼成良 やや厚手	砂質	細	中	○					△		両面一条痕	両面一茶褐色	不明 V層 台-不明	
	10	I群	在地	室川下層	胴部	—	9 16.9	有文・浅い刺突文・焼成悪・均一・厚手・底部近く	砂質	細	少	○					△		不明(焼成悪)	外一橙褐色 内一黄褐色	不明 V層 台-不明	
	11	I群	在地	面縄東洞	口縁	—	8 35.1	有文・肥厚部に流水文・舌状	砂質	細	多	○					○	チャート△	外一ナデ丁寧 内一ヘラナデ	両面一橙褐色	不明 V層 台-不明	
	12	I群	在地	面縄前庭	胴部	—	5 4.8	有文・細沈線(縦)・均一	砂質	細	多	○					◎	チャート△	両面一ナデ	両面一茶褐色	L10 IV層 台1258	
	13	I群	在地	仲泊	口縁	—	5 30.5	有文・凸帯(凸帯に貝殻文+その直下に斜沈線)丸・外反・均一	砂質	細	少	○					△		両面一ナデ	両面一黒灰褐色	M9 IV層 取34 台670	
	14	I群	在地	仲泊	口縁	—	3 6.9	有文・凸帯(凸帯に弧状沈線(施文具は貝殻?)舌・外反)	砂質	中	中	◎					△	チャート△	両面一ナデ	両面一灰茶褐色	K6 IV層 台1254	
	15	II群	不明a	—	口縁	—	7 34.0	無文・舌状・僅かな肥厚(幅約2.5cm)	砂質(強)	細	多	△					◎		両面一指頭痕	両面一橙褐色	L6 IV層 取130 1503	
	16	II群	不明a	—	口縁	—	7 11.1	内轆・肥厚帯(幅1.9cm・薄手)	砂質	細	中	○					○		両面一ヘラナデ・指頭痕	両面一赤褐色	M8 IV層 台1275	
	17	II群	不明a	—	口縁	—	9 14.2	肥厚帯(幅3cm以上)	砂質	中	中	○		△			○		両面一ヘラナデ・指頭痕	両面一茶褐色	M8 IV層 台1275	
	18	II群	不明a	—	口縁	—	12.8 — 20.0	直状・「く」字状屈曲・内面上部膨らみ・口唇部一丸	砂質	細	小	△					△		両面一ナデ	外一黄茶褐色 内一暗茶褐色	L7 IV層 取124 台1489	
	19	II群	搬入	—	胴部	—	11 38.3	無文・厚手・底部近く・焼成やや悪	砂質(強)	細	多	○		◎			△		両面一ナデ・指頭痕	両面一橙褐色	L7 IV層 取3 台641	
第165図・図版132	20	II群	IV	A	口縁	—	10 65.	無文・厚手・口唇丸・直状・不均一	砂質	細	中	○				○		両面一ナデ・指頭痕	両面一灰茶褐色	M7 V層 取132 台1488		
	21	II群	IV	A	口縁	—	8 34.2	無文・厚手・口唇丸・直帯・不均一	砂質	細	中	○			△		△		両面一ナデ・指頭痕	両面一茶黄褐色	M9 IV層 取150 台1535	
	22	II群	IV	B	口縁	—	7 42.8	無文・薄手・口唇丸・やや直状・不均一	中間	細	少	○					△		両面一ナデ・指頭痕	両面一灰褐色	M9 IV層 台1269	
	23	II群	IV	B	口縁	—	5 40.4	無文・薄手・口唇舌・内轆・不均一	中間	中	中	○					○		両面一ナデ(指・ハ)・指頭痕	両面一赤茶褐色	M9 IV層 取145 台1513	
	24	II群	IV	B	口縁	—	6 39.2	無文・薄手・口唇舌・口縁上端屈曲	中間	中	中	○					△	△茶色	両面一ナデ(指・ハ)・指頭痕	両面一赤褐色	L8 IV層 台1249	
	25	II群	IV	B	口縁	—	21.0 — 38.2	無文・平(強調)・外反(くの字屈曲)	泥質	中	中	△				◎		△		両面一ナデ	外一橙褐色 内一黄褐色	L7 IV層 取193 台1519
	26	II群	V	Dウ	口縁	—	5~8 15.1	有文・細沈線(弧状)・丸・直・不均一	砂質	中	多	○		△	○		△		両面一ナデ・指頭痕	両面一暗茶褐色	L9 IV層 取177 台1540	
	27	II群	V	Dウ	胴部	—	4~7 19.3	有文(外一沈線(横位+鋸齒状+曲)	砂質	中	多	○				◎		△	両面一ナデ・指頭痕 内一ハガ?	両面一暗褐色	L9 IV層 台1271	
	28	II群	V	Dウ	胴部	—	6 16.3	刻み目文2条・均一・薄手・壺?	砂質	細	少	△					○		両面一ナデ・指頭痕	両面一茶褐色	M7 IV層 台1272	
	29	II群	V	Dウ・エ	胴部	—	6 22.5	有文・外一斜位の凸帯(上に円弧)細沈線(斜+横)・均一・焼成良	砂質	中	中	○	△	△	○		○		両面一ナデ・指頭痕 内一ハケメ	外一黒褐色 内一灰茶褐色	N9 IV層 取160 台1545	
	30	II群	不明b	—	口縁	—	23.2 — 32.8	無文・平・外反(強)・均一(平滑)・薄手・粘土接合面不明瞭	砂質	細	少	△					△	茶色粒	両面ナデ(外一丁寧)	両面一茶褐色	N9・L8 IV層 取162・183 台1509・1537	
	31	I群	D(在地)	a	底部	—	5.6 — 62.9	立ち上りの角はやや丸み・重量感あり	砂質	粗	多	◎					○		両面一混和材粗粒で手触りザラツキ	両面一茶黄褐色	M9 IV層 台1265	
	32	II群	B	a	底部	—	8 67.5	底厚は厚い 底面は丸い(乳尖的)	砂質	中	中	○					○		両面一ナデ	外一赤褐色 内一黒褐色	M9 IV層 取19 台684	
	33	II群	C	a	底部	—	2.2 — 58.9	乳頭部は小・高い 底面はやや丸み 大当原式	砂質	粗	多	○				◎		△	両面一ナデ・指頭痕 外一雑仕上げ	両面一赤褐色	M7 IV層 取2 台640	
	34	II群	C	b	底部	—	2.4 — 26.8	乳頭部は小・やや高 底面はやや平ら	砂質	細	少	△				○		△	両面一ナデ	外一赤褐色 内一暗灰褐色	K7 IV層 台1248	
	35	II群	C	b	底部	—	2.5 — 48.6	乳頭部は小・やや高 底面は平ら	砂質	細	少	△				△		△	両面一ナデ	外一灰赤褐色 内一黒褐色	N9 IV層 取158 台1515	
	36	II群	C	d	底部	—	3.5 — 64.9	乳頭部は大・低い 底面は平ら 猿屋原式	砂質強	細	多	◎		◎				△	両面一ナデ(丁寧)・滑らか	両面一灰茶褐色	K6 IV層 取39 台674	

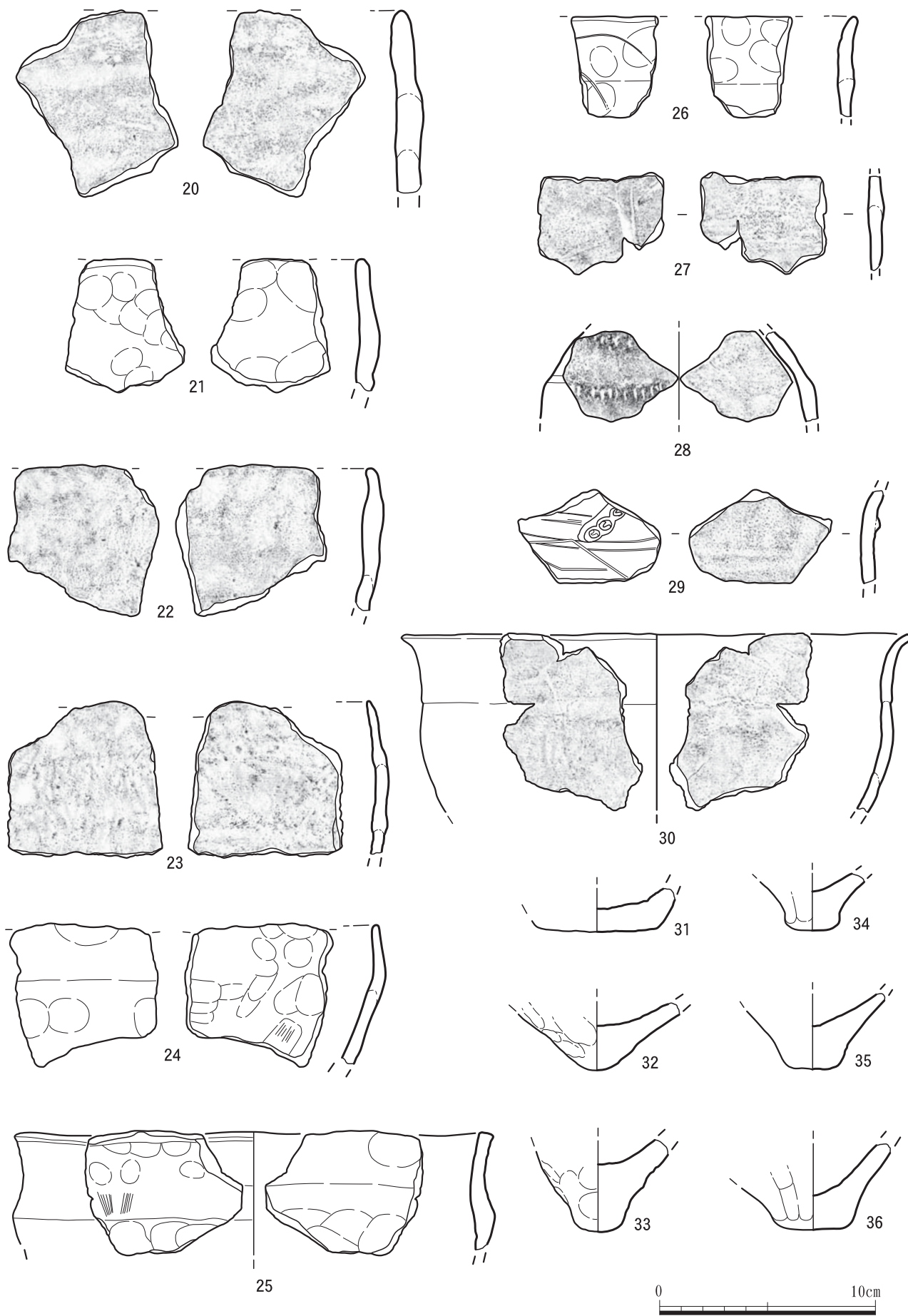
凡例 (◎)=非常に多い ○=多い △=少ない ▽=僅少



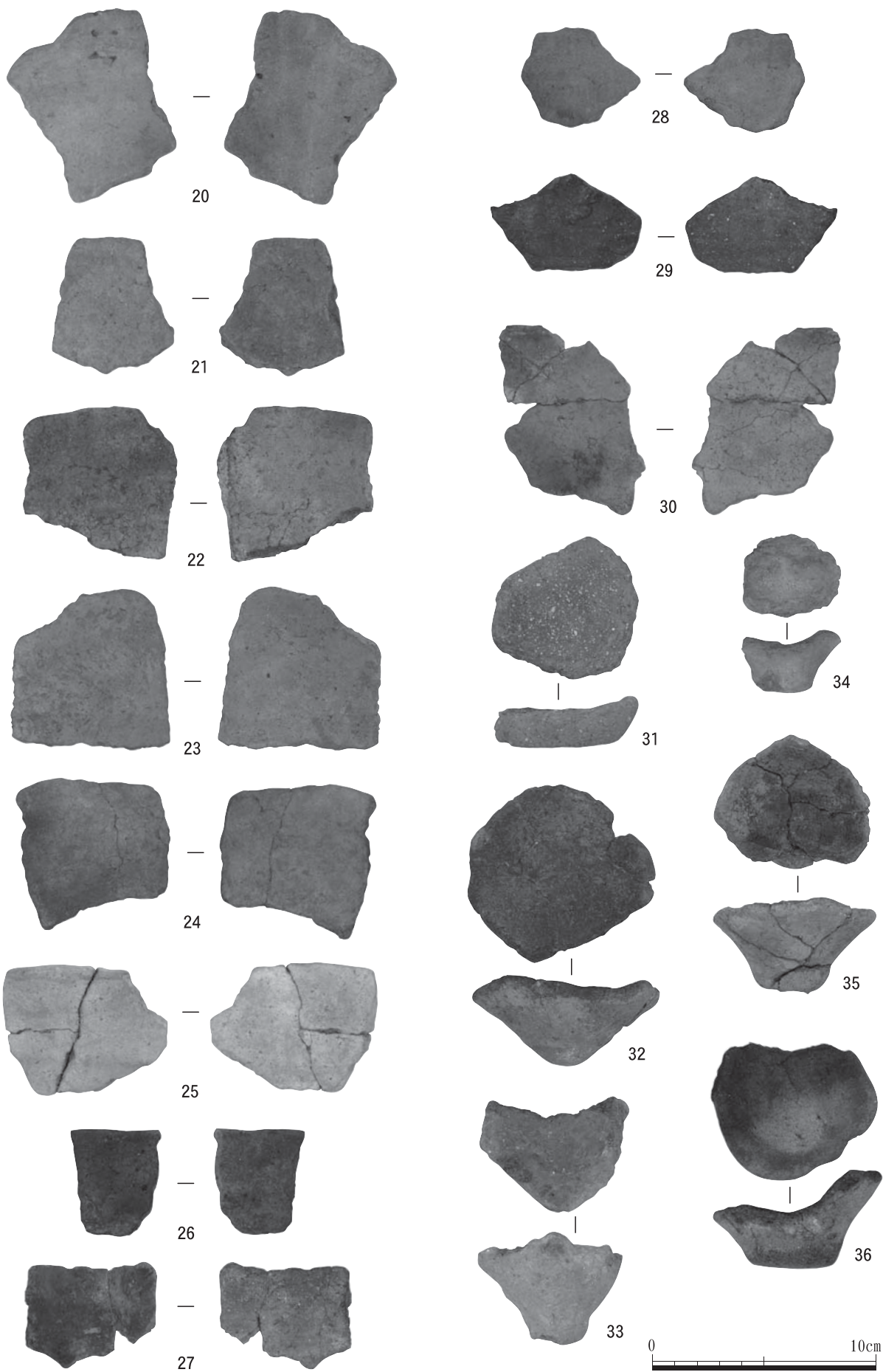
第164図 土器 1



图版131 土器 1



第165図 土器2



图版132 土器 2

(2) 石器

石器は45点の出土で、器種は石斧、石斧転用品、敲石兼磨石、磨石、二次製品（円盤状石器）、砥石、石皿、チャート（加工痕あり剥片）等である。器種では磨石が最も多く21点で、石斧は12点、砥石8点、その他の遺物は1点ずつの出土である。グリッド別では、M8から12点、M7が7点と多く、その他、調査区全体で少量ずつ出土している。

A. 石斧（図1～12）

石斧は12点の出土で、完形1点、未製品2点、石斧転用品2点、破損資料7点である。破損資料の内訳は基部2点、刃部5点である。完形は若干、刃こぼれが生じるものの全体の形状、長さ、刃部形態は把握できる。破損品は基部と刃部片に分けられ、破損資料から全体の長さは窺えない。刃部形態から両刃、片刃の判断は可能だが、これも破損資料の場合、全体の形状は推測できない。基部の側面観から厚手と薄手のものに分けた。刃部は両刃1点と片刃3点がみられる。図化した石斧のうち図1は、製作途中の未製品と推測され転石を利用したと考えられる。基部は打割途中で、刃部もつくり出されていない。図2は、局部磨製石斧で刃部と基部表面の一部が研磨されている。刃の付け方は表裏面で、やや強弱があり裏面の研磨の面積や角度が片刃的である。図3は、刃部の欠損した資料で全体の形状は基部の厚いバチ形的様相を呈す。裏面の下部に僅かに研磨痕が確認できるが、刃部が破損した後の研磨と考えられる。

図9は扁平石斧の完形資料で形態は把握できるが一部欠失している。この資料は表面側からの研磨が強くみられ片刃石斧と考えると差支えないと考えられる。図10は、扁平両刃の石斧で上部が破損した資料である。扁平の薄手資料で刃の研ぎ出しは両面から均等に研磨されており、片刃石斧にみられる片側が極端に強く研磨される石斧とは若干違いがある。図12は、小型の石斧で突出した部分を研磨し平滑にしており研磨痕は顕著である。基部の先端も研磨され基端部分に面がみられる。扁平の両刃に仕上げているが、偏刃である。刃部は刃こぼれはほぼ見られず製作して未使用のように思われる。石斧の質にもよるが、どの程度の頻度で使用すれば刃こぼれがおきるのか検討したい。出土した石斧は片刃の資料がやや多く後期土器に伴うものと思われる。

B. 磨石（図13～24）

磨石は小型の楕円状のタイプと大型不定形の資料がみられる。第167図19は、小型の磨石で表裏面と側面に敲きの痕跡がみられる。横断面の図から窪みの凹凸が確認できる。以下、状態の良い資料を図示し、観察表に提示した。

第96表は層序別に器種の出土状況を示したものである。包含層が薄いため石器は一括で採集された。一括取上げの石器はグリッドごとに採集、点上げ遺物のレベルを壁面層序で照らし合わせると、第IV層からの出土が多くみられる。土器は大当原式が主体で、石器もそれに伴う後期の時期と捉えられる。当地区では遺構の検出はなく下層調査のため深堀トレンチを設けた。深堀トレンチはK8とL7で、深堀トレンチ下層は泥炭質を成し第IV層より古い時期に属すると考えられる。深堀トレンチ内から5点の石器が出土し、内訳は磨石2点、砥石3点である。

第96表 石器出土状況

層序	器種				敲石兼磨石	磨石			円盤状石器	砥石	石皿	加工痕あり剥片	合計
	未製品	完形	転用品	破損		完形	破損	破片					
表採							1						1
IV層	2	1	2	7	1	3	11	4	1	5	1	1	39
V層							2			3			5
合計		12			1	21			1	8	1	1	45

<石質>

当地区出土の石器は45点で、石材としたものは27点、石材に適さないサンゴ礫等が14点出土した。岩石類は総数91点、そのうち石器は49.5%を占める。

本遺跡の石質は概的に伊礼原遺跡周辺の遺跡と同様、石材の石質も含め16種類の岩石が確認された。石器素材としての岩石は砂岩が多く、輝緑岩、角閃岩、斑レイ岩、黒色片岩、黒色千枚岩がみられた。北谷町内では今のところ石灰岩、クチャ（第三期鮮新世の島尻層青灰色泥岩）の岩層のみ確認されており、出土した石器の産地は町外からの持ち込みと推測される。

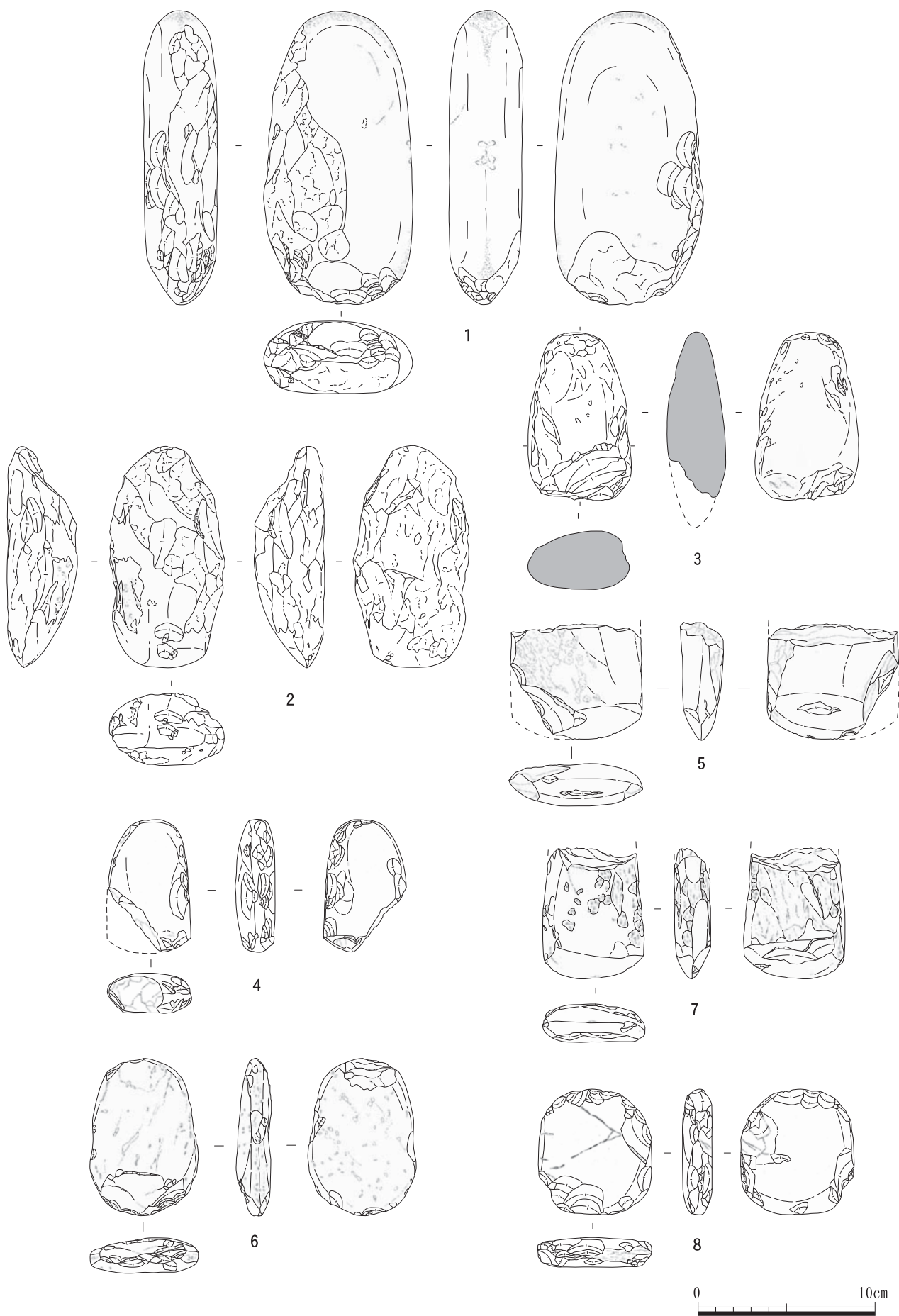
第97表 器種別岩石組成

器種 岩石名	石斧				敲石兼磨石	磨石			円盤状石器	砥石	石皿	加工痕有り 石器	合計
	未製品	完形	転用品	破損		完形	破損	破片					
角閃岩				2			1	1					4
角閃石安山岩							1						1
輝緑岩		1		1			2	1					5
斑レイ岩				1									1
ひん岩							1						1
アプライト							1						1
砂岩	2		2		1	2	6	2	1	6			22
片状砂岩							1						1
細粒砂岩										1	1		2
緑色岩				1									1
緑色片岩				1									1
黒色片岩										1			1
砂質片岩				1									1
石英片岩							1						1
結晶質石灰岩						1							1
チャート												1	1
合計	12				1	21			1	8	1	1	45

当遺跡を石器全体で見ると石器の数は調査範囲の面積から比較して少ない。石器全体では磨石が多く出土量の46%を占める。全体的に層序での遺物の推移が不確実である。遺物包含層が調査区内の東側と西側で堆積状況が異なり、面で捉えると包含層が薄い状況で層序の把握が困難である。点上げ資料はレベルから壁面に移行し確認した。石斧の分類から時期的な判断は両刃石斧より片刃タイプが僅かに多く、後期土器の出土状況も加味すると、ほとんど貝塚時代後期の遺物と思われる。グリッド別の石器の出土は、M7、M8を中心にK～Mのラインに集中し、各グリッドから少数ずつ出土した。

<参考文献>

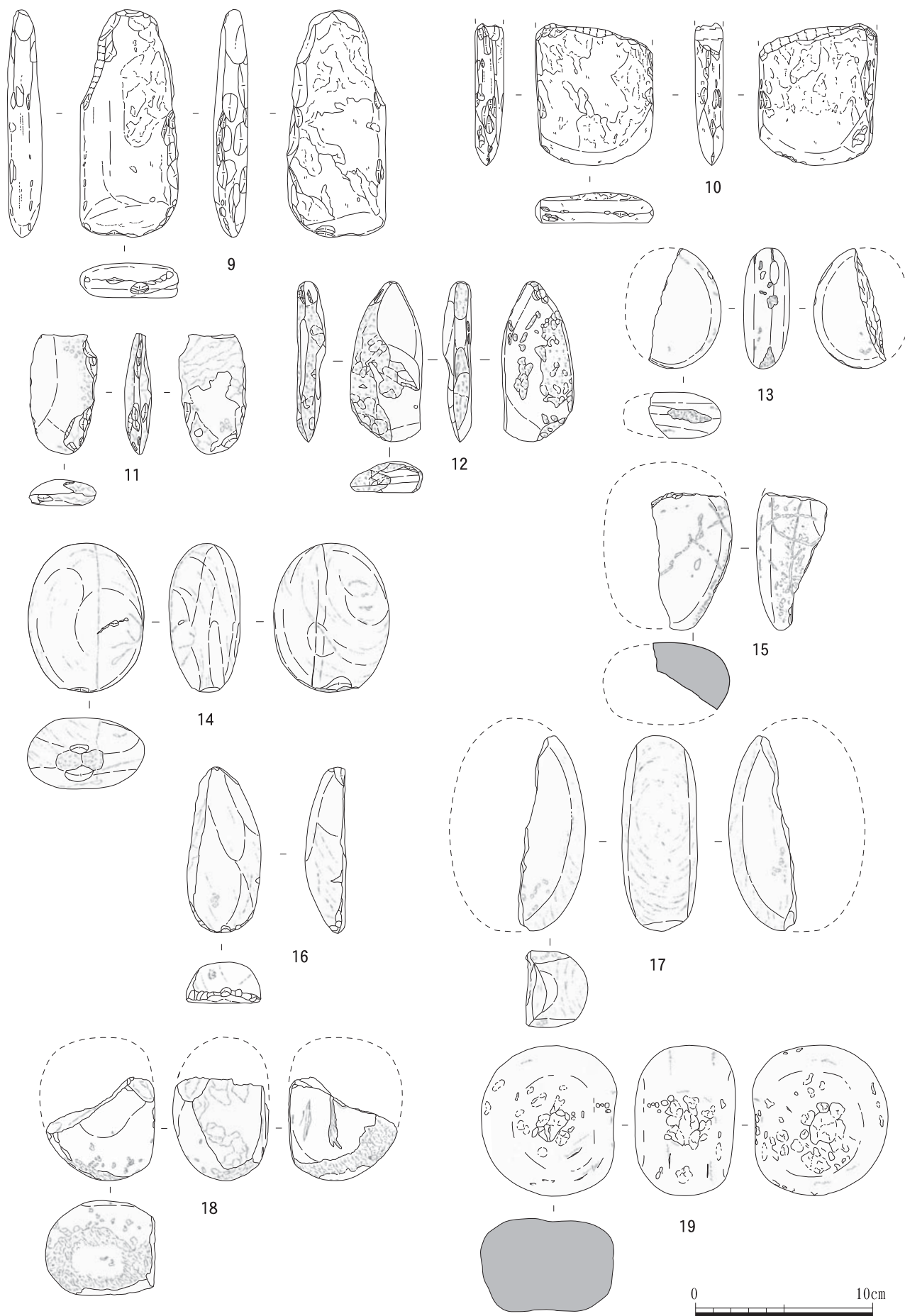
- 北谷町教育委員会 2007『伊礼原遺跡』北谷町文化財調査報告書 第26集
- 北谷町教育委員会 2008『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書 第28集
- 北谷町教育委員会 2013『伊礼原D遺跡』北谷町文化財調査報告書 第35集
- 北谷町教育委員会 2005『キャンプ桑江北側返還に伴う試掘調査』北谷町文化財報告書 第23集



第166図 石器 1



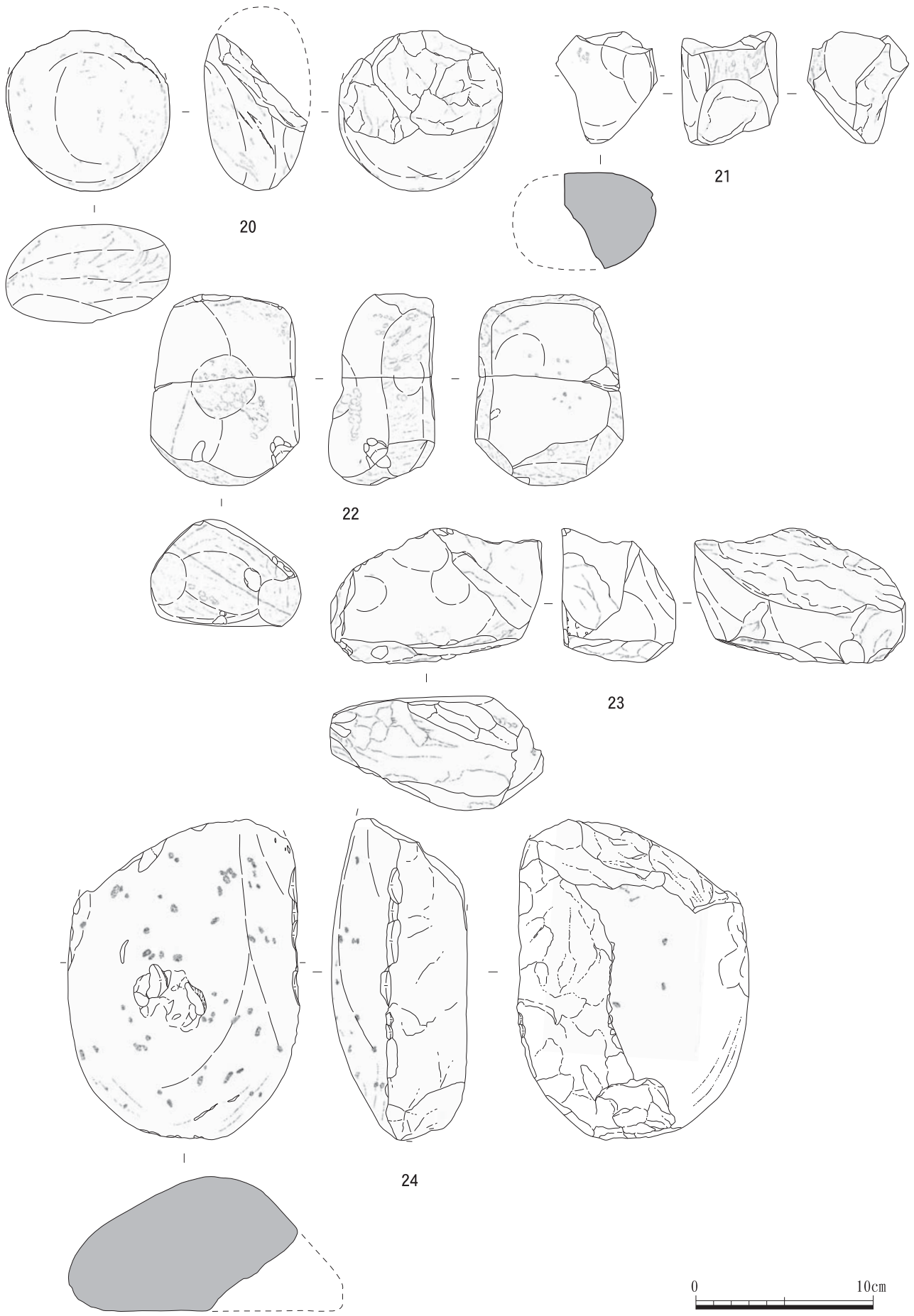
图版133 石器 1



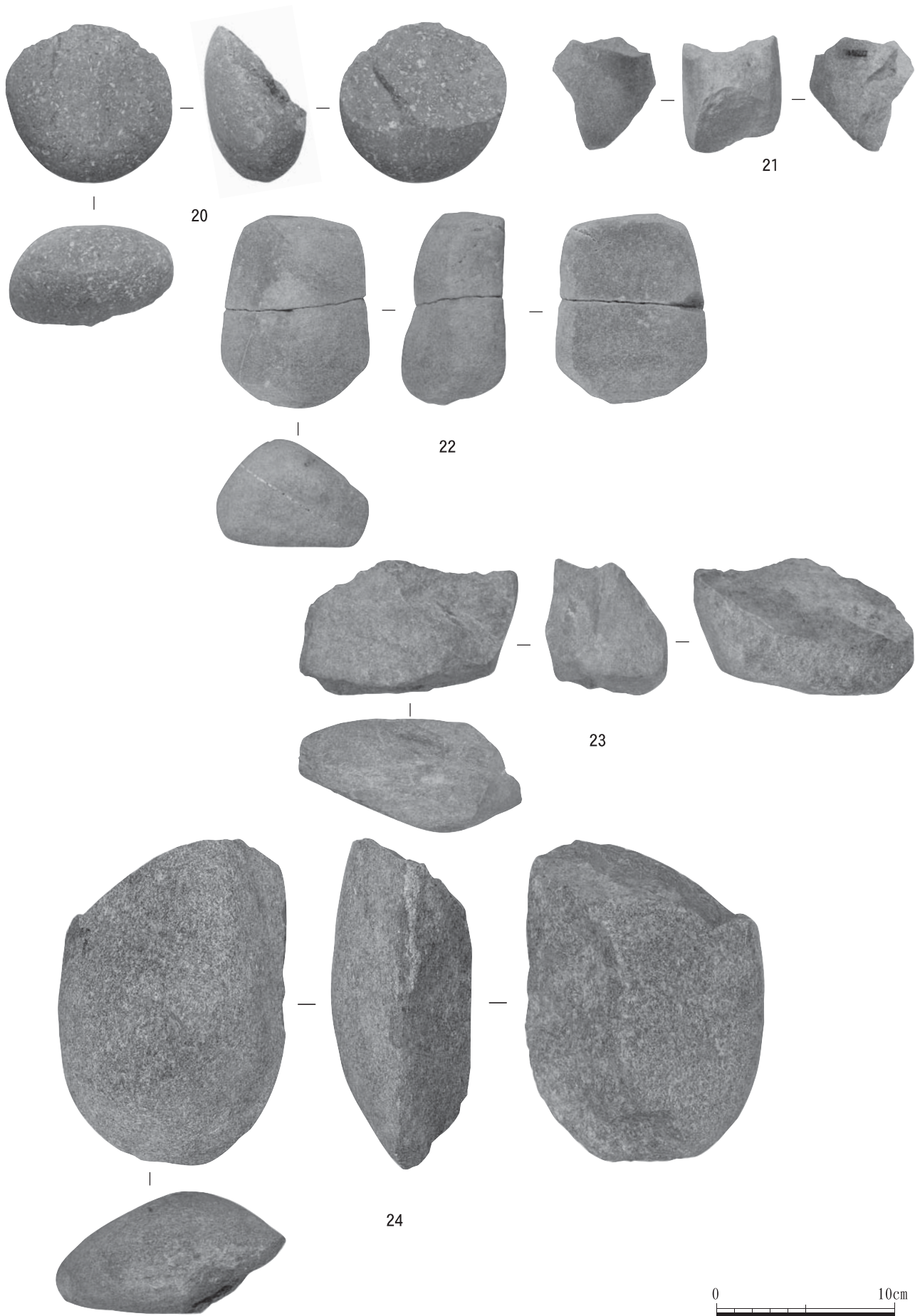
第167図 石器2



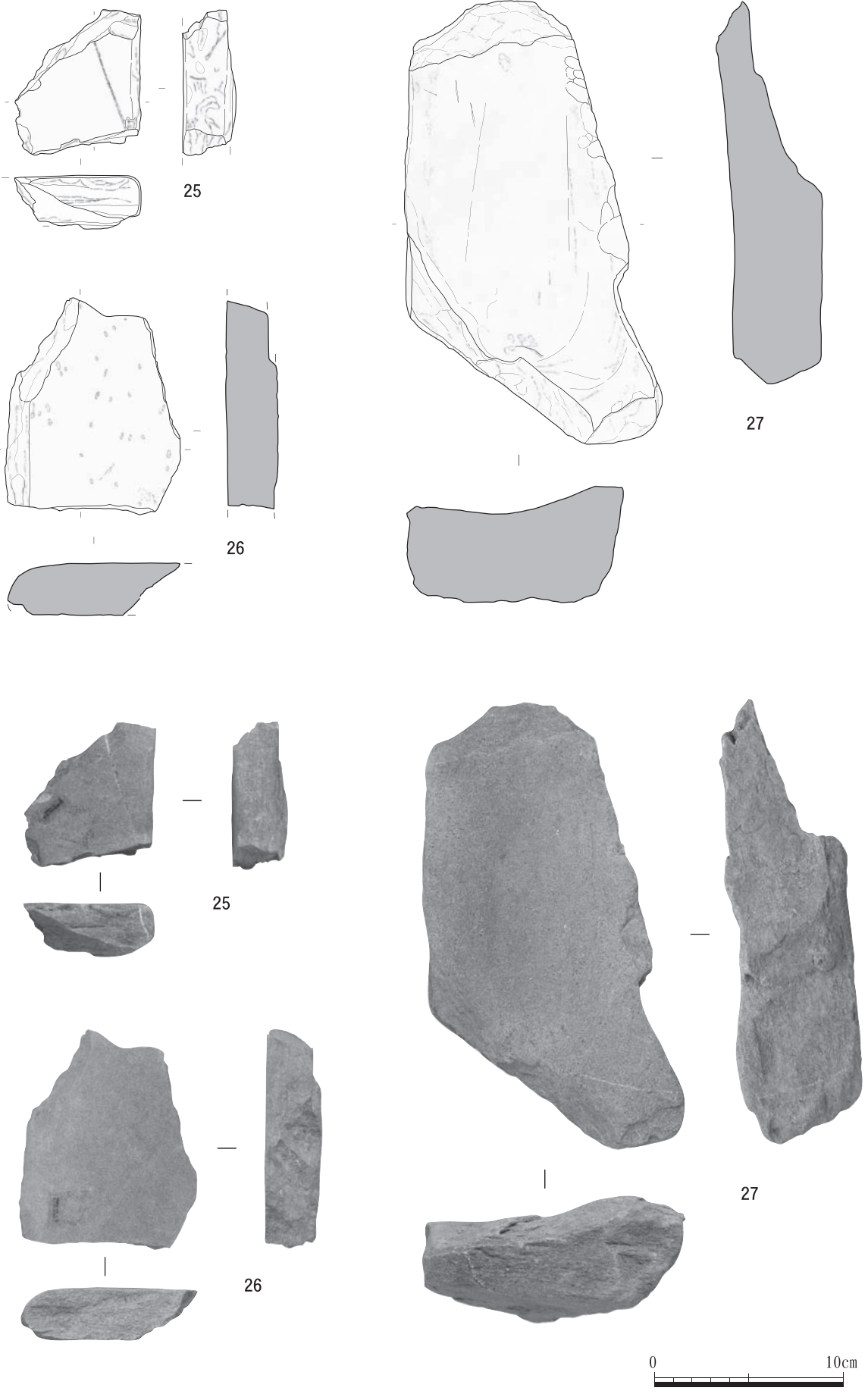
图版134 石器2



第168図 石器3



图版135 石器3



第169図・図版136 石器4

第98表 石器観察一覧

(法量単位: cm, g)

第図 図版	番号	器種	残存形態	完破	石斧 刃部 部位	石斧 刃部 形態	残存 サイズ	最大長 最大幅 最大厚	重量	観察事項	石質	小「リット」層 取上番号 台帳番号
第166図・図版133	1	石斧	未製品	—	—	—	大型—中	16.6 8.4 4.2	925	転石利用の石斧製作過程の資料と考えられる。刃部と思われる部分から左側面にかけ打ち欠き敲打している。基部、刃部は形成段階で刃部の研ぎ出しはしない。	砂岩	L8 IV層 取190 台1963
	2	石斧	厚手	完形	—	片刃	中型—小	12.5 6.5 4.1	431	完形に近い厚手石斧、基部側面観が屈曲する。研磨は良好、裏面は基部・刃部に僅かで、刃の研ぎ出しが蛤刃と多少異なる。	緑色岩	L8 IV層 取190 台1963
	3	石斧	不定形	破損	基部	—	小型—中	9.5 5.9 3.3	282	小型磨製石斧で基部が厚く基端まで形成、研磨は基部の突出部分も明瞭。刃部は表面で大きく打割、裏面は研磨が一部残る。	角閃岩	M8 IV層 取139 台1955
	4	石斧	不定形	破損	基部	—	小型—小	7.5 4.5 2.2	111	刃部欠損、基部の上下が不明瞭 研磨は、かなり良好で刃部形態のみ不明	輝緑岩	L9 IV層 取55 台1906
	5	石斧	方形状	破損	刃部	片刃	小型—中	6.5 7.4 2.3	161	石斧の刃部で基部は破損し全体の形状は不明、刃部形態は片側からの研磨が強く断面は弱凸強平片刃の類に属すと推測	角閃岩	M6 IV層 取54 台1916
	6	石斧	未製品	—	—	—	小型—中	8.9 6.1 1.9	162	扁平楕円形の小判形を呈し、表裏面に薄く研磨がみられる。両側面に浅く抉りのような小さい窪みが確認できる。刃部の研ぎ出しがなく、石斧未製品と考えられる。	砂岩	M7 IV層 取139 台1931
	7	石斧	扁平形	破損	刃部	片刃	小型—中	7.5 5.7 1.9	148	基部・基端破損、研磨は表裏面、両側面にみられ、裏面刃部破損した後、再度研磨	砂質片岩	L8 IV層 取90 台1911
	8	石斧	扁平隅丸円形 (転用品)	完形	—	—	小型—中	7.1 6.4 1.6	136	当初、砥石と思われたが両側面の研磨、下部の擦痕から石斧二次製品と推定、円盤状に再加工したものと考えられる。刃部の研ぎ出しのような痕跡が一部僅かにみられる。	砂岩	M8 IV層 取91 台1907
第167図・図版134	9	石斧	扁平形	欠損	刃部	片刃	中型—小	12.8 5.6 2.0	233	扁平・片刃石斧で研磨は刃部と基部の一部、基部上端欠損。刃先は潰れている	斑レイ岩	M7 IV層 取103 台1962
	10	石斧	扁平形	半欠	刃部	両刃	中型—小	8.0 6.7 1.6	167	扁平磨製石斧、両刃、研磨は刃部と基部の突出した一部分、両側面にも研磨あり、刃部は刃こぼれあり、刃は鈍る	緑色片岩	L8 IV層 取142 台1961
	11	石斧	扁平長楕円形 (転用品)	破損	刃部	刃潰れ	小型—小	6.3 3.8 1.4	44	磨石破片の裏面に研磨を加え二次加工を施した資料である。側縁に稜線がみられるが、刃の研ぎ出しなし。	砂岩	L9 IV層 取125 台1925
	12	石斧	扁平形	完形	—	片刃	小型—小	9.0 4.1 1.6	85	器形は整わず、いびつな変形短冊形、両刃の片刃、研磨は器面全体、基端まで及ぶが窪みのある部分には至らない。	輝緑岩	K6 IV層 取73 台1903
	13	磨石	小型楕円形	破損	—	—	小型—小	6.6 4.0 2.7	100	扁平でサイズは卵程度の大きさ、半欠しており研磨は明瞭で表裏面に顕著、周縁下部に僅かに敲打痕がみられる。	輝緑岩	L7 IV層 取12 台1909
	14	磨石	楕円形	完形	—	—	小型—中	8.3 6.5 4.1	364	全面にある程度の研磨痕あり、一部に打割の部分が確認できる。	砂岩	M10 IV層 取1932 台1932
	15	磨石	楕円形	破損	—	—	小型—中	7.7 4.8 2.8	118	磨石の破損品で四分の一の残存資料からは中型の磨石と考えられる。表裏面に研磨痕が確認できる。	砂岩	イ・ロレン IV層 取1896 台1896
	16	磨石	マウス形	破損	—	—	小型—小	9.3 4.2 2.2	114	磨石の破損品、石英脈の箇所から剝離している。研磨痕は表面のみ、一部明瞭な部分あり。	石英片岩	M8 IV層 取137 台1957
	17	磨石	長楕円形	破損	—	—	中型—小	11.0 3.4 4.3	232	石蝕状磨石の破損品で残存部は三分の一、石英脈の節理面から縦に破損している。形態は磨石の形状を形成、研磨は表裏面に薄く確認でき風化?により滑沢がない。	片状砂岩	M7 IV層 取134 台1951
	18	磨石	球形	破損	—	—	小型—小	6.2 5.6 5.3	238	サイズは小型の大きさと、破損し全体の形状は不明、研磨は表裏面にみられ側面に敲打痕が確認できる。	砂岩	M8 IV層 取1940 台1940
	19	敲石兼磨石	厚手円形	完形	—	—	中型—小	8.5 7.7 5.5	584	明確な敲打痕は表裏面と両側面にあり、上下にも浅い叩きの痕がみられる。磨りの痕跡は表裏面のみにみられる。手に握れる程度の大きさだが、重量感はある。	砂岩	M8 IV層 取102 台1946
第168図・図版135	20	磨石	厚手円形	破損	—	—	中型—中	9.1 9.1 5.5	534	磨石の破損品で二分の一の残存資料で中型の磨石と考えられる。表裏面に研磨痕が確認できる。研磨状態は、かなり良好。	角閃石 安山岩	L6 IV層 取16 台1914
	21	磨石	厚手不定形	破片	—	—	中型—小	6.2 5.0 5.5	188	残存する器形から石蝕状磨石と思われる。研磨は表裏面にみられ、四分の一程度の残存資料と考えられる。	砂岩	M8 IV層 取138 台1953
	22	磨石	変形石蝕状	完形	—	—	中型—中	10.2 8.4 6.1	770	表面中央部が高く横断面が三角状を呈す。研磨痕は表裏面にみられ、擦痕でできた面が二箇所のみみられる。	砂岩	L6 IV層 取138 台1936
	23	磨石	不定形	破損	—	—	中型—大	12.6 7.4 6.1	673	拳大より若干大きめの磨石だが半欠品、研磨痕は非常に明瞭、一ヶ所擦痕でできた面がみられる。	輝緑岩	N9 IV層 取63 台1912
	24	磨石	楕円形	半欠	—	—	大型—小	18.3 13.1 7.6	2,600	大型磨石、平面形は楕円を呈すが握りが悪い。表裏面に研磨面がみられ研磨状態は顕著。表面中央には打割の痕がみられる。四分の三は残存する。	角閃岩	M8 IV層 取143 台1966
第169図・図版136	25	砥石	板状不定形	破損	—	—	中型—小	7.8 6.7 2.7	182	厚さ2cm台の板状の砥石で、上下・側面三方向が破損している。片面のみ研磨と使用痕あり、研磨面は顕著に窺える。	砂岩	M7 IV層 取118 台1950
	26	砥石	板状	破損	—	—	中型—中	11.6 9.4 2.9	429	形状は板状を呈し、厚みは2cm程度、使用面は表面の一面のみで平坦、研磨痕は顕著である。	砂岩	M9 IV層 取199 台1948
	27	砥石	縦長不定形	破損	—	—	大型—中	24.3 12.1 6.5	1,990	厚手の板状の砥石で表面のみ使用痕らしき痕跡あり。研磨は明瞭でない。	砂岩	K8 V層 取1976 台1976

(3) 貝製品

伊礼原A遺跡出土の貝製品は装飾品2点、実用品24点の計26点である。出土地別にはM7・M8に多く、層別にそのほとんどが第IV層の出土である。

主なものを第171図(図版137)に示し、以下、装飾品・実用品の順に略述し、それ以外はそれぞれ観察表に示した。

第99表 貝製品出土量

(法量単位: cm, g)

層	分類	装飾品		実用品								合計
		イモガイ 円盤状	貝匙 柄	螺蓋製 貝斧	二枚貝有孔製品							
					カラガイ	シナジミ	R・サホオ	R・サルカガイ	ヒメジヤコ	R・マスカガイ	シナミ	
IV層		2	1	6	1	1	2	1	4	1	6	25
V層				1								1
合計		2	1	7	1	1	2	1	4	1	6	26

A. 装飾品

装飾品はイモガイ円盤状製品のみである。

・イモガイ円盤状製品

大型イモガイの肩部を切り取り、切断面を研磨して円盤状に加工したものである。2点出土したが、そのうちの1点を図化した。

図1はアンボンクロザメで体層部の切断面は、殻頂に対して水平で、研磨面も明瞭である。殻頂側は突出した部分を径0.8cm前後の研磨面が認められる。

もう一つ、製品336は径4.3×3.5cm、厚さ0.7cmを測るもので、風化が著しく、研磨面は明瞭でないが、殻頂部分がフラットに整形されているようである。N10第IV層の出土である。

第100表 イモガイ円盤状製品

(法量単位: cm, g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	完破	殻径 縦	殻径 横	重さ	孔縦	孔横	加工	貝状態	小グリッド・層 台帳番号
図第 版171 137図	1	339	アンボンクロザメ	完	4.9	4.5	21	-	-	体層側研磨 殻頂研磨	アハタ ○ 風化 ○	K8 IV層 台2041
図 な 図版	-	336	アンボンクロザメ	破	(4.3)	(3.5)	12	0.8	0.9	殻頂はフラット製品の 可能性もあり。	風化 ◎	N10 IV層 台1538

凡例: ◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∟=僅少、×=なし

B. 実用品

実用品としたのはヤコウガイ製貝匙1点、螺蓋製貝斧7点、二枚貝有孔製品16点の計24点である。

・ヤコウガイ製貝匙 図2は破損品で、ヤコウガイの殻口部分を用いた貝匙の柄の部分である。加工の状況を見ると周縁は丸味を帯び、加工が顕著で外面は表層を一部研磨する。残存の状況から大形のヤコウガイを用いた大ぶりの匙が想定される。

・螺蓋製貝斧

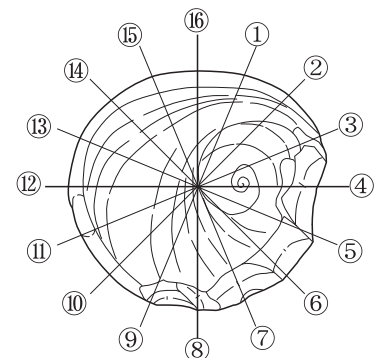
ヤコウガイの蓋の薄い部分を打割して、刃状にしたもので、7点出土した。模式図に附刃の範囲を示し、観察一覧にその範囲を示した。その結果、下記のように分類される。(伊礼原E遺跡の分類を踏襲して再分類した。)

A: 連続して打割するもの

B: 連続して打割するが、二方向に分かれるもの

C: 剥離が2カ所に分かれるもの

Aが1点、Bが2点、Cが4点出土した。



『シヌグ堂遺跡』(1985)

第170図 ヤコウガイの蓋附刃分布

しかし、これらの製品は風化が著しく、製品としては疑問が残る部分も多い。ヤコウガイの出土状況をみるとL7とM8に多く、第V層の縁側に多く出土するようである。

第101表 螺蓋製貝斧観察一覧

(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	分類	残存	縦	横	重量	刃範囲	貝殻状態・他	小ケリット・層 台帳番号
第 版171 137図	3	436	B	完	7.5	8.2	163	⑤-⑭	4回打割 黒いシミがある	M7 IV層 台1556
	4	445	C	完	5.6	6.0	81	③-⑤ ⑫-⑬	風化△	K8 IV層 台2041
図・ 図版なし	—	437	A	完	8.0	8.8	207	②-⑤	風化△	M6 IV層 台1534
	—	434	C	完	7.7	8.4	158	②-④ ⑨-⑩	風化○	L9 IV層 台1506
	—	435	B	完	7.4	8.6	150	②-⑫	風化◎	M8 IV層 台1551
	—	438	C	完	8.8	8.2	125	③-⑥ ⑫-⑭	風化◎	M8 IV層 台1551
	—	443	C	完	8.0	—	182	②-⑥ ⑫	風化○	L7 V層 台1488

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし

・二枚貝有孔製品

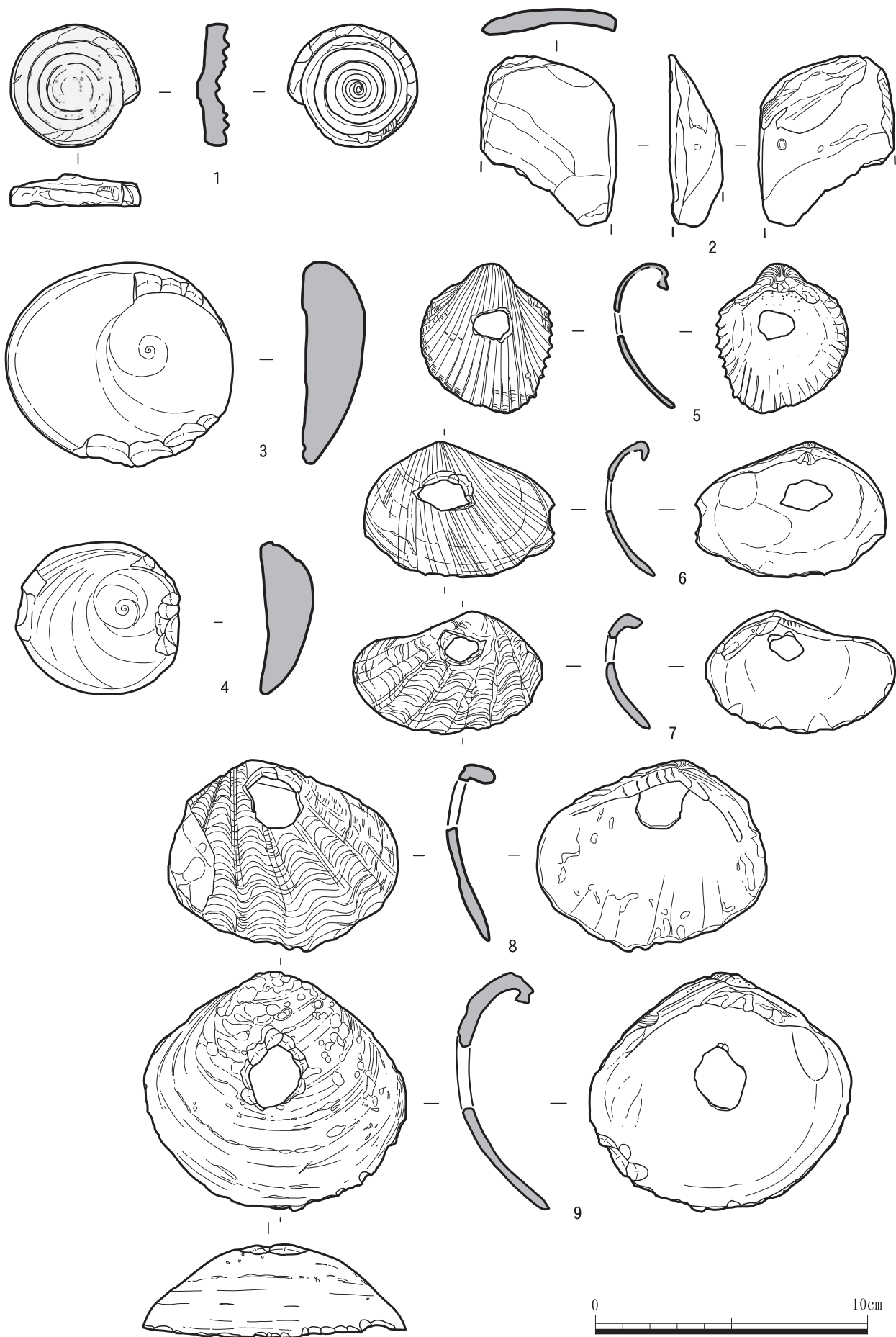
二枚貝の殻頂近くに1.0～2.0cmの粗孔を施すもので、本遺跡からは、シラナミ6点、ヒメジャコ4点、リュウキュウサルボオ2点とカワラガイ、シレナシジミ、リュウキュウザルガイ、リュウキュウマスオガイが各1点の計16点の出土である。出土地別にはM7に多く、層別にはすべて第IV層の出土である。

第102表 二枚貝有孔製品観察一覧

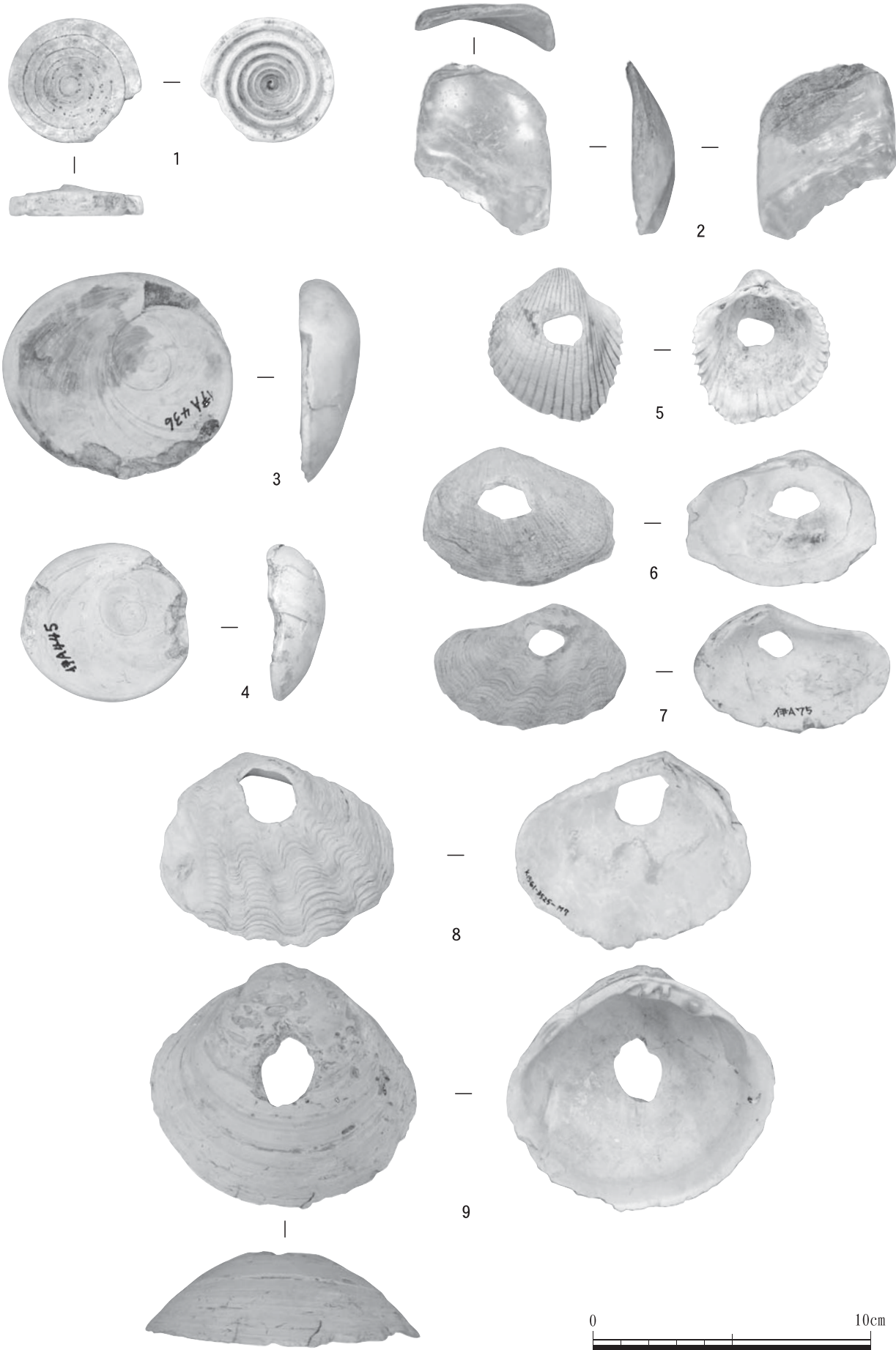
(法量単位：cm、g)

第図 図版	図 番号	製品 番号	貝種	R・L	残存	殻高	殻長	重さ	孔縦	孔横	孔位置	孔の状況	穿孔方向	孔形	腹縁	貝殻状態・他	小ケリット・層 取上番号 台帳番号
第 171 図・ 図版 137	5	614	カワラガイ	L	完	5.2	4.8	13	1.0	1.2	中中	複孔	内→外	方形	×	風化△	J7 IV層 台1859
	6	612	R・マスオガイ	R	完	5.1	6.9	12	1.2	1.9	中中	複孔	内→外	不定	前・後△	色残△	M10 IV層 台1857
	7	75	シラナミ	L	完	4.7	6.8	16	0.7	0.9	上中	複孔	—	円形	中後 摩耗	—	M7 IV層 貝1558
	8	131	シラナミ	R	完	7.0	8.4	35	2.1	1.7	上前	複孔	内→外	円形	前・中 摩耗	風化○	M7 IV層 貝1561
	9	615	シラナシジミ	L	完	8.8	9.6	70	2.3	1.7	中中	複孔	内→外	楕円	剥離	殻頂アバタ○	L7 IV層 台1854
図・ 図版なし	—	160	R・サルボオ	L	完	—	6.6	26	—	—	上中	複孔	—	—	—	風化○	L8 IV層 貝1499
	—	196	R・サルボオ	R	完	5.0	7.1	30	0.7	0.8	上中	複孔	—	円形	×	アバタ△	N8 IV層 取64 台2040
	—	55	シラナミ	L	完	8.1	11.0	74	2.2	3.3	中中	複孔 ハガレ	—	楕円	×	殻頂アバタ 風化○	M7 IV層 貝1506
	—	607	シラナミ	L	完	10.4	6.3	54	1.4	1.8	上前	複孔	—	楕円	前・中・後 摩耗△	風化○	M8 IV層 台1856
	—	608	シラナミ	R	完	9.3	7.3	53	2.7	2.4	上中	複孔	内→外	方形	前・後△	アバタ○ 風化○	M8 IV層 台1856
	—	611	シラナミ	R	完	7.0	5.0	14	1.1	1.6	上前	複孔	内→外	方形	×	風化×	M9 IV層 台1862
	—	53	ヒメジャコ	L	完	5.1	8.0	21	1.1	0.9	中中	単孔	—	円形	中・後 摩耗	風化○	L9 IV層 貝1506
	—	132	ヒメジャコ	L	完	6.1	7.9	27	1.1	1.4	上前	複孔	内→外	不定形	—	—	M7 IV層 貝1561
	—	601	ヒメジャコ	L	完	9.0	6.0	41	1.3	1.7	上中	複孔 丸ハガレ2カ所	内→外	丸(3回)	前	風化○	M7 IV層 台1860
	—	605	ヒメジャコ	L	完	7.9	5.1	20	1.1	1.3	上前	複孔	内→外	楕円	前・中・後 △	風化△	M9 IV層 台1861
	—	244	R・サルボオ	R	完	3.5	3.2	3	1.2	1.0	上後	複孔	—	不定形	—	風化○	L8 IV層 貝1501

凡例：◎=多・強、○=普通、△=少・弱、∠=僅少、×=なし



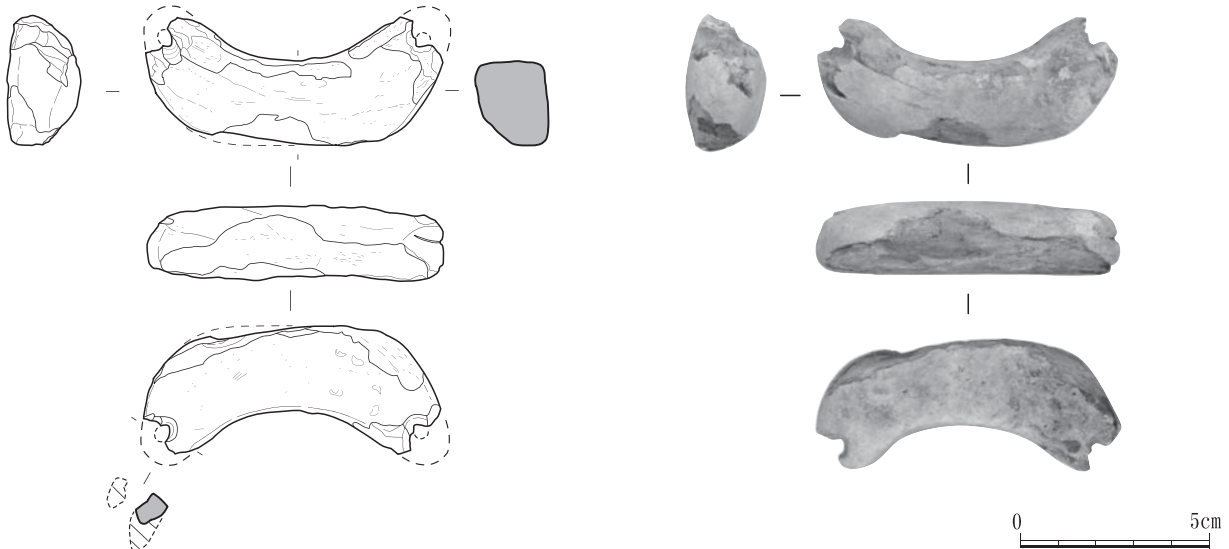
第171図 貝製品



図版137 貝製品

(4) 骨製品

ジュゴンの肋骨を「U」字状に加工した製品が1点出土した。「U」字状の両端に垂直に穿孔するものである。孔は回転による穿孔で両端とも欠損する。孔の外径は0.8cm、内径0.4cmで、両面から穿孔する。厚さ1.8cmを測り、断面は方形に近いが、片側は直角で、その対角は丸味を帯びる。丸味を帯びる部分は、肋骨の自然面と思われる。調査終盤の下層トレンチ確認の際に得られ、土器も面縄前庭式が出土する。類例は伊礼原遺跡(2007, 第92図5)、伊礼原E遺跡(2010, 第132図17)で出土している。貝塚時代前Ⅲ～Ⅳ期に属するものと思われる。



(5) 植物遺体

第Ⅴ層から検出されたもので、そのほとんどは自然分析を行い、第5節に報告するが、ピックアップ法で他の遺物と出土したものを掲載した。近接する伊礼原遺跡(2007)を参考に種を検討した。

1は平面が楕円形、側面に5つの稜をなすもので、上下端には穴が確認される。大きさは長さ1.0×幅0.7cmで、形状からセンダンの核に酷似する。

2は平面が長楕円、上端は偏円形で裂ける。側面に縦位に浅い溝があり、長さ1.1cm×幅0.6cmを測る。シマウリの核に酷似する。向に1周する浅い溝あり。

3は破損し全形は窺えないが弧状に湾曲するもので、前2者より大きく、質感も堅いと思われることから木材の可能性もある詳細不明。残存の大きさは長さ4.5cm×幅2cm。

<参考文献>

辻誠一郎・他 2007「伊礼原遺跡の植物遺体群」中村愿編『伊礼原遺跡』北谷町文化財調査報告書 第26集 北谷長教育委員会



第172図・図版138 骨製品・植物遺体

第IV章 理化学的分析

第1節 伊礼原遺跡（国指定外）2007・2008・2012年度調査で採集された脊椎動物遺体

（付．伊礼原A遺跡2008年度調査で採集された脊椎動物遺体）

樋泉岳二（早稲田大学）

沖縄県北谷町の海岸平野に立地する伊礼原遺跡では、2007～2008年度および2012年度に実施された伊礼原遺跡国指定外の発掘調査において、沖縄貝塚時代後期から近代にいたる各時代の層準から多数の脊椎動物遺体（骨類）が出土した。ここではその同定結果を記載し、その特徴について述べる。なお、2008年度に実施された伊礼原A遺跡（口地区）の発掘調査においても若干の骨類が得られているので、これらについてもあわせて報告する。

1. 資料と分析方法

調査区はH19年度調査地区、H20年度調査地区（イ地区）、H24年度調査地区（ハ・ニ地区）に分かれる（以下、それぞれH19地区、イ地区、ハ地区、ニ地区と記述する）。骨類を出土した層準・年代は、下位からVI層、V層（貝塚時代後期前半：阿波連浦下層式・浜屋原式期）、IV層（貝塚時代後期前半：阿波連浦下層式～大当原式期）、III層（グスク時代～近世）、II層（近代）、I層（表土）である。IV層については出土土器の平面的分布傾向から、陸側では阿波連浦下層式～浜屋原式期、海側では大当原式期の資料が主体となると推定されているが、今回はこれらを区別せず一括して扱った。

分析資料はすべて発掘現場において手で拾い上げられたもの（ピックアップ資料）である。分析方法は、基本的に樋泉（2007）の方法を踏襲した。なお哺乳類の四肢骨については、骨幹の全周を残さない破片は原則として同定対象から除外した。遺体の予備的な同定は北谷町教育委員会の島袋春美氏によって行われ、筆者（樋泉）が同定結果の確認と集計・図表作成を行った。

2. 分析結果

(1) 脊椎動物遺体の出土数

同定結果を第104表～第113表に、また同定標本数（NISP）と最小個体数（MNI）による組成を第114表に示した。同定対象となった資料数（NISP）はIV層が1107点（このうちH19地区が477点）と最も多く、III層971点（このうちハ地区が447点）、V層223点（このうちH19地区が220点）がこれに次ぐ。他の層準の資料数は少なく、II層86点、I層15点、VI層5点であった。

(2) 脊椎動物遺体の組成

出土資料数が多いIII層～V層について組成の特徴を述べる。

概要：まず脊椎動物遺体全体の組成をみると（第173図・第174図）、一般的に魚類とイノシシ類（イノシシまたはブタ）が主体で、MNI比では魚類が最も多い。層位的にみてもMNI比で魚類が45～60%前後、イノシシ類が30～40%前後で大きな変化はないが、IV層では不明瞭ながら魚類が微増し、イノシシ類がやや減少傾向を示す。ウミガメ類、イヌ、ジュゴンも普通で、III層以上ではウシ・ウマも増加する。その他にリクガメ類、ニワトリ、ネズミ、ネコ、ヤギ、イルカ・クジラ類が確認されているが、いずれも少数である。

魚類（第175図・第176図）：一般的にフエフキダイ科が最も多く、ブダイ科、ハリセンボン科、ク

ロダイ属がこれに次ぐ。Ⅲ層・Ⅳ層ではベラ科、ハタ科、大型アジ類も普通である。層位的にみても大きな変化はみられないが、上層ではフエフキダイ科が減少、ベラ科、クロダイ属などが増加し、組成がやや多様化する。フエフキダイ科の大半はフエフキダイ属で、前上顎骨ではハマフエフキ型が圧倒的に多い。ブダイ科の咽頭骨・前上顎骨・歯骨はアオブダイ属が主体だが、イロブダイ属も若干混じる。ベラ科の咽頭骨は大半がシロクラベラ型だが、その他のタイプも若干みられる。大型アジ類の2点の前上顎骨はいずれもイトヒキアジに近似する。「真骨類未同定A」とした前上顎骨・歯骨は比較的大型の魚類で、歯をもたない点が特徴である。

爬虫類・鳥類:爬虫類ではウミガメ類が多く、特にⅣ層ハ地区R10～R12グリッド（以下「グリッド」を略す）では頭骨・四肢骨を含む多数の資料がまとまっている。また老成個体の背甲の大型破片がⅣ層イ地区S12とⅤ層H19地区S13で各1点出土している（資料番号968、1228）。リクガメ類も少数ながら各層準で確認されている。鳥類はⅢ層でニワトリが3点同定されたのみである。

陸生哺乳類:イノシシ類がNISPで1238点と圧倒的に多く、イヌ152点、ウシ115点、ウマ46点がこれに次ぐ（第114表、第173・174図）。他に、ネズミ科、ネコ、ヤギが少数確認されている。

イノシシ類の年齢構成を顎歯でみると、Ⅴ層・Ⅳ層は乳歯が少なく、M3が多くみられることから成獣主体と考えられる。Ⅲ層では乳臼歯（dm3・dm4）が増加、P4・M2が減少しており、M1萌出段階前後の若獣の増加が示唆されるが、M3も普通で成獣も少なくない。性比（雄：雌）を下顎犬歯数でみると、Ⅴ層4：3、Ⅳ層17：9、Ⅲ層9：2で、上層で雄の増加傾向がみられる。家畜化（ブタ化）に関する形質学的な検討は未了だが、下顎骨の中には家畜化の兆候を示すと思われる標本も若干確認されている。またⅢ層イ地区D18出土の肩甲骨（資料番号2311）は肥大しておりブタと考えられる。部位組成（顎骨：四肢骨）をMNI比でみると、Ⅴ層10：8、Ⅳ層16：46、Ⅲ層8：20で、Ⅴ層では顎骨がやや多いが、Ⅳ層・Ⅲ層では四肢骨が卓越する。

イヌについては、Ⅲ層ハ地区Q12から同一個体と思われる骨63点がまとまって採集されている（台帳番号495・519）。おおむね全身骨が揃っており埋葬の可能性もあるが、頭骨の大半や主要四肢骨の一部などを欠くことから、解体・廃棄された可能性もある。またⅢ層ハ地区R12（SX01）からも椎骨・前後肢骨の一部など12点がまとまって採集されており（台帳番号1065）、同一個体のものとするれば解体・廃棄された可能性が高い。またⅢ層ハ地区013（SP17）の大腿骨と同P15の下顎骨にカットマークが確認されている。

海生哺乳類:ジュゴンが51点（Ⅳ層30点、Ⅲ層15点、Ⅱ層6点）と比較的多く出土した。Ⅳ層・Ⅲ層ともに頭骨、椎骨、肋骨がみられるが四肢骨を欠く。Ⅳ層では部位によって分布傾向が異なり、O12～P11・12には頭骨（前頭骨・切歯骨・下顎骨）、O8～P8・9には頸椎がまとまって分布している（これらが同一個体のものかは未確認である）。また、Q～T・10～12帯には肋骨が広く分散している。なおⅢ層でもP11・Q11で頭骨破片、N9・O8で椎骨、Q12・R11・S10で肋骨が採集されているが、これらは上記のⅣ層の部位別分布と重なることから、Ⅳ層の資料が巻き上げられたものである可能性が高い。ジュゴン以外ではイルカ・クジラ類が少数出土している。

3. 考察—周辺遺跡との比較

貝塚時代後期前半: 今回の調査地点の南東約500mに位置する小堀原遺跡（1999～2001年度試掘調査および2008～2009年度本調査）でも貝塚時代後期の骨類が多数出土している（樋泉2009・2012）。これらの骨には後期後半（くびれ平底土器期）の資料も混じっていると推定されるが、2008～2009年度調査では後期前半（大当原式期）のⅥ層b区の出土骨が大半を占めていたことから、本遺

跡IV層と同時代の資料がおおむね主体をなすと考えてよいと思われる。

本遺跡（V層・IV層）と小堀原遺跡の出土骨を比較すると、いずれも魚類とイノシシ類を主体としてウミガメ・イヌなどが混じる基本的パターンは共通しているが、小堀原ではMNI比でイノシシ類が5割、魚類3割程度とイノシシ類が優勢であるのに対して、本遺跡では魚類が優勢であり、とくにIV層では約6割とイノシシ類の倍近くを占める。またイノシシ類の部位組成（顎骨：四肢骨のMNI比）をみても、小堀原では1999～2001年度資料が26：10、2008～2009年度資料が10：3と、いずれも顎骨が圧倒的に多く、一部の地区では顎骨が集中する状況も確認されている。これに対して本遺跡V層では10：8と僅差であり、IV層では逆転して16：46と四肢骨が圧倒的に卓越する。このように、近接する同時代遺跡の間でもパターンは明確に異なっており、小堀原が特殊性の強い様相を呈しているのに対して、本遺跡は貝塚時代の一般的様相（樋泉2014）に比較的近いあり方を示している。また、ジュゴンが多産した点も本遺跡の特色である。

グスク時代～近世：今回調査地区の北西に隣接する伊礼原D遺跡4トレンチ5～10グリッド（グスク時代～近世以降。樋泉2008）および南東側に位置する伊礼原E遺跡II層（近世～近代。樋泉2010）では、イノシシ類を主体とし、これとウシ・ウマが大半を占め、魚骨はごく少ない。とくに伊礼原E遺跡ではイノシシ類の比率が高く、雌が優勢で、出土部位が顎骨に偏在している。これに対して本遺跡（III層）では魚骨が多く、イノシシ類は雄が優勢で、四肢骨が卓越するなど、明らかに傾向が異なっている。

このように本遺跡周辺では、貝塚時代後期前半およびグスク時代～近世のいずれにおいても、遺体群のパターンに顕著な空間的差異が認められる。このことは、一連の生活空間内における活動内容の空間差を反映しているのではないかと思われる。

付記：伊礼原A遺跡2008年度調査で採集された脊椎動物遺体

伊礼原A遺跡2008年度調査出土資料については、同定結果を各表の末尾に示すにとどめ（「ロ地区」としたものが伊礼原A遺跡に相当する）、記載は省略する。

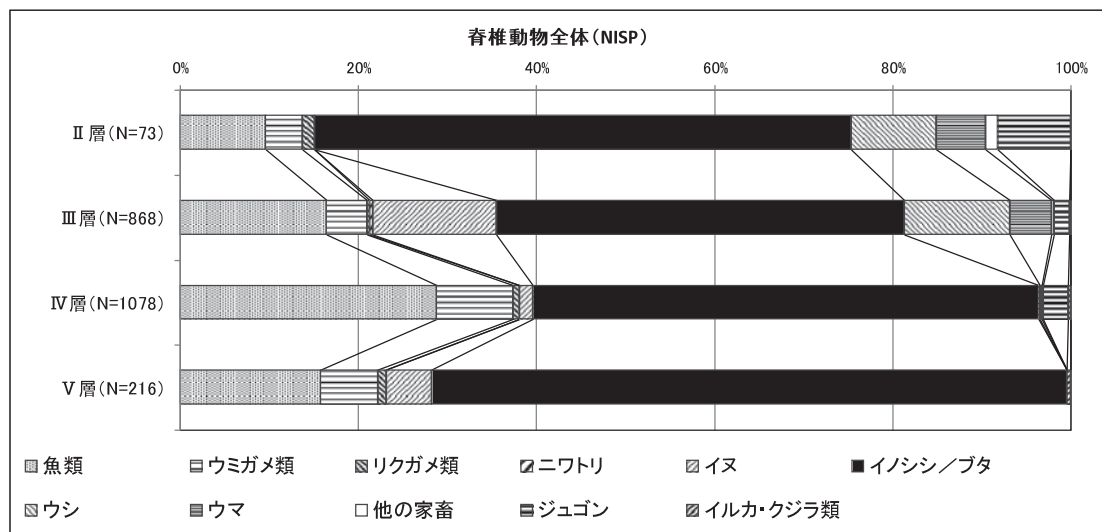
謝辞：分析作業に際しては、島袋春美氏・山城安生氏・東門研治氏・松原哲志氏ほか北谷町教育委員会の皆様より多大なるご教示・ご協力を賜った。記して厚く御礼申し上げます。

<参考文献>

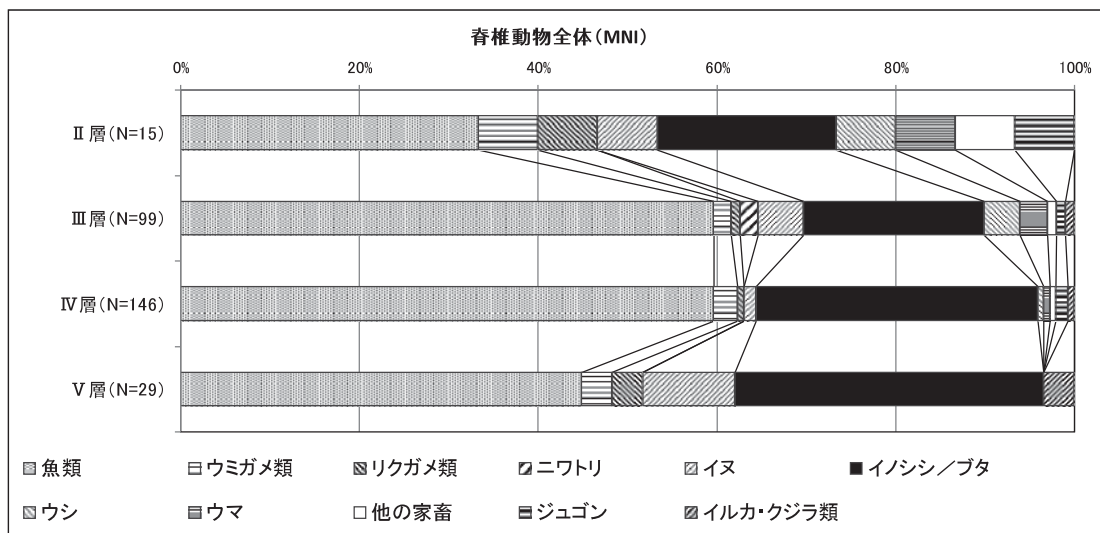
- 樋泉岳二（2007）「伊礼原遺跡から出土した脊椎動物遺体群」、『伊礼原遺跡－伊礼原B遺跡ほか発掘調査事業－』（北谷町教育委員会編）、沖縄県北谷町教育委員会、pp480-534。
- 樋泉岳二（2008）「伊礼原D遺跡第3・第4トレンチ出土の脊椎動物遺体群」、『伊礼原D遺跡－キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業（平成10～13年度）－』（北谷町教育委員会編）、沖縄県北谷町教育委員会、pp. 184-196。
- 樋泉岳二（2009）「小堀原遺跡出土の脊椎動物遺体群」、『小堀原遺跡－キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業（平成11～13年度）－』（北谷町教育委員会編）、沖縄県北谷町教育委員会、pp. 189-203。
- 樋泉岳二（2012）「小堀原遺跡2008～2009年度調査で採集された脊椎動物遺体」、『小堀原遺跡－桑江伊平土地区画整理事業に伴う試掘調査事業－』（山城安生・島袋春美編）、沖縄県北谷町教育委員会、pp. 322-334。
- 樋泉岳二（2014）「脊椎動物遺体からみた琉球列島の環境変化と文化変化」『琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷』（高宮広土・新里貴之編）、六一書房、pp. 71-86。

第103表 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から採集された脊椎動物遺体の種名一覧

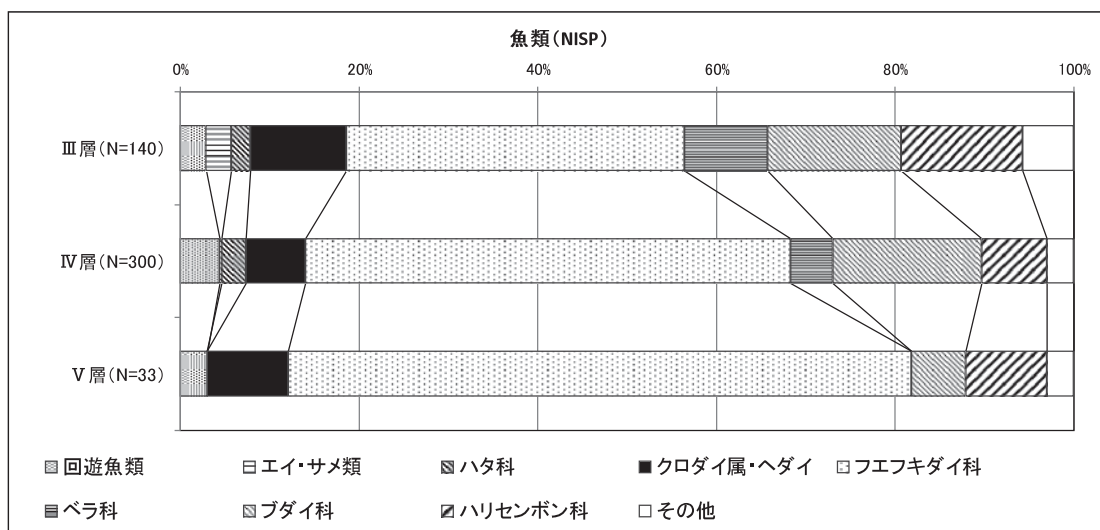
軟骨魚綱	CHONDRICHTHYES
メジロザメ科	Carcharhinidae
トビエイ科	Myliobatidae
硬骨魚綱	OSTEICHTHYES
ウツボ科	Muraenidae
アナゴ科	Congridae
ダツ科	Belonidae
イトウダイ科	Holocentridae
ハタ科(マハタ型)	Serranidae cf. <i>Epinephelus</i>
ハタ科(スジアラ型)	Serranidae cf. <i>Plectropomus</i>
アジ科(イトヒキアジ型)	Carangidae cf. <i>Alectis ciliaris</i>
フエダイ科	Lutjanidae
クロダイ属	<i>Acanthopagrus</i> sp.
ヘダイ	<i>Sparus saruba</i>
ヨコシマクロダイ	<i>Monotaxis grandoculis</i>
フエフキダイ属(ハマフエフキ型)	<i>Lethrinus</i> cf. <i>L. nebulosus</i>
フエフキダイ属(アマミフエフキ型)	<i>Lethrinus</i> cf. <i>L. amemianus</i>
ベラ科(シロクラベラ型)	Labridae cf. <i>Cherodon shoeneleinii</i>
ベラ科(その他)	Labridae (others)
イロブダイ属	<i>Balbometopon</i> sp.
アオブダイ属	<i>Scarus</i> sp.
オニオコゼ科?	Synanceiidae ?
コチ科	Platycephalidae
モンガラカワハギ科	Balistidae
フグ科	Tetraodontidae
ハリセンボン科	Diodontidae
爬虫綱	REPTILIA
リクガメ類(リュウキュウヤマガメ)	<i>Geoemyda spengleri japonica</i>
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>
鳥綱	AVES
ニワトリ	<i>Gallus gallus</i>
哺乳綱	MAMMALIA
ネズミ科	Muridae
ネコ	<i>Felis catus</i>
イヌ	<i>Canis familiaris</i>
ウマ	<i>Equus ferus</i>
イノシシ/ブタ	<i>Sus scrofa</i>
ヤギ	<i>Capra hircus</i>
ウシ	<i>Bos taurus</i>
ジュゴン	<i>Dugong dugon</i>
イルカ類	Cetacea (small)
クジラ類	Cetacea (large)



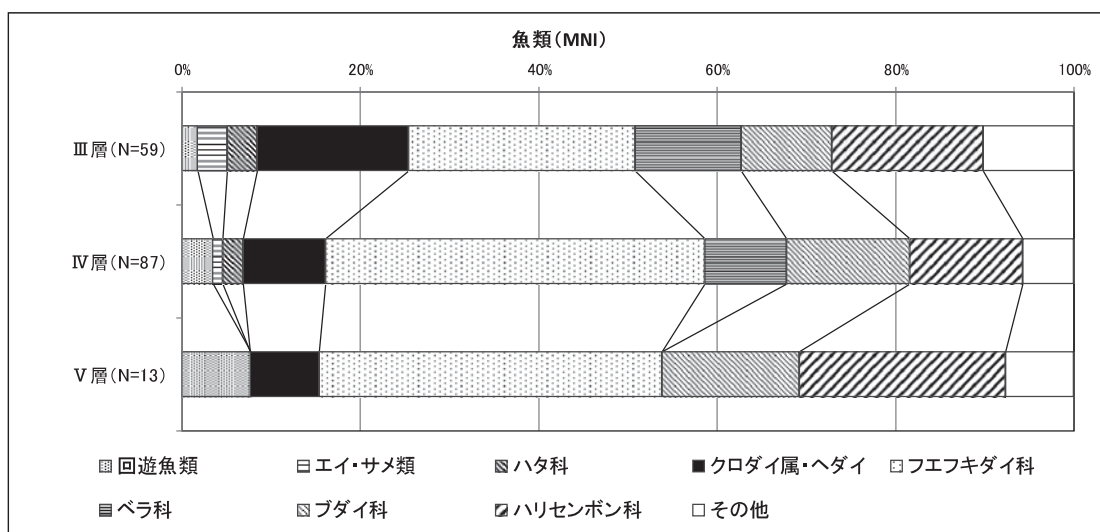
第173図 伊礼原遺跡(国指定外)から採集された脊椎動物遺体の組成(NISP比)



第174図 伊礼原遺跡（国指定外）から採集された脊椎動物遺体の組成（MNI比）



第175図 伊礼原遺跡（国指定外）から採集された魚類遺体の組成（NISP比）



第176図 伊礼原遺跡（国指定外）から採集された魚類遺体の組成（MNI比）

第104表-2 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した魚類遺体。
資料数の少ないグリッドについては隣接するグリッドと合算した。

種類	部位	III層 ニ地区						IV層 H19										
		M10	N9	N10	08・P8	09	Q6	A19/20 ・B18	P16・ Q17	Q15・ R15	R13/14	R18・ S18	S12	S13/14	S16・ T17	T14/15	T19/20	その他 ・不明
		メジロザメ科	椎骨															
トビエイ科	歯																	
エイ目	尾棘																	
ウツボ科	歯骨	/ 1																
アナゴ科	歯骨						1 /											
ダツ科	前上顎骨																	
ダツ科	歯骨																	
イトウダイ科	前鰓蓋骨																	
マハタ型	歯骨																	
スジアラ型	前上顎骨																	
ハタ科	角骨				1 /													
ハタ科	前鰓蓋骨																	
ハタ科	擬鎖骨																	
ハタ科?	方骨																	
ハタ型	腹椎											1						
アジ科 (大)	前上顎骨																	
アジ科 (大)	主上顎骨																	
アジ科 (大)	前上顎骨																	
アジ科 (大)	歯骨																	
アジ科 (大)	角骨																	
アジ科 (大)	尾椎																	
アジ科 (大)	稜鱗																	
フエダイ科?	主上顎骨																	
フエダイ科	前上顎骨																	
クロダイ属	主上顎骨																	
クロダイ属	前上顎骨		2 / 1	1 /	1 /				/ 1						1 /	1 /		
クロダイ属	歯骨		1 /									/ 1						
クロダイ属	角骨																	
クロダイ属	口蓋骨																	
ヘダイ	前上顎骨																	
ヘダイ	歯骨			/ 1														
ヨコシマクロダイ	前上顎骨																	
ヨコシマクロダイ	歯骨																	
ハマフエフキ型	前上顎骨	/ 1	1 /	1 / 2		1 /			/ 1	1 /		1 /	1 /	1 / 1			/ 1	
アマミフエフキ型	前上顎骨																	
フエフキダイ属	前上顎骨	1 /	2 /	1 / 1		1 /				1 /				/ 1	1 /			
フエフキダイ属	口蓋骨			1 / 1					/ 1			/ 1				1 /		
フエフキダイ科	主上顎骨		2 /			1 /						/ 1						
フエフキダイ科	歯骨		1 /	3 /												1 /	1 /	
フエフキダイ科	角骨			2 / 2													/ 1	
フエフキダイ科	方骨	1 /																
フエフキダイ科	第1椎骨		1								1		1					
フエフキダイ科	腹椎							1					1					
タイ型	椎骨																	
シロクラベラ型	上咽頭骨							/ 1										
シロクラベラ型	下咽頭骨		1									1						1
シロクラベラ型	椎骨																	
ベラ科 (その他)	下咽頭骨	1												1				
ベラ科	主上顎骨																	
ベラ科	前上顎骨											1 /						
ベラ科	歯骨	/ 1		1 / 1														
ベラ科	角骨																	
イロブダイ属	上咽頭骨							1 /										
イロブダイ属	下咽頭骨																	
イロブダイ属	歯骨					/ 1												
アオブダイ属	上咽頭骨																	
アオブダイ属	下咽頭骨										1	1						
アオブダイ属	前上顎骨											1 / 1						
アオブダイ属	歯骨		1 /	/ 2		/ 1												1 /
ブダイ科	主上顎骨																	
ブダイ科	椎骨																	
コチ科	歯骨																	
オニオコゼ科?	腹椎																	
モンガラカワハギ科	前上顎骨																	
モンガラカワハギ科	腰帯																	
モンガラカワハギ科	背鰭棘																	
フグ科	前上顎/歯骨									1								
ハリセンボン科	前上顎骨	1				1						1						
ハリセンボン科	歯骨		1	1				1			1		1					
ハリセンボン科	前上顎/歯骨			2					2		2	3						
真骨類未同定A	前上顎骨																	
真骨類未同定A	歯骨																	
真骨類保留	第1椎骨																	
真骨類保留	椎骨															1		
真骨類同定不可	前上顎骨																	
真骨類同定不可	角骨		1 /															
真骨類同定不可	椎骨											1						
合計		7	15	23	2	8	1	4	3	2	5	6	12	4	5	3	5	3

第104表-4. 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した魚類遺体.
資料数の少ないグリッドについては隣接するグリッドと合算した.

種類	部位	IV層 ニ地区							V層 H19					不明			
		N9	N10	08	010	09・P9	P8・Q8	地区不明	A19・B1・T20	A20	P16/17・Q15	R17・S18	ニ地区 A19/F	H19 全	イ地区 全	ニ地区 全	不明 全
メジロザメ科	椎骨																
トビエイ科	歯																
エイ目	尾棘																
ウツボ科	歯骨																
アナゴ科	歯骨																
ダツ科	前上顎骨																
ダツ科	歯骨						1 /	1 /									
イトウダイ科	前鰓蓋骨			/ 1													
マハタ型	歯骨																
スジアラ型	前上顎骨																
ハタ科	角骨																
ハタ科	前鰓蓋骨																
ハタ科	擬鎖骨	1 /											/ 1				
ハタ科?	方骨																/ 1
ハタ型	腹椎																
アジ科(大)	前上顎骨				2 /												
アジ科(大)	主上顎骨			1 /			/ 1										
アジ科(大)	前上顎骨																
アジ科(大)	歯骨								/ 1								
アジ科(大)	角骨																
アジ科(大)	尾椎			1													
アジ科(大)	稜鱗																
フェダイ科?	主上顎骨																
フェダイ科	前上顎骨																
クロダイ属	主上顎骨								/ 1								
クロダイ属	前上顎骨	/ 1															
クロダイ属	歯骨		/ 1	1 /			1 /		/ 1								
クロダイ属	角骨								/ 1								
クロダイ属	口蓋骨																
ヘダイ	前上顎骨					1 /											
ヘダイ	歯骨																
ヨコシマクロダイ	前上顎骨																
ヨコシマクロダイ	歯骨																
ハマフエフキ型	前上顎骨	/ 1	1 /		1 /	1 /	2 /		1 / 1		/ 1						
アマミフエフキ型	前上顎骨																
フエフキダイ属	前上顎骨	/ 3				1 /			1 / 2			/ 1	/ 1				
フエフキダイ属	口蓋骨			1	1 /		/ 1		3 / 2						/ 1		
フエフキダイ科	主上顎骨			2 / 2			/ 1		2 /		1 /					1 /	
フエフキダイ科	歯骨	3 / 1		2 /			1 / 3	1	2 / 1	1 / 1		1 /		1 /	1 /		
フエフキダイ科	角骨	1			1 / 2		1 /		1 /								
フエフキダイ科	方骨	1 / 1		1 /													
フエフキダイ科	第1椎骨																
フエフキダイ科	腹椎				1								2				1
タイ型	椎骨				1												
シロクラベラ型	上咽頭骨																
シロクラベラ型	下咽頭骨																
シロクラベラ型	椎骨																
ベラ科(その他)	下咽頭骨																
ベラ科	主上顎骨																
ベラ科	前上顎骨																
ベラ科	歯骨												/ 1				
ベラ科	角骨																
イロブダイ属	上咽頭骨	/ 1							1 /								
イロブダイ属	下咽頭骨																
イロブダイ属	歯骨	1 /												/ 1			
アオブダイ属	上咽頭骨																
アオブダイ属	下咽頭骨																
アオブダイ属	前上顎骨	/ 1					1 /	1 /									/ 1
アオブダイ属	歯骨			2 /	1 /												
ブダイ科	主上顎骨	1 /			1 /												/ 1
ブダイ科	椎骨			2													
コチ科	歯骨																
オニオコゼ科?	腹椎													1			
モンガラカワハギ科	前上顎骨							1 /									
モンガラカワハギ科	腰帯																
モンガラカワハギ科	背鰭棘																
フグ科	前上顎/歯骨																1
ハリセンボン科	前上顎骨	1								3							
ハリセンボン科	歯骨																
ハリセンボン科	前上顎/歯骨																
真骨類未同定A	前上顎骨																
真骨類未同定A	歯骨																
真骨類保留	第1椎骨												2				
真骨類保留	椎骨																
真骨類同定不可	前上顎骨							1 /									
真骨類同定不可	角骨																
真骨類同定不可	椎骨						1										
合計		18	1	16	12	3	3	12	5	20	5	2	2	7	2	2	7

第105表-1. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照. 詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した.

層準	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置*	左右	数*	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付	
II層	H19	Q14	SK11	四肢骨?	m	?	1		2766	1002	-	080218	
		S12	-	甲板	fr	?	+		1910	717	一括	080111	
		S13	SD02	甲板	fr	?	+		2213	1246	-	080214	
	イ地区	B11	-	甲板	fr	?	+		1465	1250	64	080808	
		D12	-	肋骨板	fr	?	1		1475	1233	3	080806	
			-	腹甲板	fr	?	+		1468	761	4	080806	
			-	甲板	fr	?	+		1467	1249	2	080806	
	ニ地区	L11	-	不明	fr	?	+		742	984	-	120607	
	ハ地区	不明	-	指骨	w	?	1		455	994	-	120601	
	III層	H19	Q15	SK39	甲板	fr	?	+		2788	912	-	080219
P42				甲板	fr	?	+		4232	572	-	080222	
-				四肢骨	m	?	1		2545	2191	一括	080121	
-				背甲板	fr	?	+		2545	559	一括	080121	
S13			P29	背甲板	fr	?	+		4242	842	-	080208	
S15			-	背甲板	fr	?	+		2710	822	一括	080117	
T13			-	中手骨?		?	1		2590	612	一括	080111	
イ地区			D12	P13	甲板	fr	?	+		2123	587	-	080827
			D13	SK47	腹甲板	fr	?	+		2090	635	-	080919
ニ地区			M10	K11	SP2・3	指骨	w	?	1		710	993	-
		L11		SP16	縁骨板		?	1		709	860	-	120623
		M9		-	甲板	fr	?	+		842	1250	-	120607
				SK03	不明	fr	?	+		772	986	-	120626
				SP6	縁骨板		?	1		700	586	-	120623
				SP17	甲板	fr	?	+		657	688	-	120625
				SP17	甲板	fr	?	+		773	1260	-	120619
				SP22	肋骨板	<d->	?	1		767	581	-	120628
				SP22	剣状腹板?	m	?	1		767	1219	-	120628
				-	指骨		?	1		846	973	-	120608
			-	縁骨板		?	1		783	1216	-	120608	
			-	甲板	fr	?	+		801	727	-	120607	
			-	甲板	fr	?	+		801	744	-	120607	
			-	甲板	fr	?	+		845	676	-	120608	
			-	甲板	fr	?	+		783	677	-	120608	
			-	甲板	fr	?	+		846	1242	-	120608	
			N9	SK03	上腕骨	m	L	1		777	625	-	120628
				SP13	椎骨板		-	1		721	1213	-	120619
				SP54	肋骨板	p	?	1		746	1020	-	120625
				-	縁骨板		?	1		749	870	-	120625
		-		縁骨板		?	1		753	861	-	120629	
		SP55		縁骨板		?	1		764	863	-	120629	
		-		甲板	fr	?	+		791	684	-	120607	
		N10		SX01	橈骨	m	L	1		696	617	-	120704
				-	椎骨板		-	1		695	602	-	120703
				SP17	甲板	fr	?	+		722	681	-	120625
			SP25	不明	fr	?	+		694	982	-	120627	
		09	SP26	肋骨板	p	?	1		706	714	-	120623	
			SX01	縁骨板		?	1		656	866	-	120703	
			-	甲板	fr	?	+		656	1244	-	120703	
-			腹甲板	fr	?	+		800	1241	-	120611		
ハ地区		M14	-	甲板	fr	?	+		401	689	-	120614	
			SP3	不明	fr	?	+		905	987	-	120621	
			SP7	橈骨	m	L	1		908	651	-	120620	
		N13	-	甲板	fr	?	+		908	739	-	120620	
			SP7	指骨		?	1		998	368	-	120620	
			SP7	指骨		?	1		998	368	-	120620	
		O13	SP44	縁骨板		?	1		1071	868	-	120628	
			SP17	甲板	fr	?	+		887	678	-	120627	
			SP20	甲板	fr	?	+		888	726	-	120627	
		014	-	甲板	fr	?	+		473	725	-	120608	
	-		不明	fr	?	+		480	983	-	120615		
	-		尺骨	m	R	1		579	640	-	120612		
	P12	-	縁骨板		?	1		577	864	-	120611		
		-	甲板	fr	?	+		578	723	-	120611		
		-	不明	fr	?	+		579	719	-	120612		
		-	不明	fr	?	+		579	719	-	120612		
	Q11	P15	-	椎骨板		-	1		479	935	-	120614	
		SP1	SP1	縁骨板		?	1		942	1218	-	120626	
			SP2	縁骨板		?	1		893	710	-	120626	
			SP2	甲板	fr	?	+		893	670	-	120626	
SP2			不明	fr	?	+		897	978	-	120703		
SP3			甲板	fr	?	+		945	1261	-	120626		
SP5			縁骨板		?	1		949	598	-	120703		
SP29			肋骨板	<p->	?	1		1075	715	-	120626		
SP29・30			甲板	fr	?	+		967	721	-	120702		
SP29・30			甲板	fr	?	+		967	680	-	120702		
SP41			指骨		?	1		1069	369	-	120626		
SP53		甲板	fr	?	+		938	1254	-	120627			
Q12		SK72	甲板	fr	?	+		1016	679	-	120626		
		SP36	甲板	fr	?	+		983	674	-	120626		
		-	四肢骨	m	?	1		520	644	-	120611		
		-	縁骨板		?	1		525	873	-	120611		
-		-	腹甲板	fr	?	+		500	580	-	120615		

第105表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照. 詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した.

層準	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置	左右	数	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付		
III層	ハ地区	Q12	-	腹甲板	fr	?	+		520	713		120611		
			-	甲板	fr	?	+		498	742		120615		
			-	甲板	fr	?	+		521	730		120611		
			-	不明	fr	?	+		498	985		120615		
		Q13	-	甲板	fr	?	+		1037	737		120703		
			SP24 ~ 26	剣状腹板	m	R	1		1017	643		120702		
			SP26	甲板	fr	?	+		1018	673		120704		
			-	甲板	fr	?	+		548	685		120614		
		R10	SP14	上腕骨	m	R	1		928	627		120706		
			SP7	指骨	w	?	1		1078	992		120703		
		R11	SP22	縁骨板		?	1		1052	858		120706		
			SP27	縁骨板		?	1		1926	1217		120704		
		R12	SK72	縁骨板		?	1		1048	1215		120704		
			SP10・11	甲板	fr	?	+		1043	672		120704		
			SP12	腹甲板	fr	?	+		1045	718		120703		
			SP20	甲板	fr	?	+		1076	722		120629		
			SP20	甲板	fr	?	+		1076	1251		120629		
			SP21	橈骨	m	R	1		1042	652		120705		
			SP21	腹甲板	fr	?	+		1077	1240		120704		
			-	末節骨		?	1		540	991		120615		
			-	腹甲板	fr	?	+		537	720		120608		
			-	甲板	fr	?	+		538	1265		120608		
			S10	SP27	甲板	fr	?	+		437	732		120711	
		IV層	H19	A14	-	四肢骨	m	?	1		2751	987	一括	080110
					-	四肢骨?	m	?	1		2858	556	17	080111
					-	甲板	fr	?	+		2910	1239	167	080123
				B1	-	不明	fr	?	+		4226	797	一括	080117
				B16	-	甲板	fr	?	+		2735	926	一括	080205
				B20	-	上腕骨	m	L	1		2719	642	一括	080116
				C1	-	肋骨板	fr	?	1		4332	656	一括	080117
				D20	-	椎骨板		-	1		2476	956	一括	080305
				P15	-	甲板	fr	?	+		2519	852	一括	080123
					-	甲板	fr	?	+		2521	836	一括	080122
-	甲板				fr	?	+		2904	540	195	080123		
P16	-			腹甲板	fr	?	+		2515	1236	一括	080208		
	-			腹甲板	fr	?	+		1684	792	一括	080121		
	-			甲板	fr	?	+		2513	971	一括	080130		
Q15	-			甲板	fr	?	+		1740	897	一括	0802??		
R13	-			腹甲板	fr	?	+		2627	983	264	080207		
	-			腹甲板	fr	?	+		2631	1234	281	080220		
	-			甲板	fr	?	+		2638	594	283	080220		
	-			甲板	fr	?	+		1746	2313	一括	080121		
R15	-			甲板	fr	?	+		1767	762	一括	080117		
R16	-			上腕骨	m	L	1		2608	627	一括	080121		
	-			背甲板	fr	?	+		2605	1245	一括	080122		
R17	-			腹甲板	fr	?	+		2508	911	一括	080121		
	土器集中			甲板	fr	?	+		2466	866	-	080213		
S12	-			四肢骨	m	?	1		2469	923	一括	不明		
	-			肋骨板	fr	?	1		2621	746	247	080207		
	-			縁甲板		?	2		2617	957	237	080207		
	-			背甲板	fr	?	+		2616	1247	240	080207		
	-			腹甲板	fr	?	+		2634	671	257	080207		
	-			甲板	fr	?	+		2470	1248	一括	080319		
	-			甲板	fr	?	+		2468	686	-	080208		
	-			甲板	fr	?	+		2618	546	233	080207		
	-			甲板	fr	?	+		1914	777	一括	080122		
	-			甲板	fr	?	+		2632	885	230	080207		
	-			不明	fr	?	1		2635	639	227	080207		
	-			椎骨板		-	4		2629	1237	255	080207		
	-			背甲板	fr	?	+		2879	806	一括	080117		
	-			甲板	fr	?	+		2645	867	一括	080111		
S13	-			甲板	fr	?	+		2705	881	一括	080121		
	-			甲板	fr	?	+		2884	716	一括	080116		
S14	-			縁甲板		?	1		2703	579	一括	080109		
S17	-			上腕骨	m	L	1		2457	758	-	080220		
S18	-			四肢骨	m	?	1		2500	597	-	080204		
	-			甲板	fr	?	+		1770	2314	-	080225		
T13	-			尺骨	d	L	1		2856	942	27	080111		
T14	-			上腕骨	p-m	L	1		2895	1231	172	080123		
	-			大腿骨?	m	?	1		2859	747	36	080111		
	-			四肢骨?	m	?	1		2711	603	一括	080123		
	-			甲板	fr	?	+		2885	531	125	080122		
T18	-			甲板	fr	?	+		2650	624	一括	080117		
-	甲板			fr	?	+		2224	837	-	-			
C15	-			肋骨板	fr	?	1		1486	539	9	080806		
	-			肋骨板	fr	?	1		1466	1235	8	080806		
	-			甲板	fr	?	+		1480	791	10	080806		
	-			甲板	fr	?	+		914	602	一括	080805		
D13	-			縁甲板		?	1		1418	807	547	080929		
	-			肋骨板	fr	?	1		1424	657	527	080925		
S12	-	肋骨板	fr	L	1		1425	1229	528	080925				
	-	縁骨板		?	1		1407	968	556	081007				
												老成個体		

第105表-3. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照. 詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した.

層準	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置	左右	数	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付	
IV層	二地区	S12	-	甲板	fr	?	+		1420	702	519	080925	
		T11	-	歯骨		L	1	アオウミガメ	1455	972	395	080821	
		T12	-	後眼窩骨		L	1		945	620	-	080925	
			-	髌骨板		-	1		1404	1241	504	080924	
			-	肋骨板	fr	?	1		1422	672	526	080925	
			-	肋骨板	fr	?	1		1062	2036	474	080911	
			-	肋骨板	fr	?	1		1062	2037	474	080911	
			-	肋骨板	fr	?	1		1062	2038	474	080911	
			-	肋骨板	fr	?	1		1062	2039	474	080911	
			-	肋骨板	fr	?	1		1062	2041	474	080911	
			-	肋骨板	fr	?	1		1062	2042	474	080911	
			-	縁骨板		?	1		977	650	一括	080911	
			-	縁甲板		?	1		1404	1242	504	080924	
			-	背甲板	fr	?	+		1060	574	473	080911	
			-	甲板	fr	?	+		888	732	-	080925	
		-	不明	fr	?	+		992	782	一括	080822		
		T13	-	肋骨板	fr	?	1		1423	1230	535	080925	
		-	甲板	fr	?	+		1415	531	531	080925		
		八地区	K12	-	橈骨	m	L	1		740	650		120614
			N9	-	甲板	fr	?	+		815	729		120611
				-	甲板	fr	?	+		821	682		120608
			N10	SP14	甲板	fr	?	+		690	763		120619
				-	縁骨板		?	1		915	871		120622
			O8	-	橈骨	m	R	1		807	926		120723
				-	尺骨	m	L	1		805	923		120705
				-	髌骨板		-	1		844	1221		120705
				-	肋骨板	p	?	1		844	938		120705
				-	縁骨板		?	1		844	875		120705
				-	縁骨板		?	1		805	874		120705
				-	縁骨板		?	1		844	869		120705
	-			縁骨板		?	1		807	862		120723	
	-			甲板	fr	?	+		844	749		120705	
	-			甲板	fr	?	+		802	1255		120611	
	A1レンヂ		-	甲板	fr	?	+		844	1258		120705	
			-	甲板	fr	?	+		850	745		120706	
			-	前烏口骨	m	L	1		847	585		120711	
			-	椎骨板(最後尾)		-	1	老成個体	847	716		120711	
			-	肋骨板	p	?	1		847	711		120711	
		IV層	N14	-	甲板	fr	?	+		588	675		120705
			O12	-	甲板	fr	?	+		488	1257		120615
			O13	-	甲板	fr	?	+		419	741		120616
			P11	-	上腕骨	m	R	1		533	628		120705
			Q10	-	甲板	fr	?	+		407	728		120723
	-			不明	fr	?	+		640	980		120711	
	Q11		-	指骨		?	1		594	971		120706	
			-	四肢骨	m	?	1		639	647		120621	
			-	肋骨板	<p>	?	1		522	709		120622	
			-	縁骨板		?	1		594	597		120706	
			-	甲板	fr	?	+		582	735		120705	
			-	甲板	fr	?	+		410	746		120705	
			-	甲板	fr	?	+		522	1245		120622	
			-	甲板	fr	?	+		166	1248		120706	
			-	不明	fr	?	+		174	976		120706	
			-	上腕骨	m	R	1		494	641		120705	
	Q12		-	指骨		?	1		494	969		120705	
			-	四肢骨	m	?	1		504	648		120623	
			-	肋骨板	<d>	?	1		172	582		120706	
			-	甲板	fr	?	+		1572	1256		120615	
		-	甲板	fr	?	+		172	1253		120706		
	Q13	-	甲板	fr	?	+		510	733		120623		
		-	前烏口骨	m	R	1		618	584		120718		
	R10	-	烏口-肩甲骨			1		618	584		120718		
		-	四肢骨?	m	?	1		608	409		120724		
		-	四肢骨	m	?	1		617	645		120723		
		-	甲板	fr	?	+		609	1263		120725		
	R11	SP25	椎骨板(最後尾)		-	1		1059	972		120704		
		-	鼻骨		L+R	1		620	975		120705		
		-	前頭骨?		L?	1		543	600		120725		
		-	上腕骨	m	R	1		620	626		120705		
		-	橈骨	m	L	1		543	649		120725		
		-	橈骨	m	R	1	おそらく別個体	543	649		120725		
		-	橈骨	m	R	1		547	924		120723		
		-	指骨		?	1		620	970		120705		
		-	四肢骨	m	?	1		543	1034		120725		
		-	四肢骨	m	?	1		612	1033		120616		
		-	四肢骨	m	?	1		626	646		120628		
		-	肋骨板	<p>	?	1		602	717		120718		
		-	肋骨板	<d>	?	1		625	591		120706		
		-	縁骨板		?	1		625	932		120706		
		-	縁骨板		?	1		564	595		120725		
	-	縁骨板		?	1		604	867		120706			
	-	縁骨板		?	1		624	865		120621			

第105表-4. 伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原A遺跡から出土したウミガメ類遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照. 詳細な位置が不明の甲板破片および部位不明破片の出土数は+で示した.

層準	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置	左右	数	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
IV層		R11	-	縁骨板		?	1		601	859		120706		
			-	縁骨板		?	1		596	857		120711		
			-	腹甲板	fr	?	+		627	712		120705		
			-	甲板	fr	?	+		328	734		120725		
			-	甲板	fr	?	+		596	1249		120711		
			-	甲板	fr	?	+		620	1262		120705		
			-	不明	fr	?	+		624	981		120621		
		R12	-	前烏口骨	m	L	1		544	974		120705		
			-	前烏口骨	m	L	+		544	974		120705		
			-	尺骨	m	L	1		545	639		120621		
			-	四肢骨	m	?	1		545	933		120621		
			-	縁骨板		?	1		545	1214		120621		
			-	縁骨板		?	1		544	599		120705		
			-	剣状腹板?	m	?	1		539	642		120625		
			-	甲板	fr	?	+		542	738		120706		
			-	不明	fr	?	+		539	977		120625		
			-	不明	fr	?	+		544	979		120705		
			S10	-	甲板	fr	?	+		565	740		120718	
			-	甲板	fr	?	+		570	687		120723		
			S11	-	縁骨板		?	1		564	872		120725	
		-	甲板	fr	?	+		572	724		120718			
		-	甲板	fr	?	+		571	731		120711			
		T10	-	甲板	fr	?	+		516	743		120614		
		-	甲板	fr	?	+		552	686		120712			
		T11	-	甲板	fr	?	+		554	1247		120723		
		V層	H19	D1	-	鳥口-肩甲骨		?	1		4205	2030	一括	080305
				-	指骨		?	1		4205	2015	一括	080305	
				-	椎骨板		-	1		3003	549	312	080225	
				-	肋骨板	fr	?	1		3010	541	311	080225	
				-	肋骨板	fr	?	1		2914	544	321	080225	
				-	肋骨板	fr	?	1		3011	1238	317	080225	
				-	肋骨板	fr	?	1		3008	851	314	080225	
				-	肋骨板	fr	?	1		3002	1244	318	080225	
-	肋骨板			fr	?	1		2915	821	310	080225			
-	肋骨板			fr	?	1		2916	641	322	080225			
-	肋骨板			fr	?	1		2918	626	309	080225			
-	肋骨板			fr	?	1		3012	1243	313	080225			
-	背甲板			fr	?	+		3009	611	319	080225			
-	甲板			fr	?	+		3006	882	320	080225			
-	甲板			fr	?	+		3007	534	316	080225			
-	甲板			fr	?	+		3004	687	315	080225			
S12	-			縁甲板		?	1		2596	731	535	080317		
-	腹甲板			fr	?	+		2787	543	525	080317			
S13	-			肋骨板-縁骨板		L	1		3416	1228	359	不明		
-	甲板			fr	?	+		2643	1001	一括	080313			
S18	-	甲板	fr	?	+		2493	519	一括	080327				
T16	-	背甲板	fr	?	+		2912	1240	307	080225				
T20	-	甲板	fr	?	+		2777	896	1459	080325				
VI層	ニ地区	-	-	甲板	fr	?	+		849	1246		120730		
不明	H19	P1	-	甲板	fr	?	+		不明	564	不明	不明		
		-	-	上腕骨	<p>-<d>	R	1		SD42mm	不明	1232	-	-	
口地区・後期	K6	-	-	剣状腹板	p	L	1		不明	1220		不明		
		-	-	甲板	fr	?	+		1356	609	78	080926		
		-	-	甲板	fr	?	+		1357	941	79	080926		
口地区・泥炭	K6	-	-	甲板	fr	?	+		1358	776	80	080926		
		-	-	肋骨板	fr	?	1		1370	542	127	081001		
		-	-	甲板	fr	?	+		1372	701	一括	080930		

第106表 伊礼原遺跡（国指定外）から出土したリクガメ類遺体.

層準	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置	左右	数	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付
I層	H19	-	-	上腹板		R	1		2872	570	一括	-
II層	ニ地区	L11	-	不明		?	1		739	1158		120607
III層	イ地区	C11	-	縁骨板		?	1		993	2010	一括	080819
		M14	-	中腹板		L	1		405	294		120608
IV層	ハ地区	Q11	SP41	肋骨板	fr	?	1		1069	1155		120626
		T18	-	下腹板		L	1		2650	606	一括	080117
	T19	-	腹甲板	fr	?	1		1944	621	一括	080117	
	ニ地区	T13	-	肋骨板	fr	?	1		1415	618	531	080925
		N9	SP37	腹甲板	fr	?	1		748	1154		120625
		-	-	縁骨板		?	1		3895	1157		120615
		O8	-	椎骨板（最後尾）		-	1		1480	456		120630
	ハ地区	P9	-	腹甲板	fr	?	1		925	1159		120706
		R11	-	中腹板/下腹板		?	1		627	1152		120705
		-	-	剣状腹板		L	1		627	1156		120705
-		-	剣状腹板		R	1		596	611		120711	
V層	H19	A19	-	上腹板		R	1		3032	986	1312	080324
		A20	-	下腹板		R	1		2562	585	一括	080321
不明	H19	不明	-	縁骨板		?	1		不明	555	不明	不明

第107表-1. 伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原A遺跡から出土したイヌ遺体。
* 残存位置凡例は第109・110表を参照。

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	残存位置*	左右	数	計測 (mm)	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付			
II層	H19	Q17	-	イヌ	脛骨	m	R	1	SD11		2506	1221	一括	080121			
		S17	-	イヌ	下顎M1		L	1			2924	1027	-	080221			
III層	イ地区	-	SD06	イヌ	上顎骨	[P4 M1]	L	1			430	1305	-	080222			
		R13	P3	イヌ	橈骨	m		R	1			4333	1040	-	080208		
			P12	イヌ	脛骨	m-d		L	1			4342	600	-	80212		
		S14	P29	イヌ	大腿骨	(p-)-m		R	1	SD7		4218	2057	-	080221		
				イヌ	脛骨	m-(d-)		R	1	SD6	幼獣	4218	2060	-	080221		
		A11	-	イヌ	第4中足骨	w		L	1			1013	2082	一括	080822		
			A12	-	イヌ	軸椎			-	1		995	2062	一括	080814		
		B11	P26	イヌ	上腕骨	<p->-d		L	1	SD10		2320	1303	-	080922		
			-	イヌ?	大腿骨?	m		R?	1			1440	1137	347	080821		
			-	イヌ	脛骨	m-d		R	1	SD8		1101	2088	309	080820		
		C9	P23	イヌ	尺骨	p-m		R	1			2318	222	-	080924		
			P18	イヌ?	大腿骨?	m		L?	1			2289	1134	-	080922		
		C11	P22	イヌ	基節骨			R	1			2334	1131	-	080924		
			P23	イヌ	橈骨	m-d		R	1			2339	1039	-	080828		
			P24	イヌ	第5中手骨	p		R	1			2332	1133	-	080924		
			P6	イヌ	第4中足骨	w		L	1			2099	2083	-	080922		
		C12	P12	イヌ	第4中足骨	w		L	1			2132	2075	-	080922		
			P24	イヌ	環椎			-	1			2131	2029	-	080912		
			P27	イヌ	第5中手骨	p-m		R	1			2133	2084	-	080912		
			P35	イヌ	頸椎			-	1			2095	2023	-	080908		
			-	イヌ	下顎骨	[P3x P4x M1x]		L	1			1000	2108	一括	080811		
			イヌ	第4中足骨	w		L	1			952	2074	一括	080921			
		C13	P2	イヌ	軸椎			-	1			2118	2019	-	080910		
		T12	-	イヌ	寛骨			L	1			1091	2067	296	080820		
		ニ地区	Q6	SP7	イヌ	上顎骨	[P4x M1]		L	1		782	967	-	120719		
				SP17	イヌ	寛骨(座骨)	臼		R	1		839	1171	-	120718		
		III層	ハ地区	013	SP15	イヌ	下顎骨	[P1x P2x P3x P4x M1 M2x M3x]	L	1	MIL17.8		956	1167	-	120629	
					SP17	イヌ	大腿骨	p-<d->		R	1	SD10	カットマーク	959	1173	-	120629
				P15	-	イヌ	下顎骨	[M2x M3x 下顎角-筋突起]		L	1		479	1162	-	120614	
				Q11	-	イヌ	寛骨(腸骨)	臼		L	1			411	1172	-	120614
					SP42	イヌ	脛骨	m-(d-)		R	1	SD7		986	1025	-	120626
					イヌ	頬骨			L	1			495	1179	-	120702	
					イヌ	側頭骨	fr		?	1			495	1174	-	120702	
					イヌ	頸椎	棘突起		-	2			495	1178	-	120702	
					イヌ	腰椎			-	2			495	1177	-	120702	
					イヌ	尾椎			-	1			495	1175	-	120702	
					イヌ	椎骨			-	2			495	1176	-	120702	
					イヌ	肩甲骨	d		L	1			495	1191	-	120702	
					イヌ	尺骨	p		R	1			495	1190	-	120702	
					イヌ	尺骨	m		R	1			495	1189	-	120702	
					イヌ	上腕骨	d		R	1			495	1187	-	120702	
					イヌ	上腕骨	<d->		R	1	SD12			495	1200	-	120702
					イヌ	橈骨	p		L	1				499	365	-	120615
					イヌ	第2中手骨	w		L	1				495	1203	-	120702
					イヌ	第2中手骨	w		R	1				519	1210	-	120611
					イヌ	第3中手骨	w		L	1				495	1202	-	120702
					イヌ	第4中手骨	w		L	1				495	1207	-	120702
					イヌ	第4中手骨	w		R	1				495	513	-	120702
					イヌ	第5中手骨	w		L	1				495	514	-	120702
					イヌ	第5中手骨	w		R	1				495	516	-	120702
					イヌ	寛骨	臼		L	1				495	1186	-	120702
					イヌ	寛骨	臼		R	1				495	1201	-	120702
					イヌ	大腿骨	m		L	1	SD11			495	1196	-	120702
					イヌ	大腿骨	(p-)-m		L	1	SD9			526	1024	-	120611
					イヌ	大腿骨	p		R	1				495	1197	-	120702
					イヌ	脛骨	<p->-m		R	1	SD10			519	615	-	120611
					イヌ	脛骨	p		?	1				495	1198	-	120702
					イヌ	距骨			L	1				495	1206	-	120702
					イヌ	距骨			L	1				499	367	-	120615
					イヌ	踵骨			L	1				495	1199	-	120702
					イヌ	踵骨			R	1				495	1205	-	120702
					イヌ	第2中足骨	w		R	1				519	1209	-	120611
					イヌ	第3中足骨	p		L	1				495	515	-	120702
					イヌ	第3中足骨	<p->-d		R	1				519	1212	-	120611
					イヌ	第4中足骨	p		L	1				495	512	-	120702
					イヌ	手根/足根骨			?	8				495	1195	-	120702
					イヌ	中手/中足骨	d		?	2				495	511	-	120702
					イヌ	中手/中足骨	d		?	1				519	1208	-	120611
					イヌ	基節骨	w		?	12				495	1192	-	120702
					イヌ	中節骨	w		?	3				495	1194	-	120702
					イヌ	末節骨	w		?	2				495	1193	-	120702
					イヌ	肋骨			?	1				495	1204	-	120702
					イヌ?	肋骨	m		?	3				499	1036	-	120615

第107表-2. 伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原A遺跡から出土したイヌ遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照.

層準	地区	グリット*	遺構	種類	部位	残存位置*	左右	数	計測 (mm)	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付			
IV層	イ地区	Q12	-	イヌ?	基節骨?		?	1			499	1035	-	120615			
		R11	SP13	-	イヌ?	大腿骨	m	?	1	SD12		1080	594	-	120703		
			-	-	イヌ?	上腕骨	m		?	1	SD9		611	590	-	120614	
		R12	P5	-	イヌ	橈骨	d		R	1	SD8		1046	1168	-	120704	
			SX01	イヌ	-	イヌ	頸椎	棘突起		-	1		1065	998	-	120626	
				イヌ	-	イヌ	胸椎			-	1		1065	997	-	120626	
				イヌ	-	イヌ	胸椎			-	1		1065	1000	-	120626	
				イヌ	-	イヌ	腰椎			-	3		1065	999	-	120626	
				イヌ	-	イヌ	上腕骨	<p->-m		L	1	SD11		1065	1181	-	120626
				イヌ	-	イヌ	上腕骨	m		R	1	SD10		1065	1180	-	120626
				イヌ	-	イヌ	尺骨	p-m		R	1			1065	1182	-	120626
				イヌ	-	イヌ	大腿骨	d		L	1			1065	1183	-	120626
				イヌ	-	イヌ	踵骨			L	1			1065	1184	-	120626
		イヌ		-	イヌ	肋骨	m		?	1			1065	1185	-	120626	
		S8	SD10	-	イヌ	下顎骨	[P4 M1 M2x M3x]	L	1	M1L18. 3		563	1165	-	120718		
		S9	-	-	イヌ	下顎骨	[P1x P2x P3 P4 M1 M2 M3]	L	1	M1L18. 5		685	1163	-	120615		
			-	-	イヌ	脛骨	(d-)		L	1			566	1026	-	120615	
			-	-	イヌ?	大腿骨	m		?	1	SD10		566	593	-	120615	
IV層	イ地区	C10	-	イヌ	上顎骨	[I1 I2 I3 C]	L+R	1			994	2097	一括	081010			
		-	-	イヌ	側頭骨	岩様部		?	1			994	2097	一括	081010		
		不明	-	イヌ?	肋骨	p		?	1			1362	128	-	081010		
	H19	R16	-	イヌ	軸椎			-	1			2599	1306	一括	080304		
		R18	-	イヌ	尺骨	p		L	1			2674	223	一括	080304		
		S16	-	イヌ	上顎M1			L	1			2692	1307	一括	080118		
		S18	-	イヌ?	大腿骨?	m		R?	1			2489	1138	-	080221		
		T14	-	イヌ	下顎骨	[I1-P2x]		L	1			2585	1034	一括	080130		
	イ地区	B11	-	イヌ	下顎M1			R	1			986	2086	一括	080821		
		C12	-	イヌ	橈骨	(d-)		R	1		若獣	909	2069	一括	080813		
	ハ地区	Q11	-	イヌ	橈骨	m		?	1	SD12		410	364	-	120705		
		S10	-	イヌ	下顎骨	[dm1x dm2x dm3]		L	1		幼獣	568	1161	-	120723		
	ニ地区	N9	-	イヌ	上腕骨	<p->-m		R	1	SD10		824	592	-	120615		
		Q6	-	イヌ	下顎骨	[P3 P4 M1 M2x M3x 下顎角]		R	1	M1L18. 7		310	1164	-	120724		
	V層	イ地区	A19	-	イヌ	上顎骨	[P3 P4]		L	1		他に頭骨破片多数	2836	1301	1269	080321	
				-	イヌ	上腕骨	<d->		R	1			2748	1132	一括	080318	
				-	イヌ	大腿骨	p		L	1			2841	591	1268	080310	
			A20	-	イヌ	下顎骨	[Cx P1x P2 P3x P 4M1x M2x M3x]		L	1			3033	1028	1332	080324	
-				イヌ	下顎骨	[I1-I3x C P1-M1x 関節突起]		R	1			2781	1033	1474	080326		
-				イヌ	脛骨	m		L	1	SD9		2562	678	一括	080321		
B19			-	イヌ	下顎骨	[C-M3x]		L	1			2837	1030	1267	080310		
B20			-	イヌ	大腿骨	<p->		R	1	SD9		2725	1036	一括	080325		
			-	イヌ	脛骨	m		R	1			2782	1135	1475	080326		
P16			-	イヌ	下顎骨	[C P1x P2 P3 P4 M1]		L	1			2510	1302	一括	080305		
R17			-	イヌ?	大腿骨?	m		R?	1			2610	1136	一括	080324		
表探			イ地区	-	-	イヌ	肩甲骨	p		R	1		1362	172	-	081016	
不明			不明	-	-	イヌ	胸椎			-	1		不明	996	-	不明	
				-	-	イヌ	大腿骨	<p->		L	1		不明	1021	-	不明	
口地区・後期			口地区・泥炭	K7	-	イヌ	脛骨	p-m		L	1	SD8	1393	1157	31	080903	
				L7	-	イヌ	下顎骨	[I1-P2x P3 P4 M1x]		L	1		1391	1029	9	080903	
口地区・泥炭			K6	-	イヌ	尺骨	p-m		L	1		1375	1035	一括	080904		

第108表 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した鳥類・ネズミ・ネコ・ヤギ遺体.

* 残存位置凡例第109・110表を参照.

種類	層準	地区	グリット*	遺構	取上 番号	部位	残存位置*	左右	備考	台帳 番号	資料 番号	日付
ニワトリ	III層	イ地区	B12	P24	-	脛骨	p	R		2309	1143	080924
			C11	P24	-	大腿骨	d	R		2332	1141	080924
		ニ地区	L11	SP16		大腿骨	m-d	R	SD7mm	709	569	120623
鳥類（同定不可）	III層	イ地区	C11	P24	-	四肢骨	m	?		2336	596	080828
	不明	H19	不明	不明	不明	四肢骨	m	?		不明	1140	不明
ネズミ科	III層	イ地区	B11		307	大腿骨	p-(d-)	R		1986	545	080820
	V層	ニ地区	A10nチ			上腕骨	m	?		852	457	120706
ネコ	III層	イ地区	B12	P3	-	上腕骨	<d->	R		2313	582	080912
			C11	P24	-	脛骨	m	R		2332	1142	080924
		ハ地区	O13			尺骨	p-m	L		415	1170	120611
ヤギ	II層	イ地区	C9			臼歯	fr	?		907	2236	080807
	IV層	H19	T14		270	下顎骨	[dm2x dm3 dm4]	L	同一個体	2633	1220	080220
鳥/哺乳類（保留）	II層	H19	Q16			下顎骨	[dm2x dm3 dm4]	R		2633	847	080220
						四肢骨	<p->-<d->	?	骨髄まで海綿質で充填される。病変？	2679	516	080121

第109表-1. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層	地区	グッド	遺構	種類	部位	残存位置 *1	左右	数	SD (mm)	備考 *2	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
I層	H19	-	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1			2873	233	一括	-		
		-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d>	R	1	14			2872	277	一括	-	
		-	-	イノシシ/ブタ	大腿骨	m	R	1				2873	171	一括	-	
		-	-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1				2874	486	-	-	
II層	H19	-	-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1			2872	499	一括	-		
		A18	-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1			2753	445	一括	080111		
		B17	-	イノシシ/ブタ	第4中手骨	p	R	1				2267	2138	一括	080110	
		C16	-	イノシシ/ブタ	距骨		R	1				3129	208	-	080109	
		Q17	-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				2509	429	一括	080121
			-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	<p>-<d>	R	1	15			2509	106	一括	080121
			-	-	イノシシ/ブタ	距骨		R	1				2506	203	一括	080121
			-	-	イノシシ/ブタ	後頭骨	後頭顆	-	1				2532	2129	一括	080117
		R14	-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d>	R	1				2532	2135	一括	080117
			-	-	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p	R	1				2532	2168	一括	080117
		S12	-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	<p>-m	R	1	14			2473	105	-	080212
		S14	-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				3000	413	-	080207
	-		-	イノシシ/ブタ	寛骨	臼	R	1				3001	706	-	080207	
	S15	SD02	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d>	L	1	8			2649	1144	-	080214	
		-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				2649	426	-	080214	
	S16	SD03	-	イノシシ/ブタ	橈骨	p	R	1			焼	2922	1017	-	-	
		-	-	イノシシ/ブタ	距骨		R	1			焼	2922	663	-	-	
	S17	-	-	イノシシ/ブタ	後頭骨	後頭顆R	-	1			焼	2024	681	-	080221	
		-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	d	R	1				2924	670	-	080221	
	T13	-	-	イノシシ/ブタ	中手/中足骨	d	?	1				2829	527	-	080207	
	-	-	-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				2224	263	-	-	
	イ地区	A11	-	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1				959	2308	一括	080813	
		B10	SK52	イノシシ/ブタ	第3中足骨	p-<d>	R	1				1433	2070	-	080912	
		B11	-	-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1				1473	500	69	080808
			-	-	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1				1125	2157	103	080811
		B12	-	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1				1120	2143	116	080811
			-	-	イノシシ/ブタ	寛骨(腸骨)	臼	L	1				1469	1308	47	080808
		C10	-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	<p>-<d>	L	1	12			1138	2171	190	080813
-			-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d>	L	1	14			1483	823	14	080806	
D13		-	-	イノシシ/ブタ	足根骨		?	1				742	1092	-	120607	
L11		-	-	イノシシ/ブタ?	肋骨	p	?	1				742	462	-	120607	
		-	-	イノシシ/ブタ?	肋骨	p	?	1				742	463	-	120607	
ニ地区		N10	SX01	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1				696	1016	-	120704	
	-	-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				934	431	-	120606		
	-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d>	L	1	13	SF		946	767	-	120604		
	-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	m	L	1				961	1089	-	120706		
A14	-	-	イノシシ/ブタ	基節骨		?	1				2752	565	一括	080109		
B18	P12	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1					4224	2112	-	080204		
C10	P11	イノシシ/ブタ	軸椎		-	1					2141	2098	-	-		
C17	P14	イノシシ/ブタ	尺骨	m	?	1					4203	2134	-	080130		
P15	SK17	イノシシ/ブタ	腓骨	m	?	1					2742	115	-	080310		
P17	P2	イノシシ/ブタ	大腿骨	<d>	L	1					4329	237	-	080214		
III層	H19	SK39	イノシシ/ブタ	中手/中足骨	p	?	1				2788	1283	-	080219		
		Q15	P6	イノシシ/ブタ	大腿骨	<d>	R	1				4208	95	-	080219	
			-	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1				2547	2144	一括	080122
			-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d>	L	1				2547	2148	一括	080122
			-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	m	L	1	8	幼獣		2547	2053	一括	080122
		R13	P2	イノシシ/ブタ	後頭骨		-	1					4344	1218	-	080212
			P14	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d>	L	1	9				4340	808	-	080208
			P27	イノシシ/ブタ	脛骨	<p>-m	R	1	14				4339	104	-	080212
			P30	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					4343	418	-	080213
			-	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1				2529	2149	一括	080117
			-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	<d>	L	1				2529	2192	一括	080117
		R14	-	-	イノシシ/ブタ?	踵骨		R	1				2528	2081	一括	080116
	-		-	イノシシ/ブタ?	肋骨	p	?	1				2529	2117	一括	080117	
	R15	P39	イノシシ/ブタ	後頭骨	後頭顆R	-	1					4293	1213	-	080212	
		P39	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d>	R	1	15				4293	280	-	080212	
	R16	P18	イノシシ/ブタ	脛骨	m-(d-)	L	1	7	幼獣			4263	2055	-	080225	
-		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d>	R	1				4346	507	一括	080121		
S13	-	-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1				4346	490	一括	080121		
	P6	イノシシ/ブタ	寛骨(腸骨)	臼	R	1					4345	742	-	080220		
	P24	イノシシ/ブタ	距骨		R	1					4243	2165	-	0803??		
	P25	イノシシ/ブタ	橈骨	p	L	1					4209	2307	-	080213		
	P42	イノシシ/ブタ	寛骨	臼	R	1					4244	2214	-	080219		
	P45	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p	R	1					4241	2167	-	080222		
	SK21	イノシシ/ブタ	環椎	fr	-	1					2743	1145	-	080213		
	P11	イノシシ/ブタ	脛骨	<d>	L	1	11				4219	2034	-	080219		
S14	P29	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1					4218	2091	-	080221		
	-	-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				3421	256	一括	080116		
	-	-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				3421	260	一括	080116		
	-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d>	R	1	11			3421	276	一括	080116		
S15	-	-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				2710	258	一括	080117		
	-	-	イノシシ/ブタ	橈骨	m	?	1				2710	1289	一括	080117		
	-	-	イノシシ/ブタ	第5中手骨	p-(d-)	L	1				2942	1288	一括	080111		

第109表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr 破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付							
Ⅲ層	イ地区	H19		S15	イノシシ/ブタ	踵骨		R	1			2942	164	一括	080111						
				S/T16/17	SD06	イノシシ/ブタ	橈骨	(d)	R	1			430	1018	-	080222					
				T14	-	イノシシ/ブタ	足根骨				1			2583	122	一括	080116				
				T16	P7	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体		-	1			4266	2044	-	080221				
				-	P3	イノシシ/ブタ	踵骨			R	1			4330	149	-	080212				
				-	P22	イノシシ/ブタ	大腿骨		<d->	R	1			4336	625	-	-				
		A11				P8	イノシシ/ブタ	脛骨	m-(d-)	R	1		焼	2104	2175	-	080925				
						-	イノシシ/ブタ	頭頂骨			-	1			1013	2275	一括	080822			
						-	イノシシ/ブタ	側頭骨			L	1			1013	2273	一括	080822			
						-	イノシシ/ブタ	脛骨	<p>-<d->	R	1	10			999	2152	一括	080822			
			A12				-	イノシシ/ブタ	橈骨	p-m	R	1	12		962	2212	一括	080821			
							-	イノシシ/ブタ	寛骨(腸骨)	fr	R	1			1436	84	380	-	-		
			B11				SK54	イノシシ/ブタ	頸椎		-	1			1431	2025	-	080924			
							P9	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体		-	1			2321	266	-	080912		
							P24	イノシシ/ブタ	距骨			L	1			2327	1227	-	080912		
							P26	イノシシ/ブタ	脛骨	(p)	L	1				2320	833	-	080922		
		P37					イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	15			2323	883	-	081003			
		-					イノシシ/ブタ	頭頂骨+左側頭骨+後頭骨			-	1			1441	189	346	-	080821		
		-					イノシシ/ブタ	環椎			-	1			956	2028	一括	080911			
		-					イノシシ/ブタ	仙椎			-	1			956	1009	一括	080911			
		-					イノシシ/ブタ	上腕骨	(p)	R	1				2321	788	-	080912			
		-					イノシシ/ブタ	橈骨	p-m	L	1	15			1071	2180	211	-	080814		
		B12				-	イノシシ/ブタ	尺骨	m	?	1			956	2113	一括	080911				
						-	イノシシ/ブタ	寛骨	臼	R	1			956	2176	一括	080911				
						-	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1			942	2102	一括	080819				
						P3	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1			2313	227	-	080912				
						P22	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1			2308	244	-	080828				
						-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1			920	2118	一括	080821				
						C9				P3	イノシシ/ブタ	環椎	fr	-	1			2303	249	-	080828
										P3	イノシシ/ブタ	環椎	fr	-	1			2303	251	-	080828
										P3	イノシシ/ブタ	基節骨		?	1			2301	505	-	080924
										-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1			906	2024	一括	080808
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	棘突起					-	1			906	2021	一括	080808				
		-	イノシシ/ブタ?	肋骨	m					?	1			906	2076	一括	080808				
		C11				P3	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	R	1	9		2297	285	-	080827				
						-	イノシシ/ブタ	大腿骨	(p)-<d->	L	1	13		2297	99	-	080827				
						P14	イノシシ/ブタ	上腕骨	(p-)	L	1			2295	201	-	080922				
						P21	イノシシ/ブタ	尺骨	p-m	L	1			2296	409	-	080924				
						P22	イノシシ/ブタ	橈骨	(p-)-m	R	1			2333	835	-	080828				
								踵骨		R	1			2334	160	-	080924				
						P23	イノシシ/ブタ	距骨		R	1			2335	211	-	080924				
						P24	イノシシ/ブタ	距骨		L	1			2332	216	-	080924				
								距骨		L	1			2332	215	-	080924				
								基節骨		?	1			2336	580	-	080828				
		P36	イノシシ/ブタ	側頭骨	関節結節	L	1			2337	1214	-	080922								
		P39	イノシシ/ブタ	環椎		-	1			2338	88	-	080924								
		-	イノシシ/ブタ	環椎		-	1			993	964	一括	080819								
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1			1140	2045	139	-	080812							
		-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1			993	2142	一括	080819								
		C12				-	イノシシ/ブタ	橈骨	p-(d-)	R	1	11		1438	790	329	080821				
						-	イノシシ/ブタ	橈骨	m	L	1	13		1147	2183	138	-	080812			
						-	イノシシ/ブタ	尺骨	p-(d-)	R	1			1438	218	329	-	080821			
						-	イノシシ/ブタ	膝蓋骨		?	1			1113	2033	146	-	080812			
						-	イノシシ/ブタ	脛骨	m	L	1			1449	112	322	-	080821			
						-	イノシシ/ブタ	踵骨		R	1			892	2035	一括	080811				
						-	イノシシ/ブタ	基節骨	(p-)-d	?	1			892	2071	一括	080811				
						-	イノシシ/ブタ	基節骨	w	?	1			993	2162	一括	080819				
						-	イノシシ/ブタ	後頭骨		-	1			2099	2293	-	080922				
						P6	イノシシ/ブタ	第5中手骨	p-<d->	R	1			2100	2051	-	080912				
		P17	イノシシ/ブタ?	椎骨	棘突起	-	1			2136	2020	-	080922								
				肋骨	p	?	1			2131	2026	-	080912								
		P24	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1			2131	2047	-	080912								
				頬骨		L	1			2134	2080	-	080919								
		P27	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1			2134	2093	-	080919								
				脛骨	m-<d->	R	1	8		1102	2027	-	080924								
		P34	イノシシ/ブタ	側頭骨	関節結節	L	1			1445	1197	-	080821								
		-	イノシシ/ブタ	頸椎		-	1			1000	994	一括	080811								
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1			952	2040	一括	080921								
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1			952	2052	一括	080921								
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	棘突起	-	1			1000	2018	一括	080811								
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	棘突起	-	1			952	2022	一括	080921								
		-	イノシシ/ブタ	第4中手骨	p-m	L	1			1000	2141	一括	080811								
		-	イノシシ/ブタ	第3中足骨	p-(d-)	R	1			1000	2139	一括	080811								
		-	イノシシ/ブタ	基節骨	w	?	1			1000	2163	一括	080811								
		-	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1			952	2073	一括	080921								
		-	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1			952	2061	一括	080921								
		C13	P5	イノシシ/ブタ	胸椎	棘突起	-	1			2119	2096	-	080910							
				イノシシ/ブタ	大腿骨	<p>-<d->	R	1	12		2119	2046	-	080910							

第109表-3. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr 破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
I地区		C13	P14	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1			焼	2117	2100	-	080909	
		D12	P33	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				2128	2131	-	080910	
		D13	P10	イノシシ/ブタ	頭頂骨+後頭骨			-	1				2109	2206	-	080909
		D14	P28	イノシシ/ブタ	橈骨		m	L	1	12			2115	2182	-	080911
		D14	P2	イノシシ/ブタ	脛骨		m-d	R	1	13			2121	2150	-	080909
		D18	P9	ブタ?	肩甲骨		関節部	L	1			大型, CM	2122	2311	-	-
		T12	-	イノシシ/ブタ	椎骨		椎体	-	1				1070	2043	292	080820
		K11	SP2・3	イノシシ/ブタ	第5中手骨		p	L	1				710	1028	-	120618
			SP4	イノシシ/ブタ	橈骨		p	R	1				711	953	-	120618
		K12	SP2	イノシシ/ブタ	頬骨			L	1				713	337	-	120618
-	イノシシ/ブタ		後頭骨		後頭顆L	-	1				1387	1106	-	120607		
-	イノシシ/ブタ		上腕骨		m-d	L	1	12			878	764	-	120626		
-	イノシシ/ブタ		上腕骨		<d->	L	1				878	898	-	120626		
-	イノシシ/ブタ		橈骨		(p)-m	R	1			幼獣	762	366	-	120607		
-	イノシシ/ブタ		脛骨		d	R	1				738	1226	-	120608		
-	イノシシ/ブタ		中手/中足骨		d	?	1				762	1041	-	120607		
-	イノシシ/ブタ		基節骨			?	1				878	373	-	120626		
L11	-	イノシシ/ブタ	基節骨			?	1				738	374	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	上腕骨		<d->	L	1			SF	808	808	-	120626		
	-	イノシシ/ブタ	膝蓋骨				1				855	1134	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	距骨			R	1				808	629	-	120626		
L12	-	イノシシ/ブタ?	肋骨		p	?	1				855	460	-	120608		
	SP3	イノシシ/ブタ	踵骨			L	1			幼獣	714	568	-	120618		
	-	イノシシ/ブタ	椎骨		椎体	-	1				809	1055	-	120612		
M9	-	イノシシ/ブタ	大腿骨		(p)	?	1				809	786	-	120612		
	-	イノシシ/ブタ	脛骨		m	R	1	13			842	1230	-	120607		
M10	SK01	イノシシ/ブタ	肩甲骨		関節部	L	1				716	1018	-	120628		
	SK03	イノシシ/ブタ	前頭骨			L	1				772	1085	-	120626		
		イノシシ/ブタ	胸椎		棘突起	-	1				772	441	-	120626		
		イノシシ/ブタ	大腿骨		<p->-<d->	R	1	13			772	784	-	120626		
	SP8	イノシシ/ブタ	脛骨		<p->-<d->	R	1	9			772	1228	-	120626		
		イノシシ/ブタ	橈骨		d	L	1				719	797	-	120618		
	SP1・2	イノシシ/ブタ?	肋骨		p	?	1				717	459	-	120623		
	SP13	イノシシ/ブタ	肩甲骨		関節部	R	1				757	1268	-	120618		
	SP17	イノシシ/ブタ	上腕骨		m-<d->	R	1	12				657	755	-	120625	
		イノシシ/ブタ	上腕骨		<d->	R	1			SF	657	763	-	120625		
		イノシシ/ブタ	大腿骨		d	R	1			焼	773	790	-	120619		
	SP19	イノシシ/ブタ	尺骨		p	R	1				751	951	-	120625		
	SP25	イノシシ/ブタ	大腿骨		(p)	?	1				768	785	-	120625		
	-	イノシシ/ブタ	椎骨		椎体	-	1				845	428	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨		関節部	L	1				783	1017	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨		fr	?	1				783	1003	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	尺骨		p	L	1			焼	845	781	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	尺骨		p	L	1				845	826	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	尺骨		m	R	1				846	783	-	120608		
	-	イノシシ/ブタ	寛骨(腸骨)		fr	L	1				846	543	-	120608		
-	イノシシ/ブタ	脛骨		p	R	1			焼	846	577	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	脛骨		d	L	1			焼	846	1238	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	踵骨			R	1				774	912	-	120607			
-	イノシシ/ブタ	第2中足骨		w	L	1				846	1032	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	中手/中足骨		d	?	1			焼	845	1040	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	四肢骨		m	?	1				846	399	-	120608			
M11	-	イノシシ/ブタ	上腕骨		m-<d->	L	1	14		SF	789	769	-	120608		
N9	SK03	イノシシ/ブタ	頬骨			R	1				777	336	-	120628		
		イノシシ/ブタ	環椎		fr	-	1				777	1108	-	120628		
		イノシシ/ブタ	肩甲骨		関節部	R	1				777	1269	-	120628		
	SP21・22	イノシシ/ブタ	寛骨(腸骨)		白	L	1				724	539	-	120628		
	SP32	イノシシ/ブタ	頸椎			-	1					747	383	-	120627	
		イノシシ/ブタ	上腕骨		(p)	?	1			焼	745	793	-	120623		
		イノシシ/ブタ	第4中足骨		p-(d-)	L	1				745	1030	-	120623		
	SP55	イノシシ/ブタ	脛骨		(d)	R	1				764	1229	-	120629		
	SP63	イノシシ/ブタ	尺骨		p	L	1				765	834	-	120702		
	-	イノシシ/ブタ	側頭骨		関節結節	L	1				873	1079	-	120619		
	-	イノシシ/ブタ	肩甲骨		関節部欠	L	1				791	1006	-	120607		
	-	イノシシ/ブタ	尺骨		m	L	1			焼	879	782	-	120618		
-	イノシシ/ブタ	大腿骨		m	L	1	13		SF	794	517	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	脛骨		p	R	1	15		SF	794	575	-	120608			
-	イノシシ/ブタ	中手/中足骨		(d-)	?	1			焼	793	1045	-	120608			
N10	SP27・28	イノシシ/ブタ	第3中手骨			R	1				707	421	-	120627		
	SP12	イノシシ/ブタ	前頭骨			L	1				687	1086	-	120628		
	SP13	イノシシ/ブタ	胸椎		棘突起	-	1				689	1054	-	120618		
	SP20	イノシシ/ブタ	尺骨		p	L	1				677	823	-	120625		
	SP31	イノシシ/ブタ	第4中手骨		p-<d->	R	1				681	420	-	120623		
	SP33	イノシシ/ブタ	第4中手骨		p	R	1				683	610	-	120703		
	-	イノシシ/ブタ	尺骨		p	L	1				837	837	-	120608		
O8	SP03	イノシシ/ブタ	胸椎			-	1				556	436	-	120703		
	SP03	イノシシ/ブタ	胸椎			-	1				556	436	-	120703		
O9	SK01	イノシシ/ブタ	側頭骨		関節結節	L	1				633	1080	-	120627		

第109表-4. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付	
Ⅲ層	二地区	O9	SX01	イノシシ/ブタ	橈骨	<p>-m	R	1	11		656	501	-	120703	
		P7	SP24	イノシシ/ブタ?	肋骨	p	?	1			665	461	-	120719	
		Q7	SP4	イノシシ/ブタ	第5中足骨	p-(d-)	R	1			760	572	-	120719	
			SP6	イノシシ/ブタ	腰椎	-	-	1			705	571	-	120703	
			SK01	イノシシ/ブタ	大腿骨	m	R	1	14		731	390	-	120718	
		-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1			SF	1061	757	-	120606
		-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p-m	R	1				1061	943	-	120606
		A9	SK04	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	13	CM		431	505	-	120717
		-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	15	SF		403	777	-	120608
		M14	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	d	L	1				403	403	-	120608
	-		イノシシ/ブタ	大腿骨	m	L	1	13	SF		405	1132	-	120608	
	-		イノシシ/ブタ	踵骨	-	L	1				403	906	-	120608	
	N13	SK01	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	R	1	12			911	752	-	120702	
		SP3	イノシシ/ブタ	中手/中足骨	(d-)	?	1			焼	906	1046	-	120627	
		-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	fr	?	1				646	1002	-	120611	
	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1			SF	465	760	-	120611		
	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1			SF	591	756	-	120607		
	N14	SP10	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	12	SF		995	771	-	120620	
		SP20	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1			焼	900	630	-	120620	
		SP25	イノシシ/ブタ	脛骨	m	R	1	11			904	1231	-	120606	
		-	イノシシ/ブタ	後頭骨	後頭顆R	-	1				460	1107	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	L	1				460	1019	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m	L	1	12			463	1023	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	橈骨	p	L	1				468	614	-	120607	
		-	イノシシ/ブタ	橈骨	p-m	R	1	13			463	964	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	脛骨	m	L	1	12			462	1224	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1				462	913	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1				464	911	-	120608	
		-	イノシシ/ブタ	四肢骨	m	?	1				463	394	-	120611	
		N15	SK01	イノシシ/ブタ	側頭骨	関節結節	L	1			焼	993	411	-	120608
	イノシシ/ブタ			側頭骨	岩様部	?	1			焼	993	412	-	120608	
	イノシシ/ブタ			上腕骨	<d->	L	1			SF	1040	805	-	120626	
	イノシシ/ブタ			尺骨	p	L	1			焼	990	942	-	120608	
	イノシシ/ブタ			中手/中足骨	d	?	1			焼	993	1039	-	120608	
	イノシシ/ブタ			基節骨	?	1				焼	993	371	-	120608	
	イノシシ/ブタ			基節骨	?	1					993	375	-	120608	
	イノシシ/ブタ		末節骨	?	1				焼	993	378	-	120608		
	-		イノシシ/ブタ	寛骨	臼	R	1				586	537	-	120607	
	-		イノシシ/ブタ	四肢骨	m	?	1				587	397	-	120607	
	八地区	013	SP6・7	イノシシ/ブタ	脛骨	m	?	1	11			890	497	-	120629
			SP9・10	イノシシ/ブタ	大腿骨	<d->	R	1		SF	962	787	-	120623	
			SP30	イノシシ/ブタ	環椎	fr	-	1			1031	1109	-	120702	
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				417	435	-	120614	
		-	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				416	430	-	120614	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	15		SF	416	778	-	120614	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1				486	508	-	120607	
		-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				416	946	-	120614	
		014	SP4	イノシシ/ブタ	脛骨	<p>-m	L	1	12			884	504	-	120620
			-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	fr	?	1				492	1004	-	120608
	015	-	イノシシ/ブタ	四肢骨	m	?	1				473	402	-	120608	
		SD06	イノシシ/ブタ	中節骨	w	?	1				933	990	-	120628	
	P11	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				476	838	-	120607	
		SP6	イノシシ/ブタ	胸椎	棘突起	-	1				944	442	-	120703	
		SP8	イノシシ/ブタ	橈骨	m	L	1	11			947	956	-	120703	
		イノシシ/ブタ	大腿骨	m	L	1	13				948	389	-	120629	
		SP17	イノシシ/ブタ	四肢骨	m	?	1				943	398	-	120702	
	P12	SP25	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1				1033	900	-	120702	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	13			481	896	-	120615	
		-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1				480	830	-	120615	
		-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部	R	1				579	1267	-	120612	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1			SF	579	758	-	120612	
	P13	-	イノシシ/ブタ	橈骨	m	?	1	11			579	1128	-	120612	
		-	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1				577	916	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	踵骨	-	R	1				579	919	-	120612	
	P14	SD77	イノシシ/ブタ	橈骨	p-m	L	1	15			896	957	-	120702	
	P15	SP2	イノシシ/ブタ	環椎	-	-	1				950	385	-	120625	
		-	イノシシ/ブタ	橈骨	pfr	L	1				479	500	-	120614	
	-	イノシシ/ブタ	距骨	-	L	1				479	636	-	120614		
	-	イノシシ/ブタ?	肋骨	p	?	1					479	464	-	120614	
	Q6	SK01	イノシシ/ブタ	第5中手骨	p-(d-)	R	1				912	1031	-	120719	
		SK01	イノシシ/ブタ	寛骨	臼	L	1				912	536	-	120719	
	Q7	SP3	イノシシ/ブタ	橈骨	(p)-<d->	L	1	11			703	502	-	120719	
	Q10	SP2・3	イノシシ/ブタ	橈骨	m	R	1	13			953	1130	-	120703	
		SK03	イノシシ/ブタ	橈骨	p	R	1				978	955	-	120703	
	Q11	イノシシ/ブタ	橈骨	m	?	1	12				977	1127	-	120627	
		イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1					893	729	-	120626	
		SP2	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1				893	729	-	120626	
	イノシシ/ブタ	大腿骨	<p->	L	1	14			SF	893	526	-	120626		

第109表-5. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリップ	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
Ⅲ層	ハ地区	Q11	SP6	イノシシ/ブタ	環椎	fr	-	1			焼	871	1056	-	120626	
			SP15	イノシシ/ブタ	尺骨	p	R	1				931	947	-	120626	
			SP44	イノシシ/ブタ	寛骨(恥骨)	白	R	1					969	601	-	120704
			-	イノシシ/ブタ	環椎	fr	-	1					411	1211	-	120614
			-	イノシシ/ブタ	肩甲骨	関節部欠	R	1					411	1011	-	120614
			-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					406	831	-	120614
			-	イノシシ/ブタ	大腿骨	<d->	R	1			SF		406	387	-	120614
			-	イノシシ/ブタ	脛骨	m	L	1	12				406	1223	-	120614
			SK03	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	R	1	12				1006	751	-	120626
			SK72	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1					1016	905	-	120626
			SP28	イノシシ/ブタ	脛骨	m-(d-)	R	1	13				972	573	-	120625
			-	イノシシ/ブタ	頸椎		-	1					498	380	-	120615
			-	イノシシ/ブタ	頸椎		-	1					603	1105	-	120615
			-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	10		SF		525	776	-	120611
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	L	1	12				521	897	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	L	1			SF		503	812	-	120616	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	L	1					498	899	-	120615	
		-	イノシシ/ブタ	上腕骨	d	L	1					525	774	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	橈骨	p	L	1					606	961	-	120615	
		-	イノシシ/ブタ	橈骨	m	?	1	13				605	1126	-	120615	
		-	イノシシ/ブタ	橈骨	m	R	1	16				526	1129	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	第3中手骨	p-(d-)	L	1					525	424	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	第4中手骨	p	L	1					526	423	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	脛骨	p	R	1			SF		526	574	-	120611	
		-	イノシシ/ブタ	脛骨	m	?	1	12				498	530	-	120615	
		-	イノシシ/ブタ	四肢骨	m	?	1					503	395	-	120616	
		Q13	SK72	イノシシ/ブタ	橈骨	p-m	L	1	14				1036	958	-	120625
			-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					1036	822	-	120625
			SP2	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1					1008	434	-	120625
			SP2・3	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					1009	820	-	120629
			SP21	イノシシ/ブタ	椎骨	椎体	-	1					1011	432	-	120625
		SP30	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1			SF		1019	762	-	120704	
		R9	-	イノシシ/ブタ	側頭骨	関節結節	R	1					607	930	-	120615
			-	イノシシ/ブタ	軸椎		-	1					623	381	-	120615
			-	イノシシ/ブタ	胸椎	棘突起	-	1					607	439	-	120615
			-	イノシシ/ブタ	上腕骨	m-<d->	R	1	11				607	754	-	120615
			-	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					607	1022	-	120615
		R10	-	イノシシ/ブタ	大腿骨	m-(d-)	L	1	14		SF		607	524	-	120615
			SP29	イノシシ/ブタ	尺骨	p	L	1					975	841	-	120712
			SP35	イノシシ/ブタ	踵骨		L	1					976	909	-	120702
		R11	SK01	イノシシ/ブタ	橈骨	p-m	L	1	12				1054	959	-	120704
			SP12	イノシシ/ブタ	脛骨	d	L	1	15				1079	1236	-	120704
			-	イノシシ/ブタ	末節骨		?	1				焼	625	377	-	120706
		R12	SX01	イノシシ/ブタ	上腕骨	m	L	1	12				1068	388	-	120704
			SX01(A)	イノシシ/ブタ	胸椎		-	1					1064	437	-	120702
			SP5	イノシシ/ブタ	腰椎		-	1					1046	1169	-	120704
			SP6	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1			SF		1041	759	-	120702
			-	イノシシ/ブタ	寛骨(座骨)	白	L	1					1041	1057	-	120702
			SP9	イノシシ/ブタ	大腿骨	<d->	R	1			SF		1081	789	-	120704
			SP17・18	イノシシ/ブタ	橈骨	m	R	1	15				1049	1131	-	120702
SP21	イノシシ/ブタ		上腕骨	<d->	L	1			SF		1044	902	-	120705		
SP49	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1					1086	509	-	120704			
S8	-	イノシシ/ブタ	前頭骨+頭頂骨		L+R	1					673	1143	-	120615		
	-	イノシシ/ブタ	大腿骨	<p->-m	L	1	11				673	525	-	120615		
S9	-	イノシシ/ブタ	膝蓋骨			1				CM	566	1135	-	120615		
	SK72	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	R	1				SF	456	761	-	12----		
S10	SP31	イノシシ/ブタ	側頭骨	鼓室部	?	1					452	1104	-	120717		
	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<p->-<d->	R	1	12				630	799	-	120724		
	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p-m	R	1					630	945	-	120724		
-	-	イノシシ/ブタ	脛骨	m	R	1	12				513	1234	-	120601		
不明	-	-	イノシシ/ブタ	寛骨(座骨)	白	L	1				2666	540	-	不明		
Ⅳ層	H19	A1	-	イノシシ	環椎		-	1			4331	241	一括	080117		
			-	イノシシ	脛骨	d	R	1			4080	2174	一括	080125		
		A13	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1			2842	1003	26	080111		
		A14	-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1				2846	552	24	080111	
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1				2903	425	169	080123	
		A15	-	イノシシ	上腕骨	<p->-<d->	R	1	12			2845	566	0001	080110	
		A19	-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1				2754	264	一括	080123	
			-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1				2893	651	121	080122	
			-	イノシシ	大腿骨	m	L	1				2755	166	一括	080117	
			-	イノシシ	脛骨	m	R	1	10				2755	118	一括	080117
			-	イノシシ	踵骨		L	1				2754	491	一括	080123	
			-	イノシシ	基節骨	?	?	1				2750	610	一括	080204	
			-	イノシシ	側頭骨		R	1				2861	1201	98	080122	
			-	イノシシ	後頭骨	後頭顆	-	1				2861	1201	98	080122	
		A20	-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1				1712	261	一括	080116	
			-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1				1712	261	一括	080116	
			-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1				1712	261	一括	080116	
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	L	1	11				2566	793	一括	080116

第109表-6. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr 破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ, (p-)・(d-)は骨端未癒合脱落, <p->・<d->は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリップ	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付
IV層	H19	A20	-	イノシシ	上腕骨	m-d	L	1			2863	895	95	080122
			-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1			2568	718	一括	080116
			-	イノシシ	上腕骨	d	L	1			2843	267	88	080122
			-	イノシシ	橈骨	p	L	1			2905	721	101	080122
			-	イノシシ	橈骨	p	R	1			2847	1020	90	080122
			-	イノシシ	橈骨	p	R	1			2571	1021	一括	080116
			-	イノシシ	橈骨	p-m	R	1			2573	985	-	080118
			-	イノシシ	橈骨	<p->	L	1			2566	643	一括	080116
			-	イノシシ	橈骨	<p->	R	1	12		2566	514	一括	080116
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1			2866	421	91	080122
			-	イノシシ	脛骨	d	L	1			2573	805	-	080118
			-	イノシシ	踵骨		R	1			2574	155	一括	080115
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	R	1	11		4233	2124	一括	080226
			-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1	11		4235	2137	一括	080117
			-	イノシシ	橈骨	m	?	1			4227	2304	一括	080124
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1			4227	2119	一括	080124
			-	イノシシ	尺骨	m	?	1			4227	2114	一括	080124
			-	イノシシ	寛骨	白	R	1			4226	2153	一括	080117
		-	イノシシ	脛骨	m	R	1	13		4230	2177	一括	080108	
		-	イノシシ	脛骨	m	R	1			4235	2178	一括	080117	
		-	イノシシ	脛骨	d	L	1			4235	2179	一括	080117	
		-	イノシシ	距骨		R	1			4233	2166	一括	080226	
		-	イノシシ	踵骨		R	1			4235	2050	一括	080117	
		-	イノシシ	踵骨		R	1			4235	2099	一括	080117	
		B15	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2739	925	-	080111	
		B16	-	イノシシ	後頭骨	後頭顆	-	1		2735	1295	一括	080205	
			-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1		2855	537	39	080111	
			-	イノシシ	脛骨	<p->m	L	1		2735	181	一括	080205	
		B17	-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1		2718	509	一括	080118	
		B18	-	イノシシ	尺骨	p	L	1		2713	454	一括	080116	
		B19	-	イノシシ	上腕骨	d	R	1		2715	523	一括	080117	
			-	イノシシ	橈骨	p-<d->	R	1		2722	538	一括	080117	
			-	イノシシ	橈骨	m	L	1	13	2724	524	一括	080119	
		B20	-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	L	1	17	2731	913	一括	080304	
			-	イノシシ	基節骨	?	1			2730	535	一括	080304	
		C1	-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		4332	940	一括	080117	
		C16	-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1		2765	246	-	080109	
			-	イノシシ	寛骨	白	L	1		2761	928	一括	080313	
			-	イノシシ	脛骨	<p->	R	1		2761	685	一括	080313	
		D19	-	イノシシ	橈骨	p	R	1		2478	646	一括	080118	
		P15	-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1		2519	442	一括	080123	
			-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2522	910	一括	080208	
			-	イノシシ	橈骨	p-<d->	R	1		1685	553	一括	080122	
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2520	424	一括	080122	
			-	イノシシ	脛骨	<p->-<d->	R	1	13	2522	730	一括	080208	
			-	イノシシ	踵骨		R	1		2520	162	一括	080122	
			-	イノシシ	足根骨			1		1685	1223	一括	080122	
		P16	-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1		2514	269	一括	080121	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1		2556	2170	一括	080122	
		Q15	-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	R	1	16	2892	279	160	080123	
			-	イノシシ	上腕骨	d	L	1		2551	2123	一括	080201	
			-	イノシシ	橈骨	p	R	1		2541	2185	一括	080305	
-	イノシシ		橈骨	<p->-<d->	L	1		2555	2184	一括	080212			
-	イノシシ		橈骨	m	R	1	15	2553	2215	一括	080304			
-	イノシシ		距骨		R	1		2549	2164	一括	080117			
-	イノシシ?		肋骨	m	?	1		2552	2111	一括	080122			
-	イノシシ?		肋骨	m	?	1		2552	2159	一括	080122			
-	イノシシ		上腕骨	<d->	L	1		2686	268	一括	080121			
-	イノシシ		尺骨	p	R	1		2681	475	-	080303			
Q16	-	イノシシ	寛骨(座骨)	白	R	1		2684	462	一括	080303			
	-	イノシシ	脛骨	<p->-<d->	L	1		2685	185	一括	080121			
	-	イノシシ	脛骨	<p->-<d->	R	1	13	2680	107	一括	080121			
	-	イノシシ	脛骨	m	L	1	12	2682	117	一括	080303			
	-	イノシシ	第4中足骨	p	L	1		2683	1285	一括	080121			
	-	イノシシ	基節骨	?	1			2683	193	一括	080121			
R12	-	イノシシ	第2中足骨	p	L	1		2888	1287	143	080122			
R13	-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1		2636	204	282	080220			
	-	イノシシ	上腕骨	m-d	R	1	15	2889	284	142	080122			
	-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1	10	2530	2155	一括	080204			
	-	イノシシ	踵骨		R	1		2540	2094	一括	080121			
R14	-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	R	1	12	2852	511	10	080110			
	-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1	7	2536	2136	一括	080116			
	-	イノシシ	橈骨	p	L	1		2531	2181	一括	080123			
	-	イノシシ	脛骨	<p->	R	1		2900	700	123	080122			
	-	イノシシ	踵骨		R	1		2531	2095	一括	080123			
	-	イノシシ	中節骨	?	1			1754	187	一括	080116			
R14	-	イノシシ?	肋骨	m	?	1		2531	2160	一括	080123			
R15	-	イノシシ	尺骨	p	R	1		2527	2132	一括	080117			

第109表-7. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外).

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr破片. (p)・(d)は未癒合の骨端のみ, (p-)・(d-)は骨端未癒合脱落, <p>・<d>は骨端のみ欠損.
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付		
IV層	H19	R15	-	イノシシ?	肋骨	p	?	1			2527	2117	一括	080117		
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	R	1				2848	510	4	080110	
		R16	-	イノシシ	橈骨	p	L	1				2603	850	一括	080121	
			-	イノシシ	大腿骨	m	L	1	12			2601	93	一括	080303	
			-	イノシシ	大腿骨	m	L	1				2860	167	-	080110	
			-	イノシシ	大腿骨	m-<d>	L	1	14			2844	236	6	080110	
			-	イノシシ	脛骨	<p>-<d>	L	1				2608	180	一括	080121	
			-	イノシシ	脛骨	m-<d>	R	1	9			2608	102	一括	080121	
			-	イノシシ	中節骨		?	1				2600	186	一括	080122	
		SD07	-	イノシシ	腓骨	m	?	1				4302	68	-	080214	
			-	イノシシ	橈骨	m	R	1	12			2602	530	一括	080130	
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1				2508	451	一括	080121	
			-	イノシシ	尺骨	pfr	R	1				2597	221	一括	080109	
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1				2597	422	一括	080109	
			-	イノシシ	脛骨	<p>-<d>	L	1	10			2508	501	一括	080121	
			-	イノシシ	脛骨	d	L	1			焼	2508	583	一括	080121	
			-	イノシシ	距骨		L	1				2508	214	一括	080121	
			-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1				2667	259	-	080221	
			-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1				2662	257	一括	080121	
		-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1				2786	243	一括	080122		
		R17	-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1				2674	658	一括	080304	
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1				2672	270	一括	080121	
			-	イノシシ	橈骨	p	R	1				2668	1022	一括	080304	
			-	イノシシ	橈骨	p	R	1				2663	1026	-	080221	
			-	イノシシ	橈骨	p-m	L	1	13			2667	1019	-	080221	
			-	イノシシ	橈骨	p-m	R	1				2668	1000	一括	080304	
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1				2668	420	一括	080304	
			-	イノシシ	尺骨	pfr	R	1				2668	220	一括	080304	
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1				2663	476	-	080221	
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1				2669	479	一括	080122	
			-	イノシシ	尺骨	p-m	L	1				3041	410	-	080313	
			R18	-	イノシシ	第2中手骨	p	L	1				2674	1286	一括	080304
				-	イノシシ	大腿骨	(p-)	?	2				2291	239	一括	080304
				-	イノシシ	脛骨	<p>-<d>	L	1				2664	183	-	080225
				-	イノシシ	脛骨	m	L	1				2668	636	一括	080304
				-	イノシシ	脛骨	m	L	1				2667	177	-	080221
				-	イノシシ	脛骨	d	L	1				2668	182	一括	080304
				-	イノシシ	腓骨	m	?	1				2673	116	-	080220
				-	イノシシ	腓骨	<d>	?	1				2676	111	-	080222
				-	イノシシ	踵骨		L	1				2667	485	-	080221
		-		イノシシ	踵骨		L	1				2009	446	一括	080122	
		-		イノシシ	踵骨		L	1				2670	488	-	080221	
		-		イノシシ	踵骨		R	1				2665	156	一括	080221	
		-		イノシシ	踵骨		R	1				2675	150	-	080220	
		-		イノシシ	踵骨		R	1				2673	153	-	080220	
		-		イノシシ	踵骨		R	1				2669	154	一括	080122	
		S12		-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	R	1	13			2624	275	273	080220
				-	イノシシ	橈骨	(p-)	R	1			焼	2471	820	一括	080121
				-	イノシシ	基節骨	?	?	1				2470	550	一括	080319
			-	イノシシ?	肋骨	p	?	1				2470	124	一括	080319	
		S13	-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1				2894	145	131	080122	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1				2880	205	一括	080116	
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	L	1				2890	778	129	080122	
			-	イノシシ	上腕骨	d	L	1				2890	988	129	080122	
			-	イノシシ	尺骨	pfr	L	1				2884	399	一括	080116	
			-	イノシシ	尺骨	pfr	R	1				2879	219	一括	080117	
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1				2879	427	一括	080117	
			-	イノシシ	大腿骨	m	L	1	13			2853	92	53	080117	
			-	イノシシ	大腿骨	m	R	1				2884	170	一括	080116	
			-	イノシシ	大腿骨	m-<d>	L	1	13			2883	235	一括	080121	
			-	イノシシ	大腿骨	d	R	1				2880	200	一括	080118	
			-	イノシシ	踵骨		L	1				2883	497	一括	080121	
		-	イノシシ	基節骨	?	?	1				2879	520	一括	080117		
		S14	-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	R	1	11			2688	273	一括	080201	
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1				1816	416	一括	080207	
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1				2876	419	一括	080307	
			-	イノシシ	大腿骨	m-<d>	R	1	15			2694	655	一括	080118	
		S15	-	イノシシ	脛骨	m-d	L	1	13			2688	1012	一括	080201	
			-	イノシシ	大腿骨	d	R	1				2640	97	222	080123	
		S16	-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1				2693	230	一括	080122	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1				2699	206	155	080122	
			-	イノシシ	距骨		R	1				2711	212	一括	080123	
			-	イノシシ	踵骨		L	1				2699	448	一括	080221	
			-	イノシシ	踵骨		L	1				2707	493	一括	080118	
			-	イノシシ	中手/中足骨	d	?	1				2693	1284	一括	080122	
		S17	-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1				2454	693	一括	080304	
			-	イノシシ	脛骨	<p>	L	1				2463	661	一括	080304	
			-	イノシシ	踵骨		L	1				2456	483	-	080220	

第109表-8. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr 破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付	
IV層	H19	S18	-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	R	1	12		2497	512	一括	080401	
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1			1773	763	-	08032?	
			-	イノシシ	橈骨	p	L	1			2496	865	一括	080201	
		S18	-	イノシシ	橈骨	p	R	1			2500	1024	一括	080204	
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1			2494	453	-	080220	
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1			2481	455	-	080225	
			-	イノシシ	尺骨	p-m	L	1			2494	407	-	080220	
			-	イノシシ	寛骨	臼	R	1			2560	466	-	080326	
			-	イノシシ	大腿骨	m	L	1			2496	168	一括	080201	
			-	イノシシ	大腿骨	m	L	1			2483	169	-	080225	
			-	イノシシ	踵骨		L	1			2483	450	-	080225	
			-	イノシシ	踵骨		L	1			2494	495	-	080220	
			-	イノシシ	足根骨			1			2494	120	-	080220	
			-	イノシシ	基節骨			?	1		2490	195	-	080225	
			-	イノシシ?	肋骨	p	?	1			2494	126	-	080220	
			-	イノシシ?	肋骨	p	?	1			2490	125	-	080225	
			T13	-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	L	1		11		2584	272	一括
		-		イノシシ	上腕骨	m-<d>	L	1			2582	838	一括	080118	
		T14	-	イノシシ	環椎	fr	-	1				2585	250	一括	080130
			-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1				2565	255	一括	080130
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1				2581	146	一括	080111
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1				2633	242	270	080220
			-	イノシシ	上腕骨	<p>-<d>	R	1		13		2585	581	一括	080130
			-	イノシシ	橈骨	m	R	1		13		2581	529	一括	080111
			-	イノシシ	尺骨	p-m	R	1			2594	461	一括	080111	
			-	イノシシ	尺骨	p-m	R	1			2581	458	一括	080111	
			-	イノシシ	脛骨	<p>-d	R	1			2581	745	一括	080111	
			-	イノシシ	脛骨	m-d	R	1			2592	127	一括	080111	
		T15	-	イノシシ	脛骨	d	R	1			2593	569	一括	080109	
			-	イノシシ	踵骨		L	1			2585	498	一括	080130	
		T16	-	イノシシ	脛骨	d	L	1			2655	110	一括	080201	
			-	イノシシ	中手/中足骨	p	?	1			2655	1281	一括	080201	
		T17	-	イノシシ	尺骨	p	L	1			2654	414	一括	080109	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1			2656	148	一括	080214	
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1			2652	688	一括	080121	
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	R	1			2652	536	一括	080121	
			-	イノシシ	脛骨	(p)	R	1			2651	100	一括	080121	
		T18	-	イノシシ	脛骨	<p>-m	R	1		8		2652	1226	一括	080121
			-	イノシシ	踵骨		L	1			2652	444	一括	080121	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1			2650	1310	一括	080117	
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	R	1			2650	551	一括	080117	
			-	イノシシ	尺骨	p-m	L	1			2650	408	一括	080117	
			-	イノシシ	脛骨	m	R	1		11		2650	715	一括	080117
			-	イノシシ	環椎		-	1			2797	1296	一括	080117	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1			2797	438	一括	080117	
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	R	1			2797	567	一括	080117	
			-	イノシシ	橈骨	m	L	1		11		2794	515	一括	080117
		T19	-	イノシシ	尺骨	p	L	1			2854	415	83	080122	
			-	イノシシ	寛骨(腸骨)	臼	L	1			2794	648	一括	080117	
			-	イノシシ	踵骨		L	1			1944	489	一括	080117	
			-	イノシシ	踵骨		R	1			2794	161	一括	080117	
			-	イノシシ	中手/中足骨	d	?	1			2794	526	一括	080117	
			-	イノシシ	基節骨		?	1			2797	192	一括	080117	
			-	イノシシ	側頭骨	関節結節	R	1			2799	1198	一括	080116	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1			2795	147	一括	080117	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1			2795	231	一括	080117	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1			2795	440	一括	080117	
		T20	-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1			2795	245	一括	080117	
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	L	1		14		2799	853	一括	080116
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1			2795	748	一括	080117	
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1			2795	703	一括	080117	
			-	イノシシ	上腕骨	d	L	1			1941	973	一括	080116	
			-	イノシシ	橈骨	p	L	1			2795	1294	一括	080117	
			-	イノシシ	橈骨	p-m	R	1			2795	970	一括	080117	
			-	イノシシ	橈骨	m	?	1		14		2795	1290	一括	080117
			-	イノシシ	橈骨	m	L	1		9		2795	598	一括	080117
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1			2795	474	一括	080117	
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1			2795	473	一括	080117	
			-	イノシシ	尺骨	m	?	1			2795	225	一括	080117	
			-	イノシシ	寛骨(座骨)	fr	L	1			2795	86	一括	080117	
			-	イノシシ	寛骨	fr	?	1			2795	82	一括	080117	
			-	イノシシ	踵骨		L	1			2790	492	一括	080117	
			-	イノシシ	踵骨		L	1			2795	487	一括	080117	
			-	イノシシ	踵骨		L	1			2795	494	一括	080117	
		T20	-	イノシシ	踵骨		R	1			2795	152	一括	080117	
		C1v	-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1			2769	228	-	080321	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1			894	2169	一括	080822	
		A12	-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	R	1		11		1416	274	534	080925

第109表-9. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr 破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グット	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付			
H19	H19	A12	-	イノシシ	大腿骨	m-<d>	L	1	14		455	234	455	080911			
		B10	-	イノシシ	尺骨	p	L	1			979	2120	一括	080821			
		B11	P20	イノシシ	椎骨	椎体	-	1			2328	265	-	080912			
		B11	-	イノシシ	第3中足骨		p	R	1			997	2140	一括	080821		
			-	イノシシ?	肋骨		m	?	1			1011	2158	一括	080818		
		イ地区	イ地区	B12	-	イノシシ	環椎		-	1			幼獣	963	979	一括	080818
					-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	L	1			1414	443	549	080929	
					-	イノシシ	橈骨	p	L	1			915	2146	一括	080822	
					-	イノシシ	尺骨	p	L	1			915	2146	一括	080822	
					-	イノシシ	基節骨	d	?	1			1004	2154	一括	080818	
				B13	-	イノシシ	肋骨		m	?	1			915	2048	一括	080822
-	イノシシ				上腕骨		d	L	1			1093	2122	433	080826		
C11	-			イノシシ	脛骨		<p>-<d>	R	1	14		1095	2172	434	080826		
	-			イノシシ	尺骨		m	?	1			966	2115	一括	080820		
IV層	IV層			C12	-	イノシシ	寛骨(腸骨)		fr	L	1		985	2284	一括	080821	
		-	イノシシ?		肋骨		m	?	1		937	2151	一括	080814			
		C14	-	イノシシ	橈骨		m	?	1	16		1417	1292	546	080929		
			-	イノシシ	尺骨		p-m	L	1			1417	437	546	080929		
		C15	-	イノシシ	大腿骨		m	R	1	20		913	2209	一括	080929		
			-	イノシシ	踵骨			L	1			1002	2101	一括	080928		
		D13	-	イノシシ	上腕骨		<d>	L	1			1018	2156	一括	080805		
		D14	-	イノシシ	脛骨		d	R	1	14		1057	2173	499	080924		
		T11	-	イノシシ	上腕骨		d	R	1	13		1460	198	393	080821		
			-	イノシシ	上腕骨		m-<d>	L	1	13		996	2161	一括	080908		
T12	-	イノシシ	脛骨		<p>	R	1			992	2133	一括	080822				
	-	イノシシ	脛骨		m	R	1	13		1058	2145	495	080924				
T13	-	イノシシ	上腕骨		m-<d>	R	1	12		1412	282	514	080924				
	-	イノシシ	基節骨			?	1			1413	595	515	080924				
II地区	II地区	K11	-	イノシシ	距骨		L	1			914	638	-	120625			
			-	イノシシ	中節骨			?	1			916	379	-	120614		
		K12	-	イノシシ	前頭骨			L	1			741	1084	-	120608		
			-	イノシシ	環椎			-	1			872	382	-	120608		
			-	イノシシ	胸椎	棘突起		-	1			741	440	-	120608		
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部		L	1			872	1015	-	120608		
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部		L	1			741	1014	-	120608		
			-	イノシシ	上腕骨	<d>		L	1			SF	741	806	-	120608	
			-	イノシシ	橈骨	p		L	1			872	962	-	120608		
			-	イノシシ	橈骨	p		R	1			740	954	-	120614		
			-	イノシシ	尺骨	p		L	1			872	821	-	120608		
			-	イノシシ	尺骨	p		L	1			872	827	-	120608		
			-	イノシシ	尺骨	p		R	1			872	948	-	120608		
			-	イノシシ	第2中手骨		p-(d-)	L	1			874	1027	-	120622		
			-	イノシシ	脛骨		<p>-d	L	1	15			4	794	-	120625	
			-	イノシシ	距骨			L	1			6	635	-	120625		
			-	イノシシ	距骨			L	1			872	637	-	120608		
			-	イノシシ	距骨			R	1			877	632	-	120615		
			-	イノシシ	踵骨			L	1			872	908	-	120608		
			-	イノシシ	踵骨			L	1			880	907	-	120625		
-	イノシシ	踵骨			L	1			4	904	-	120625					
N9	-	イノシシ	第5中足骨		p	R	1			872	465	-	120608				
	-	イノシシ	中手/中足骨		d	?	1			743	921	-	120611				
	L11	-	イノシシ	尺骨		p	R	1			856	950	-	120623			
		-	イノシシ	腓骨		m	?	1			856	370	-	120623			
	L12	-	イノシシ	脛骨		<p>	R	1			SF	812	576	-	120614		
		-	イノシシ	踵骨			R	1			840	915	-	120625			
	M10	-	イノシシ	上腕骨		<p>-d	R	1	12		786	804	-	120621			
		-	イノシシ	踵骨			R	1			784	914	-	120619			
	N9	SP2	イノシシ	踵骨			R	1			671	910	-	120625			
		SP26	イノシシ	距骨			R	1			725	631	-	120629			
SP31		イノシシ	後頭骨	後頭顆L		-	1			CM	655	1087	-	120628			
		イノシシ	椎骨	椎体		-	1			655	433	-	120628				
-		イノシシ	側頭骨	鼓室部		?	1			823	415	-	120614				
-		イノシシ	腰椎			-	4			73	587	-	120706				
-		イノシシ	肩甲骨	関節部		L	1			735	1013	-	120705				
-		イノシシ	肩甲骨	関節部		L	1			735	1096	-	120705				
-		イノシシ	肩甲骨	関節部欠		L	1			824	1005	-	120615				
-		イノシシ	上腕骨		<p>-d	L	1	13			735	772	-	120705			
-	イノシシ	橈骨		p-m	R	1	15			824	965	-	120615				
N9	-	イノシシ	尺骨		p	L	1			875	840	-	120622				
	-	イノシシ	尺骨		p-m	R	1			824	940	-	120615				
	-	イノシシ	寛骨(恥骨)		臼	L	1			幼獣	823	589	-	120614			
	-	イノシシ	寛骨(座骨)		臼	L	1			824	542	-	120615				
	-	イノシシ	大腿骨		m	?	1	11		735	404	-	120705				
	-	イノシシ	大腿骨		m	L	1			824	518	-	120615				
	-	イノシシ	基節骨			?	1			875	1038	-	120622				
	-	イノシシ	末節骨			?	1			焼	823	376	-	120614			
	N10	SP14	イノシシ	脛骨		(p)	L	1			690	578	-	120619			
		-	イノシシ	胸椎	棘突起		-	1			831	438	-	120619			

第109表-10. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr破片。(p)-(d)は未癒合の骨端のみ、(p)-(d)は骨端未癒合脱落、<p>-<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳 番号	資料 番号	取上 番号	日付			
II地区	II地区	N10	-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1			830	1271	-	120621			
			-	イノシシ	橈骨	(d-)	R	1				834	796	-	120615		
			-	イノシシ	大腿骨	<d->	L	1		SF		915	523	-	120622		
			-	イノシシ	距骨		R	1				915	633	-	120622		
		08	-	イノシシ	肩甲骨		fr	?	1			806	1001	-	120723		
			-	イノシシ	尺骨		p	L	1			805	842	-	120705		
			-	イノシシ	第3中手骨		p	L	1			844	619	-	120705		
			-	イノシシ	寛骨(恥骨+座骨)		白	R	1			267	538	-	120723		
		09	-	イノシシ	脛骨		m-d	L	1	14	SF	233	1235	-	120723		
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠		L	1			819	1007	-	120704		
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠		R	1			813	1009	-	120619		
			-	イノシシ	脛骨		m-d	L	1	13		814	1239	-	120622		
		P7	-	イノシシ	脛骨		d	R	1			819	1227	-	120704		
			-	イノシシ	大腿骨	<d->	L	1		SF		853	521	-	120611		
		P8	-	イノシシ	肩甲骨	関節部		L	1			864	1012	-	120623		
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	L	1	14	SF		858	768	-	120615		
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	R	1	10			868	753	-	120723		
			-	イノシシ	上腕骨	m-d	R	1	13			866	800	-	120629		
		P9	-	イノシシ	尺骨		p	L	1			860	836	-	120706		
			-	イノシシ	四肢骨		m	?	1			858	396	-	120615		
			-	イノシシ	尺骨		p-m	R	1			870	944	-	120706		
			-	イノシシ	寛骨(腸骨)		fr	R	1			870	534	-	120706		
		Q9	-	イノシシ	大腿骨	<d->	L	1		SF		870	522	-	120706		
			-	イノシシ	脛骨		m	?	1	13		925	499	-	120706		
		R6	-	イノシシ	前頭骨			L	1			941	1083	-	120711		
		-	-	イノシシ	寛骨(腸骨)		fr	R	1			269	535	-	120723		
			-	イノシシ	寛骨(腸骨)		白	L	1			940	541	-	120619		
		IV層	IV層	M14	-	イノシシ	脛骨	<p>-<d	L	1	14		404	795	-	120705	
				N13	SP10	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1			910	1008	-	120628	
					-	イノシシ	脛骨		m	R	1	12		472	1232	-	120620
				N14	-	イノシシ	肩甲骨	関節部		R	1			593	1270	-	120607
					-	イノシシ	肩甲骨	関節部		R	1			592	1094	-	120618
					-	イノシシ	尺骨		p	L	1			593	825	-	120607
					-	イノシシ	大腿骨	<d->	L	1		SF		592	519	-	120618
					-	イノシシ	中手/中足骨		d	?	1			589	570	-	120627
					-	イノシシ	四肢骨		m	?	1			593	401	-	120607
				O13	-	イノシシ	橈骨		(p)-(d)	R	1	10		422	503	-	120623
				O14	-	イノシシ	大腿骨	<d->	L	1			475	386	-	120626	
				O15	-	イノシシ	上腕骨		d	L	1		SF	478	765	-	120705
				P11	-	イノシシ	大腿骨		m	?	1	12		532	405	-	120625
				P12	-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠		R	1			527	1010	-	120623
				-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1				530	801	-	120622	
				P13	-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1				414	507	-	120705
				Q10	-	イノシシ	大腿骨	m-<d->	R	1	16	SF		407	791	-	120723
ハ地区	ハ地区			Q11	-	イノシシ	椎骨	椎体	-	1			焼	594	1058	-	120706
					-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	L	1	12	SF		594	775	-	120706
					-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1	15	SF		639	901	-	120621
					-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1		SF		594	807	-	120706
					-	イノシシ	上腕骨		d	L	1		SF	582	766	-	120705
					-	イノシシ	上腕骨		d	L	1		焼	584	410	-	120706
					-	イノシシ	上腕骨		d	R	1		SF	636	803	-	120628
		-	イノシシ		尺骨		p	L	1		焼	594	458	-	120706		
		-	イノシシ		尺骨		p	L	1			410	839	-	120705		
		-	イノシシ		第3中手骨		p	R	1		焼	594	425	-	120706		
		-	イノシシ		第5中手骨		p	R	1			583	1029	-	120705		
		-	イノシシ		寛骨(腸骨)		fr	L	1			639	544	-	120621		
		-	イノシシ		大腿骨		m	?	1	13		166	406	-	120706		
		-	イノシシ		大腿骨		(d)	L	1		焼	594	792	-	120706		
		-	イノシシ		脛骨		d	L	1		焼	594	1237	-	120706		
		-	イノシシ		脛骨		(d)	R	1		焼	594	1052	-	120706		
		-	イノシシ		距骨			L	1		焼	594	634	-	120706		
		-	イノシシ		踵骨			R	1		焼	594	941	-	120706		
		-	イノシシ		踵骨			R	1			410	779	-	120705		
		-	イノシシ		踵骨			R	1			410	918	-	120705		
		-	イノシシ		第3中足骨		p	L	1			594	1043	-	120706		
		-	イノシシ		手根/足根骨			?	1		焼	594	567	-	120706		
		-	イノシシ		基節骨			?	1		焼	594	372	-	120706		
		Q12	-		イノシシ	軸椎			-	1			502	384	-	120622	
-	イノシシ		上腕骨	<p>-<d->	L	1	12			504	506	-	120623				
-	イノシシ		上腕骨	<d->	L	1		SF		496	811	-	120705				
-	イノシシ		上腕骨		d	L	1			497	773	-	120706				
-	イノシシ		橈骨		p-m	L	1	17		497	960	-	120706				
-	イノシシ		橈骨		p-m	R	1	12		502	963	-	120622				
-	イノシシ		尺骨		p-m	L	1			497	939	-	120706				
-	イノシシ		大腿骨		m	R	1	13		494	391	-	120705				
Q13	-	イノシシ	脛骨		m	L	1	10		505	1222	-	120625				
	-	イノシシ	橈骨		m	?	1	14		508	1090	-	120615				
-	イノシシ	脛骨		m	R	1	14		508	1233	-	120615					

第109表-11. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr 破片。(p)・(d)は未癒合の骨端のみ、(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落、<p>・<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付				
IV層	ハ地区	R10	-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	L	1	10	SF	614	770	-	120712				
			-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1				617	802	-	120723			
			-	イノシシ	橈骨	p	R	1				617	937	-	120723			
		R10	-	イノシシ	尺骨	p	L	1				618	824	-	120718			
			-	イノシシ	大腿骨	<d>	L	1			SF	617	520	-	120723			
		R11	-	イノシシ	大腿骨	<d>	R	1			SF	608	788	-	120724			
			-	イノシシ	環椎	fr	-	1				625	1097	-	120706			
			-	イノシシ	胸椎	棘突起	-	1				620	1053	-	120705			
			-	イノシシ	橈骨	m	?	1	14			626	1125	-	120628			
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1				604	828	-	120706			
			-	イノシシ	寛骨(腸骨)	白	R	1				620	533	-	120705			
			-	イノシシ	脛骨	(p)	L	1				612	1136	-	120616			
			-	イノシシ	脛骨	m	?	1				604	426	-	120706			
			-	イノシシ	踵骨		R	1				600	903	-	120706			
			-	イノシシ	踵骨		R	1				601	920	-	120706			
			-	イノシシ	中手/中足骨	d	?	1				600	1042	-	120706			
			-	イノシシ	四肢骨	m	?	1				612	400	-	120616			
			R12	-	イノシシ	側頭骨	関節結節	R	1				545	1081	-	120621		
				-	イノシシ	肩甲骨	関節部	L	1				544	780	-	120705		
			S9	-	イノシシ	尺骨	p	L	1				544	832	-	120705		
		-		イノシシ	脛骨	m	L	1	9			567	1225	-	120713			
		S10	-	イノシシ	尺骨	p	L	1				565	833	-	120718			
			-	イノシシ	尺骨	p	R	1				568	952	-	120723			
		S11	-	イノシシ	上腕骨	m-<d>	R	1	12			628	510	-	120614			
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1				562	835	-	120723			
		T10	-	イノシシ	第3中手骨	p	R	1			焼	628	1095	-	120614			
			-	イノシシ	脛骨	m	L	1	13			516	750	-	120614			
		T11	-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1			SF	554	809	-	120723			
			-	イノシシ	尺骨	p	L	1				554	829	-	120723			
		-	イノシシ	尺骨	p	R	1					554	949	-	120723			
		V層	H19	A19	-	イノシシ	環椎		-	1			3021	248	1338	080324		
					-	イノシシ	腰椎		-	4				3032	472	1312	080324	
					-	イノシシ	上腕骨	m-d	L	1				3020	880	1327	080324	
					-	イノシシ	上腕骨	<d>	L	1				2812	733	1255	080310	
					-	イノシシ	上腕骨	d	R	1				2841	197	1268	080310	
					-	イノシシ	橈骨	p	L	1			焼	3015	628	1310	080324	
					-	イノシシ	橈骨	(d-)	R	1				2749	1013	一括	080320	
					-	イノシシ	橈骨	<d>	R	1				3034	1016	1311	080224	
					-	イノシシ	尺骨	p-m	L	1				2811	436	1257	080321	
					-	イノシシ	寛骨(腸骨)	白	L	1				3034	1309	1311	080324	
					-	イノシシ	大腿骨	m-<d>	R	1	14				3014	91	1337	080324
					-	イノシシ	大腿骨	d	L	1					3023	94	1336	080324
-	イノシシ				脛骨	<d>	L	1					3034	103	1311	080324		
-	イノシシ				環椎		-	1					2578	1297	一括	080318		
-	イノシシ				椎骨	椎体	-	1					?	262	一括	080324		
-	イノシシ				肩甲骨	関節部	R	1					3016	232	1308	080324		
-	イノシシ				肩甲骨	関節部欠	L	1					2562	441	一括	080321		
-	イノシシ				肩甲骨	関節部欠	L	1					2821	439	1242	080321		
-	イノシシ			上腕骨	m-<d>	L	1					2816	898	1244	080321			
-	イノシシ			上腕骨	<d>	R	1					2775	504	1445	080324			
-	イノシシ			上腕骨	<d>	R	1					2561	522	一括	080324			
-	イノシシ			上腕骨	d	R	1					2562	196	一括	080321			
-	イノシシ			橈骨	p	R	1					2839	1023	1265	080321			
-	イノシシ			橈骨	p	R	1					2561	1025	一括	080324			
-	イノシシ			尺骨	p	L	1					2167	417	1237	080321			
-	イノシシ			尺骨	p	R	1					2839	480	1265	080321			
-	イノシシ			尺骨	p	R	1					2168	478	1240	080321			
-	イノシシ			尺骨	pfr	R	1					1141	240	1141	080320			
A20	-			イノシシ	尺骨	p-m	R	1				3028	457	1330	080324			
	-			イノシシ	寛骨	白	R	1				3029	470	1329	080324			
	-			イノシシ	寛骨	白	R	1				3025	471	1305	080320			
	-			イノシシ	寛骨(腸骨)	白	L	1				2561	87	一括	080324			
	-			イノシシ	寛骨(恥骨)	fr	L	1				2561	691	一括	080324			
	-			イノシシ	大腿骨	<p>-<d>	R	1	15				3018	165	1335	080324		
	-			イノシシ	脛骨	<p>-d	L	1					3019	179	1306	080321		
	-			イノシシ	脛骨	<d>	R	1					2773	775	1441	080324		
	-			イノシシ	脛骨	(d-)	R	1					2565	568	一括	080325		
	-			イノシシ	脛骨	d	L	1					2480	108	1439	080324		
	-			イノシシ	距骨		R	1					2774	209	1442	080324		
	-			イノシシ	踵骨		R	1					2561	151	一括	080324		
	-			イノシシ	踵骨		R	1					2564	163	一括	080324		
	-			イノシシ	足根骨			1					2564	121	一括	080324		
-	イノシシ	中手/中足骨	p	?	1					2577	1282	一括	080305					
-	イノシシ	基節骨		?	1					2826	191	1248	080321					
-	イノシシ	基節骨		?	1					2577	194	一括	080305					
B14	-	イノシシ	橈骨	p	L	1	10			2726	1293	一括	080307					
B20	-	イノシシ	尺骨	p	L	1				2725	452	一括	080325					
P16	-	イノシシ	橈骨	p-m	R	1	8		幼獣	2510	1222	一括	080305					

第109表-12. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)遺体(顎骨・遊離歯以外)

*1 残存位置凡例: w完存, p近位端, m骨幹, d遠位端, fr 破片。(p)-(d)は未癒合の骨端のみ、(p)-(d)は骨端未癒合脱落、<p>-<d>は骨端のみ欠損。
*2 CM カットマーク, SF スパイラルフラクチャー

層準	地区	グッド	遺構	種類	部位	残存位置	左右	数	SD (mm)	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
V層	H19	P16	-	イノシシ	橈骨	m	L	1			2510	676	一括	080305		
		Q15	-	イノシシ	頬骨		L	1				2550	2079	一括	080310	
		Q17	-	イノシシ	尺骨	p	R	1				2507	477	一括	080305	
		Q17	-	イノシシ	寛骨	白	L	1				3005	943	341	080305	
			-	イノシシ	寛骨	白	R	1				2507	226	一括	080305	
		R17	-	イノシシ	脛骨	m	R	1	9			2507	113	一括	080305	
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	R	1	11			2921	281	597	080317	
			-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1				2610	673	一括	080324	
			-	イノシシ	橈骨	<p->	R	1	10			2609	513	一括	080310	
			-	イノシシ	寛骨	白	R	1				2611	464	一括	080310	
			-	イノシシ	膝蓋骨	?	?	1				2610	666	一括	080324	
			-	イノシシ	踵骨		R	1				2811	157	1257	080321	
			-	イノシシ	橈骨	d	R	1	12			2666	1015	-	080321	
		R18	-	イノシシ	尺骨	p-m	R	1				2803	456	799	080320	
			-	イノシシ	寛骨	白	L	1				2666	958	-	080321	
			-	イノシシ	脛骨	<p->-d	R	1	14			2620	613	294	080225	
			-	イノシシ	距骨		L	1				2803	217	799	080320	
		S17	-	イノシシ	足根骨			1				2806	119	796	080320	
			-	イノシシ	寛骨(座骨)	fr	L	1				2455	85	一括	080324	
			-	イノシシ	踵骨		L	1				2455	496	一括	080324	
			-	イノシシ	末節骨		?	1				2455	190	一括	080324	
			S18	-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	L	1	12			2809	271	757	080319
				-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1				2493	506	一括	080327
				-	イノシシ	橈骨	p-m	R	1				2804	955	774	080319
				-	イノシシ	寛骨(恥骨)	白	R	1				2493	83	一括	080327
				-	イノシシ	大腿骨	m-<d->	R	1	15			2493	640	一括	080327
				-	イノシシ	距骨		L	1				2493	213	一括	080327
		S19	-	イノシシ	踵骨		L	1				2484	447	一括	080319	
			-	イノシシ	脛骨	m-d	L	1	14			2484	484	一括	080319	
			-	イノシシ	脛骨	d	L	1				2808	1011	759	080319	
			-	イノシシ	腓骨	m	?	1				2805	109	785	080319	
		T19	SS02	イノシシ	踵骨		R	1				2491	114	一括	080305	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部	R	1				2831	158	一括	080324	
			-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	R	1	6		幼獣	2838	229	1270	080321	
			-	イノシシ	踵骨		L	1				2800	1224	一括	080324	
			-	イノシシ	上腕骨	d	R	1	15			3022	449	1340	080324	
			-	イノシシ	大腿骨	<d->	R	1				2770	96	一括	080401	
		VI層	H19	O16	-	イノシシ	尺骨	p	R	1			2780	428	1462	080326
		枝柯コ層	H19	T17	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p-m	R	1			1951	423	-	080401
			表採	H19	-	イノシシ/ブタ	距骨	p-m	R	1			2913	459	331	080303
不明	H19	-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	p-m	L	1			?	411	-	-		
		-	-	イノシシ/ブタ	距骨	R	1				不明	210	不明	不明		
		-	-	イノシシ/ブタ?	肋骨	m	?	1			不明	69	不明	不明		
二地区	-	-	イノシシ/ブタ	上腕骨	<d->	L	1		SF	1095	810	-	120606			
口地区・後期		J6	-	イノシシ	脛骨	<p->-<d->	L	1			1401	184	45	080911		
		J7	-	イノシシ	尺骨	p-m	R	1			1402	460	69	080911		
		K6	-	イノシシ	上腕骨	m	L	1				1399	173	44	080911	
			-	イノシシ	脛骨	(p)-<d->	R	1	10		焼	1399	144	44	080911	
		K7	-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	L	1	13			1392	868	27	080903	
			-	イノシシ	上腕骨	m-d	R	1	14			1400	283	13	080903	
		-	イノシシ	大腿骨	m	L	1	16			1394	98	33	080903		
		K8	-	イノシシ	寛骨(腸骨)	白	R	1				1389	465	一括	080903	
		L6	-	イノシシ	環椎		-	1				1367	89	114	080926	
			-	イノシシ	上腕骨	(p)-d	R	1				1396	760	88	080926	
			-	イノシシ	橈骨	(d-)	R	1				1396	1014	88	080926	
			-	イノシシ	尺骨	m	?	1				1396	225	88	080926	
			-	イノシシ	踵骨		L	1				1396	202	88	080926	
			-	イノシシ?	肋骨	p	?	1				1396	123	88	080926	
		L7	-	イノシシ	橈骨	p-m	R	1	17			1499	2213	-	080926	
		L8	-	イノシシ	踵骨		R	1				1382	159	一括	080930	
		M7	-	イノシシ	上腕骨	<d->	L	1				1506	2147	120	080926	
		M8	-	イノシシ	上腕骨	<d->	R	1				1387	521	一括	080926	
			-	イノシシ	上腕骨	d	R	1				1388	176	一括	081006	
			-	イノシシ	寛骨	白	R	1				1384	463	一括	081006	
		M9	-	イノシシ	脛骨	<p->-d	L	1				1384	178	一括	081006	
			-	イノシシ	側頭骨	岩様部	?	1				1374	1298	一括	080908	
		M10	-	イノシシ	寛骨	白	L	1				1359	1304	25	080903	
			-	イノシシ	肩甲骨	関節部欠	R	1				1385	247	一括	080904	
-	イノシシ		寛骨	白	L	1				1386	1299	一括	080909			
口地区・泥炭	K6	-	イノシシ	橈骨	m	?	1	12			1383	1291	一括	080905		
		-	イノシシ	上腕骨	m-<d->	R	1	13			1372	278	一括	080930		
		-	イノシシ	脛骨	(p-)	R	1				1369	101	126	081001		
不明		-	-	イノシシ/ブタ	尺骨	d	?	1			不明	925	-	不明		
		-	-	イノシシ/ブタ	第3中足骨	p	L	1			不明	1044	-	不明		

第110表-1. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯。

* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, <>未萌出, ()萌出中。咬耗段階は金子(1996)に従った。

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	左右	残存位置/歯種*	咬耗段階*	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
I層	H19	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		♂	2874	395	-	-		
		-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	R	[M2 M3]	m+e		2872	288	一括	-		
II層	H19	Q17	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	M3	a		2506	296	一括	080121		
		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	M3	c		2506	37	一括	080121		
		S12	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	R	[M1]	f		2473	16	-	080212		
		S16	SD03	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	C			♂	2922	468	-	-	
		S17	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C			♀	2924	49	-	080222	
	イ地区	B12	-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	C		♀	2089	2110	-	080922	
			-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P2 P3]			2089	2064	-	080922	
	ニ地区	-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[M1 M2]	d/d		934	1111	-	120606	
	ハ地区	P14	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M1	b		413	704	-	120607	
	III層	H19	-	SD06	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I1			430	338	-	080222	
S15			-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[P4]			2706	292	一括	080201		
-			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			2710	57	-	080117		
-			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M2	c		2583	322	一括	080116		
-			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M3	b		2583	34	一括	080116		
T14			-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	fr			2583	365	一括	080116	
			-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	fr			2583	367	一括	080116	
			-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	fr			2583	367	一括	080116	
			-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	fr			2583	367	一括	080116	
			-	-	イノシシ/ブタ	上/下顎遊離歯	?	臼歯fr			2583	45	一括	080116	
イ地区			A12	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♂	897	2092	一括	080821
			C9	P1	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	M3	d		2317	36	-	080828
			P4	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	下顎角			2007	377	-	080922
			C12	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	関節突起			1000	2305	一括	080811
			-	-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	C		♂	762	624	-	120607
ニ地区		K12	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♀	762	623	-	120607	
		L12	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I1			809	1059	-	120612	
		M10	-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	C		♂. 焼	845	621	-	120608	
		-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[dm3 dm4 M1 <M2x>]	c		845	622	-	120608	
		N10	SP12	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	?	fr			686	343	-	120618	
		SP55	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I2			764	1062	-	120629	
		N9	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[M1 M2 M3]	e+d+b		873	1113	-	120619	
		-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♂	793	1078	-	120608	
		P7	SP17	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P2 P3x]			668	341	-	120719	
		Q6	SK01	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L+R	連合部: L [(I1)] -R [(I1)]			836	527	-	120717	
		Q7	SP11	-	イノシシ/ブタ	切歯骨	R	[I1x I2x I3x]			704	1088	-	120718	
		-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			1061	1065	-	120606	
		ハ地区	M14	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		♀	403	358	-	120608
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I1			405	929	-	120608
			-	-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	M3	g		464	1122	-	120608
-			-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I1			644	360	-	120614	
N14			-	-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	M3	f		464	706	-	120608
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[dm4x M1]	c		460	700	-	120611
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	I2			464	1061	-	120608
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♂	644	1077	-	120614
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M1	c		990	705	-	120608
N15			SK01	-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	I1			990	363	-	120608
			-	-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[M1x M2 M3]	e/d		585	1117	-	120611
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			587	1064	-	120607
O12			SP7	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	R	[dm4 M1]	c		854	1048	-	120628	
O13			SP6-7	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P2x P3x P4x M1 M2]	d/c		890	1110	-	120629	
O14			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♂	423	1076	-	120607
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♂	474	1074	-	120608
P12			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		♂	579	1072	-	120612
			-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P3x P4 M1x]			518	351	-	120614
P15	-		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	M3	c		479	1121	-	120614	
	-		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[Cx P2x]		♂	479	1082	-	120614	
Q11	SP1		-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[M1]	c		1092	699	-	120703	
	SP26		-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	L	I1			1093	65	-	120703	
	SP37		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	P4			970	707	-	120627	
	SP49		-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[M2x M3]	e		965	1118	-	120703	
	-		-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	C		♂	406	1075	-	120614	
	-	-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[M3]	c		979	1120	-	120703		
Q12	SP59	-	-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[P3 P4 M1]	e		1035	1116	-	120627		
	SK03	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[P4x M1x]			1006	355	-	120626		
	-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[dm2x dm3 dm4 M1]	c		606	1112	-	120615		
	-	-	-	イノシシ/ブタ	上顎遊離歯	R	I1			526	357	-	120611		
	-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[I1x I2x I3x <C> dm2x dm3x]			606	354	-	120615		
	-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[dm2x dm3 dm4 M1 <M2x>]	c		500	531	-	120615		
	-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[(M3)]	b		603	350	-	120615		
	-	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	<M2>			605	702	-	120615		
Q13	SK72	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		♂	1036	1069	-	120625		
R11	SP42	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I1			1055	359	-	120706		
	SP42	-	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I2			1055	1066	-	120706		

第110表-2. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯。

* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, <>未萌出, ()萌出中. 咬耗段階は金子(1996)に従った.

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	左右	残存位置/歯種*	咬耗段階	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付
Ⅲ層	ハ地区	R12	SP6	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[P4x M1x]			1041	344		120702
				イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	C		♂	1041	1071		120702
		SX01(B)	イノシシ/ブタ	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[dm4 M1 <M2>]	c		1067	530		120702
				イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[M3 下顎枝]	c		561	1124		120717
S9	-	SP5	イノシシ/ブタ	下顎骨	L	[M3 下顎枝]	c		685	361		120615	
			イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	I1			4331	329	一括	080117	
Ⅳ層	H19	A1	-	イノシシ	下顎骨	R	dm4	m		4331	72	一括	080117
				イノシシ	下顎骨	L	[dm4x M1x]			2842	336	26	080111
		A13	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I1			2842	54	26	080111
				イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♀	2842	50	26	080111
		A14	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M2	e		2746	323	一括	080111
		A15	-	イノシシ	下顎骨	R	[M2 M3]	f・d		2850	404	15	080111
				イノシシ	上顎遊離歯	L	I1			2754	335	一括	080123
		A19	-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1x]			2754	293	一括	080123
				イノシシ	上顎骨	R	[M2 M3]	f・e		2754	5	一括	080123
				イノシシ	下顎遊離歯	R	C		V層A20資料380と接合	2754	380	一括	080123
				イノシシ	上顎骨	?	fr			2758	74	一括	080115
		A20	-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M2	d		2869	39	93	080122
				イノシシ	下顎骨	L	[M2]	f		2572	320	一括	080116
				イノシシ	下顎骨	L	[M2 M3]	e		2870	353	94	080122
				イノシシ	下顎遊離歯	L	I1			2563	391	一括	080116
				イノシシ	下顎遊離歯	L	C		♂	2568	397	一括	080116
				イノシシ	上顎遊離歯	R	P4			2563	390	一括	080116
				イノシシ	下顎骨	R	[dm3x dm4x]			2563	79	-	080116
				イノシシ	下顎骨	R	[P2x P3 P4x M1]	l		1712	60	一括	080116
				イノシシ	下顎骨	R	[P4x M1x M2x M3]			2867	363	92	080122
				イノシシ	下顎骨	R	関節突起			2569	81	一括	080117
				イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♀	2566	52	-	080116
				イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	2567	386	一括	080116
				イノシシ	下顎骨	?	fr			2572	368	-	080116
				イノシシ	下顎遊離歯	?	C fr		♂	2575	430	一括	080108
		イノシシ	上/下顎遊離歯	?	臼歯fr			2563	379	-	080116		
		B1	-	イノシシ	下顎骨	L	[C P1x P2x P3x P4x M1x M2x M3]	b	♀	4228	2126	一括	080304
				イノシシ	下顎骨	L	[P4 M1 M2]	d・e		4235	2104	一括	080117
				イノシシ	下顎遊離歯	L	M2	d		4232	2103	一括	080304
				イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	4235	2078	一括	080117
		B18	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C		♂	2713	392	一括	080116
		B19	-	イノシシ	上/下顎遊離歯	?	臼歯fr			2283	2127	一括	080117
				イノシシ	上顎骨	L	[M1]	m		1685	309	一括	080122
		P15	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	M2	d		1685	24	一括	080122
				イノシシ	下顎遊離歯	L	dm4	m		2517	326	一括	080110
		Q14	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M3	b		2544	2065	一括	080212
		Q15	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	2557	2077	一括	080307
		R13	-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1x]			2901	298	145	080122
				イノシシ	上顎遊離歯	R	M2	b		2901	25	145	080122
				イノシシ	上顎遊離歯	R	M3	a		2901	294	145	080122
				イノシシ	下顎骨	R	[C P2x P3 P4 M1 M2x]	d	♂	2639	66	299	080220
		R16	-	イノシシ	上顎遊離歯	?	I1			1906	58	一括	080121
				イノシシ	上顎遊離歯	L	C		♂	2597	435	一括	080109
		R17	-	イノシシ	下顎骨	L	[P2x P3x P4x M1x]			2630	359	269	080220
				イノシシ	下顎遊離歯	L	I1			2613	340	一括	080123
				イノシシ	下顎遊離歯	L	I1			2630	341	269	080220
				イノシシ	下顎遊離歯	L	I2			2613	53	-	080123
				イノシシ	下顎遊離歯	L	C		♀	2630	325	269	080220
				イノシシ	下顎遊離歯	L	M3	b		2630	33	269	080220
				イノシシ	上顎骨	R	[M2]	c		2598	307	一括	080109
				イノシシ	上顎遊離歯	R	M1	d		2598	312	一括	080109
				イノシシ	下顎骨	R	[P2x P3x P4x M1x]			2613	356	一括	080123
イノシシ	下顎骨			R	[P2 P3 P4 M1 M2 (M3)]	d・c		2630	402	269	080220		
イノシシ	下顎遊離歯			R	I1			2613	348	一括	080123		
イノシシ	下顎遊離歯			R	I1			2630	350	269	080220		
R18	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I2			2613	344	一括	080123		
		イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	2613	387	一括	080123		
		イノシシ	下顎骨	L	[P4x M1x]			2765	73	一括	080122		
		イノシシ	下顎遊離歯	L	C		V層R18資料80と接合	3041	80	-	080313		
		イノシシ	下顎遊離歯	L	P4			2678	8	一括	090319		
		イノシシ	切歯骨	R	[I1x I2x]			2668	373	一括	080304		
		イノシシ	上顎骨	R	[P4]			2668	306	一括	080304		
		イノシシ	上顎骨	R	[M1]	m		2662	17	-	080225		
		イノシシ	上顎遊離歯	R	C		♂	2559	469	一括	080304		
		イノシシ	下顎骨	R	[P2]			2668	302	一括	080304		
		イノシシ	下顎骨	R	[M2]	c		2668	319	一括	080304		
		イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	2669	388	一括	080122		
イノシシ	下顎骨	?	fr			2672	369	-	080121				

第110表-3. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯。

* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, <>未萌出, ()萌出中. 咬耗段階は金子(1996)に従った.

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	左右	残存位置/歯種*	咬耗段階	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
IV層	H19	R18	-	イノシシ	下顎遊離歯	?	C fr		♂	2667	431	-	080221		
			-	イノシシ	下顎遊離歯	?	C fr		♂	2669	433	一括	080122		
		S12	-	イノシシ	下顎骨	?	fr				1915	371	-	080214	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M1	d			2883	308	一括	080121	
		S13	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C			♀	2908	67	165	080123	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[P3 P4 M1]	c			2908	65	165	080123	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C			♀	2908	355	165	080123	
		S14	-	イノシシ	上顎骨	R	[M1M2]	b・a			2876	376	一括	080307	
		S16	-	イノシシ	下顎骨	R	[dm2x dm3x dm4x M1 <M2>]	b			2711	403	一括	080123	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I2				2699	343	一括	080221	
		S17	-	イノシシ	下顎骨	L	[M2]	c			2465	317	-	080220	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I1				2465	339	-	080220	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M1	f			2465	40	-	080220	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M3	a			2465	32	-	080220	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[M2]	c			2465	26	-	080220	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I2				2465	345	-	080220	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C			♂	2465	389	-	080220	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	P4				2465	11	-	080220	
			-	イノシシ	上顎骨	L	[(P4) M1]	b			1789	299	一括	080328	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	L	C			♀	2494	44	-	080220	
		S18	-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M3	a			2500	300	一括	080204	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[Cx P2x P3x P4x]				2490	405	-	080225	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[P2x P3 P4x]				2500	362	一括	080204	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I1				2492	337	-	080221	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C			♂	2481	393	-	080225	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	R	M1	f			1789	311	一括	080328	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	R	M2	d			2494	23	-	080220	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I2				2490	346	-	080225	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[(P3) (P4) M1 M2]	c・b			2885	360	125	080122	
			-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1]	f			2595	3	一括	不明	
		T18	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M2	c			2585	318	一括	080130	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I2				2650	55	-	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I2				2650	56	-	080117	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[P2x P3]				2650	304	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	P4				2850	9	一括	080117	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	L	I1				2794	333	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[dm4 M1]	m・c			2797	334	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M2	d			1939	321	一括	080306	
			-	イノシシ	切歯骨	R	[I1x I2x I3x]				1944	75	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[Cx P2 P3 P4 M1]	l		♀	2797	63	一括	080117	
		T20	-	イノシシ	上顎遊離歯	L	I1				2795	332	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[dm2x dm3x dm4x M1x]				2795	412	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[dm3 dm4]	f			2795	303	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[M2]	f			2802	314	一括	080118	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C			♂	1941	398	一括	080116	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	dm4	m			2795	330	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	dm4	m			2795	327	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	dm4	m			2795	328	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M1	b			2795	39	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[I1x I2x I3x]				2795	361	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C			♂	2795	383	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	P4				2795	12	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M1	b			2795	29	一括	080117	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M1	b			2795	31	一括	080117	
			イ地区	A12	-	イノシシ	下顎骨	L	[P2x P3x P4x M1x]				916	2128	-
		-			イノシシ	下顎骨	L	[P3 P4 M1 M2]	d・b			1410	354	501	080924
		B11		-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I1				1447	349	316	080820
				-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I2				1447	342	316	080820
				-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C			♂	1103	2089	310	080820
		B13		-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I1				973	2116	一括	080825
				-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C			♀	973	2109	一括	080825
				-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I1				973	2130	一括	080825
		S13		-	イノシシ	上顎遊離歯	L	P3				2883	14	一括	090121
		ニ地区		K12	-	イノシシ	上顎骨	L	[dm2 dm3 dm4]				872	338	
			-		イノシシ	上顎骨	L	[dm3 dm4]				741	1049		120608
			-		イノシシ	下顎骨	L	[P2×P3 P4 M1]	e			5	696		120625
			-		イノシシ	下顎骨	L	[M2x M3x 下顎角]			♀. 資料856Rと同一個体	2	856		120625
			-		イノシシ	下顎遊離歯	L	(I2)				872	342		120608
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M2	d			872	708		120608	
			-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1 M2]	g/f			872	1115		120608	
			-	イノシシ	上顎遊離歯	R	C			♀	872	339		120608	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[C P1x P2x P3 P4 M1 M2 M3]	d/c/b		♀. 資料856Lと同一個体	2	856		120625	
			-	イノシシ	下顎骨	R	関節突起				877	1093		120615	
		-	イノシシ	下顎遊離歯	R	i1				741	1050		120608		

第110表-4. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯。

* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, <>未萌出, ()萌出中. 咬耗段階は金子(1996)に従った.

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	左右	残存位置/歯種*	咬耗段階	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付	
IV層	ニ地区	L11	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	M3	-		811	1119		120614	
		N9	-	イノシシ	上顎骨	L	[dm4 M1 <M2>]			735	1114		120705	
		08	-	イノシシ	下顎骨	L+R	連合部: L [I1 I2x] -R [I1 I2x]			875	532		120622	
		09	-	イノシシ	下顎遊離歯	?	P3			807	703		120723	
		P8	-	イノシシ	下顎骨	R	[M2 M3]	d/c		822	698		120705	
		P8	-	イノシシ	下顎骨	L	[Cx P2x P3x P4x]		♂	862	528		120718	
		P9	-	イノシシ	下顎骨	R	[I2 I3x C P1x P2x P3x P4]		♂	867	529		120718	
	ハ地区	P9	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C		♂	926	1067		120706	
		Q7	-	イノシシ	下顎骨	L	[dm4x M1 <M2x>]	-		936	1133		120615	
		N13	SP10	イノシシ	上顎骨	R	[dm2 dm3x dm4 <P4>]			910	362		120628	
		N13	-	イノシシ	下顎骨	R	[P2 P3 P4]			472	340		120620	
		O12	-	イノシシ	下顎骨	R	[dm4 M1 <M2>]	c		488	349		120615	
		O12	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♀	488	346		120615	
		O14	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C		♂	3029	1070		120715	
		P11	-	イノシシ	上顎骨	L	[Cx P2x]		♀	531	612		120705	
		P12	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	I2			530	1063		120622	
		Q10	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C		♂	412	1068		120725	
		ハ地区	Q11	-	イノシシ	切歯骨	R	[I3x]			594	931		120706
			Q11	-	イノシシ	上顎骨	R	fr		焼	594	1047		120706
			Q11	-	イノシシ	下顎骨	R	[M1]	c		594	701		120706
			Q11	-	イノシシ	下顎骨	R	[M2 M3]	e/d		164	697		120706
			Q11	-	イノシシ	上顎骨	?	fr		焼	594	1051		120706
	Q12		-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M2	e		501	356		120621	
	Q12		-	イノシシ	下顎骨	L	[<P2> P3x P4x M1x]			501	348		120621	
	Q12		-	イノシシ	下顎遊離歯	R	I1			506	1060		120626	
	Q12		-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M1	c		501	353		120621	
	Q12		-	イノシシ	下顎遊離歯	R	<M3>			501	352		120621	
R11	-		イノシシ	上顎骨	L	[P3 P4x M1]	f	同一個体	550	347		120616		
R11	-		イノシシ	上顎骨	R	[P3 P4 M1]	f		550	347		120616		
V層	H19		A13	-	イノシシ	上顎骨	L	[M1M2]	b・a		4204	2125		080307
		A13	-	イノシシ	下顎骨	L	[P3x P4 M1]	c		4204	2049		080307	
		A15	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	M3	c		2745	297	一括	080306	
		A19	-	イノシシ	上顎骨	L	[P4 M1 M2 M3]	e・d・b		3036	2	1325	080324	
		A19	-	イノシシ	上顎遊離歯	L	C		♂	2823	434	1259	080321	
		A19	-	イノシシ	下顎骨	L	[P2x P3x P4x M1x M2 M3]	d・b		3015	357	1310	080324	
		A19	-	イノシシ	下顎骨	L	[P3]			2812	305	1255	080310	
		A19	-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1 M2]	m・f		3030	4	1326	080324	
		A19	-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1 M2]			3036	6	1325	080324	
		A19	-	イノシシ	下顎骨	R	[Cx P2x P3x P4x]		♂	3027	71	1324	080324	
		A19	-	イノシシ	下顎骨	?	関節突起			2812	1300	1255	080310	
		A19	-	イノシシ	上/下顎遊離歯	?	白歯fr			2818	46	1253	080321	
		A20	-	イノシシ	上顎骨	L	[M1M2]	h・f		3017	289	1309	080324	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	L	[Cx dm2x dm3x dm4 M1 <M2>]	d		2561	358	一括	080324	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	L	[M3x -下顎角]			3035	352	1331	080324	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	L	関節突起			2561	631	一括	080324	
		A20	-	イノシシ	下顎遊離歯	L	P4			2564	13	一括	090324	
		A20	-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1]	e		3017	291	1309	080324	
		A20	-	イノシシ	上顎骨	R	[P4 M1 M2 M3]	m・f・c		3031	1	1334	080324	
		A20	-	イノシシ	上顎骨	R	[M1]	a		2577	310	一括	080305	
		A20	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	C		♀	2833	42	1264	080321	
		A20	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	P3			3017	7	1309	080324	
		A20	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	P3			3017	15	1309	080324	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	R	[Cx P2x P3x P4 M1x]		♂	2827	62	1246	080321	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	R	[P2x P3 P4]			2828	61	1249	080321	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	R	[M1 M2]	f・c		3017	351	1309	080324	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	R	[M1x M2x M3]			2820	64	1251	080321	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	R	関節突起			2562	601	一括	080321	
		A20	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	2565	385	一括	080325	
		A20	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C			2830	380	1250	080310	
		A20	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M1	d		2578	28	一括	080318	
		A20	-	イノシシ	下顎骨	?	fr			2822	366	1241	080321	
		B20	-	イノシシ	下顎骨	R	[C P2 P3 P4 M1 M2 M3]	m・m・k		2832	77	1266	080321	
		B20	-	イノシシ	下顎骨	R	[M1]	c		2725	22	一括	080325	
		B20	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M2	a		2725	315	一括	080325	
		P16	P16	イノシシ	上顎遊離歯	R	M1	f		2525	313	一括	080305	
		P16	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	M3	c		2525	295	一括	080305	
		P16	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	2525	382	一括	080305	
		Q15	-	イノシシ	下顎骨	R	[P2 P3 P4]			2548	2105	153	080310	
		Q15	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C		♂	2548	2090	一括	080310	
		Q17	-	イノシシ	上顎骨	L	[M1M2]	f・e		2505	290	一括	080304	
		Q17	-	イノシシ	上顎遊離歯	L	M2	d		2507	20	一括	080305	
		Q17	-	イノシシ	上顎遊離歯	R	C		♂	2507	467	一括	080305	
		R17	-	イノシシ	下顎骨	?	fr			2610	364	一括	080324	
		R17	-	イノシシ	下顎遊離歯	?	C fr		♂	2607	432	-	080321	

第110表-5. 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土したイノシシ(またはブタ)の顎骨・遊離歯。

* 残存位置凡例: 顎骨の[]は残存範囲, xは脱落歯, <->未萌出, ()萌出中。咬耗段階は金子(1996)に従った。

層準	地区	グリッド	遺構	種類	部位	左右	残存位置/歯種*	咬耗段階	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
V層	H19	R18	-	イノシシ	上顎骨	L	[P4 M1]	1		2666	286	-	080321		
			-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C			IV層R18資料80と接合	2666	80	-	080321	
			-	イノシシ	下顎骨	R	関節突起				2807	571	798	080320	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C			♂	2807	384	798	080320	
		S17	-	イノシシ	下顎骨	R	関節突起				2461	586	一括	080324	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[I1 I2 I3x C P2]			同一個体	2739	347	801	080320	
		S18	-	イノシシ	下顎骨	R	[I1x I2x I3x C P2x P3 P4 M1]	d			2739	347	801	080320	
			-	イノシシ	上顎骨	R	[M3]	c			2487	287	-	080321	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M3	b			2484	38	一括	080319	
			-	イノシシ	上/下顎遊離歯	?	臼歯fr				2487	47	-	080321	
		S19	-	イノシシ	下顎骨	?	fr				2809	370	757	080319	
			-	イノシシ	下顎骨	L	[I1x I2x]				3399	41	1341	080324	
		T19	-	イノシシ	下顎骨	R	[I1 I2 I3x C]				♀. 同一個体	3399	41	1341	080324
			-	イノシシ	下顎骨	L	[I1x I2x I3x C P2x P3 P4 M1 M2 M3 角]	m・m・e			♀. 同一個体	3037	76	1323	080324
			-	イノシシ	下顎骨	R	[I1x I2x I3x Cx P2x P3 P4 M1 M2 M3]	m・m・e			♀. 同一個体	3037	76	1323	080324
			-	イノシシ	上顎遊離歯	R	C				♀	2800	43	一括	080324
		-	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C				♀	2800	51	一括	080324
			-	イノシシ	下顎骨	L	[I1 I2 I3x C P1x]				♀. 同一個体	3039	375	1328	080324
			-	イノシシ	下顎骨	R	[I1 I2 I3x C P1 P2x P3 P4 M1x]				♀. 同一個体	3039	375	1328	080324
			-	イノシシ	下顎骨	R	[M1x M2]	d				2779	21	1470	080327
		VI層	H19	Q15	-	イノシシ	下顎骨	R	[(M3)]			2928	59	-	080401
			ハ地区	-	-	イノシシ	下顎骨	L	[Cx P1欠 P2 P3 P4x M1 M2 M3]	g/e/d	♂	2499	620	-	120707
		-		-	イノシシ	下顎遊離歯	L	C			♂	3737	1073	-	120707
		表採	H19	-	-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[M3]	a		2871	324	一括	071223
イ地区	-		-	イノシシ/ブタ	上顎骨	L	[dm2 <P2>]			1362	400	-	081016		
不明	H19	不明	-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	dm3			不明	301	-	不明		
			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	dm4	m		不明	331	-	不明		
			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	L	M2	d		不明	70	-	不明		
			-	イノシシ/ブタ	下顎骨	R	[dm3x dm4x <P4>]			不明	374	-	不明		
			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	P4			不明	10	-	不明		
			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	R	M1	a		不明	30	-	不明		
			-	イノシシ/ブタ	下顎遊離歯	?	dm2			不明	18	-	不明		
			-	イノシシ/ブタ	上/下顎遊離歯	?	臼歯fr			不明	378	-	不明		
口地区・後期	-	-	-	イノシシ	下顎骨	R	[I1x I2x I3x C P2x P3x P4x M1 M2 M3]	c・c	♂. 焼?	1398	401	43	080911		
			-	イノシシ	下顎骨	R	[(M3)]			1366	27	117	080926		
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M3	c			1368	35	115	080925	
			-	イノシシ	下顎骨	R	[P2x P3x P4x M1x]				1390	406	32	080903	
			-	イノシシ	下顎骨	?	fr				1813	-	52	080911	
			-	イノシシ	下顎骨	?	fr				1812	-	51	080911	
			-	イノシシ	下顎遊離歯	R	C				1365	381	168	081001	
口地区・泥炭	-	-	イノシシ	下顎遊離歯	R	M2	a		1373	316	一括	080929			

第111表 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡から出土した陸獣類遺体(同定不可資料)。

種類	部位	残存位置	II層			III層			IV層				V層	不明	口地区		
			H19	イ地区	ニ地区	H19	イ地区	ニ地区	ハ地区	H19	イ地区	ニ地区	ハ地区	H19	ニ地区	後期	泥炭
小型陸獣類 (同定不可)	腰椎								1								
	肋骨	m				1											
陸獣類 (同定不可)	上腕骨	<d->									1						
	上腕骨	(d)														1	
	四肢骨	m	2	1		1	3	1	5	4	1		2	1			
	椎骨					1				2	1			2			
	肋骨	p							2		1		1				
	肋骨	m			1	1	2	6	10	2		11	4	2	1	1	
合計			2	1	1	3	6	7	17	9	2	12	6	6	1	1	1

第112表-1. 伊礼原遺跡（国指定外）から出土したウシ・ウマ遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照.

種類	層	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置/歯種 *	左右	数	計測 (mm)・備考 *	台帳番号	資料番号	取上番号	日付			
ウシ	II層	H19	R14	SK20	中節骨		?	1		2744	592	-	080218			
			-	-	手根骨			1		2588	532	一括	080117			
			T13	-	手根骨			1		2580	577	一括	080109			
		イ地区	B10	SK52	距骨			R	1		1433	2274	-	080912		
			-	-	中足骨	p-<d->		R	1		1427	2272	-	080924		
			B11	-	中足骨	d		?	1		1123	2269	104	080811		
			D17	SD10?	中手骨	d		?	1		2304	818	477	080912		
		H19	A13	-	肩甲骨	d		R	1		2625	712	271	080220		
			Q15	P6	中節骨	w		?	1		4208	2292	-	080219		
			-	P47	基節骨	w		?	1		4236	2257	-	080219		
	R15		-	基節骨			?	1		4346	817	一括	080121			
	S13		-	寛骨 (肋骨)	fr		R	1		2886	1208	130	080122			
	S14		-	上顎遊離歯	P2		L	1		2701	1204	一括	080110			
	-		-	上顎遊離歯	M1/M2		L	2		2710	862	一括	080117			
	-		-	下顎骨	筋突起		?	1		2706	1225	一括	080201			
	S15		-	下顎遊離歯	M1		L	1		2710	1207	一括	080117			
	-		-	手根骨					1		2710	562	一括	080117		
	-		-	距骨			R	1		2942	772	一括	080111			
	T13		P1	中足骨	d		?	1		4226	2233	-	080212			
	-		-	末節骨			?	1		2590	607	一括	080111			
	T14		P28	手根骨				1		4227	2267	-	080208			
	-		-	中節骨			?	1		2589	637	一括	080130			
	-		-	手根骨				1		2093	1215	-	080922			
	III層		イ地区	A11	SK62	手根骨			L	1		999	2199	一括	080822	
					-	-	頰骨			R	1		999	2231	一括	080822
					-	-	上顎遊離歯	dm		?	1		999	2245	一括	080822
					-	-	中手/中足骨	d		?	1		1013	2235	一括	080822
				A12	-	-	頰骨			R	1		1082	2216	238	080818
					-	-	手根骨				1		1012	2252	一括	080813
					-	-	踵骨			L	1		1064	2239	220	080814
					-	-	中節骨	w		?	1		946	2291	一括	080814
				B11	-	-	末節骨			?	1		1090	2265	279	080819
					A13	-	基節骨	w		?	1		1085	2259	231	080818
			P10		中足骨	d		L	1		2322	803	-	080912		
			P26		距骨			R	1		2320	757	-	080922		
			P26		基節骨			?	1		2320	517	-	080922		
			P26		中節骨			?	1		2320	622	-	080922		
			-		-	大腿骨	d		R	1		1986	927	307	080820	
			-		-	踵骨			L	1		1105	2254	308	080820	
			-		-	中足骨	p		R	1		1092	2238	299	080820	
			B12		-	-	頰骨			R	1		998	2281	一括	080821
				-	-	手根骨				1		1442	547	350	080821	
				-	-	踵骨			L	1		911	2240	一括	080819	
				-	-	踵骨			R	1		1459	787	353	080821	
				-	-	基節骨	w		?	1		998	2243	一括	080821	
				C9	P6	基節骨			?	1		2298	802	200	080814	
				P21	上顎遊離歯	P3		R	1		2296	1205	-	080924		
		P22		手根骨				1		2334	1216	-	080924			
		P22		末節骨			?	1		2334	997	-	080924			
		C11		P36	頰骨				1		2337	1212	-	080922		
			P40	基節骨			?	1		?	682	-	080922			
			-	-	中節骨	w		?	1		1067	2288	254	080818		
			-	-	中節骨	w		?	1		1139	2289	142	080812		
		C12	P6	頰骨			R	1		2099	2256	-	080922			
			P12	基節骨	(p)-d		?	1		2132	2255	-	080922			
			-	-	頰骨			L	1		1134	2268	134	080812		
			-	-	上顎遊離歯	M1/M2		L	1		1131	2211	137	080812		
		C13	-	基節骨	p		?	1		1000	2242	一括	080811			
		C13	-	末節骨			?	1		918	2280	一括	080805			
		C15	P13	下顎遊離歯	I		R	1		2139	2197	-	080909			
		D11	-	上顎遊離歯	M1/M2		L	1		1019	2210	一括	080801			
		D13	P40	上顎遊離歯	M3		L	1		2107	2230	-	080910			
			-	-	基節骨	d		?	1		2106	2277	P33	080825		
	-		-	基節骨	w		?	1		1099	2244	224	080818			
	SD09		基節骨	w		?	1		1099	2244	224	080818				
	T12	-	-	下顎遊離歯	P3		R	1		1006	2228	一括	080818			
		-	-	中節骨	w		?	1		953	2287	一括	080820			
		-	-	中節骨	w		?	1		953	2290	一括	080820			
	T13	-	基節骨	w		?	1		1096	2258	421	080822				
	ニ地区	K12	-	基節骨			?	1		762	657	-	120607			
		M10	SP6	中手骨	<d->		?	1	SF	699	665	-	120618			
			-	-	基節骨			?	1		699	656	-	120618		
		-	-	中心第4足根骨			R	1		783	888	-	120608			
		N9	-	下顎遊離歯	M1/M2		L	1		793	884	-	120608			
		-	-	距骨			R	1		794	663	-	120608			
		O8	-	脛骨	m		R	1		803	1149	-	120614			
	Q6	SP9	下顎遊離歯	I		R	1		827	891	-	120719				
	ハ地区	A9	SK04	下顎遊離歯	I		R	1		429	890	-	120713			
		SP8・7	下顎遊離歯	I		R	1		424	892	-	120713				

第112表-2. 伊礼原遺跡（国指定外）から出土したウシ・ウマ遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照.

種類	層準	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置/歯種 *	左右	数	計測 (mm)・備考 *	台帳番号	資料番号	取上番号	日付		
ウシ	III層	ハ地区	N13	-	距骨		L	1		461	659		120614		
				-	踵骨		L	1	同一個体? . CM	461	560		120614		
				-	踵骨		R	1	同一個体?	465	561		120611		
				-	中心第4足根骨		R	1		465	443		120611		
				-	中足骨	p	L	1	SF	465	667		120611		
			-	基節骨		?	1		465	662		120611			
			O13	SP19	上顎遊離歯	M2	R	1	同一個体	1026	886		120629		
					上顎遊離歯	M3	R	1	同一個体	1026	883		120629		
					中節骨		?	1		416	694		120614		
			O14	-	手根/足根骨		?	1		420	450		120607		
			P15	-	寛骨(恥骨)		L	1	幼獣・CM	479	880		120614		
			Q11	-	橈骨	d	L	1		406	449		120614		
					SK03	下顎遊離歯	M1/M2	L	1		1006	885		120626	
					SP28	基節骨		?	1		981	693		120702	
			R9	-	基節骨		?	1		526	653		120611		
					橈骨	p	R	1	SF・CM	607	552		120615		
					中手骨	w	L	1		607	549		120615		
					中心第4足根骨		R	1		607	448		120615		
					中足骨	d	?	1	SF	607	417		120615		
					中手/中足骨	(d)	?	1		607	692		120615		
					基節骨		?	1		607	618		120615		
					基節骨		?	1		607	655		120615		
					末節骨		?	1		607	453		120615		
					手根/足根骨		?	1		673	444		120615		
			S8	-	基節骨		?	1		673	661		120615		
					-	尺骨	p	R	1	CM	566	558		120615	
					-	距骨		L	1	CM	566	664		120615	
			S9	-	中足骨	p	R	1	SF	566	418		120615		
					-	基節骨		?	1		568	654		120723	
			T8	SD08	距骨		R	1	CM	445	881		120713		
			T8	SK01	橈骨	p	L	1	SD36. SF	444	551		120718		
			IV層	H19	C16	-	上/下顎遊離歯	臼歯fr	?	1		2851	1206	40	080111
					R13	-	踵骨		L	1		2907	832	149	080122
不明	H19	-	-	下顎遊離歯	M1/M2	L	1		不明	1203	不明	不明			
		-	-	距骨		R	1		不明		不明	不明			
		-	-	踵骨		L	1		不明	416		不明			
ウマ	II層	イ地区	B9	SD9?	下顎遊離歯	I	?	1		2144	2266	-	080925		
			B11	SK56	上顎遊離歯	P/M	R	1	P3 ~ M2のいずれか	2088	2219	-	080925		
		ニ地区	-	-	上顎遊離歯	P/M	L	1	P3 ~ M2のいずれか	1133	2207	108	080811		
			-	-	下顎骨	前方部fr	R	1		939	666		120606		
	III層	イ地区	A11	-	距骨		L	1		1094	2234	-	080822		
			A12	-	下顎遊離歯	I	?	1		1111	2237	-	080813		
			A12	-	基節骨		?	1		1452	1202	369	080821		
			B10	SK54	基節骨		?	1		1431	697	-	080828		
			B11	-	下顎骨	[I1x I2 I3 C]	L	1	♂	1439	1211	322	080821		
			B12	-	中節骨		?	1		1446	937	352	080821		
			C9	-	上顎遊離歯	P/M	R	1	P3 ~ M2のいずれか	989	2218	一括	080811		
					上顎遊離歯	P/M	R	1	P3 ~ M2のいずれか	906	2217	一括	080808		
					P3	中手骨	p-m	R	1		2297	848	-	080827	
			C11	-	P6	下顎骨	関節突起	L	1		2306	1209	-	080919	
					-	手根/足根骨		?	1		2306	982	-	080919	
					P21	基節骨		?	1		2296	907	-	080924	
					P40	上顎遊離歯	P/M	R	1	P3 ~ M2のいずれか	2102	2220	-	080912	
						第2/4中手/中足骨		?	1		2101	2121	-	080922	
					-	下顎遊離歯	I	?	1		1112	2251	-	080812	
			C12	-	下顎遊離歯	dm1	R	1		951	2229	一括	080818		
					上顎遊離歯	P/M	L	1	P3 ~ M2のいずれか	1141	2208	135	080812		
					中足骨	d	?	1		1118	2232	-	080812		
					中手/中足骨	d	?	1		1458	773	386	080821		
					基節骨		?	1		1448	892	382	080821		
					D13	SK47	基節骨	(p)	?	1		2090	2032	-	080919
			T12	SK	下顎骨	[I1x P2 P3 P4 M1 M2 M3]	L	1	切歯2本あり	1987	1150	312	080820		
					脛骨	d	L	1		1080	2250	290	080820		
			ニ地区	-	M10	-	手根/足根骨		?	1		783	660		120608
					O9	-	下顎骨	関節突起	R	1	CM	798	1144		120608
					Q7	-	基節骨		?	1		936	445		120615
			ハ地区	-	N13	SK01	膝蓋骨		R	1		911	452		120702
	N14	-			上顎遊離歯	P/M	L	1	P3 ~ M2のいずれか	468	882		120607		
	N15	SK01			下顎遊離歯	P/M	L	1	P3 ~ M2のいずれか	990	894		120608		
	Q11	中手骨			p	R	1	CM	406	563		120614			
		中節骨				?	1		641	451		120614			
	Q12	SP12			中手骨	p	R	1	SF	979	562		120703		
					上顎遊離歯	P2	L	1		607	893		120615		
	R9	-			大腿骨	<d->	L	1		607	1151		120615		
					中足骨	d	R	1	SF	607	668		120615		
					基節骨		?	1		607	448		120615		
	S8	-	上/下顎遊離歯	切歯	?	1		673	895		120615				
	S9	-	上顎遊離歯	P/M	L	1	P3 ~ M2のいずれか	685	887		120615				

第112表-3. 伊礼原遺跡（国指定外）から出土したウシ・ウマ遺体.

* 残存位置凡例は第109・110表を参照.

種類	層準	地区	グリッド	遺構	部位	残存位置/歯種 *	左右	数	計測 (mm)・備考 *	台帳番号	資料番号	取上番号	日付	
ウマ	Ⅲ層	ハ地区	T9	SP1	第2/4中手/中足骨		?	1		441	422		120717	
			T9	-	踵骨		R	1		573	691		120615	
	Ⅳ層	H19	R12	-	下顎遊離歯	M3	R	1		2888	1210	143	080122	
			R15	-	手根/足根骨		?	1		1756	952	一括	080307	
ウシ/ウマ	Ⅱ層	イ地区	B11	-	大腿骨	d	?	1		1148	2300	106	080811	
			-	-	大腿骨	d	?	1		1148	2300	106	080811	
			-	-	肋骨	m	?	1		1476	668	70	080808	
			C10	-	肋骨	m	?	1		1482	623	74	080811	
			C13	-	肋骨	m	?	1		1464	608	83	080811	
			C18	-	大腿骨	d	?	1		2791	878	-	081212	
			K12	-	手根/足根骨		?	1		857	446		120607	
			L11	-	四肢骨	m	?	1	CM. ウシ幼獣機骨?	742	1148		120607	
			A14	-	肋骨	m	?	1		2752	593	一括	080109	
			B17	P32	肋骨	m	?	1		4223	2189	-	080204	
		R13	P3	肋骨	m	?	1		4333	893	-	080208		
		S14	P28	肋骨	m	?	1	焼?	4217	2224	-	080225		
		S15	-	肋骨	m	?	1		2710	563	一括	080117		
		T14	P13	椎骨	棘突起	-	1		4228	2278	-	080207		
		イ地区	H19	A11	-	手根/足根骨		?	1		1013	2223	一括	080822
				-	-	肋骨	m	?	1		999	2221	一括	080822
				-	-	肋骨	m	?	1		1013	2190	一括	080822
				-	-	椎骨	椎体	-	1		958	2276	一括	080814
				-	-	椎骨	棘突起	-	1		1081	2279	242	080818
				P9	-	肋骨	m	?	1		2321	548	-	080912
	P26			-	肋骨	m	?	1		2320	533	-	080922	
	-			-	椎骨	棘突起	-	1		935	2297	一括	080820	
	-			-	四肢骨	m	?	1		1104	2310	304	080820	
	-			-	肋骨	m	?	1		956	2309	一括	080911	
	B12		-	頸椎		-	1		1005	2253	一括	080821		
	-		-	肋骨	m	?	1		1456	518	349	080821		
	P21		-	肋骨	m	?	1		2300	713	-	080827		
	P23		-	胸椎	棘突起	-	1		2314	908	196	080814		
	-		-	大腿骨	d	?	1		978	2301	一括	080811		
	P1		-	胸椎	棘突起	-	1		2295	667	-	080922		
	P3		-	肋骨	m	?	1		2297	578	-	080827		
	P21		-	肋骨	p	?	1		2296	1219	-	080924		
	P22		-	肋骨	m	?	1		2333	938	-	080828		
	P24		-	胸椎		-	1		2332	967	-	080924		
	P40		-	胸椎		-	1		2101	2198	P40	080922		
	-		-	頸椎	棘突起	-	1		1454	1200	319	080820		
	-		-	肋骨	p	?	1		947	2282	一括	080813		
	P22		-	肋骨	m	?	1		2137	2225	-	080922		
	P27		-	肋骨	m	?	1		2134	2227	-	080919		
	P34		-	肋骨	m	?	1		2094	2188	-	080828		
	-		-	大腿骨	d	?	1		1118	2295	130	080812		
	-		-	大腿骨	d	?	1		1000	2303	一括	080811		
	-		-	肋骨	m	?	1		1149	2222	131	080812		
	D13		SK43	尺骨	滑車切痕	R	1	幼獣	2090	2068	-	080919		
	SK47		-	肋骨	m	?	1		2090	2187	-	080919		
	T11		-	橈骨	d	R	1		970	2270	一括	080821		
	-		-	側頭骨	岩様部		1		1100	2283	245	080818		
	-		-	肋骨	m	?	1		1074	2186	294	080820		
	ニ地区		H19	K11	SP2・3・4	側頭骨	岩様部		1		733	414		120623
				SP54	-	肋骨	m	?	1		749	1275		120625
				-	-	肋骨	m	?	1		873	1280		120619
				-	-	肋骨	m	?	1		791	1276		120607
				-	-	肋骨	m	?	1		791	1140		120607
				P7	SP26	肋骨	m	?	1		666	1273		120718
		P8		-	仙椎		-	1		864	1145		120623	
		Q6		SP08	肋骨	m	?	1		205	1278		120819	
		A9		SK04	腰椎		-	1		430	695		120717	
		-		-	肋骨	m	?	1	CM	429	455		120713	
		N13	-	肋骨	m	?	1		646	1141		120611		
		O13	-	手根/足根骨		?	1	焼	487	419		120607		
		ハ地区	Q11	SP29	-	肋骨	p	?	1	CM	1075	1147		120626
				SP29・30	-	肋骨	m	?	1		967	1142		120702
				-	-	肋骨	p	?	1		406	889		120614
				-	-	肋骨	m	?	1	CM	406	454		120614
			Q12	SP67	肋骨	m	?	1		1007	1279		120626	
			-	-	肋骨	p	?	1	CM	526	1146		120611	
			R11	SP42	肋骨	m	?	1		1055	1277		120706	
			R12	SP21	四肢骨	m	?	1		1044	1160		120705	
	S8		-	肋骨	m	?	1	CM	673	1137		120615		
	-		-	肋骨	m	?	1		673	1138		120615		
	S10	SP1	四肢骨	m	?	1	ウシ幼獣機骨?	438	1150		120702			
	S11	SP10	肋骨	m	?	1		442	1274		120712			
	T8	SK01	頸椎	椎体	-	1	幼獣	444	879		120718			
	T10	SK01	肋骨	m	?	1		449	1139		120713			

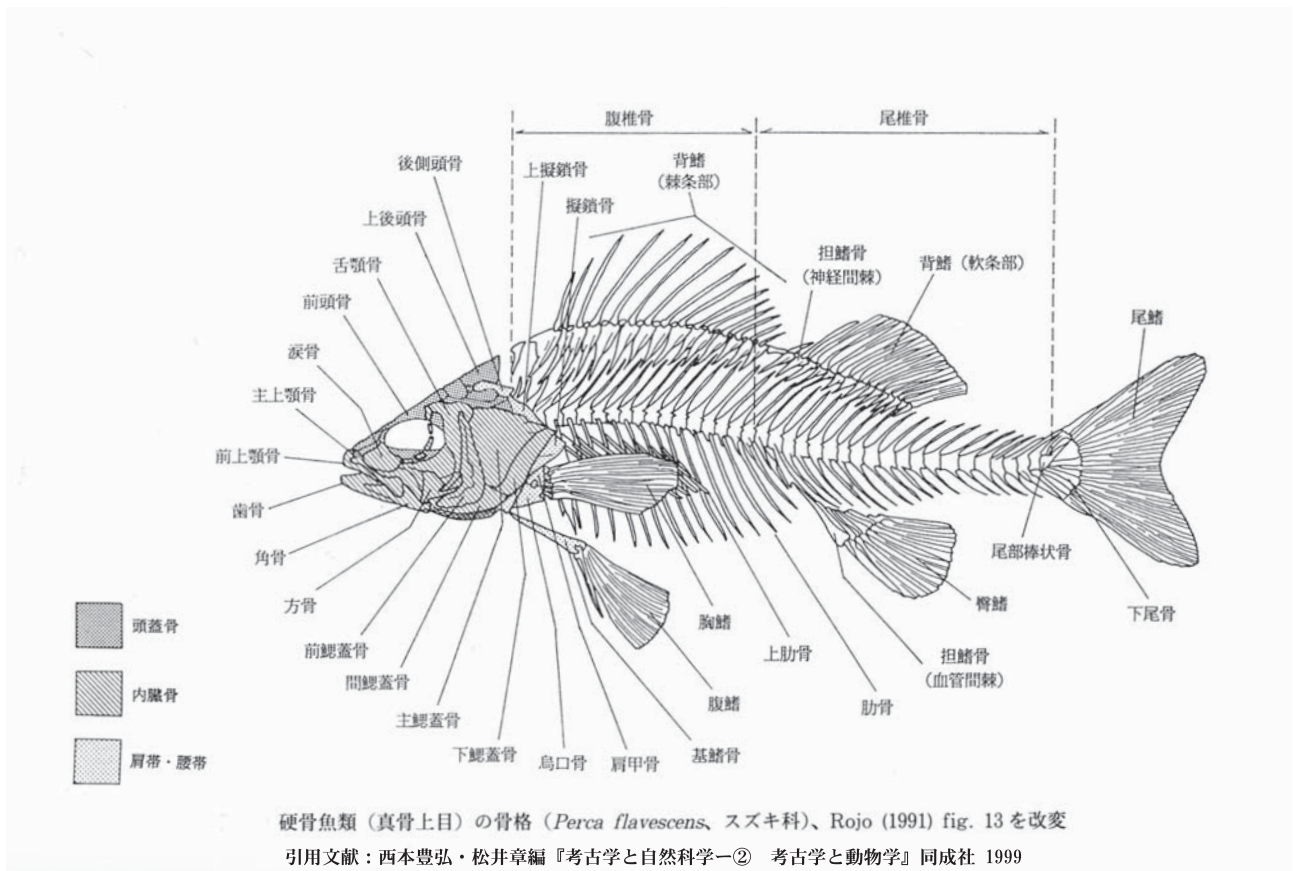
第113表 伊礼原遺跡（国指定外）から出土した海獣類遺体。

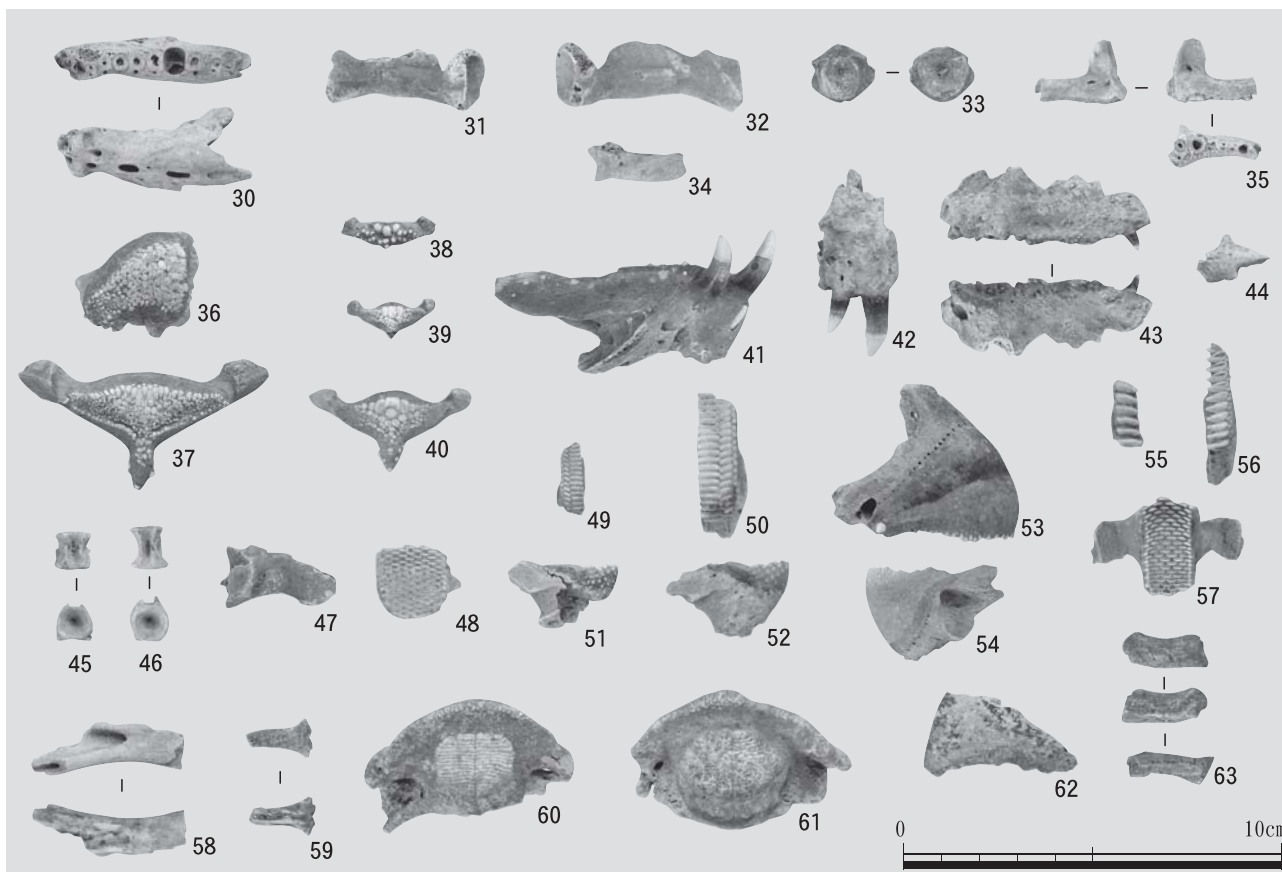
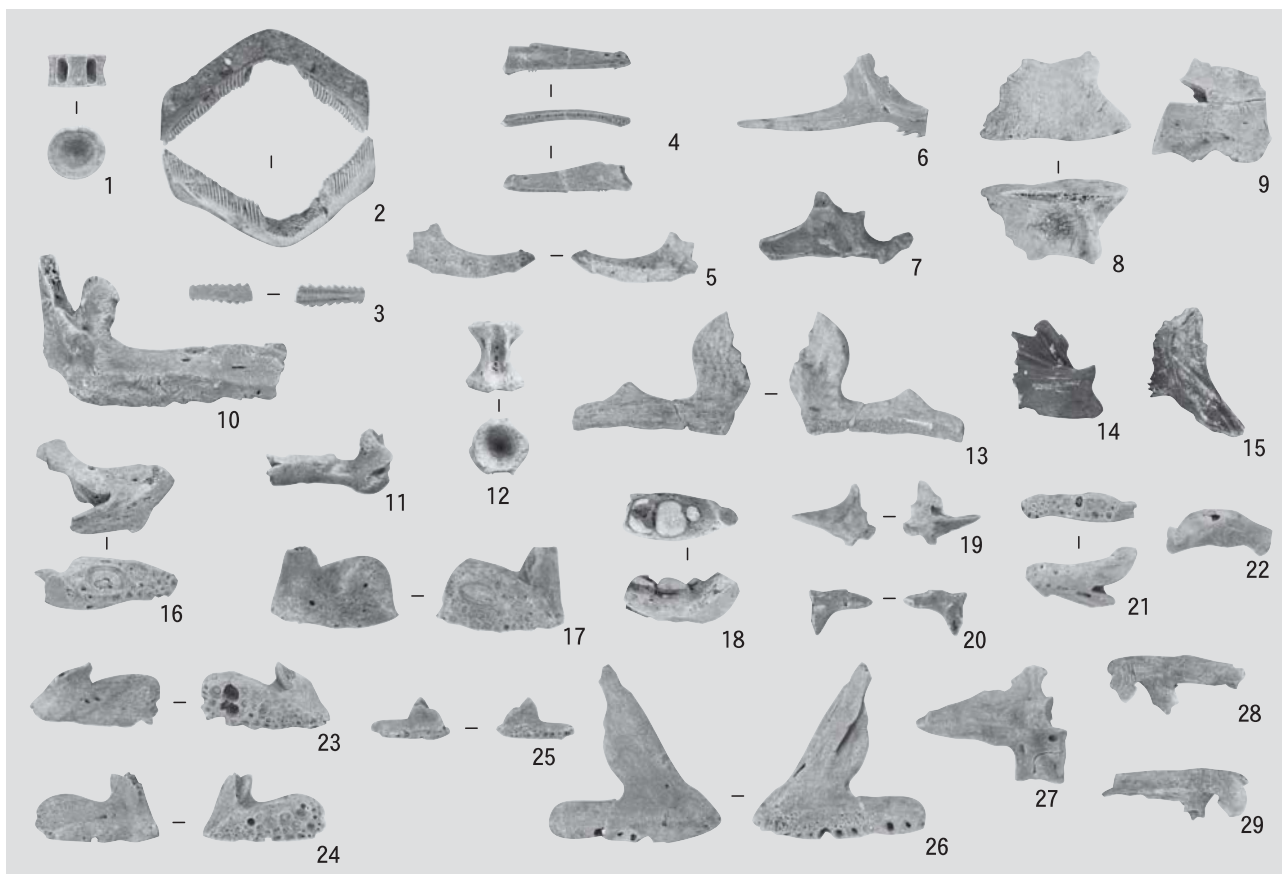
* 残存位置凡例は第109・110表を参照。

種類	層準	地区	クワット	遺構	部位	残存位置	左右	N	備考	台帳番号	資料番号	取上番号	日付	
ジュゴン	II層	H19	B12	-	頬骨		R	1		1144	2298	121	08????	
			Q17	-	不明	fr	?	1		2509	1194	一括	080121	
			S13	SD02	肋骨	m	?	1		2648	1159	-	080214	
		イ地区	C13	-	上顎骨	fr	R	1		1479	1158	16	080807	
			ニ地区	P8	-	上腕骨	m-d	L	1		859	555		120607
		-		-	肋骨	<p>-<d>	?	1		859	876		120607	
		-		-	肋骨	m	?	1		946	844		120604	
		III層	H19	B18	-	椎骨	椎体	-	1		2792	953	-	080205
				T13	-	不明	fr	?	1		2590	1195	一括	080111
				-	-	肋骨	m	?	1		4273	2299	P12	-
	ニ地区		N9	-	椎骨	椎体	-	1		795	814		120611	
			O8	SX01	頸椎		-	1		632	605		120629	
	ハ地区		M14	-	-	肋骨	m	?	1		403	846		120608
				SP7	-	頸椎		-	2		998	607		120620
				N14	-	肋骨	d	?	1		460	816		120611
			N15	-	-	肋骨	m	?	1		587	854		120607
				P11	SP17	-	不明	fr	?	1		943	609	
			SP22		-	頭骨	fr	?	1		1023	566		120702
			Q11	SP44	-	頭骨	fr	?	1		969	565		120704
			Q12	-	肋骨	m	?	1		521	847		120611	
			R11	SK01B	-	肋骨	m	?	1		1083	850		120704
				SK72	-	肋骨	<p>	?	1		1085	553		120629
				-	-	肋骨	<p>	?	<1>		SK72資料553と接合	610	553	
			S10	SP17	-	肋骨	m	?	1		454	843		120712
			H19	B15	-	椎骨	棘突起	-	1		2723	1191	一括	080130
				Q17	-	肋骨	m	?	1		3191	1160	一括	080121
				R12	-	肋骨	p-m	?	1		2626	1153	278	080220
	R17	-		不明	fr	?	1		2613	1193	一括	080123		
	S12	-		肋骨	p-m	?	1		2619	1154	239	080207		
	S13	-		-	椎骨	椎体	-	1		2628	1152	253	-	
		-		-	肋骨	p-m	?	1		2614	1155	245	080207	
	T13	-		後頭骨	右後頭顆	-	1		2026	1199	28	080111		
	T14	-		不明	fr	?	1		2593	1196	一括	080116		
	T17	-		不明	fr	?	1		2652	1192	一括	080121		
	イ地区	C15		-	-	下顎骨	ほぼ完全	R	1		1481	1151	19	080808
				-	-	臼歯	?	1		930	2247	一括	080806	
	ニ地区	N9		-	-	肋骨	m	?	1		816	845		120611
				SP13	-	頸椎		-	<1>		III層N14P07資料607と接合	555	607	
		O8		-	-	頸椎		-	1		807	606		120723
			-	-	肋骨	<p>-<d>	?	1		819	877		120704	
		P8	-	-	頸椎		-	<1>		IV層O8資料606と接合	863	606		120711
			-	-	頸椎		-	1		864	604		120623	
		P9	-	-	頸椎		-	<1>		III層N14P07資料607と接合	926	607		120706
			-	-	頸椎		-	<1>		IV層P8資料604と接合	926	604		120706
		ハ地区	O12	-	-	下顎骨		R	1		488	550		120615
				-	-	切歯骨		L	1		535	557		120705
				-	-	切歯骨		R	1		534	556		120622
			P11	-	-	肋骨	p-<d>	?	1		178	878		120706
				-	-	前頭骨+切歯骨		?	1		528	564		120706
			Q11	-	-	肋骨	w	?	1		171	546		120706
				-	-	肋骨	m	?	1		410	849		120705
	Q12		-	-	肋骨	w	?	1		170	545		120706	
			-	-	肋骨	w	?	1		173	547		120706	
	R10		-	肋骨	m	?	1		608	852		120724		
	R11		-	肋骨	m	?	1		627	853		120705		
	R12		-	環椎	fr	-	1		545	817		120621		
	S10		-	肋骨	m	?	1		576	848		120615		
	S11		-	-	肋骨	<p>	?	+		3層R11SK72資料553と接合	571	553		120711
			-	-	肋骨	p	?	1		552	815		120712	
	T10	-	-	肋骨	m	?	1		552	855		120712		
		-	-	肋骨	m	?	1		552	851		120712		
		-	-	頭頂骨		L+R	1		515	559		120706		
	イルカ	IV層	H19	R14	-	椎骨	椎体	-	2		2536	2285	一括	080116
			ハ地区	S11	-	椎骨		-	1		564	813		120725
	クジラ	V層 表採	H19	A1	Eトゾ	椎骨	椎体	-	1		4280	1491	520	080313
				-	-	不明	fr	?	1		2871	654	一括	071223
	クジラ?	III層	ニ地区	M11	-	不明	fr	?	1		788	934		120607
				N9	-	椎骨	fr	-	1		796	658		120611
	海獣類?	III層	イ地区	C11	P21	肋骨	fr	?	1		2296	727	-	080924
		III層	ハ地区	Q12	SP42	椎骨		-	1		986	427		120626
		IV層	ニ地区	O8	SP21	不明		-	1		654	548		120629

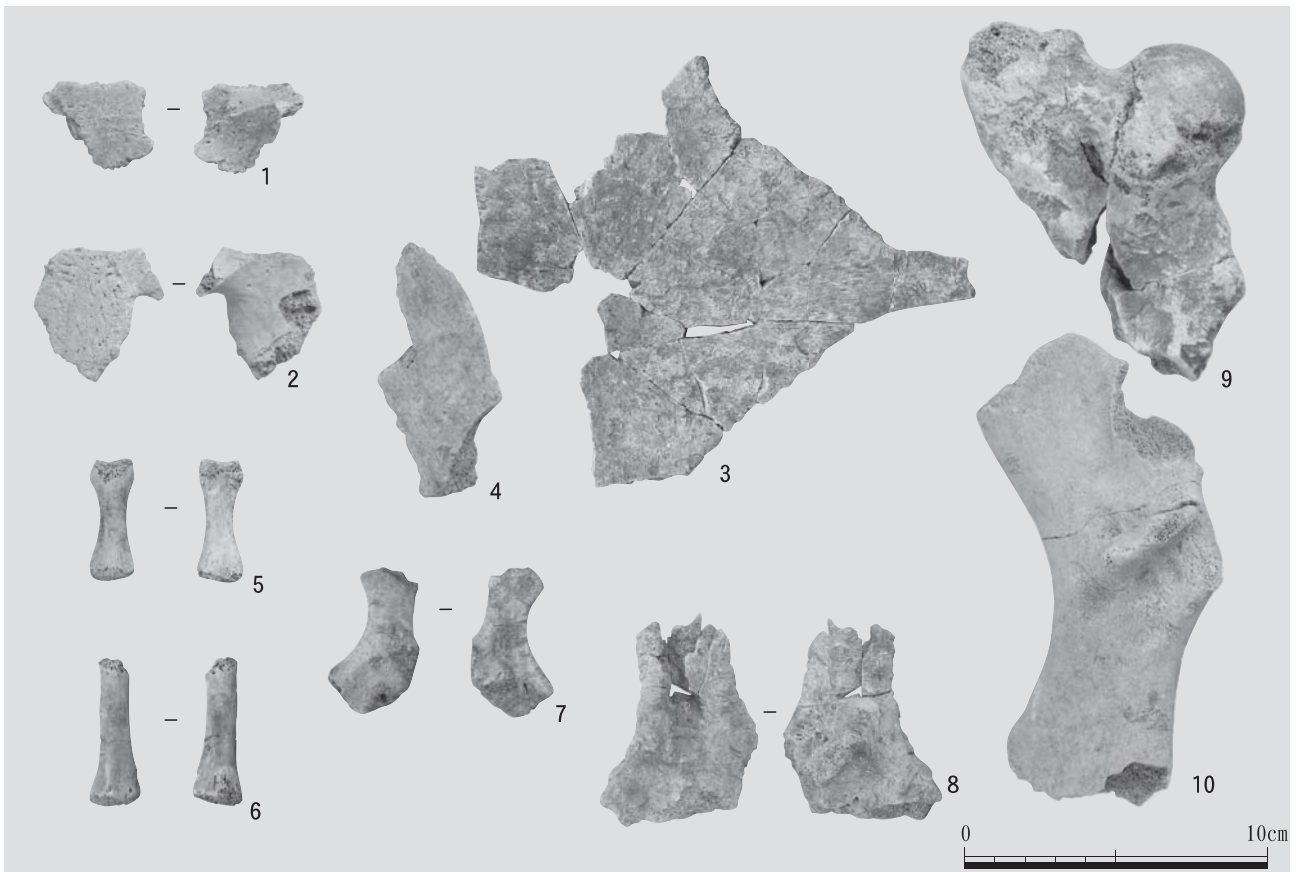
サメ類(メジロザメ型) - 1椎骨 トビエイ科 - 2歯 エイ目 - 3尾棘 アナゴ科 - 4歯骨(L) ウツボ科 - 5歯骨(R)
 イットウダイ科 - 6前鰓蓋骨(R) アジ科(大型種) - 7角骨(R) 8稜鱗 9歯骨(R) 10前上顎骨(L) 11主上顎骨
 (L) 12尾椎 13アジ科(イトヒキアジ型) - 13前上顎骨(R) ハタ科 - 14角骨(L) ハタ科(マハタ型) - 15前鰓蓋
 骨(R) ヘダイ - 16歯骨(R) 17前上顎骨(L) ヨコシマクロダイ - 18歯骨(R) クロダイ属 - 19角骨(R) 20口蓋骨(R)
 21歯骨(L) 22主上顎骨(R) 23前上顎骨(L) 24前上顎骨(R) フエフキダイ属(アマミフエフキ型) - 25前上顎骨
 (R) フエフキダイ属(ハマフエフキ型) - 26前上顎骨(R) フエフキダイ科 - 27角骨(L) 30歯骨(L) 31主上顎骨
 (L) 32主上顎骨(R) 33第1椎骨 フエフキダイ属 - 28口蓋骨(L) 29口蓋骨(R) 34方骨(R) フエダイ科 - 35前上顎
 骨(L) ベラ科(シロクラベラ型) - 36上咽頭骨(R) 37下咽頭骨 ベラ科A - 38下咽頭骨 ベラ科B - 39・40下咽頭骨
 ベラ科 - 41歯骨(R) 42前上顎骨(R) 43前上顎骨(L) 44角骨(R) ブダイ科 - 45腹椎 46尾椎 47主上顎骨(R) イ
 ロブダイ属 - 48下咽頭骨 49上咽頭骨(L) 50上咽頭骨(R) 51・52歯骨(R) アオブダイ属 - 53前上顎骨(R) 54歯骨
 (L) 55上咽頭骨(L) 56上咽頭骨(R) 57下咽頭骨 モンガラカワハギ科 - 58腰帯 59背鰭棘 ハリセンボン科 - 60
 歯骨 61前上顎骨 フグ科 - 62前上顎骨または歯骨 コチ科 - 63歯骨(L)

第四章

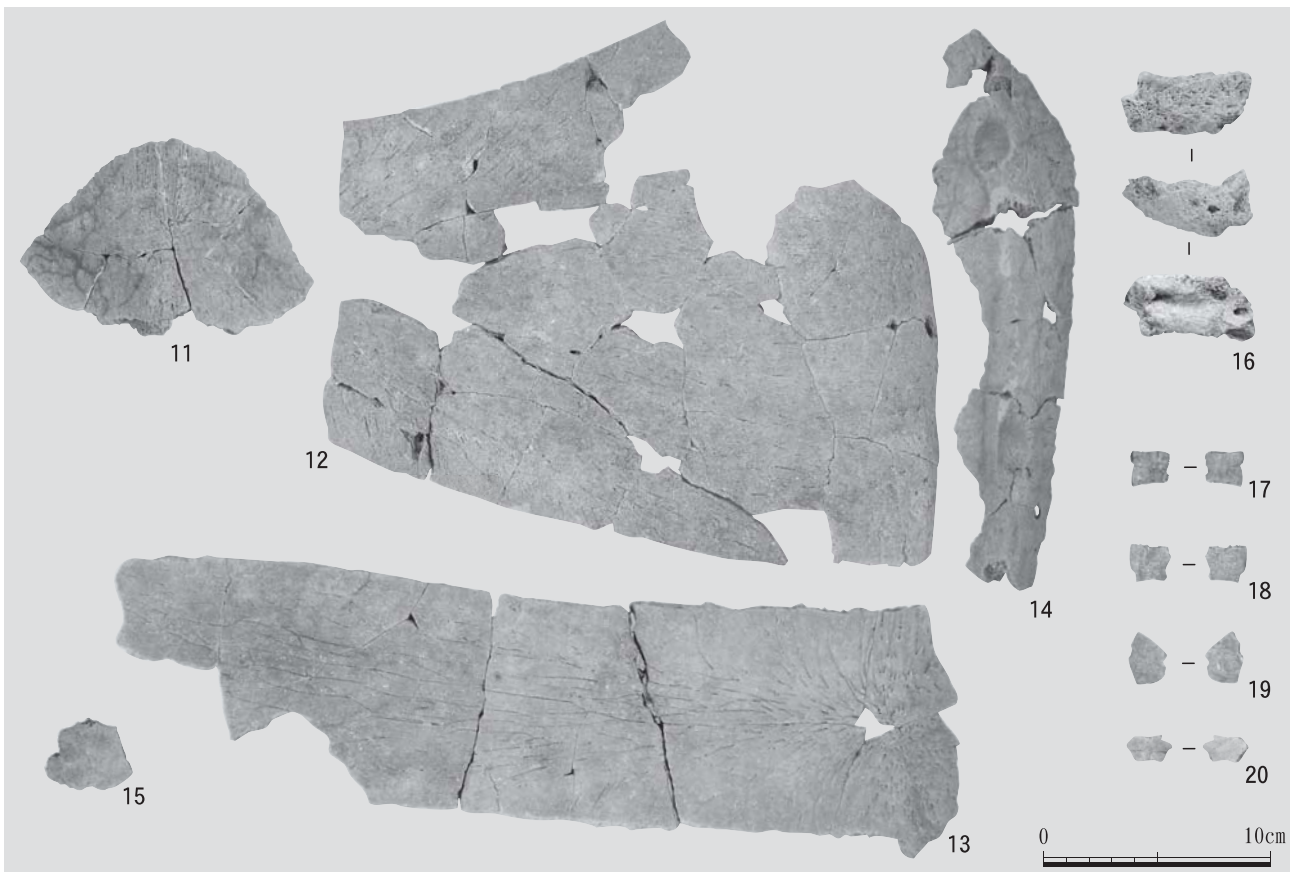




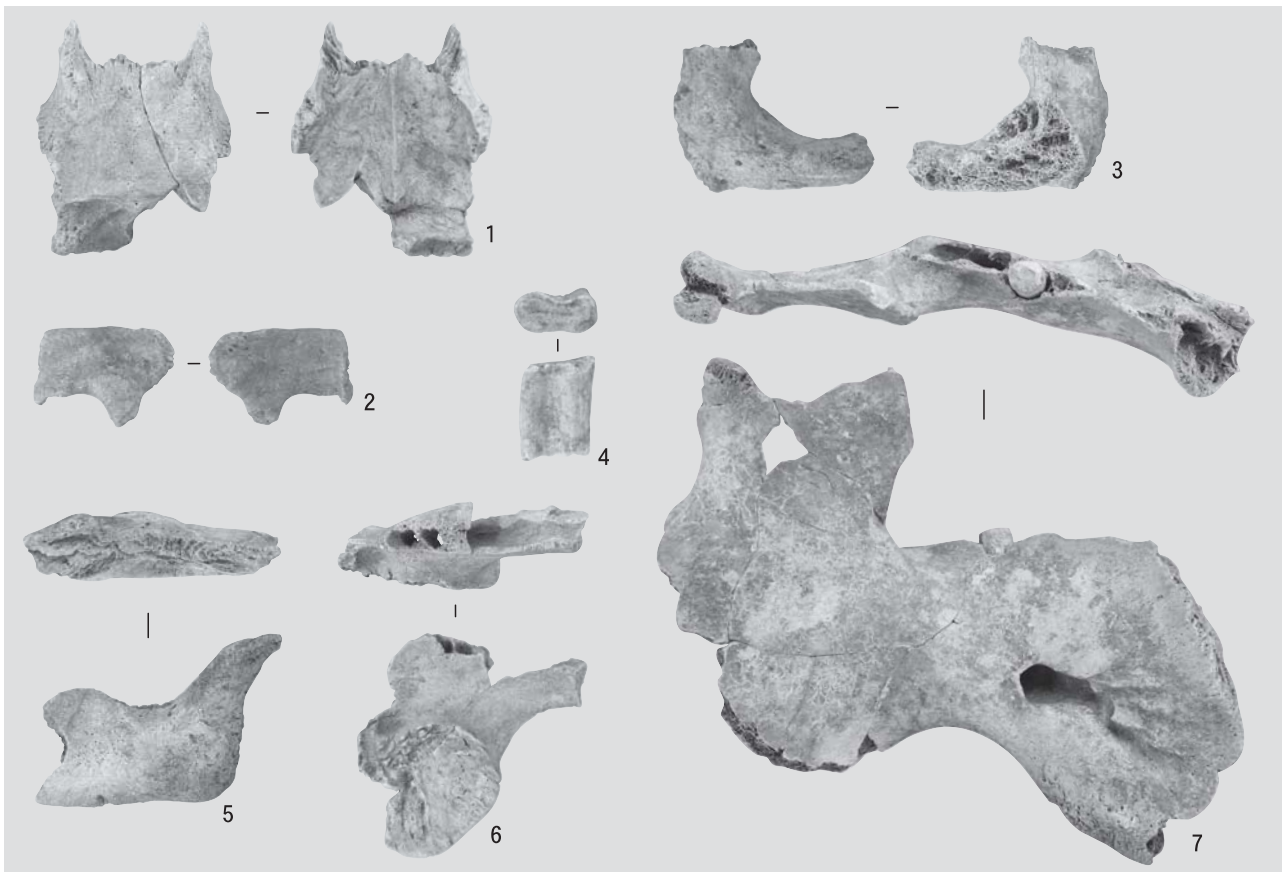
図版139 脊椎動物遺体 1 (魚類)



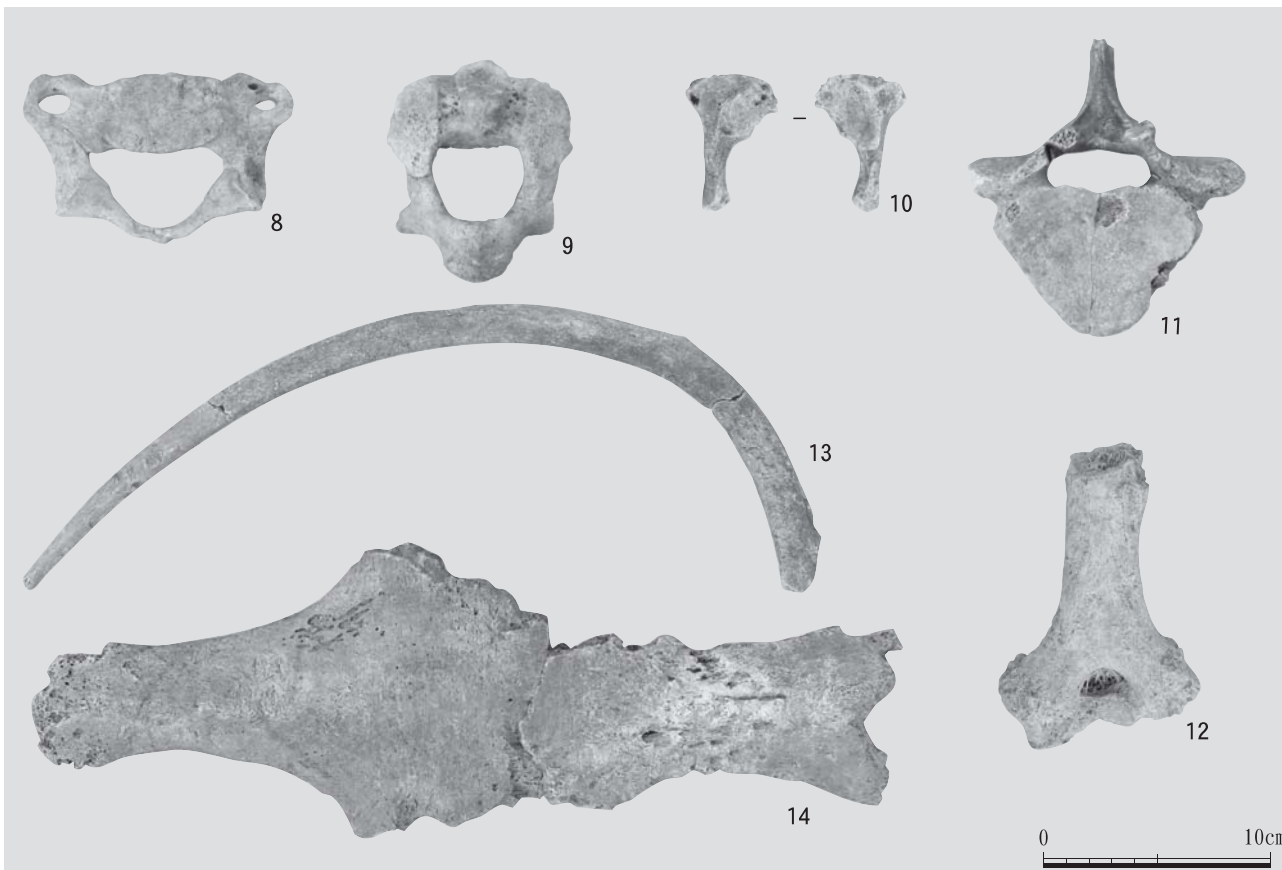
ウミガメー 1 前頭部 2 後眼窩骨 3 腹甲板 4 剣状腹板 (L) 5・6 指骨 7・9・10 上腕骨 (L) 8 上腕骨 (R)



ウミガメー 11 椎骨板 12 肋骨ー縁甲板 13 肋骨板 14 縁甲板 15 臀骨板
 アオウミガメー 16 歯骨 リクガメー 17 腹腔板 18 剣状腹板 (L) 19 剣状腹板 (R) 20 椎骨板ー最後部
 図版140 脊椎動物遺体 2 (上:ウミガメ・下:ウミガメ、アオウミガメ、リクガメ)



1 頭頂骨 (R・L) 2 後頭骨 3 頬骨 (R) 4 臼歯 5 切歯骨 (R・L) 6 下顎骨 (R) 7 下顎骨

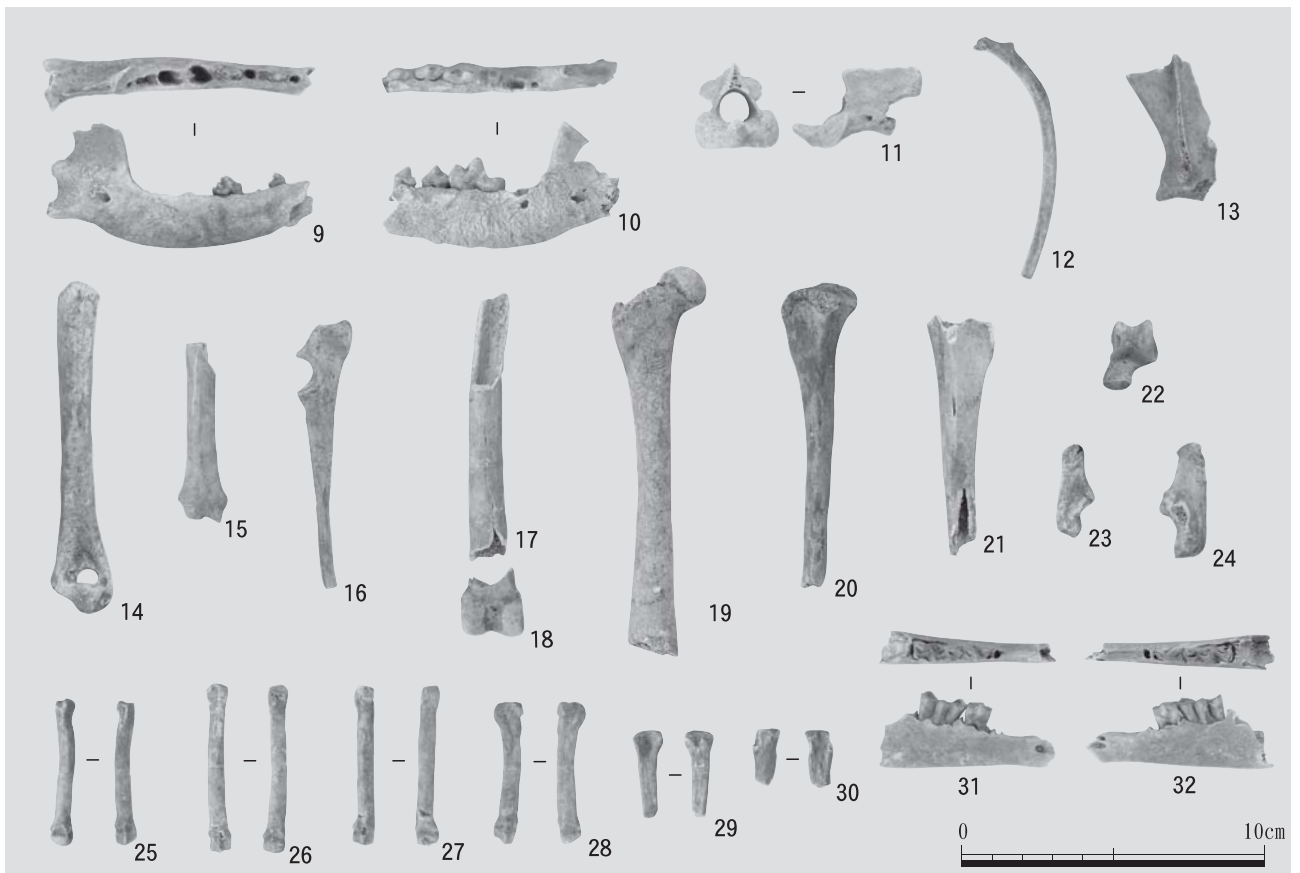


8・9 頸椎骨 10 環椎骨 11 椎骨 12 上腕骨 (L) 13 肋骨 14 ジュゴン? 部位不明

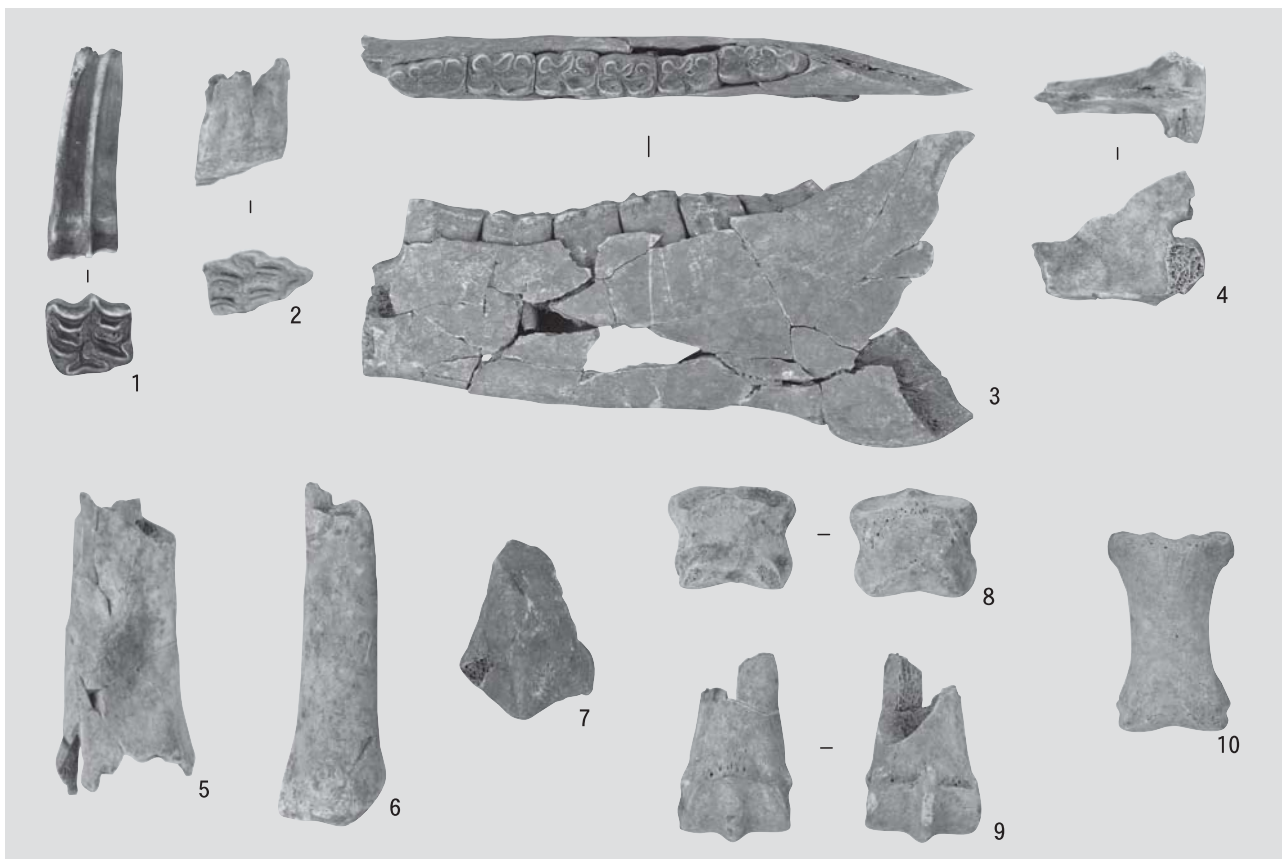
図版141 脊椎動物遺体3 (ジュゴン)



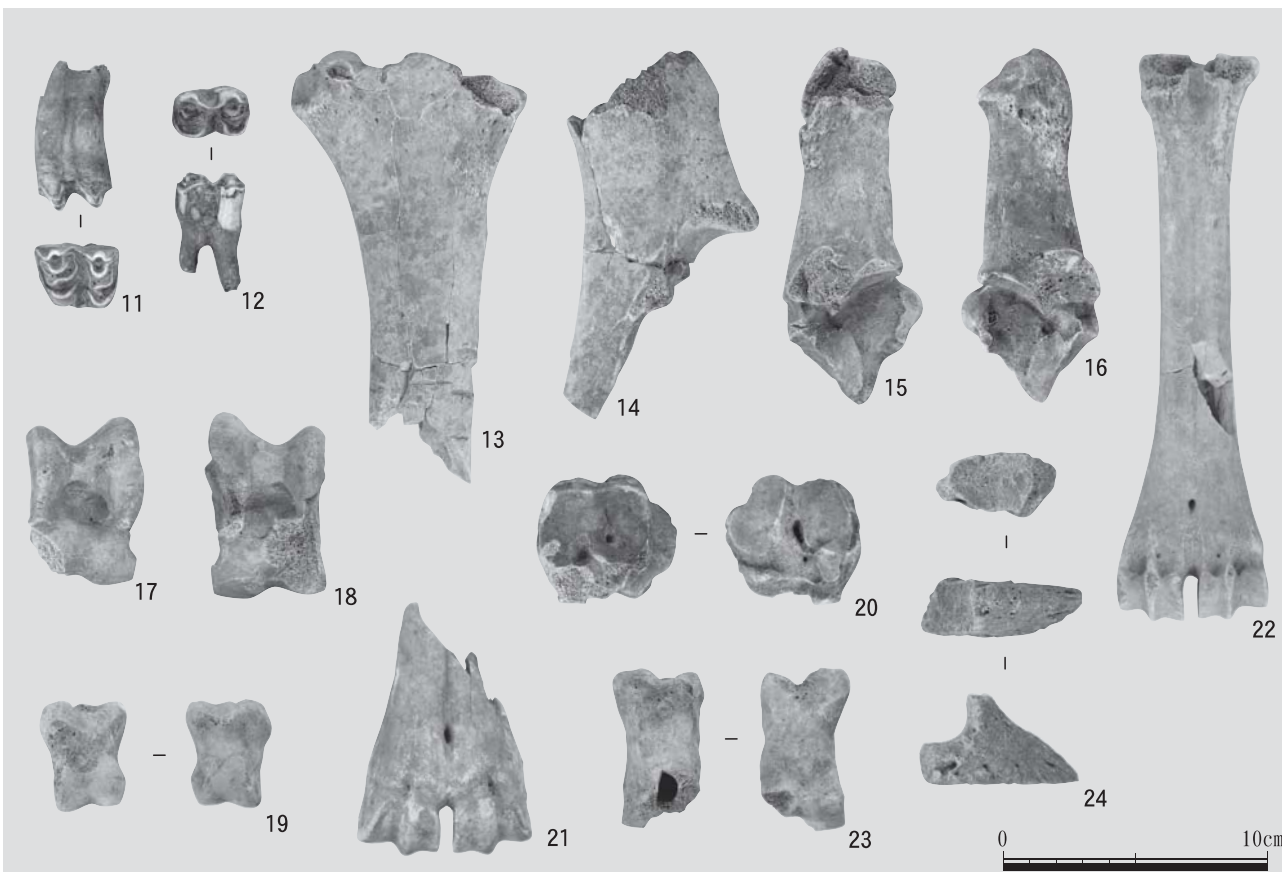
イルカ類-1 椎骨 クジラ-2・3 椎骨 海獣?-4 肋骨 ヘビ類-5 椎骨
ニワトリ-6 大腿骨 (R) 鳥類-7 四肢骨 ネズミ-8 大腿骨 (R)



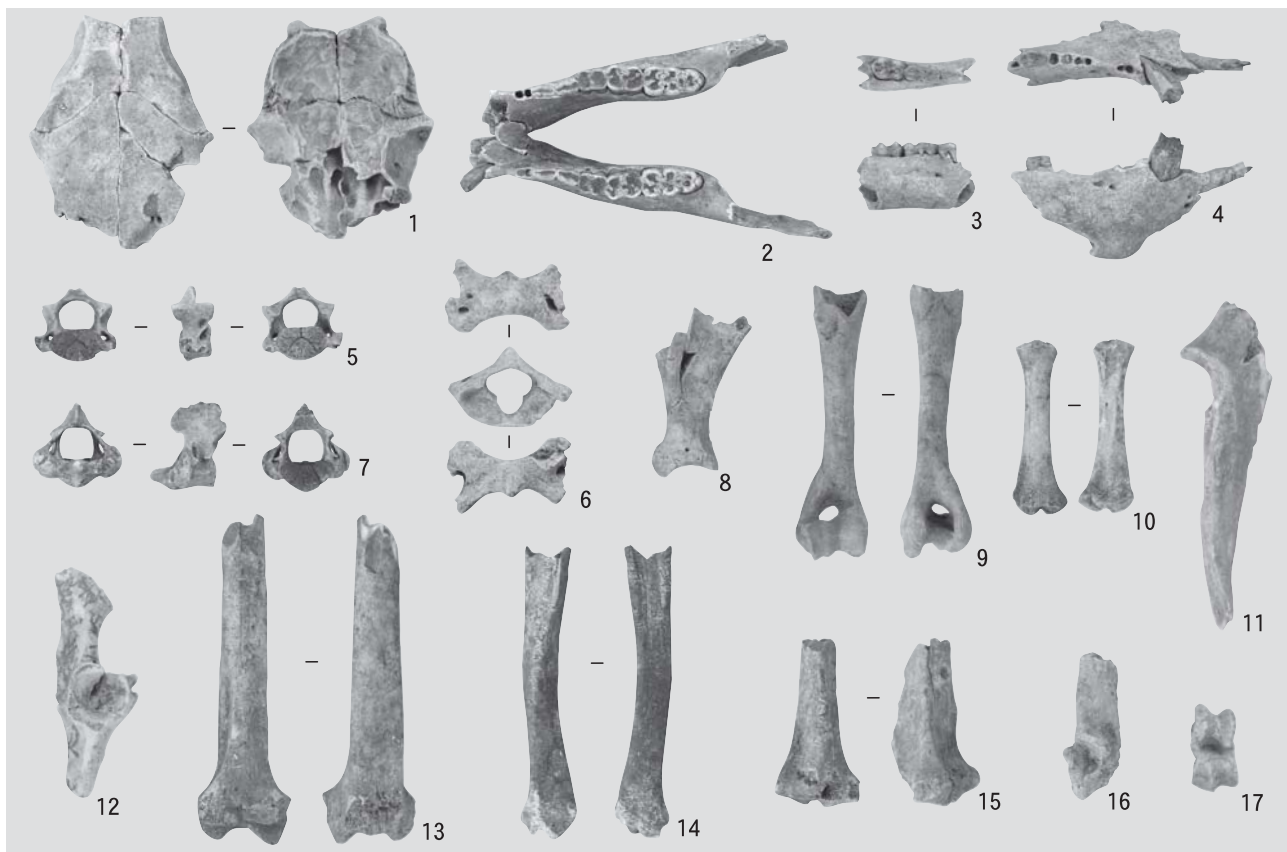
イヌ-9 下顎骨 (L) 10 下顎骨 (R) 11 軸椎 12 肋骨 13 肩甲骨 (L) 14 上腕骨 (L) 15 橈骨 (R) 16 尺骨 (R)
17・18 大腿骨 (L) 19 大腿骨 (R) 20 脛骨 (L) 21 脛骨 (R) 22 距骨 (L) 23 踵骨 (L) 24 踵骨 (R) 25 第2中手骨
26 第3中手骨 27 第4中手骨 (L) 28 第5中手骨 (L) 29 第3中足骨 (L) 30 第4中足骨 (L) ヤギ-31 歯骨 (R) 32 歯骨 (L)
図版142 脊椎動物遺体4 (上:イルカ、クジラ、海獣?、ヘビ、ニワトリ、鳥類、ネズミ・下:イヌ、ヤギ)



1 上顎骨 (L/P or M) 2 上顎骨 (L/P S) 3 下顎骨 (L) 4 下顎骨 - 関節突起 (R) 5 大腿骨 (L)
6 中手骨 (R) 7 膝蓋骨 8 中節骨 9 中足骨 (R) 10 基節骨



11 上顎骨 (R) 12 下顎骨 (L) 13 橈骨 (R) 14 尺骨 15 踵骨 (L) 16 踵骨 (R) 17 距骨 (L)
18 距骨 (R) 19 中節骨 20 中心第4足根骨 (R) 21 中手骨 22 中足骨 (L) 23 基節骨 24 末節骨
図版143 脊椎動物遺体5 (上:ウマ・下:ウシ)



1 頭骨 (前頭骨+頭頂骨 L・R) 2 下顎骨 (R・L・ヌ) 3 下顎骨 (R) 4 下顎骨 (R・ヌ) 5 頸椎骨 6 環椎骨 7 軸椎骨 8 肩甲骨 (L)
9 上腕骨 (R) 10 橈骨 (L) 11 尺骨 (R) 12 寛骨 (L) 13 大腿骨 (L) 14 脛骨 (L) 15 脛骨 (R) 16 踵骨 17 距骨 (R)



18 中節骨 19 第2中手骨 (L) 20 第3中手骨 (L) 21 第3中足骨 (L) 22 第4中足骨 (L) 23 基節骨 24 末節骨
イノシシ or ブタ類—25 下顎骨 (犬歯) 26 上顎骨切歯 27 下顎骨切歯 28 肩甲骨 (R) 29 上腕骨 (R) 30 橈骨 (R) 31 尺骨
32 寛骨 (L) 33 大腿骨 (L) 34 脛骨 (R) 35 脛骨 (L) 36 踵骨 (L) 37 距骨 (R) 38 末節骨 ブタ類—39 環椎骨
図版144 脊椎動物遺体6 (上:イノシシ・下:イノシシ、イノシシorブタ、ブタ)

第2節 伊礼原遺跡（国指定外）・伊礼原A遺跡の調査で得られた貝類遺体

黒住耐二（千葉県立中央博物館）

伊礼原遺跡は沖縄島中部西岸・北谷町に位置する沖縄貝塚時代の国指定史跡である。周辺は、米軍基地返還に伴って大面積の多くの発掘調査が行われており、伊礼原遺跡のハイガイを含む前Ⅱ期から、周辺の遺跡において戦前までの様々な時代の貝類遺体が報告されている（例えば黒住、2007, 2008等）。

今回、伊礼原遺跡の国指定外地域および伊礼原A遺跡の広範囲な面積から貝類遺体のサンプリングが行われた。ここでは、その結果を報告する。報告に先立ち、遺跡および遺物の検討の機会を与えて頂いた北谷町教育委員会の島袋春美・山城安生・東門研治の各氏、大量の貝類遺体の同定・集計・入力を行って頂いた資料室の方々に御礼申し上げる。

対象サンプルと調査地点について

今回の報告対象サンプルは、伊礼原遺跡の国指定外地域では平成19年度調査、平成20年度のイ地区、平成24年度のハ・ニ両地区のものを、伊礼原A遺跡では平成20年度のロ地区から、発掘中に目視で確認されたもの（ピックアップ資料）のみである。このサンプルでは、通常殻よりもフタの方が多いチョウセンサザエで殻が極めて多く採集されており、フタサイズの2 cm程度よりも小さな貝類は取上げられていないことも想定される。ただ、複数年度にわたる調査でも、傾向は同様であり、今回の報告分に関しては、各地区間の比較に大きな影響は与えないと考えた。

得られた貝類は種の同定・出土部位・生死等を記録して、各グリッドの包含層および遺構ごとに集計された。報告者は、大部分の種の同定を行い、一部の誤同定と考えられる種に関しては沖縄の類似種に修正した。この膨大なデータを、今回は時間的な都合で、従来の最少個体数（MNI）ではなく、同定標本数（NISP）として処理した。同定標本数の場合、チョウセンサザエ等は殻とフタ・破片が、二枚貝では左右殻と破片が、それぞれ1として集計され、破片の多くなる大形種や二枚貝で、最少個体数よりも過大評価となってしまう。ただ、今回のデータ間での比較には大きな影響を与えないと考えられる。

今回の報告に際し、平成19年度調査区では、これまで貝類遺体組成の報告の少なかった後1期初頭の阿波連浦下層土器がまとまって出土し、後続の浜屋原式土器もおよそ同一地点に集中しており（第37図）、これらをイ地区浜屋原主体区と表記・区別した。同様に19年度調査区の陸よりのグリッドでは大当原式土器が多く、これらはハ地区と連続するものと捉え、ハ地区のデータに組み込んだ。平成20年度のイ地区の大部分は、イ地区海側と表記し、まとめたが、一部は他の地区に組み込んだ。第115表に、調査時と本報告の対応を示した。なお、ニ地区は過去に報告された伊礼原D遺跡に連続するものようである。

今回報告の層序は、第Ⅱ層は土壌や攪乱を含む近世～近代の、第Ⅲ層は柱穴からの出土数が多いグスク時代（15世紀を主体とする14世紀後半～16世紀）の、第Ⅳ層は貝塚時代後1期前半の、第Ⅴ層は貝塚時代後1期初頭の阿波連浦下層式期の堆積層とされる。

結果および考察

今回の調査で、少なくとも第117表に示した海産腹足類34科157種、海産二枚貝類19科63種、淡水

第115表 調査時地区名と本報告地区名および対象グリッドの対応

遺跡名		伊礼原遺跡（指定外）			伊礼原A遺跡	
本報告の表記		イ地区		ハ地区	ニ地区	ロ地区
		海側	浜屋原主体区			
平成19年度		A9-16, B2・9-16, C1-16, D9-17	A1・18-20, B1・17-20, R17・18, S17-19, T17-20	O15・16, P15-17, Q13-17, R13-16, S12-16, T11-16		
平成20年度	イ地区	S11・12, T11-13を除いたグリッド		S11・12, T11-13		
平成20年度	ロ地区					同じ
平成24年度	ハ地区	A9		A9を除き同じ		
平成24年度	ニ地区				同じ	

空欄は対象グリッドなし

産腹足類 3科11種、陸産腹足類 5科9種、その他2種の合計242分類群が確認された。

第119表には地区・層序・遺構ごとにまとめた個体数（同定標本数）を示した。以下の解析は、この第119表をもとに行った。

1. 興味深い貝類

今回の調査で得られた種の中には、これまで沖縄の遺跡から余り知られていなかったサンゴ礁の礁斜面の種が存在していたので、簡単に触れておきたい。同様なことは、奄美大島のマツノト遺跡の報告（黒住，2006）でも議論しており、沖縄での検討ということになる。まず、沖縄からは現生記録のないボウシュウボラ（図版146-90）がある。遺跡からの出土記録もほとんどない種であり、ヤマトからの持ち込みの可能性も残る。オオゾウガイ（図版146-88）は沖縄に現生しているが、遺跡からの出土はほとんどない。オオナルトボラ（図版146-98）は、伊江島南岸の貝塚時代後期遺跡からは僅かながらいくつかの遺跡から知られており、本遺跡からも得られている類似種のシロナルトボラを用いた製品も知られている（黒住，2014）。これらは、貝塚時代後1期から出土であり、この時期のゴホウラ等と共に意識されたものと考えられる。ダイミョウイモ（図版147-166）も大形個体でもあり、極めて稀なものである。図版147-189のウミウサギには上下端部に小孔が認められ、人為的な穿孔による製品の可能性も想定される。

2. 優占種組成

地区ごとの層位で1%以上の割合を有する種を優占種として、第118表にまとめた。ただし、タカラガイ科・イモガイ科・ウグイスガイ科・シャコガイ科は各種を一括し、イノー内の類型とした。同様に、陸産貝類のシュリマイマイ類もまとめたものとして計算した。その結果、29分類群が優占種と認められた。

マガキガイは第Ⅱ層で多く、第Ⅲ・Ⅳ層でも高い割合であるものの、第Ⅴ層では割合が低い。シャコガイ科もマガキガイに近いが、第Ⅴ層でも高い割合を保っていた。イトマキボラはむしろ第Ⅴ層で多い傾向にあった。チョウセンサザエも下層に多いようであった。サラサバテイラは全層準でおよそ5%程度であった。内湾の二枚貝類ではリュウキュウシラトリとカワラガイが多く、下部の先史時代層でも優占していた。スダレハマグリは第Ⅴ層のイ地区浜屋原主体地区でのみ極めて多かった。アラスジケマンも、スダレハマグリと同じ層準とロ地区第Ⅳ層で特に目立っていた。陸産貝類はイ地区の下部で多かった。

タカラガイ科は、隣接する伊礼原D遺跡で“交易用に採集・集積されたためにグスク時代で多く出土した”可能性を想定した（黒住，2008）。しかし、今回は他の時期より僅かに多いだけであり、

集積等の可能性は低いと考えられた。後述するように、グリッドごとに貝類遺体の集中性が異なっていることから、今後他の地点でタカラガイの集積が確認される可能性は否定できないように思われる。

一方、他の遺跡よりも本遺跡で極めて多かったものにアコヤガイ類（真珠貝）がある。特に、ハ地区の下部で高い割合となっている（第118表）。およそ半数が種レベルで同定され、クロチョウガイであった（第119表）。クロチョウガイは、沖縄の貝塚後期（特に後1期）に穿孔・研磨品として比較的良好に利用される種であり（島袋，2004）、製品素材の可能性が高い。ただ、報告者は後期には真珠採集の目的を持ってアコヤガイ類が採集された可能性を想定しており（黒住，2011）、クロチョウガイの大量採集は本遺跡が初めてであるが、真珠採集を全く否定するものではないと考えている。この検証は今後も続けられるべきであると思われる。

全体を通してみると、貝塚時代後1期・グスク時代・近世～近代にかけての優占種組成の変化は不明瞭と判断された。第118表に示した優占種で、全体の85%以上を占めていることから、優占種の生息場所類型組成を求めた（第177図）。ニ地区の第Ⅱ層でサンゴ礁域のイノー内ものが極めて多い他は、貝塚時代から近世期にかけての変化傾向はやはり認めがたかった。ただ、全てのものでサンゴ礁域全体の割合は半数を超えており、サンゴ礁型の貝類組成とは言えよう。

貝塚時代後1期初頭の阿波連浦下層式期の貝類遺体組成の報告は比較的少なく、渡嘉敷島阿波連浦貝塚（玉城，1999）や浦添市の嘉門貝塚A区（高良，1991）等が知られている。前者ではオオベッコウガサ・チョウセンサザエ・シャコガイ類が、後者ではマガキガイ・ヒメジャコ・イソハマグリが優占している。今回のデータ（第Ⅴ層/イ地区/浜屋原主体区）では、シャコガイ科が最も多く、アラスジケマン・スタレハマグリが10%を超え、チョウセンサザエ・オキナワヤマタニシと続いている。食用貝類として、河口干潟や内湾のアラスジケマン・スタレハマグリという二枚貝類が多いことが他の遺跡と異なっており、必ずしもこの時期にサンゴ礁の貝類遺体が大半を占める例だけではないことがわかった。後続する土器形式の浜屋原式期でも、土器の集中した出土地区は同様でありながら、前述の二枚貝類が減少し、イソハマグリの増加が顕著であった。

3. サイズ組成

今回、いくつかの優占種のサイズ組成をほぼ完全な個体のみを対象として計測して頂いた（第178図）。これによって、同一地域における貝塚時代後1期内的変化（捕獲圧やサイズ選択）を検証することができる。

その結果、イソハマグリ（a）では2.6cm程度に中心を持ち、時代変化はないと考えられ、2cm以下の小形個体はほとんど採集されていないと判断される。マガキガイ（b）は1層準だけのデータであるが、ほぼ単峰形となり、小形の幼貝はほとんど採集されていないことがわかる。シラナミ類（c）とヒメジャコ（d）のシャコガイ科では、前種では時代の変化はほぼ認められなかったが、後種では大当原式期に小形になっていると示されているものの、測定個体数が少ないことによる結果の可能性も十分に考えられる。チョウセンサザエ（e）とアラスジケマン（g）もイソハマグリと同様に、変化はなく、小形個体も採集されていない。一方、サラサバテイラ（f）ではやはり個体数は少ないものの、大当原式期で小形個体が多くなっている。逆に、シレナシジミ（f）では浜屋原式期で小形個体が目立っている。

貝塚時代後期において、後1期から後2期にかけて、シャコガイ類のサイズが小形化することが知られているが（例えば黒住，2002）、本遺跡における後1期内ではサイズの小形化はほとんど認め

られなかった。ただ、ヒメジャコに関しては、上述のように個体数が少ないながら、下層から上層にかけて小さくなっている可能性もある。一方、ヒメジャコにおいて、同じ大当原式期でも口地区では小形個体が多い訳ではない。もし、第178図-dのヒメジャコの結果が採集されたものを反映しているとする、サイズの小型化は本遺跡前面の小面積の地域で生じた現象なのかもしれない。そうであるとする、後述するように、廃棄場所に対する小集団ごとの“利用空間＝漁場的なもの”の在り方を示している可能性も否定できない。計測個体数を増やすことによって、この問題は検証可能であろう。

第178図に示した8種のサイズは、およそ貝塚時代後1期の他の遺跡と同程度のサイズであり、ほぼ成貝からなっている。特にアラスジケマンは隣接した同時期の小堀原遺跡のサイズ（黒住，2009）とほぼ同様であった。上述したように、ヒメジャコで高い捕獲圧による局所的なサイズ減少の可能性は否定できないものの、これらの優占種では繁殖サイズを下回るようなことは全くなかったと判断される。

4. 貝殻廃棄の集中域

本遺跡では、貝塚時代後期の土器集中地点やゴホウラ等の貝集積が認められている（第Ⅲ章第12図）。そこで、貝類遺体の集中性を、平成19・20年度調査のグリッドごとで、各層に全出土数の5%以上を示すグリッドを抽出することで示した。その結果、

第Ⅴ層（貝塚時代後1期初頭）：P16、Q17、A19・20、R17、S18、T11・12（このグリッドは大当原式土器期であることがわかった）

第Ⅳ層（貝塚時代後1期前半/5%以上のグリッドが存在しなかったので、2.5%以上のもの）：

〔浜屋原式土器期〕：A20、S17・18

〔大当原式土器期〕：A12、P16、R16、Q15、T12

第Ⅲ層（グスク時代）：A11、B11、C11、D11

第Ⅱ層（近世～近代）：A17、B11、Q14・15、R14、S14

であった。

貝塚時代後期に関しては、土器集中部や貝集積とある程度一致していた。そして、浜屋原式土器期と阿波連浦下層式期はほぼ重複しており、土器の結果（第37・38図）と同様であった。ただ、第Ⅴ層では土器の少ないグリッドからも貝類が多く得られており、一部には貝類廃棄場所が存在していた可能性もある。大当原式土器期には、浜屋原式土器期とは一致せず、より広い範囲にいくつかの集中部が存在していた。

グスク時代には、4つのグリッドからなる1箇所の集中部があり、いずれも柱穴から出土したものである。比較的広い面積に少ない集中部が存在することは、当時の貝類廃棄様式を示しているのかもしれない。近世～近代では、およそ3ヶ所の集中部が存在し、これらはいずれも土坑であった。そして、グスク時代と近世～近代の集中域は、貝塚時代後期のものと重複しなかった。このことは下部の貝類遺体が上部の時代の遺体群組成に影響を与えていないことを示唆すると思われる。

今回は時間の都合で、集中域ごとの種組成や陸側の他の地区での同様な解析を行えなかった。また、下部の貝塚が上部の耕作地に影響を及ぼしているかどうか等も、今後の検討課題であろう。

5. 本地域の貝塚時代後期以降の貝類遺体群の意味づけ

今回、貝塚時代後1期の3つの土器形式期とグスク時代・近世～近代の貝類遺体の変遷を同一の

遺跡で検討できた。優占種は時代と地区等で多少異なるものの（第118表）、生息場所類型組成（第177図）では全時期を通じて大きな変化は認められず、この結果は極めて興味深いものであった。基本的に貝塚後期以降、戦前まで、サンゴ礁を含む海域環境はおよそ同様であったと考えられる。つまり、穀類農耕に入ったグスク時代以降も、内湾域を含め海域環境に多大な変化は認められなかった訳である。人間の側の貝類利用に関しても、各時期を通じて類似していたことも想定され、その意味に関して、伊礼原地域の貝塚時代後期から近代までの各遺跡から出土した貝類遺体の概況（第116表）から、この問題を少し考えてみたい。ただ今回は、北谷城等の白比川流域に位置する遺跡は別な流域に位置しているために対象外とした。

これまでの沖縄島での遺跡出土貝類の研究から、貝塚時代後1期には交易用のゴホウラ等の採集に伴いサンゴ礁域のシャコガイ類等の大形貝類が目立つようになり、後2期前半まで同様な状況が続き、グスク時代には農耕の開始に伴いサンゴ礁域での貝類採集活動が不活発となり、組成的には内湾域や河口干潟域のものに変化するという傾向が示されてきた（例えば黒住, 2002, 2011）。そして、貝塚時代後2期後半のフェンサ下層式土器期には貝類採集活動が低調で、穀類農耕に従事することによりグスク時代初頭には貝類採集はほぼ見られなくなり、またグスク主体期にはグスク本体を中心に貝類遺体が多く発掘されるという状況を想定してきた（黒住, 2014）。

今回の両遺跡では、1）貝塚時代後1期でも内湾域種が多い、2）グスク時代になってもサンゴ礁域の貝類が優占するという前述の傾向とは異なった状況を示していた訳である。また脊椎動物遺体群でも、貝塚時代後期にイノシシが優占するという他の遺跡とは異なった状況が報告され、祭祀・儀礼がおこなわれた可能性も指摘されている（樋泉, 2010, 2012）。伊礼原地域では小堀原遺跡の後1期後半でサンゴ礁域ではなく、河口干潟のアラスジケマンが極めて優占するという他の遺跡と異なった状況が報告されている（黒住, 2009, 2012）。このような全体的な傾向とは異なる原因は、貝類採集が遺跡前面の限られた地域で行われており、その結果を反映したためと考えられている。

一方、今回の伊礼原遺跡国指定外では、浜屋原式期の層準から交易に用いられたとされるゴホウラやイモガイの集積が確認されている（第III章；第119表も参照）。これらの集積遺構は、およそ同時期の隣接した伊礼原D遺跡（2013）や小堀原遺跡（島袋, 2012）でも知られている。

サンゴ礁域に生息するゴホウラや大型イモガイ類の集積が河口干潟に生息するアラスジケマンの優占する遺跡で認められることに関して、ゴホウラ等は遺跡前面で採集されたものではなく、周辺の他地域から持ち込まれたものの可能性が高く、本地域が貝塚時代後期に連綿と沖縄の周辺地域からゴホウラ等が集められていた地域であり、その要因として“島外との人間側の交流の程度”が大きかったことによるのではないかと考えた（黒住, 2012）。

伊礼原地域では大面積の発掘調査が行われてきたにもかかわらず、貝塚時代後2期後半からグスク時代初頭の多くの貝類遺体を含む層は確認できていない。つまり少なくとも貝類採集活動が極めて低調だったことがわかる。10世紀頃のヤコウガイ交易も奄美地域で想定されているが（例えば高梨, 2005）、本地域がヤコウガイの高密度生息地ではないにしても、交易の影響は検出できていない。報告者も、貝塚時代後期からグスク時代まで、本地域は、特異的に島外と交流を持った場所の一つであると想定しており、この考えが正しければ10世紀頃のヤコウガイ交易（およそ貝塚時代後2期後半が想定されている）は際立ったものではなかったという想定（黒住, 2014）は本遺跡でも同様であったと考えられる。

その後、グスク時代初頭には、掘立柱建物址やいわゆる3点セットが確認された後兼久原遺跡（山城・島袋, 2003；片桐, 2004）と小堀原遺跡（山城・島袋, 2012）が知られ、この時期も貝類遺体

の出土は極めて稀で、後兼久原遺跡では少量のマガキガイを中心としたものが報告されているが（黒住，2003；片桐，2004）、上部のグスク主体期からの混入の可能性も否定できない。一方、近年の小堀原遺跡の発掘では、貝類遺体はほぼなく（山城・島袋，2012と黒住，2012も参照）、脊椎動物遺体は僅か出土しているだけである（樋泉，2012）。後兼久原遺跡でもこの時期の脊椎動物遺体の出土は稀である（金子，2003）。つまり、脊椎動物遺体の出土様式を勘案しても、貝類遺体は小堀原遺跡のほぼ皆無という状況にあったものと推測される。

このグスク時代初頭の掘立柱建物址の存在する遺跡に関しては、多くの研究者が同時期の奄美諸島を含めた島外集団あるいはそれに関連していると考えており（例えば安座間，2011；宮城，2011等）、沖縄では最古級である10-11世紀の炭化穀類の炭素年代が得られている点（高宮・千田，2012）でも、本地域は特異的である。そして、これまでも考えられてきたように、この時期の遺跡立地は、貝塚時代後期のゴホウラ等の集積の認められる貝交易の行われた遺跡と近接した地域に存在する。一方で、貝集積が発掘された遺跡の中には、拠点集落と想定されるものがあり、さらに威信財的な舶来品の集中する遺跡も存在する（例えば新里，2001）。伊礼原地域では複数の貝集積が認められながら、舶来品は確認されていない。本地域の例は、グスク時代初頭の掘立柱建物址の存在する遺跡は、後期の拠点集落に近接しながらも、ほぼ同一の遺跡ではないようである。これは砂丘地と土壤発達地という相違だけではなく、拠点集落を避けるという微妙に立地空間を選択した結果とも考えられるのかもしれない。

このような貝塚時代後期からグスク時代初頭の特異的な状況の元、グスク時代の主体期になると、貝類の出土量は多くなり、他地域では内湾域や河口干潟域の種が優占するが、本地域でも、これらの環境に生息するウミナシ類やリュウキュウシラトリが優占することもあるものの、今回の指定外のハ・ニ両地区で顕著なように（第118表）、マガキガイやシャコガイ類が優占している。

指定外地域は、グスク本体や武士層の居住域ではなく、百姓層の集落であったと想定される。このような百姓層の集落では貝類遺体は認められなかったという例（今帰仁村天底後原遺跡）もある（宮城，2006）。報告者は、この百姓層の居住域においてもサンゴ礁の貝類が採集されて続けた状況は、グスク時代初頭に掘立柱建物址が存在していた本地域の特異的な状況（伝統）を示すものではないかと想定している。同時期の非グスクで、近接した白比川流域の玉代勢原遺跡では内湾／河口域のアラスジケマンやクワノミカニモリが優占しており（黒住，1993）、また中城湾に面した西原町の百姓層の遺跡と考えられる我謝遺跡でも内湾域のカンギクとクワノミカニモリが貝塚時代後2期からグスク時代の古島の時代まで卓越して得られている状況（比嘉，1983）は、伊礼原地域の特異性を示唆するものと捉えられよう。

近世・近代・戦前でも、貝類遺体の組成に大きな変化はないが、出土量は少なくなっているように思われる。ただ、これらの時代になると、発掘部分の遺構とその性質によって、遺体群組成に、それまでの時代よりも大きな偏りが生じる可能性も大きく、伊礼原地域でも平安山原でノロ地等が発掘されており、今後、詳細な年代決定と共に、近世～戦前の変遷をより具体的に明確に示せるのではないかと考えられる。

上述した伊礼原地区の貝塚時代後期からグスク時代への貝類遺体群の変遷とその特異性に関しては、今後、第116表に示した状況を具体的なデータとして提示していく必要があり、その折には、「発掘面積あたりの出土量」を求める必要も出てこよう。ただ本地域が、その変化を示せる貴重な地域であることも確実である。

＜引用文献＞

- 安座間充. 2011. 貝塚時代琉球列島の交流・交易史—列島南縁の島嶼世界にみる交流の風景—. In 高宮広土・伊藤慎二(編), 先史・原始時代の琉球列島～ヒトと景観～, pp. 189-216. 六一書房.
- 比嘉春美. 1983. 貝類遺存体. In 大城 慧(編), 我謝遺跡, 西原町文化財調査報告書, (5) : 185-189.
- 金子浩昌. 2004. 脊椎動物遺体. In 片桐千亜紀(編), 後兼久原遺跡, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書, (22) : 139-144, 189-193.
- 片桐千亜紀(編). 2004. 後兼久原遺跡, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書, (22) : 1-198, 6 pls.
- 黒住耐二. 1993. 貝類遺存体. In 中村 愿(編), 玉代勢原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (13) : 287-293.
- 黒住耐二. 2002. 貝類遺体からみた奄美・沖縄の自然環境と生活. In 木下尚子(編), 先史琉球の生業と交易—奄美・沖縄の発掘調査から—, pp. 67-86. 熊本大学.
- 黒住耐二. 2003a. 貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 後兼久原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (21) : 264-268.
- 黒住耐二. 2003b. 貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 大作原古墓群, 北谷町文化財調査報告書, (22) : 163-171.
- 黒住耐二. 2006. 貝類遺体からみた遺跡の立地環境と生活. In 木下尚子(編), 先史琉球の生業と交易Ⅱ—奄美・沖縄の発掘調査から—, pp. 115-134, 285. 熊本大学.
- 黒住耐二. 2007. 貝類遺体からみた伊礼原遺跡. In 中村 愿(編), 伊礼原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (26) : 535-555.
- 黒住耐二. 2008. 伊礼原D遺跡から出土した貝類遺体. In 東門研治・島袋春美(編), 伊礼原D遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (28) : 168-183, 197-200.
- 黒住耐二. 2009. 小堀原遺跡から出土した貝類遺体. In 東門研治・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (30) : 201-212.
- 黒住耐二. 2010. 伊礼原E遺跡から得られた貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 伊礼原D遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (31) : 41-56.
- 黒住耐二. 2011. 琉球先史時代人とサンゴ礁資源: 貝類を中心として. In 高宮広土・伊藤慎二(編), 先史・原始時代の琉球列島～ヒトと景観～, pp. 87-107. 六一書房.
- 黒住耐二. 2012. 小堀原遺跡の貝塚時代後期層から出土した貝類遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (34) : 335-348.
- 黒住耐二. 2013. ナガラ原東貝塚の貝類遺体. In 木下尚子(編) ナガラ原東貝塚の研究, pp. 340-362. 熊本大学.
- 黒住耐二. 2014. 貝類遺体からみた沖縄諸島の環境変化と文化変化. In 高宮広土・新里貴之(編), 琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究 研究論文集 [第2集] 琉球列島先史・原史時代の環境と文化の変遷, pp. 55-70. 六一書房.
- 宮城弘樹. 2006. グスクと集落の関係について(覚書)—今帰仁城跡を中心として—. 南島考古, (25) : 27-40.
- 宮城弘樹. 2011. グスク時代に訪れた大規模な島の景観変化. In 高宮広土・伊藤慎二(編), 先史・原始時代の琉球列島～ヒトと景観～, pp. 217-241. 六一書房.
- 島袋春美. 2004. 貝種別にみる奄美・沖縄諸島の貝製品. In 高宮広衛・知念 勇(編), 考古資料大観, 第12巻, 貝塚後期文化, pp. 223-230. 小学館.
- 島袋春美. 2008. 貝類遺体. In 東門研治・島袋春美(編), 平安山原B遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (29) : 104-114.
- 新里貴之. 2001. 物流ネットワークの一側面—南西諸島の弥生系遺物を素材として—. 南島考古, (20) : 49-66.

高梨 修. 2005. ヤコウガイの考古学. 280 pp. 同成社.

高宮広土・千田寛之. 2012. 小堀原遺跡出土の植物遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (34) : 349-358.

高良京子. 1991. 貝類遺存体. In 松川 章(編), 嘉門貝塚A, 浦添市文化財調査報告書, (18) : 85-93.

玉城京子. 1999. 自然遺物. 沖国大考古, (12) : 177-189, 5表.

樋泉岳二. 2010. 伊礼原E遺跡出土の脊椎動物遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 伊礼原E遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (31) : 57-79.

樋泉岳二. 2012. 小堀原遺跡2008～2009年度調査で採集された脊椎動物遺体. In 山城安生・島袋春美(編), 小堀原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (34) : 322-334.

山城安生・島袋春美(編). 2003. 後兼久原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (21) : 1-413, 6 pls.

第116表 伊礼原地域における各遺跡出土貝類遺体の時期別変遷 (暫定)

時代	土器形式等	地点数	貝類出土量	主な遺跡等と優占貝類
近代～戦前		普通	少	?平安山原B/②層 (少:イソハグリ, マカキガイ)
				伊礼原D/4-戦前遺構 (少:マカキガイ, カラカガイ)
				?伊礼原 (指定外) / II層 (普:マカキガイ・シヤコガイ)
近世		普通	少	伊礼原D/前半?4-7・8 (普:マカキガイ, マスカガイ); 後半?4-9・10 (少:マカキガイ, カラカガイ)
				伊礼原E/集石 (稀:ヤコウガイ)
				後兼久原a/第三期 (少:マカキガイ)
グスク時代の主体期	13-16世紀	多	多	伊礼原D/4-5・6 (多:マカキガイ, 内湾域)
				伊礼原 (指定外) / III層 (多:マカキガイ・シヤコガイ)
				伊礼原 / (?少:リュウキョウシトリ・ウミナメ)
				後兼久原a/第二期 (多:マカキガイ・ウミナメ)
				後兼久原b/第1・第2検出面 (普:マカキガイ)
グスク時代初期	掘立柱建物址 / 3点セット	少	稀?	後兼久原a/第一期 (稀?:マカキガイ)
				後兼久原b / I地区第3検出面 (稀?:マカキガイ)
				小堀原 (極稀?)
貝塚時代後2期後半	くびれ平底土器期 (フエナ下層土器期)	稀?	少?	?大作原古墓 (少:マカキガイ)
貝塚時代後2期前半	くびれ平底土器期 (アサシヤンカ-式土器期)	普通	普通	伊礼原D/4-1・2 (極多:マカキガイ) 小堀原 (普:カラカガイ, マカキガイ)
貝塚時代後1期後半	大当原式土器期	多	極多	?平安山原B/III層・弥生 (普:イソハグリ)
				伊礼原 (指定外) / IV層 (極多:シヤコガイ・マカキガイ)
				伊礼原A / IV層 (極多:シヤコガイ・アラスジケマン)
				?伊礼原E/弥生 (少:シヤコガイ類, リュウキョウシトリ)
				小堀原 (極多:アラスジケマン, イソハグリ)
貝塚時代後1期前半	浜屋原式土器期	多	多	平安山原B/③b～⑤層 (多:マカキガイ・イソハグリ)
				伊礼原 (指定外) / IV層 (極多:シヤコガイ・マカキガイ)
				伊礼原/弥生 (?普:イソハグリ)
				小堀原 (多:アラスジケマン, イソハグリ)
貝塚時代後1期初頭	阿波連浦下層式期	少	普通	伊礼原 (指定外) / V層 (多:マカキガイ・アラスジケマン)

?は不確実なもの; 文献:平安山原B(島袋,2008), 大作原古墓(黒住,2003b), 伊礼原D(黒住,2008), 伊礼原(黒住,2007), 伊礼原(指定外)(本報告), 伊礼原A(本報告), 伊礼原E(黒住,2010), 小堀原(黒住,2012), 後兼久原a(黒住,2003a), 後兼久原b(片桐,2004).

第117表-1 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土の貝類遺体の分類学的位置と生息場所類型

和名	学名	生息場所 類型	図版 番号	和名	学名	生息場所 類型	図版 番号
軟体動物門 Mollusca				コモンダカラ	Cypraea (Erosaria) erosa	I-2-b	T-3
腹足綱 Gastropoda				ハナマルエキ	Cypraea (Ravitrone) caputserpentis	I-3-a	T-6
ツタノハ科 Patellidae				ヤクシマダカラ	Cypraea (Arabica) arabica	I-2-a	T-7
ツタノハ	Scutellastra flexuosa	I-3-a		ホンヤクシマダカラ	Cypraea (Arabica) eglantina	II-2-a	T-8
ヨメガカサ科 Nacellidae				タルダカラ	Cypraea (Talparia) talpa	I-2-a	
オオベッコウガサ	Cellana testudinaria	I-1-a	4	ホシダカラ	Cypraea (s.s) tigris	I-2-c	T-9
ユキノカサ科 Lottiidae				ヒメホシダカラ	Cypraea (Lyncina) lynx	I-2-b	
リュウキウウノアシ	Patelloida saccharina	I-1-a	3	ホシキスタ	Cypraea (Mystaponda) vitellus	I-2-a	T-13
ミミガイ科 Haliotidae				ウミウサギ科			
イボアナゴ	Haliotis (Sanhalitos) varia	I-2-a	20	ウミウサギ	Ovula ovum	I-2-a	189
リュウテン科 Turbinidae				タマガイ科 Naticidae			
コシダカサザエ	Turbo (Marmorostoma) stenogyrum	I-2-a		トミガイ	Polinices tumidus	I-2-c	67
チョウセンサザエ	Turbo (Marma.) angyrostomus	I-3-a	5・6	ホンアキトミガイ	Polinices Flemingianus	I-2-c	73
リュウテン	Turbo (Turbo) petholatus	I-4-b		ロウイロトミガイ	Polinices mellosus	I-2-c	74
ヤコウガイ	Turbo (Lunatia) marmoratus	I-4-a	9・10	リスガイ	Mammilla melanostoma	I-2-c	68
カンギク	Lunella moniliformis	II-1-b	11	トラダマ	Natica vitellus	II-2-c	
オオウラウズ	Astraliu rhodostoma	I-2-a	12	ホウシュノタマ	Notochochlis gualtieriana	II-1-c	71
ニシキウス科 Trochidae				モクメダマ	Tanea undulata	II-2-c	
ニシキウス	Trochus (Trochus) maculatus	I-2-a	16	ヤツシロガイ科 Tonnididae			
ムラサキウス	Trochus (Trochus) stellatus	I-3-a		スクミウスズ	Tonna cepa	I-2-c	83
ギンタカハマ	Trochus (Tectus) pyramis	I-4-a	17	イワカトキワ	Malea (Quimalea) pomum	II-2-c	79
サラサバテイラ	Trochus (Rochia) niloticus	I-4-a	18	フジツガイ科 Ranellidae			
サラサダマ	Chrysostoma paradoxum	II-2-c	15	ミツカドボラ	Cymatium (Monoplex) nicobaricum	I-2-a	
オキナワインダミ	Mondonta labio	II-1-b	19	サツマボラ	Cymatium (Monoplex) aquatile	I-2-a	89
アマオブネ科 Neritidae				シノマキ	Cymatium (Monoplex) pileare	I-4-a	87
イシダミアマオブネ	Nerita (Ritena) helicinoides	I-0-a		トウマキ	Cymatium (Gelagna) succincta	I-4-a	
コシダカアマガイ	Nerita (Ritena) striata	I-1-b		シオボラ	Cymatium (Gutturinum) muricinum	I-2-a	86
フトスジアマガイ	Nerita (Ritena) costata	I-0-a		オオソウガイ	Cymatium (Ranularia) pyrrom	I-4-a	88
アマオブネ	Nerita (Thelyostyla) albicilla	I-1-b	23	ボウシュウボラ	Charonia sauliae	I-4-a	90
マルアマオブネ	Nerita (Thelyostyla) squamulata	II-1-b		ホラガイ	Charonia tritonis	I-4-a	94
オオマルアマオブネ	Nerita (Thelyostyla) chamaeleon	I-1-b	30	オキニシ科 Bursidae			
ヒラマキオマオブネ	Nerita planospira	III-0-d		イワカウネボウ	Bursa (Colubrellina) granularis	I-2-a	
ニシキアマオブネ	Nerita (Ampninerita) polita	I-1-c	28	オキニシ	Bursa (s.s.) bufonis dunkeri	I-3-a	95
カノコガイ	Clithon sowerbianus	III-0-e		オオナルトボラ	Tutufa bufo	I-4-a	98
イシマキ	Clithon retropictus	IV-5		シロナルトボラ	Tutufa bufo	I-4-a	
イガカノコ	Clithon corona	IV-5		トウカムリ科 Cassidae			
ムラクモカノコ	Neritina variegata	IV-5		ヒナツル	Casmaria erinaceus	I-4-c	78
ドングリカノコ	Neritina plumbea	IV-5		アッキガイ科 Muricidae			
シマカノコ	Neritina (Vittina) turrata	III-0-e	32	オオガンセキ	Chicoreus microphyllus	I-4-a	100
タニシ科 Viviparidae				ガンゼキホラ	Chicoreus burunneus	I-2-a	
マルタニシ	Chipangopaludina chinensis	IV-6	R-1	テツレイシ	Thais (Stramonita) savignyi	I-1-a	
ヤマタニシ科 Cyclophoridae				シラクモガイ	Thais (Stramonita) armigera	I-3-a	104
オキナワヤマタニシ	Cyclophorus turgidus	V-8	R-2	ツノテツレイシ	Mancinella hippocastanum	I-1-a	106
オニツノガイ科 Cerithiidae				ツノレイシ	Mancinella tuberosa	I-3-a	107
オニツノガイ	Cerithium (Cerithium) modulosum	I-2-c	36	ウネレイシダマシ	Cronia margariticola	I-1-b	102
コオニツノガイ	Cerithium (Cerithium) columnum	I-2-a		ムラサキイガレイシ	Drupa (s.s.) morum	I-3-a	110
ゴマフカニモリ	Cerithium (Semivertagus) punctatum	I-2-c		シロイガレイシ	Drupa ricinus albolabris	I-3-a	
トウガタカニモリ	Rhinoclavus sinensis	I-2-c	38	アカイガレイシ	Drupa (Ricinella) rubusidaeus	I-3-a	111
ヒメトウガタカニモリ	Rhinoclavus cedonulli	I-2-b		オニコブシ科 Vasidea			
カヤノミカニモリ	Clypeomorus bifasciata	I-1-b		オニコブシ	Vasum ceramicum	I-3-a	
クワノミカニモリ	Mytilus chemnitziana	I-1-b	41	オニコブシ	Vasum turbinellum	I-2-a	113
ヘナタリ科 Cerithiidae				エソバイ科 Buccinidae			
フトヘナタリ(イナガ)	Cerithidea (Cerithidea) moerchii	III-0-d		ウズラガイ	Tonna perdax	I-2-c	
センニンガイ	Telescopium telescopium	III-0-c		スジクロホラダマシ	Cantharus (Pollia) undosa	I-3-a	
マドモチウミニナ	Terebralia sulcata	III-1-c	43	シマベッコウバイ	Japeuthria cingulata	II-1-b	
キバウミニナ	Terebralia parstris	III-1-c		オリレフコバイ科 Nassariidae			
ウミナナ科 Batillariidae				オリレフコバイ	Nassarius arcularia	II-2-c	121
リュウキウウミニナ	Batillaria flectosiphonata	II-1-c	47	ヒメオリレムシロ	Nassarius sp. cf. modifer	II-2-c	114
イボウミニナ	Batillaria zonalis	III-1-c		オオコブシ	Nassarius coronatus	II-1-c	
トウガタカワニナ科 Thiariidae				セコバイ科 Colubrariidae			
トウガタカワニナ	Thiara scabra	IV-5,6	R-3	ヒモカケセコバイ	Colubraria cumingii	I-2-b	
スノメカワニナ	Melanoides tuberculata	IV-6	R-7	イトマキボラ科 Fasciolaridae			
スグカワニナ	Stenomelania uniformis	IV-6		イトマキボラ	Pleuroploca trapezium	I-2-b	123
ヨシカワニナ	Stenomelania plicaria	IV-6	R-4	ナガイトマキボラ	Pleuroploca filamentosa	I-2-a	124
ネジヒダカワニナ	Sermyla riqueti	III-0-c		ツノマダモドキ	Latirus belcheri	I-3-a	127
カワニナ科 Pleuroceridae				リュウキウウツノマダ	Latirus polygonus	I-3-a	126
カワニナ	Semisulcospira bensoni	IV-5,6	R-8	ニシキニナ	Latirus craticulatus	I-3-a	
スイショウガイ科 Strombidae				マルニシ	Leucozonia smaragdula	I-3-a	130
ムカシタモト	Strombus (Canarium) mutabilis	I-2-c	55	チトセボラ	Fusinus nicobaricus	I-2-c	131
オハダロガイ	Strombus (Canarium) urceum	II-2-c		マクラガイ科 Olividae			
フトスジムカシタモト	Strombus (Canarium) labiatum	II-2-c		マクラガイ科	Oliva sp.	I-2-c	
ネジマキガイ	Strombus (Gibberulus) g. gibbosus	II-1-c	50	ショッコウラ科 Harpidae			
マガキガイ	Strombus (Conomurex) luhuanus	I-2-c	51	ショッコウラ	Harpa major	I-2-c	
イボソデガイ	Strombus (Lentigo) lentiginosus	I-2-c	52	ペニオビショッコウラ	Harpa harpa	I-2-c	
マイノソデガイ	Strombus (Euprotomus) aurisdianae	I-4-c		フデガイ科 Mitridae			
ベニソデガイ	Strombus (Euprotomus) bulla	I-4-c		チョウセンフデ	Mitra mitra	I-2-c	
アツソデガイ	Strombus (Tricornis) thersites	I-4-c		マクラフデ	Imbricaria olivaeformis	I-2-c	
コホウラ	Strombus (Tricornis) latissimus	I-4-c	60	イモフデガイ	Pterygia dactylus	I-1-b	137
クモガイ	Lambis lambis	I-2-c	61・62	ミノムシガイ科 Costellaridae			
ラクダガイ	Lambis truncata sebae	I-4-c	64	ミノムシガイ	Vexillum balteolatum	II-2-c	
スイジガイ	Harpago chiragra	I-2-c	63	イモガイ科 Conidae			
ムカデガイ科 Vermetidae				マダライモ	Conus (Virroconus) ebraeus	I-1-a	140
リュウキウウヘビガイ	Serpulorbis trimeresurus	I-2-a	65	コマダライモ	Conus (Virroconus) chaldaeus	I-1-a	
ヘビガイ類	"Serpulorbis" sp.	I-2-a		サヤガタイモ	Conus (Virroconus) fulgetrum	I-1-a	142
タカラガイ科 Cypraeidae				ジュズガケサヤガタイモ	Conus (Virroconus) coronatus	I-1-a	
キイロダカラ	Cypraea (Monetaria) moneta	I-1-a		キヌカツギイモ	Conus (Virgiconus) flavidus	I-2-a	160
ハナピラダカラ	Cypraea (Monetaria) annulus	I-1-a	T-2	イボシマイモ	Conus (Virgiconus) lividus	I-2-a	146
ナツメモドキ	Cypraea (Eronea) erronea	I-2-b	T-5	イボカバイモ	Conus (Virgiconus) distans	I-2-c	

第117表-2 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土の貝類遺体の分類学的位置と生息場所類型

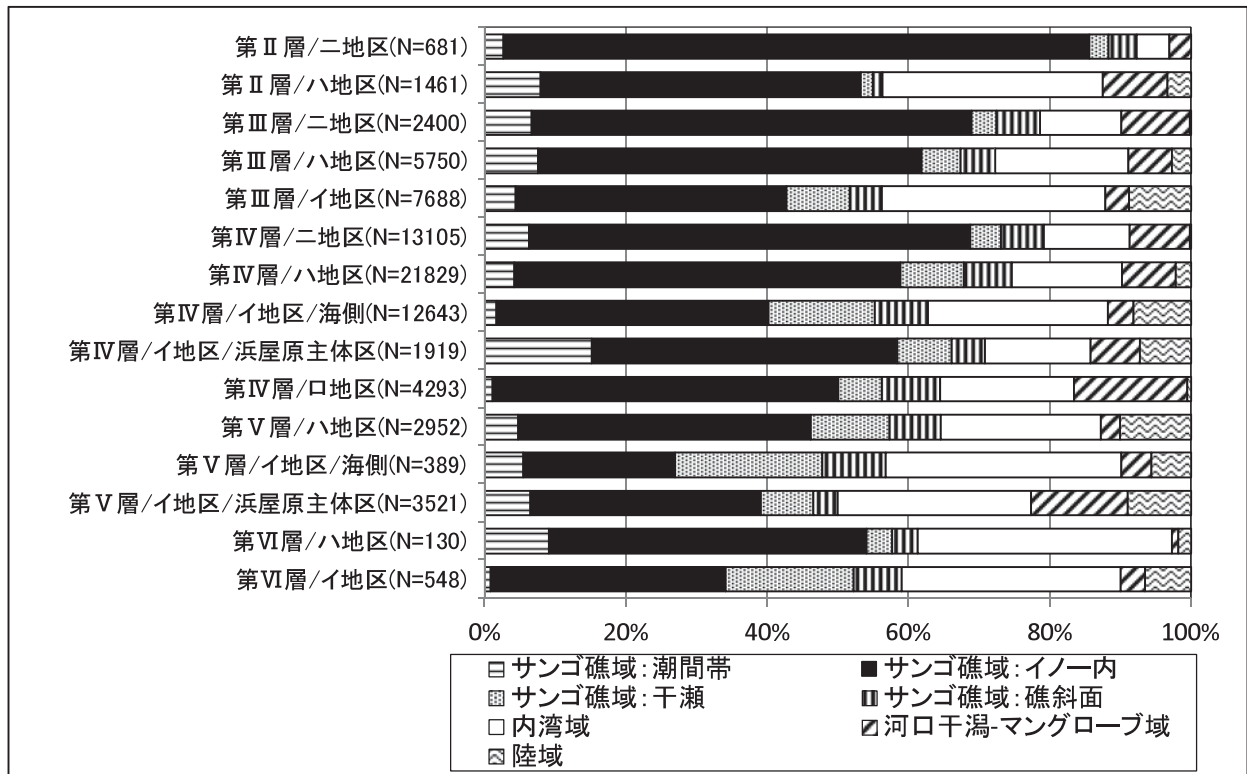
和名	学名	生息場所 類型	図版 番号	和名	学名	生息場所 類型	図版 番号
オトメイモ	<i>Conus (Virgiconus) virgo</i>	I-2-c	149	ザルガイ科 Cardiidae			
ヤナギシボリイモ	<i>Conus (Rhizoconus) miles</i>	I-3-a	147	リュウキュウザルガイ	<i>Vasticardium flavum</i>	II-2-c	35
サラサミナシ	<i>Conus (Rhizoconus) capitaneus</i>	I-4-c	148-152	フジロザル	<i>Vasticardium pseudoangulatum</i>	I-4-c	37
カバミナシ	<i>Conus (Rhizoconus) vexillum</i>	I-4-c	155	カワラガイ	<i>Fragum unedo</i>	II-2-c	38
ツヤイモ	<i>Conus (Stephanoconus) boeticus</i>	II-2-c		リュウキュウアオイ	<i>Corculum cardissa</i>	I-2-b	36
ヤキイモ	<i>Conus (Pinoconus) magus</i>	I-2-c	156	シャコガイ科 Tridacnidae			
サラサモドキ	<i>Conus (Dauciconus) vitulinus</i>	I-2-c		オオシラナミ	<i>Tridacna maxima</i>	I-2-a	40-46
ヒラマキイモ	<i>Conus (Dauciconus) planorbis</i>	I-2-c		シラナミ類	<i>Tridacna maxima & noae</i>	I-2-a	
アジロイモ	<i>Conus (Darioconus) pennaceus</i>	II-2-c	158	ヒレジャコ	<i>Tridacna squamosa</i>	I-2-c	41
タガヤサンミナシ	<i>Conus (Darioconus) textile</i>	I-2-c	161	ヒメジャコ	<i>Tridacna crocea</i>	I-2-a	42
ニシキミナシ	<i>Conus (Strioconus) striatus</i>	I-2-c	171	シャゴウ	<i>Hippopus hippopus</i>	I-2-c	44
アンボイナ	<i>Conus (Gastriidum) geographus</i>	I-2-c	172	バカガイ科 Mactridae			
シロアンボイナ	<i>Conus (Gastriidum) tulipa</i>	I-2-c		リュウキュウバカガイ	<i>Mactra maculata</i>	II-2-c	48
ナンヨウクロミナシ	<i>Conus (s. s.) marmoreus</i>	II-2-c	164	タママキ	<i>Mactra cuneata</i>	II-1-c	49
ミカドミナシ	<i>Conus (Rhombus) imperialis</i>	I-2-c		ユキガイ	<i>Meropesta nicobarica</i>	II-2-c	50
アカシマミナシ	<i>Conus (Leptoconus) generalis</i>	I-2-c	168	チドリマスオガイ科 Mesodesmatidea			
ナガサラサミナシ	<i>Conus (Leptoconus) litoglyphus</i>	I-2-c		イソハマグリ	<i>Atactodea striata</i>	I-1-c	51
ゴマフイモ	<i>Conus (Puncticulis) pulicarius</i>	I-2-c	170	ナミノコマスオ	<i>Davila plana</i>	I-1-c	52
コモンイモ	<i>Conus (Puncticulis) arenatus</i>	I-2-c		フジノハナガイ科 Donacidae			
スジイモガイ	<i>Conus (Cleobula) figulinus</i>	II-2-c		リュウキュウナミノコ	<i>Latona faba</i>	I-1-c	53
ダイミョウイモ	<i>Conus (Cleobula) betulinus</i>	II-2-c	166	ニッコウガイ科 Tellinidae			
クロザメモドキ	<i>Conus (Lithoconus) eburneus</i>	I-2-c	176	ニッコウガイ	<i>Tellina virgata</i>	II-2-c	54
アンボンクロザメ	<i>Conus (Lithoconus) litteratus</i>	I-2-c	177	ヒメニッコウガイ	<i>Niccolocum</i>	II-2-c	55
クロフモドキ	<i>Conus (Lithoconus) leopardas</i>	I-2-c	178	リュウキュウシラトリ	<i>Quidnipayas palatum</i>	II-1-c	56
クダマキガイ科 Turridae				ヌノメイチョウシラトリ		III-1-c	57
トラフクダマキ	<i>Lophiotoma acuta</i>	I-2-c		サメザラ	<i>Scutarcopagia scobinata</i>	I-2-c	59
タケノコガイ科 Terebridae				モチツキザラ	<i>Cyclotellina remies</i>	I-2-c	58
タケノコガイ	<i>Terebra subulata</i>	I-2-c	185	アサジガイ科 Semelidae			
キバタケ	<i>Oxymuris crenulatus</i>	I-2-c	184	サメザラモドキ	<i>Semele carnicolor</i>	II-1-c	61
ナツメガイ科 Bullidae				イソシジミ科 Psammobiidae			
ナツメガイ	<i>Bulla ventricosa</i>	I-2-c	186	リュウキュウマスオ	<i>Asaphis violacens</i>	II-1-c	62
アムフラン科 Aplysiidae				マスオガイ	<i>Psammonea elongata</i>	II-1-c	63
タツナミガイ	<i>Dolabella auricularia</i>	I-2-b	188	シジミ科 Cyrenidae			
オカミミガイ科 ellobiidae				シレナシジミ	<i>Geloina erosa</i>	III-0-c	64
ツヤハマシイノミ	<i>Melampus flavus</i>	V-1 0		マルスダレガイ科 Veneridae			
キセルガイ科 Clausiliidae				ヌノメガイ	<i>Periglypta puerpera</i>	II-2-c	65
ツヤギセル	<i>Luchuphaedusa p. praeclara</i>	V-8	R-10	アラヌノメガイ	<i>Periglypta reticulata</i>	I-2-b	66
アフリカマイマイ科 Achatinidae				ホソスジイナミ	<i>Gafrarium pectinatum</i>	II-1-c	67
アフリカマイマイ	<i>Achatina fulica</i>	V-9		アラスジケマン	<i>Gafrarium tumidum</i>	III-1-c	68
ナンバンマイマイ科 Camaenidae				ユウカゲハマグリ	<i>Pitar striatum</i>	II-2-c	70
シュリマイマイ	<i>Satsuma (s. s.) m. mercatoria var.</i>	V-8	R-12	ケショウオミナエシ	<i>Pitar(pitarina) obliquatum</i>	II-2-c	
ヤンバルマイマイ?	<i>Satsuma (s. s.) sp. cf. atrata</i>	V-7		オノノカガミ	<i>Bonartemis histrio</i>	II-2-c	71
カツレンマイマイ	<i>Satsuma (s. s.) m. katsurenensis</i>	V-7	R-13	リュウキュウアサリ	<i>Tapes literatus</i>	II-2-c	
ヒメユリヤマタカマイマイ (ツブキ)	<i>Satsuma (Luchuhadara) largillierti</i>	V-8	R-14	ヒメリュウキュウアサリ	<i>Tapes belcheri</i>	II-2-c	73
オナジマイマイ科 Bradybaenidae				ヒメアサリ	<i>Ruditapes variegata</i>	II-1-c	75
パンダナマイマイ	<i>Bradybaena circulus</i>	V-8	R-17	スダレハマグリ	<i>Katelsia japonica</i>	II-1-c	76
オキナワウスカワマイマイ	<i>Acusta d. despecta</i>	V-8	R-18	トドムマリハマグリ	<i>Meretrix sp. cf. lamarcki</i>	II-2-c	77
二枚貝綱 Bivalvia				ハマグリ類似種	<i>Meretrix sp. cf. lusoria</i>	II-2-c	
フネガイ科 Arcidae				ダテオキシジミ	<i>Cyclina orientalis</i>	III-1-c	80
オオタカノハ	<i>Arca ventricosa</i>	I-2-a	3	頭足綱 Cephalopoda			
エガイ	<i>Barbatia (Abarbatia) trapezina</i>	I-1-a	1	コウイカ科 Sepiidae			
オオミノエガイ	<i>Barbatia lacerata</i>	I-4-a		コブシメ?	<i>Sepia latimanus?</i>	I-2	
リュウキュウサルボオ	<i>Anadana (Anadana) antiquata</i>	II-2-b	6	棘皮動物門 Echinodermata			
ハイガイ(セイカハガイ型)	<i>Anadara (Tegillarca) granosa f. obessa</i>	III-1-c	4	ナガウニ科 Echinometridae			
イガイ科 Mytilidae				パイプウニ(棘)	<i>Heterocentrotus mammillatus (spine)</i>	I-3-a	
リュウキュウヒバリ	<i>Modiolus auriculatus</i>	I-1-a	7				
ウグイスガイ科 Pteriidae				生息場所類型 (Habitat)			
クロチョウガイ	<i>Pinctada margaritifera</i>	I-4-a	10	I: 外洋-サンゴ礁域			
アコヤガイ	<i>Pinctada fucata</i>	II-2-b	11	II: 内湾-転石域			
ハボウキ科 Pinnidae				III: 河口干潟-マングローブ域			
クロタイラギ	<i>Atrina vexillum</i>	II-4-c	13	IV: 淡水域			
ウミギク科 Spondylidae				V: 陸域			
メンガイ類	<i>Spondylus spp.</i>	I-2-a	15	VI: その他			
ベッコウガイ科 Picnodontidae				0: 潮間帯上部(Iではノッチ, IIIではマングローブ)			
シャコガキ	<i>Hytissa hyotis</i>	I-2-c	16	1: 潮間帯中・下部			
イタボガキ科 Ostreidae				2: 亜潮間帯上縁部(Iではイノー)			
シマ(けみ)ガキ?	<i>Crassostrea bilineata?</i>	III-1-a		3: 干瀬(IIにのみ適用)			
オハグロガキ	<i>Saccostrea mardox</i>	I-1-a		4: 礁斜面及びその下部			
ニセマガキ	<i>Saccostrea echinata</i>	II-1-b	20	5: 止水			
オハグロガキモドキ	<i>Saccostrea circumdata</i>	II-1-b	21	6: 流水			
ノギリガキ	<i>Dendrostrea sandwichensis</i>	II-2-a		7: 林内			
ツキガイ科 Lucinidae				8: 林内・林縁部			
ツキガイ	<i>Codakia tigersa</i>	I-2-c	29	9: 林縁部			
クチベニツキガイ	<i>Codakia punctata</i>	I-2-c	28	10: 海浜部			
ウラキツキガイ	<i>Codakia paytenorum</i>	II-2-c	25	11: 打ち上げ物			
ヒメツキガイ	<i>epicodakia bella</i>	I-2-c	26	12: 化石			
カブラツキガイ	<i>Anodontia edentula</i>	II-2-c	24	a: 岩礁/岩盤			
キクザル科 Chamidae				b: 転石			
シロザル	<i>Chama brassica</i>	I-4-a	31	c: 礫/砂/泥底			
ヒレインコ	<i>Chama Lazarus</i>	II-2-b	33	d: 植物上			
キクザル類	<i>Chama spp.</i>		32	e: 淡水の流入する礫底			

第118表 優占種の出土割合

	第II層		第III層			第IV層					第V層			第VI層	
	近世～戦前		古スク時代			貝塚時代後1期					貝塚時代後期1期初期				
	二地区	ハ地区	二地区	ハ地区	イ地区	二地区	ハ地区	イ地区/海側	イ地区/浜屋原主体区	口地区	ハ地区*1	イ地区/海側	イ地区/浜屋原主体区	ハ地区	イ地区
サンゴ礁域：潮間帯															
イソハマグリ	2.5	7.3	6.2	6.8	3.7	5.9	3.8	1.4	14.3	1.0	4.2	4.6	6.3	7.7	0.7
サンゴ礁域：イノー内															
マガキガイ	35.1	12.0	27.2	17.6	10.1	25.6	15.1	7.8	8.5	6.2	3.4	1.0	1.9	3.1	3.1
シャコガイ科	24.7	22.1	12.5	16.2	8.6	15.6	19.0	10.2	16.0	29.2	11.4	4.6	14.6	16.9	9.5
クモガイ	5.7	1.0	5.4	3.1	2.6	5.5	3.9	3.0	2.9	4.2	3.7	1.5	2.5	3.1	4.2
イモガイ科	6.2	2.6	6.7	4.3	2.9	5.6	3.8	2.9	4.9	2.8	2.1	0.8	2.6	3.1	1.5
イトマキボラ	1.2	0.5	1.4	2.1	2.2	1.5	2.9	3.9	3.3	0.9	4.1	8.5	4.4	1.5	6.0
オニツノガイ	4.3	0.7	2.3	2.2	2.0	2.3	2.2	2.7	2.0	0.4	1.9	0.8	0.9	0.0	3.1
タカラガイ科	0.9	1.1	1.1	1.4	1.6	1.1	0.9	0.8	0.9	0.9	0.6	0.0	1.1	0.0	0.9
メンガイ類	0.9	1.1	1.1	0.8	1.4	1.0	0.9	1.0	0.6	1.3	0.6	0.5	0.5	1.5	1.1
ガンゼキホラ類	0.1	0.0	0.3	0.3	0.8	0.3	0.5	1.5	0.5	0.0	0.9	0.3	0.5	0.8	0.9
アコヤガイ類	0.1	1.3	0.5	1.2	0.9	0.7	2.0	0.6	1.4	0.8	8.3	0.5	3.5	8.5	0.2
サンゴ礁域：干瀬															
チョウセンサザエ	2.6	1.4	2.8	4.3	5.1	3.4	7.1	9.4	5.9	5.8	8.1	12.6	6.3	3.1	12.4
ツノレイシ	0.0	0.1	0.3	0.3	1.8	0.4	1.0	3.2	1.1	0.1	1.6	4.4	0.8	0.0	2.9
オキニシ	0.0	0.1	0.3	0.4	0.8	0.3	0.3	0.8	0.3	0.1	0.3	1.0	0.2	0.0	1.3
サンゴ礁域：礁斜面															
サラサバテイル	3.8	1.2	5.8	4.4	4.0	5.7	6.4	6.8	4.5	7.9	6.5	7.7	3.4	3.1	6.2
内湾域															
リュウキュウシラトリ	0.0	6.8	1.2	3.5	5.4	1.3	1.9	4.5	1.1	1.0	6.3	10.0	3.6	12.3	5.8
カワガイ	1.0	9.0	2.5	5.2	7.4	2.7	5.1	7.3	2.7	6.1	5.8	9.0	5.0	6.2	11.9
マスオガイ	0.3	2.3	1.0	1.6	6.0	1.2	1.7	2.6	1.8	0.2	3.2	3.6	3.0	3.1	2.4
スタレハマグリ	0.0	1.1	0.4	0.6	0.5	0.3	0.6	1.1	4.4	3.7	1.1	0.8	10.3	0.0	0.0
リュウキュウサルボオ	1.6	2.7	1.3	1.3	1.0	1.9	1.5	1.2	0.8	1.3	0.7	0.3	0.5	2.3	0.7
リュウキュウザルガイ	0.1	2.4	0.4	0.8	1.0	0.4	0.8	2.1	0.5	1.7	0.7	3.1	1.1	2.3	2.6
リュウキュウマスオ	0.7	1.5	1.3	1.1	1.5	1.3	1.2	1.1	0.7	0.2	0.9	0.8	1.1	0.8	1.6
ヌノメガイ	0.4	1.7	2.1	1.8	2.4	1.7	1.4	1.1	0.8	0.9	0.4	0.0	0.6	0.8	1.5
ホソスジイナミ	0.1	1.7	0.7	1.0	2.2	0.7	0.6	1.7	1.2	3.0	1.2	1.3	2.1	3.1	2.0
河口干潟-マングローブ域															
アラスジケマン	2.6	5.5	8.2	4.0	2.4	7.2	4.6	2.3	4.4	10.3	2.0	2.3	11.6	0.8	2.0
シテナシジミ	0.3	3.0	0.9	1.5	0.5	0.9	2.4	1.0	2.1	5.0	0.4	1.3	2.1	0.0	1.1
陸域															
オキナワヤマタニシ	0.0	1.3	0.1	1.1	3.1	0.1	1.1	2.6	4.0	0.3	3.9	2.6	5.0	0.8	0.9
シュリマイマイ類	0.0	1.0	0.0	0.4	0.8	0.1	0.5	2.2	1.0	0.0	2.4	2.3	1.8	0.0	2.9
パンダナマイマイ	0.0	0.9	0.0	1.0	3.7	0.0	0.5	2.4	1.9	0.2	2.7	0.0	2.0	0.8	2.2
全体個体数 (NISP)	681	1461	2400	5750	7688	13105	21829	12643	11919	4293	2952	389	3521	130	548
優占種の割合 (%)	95.4	93.4	94.0	90.6	86.4	94.7	93.6	89.4	94.6	95.3	89.4	86.1	99.6	85.4	91.6

■ 20%以上 ■ 10%以上-20%未満 ■ 5%以上-10%未満

*1：一部には後1期の大当原式土器期のものを含んでいる



第177図 伊礼原遺跡（国指定外）と伊礼原A遺跡の優占種の変化

第119表-2 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土貝類遺体の詳細 (NISP)

海産貝類：複足綱	層序 地区 遺構	I		II										III															
		H19		H19			イ			ニ	ハ	H19				イ				ニ				ハ					
		表土	SK	SD	-	SK	SD	-	-	-	P	SK	SD	-	P	SK	SD	-	SP	SK	SX	-	SP	SK	SD	SX	-		
フトヘナタリ(1ヶ所)	完形・殻頂 体層・破片																												
ネジマガキカイ	完形・殻頂 体層・破片	1		1	3	1	4	5	3	7	1			33	10	1	17					4	4		2		5		
マガキガイ	完形・殻頂 体層・破片	107 6	22	72	97	6	46	236	165	287	20	3	22	352	85	6	241	67	29	10	540	198	42	58		409			
イボソデ	完形・殻頂 体層・破片	1			2		2	1		2				2	1							6	1		1		4		
マイノソデ	完形・殻頂 体層・破片									9				1															
ベニソデ	完形・殻頂 体層・破片																												
ムカシタモト	完形・殻頂 体層・破片								1	1	1	1				4			2					1					
オハグロガイ	完形・殻頂 体層・破片															1													
フトスジムカシタモト	完形・殻頂 体層・破片							1			1					1													
アツソデガイ	完形・殻頂 体層・破片																												
ゴホウラ	完形・殻頂 体層・破片			1																							1		
クモガイ	完形・殻頂 体層・破片	1 19	21 7	17 18	18 27	4	6	9 30	3 11	31 32	2	3	2	36 64	3 20	4	27 36	3 7	2 1	2 1	45 68	13 10	3 2	6 4	2 4	45 28			
クモガイ幼貝	完形・殻頂 体層・破片														1	5						1					1		
スイジガイ	完形・殻頂 体層・破片	1	2		4	2		2		1	2	5		1			2		1		3					2			
ラクダガイ	完形・殻頂 体層・破片				1			1														1	1				1		
リュウキュウヘビガイ	完形・殻頂 体層・破片																												
ヘビガイ類	完形・殻頂 体層・破片											1																	
キイロダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破				1																			1					
ハナビラダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破	2		2	1					1	5			23 1	4		2	1			2	2							
コモンダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破													2															
ナツメモドキ	完・殻底・外 殻頂・内・破																												
ハナマルユキ	完・殻底・外 殻頂・内・破	2	1		1	2	1	1	14				1	17 13	2		15 12	2			5	6	5	1		5			
ヤクシマダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破			1	1					1	3			1 3			2		1		3	1		1					
ホソヤクシマダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破								1					1			1												
ホシダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破	1	3		1	2		1	2	3	3			3 3		4	4	2			2	2				5			
タルダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破																										3		
ヒメホシダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破				1		1																						
ハラダカラ	完・殻底・外 殻頂・内・破																												
ホシキスタ	完・殻底・外 殻頂・内・破											1									1	2					1		
タカラガイ類	完・殻底・外 殻頂・内・破	1															1												
トミガイ	完形・殻頂 体層・破片				1					2				1			3				1	1							
リスガイ	完形・殻頂 体層・破片	1			2		2		1	3				17	1		7	2	1										
ホウシュノタマ	完形・殻頂 体層・破片													5			3												
ヘソアキトミガイ	完形・殻頂 体層・破片									1				1															
ロウイロトミガイ	完形・殻頂 体層・破片													1			2					1							
トラダマ	完形・殻頂 体層・破片														1														
タマガイ科	完形・殻頂 体層・破片																1				1								
トウカムリ科	完形・殻頂 体層・破片																												
ヒナヅル	完形・殻頂 体層・破片																										1		
イワカワトキワ	完形・殻頂 体層・破片																												
ウズラガイ	完形・殻頂 体層・破片				1	1								2	1		1												
スクミウズラ	完形・殻頂 体層・破片			1													1	1											
ヤツシロガイ科	完形・殻頂 体層・破片																	1											
フジツガイ科	完形・殻頂 体層・破片									1																			
シオボラ	完形・殻頂 体層・破片			1	1	2				2	1			1	1		2		1	1									

<個体数> 巻貝類(陸・淡水産含む): 完形・殻頂 タカラガイ科: 完形・殻底・外唇 二枚貝類: 完形・殻頂R・Lの多い方

第119表-4 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土貝類遺体の詳細 (NISP)

海産貝類：複足綱	層序 地区 遺構	I										II										III																			
		H19					イ					ニ					ハ					H19					イ					ニ					ハ				
		表土	SK	SD	-		SK	SD	-	-	-	P	SK	SD	-	P	SK	SD	-	SP	SK	SX	-	SP	SK	SD	SX	-													
マクラフデ	完形・殻頂 体層・破片																																								
マダライモ	完形・殻頂 体層・破片				1	2		1	2	1	2	1	2					5		1	3		1	11	2			2													
コマダライモ	完形・殻頂 体層・破片																																								
サヤガタイモ	完形・殻頂 体層・破片				1	2						4						9	3		4			1	1																
ジュズカケサヤガタイモ	完形・殻頂 体層・破片																						2	1																	
イボシマイモ	完形・殻頂 体層・破片					1						3								1			1	1			1														
ヤナギシポリイモ	完形・殻頂 体層・破片																																								
サラサミナシ	完形・殻頂 体層・破片		1			1			6	3	2				1	1			2			13	2	1			13														
オトメイモ	完形・殻頂 体層・破片			1					2		8				5						1		13	6																	
ナガサラサミナシ	完形・殻頂 体層・破片					1					2				1							1	2	1																	
サラサモドキ	完形・殻頂 体層・破片				1						1																														
サラサミナシ	完形・殻頂 体層・破片				1																		1																		
イボカバイモ	完形・殻頂 体層・破片																																								
ミカドミナシ	完形・殻頂 体層・破片					1					1	2			1							1		1			1														
カバミナシ	完形・殻頂 体層・破片				1					1												1																			
ヤキイモ	完形・殻頂 体層・破片									1																															
アジロイモ	完形・殻頂 体層・破片					2					1				3						1																				
キヌカツギイモ	完形・殻頂 体層・破片																																								
タガヤサンミナシ	完形・殻頂 体層・破片																																								
ナンヨウクロミナシ	完形・殻頂 体層・破片				1	2				1		3			2				2	1			4																		
ダイミョウイモ	完形・殻頂 体層・破片																																								
スジイモ	完形・殻頂 体層・破片																																								
アカシマミナシ	完形・殻頂 体層・破片										3												3	1			1														
ヒラマキイモ	完形・殻頂 体層・破片										1										2																				
ゴマフイモ	完形・殻頂 体層・破片		1		1	1	2				1				2				2		1		2		1																
ニシキミナシ	完形・殻頂 体層・破片														1																										
アンボイナ	完形・殻頂 体層・破片																							1																	
シロアンボイナ	完形・殻頂 体層・破片																																								
コモンイモ	完形・殻頂 体層・破片																				1																				
ツキイモ	完形・殻頂 体層・破片																																								
クロザメモドキ	完形・殻頂 体層・破片																																								
アンボンクロザメ	完形・殻頂 体層・破片	1	5	3	3		1	1	3	3	3	4	1	1	4	3	2	5				4	4				7														
クロフモドキ	完形・殻頂 体層・破片	1	1					1		3	8	5	15	4	1	1	10	2				7	3				3														
小形イモガイ科	完形・殻頂 体層・破片	2			2	1		1	1	10	3				6	3		4	3			12	4	1	1	1	7														
中形イモガイ	完形・殻頂 体層・破片	4						1	1	4	9				2			3	3			6	1	1	1	1	2														
大形イモガイ	完形・殻頂 体層・破片	5	1	7	9			3	1	16				1	16	5		10				11	2		1	8															
イモガイ科不明	完形・殻頂 体層・破片	12	1	15	8			8	8	8	51	4			23	17		23	1			25	7		3	8															
トラフクダマキ	完形・殻頂 体層・破片																																								
キバタケ	完形・殻頂 体層・破片																																								
タケノコガイ	完形・殻頂 体層・破片									1																															
ナツメガイ	完形・殻頂 体層・破片										1				5			3				1																			
ツキハマシノミガイ	完形・殻頂 体層・破片														2			1				1																			
タツナミガイ	完形・殻頂 体層・破片		4																																						
ウミウサギ	完形・殻頂 体層・破片																																								
マルタニシ	完形・殻頂 殻底・破片										1				2							1																			

<個体数> 巻貝類 (陸・淡水産含む): 完形・殻頂 タカラガイ科: 完形・殻底・外唇 二枚貝類: 完形・殻頂 R・Lの多い方

IV														V						VI				表採不明	後期	合計					
H19				イ		イ・ロ トレ	ニ					ハ					H19		イ		ニ	H19	イ	ニ	ハ		-	-			
SS	SK	SD	-	SS⑤	-		SP	SK	SD	SX	-	SP	SK	SD	SX	-	P	SS	SK	-	P	貝溜り	-	-	-				-	下層 確認	下層 確認
							1				1																			1	
			39		15		6				16	4			2	5					3			1	1					1	127
			3		1																2									8	
			1		1																									1	
			4		5					1	2				3						2									42	
			2		1																									6	
			1								2																			11	
			1													2														3	
			32		4		4	1			10	7			2	23					6			1				1	137		
			20		5		4				5	3				11					5			1				2	91		
			6		2						5	1				2												2	21		
			7		4						1					1								1					2	21	
			2																											2	
		1	2																											4	
			9																							1				11	
			1								2										2									7	
			2		1																1									4	
			5																		1									6	
			3																											4	
			2		2						2																		1	7	
			2		2																									12	
			1				1									1														6	
			1		1											1														4	
			2								1																			2	
			1																		1									1	
			2	1	2		1																							13	
			1				1																							1	
																															1
			2																												3
			2													1														2	
			9		5		3			1	1					2														37	
			5		1		3			1						1					1								4	29	
			1		2																									1	
			1		1																									3	
							1				3	1	1			3														11	
			3		1		1				1	1	1																	16	
			4		3																4									14	
			5																											6	
			11		1						1					4					1	1								24	
			10		2					2					1	2													1	28	
			1								1																			2	
			1										1																	1	
					1								1																	3	
													1																	1	
																															1
			2		3						1					2														1	8
			4																		1									6	
			1	50		13		4			1	9	3	4		3	36				1								24	219	
			1	90	1	34		4				8	7			5	32					1	3					1	33	310	
			18		2							3				6														4	52
			16		1	9						1	1	1		7													3	53	
			1	35	1	25		6	2			6	5		1	26							1						2	173	
			2	28		11		3		1		3	13		1	13													1	112	
			171		3	63					2	3	1		2	13					1								9	382	
			404		2	116		7			8	11	5		11	20				1	30		15	5		1		26	876		
			6		1							1				1														1	15
			19		6			1			8	4	1			1	7												7	91	
			4		2				1			1																		1	15
			1		23		2				1																			2	85
			2																												2
																1															1
																															1
																															1
			2																												23
					1						1																				6
																															1
																															5
																															3
																															1
			2																												6

SS: 貝集積 P・SP: 柱穴orビット SD: 溝 SX: 不明

第119表-5 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土貝類遺体の詳細 (NISP)

海産貝類：複足綱	層序 地区 遺構	II										III															
		H19			イ			ニ	ハ	H19				イ				ニ				ハ					
		表土	SK	SD	-	SK	SD	-	-	P	SK	SD	-	P	SK	SD	-	SP	SK	SX	-	SP	SK	SD	SX	-	
オキナワヤマトニシ	完形・殻頂 殻底・破片		16 4	2	5	8		25		60 5	8		2	154 11	16 1		50 1	3									
トウガタカワニナ	完形・殻頂 殻底・破片																										
ヨシカワニナ	完形・殻頂 殻底・破片																										
スガカワニナ	完形・殻頂 殻底・破片																										
スノメカワニナ	完形・殻頂 殻底・破片			1				1		1				3			1										
カワニナ	完形・殻頂 殻底・破片					2		2		3				10			3		1			1		2			
ツヤギセル	完形・殻頂 殻底・破片																										
アフリカマイマイ	完形・殻頂 殻底・破片					1																					
シュリマイマイ	完形・殻頂 殻底・破片		6	1		4		3		12				6	2	1	12					1					
カツレンマイマイ	完形・殻頂 殻底・破片		3	1	1			5		7				11	3	1	8										1
ヒメユリヤマトカマイマイ (カタキ)	完形・殻頂 殻底・破片		1											1			5										
ヤンバルマイマイ	完形・殻頂 殻底・破片																										1
バンダナマイマイ	完形・殻頂 殻底・破片		5 3	3		10 1		16 2		38 3	3	1	1	152 19	12		100 5				1		2				1
オキナワ ウスカワマイマイ	完形・殻頂 殻底・破片		2			4 2				1				3													
陸産貝類不明	完形・殻頂 殻底・破片																										
エガイ	完・殻頂 R		1	1	2	3				1	6	2		14	1		1	1			1						
	完・殻頂 L		1		1				1		11			13			3							3			1
	破片		1																			1					
オオミノエガイ	完・殻頂 R													2	2												
	完・殻頂 L													1													
	破片																										
オオタカノハ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										1
ハイガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L										1							1									
	破片																										
リュウキュウサルボオ	完・殻頂 R		11	3	5	5		1	3	4	10		1	22	1		9	3	2		8	6	2			14	
	完・殻頂 L		2	2	9	4		2	3	6	11	1	1	17	2	2	12	3				10	9	2		12	
	破片		7		1	1			5		2			7	2		2				5	1				7	
リュウキュウヒバリ	完・殻頂 R										2																
	完・殻頂 L										1																
	破片						1										3				2						
イガイ科	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
クロチョウガイ	完・殻頂 R		2		1					1	2			1	1										1		
	完・殻頂 L		2	2							3			3			2							3			1
	破片		5		1	1					11	1		2	1		4						2	1			
アコヤガイ	完・殻頂 R										1																
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ウグイスガイ科	完・殻頂 R		7								16	2		17	1										2		
	完・殻頂 L		2		1	1				1	26	1		22	1		1	1					3	1			
	破片										2	4	1	5			1										1
クロタイラギ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ウミギク科	完・殻頂 R																										1
	完・殻頂 L																										
	破片																										
メンガイ類	完・殻頂 R		3	1	4	4		1	1	7			1	14	10		13	1			5	2	1	1		5	
	完・殻頂 L	1	2	1		4		1	2	7				22	10		10	2			7	1		1		5	
	破片		5		3	5	1	3	3	9				17	3		4	2			8	2				1	
シャコガキ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
オハダログガキ	完・殻頂 R										4																
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ワニガキ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
シマガキ?	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L												1														
	破片																										
ニセマガキ	完・殻頂 R				1									1													
	完・殻頂 L																										
	破片																										
オハダログガキモドキ	完・殻頂 R										2			3	1		2										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
カキ(右殻)	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片												1														

<個体数> 巻貝類(陸・淡水産含む): 完形・殻頂 タカラガイ科: 完形・殻底・外唇 二枚貝類: 完形・殻頂R・Lの多い方

IV														V						VI				表採不明	後期	合計					
H19				イ		イ・ロ トレ	ニ					ハ					H19		イ		ニ	H19	イ	ニ	ハ		口				
SS	SK	SD	-	SS⑤	-		SP	SK	SD	SX	-	SP	SK	SD	SX	-	P	SS	SK	-	P	貝溜り	-	-	-		-	下層 確認	下層 確認	-	-
1			715		256	1	3				3	11			3	7		21	243		10	3			1	4			12	12	1655
			36	1	18						1	3			2			1	10						1					1	96
					3																									1	5
					1		1																						1	2	6
			2																										2	2	4
			1		1																								5	7	3
			1		5							1												1							13
			1		1																										4
			8		10					1	5				1				1							1				1	52
			4		4						1																				9
																					1										2
																															1
					1																										1
			62	2	67					4					2	1		5	26		1	9				4				231	
			60		23		1				1				1		4	16							3				1	125	
		1	103		72					1		1			5		7	54				10				6		1		302	
			21		10					1							1	4											1	41	
			4		1														2				1							14	
			1												1															1	4
										1					2															2	4
1	2		313		252		2				1	1			10	1	4	112		10	9			1	12			7	7	1089	
			68		17												3	12			7								1	142	
			4		4														3											21	9
			1		5												1													1	9
																															1
			68		15		2			3	3		1		4	1		6						1	2		1		2	143	
1			53		16		1			3	2			1	5			13		1	1			1				4	138		
			8																												10
																															4
																															1
			1																												1
			1												2														3	6	
															3									1					7	13	
			121		62	1	7		1	1	59	10	2		3	34		13			2	2	1	1	2			23	453		
			128		52		3	1			55	11	2		1	46		16		1	1	2	1	1	2			17	452		
			72		28		5				9	3			2	3		3									1		18	185	
			1																												3
			2																												6
							1				1																				4
																															2
			67		6		3			4	1				1			57						2				1	4	156	
		1	65		10		4			7					9		1		42				1					8	164		
		1	126	1	20			1		6				1	10			49				3		7	1		1	18	274		
																															1
			122		3					5	1				4			70											2	252	
			107		12		6			9	3				7			66				1						1	272		
			141		6		2			9	1				3			69									1		2	248	
																															2
			2																												2
												1																			1
			56	1	34		5			15	4			1	25			10			2	1			2		1	21	252		
			70		40		4			18	1				25			9			1	4		1	2			13	268		
		2	86		39		3	1		2	2	1		2	6			7				2		2			22	243			
			2																												2
			1												1																2
			3																			2							1	9	
			1																												1
			1		1																										2
																												1			1
																															1
			2																												2
			1							1																					4
															1																1
			5		2													1													16
			4		1																	1	1								8
																															1
										1																					2

SS : 貝集積 P・SP : 柱穴orビット SD : 溝 SX : 不明

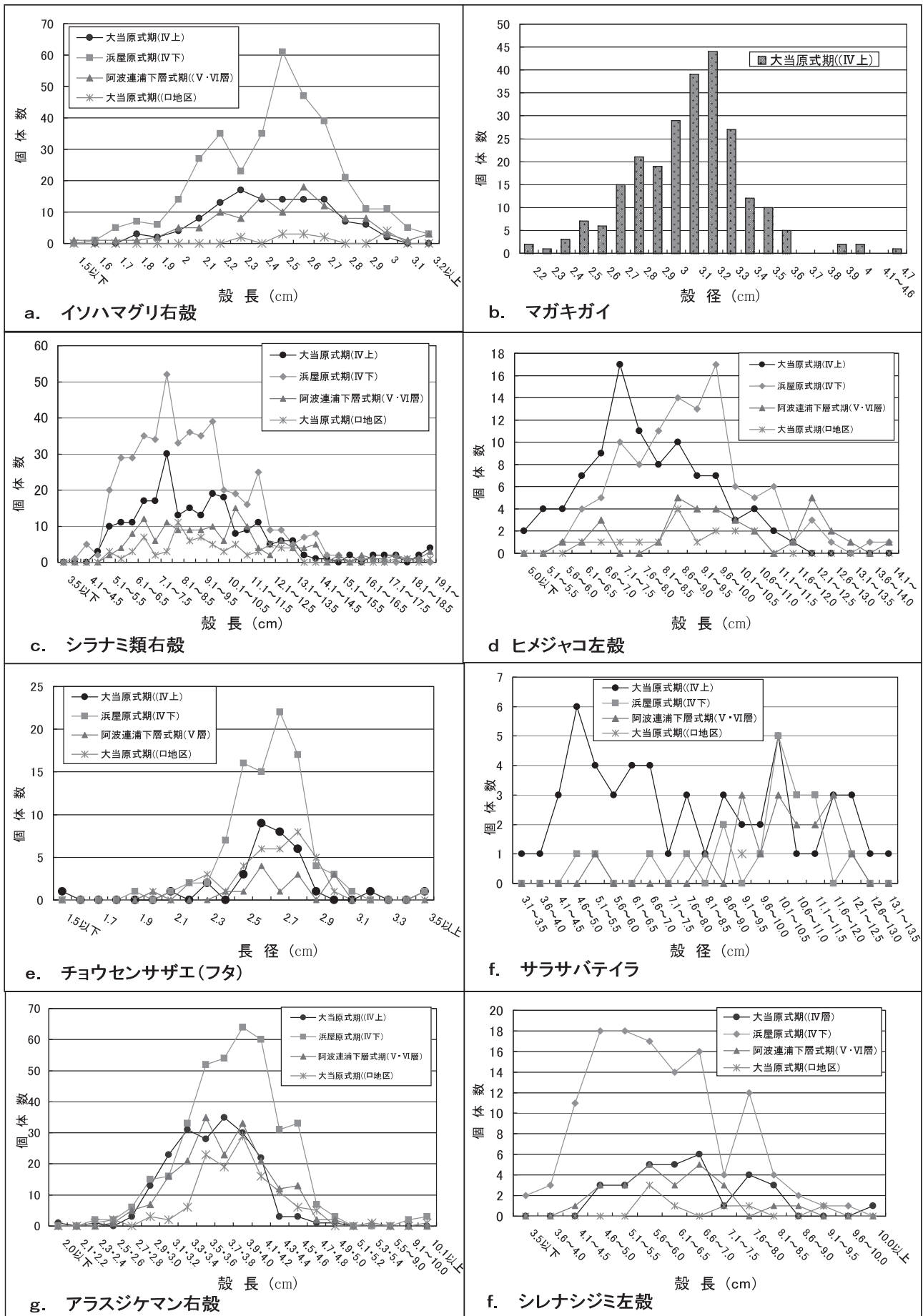
第119表-6 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土貝類遺体の詳細 (NISP)

海産貝類：複足綱	層序 地区 遺構	II										III															
		H19			イ			ニ	ハ	H19				イ				ニ				ハ					
		表土	SK	SD	-	SK	SD	-	-	P	SK	SD	-	P	SK	SD	-	SP	SK	SX	-	SP	SK	SD	SX	-	
イタボガキ科	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
カブラツキガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ウラキツキガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ヒメツキガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
クチベニツキガ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ツキガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ツキガイ科	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
シロザルガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
キクザル	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ヒレインコ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
キクザル科	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
リュウキュウザルガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
リュウキュウアオイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
フジロザル	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
カワラガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ザルガイ科	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
オオシラナミ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ヒレジャコ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ヒメジャコ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
シャコガイ類不明	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
シャゴウ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
シラナミ類	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
リュウキュウバカガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
タママキ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ユキガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
イソハマグリ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ナミノコマスオ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
リュウキュウナミノコ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ニッコウガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ヒメニッコウガイ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										

<個体数> 巻貝類(陸・淡水産含む):完形・殻頂 タカラガイ科:完形・殻底・外唇 二枚貝類:完形・殻頂R・Lの多い方

第119表-7 伊礼原遺跡(国指定外)・伊礼原A遺跡出土貝類遺体の詳細 (NISP)

海産貝類：複足綱	層序 地区 遺構	II										III															
		H19			イ			ニ	ハ	H19				イ				ニ				ハ					
		表土	SK	SD	-	SK	SD	-	-	-	P	SK	SD	-	P	SK	SD	-	SP	SK	SX	-	SP	SK	SD	SX	-
リュウキュウシラトリ	完・殻頂 R		41	21	15	15	3	4		3	89	12		1	129	22	1	32	12	3	3	4	12	4	3		4
	完・殻頂 L		29	13	21	21	4	4		4	73	12			115	21		37	2	1		1	4	2	4		
	破片		2	1	2	1					10	1			27			4	1			2		1			
スノメイチョウシラトリ	完・殻頂 R																	3									
	完・殻頂 L																						1				
	破片																										
モチツキザラ	完・殻頂 R														1			1									
	完・殻頂 L														2			1								1	
	破片																									1	
サメザラ	完・殻頂 R																						1				
	完・殻頂 L														1			1					1				
	破片										1																
ニッコウガイ科	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
サメザラモドキ	完・殻頂 R																						1				
	完・殻頂 L		1		1						1							1									
	破片																										
リュウキュウマスオ	完・殻頂 R		5	2	4	8	2	1	2	1	11	1		31	2		11	3	1	1	13	3	1	2		5	
	完・殻頂 L		2	2	7	5	1	1	3	1	21	2		25	1		12	5	1		5	8	1	3		8	
	破片		1		2	2		1			3			19	3		2				1	2					
マスオガイ	完・殻頂 R		14	3	10	26	2	5	2		33	3		67	7		155	3	3	1	5	5	1	2		1	
	完・殻頂 L		6	5	9	11	1	4		3	36		1	68	2		144	4			7	5	2	6		4	
	破片		1			2		1			3			10			1				1						
シレナシジミ	完・殻頂 R		12	1	8	1		1		2	28	1		2	3	2	1	3	1			8	1	1	1	5	
	完・殻頂 L		7		15	3		2	1		25	1		4	3		5	1				8	5	1	1	9	
	破片		2		3	4	1	1	1	1	12	1		7	2		3		1		2	2	2				
スノメガイ	完・殻頂 R		6	3	2	5	1	2	1	2	24	1		51	3		16	4	1	2	12	9	3	3		7	
	完・殻頂 L		4	1	1	2			1	3	26	2		49	3	1	22	8	6		12	11	1	6		11	
	破片		4	1	2	6		2	1	1	4			28	2		7	3		3	3					3	
アラスノメガイ	完・殻頂 R							1			2			3			1	2				3					
	完・殻頂 L							1			2			1			2				1	1					
	破片										1			1			2				1	1					
ホソソジナミ	完・殻頂 R		5		4	9	1	3		3	26	1		61	14		14	2		1	3	4	1			2	
	完・殻頂 L		8	1	6	4	1	2	1	3	22			50	9		7	2	1		6	3				2	
	破片									2				4			2				2						
アラスジケマン	完・殻頂 R		10	5	9	23	1	2	6	22	45	1	1	46	13		18	18	2	1	87	14	1			55	
	完・殻頂 L		10	5	12	9	3	1	12	16	41	2	1	55	11		19	6	3	3	75	23	1	2		58	
	破片		1		1	2				1	3			6							2						
ケショウオミナエシ	完・殻頂 R										1																
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ユウカゲハマグリ	完・殻頂 R		13	6	7	10	3		1	1	23	3		57	5	1	13	1	1	1	3	2		1		1	
	完・殻頂 L		11	2	3	7	3				24	1		50	2		12	2			2	3		1			
	破片				1	1					3			5			2				1						
オイノカガミ	完・殻頂 R		1	4	2	3		1	1		15			16	1		2	1			2	1					
	完・殻頂 L		2	1	1	2			1	1	14			11			1	2			2						
	破片																										
リュウキュウアサリ	完・殻頂 R				1	1					4			2								1					
	完・殻頂 L				1						2	1		2								1					
	破片		1	1	1						1			4			1					1					
ヒメリュウキュウアサリ	完・殻頂 R		1								1			1													
	完・殻頂 L													5													
	破片																										
ヒメアサリ	完・殻頂 R		1								1			2	2		1										
	完・殻頂 L		1			1								4			2										
	破片																										
スダレハマグリ	完・殻頂 R		6	2	1	5		1			15			16	2		3	2	1		1	1					
	完・殻頂 L		6	5	4			1		1	17	1	1	10	1		2	3	1		1	1		2			
	破片					1					1																
トドムマリハマグリ	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
マルスダレガイ科	完・殻頂 R													1													
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ハマグリ類	完・殻頂 R																										
	完・殻頂 L																										
	破片																										
ダテオキシジミ	完・殻頂 R		1	1										1													
	完・殻頂 L													1													
	破片																										
合計		7	1035	323	845	944	100	32																			



第178図 優占種のサイズ組成変化

〈巻貝〉

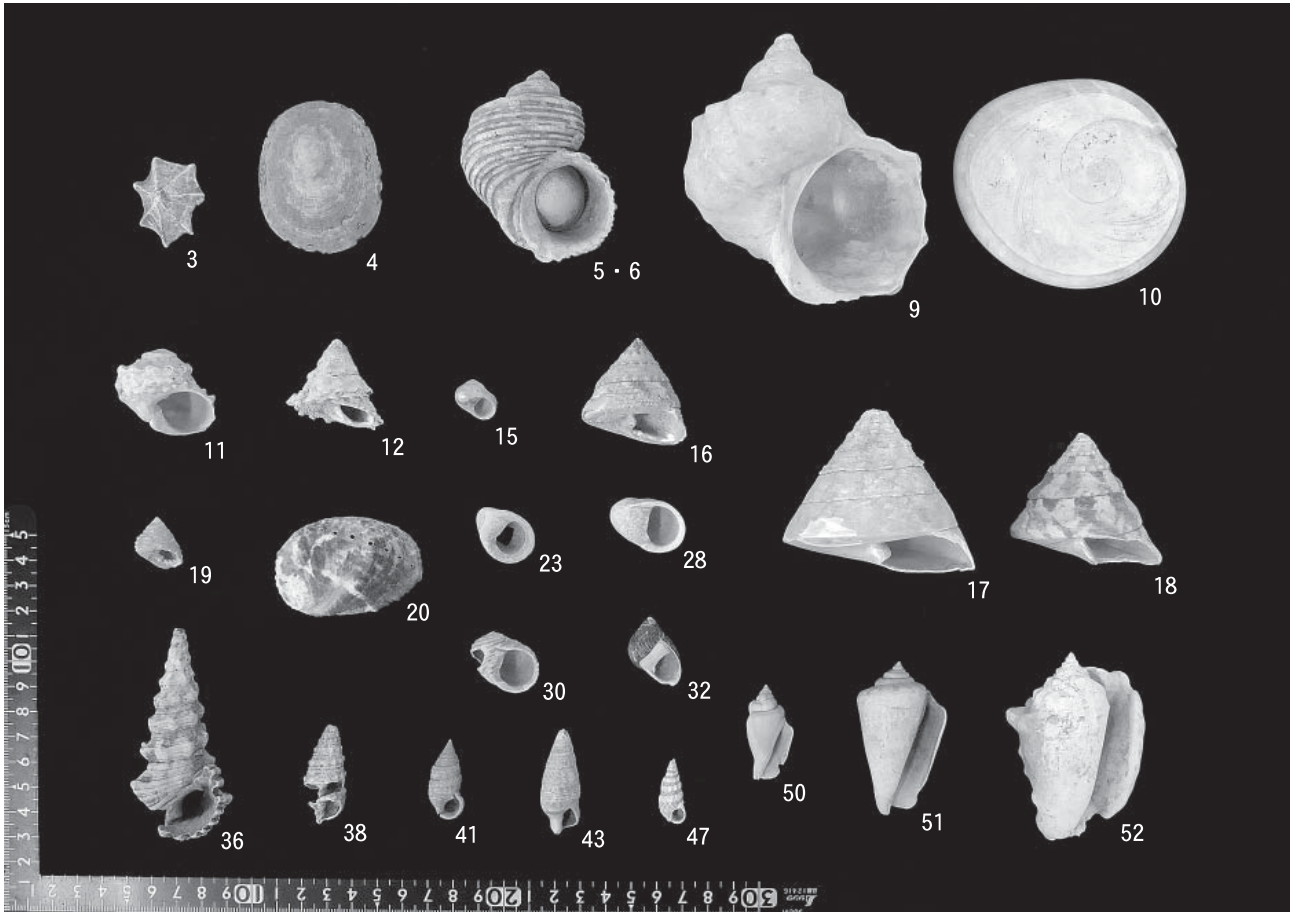
- ユキノカサ科 3リュウキュウウノアシ
 ヨメガカサ科 4オオベッコウガサ
 リュウテン科 5チョウセンサザエ 6チョウセンサザエ (蓋) 9ヤコウガイ 10ヤコウガイ (蓋)
 11カンギク 12オオウラウズ
 ニシキウズ科 15サラサダマ 16ニシキウズ 17ギンタカハマ 18サラサバテイラ 19オキナワイシダタミ
 ミミガイ科 20イボアナゴ
 アマオブネ科 23アマオブネ 28ニシキアマオブネ 30オオマルアマオブネ 32シマカノコ
 オニノツノガイ科 36オニノツノガイ 38トウガタカニモリ 41クワノミカニモリ
 ヘナタリ科 43マドモチウミニナ
 ウミニナ科 47リュウキュウウミニナ
 スイショウガイ科 50ネジマガキガイ 51マガキガイ 52イボソデ 55ムカシタモト 60ゴホウラ
 61クモガイ 62クモガイ (亜成貝) 63スイジガイ 64ラクダガイ
 ムカデガイ科 65リュウキュウヘビガイ
 タカラガイ科 T-2ハナビラダカラ T-3コモンダカラ T-5ナツメモドキ T-6ハナマルユキ
 T-7ヤクシマダカラ T-8ホソヤクシマダカラ T-9ホシダカラ T-13ホシキヌタ
 タマガイ科 67トミガイ 68リスガイ 71ホウシュノタマ 73ヘソアキトミガイ 74ロウイロトミガイ
 トウカムリ科 78ヒナヅル
 ヤツシロガイ科 79イワカワトキワ 83スクミウズラ
 フジツガイ科 86シオボラ 87シノマキ 88オオゾウガイ 89サツマボラ 90ボウシュウボラ 94ホラガイ
 オキニシ科 95オキニシ 98オオナルトボラ
 アッキガイ科 100オオガンセキ 102ウネレイシダマシ 104シラクモガイ 106ツノテツレイシ 107ツノレイシ
 110ムラサキイガレイシ 111アカイガレイシ
 オニコブシ科 113コオニコブシ
 オリイレヨフバイ科 114ヒメオリイレムシロ 121オリイレヨフバイ
 イトマキボラ科 123イトマキボラ 124ナガイトマキボラ 126リュウキュウツノマタ 127ツノマタモドキ
 130マルニシ 131チトセボラ
 フデガイ科 137イモフデ
 イモガイ科 140マダライモ 142サヤガタイモ 146イボシマイモ 147ヤナギシボリイモ
 148・152サラサミナシ 149オトメイモ 155カバミナシ 156ヤキイモ 158アジロイモ
 160キヌカツギイモ 161タガヤサンミナシ 164ナンヨウクロミナシ 166ダイミョウイモ
 168アカシマミナシ 170ゴマファイモ 171ニシキミナシ 172アンボイナ 176クロザメモドキ
 177アンボンクロザメ 178クロフモドキ
 タケノコガイ科 184キバタケ 185タケノコガイ
 ナツメガイ科 186ナツメガイ
 アメフラシ科 188タツナミガイ
 ウミウサギ科 189ウミウサギ

〈陸・淡水産貝〉

- R-1マルタニシ R-2オキナワヤマタニシ R-3トウガタカワニナ R-4ヨシカワニナ
 R-7ヌノメカワニナ R-8カワニナ R-10ツヤギセル R-12シュリマイマイ R-13カツレンマイマイ
 R-14ヒメユリヤマタカマイマイ R-17パンダナマイマイ R-18オキナワウスカワマイマイ

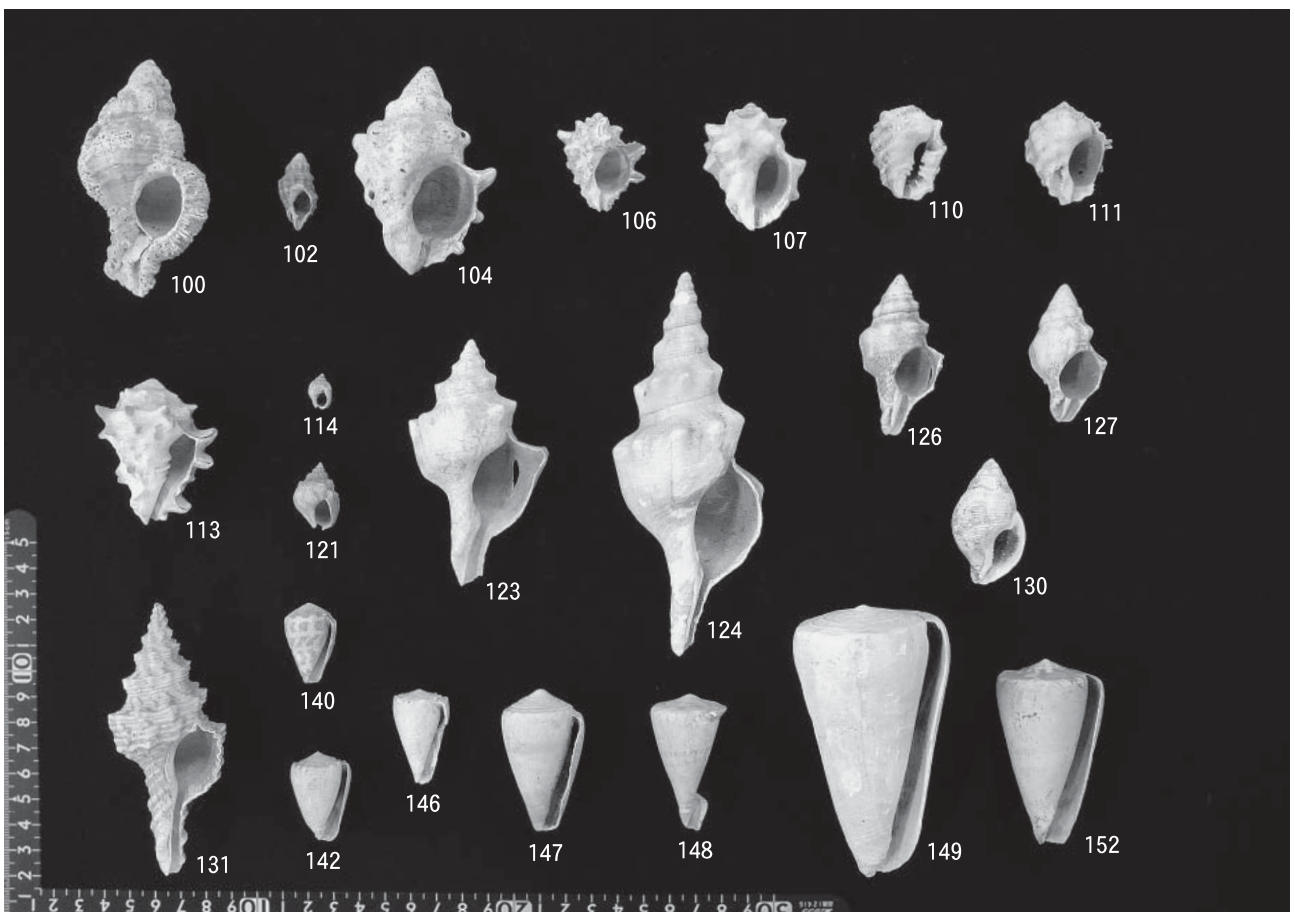
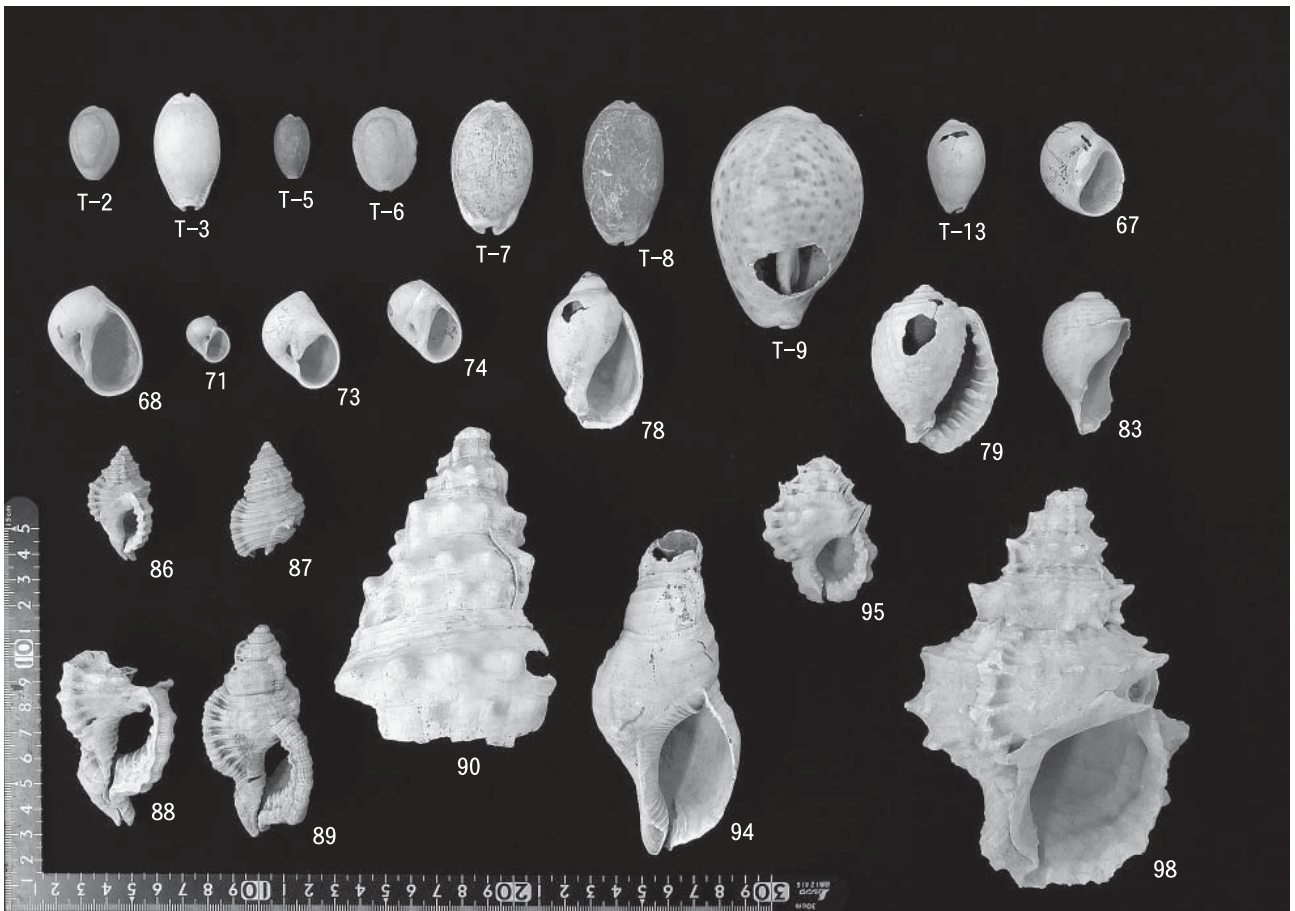
巻貝・陸産貝名称 (図版145~147)

(番号は第117表と一致)



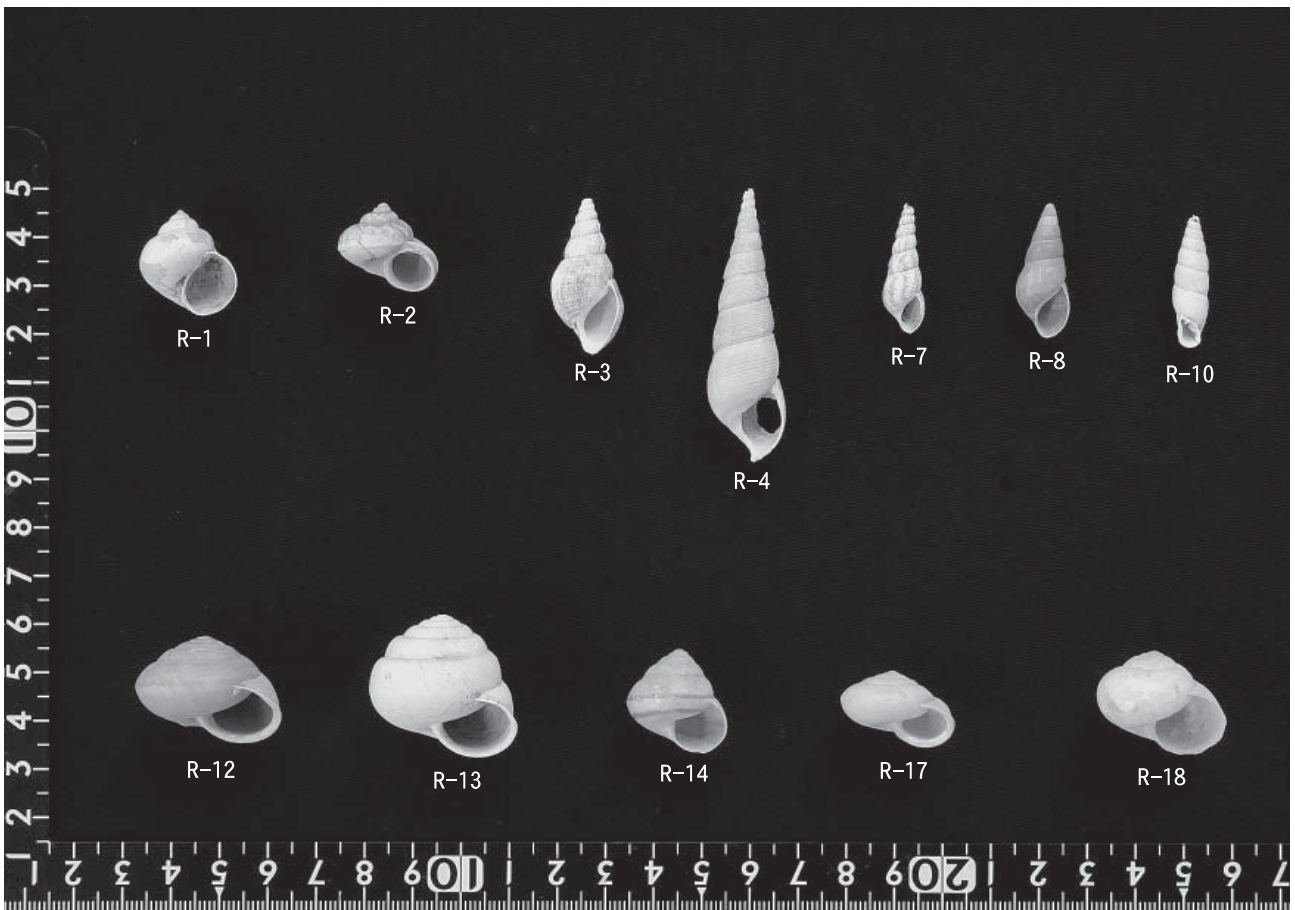
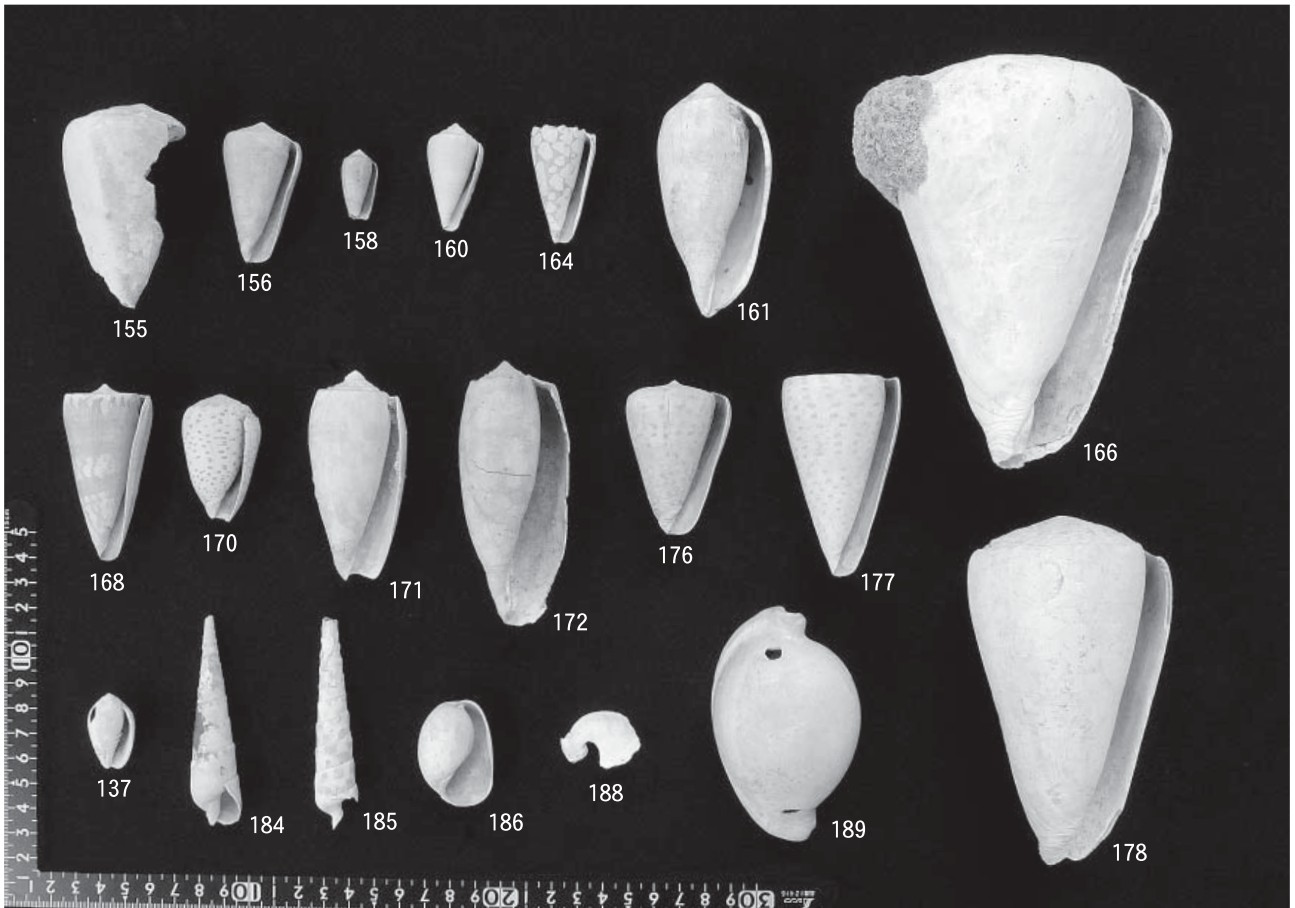
図版145 貝類遺体 1 (巻貝)

(番号は第117表と一致)



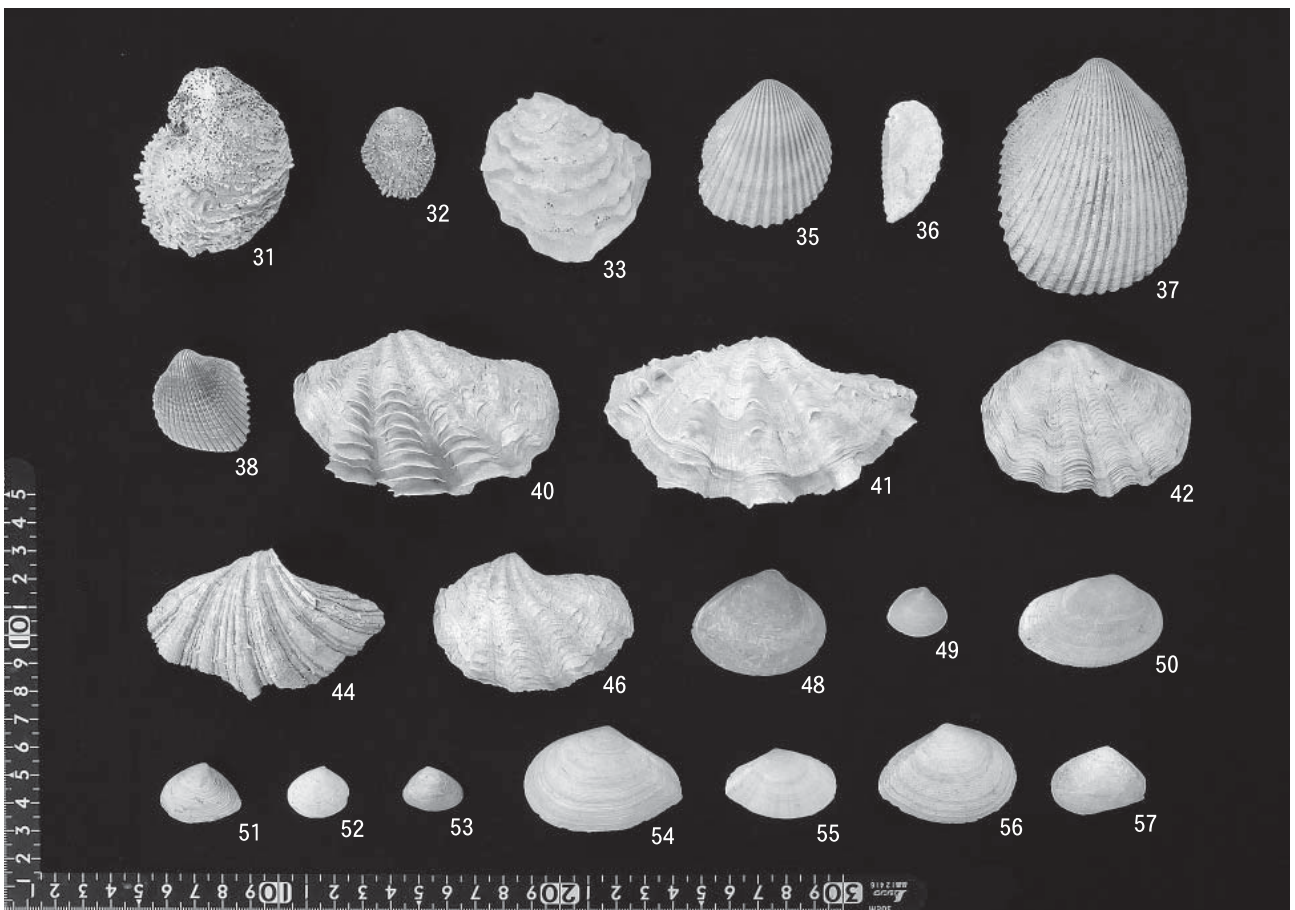
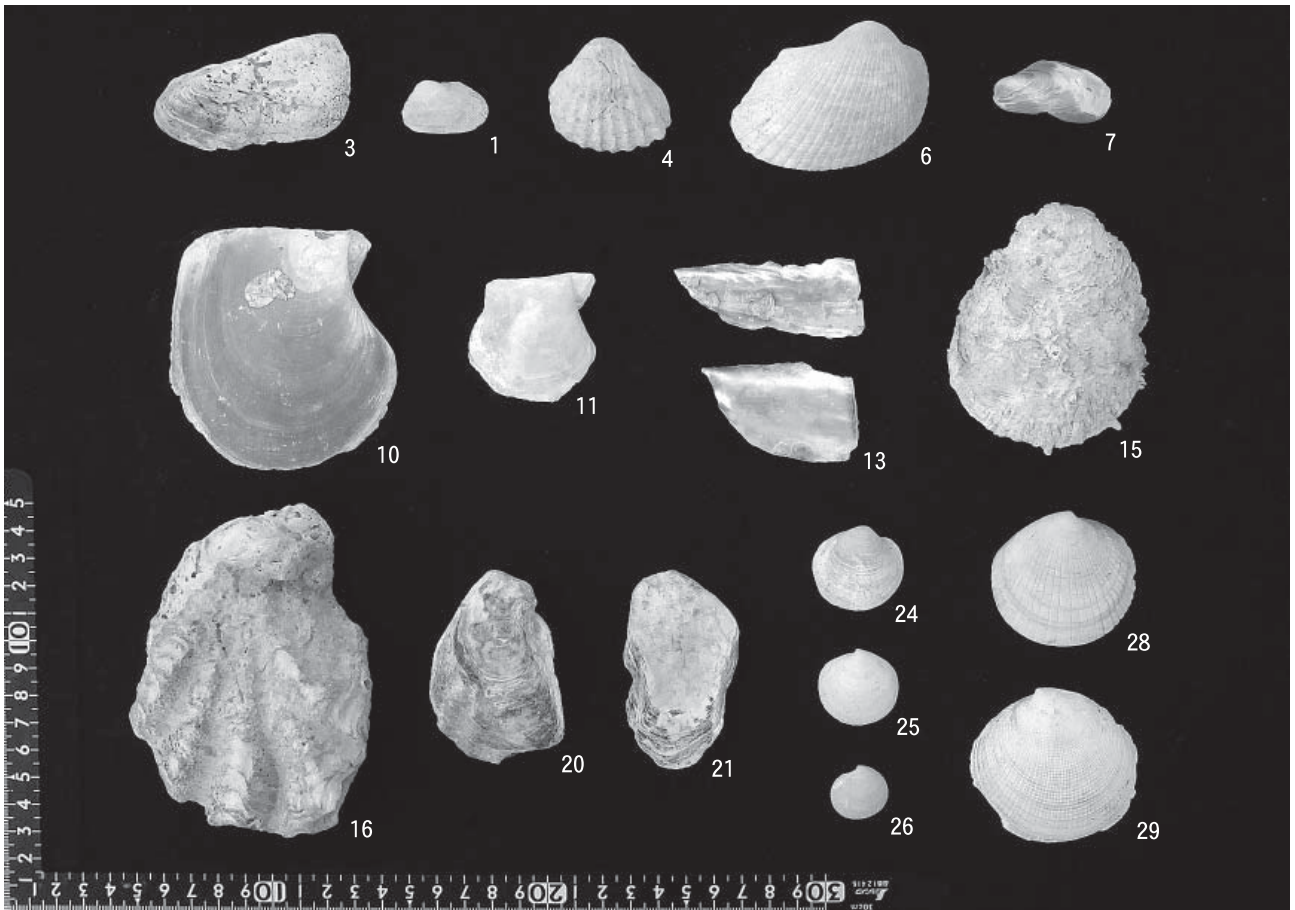
図版146 貝類遺体2 (巻貝)

(番号は第117表と一致、Tはタカラガイの意)



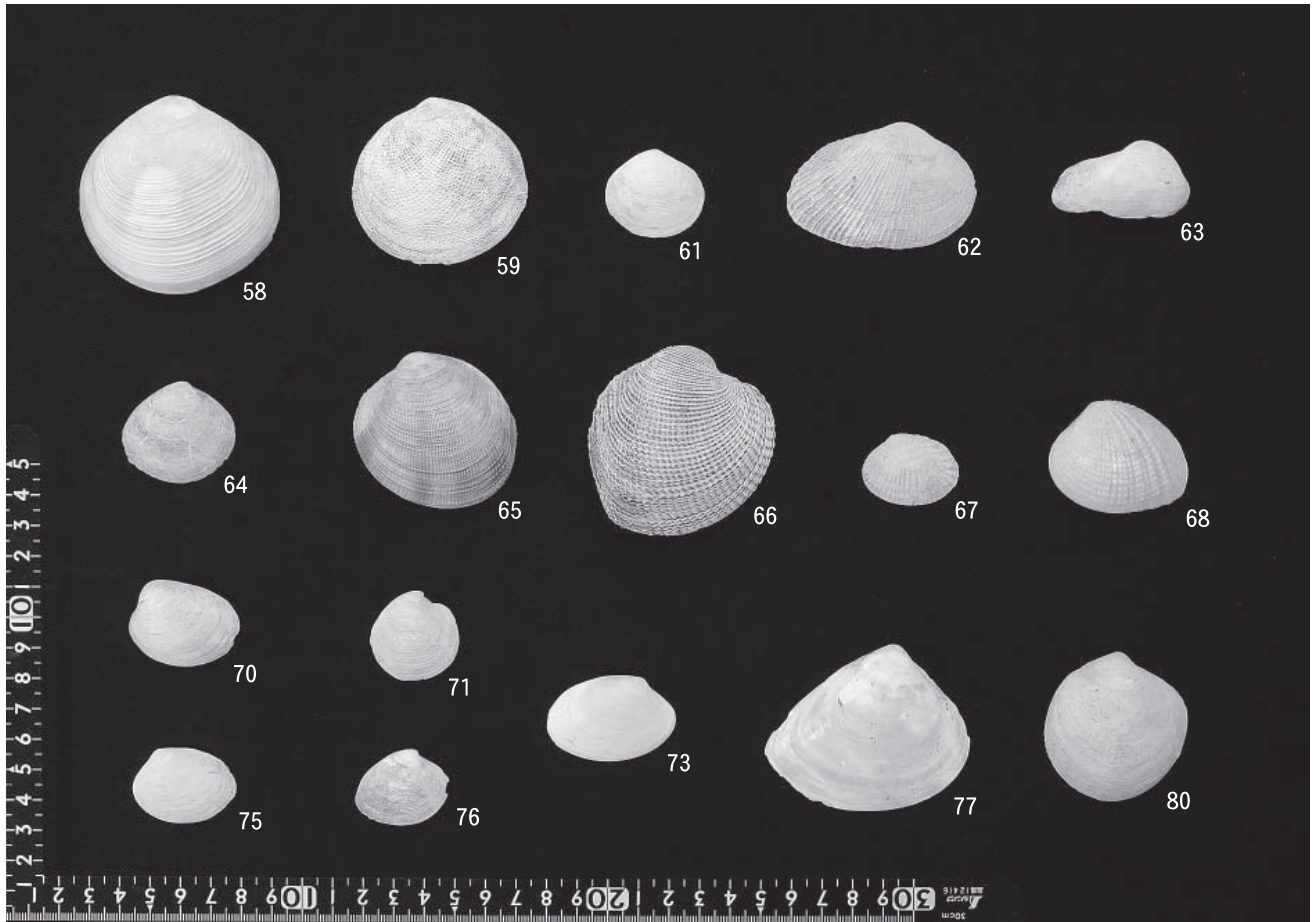
図版147 貝類遺体 3 (上面：巻貝・下面：陸・淡水産貝)

(番号は第117表と一致、Rは陸産貝の意)



図版148 貝類遺体 4 (二枚貝)

(番号は第117表と一致)



〈二枚貝〉

- フネガイ科 1エガイ 3オオタカノハ 4ハイガイ(セイタカハイガイ型) 6リュウキュウサルボオイガイ科 7リュウキュウヒバリ
- ウグイスガイ科 10クロチョウガイ 11アコヤガイ
- ハボウキガイ科 13クロタイラギ
- ウミギク科 15メンガイ類
- ベッコウガキ科 16シャコガキ
- イタボガキ科 20ニセマガキ 21オハグロガキモドキ
- ツキガイ科 24カブラツキガイ 25ウラキツキガイ 26ヒメツキガイ 28クチベニツキガイ 29ツキガイ
- キクザル科 31シロザル 32キクザル類 33ヒレインコ
- ザルガイ科 35リュウキュウザルガイ 36リュウキュウアオイ 37フジイロザル 38カワラガイ
- シャコガイ科 40・46オオシラナミ 41ヒレジャコ 42ヒメジャコ 44シャゴウ
- バカガイ科 48リュウキュウバカガイ 49タママキ 50ユキガイ
- チドリマスオガイ科 51イソハマグリ 52ナミノコマスオ
- フジノハナガイ科 53リュウキュウナミノコ
- ニッコウガイ科 54ニッコウガイ 55ヒメニッコウガイ 56リュウキュウシラトリ 57ヌノメイチョウシラトリ 58モチヅキザラ 59サメザラ
- アサジガイ科 61サメザラモドキ
- イソシジミ科 62リュウキュウマスオ 63マスオガイ
- シジミ科 64シレナシジミ
- マルスダレガイ科 65ヌノメガイ 66アラヌノメガイ 67ホソスジイナミガイ 68アラスジケマンガイ 70ユウカゲハマグリ 71オイノカガミ 73ヒメリュウキュウアサリ 75ヒメアサリ 76スダレハマグリ 77トウドウマリハマグリ 80ダテオキシジミ

図版149 貝類遺体5 (二枚貝)

(番号は第117表と一致)

第3節 伊礼原遺跡・伊礼原A遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

伊礼原遺跡・伊礼原A遺跡は、沖縄県中頭郡北谷町に所在し、遺跡東側の丘陵を水源とする湧水により形成された標高2mの低湿地と、その南に広がる標高4mの砂丘地域からなる。これまでの発掘調査の結果、貝塚時代前I期から前V期にかけての集落遺跡であることがわかっており、低湿地では爪形文土器やオキナワウラジロガシを貯蔵した遺構などが確認されており、砂丘地域では炉、柱穴、石敷き住居跡、集石遺構、竪穴住居跡などが確認されている。

本報告では、伊礼原遺跡（イ地区S12・13土器集中部）より出土した土器や、調査区壁面に認められた腐植質砂層・泥炭層などを対象に、遺物や堆積層の年代観、周辺古植生、植物資源利用等に関する情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定、花粉分析、微細物分析を実施する。

1. 試料

土壌試料は、伊礼原A遺跡のK8北壁に認められた腐植質砂層より1点（No. 1）、およびL7北壁に認められた泥炭層より1点（No. 4）の、計2点が採取されている。採取された試料を観察した結果、K8北壁のNo. 1は褐色礫混じり中粒～極粗粒砂からなり、最大径8cm程度の垂円礫を含む。L7北壁のNo. 4は暗灰色砂まじり粘土～シルトからなり、木材片などの植物遺体を含む。これらの土壌2点について、花粉分析、微細物分析を実施する。

また、伊礼原遺跡（イ地区S12・13土器集中部）より出土した土器に付着した炭化物、およびK8北壁の腐植質砂層より抽出した木片の計2点について、放射性炭素年代測定を実施する。

2. 分析方法

（1）放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

この試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱してCO₂を発生させる。

液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正

は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

(2) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉(1973)、中村(1980)、藤木・小澤（2007）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を+で表示するにとどめておく。

(3) 微細物分析

土壌試料から植物遺体を分離抽出するために、K8北壁は試料400cc（892g）、L7北壁は125cc（201g）を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、種実遺体、木材・炭化材（主に径4mm以上）などの植物遺体や、貝類、骨片などの動物遺体を抽出する。炭化材、動物遺体、分析残渣は、40℃ 48時間乾燥後の重量を求めて結果を一覧表で示す。

種実遺体の同定は、現生標本と石川（1994）、中山ほか（2000）等を参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸し、保管する。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を第120表に、暦年較正結果を第121表に示す。試料の測定年代（補正年代）は、土器付着炭化物が1,770±20BP、K8北壁腐植質砂層より抽出した木片が2,540±30BPの値を示す。暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 6.0のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。暦年較正は北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の

第120表. 放射性炭素年代測定結果

遺跡名	試料名	種類	補正年代 BP	δ 13C (‰)	測定年代 BP	Code No.
伊礼原遺跡 イ地区S12・13土器集中部	土器付着炭化物	炭化物	1,770±20	-23.07±0.39	1,740±20	IAAA-130357
伊礼原A遺跡	K8北壁 腐植質砂層	木片	2,540±30	-23.51±0.61	2,510±20	IAAA-130358

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

第121表. 暦年較正結果

遺跡名	試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)						相対比	Code No.
			σ	cal AD 236 - cal AD 260	cal AD 282 - cal AD 324	cal BP 1,714 - 1,690	cal BP 1,668 - 1,626	cal BP 1,809 - 1,798		
伊礼原遺跡 イ地区S12・13 土器集中部 (第49図80)	土器付着 炭化物	1,767±24	σ	cal AD 141 - cal AD 152	cal AD 168 - cal AD 193	cal BP 1,782 - 1,757	0.010	IAAA-130357		
				cal AD 210 - cal AD 346	cal BP 1,740 - 1,604	0.962				
			2σ	cal BC 792 - cal BC 752	cal BC 686 - cal BC 667	cal BP 2,741 - 2,701	0.551			
				cal BC 634 - cal BC 624	cal BC 613 - cal BC 595	cal BP 2,635 - 2,616	0.244			
伊礼原A遺跡	K8北壁 腐植質砂層	2,539±26	σ	cal BC 796 - cal BC 742	cal BC 689 - cal BC 663	cal BP 2,583 - 2,573	0.062	IAAA-130358		
				cal BC 647 - cal BC 549	cal BP 2,562 - 2,544	0.143				
			2σ	cal BC 796 - cal BC 742	cal BC 689 - cal BC 663	cal BP 2,745 - 2,691	0.430			
				cal BC 647 - cal BC 549	cal BP 2,638 - 2,612	0.197				
cal BC 647 - cal BC 549	cal BP 2,596 - 2,498	0.373								

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

測定誤差を σ として計算させた結果、土器付着炭化物はcalAD 236-324、K8北壁腐植質砂層はcalBC 792-595である。

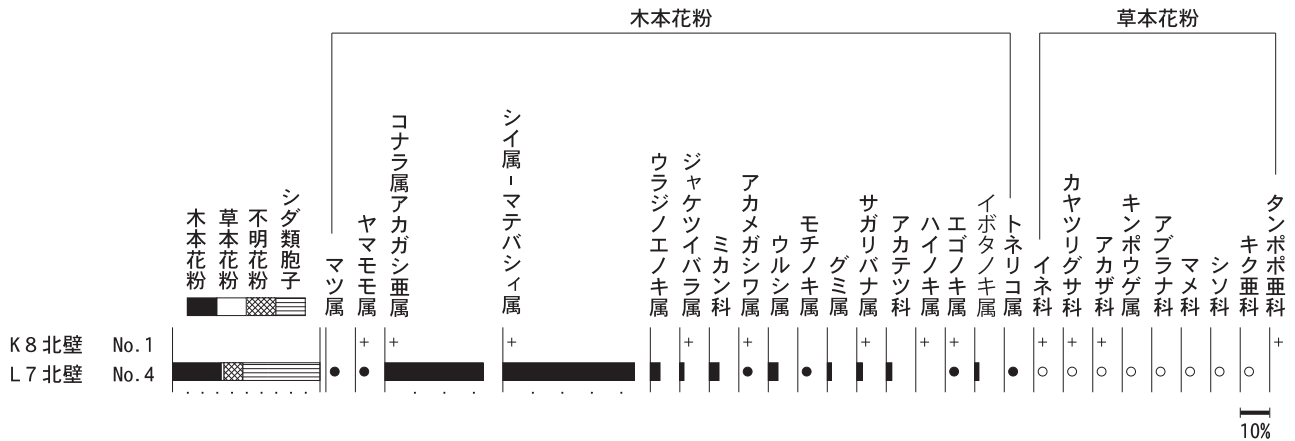
(2) 花粉分析

結果を第122表、第179図に示す。花粉の検出状況は、試料により異なる。K8北壁のNo. 1では、花粉化石の産出が少なく、定量解析を行えるだけの個体数を得ることができなかった。木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属、シイ属-マテバシイ属、ジャケツイバラ属、サガリバナ属などが、草本花粉ではイネ科、アカザ科などが、わずかに認められる。

L7北壁のNo. 4では、花粉化石が豊富に産出するものの不明花粉も多く、シダ類胞子も多産する。保存状態は、K8北壁のNo. 4と比較するとやや悪い。花粉化石群集では木本花粉が優先し、アカガシ亜属、シイ属-マテバシイ属が多産する。なお、シイ属-マテバシイ属は、ほとんどがマテバシイ属と推測されるが、マテバシイ属以外にもシイ属も含まれている可能性があり、両者が明確に区別できなかったことから、これらを一括した。その他ではウラジロエノキ属、ジャケツイバラ属、ミカン科、ウルシ属、グミ属、サガリバナ属、アカテツ科、イボタノキ属などを伴う。草本花粉では、少ないながらもイネ科、アブラナ科、マメ科、シソ科などが検出される。

第122表. 花粉分析結果

種 類	伊礼原A遺跡 K8北壁 L7北壁	
	No. 1	No. 4
木本花粉		
マツ属	-	2
ヤマモモ属	1	2
コナラ属アカガシ亜属	8	71
シイ属-マテバシイ属	9	95
ウラジロエノキ属	-	7
ジャケツイバラ属	2	3
ミカン科	-	7
アカメガシワ属	1	1
ウルシ属	-	7
モチノキ属	-	1
グミ属	-	3
サガリバナ属	1	4
アカテツ科	-	4
ハイノキ属	1	-
エゴノキ属	1	2
イボタノキ属	-	3
トネリコ属	-	1
草本花粉		
イネ科	4	2
カヤツリグサ科	1	1
アカザ科	2	1
キンポウゲ属	-	1
アブラナ科	-	2
マメ科	-	2
シソ科	-	2
キク亜科	-	1
タンポポ科	1	-
不明花粉		
不明花粉	10	83
シダ類胞子		
シダ類胞子	68	339
合 計		
木本花粉	24	213
草本花粉	8	12
不明花粉	10	83
シダ類胞子	68	339
合計(不明を除く)	100	564



木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。

○●は1%未満、+は木本花粉100個未満の試料において検出された種類を示す。

第179図 花粉化石群集

(3) 微細物分析

a) 種実遺体の出土状況

結果を第123表に示す。2試料を通じて、被子植物を通じて、被子植物8分類群（オキナワジイ、ムクノキ、イチジク属？、ハドノキ、イラクサ科、ヤンバルアカメガシワ、アカメガシワ属、エゴノキ）39個の種実遺体が抽出・同定された。以下に試料別出土状況を述べる。

・K8北壁 No.1

試料400cc (892g) から、被子植物6分類群（オキナワジイ、ハドノキ、イラクサ科、ヤンバルアカメガシワ、アカメガシワ属、エゴノキ）11個の種実遺体が抽出・同定された。2個は破片で同定ができなかった。種実以外では、昆虫類が4個、貝類（二枚貝類・巻貝類など）の殻が38.1g、骨片・歯が0.01g、ウニ類の棘が0.07g、サンゴ片が24.1g確認された。

・L7北壁 No.4

試料125cc (201g) から、被子植物6分類群（ムクノキ、イチジク属？、ハドノキ、イラクサ科、ヤンバルアカメガシワ、アカメガシワ属）28個の種実遺体が抽出・同定された。3個は同定ができなかったが、そのうち1個は果実と考えられる。種実以外では、木材が8cc、炭化材が0.001g、双子葉類の葉が0.01cc未満、植物の刺が0.01cc未満、蘚苔類の茎・葉が0.01cc未満、貝類（二枚貝類・巻貝類など）の殻が0.03g、サンゴ片が0.2g確認された。

b) 種実遺体の記載

種実遺体の保存状態は比較的良好である。各分類群の写真を図版151に示し、形態的特徴を以下に述べる。

第123表. 微細物分析結果

分類群	ロ地区		備考
	K8北壁 No. 1	L7北壁 No. 4	
種実遺体			
オキナワジイ	3	-	
ムクノキ	-	2	
イチジク属?	-	1	
ハドノキ	1	21	
	-	1	
イラクサ科	1	1	
ヤンバルアカメガシワ	4	1	
アカメガシワ属	1	1	
エゴノキ	1	-	
不明			
不明	-	1	
不明	-	1	
不明	2	1	
その他の植物遺体			
木本類	-	8	容積(cc)
炭化材	-	0.001	乾重(g)
双子葉類	-	<0.01	容積(cc)
不明	-	<0.01	容積(cc)
蘚苔類	-	<0.01	容積(cc)
動物遺体			
昆虫類	4	-	個数
貝類(二枚貝類・巻貝類など)	38.09	0.03	乾重(g)
不明	0.01	-	乾重(g)
ウニ類	0.07	-	乾重(g)
サンゴ片	24.05	0.20	乾重(g)
分析量	400	125	容積(cc)
	892	201	湿重(g)

・オキナワジイ (*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatusima ex Yamazaki et Mashiba subsp. *lutchuensis* (Koidz.) H Ohba) ブナ科シイ属

果実は暗灰褐色、完形ならば、長さ1.5～2cm、径1～1.3cm程度の卵体。頂部は尖り、基部を占める着点は灰褐色、円状不定形で維管束の穴が不規則な輪状に並ぶ。出土果実は破片で、最大片(8mm程度)に基部の着点を確認される(図版151-1)。果皮は厚さ約0.6mm程度で、横断面、縦断面ともに外果皮から厚さ0.3mm程度まで柵状組織が確認される(図版151-2a,b)。外果皮表面は平滑で、コナラ属やマテバシイよりも粗く深い溝が縦列する。内面には灰褐色で粗面の薄層複数枚(内果皮または種皮)が残存する。

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

核(内果皮)は灰黄褐色、完形ならば径0.5～0.8cm、厚さ0.4～0.5cmの広卵体で、一側面は狭倒卵形で他方は稜をなし、頂部に淡褐色、長さ1.5mm、幅1.0mmの楕円状突起がある。出土核は破片で最大3.7mm程度。内果皮は厚く柔らかく脆く、表面には粒状～六角形状の網目模様があり、断面は柵状。

・イチジク属 (*Ficus*) ? クワ科

果実が検出された。黄灰褐色、長さ1.2mm、幅0.7mm、厚さ0.6mmのやや偏平な非対称楕円体。腹面が湾曲し、側面観は曲玉状横広卵形、背面観は倒卵形。背面正中線は稜状、基部の臍は嘴状。果皮表面はやや平滑～粗面。オオイタビ節の果実とは区別される。

現在の沖縄島に分布するオオイタビ節以外のイチジク属は、アコウ亜属アコウ、ガジュマル、ムクイヌビワ節ハマイヌビワ、ホソバムクイヌビワ、イチジク節イヌビワ、アカメイヌビワ節アカメイヌビワ、オオバイヌビワの7種があるが、種までの同定には至らなかった。

・ハドノキ (*Oreocnide pedunculata* (shirai) Masamune) イラクサ科ハドノキ属

果実は黄～灰褐色、長さ1.2～1.3mm、幅0.7～0.8mm、厚さ0.6mmの凸レンズ状非対称広倒卵体。頂部はやや尖る。基部には径0.3mm程度の孔が突出し、孔の縁は肥厚する。果皮表面は粗面で微細な粒状突起が散在する。宜野座村前原遺跡の不明P(大松・辻, 1999)、不明種実1(高宮, 1999)、北谷町伊礼原C遺跡の不明P(大松・辻, 2001)、名護市思原遺跡の不明種実(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2010)も、ハドノキの果実と考えられる。

・イラクサ科 (Urticaceae)

果実は淡黄褐色、径0.9mm、厚さ0.6mmの凸レンズ状非対称広倒卵体。頂部や基部に短い突起がある。果皮は薄く表面には微細な網目模様がある。宜野座村前原遺跡のイラクサ科?(高宮, 1999)、伊礼原C遺跡のカラムシの果実(大松・辻, 2001)、宜野湾市新城下原第二遺跡のイラクサ科?(高宮, 2006)、不明種実B(パリノ・サーヴェイ株式会社, 2006)に類似する。遺跡出土例も多いことから、沖縄島にふつうに生育する分類群と考えられる。

今回、落葉低木のヤナギイチゴ (*Debregeasia edulis* (Sieb. et Zucc.) Weddell) の現生標本との比較を試みたが、果実の形状が異なっていた。常緑低木のヌノマオ (*Pipturus arborescens* (Link) C. B. Rob.) の果実現生標本との比較が今後の課題である。

・ヤンバルアカメガシワ (*Melanolepis multiglandulosa* (Blume) Rchb. f. & Zoll.) トウダイグサ科ヤンバルアカメガシワ属

種子は灰黒褐色、完形ならば径4～5mmの歪な球体で基部にY字形の稜がある。出土種子は破片で、最大2mm程度。種皮は厚く硬く、断面は柵状で内側では湾曲する。表面には径不同で円形の深い窪みが散在する。

・アカメガシワ属 (*Mallotus*) トウダイグサ科

種子は灰黒褐色、完形ならば径4～5mmの歪な球体で基部にY字形の稜がある。出土種子は破片で、最大3.7mm程度。種皮表面にはアカメガシワよりも凹凸が粗い瘤状突起が密布する。種皮断面は柵状組織が内側に湾曲する。

・エゴノキ (*Styrax japonica* Sieb. et Zucc.) エゴノキ科エゴノキ属

種子は灰褐色、完形ならば長さ0.9～1cm、径0.6～0.8cm程度の卵体で頂部は尖り、頂部から基部にかけて3本程度の縦溝と縦隆条がある。基部は斜切形で、淡灰褐色、径5mm程度の粗面の着点がある。出土種子は破片で径5.5mm。種皮は硬く断面は柵状。表面にはやや粗い粒状網目模様がある。

4. 考察

(1) 年代観

放射性炭素年代測定結果をみると、土器付着炭化物で1,770±20BP、K8北壁の腐植質砂層で2,540±30BPの補正年代値が得られた。

これらのことから、K8北壁の腐植質砂層は縄文時代晩期(貝塚時代中期)頃を示す堆積物ある。一方、炭化物が付着していた土器は、口唇部に刺突文を施すことから当初の所見で貝塚時代後期(後Ⅲ期)のくびれ平底期に由来するものと思われたが、今回の結果はそれより若干古く、主体となる大当原期(Ⅳ類)に近い値を示している。

(2) 古植生・植物資源利用

K8北壁の腐植質砂層(No. 1)からは、花粉化石がほとんど検出されなかった。花粉化石が少ない場合、もともと取り込まれにくかったことや、取り込まれた後に消失したことなどが想定される。わずかに認められた花粉化石の保存状態は、後述するL7北壁よりも良かったこと、堆積物が礫混じりの中粒～極粗粒砂であることなどを考慮すると、堆積時に花粉やシダ類胞子を取り込まれにくかった可能性が高い。わずかにコナラ属アカガシ亜属、シイ属マテバシイ属、ジャケツイバラ属、サガリバナ属などの木本類、イネ科、アカザ科などの草本類が産出する。

L7北壁の泥炭層(No. 4)からは、花粉化石やシダ類胞子が多産するが、全体的に保存状態が悪く、花粉外膜が破損・溶解している個体が多く認められた。検出された花粉化石についてみると、木本類が優先し、アカガシ亜属、シイ属マテバシイ属(おそらくマテバシイ属主体)など、常緑広葉樹林(照葉樹林)の構成要素が多産する。その他にも、ヤマモモ属、ウラジロエノキ属、ミカン科、アカメガシワ属、モチノキ属、ハイノキ属、エゴノキ属、イボタノキ属、トネリコ属など、低地～山地にかけて生育する低木～高木が認められる。

一方、種実遺体でも、K8北壁の腐植質砂層とL7北壁の泥炭層から、広葉樹で常緑高木のオキナワジイ、落葉高木のムクノキ、常緑または落葉小高木のアカメガシワ属、落葉小高木のヤンバルアカメガシワ、エゴノキ、常緑または落葉の高木、低木のイチジク属?、常緑低木のハドノキ、草本、まれに常緑または落葉低木のイラクサ科が確認された。

以上のことから、これらの花粉化石・種実遺体に認められた分類群は、当時の本地域の常緑広葉樹林やその林縁部などに生育していたと考えられ、豊富な樹種構成からなる森林が分布していたと推測される。特にオキナワジイは、現在の沖縄島北部の非石灰岩地域に分布する常緑広葉樹林の主要な構成種である。中南部の石灰岩地域に位置する本遺跡より出土した果実は、当時の遺跡周辺域にオキナワジイが生育する照葉樹林の分布を示唆する考古資料と言え、沖縄島の植生変遷史を検討する上で重要である。また、オキナワジイは、果実内部の子葉が生食可能な有用植物である。出土

果実には、人間による直接的な食利用の痕跡は確認されないが、周辺の森林より持ち込まれ利用された可能性も十分に考えられる。

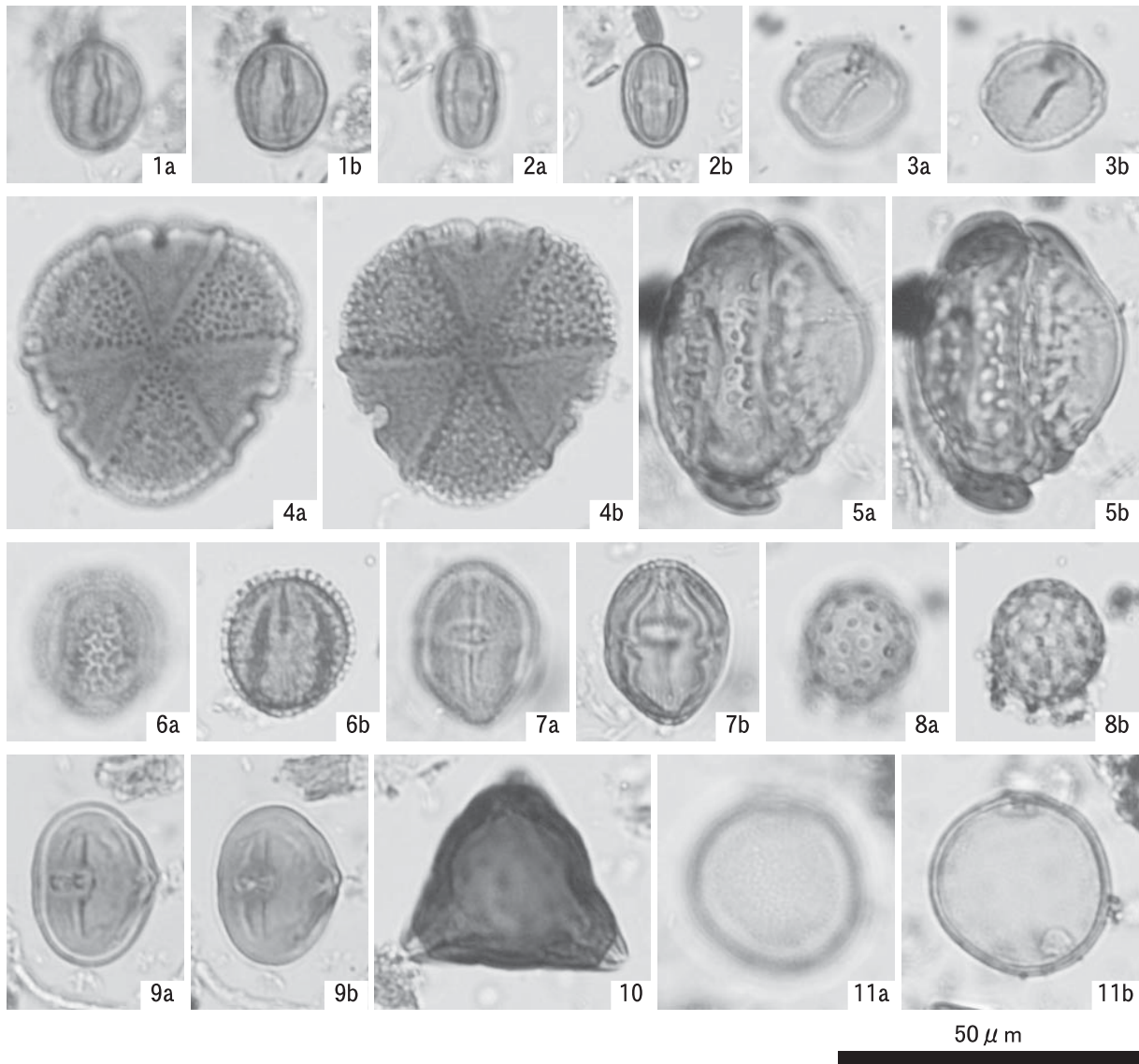
それ以外にも、海岸沿いなどに生育するアカテツ科や、マングローブ上流の湿地帯に生育するサガリバナ属、マングローブ後方のやや陸化したところに生えるジャケツイバラ属なども認められることから、海岸から低地にかけて、これらの種類も生育していたと推測される。

伊礼原遺跡（低湿地区）における調査事例をみると、貝塚時代前Ⅱ期とされる層準から、同様にシイ属－マテバシイ属の花粉が多産し、種実遺体ではシイ属の多産とともにアカガシ亜属やマテバシイ属の果実が確認されている（辻ほか, 2007）。また、マングローブの要素では、貝塚時代前Ⅱ・Ⅲ期、および後期の層準から検出された自然木から、サキシマスオウノキやオヒルギ、サガリバナなどの材が確認されており、特にサキシマスオウノキとサガリバナは根材も検出されたことから、遺跡周辺での生育が指摘されている（能代, 2007）。今回の結果も、過去の調査結果と調和的である。

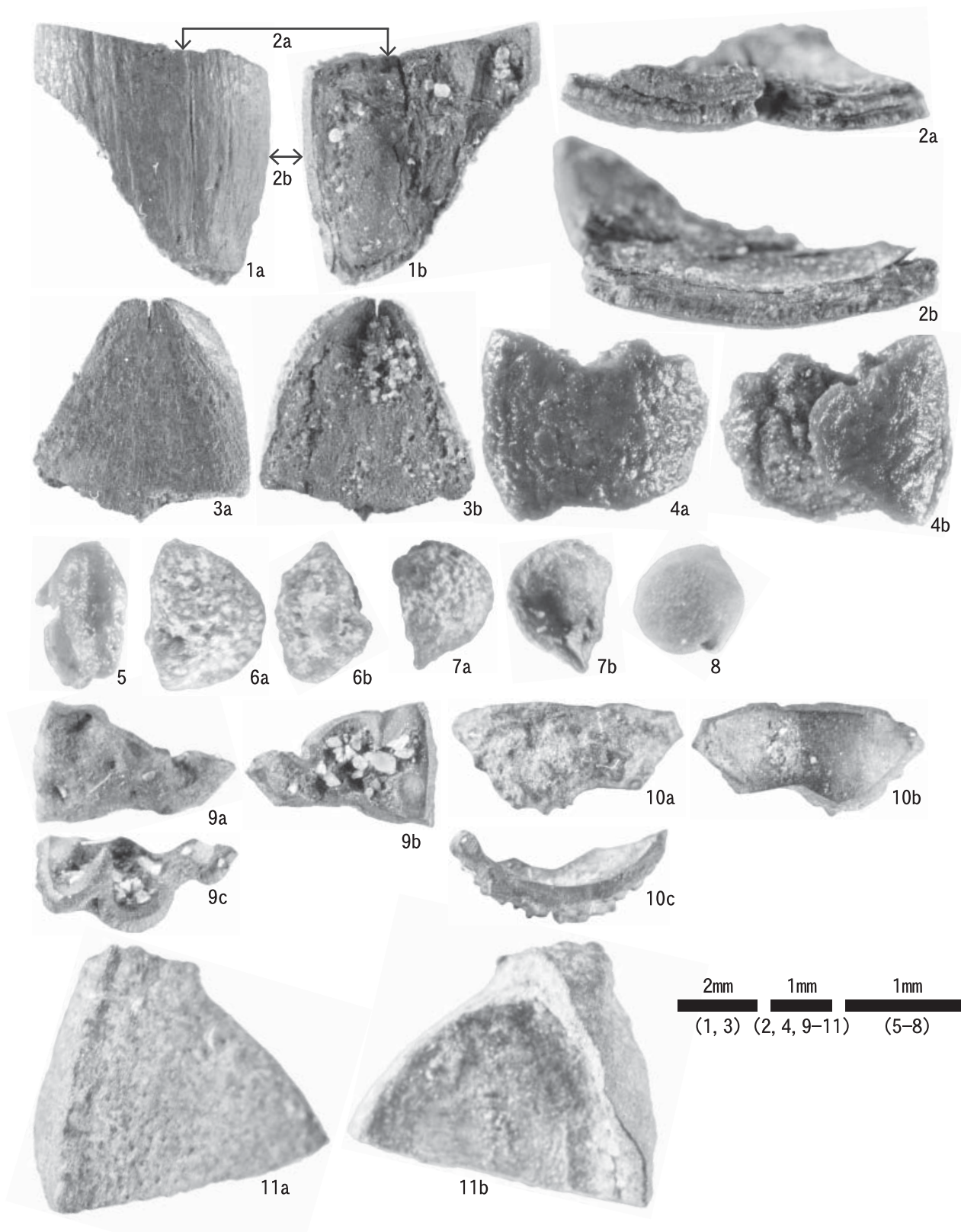
草本類では、僅かではあるが、イネ科、アブラナ科、マメ科、シソ科など、開けた明るい場所に生育する種群が検出される。よって、調査区内や周囲の林縁林床などに、これらの草本類が生育していたと考えられる。

<引用文献>

- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標徴 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集, 91p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 能代修一, 2007, 伊礼原遺跡から出土した木材の樹種. 北谷町文化財調査報告書 第26集 伊礼原遺跡－伊礼原B遺跡ほか発掘調査, 北谷町教育委員会, 445-466p.
- 大松しのぶ・辻 誠一郎, 1999, 前原遺跡から産出した大型植物遺体群. 前原遺跡－県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書－, 宜野座村乃文化財14集, 宜野座村教育委員会, 223-241p.
- 大松志伸・辻 誠一郎, 2001, 沖縄県北谷町伊礼原C遺跡の縄文時代前期相当期の大型植物遺体群. 植生史研究, 第10巻, 第1号, 17-32p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2006, 新城下原第二遺跡（Ⅱ地区下層）の自然科学分析. 新城下原第二遺跡－キャンプ瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査報告書－, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第35集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 311-328p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社, 2010, 思原遺跡の自然科学分析. 思原遺跡2地区－シュワブ（H20）倉庫等地区新設造成工事に伴う緊急発掘調査－, 名護市文化財調査報告書20, 名護市教育委員会, 22-37p.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.
- 高宮広土, 1999, 栽培植物の探索. 前原遺跡－県道漢那松田線道路整備工事に伴う発掘調査報告書－, 宜野座村乃文化財14集, 宜野座村教育委員会, 259-275p.
- 高宮広土, 2006, 植物遺体. 新城下原第二遺跡－キャンプ瑞慶覧内整備工場建設に係る緊急発掘調査報告書－, 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第35集, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 287-294p.
- 辻 誠一郎・大松しのぶ・辻 圭子, 2007, 伊礼原遺跡の植物遺体群. 北谷町文化財調査報告書 第26集 伊礼原遺跡－伊礼原B遺跡ほか発掘調査, 北谷町教育委員会, 433-444p.



- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. コナラ属アカガシ亜属 (L7北壁; No. 4) | 2. シイ属—マテバシイ属 (L7北壁; No. 4) |
| 3. ウラジロエノキ属 (L7北壁; No. 4) | 4. ジャケツイバラ属 (L7北壁; No. 4) |
| 5. サガリバナ属 (L7北壁; No. 4) | 6. ミカン科 (L7北壁; No. 4) |
| 7. ウルシ属 (L7北壁; No. 4) | 8. アカザ科 (K8北壁; No. 1) |
| 9. アカテツ科 (L7北壁; No. 4) | 10. グミ属 (L7北壁; No. 4) |
| 11. イネ科 (K8北壁; No. 1) | |



- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. オキナワジイ 果実 (K8北壁; No. 1) | 2. オキナワジイ 果実 (a: 横断面, b: 縦断面) (K8北壁; No. 1) |
| 3. オキナワジイ 果実 (K8北壁; No. 1) | 4. ムクノキ 核 (L7北壁; No. 4) |
| 5. イチジク属 果実? (L7北壁; No. 4) | 5. ハドノキ 果実 (L7北壁; No. 4) |
| 7. ハドノキ 果実 (L7北壁; No. 4) | 8. イラクサ科 果実 (K8北壁; No. 1) |
| 9. ヤンバルアカメガシワ 種子 (K8北壁; No. 1) | 10. アカメガシワ属 種子 (K8北壁; No. 1) |
| 11. エゴノキ 種子 (K8北壁; No. 1) | |

図版151 種実遺体

第4節 土器内土壌の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

北谷町に所在する伊礼原遺跡では、貝塚時代後I期の可能性があるとされている土器が出土している。土器内には、貝殻の細片を多量に含む灰色の砂が隙間なく充填されている状況が確認された。充填物は、周囲の堆積物とは異質の碎屑物であることから、人為的な充填物である可能性が指摘されている。

本報告では、これらの土器内土壌を対象として、含有される微化石（花粉および植物珪酸体）や微細な動植物遺体の産状を確認し、また、土壌の理化学性や残存する脂質の検出を行う。そして、これらの分析結果を検討することにより、対象とした容器の使用に関わる情報を得ることとする。

1. 試料

試料は、貝塚時代後I期の可能性があると考えられている尖底の壺（第55図126）とされた土器中に充填されていた灰色の砂の固まり1点である。出土土器中の砂の固まりは、全体的に灰色を呈し、貝殻の細片を多量に含む、シルト分や粘土分が極めて微量含まれていることで土器の外形を保っている砂塊である。

2. 分析方法

（1）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

（2）植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）、およびこれらを含む珪化組織片を近藤（2004）の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された分類群とその個数の一覧表で示す。

（3）微細物分析

炭化植物（種実、炭化材など）の回収を目的とした分析を実施する。試料を容器に広げ、常温乾燥させる。乾燥後の試料を肉眼やルーペで観察し、目に付いた炭化物を拾い出す。乾燥抽出後の試料を水を満した容器に投入し、浮いた炭化物をすくい取って回収する。容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、容器を傾斜させて

回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20-30回程度）。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。

篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて種実や炭化材などの炭化物の他、動物骨、貝類やウニ類の棘などを抽出する。抽出された種実遺体は、双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から種類と部位を同定する。

分析後は、検出物と残渣を40℃ 48時間乾燥後、容器に入れて返却する。

（4）土壌理化学分析

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解－原子吸光法、腐植含量はチューリン法（土壌標準分析・測定法委員会, 1986）でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

1）分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

2）リン酸、カルシウム含量

粉碎土試料1.00 g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（ HNO_3 ）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（ HClO_4 ）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（ P_2O_5 ）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（ $\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ ）とカルシウム含量（ CaOmg/g ）を求める。

3）腐植含量

粉碎土試料0.100～0.500 g を100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

（5）脂質分析

分析は、坂井ほか（1996）に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料が浸るに十分なクロロホルム：メタノール（2:1）を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップパックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム（ULBON, HR-SS-10, 内径0.25mm, 長さ30m）を装着したガスクロマトグラフィー（GC-14A, SHIMADZU）を使用した。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム（J&W SCIENFIC, DB-1, 内径0.36mm, 長さ30m）を装着する。注入口温度は320℃、カラム温度は270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

3. 結果

(1) 花粉分析

結果を第124表に示す。いずれの試料からも、花粉化石は1個体も検出されなかった。

(2) 植物珪酸体分析

結果を第125表に示す。各試料からは、植物珪酸体が極めてわずかに検出されるに過ぎない。保存状態は、良好である。出土した土器（尖底）内の土壌試料では、短細胞珪酸体由来するダンチック型が検出されるものの、種類の同定には至らない。

(3) 微細物洗い出し分析

結果を第126表に示し、以下に検出状況を述べる。壺（尖底）内土壌150cc（593.65g）からは、炭化材0.01g未満（最大径3.5mm）、動物遺体（動物骨、巻貝類（大型で平ら）、巻貝類（小型で細身）、二枚貝類、貝類（その他）、ウニ類の棘、サンゴ片など）891個（4.97g）が検出された。

第124表. 花粉分析結果

種 類	壺 尖底土器
シダ類孢子	
シダ類孢子	-
合 計	
木本花粉	0
草本花粉	0
シダ類孢子	0
総計	0

第125表. 植物珪酸体分析結果

種 類	壺 尖底土器
イネ科葉部短細胞珪酸体	
不明ダンチック型	1
イネ科葉身機動細胞珪酸体	
不明	-
合 計	
イネ科葉部短細胞珪酸体	1
イネ科葉身機動細胞珪酸体	0
総 計	1

第126表. 微細物洗い出し分析結果

種 類	部 位	状 態	壺（尖底土器）	備 考
植物遺体				
イネ 炭化材	類	破片（基部） 破片	炭化 炭化	<0.01g 3.5mm 最大径
動物遺体				
硬骨魚綱 魚類	椎骨 鱗棘等 不明	破片 破片 破片		1個 63個 2個 <0.01g 0.09g <0.01g
哺乳綱? 獣類?	骨	破片		1個 0.02g
腹足綱 微小貝類	殻	完形 破片 破片（径2mm以下）		312個 195個 95個 0.38g 0.25g 0.21g
パンダナマイマイ	殻	完形		2個 0.39g
ベッコウマイマイ科	殻	完形		1個 0.08g
マイマイ類（大型）	殻	破片		5個 0.35g
マイマイ類（小型）	殻	破片		2個 0.02g
二枚貝綱 ザルガイ科	左殻 右殻	破片 破片		5個 3個 <0.01g <0.01g
リュウキュウシラトリ	右殻	完形		1個 0.45g
貝類（その他）	殻	破片		127個 1.57g
ウニ類	棘	破片		72個 0.15g
サンゴ類		破片（径1cm以上）		6個 0.94g
残渣				147.14g
分析量				150cc 593.65g

動物遺体は、硬骨魚綱の椎骨片・鱗棘等、哺乳綱とみられる破片、腹足綱、二枚貝綱、ウニ類の棘、サンゴ類の破片が検出される。腹足綱は、大型のパンダナマイマイやベッコウマイマイ科など他、微小な貝類が検出される。微小貝類の中には、ユキノカサガイ科、ニシキウズガイ科？、オニツノガイ科、フトヘナタリ、ホソスジチョウジ、リュウキュウシラギク、クリイロキリオレ、アッキガイ科、ミヨリオトメフデ、クチビルクチキレ、トウガタガイ科、ツムガタコメツブガイ、コハクオカミミガイ？、コメツブダワラガイ？などがみられる。二枚貝綱では、ザルガイ科の左右殻片およびリュウキュウシラトリ右殻がみられる。

これらの種類の内、パンダナマイマイ、ベッコウマイマイ科、コメツブダワラガイ？などは陸産貝類である。その他の貝類は、岩礁地、リーフ内の浅い海、潮間帯の珊瑚礁、河口域のマングローブ、潮間帯付近の砂地などに棲息する種類である。

第127表. 土壤理化学分析結果

試料名	土性	土色	腐植含量 (%)	P205 (mg/g)	CaO (mg/g)	備考
壺 (尖底土器)	S	2.5Y4/2 暗灰黄	0.36	1.85	253.65	貝殻片富む

注. (1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。
 (2) 土性：土壤調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。
 S・・・砂土（粘土0～5%、シルト0～15%、砂85～100%）
 SL・・・砂壤土（粘土0～15%、シルト0～35%、砂65～85%）

(4) 土壤理化学分析

結果を第127表に示す。壺内土壤は、腐植含量は0.36%、リン酸含量は1.85mg/gであった。これらの値は、渡嘉敷(1993)に示されている島尻マージ下層土の値に比べるといづれも低い値である。カルシウム含量は253.65mg/gと極めて高い値を示すが、これは多量に含まれる貝片に由来する。

(5) 脂質分析

結果を第128表に示す。壺内土壤の脂肪酸は、ドコサヘキサエン酸が検出されたのみである。ステロールは、未検出である。

4. 考察

(1) 壺内土壤について

花粉および植物珪酸体の微化石分析では、内容物の手がかりとなるような結果は得られなかったと言える。一方、微細物分析では、壺内土壤から外見の通り多量の貝類が確認され、これらは陸産のものや珊瑚礁、マングローブ、潮間帯など様々な種類のものが混在していた。さらに、魚および哺乳類に由来する動物骨も破片ながら確認されている。このように様々な貝片、骨片が混在する状況からは、自然堆積物に由来するというよりも何らかの人為が加わった堆積物に由来する可能性があることが示唆される。ただし、土壤理化学分析では、特に高い腐植含量やリン酸含量が示

第128表. 脂質分析結果

種類	壺
試料名	尖底土器
脂肪酸組成	
ミリスチン酸 (C14)	-
パルミチン酸 (C16)	-
パルミトレイン酸 (C16:1)	-
ステアリン酸 (C18)	-
エライジン酸 (C18:1trans)	-
オレイン酸 (C18:1cis)	-
リノール酸 (C18:2)	-
αリノレン酸 (C18:3)	-
アラキジン酸 (C20)	-
イコセン酸 (C20:1)	-
アラキドン酸 (C20:4)	-
ベヘン酸 (C22)	-
ドコセン酸 (C22:1trans)	-
エルカ酸 (C22:1cis)	-
イコサペンタエン酸 (C20:5)	-
リグノセリン酸 (C24)	-
テトラコセン酸 (C24:1)	-
ドコサヘキサエン酸 (C22:6)	100.0
ステロール組成	
コプロスタノール	-
コレステロール	-
エルゴステロール	-
カンペステロール	-
スティグマステロール	-
シトステロール	-
分析試料の重量(g)	106.7

されていないことから、穀物貯蔵や動物（人間も含めて）遺体埋納などの可能性は低いと考えられる。なお、壺内土壌でみられたドコサヘキサエン酸は、二重結合を6個持つ不安定な物質で、酸化等によって分解されやすい物質であるため、土壌中に多量に含まれているとは考えにくい。おそらく、今回の試料は脂質の量が非常に少なく、分析機器の感度を下回っていたと考えられるため、脂質分析から内容物を推定するものではないと考えられる。

なお、小堀原遺跡から出土したグスク時代のカムイヤキ内土壌および内面に付着していた有機物と考えられている付着物を対象とした分析結果を参考程度に記載する。

小堀原遺跡の壺内土壌からは、微細物分析によって穀物のイネが検出された。土壌理化学分析および脂質分析からは、いずれも内容物を示唆するような結果は得られなかったが、わずかながらでも炭化したイネが検出されているが、現時点では、穀物を貯蔵したとまでは言うことはできない結果であった。また、付着物は、無機炭酸塩であり、有機物の存在は認められていない。

<引用文献>

土壌標準分析・測定法委員会編, 1986, 土壌標準分析・測定法. 博友社, 354p.

石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.

近藤錬三, 2004, 植物ケイ酸体研究. ペドロジスト, 48, 46-64p.

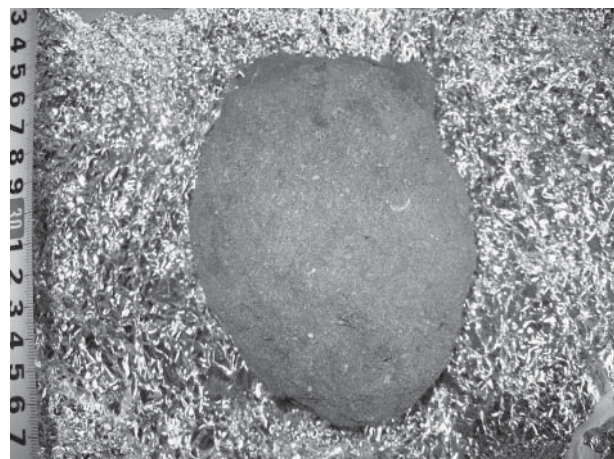
中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.

農林省農林水産技術会議事務局監修, 1967, 新版標準土色帖.

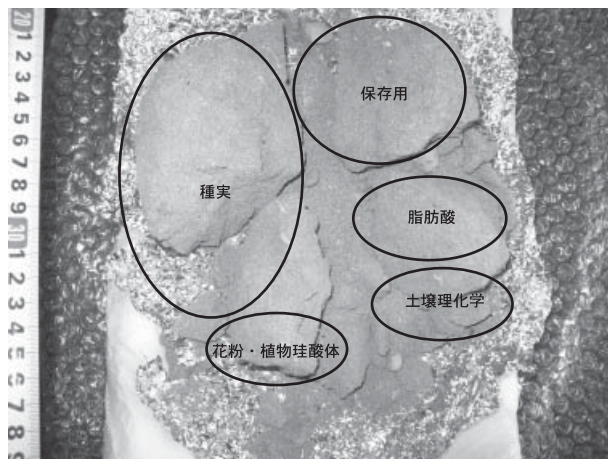
ペドロジスト懇談会, 1984, 野外土性の判定. ペドロジスト懇談会編 土壌調査ハンドブック, 博友社, 39-40p.

坂井良輔・小林正史・藤田邦雄, 1996, 灯明皿の脂質分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告 第7集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）第二分冊, 財団法人 富山県文化振興財団, 24-37p.

渡嘉敷義浩, 1993, 沖縄に分布する島尻マーゴおよびジャーガルの土壌特性. ペドロジスト, 37, 99-112p.



1. 壺(尖底土器)内土壌外観



2. 壺(尖底土器)内土壌を分割した状態

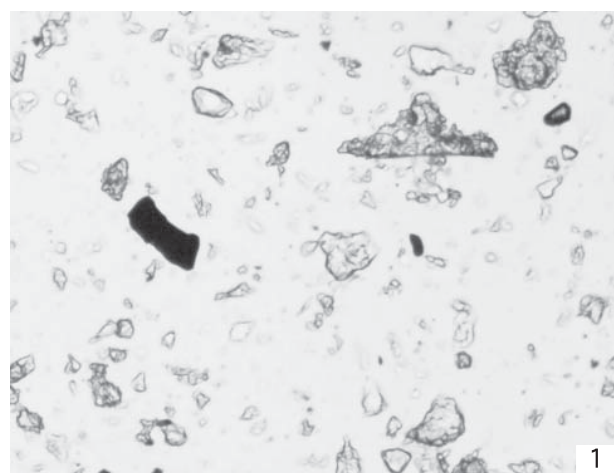


3. 壺(尖底土器)内土壌採取状況(1)

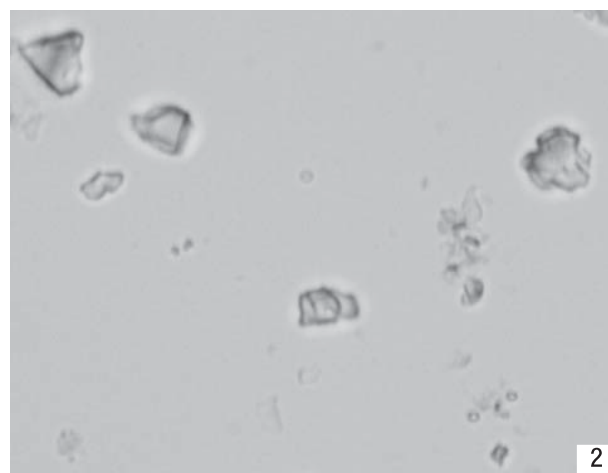


4. 壺(尖底土器)内土壌採取状況(2)

図版152 試料外観および試料採取作業状況



1



2

50 μm

50 μm

1mm

(1, 2)

(3, 4)

(5)

1. 花粉分析プレパラート内の状況(壺・尖底土器)

2. 植物珪酸体分析プレパラート内の状況(鉍物粒子が散在)(壺・尖底土器)

図版153 花粉分析プレパラート内の状況写真・植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真

第5節 出土人骨

土肥直美（琉球大学医学部）

1. はじめに

沖縄県北谷町伊礼原遺跡から出土した人骨について報告する。人骨は平成20年度、24年度の発掘調査において出土したものである。平成20年度調査A11から幼児骨1体（1号人骨）、平成24年度調査N14から乳児骨（2号人骨）1体、A9から成人骨（3号人骨）が検出された。以下に概要を報告する。

2. 出土人骨と調査の方法

出土人骨は乳児1体、幼児1体、成人1体、計3体である。性別、年齢はBrothwill(1981)¹⁾、Ubelaker(1989)²⁾を参考に、歯の萌出・形成の程度、また四肢長骨の特徴等から推定した。また、成人骨の計測はKnussman(1988)³⁾に従った。

3. 人骨の所見

(1) 1号人骨（幼児）

1号人骨はイ地区A11土坑から検出された埋葬人骨である（図版154）。年代は考古学的所見から貝塚時代後期と考えられている。頭蓋骨、歯、肋骨、左大腿骨が確認されたが、グスク期のピットによって体部骨のほとんどが破壊されており、消失している。

性別は不明、年齢は大腿骨の大きさ等から幼児（1歳～6歳）と推定される。

(2) 2号人骨（乳児）

2号人骨はN14から検出された埋葬人骨である。年代は考古学的所見からグスク時代と考えられている。両手足を曲げ、体を丸めた姿勢で埋葬されており、ほとんど一塊の状態で見出された。ほぼ全身骨が残存するが、取り上げ後、年齢推定に必要なと思われる部位を優先的に取り外しながら鑑定を行った（図版155）。

性別は不明、年齢は四肢骨の大きさ、残存する歯の形成段階から乳児（生後1歳まで）と推定される。

(3) 3号人骨（成人女性）

3号人骨はA9から検出された（図版156）。大腿骨片のみであるため詳細は不明であるが、考古学的所見から年代はグスク時代と考えられている。

人骨は右大腿骨骨体部と小骨片が各1点である。大腿骨は華奢で筋付着部の発達も弱く、性別は女性と推定される（第129表）。小骨片も大腿骨片であるが、詳細は不明である。同一個体のものと考えて大きな矛盾はないように思われる。

年齢の詳細は不明であるが、骨質等から成人（20歳以上）と推定した。

(4) 遺跡出土の未成人骨

遺跡から出土する未成人骨は当時の家族観、死生観などの貴重な情報を提供してくれる。今回は貝塚時代後期とグスク時代の乳幼児骨が検出されている。情報量が少ないため、これだけで当時の社会を推測することは難しいが、どちらも丁寧に埋葬された様子がうかがえる。

貝塚時代の未成人骨出土例としては、具志川島岩立遺跡（全体の39%）⁴⁾、具志川グスク崖下地区（全体の28.4%）⁵⁾などが報告されている。また、グスク時代については、北谷町小堀原遺跡⁶⁾、うるま市具志川グスク⁷⁾、石垣市登野城遺跡^{8) 9)}などで、いずれも城内あるいは集落内の住居近くから、埋葬された未成人骨が発見されている。

当時の未成人の死亡率は相当に高かったと考えられているが、沖縄の事例はいずれも低い傾向を示している。伊礼原の場合、断片的な情報しか得られていないので、全体的な議論をするのは難しい。

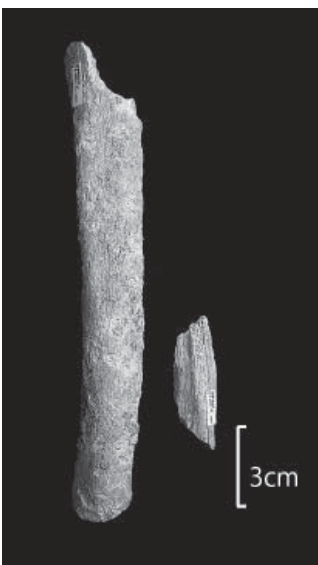
未成人の葬法はそれぞれの時代の死生観を反映するものである。それぞれ時代の墓制・葬制、死生観の解明のためには、さらなる事例の追加を待ちたい。

<参考文献>

- 1) Brothwell DR (1981) Digging up Bones. Cornell University Press.
- 2) Ubelaker (1989) Human skeletal remains:Excavation, Anelysis, Interpretation. Washington, DC: Taraxacum.
- 3) Knussman R. (1988) Martin / Knussman Anthropologie. Band 1, Stuttgart, Gustav Fischer Verlag.
- 4) 片桐千亜紀, 小橋川剛, 島袋利恵子, 土肥直美 (2008) 具志川島岩立遺跡出土人骨の再整理. 紀要 沖縄埋文研究5, 沖縄県立埋蔵文化財センター.
- 5) 土肥直美他 (2008) 「具志川グスク崖下地区の発掘調査」文部科学省科学研究費補助金基盤研究C
- 6) 土肥直美 (2009) 小堀原遺跡出土の人骨. 「小堀原遺跡」北谷町文化財調査報告書第30集. 北谷町教育委員会, pp. 187-188.
- 7) うるま市教育委員会 (2006) 「具志川グスク I-発掘調査概報-」うるま市文化財調査報告書第4集.
- 8) 土肥直美 (2009) 登野城遺跡出土の人骨. 石垣市教育委員会 (印刷中)
- 9) 藤田祐樹 (2011) 登野城遺跡 (86番地) 出土の人骨について. 石垣市文化財調査報告書第32号「登野城遺跡」石垣市教育委員会.



図版154 1号人骨出土状態



図版156 3号人骨出土部位

第129表 3号大腿骨計測値表

Martin No.	項目	右
6	体中央矢状径	21
7	体中央横径	23
9	体上横径	25
10	体上矢状径	20
6/7	体中央断面示数	91.3
10/9	体上断面示数	80.0

(mm)



図版155 2号人骨 (体部骨)

第V章 総括

伊礼原遺跡（国指定外）は、桑江伊平区画整理事業に伴い平成19・20・24年度に緊急発掘調査が行われた周知の埋蔵文化財である。平成19年度（H19地区）は伊礼原遺跡確認調査（2007）のトレンチを挟んで行い、貝塚時代後期、グスク時代、近世～近・現代の遺構や遺物を検出した。平成19年度は遺跡の一部（東側）のみ調査を行い、南側は平成20年度（イ・ロ地区）、北西側は平成24年度（ハ・ニ地区）に調査を行った。

伊礼原遺跡は国指定地と指定地外に分かれ、本報告書は指定地外の調査結果をまとめたものである。本遺跡の調査成果については前章までに詳細を述べてきたが、本章では遺跡の立地及び各期の遺構、遺物について整理したい。

1. 遺跡の立地について

本遺跡は本町西海岸側の標高約4～7mの沖積低地に位置し、北東側にある標高約10～30mの石灰岩台地の麓まで広がっている。沖積低地と石灰岩台地の境には、桑江断層が北西から南東の方向にほぼ直線的に延び、石灰岩と島尻層群（基盤）の不整合面からは「ウーチヌカー」と呼ばれる湧水が湧出している。ウーチヌカーの流れは「ナガサ」と合流し、本遺跡を横断しながら東シナ海に流れ出る。また、南東側には「ナルカー」も西流しており、当該地周辺に遺跡が多く確認されていることから、概して地の利が良い環境といえる。

本遺跡の東側にあたる指定地内の調査（2007）では、貝塚時代前期の生活址が丘陵側に位置し、砂丘の形成・発達とともに貝塚時代後期、グスク時代、近世～近・現代の生活址が海側へ広がっていく過程が確認できた。今回の調査区は貝塚時代後期以降の包含層が残る区域にあたり、指定地内と一体となって遺跡の立地及び歴史の変遷、連続性が再確認できたことは大きな成果である。

2. 遺構について

遺構は調査区の全体又は部分的に所在する。複合遺跡であるため、後代の遺構構築の際に攪乱され、全容が窺えない遺構もあるが、各時期の遺構や遺物の分布状況から変遷が窺える。貝塚時代後期、グスク時代、近世～近・現代の順に整理していきたい。

貝塚時代後期の遺構は、柱穴の検出状況から2つの方形プラン、土坑、貝集積3ヶ所、土器集中7ヶ所、骨集中3ヶ所、貝集中2ヶ所、人骨出土遺構、二枚貝有孔製品集中、軽石だまりが各々1ヶ所検出された。本時期は上層のグスク時代のピット群に壊されているが、立位の完形土器（第23図）、土器集中②～⑦を含め、原位置を保ったまま遺物が出土していることから生活面があったことは明らかである。この生活面は大きく2つの時期があり、1つはI類（阿波連浦下層式）・II類（浜屋原式）土器が主体的に出土する時期、もう1つはIV類（大当原式）土器を主体とする時期である。前者は陸側の標高3.8mライン（第36図）に広がり、方形プランと貝集積3ヶ所が検出され、後者は海側の標高3.0mライン（同図）を中心に広がり、方形プランと二枚貝有孔製品集中部、1号人骨が検出された。

グスク時代の遺構は海岸側への緩斜面に形成され、溝状遺構、ピット、土坑、青磁皿出土土坑、人骨出土土坑（土坑墓含む）、サンゴ礫集中部が確認された。溝状遺構は8ヶ所で検出され、柱穴の少ない場所に配している様相が窺える。中でも2-SD06は、掘立柱建物址想定プラン19の北東角に空間を保ち、直角に配していることから、後兼久原遺跡（2003）の1号平地住居址周囲で確認された雨垂れラインと同様の性格を持つ遺構の可能性も考えられた。しかし、後兼久原遺跡に比して溝幅が広いことから、掘立柱建物からの排水、または、水の流入防止機能の可能性も想定される。今後の資料増加を待ち検討課題としたい。

ピットの検出状況から、グスク集落の南端はイ地区、東端はH19地区で、その主体は隣接する伊礼原D遺跡に広がると思われる。ピット群には、重複やピット間が狭小である等の状況が見られ、幾度

も建て替えたことが窺える。想定されたプランは掘立柱建物址と高床式建物址の2種類で、その長軸方向は北西-南東が主体で、その状況は小堀原遺跡（2009・2012）や後兼久原遺跡に類似している。小堀原遺跡及び後兼久原遺跡で見られた掘立柱建物址と高床式建物址のセット関係については、今回の調査ではピットが集中しており、明確なセット関係は見出せなかったが、建物想定プランの中では掘立柱建物址と高床式建物址が隣接している様子が窺える。

土坑は56ヶ所でピット群と混在して検出された。平面形は楕円形が主体で、大きさは100cmを越す大型のものと100cm以内の小型が見られ、より小型のものは柱穴の重複などが考えられる。土坑内には貝や炭が混在するものが多く、中には人工遺物も見られるが土坑の性格については判然としない。青磁皿出土土坑はH19地区Q14で検出され、埋土上部からは完品の外反皿と稜花皿が出土した。埋土上部の出土のため意図的な埋納か不明瞭である。

人骨出土土坑（土坑墓含む）はハ地区N14で確認され、頭位は北西、体の向きは東の横臥屈葬で乳児骨が検出された。同時期の乳児埋葬例は近接する小堀原遺跡（2012）にあるが、頭位は各々異なる。ハ地区A9では成人女性の大腿骨のみが確認されたが、詳細は不明である。

サンゴ礫集中部は、1.3×1.6mの範囲でイ地区D15～16で検出された。礫の形状は丸みや角をもつもので、規則性がなく、人工的可能性は低い。

近世～近・現代期の遺構はほぼ平坦地に形成され、焼成跡、溝状遺構、ピット、土坑、貝集中部などが検出された。

焼成跡は、H19地区西側S12とイ地区B11で検出され、前者は底面に板状の焼土が堆積し、炭が混在、後者は遺構内に礫、検出面に焼けた粘土塊が見られたが、いずれも性格は明瞭でない。

溝状遺構はH19地区及びイ地区において6ヶ所確認された。中でもSD02はH19地区の北西から南、イ地区まで及び、1-SD04は1-SD02の南側で並列する事から両者の関連性は高いと考えられる。

ピットはハ地区で280ヶ所、ニ地区で9ヶ所確認され、5棟のプランが想定された。3間×2間が1棟、約2間×2間が3棟で、前者が掘立柱建物址、後者が高床式建物址の可能性が考えられる。

土坑は26ヶ所確認され、平面形は円形や楕円形である。土坑内には沖縄産陶器や本土産磁器、獣骨、自然貝などが含まれていたが用途は明瞭でない。

貝集中部は、二枚貝と巻貝がイ地区①C11・②T11の2ヶ所、ハ地区③N・015で1ヶ所検出され、その検出状況から廃棄された食料残滓である可能性が高い。

3. 遺物について（第182図）

貝塚時代後期は土器が最も多く主体を成し、他に石器、貝製品、骨製品、土製品が出土した。

土器は貝塚時代前期土器（Ⅰ群）が少量得られ、北東側の国指定伊礼原遺跡に関連を求めることができよう。在地の貝塚時代後期（Ⅱ群）土器が主体を成すが、搬入土器も出土する。搬入土器は中実脚台を含む弥生系土器、スセン當式土器などが出土している。在地土器は器形などの特徴からⅠ～Ⅶ類に分類される。土器の出土分布からH19地区東南側、A20周辺からは搬入及びⅠ・Ⅱ類土器が多く得られ、Ⅱ類は更に同周辺から放射状に拡大して分布する。これらの土器は国指定伊礼原遺跡（2007）でも確認されており、陸側への広がりの様相を呈している。Ⅲ類は東側（H19地区）、Ⅳ類は東側（H19地区）及び北西側（ハ・ニ地区）、Ⅴ・Ⅵ類は西側（ハ・ニ地区）と当遺跡より北西側へと移行していく状況が窺える。

底部は、尖底は調査区全体に分布し、くびれ平底は西側（海側）にやや分布が見られる。伊礼原D遺跡（2013）のくびれ平底はフェンサ下層式土器段階としたが、今回得られたくびれ平底はアカジャンガー式土器段階と思われる。

大当原式土器の特徴として明瞭な粗隆帯（Ⅳ類ab）が挙げられるが、本遺跡では薄手で粗隆帯が目立たないもの（Ⅳ類c）が主体となる。また、図83のⅤ類は、伊礼原D遺跡（2013）でも出土しており、

同一個体の可能性がある。前回は器形や胎土、施文方法などから縄文時代晩期系と想定したが、今回再検討の結果、Ⅱ群のⅤ類土器と共伴していることから同時期と考えられ、Ⅴ類の時期の有文土器の存在が示唆される資料である。

石器の種類は、石斧、敲石、敲石兼磨石、磨石、台石、石皿、砥石、有孔石製品、石球型未製品、チャート剥片で、第74図62の石皿は完形で遺跡出土資料としては圧巻である。石器の平面分布をみると総じて北から北西側に集中する。このような出土状況を土器と重ねてみるとⅣ類土器期の分布状況と類似する。石材は堆積岩の砂岩系が主体であるが、町内で産出されない火成岩（流紋岩、安山岩、花崗岩、輝緑岩等）は奄美・徳之島からの持ち込みの可能性が考えられる。

貝製品は装飾品と実用品に大別される。装飾品では貝塚時代前Ⅴ期に出土例のあるウミウサギの有孔製品、貝塚時代後期に得られる南島型の貝符（木下1996）である。また、ゴホウラの腹面を用いた諸岡型の貝輪が1点出土したが、近接する国指定伊礼原遺跡（2007）で3点、キャンプ桑江北側地区試掘no.7（註）でも3点、計7点得られ、さらに伊礼原B遺跡（2008）では金隈型の貝輪が出土している。これまで南海産貝輪交易（木下1996）は素材を移出すると考えられていたが、完成度の高い諸岡型貝輪の複数の出土はこれに一石を投じるものである。いずれも阿波連浦下層式（Ⅰ類）・浜屋原式（Ⅱ類）期の出土で時期も明瞭である。

実用品はヤコウガイの背面タイプの貝匙があり、有柄と無柄タイプがある。ホラガイ有孔製品は民具事例から薬缶が想定されるが、容量でみると大中小の3種あり、小型のものは別の用途を考慮する必要がある。二枚貝有孔製品はSS05で一括して得られ、漁網錘の可能性を窺わせるものである（島袋2004）。

骨製品はイノシシの四肢骨を用いたヘラ状製品と、ジュゴン、クジラ、ウミガメを用いた加工途中のものが出土している。

土製品は土器の破片を再利用して、径8cm前後の円形状に加工したもので、伊礼原D遺跡（2013）でも出土している。

グスク時代は滑石製石鍋、須恵器（カムイヤキ）、白磁、青磁、染付、褐釉陶器、瑠璃釉、黒釉陶器、三彩、翡翠釉、産地不明陶器、タイ産鉄絵、銭貨、砥石、貝製品、骨製品、鉄製品、ガラス玉、羽口、焼土と多種出土している。

11～12世紀に位置づけられる滑石製石鍋が出土している。須恵器（徳之島のカムイヤキや産地不明）の他に玉縁白磁碗が数点得られたが、当該期の遺構は見られない。

中国産陶磁器は15世紀中～18世紀が主体で、雷文帯碗、線刻細蓮弁文碗などの青磁、玉取獅子文や十字花文などの染付皿、褐釉陶器は中国産とタイ産があり、前者が多い。器種は壺、壺又は甕、瓶、播鉢などがある。そのほかに出土量の少ない瑠璃釉、黒釉陶器、三彩、翡翠釉、産地不明陶器、タイ産鉄絵などがあり、いずれも伊礼原D遺跡と出土が重なるもので、この時期は連続していたことが窺える。

銭貨は出土量が少ないことから銭貨としての機能は低いと思われるが、中国の北宋銭「元豊通寶」「聖宋元寶」、明銭「洪武通寶」があり、日本銭は「寛永通寶」が確認されている。

石器は砥石が14点得られ、形状は方形状と楕円形、サイズは大型と小型があり、小型は穿孔されていることから携帯用の可能性が考えられる。

貝製品は、腹面タイプのヤコウガイ製貝匙、タカラガイ製漁網錘、骨製品はウシ又はウマの肋骨を板状に加工したもので、この時期に多い。

近世～近・現代は瓦質土器、本土産陶磁器、沖縄産施釉・無釉陶器、陶質土器、先島系土器、円盤状製品、煙管、碁石、瓦、石製品などが出土している。

本土産陶磁器は近世と近代に分けられる。近世では備前播鉢、瀬戸天目碗、唐津皿、薩摩焼壺、内

野山碗などの陶器と、波佐見等の肥前系磁器碗、皿、瓶が確認でき、近代磁器は瀬戸・美濃、砥部などの碗、杯、皿、猪口、湯呑み等で、施文技法は型紙刷り、銅版転写、ゴム判等が確認できた。

沖縄産施釉・無釉陶器は近世～近・現代遺物の主体を成すもので、無釉陶器が多い。器種は施釉陶器では碗や急須、無釉陶器では壺、甕、播鉢が多く見られた。陶質土器は鍋や火炉が確認できたが、沖縄産施釉・無釉陶器の1/10に満たない量であった。火炉の形状に酷似した鉄製の焜炉も1点出土している。

嗜好・娯楽品は少なく、石製と陶器製の煙管、貝製の基石が得られている。

現代遺物としては瓶などのガラス製品や歯ブラシやケースなどのプラスチック製品、金属製の棒が確認できた。ケースに「USNOO」と見られるように、戦中・戦後あるいは米軍基地当時の遺物と考えられ、当地が1945年4月の米軍上陸後、基地に接收されたことが遺物で明らかにできた。

自然遺物では貝類遺体と脊椎動物遺体が出土した。

貝類遺体は出土量が最も多く、確認された貝類は海産腹足類34科157種、海産二枚貝類19科63種、淡水産腹足類3科11種、陸産腹足類5科9種、その他2種の合計242分類群である。

今回の調査で得られた種の中には、沖縄の遺跡から余り知られていなかったサンゴ礁の礁斜面に生息する種で、現生記録のないボウシュウボラや遺跡からはほとんど出土のないオオゾウガイ、オオナルトボラ、ダイミョウイモなど極めて稀なものが出土している。

サンゴ礁域に生息する貝が出土数全体の半数を超えており、サンゴ礁型の貝類組成である。

脊椎動物遺体は全般的に魚類とイノシシ類（イノシシまたはブタ）が主体で、個体比では魚が40～60%前後、イノシシ類が30～40%前後で大きな変化はないが、貝塚時代後期では不明瞭ながら魚類が微増し、イノシシ類がやや減少傾向を示す。ほかにウミガメ類、イヌ、ジュゴンも出土した。また、グスク時代以降ではウシ・ウマも増加する。その他にリクガメ類、ニワトリ、ネズミ、ネコ、ヤギ、イルカ・クジラ類が確認されているが、いずれも少数である。

放射性炭素年代測定結果をみると、II群IV類に分類される（図80）土器の付着炭化物で1,770±20BP、伊礼原A遺跡の腐植質砂層で2,540±30BPの補正年代値が得られた。前者は大当原式土器（IV類）の編年年代に符合し、後者の腐植質砂層（K8北壁）は貝塚時代前V期頃を示す堆積物で、小堀原遺跡（2012）の泥炭層と近い値を示している。

4. 小結

今回の調査成果を踏まえ、国指定時に想定された貝塚時代後期とグスク時代及び近世～現代、米軍基地接收時の様子が明らかになった。先史時代は砂丘の発達に伴って生活址が海岸側へ展開し、グスク時代及び近世以降は貝塚時代後期の遺跡の上位に集落が形成されている。第181図に国指定部分から今回の調査成果をもとに作成した立地横断模式を示す。第180図に示した奄美大島の遺跡立地横断模式と比較すると奄美大島では砂丘の形成が明瞭で縄文時代前・中期は内陸側の標高10.0～14.0m、縄文時代後期は標高8.2mの旧砂丘、弥生・古墳時代は標高9.0mの新砂丘I、古墳・奈良・平安期は標高13.2mの新砂丘IIに立地し、砂丘の形成とともに、海岸へ遺跡の立地が移動していく。

伊礼原遺跡は第181図に示したように貝塚時代前I・II期は海岸段丘袂近くで標高約2.8cm前後に包含層が見られることから縄文海進に関連すると思われる。貝塚時代前III期から貝塚時代後期I期（浜屋原式～大当原式期）までは砂丘の発達に伴い順次、海岸側に展開する（標高3～4m）。グスク時代～近世・近・現代は貝塚時代前・後期の上位に生活を展開する。陸側には石灰岩段丘とその下部の島尻層の間に帯水層を水源とするウーチヌカーや、酸性・アルカリ性の土壌からなる多様な植生があり、海側では良好な漁場であるイノー（礁池）や防波堤の役割を果たす干瀬が発達していることから、長期的に生活していくための条件が備わっていたことが窺える。

奄美大島と沖縄諸島はサンゴ礁が圍繞する裾礁であるが、奄美大島は干瀬（目崎—干瀬型）が近く、

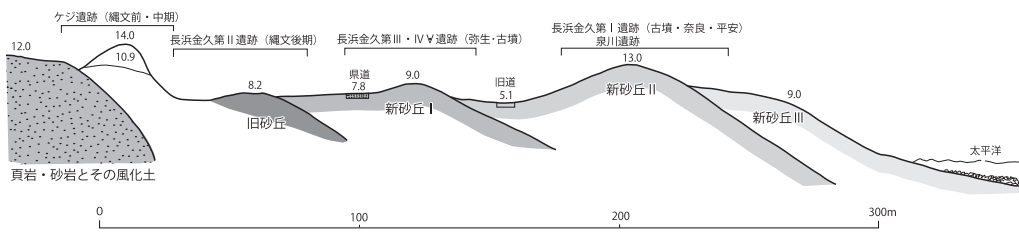
伊礼原遺跡付近は干瀬の遠い海岸で（目崎－干瀬・イノー型）吹き上がる砂の量が異なる。そのため、伊礼原遺跡の立地するキャンプ桑江北側地区において、グスク時代以降は貝塚時代後期以降、薄く堆積した砂丘上に生活していた。このような立地のあり方は前者がサンゴ礁地域（裾礁）の干瀬型（第180図）、後者の伊礼原遺跡（第181図）は干瀬・イノー型と捉えることができる。また、本遺跡のような干瀬・イノー型の崩れやすい砂地や堆積の薄い砂丘地では層序の把握は困難を極め、小堀原遺跡（2012）・伊礼原D遺跡（2013）や本報告書で示したように平面的な遺物分布を加えることで、時期的変遷を浮き彫りにすることができた。

今後の課題としては

- ・南海産貝輪交易の1期（木下2010）のあり方（諸岡型貝輪の出土と素材の供給との関連）
- ・貝塚時代後期における奄美と沖縄の遺跡の立地の差が貝交易を含め、どのように展開していくか（たとえば木下2005）
- ・15～17世紀代のグスク時代に砂丘地に集落遺跡が何故立地するのか
- ・グスク時代と近世層あるいは空間の区別が可能かなどが挙げられる。

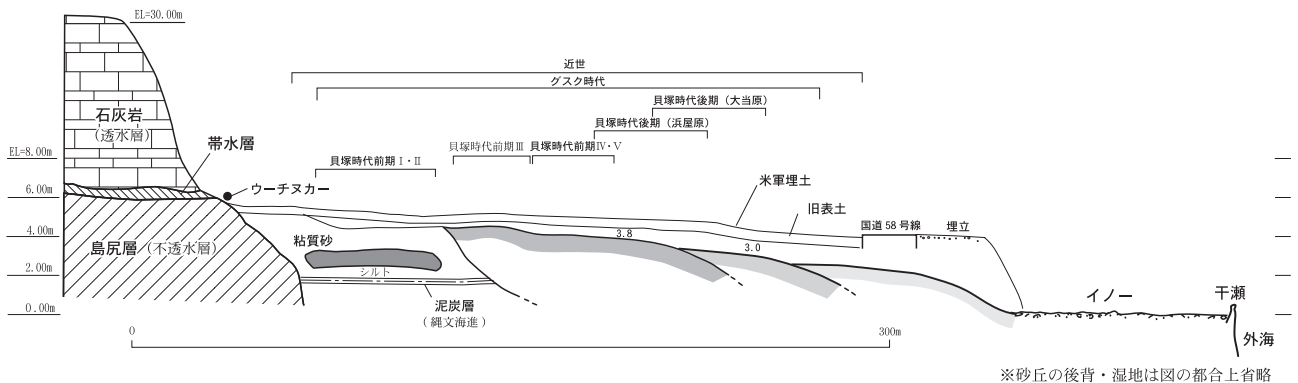
<註・参考文献>

註：北谷町教育委員会 2008『伊礼原D遺跡』付篇 北谷町文化財調査報告書 第28集
 目崎茂和 1980「琉球列島における島の地形的分類とその帯状分布」『琉球列島の地質学研究』第5巻
 木下尚子 1996『南島貝文化の研究-貝の道の考古学-』
 木下尚子 2005「貝交易からみた異文化接触－温帯と亜熱帯の接触－」『考古学研究』第52巻 第2号（通巻206号）p25-41考古学研究会
 木下尚子 2010「サンゴ礁と遠距離交易」『沖縄県史』第三巻古琉球, 66-85p
 北谷町教育委員会 2008『伊礼原B遺跡 伊礼原E遺跡』北谷町文化財調査報告書 第27集
 島袋春美 2004「奄美・沖縄諸島の漁網錘の形態的研究（その3）-考古資料-」『南島考古』第23号p1-13 沖縄考古学会



第180図 奄美大島砂丘形成と長浜金久遺跡群・ケジ遺跡・泉川遺跡の立地横断模式

(『長浜金久遺跡』1987 転載)



※砂丘の後背・湿地は図の都合上省略

第181図 伊礼原遺跡周辺の砂丘形成と立地横断模式 (本報告書の調査成果及び松田2007『伊礼原遺跡』参考に作成)

＜補遺＞小堀原遺跡（2012年）報告の追加資料

北谷町文化財調査報告書第34集『小堀原遺跡』の資料について追加報告する。

①遺構の土の水洗い段階で出土した遺物

②調査の最終段階の遺物

遺物は①が柱穴内の遺物、②が貝8コンテナ、骨1コンテナ、土器1コンテナである。

貝類遺体は2009（平成21）年・2012（平成24）年の報告と同じようにアラスジケマンが主体を占め、下層によりヒレジャコが検出されている。そのため、詳細の報告は省く。

脊椎動物遺体は2012（平成24）年の報告で骨の集中するI10、H10、H9と重なり、出土個数（NISP）の割合に変動の可能性が高いため、既報告に準じ、表のみを示した。

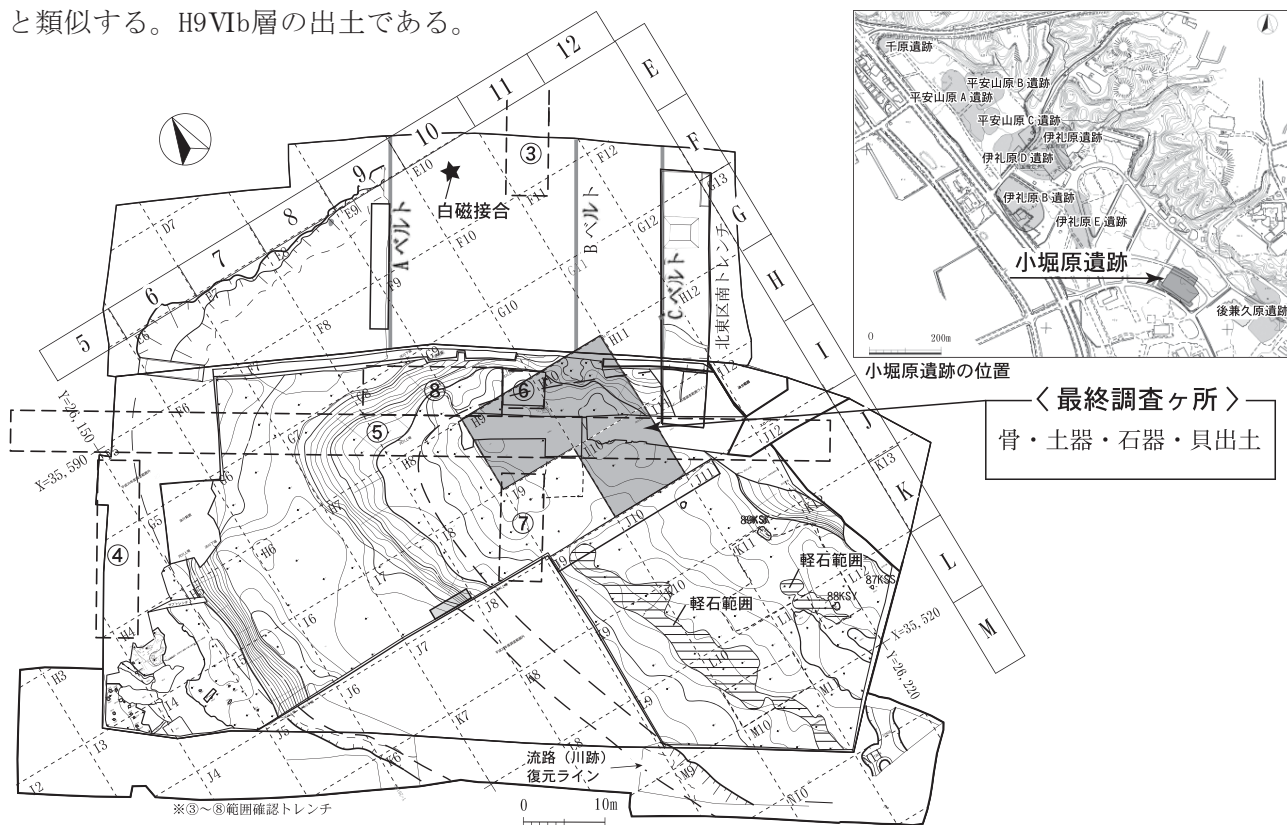
貝塚時代後期の遺物は主に調査最終段階で得られ、グスク時代の滑石製品や白磁・カムイヤキなどの遺物は柱穴などの遺構から得られたものである。詳細は第130～136表に示し、主なものは図示し、下記に略述した。

＜土器＞

土器は1コンテナであるが第130表に示したようにH7～10、I8、K11、L11～12（b区-2012）の最下の出土である。その内、図1の把手、図2の弥生系土器を図示した。前者、長さ4.6cm、幅3.1cm、厚さ1.3cmの半楕円の把手である。上面にマウンドを呈するように湾曲し、裏面は指痕が明瞭に残るもので、雑な作りである。ほぼ中央に最大径0.9cm、最小径0.5cmの孔を施す。胎土は粘質で赤褐色や褐色の粒を含み、焼成は良好で大当原式土器の範疇に含まれる。このようなタイプの土器第48図155(2012)と類似する。H9VIb層の出土である。

第130表 土器重さ一覧

グリッド	層	重さ (g)	備考
H9	VIb	166	弥生系(図2)
H7	VIb下	34	
H8	VIb下	4	
H9	VIb	20.1	把手(図1)
H10	VIb	12	外反口縁
I8	VIb下	27	
I11	VIb	10	
K11	VIb下	146	
L11	VIb下	177	
L12	VIb下	34	
合計		630.1	



第183図 小堀原遺跡の位置と調査区（2012年報告を一部改変）

図2は最大胴径42.3cmを示す大型の土器で、胴上部に3本の沈線文を施すものである。器厚0.8cmとやや厚く、胎土に角礫石を多量に含み、器色は黄褐色、弥生系土器と思われる。前回報告(2012)第29図19と接合できた。H9VIb層の出土で当時でも低い位置からの出土である。

<骨製品>

クジラなど海獣骨を用いたもので、残存部は長さ8.65cm、重さ6.85gの槍状に加工したもので、先端部が欠損する。身部と基部に別れ、身部の最小幅1.7cm、最大幅2.7cmと先端部がすぼまり、基部は幅1.55cm、厚さ0.6cmの有茎を呈する。身部に外径1.0cm前後、内径0.5cm前後の孔を縦位に2個施す。孔は両面から穿孔するが、製品の状態が悪く、表面は研磨が4割程度、裏面は破損面が多く研磨面の残りは悪い。H9VIb層の出土である。

クジラなどの海獣骨を素材とする骨製品は平敷屋トウバル遺跡(1996)、真志喜安座間原第一遺跡(1994)でナイフ状、ナガラ原西貝塚(1979)で剣状が報告されている。いずれも貝塚時代後期である。

<石器>

図版158-4は砂岩製の磨石で、前述の土器や骨製品と伴出した。大きさは縦6.8cm、横6.5cm、厚さ4.4cmと小ぶりである。礫を用いるが、一部破損し、磨面と稜の部分には敲き痕が確認され、両方の用途を有する。

<滑石製品>

滑石は3点出土した。図5は滑石製石鍋で削り面及び煤の付着することから底部と考えられる。素地は桃色を呈する。

図6は石鍋の胴部で胴(内)径15cmが想定される。厚さ1.25cmで石鍋としては小ぶりである。一端を削ることから二次加工と考えられる。色は明灰色を呈する。H8SP644より出土。

図7は前者と同様、石鍋の胴部を、台形状に加工するもので、両側にくびれを加える。上幅2.1cm、下幅2.8cm、挟り幅2.05cm。器厚1.1~1.2cm、重さ15.2gを測る。器厚に差が見られることから、石鍋を縦に用いたものと思われる。SP43より出土。

<白磁>

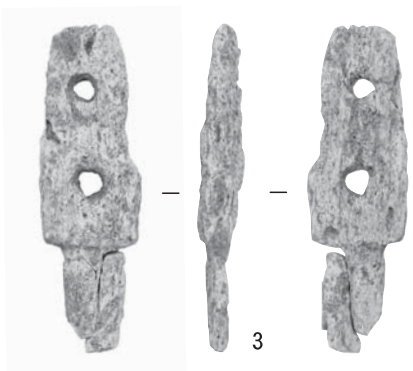
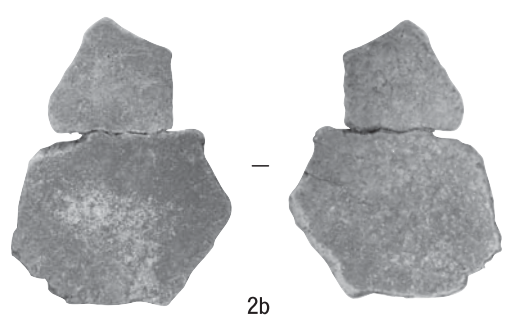
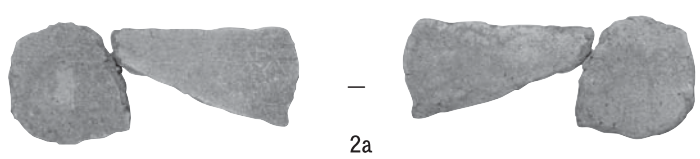
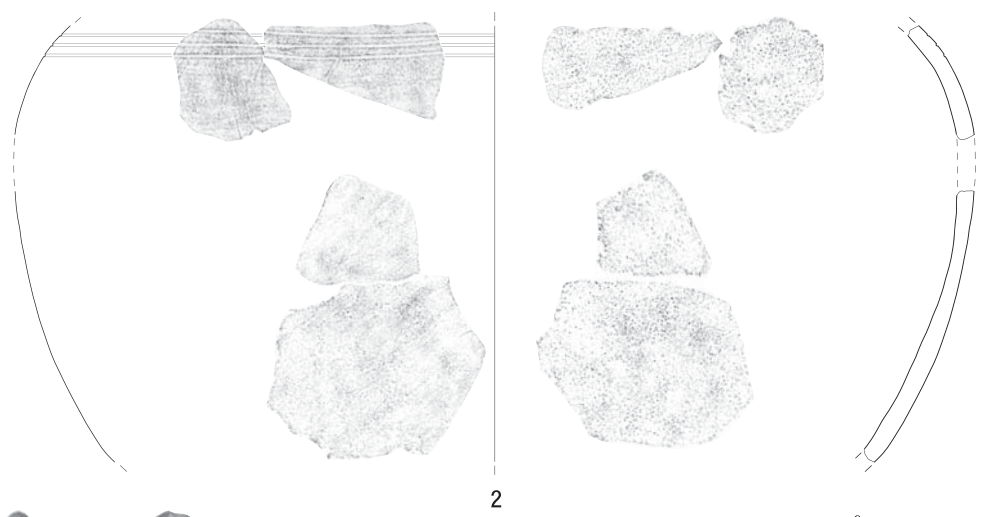
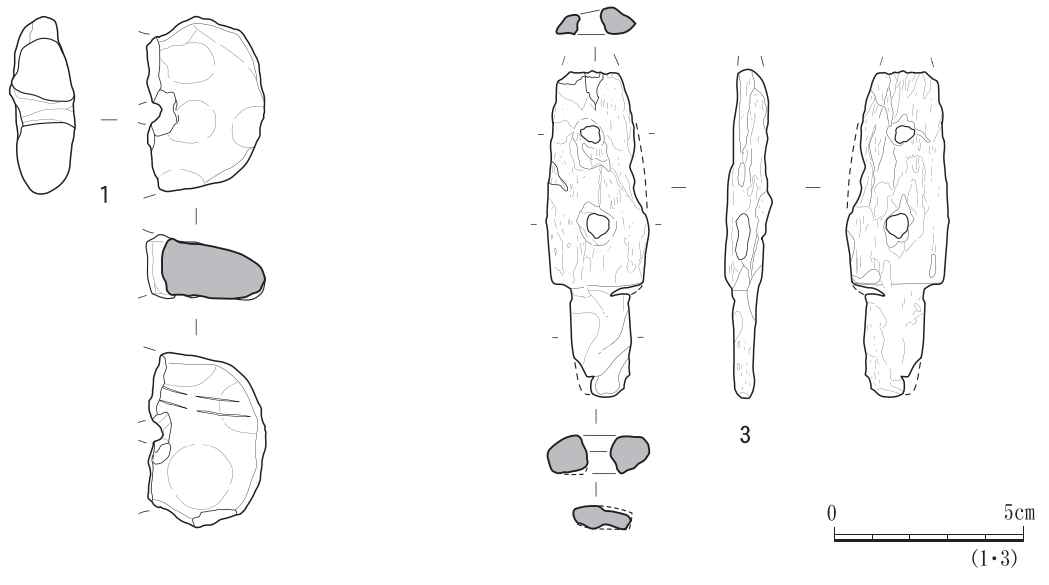
図8は玉縁の口縁部で、第132図7(E10グスク層)と接合された。玉縁幅1.2cm、縁直下に幅4mmの圏線を施す。釉は透明でやや青みを帯びるが、接合部分はやや黄味を帯びる。

図9は底部で554SKから出土した。底部の立ち上がりは直状で、底径7.2cm、厚さ0.35cm、畳付け幅0.8cmを測る。外面の腰部から底部にかけては釉が施されない。釉は失透明釉、やや青みを帯びる。

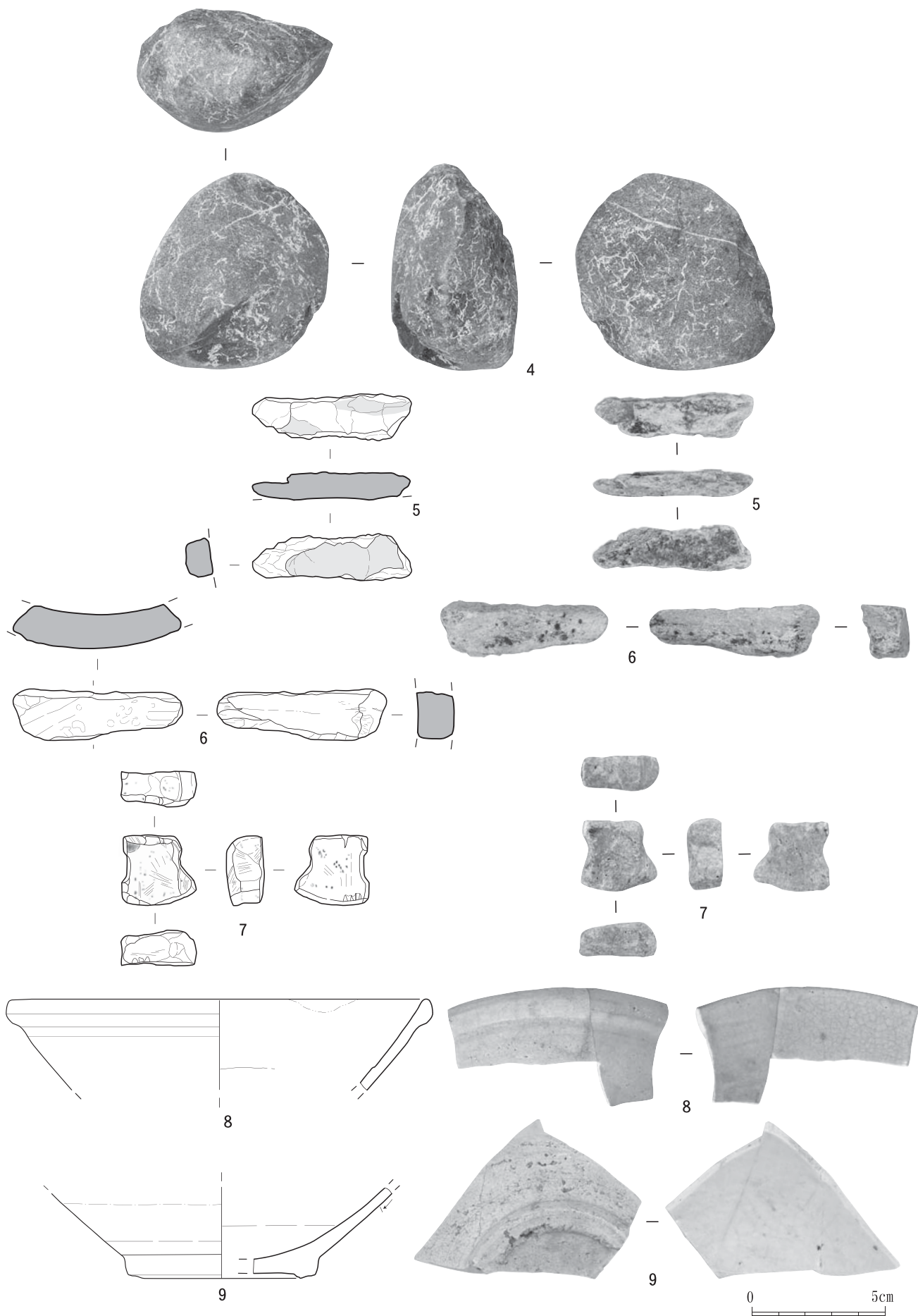
他に白磁の口縁部3点、胴部3点とカミヤキ胴部3点、羽口?1点が得られている。詳細は第131表に示した。

第131表 小堀原遺跡遺物追加資料一覧

第図 図版	図 番号	種類	部位	重さ (g)	観察	出土地
第184 図・ 図版 157	1	土器	把手	20.1	有孔	H9, VIb
	2	土器	胴部	166	沈線文、弥生系	H9・10, VIb
	3	骨製品	有茎	6.88	クジラ、剣状、有茎。部分的に研磨残る。	H9, VIb
第185 図・ 図版 158	4	石器	完形	292.5	磨石、砂岩縦6.8cm、横6.5cm、厚さ4.4cm	H9, VIb
	5	滑石	底部	13.11	煤付着、削り明瞭	SP1137
	6	滑石	胴部	26.26	二次加工	H8, SP644
	7	滑石	胴部	15.2	二次加工、台形、くびれ有り	SP43
図・ 図版 なし	8	白磁	口縁部	61.32	玉縁、口径16.0cm、縁幅1.2cm、第132図7(E10)と接合	SP178
	9	白磁	底部	39.64	玉縁の底部	554SK
	-	白磁	口縁部	5.3	玉縁、縁幅1.1cm、器厚0.4cm、緑灰釉	SP640-2
	-	白磁	口縁部	3.3	玉縁、縁幅1.15cm、器厚0.35cm、肥厚折り。白灰釉、内面釉たれ	H8, SP644
	-	白磁	胴部	2	玉縁、器厚0.6cm	SP1166
	-	白磁	胴部	2.7	玉縁、器厚0.3cm	SP245
	-	白磁	胴部	0.3	玉縁、器厚0.25cm	SP646-1
	-	白磁	口縁部	1.9	直口、器厚0.38cm	SP640-1
	-	カミヤキ	胴部	8.1	壺、内面轆轤、器厚0.4~0.5cm、白色細粒混入	H8, SP644
	-	カミヤキ	胴部	0.7	器厚0.3cm	SP641-1
-	カミヤキ	胴部	0.3	器厚0.3cm	SP394-1	
-	羽口?	細片	1.5	器厚0.9cm	SP761-1	



第184図・図版157 土器・骨製品



第185図・図版158 石器・滑石製品・白磁

第132表 小堀原遺跡2008～2009年調査で採集された魚類遺体の同定結果

層準	地区 (VI層)	年代	グリッド	遺構	標本番号	種類	部位	左右	数	計測 (mm)
VI	b	大当原	I9	一括	4	ハリセンボン科	前上顎骨or歯骨		1	
			H9	一括	40	フエフキダイ科	第1椎骨		1	
			I10	一括	109	ベラ科	下咽頭骨		1	幅38
			G9	一括	114	ハリセンボン科	前上顎骨		1	幅21

第133表 小堀原遺跡2008～2009年調査で採集されたイノシシの上顎骨・遊離歯の同定結果

※咬耗状態の記載方法は金子(1996)に従った。顎骨の[]は残存範囲、<>は未萌出歯、xは脱落歯。

層準	地区 (VI層)	年代	グリッド	遺構	標本番号	部位	残存位置/歯種	左右	数	咬耗状態※	備考		
VI	b	大当原	H9	一括	2	上顎骨	[P4M1M2M3]	L	1	++、++/++、+/+、+、-	e/d/c		
			H9	一括	2	上顎骨	[CP4M1M2M3]	R	1	++、++/++、+/+、+、-	e/d/c	ヌ	
			I9	一括	9	上顎骨	[P2P3P4M1M2M3]	L	1	+++、+++/++、++/++、+、+	g/e/d		
			I9	一括	9	上顎骨	[P2P3P4M1M2M4]	R	1	+++、+++/++、++/++、+、+	g/e/d		
			H10	一括	34	上顎骨	[P1P2P3P4M1M2M3]	R	1	+++、+++/++、++/++、+、+	g/f/e		
			H10	一括	35	上顎	C	R	1				ヌ
			I10	一括	42	上顎	M3	R	1	+、-、-		b	
			I10	一括	60	上顎骨	[P4M1<M2>]	L	1	+、+/未萌出		b	
			I9	一括	69	上顎骨	[P4M1]	R	1	+、-		b	
			H10	一括	70	上顎	M3	R	1	+、+、-		c	
			G9	一括	71	上顎	M2	R	1	+、+		c	
			I10	一括	76	上顎	C	L	1				ヌ
			I10	一括	84	上顎	M3	R	1	-、-、-		a	焼
			I10	一括	95	上顎	C	L	1				ヌ
			I10	一括	20	上顎	<M3>	L	1	未萌出			
			I10	一括	21	上顎骨	[P3P4×M1]	R	1	++、++		e	
			I10	一括	22	上顎骨	[P4M1M2]	L	1	++、+/+、+		e/d	
			I10	一括	23	上顎	i1	L	1				
I10	一括	24	上顎	M3	R	1	+、-、-		b				

第134表 小堀原遺跡2008～2009年から採集されたイノシシの下顎骨・遊離歯の同定結果

※咬耗状態の記載方法は金子(1996)に従った。顎骨の[]は残存範囲、<>は未萌出歯、xは脱落歯。

層準	地区 (VI層)	年代	グリッド	遺構	標本番号	部位	残存位置/歯種	左右	数	咬耗状態※	備考		
VI	b	大当原	H9	一括	1	下顎	M1	R	1	+、+	c		
			I9	一括	10	下顎	M3	L	1	+、+、-		c	
			H10	一括	38	下顎	C	R	1				ヌ
			H10	一括	39	下顎	C	R	1				ヌ
			H9	一括	41	下顎骨	[dm3dm4]	L	1				
			I10	一括	47	下顎	I1	L	1				
			H10	一括	62	下顎	<M2>	L	1	未萌出			
			H10	一括	63	上顎or下顎	P	不	1				
			H10	一括	64	下顎	C	L	1				ヌ
			H10	一括	66	下顎	M3	R	1	+、-、-		b	
			I9	一括	68	下顎	I1	R	1				
			I10	一括	96	下顎骨	[M3×下顎角]	R	1				
			I10	一括	25	下顎	I1	R	1				
			I10	一括	25	下顎	I1	L	1				
			I10	一括	27	下顎	C	L	1				ヌ
			I10	一括	28	下顎	<I1>	L	1	未萌出			
			I10	一括	29	下顎	I1I2	R	1				
			I10	一括	29	下顎	I1I2	L	1				
			I10	一括	30	下顎	C	R	1				ヌ
			I10	一括	30	下顎	C	L	1				ヌ

第135表 小堀原遺跡2008～2009年で採集されたその他の脊椎動物遺体の同定結果

種類	層準	地区 (VI層)	年代	グリッド	遺構	標本番号	部位	残存位置	R・L	数	備考
リクガメ	VI	b	大当原	H9	一括	102	縁骨板		不	1	
イヌ?	VI	b	大当原	I10	一括	54	橈骨?	p		1	
哺乳類 (同定不可)	VI	b	大当原	H10	一括	97	四肢骨	m	不	1	
				G8	一括	116	四肢骨		不	1	
				I10	一括	11	四肢骨		不	1	

第136表 小堀原遺跡2008～2009年調査で採集されたイノシシの遺体（顎骨・歯を除く）の同定結果

※残存位置凡例：w完存，p近位端，m骨幹，d遠位端，fr 破片，(p)・(d)は未癒合の骨端のみ，(p-)・(d-)は骨端未癒合脱落，<p>・<d>は骨端のみ欠損

層準	地区 (VI層)	年代	カテゴリー	遺構	標本番号	部位	残存位置※	左右	数	計測 (mm)	備考	
					I10	一括 91	脛骨	d	R	1		スバ°イラクラクチャー・焼
					I10	一括 108	下顎骨	関節突起	L	1		
					H9	一括 87	寛骨(座骨)	f r	R	1		
					I10	一括 49	寛骨(恥骨)	臼	R	1		
					G9	一括 112	寛骨(腸骨)	臼	R	1		
					I10	一括 46	環椎			1		
					I9	一括 3	基節骨			1		焼
					I10	一括 57	基節骨		不	2		焼
					G9	一括 72	基節骨			1		
					I11	一括 78	基節骨			1		焼
					I12	一括 79	基節骨			1		焼
					H9	一括 85	基節骨			3		焼
					H10	一括 99	基節骨			1		焼
					I10	一括 58	距骨		L	1		焼
					I9	一括 67	距骨		L	1		
					I9	一括 8	脛骨	(d)	R	1		
					I10	一括 48	脛骨	m	R	1	SD12	
					I10	一括 59	脛骨	d	L	1		焼
					I10	一括 90	脛骨	m	R	1	SD13	
					H9	一括 104	脛骨	d	R	1		
					H11	一括 115	脛骨	(p-)	L	1		スバ°イラクラクチャー・焼
					H9	一括 105	肩甲骨	<d->	L	1		
					G9	一括 111	肩甲骨	d	L	1		
					I10	一括 50	尺骨	p-m	R	1		
					I10	一括 52	尺骨	p-m	L	1		
					I10	一括 53	尺骨	m	L	1		
					H9	一括 88	尺骨	p	R	1		
					H9	一括 94	尺骨	p	L	1		
					G8	一括 117	尺骨	p	L	1		
					I9	一括 6	上顎骨		L	1		焼
					H10	一括 37	踵骨		R	1		
					I10	一括 107	踵骨		L	1		焼
					I10	一括 43	上腕骨	m-<d->	L	1	SD11	
					I10	一括 44	上腕骨	<d->	R	1		
					H10	一括 80	上腕骨	<d->	L	1	SD11	
					H9	一括 101	上腕骨	m-<d->	R	1	SD14	
					G8	一括 118	上腕骨	<d->	L	1	SD11	スバ°イラクラクチャー
					I10	一括 110	側頭骨	関節結節	L	1		
					H9	一括 106	側頭骨	岩様部	不	1		
					H10	一括 98	第4中手骨	p	R	1		焼
					I10	一括 56	第5中足骨	p	R	1		焼
					G9	一括 73	大腿骨	<d->	L	1		
					G9	一括 93	大腿骨	<d->	L	1		スバ°イラクラクチャー
					G9	一括 113	大腿骨	m	L	1	SD15	
					I9	一括 5	中手/中足骨	d	不	1		
					I9	一括 7	中手/中足骨	(d-)	不	1		焼
					H10	一括 32	中手/中足骨	d	不	1		
					I10	一括 55	中手/中足骨	(d-)		1		焼
					I10	一括 74	中手/中足骨	(d)	不	1		焼
					H9	一括 89	中節骨			1		焼
					H10	一括 36	椎骨	椎体		1		
					G8	一括 119	椎骨	椎体		1		
					I10	一括 45	橈骨	m	R	1	SD14	
					I10	一括 51	橈骨	m	不	1	SD12	
					H10	一括 65	橈骨	m	R	1	SD12	
					H9	一括 103	橈骨	m	L	1	SD12	
					I10	一括 133	橈骨	p-m	L	1	SD14	
					H10	一括 33	腓骨	m	不	1		
					I10	一括 61	肋骨	m	不	1		
					G8	一括 120	肋骨	m	不	1		
					I11	一括 130	距骨		L	1		焼
					I11	一括 127	脛骨	(p-)	L	1	SD11	焼
					I11	一括 132	脛骨	<p>-m	L	1	SD7	幼獣・焼
					I11	一括 125	肩甲骨	<d->	R	1		
					I11	一括 128	尺骨	p	L	1		焼
					I11	一括 129	尺骨	p-m	L	1		焼
					I10	一括 81	手根/足根骨		不	1		焼
					I10	一括 83	第3中足骨	p	R	1		焼
					I11	一括 131	中手/中足骨	d	不	1		焼
					I10	一括 82	中節骨		不	2		焼
					I11	一括 124	橈骨	(p)-(d-)	L	1	SD11	焼
					I11	一括 126	橈骨	p	R	1		焼
					I10	一括 123	上腕骨	m-<d->	L	1	SD12	
					I10	一括 13	下顎骨	関節突起	L	1		
					I10	一括 14	寛骨(腸骨)	f r	L	1		
					I10	一括 18	寛骨	臼	R	1		
					I10	一括 16	脛骨	<d->	L	1		
					I10	一括 15	肩甲骨	d	R	2		
					I10	一括 31	肩甲骨	<d->	L	1		
					H8	一括 92	肩甲骨	d	L	1		
					I10	一括 121	尺骨	p	L	1		
					I10	一括 17	上腕骨	<d->	R	1	SD10	スバ°イラクラクチャー
					I10	一括 12	側頭骨	関節結節	R/L	1		
					I10	一括 122	橈骨	m	L	1	SD15	
					I10	一括 26	腰椎	棘突起		1		

報 告 書 抄 録

ふりがな	いれいばるいせき							
書 名	伊礼原遺跡							
副 書 名	キャンプ桑江北側返還に伴う発掘調査事業（平成19年・平成20年・平成24年）							
巻 次	-							
シリーズ名	北谷町教育委員会文化財調査報告書							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	山城安生・東門研治・松原哲志・島袋春美・上地千賀子・呉屋広江・北條真子 黒住耐二・樋泉岳二・土肥直美・(株)パリオ・サーヴェイ							
編集機関	沖縄県北谷町教育委員会							
所在地	〒904-0192 沖縄県中頭郡北谷町字桑江226番地 TEL 098-936-3159							
発行年月日	2014年（平成26年）7月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' / "	° / ' / "		m ²	
伊礼原遺跡 (伊礼原A遺跡)	沖縄県 北谷町 字伊礼原	473260		26° 19' 26"	127° 45' 30"	20071210 ～ 20080229	1,350	区画整理事業に伴う 発掘調査
						20080707 ～ 20081125	1,050	
						20120523 ～ 20120731	930	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
伊礼原遺跡		貝塚時代 後期	ピット群・埋葬遺構・ 貝集積(3基)・二枚貝 有孔集中部・土器集中		土器・石器・貝製品・骨製品・ 土製品		土器附着炭化物 1,770±20B.P.	
		グスク 時代	溝状遺構・ピット群・ 掘立柱建物址・土坑・ 土坑墓・サンゴ礫集中 部		青磁・白磁・染付・褐釉陶器・ 瑠璃釉・三彩・翡翠釉タイ 産鉄絵・銭貨・砥石・貝製品・ 骨製品・鉄製品・ガラス玉・ 羽口		青磁皿完品2個	
		近世～ 近・現代	焼成跡・溝状遺構・ピッ ト群・土坑・貝集中部		瓦質土器・沖縄産施釉・無釉 陶器・陶質土器・本土産陶 磁器・先島系土器・円盤状 製品・煙管・基石・瓦			
伊礼原A遺跡		貝塚時代 後期	-		土器・石器・貝製品・骨製品・ 木の実		K8北壁腐植砂層(木片) 2,540±30B.P.	
要 約	<p>伊礼原遺跡(国指定外)及び伊礼原A遺跡は平成19・20・24年の3次に亘って調査が行われ、国指定された伊礼原遺跡の延長部分である。指定範囲での確認調査において明瞭でなかった貝塚時代後期とグスク時代及び近世から現代までの様子が明らかになり、本地域での生活が貝塚時代早期から近現代において砂丘の発達と共に海岸方向(西側)に展開していく様子が具体的に明らかになった。</p> <p>貝塚時代後期では弥生系土器や阿波連浦下層式土器や浜屋原式土器を主体とする陸(東側)と大当原式土器を主体とする海(西)側とに平面的な時期のずれが明瞭で、また、南海産貝輪交易に関連する貝集積が陸側から検出された。</p> <p>グスク時代では調査区のほぼ全域で多数のピットを検出し、約26ヵ所の建物址を想定すると共に15・16世紀代の中国産陶磁器が多数出土した事から集落の存在が想定できた。</p> <p>近世～近現代の遺物・遺構も多数出土し、特にグスク時代のピット群に重複して近世以降のピット群が検出された事から、本地域が約7000年前から現代まで継続的に居住地域であったことが立証されたことは意義深く、国指定史跡伊礼原遺跡の重要性が増した。</p>							

北谷町文化財調査報告書 第36集

い れい ばる い せき
伊 礼 原 遺 跡 (国指定外)

伊 礼 原 A 遺 跡

— 桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業 (平成19・20・24年度) —

編 集 : 北 谷 町 教 育 委 員 会

発行年 : 2014年 (平成26年) 7月

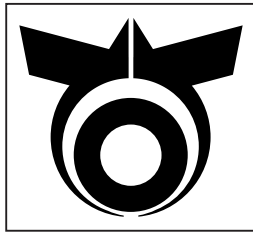
〒904-0192 沖縄県北谷町字桑江226番地

TEL 098-936-3159

印 刷 : 株式会社 東 洋 企 画 印 刷

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-21-5

TEL 098-995-4444



北 谷 町